

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7596970号
(P7596970)

(45)発行日 令和6年12月10日(2024.12.10)

(24)登録日 令和6年12月2日(2024.12.2)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

請求項の数 2 (全994頁)

(21)出願番号	特願2021-124901(P2021-124901)	(73)特許権者	000144522
(22)出願日	令和3年7月30日(2021.7.30)		株式会社三洋物産
(65)公開番号	特開2023-19862(P2023-19862A)		愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番2
(43)公開日	令和5年2月9日(2023.2.9)		1号
審査請求日	令和5年9月8日(2023.9.8)	(74)代理人	100143063
			弁理士 安藤 悟
		(72)発明者	加藤 善大
			愛知県名古屋市千種区今池三丁目9番2
			1号 株式会社三洋物産内
		審査官	東 芳隆

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1制御手段と、
当該第1制御手段から送信された送信情報に基づいて表示手段にて当該送信情報に対応する表示が行われるようにするための処理を実行する第2制御手段と、
を備え、
前記第1制御手段は、
当たり遊技状態の発生とは異なる所定契機が発生したことに基づいて、所定事象の期待度が第1状態とは異なる第2状態に設定する設定手段と、
前記第2状態である状況において、新たな前記第2状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域に設定する待機情報設定手段と、
前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記第2状態を実行対象に設定する待機後設定手段と、
を備え、
前記待機記憶領域は、
前記待機情報を記憶可能である第1待機記憶領域と、
前記待機情報を記憶可能である第2待機記憶領域と、
を備え、
前記待機後設定手段は、前記第1待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況で

あって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第 2 状態が終了した場合、それら待機情報のうち優先度が高い側の待機情報に対応する前記第 2 状態を実行対象に設定する構成であり、

所定状態である場合、前記所定契機が発生したとしてもその所定契機が発生に対する前記第 2 状態の設定及びその所定契機が発生に対する前記待機記憶領域への前記待機情報の設定の両方が実行されない構成であり、

前記第 1 制御手段は、前記待機後設定手段により前記待機情報に対応する前記第 2 状態が実行対象に設定された場合、特定送信情報を送信する特定送信手段を備え、

前記第 2 制御手段は、前記特定送信情報を受信した場合にそれに対応する表示処理を実行する手段を備え、

前記待機情報には、所定の記憶手段から読み出された前記第 2 状態の実行に関する数値情報が含まれており、

前記第 1 待機記憶領域及び前記第 2 待機記憶領域の両方に前記待機情報が記憶されている所定の状況において前記所定契機が発生した場合、当該所定契機が発生に対する待機情報の設定が行われないことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

第 1 制御手段と、

当該第 1 制御手段から送信された送信情報に基づいて表示手段にて当該送信情報に対応する表示が行われるようにするための処理を実行する第 2 制御手段と、

を備え、

前記第 1 制御手段は、
当たり遊技状態の発生とは異なる所定契機が発生したことに基づいて、所定事象の期待度が第 1 状態とは異なる第 2 状態に設定する設定手段と、

前記第 2 状態である状況において、新たな前記第 2 状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域に設定する待機情報設定手段と、

前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第 2 状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記第 2 状態を実行対象に設定する待機後設定手段と、

を備え、

前記待機記憶領域は、

前記待機情報を記憶可能である第 1 待機記憶領域と、

前記待機情報を記憶可能である第 2 待機記憶領域と、

を備え、

前記待機後設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第 2 状態が終了した場合、前記第 1 待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記第 2 状態を実行対象に設定する構成であり、

所定状態である場合、前記所定契機が発生したとしてもその所定契機が発生に対する前記第 2 状態の設定及びその所定契機が発生に対する前記待機記憶領域への前記待機情報の設定の両方が実行されない構成であり、

前記第 1 制御手段は、前記待機後設定手段により前記待機情報に対応する前記第 2 状態が実行対象に設定された場合、特定送信情報を送信する特定送信手段を備え、

前記第 2 制御手段は、前記特定送信情報を受信した場合にそれに対応する表示処理を実行する手段を備え、

前記待機情報には、所定の記憶手段から読み出された前記第 2 状態の実行に関する数値情報が含まれており、

前記第 1 待機記憶領域及び前記第 2 待機記憶領域の両方に前記待機情報が記憶されている所定の状況において前記所定契機が発生した場合、当該所定契機が発生に対する待機情報の設定が行われないことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【0003】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている（例えば特許文献1参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開2012-170465号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ここで、上記例示等のような遊技機においては好適に遊技の興趣向上を図る必要がある、この点について未だ改良の余地がある。

【0006】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、好適に遊技の興趣向上を図ることが可能な遊技機を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決すべく請求項1記載の発明は、第1制御手段と、
当該第1制御手段から送信された送信情報に基づいて表示手段にて当該送信情報に対応する表示が行われるようにするための処理を実行する第2制御手段と、
を備え、

前記第1制御手段は、
当たり遊技状態の発生とは異なる所定契機が発生したことに基づいて、所定事象の期待度が第1状態とは異なる第2状態に設定する設定手段と、

前記第2状態である状況において、新たな前記第2状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域に設定する待機情報設定手段と、

前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記第2状態を実行対象に設定する待機後設定手段と、

を備え、

前記待機記憶領域は、

前記待機情報を記憶可能である第1待機記憶領域と、

前記待機情報を記憶可能である第2待機記憶領域と、

を備え、

前記待機後設定手段は、前記第1待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第2待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2状態が終了した場合、それら待機情報のうち優先度が高い側の待機情報に対応する前記第2状態を実行対象に設定する構成であり、

10

20

30

40

50

所定状態である場合、前記所定契機が発生したとしてもその所定契機の発生に対する前記第2状態の設定及びその所定契機の発生に対する前記待機記憶領域への前記待機情報の設定の両方が実行されない構成であり、

前記第1制御手段は、前記待機後設定手段により前記待機情報に対応する前記第2状態が実行対象に設定された場合、特定送信情報を送信する特定送信手段を備え、

前記第2制御手段は、前記特定送信情報を受信した場合にそれに対応する表示処理を実行する手段を備え、

前記待機情報には、所定の記憶手段から読み出された前記第2状態の実行に関する数値情報が含まれており、

前記第1待機記憶領域及び前記第2待機記憶領域の両方に前記待機情報が記憶されている所定の状況において前記所定契機が発生した場合、当該所定契機の発生に対する待機情報の設定が行われないことを特徴とする。

また、請求項2記載の発明は、第1制御手段と、

当該第1制御手段から送信された送信情報に基づいて表示手段にて当該送信情報に対応する表示が行われるようにするための処理を実行する第2制御手段と、
を備え、

前記第1制御手段は、

当たり遊技状態の発生とは異なる所定契機が発生したことに基づいて、所定事象の期待度が第1状態とは異なる第2状態に設定する設定手段と、

前記第2状態である状況において、新たな前記第2状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域に設定する待機情報設定手段と、

前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記第2状態を実行対象に設定する待機後設定手段と、

を備え、

前記待機記憶領域は、

前記待機情報を記憶可能である第1待機記憶領域と、

前記待機情報を記憶可能である第2待機記憶領域と、

を備え、

前記待機後設定手段は、前記第1待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第2待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2状態が終了した場合、前記第1待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記第2状態を実行対象に設定する構成であり、

所定状態である場合、前記所定契機が発生したとしてもその所定契機の発生に対する前記第2状態の設定及びその所定契機の発生に対する前記待機記憶領域への前記待機情報の設定の両方が実行されない構成であり、

前記第1制御手段は、前記待機後設定手段により前記待機情報に対応する前記第2状態が実行対象に設定された場合、特定送信情報を送信する特定送信手段を備え、

前記第2制御手段は、前記特定送信情報を受信した場合にそれに対応する表示処理を実行する手段を備え、

前記待機情報には、所定の記憶手段から読み出された前記第2状態の実行に関する数値情報が含まれており、

前記第1待機記憶領域及び前記第2待機記憶領域の両方に前記待機情報が記憶されている所定の状況において前記所定契機が発生した場合、当該所定契機の発生に対する待機情報の設定が行われないことを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、好適に遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

10

20

30

40

50

【図 1】第 1 の実施形態におけるパチンコ機を示す斜視図である。

【図 2】パチンコ機の主要な構成を分解して示す斜視図である。

【図 3】遊技盤の構成を示す正面図である。

【図 4】(a) , (b) 遊技回が実行される場合における図柄表示装置の表示内容を説明するための説明図である。

【図 5】(a) ~ (j) 各図柄列にて変動表示される主図柄及び副図柄を説明するための説明図である。

【図 6】パチンコ機の電氣的構成を示すブロック図である。

【図 7】各種カウンタ及び各種記憶エリアの内容を説明するための説明図である。

【図 8】サポートモードの内容を説明するための説明図である。

10

【図 9】(a) 低確率時の第 1 当否テーブルを説明するための説明図であり、(b) 低確率時の第 2 当否テーブルを説明するための説明図であり、(c) 高確率時の当否テーブルを説明するための説明図である。

【図 10】(a) 第 1 特図用の大当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(b) 第 2 特図用の大当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(c) 第 1 特図用の時短振分テーブルを説明するための説明図であり、(d) 第 2 特図用の時短振分テーブルを説明するための説明図である。

【図 11】(a) 各大当たり結果の内容を説明するための説明図であり、(b) 各時短結果及び天井時短の内容を説明するための説明図である。

【図 12】(a) ~ (e) 時短結果又は天井時短によって時短状態が設定される様子を示すタイムチャートである。

20

【図 13】主側 MPU におけるメイン処理を示すフローチャートである。

【図 14】主側 MPU におけるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図 15】主側 MPU における普図普電制御処理を示すフローチャートである。

【図 16】主側 MPU における普図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 17】主側 MPU における普図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 18】主側 MPU における特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【図 19】主側 MPU における保留情報の取得処理を示すフローチャートである。

【図 20】主側 MPU における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 21】主側 MPU における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

30

【図 22】主側 MPU における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 23】主側 MPU における特電終了処理を示すフローチャートである。

【図 24】主側 MPU における高確率状態カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 25】主側 MPU における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 26】特図表示部の停止結果及び図柄表示装置の停止結果を説明するための説明図である。

【図 27】(a) 通常遊技状態又は時短状態の最終遊技回であって第 1 保留情報を契機とした遊技回において第 1 時短結果となった場合における第 1 特図表示部及び図柄表示装置の停止結果を説明するための説明図であり、(b) 高確率状態又は時短状態の最終遊技回以外の遊技回であって第 1 保留情報を契機とした遊技回において第 1 時短結果となった場合における第 1 特図表示部及び図柄表示装置の停止結果を説明するための説明図であり、(c) 第 1 保留情報を契機とした遊技回において外れ結果となった場合における第 1 特図表示部及び図柄表示装置の停止結果を説明するための説明図である。

40

【図 28】音光側 MPU における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。

【図 29】主側 MPU における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 30】主側 MPU における時短状態カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 31】(a) ~ (e) 特図確定中処理における処理の実行順序を説明するためのタイムチャートである。

【図 32】主側 MPU における変動選択状態カウンタの減算処理を示すフローチャートで

50

ある。

【図 3 3】 (a) ~ (f) リーチ高頻度状態と天井時短を契機とした時短状態との実行タイミングの関係を説明するためのタイムチャートである。

【図 3 4】 第 2 の実施形態において主側 M P U にて実行される特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 3 5】 主側 M P U における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 3 6】 主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 3 7】 主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 3 8】 第 3 の実施形態における各種カウンタ及び各種記憶エリアの内容を説明するための説明図である。

10

【図 3 9】 主側 M P U における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 4 0】 主側 M P U における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 4 1】 第 4 の実施形態において主側 M P U にて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。

【図 4 2】 主側 M P U における設定値更新処理を示すフローチャートである。

【図 4 3】 第 5 の実施形態において主側 M P U にて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。

【図 4 4】 第 6 の実施形態における遊技盤の正面図である。

【図 4 5】 (a) 非誘導状態における特別入賞装置の縦断面図であり、(b) 誘導状態における特別入賞装置の縦断面図である。

20

【図 4 6】 振分入賞装置の内部構成を説明するための縦断面図である。

【図 4 7】 各種カウンタ及び各種記憶エリアの内容を説明するための説明図である。

【図 4 8】 (a) 第 1 当否テーブルを説明するための説明図であり、(b) 第 2 当否テーブルを説明するための説明図であり、(c) 大当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(d) 時短振分テーブルを説明するための説明図であり、(e) 小当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(f) 各小当たり結果の内容を説明するための説明図である。

【図 4 9】 主側 M P U における特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【図 5 0】 主側 M P U における保留情報の取得処理を示すフローチャートである。

【図 5 1】 主側 M P U における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

30

【図 5 2】 主側 M P U における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 5 3】 主側 M P U における特電終了処理を示すフローチャートである。

【図 5 4】 主側 M P U における停電監視処理を示すフローチャートである。

【図 5 5】 第 7 の実施形態において主側 M P U にて実行される特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 5 6】 主側 M P U における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【図 5 7】 第 8 の実施形態において主側 M P U にて実行される時短状態カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 5 8】 第 9 の実施形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

40

【図 5 9】 主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 6 0】 (a) ~ (g) 時短状態において時短結果又は天井時短が発生した場合におけるその後の遊技状態を説明するためのタイムチャートである。

【図 6 1】 第 10 の実施形態における遊技盤の正面図である。

【図 6 2】 各種カウンタ及び各種記憶エリアの内容を説明するための説明図である。

【図 6 3】 主側 M P U における第 1 特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【図 6 4】 主側 M P U における第 2 特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【図 6 5】 主側 M P U における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 6 6】 主側 M P U における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【図 6 7】 主側 M P U における特図確定中処理を示すフローチャートである。

50

- 【図 6 8】主側 M P U における時短状態の終了判定処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 9】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図 7 0】主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。
- 【図 7 1】音光側 M P U における左打ち報知処理を示すフローチャートである。
- 【図 7 2】(a) ~ (f) 時短状態における終了対応の遊技回が第 1 保留情報を実行対象として実行される様子を示すタイムチャートである。
- 【図 7 3】第 1 1 の実施形態において主側 M P U にて実行される変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。
- 【図 7 4】第 1 2 の実施形態において主側 M P U にて実行される変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。
- 【図 7 5】第 1 3 の実施形態における主制御装置の正面図である。
- 【図 7 6】主側 R O M におけるプログラム及びデータの設定態様を説明するための説明図である。
- 【図 7 7】主側 R A M における各エリアの設定態様を説明するための説明図である。
- 【図 7 8】特定制御用のワークエリアに設けられた各種記憶エリア及び非特定制御用のワークエリアに設けられた各種記憶エリアを説明するための説明図である。
- 【図 7 9】主側 M P U から音光側 M P U にコマンドを送信するための電氣的な構成を説明するための説明図である。
- 【図 8 0】(a) ~ (d) コマンドが送信される様子を示すタイムチャートである。
- 【図 8 1】主側 M P U におけるメイン処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 2】主側 M P U における設定確認用処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 3】主側 M P U における設定値更新処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 4】設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
- 【図 8 5】主側 M P U における第 1 管理用処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 6】主側 M P U における初期設定処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 7】主側 M P U における断線短絡処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 8】主側 M P U における第 1 タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
- 【図 8 9】遊技領域を流下した遊技球の排出に関する構成を説明するための説明図である。
- 【図 9 0】主側 M P U に検知センサの検知結果が入力されるようにする構成を説明するための説明図である。
- 【図 9 1】主側 M P U における入球検知処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 2】主側 M P U における保留情報の取得処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 3】主側 M P U における不正検知用処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 4】主側 M P U における情報クリア処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 5】主側 M P U における不正検知実行処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 6】主側 M P U における普電制御処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 7】(a) 主側 M P U における特電開始処理を示すフローチャートであり、(b) 主側 M P U における特電開放中処理を示すフローチャートであり、(c) 主側 M P U における特電閉鎖中処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 8】主側 M P U における磁気監視処理を示すフローチャートである。
- 【図 9 9】主側 M P U における不正対応処理を示すフローチャートである。
- 【図 1 0 0】(a) ~ (h) 第 2 作動口検知センサを例に挙げて入賞監視が行われる様子を示すタイムチャートである。
- 【図 1 0 1】主側 M P U におけるセキュリティ用処理を示すフローチャートである。
- 【図 1 0 2】(a) ~ (h) セキュリティ信号が外部出力される様子を示すタイムチャートである。
- 【図 1 0 3】遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図である。

10

20

30

40

50

【図104】演算結果記憶エリアの各種エリアを説明するための説明図である。

【図105】(a)～(d)第1～第4報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。

【図106】(a)～(c)第1～第4報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。

【図107】主側MPUにおける第2管理用処理を示すフローチャートである。

【図108】主側MPUにおけるチェック処理を示すフローチャートである。

【図109】主側MPUにおける通常の入球管理処理を示すフローチャートである。

【図110】主側MPUにおける結果演算処理を示すフローチャートである。

【図111】主側MPUにて各種表示回路を表示制御するための構成を説明するためのブロック図である。

10

【図112】特定制御用のワークエリアに設けられた各種バッファを説明するための説明図である。

【図113】表示ICの電氣的な構成を説明するための説明図である。

【図114】主側MPUにおける第2タイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図115】主側MPUにおける第8表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートである。

【図116】主側MPUにおける表示用処理を示すフローチャートである。

【図117】(a)～(i)主側MPUへの動作電力の供給が開始された場合における第1～第4報知用表示装置及び設定表示装置にて各種表示が行われる様子を示すタイムチャートである。

20

【図118】主側MPUにおけるRAMクリア処理を示すフローチャートである。

【図119】主側MPUにおける情報異常監視処理を示すフローチャートである。

【図120】第14の実施形態において主側MPUにて実行される第1タイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図121】主側MPUにおける入球検知処理を示すフローチャートである。

【図122】主側MPUにおける管理用処理を示すフローチャートである。

【図123】主側MPUにおける保留情報の取得処理を示すフローチャートである。

【図124】主側MPUにおける賞球用カウンタの設定処理を示すフローチャートである。

【図125】主側MPUにおける通常の入球管理処理を示すフローチャートである。

30

【図126】(a)第15の実施形態におけるサポートモードの内容を説明するための説明図であり、(b)時短状態の内容を説明するための説明図である。

【図127】(a)遊技状態を制御するために参照される主側ROMのデータ構成を説明するための説明図であり、(b)遊技状態を制御するために利用される主側RAMの記憶エリアを説明するための説明図である。

【図128】主側MPUにおける特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図129】主側MPUにおける特電終了処理を示すフローチャートである。

【図130】主側MPUにおける高確進行用処理を示すフローチャートである。

【図131】主側MPUにおける天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図132】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

40

【図133】音光側MPUにおける変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。

【図134】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。

【図135】パチンコ機が多数設置された遊技ホールの電氣的な構成の概要を説明するための概略図である。

【図136】(a)パチンコ機の裏パックユニットに設けられた外部端子板及びその周辺を拡大して示すパチンコ機の背面図であり、(b)主側RAMに設けられた外部出力バッファを説明するための説明図であり、(c)外部端子板の電氣的構成を説明するためのブロック図である。

【図137】主側MPUにおける外端用処理を示すフローチャートである。

【図138】(a)～(g)第1大当たり信号、第2大当たり信号及び有利状態信号の出

50

力状態が切り換えられる様子を示すタイムチャートである。

【図 1 3 9】主側 M P U における時短用減算処理を示すフローチャートである。

【図 1 4 0】各種カウンタ及び各種記憶エリアの内容を説明するための説明図である。

【図 1 4 1】主側 M P U における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【図 1 4 2】遊技回期間用アドレステーブルを説明するための説明図である。

【図 1 4 3】主側 M P U における先読み用処理を示すフローチャートである。

【図 1 4 4】音光側 M P U における時短中演出制御処理を示すフローチャートである。

【図 1 4 5】時短状態における図柄表示装置の表示内容を説明するための説明図である。

【図 1 4 6】(a) ~ (e) 所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合において特別保留表示の実行が規制される様子を示すタイムチャートである。

10

【図 1 4 7】(a) 第 1 5 の実施形態の別形態における時短状態の内容を説明するための説明図であり、(b) 第 1 5 の実施形態の別形態における時短状態の内容を説明するための説明図である。

【図 1 4 8】第 1 6 の実施形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 4 9】音光側 M P U における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 0】(a) 第 1 7 の実施形態における低確率時の第 1 当否テーブルを説明するための説明図であり、(b) 低確率時の第 2 当否テーブルを説明するための説明図であり、(c) 高確率時の当否テーブルを説明するための説明図である。

【図 1 5 1】時短状態の内容を説明するための説明図である。

20

【図 1 5 2】遊技状態を制御するために利用される主側 R A M の記憶エリアを説明するための説明図である。

【図 1 5 3】主側 M P U における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 4】主側 M P U における時短進行用処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 5】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 6】第 1 7 の実施形態の別形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 7】第 1 8 の実施形態における状態判定用カウンタの値と遊技状態との関係を説明するための説明図である。

【図 1 5 8】主側 M P U における特電終了処理を示すフローチャートである。

30

【図 1 5 9】主側 M P U における高確進行用処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 0】主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 1】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 2】主側 M P U における時短進行用処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 3】主側 M P U における時短用減算処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 4】主側 M P U における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 5】第 1 9 の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側 R A M の記憶エリアを説明するための説明図である。

【図 1 6 6】主側 M P U における特電終了処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 7】主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

40

【図 1 6 8】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 6 9】音光側 M P U における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 7 0】主側 M P U における時短進行用処理を示すフローチャートである。

【図 1 7 1】(a) ~ (f) 第 3 時短状態が潜伏する様子を示すタイムチャートである。

【図 1 7 2】主側 M P U における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【図 1 7 3】音光側 M P U におけるパターン決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 7 4】(a) ~ (f) 時短状態における演出の実行態様を説明するためのタイムチャートである。

【図 1 7 5】第 2 0 の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側 R A M の記憶エリアを説明するための説明図である。

50

- 【図176】主側MPUにおける特電終了処理を示すフローチャートである。
- 【図177】主側MPUにおける天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。
- 【図178】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図179】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図180】(a)第21の実施形態における時短状態の内容を説明するための説明図であり、(b)第1特図用の時短振分テーブルを説明するための説明図であり、(c)第2特図用の時短振分テーブルを説明するための説明図である。
- 【図181】遊技状態を制御するために利用される主側RAMの記憶エリアを説明するための説明図である。
- 【図182】主側MPUにおける特電終了処理を示すフローチャートである。 10
- 【図183】主側MPUにおける天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。
- 【図184】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図185】音光側MPUにおける変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。
- 【図186】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図187】(a)～(h)第3時短状態が潜伏する様子を示すタイムチャートである。
- 【図188】第22の実施形態において主側MPUにて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図189】音光側MPUにおける変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。
- 【図190】第23の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側RAMの記憶エリアを説明するための説明図である。 20
- 【図191】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図192】主側MPUにおける待機用設定処理を示すフローチャートである。
- 【図193】音光側MPUにおける変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。
- 【図194】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図195】第24の実施形態において主側MPUにて実行される待機用設定処理を示すフローチャートである。
- 【図196】(a)第25の実施形態におけるサポートモードの内容を説明するための説明図であり、(b)時短状態の内容を説明するための説明図である。
- 【図197】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図198】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。 30
- 【図199】第26の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側RAMの記憶エリアを説明するための説明図である。
- 【図200】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図201】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図202】主側MPUにおける第3時短設定処理を示すフローチャートである。
- 【図203】(a)～(j)第3時短状態が潜伏する様子を示すタイムチャートである。
- 【図204】第27の実施形態において主側MPUにて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図205】主側MPUにおける第3時短設定処理を示すフローチャートである。
- 【図206】(a)第28の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側RAMの記憶エリアを説明するための説明図であり、(b)発生順記憶エリアの内容を説明するための説明図である。 40
- 【図207】主側MPUにおける時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図208】主側MPUにおける時短進行用処理を示すフローチャートである。
- 【図209】(a)～(j)第3時短状態が潜伏する様子を示すタイムチャートである。
- 【図210】第28の実施形態の別形態において主側MPUにて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図211】第28の実施形態の別形態において主側MPUにて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。
- 【図212】第28の実施形態の別形態において主側MPUにて実行される時短結果用の 50

設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 1 3】第 2 9 の実施形態における遊技状態を制御するために利用される主側 R A M の記憶エリアを説明するための説明図である。

【図 2 1 4】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 1 5】主側 M P U における時短進行用処理を示すフローチャートである。

【図 2 1 6】第 2 9 の実施形態の別形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 1 7】第 2 9 の実施形態の別形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 1 8】第 2 9 の実施形態の別形態において主側 M P U にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

10

【図 2 1 9】第 2 9 の実施形態の別形態において主側 M P U にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 2 0】（a）第 3 0 の実施形態におけるサポートモードの内容を説明するための説明図であり、（b）時短状態の内容を説明するための説明図である。

【図 2 2 1】遊技状態を制御するために利用される主側 R A M の記憶エリアを説明するための説明図である。

【図 2 2 2】主側 M P U における天井カウンタの減算処理を示すフローチャートである。

【図 2 2 3】主側 M P U における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【図 2 2 4】主側 M P U における時短進行用処理を示すフローチャートである。

20

【図 2 2 5】（a）第 3 0 の実施形態の別形態における時短状態の内容を説明するための説明図であり、（b）第 3 0 の実施形態の別形態における時短状態の内容を説明するための説明図である。

【図 2 2 6】第 3 1 の実施形態におけるパチンコ機の電氣的構成を説明するための説明図である。

【図 2 2 7】（a）入出力ポートの第 0 ～第 2 端子から出力される信号を説明するための説明図であり、（b）制御レジスタの構成を説明するための説明図であり、（c）出力データレジスタの構成を説明するための説明図であり、（d）入力データレジスタの構成を説明するための説明図であり、（e）制御レジスタの第 0 ～第 2 ビットに設定されるデータを説明するための説明図であり、（f）出力データレジスタの第 0 ～第 2 ビットに設定されるデータを説明するための説明図であり、（g）入力データレジスタの第 0 ～第 2 ビットに設定されるデータを説明するための説明図である。

30

【図 2 2 8】特電用の駆動部、振分入口用の駆動部及び切替用駆動部の駆動制御を行うための電氣的構成を示すブロック図である。

【図 2 2 9】駆動制御信号及びリセット信号と、対象駆動部の状態との関係を説明するための説明図である。

【図 2 3 0】（a）～（f）パチンコ機への動作電力の供給が開始された場合における対象駆動部の状態を示すタイムチャートである。

【図 2 3 1】主側 M P U における停電監視処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 2】（a）～（h）パチンコ機への動作電力の供給が停止された場合における対象駆動部の状態を示すタイムチャートである。

40

【図 2 3 3】主側 M P U におけるポート出力処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 4】主側 M P U における振分開始用処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 5】主側 M P U における振分用処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 6】主側 M P U における特電開始処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 7】主側 M P U における特電開放中処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 8】主側 M P U における特電閉鎖中処理を示すフローチャートである。

【図 2 3 9】第 3 2 の実施形態におけるパチンコ機の電氣的構成を説明するための説明図である。

【図 2 4 0】（a）入出力ポートの第 0 ～第 3 端子から出力される信号を説明するための

50

説明図であり、（b）制御レジスタの構成を説明するための説明図であり、（c）出力データレジスタの構成を説明するための説明図であり、（d）入力データレジスタの構成を説明するための説明図であり、（e）制御レジスタの第0～第3ビットに設定されるデータを説明するための説明図であり、（f）出力データレジスタの第0～第3ビットに設定されるデータを説明するための説明図であり、（g）入力データレジスタの第0～第3ビットに設定されるデータを説明するための説明図である。

【図241】特電用の駆動部、振分入口用の駆動部及び切換用駆動部の駆動制御を行うための電氣的構成を示すブロック図である。

【図242】駆動制御信号、選択信号及びリセット信号と、対象駆動部の状態との関係を説明するための説明図である。

10

【図243】第33の実施形態における遊技盤の正面図である。

【図244】パチンコ機の電氣的な構成を説明するために説明図である。

【図245】主側RAMの構成を説明するための説明図である。

【図246】主側MPUにおけるメイン処理を示すフローチャートである。

【図247】主側MPUにおける設定値更新処理を示すフローチャートである。

【図248】主側MPUにおけるRAMクリア処理を示すフローチャートである。

【図249】主側MPUにおけるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図250】タイマ割込み処理に設定されている各種処理のうち立ち上げ処理中、遊技停止中、入出力確認期間及び遊技可能状態において実行される処理を説明するための説明図である。

20

【図251】主側MPUにおける特電開放中処理を示すフローチャートである。

【図252】主側MPUにおける普電制御処理を示すフローチャートである。

【図253】主側MPUにおける入出力確認用処理のプログラム内容を説明するための説明図である。

【図254】主側MPUにおけるタイマ更新処理を示すフローチャートである。

【図255】主側MPUにおける動作確認用処理を示すフローチャートである。

【図256】主側MPUにおける入球検知処理を示すフローチャートである。

【図257】主側MPUにおける入球検知対応処理を示すフローチャートである。

【図258】主側MPUにおける入球報知コマンド送信処理を示すフローチャートである。

【図259】（a）主側MPUにおける無効化用処理を示すフローチャートであり、（b）確認後無効化期間、特図表示部の変動表示期間及び普図の変動期間を説明するための説明図である。

30

【図260】（a）～（f）特電入球エラー報知が実行される様子を示すタイムチャートである。

【図261】（a）特電入賞装置に入球した遊技球が検知されるタイミングと、当該遊技球が検知されたことに基づいて実行される処理との関係について説明するための説明図であり、（b）第2作動口に入球した遊技球が検知されるタイミングと、当該遊技球が検知されたことに基づいて実行される処理との関係について説明するための説明図である。

【図262】（a）初期化報知画面の内容を説明するための説明図であり、（b）音光側MPUにおける初期化報知用処理を示すフローチャートである。

40

【図263】（a）～（g）入出力確認期間において入球報知音が出力される様子及び特電入賞装置の開閉動作が行われる様子を示すタイムチャートである。

【図264】（a）～（h）確認後無効化期間と、入出力確認期間の終了後に遊技球が特電入賞装置又は第2作動口に入球するタイミングとの関係を示すタイムチャートである。

【図265】（a）～（f）動作電力の供給が停止されることで入出力確認期間が中断された後に、動作電力の供給が再開されることで当該中断された入出力確認期間が再開される様子を示すタイムチャートである。

【図266】第34の実施形態における入出力確認期間及び確認後無効化期間について説明するための説明図である。

【図267】主側MPUにおける入球報知コマンド送信処理を示すフローチャートである。

50

【図 2 6 8】 (a) ~ (e) 確認後無効化期間が設定される様子を示すタイムチャートである。

【図 2 6 9】 第 3 5 の実施形態における遊技盤の正面図である。

【図 2 7 0】 V 入賞装置の内部構成を説明するための縦断面図である。

【図 2 7 1】 パチンコ機の電氣的な構成を説明するために説明図である。

【図 2 7 2】 主側 RAM の構成を説明するための説明図である。

【図 2 7 3】 (a) サポートモードの内容を説明するための説明図であり、(b) 低確率時の当否テーブルを説明するための説明図であり、(c) 高確率時の当否テーブルを説明するための説明図である。

【図 2 7 4】 (a) 第 1 特図用の大当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(b) 第 2 特図用の大当たり振分テーブルを説明するための説明図であり、(c) 5 R 通常結果、5 R 確変結果及び 1 6 R 確変結果の内容を説明するための説明図である。

【図 2 7 5】 主側 MPU における特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【図 2 7 6】 主側 MPU における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 2 7 7】 主側 MPU におけるラウンド開始処理を示すフローチャートである。

【図 2 7 8】 主側 MPU におけるラウンド用開放中処理を示すフローチャートである。

【図 2 7 9】 主側 MPU におけるラウンド用閉鎖中処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 0】 主側 MPU における切替用処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 1】 主側 MPU におけるラウンド終了処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 2】 主側 MPU における動作確認用処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 3】 主側 MPU における退避位置復帰処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 4】 主側 MPU における入球検知対応処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 5】 主側 MPU における V 入賞用入球検知対応処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 6】 主側 MPU における入球報知コマンド送信処理を示すフローチャートである。

【図 2 8 7】 (a) 主側 MPU における無効化用処理を示すフローチャートであり、(b) 確認後無効化期間、V 入賞用無効化期間、特図表示部の変動表示期間及び普図の変動期間を説明するための説明図である。

【図 2 8 8】 (a) ~ (g) 切替片の制御が行われる様子を示すタイムチャートである。

【図 2 8 9】 (a) 第 3 6 の実施形態における遊技盤の正面図であり、(b) 主側 RAM の構成を説明するための説明図である。

【図 2 9 0】 主側 MPU における動作確認用処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 1】 主側 MPU における切替用処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 2】 主側 MPU における入球報知コマンド送信処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 3】 主側 MPU における V 入賞用確認報知処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 4】 (a) ~ (h) 確認済み報知が行われる様子を示すタイムチャートである。

【図 2 9 5】 第 3 7 の実施形態における主制御装置の構成を説明するための説明図である。

【図 2 9 6】 主側 RAM の構成を説明するための説明図である。

【図 2 9 7】 (a) 第 1 検知信号記憶エリアの構成を説明するための説明図であり、(b) 第 2 検知信号記憶エリアの構成を説明するための説明図であり、(c) 出力用レジスタにおける各ビットの役割を説明するための説明図であり、(d) 主側 MPU における RAM クリア処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 8】 主側 MPU における非特定制御用の一部クリア処理を示すフローチャートである。

【図 2 9 9】 主側 MPU における確認用クリア処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 0】 主側 MPU におけるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 1】 主側 MPU における入出力確認用処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 2】 主側 MPU における入球報知用処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 3】 主側 MPU における動作確認用処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 4】 主側 MPU における無効化用処理を示すフローチャートである。

【図 3 0 5】 (a) 第 3 8 の実施形態における特定制御用のワークエリアの構成を説明す

10

20

30

40

50

るための説明図であり、(b) 主側MPUにおけるRAMクリア処理を示すフローチャートである。

【図306】(a) 主側MPUにおける入出力確認用処理のプログラム内容を説明するための説明図であり、(b) 主側MPUにおける入出力確認実行処理を示すフローチャートである。

【図307】主側MPUにおける動作確認用処理を示すフローチャートである。

【図308】(a) 第39の実施形態における主側MPUの入出力確認用処理のプログラム内容を説明するための説明図であり、(b) 主側MPUにおける入出力確認実行処理を示すフローチャートである。

【図309】(a) 特定制御用のワークエリアの構成を説明するための説明図であり、(b) 主側MPUにおける入球報知コマンド送信用処理を示すフローチャートである。

10

【図310】(a) 第40の実施形態における主側MPUの構成を説明するための説明図であり、(b) 出力用レジスタにおける各ビットの役割を説明するための説明図であり、(c) ポート出力確認処理においてAレジスタ、Bレジスタ、Cレジスタ及びDレジスタに格納されるデータを説明するための説明図である。

【図311】主側MPUにおけるメイン処理を示すフローチャートである。

【図312】主側MPUにおけるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図313】(a) 主側MPUにおけるポート出力確認処理の内容を説明するための説明図であり、(b) 第1出力確認処理、第2出力確認処理及び第3出力確認処理の繰り返し実行回数を説明するための説明図である。

20

【図314】(a) , (b) 第4出力確認処理の実行前後においてAレジスタに格納されているデータを説明するための説明図である。

【図315】(a) ~ (g) 特電入賞装置及び普電役物の開閉動作が行われる様子を示すタイムチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0010】

<第1の実施形態>

以下、遊技機的一种であるパチンコ遊技機（以下、「パチンコ機」という）の第1の実施形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1はパチンコ機10の斜視図、図2はパチンコ機10の主要な構成を分解して示す斜視図である。なお、図2では便宜上、遊技領域内の構成を省略している。

30

【0011】

パチンコ機10は、図1に示すように、当該パチンコ機10の外殻を形成する外枠11と、この外枠11に対して前方に回動可能に取り付けられた遊技機本体12とを有する。外枠11は木製の板材を四辺に連結し構成されるものであって矩形枠状をなしている。パチンコ機10は、外枠11を島設備に取り付け固定することにより、遊技ホールに設置される。なお、パチンコ機10において外枠11は必須の構成ではなく、遊技ホールの島設備に外枠11が備え付けられた構成としてもよい。

【0012】

遊技機本体12は、図2に示すように、内枠13と、その内枠13の前方に配置される前扉枠14と、内枠13の後方に配置される裏パックユニット15とを備えている。遊技機本体12のうち内枠13が外枠11に対して回動可能に支持されている。詳細には、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として内枠13が前方へ回動可能とされている。

40

【0013】

内枠13には、前扉枠14が回動可能に支持されており、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として前方へ回動可能とされている。また、内枠13には、裏パックユニット15が回動可能に支持されており、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として後方へ回動可能とされている。

【0014】

50

なお、遊技機本体 1 2 には、その回動先端部に施錠装置が設けられており、遊技機本体 1 2 を外枠 1 1 に対して開放不能に施錠状態とする機能を有するとともに、前扉枠 1 4 を内枠 1 3 に対して開放不能に施錠状態とする機能を有している。これらの各施錠状態は、パチンコ機 1 0 前面にて露出させて設けられたシリンダ錠 1 7 に対して解錠キーを用いて解錠操作を行うことにより、それぞれ解除される。

【0015】

次に、遊技機本体 1 2 の前面側の構成について説明する。

【0016】

内枠 1 3 は、外形が外枠 1 1 とほぼ同一形状をなす樹脂ベース 2 1 を主体に構成されている。樹脂ベース 2 1 の中央部には略楕円形状の窓孔 2 3 が形成されている。樹脂ベース 2 1 には遊技盤 2 4 が着脱可能に取り付けられている。遊技盤 2 4 は合板よりなり、遊技盤 2 4 の前面に形成された遊技領域 P A が樹脂ベース 2 1 の窓孔 2 3 を通じて内枠 1 3 の前面側に露出した状態となっている。

10

【0017】

遊技盤 2 4 の構成を図 3 に基づいて説明する。図 3 は遊技盤 2 4 の正面図である。

【0018】

遊技盤 2 4 には、遊技領域 P A の外縁の一部を区画するようにして内レール部 2 5 と外レール部 2 6 とが取り付けられており、これら内レール部 2 5 と外レール部 2 6 とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。樹脂ベース 2 1 において窓孔 2 3 の下方に取り付けられた遊技球発射機構 2 7 (図 2 参照) から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域 P A の上部に案内されるようになっている。

20

【0019】

ちなみに、遊技球発射機構 2 7 は、誘導レールに向けて延びる発射レール 2 7 a と、後述する上皿 6 6 a に貯留されている遊技球を発射レール 2 7 a 上に供給する球送り装置 2 7 b と、発射レール 2 7 a 上に供給された遊技球を誘導レールに向けて発射させる電動アクチュエータであるソレノイド 2 7 c と、を備えている。前扉枠 1 4 に設けられた発射操作装置 (又は発射ハンドル) 2 8 が回動操作されることによりソレノイド 2 7 c が駆動制御され、遊技球が発射される。

【0020】

遊技盤 2 4 には、前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されている。各開口部には一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、可変表示ユニット 3 6、特図ユニット 3 7 及び普図ユニット 3 8 等がそれぞれ設けられている。

30

【0021】

スルーゲート 3 5 への入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3 及び第 2 作動口 3 4 への入球が発生すると、所定個数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、第 1 作動口 3 3 への入球が発生した場合又は第 2 作動口 3 4 への入球が発生した場合には 3 個の賞球の払い出しが実行され、一般入賞口 3 1 への入球が発生した場合には 1 0 個の賞球の払い出しが実行され、特電入賞装置 3 2 への入球が発生した場合には 1 5 個の賞球の払い出しが実行される。

40

【0022】

なお、上記賞球個数は任意であり、例えば、第 2 作動口 3 4 の方が第 1 作動口 3 3 よりも賞球個数が少ない構成としてもよく、第 2 作動口 3 4 の方が第 1 作動口 3 3 よりも賞球個数が多い構成としてもよい。また、第 1 作動口 3 3 への入球が発生した場合の賞球個数及び第 2 作動口 3 4 への入球が発生した場合の賞球個数の両方が複数である構成に限定されることはなく、第 1 作動口 3 3 への入球が発生した場合の賞球個数が 1 個である構成としてもよく、第 2 作動口 3 4 への入球が発生した場合の賞球個数が 1 個である構成としてもよく、両者の賞球個数がいずれも 1 個である構成としてもよい。

【0023】

50

その他に、遊技盤 2 4 の最下部にはアウト口 2 4 a が設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口 2 4 a を通って遊技領域 P A から排出される。また、遊技盤 2 4 には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘 2 4 b が植設されているとともに、風車等の各種部材が配設されている。

【0024】

ここで、入球とは所定の開口部を遊技球が通過することを意味し、開口部を通過した後に遊技領域 P A から排出される態様だけではなく、開口部を通過した後に遊技領域 P A から排出されることなく遊技領域 P A の流下を継続する態様も含まれる。但し、以下の説明では、アウト口 2 4 a への遊技球の入球と明確に区別するために、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4 及びスルーゲート 3 5 への遊技球の入球を、入賞とも表現する。

【0025】

第 1 作動口 3 3 及び第 2 作動口 3 4 は、作動口装置としてユニット化されて遊技盤 2 4 に設置されている。第 1 作動口 3 3 及び第 2 作動口 3 4 は共に上向きに開放されている。また、第 1 作動口 3 3 が上方となるようにして両作動口 3 3、3 4 は鉛直方向に並んでいる。

【0026】

可変表示ユニット 3 6 における図柄表示装置 4 1 の下方の部分である下枠部 3 6 a には、第 1 作動口 3 3 の上方において横方向に延在するようにしてステージ部 3 6 b が設けられており、可変表示ユニット 3 6 における図柄表示装置 4 1 の左方の部分である左枠部 3 6 c には可変表示ユニット 3 6 の左方の領域を流下する遊技球をステージ部 3 6 b に誘導することを可能とするワープ通路の入口部 3 6 d が形成されている。そして、ステージ部 3 6 b の横方向の中央部分は第 1 作動口 3 3 の鉛直上方に存在しており、当該中央部分にはステージ部 3 6 b の下方へと遊技球を自重により導出するための導出部 3 6 e が形成されている。この場合、ステージ部 3 6 b に導出された遊技球であって導出部 3 6 e 以外の領域からステージ部 3 6 b の下方へと導出される遊技球は第 1 作動口 3 3 に入球しづらいが、導出部 3 6 e からステージ部 3 6 b の下方へと導出される遊技球は第 1 作動口 3 3 に高い確率で入球する。

【0027】

第 1 作動口 3 3 には、上向きに開放されており、第 1 作動口 3 3 への遊技球の入球を阻止するための開閉部材といった部材は設けられていない。そして、同一の態様で遊技球が発射されている状況では遊技状態に依存することなく第 1 作動口 3 3 への入賞確率は一定となっている。換言すれば、第 1 作動口 3 3 は、遊技領域 P A を当該第 1 作動口 3 3 に向けて流下する遊技球が常時入球可能となっている。

【0028】

第 2 作動口 3 4 には、左右一対の可動片よりなるガイド片としての普電役物 3 4 a が設けられている。普電役物 3 4 a の閉鎖状態では遊技球が第 2 作動口 3 4 に入賞できず、普電役物 3 4 a が開放状態となることで第 2 作動口 3 4 への入賞が可能となる。

【0029】

第 2 作動口 3 4 よりも遊技球の流下方向の上流側に、スルーゲート 3 5 が設けられている。スルーゲート 3 5 は縦方向に貫通した図示しない貫通孔を有しており、スルーゲート 3 5 に入賞した遊技球は入賞後に遊技領域 P A を流下する。これにより、スルーゲート 3 5 に入賞した遊技球が第 2 作動口 3 4 へ入賞することが可能となっている。

【0030】

スルーゲート 3 5 への入賞に基づき第 2 作動口 3 4 の普電役物 3 4 a が閉鎖状態から開放状態に切り換えられる。具体的には、スルーゲート 3 5 への入賞をトリガとして普図当否判定処理が行われるとともに、遊技領域 P A において遊技球が通過しない領域である右下の隅部に設けられた普図ユニット 3 8 の普図表示部 3 8 a にて絵柄の変動表示が行われる。そして、普図当否判定処理の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部 3 8 a の変動表示が終了された場合に普電開放状態へ移行する。

10

20

30

40

50

普電開放状態では、普電役物 3 4 a が所定の態様で開放状態となる。

【0031】

なお、普図表示部 3 8 a は、複数のセグメント発光部が所定の態様で配列されてなるセグメント表示器により構成されているが、これに限定されることはなく、液晶表示装置、有機 E L 表示装置、C R T 又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、普図表示部 3 8 a にて変動表示される絵柄としては、複数種の文字が変動表示される構成、複数種の記号が変動表示される構成、複数種のキャラクタが変動表示される構成又は複数種の色が切り換え表示される構成などが考えられる。

【0032】

普図ユニット 3 8 において、普図表示部 3 8 a に隣接した位置には、普図保留表示部 3 8 b が設けられている。遊技球がスルーゲート 3 5 に入賞した個数は最大 4 個まで保留され、普図保留表示部 3 8 b の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【0033】

第 1 作動口 3 3 又は第 2 作動口 3 4 への入賞をトリガとして当否判定処理が行われる。そして、当該当否判定処理の結果は特図ユニット 3 7 及び可変表示ユニット 3 6 の図柄表示装置 4 1 における表示演出を通じて明示される。

【0034】

特図ユニット 3 7 には第 1 特図表示部 3 7 a と第 2 特図表示部 3 7 b とが設けられている。第 1 特図表示部 3 7 a では、第 1 作動口 3 3 への入賞をトリガとして当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の結果に対応した停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の結果として後述する大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているが、第 1 特図表示部 3 7 a の停止結果の内容は大当たり結果、時短結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第 1 特図表示部 3 7 a における停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第 1 特図表示部 3 7 a にて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、第 2 特図表示部 3 7 b では、第 2 作動口 3 4 への入賞をトリガとして当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の結果に対応した停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の結果として後述する大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているが、第 2 特図表示部 3 7 b の停止結果の内容は大当たり結果、時短結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第 2 特図表示部 3 7 b における停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第 2 特図表示部 3 7 b にて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。

【0035】

なお、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b は、複数のセグメント発光部が所定の態様で配列されてなるセグメント表示器により構成されているが、これに限定されることはなく、液晶表示装置、有機 E L 表示装置、C R T 又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b にて表示される絵柄としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【0036】

特図ユニット 3 7 において、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b に隣接した位置には、第 1 特図保留表示部 3 7 c 及び第 2 特図保留表示部 3 7 d が設けられている。遊技球が第 1 作動口 3 3 に入賞した個数は最大 4 個まで保留され、第 1 特図保留表示部 3 7 c の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。また、遊技球が第 2 作動口 3 4 に入賞した個数は最大 4 個まで保留され、第 2 特図保留表示部 3 7 d の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【0037】

図柄表示装置 4 1 について詳細には、図柄表示装置 4 1 は、液晶ディスプレイを備えた液晶表示装置として構成されており、後述する表示制御装置により表示内容が制御される

10

20

30

40

50

。なお、図柄表示装置 4 1 は、液晶表示装置に限定されることはなく、プラズマディスプレイ装置、有機 E L 表示装置又は C R T といった表示面を有する他の表示装置であってもよく、ドットマトリクス表示器であってもよい。

【 0 0 3 8 】

図柄表示装置 4 1 では、第 1 作動口 3 3 への入賞に基づき第 1 特図表示部 3 7 a にて絵柄の変動表示が行われる場合にそれに合わせて図柄の変動表示が行われるとともに、第 2 作動口 3 4 への入賞に基づき第 2 特図表示部 3 7 b にて絵柄の変動表示が行われる場合にそれに合わせて図柄の変動表示が行われる。なお、図柄表示装置 4 1 では、第 1 作動口 3 3 又は第 2 作動口 3 4 への入賞をトリガとした表示演出だけでなく、大当たり結果となった後に移行する後述の開閉実行モード中の表示演出などが行われる。

10

【 0 0 3 9 】

いずれかの作動口 3 3 , 3 4 への入賞に基づいて、いずれかの特図表示部 3 7 a , 3 7 b 及び図柄表示装置 4 1 にて表示が開始され、当否判定処理の結果に対応する停止結果を表示して終了されて後述する主制御装置 7 1 における特図確定中処理の実行が完了するまでが遊技回の 1 回に相当する。

【 0 0 4 0 】

本パチンコ機 1 0 では、作動口 3 3 , 3 4 への入賞に基づき当否判定処理が実行され、当否判定処理の結果が大当たり結果となることにより開閉実行モードへ移行する。開閉実行モードでは、特電入賞装置 3 2 の開閉制御が実行され、開放状態となっている特電入賞装置 3 2 への入賞が発生することで遊技球の払い出しが実行される。具体的には、開閉実行モードでは予め定められた回数のラウンド遊技が実行される。ラウンド遊技とは、予め定められた開放継続期間が経過すること、及び予め定められた上限個数の遊技球が特電入賞装置 3 2 に入賞することのいずれか一方の条件が満たされるまで継続する遊技のことである。この場合、発射操作装置 2 8 が遊技者により操作されている状況では 0 . 6 秒に 1 個の遊技球が遊技領域 P A に向けて発射されるように遊技球発射機構 2 7 が駆動制御される構成において、開放継続期間が 2 9 秒に設定されているとともに上限個数が 1 0 個に設定されている。したがって、ラウンド遊技の開放継続期間は遊技球の発射周期と 1 回のラウンド遊技の上限個数との積よりも長い時間に設定されていることとなるため、各ラウンド遊技において特電入賞装置 3 2 に上限個数以上の遊技球が入賞することを期待することができる。また、ラウンド遊技の上限回数は、その移行の契機となった大当たり結果の種類に応じて相違している。

20

30

【 0 0 4 1 】

当否判定処理の当否抽選モードとして、開閉実行モードへの移行が発生する大当たり結果となる確率が相対的に高低となるように高確率モードと低確率モードとが存在している。また、本パチンコ機 1 0 では、第 2 作動口 3 4 の普電役物 3 4 a が開放状態となる態様が相互に異なるように複数種類のサポートモードが設定されている。詳細には、サポートモードには、遊技領域 P A に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に、普電役物 3 4 a が単位時間当たりに開放状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモード（後述する第 1 高頻度サポートモード及び第 2 高頻度サポートモード）と低頻度サポートモードとが設定されている。当否抽選モード及びサポートモードの組合せの種類に応じて開閉実行モードではない状況における遊技状態が相違することとなる。当該遊技状態としては、低確率モードであって低頻度サポートモードである通常遊技状態と、高確率モードであって高頻度サポートモードである高確率状態と、低確率モードであって高頻度サポートモードである時短状態とが設定されている。高確率状態及び時短状態では通常遊技状態よりも 1 回の遊技回が消化されるのに要する期間の平均期間が短くなる。

40

【 0 0 4 2 】

第 1 作動口 3 3 及び第 2 作動口 3 4 は共に、遊技領域 P A において可変表示ユニット 3 6 の下方の領域である下側領域 P A U に設置されている。また、第 1 作動口 3 3 及び第 2 作動口 3 4 は、第 1 作動口 3 3 が上方及び第 2 作動口 3 4 が下方となるようにして縦方向

50

に並設された状態で作動口装置としてユニット化されている。また、第2作動口34の普電役物34aはスルーゲート35への入賞を契機として開放状態に制御され得るが、当該スルーゲート35は遊技領域PAにおいて可変表示ユニット36の左方の領域である左側領域PALに配置されている。そして、左側領域PALを流下する遊技球は下側領域PAUに誘導されるとともに、下側領域PAUに誘導された遊技球は第1作動口33及び第2作動口34が設けられた領域に誘導され得る。したがって、第1作動口33への入賞を狙って発射操作を行った場合、第1作動口33への入賞が発生し得るだけでなく第2作動口34への入賞が発生し得ることとなり、第2作動口34への入賞を狙って発射操作を行った場合、第2作動口34への入賞が発生し得るだけでなく第1作動口33への入賞が発生し得る。

10

【0043】

遊技状態が通常遊技状態である場合には上記のとおりサポートモードが低頻度サポートモードとなるため、第2作動口34への入賞が発生しづらくなり、第2作動口34よりも第1作動口33への入賞が発生し易くなる。したがって、通常遊技状態では基本的には遊技回の実行対象が第1特図表示部37aとなり、偶発的に第2作動口34への入賞が発生した場合には第2特図表示部37bが遊技回の実行対象となる。

【0044】

一方、遊技状態が高確率状態又は時短状態である場合には上記のとおりサポートモードが高頻度サポートモードとなるため、第2作動口34への入賞が発生し易くなる。この場合、第1作動口33よりも第2作動口34への入賞が発生し易くなる。但し、既に説明したとおり第2作動口34への入賞を狙って発射操作を行った場合には第1作動口33への入賞が発生し得るとともに、ステージ部36bの導出部36eに誘導された遊技球は高い確率で第1作動口33に入賞することとなるため、高頻度サポートモードであっても低頻度サポートモードと同様の頻度で第1作動口33への入賞が発生することとなる。

20

【0045】

遊技回の実行対象となっている特図表示部37a、37bのパターンに対応する態様で、図柄表示装置41にて遊技回用の演出が実行される。遊技回用の演出が実行される場合における図柄表示装置41の表示内容について説明する。

【0046】

図4(a)及び図4(b)は遊技回が実行される場合における図柄表示装置41の表示内容を説明するための説明図である。

30

【0047】

図4(a)に示すように、図柄表示装置41の表示面には、複数の表示領域として、上段・中段・下段の3つの図柄列Z1、Z2、Z3が設定されている。各図柄列Z1～Z3は、主図柄と副図柄が所定の順序で配列されて構成されている。つまり、遊技回が実行される場合、図柄表示装置41の表示面の大部分を利用して図柄の変動表示が行われる。

【0048】

図5(a)～図5(j)は各図柄列Z1～Z3にて変動表示される主図柄及び副図柄を説明するための説明図である。図5(a)～図5(j)に示すように、絵柄の一種である図柄は、「1」～「9」の数字が各々付された9種類の主図柄と、貝形状の絵図柄からなる副図柄とにより構成されている。より詳しくは、タコ等の9種類のキャラクタ図柄に「1」～「9」の数字がそれぞれ付されて主図柄が構成されている。

40

【0049】

図4(b)に示すように、上図柄列Z1には、「1」～「9」の9種類の主図柄が数字の降順に配列されるとともに、各主図柄の間に副図柄が1つずつ配されている。下図柄列Z3には、「1」～「9」の9種類の主図柄が数字の昇順に配列されるとともに各主図柄の間に副図柄が1つずつ配されている。つまり、上図柄列Z1と下図柄列Z3は18個の図柄により構成されている。これに対し、中図柄列Z2には、数字の昇順に「1」～「9」の9種類の主図柄が配列された上で「9」の主図柄と「1」の主図柄との間に「4」の主図柄が付加的に配列され、これら各主図柄の間に副図柄が1つずつ配されている。つま

50

り、中図柄列 Z 2 に限っては、10 個の主図柄が配されて 20 個の図柄により構成されている。そして、表示面では、これら各図柄列 Z 1 ~ Z 3 の図柄が周期性をもって所定の向きにスクロールするように変動表示される。図柄表示装置 4 1 は、図柄列 Z 1 ~ Z 3 毎に 3 個の図柄が停止表示されるようになっており、結果として 3 × 3 の計 9 個の図柄が停止表示されるようになっている。また、図柄表示装置 4 1 には、図 4 (a) に示すように、5 つの有効ライン、すなわち左ライン L 1、中ライン L 2、右ライン L 3、右下がりライン L 4 及び右上がりライン L 5 が設定されている。

【0050】

第 1 作動口 3 3 又は第 2 作動口 3 4 への入賞に基づいて図柄表示装置 4 1 において図柄の変動表示が行われる場合には、各図柄列 Z 1 ~ Z 3 の図柄が周期性をもって所定の向きにスクロールするように変動表示が開始される。そして、基本的には上図柄列 Z 1 → 下図柄列 Z 3 → 中図柄列 Z 2 の順に変動表示から待機表示に切り換えられ、最終的に各図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて所定の図柄を静止表示した状態で終了される。

【0051】

図柄の変動表示が終了する場合、後述する主制御装置 7 1 における当否判定処理の結果が後述する大当たり結果であった場合にはいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 上に同一の図柄の組合せが形成される。また、当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機として時短状態の設定が行われる場合には、図柄の変動表示が終了する場合にいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 上に同一図柄の組合せではなく且つリーチ図柄の組合せでもない所定の図柄の組合せ（例えば「1・2・3」、「3・4・1」）が形成される。この場合、時短結果の種類は後述するように複数種類存在しているため、所定の図柄の組合せの内容も時短結果の種類に応じて相違している。一方、当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合には、図柄の変動表示が終了する場合にリーチ図柄の組合せが形成されない非リーチ外れ用の停止図柄が表示される。つまり、当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合には、図柄列 Z 1 ~ Z 3 における停止結果は当否判定処理の結果が外れ結果であった場合と同じ停止結果となり得る。

【0052】

上記のように各図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄の変動表示が行われる構成において、遊技回が実行される場合における図柄表示装置 4 1 の表示演出として期待演出が設定されている。期待演出とは、図柄表示装置 4 1 における図柄の変動表示が開始されてから停止結果が導出表示される前段階で、大当たり結果となり易い変動表示状態であると遊技者に思わせるための表示状態をいう。期待演出には、リーチ表示と、リーチ表示が発生する前段階などにおいてリーチ表示の発生や大当たり結果の発生を期待させるための予告表示との 2 種類が設定されている。

【0053】

リーチ表示には、複数の図柄列 Z 1 ~ Z 3 のうち上図柄列 Z 1 及び下図柄列 Z 3 について同一の種類の図柄を停止表示させることでリーチ図柄の組合せを表示し、その状態で残りの中図柄列 Z 2 において図柄の変動表示を行う表示状態が含まれる。また、上記のようにリーチ図柄の組合せを表示した状態で、残りの図柄列において図柄の変動表示を行うとともに、その背景画面において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものや、リーチ図柄の組合せを縮小表示させる又は非表示とした上で、表示面の略全体において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものが含まれる。大当たり結果となる遊技回であればリーチ図柄の組合せを形成している図柄と同一の種類の図柄が中図柄列 Z 2 におけるリーチライン上に停止表示され、大当たり結果とならない遊技回であればリーチ図柄の組合せを形成している図柄とは異なる種類の図柄が中図柄列 Z 2 におけるリーチライン上に停止表示される。

【0054】

予告表示には、各図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄の変動表示が開始されてから、全ての図柄

10

20

30

40

50

列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄が変動表示されている状況において、又は一部の図柄列 Z 1 ~ Z 3 であって複数の図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄が変動表示されている状況において、図柄列 Z 1 ~ Z 3 上の図柄とは別にキャラクタを表示させる態様が含まれる。また、背景画面をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものや、図柄列 Z 1 ~ Z 3 上の図柄をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものも含まれる。かかる予告表示は、リーチ表示が行われる場合及びリーチ表示が行われない場合のいずれの遊技回においても発生し得るが、リーチ表示が行われない場合よりもリーチ表示が行われる場合の方が高確率で発生するように設定されている。

【 0 0 5 5 】

図柄表示装置 4 1 の表示面には図 4 (b) に示すように図柄列 Z 1 ~ Z 3 以外にも保留表示領域 4 2 と状態唆領域 4 3 とが設定されている。保留表示領域 4 2 は図柄表示装置 4 1 の表示面の下部に設定されている。保留表示領域 4 2 には、第 1 作動口 3 3 への入賞に基づき後述する主制御装置 7 1 にて取得された保留情報の数を遊技者に報知するための画像が表示される第 1 保留表示領域 4 2 a と、第 2 作動口 3 4 への入賞に基づき後述する主制御装置 7 1 にて取得された保留情報の数を遊技者に報知するための画像が表示される第 2 保留表示領域 4 2 b とを有する。保留情報とは、主制御装置 7 1 における当否判定処理の実行契機となる情報であって遊技回の実行契機となる情報である。第 1 作動口 3 3 への入賞を契機として取得された保留情報（以下、第 1 保留情報ともいう）は第 1 特図表示部 3 7 a における遊技回の実行契機となり、第 2 作動口 3 4 への入賞を契機として取得された保留情報（以下、第 2 保留情報ともいう）は第 2 特図表示部 3 7 b における遊技回の実行契機となる。第 1 保留情報は最大で 4 個保留記憶され、第 2 保留情報も最大で 4 個保留記憶される。

【 0 0 5 6 】

第 1 保留表示領域 4 2 a には第 1 保留情報の数に対応する数の第 1 保留画像 G 1 が表示される。つまり、保留記憶されている第 1 保留情報の数が 0 個であれば第 1 保留表示領域 4 2 a には第 1 保留画像 G 1 は表示されない。また、保留記憶されている第 1 保留情報の数が 1 個であれば第 1 保留画像 G 1 が 1 個表示され、保留記憶されている第 1 保留情報の数が 2 個であれば第 1 保留画像 G 1 が 2 個表示され、保留記憶されている第 1 保留情報の数が 3 個であれば第 1 保留画像 G 1 が 3 個表示され、保留記憶されている第 1 保留情報の数が 4 個であれば第 1 保留画像 G 1 が 4 個表示される。第 1 保留画像 G 1 が複数表示される場合、それら複数の第 1 保留画像 G 1 は一定の間隔となるように横並びで表示される。また、保留記憶されている第 1 保留情報の数が増加する場合には第 1 保留画像 G 1 が右方に向けて増加するように表示され、第 1 保留情報が遊技回の開始契機となり保留記憶されている第 1 保留情報の数が減少する場合には第 1 保留画像 G 1 が左方に向けて減少するように表示される。

【 0 0 5 7 】

第 2 保留表示領域 4 2 b には第 2 保留情報の数に対応する数の第 2 保留画像 G 2 が表示される。つまり、保留記憶されている第 2 保留情報の数が 0 個であれば第 2 保留表示領域 4 2 b には第 2 保留画像 G 2 は表示されない。また、保留記憶されている第 2 保留情報の数が 1 個であれば第 2 保留画像 G 2 が 1 個表示され、保留記憶されている第 2 保留情報の数が 2 個であれば第 2 保留画像 G 2 が 2 個表示され、保留記憶されている第 2 保留情報の数が 3 個であれば第 2 保留画像 G 2 が 3 個表示され、保留記憶されている第 2 保留情報の数が 4 個であれば第 2 保留画像 G 2 が 4 個表示される。第 2 保留画像 G 2 が複数表示される場合、それら複数の第 2 保留画像 G 2 は一定の間隔となるように横並びで表示される。また、保留記憶されている第 2 保留情報の数が増加する場合には第 2 保留画像 G 2 が右方に向けて増加するように表示され、第 2 保留情報が遊技回の開始契機となり保留記憶されている第 2 保留情報の数が減少する場合には第 2 保留画像 G 2 が左方に向けて減少するように表示される。

【 0 0 5 8 】

なお、図 4 (b) においては保留記憶されている第 1 保留情報の数が 4 個であるとともに

に第2保留情報の数が4個であることにより、第1保留表示領域42aに第1保留画像G1が4個表示され、第2保留表示領域42bに第2保留画像G2が4個表示されている。

【0059】

状態示唆領域43は図柄表示装置41の表示面の上部に設定されている。状態示唆領域43は図柄列Z1～Z3における図柄の表示領域よりも狭い表示面積となっている。状態示唆領域43では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3において遊技回用の図柄の変動表示が行われており当該遊技回の当否判定処理の結果に対応する停止結果が停止表示されていない状況では色の切り換え表示が行われる。具体的には、赤→青→緑→赤→青→緑→赤・・・というように所定の表示色パターンが繰り返される。そして、図柄列Z1～Z3において当否判定処理の結果に対応する停止結果が表示されて確定表示（静止表示）が開始されるタイミングで、その時点の遊技状況及び当否判定処理の結果に対応する停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の結果が大当たり結果又は外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。また、当否判定処理の結果が後述する時短結果である場合には、当該時短結果を契機として時短状態の設定が行われる場合にはその時短結果の種類に関係なく赤色が停止表示され、当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合にはその時短結果の種類に応じて青色又は緑色が停止表示される。上記のとおり当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合には図柄列Z1～Z3における停止結果が当否判定処理の結果が外れ結果であった場合と同じ停止結果となり得る構成において、当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合と、当否判定処理の結果が外れ結果となった場合とで状態示唆領域43の表示内容を異ならせることにより、当否判定処理の結果が後述する時短結果であった場合であって当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われない場合と、当否判定処理の結果が外れ結果となった場合とで図柄表示装置41の全体の表示内容としては異なる表示内容とすることが可能となる。

【0060】

遊技盤24の説明に戻り（図3参照）、当否判定処理の結果が大当たり結果となった場合、既に説明したとおり開閉実行モードに移行する。開閉実行モードでは特電入賞装置32の開閉制御が実行される。特電入賞装置32は、遊技盤24の背面側へと通じる図示しない大入賞口を備えているとともに、当該大入賞口を開閉する開閉扉32aを備えている。開閉扉32aは、閉鎖状態及び開放状態のいずれかに配置される。具体的には、開閉扉32aは、通常は遊技球が入賞できない閉鎖状態になっており、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に遊技球が入賞可能な開放状態に切り換えられるようになっている。なお、閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。また、開閉実行モードにおいては、当該開閉実行モードに対応した表示演出が図柄表示装置41にて実行される。

【0061】

上記構成の遊技盤24が樹脂ベース21に取り付けられてなる内枠13の前面側全体を覆うようにして前扉枠14が設けられている。前扉枠14には、図1に示すように、遊技領域PAのほぼ全域を前方から視認することができるようにした窓部61が形成されている。窓部61は、略楕円形状をなし、窓パネル62が嵌め込まれている。窓パネル62は、ガラスによって無色透明に形成されているが、これに限定されることはなく合成樹脂によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機10前方から窓パネル62を通じて遊技領域PAを視認可能であれば有色透明に形成されていてもよい。

【0062】

窓部61の上方には表示発光部64が設けられている。また、遊技状態に応じた効果音などが出力される左右一対のスピーカ部65が設けられている。また、窓部61の下方には、手前側へ膨出した上側膨出部66と下側膨出部67とが上下に並設されている。上側膨出部66内側には上方に開口した上皿66aが設けられており、下側膨出部67内側には同じく上方に開口した下皿67aが設けられている。上皿66aは、後述する払出装置

より払い出された遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら遊技球発射機構 27 側へ導くための機能を有する。また、下皿 67a は、上皿 66a 内にて余剰となった遊技球を貯留する機能を有する。

【0063】

次に、遊技機本体 12 の背面側の構成について説明する。

【0064】

図 2 に示すように、内枠 13（具体的には、遊技盤 24）の背面には、遊技の主たる制御を司る主制御装置 71 が搭載されている。主制御装置 71 は主制御基板が基板ボックスに収容されてなる。なお、基板ボックスに、その開放の痕跡を残すための痕跡手段を付与する又はその開放の痕跡を残すための痕跡構造を設けてもよい。当該痕跡手段としては、基板ボックスを構成する複数のケース体を分離不能に結合するとともにその分離に際して所定部位の破壊を要する結合部の構成や、引き剥がしに際して粘着層が接着対象に残ることと剥がされたことの痕跡を残す封印シールを複数のケース体間の境界を跨ぐようにして貼り付ける構成が考えられる。また、痕跡構造としては、基板ボックスを構成する複数のケース体間の境界に対して接着剤を塗布する構成が考えられる。

【0065】

主制御装置 71 を含めて内枠 13 の背面側を覆うようにして裏パックユニット 15 が設置されている。裏パックユニット 15 は、透明性を有する合成樹脂により形成された裏パック 72 を備えており、当該裏パック 72 に対して、払出機構部 73 及び制御装置集合ユニット 74 が取り付けられている。

【0066】

払出機構部 73 は、遊技ホールの島設備から供給される遊技球が逐次補給されるタンク 75 と、当該タンク 75 に貯留された遊技球を払い出すための払出装 76 とを備えている。払出装 76 より払い出された遊技球は、当該払出装 76 の下流側に設けられた払出通路を通じて、上皿 66a 又は下皿 67a に排出される。なお、払出機構部 73 には、例えば交流 24 ボルトの主電源が供給されるとともに、電源の ON 操作及び OFF 操作を行うための電源スイッチを有する裏パック基板が搭載されている。

【0067】

制御装置集合ユニット 74 は、払出装 76 を制御する機能を有する払出制御装置 77 と、各種制御装置等で要する所定の電力が生成されて出力されるとともに遊技者による発射操作装置 28 の操作に伴う遊技球の打ち出しの制御が行われる電源・発射制御装置 78 とを備えている。これら払出制御装置 77 と電源・発射制御装置 78 とは、払出制御装置 77 がパチンコ機 10 後方となるように前後に重ねて配置されている。

【0068】

＜パチンコ機 10 の電氣的構成＞

図 6 は、パチンコ機 10 の電氣的構成を示すブロック図である。

【0069】

主制御装置 71 は、遊技の主たる制御を司る主制御基板 81 を具備している。主制御基板 81 には、MPU 82 が搭載されている。MPU 82 には、当該 MPU 82 により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶した ROM 83 と、その ROM 83 内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリである RAM 84 と、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各種カウンタ回路などが内蔵されている。なお、MPU 82 に対して ROM 83 及び RAM 84 が 1 チップ化されていることは必須の構成ではなく、それぞれが個別にチップ化された構成としてもよい。これは主制御装置 71 以外の制御装置の MPU についても同様である。

【0070】

MPU 82 には、入力ポート及び出力ポートがそれぞれ設けられている。MPU 82 の入力側には、主制御装置 71 に設けられた停電監視基板 85 が接続されているとともに、払出制御装置 77 が接続されている。停電監視基板 85 には、動作電力を供給する機能を

有する電源・発射制御装置 78 が接続されており、MPU82 には停電監視基板 85 を介して電力が供給される。

【0071】

MPU82 の入力側には、各種入賞検知センサ 86a～86e といった各種センサが接続されている。各種入賞検知センサ 86a～86e には、一般入賞口 31 に設けられた検知センサ 86a、特電入賞装置 32 に設けられた検知センサ 86b、第 1 作動口 33 に設けられた検知センサ 86c、第 2 作動口 34 に設けられた検知センサ 86d 及びスルーゲート 35 に設けられた検知センサ 86e が含まれる。これら各種入賞検知センサ 86a～86e の検知結果に基づいて、MPU82 において各入賞対応入球部への入賞判定が行われる。また、MPU82 では第 1 作動口 33 又は第 2 作動口 34 への入賞に基づいて各種抽選が実行される。

10

【0072】

MPU82 の出力側には、停電監視基板 85、払出制御装置 77 及び音声発光制御装置 91 が接続されている。払出制御装置 77 には、例えば、上記入賞対応入球部への入賞判定結果に基づいて賞球コマンドが出力される。音声発光制御装置 91 には、変動用コマンド、種別コマンド及びオープニングコマンドなどの各種コマンドが出力される。

【0073】

MPU82 の出力側には、特電入賞装置 32 の開閉扉 32a を開閉動作させる特電用の駆動部 32b、第 2 作動口 34 の普電役物 34a を開閉動作させる普電用の駆動部 34b、特図ユニット 37 及び普図ユニット 38 が接続されている。ちなみに、特図ユニット 37 には、第 1 特図表示部 37a、第 2 特図表示部 37b、第 1 特図保留表示部 37c 及び第 2 特図保留表示部 37d が設けられているが、これらの全てが MPU82 の出力側に接続されている。同様に、普図ユニット 38 には、普図表示部 38a 及び普図保留表示部 38b が設けられているが、これらの全てが MPU82 の出力側に接続されている。主制御基板 81 には各種ドライバ回路が設けられており、当該ドライバ回路を通じて MPU82 は各種駆動部の駆動制御を実行する。

20

【0074】

つまり、開閉実行モードにおいては特電入賞装置 32 が開閉されるように、MPU82 において特電用の駆動部 32b の駆動制御が実行される。また、普電役物 34a の電役開放当選となった場合には普電役物 34a が開閉されるように、MPU82 において普電用の駆動部 34b の駆動制御が実行される。また、各遊技回に際しては、MPU82 において特図ユニット 37 の表示制御が実行される。また、普電役物 34a が開放状態となる普電開放状態とするか否かの抽選結果を明示する場合に、MPU82 において普図ユニット 38 の表示制御が実行される。

30

【0075】

停電監視基板 85 は、主制御基板 81 と電源・発射制御装置 78 とを中継し、また電源・発射制御装置 78 から出力される最大電圧である直流安定 24 ボルトの電圧を監視する。払出制御装置 77 は、主制御装置 71 の MPU82 から入力した賞球コマンドに基づいて、払出装 76 により賞球や貸し球の払出制御を行うものである。

【0076】

電源・発射制御装置 78 は、例えば、遊技ホール等における商用電源（外部電源）に接続されている。そして、その商用電源から供給される外部電力に基づいて主制御装置 71 や払出制御装置 77 等に対して各々に必要な動作電力を生成し、その生成した動作電力を供給する。

40

【0077】

当該動作電力を供給するための構成については、電源・発射制御装置 78 には、電入中用電源部 78a と電断中用電源部 78b とが設けられている。電入中用電源部 78a は、例えば、遊技ホール等における商用電源に接続されており、商用電源から外部電力が供給されている状況において動作電力を生成するとともに、その生成した動作電力を供給する機能を有する。電断中用電源部 78b は、コンデンサからなり、パチンコ機 10

50

の電源がON状態の場合（外部電源からの電力供給が行われている場合）に電入中用電源部78aから供給される電力により充電される。また、パチンコ機10の電源がOFF状態の場合や商用電源における停電発生時といった電源遮断状態（外部電源からの電力供給が遮断されている場合）では、電断中用電源部78bから放電され主制御装置71のRAM84及び払出制御装置77の図示しないRAMに対してバックアップ電力が供給される。よって、当該状況であっても、電断中用電源部78bからバックアップ電力が供給されている間は主制御装置71のRAM84及び払出制御装置77のRAMに記憶された情報が消去されることなく記憶保持される。

【0078】

ここで、主制御装置71のRAM84には現状の遊技状態及び遊技の進行内容の情報が一時的に記憶されるとともに、払出制御装置77のRAMには未払出の賞球個数の情報が一時記憶される。この場合に、これらRAMに上記のように電断中用電源部78bからバックアップ電力が供給されることにより、電入中用電源部78aからの電力供給がない状況であっても、現状の遊技状態、遊技の進行内容及び未払出の賞球情報を所定期間に亘って記憶保持することが可能となる。その一方、音声発光制御装置91及び表示制御装置101には、電断中用電源部78bからバックアップ電力は供給されない。したがって、音声発光制御装置91のRAM95及び表示制御装置101のRAM105に記憶された情報は、バックアップされることはなく、電入中用電源部78aからの電力供給が停止された場合には破壊又は消去される。

【0079】

電断中用電源部78bの容量は比較的大きく確保されており、電源遮断前に主制御装置71のRAM84に記憶されていた情報は所定の期間内（例えば、1日や2日）保持される。電断中用電源部78bは、コンデンサに限定されることはなく、バッテリーや非充電式電池などであってもよい。

【0080】

なお、電源・発射制御装置78には、上記電断中用電源部78bとは異なる図示しない停電時用電源部が設けられている。電源・発射制御装置78では、直流安定24ボルトの電源が22ボルト未満になった後においても、停電時用電源部から放電することにより、後述する停電時処理の実行に十分な時間の間、制御系の駆動電源である5ボルトの出力を正常値に維持するように構成されている。これにより、主制御装置71などは、停電時処理を正常に実行し完了することができる。

【0081】

電源・発射制御装置78には、各種電源部78a、78bの他に、発射制御部78cが設けられている。発射制御部78cには、発射操作装置28に内蔵されたタッチセンサ28a、プッシュセンサ28b及び可変抵抗器28cが電気的に接続されている。

【0082】

タッチセンサ28aにはコンデンサが内蔵されており、遊技者の手が操作ハンドルの外表面に接触してコンデンサの静電容量が変化すると、ハンドル操作検知に対応した所定の電気信号を発射制御部78cに出力する。発射制御部78cでは当該所定の電気信号の受信により、遊技者の手が操作ハンドルの外表面に接触していると認識する。また、発射制御部78cでは、プッシュセンサ28bから受信した電気信号に応じて発射操作装置28の発射止めスイッチの操作の有無を把握するとともに、可変抵抗器28cを通じて受信した電気信号に応じて操作ハンドルの回動操作量を把握する。

【0083】

発射制御部78cは、予め定められた遊技球の発射条件が成立している場合に主制御装置71のMPU82に所定の信号形態の条件成立信号を送信する。具体的には、発射制御部78cは、タッチセンサ28aから操作ハンドルが遊技者により触れられていることを示す信号を受信するとともに、発射止めスイッチが遊技者により手動操作されていないことを示す信号をプッシュセンサ28bから受信していることを条件に、MPU82に対してHイレベルの条件成立信号（条件成立に対応した信号）を継続して送信する。なお、上

記各信号のいずれかを受信していない場合には、MPU82に対してLOWレベルの条件成立信号（条件成立に対応していない信号）を送信する。但し、LOWレベルとHイレベルとの関係が逆であってもよい。また、条件成立に対応した条件成立信号を送信する条件として、上記条件に加えて、球貸装置がパチンコ機10に接続されていることという条件を付加してもよい。

【0084】

MPU82では、Hイレベルの条件成立信号を受信している状況であって、遊技球の発射を許可できる状況であれば、発射制御部78cにHイレベルの発射許可信号（発射許可に対応した信号）を継続して送信する。なお、MPU82は、発射制御部78cからHイレベルの条件成立信号を受信していない場合にはLOWレベルの発射許可信号（発射許可に対応していない信号）を送信するが、発射許可信号のLOWレベルとHイレベルとの関係が逆であってもよい。

【0085】

発射制御部78cは、遊技球発射機構27が電氣的に接続されており、MPU82からHイレベルの発射許可信号を受信している場合、遊技球発射機構27を定期的に駆動制御する。この場合、遊技球発射機構27に継続して遊技球が供給されている状況であれば、特定発射周期（具体的には0.6秒）に1個の遊技球が遊技領域PAに発射される。また、この発射に際しては可変抵抗器28cから受信した信号に基づき発射強度が調整されるため、操作ハンドルの回動操作量に応じた強度で遊技球が発射される。

【0086】

音声発光制御装置91は、MPU93が搭載された音声発光制御基板92を備えている。MPU93には、当該MPU93により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したROM94と、そのROM94内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるRAM95と、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路などが内蔵されている。MPU93では、主制御装置71から受信したコマンドに基づき、表示発光部64及びスピーカ部65を駆動制御するとともに、表示制御装置101にコマンドを送信する。

【0087】

表示制御装置101は、MPU103が搭載された表示制御基板102を備えている。MPU103には、当該MPU103により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したROM104と、そのROM104内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるRAM105と、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路などが内蔵されている。MPU103では、音声発光制御装置91から受信したコマンドに基づき、図柄表示装置41の制御を実施する。

【0088】

表示制御基板102には、図示は省略するが、MPU103の他に、ビデオディスプレイプロセッサ（VDP）、キャラクタROM、及びビデオRAM等が搭載されている。VDPは、図柄表示装置41に組み込まれた液晶表示部ドライバとしての画像処理デバイスを直接操作する一種の描画回路である。VDPは、ビデオRAMのデータの読み書きに介在するとともに、ビデオRAMに記憶させる画像データを、キャラクタROMから所定のタイミングで読み出して図柄表示装置41に表示させる。キャラクタROMは、図柄表示装置41に表示される図柄などのキャラクタデータを記憶するための画像データライブラリとしての役割を担うものである。このキャラクタROMには、各種の表示図柄のビットマップ形式画像データ、ビットマップ画像の各ドットでの表現色を決定する際に参照する色パレットテーブル等が保持されている。ビデオRAMは、図柄表示装置41に表示させる表示データを記憶するためのメモリであり、ビデオRAMの内容を書き替えることに基づき図柄表示装置41の表示内容が変更される。

【0089】

なお、以下の説明では説明の便宜上、主制御装置71のMPU82、ROM83及びRAM84を主側MPU82、主側ROM83及び主側RAM84といい、音声発光制御装

10

20

30

40

50

置 9 1 の M P U 9 3、R O M 9 4 及び R A M 9 5 を 音 光 側 M P U 9 3、音 光 側 R O M 9 4 及び 音 光 側 R A M 9 5 と い い、表 示 制 御 装 置 1 0 1 の M P U 1 0 3、R O M 1 0 4 及 び R A M 1 0 5 を 表 示 側 M P U 1 0 3、表 示 側 R O M 1 0 4 及 び 表 示 側 R A M 1 0 5 と い う。

【 0 0 9 0 】

<主側 M P U 8 2 にて各種抽選を行うための電氣的構成>

次に、主側 M P U 8 2 にて各種抽選を行うための電氣的な構成について図 7 を用いて説明する。

【 0 0 9 1 】

主側 M P U 8 2 は遊技に際し各種カウンタ情報を用いて、当たり発生抽選、特図表示部 3 7 a、3 7 b の表示の設定、図柄表示装置 4 1 の図柄表示の設定、普図表示部 3 8 a の表示の設定などを行うこととしており、具体的には、図 7 に示すように、当たり発生の抽選に使用する当たり乱数カウンタ C 1 と、大当たり結果種別及び時短結果種別を判定する際に使用する種別乱数カウンタ C 2 と、図柄表示装置 4 1 が外れ変動する際のリーチ発生抽選に使用するリーチ乱数カウンタ C 3 と、当たり乱数カウンタ C 1 の初期値設定に使用する乱数初期値カウンタ C I N I と、特図表示部 3 7 a、3 7 b 及び図柄表示装置 4 1 における変動表示期間を決定する変動種別カウンタ C S とを用いることとしている。さらに、第 2 作動口 3 4 の普電役物 3 4 a を普電開放状態とするか否かの抽選に使用する普電乱数カウンタ C 4 を用いることとしている。なお、上記各カウンタ C 1 ~ C 3、C I N I、C S、C 4 は、主側 R A M 8 4 の各種カウンタエリア 8 4 b に設けられている。

【 0 0 9 2 】

各カウンタ C 1 ~ C 3、C I N I、C S、C 4 は、その更新の都度前回値に 1 が加算され、最大値に達した後に「0」に戻るループカウンタとなっている。各カウンタは短時間間隔で更新される。当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 に対応した情報は、第 1 作動口 3 3 又は第 2 作動口 3 4 への入賞が発生した場合に、主側 R A M 8 4 に設けられた特図保留エリア 8 4 a に格納される。特図保留エリア 8 4 a は、第 1 特図保留エリア 1 1 1 と、第 2 特図保留エリア 1 1 2 と、特図用の実行エリア 1 1 3 とを備えている。

【 0 0 9 3 】

第 1 特図保留エリア 1 1 1 は第 1 エリア 1 1 1 a、第 2 エリア 1 1 1 b、第 3 エリア 1 1 1 c 及び第 4 エリア 1 1 1 d を備えており、第 1 作動口 3 3 への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各数値情報第 1 保留情報として、いずれかのエリア 1 1 1 a ~ 1 1 1 d に格納される。この場合、第 1 エリア 1 1 1 a ~ 第 4 エリア 1 1 1 d には、第 1 作動口 3 3 への入賞が複数回連続して発生した場合に、第 1 エリア 1 1 1 a → 第 2 エリア 1 1 1 b → 第 3 エリア 1 1 1 c → 第 4 エリア 1 1 1 d の順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように 4 つのエリア 1 1 1 a ~ 1 1 1 d が設けられていることにより、第 1 作動口 3 3 への遊技球の入賞履歴が最大 4 個まで保留記憶されるようになっている。なお、第 1 特図保留エリア 1 1 1 において保留記憶可能な数は、4 個に限定されることはなく任意であり、2 個、3 個又は 5 個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【 0 0 9 4 】

第 2 特図保留エリア 1 1 2 は第 1 エリア 1 1 2 a、第 2 エリア 1 1 2 b、第 3 エリア 1 1 2 c 及び第 4 エリア 1 1 2 d を備えており、第 2 作動口 3 4 への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各数値情報が第 2 保留情報として、いずれかのエリア 1 1 2 a ~ 1 1 2 d に格納される。この場合、第 1 エリア 1 1 2 a ~ 第 4 エリア 1 1 2 d には、第 2 作動口 3 4 への入賞が複数回連続して発生した場合に、第 1 エリア 1 1 2 a → 第 2 エリア 1 1 2 b → 第 3 エリア 1 1 2 c → 第 4 エリア 1 1 2 d の順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように 4 つのエリア 1 1 2 a ~ 1 1 2 d が設けられていることにより、第 2 作動口 3 4 への遊技球の入賞履歴が最大 4 個まで保留記憶されるようになっている。なお、第 2 特図保留エリア 1 1 2 において保留記憶可能な数は、4 個に限定されることはなく任意であり、2 個、3 個又は

5 個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【0095】

特図用の実行エリア113は、いずれかの特図表示部37a、37bにて変動表示を開始する際に、当否判定や振分判定などを行う対象の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、第1特図表示部37aの変動表示を開始する際には第1特図保留エリア111の第1エリア111aに格納された保留情報が特図用の実行エリア113に移動される。一方、第2特図表示部37bの変動表示を開始する際には第2特図保留エリア112の第1エリア112aに格納された保留情報が特図用の実行エリア113に移動される。

【0096】

普電乱数カウンタC4に対応した情報は、スルーゲート35への入賞が発生した場合に、普図保留エリア84cに格納される。普図保留エリア84cは、第1エリア114a、第2エリア114b、第3エリア114c及び第4エリア114dを備えており、スルーゲート35への入賞履歴に合わせて、普電乱数カウンタC4の数値情報が普図側の保留情報として、いずれかのエリア114a～114dに格納される。この場合、第1エリア114a～第4エリア114dには、スルーゲート35への入賞が複数回連続して発生した場合に、第1エリア114a→第2エリア114b→第3エリア114c→第4エリア114dの順に数値情報が時系列的に格納されていく。このように4つのエリア114a～114dが設けられていることにより、スルーゲート35への遊技球の入賞履歴が最大4個まで保留記憶されるようになっている。なお、普図保留エリア84cにおいて保留記憶可能な数は、4個に限定されることはなく任意であり、2個、3個又は5個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。普図保留エリア84cには、普図用の実行エリア115が設けられている。普図用の実行エリア115は普図表示部38aにて変動表示を開始する際に普図当否判定処理を行う対象の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、普図表示部38aの変動表示を開始する際には、普図保留エリア84cの第1エリア114aに格納された保留情報が普図用の実行エリア115に移動される。

【0097】

上記各カウンタについて詳細に説明する。

【0098】

まず、普電乱数カウンタC4について説明する。普電乱数カウンタC4は、例えば、0～250の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。普電乱数カウンタC4は定期的に更新され、スルーゲート35に遊技球が入賞したタイミングで普図保留エリア84cに格納される。そして、所定のタイミングにおいて、その格納された普電乱数カウンタC4の値によって普電役物34aを開放状態に制御するか否かを決定するための普図当否判定処理が行われる。

【0099】

本パチンコ機10では既に説明したとおり、普電役物34aによるサポートの態様が相互に異なるように複数種類のサポートモードが設定されている。図8はサポートモードの内容を説明するための説明図である。

【0100】

サポートモードには、遊技領域に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に第2作動口34の普電役物34aが単位時間あたりに開放状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されている。また、高頻度サポートモードとして第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとが設定されている。

【0101】

普電役物34aが開放状態となる普電開放状態とするか否かを抽選により決定するための普図当否判定処理が実行される場合における判定モードとして、電役開放当選となる確率が相対的に高低となるように普図側の高確率モードと普図側の低確率モードとが存在している。普図側の低確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる

10

20

30

40

50

確率が $1/2$ であるのに対して、普図側の高確率モードでは 1 回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が $4/5$ である。

【0102】

普図当否判定処理が実行された場合には普図表示部 38a において絵柄の変動表示が開始されることとなる。この場合に、普図表示部 38a において絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が相対的に長短となるように長期間と短期間とが存在している。長期間は 10 秒であるのに対して、短期間は 1 秒である。

【0103】

普図表示部 38a の変動表示回が終了する場合に当該普図表示部 38a には当該変動表示回の実行の契機となった普図当否判定処理の判定結果に対応する停止結果が表示される。この場合に、普図当否判定処理の判定結果が外れ結果であった場合には普図表示部 38a に外れ結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行は発生しない。普図保留エリア 84c に普図側の保留情報が記憶されている場合には、当該普図側の保留情報に対して新たに普図当否判定処理が実行されて普図表示部 38a にて新たな変動表示回が開始される。一方、普図当否判定処理の判定結果が電役開放当選に対応する結果であった場合には普図表示部 38a に当選結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行が発生する。

【0104】

普電開放状態の実行モードとして、普電役物 34a への遊技球の入球期待度が相対的に高低となるように高期待度モードと低期待度モードとが存在している。低期待度モードでは普電役物 34a の短開放が 1 回発生する。短開放の継続期間は 0.7 秒となっている。既に説明したとおり遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、普電役物 34a の短開放が 1 回発生した場合には第 2 作動口 34 への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は 1 個程度である。なお、普電開放状態は第 2 作動口 34 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合にも終了するが、短開放が 1 回発生した場合には上記のとおり第 2 作動口 34 への遊技球の入球が発生したとしても 1 個程度であるため第 2 作動口 34 に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【0105】

高期待度モードでは普電役物 34a の長開放が 3 回発生する。長開放の継続期間は 2 秒となっている。既に説明したとおり遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、普電役物 34a の長開放が 1 回発生した場合には第 2 作動口 34 に 3 個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では第 2 作動口 34 が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には 1 秒）を挟んで長開放が 3 回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には 9 個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第 2 作動口 34 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第 2 作動口 34 に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終了する事象が発生し得る。

【0106】

上記のように普図当否判定処理の判定モード、普図表示部 38a における普図の変動期間及び普電開放状態の実行モードが設定されている構成において、低頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は長期間となり、普電開放状態の実行モードは短開放 1 回が発生する低期待度モードとなる。また、第 1 高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の高確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放 3 回が発生する高期待度モードとなる。また、第 2 高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放 3 回が発生する高期待度モードとなる。したがって、スルーゲート 35 への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時

10

20

30

40

50

間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第1高頻度サポートモードが最も高く、第2高頻度サポートモードが次に高く、低頻度サポートモードが最も低い。また、低頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが低期待度モードとなるため、低頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球がほとんど発生しないのに対して、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが高期待度モードとなるため、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球が第2特図保留エリア112における第2保留情報の上限個数以上発生することが期待できる。

【0107】

なお、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとで単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度を相違させるための構成は上記のものに限定されることなく、例えば普図の変動期間として第1高頻度サポートモードでは短期間が選択されるのに対して第2高頻度サポートモードでは短期間と長期間との間である中期間が選択される構成としてもよく、普電開放状態の実行モードとして第1高頻度サポートモードでは長開放が3回発生するのに対して第2高頻度サポートモードでは長開放が2回発生する構成としてもよい。また、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとで普図当否判定処理の判定モードが普図側の高確率モードで同一であるものの普図の変動期間又は普電開放状態の実行モードの内容によって第1高頻度サポートモードの方が第2高頻度サポートモードよりも単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度が高くなる構成としてもよい。

【0108】

次に、当たり乱数カウンタC1について説明する。当たり乱数カウンタC1は、0～9999の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。特に当たり乱数カウンタC1が1周した場合、その時点の乱数初期値カウンタCINIの値が当該当たり乱数カウンタC1の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタCINIは、当たり乱数カウンタC1と同様のループカウンタである（値＝0～9999）。当たり乱数カウンタC1は定期的に更新され、遊技球が第1作動口33に入賞したタイミングで第1特図保留エリア111に格納され、遊技球が第2作動口34に入賞したタイミングで第2特図保留エリア112に格納される。そして、この格納された当たり乱数カウンタC1の数値情報を利用して当否判定処理が行われる。

【0109】

当否判定処理に際して当選となる乱数の値は、主側ROM83に当否テーブルとして記憶されている。本パチンコ機10では当否判定処理の当否抽選モードとして大当たり結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在している。低確率モードにおいて当否判定処理にて参照される当否テーブルとして、第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に参照される低確率時の第1当否テーブル121と、第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に参照される低確率時の第2当否テーブル122とが設けられている。また、高確率モードにおいて当否判定処理にて参照される当否テーブルとして高確率時の当否テーブル123が設けられている。

【0110】

図9(a)は低確率時の第1当否テーブル121を説明するための説明図であり、図9(b)は低確率時の第2当否テーブル122を説明するための説明図であり、図9(c)は高確率時の当否テーブル123を説明するための説明図である。

【0111】

図9(a)～図9(c)に示すように当否判定処理の結果として、大当たり結果と、時短結果と、外れ結果とが存在している。大当たり結果は、複数回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードへの移行契機となるとともに、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機となり得る当否結果である。時短結果は、開閉実行モードへの移行契機となることなくさらに当否抽選モードの移行契機とならないものの、サポートモードの移行契機

10

20

30

40

50

となり得る当否結果である。外れ結果は、開閉実行モードの移行契機とならずに、さらに当否抽選モード及びサポートモードについても移行契機とならない当否結果である。

【0112】

本パチンコ機10には単位時間当たりの有利度を定める設定値が存在している。設定値は「設定n」（nは「1」～「6」の整数）のnが大きい値ほど（すなわち設定値が高いほど）有利度が高くなる。設定値として「設定1」～「設定6」が存在している。図9（a）に示すように低確率時の第1当否テーブル121では、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、時短結果となる確率は「設定1」～「設定6」のいずれであっても同一となるように設定されている。

10

【0113】

具体的には、最も低い設定値である「設定1」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として50個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9850個が設定されている。また、「設定1」よりも1段階高い設定値である「設定2」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として52個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9848個が設定されている。また、「設定2」よりも1段階高い設定値である「設定3」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として54個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9846個が設定されている。また、「設定3」よりも1段階高い設定値である「設定4」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として56個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9844個が設定されている。また、「設定4」よりも1段階高い設定値である「設定5」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として58個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9842個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定6」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として60個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9840個が設定されている。上記のとおりいずれの設定値であっても低確率モードにおいては時短結果となる確率は大当たり結果となる確率よりも高くなっている。

20

30

【0114】

図9（b）に示すように低確率時の第2当否テーブル122では、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、時短結果となる確率は「設定1」～「設定6」のいずれであっても同一となるように設定されている。

40

【0115】

具体的には、最も低い設定値である「設定1」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として50個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9830個が設定されている。また、「設定1」よりも1段階高い設定値である「設定2」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として52個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9828個が設定されている。また、「設定2」よりも1段階高い設

50

定値である「設定3」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として54個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9826個が設定されている。また、「設定3」よりも1段階高い設定値である「設定4」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として56個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9824個が設定されている。また、「設定4」よりも1段階高い設定値である「設定5」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として58個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9822個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定6」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として60個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として120個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9820個が設定されている。

10

【0116】

つまり、低確率時の第1当否テーブル121と低確率時の第2当否テーブル122とで各設定値の大当たり結果の確率は同一となっている。これに対して、当否判定処理にて時短結果が選択される確率は低確率時の第2当否テーブル122の方が低確率の第1当否テーブル121よりも高くなっている。したがって、当否抽選モードが低確率モードである場合には第2保留情報に対して当否判定処理が実行された場合の方が、第1保留情報に対して当否判定処理が実行された場合よりも、時短結果が選択される確率が高くなる。

20

【0117】

なお、これに限定されることはなく、当否判定処理にて時短結果が選択される確率が、低確率時の第1当否テーブル121と低確率時の第2当否テーブル122とで同一又は略同一である構成としてもよく、低確率時の第1当否テーブル121の方が低確率の第2当否テーブル122よりも高い構成としてもよい。また、低確率時の第1当否テーブル121では時短結果の確率が各設定値で同一である構成に限定されることはなく、設定値に応じて変動する構成としてもよい。この場合、高い設定値ほど時短結果の確率が高くなる構成としてもよく、高い設定値ほど時短結果の確率が低くなる構成としてもよい。また、低確率時の第2当否テーブル122では時短結果の確率が各設定値で同一である構成に限定されることはなく、設定値に応じて変動する構成としてもよい。この場合、高い設定値ほど時短結果の確率が高くなる構成としてもよく、高い設定値ほど時短結果の確率が低くなる構成としてもよい。

30

【0118】

図9(c)に示すように高確率時の当否テーブル123では、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、時短結果となる確率は「設定1」～「設定6」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【0119】

40

具体的には、最も低い設定値である「設定1」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として500個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9400個が設定されている。また、「設定1」よりも1段階高い設定値である「設定2」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として520個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9380個が設定されている。また、「設定2」よりも1段階高い設定値である「設定3」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として540個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報

50

の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9360個が設定されている。また、「設定3」よりも1段階高い設定値である「設定4」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として560個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9340個が設定されている。また、「設定4」よりも1段階高い設定値である「設定5」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として580個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9320個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定6」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として600個が設定されており、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として100個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9300個が設定されている。

【0120】

高確率時の当否テーブル123は高確率モードである場合には第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合及び第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合のいずれであっても参照される。これにより、高確率モードにおいて第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合及び高確率モードにおいて第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合のそれぞれに対応させて当否テーブルを設ける構成に比べて、当否テーブルを記憶するために必要な主側ROM83の記憶容量を抑えることが可能となる。

【0121】

「設定1」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には $1/200$ であり高確率モードである場合にはその10倍の $1/20$ である。「設定2」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約 $1/192$ であり高確率モードである場合にはその10倍の約 $1/19.2$ である。「設定3」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約 $1/185$ であり高確率モードである場合にはその10倍の約 $1/18.5$ である。「設定4」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約 $1/179$ であり高確率モードである場合にはその10倍の約 $1/17.9$ である。「設定5」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約 $1/172$ であり高確率モードである場合にはその10倍の約 $1/17.2$ である。「設定6」において大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約 $1/167$ であり高確率モードである場合にはその10倍の約 $1/16.7$ である。つまり、「設定1」～「設定6」のいずれであっても大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合に対して10倍となる。

【0122】

一方、時短結果となる確率は、低確率時の第1当否テーブル121及び高確率時の当否テーブル123においては「設定1」～「設定6」のいずれであっても $1/100$ となり、低確率時の第2当否テーブル122においては「設定1」～「設定6」のいずれであっても約 $1/83$ となる。但し、これに限定されることはなく、高確率時の当否テーブル123においては時短結果となる確率が、低確率時の第1当否テーブル121よりも高くなり低確率時の第2当否テーブル122よりも低くなるように設定されている構成としてもよく、低確率時の第2当否テーブル122よりも高くなるように設定されている構成としてもよい。

【0123】

なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、時短結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【0124】

上記のとおり第1保留情報を契機とした場合及び第2保留情報を契機とした場合のいずれであっても高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高くなるように設定されていることにより高い設定値ほど遊技者にとって有利となる。また、開閉実行モードは単位時間当たりにおける遊技者の持ち球の増加量が最も多くなる期間であり、当該開閉実行モードの移行契機となる大当たり結果の確率が設定値に応じて変動することにより、設定値に対する遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【0125】

低確率モードよりも高確率モードの方が大当たり結果となる確率が高くなる構成において、「設定1」～「設定6」のいずれであっても高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は低確率モードにおいて大当たり結果となる確率に対して「1」よりも大きい数である一定数倍（具体的には10倍）高い確率となっている。これにより、いずれの設定状態であっても低確率モードと高確率モードとの間における大当たり結果となる確率の変動率を一定とすることが可能となる。

10

【0126】

設定値及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合に大当たり結果となる確率は第1保留情報を契機とした場合と第2保留情報を契機とした場合とで同一となっている。これにより、第1保留情報を契機とした場合と第2保留情報を契機とした場合とで大当たり結果の発生確率に差異が生じないようにすることが可能となる。

【0127】

第1保留情報を契機とした場合に時短結果となる確率は「設定1」～「設定6」のいずれであっても同一となる。また、第2保留情報を契機とした場合に時短結果となる確率は「設定1」～「設定6」のいずれであっても同一となる。これにより、遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測を行いつらくさせることが可能となる。その一方、時短結果となる確率は第2保留情報を契機とした場合の方が第1保留情報を契機とした場合よりも高い確率となっている。これにより、第1保留情報を契機とした遊技回が実行される場合と第2保留情報を契機とした遊技回が実行される場合とで時短結果の発生頻度を異ならせることが可能となる。

20

【0128】

種別乱数カウンタC2は、0～29の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。種別乱数カウンタC2は定期的に更新され、遊技球が第1作動口33に入賞したタイミングで第1特図保留エリア111に格納され、遊技球が第2作動口34に入賞したタイミングで第2特図保留エリア112に格納される。

30

【0129】

本パチンコ機10では、開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数、開閉実行モード終了後の当否抽選モード及び開閉実行モード終了後のサポートモードという3つの条件に差異を設けることにより、複数の大当たり結果が設定されている。第1保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合における大当たり用の振分判定処理にて参照される大当たり振分テーブルとして第1特図用の大当たり振分テーブル125が設けられている。また、第2保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合における大当たり用の振分判定処理にて参照される大当たり振分テーブルとして第2特図用の大当たり振分テーブル126が設けられている。

40

【0130】

図10(a)は第1特図用の大当たり振分テーブル125を説明するための説明図であり、図10(b)は第2特図用の大当たり振分テーブル126を説明するための説明図である。図10(a)及び図10(b)に示すように各大当たり振分テーブル125、126には、大当たり結果の種類として、5R低確結果と、5R高確結果と、10R高確結果とが設定されている。図11(a)は各大当たり結果の内容を説明するための説明図である。

【0131】

5R低確結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用

50

の振分判定処理にて選択されることで発生する。5 R 低確結果は、開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が5回となり、開閉実行モードの終了後の当否抽選モードが低確率モードとなり、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。この場合の低確率モードは少なくとも次回の開閉実行モードが発生するまで継続する。また、第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

【0132】

5 R 高確結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用の振分判定処理にて選択されることで発生する。5 R 高確結果は、開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が5回となり、開閉実行モードの終了後の当否抽選モードが高確率モードとなり、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。この場合の高確率モード及び第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合には当否抽選モードは低確率モードとなり、サポートモードは低頻度サポートモードとなる。

10

【0133】

10 R 高確結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用の振分判定処理にて選択されることで発生する。10 R 高確結果は、開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が10回となり、開閉実行モードの終了後の当否抽選モードが高確率モードとなり、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。この場合の高確率モード及び第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合には当否抽選モードは低確率モードとなり、サポートモードは低頻度サポートモードとなる。

20

【0134】

第1特図用の大当たり振分テーブル125は図10(a)に示すように、振分対象となる大当たり結果の種類として、5 R 低確結果、5 R 高確結果及び10 R 高確結果が設定されている。第1特図用の大当たり振分テーブル125では、「0～14」の種別乱数カウンタC2が5 R 低確結果に対応しており、「15～22」の種別乱数カウンタC2が5 R 高確結果に対応しており、「23～29」の種別乱数カウンタC2が10 R 高確結果に対応している。一方、第2特図用の大当たり振分テーブル126は図10(b)に示すように、振分対象となる大当たり結果の種類として、5 R 低確結果及び10 R 高確結果が設定されている。第2特図用の大当たり振分テーブル126では、「0～14」の種別乱数カウンタC2が5 R 低確結果に対応しており、「15～29」の種別乱数カウンタC2が10 R 高確結果に対応している。

30

【0135】

第1特図用の大当たり振分テーブル125と第2特図用の大当たり振分テーブル126とでは、大当たり当選となった場合において開閉実行モード後に高確率モードとなる確率が同一である。その一方、ラウンド遊技の平均実行回数は、第2特図用の大当たり振分テーブル126の方が第1特図用の大当たり振分テーブル125よりも多い。したがって、大当たり当選となった場合に選択され得る大当たり結果の種類としては、第1作動口33への入賞が発生して当否判定処理が行われる場合よりも、第2作動口34への入賞が発生して当否判定処理が行われる場合の方が遊技者にとって有利である。

40

【0136】

大当たり結果が複数種類設定されているだけでなく、時短結果も複数種類設定されている。そして、当否判定処理にて時短結果が選択された場合には、大当たり結果の種類を抽選により決定するために利用された種別乱数カウンタC2を利用して時短結果の種類が抽選により決定される。つまり、当否判定処理にて時短結果を選択するための乱数として、大当たり結果を選択するために利用される当たり乱数カウンタC1が利用されるだけで

50

はなく、当否判定処理にて時短結果が選択された場合において時短結果の種類を選択するための乱数として、大当たり結果の種類を選択するために利用される種別乱数カウンタC2が利用される。これにより、抽選用のカウンタの数を抑えることが可能となり、抽選を行うために必要な主側RAM84の記憶容量を抑えることが可能となる。

【0137】

第1保留情報に対する当否判定処理にて時短結果が選択された場合における時短用の振分判定処理にて参照される時短振分テーブルとして第1特図用の時短振分テーブル127が設けられている。また、第2保留情報に対する当否判定処理にて時短結果が選択された場合における時短用の振分判定処理にて参照される時短振分テーブルとして第2特図用の時短振分テーブル128が設けられている。

【0138】

図10(c)は第1特図用の時短振分テーブル127を説明するための説明図であり、図10(d)は第2特図用の時短振分テーブル128を説明するための説明図である。図10(c)及び図10(d)に示すように各時短振分テーブル127、128には、時短結果の種類として、第1時短結果と第2時短結果とが設定されている。図11(b)は各時短契機の内容を説明するための説明図である。

【0139】

第1時短結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて時短結果となり時短用の振分判定処理にて選択されることで発生する。第1時短結果は、開閉実行モードの移行契機となることはなくさらに当否抽選モードの移行契機となることはなく、サポートモードを第2高頻度サポートモードとする時短結果である。この場合の第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

【0140】

第2時短結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて時短結果となり時短用の振分判定処理にて選択されることで発生する。第2時短結果は、開閉実行モードの移行契機となることはなくさらに当否抽選モードの移行契機となることはなく、サポートモードを第2高頻度サポートモードとする時短結果である。この場合の第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく150回の遊技回が消化された場合に終了する。150回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。つまり、第2時短結果の方が第1時短結果よりも第2高頻度サポートモードが継続する遊技回の実行回数が多い。したがって、第2時短結果の方が第1時短結果よりも遊技者にとって有利である。

【0141】

第1特図用の時短振分テーブル127は図10(c)に示すように、振分対象となる時短結果の種類として、第1時短結果及び第2時短結果が設定されている。第1特図用の時短振分テーブル127では、「0～19」の種別乱数カウンタC2が第1時短結果に対応しており、「20～29」の種別乱数カウンタC2が第2時短結果に対応している。一方、第2特図用の時短振分テーブル128は、図10(d)に示すように、振分対象となる時短結果の種類として、第1時短結果及び第2時短結果が設定されている。第2特図用の時短振分テーブル128では、「0～9」の種別乱数カウンタC2が第1時短結果に対応しており、「10～29」の種別乱数カウンタC2が第2時短結果に対応している。

【0142】

第1特図用の時短振分テーブル127では相対的に不利である第1時短結果の選択確率の方が相対的に有利である第2時短結果の選択確率よりも高いのに対して、第2特図用の時短振分テーブル128では相対的に有利である第2時短結果の選択確率の方が相対的に不利である第1時短結果の選択確率よりも高い。さらに言うとも相対的に有利である第2時短結果の選択確率は、第2特図用の時短振分テーブル128の方が第1特図用の時短振分テーブル127よりも高い。したがって、当否判定処理にて時短結果となった場合に選択され得る時短結果の種類としては、第1作動口33への入賞が発生して当否判定処理が行

10

20

30

40

50

われる場合よりも、第2作動口34への入賞が発生して当否判定処理が行われる場合の方が遊技者にとって有利である。

【0143】

ここで、当否判定処理にて時短結果が選択されることは当否抽選モードが低確率モード及び高確率モードのいずれであっても発生し得るが、高確率モードにおいて時短結果が選択されたとしても当該時短結果を契機としたサポートモードの設定は行われない。また、当否判定処理にて時短結果が選択されることはサポートモードが低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのいずれであっても発生し得るが、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて時短結果が選択されたとしても当該時短結果を契機としたサポートモードの設定は行われない。つまり、当否判定処理にて時短結果が選択されたことに対する当該時短結果を契機としたサポートモードの設定は、低確率モードであって低頻度サポートモードである状況においてのみ発生する。なお、当該低確率モードであって低頻度サポートモードである状況には、低確率モードであって第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状況における当該高頻度サポートモードの最後の遊技回において当該高頻度サポートモードを終了させて低頻度サポートモードに移行させるための処理が実行された後の状況も含まれる。

10

【0144】

時短結果による第2高頻度サポートモードへの移行は低確率モードである場合にのみ発生するため、時短結果が発生して第2高頻度サポートモードへの移行が発生した場合には低確率モードであって第2高頻度サポートモードとなる。つまり、時短結果は開閉実行モードを介在させることなく遊技状態を上記時短状態に移行させる結果である。また、大当たり結果となったことを契機として開閉実行モード後に設定されるサポートモードは第1高頻度サポートモードであるのに対して、時短結果となったことを契機として設定されるサポートモードは第2高頻度サポートモードである。つまり、大当たり結果を契機としたサポートモードの方が時短結果を契機としたサポートモードよりも有利である。

20

【0145】

本パチンコ機10では開閉実行モードを発生させることなくサポートモードを第2高頻度サポートモードに移行させる事象として、上記のような時短結果以外にも、天井時短が存在している。天井時短は、図11(b)に示すように大当たり結果となることなく天井回数の遊技回が消化された場合に発生する。なお、天井回数のセットは大当たり結果が発生した場合に発生するとともに動作電力の供給開始時にも発生する。これについては後に詳細に説明する。天井時短は、開閉実行モードの移行契機となることはなくさらに当否抽選モードの移行契機となることはなく、サポートモードを第2高頻度サポートモードとする結果である。この場合の第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

30

【0146】

天井時短となることにより発生する第2高頻度サポートモードの継続回数は、第1時短結果となることにより発生する第2高頻度サポートモードの継続回数と同一であり、第2時短結果となることにより発生する第2高頻度サポートモードの継続回数よりも少ない。したがって、天井時短となることよりも当否判定処理にて時短結果が選択される場合の方が遊技者にとって有利である。

40

【0147】

天井回数の遊技回の消化は高確率モードにおいては発生しない。したがって、5R高確結果又は10R高確結果となることで天井回数が新たにセットされたとしてもその後の高確率モードが終了するまでは残りの天井回数は減算されない。一方、天井回数の遊技回の消化は低確率モードにおいてはサポートモードがいずれのモードであったとしても発生する。但し、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて天井回数の遊技回の消化が完了したとしても当該天井回数の遊技回の消化を契機としたサポートモードの設定は行われない。つまり、天井回数の遊技回の消化が完了したことに対する当該天

50

天井時短を契機としたサポートモードの設定は、低確率モードであって低頻度サポートモードである状況においてのみ発生する。なお、当該低確率モードであって低頻度サポートモードである状況には、低確率モードであって第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状況における当該高頻度サポートモードの最後の遊技回において当該高頻度サポートモードを終了させて低頻度サポートモードに移行させるための処理が実行された後の状況も含まれる。

【0148】

天井時短による第2高頻度サポートモードへの移行は低確率モードである場合にのみ発生するため、天井時短が発生して第2高頻度サポートモードへの移行が発生した場合には低確率モードであって第2高頻度サポートモードとなる。つまり、天井時短は開閉実行モードを介在させることなく遊技状態を上記時短状態に移行させる結果である。また、大当たり結果となったことを契機として開閉実行モード後に設定されるサポートモードは第1高頻度サポートモードであるのに対して、天井時短となったことを契機として設定されるサポートモードは第2高頻度サポートモードである。つまり、大当たり結果を契機としたサポートモードの方が天井時短を契機としたサポートモードよりも有利である。

【0149】

図12は時短結果又は天井時短によって時短状態が設定される様子を示すタイムチャートである。図12(a)は開閉実行モードである期間を示し、図12(b)は主側RAM84に設けられた天井カウンタ131の状態を示し、図12(c)は高確率状態である期間を示し、図12(d)は当否判定処理にて時短結果が選択されるタイミングを示し、図12(e)は時短状態である期間を示す。

【0150】

まず時短結果となることを契機として時短状態となる事象及び天井時短となることを契機として時短状態となる事象が非連続で発生する場合について説明する。

【0151】

当否判定処理の結果が5R高確結果又は10R高確結果となることで、t1のタイミングで図12(a)に示すように開閉実行モードが開始される。この場合、当該開閉実行モードの開始を契機として、図12(b)に示すように、主側RAM84に設けられた天井カウンタ131に固定天井回数である500回がセットされる。天井カウンタ131は残りの天井回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【0152】

その後、t2のタイミングで図12(a)に示すように開閉実行モードが終了することで、図12(c)に示すように高確率状態となる。高確率状態は高確率モードであって第1高頻度サポートモードである遊技状態である。当該高確率状態は100回の遊技回が消化されることでt4のタイミングで終了する。開閉実行モードでは遊技回が実行されないため天井カウンタ131の減算は行われず、さらに高確率モードにおいては遊技回が実行されたとしても天井カウンタ131の減算は行われない。したがって、高確率状態が終了したt4のタイミングにおいては天井カウンタ131の値は、当該天井カウンタ131に固定天井回数がセットされたt1のタイミングから変化していない。また、高確率状態の途中のタイミングであるt3のタイミングで図12(d)に示すように当否判定処理にて時短結果が選択されているが、高確率モードであるため当該時短結果は無効化される。

【0153】

t4のタイミングで図12(c)に示すように高確率状態が終了することで遊技状態は通常遊技状態となる。通常遊技状態においては第1保留情報を契機とした遊技回が実行された場合及び第2保留情報を契機とした遊技回が実行された場合のいずれであっても、図12(b)に示すように天井カウンタ131の値は減算される。

【0154】

その後、t5のタイミングで図12(d)に示すように当否判定処理にて時短結果が選択される。当該t5のタイミングにおける遊技状態は通常遊技状態であるため、図12(e)に示すように当該時短結果を契機として時短状態に移行する。この場合、図12(a)

）に示すように開閉実行モードは介在することなく、さらに当否抽選モードは低確率モードに維持される。当該時短状態は低確率モードであって第2高頻度サポートモードである遊技状態である。時短状態においては第1保留情報を契機とした遊技回が実行された場合及び第2保留情報を契機とした遊技回が実行された場合のいずれであっても、図12（b）に示すように天井カウンタ131の値は減算される。その後、当該時短状態において大当たり結果が発生することなくt6のタイミングで時短状態の残りの継続回数が0回となることで、図12（e）に示すように時短状態が終了する。この場合、遊技状態は通常遊技状態となる。

【0155】

その後、t7のタイミングで図12（b）に示すように天井カウンタ131の値が「0」となる。つまり、天井回数の遊技回の消化が完了する。当該t7のタイミングにおける遊技状態は通常遊技状態であるため、図12（e）に示すように当該天井時短を契機として時短状態に移行する。この場合、図12（a）に示すように開閉実行モードは介在することなく、さらに当否抽選モードは低確率モードに維持される。当該時短状態は低確率モードであって第2高頻度サポートモードである遊技状態である。その後、当該時短状態において大当たり結果が発生することなくt8のタイミングで時短状態の残りの継続回数が0回となることで、図12（e）に示すように時短状態が終了する。この場合、遊技状態は通常遊技状態となる。

【0156】

天井時短を契機として時短状態に移行した場合及び当該時短状態が終了した場合のいずれであっても天井カウンタ131の値はセットされない。また、天井時短を契機とした時短状態への移行は、天井カウンタ131の値が1以上である状況において遊技回が消化されて天井カウンタ131の値が減算された結果、当該天井カウンタ131の値が「0」となった場合に発生する。したがって、天井時短を契機とした時短状態への移行は大当たり結果が発生した後に1回のみ発生し、天井時短を契機とした時短状態への移行が1回発生した場合には基本的にその後大当たり結果が発生して天井カウンタ131の値のセットが行われな限り、天井時短を契機とした時短状態への移行は発生しない。

【0157】

次に、時短結果となることを契機として時短状態となる事象及び天井時短となることを契機として時短状態となる事象が連続的に発生する場合について説明する。

【0158】

当否判定処理の結果が5R高確結果又は10R高確結果となることで、t9のタイミングで図12（a）に示すように開閉実行モードが開始される。この場合、当該開閉実行モードの開始を契機として、図12（b）に示すように、天井カウンタ131に固定天井回数である500回がセットされる。

【0159】

その後、t10のタイミングで図12（a）に示すように開閉実行モードが終了することで、図12（c）に示すように高確率状態となる。当該高確率状態は100回の遊技回が消化されることでt11のタイミングで終了する。この場合、開閉実行モードでは遊技回が実行されないため天井カウンタ131の減算は行われず、さらに高確率モードにおいては遊技回が実行されたとしても天井カウンタ131の減算は行われない。したがって、高確率状態が終了したt11のタイミングにおいては天井カウンタ131の値は、当該天井カウンタ131に固定天井回数がセットされたt9のタイミングから変化していない。

【0160】

t11のタイミングで図12（c）に示すように高確率状態が終了することで遊技状態は通常遊技状態となる。通常遊技状態においては第1保留情報を契機とした遊技回が実行された場合及び第2保留情報を契機とした遊技回が実行された場合のいずれであっても、図12（b）に示すように天井カウンタ131の値は減算される。

【0161】

その後、t12のタイミングで図12（d）に示すように当否判定処理にて時短結果が

10

20

30

40

50

選択される。当該 $t12$ のタイミングにおける遊技状態は通常遊技状態であるため、図12(e)に示すように当該時短結果を契機として時短状態に移行する。この場合、図12(a)に示すように開閉実行モードは介在することなく、さらに当否抽選モードは低確率モードに維持される。当該時短状態は低確率モードであって第2高頻度サポートモードである遊技状態である。時短状態においては第1保留情報を契機とした遊技回が実行された場合及び第2保留情報を契機とした遊技回が実行された場合のいずれであっても、図12(b)に示すように天井カウンタ131の値は減算される。その後、時短状態の途中のタイミングである $t13$ のタイミングで図12(d)に示すように当否判定処理にて時短結果が選択されているが、時短状態であるため当該時短結果は無効化される。

【0162】

その後、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく $t14$ のタイミングで時短状態の残りの継続回数が0回となるとともに、図12(b)に示すように天井カウンタ131の値が「0」となる。この場合、時短状態の最後の遊技回が開始されたタイミングにおいては時短状態であるが、当該遊技回が終了する場合に実行される処理にて時短状態の残りの継続回数が0回となったことが特定されることでサポートモードが第2高頻度サポートモードから低頻度サポートモードに変更され、遊技状態は時短状態から通常遊技状態となる。また、当該遊技回が終了する場合において当該処理が実行された後に天井カウンタ131の値が1減算されて当該天井カウンタ131の値が「0」となる。つまり、当該遊技回において遊技状態が時短状態から通常遊技状態に設定された後に、天井カウンタ131の値が「0」となる。したがって、当該遊技回において天井回数の遊技回の消化が完了したことを契機とした時短状態の設定が行われる。よって、 $t14$ のタイミングで時短状態が終了することなく当該時短状態が継続することとなる。当該時短状態は低確率モードであって第2高頻度サポートモードである遊技状態である。その後、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく $t15$ のタイミングで時短状態の残りの継続回数が0回となることで、図12(e)に示すように時短状態が終了する。この場合、遊技状態は通常遊技状態となる。

【0163】

次に、図7のリーチ乱数カウンタC3について説明する。リーチ乱数カウンタC3は、例えば0～238の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。リーチ表示は、最終的に同一の図柄の組合せが停止表示される遊技回ではリーチ乱数カウンタC3の値に関係なく実行される。また、時短結果に対応した遊技回では、リーチ乱数カウンタC3の値に関係なくリーチ表示は実行されない。また、外れ結果に対応した遊技回では、主側ROM83に記憶されたリーチ用テーブルを参照してリーチ乱数カウンタC3がリーチ表示の発生に対応している場合にリーチ表示が実行される。

【0164】

次に、変動種別カウンタCSについて説明する。変動種別カウンタCSは、例えば0～198の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。変動種別カウンタCSは、特図表示部37a、37bにおける変動表示期間と、図柄表示装置41における図柄の変動表示期間とを主側MPU82において決定する上で用いられる。変動種別カウンタCSは繰り返し更新され、特図表示部37a、37bにおける変動表示の開始時及び図柄表示装置41による図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して取得される。

【0165】

<主側MPU82にて実行される各種処理について>

次に、主側MPU82にて遊技を進行させるために実行される各処理を説明する。かかる主側MPU82の処理としては大別して、電源投入に伴い起動されるメイン処理と、定期的に（本実施の形態では4msec周期で）起動されるタイマ割込み処理とがある。

【0166】

<メイン処理>

まず、図13のフローチャートを参照しながらメイン処理を説明する。

【0167】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップS101）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウェイト用の所定時間（具体的には1秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウェイト用の所定期間において図柄表示装置41の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側RAM84のアクセスを許可する。

【0168】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップS102）。内部機能レジスタ設定処理では、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理であるタイマ割り込み処理（図14）の割り込み周期を所定周期（具体的には4ミリ秒）に設定する。タイマ割り込み処理（図14）の詳細については後に説明する。また、内部機能レジスタ設定処理では割り込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタC1の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【0169】

その後、主側RAM84に設けられた立ち上げ処理中フラグに「1」をセットする（ステップS103）。立ち上げ処理中フラグは、タイマ割り込み処理（図14）が起動されたとしても当該タイマ割り込み処理（図14）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該タイマ割り込み処理（図14）を終了すべき状況であることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【0170】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図13）において動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）が開始された場合に「1」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）が終了して残余処理（ステップS127～ステップS130）が開始される前に「0」クリアされる。タイマ割り込み処理（図14）では立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合にはステップS207～ステップS220の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）のうち後述する設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおりタイマ割り込み処理（図14）では立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合であってもステップS201～ステップS205の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）のうち後述する設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3及び乱数初期値カウンタCINIの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【0171】

特に、立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況であっても停電監視処理（ステップS201）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）のうち後述する設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では主側RAM84に設けられた停電フラグに「1」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを主側RAM84に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側RAM84の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、後述する設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。ちなみに、後述する設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されて

10

20

30

40

50

いる状況では、タイマ割込み処理（図 1 4）の割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。

【0172】

ステップ S 1 0 3 にて立ち上げ処理中フラグに「1」をセットした後は、主側 R A M 8 4 に設けられた停電フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 1 0 4）。タイマ割込み処理（図 1 4）の停電監視処理（ステップ S 2 0 1）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「1」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。

【0173】

停電フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 1 0 4：Y E S）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップ S 1 0 5）。具体的には、まず主側 R A M 8 4 についてチェックサムを算出する。チェックサムの算出方法は任意であるが、後述するタイマ割込み処理（図 1 4）の停電監視処理（ステップ S 2 0 1）における停電時処理においてチェックサムが算出される場合の算出方法と同一の算出方法となっている。その後、主側 M P U 8 2 への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて主側 R A M 8 4 に保存されたチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、今回のメイン処理にて算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

【0174】

チェックサムが一致している場合（ステップ S 1 0 5：Y E S）、主側 R A M 8 4 の設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップ S 1 0 6）。設定参照用エリアは現状のパチンコ機 1 0 において使用対象として設定されている設定値を主側 M P U 8 2 にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリアに「1」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 1」となる。設定参照用エリアに「2」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 2」となる。設定参照用エリアに「3」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 3」となる。設定参照用エリアに「4」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 4」となる。設定参照用エリアに「5」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 5」となる。設定参照用エリアに「6」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機 1 0 の設定値は「設定 6」となる。ステップ S 1 0 6 では設定参照用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する。

【0175】

ステップ S 1 0 4～ステップ S 1 0 6 の全てで肯定判定をした場合、主側 R A M 8 4 に情報異常が発生していないことを意味する。この場合、主側 R A M 8 4 に設けられた設定更新中フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 1 0 7）。設定更新中フラグは後述する設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が実行されていることを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグであり、設定更新中フラグに「1」がセットされている場合には主制御装置 7 1 の主制御基板 8 1 に搭載された報知用表示装置 1 4 1（図 6 参照）にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。報知用表示装置 1 4 1 は複数のセグメント表示器を備えている。これら複数のセグメント表示器は主制御基板 8 1 の素子搭載面において並設されており、主制御装置 7 1 の基板ボックスを開封しなくても基板ボックスの外部から各セグメント表示器の表示面を視認可能となっている。

【0176】

設定更新中フラグは、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が開始された場合に「1」がセットされ設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が終了される場合に「0」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が実行されていない状況にお

10

20

30

40

50

いては基本的に設定更新中フラグに「1」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況において主側MPU82への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において設定更新中フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定更新中フラグに「1」がセットされた状態は設定値更新処理（ステップS117）にて設定更新中フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【0177】

設定更新中フラグに「1」がセットされていないことでステップS107にて否定判定をした場合、リセットボタン142（図6参照）が押圧操作されているか否かを判定する（ステップS108）。リセットボタン142は主制御基板81の素子搭載面に設けられており、リセットボタン142の押圧操作部は主制御装置71の基板ボックスに覆われていない。したがって、当該基板ボックスを開封することなくリセットボタン142を操作することが可能となっている。ステップS108では、リセットボタン142が押圧操作されている状態においてパチンコ機10の電源ON操作が行われて主側MPU82への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。

【0178】

リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップS108：NO）、主側RAM84に設けられた遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS109）。遊技停止フラグは、停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、後述するタイマ割込み処理（図14）においてステップS201～ステップS205の処理を実行する一方、ステップS206にて肯定判定をすることでステップS207～ステップS220の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップS109にて肯定判定をした場合、後述するステップS124及びステップS125の処理を実行する。

【0179】

ステップS109にて否定判定をした場合、設定キー挿入部143（図6参照）が設定キーを利用してON操作されているか否かを判定する（ステップS110）。設定キー挿入部143は主制御基板81の素子搭載面に設けられており、設定キー挿入部143に対して設定キーを利用してON操作を行うための鍵穴部分は主制御装置71の基板ボックスに覆われていない。したがって、当該基板ボックスを開封することなく設定キー挿入部143への設定キーによるON操作を行うことが可能となっている。設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されている場合（ステップS110：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップS112）。また、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていない場合であっても（ステップS110：NO）、主側RAM84に設けられた設定確認中フラグに「1」がセットされている場合（ステップS111：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップS112）。

【0180】

設定確認中フラグは設定確認用処理（ステップS112）が実行されていることを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、設定確認中フラグに「1」がセットされている場合には報知用表示装置141にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認中フラグは、設定確認用処理（ステップS112）が開始された場合に「1」がセットされ設定確認用処理（ステップS112）が終了される場合に「0」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（ステップS112）が実行されていない状況においては基本的に設定確認中フラグ

に「1」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（ステップS112）が実行されている状況において主側MPU82への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において設定確認中フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定確認中フラグに「1」がセットされた状態は後述するRAMクリア処理（ステップS119）が実行されるか、後述する設定値更新処理（ステップS117）が実行されるか、又は設定確認用処理（ステップS112）において設定確認中フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【0181】

上記のようにリセットボタン142が押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部143がON操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン142が押圧操作されていない状況であって設定確認中フラグに「1」がセットされている場合にも設定確認用処理（ステップS112）が実行されることにより、設定確認用処理（ステップS112）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理（ステップS112）が実行される。これにより、パチンコ機10の現状の設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理（ステップS112）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142が押圧操作された場合には、設定確認用処理（ステップS112）が実行されることなくRAMクリア処理（ステップS119）及び設定値更新処理（ステップS117）のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理（ステップS112）よりもRAMクリア処理（ステップS119）又は設定値更新処理（ステップS117）の実行を優先させることが可能となる。

【0182】

ここで、ステップS112にて実行される設定確認用処理について説明する。

【0183】

設定確認用処理ではまず割込み許可の設定を行う。これにより、タイマ割込み処理（図14）が所定周期で割り込んで起動される。本パチンコ機10においては動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）では基本的にタイマ割込み処理（図14）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（ステップS112）及び設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況においてタイマ割込み処理（図14）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているため、タイマ割込み処理（図14）が起動されたとしても当該タイマ割込み処理（図14）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該タイマ割込み処理（図14）が終了される。その後、主側RAM84の設定確認中フラグに「1」がセットされていないことを条件として、設定確認中フラグに「1」をセットする。設定確認中フラグに「1」がセットされることにより、パチンコ機10の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が報知用表示装置141にて行われる。その後、確認開始コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、設定確認用処理（ステップS112）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（ステップS112）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置41にて表示されるように表示側MPU103が表示制御される。

【0184】

その後、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する。設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合、主側RAM84の設定確認中フラグを「0」クリアする。これに

10

20

30

40

50

より、報知用表示装置 141 にて、パチンコ機 10 の現状の設定値を確認している状態であることを示す表示及びパチンコ機 10 の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、割込み禁止の設定を行う。これにより、設定確認用処理（ステップ S 112）を終了してメイン処理（図 13）における動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 101～ステップ S 126）に復帰する場合にはタイマ割込み処理（図 14）の割込みが禁止される。その後、確認時の復帰コマンドを音光側 MPU 93 に送信する。これにより、図柄表示装置 41 における設定確認用処理（ステップ S 112）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（ステップ S 112）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示が終了される。

【0185】

メイン処理（図 13）の説明に戻り、設定キー挿入部 143 が設定キーを利用して ON 操作されていない場合であって設定確認中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップ S 110 及びステップ S 111：NO）、遊技機本体 12 が開放中であるか否かを判定する（ステップ S 113）。内枠 13 の樹脂ベース 21 には本体開放検知センサ 144（図 6 参照）が設けられている。本体開放検知センサ 144 は主側 MPU 82 と電氣的に接続されており、遊技機本体 12 が外枠 11 に対して閉鎖状態となっている場合には LOW レベルの開放検知信号を主側 MPU 82 に送信し、遊技機本体 12 が外枠 11 に対して開放状態となっている場合には HI レベルの開放検知信号を主側 MPU 82 に送信する。なお、これら LOW・HI の関係が逆であってもよい。ステップ S 113 では本体開放検知センサ 144 から HI レベルの開放検知信号を受信しているか否かを判定する。

【0186】

本体開放検知センサ 144 から HI レベルの開放検知信号を受信している場合（ステップ S 113：YES）、すなわち遊技機本体 12 が外枠 11 に対して開放状態となっている場合、主側 RAM 84 の天井カウンタ 131 に固定天井回数である 500 回の情報をセットする（ステップ S 114）。ステップ S 113 の処理が実行される場合というのは、パチンコ機 10 への動作電力の供給が開始された場合にリセットボタン 142 の押圧操作及び設定キー挿入部 143 に対する設定キーによる ON 操作が行われておらず、さらに主側 RAM 84 の設定更新中フラグ及び設定確認中フラグの両方に「1」がセットされていない状況である。この場合というのは動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 101～ステップ S 126）にて設定確認用処理（ステップ S 112）、設定値更新処理（ステップ S 117）及び RAM クリア処理（ステップ S 119）が実行されない状況である。また、遊技ホールでは、各パチンコ機 10 に動作電力を供給するための主電源を OFF にした状態で、各パチンコ機 10 の電源・発射制御装置 78 に設けられた電源スイッチを予め ON にしておき、1 日の営業を開始する時刻となった場合には主電源を ON にすることで各パチンコ機 10 が一斉に起動状態となるようにしている。

【0187】

このような事情においてステップ S 113 にて肯定判定をする場合というのは、設定確認用処理（ステップ S 112）、設定値更新処理（ステップ S 117）及び RAM クリア処理（ステップ S 119）を実行させない状況において遊技機本体 12 を意図的に開放状態とした状況で動作電力の供給を開始させた場合である。そして、このような状況においては天井カウンタ 131 に固定天井回数である 500 回の情報がセットされる。これにより、動作電力の供給開始時に天井カウンタ 131 に固定天井回数である 500 回の情報がセットされる状況を、通常の営業開始時とは異なる状況として発生させることが可能となるとともに、設定確認用処理（ステップ S 112）、設定値更新処理（ステップ S 117）及び RAM クリア処理（ステップ S 119）を伴うことなく発生させることが可能となる。

【0188】

ステップ S 113 にて否定判定をした場合又はステップ S 114 の処理を実行した場合、通常復帰コマンドを音光側 MPU 93 に送信する（ステップ S 115）。音光側 MPU 93 は通常復帰コマンドを受信することにより、主側 MPU 82 において動作電力の供給

開始時の処理（ステップS101～ステップS126）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）にてRAMクリア処理（ステップS119）、設定確認用処理（ステップS112）及び設定値更新処理（ステップS117）のいずれもが実行されていないことを特定する。

【0189】

一方、ステップS108にてリセットボタン142が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていると判定した場合（ステップS116：YES）、又はステップS107にて設定更新中フラグに「1」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップS117）。上記のようにリセットボタン142が押圧操作されている場合であって設定キー挿入部143がON操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作の有無に関係なく設定更新中フラグに「1」がセットされている場合にも設定値更新処理（ステップS117）が実行されることにより、設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理（ステップS117）が実行される。これにより、設定値更新処理（ステップS117）の実行を優先させることが可能となる。

【0190】

ここで、ステップS117にて実行される設定値更新処理について説明する。

【0191】

設定値更新処理ではまず割込み許可の設定を行う。これにより、タイマ割込み処理（図14）が所定周期で割り込んで起動される。本パチンコ機10においては動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）では基本的にタイマ割込み処理（図14）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（ステップS112）及び設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況においてタイマ割込み処理（図14）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（ステップS112）又は設定値更新処理（ステップS117）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているため、タイマ割込み処理（図14）が起動されたとしても当該タイマ割込み処理（図14）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該タイマ割込み処理（図14）が終了される。その後、主側RAM84の設定更新中フラグに「1」がセットされていないことを条件として、設定更新中フラグに「1」をセットする。設定更新中フラグに「1」がセットされることにより、パチンコ機10の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の更新対象として選択されている設定値の表示が報知用表示装置141にて行われる。

【0192】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグを「0」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS104：NO）、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップS105：NO）、又は設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップS106：NO）、メイン処理（図13）のステップS121にて「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図14）においてステップS201～ステップS205の処理を実行する一方、ステップS206にて肯定判定をすることでステップS207～ステップS220の処理を実行しない。これにより、上記のような主側RAM84の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。設定値更新処理にて遊技停止フラグを「0」クリアすることで、主側RAM84の情報異常の発生が特定

10

20

30

40

50

されている状態を設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が実行された場合に解除することが可能となる。

【 0 1 9 3 】

その後、主側 R A M 8 4 に設けられた設定更新用エリアに「1」を設定する。設定更新用エリアは設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリアに「1」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定1」となる。設定更新用エリアに「2」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定2」となる。設定更新用エリアに「3」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定3」となる。設定更新用エリアに「4」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定4」となる。設定更新用エリアに「5」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定5」となる。設定更新用エリアに「6」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定6」となる。その後、更新開始コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する。これにより、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置 4 1 にて表示されるように表示側 M P U 1 0 3 が表示制御される。

【 0 1 9 4 】

設定値更新処理では、リセットボタン 1 4 2 が押圧操作されていることを条件として、設定更新用エリアの値を 1 加算する。これにより、リセットボタン 1 4 2 が 1 回押圧操作される度に 1 段階上の設定値に更新される。また、1 加算後の設定更新用エリアの値が 7 以上である場合には、設定更新用エリアに「1」をセットする。これにより、「設定6」の状況でリセットボタン 1 4 2 が 1 回押圧操作された場合には「設定1」に戻るようになる。

【 0 1 9 5 】

設定値更新処理では、設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 状態から O F F 状態に切り換わったか否かを判定する。設定キー挿入部 1 4 3 が O N 状態から O F F 状態に切り換わったことを特定した場合、設定更新用エリアに格納された設定値の情報を設定参照用エリアに上書きする。これにより、今回の設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリアに設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機 1 0 の設定値となる。その後、割込み禁止の設定を行う。これにより、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）を終了してメイン処理（図 1 3）における動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 1 0 1 ～ステップ S 1 2 6）に復帰する場合にはタイマ割込み処理（図 1 4）の割込みが禁止される。

【 0 1 9 6 】

その後、R A M クリア処理を実行する。R A M クリア処理では、主側 R A M 8 4 においてパチンコ機 1 0 の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア）、天井カウンタ 1 3 1 及び主側 R A M 8 4 において役比を算出するための情報が記憶されたエリアを除いて、主側 R A M 8 4 を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部 3 8 a が変動表示されていない状況であって普電役物 3 4 a が閉鎖状態である状況となる。また、特図保留エリア 8 4 a 及び普図保留エリア 8 4 c も「0」クリアされるため、第 1 保留情報、第 2 保留情報及び普図側の保留情報が消去される。また、設定更新中フラグ、設定確認中フラグ及び設定更新用エリアを「0」クリアする。また、R A M クリア処理では主側 M P U 8 2 の各種レジスタも「0」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップ S 1 0 2 の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

【 0 1 9 7 】

ここで、設定値更新処理（ステップS 1 1 7）が実行されたとしても主側RAM 8 4の天井カウンタ1 3 1に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われず。これにより、設定値更新処理（ステップS 1 1 7）が実行されたとしても残りの天井回数を維持させることが可能となる。

【0 1 9 8】

その後、更新時の復帰コマンドを音光側MPU 9 3に送信する。これにより、図柄表示装置4 1における設定値更新処理（ステップS 1 1 7）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（ステップS 1 1 7）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示が終了される。

【0 1 9 9】

メイン処理（図1 3）の説明に戻り、ステップS 1 0 8にてリセットボタン1 4 2が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部1 4 3が設定キーを利用してON操作されていないと判定した場合（ステップS 1 1 6：NO）、主側RAM 8 4の遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS 1 1 8）。遊技停止フラグは、停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図1 4）においてステップS 2 0 1～ステップS 2 0 5の処理を実行する一方、ステップS 2 0 6にて肯定判定をすることでステップS 2 0 7～ステップS 2 2 0の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM 8 4の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進捗させるための処理が実行されないことになる。

【0 2 0 0】

遊技停止フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS 1 1 8：NO）、RAMクリア処理を実行する（ステップS 1 1 9）。RAMクリア処理では、主側RAM 8 4においてパチンコ機1 0の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア）、天井カウンタ1 3 1及び主側RAM 8 4において役比を算出するための情報が記憶されたエリアを除いて、主側RAM 8 4を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機1 0への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部3 8 aが変動表示されていない状況であって普電役物3 4 aが閉鎖状態である状況となる。また、特図保留エリア8 4 a及び普図保留エリア8 4 cも「0」クリアされるため、第1保留情報、第2保留情報及び普図側の保留情報が消去される。また、設定更新中フラグ及び設定確認中フラグを「0」クリアする。また、RAMクリア処理では主側MPU 8 2の各種レジスタも「0」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定では

【0 2 0 1】

ここで、RAMクリア処理（ステップS 1 1 9）が実行されたとしても主側RAM 8 4の天井カウンタ1 3 1に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われず。これにより、RAMクリア処理（ステップS 1 1 9）が実行されたとしても残りの天井回数を維持させることが可能となる。

【0 2 0 2】

その後、クリア時の復帰コマンドを音光側MPU 9 3に送信する（ステップS 1 2 0）。音光側MPU 9 3はクリア時の復帰コマンドを受信することにより、主側MPU 8 2において動作電力の供給開始時の処理（ステップS 1 0 1～ステップS 1 2 6）が終了した

ことを特定するとともに今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）にてRAMクリア処理（ステップS119）が実行されたことを特定する。

【0203】

メイン処理（図13）においてステップS104～ステップS106のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップS121）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図14）においてステップS201～ステップS205の処理を実行する一方、ステップS206にて肯定判定をすることでステップS207～ステップS220の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【0204】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップS122）。既に説明したとおり設定値更新処理（ステップS117）が実行されたが実行されたとしても主側RAM84の天井カウンタ131に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われない。したがって、主側RAM84の情報異常が発生した場合においてその情報異常による遊技停止状態を解除するために設定値更新処理（ステップS117）が実行されたとしても、天井カウンタ131の情報はそのまま維持される。これに対して主側RAM84の情報異常が発生していることが特定されて主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされる場合には、天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。これにより、主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報が書き換わっていたとしても、当該天井カウンタ131の情報を固定天井回数である500回の情報にセットしなおすことが可能となる。

【0205】

その後、リセットボタン142が押圧操作されているか否かを判定する（ステップS123）。リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップS123：NO）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS124）。音光側MPU93は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部64を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「設定変更をして下さい。」という音声出力させる。また、図柄表示装置41にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機10への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップS117）が実行されるまではパチンコ機10への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【0206】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップS125）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば100ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「1」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「0」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。

【0207】

リセットボタン142が押圧操作されている場合（ステップS123：YES）、設定

キー挿入部 143 が設定キーを利用して ON 操作されているか否かを判定する（ステップ S116）。リセットボタン 142 が押圧操作されているとともに設定キー挿入部 143 が設定キーを利用して ON 操作されている場合（ステップ S116 及びステップ S123：YES）、設定値更新処理を実行する（ステップ S117）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側 MPU82 への動作電力が供給された場合、主側 RAM84 について異常が発生していることでステップ S104～ステップ S106 のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（ステップ S117）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、設定値更新処理（ステップ S117）では既に説明したとおり遊技停止フラグを「0」クリアする。これにより、設定値更新処理（ステップ S117）が実行された場合には、設定値の更新が完了した後に、主側 RAM84 について異常が発生している状態を解消させることが可能となる。

10

【0208】

一方、リセットボタン 142 が押圧操作されているものの設定キー挿入部 143 が ON 操作されていない場合（ステップ S123：YES、ステップ S116：NO）、主側 RAM84 の遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S118）。ステップ S121 にて遊技停止フラグに「1」がセットされた後におけるステップ S118 の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「1」がセットされているため、ステップ S118 にて肯定判定をする。この場合、ステップ S124 にて音光側 MPU93 に異常コマンドを送信するとともにステップ S125 にて異常信号を外部出力する。

20

【0209】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップ S104～ステップ S106 のいずれかにて否定判定をした場合、「RAM クリア操作」が行われている状況で主側 MPU82 への動作電力の供給が開始されたとしても RAM クリア処理（ステップ S119）は実行されない。また、遊技停止フラグに「1」がセットされている状況であって「RAM クリア操作」が行われている状況で主側 MPU82 への動作電力の供給が開始された場合にも RAM クリア処理（ステップ S119）は実行されない。これにより、「RAM クリア操作」が行われている状況で主側 MPU82 への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「1」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（ステップ S117）が実行されるとともに当該設定値更新処理（ステップ S117）にて遊技停止フラグが「0」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（ステップ S117）を実行する必要が生じることとなる。よって、主側 RAM84 の情報異常の発生に際しては主側 RAM84 の一部のエリアを初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようになることが可能となる。

30

【0210】

遊技停止フラグに「1」がセットされている状況において主側 MPU82 への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「RAM クリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップ S109 又はステップ S118 にて肯定判定をすることで、ステップ S124 にて異常コマンドを送信するとともにステップ S125 にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップ S104～ステップ S106 の処理結果に関係なく、設定値更新処理（ステップ S117）が実行されない限り、主側 MPU82 への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機 10 における異常報知及びパチンコ機 10 の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

40

【0211】

50

ステップ S 1 1 2 の処理を実行した場合、ステップ S 1 1 5 の処理を実行した場合、ステップ S 1 1 7 の処理を実行した場合、ステップ S 1 2 0 の処理を実行した場合又はステップ S 1 2 5 の処理を実行した場合、主側 R A M 8 4 の立ち上げ処理中フラグを「0」クリアする（ステップ S 1 2 6）。立ち上げ処理中フラグが「0」クリアされることにより、タイマ割込み処理（図 1 4）が起動された場合にステップ S 2 0 6 にて否定判定をすることでステップ S 2 0 1 ～ステップ S 2 0 5 の処理だけではなくステップ S 2 0 7 ～ステップ S 2 2 0 の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップ S 1 2 6 では主側 R A M 8 4 の停電フラグも「0」クリアする。

【0212】

その後、ステップ S 1 2 7 ～ステップ S 1 3 0 の残余処理に進む。つまり、主側 M P U 8 2 はタイマ割込み処理（図 1 4）を定期的に行う構成であるが、1 のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間はタイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップ S 1 2 7 ～ステップ S 1 3 0 の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップ S 1 2 7 ～ステップ S 1 3 0 の残余処理は非定期的に行われる非定期処理であると言える。

【0213】

残余処理では、まずステップ S 1 2 7 にてタイマ割込み処理（図 1 4）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う。続くステップ S 1 2 8 では、乱数初期値カウンタ C I N I の更新を行う乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップ S 1 2 9 にて変動種別カウンタ C S の更新を行う変動用カウンタ更新処理を実行する。これらの更新処理では、主側 R A M 8 4 の対応するカウンタから現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を 1 加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「0」にクリアする。その後、ステップ S 1 3 0 にて、タイマ割込み処理（図 1 4）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定を行う。ステップ S 1 3 0 の処理を実行した場合、ステップ S 1 2 7 に戻り、ステップ S 1 2 7 ～ステップ S 1 3 0 の処理を繰り返す。

【0214】

<タイマ割込み処理>

次に、図 1 4 のフローチャートを参照しながらタイマ割込み処理を説明する。タイマ割込み処理は 4 m s e c の周期で繰り返し起動される。

【0215】

まず停電監視処理を実行する（ステップ S 2 0 1）。停電監視処理では、停電監視基板 8 5 から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、主側 R A M 8 4 の停電フラグに「1」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを保存する。

【0216】

その後、抽選用乱数更新処理を実行する（ステップ S 2 0 2）。抽選用乱数更新処理では、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び普電乱数カウンタ C 4 の更新を実行する。具体的には、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び普電乱数カウンタ C 4 から現状の数値情報を順次読み出し、それら読み出した数値情報をそれぞれ 1 加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「0」にクリアする。その後、ステップ S 2 0 3 ではメイン処理（図 1 3）のステップ S 1 2 8 と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップ S 2 0 4 にてメイン処理（図 1 3）のステップ S 1 2 9 と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する。

【0217】

その後、不正用の監視対象として設定されている所定の事象が発生しているか否かを監視する不正検知処理を実行する（ステップS205）。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、所定の事象が発生していることを確認することで、主側RAM84に設けられた遊技停止フラグに「1」をセットする。

【0218】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS206）。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップS206：YES）、ステップS207～ステップS220の処理を実行することなく本タイマ割込み処理を終了する。これにより、遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況においては、タイマ割込み処理（図14）にて停電監視、乱数更新及び不正監視を実行するようにしながら、ステップS207～ステップS220における遊技を進行させるための処理は実行されないようにすることが可能となる。

10

【0219】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS206：NO）、ステップS207～ステップS220における遊技を進行させるための処理を実行する。具体的には、まずポート出力処理を実行する（ステップS207）。ポート出力処理では、前回のタイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部32b、34bに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置32を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第2作動口34の普電役物34aを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。

20

【0220】

その後、読み込み処理を実行する（ステップS208）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。その後、入球検知処理を実行する（ステップS209）。当該入球検知処理では、各入賞検知センサ86a～86eから受信している信号を読み込むとともに、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びスルーゲート35への入球の有無を特定する処理を実行する。

30

【0221】

その後、主側RAM84に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新するためのタイマ更新処理を実行する（ステップS210）。この場合、記憶されている数値情報が減算されて更新されるタイマカウンタを集約して扱う構成であるが、減算式のタイマカウンタの更新及び加算式のタイマカウンタの更新の両方を集約して行う構成としてもよい。

【0222】

その後、遊技球の発射制御を行うための発射制御処理を実行する（ステップS211）。発射操作装置28に対して発射操作が継続されている状況では、既に説明したとおり、所定の発射周期となるように0.6秒に1個の遊技球が発射される。

40

【0223】

その後、入力状態監視処理として、ステップS208の読み込み処理にて読み込んだ情報に基づいて、各入賞検知センサ86a～86eの断線確認や、遊技機本体12及び前扉枠14の開放確認を行う（ステップS212）。

【0224】

その後、遊技回の実行制御及び開閉実行モードの実行制御を行うための特図特電制御処理を実行するとともに（ステップS213）、普図表示部38aの表示制御及び普電開放状態の実行制御を行うための普図普電制御処理を実行する（ステップS214）。これら

50

特図特電制御処理及び普図普電制御処理については後に詳細に説明する。

【0225】

続くステップS215では、直前のステップS213及びステップS214の処理結果に基づいて、第1保留情報の増減個数を第1特図保留表示部37cに反映させるための出力情報の設定、第2保留情報の増減個数を第2特図保留表示部37dに反映させるための出力情報の設定、及び普図側の保留情報の増減個数を普図保留表示部38bに反映させるための出力情報の設定を行う。また、ステップS215では、直前のステップS213及びステップS214の処理結果に基づいて、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部38aの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行う。

10

【0226】

その後、払出制御装置77から受信したコマンド及び信号の内容を確認し、その確認結果に対応した処理を行うための払出状態受信処理を実行する（ステップS216）。また、賞球コマンドを出力対象として設定するための払出出力処理を実行する（ステップS217）。また、今回のタイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップS218）。

【0227】

その後、設定監視処理を実行する（ステップS219）。設定監視処理では、主側RAM84の設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定することで、使用対象として設定されている設定値が「設定1」～「設定6」のいずれかであるか否かを判定する。設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「0」又は7以上である場合には使用対象として設定されている設定値が異常であることを意味するため、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする。これにより、設定値更新処理（ステップS117）にて使用対象の設定値の設定が新たに行われるまで遊技を進行させることができなくなる。その後、管理用処理を実行する（ステップS220）。管理用処理では役比を算出するための遊技履歴を記憶するための処理、その記憶された遊技履歴を利用して役比を算出するための処理、及びその算出された役比が報知用表示装置141にて表示されるようにするための処理を実行する。

20

【0228】

＜普図普電制御処理＞

次に、タイマ割込み処理（図14）のステップS214にて実行される普図普電制御処理について、図15のフローチャートを参照しながら説明する。

30

【0229】

スルーゲート35への入賞が発生している場合（ステップS301：YES）、普図保留エリア84cの第1エリア114a～第4エリア114dに記憶されている普図側の保留情報の数が上限個数である4個未満であることを条件として（ステップS302：NO）、普図保留エリア84cへの格納処理を実行する（ステップS303）。当該格納処理では、普電乱数カウンタC4の数値情報を普図側の保留情報として、普図保留エリア84cの第1エリア114a～第4エリア114dにおける普図側の保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、普図側の保留情報を取得した場合には、普図側の保留情報の個数が今回増加したことに合わせて普図保留表示部38bの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。

40

【0230】

ステップS301にて否定判定をした場合、ステップS302にて肯定判定をした場合又はステップS303の処理を実行した場合、主側ROM83に記憶されている普図普電アドレステーブルを読み出す（ステップS304）。普図普電アドレステーブルには、普図普電カウンタの数値情報に対応する処理を実行するためのプログラムの開始アドレスが設定されている。普図普電カウンタは、普図普電制御処理にて実行すべき処理内容を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

50

【0231】

普図普電カウンタは「0」～「3」の値を取り得るものであり「0」～「3」の各値は各処理（ステップS307～ステップS310）に対応している。具体的には、普図普電カウンタの値が「0」である場合には普図表示部38aにおける変動表示回を開始させるための処理である普図変動開始処理（ステップS307）が実行対象となり、普図普電カウンタの値が「1」である場合には普図表示部38aにおける変動表示回を進行させるための処理である普図変動中処理（ステップS308）が実行対象となり、普図普電カウンタの値が「2」である場合には普図表示部38aにおける変動表示回を終了させるための処理である普図確定中処理（ステップS309）が実行対象となり、普図普電カウンタの値が「3」である場合には第2作動口34における普電役物34aの普電開放状態を制御するための処理である普電制御処理（ステップS310）が実行対象となる。

10

【0232】

普図普電制御処理では、普図普電アドレステーブルを読み出した後は（ステップS304）、普図普電カウンタの情報に対応した開始アドレスを普図普電アドレステーブルから取得し（ステップS305）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップS306）。以下、ステップS307～ステップS310の各処理について個別に説明する。

【0233】

<普図変動開始処理>

まずステップS307の普図変動開始処理について、図16のフローチャートを参照しながら説明する。

20

【0234】

普図変動開始処理では、普図側の保留情報が普図保留エリア84cに記憶されていることを条件として（ステップS401：YES）、データ設定処理を実行する（ステップS402）。データ設定処理では、普図保留エリア84cの第1エリア114aに格納されたデータを普図用の実行エリア115に移動する。その後、普図保留エリア84cの記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア114a～114dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であり、具体的には、第2エリア114b→第1エリア114a、第3エリア114c→第2エリア114b、第4エリア114d→第3エリア114cといった具合に各エリア内のデータをシフトさせる。そして、第4エリア114dを「0」クリアする。また、データ設定処理では、普図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて普図保留表示部38bの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。

30

【0235】

その後、現状が開閉実行モードであるか否かを判定し（ステップS403）、開閉実行モードではない場合には主側RAM84に設けられた第1高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS404）。第1高頻度フラグは、サポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第1高頻度サポートモードへの移行が発生する場合に第1高頻度フラグに「1」がセットされ、当該第1高頻度サポートモードが終了する場合に第1高頻度フラグが「0」クリアされる。

40

【0236】

開閉実行モードである場合（ステップS403：YES）、主側ROM83から主側RAM84に普図側の低確率テーブルを読み出す（ステップS405）。また、開閉実行モードではないものの第1高頻度フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS404：NO）、つまりサポートモードが低頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、主側ROM83から主側RAM84に普図側の低確率テーブルを読み出す（ステップS405）。一方、開閉実行モードではなくさらに第1高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップS404：YES）、つまりサポートモードが第1高頻度サポートモードである場合、主側ROM83から主側RAM84に普図側の高確率

50

テーブルを読み出す（ステップS406）。普図側の低確率テーブル及び普図側の高確率テーブルのそれぞれには電役開放当選となる普電乱数カウンタC4の値が設定されている。この場合、普図側の高確率テーブルの方が普図側の低確率テーブルよりも電役開放当選となる普電乱数カウンタC4の値の数が多く設定されている。これにより、普図側の高確率テーブルが参照される場合の方が普図側の低確率テーブルが参照される場合よりも電役開放当選となる確率が高くなる。つまり、後述する普図当否判定処理（ステップS407）の判定モードとして電役開放当選となる確率が相対的に高低となるように普図側の高確率モードと普図側の低確率モードとが存在している。普図側の低確率テーブルは電役開放当選となる確率が $1/2$ となるように設定されており、普図側の高確率テーブルは電役開放当選となる確率が $4/5$ となるように設定されているが、普図側の高確率モードの方が普図側の低確率モードよりも電役開放当選となる確率が高いためこれら電役開放当選となる確率は任意である。

10

【0237】

ステップS405の処理又はステップS406の処理を実行した場合、普図当否判定処理を実行する（ステップS407）。普図当否判定処理ではステップS405又はステップS406にて読み出したテーブルに対して、今回の普図当否判定処理の実行対象となっている普図側の保留情報における普電乱数カウンタC4についての数値情報を照合する。

【0238】

普図当否判定処理の結果が電役開放当選である場合（ステップS408：YES）、普図当選結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS409）。具体的には、普図表示部38aにおける今回の変動表示回において最終的に停止表示させる普図当選結果用の絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83から主側RAM84に読み出す。なお、普図当選結果用の絵柄の停止態様として1種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよく、複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。

20

【0239】

普図当否判定処理の結果が電役開放当選ではない場合（ステップS408：NO）、普図外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS410）。具体的には、普図表示部38aに今回の表示継続回において最終的に停止表示させる普図外れ結果用の絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83から主側RAM84に読み出す。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、普図当選結果用の絵柄の停止態様の情報とは異なっている。

30

【0240】

ステップS409の処理又はステップS410の処理を実行した場合、現状が開閉実行モードであるか否かを判定し（ステップS411）、開閉実行モードではない場合には主側RAM84に設けられた第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS412）。第1高頻度フラグは既に説明したとおり、サポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第1高頻度サポートモードへの移行が発生する場合に第1高頻度フラグに「1」がセットされ、当該第1高頻度サポートモードが終了する場合に第1高頻度フラグが「0」クリアされる。第2高頻度フラグは、サポートモードが第2高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第2高頻度サポートモードへの移行が発生する場合に第2高頻度フラグに「1」がセットされ、当該第2高頻度サポートモードが終了する場合に第2高頻度フラグが「0」クリアされる。

40

【0241】

開閉実行モードである場合（ステップS411：YES）、今回の普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間として長期間である10秒に対応する情報を、主側RAM84に設けられた普図側タイマカウンタに設定する（ステップS413）。また、第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS412：NO）、つまりサポートモードが低頻度サポートモードである場合、今回の普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間として長期間である10秒に対応する情報を、

50

主側RAM84に設けられた普図側タイマカウンタに設定する（ステップS413）。普図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。これにより、開閉実行モードである場合又はサポートモードが低頻度サポートモードである場合には普図表示部38aにおける変動表示回が相対的に長い継続期間である長期間に亘って行われる。

【0242】

開閉実行モードではなくさらに第1高頻度フラグ又は第2高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップS412：YES）、つまりサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、今回の普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間として短期間である1秒に対応する情報を、主側RAM84の普図側タイマカウンタに設定する（ステップS414）。これにより、サポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合には普図表示部38aにおける変動表示回が相対的に短い継続期間である短期間に亘って行われる。

【0243】

その後、普図表示部38aにおける絵柄の変動表示を開始させる（ステップS415）。普図表示部38aにて絵柄の変動表示を行わせる場合に主側MPU82に参照されるテーブルとして、普図用の変動表示テーブルが主側ROM83に予め記憶されている。普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が実行される場合には、普図当否判定処理の結果に関係なく同一の変動表示テーブルが使用される。普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が行われる場合、所定のパターンによる絵柄の変動表示が繰り返されることとなるが、普図用の変動表示テーブルにはその所定のパターンによる絵柄の変動表示における1周分の制御データが設定されている。したがって、普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が行われる場合、確定表示を行う直前まで普図用の変動表示テーブルが繰り返し使用されることとなる。その後、普図普電カウンタの値を1加算する（ステップS416）。これにより、普図普電カウンタの値は普図変動中処理（ステップS308）に対応する「1」となる。

【0244】

＜普図変動中処理＞

次に、普図普電制御処理（図15）におけるステップS308の普図変動中処理について説明する。

【0245】

普図変動中処理では、普図表示部38aにおける絵柄の変動表示中であって確定表示前のタイミングであるか否かを判定する。具体的には、今回の変動表示回の継続期間を計測している普図側タイマカウンタの値が残り0.4秒となっている場合に確定表示前のタイミングであると判定する。確定表示前であれば、普図表示部38aにおける絵柄の表示態様を規則的に変化させるための処理を実行する。この規則的な変化は、確定表示を開始させるタイミングとなるまで継続される。また、この規則的な変化は、普図当否判定処理（ステップS407）の結果が電役開放当選となったか否かに関係なく一定の態様で行われる。また、確定表示させるタイミングとなった場合には、普図表示部38aにおける絵柄の表示態様を今回の普図当否判定処理の結果に対応した停止態様とする。この停止態様は普図変動開始処理（図16）のステップS409又はステップS410にて主側RAM84に読み出された情報に対応する停止態様である。そして、普図普電カウンタの値を1加算することで、当該カウンタの値を普図確定中処理に対応したものに更新する。

【0246】

＜普図確定中処理＞

次に、普図普電制御処理（図15）におけるステップS309の普図確定中処理について、図17のフローチャートを参照しながら説明する。

【0247】

今回の変動表示回の継続期間を計測している普図側タイマカウンタの値が「0」となっているか否かを判定することで、今回の変動表示回の確定表示期間（具体的には0.4秒

10

20

30

40

50

）が経過したか否かを判定する（ステップS501）。確定表示期間が経過している場合には（ステップS501：YES）、今回の変動表示回における普図当否判定処理の結果が電役開放当選であるか否かを判定する（ステップS502）。電役開放当選ではない場合（ステップS502：NO）、普図普電カウンタの値を「0」クリアした後に（ステップS503）、本普図確定中処理を終了する。これにより、普図普電カウンタの値が普図変動開始処理に対応したものとなる。

【0248】

電役開放当選である場合（ステップS502：YES）、現状が開閉実行モードであるか否かを判定し（ステップS504）、開閉実行モードではない場合には主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS505）。開閉実行モードである場合（ステップS504：YES）、ステップS506～ステップS508の処理を実行する。また、開閉実行モードではないものの第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS505：NO）、つまりサポートモードが低頻度サポートモードである場合、ステップS506～ステップS508の処理を実行する。

【0249】

ステップS506～ステップS508では、まず主側RAM84に設けられた普電開放カウンタに「1」をセットする（ステップS506）。また、主側RAM84に設けられた普電入賞カウンタに「10」をセットする（ステップS507）。また、主側RAM84の普図側タイマカウンタに普電側の短開放の継続期間である0.7秒に対応する情報をセットする（ステップS508）。普電開放カウンタは今回の普電開放状態において第2作動口34の普電役物34aを開放状態とする回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。普電入賞カウンタは今回の普電開放状態において第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個に到達したか否かを主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【0250】

ステップS506～ステップS508の処理が実行されることにより、低頻度サポートモードにおいて発生する普電開放状態の実行モードは低期待度モードとなる。つまり、低期待度モードの普電開放状態では、普電役物34aの短開放が1回発生する。既に説明したとおり遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの短開放が1回発生した場合には第2作動口34への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は1個程度である。

【0251】

開閉実行モードではなくさらに第1高頻度フラグ又は第2高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップS505：YES）、つまりサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、主側RAM84の普電開放カウンタに「3」をセットし（ステップS509）、主側RAM84の普電入賞カウンタに「10」をセットし（ステップS510）、主側RAM84の普図側タイマカウンタに普電側の長開放の継続期間である2秒に対応する情報をセットする（ステップS511）。ステップS509～ステップS511の処理が実行されることにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて発生する普電開放状態の実行モードは高期待度モードとなる。つまり、高期待度モードの普電開放状態では、普電役物34aの長開放が3回発生する。既に説明したとおり遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの長開放が1回発生した場合には第2作動口34に3個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では第2作動口34が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間を挟んで長開放が3回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には9個程度の遊技球が入球し得る。なお、普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終了する事象が発生し得る。

【0252】

ステップS507の処理又はステップS510の処理を実行した場合、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を開始することで第2作動口34の普電役物34aを開放状態とする（ステップS512）。その後、普図普電カウンタの値を1加算することで、当該カウンタの値を普電制御処理に対応したものに更新する（ステップS513）。

【0253】

＜普電制御処理＞

次に、普図普電制御処理（図15）におけるステップS310の普電制御処理について説明する。

【0254】

普電制御処理では、第2作動口34への入賞が発生している場合にその入賞個数に対応する値を主側RAM84の普電入賞カウンタの値から減算する。そして、普電入賞カウンタの値が「0」である場合には主側RAM84の普電開放カウンタの値を「0」クリアし、さらに普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を停止することで第2作動口34を閉鎖状態とする。そして、普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。

【0255】

第2作動口34への入賞が発生していない場合又は普電入賞カウンタの値が「0」ではない場合、主側RAM84の普図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定する。普図側タイマカウンタの値が「0」である場合には、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を停止することで第2作動口34を閉鎖状態とする。そして、主側RAM84の普電開放カウンタの値を1減算し、1減算後における普電開放カウンタの値が「0」であるか否かを判定する。1減算後における普電開放カウンタの値が1以上である場合、普電側のインターバル期間（具体的には1秒）に亘って第2作動口34を閉鎖状態に維持した後、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を再度行うことで第2作動口34を開放状態とする。また、主側RAM84の普図側タイマカウンタに普電側の長開放の継続期間である2秒に対応する情報をセットする。これにより、第2作動口34が再度開放状態となるとともに、当該開放状態の継続期間として普電側の長開放の継続期間である2秒が設定される。1減算後における普電開放カウンタの値が「0」である場合には普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。

【0256】

＜特図特電制御処理＞

次に、タイマ割込み処理（図14）のステップS213にて実行される特図特電制御処理について、図18のフローチャートを参照しながら説明する。

【0257】

まず保留情報の取得処理を実行する（ステップS601）。保留情報の取得処理では、図19のフローチャートに示すように、第1作動口33への入賞が発生しており（ステップS701：YES）、さらに第1特図保留エリア111に記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数未満である場合（ステップS702：YES）、第1保留情報を取得するための処理を実行する。

【0258】

第1保留情報を取得するための処理では、まず第1特図保留エリア111に記憶されている未処理の第1保留情報の数を主側MPU82にて把握するために主側RAM84に設けられた第1特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS703）。当該第1特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が調整される。これにより、第1特図保留表示部37cの表示内容が第1特図保留エリア111に格納されている第1保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第1特図保

10

20

30

40

50

留エリア111のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS703にて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS704）。その後、第1保留コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS705）。これにより、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aの表示内容が第1保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

【0259】

ステップS701にて否定判定をした場合、ステップS702にて否定判定をした場合又はステップS705の処理を実行した場合には、第2作動口34への入賞が発生しており（ステップS706：YES）、さらに第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として（ステップS707：YES）、第2保留情報を取得するための処理を実行する。

【0260】

第2保留情報を取得するための処理では、まず第2特図保留エリア112に記憶されている未処理の第2保留情報の数を主側MPU82にて把握するために主側RAM84に設けられた第2特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS708）。当該第2特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が調整される。これにより、第2特図保留表示部37dの表示内容が第2特図保留エリア112に格納されている第2保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第2特図保留エリア112のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS708にて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS709）。その後、第2保留コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS710）。これにより、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bの表示内容が第2保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

【0261】

特図特電制御処理（図18）の説明に戻り、ステップS601にて保留情報の取得処理を実行した後は、主側RAM84に設けられた特図特電カウンタの数値情報を読み出すとともに（ステップS602）、主側ROM83に設けられた特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップS603）。そして、特図特電アドレステーブルから特図特電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップS604）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップS605）。

【0262】

特図特電カウンタは、特図特電制御処理におけるステップS606～ステップS612の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側MPU82にて把握するためのカウンタであり、特図特電アドレステーブルには、特図特電カウンタの数値情報に対応させて、ステップS606～ステップS612の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されている。特図特電カウンタの値が「0」である場合にはステップS606の特図変動開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「1」である場合にはステップS607の特図変動中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「2」である場合にはステップS608の特図確定中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「3」である場合にはステップS609の特電開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「4」である場合にはステップS610の特電開放中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「5」である場合にはステップS611の特電閉鎖中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「6」である場合にはステップS612の特電終了処理にジャンプする。以下、ステップS606～ステップS612の各処理について個別に説明する。

【0263】

<特図変動開始処理>

まずステップS606の特図変動開始処理について、図20のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図変動開始処理は既に遊技回が実行されている状況及び開閉実行モードが実行されている状況においては実行されない。

【0264】

特図変動開始処理では、第2特図保留エリア112に第2保留情報が格納されておらず第1特図保留エリア111に第1保留情報が格納されている場合（ステップS801：YES、ステップS802：NO）、第1データ設定処理を実行する（ステップS803）。第1データ設定処理では、第1特図保留エリア111の第1エリア111aに格納されたデータを特図用の実行エリア113に移動させる。その後、第1特図保留エリア111の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア111a～111dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であり、具体的には、第2エリア111b→第1エリア111a、第3エリア111c→第2エリア111b、第4エリア111d→第3エリア111cといった具合に各エリア内のデータをシフトさせる。そして、第4エリア111dを「0」クリアする。その後、主側RAM84の第1特図保留カウンタの値を1減算する。これにより、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が、第1保留情報が1個減少した内容に変更される。また、当該データ設定処理では、第1特図保留エリア111における第1保留情報が1個減少したことを示す第1減少時コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aの表示内容が第1保留情報の減少に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

10

【0265】

一方、第2特図保留エリア112に第2保留情報が格納されている場合には（ステップS801及びステップS802：YES）、当該第2保留情報よりも先に取得された第1保留情報が第1特図保留エリア111に記憶されていたとしても、第2データ設定処理を実行する（ステップS804）。第2データ設定処理では、第2特図保留エリア112の第1エリア112aに格納されたデータを特図用の実行エリア113に移動させる。その後、第2特図保留エリア112の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア112a～112dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であり、具体的には、第2エリア112b→第1エリア112a、第3エリア112c→第2エリア112b、第4エリア112d→第3エリア112cといった具合に各エリア内のデータをシフトさせる。そして、第4エリア112dを「0」クリアする。その後、主側RAM84の第2特図保留カウンタの値を1減算する。これにより、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が、第2保留情報が1個減少した内容に変更される。また、当該データ設定処理では、第2特図保留エリア112における第2保留情報が1個減少したことを示す第2減少時コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bの表示内容が第2保留情報の減少に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

20

30

【0266】

上記のように第2保留情報が記憶されている場合には当該第2保留情報よりも先に取得された第1保留情報が記憶されていたとしても第2保留情報が特図用の実行エリア113へのシフト対象となる。これにより、第1保留情報よりも第2保留情報の方が、遊技回の開始対象として優先して消化されることとなる。

40

【0267】

ステップS803の処理又はステップS804の処理を実行した場合、当否判定処理を実行する（ステップS805）。当否判定処理では、当否抽選モードが低確率モードであって遊技回の開始対象が第1保留情報であれば低確率時の第1当否テーブル121（図9（a）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、当否抽選モードが低確率モードであって遊技回の開始対象が第2保留情報であれば低確率時の第2当否テーブル122（図9（b）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、当否抽選モードが高確率モードであれば遊技回の開始対象が第1保留情報及び第2保留情報のいずれであっても高確率時の当否テーブル123（図9（c）参照）を主側ROM83から主側R

50

AM84に読み出す。当否テーブル121～123を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、当否判定用の情報すなわち当たり乱数カウンタC1から取得した数値情報を読み出し、その読み出した数値情報が、上記読み出した当否テーブル121～123のうち現状の使用対象の設定値に対応するデータ群において、大当たり結果として設定されている数値情報のいずれかと一致しているか否かを判定する。また、大当たり結果として設定されている数値情報と一致していない場合には、上記当否判定用の情報が、上記読み出した当否テーブル121～123のうち現状の使用対象の設定値に対応するデータ群において、時短結果として設定されている数値情報のいずれかと一致しているか否かを判定する。

【0268】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップS806：YES）、大当たり用の振分判定処理を実行する（ステップS807）。大当たり用の振分判定処理では、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の大当たり振分テーブル125（図10（a）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の大当たり振分テーブル126（図10（b）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。大当たり振分テーブル125，126を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記大当たり振分テーブル125，126を参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の

【0269】

大当たり用の振分判定処理を実行した後は、当該大当たり用の振分判定処理にて特定した大当たり結果の種類に対応する主側RAM84のフラグに「1」をセットする（ステップS808）。その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS809）。具体的には、今回の遊技回の開始対象である特図表示部37a，37bに最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに停止表示される絵柄の停止態様の種類が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップS809では、ステップS808にて特定した大当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側RAM84に記憶する。なお、各大当たり結果に1対1で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の大当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている大当たり結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別乱数カウンタC2の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。

【0270】

当否判定処理の結果が大当たり結果ではなく時短結果である場合（ステップS806：NO、ステップS810：YES）、時短用の振分判定処理を実行する（ステップS811）。時短用の振分判定処理では、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の時短振分テーブル127（図10（c）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の時短振分テーブル128（図10（d）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。時短振分テーブル127，128を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記時短振分テーブル127，128を参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の時短結果に対応しているのかを特定する。

【0271】

時短用の振分判定処理を実行した後は、当該時短用の振分判定処理にて特定した時短結果の種類に対応する主側RAM84のフラグに「1」をセットする（ステップS812）。その後、時短結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS813）。具体的には

、今回の遊技回の開始対象である特図表示部 37 a , 37 b に最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側 ROM 83 に予め記憶されている時短結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側 RAM 84 に記憶する。この時短結果用の停止結果テーブルには、第 1 特図表示部 37 a 又は第 2 特図表示部 37 b に停止表示される絵柄の停止態様の種類が、時短結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップ S 813 では、ステップ S 812 にて特定した時短結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側 RAM 84 に記憶する。なお、各時短結果に 1 対 1 で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の時短結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている時短結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別乱数カウンタ C 2 の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。ステップ S 813 にて選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

10

【0272】

当否判定処理の結果が大当たり結果及び時短結果のいずれでもない場合（ステップ S 810：NO）、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップ S 814）。具体的には、今回の遊技回において第 1 特図表示部 37 a 又は第 2 特図表示部 37 b に最終的に停止表示させる絵柄の態様の情報を、主側 ROM 83 に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側 RAM 84 に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び時短結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっており、さらに第 1 特図表示部 37 a 及び第 2 特図表示部 37 b において共通の 1 種類となっている。

20

【0273】

ステップ S 809 の処理、ステップ S 813 の処理又はステップ S 814 の処理を実行した場合、変動表示期間の特定処理を実行する（ステップ S 815）。図 21 は変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【0274】

まず主側 RAM 84 の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 901）。高確率フラグは、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを主側 MPU 82 にて特定するためのフラグであり、高確率モードへの移行が発生する場合に高確率フラグに「1」がセットされ、当該高確率モードが終了する場合に高確率フラグが「0」クリアされる。高確率フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 901：YES）、つまり当否抽選モードが高確率モードである場合、高確率用のテーブル群を主側 ROM 83 から主側 RAM 84 に読み出す（ステップ S 902）。高確率用のテーブル群を参照してステップ S 908 にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタ C 3 に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタ C 5 の数値情報を高確率用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。リーチ表示態様の変動表示期間は複数種類存在しているが、いずれのリーチ表示態様の変動表示期間であってもリーチ表示が発生しない場合における変動表示期間よりも長い期間となる。

30

40

【0275】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第 2 保留情報が遊技回の実行対象であって第 2 特図保留エリア 112 に 2 個以上の第 2 保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には 3 秒）の情報を読み出す。これにより、高確率モードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第 2 保留情報が遊技回の実行対象であって第 2 特図保留エリア 112 に 2 個以上の第 2 保留情報が記

50

憶されている状況で開始された遊技回であれば、特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。

【0276】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。これにより、高確率モードにおいて第2保留情報が取得される状況を担保することが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。

10

【0277】

高確率モードにおいては当否判定処理（ステップS805）にて時短結果が選択されたとしてもそれが無効化される。この場合に、高確率用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択される場合には時短結果は外れ結果と同様の扱いとすることにより、無効化される時短結果の発生を目立たせないようにすることが可能となる。

【0278】

主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS901：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS903）。第1高頻度フラグ又は第2高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップS903：YES）、つまり当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、高頻度サポート用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す（ステップS904）。高頻度サポート用のテーブル群を参照してステップS908にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を高頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は高確率用のテーブル群が参照される場合と異なっており、具体的には高確率用のテーブル群が参照された場合の方が高頻度サポート用のテーブル群が参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。但し、この関係が逆であってもよい。

20

30

【0279】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。

40

【0280】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア1

50

12に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。これにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第2保留情報が取得される状況を担保することが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。

10

【0281】

低確率モードであって第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状況においては当否判定処理（ステップS805）にて時短結果が選択されたとしても、高頻度サポートモードの最後の遊技回ではない限り、それが無効化される。この場合に、高頻度サポート用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択される場合には時短結果は外れ結果と同様の扱いとすることにより、無効化される時短結果の発生を目立たせないようにすることが可能となる。また、高頻度サポートモードの最後の遊技回において時短結果が選択された場合には、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードが発生することとなるが、この場合であっても当該遊技回の変動表示期間はリーチ表示が発生しない外れ結果の場合と同様の変動表示期間が選択されることとなるため、遊技回の変動表示期間からは時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

20

【0282】

第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれにも「1」がセットされていない場合（ステップS903；NO）、つまり当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが低頻度サポートモードである場合、主側RAM84に設けられたリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS905）。リーチ高頻度状態フラグは、低確率モードであって低頻度サポートモードにおいて発生し得るリーチ高頻度状態であるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。リーチ高頻度状態は、低確率モードであって低頻度サポートモードである状況におけるリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れリーチ表示が発生する頻度が高くなる遊技状態である。

30

【0283】

リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされている場合（ステップS905：YES）、つまり低確率モード及び低頻度サポートモードでありさらにリーチ高頻度状態である場合、リーチ高頻度用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す（ステップS906）。リーチ高頻度用のテーブル群を参照してステップS908にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、後述する低頻度サポート用のテーブル群を参照してステップS908にて変動表示期間の選択処理が実行される状況よりも、当否判定処理の結果が外れ結果となった場合に実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応していると特定される確率が高くなる。

40

【0284】

今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報をリーチ高頻度用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は後述する低頻度サポート用のテーブル群が参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。また、この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様

50

は高確率用のテーブル群が参照される場合と同一となっているが、高確率用のテーブル群が参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易い構成としてもよく、高確率用のテーブル群が参照される場合よりも短い変動表示期間が選択され易い構成としてもよく、高頻度サポート用のテーブル群が参照される場合と同一となっている構成としてもよく、高頻度サポート用のテーブル群が参照される場合よりも短い変動表示期間が選択され易い構成としてもよい。

【0285】

今回の遊技回において時短結果が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報をリーチ高頻度用のテーブル群における時短結果対応のテーブルに対して照合することで、時短結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。当該時短結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの時短結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、リーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、時短結果対応の変動表示期間として10秒、11秒、12秒及び13秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

10

【0286】

今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に3個以上の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、低頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

20

【0287】

一方、今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に1個又は2個の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報をリーチ高頻度用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルに対して照合することで、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。当該完全外れ結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの完全外れ結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、時短結果対応の変動表示期間及びリーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、完全外れ結果対応の変動表示期間として5秒、6秒、7秒及び8秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

30

【0288】

リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS905：NO）、つまり低確率モードであって低頻度サポートモードでありさらにリーチ高頻度状態ではない場合、低頻度サポート用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す（ステップS907）。低頻度サポート用のテーブル群を参照してステップS908にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、既に説明したとおりリーチ高頻度用のテーブル群を参照してステップS908にて変動表示期間の選択処理が実行される状況よりも、当否判定処理の結果が外れ結果となった場合に実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応していると特定される確率が低くなる。

40

【0289】

今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表

50

示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は既に説明したとおりリーチ高頻度用のテーブル群が参照される場合よりも短い変動表示期間が選択され易くなっている。

【0290】

今回の遊技回において時短結果が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における時短結果対応のテーブルに対して照合することで、時短結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。当該時短結果対応の変動表示期間の情報の選択態様はリーチ高頻度用のテーブル群における時短結果対応のテーブルが参照される場合と同様である。つまり、時短結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの時短結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、リーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、時短結果対応の変動表示期間として10秒、11秒、12秒及び13秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

【0291】

今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に3個以上の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、低頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

【0292】

一方、今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に1個又は2個の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルに対して照合することで、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。当該完全外れ結果対応の変動表示期間の情報の選択態様はリーチ高頻度用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルが参照される場合と同様である。つまり、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの完全外れ結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、時短結果対応の変動表示期間及びリーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、完全外れ結果対応の変動表示期間として5秒、6秒、7秒及び8秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

【0293】

ステップS902の処理、ステップS904の処理、ステップS906の処理又はステップS907の処理を実行した場合、それらいずれかの処理にて読み出したテーブル群を参照して変動表示期間の選択処理を実行する（ステップS908）。当該選択処理の内容は既に説明したとおりである。そして、ステップS908にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84に設けられた特図側タイマカウンタにセットする（ステップS909）。特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。

【0294】

特図変動開始処理（図20）の説明に戻り、ステップS815にて変動表示期間の特定処理を実行した後は、今回の開始対象となっている遊技回に対応する変動用コマンド及び

10

20

30

40

50

種別コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS816）。変動用コマンドには、ステップS815にて特定された変動表示期間の情報が含まれるとともに開始対象となっている遊技回が第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうちいずれに対応しているのかを示す情報が含まれる。なお、変動用コマンドにはリーチ表示を実行するか否かの情報が含まれていないが、リーチ表示が発生する場合の変動表示期間はリーチ表示が発生しない場合の変動表示期間よりも長い期間として設定されているため、音光側MPU93は変動表示期間の情報からリーチ表示の発生の有無を特定することが可能となる。種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、大当たり結果に対応している場合にはいずれの種類の当たり結果であるかを示す情報が含まれる。また、種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が時短結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、時短結果に対応している場合にはいずれの種類の時短結果であるかを示す情報が含まれる。

10

【0295】

その後、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち今回の遊技回の開始対象となっている表示部において、絵柄の変動表示を開始させる（ステップS817）。そして、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS818）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップS607）に対応する「1」となる。

【0296】

なお、音光側MPU93は変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合、それらコマンドに対応した遊技回用演出の実行内容を決定するための処理を実行する。そして、その処理結果に対応するテーブルに従って表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。これにより、今回の遊技回の変動表示期間に亘って表示発光部64における発光演出、及びスピーカ部65における音出力演出が実行される。また、音光側MPU93は今回決定した遊技回用演出の実行内容に対応するコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103は当該コマンドを受信することにより、そのコマンドに対応するテーブルに従って図柄表示装置41の表示制御を実行する。これにより、今回の遊技回の変動表示期間に亘って図柄表示装置41における表示演出が実行される。

20

【0297】

<特図変動中処理>

次に、特図特電制御処理（図18）のステップS607にて実行される特図変動中処理について説明する。

30

【0298】

特図側タイマカウンタの値が1以上であり今回の遊技回の変動表示期間が経過していない場合であって、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部37a、37bの表示内容の更新タイミングである場合、当該特図表示部37a、37bの表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、制御対象の特図表示部37a、37bにおける絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。

【0299】

特図表示部37a、37bにおける絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定結果及び振分判定結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置41における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が1周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、変動表示期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部37a、37bを表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。

40

【0300】

一方、特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわち変動表示期間が経過している場合、最終停止コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、遊技回の開始時に特図変動開始処理（図20）におけるステップS809、ステップS813及びステッ

50

プ S 8 1 4 のいずれかにて主側 R A M 8 4 に記憶された特図表示部 3 7 a , 3 7 b の絵柄の停止態様の情報を読み出す。これにより、制御対象の特図表示部 3 7 a , 3 7 b において今回の遊技回の遊技結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。その後、特図側タイマカウンタに、最終停止期間（具体的には 0 . 5 s e c ）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。その後、特図特電カウンタの値を 1 加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特図確定中処理（ステップ S 6 0 8 ）に対応する「2」となる。

【 0 3 0 1 】

なお、音光側 M P U 9 3 は最終停止コマンドを受信した場合、それに対応したコマンドを表示側 M P U 1 0 3 に送信する。表示側 M P U 1 0 3 は当該コマンドを受信した場合、今回の遊技回の停止結果に対応する図柄の組合せを最終停止期間に亘って図柄表示装置 4 1 にて確定表示させる。

【 0 3 0 2 】

＜特図確定中処理＞

次に、特図特電制御処理（図 1 8 ）のステップ S 6 0 8 にて実行される特図確定中処理について、図 2 2 のフローチャートを参照しながら説明する。

【 0 3 0 3 】

特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップ S 1 0 0 1 : Y E S ）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップ S 1 0 0 2 : Y E S ）、オープニング期間に対応する情報（具体的には 5 秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップ S 1 0 0 3 ）、オープニングコマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S 1 0 0 4 ）。音光側 M P U 9 3 はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置 4 1 、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて行われるようにする。

【 0 3 0 4 】

その後、主側 R A M 8 4 の天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 5 0 0 回の情報をセットする（ステップ S 1 0 0 5 ）。つまり、大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 5 0 0 回の情報がセットされる。開閉実行モードが開始される場合ではなく、開閉実行モードの途中や開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数のセットが行われる構成の場合、開閉実行モードが開始された後に動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップ S 1 1 7 ）又は R A M クリア処理（ステップ S 1 1 9 ）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7 ）又は R A M クリア処理（ステップ S 1 1 9 ）では既に説明したとおり開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ 1 3 1 の値は維持されるため、その動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。これに対して、開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 5 0 0 回の情報がセットされることにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【 0 3 0 5 】

その後、主側 R A M 8 4 に設けられた変動選択状態カウンタ 1 3 2 に期間切換基準回数である 4 5 0 回の情報をセットする（ステップ S 1 0 0 6 ）。変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が 1 減算される契機は天井カウンタ 1 3 1 の値が 1 減算される契機と同一である。すなわち、当否抽選モードが高確率モードではない状況において遊技回が 1 回消化された場合に当該遊技回の終了時に変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が 1 減算される。そして、変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が 1 以上である状況において変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が 1 減算された結果、当該変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が「0」となった場合に主側 R A M 8 4 のリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされる。低確率モードであって低頻度サポートモードである状況においてリーチ高頻度状態フラグに「1」がセット

されている場合には既に説明したとおり変動表示期間の特定処理（図 2 1）にてリーチ高頻度用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択される。

【0306】

つまり、開閉実行モードが終了した後において低確率モードである状況で期間切換基準回数の遊技回が消化された場合、低頻度サポートモードであれば、リーチ高頻度用のテーブル群が参照されるリーチ高頻度状態となる。そして、リーチ高頻度状態においては既に説明したとおり低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。また、期間切換基準回数は固定天井回数よりも所定回数（具体的には50回）少ない回数である。したがって、天井時短の発生によって第2高頻度サポートモードが発生する前にリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。

10

【0307】

その後、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS1007）。これにより、特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップS609）に対応する「3」となる。

【0308】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS1002：NO）、ステップS1008にて時短状態カウンタ134（図6参照）の減算処理を実行し、ステップS1009にて変動選択状態カウンタ132の減算処理を実行し、ステップS1010にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS1011にて天井カウンタ131の減算処理を実行し、ステップS1012にて高確率状態カウンタ133（図6参照）の減算処理を実行する。これらステップS1008～ステップS1012の処理の内容は後に詳細に説明する。その後、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS1013）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS606）に対応する「0」となる。

20

【0309】

<特電開始処理>

次に、特図特電制御処理（図18）のステップS609にて実行される特電開始処理について説明する。

30

【0310】

特図側タイマカウンタの値が「0」であること、すなわちオープニング期間が経過していることを条件として、開閉回数の設定処理を実行する。この場合、今回の遊技結果が5R低確結果又は5R高確結果であれば主側RAM84に設けられたラウンドカウンタに「5」をセットし、今回の遊技結果が10R高確結果であれば主側RAM84のラウンドカウンタに「10」をセットする。ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおける残りのラウンド遊技の回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。また、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には29秒）を特図側タイマカウンタにセットする。また、主側RAM84に設けられた入賞カウンタに「10」をセットする。入賞カウンタは、入賞上限個数の残り個数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。また、特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置32を開放状態とする。その後、特図特電カウンタの値を1加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップS610）に対応する「4」となる。

40

【0311】

<特電開放中処理>

次に、特図特電制御処理（図18）のステップS610にて実行される特電開放中処理について説明する。

【0312】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわち開放継続期間が経過している場合、主側RAM84のラウンドカウンタの値を1減算するとともに特電用の駆動部32

50

bへの駆動信号の出力が停止されるようにすることで特電入賞装置32を閉鎖状態とする。また、特電入賞装置32への遊技球の入球が発生している場合には入賞カウンタの値を1減算し、1減算後における入賞カウンタの値が「0」である場合には主側RAM84のラウンドカウンタの値を1減算するとともに特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力が停止されるようにすることで特電入賞装置32を閉鎖状態とする。また、ラウンドカウンタの値を1減算した場合、その1減算後のラウンドカウンタの値が1以上であれば、インターバル期間の情報（具体的には3秒）を特図側タイマカウンタにセットした後に、特図特電カウンタの値を1加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電閉鎖中処理（ステップS611）に対応する「5」となる。一方、1減算後のラウンドカウンタの値が「0」であれば、エンディング期間の情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタに

10

【0313】

＜特電閉鎖中処理＞

次に、特図特電制御処理（図18）のステップS611にて実行される特電閉鎖中処理について説明する。

【0314】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちインターバル期間が経過している場合、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には29秒）を特図側タイマカウンタにセットする。また、主側RAM84の入賞カウンタに「10」をセットする。また、特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置32を開放状態とする。その後、特図特電カウンタの値を1減算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップS610）に対応する「4」となる。

20

【0315】

＜特電終了処理＞

次に、特図特電制御処理（図18）のステップS612にて実行される特電終了処理について、図23のフローチャートを参照しながら説明する。

30

【0316】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップS1101：YES）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R高確結果又は10R高確結果である場合には（ステップS1102：YES）、主側RAM84の高確率フラグに「1」をセットする（ステップS1103）。高確率フラグは既に説明したとおり当否抽選モードが高確率モードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。高確率フラグに「1」がセットされることで当否抽選モードが高確率モードとなる。

【0317】

その後、主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」をセットするとともに主側RAM84の第2高頻度フラグを「0」クリアする（ステップS1104）。第1高頻度フラグは既に説明したとおりサポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第2高頻度フラグは既に説明したとおりサポートモードが第2高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第1高頻度フラグに「1」がセットされ第2高頻度フラグが「0」クリアされることでサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる。

40

【0318】

その後、主側RAM84に設けられた高確率状態カウンタ133に高確率継続回数である「100」の情報をセットする（ステップS1105）。高確率状態カウンタ133は高確率モードの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。本

50

パチンコ機 10 では 5 R 高確結果又は 10 R 高確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで高確率モード及び第 1 高頻度サポートモードとなるが、当該高確率モード及び第 1 高頻度サポートモードである状況において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が高確率継続回数である 100 回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても低確率モード及び低頻度サポートモードとなる。

【0319】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が 5 R 低確結果である場合には（ステップ S 1102：NO）、主側 RAM 84 の高確率フラグを「0」クリアする（ステップ S 1106）。高確率フラグが「0」クリアされることで当否抽選モードが低確率モードとなる。その後、主側 RAM 84 の第 1 高頻度フラグに「1」をセットするとともに主側 RAM 84 の第 2 高頻度フラグを「0」クリアする（ステップ S 1107）。第 1 高頻度フラグに「1」がセットされ第 2 高頻度フラグが「0」クリアされることでサポートモードが第 1 高頻度サポートモードとなる。

10

【0320】

その後、主側 RAM 84 に設けられた時短状態カウンタ 134 に第 1 時短継続回数である「100」の情報をセットする（ステップ S 1108）。時短状態カウンタ 134 は低確率モードである状況における高頻度サポートモード（第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモード）の残りの継続回数を主側 MPU 82 にて特定するためのカウンタである。本パチンコ機 10 では 5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで低確率モード及び第 1 高頻度サポートモードとなる。低確率モード及び第 1 高頻度サポートモードである状況において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が第 1 時短継続回数となった場合には、大当たり結果が発生していなくても低確率モード及び低頻度サポートモードとなる。

20

【0321】

ステップ S 1105 の処理又はステップ S 1108 の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップ S 1019）。当該送信処理では、ステップ S 1102～ステップ S 1108 の処理によって決定されたパチンコ機 10 の状態に対応する状態指定コマンドが音光側 MPU 93 に送信されるようにする。音光側 MPU 93 は受信した状態指定コマンドの内容に対応する演出が図柄表示装置 41、表示発光部 64 及びスピーカ部 65 にて実行されるようにするための処理を実行する。その後、特図特電カウンタを「0」クリアする。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップ S 606）に対応する「0」となる。

30

【0322】

<高確率状態カウンタ 133 の減算処理>

次に、特図確定中処理（図 22）のステップ S 1012 にて実行される高確率状態カウンタ 133 の減算処理について、図 24 のフローチャートを参照しながら説明する。

【0323】

主側 RAM 84 の高確率フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 1201：YES）、すなわち当否抽選モードが高確率モードである場合、主側 RAM 84 の高確率状態カウンタ 133 の値を 1 減算する（ステップ S 1202）。そして、その 1 減算後における高確率状態カウンタ 133 の値が「0」である場合（ステップ S 1203：YES）、開閉実行モードの終了後における高確率モードであって第 1 高頻度サポートモードである状況で高確率継続回数である 100 回の遊技回が消化されたことを意味する。この場合、高確率フラグを「0」クリアするとともに（ステップ S 1204）、主側 RAM 84 の第 1 高頻度フラグを「0」クリアする（ステップ S 1205）。これにより、低確率モードであって低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップ S 1206）。当該送信処理では、高確率状態が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側 MPU 93 に送信されるようにする。音光側 MPU 93 は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置 41、表示発光部 64 及びスピーカ部 65 における高確率モードに対応する演出の実行を終了させて、通

40

50

常遊技状態に対応する演出を開始させる。

【0324】

＜時短結果用の設定処理＞

次に、特図確定中処理（図22）のステップS1010にて実行される時短結果用の設定処理について、図25のフローチャートを参照しながら説明する。

【0325】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップS1301：YES）、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS1302）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS1302：YES）、ステップS1303以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、当該時短結果を契機として第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【0326】

ここで、特図確定中処理（図22）においては既に説明したとおり高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に時短結果用の設定処理（図25）が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、時短結果用の設定処理（図25）が実行されることになる。そして、当該タイミングで時短結果用の設定処理（図25）が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定は行われない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、時短結果を確実に無効化させることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図22）において高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に時短結果用の設定処理（図25）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

【0327】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS1302：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグ又は第2高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS1303、ステップS1304）。つまり、サポートモードが第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのいずれかであるか否かを判定する。サポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合（ステップS1303又はステップS1304：YES）、ステップS1305以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、時短結果用の設定処理（図25）が実行されたタイミングにおいて第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合には、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。これにより、高頻度サポートモードの途中で当該高頻度サポートモードに移行させるための設定が追加で実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【0328】

サポートモードが低頻度サポートモードである場合（ステップS1303及びステップS1304：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットする（ステップS1305）。これにより、サポートモードが第2高頻度サポートモードとなる。そして、今回の時短結果が第1時短結果であれば（ステップS1306：YES）、主側RAM84に設けられた時短状態カウンタ134（図6参照）に第1時短継続回数である「100」の情報をセットし（ステップS1307）、今回の時短結果が第2時短結果であれ

ば（ステップS1306：NO）、時短状態カウンタ134に第2時短継続回数である「150」の情報をセットする（ステップS1308）。時短状態カウンタ134は低確率モードであって高頻度サポートモード（第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモード）である時短状態の残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。時短状態である状況において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が第1時短継続回数である100回又は第2時短継続回数である150回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても低確率モード及び低頻度サポートモードとなる。

【0329】

ステップS1307の処理又はステップS1308の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS1309）。当該送信処理では時短状態が開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。当該状態指定コマンドには今回設定された時短継続回数の情報も含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【0330】

上記のとおり当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても当該時短結果となった遊技回の終了時において時短結果用の設定処理（図25）が実行されるタイミングにおける状況に応じて、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われる場合と行われない場合とがある。この場合に、当否判定処理にて時短結果が選択された遊技回において特図表示部37a、37bに停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるか否かによって変化しないのに対して、図柄表示装置41に停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるか否かによって変化する。かかる内容について以下に詳細に説明する。図26は特図表示部37a、37bの停止結果及び図柄表示装置41の停止結果を説明するための説明図である。

【0331】

既に説明したとおり遊技回の当否判定処理（ステップS805）及び各種振分判定処理（ステップS807、ステップS811）により選択され得る遊技結果として、5R低確結果、5R高確結果、10R高確結果、第1時短結果、第2時短結果及び外れ結果が存在している。特図表示部37a、37bにおいて遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、5R低確結果の場合には「1」であり、5R高確結果の場合には「2」であり、10R高確結果の場合には「3」であり、第1時短結果の場合には「4」であり、第2時短結果の場合には「5」であり、外れ結果の場合には「-」である。これら停止結果はいずれの遊技状況であっても変化しない。したがって、遊技ホールの管理者は特図表示部37a、37bの停止結果を確認することで、遊技回の遊技結果を一義的に把握することが可能となる。

【0332】

図柄表示装置41において遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、大当たり結果である場合及び外れ結果である場合にはいずれの遊技状況であっても変化しないのに対して、時短結果である場合には遊技状況によって変化する。詳細には、5R低確結果の場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に同一の偶数図柄の組合せが停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。5R高確結果の場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に「7」図柄以外の同一の奇数図柄の組合せが停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。10R高確結果の場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に「7」図柄の組合せが停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。外れ結果の場合には図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び第2時短発生図柄

10

20

30

40

50

の組合せ（「３・４・１」）以外である外れ図柄の組合せが停止表示されるとともに状態示唆領域４３には赤色が停止表示される。

【０３３３】

第１時短結果の場合には低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態、又は低確率モード及び高頻度サポートモード（第１高頻度サポートモード又は第２高頻度サポートモード）である時短状態の最終遊技回である場合には図柄列Ｚ１～Ｚ３のいずれかの有効ラインＬ１～Ｌ５に第１時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）が停止表示されるとともに状態示唆領域４３には赤色が停止表示される。第２時短結果の場合には低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態、又は低確率モード及び高頻度サポートモード（第１高頻度サポートモード又は第２高頻度サポートモード）である時短状態の最終遊技回である場合には図柄列Ｚ１～Ｚ３のいずれかの有効ラインＬ１～Ｌ５に第２時短発生図柄の組合せ（「３・４・１」）が停止表示されるとともに状態示唆領域４３には赤色が停止表示される。なお、詳細は後述するが、時短状態の最終遊技回においては当該時短状態を終了させるための時短状態カウンタ１３４の減算処理（ステップＳ１００８）が実行された後に時短結果用の設定処理（図２５）が実行されるため、当該時短結果用の設定処理（図２５）が実行されるタイミングにおいては既に時短状態が終了して通常遊技状態となっている。

10

【０３３４】

図２７（ａ）は通常遊技状態又は時短状態の最終遊技回であって第１保留情報を契機とした遊技回において第１時短結果となった場合における第１特図表示部３７ａ及び図柄表示装置４１の停止結果を説明するための説明図である。図２７（ａ１）に示すように図柄表示装置４１の図柄列Ｚ１～Ｚ３には中ラインＬ２に第１時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）が停止表示されており、状態示唆領域４３には赤色が停止表示されている。また、図２７（ａ２）に示すように第１特図表示部３７ａには第１時短結果に対応する停止結果である「４」が停止表示されている。

20

【０３３５】

一方、高確率モード及び第１高頻度サポートモードである高確率状態、又は時短状態の最終遊技回以外の遊技回である場合、第１時短結果及び第２時短結果のいずれであっても図柄列Ｚ１～Ｚ３には各有効ラインＬ１～Ｌ５に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第１時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）、第２時短発生図柄の組合せ（「３・４・１」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域４３には第１時短結果の場合には青色が停止表示され第２時短結果の場合には緑色が停止表示される。

30

【０３３６】

図２７（ｂ）は高確率状態又は時短状態の最終遊技回以外の遊技回であって第２保留情報を契機とした遊技回において第１時短結果となった場合における第２特図表示部３７ｂ及び図柄表示装置４１の停止結果を説明するための説明図である。図２７（ｂ２）に示すように第２特図表示部３７ｂには第１時短結果に対応する停止結果である「４」が停止表示されている。一方、図２７（ｂ１）に示すように図柄表示装置４１の図柄列Ｚ１～Ｚ３には各有効ラインＬ１～Ｌ５に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されているとともに、状態示唆領域４３には青色が停止表示されている。

40

【０３３７】

第２高頻度サポートモードの設定の契機とならない時短結果（第１時短結果又は第２時短結果）である場合には、図柄列Ｚ１～Ｚ３の各有効ラインＬ１～Ｌ５に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。そして、当該非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

【０３３８】

図２７（ｃ）は第２保留情報を契機とした遊技回において当否判定処理の外れ結果となった場合における第２特図表示部３７ｂ及び図柄表示装置４１の停止結果を説明するための説明図である。図２７（ｃ２）に示すように第２特図表示部３７ｂには外れ結果に対応

50

する停止結果である「ー」が停止表示されている。また、図 27 (c 1) に示すように図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 には各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されているとともに、状態示唆領域 4 3 には赤色が停止表示されている。

【0339】

図柄表示装置 4 1 の表示面積は特図表示部 3 7 a , 3 7 b の表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置 4 1 は遊技領域 P A の略中央に配置されているのに対して特図表示部 3 7 a , 3 7 b は遊技領域 P A の隅角側に配置されているため、図柄表示装置 4 1 の方が特図表示部 3 7 a , 3 7 b よりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置 4 1 ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部 3 7 a , 3 7 b では既に説明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置 4 1 の方が特図表示部 3 7 a , 3 7 b よりも遊技者に注目される。このような事情において第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない時短結果（第 1 時短結果又は第 2 時短結果）である場合には図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

10

【0340】

第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない時短結果（第 1 時短結果又は第 2 時短結果）である場合、上記のように図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域 4 3 には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、図 27 (b) 及び図 27 (c) の場合であれば、第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 1 時短結果である場合には図 27 (b) に示すように状態示唆領域 4 3 に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には図 27 (c) に示すように状態示唆領域 4 3 に赤色が停止表示される。また、第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 2 時短結果である場合には状態示唆領域 4 3 に緑色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域 4 3 に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部 3 7 a , 3 7 b が視認しづらい状況において図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域 4 3 を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

20

30

【0341】

第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 1 時短結果である場合、及び第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 2 時間結果である場合のいずれであっても図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域 4 3 には第 1 時短結果である場合と第 2 時短結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 1 時短結果である場合には状態示唆領域 4 3 に青色が停止表示されるのに対して、第 2 高頻度サポートモードの設定の契機とならない第 2 時短結果である場合には状態示唆領域 4 3 に緑色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部 3 7 a , 3 7 b が視認しづらい状況において図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域 4 3 を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかだけでなく、時短結果である場合にはそれが第 1 時短結果及び第 2 時短結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

40

【0342】

上記のような図柄表示装置 4 1 における停止結果の表示を可能とする処理構成について説明する。図 28 は音光側 M P U 9 3 にて実行される変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側 M P U 8 2 から変動用コマンド

50

及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

【0343】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS1401：YES）、大当たり結果用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS1402）。大当たり結果用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、今回の大当たり結果の種類に対応する停止図柄の組合せを選択する。大当たり結果の種類と停止図柄の組合せとの関係は図26に示す通りである。また、大当たり結果用の停止図柄決定処理では、今回の大当たり結果の種類に対応する停止図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップS1403）。 10

【0344】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS1404：YES）、現状の遊技状態が高確率状態及び時短状態ではない場合（ステップS1405及びステップS1406：NO）、又は現状の遊技状態が時短状態であったとしても当該時短状態の最終遊技回である場合（ステップS1406及びステップS1407：YES）、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS1408）。なお、音光側MPU93は主側MPU82から受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態及び時短状態のいずれであるのかを特定可能であり、さらに時短状態の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって時短状態の最終遊技回であるか否かを特定可能である。 20

【0345】

時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、今回の時短結果の種類に対応する停止図柄の組合せを選択する。具体的には、第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、今回の時短結果の種類に対応する停止図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップS1409）。 30

【0346】

一方、今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS1404：YES）であって、現状の遊技状態が高確率状態である場合（ステップS1405：YES）、又は現状の遊技状態が時短状態であって当該時短状態の最終遊技回ではない場合（ステップS1406：YES、ステップS1407：NO）、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS1410）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、第2時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。 40

【0347】

その後、今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合には（ステップS1411：YES）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップS1412）。また、今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第2時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合には（ステップS1411：NO）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として緑色を選択する（ステップS1413）。 50

【0348】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が外れ結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS1404：NO）、外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS1414）。外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していることを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、外れリーチ図柄の組合せを抽選により決定するとともにその決定した外れリーチ図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していないことを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、第2時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップS1415）。

【0349】

ステップS1403、ステップS1409、ステップS1412、ステップS1413又はステップS1415の処理を実行した場合、パターン決定処理を実行する（ステップS1416）。パターン決定処理では、まず予告表示の実行の有無及び予告表示を実行する場合にはその種類を決定するための予告抽選処理を実行する。そして、当該予告抽選処理の結果、ステップS1401～ステップS1415にて決定した停止結果及び今回受信した変動用コマンドに含まれる変動表示期間の情報に対応する変動パターンを選択し、その選択した変動パターンに対応する変動パターンテーブルを音光側ROM94から音光側RAM95に読み出す。音光側MPU93はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部64及びスピーカ部65を制御することにより、これら表示発光部64及びスピーカ部65において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。

【0350】

その後、ステップS1416にて決定した変動パターンに対応する変動パターンコマンドを表示側MPU103に送信する（ステップS1417）。表示側MPU103はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側ROM104から表示側RAM105に読み出す。表示側MPU103はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置41を制御することにより、当該図柄表示装置41において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置41の状態示唆領域43に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図28）におけるステップS1401～ステップS1415にて決定された停止結果となる。

【0351】

＜天井カウンタ131の減算処理＞

次に、特図確定中処理（図22）のステップS1011にて実行される天井カウンタ131の減算処理について、図29のフローチャートを参照しながら説明する。

【0352】

まず主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS1501）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS1501：YES）、ステップS1502以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回においては天井カウンタ131の値の減算が実行されることはなく、さらに天井カウンタ131の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

【0353】

ここで、特図確定中処理（図22）においては既に説明したとおり高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に天井カウンタ131の減算処理（図29）が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最

10

20

30

40

50

後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、天井カウンタ131の減算処理（図29）が実行されることになる。そして、当該タイミングで天井カウンタ131の減算処理（図29）が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、天井カウンタ131の値の減算が実行されない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、天井カウンタ131の値の減算が実行されないようにすることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図22）において高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に天井カウンタ131の減算処理（図29）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

10

【0354】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS1501：NO）、天井カウンタ131の値が1以上であるか否かを判定する（ステップS1502）。天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS1502：NO）、ステップS1503以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。天井カウンタ131に情報をセットする処理は既に説明したとおり、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始された場合におけるステップS114、動作電力の供給が開始された場合に主側RAM84の情報異常が発生している場合におけるステップS122、並びに開閉実行モードが開始される場合におけるステップS1005のみであり、天井カウンタ131の値が「0」となった後においては上記いずれかの処理が実行されない限り天井カウンタ131の値は「0」に維持される。一方、天井時短は、天井カウンタ131の値が1以上である状況で当該天井カウンタ131の値が1減算されて当該天井カウンタ131の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、上記のとおり天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS1502：NO）、ステップS1503以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。これにより、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり天井時短を契機とした時短状態が発生し、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく時短継続回数の遊技回が消化されて時短状態が終了して通常遊技状態となった場合、その後大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても天井時短を契機とした時短状態は発生しない。よって、天井時短を契機とした時短状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

20

30

【0355】

天井カウンタ131の値が1以上である場合（ステップS1502：YES）、天井カウンタ131の値を1減算し（ステップS1503）、その1減算後における天井カウンタ131の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS1504）。天井カウンタ131の値が「0」である場合（ステップS1504：YES）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS1505：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットし（ステップS1506）、主側RAM84の時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である「100」の情報をセットする（ステップS1507）。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである時短状態となる。また、当該時短状態は大当たり結果が発生することなく実行された遊技回の回数が第1時短継続回数である100回となった場合に終了し、低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。

40

【0356】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS1508）。当該送信処理では時短状態が開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。当該状態指定コマンドには今回設定された第1時短継続回数の情報も含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、時短状態が開始される

50

ことを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。

【0357】

一方、1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となったとしても第 2 高頻度フラグに「1」がセットされている場合にはステップ S 1 5 0 6 ~ ステップ S 1 5 0 8 の処理が実行されないため、今回の天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定は行われることなく今回の天井時短は無効化される。つまり、時短状態である状況において固定天井回数の遊技回の消化が完了したとしても、当該天井時短を契機として第 2 高頻度サポートモードの設定が行われることなく天井時短は無効化される。これにより、高頻度サポートモードの途中で当該高頻度サポートモードに移行させるための設定が追加で実行されてしまわないようにすることが可能となる。なお、第 1 高頻度サポートモードは開閉実行モード後において 1 0 0 回の遊技回が消化されるまでの範囲でしか設定されないのに対して、開閉実行モードが開始される場合に 5 0 0 回の固定天井回数が設定される構成であるため、第 1 高頻度サポートモードである状況において 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となることはない。

10

【0358】

ステップ S 1 5 0 5 にて肯定判定をした場合又はステップ S 1 5 0 8 の処理を実行した場合、主側 R A M 8 4 のリーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする（ステップ S 1 5 0 9）。これにより、天井時短が発生した場合には当該天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なくリーチ高頻度状態が終了する。

20

【0359】

<時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理>

次に、特図確定中処理（図 2 2）のステップ S 1 0 0 8 にて実行される時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理について、図 3 0 のフローチャートを参照しながら説明する。

【0360】

まず主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 1 6 0 1）。高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップ S 1 6 0 1 : Y E S）、ステップ S 1 6 0 2 以降の処理を実行することなく本時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理を終了する。高確率状態においてはサポートモードが第 1 高頻度サポートモードとなるが、高確率状態の終了契機は既に説明したとおり高確率状態カウンタ 1 3 3 を利用して特定されるため、高確率フラグに「1」がセットされている場合には時短状態カウンタ 1 3 4 の値を減算するための処理は実行されない。

30

【0361】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合であって主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグ又は第 2 高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 1 6 0 2 : Y E S）、すなわち時短状態である場合、主側 R A M 8 4 の時短状態カウンタ 1 3 4 の値を 1 減算し（ステップ S 1 6 0 3）、その 1 減算後における時短状態カウンタ 1 3 4 の値が「0」である場合（ステップ S 1 6 0 4 : Y E S）、主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグ及び第 2 高頻度フラグの両方を「0」クリアする（ステップ S 1 6 0 5）。これにより、第 1 高頻度サポートモードであった場合には当該第 1 高頻度サポートモードが終了して低頻度サポートモードとなり、第 2 高頻度サポートモードであった場合には当該第 2 高頻度サポートモードが終了して低頻度サポートモードとなる。つまり、時短状態が終了して通常遊技状態となる。

40

【0362】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップ S 1 6 0 6）。当該送信処理では、時短状態が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信されるようにする。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 における時短状態に対応する演出の実行を終了させて、通常遊技状態に対応する演出を開始させる。

【0363】

50

ここで、特図確定中処理（図 2 2）においては既に説明したとおり、時短結果用の設定処理（図 2 5）よりも前に時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）が実行されるとともに、天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）よりも前に時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）が実行される。また、特図確定中処理（図 2 2）においては既に説明したとおり、天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）よりも前に時短結果用の設定処理（図 2 5）が実行される。このような処理の実行順序が設定されていることによる作用について図 3 1 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 3 1（a）は遊技回が実行されている期間を示し、図 3 1（b）は時短状態である期間を示し、図 3 1（c）は時短状態カウンタ 1 3 4 の減算（ステップ S 1 6 0 3）が実行されるタイミングを示し、図 3 1（d）は時短結果を契機とした時短状態の設定（ステップ S 1 3 0 5～ステップ S 1 3 0 8）が実行されるタイミングを示し、図 3 1（e）は天井カウンタ 1 3 1 の減算（ステップ S 1 5 0 3）が実行されるタイミングを示す。

10

【0 3 6 4】

まず時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となるとともに天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となる場合について説明する。

【0 3 6 5】

図 3 1（b）に示すように時短状態である状況において、t 1 のタイミングで図 3 1（a）に示すように遊技回が開始される。そして、当該遊技回の変動表示期間が経過することで、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b のうち遊技回の実行対象となった側において遊技結果に対応する停止結果が確定表示されるとともに図柄表示装置 4 1 において遊技結果に対応する停止結果が確定表示される。これら停止結果が確定表示された状態で最終停止期間が経過することで特図確定中処理（図 2 2）におけるステップ S 1 0 0 2 以降の処理が実行される。この場合、当該遊技回の遊技結果は大当たり結果ではないため特図確定中処理（図 2 2）のステップ S 1 0 0 2 にて否定判定をしてステップ S 1 0 0 8 以降の処理を実行する。

20

【0 3 6 6】

ステップ S 1 0 0 8 以降の処理ではまず時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）を実行する。今回は時短状態において実行された遊技回であるため、当該時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）を実行中のタイミングである t 2 のタイミングで図 3 1（c）に示すように時短状態カウンタ 1 3 4 の値を 1 減算する。そして、その 1 減算後における時短状態カウンタ 1 3 4 の値が「0」となることで主側 RAM 8 4 の第 1 高頻度フラグ及び第 2 高頻度フラグが「0」クリアされることにより、t 2 のタイミングで図 3 1（b）に示すように現状の時短状態が終了して低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。

30

【0 3 6 7】

その後、特図確定中処理（図 2 2）において時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）よりも処理の実行順序が後の順序に設定されている時短結果用の設定処理（図 2 5）を実行する。今回は当否判定処理において時短結果が選択されているため、時短結果用の設定処理（図 2 5）の実行中のタイミングである t 3 のタイミングで図 3 1（d）に示すように今回の時短結果を契機とした時短状態の設定が行われる。したがって、当該 t 3 のタイミングで図 3 1（b）に示すように遊技状態が低確率モード及び第 2 高頻度サポートモードである時短状態となる。また、今回の時短結果は第 2 時短結果であるため時短状態カウンタ 1 3 4 には第 2 時短継続回数である「1 5 0」の情報がセットされる。

40

【0 3 6 8】

その後、特図確定中処理（図 2 2）において時短結果用の設定処理（図 2 5）よりも処理の実行順序が後の順序に設定されている天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）を実行する。当該天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）の実行中のタイミングである t 4 のタイミングで図 3 1（e）に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が 1 減算されてその 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となる。つまり、天井時短が発生する。しかしながら、既に説明したとおり今回の遊技回における当否判定処理の結果が時短結果

50

であり、今回の遊技回における t_3 のタイミングで既に当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われている。したがって、今回発生した天井時短は無効化される。その後、 t_5 のタイミングで図31(a)に示すように今回の遊技回が終了する。

【0369】

以上のとおり特図確定中処理(図22)において時短状態カウンタ134の減算処理(図30)よりも処理の実行順序が後の順序に時短結果用の設定処理(図25)が設定されていることにより、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるようにすることが可能となる。これにより、時短状態の途中で時短状態の設定が新たに行われてしまわないようにすることで時短状態が過剰に継続してしまわないようにしながら、時短状態の最終遊技回における時短結果を契機とした時短状態の設定を有効なものとする。ことで、当否判定処理にて時短結果が選択されたことの利益が遊技者に極力付与されるようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

【0370】

上記のように時短状態の最終遊技回以外の遊技回においては当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回においては当否判定処理の結果が時短結果となった場合には当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるようにした構成において既に説明したとおり、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3では時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せを停止表示させ、時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合にはいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ(第1時短発生図柄の組合せ又は第2時短発生図柄の組合せ)を停止表示させる。これにより、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3における停止結果を、時短結果が時短状態の設定の契機となるか否かに対応する停止結果とすることが可能となる。

【0371】

特に、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合に停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せは、当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される図柄の組合せである。これにより、時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われないことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【0372】

上記のように時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われない場合に図柄列Z1～Z3では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成であったとしても、特図表示部37a, 37bでは時短結果に対応する絵柄が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第2高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく時短結果が発生したか否かを目視確認することが可能となる。

【0373】

上記のように時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われない場合に図柄列Z1～Z3では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成であったとしても、図柄表示装置41の状態示唆領域43では当否判定処理の結果が外れ結果の場合とは異なる停止結果が表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第2高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく時短結果が発生したか否かを目視確認することが可能となる。

【0374】

特図確定中処理（図 2 2）において天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）よりも処理の実行順序が前の順序に時短結果用の設定処理（図 2 5）が設定されていることにより、当否判定処理の結果が時短結果となった遊技回において 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となった場合、天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定よりも時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定を優先させることが可能となる。天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの時短継続回数は 1 0 0 回で固定であるのに対して、時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの時短継続回数は第 1 時短結果であれば 1 0 0 回であり第 2 時短結果であれば 1 5 0 回である。つまり、時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの時短継続回数は天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの時短継続回数以上の回数となっている。この場合に、上記のとおり天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定よりも時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が優先されることにより、当否判定処理の結果が時短結果となった遊技回において 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となった場合に時短継続回数の設定態様が遊技者にとって不利なものとならないようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

10

【0 3 7 5】

次に、時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が外れ結果となるとともに天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となる場合について説明する。

【0 3 7 6】

20

図 3 1（b）に示すように時短状態である状況において、t 6 のタイミングで図 3 1（a）に示すように遊技回が開始される。そして、当該遊技回の変動表示期間が経過することで、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b のうち遊技回の実行対象となった側において遊技結果に対応する停止結果が確定表示されるとともに図柄表示装置 4 1 において遊技結果に対応する停止結果が確定表示される。これら停止結果が確定表示された状態で最終停止期間が経過することで特図確定中処理（図 2 2）におけるステップ S 1 0 0 2 以降の処理が実行される。この場合、当該遊技回の遊技結果は大当たり結果ではないため特図確定中処理（図 2 2）のステップ S 1 0 0 2 にて否定判定をしてステップ S 1 0 0 8 以降の処理を実行する。

【0 3 7 7】

30

ステップ S 1 0 0 8 以降の処理ではまず時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）を実行する。今回は時短状態において実行された遊技回であるため、当該時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）を実行中のタイミングである t 7 のタイミングで図 3 1（c）に示すように時短状態カウンタ 1 3 4 の値を 1 減算する。そして、その 1 減算後における時短状態カウンタ 1 3 4 の値が「0」となることで主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグ及び第 2 高頻度フラグが「0」クリアされることにより、t 7 のタイミングで図 3 1（b）に示すように時短状態が終了して低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。その後、特図確定中処理（図 2 2）において時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）よりも処理の実行順序が後の順序に設定されている時短結果用の設定処理（図 2 5）を実行するが、今回の遊技回では当否判定処理の結果が外れ結果であるため当該設定処理にて時短状態の設定は行われない。

40

【0 3 7 8】

その後、特図確定中処理（図 2 2）において時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0）よりも処理の実行順序が後の順序に設定されている天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）を実行する。当該天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 2 9）の実行中のタイミングである t 8 のタイミングで図 3 1（e）に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が 1 減算されてその 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となる。つまり、天井時短が発生する。そして、当該天井時短の発生を契機とした時短状態の設定が行われることで、当該 t 8 のタイミングで図 3 1（b）に示すように遊技状態が低確率モード及び第 2 高頻度サポートモードである時短状態となる。また、天井時短を契機としているため時短状

50

態カウンタ134には第1時短継続回数である「100」の情報がセットされる。その後、t9のタイミングで図31(a)に示すように今回の遊技回が終了する。

【0379】

以上のとおり特図確定中処理(図22)において時短状態カウンタ134の減算処理(図30)よりも処理の実行順序が後の順序に天井カウンタ131の減算処理(図29)が設定されていることにより、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となったとしても当該天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合には当該天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるようにすることが可能となる。これにより、時短状態の途中で時短状態の設定が新たに行われてしまわないようにすることで時短状態が過剰に継続してしまわないようにしながら、時短状態の最終遊技回における天井時短の発生を契機とした時短状態の設定を有効なものとするすることで、天井時短が発生したことの利益が遊技者に極力付与されるようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

【0380】

<変動選択状態カウンタ132の減算処理>

次に、特図確定中処理(図22)のステップS1009にて実行される変動選択状態カウンタ132の減算処理について、図32のフローチャートを参照しながら説明する。

【0381】

まず主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS1701)。高確率フラグに「1」がセットされている場合には(ステップS1701:YES)、ステップS1702以降の処理を実行することなく本変動選択状態カウンタ132の減算処理を終了する。

【0382】

既に説明したとおり開閉実行モードが終了した後において低確率モードである状況で期間切換基準回数の遊技回が消化された場合、低頻度サポートモードであれば、リーチ高頻度用のテーブル群が参照されるリーチ高頻度状態となる。そして、リーチ高頻度状態においては既に説明したとおり低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。また、期間切換基準回数は固定天井回数よりも所定回数(具体的には50回)少ない回数である。したがって、天井時短の発生によって第2高頻度サポートモードが発生する前にリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。変動選択状態カウンタ132は残りの期間切換基準回数の遊技回を計測するためのカウンタである。この場合に、既に説明したとおり高確率状態においては天井カウンタ131の値が減算されることはなく、高確率状態において天井時短は発生しない。したがって、高確率フラグに「1」がセットされている場合には変動選択状態カウンタ132の値を減算するための処理は実行されない。

【0383】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合(ステップS1701:NO)、変動選択状態カウンタ132の値が1以上であるか否かを判定する(ステップS1702)。変動選択状態カウンタ132の値が「0」である場合には(ステップS1702:NO)、ステップS1703以降の処理を実行することなく本変動選択状態カウンタ132の減算処理を終了する。変動選択状態カウンタ132に情報をセットする処理は既に説明したとおり開閉実行モードが開始される場合におけるステップS1006のみであり、変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった後においてはステップS1006の処理が実行されない限り変動選択状態カウンタ132の値は「0」に維持される。一方、リーチ高頻度状態は、変動選択状態カウンタ132の値が1以上である状況で当該変動選択状態カ

ウンタ132の値が1減算されて当該変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、上記のとおり変動選択状態カウンタ132の値が「0」である場合には（ステップS1702：NO）、ステップS1703以降の処理を実行することなく本変動選択状態カウンタ132の減算処理を終了する。これにより、1減算後における変動選択状態カウンタ132の値が「0」となりリーチ高頻度状態が発生し、当該リーチ高頻度状態が終了した場合、その後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしてもリーチ高頻度状態は発生しない。これにより、リーチ高頻度状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0384】

また、既に説明したとおり期間切換基準回数は固定天井回数よりも所定回数（具体的には50回）少ない回数に設定されているため、天井時短の発生によって第2高頻度サポートモードが発生する前にリーチ高頻度状態が発生することとなるが、天井時短も1度発生した場合にはその後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても発生しない。この場合に、上記のとおりリーチ高頻度状態が終了した場合にはその後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしてもリーチ高頻度状態が発生しないようにすることにより、天井時短が発生しない状況においてリーチ高頻度状態が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0385】

変動選択状態カウンタ132の値が1以上である場合（ステップS1702：YES）、変動選択状態カウンタ132の値を1減算し（ステップS1703）、その1減算後における変動選択状態カウンタ132の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS1704）。変動選択状態カウンタ132の値が「0」である場合（ステップS1704：YES）、主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグに「1」をセットする（ステップS1705）。

【0386】

リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされた状態は天井カウンタ131の減算処理（図29）にて1減算されることで天井カウンタ131の値が「0」となり、ステップS1509におけるリーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする処理が実行されることにより解除される。つまり、リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされた状態は、天井時短が発生した場合に当該天井時短を契機とした時短状態の設定が行われるか否かに関係なく解除される。

【0387】

ここで、ステップS1705の処理は時短状態であっても実行される。これに対して、変動表示期間の特定処理（図21）では主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定するステップS905の処理よりも前に、主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定するステップS903の処理が実行されるため、リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされていたとしても遊技回の変動表示期間の選択に際しては時短状態における変動表示期間の選択態様の方がリーチ高頻度状態における変動表示期間の選択態様よりも優先される。これにより、時短状態において遊技回の消化効率が高くなっている状況が、リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされることによって阻害されてしまわないようにすることが可能となる。

【0388】

その一方、時短状態であってもリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされるとともにリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされた状態は維持される。したがって、リーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする契機が発生する前に時短状態が終了した場合にはその時点からリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。

【0389】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS1706）。当該送信処理ではリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされたことを示す状態指定コマンドが音

10

20

30

40

50

光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、時短状態ではないことを条件として、リーチ高頻度状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、音光側MPU93は時短状態において上記状態指定コマンドを受信した場合、期間切換基準回数の遊技回が消化される前に時短状態が終了した場合にはリーチ高頻度状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【0390】

次に、リーチ高頻度状態と天井時短を契機とした時短状態との実行タイミングの関係について図33のタイムチャートを参照しながら説明する。図33(a)は開閉実行モードである期間を示し、図33(b)は高確率状態(高確率モード及び第1高頻度サポートモード)である期間を示し、図33(c)は時短状態(低確率モードであって第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモード)である期間を示し、図33(d)は変動選択状態カウンタ132の状態を示し、図33(e)はリーチ高頻度状態である期間を示し、図33(f)は天井カウンタ131の状態を示す。

10

【0391】

まず変動選択状態カウンタ132の値が「0」となったタイミングでリーチ高頻度状態となる場合を説明する。

【0392】

5R高確結果となる遊技回がt1のタイミングで終了することで、図33(a)に示すようにt1のタイミングで開閉実行モードが開始される。この場合、当該t1のタイミングで、図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132に期間切換基準回数である450回の情報がセットされるとともに、図33(f)に示すように天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。

20

【0393】

その後、t2のタイミングで図33(a)に示すように開閉実行モードが終了することで、図33(b)に示すように高確率モード及び第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。当該高確率状態において遊技回が繰り返し実行されるが、高確率状態においては遊技回が繰り返し実行されたとしても図33(f)に示すように天井カウンタ131の値が減算されることはなく図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132の値が減算されることはない。

30

【0394】

その後、t3のタイミングで高確率状態における高確率継続回数の遊技回の消化が完了することで、図33(b)に示すように高確率状態が終了して、低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。当該通常遊技状態となることで遊技回が消化される度に、図33(f)に示すように天井カウンタ131の値が減算されるとともに図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132の値が減算される。

【0395】

その後、t4のタイミングで当否判定処理にて時短結果が選択されることで、図33(c)に示すように時短状態が開始される。時短状態においては遊技回が消化される度に、図33(f)に示すように天井カウンタ131の値が減算されるとともに図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132の値が減算される。

40

【0396】

その後、t5のタイミングで時短継続回数の遊技回の消化が完了することで、図33(c)に示すように時短状態が終了して通常遊技状態となる。通常遊技状態においては遊技回が消化される度に、図33(f)に示すように天井カウンタ131の値が減算されるとともに図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132の値が減算される。

【0397】

その後、t6のタイミングで図33(d)に示すように変動選択状態カウンタ132の値が「0」となる。当該t6のタイミングでは図33(c)に示すように時短状態ではな

50

い。したがって、当該 t 6 のタイミングで図 3 3 (e) に示すようにリーチ高頻度状態となる。リーチ高頻度状態においては既に説明したとおり通常遊技状態であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も通常遊技状態であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。

【 0 3 9 8 】

その後、リーチ高頻度状態である t 7 のタイミングで図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が「 0 」となる。当該 t 7 のタイミングでは図 3 3 (c) に示すように時短状態ではない。したがって、当該 t 7 のタイミングで図 3 3 (c) に示すように時短状態となる。また、当該 t 7 のタイミングで図 3 3 (e) に示すようにリーチ高頻度状態が終了する。時短状態では遊技回の変動表示期間として短い期間が選択され易くなるため遊技回の消化効率が高くなる。

10

【 0 3 9 9 】

その後、 t 8 のタイミングで時短継続回数の遊技回の消化が完了することで、図 3 3 (c) に示すように時短状態が終了して通常遊技状態となる。この場合、当該 t 8 のタイミングで図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 への値の再セットは行われることなく当該天井カウンタ 1 3 1 の値は「 0 」に維持される。また、当該 t 8 のタイミングで図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 への値の再セットは行われることなく当該変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値は「 0 」に維持される。

【 0 4 0 0 】

20

次に、変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が「 0 」となったタイミングで時短状態であることによりリーチ高頻度状態の設定が遅延される場合について説明する。

【 0 4 0 1 】

5 R 低確結果となる遊技回が t 9 のタイミングで終了することで、図 3 3 (a) に示すように t 9 のタイミングで開閉実行モードが開始される。この場合、当該 t 9 のタイミングで、図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 に期間切換基準回数である 4 5 0 回の情報がセットされるとともに、図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 5 0 0 回の情報がセットされる。

【 0 4 0 2 】

その後、 t 1 0 のタイミングで図 3 3 (a) に示すように開閉実行モードが終了することで、図 3 3 (c) に示すように低確率モード及び第 1 高頻度サポートモードである時短状態となる。時短状態においては遊技回が消化される度に、図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が減算されるとともに図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が減算される。

30

【 0 4 0 3 】

その後、 t 1 1 のタイミングで時短継続回数の遊技回の消化が完了することで、図 3 3 (c) に示すように時短状態が終了して通常遊技状態となる。通常遊技状態においては遊技回が消化される度に、図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が減算されるとともに図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が減算される。

【 0 4 0 4 】

40

その後、 t 1 2 のタイミングで当否判定処理にて時短結果が選択されることで、図 3 3 (c) に示すように時短状態が開始される。時短状態においては遊技回が消化される度に、図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が減算されるとともに図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が減算される。

【 0 4 0 5 】

その後、時短状態である t 1 3 のタイミングで図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値が「 0 」となる。当該 t 1 3 のタイミングでは図 3 3 (c) に示すように時短状態である。したがって、当該 t 1 3 のタイミングでは図 3 3 (e) に示すようにリーチ高頻度状態とならない。但し、主側 R A M 8 4 のリーチ高頻度状態フラグに「 1 」がセットされるとともに、リーチ高頻度状態フラグに「 1 」がセットされた状態が維持

50

される。この場合、時短状態が継続され、時短状態においては遊技回が消化される度に図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が減算される。

【 0 4 0 6 】

その後、 t 1 4 のタイミングで時短継続回数の遊技回の消化が完了することで、図 3 3 (c) に示すように時短状態が終了して通常遊技状態となる。但し、主側 R A M 8 4 のリーチ高頻度状態フラグに「 1 」がセットされているため、当該 t 1 4 のタイミングで図 3 3 (e) に示すようにリーチ高頻度状態となる。リーチ高頻度状態においては既に説明したとおり通常遊技状態であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も通常遊技状態であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。

10

【 0 4 0 7 】

その後、リーチ高頻度状態である t 1 5 のタイミングで図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 の値が「 0 」となる。当該 t 1 5 のタイミングでは図 3 3 (c) に示すように時短状態ではない。したがって、当該 t 1 5 のタイミングで図 3 3 (c) に示すように時短状態となる。また、当該 t 1 5 のタイミングで図 3 3 (e) に示すようにリーチ高頻度状態が終了する。時短状態では遊技回の変動表示期間として短い期間が選択され易くなるため遊技回の消化効率が高くなる。

【 0 4 0 8 】

その後、 t 1 6 のタイミングで時短継続回数の遊技回の消化が完了することで、図 3 3 (c) に示すように時短状態が終了して通常遊技状態となる。この場合、当該 t 1 6 のタイミングで図 3 3 (f) に示すように天井カウンタ 1 3 1 への値の再セットは行われることなく当該天井カウンタ 1 3 1 の値は「 0 」に維持される。また、当該 t 1 6 のタイミングで図 3 3 (d) に示すように変動選択状態カウンタ 1 3 2 への値の再セットは行われることなく当該変動選択状態カウンタ 1 3 2 の値は「 0 」に維持される。

20

【 0 4 0 9 】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【 0 4 1 0 】

時短状態（最終遊技回を除く）において時短結果又は天井時短が発生したとしても、これら時短結果又は天井時短を契機とした時短状態の設定は行われない。これにより、時短状態の途中で時短状態の設定が新たに行われてしまわないようにすることが可能となり、時短状態が過剰に継続してしまわないようにすることが可能となる。

30

【 0 4 1 1 】

特図確定中処理（図 2 2 ）において時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理（図 3 0 ）よりも処理の実行順序が後の順序に時短結果用の設定処理（図 2 5 ）が設定されていることにより、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われるようにすることが可能となる。これにより、時短状態の途中で時短状態の設定が新たに行われてしまわないようにすることで時短状態が過剰に継続してしまわないようにしながら、時短状態の最終遊技回における時短結果を契機とした時短状態の設定を有効なものとするすることで、当否判定処理にて時短結果が選択されたことの利益が遊技者に極力付与されるようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

40

【 0 4 1 2 】

時短状態の最終遊技回以外の遊技回においては当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回においては当否判定処理の結果が時短結果となった場合には当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われるようにした構

50

成において、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 では時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せを停止表示させ、時短状態の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合にはいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 に時短発生図柄の組合せ（第 1 時短発生図柄の組合せ又は第 2 時短発生図柄の組合せ）を停止表示させる。これにより、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 における停止結果を、時短結果が時短状態の設定の契機となるか否かに対応する停止結果とすることが可能となる。

【0413】

特に、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合に停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せは、当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される図柄の組合せである。これにより、時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われないことを遊技者が認識しづらくさせることが可能となる。

10

【0414】

時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われない場合に図柄列 Z 1 ~ Z 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成であったとしても、特図表示部 3 7 a , 3 7 b では時短結果に対応する絵柄が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第 2 高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく時短結果が発生したか否かを目視確認することが可能となる。

20

【0415】

時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われない場合に図柄列 Z 1 ~ Z 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成であったとしても、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合とは異なる停止結果が表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第 2 高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく時短結果が発生したか否かを目視確認することが可能となる。

【0416】

時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われない場合、時短結果が第 1 時短結果及び第 2 時短結果のいずれであったとしても図柄列 Z 1 ~ Z 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される。これにより、時短結果となったことが無効化されたことだけではなく、相対的に有利な第 2 時短結果が発生したことが無効化されたことも目立たせないようにすることが可能となる。

30

【0417】

時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われない場合、時短結果が第 1 時短結果及び第 2 時短結果のいずれであったとしても図柄列 Z 1 ~ Z 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成において、特図表示部 3 7 a , 3 7 b では第 1 時短結果及び第 2 時短結果のそれぞれに対応する絵柄が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第 2 高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく第 1 時短結果及び第 2 時短結果のそれぞれが発生したか否かを目視確認することが可能となる。

40

【0418】

時短結果となったものの当該時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードの設定が行われない場合、時短結果が第 1 時短結果及び第 2 時短結果のいずれであったとしても図柄列 Z 1 ~ Z 3 では当否判定処理の結果が外れ結果の場合に停止表示される停止結果が表示される構成において、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 では第 1 時短結果及び第 2 時短結果のそれぞれに対応する停止結果が表示される。これにより、遊技ホールの管理者は第 2 高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なく第 1 時短結果及び第 2 時短結果のそれぞれが発生したか否かを目視確認することが可能となる。

50

【0419】

特図確定中処理（図22）において時短状態カウンタ134の減算処理（図30）よりも処理の実行順序が後の順序に天井カウンタ131の減算処理（図29）が設定されていることにより、時短状態の最終遊技回以外の遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となったとしても当該天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われないようにしながら、時短状態の最終遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合には当該天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われるようにすることが可能となる。これにより、時短状態の途中で時短状態の設定が新たに行われてしまわないようにすることで時短状態が過剰に継続してしまわないようにしながら、時短状態の最終遊技回における天井時短の発生を契機とした時短状態の設定を有効なものとする事で、天井時短が発生したことの利益が遊技者に極力付与されるようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

10

【0420】

時短状態の最終遊技回において時短結果又は天井時短が発生している場合、現状の時短状態の終了に続けてそれら時短結果又は天井時短を契機とした時短状態が開始されるため、これら時短状態における遊技回の実行回数の合計回数が、通常遊技状態から時短状態が開始された場合における時短状態の遊技回の実行回数よりも多い回数となる。これにより、時短状態の最終遊技回において時短結果又は天井時短が発生している場合には現状の時短状態の終了に続けてそれら時短結果又は天井時短を契機とした時短状態が開始されるようにしたことの有利度を高めることが可能となる。

20

【0421】

特図確定中処理（図22）において天井カウンタ131の減算処理（図29）よりも処理の実行順序が前の順序に時短結果用の設定処理（図25）が設定されていることにより、当否判定処理の結果が時短結果となった遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合、天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定よりも時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定を優先させることが可能となる。天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの時短継続回数は100回で固定であるのに対して、時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの時短継続回数は第1時短結果であれば100回であり第2時短結果であれば150回である。つまり、時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの時短継続回数は天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの時短継続回数以上の回数となっている。この場合に、上記のとおり天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定よりも時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が優先されることにより、当否判定処理の結果が時短結果となった遊技回において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合に時短継続回数の設定態様が遊技者にとって不利なものとならないようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

30

【0422】

特図確定中処理（図22）においては高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に時短結果用の設定処理（図25）が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、時短結果用の設定処理（図25）が実行されることになる。そして、当該タイミングで時短結果用の設定処理（図25）が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定は行われない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、時短結果を確実に無効化させることが可能となる。また、このような効果を特図確定中処理（図22）において高確率状態カウンタ133の減算処理

40

50

(図24)よりも前に時短結果用の設定処理(図25)を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

【0423】

特図確定中処理(図22)においては高確率状態カウンタ133の減算処理(図24)よりも前に天井カウンタ131の減算処理(図29)が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理(図24)にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、天井カウンタ131の減算処理(図29)が実行されることになる。そして、当該タイミングで天井カウンタ131の減算処理(図29)が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、天井カウンタ131の値の減算が実行されない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、天井カウンタ131の値の減算が実行されないようにすることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理(図22)において高確率状態カウンタ133の減算処理(図24)よりも前に天井カウンタ131の減算処理(図29)を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

【0424】

高確率状態においては天井時短を契機とした時短状態が発生しないだけでなく、天井カウンタ131を1減算するための処理自体が実行されない。これにより、遊技者にとって有利な高確率状態において実行された遊技回の実行回数を天井カウンタ131の値の減算対象となる遊技回から除外することが可能となる。

【0425】

天井時短を契機として時短状態に移行した場合及び当該時短状態が終了した場合のいずれであっても天井カウンタ131の値はセットされない。また、天井時短を契機とした時短状態への移行は、天井カウンタ131の値が1以上である状況において遊技回が消化されて天井カウンタ131の値が減算された結果、当該天井カウンタ131の値が「0」となった場合に発生する。したがって、天井時短を契機とした時短状態への移行は大当たり結果が発生した後に1回のみ発生し、天井時短を契機とした時短状態への移行が1回発生した場合には基本的にその後大当たり結果が発生して天井カウンタ131の値のセットが行われない限り、天井時短を契機とした時短状態への移行は発生しない。これにより、天井時短を契機とした時短状態への移行が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0426】

設定値更新処理(ステップS117)が実行されたとしても主側RAM84の天井カウンタ131に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われない。これにより、設定値更新処理(ステップS117)が実行されたとしても残りの天井回数を維持させることが可能となる。

【0427】

RAMクリア処理(ステップS119)が実行されたとしても主側RAM84の天井カウンタ131に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われない。これにより、RAMクリア処理(ステップS119)が実行されたとしても残りの天井回数を維持させることが可能となる。

【0428】

設定値更新処理(ステップS117)が実行されたが実行されたとしても主側RAM84の天井カウンタ131に対する初期化は実行されることはなく、さらに固定天井回数の情報を含めて天井回数の新たな設定は行われない。したがって、主側RAM84の情報異常が発生した場合においてその情報異常による遊技停止状態を解除するために設定値更新処理(ステップS117)が実行されたとしても、天井カウンタ131の情報はそのまま維持される。これに対して主側RAM84の情報異常が発生していることが特定されて主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされる場合には、天井カウンタ131に

固定天井回数である500回の情報がセットされる。これにより、主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報が書き換わっていたとしても、当該天井カウンタ131の情報を固定天井回数である500回の情報にセットしなおすことが可能となる。

【0429】

遊技機本体12が外枠11に対して開放状態となっている場合、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする。このような処理が実行される場合というのは、動作電力の供給開始時の処理（ステップS101～ステップS126）にて設定確認用処理（ステップS112）、設定値更新処理（ステップS117）及びRAMクリア処理（ステップS119）が実行されない状況である。また、遊技ホールでは、各パチンコ機10に動作電力を供給するための主電源をOFFにした状態で、各パチンコ機10の電源・発射制御装置78に設けられた電源スイッチを予めONにしておき、1日の営業を開始する時刻となった場合には主電源をONすることで各パチンコ機10が一斉に起動状態となるようにしている。このような事情において、設定確認用処理（ステップS112）、設定値更新処理（ステップS117）及びRAMクリア処理（ステップS119）を実行させない状況において遊技機本体12を意図的に開放状態として動作電力の供給が開始されるようにした場合、天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。これにより、動作電力の供給開始時に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる状況を、通常の営業開始時とは異なる状況として発生させることが可能となるとともに、設定確認用処理（ステップS112）、設定値更新処理（ステップS117）及びRAMクリア処理（ステップS119）を伴うことなく発生させることが可能となる。

【0430】

大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。開閉実行モードが開始される場合ではなく、開閉実行モードの途中や開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ131に固定天井回数のセットが行われる構成の場合、開閉実行モードが開始された後に動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）では既に説明したとおり開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ131の値は維持されるため、その動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。これに対して、開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされることにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【0431】

開閉実行モードが終了した後において低確率モードである状況で期間切換基準回数の遊技回が消化された場合、低頻度サポートモードであれば、リーチ高頻度用のテーブル群が参照されるリーチ高頻度状態となる。そして、リーチ高頻度状態においては低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。また、期間切換基準回数は天井時短の発生契機となる固定天井回数よりも所定回数（具体的には50回）少ない回数である。したがって、天井時短の発生によって第2高頻度サポートモードが発生する前にリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。

【0432】

リーチ高頻度状態において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり天井時短を契機とした時短状態が発生した場合、リーチ高頻度状態が終了する。そして、時

短状態では遊技回の変動表示期間として短い期間が選択され易くなるため遊技回の消化効率が高くなる。これにより、時短状態において遊技回の消化効率が高くなることを阻害しないようにしながら、リーチ高頻度状態が発生し得るようにすることが可能となる。

【0433】

1減算後における変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった場合に主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグに「1」をセットする処理は、時短状態であっても実行される。これに対して、変動表示期間の特定処理（図21）では主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定するステップS905の処理よりも前に、主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定するステップS903の処理が実行されるため、リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされていたとしても遊技回の変動表示期間の選択に際しては時短状態における変動表示期間の選択態様の方がリーチ高頻度状態における変動表示期間の選択態様よりも優先される。これにより、時短状態において遊技回の消化効率が高くなっている状況が、リーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされることによって阻害されてしまわないようにすることが可能となる。

10

【0434】

その一方、時短状態であってもリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされるとともにリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされた状態は維持される。したがって、リーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする契機が発生する前に時短状態が終了した場合にはその時点からリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。

20

【0435】

変動選択状態カウンタ132に情報をセットする処理は開閉実行モードが開始される場合におけるステップS1006のみであり、変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった後においてはステップS1006の処理が実行されない限り変動選択状態カウンタ132の値は「0」に維持される。一方、リーチ高頻度状態は、変動選択状態カウンタ132の値が1以上である状況で当該変動選択状態カウンタ132の値が1減算されて当該変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、変動選択状態カウンタ132の値が「0」である場合には（ステップS1702：NO）、ステップS1703以降の処理を実行することなく本変動選択状態カウンタ132の減算処理を終了する。これにより、1減算後における変動選択状態カウンタ132の値が「0」となりリーチ高頻度状態が発生し、当該リーチ高頻度状態が終了した場合、その後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしてもリーチ高頻度状態は発生しない。これにより、リーチ高頻度状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

30

【0436】

期間切換基準回数は固定天井回数よりも所定回数（具体的には50回）少ない回数に設定されているため、天井時短の発生によって第2高頻度サポートモードが発生する前にリーチ高頻度状態が発生することとなるが、天井時短も1度発生した場合にはその後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても天井時短は発生しない。この場合に、リーチ高頻度状態が終了した場合にはその後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしてもリーチ高頻度状態が発生しないようにすることにより、天井時短が発生しない状況においてリーチ高頻度状態が発生してしまわないようにすることが可能となる。

40

【0437】

<第2の実施形態>

本実施形態では特図確定中処理における処理の実行順序が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0438】

図34は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図変動開始処理を示すフ

50

ローチャートである。

【0439】

ステップS1801～ステップS1817では上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS801～ステップS817と同一の処理を実行する。ステップS1817の処理を実行した後は、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定することで、現状の遊技状態が高確率状態であるか否かを判定する（ステップS1818）。高確率フラグに「1」がセットされている場合（ステップS1818：YES）、主側RAM84に設けられたスタート高確フラグに「1」をセットし（ステップS1819）、高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS1818：NO）、当該スタート高確フラグを「0」クリアする（ステップS1820）。スタート高確フラグは、遊技回の開始時における当否抽選モードが高確率モードであったか否かを後述する特図確定中処理（図35）にて主側MPU82が特定するためのフラグである。

10

【0440】

ステップS1819の処理又はステップS1820の処理を実行した場合、図特電カウンタの値を1加算する（ステップS1821）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップS607）に対応する「1」となる。

【0441】

図35は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図確定中処理を示すフローチャートである。

20

【0442】

ステップS1901～ステップS1907では上記第1の実施形態における特図確定中処理（図22）のステップS1001～ステップS1007と同一の処理を実行する。特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップS1901：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS1902：NO）、ステップS1908にて高確率状態カウンタ133の減算処理を実行し、ステップS1909にて時短状態カウンタ134の減算処理を実行し、ステップS1910にて変動選択状態カウンタ132の減算処理を実行し、ステップS1911にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS1912にて天井カウンタ131の減算処理を実行する。そして、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS1913）。つまり、本実施形態では時短結果用の設定処理及び天井カウンタ131の減算処理の後の処理順序として高確率状態カウンタ133の減算処理が設定されているのではなく、時短結果用の設定処理及び天井カウンタ131の減算処理よりも前の処理順序として高確率状態カウンタ133の減算処理が設定されている。

30

【0443】

図36は特図確定中処理（図35）のステップS1911にて実行される本実施形態における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【0444】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップS2001：YES）、主側RAM84のスタート高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS2002）。そして、スタート高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS2002：YES）、ステップS2003以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において開始された遊技回の当否判定処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、当該時短結果を契機として第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

40

【0445】

スタート高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS2002：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグ又は第2高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS2003、ステップS2004）。つまり、サポートモ

50

ードが第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのいずれかであるか否かを判定する。サポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合（ステップS2003又はステップS2004：YES）、ステップS2005以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、時短結果用の設定処理（図36）が実行されたタイミングにおいて第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合には、当該時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。これにより、高頻度サポートモードの途中で当該高頻度サポートモードに移行させるための設定が追加で実行されてしまわないようにすることが可能となる。

10

【0446】

サポートモードが低頻度サポートモードである場合（ステップS2003及びステップS2004：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットする（ステップS2005）。これにより、サポートモードが第2高頻度サポートモードとなる。そして、今回の時短結果が第1時短結果であれば（ステップS2006：YES）、主側RAM84に設けられた時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である「100」の情報をセットし（ステップS2007）、今回の時短結果が第2時短結果であれば（ステップS2006：NO）、時短状態カウンタ134に第2時短継続回数である「150」の情報をセットする（ステップS2008）。時短状態である状況において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が第1時短継続回数である100回又は第2時短継続回数である150回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても低確率モード及び低頻度サポートモードとなる。

20

【0447】

ステップS2007の処理又はステップS2008の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS2009）。当該送信処理では時短状態が開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。当該状態指定コマンドには今回設定された時短継続回数の情報も含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

30

【0448】

図37は特図確定中処理（図35）のステップS1912にて実行される本実施形態における天井カウンタ131の減算処理を示すフローチャートである。

【0449】

まず主側RAM84のスタート高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS2101）。そして、スタート高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS2101：YES）、ステップS2102以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において開始された遊技回においては天井カウンタ131の値の減算が実行されることはなく、さらに天井カウンタ131の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

40

【0450】

スタート高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS2101：NO）、天井カウンタ131の値が1以上であるか否かを判定する（ステップS2102）。天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS2102：NO）、ステップS2103以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。これにより、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり天井時短を契機とした時短状態が発生し、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく時短継続回数の遊技回が消化されて時短状態が終了して通常遊技状態となった場合、その後大

50

当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても天井時短を契機とした時短状態は発生しない。よって、天井時短を契機とした時短状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0451】

天井カウンタ131の値が1以上である場合（ステップS2102：YES）、天井カウンタ131の値を1減算し（ステップS2103）、その1減算後における天井カウンタ131の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS2104）。天井カウンタ131の値が「0」である場合（ステップS2104：YES）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS2105：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットし（ステップS2106）、主側RAM84の時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である「100」の情報をセットする（ステップS2107）。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである時短状態となる。また、当該時短状態は大当たり結果が発生することなく実行された遊技回の回数が第1時短継続回数である100回となった場合に終了し、低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。

10

【0452】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS2108）。当該送信処理では時短状態が開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。当該状態指定コマンドには今回設定された第1時短継続回数の情報も含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

20

【0453】

一方、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となったとしても第2高頻度フラグに「1」がセットされている場合にはステップS2106～ステップS2108の処理が実行されないため、今回の天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定は行われることなく今回の天井時短は無効化される。つまり、時短状態である状況において固定天井回数の遊技回の消化が完了したとしても、当該天井時短を契機として第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく天井時短は無効化される。これにより、高頻度サポートモードの途中で当該高頻度サポートモードに移行させるための設定が追加で実行されてしまわないようにすることが可能となる。なお、第1高頻度サポートモードは開閉実行モード後において100回の遊技回が消化されるまでの範囲でしか設定されないのに対して、開閉実行モードが開始される場合に500回の固定天井回数が設定される構成であるため、第1高頻度サポートモードである状況において1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となることはない。

30

【0454】

ステップS2105にて肯定判定をした場合又はステップS2108の処理を実行した場合、主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする（ステップS2109）。これにより、天井時短が発生した場合には当該天井時短を契機とした第2高頻度サポートモードの設定が行われたか否かに関係なくリーチ高頻度状態が終了する。

40

【0455】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【0456】

特図確定中処理（図35）においては高確率状態カウンタ133の減算処理（ステップS1908）よりも後に時短結果用の設定処理（図36）が実行される。但し、遊技回が開始される場合に高確率モードであり高確率時の当否テーブル123を参照して当否判定処理が実行された場合には主側RAM84のスタート高確フラグに「1」がセットされる。そして、時短結果用の設定処理（図36）が開始された場合にスタート高確フラグに「1」がセットされている場合には当否判定処理にて時短結果が選択されていたとしても当該時短結果を契機とした時短状態の設定は行われない。これにより、高確率モードに対応

50

する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては時短結果を確実に無効化させることが可能となる。

【0457】

遊技回が開始された場合に高確率モードであることを条件として「1」がセットされるスタート高確率フラグを利用して、時短結果用の設定処理（図36）において時短結果を無効化させるか否かを決定する構成であるため、特図確定中処理（図35）における処理の実行順序に関係なく上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【0458】

特図確定中処理（図35）においては高確率状態カウンタ133の減算処理（ステップS1908）よりも後に天井カウンタ131の減算処理（図37）が実行される。但し、遊技回が開始される場合に高確率モードであり高確率時の当否テーブル123を参照して当否判定処理が実行された場合には主側RAM84のスタート高確フラグに「1」がセットされる。そして、天井カウンタ131の減算処理（図37）が開始された場合にスタート高確フラグに「1」がセットされている場合には天井カウンタ131の値の減算が実行されない。これにより、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、天井カウンタ131の値の減算が実行されないようにすることが可能となる。

10

【0459】

遊技回が開始された場合に高確率モードであることを条件として「1」がセットされるスタート高確率フラグを利用して、天井カウンタ131の減算処理（図37）において天井カウンタ131の値を減算するか否かを決定する構成であるため、特図確定中処理（図35）における処理の実行順序に関係なく上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

20

【0460】

＜第3の実施形態＞

本実施形態では当否抽選モードを高確率モードから低確率モードに移行させる契機が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0461】

図38は本実施形態における主側MPU82にて各種抽選を行うための電氣的な構成を説明するための説明図である。

30

【0462】

本実施形態では当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3、乱数初期値カウンタCINI、変動種別カウンタCS及び普電乱数カウンタC4の他に、転落乱数カウンタC5が設けられている。なお、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3、乱数初期値カウンタCINI、変動種別カウンタCS及び普電乱数カウンタC4の内容及びこれらカウンタC1～C4、CINI、CSを利用する処理の内容は上記第1の実施形態と同一である。

【0463】

転落乱数カウンタC5は、0～29の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。転落乱数カウンタC5は定期的に更新され、遊技球が第1作動口33に入賞したタイミングで第1特図保留エリア111に格納され、遊技球が第2作動口34に入賞したタイミングで第2特図保留エリア112に格納される。高確率モードにおいては遊技回が開始された場合に当該遊技回の開始対象となった保留情報のうち転落乱数カウンタC5に対応する数値情報を利用して転落判定処理が実行される。そして、転落判定処理にて転落結果が選択された場合にその時点で当否抽選モードが高確率モードから低確率モードとなる。つまり、上記第1の実施形態では高確率モードにおいて実行された遊技回の回数が高確率継続回数となった場合に当否抽選モードが高確率モードから低確率モードに移行する構成としたが、本実施形態では高確率モードにおいて実行された遊技回の回数によっては低確率モードへの移行は発生することなく、転落判定処理にて

40

50

転落結果が選択されることで低確率モードへの移行が発生する。

【0464】

図39は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【0465】

第2特図保留エリア112に第2保留情報が格納されておらず第1特図保留エリア111に第1保留情報が格納されている場合（ステップS2201：YES、ステップS2202：NO）、第1データ設定処理を実行する（ステップS2203）。第1データ設定処理の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS803と同一である。一方、第2特図保留エリア112に第2保留情報が格納されている場合には（ステップS2201及びステップS2202：YES）、当該第2保留情報よりも先に取得された第1保留情報が第1特図保留エリア111に記憶されていたとしても、第2データ設定処理を実行する（ステップS2204）。第2データ設定処理の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS804と同一である。

【0466】

ステップS2203の処理又はステップS2204の処理を実行した場合、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされていることを条件として（ステップS2205：YES）、転落判定処理を実行する（ステップS2206）。転落判定処理では、転落判定テーブルを主側ROM83から主側RAM84に読み出す。転落判定テーブルには転落結果となる転落乱数カウンタC5の数値情報が設定されている。当該転落判定テーブルは1種類のみ設けられており、転落判定処理にて転落結果が選択される確率は設定値に関係なく一定であるとともに遊技回の開始対象が第1保留情報及び第2保留情報のいずれであっても一定である。但し、これに限定されることはなく、転落判定処理にて転落結果が選択される確率が設定値に応じて変動する構成としてもよく、転落判定処理にて転落結果が選択される確率が第1保留情報及び第2保留情報のいずれが遊技回の開始対象であるかによって変動する構成としてもよい。

【0467】

転落結果が選択される確率が1/15となるように転落判定テーブルが設定されているが、当該確率が1/15よりも低くてもよく、1/15よりも高くてもよい。転落判定処理では、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、転落判定用の情報すなわち転落乱数カウンタC5から取得した数値情報を読み出し、その読み出した数値情報が、上記読み出した転落判定テーブルにおいて転落結果として設定されている数値情報のいずれかと一致しているか否かを判定する。

【0468】

転落判定処理の結果が転落結果である場合（ステップS2207：YES）、主側RAM84の高確率フラグを「0」クリアし（ステップS2208）、転落判定処理の結果が転落結果ではない場合（ステップS2207：NO）、高確率フラグに「1」がセットされた状態を維持させる。これにより、転落判定処理の結果が転落結果である場合には当否抽選モードが高確率モードから低確率モードに移行し、転落判定処理の結果が転落結果ではない場合には当否抽選モードが高確率モードに維持される。また、転落判定処理は当否判定処理（ステップS2209）よりも前に実行されるとともに、転落判定処理の結果が転落結果である場合における低確率モードへの移行も当否判定処理（ステップS2209）よりも前に実行される。これにより、転落判定処理の結果が転落結果となった場合には当否抽選モードが低確率モードである状況において当否判定処理（ステップS2209）が実行されるようにすることが可能となる。

【0469】

ステップS2205にて否定判定をした場合、ステップS2207にて否定判定をした場合又はステップS2208の処理を実行した場合、当否判定処理を実行する（ステップS2209）。当否判定処理の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS805と同一である。

【0470】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップS2210：YES）、大当たり用の振分判定処理を実行し（ステップS2211）、大当たり用のフラグセット処理を実行し（ステップS2212）、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS2213）。ステップS2211～ステップS2213の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS807～ステップS809と同一である。

【0471】

当否判定処理の結果が大当たり結果ではなく時短結果である場合（ステップS2210：NO、ステップS2214：YES）、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているのであれば（ステップS2215：YES）、第1時短結果を選択し（ステップS2216）、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされていない場合には（ステップS2215：NO）、時短用の振分判定処理を実行する（ステップS2217）。時短用の振分判定処理では上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS811と同様に、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の時短振分テーブル127（図10（c）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の時短振分テーブル128（図10（d）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。時短振分テーブル127、128を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記時短振分テーブル127、128を参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の時短結果に対応しているのかを特定する。したがって、第1時短結果及び第2時短結果のいずれかが選択される。

【0472】

本実施形態であっても上記第1の実施形態と同様に高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした時短状態の設定は行われない。この場合に、高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には、第2時短結果よりも有利度が低い第1時短結果を強制的に選択する構成とすることにより、高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となったことが特図表示部37a、37bや図柄表示装置41の表示内容から遊技者に認識されたとしても、有利度が高い第2時短結果ではなく有利度が低い第1時短結果が無効化されたと遊技者に認識させることが可能となり、当該無効化が発生したことに対する無駄引き感を低減させることが可能となる。なお、当該構成を上記第1の実施形態や上記第2の実施形態に適用してもよく、後述する第4～第12の実施形態に適用してもよい。

【0473】

ステップS2216の処理又はステップS2217の処理を実行した場合、時短用のフラグセット処理を実行し（ステップS2218）、時短結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS2219）。ステップS2217～ステップS2219の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS811～ステップS813と同一である。また、当否判定処理の結果が大当たり結果及び時短結果のいずれでもない場合（ステップS2214：NO）、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS2220）。ステップS2220の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS814と同一である。

【0474】

ステップS2213の処理、ステップS2219の処理又はステップS2220の処理を実行した場合、ステップS2221～ステップS2224の処理を実行する。ステップS2221～ステップS2224の内容は上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS815～ステップS818と同一である。

【0475】

図40は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図確定中処理を示すフロ

10

20

30

40

50

ーチャートである。

【0476】

ステップS2301～ステップS2307では上記第1の実施形態における特図確定中処理（図22）のステップS1001～ステップS1007と同一の処理を実行する。特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップS2301：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS2302：NO）、ステップS2308にて時短状態カウンタ134の減算処理を実行し、ステップS2309にて変動選択状態カウンタ132の減算処理を実行し、ステップS2310にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS2311にて天井カウンタ131の減算処理を実行する。そして、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS2312）。ステップS2308～ステップS2311では上記第1の実施形態における特図確定中処理（図22）のステップS1008～ステップS1011と同一の処理を実行する。

10

【0477】

つまり、本実施形態では特図確定中処理（図40）に上記第1の実施形態における特図確定中処理（図22）に設定されていた高確率状態カウンタ133の減算処理が設定されていない。したがって、本実施形態では高確率モードにおいて実行された遊技回の回数によっては低確率モードへの移行は発生しない。

【0478】

上記のとおり高確率モードにおいて遊技回が開始された場合には転落判定処理（ステップS2206）が実行され、転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果である場合にはその時点で当否抽選モードが高確率モードから低確率モードとなる。そして、これらの処理は当否判定処理（ステップS2209）よりも前に実行される。これにより、転落判定処理の結果が転落結果となった場合には当否抽選モードが低確率モードである状況において当否判定処理（ステップS2209）が実行されるようにすることが可能となる。

20

【0479】

当否判定処理（ステップS2209）にて時短結果が選択された場合、低確率モードである場合には時短用の振分判定処理（ステップS2217）にて第1時短結果又は第2時短結果が選択されるのに対して、高確率モードである場合には第1時短結果が強制的に選択される。本実施形態であっても上記第1の実施形態と同様に高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした時短状態の設定は行われない。この場合に高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には、第2時短結果よりも有利度が低い第1時短結果を強制的に選択する構成とすることにより、高確率状態において当否判定処理の結果が時短結果となったことが特図表示部37a、37bや図柄表示装置41の表示内容から遊技者に認識されたとしても、有利度が高い第2時短結果ではなく有利度が低い第1時短結果が無効化されたと遊技者に認識させることが可能となり、当該無効化が発生したことに対する無駄引き感を低減させることが可能となる。

30

【0480】

高確率モードにおいて当否判定処理（ステップS2209）の結果が時短結果となった場合には相対的に有利度が低い第1時短結果が選択される構成において、時短結果を第1時短結果及び第2時短結果のいずれかに振り分ける処理（ステップS2215～ステップS2219）よりも前に転落判定処理（ステップS2206）が実行される。これにより、転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果となることにより低確率モードへの移行が発生する場合には、当該低確率モードへの移行が行われた後に時短結果を第1時短結果及び第2時短結果のいずれかに振り分ける処理（ステップS2215～ステップS2219）が実行される。よって、転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果となることにより低確率モードへの移行が発生する遊技回において、当否判定処理（ステップS2209）の結果が時短結果となった場合に相対的に有利である第2時短結果

40

50

が選択され得るようにすることが可能となる。

【0481】

転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果となった場合には高確率モードから低確率モードに移行する構成において、当該低確率モードに移行する処理は遊技回の開始時に実行されるのに対して、時短結果用の設定処理（ステップS2310）及び天井カウンタ131の減算処理（ステップS2311）は遊技回の終了時における処理である特図確定中処理（図40）にて実行される。これにより、転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果となることにより低確率モードへの移行が発生する場合には、当該低確率モードへの移行が行われた後に時短結果用の設定処理（ステップS2310）及び天井カウンタ131の減算処理（ステップS2311）が実行される。よって、転落判定処理（ステップS2206）の結果が転落結果となることにより低確率モードへの移行が発生する遊技回において、当否判定処理（ステップS2209）の結果が時短結果となった場合に当該時短結果を契機とした時短状態の設定が行われるようにすることが可能となるとともに、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となることで天井時短が発生した場合に当該天井時短を契機とした時短状態の設定が行われるようにすることが可能となる。

10

【0482】

<第4の実施形態>

本実施形態ではメイン処理の処理構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

20

【0483】

図41は主側MPU82にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。

【0484】

ステップS2401～ステップS2416では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS101～ステップS116と同一の処理を実行する。リセットボタン142が押圧操作されていると判定した場合であって（ステップS2408又はステップS2422：YES）、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていると判定した場合（ステップS2416：YES）、又はステップS2407にて主側RAM84の設定更新中フラグに「1」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップS2417）。設定値更新処理については後に説明する。また、ステップS2418～ステップS2420では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS118～ステップS120と同一の処理を実行する。

30

【0485】

ステップS2404～ステップS2406のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップS2421）。上記第1の実施形態と同様に遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図14）においてステップS201～ステップS205の処理を実行する一方、ステップS206にて肯定判定をすることでステップS207～ステップS220の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

40

【0486】

上記第1の実施形態では主側RAM84に情報異常が発生していることを特定することでステップS121にて遊技停止フラグに「1」をセットした場合、ステップS122に

50

て主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする処理を実行する構成としたが、本実施形態では当該処理は設定されていない。つまり、主側RAM84に情報異常が発生していることを特定することでステップS2421にて遊技停止フラグに「1」をセットしたとしても天井カウンタ131に情報をセットする処理を実行しない。

【0487】

その後、リセットボタン142が押圧操作されているか否かを判定する（ステップS2422）。リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップS2422：NO）、ステップS2423及びステップS2424の処理を実行する。これらステップS2423及びステップS2424の処理では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS124及びステップS125と同一の処理を実行する。

10

【0488】

リセットボタン142が押圧操作されている場合（ステップS2422：YES）、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていることを条件として（ステップS2416：YES）、設定値更新処理を実行する（ステップS2417）。なお、ステップS2425～ステップS2429では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS126～ステップS130と同一の処理を実行する。

【0489】

図42はメイン処理（図41）のステップS2417にて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。

20

【0490】

まず割込み許可の設定を行う（ステップS2501）。その後、主側RAM84の設定更新中フラグに「1」をセットする（ステップS2502）。その後、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていないのであれば（ステップS2503：NO）、RAMクリア処理を実行した後に（ステップS2504）、ステップS2507に進み、遊技停止フラグに「1」がセットされているのであれば（ステップS2503：YES）、RAMクリア処理を実行するとともに（ステップS2505）、天井カウンタ131のセット処理を実行した後に（ステップS2506）、ステップS2507に進む。

【0491】

ステップS2504及びステップS2505のそれぞれにおけるRAMクリア処理では、主側RAM84においてパチンコ機10の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア）、天井カウンタ131、設定更新中フラグ及び主側RAM84において役比を算出するための情報が記憶されたエリアを除いて、主側RAM84を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機10への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部38aが変動表示されていない状況であって普電役物34aが閉鎖状態である状況となる。また、特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cも「0」クリアされるため、第1保留情報、第2保留情報及び普図側の保留情報が消去される。また、設定確認中フラグ及び設定更新用エリアを「0」クリアする。また、RAMクリア処理では主側MPU82の各種レジスタも「0」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップS2402の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

30

40

【0492】

ステップS2506の天井カウンタ131のセット処理では、天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする。これにより、主側RAM84の情報異常が発生していることが特定されて主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていることで遊技を進行させるための処理の開始が阻止されている状況において設定値更新処理が実行されて当該阻止されている状況が解除された場合には、天井カウンタ131

50

に固定天井回数である500回の情報がセットされる。

【0493】

その後、主側RAM84の設定更新用エリアに「1」をセットし（ステップS2507）、更新開始コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS2508）。また、設定更新用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する（ステップS2509）。「1」～「6」のいずれかではない場合（ステップS2509：NO）、設定更新用エリアに「1」をセットする（ステップS2510）。これにより、更新対象の設定値が「設定1」となる。

【0494】

ステップS2509にて肯定判定をした場合又はステップS2510の処理を実行した場合、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する（ステップS2511）。ステップS2511にて否定判定をした場合、リセットボタン142が押圧操作されていることを条件として（ステップS2512：YES）、設定更新用エリアの値を1加算する（ステップS2513）。これにより、リセットボタン142が1回押圧操作される度に1段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップS2512：NO）又は設定更新用エリアの値を1加算した場合にはステップS2509の処理に戻ることもなるが、ステップS2509にて設定更新用エリアの値が7以上であると判定すると、ステップS2510にて設定更新用エリアに「1」をセットする。これにより、「設定6」の状況でリセットボタン142が1回押圧操作された場合には「設定1」に戻るようになる。

【0495】

設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合（ステップS2511：YES）、設定更新用エリアに格納された設定値の情報を設定参照用エリアに上書きする（ステップS2514）。これにより、今回の設定値更新処理にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリアに設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機10の設定値となる。

【0496】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップS2515）。また、更新時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS2516）。また、主側RAM84の設定更新中フラグを「0」クリアする（ステップS2517）。

【0497】

上記構成によれば、主側RAM84の情報異常が発生していることが特定されて主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていることで遊技を進行させるための処理の開始が阻止されている状況において設定値更新処理が実行されて当該阻止されている状況が解除された場合には、天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。これにより、主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報が書き換わっていたとしても、当該天井カウンタ131の情報を固定天井回数である500回の情報にセットしなおすことが可能となる。

【0498】

主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報を固定天井回数である500回の情報にセットしなおす処理を、遊技を進行させるための処理の開始が阻止されている状況を解除するために実行される設定値更新処理に集約することが可能となる。また、主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報を固定天井回数である500回の情報にセットしなおす処理が、遊技を進行させるための処理の開始が阻止されている状況を解除するために設定値更新処理が実行された場合には自ずと実行されるようにすることが可能となる。

【0499】

<第5の実施形態>

本実施形態ではメイン処理の処理構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構

10

20

30

40

50

成については基本的にその説明を省略する。

【0500】

図43は主側MPU82にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。

【0501】

ステップS2601～ステップS2612では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS101～ステップS112と同一の処理を実行する。設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていない場合であって設定確認中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS2610及びステップS2611：NO）、本体開放検知センサ144からHIレベルの開放検知信号を受信しているか否かを判定することで遊技機本体12が開放中であるか否かを判定する（ステップS2613）。 10

【0502】

本体開放検知センサ144からHIレベルの開放検知信号を受信している場合（ステップS2613：YES）、すなわち遊技機本体12が外枠11に対して開放状態となっている場合、主側RAM84の天井カウンタ131に第1天井回数である500回の情報をセットする（ステップS2614）。ステップS2613の処理が実行される場合というのは、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合にリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143に対する設定キーによるON操作が行われておらず、さらに主側RAM84の設定更新中フラグ及び設定確認中フラグの両方に「1」がセットされていない状況である。この場合というのは動作電力の供給開始時の処理（ステップS2601～ステップS2626）にて設定確認用処理（ステップS2612）、設定値更新処理（ステップS2617）及びRAMクリア処理（ステップS2619）が実行されない状況である。また、遊技ホールでは、各パチンコ機10に動作電力を供給するための主電源をOFFにした状態で、各パチンコ機10の電源・発射制御装置78に設けられた電源スイッチを予めONにしておき、1日の営業を開始する時刻となった場合には主電源をONすることで各パチンコ機10が一斉に起動状態となるようにしている。このような事情においてステップS2613にて肯定判定をする場合というのは、設定確認用処理（ステップS2612）、設定値更新処理（ステップS2617）及びRAMクリア処理（ステップS2619）を実行させない状況において遊技機本体12を意図的に開放状態とした状態で動作電力の供給を開始させた場合である。そして、このような状況においては天井カウンタ131に第1天井回数である500回の情報がセットされる。これにより、動作電力の供給開始時に天井カウンタ131に第1天井回数である500回の情報がセットされる状況を、通常の営業開始時とは異なる状況として発生させることが可能となるとともに、設定確認用処理（ステップS2612）、設定値更新処理（ステップS2617）及びRAMクリア処理（ステップS2619）を伴うことなく発生させることが可能となる。なお、大当たり結果となり開閉実行モードが開始される場合にも天井カウンタ131に第1天井回数である500回の情報がセットされる。 20 30

【0503】

ステップS2615～ステップS2620では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS115～ステップS120と同一の処理を実行する。ステップS2604～ステップS2606のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップS2621）。上記第1の実施形態と同様に遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図14）においてステップS201～ステップS205の処理を実行する一方、ステップS206にて肯定判定をすることでステップS207～ステップS220の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視 40 50

を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【0504】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に第1天井回数よりも多い第2天井回数である800回の情報をセットする（ステップS2622）。ステップS2623～ステップS2630では上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS123～ステップS130と同一の処理を実行する。

【0505】

上記第1の実施形態と同様に設定値更新処理（ステップS2617）が実行されたとしても主側RAM84の天井カウンタ131に対する初期化は実行されることはなく、さらに天井回数の新たな設定は行われない。したがって、主側RAM84の情報異常が発生した場合においてその情報異常による遊技停止状態を解除するために設定値更新処理（ステップS2617）が実行されたとしても、天井カウンタ131の情報はそのまま維持される。これに対して主側RAM84の情報異常が発生していることが特定されて主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされる場合には、天井カウンタ131に第2天井回数である800回の情報がセットされる。これにより、主側RAM84の情報異常が発生した場合に天井カウンタ131の情報が書き換わっていたとしても、当該天井カウンタ131の情報を第2天井回数である800回の情報にセットしなおすことが可能となる。

【0506】

第2天井回数は、開閉実行モードが開始される場合又はメイン処理（図43）のステップS2614にて天井カウンタ131にセットされる第1天井回数よりも多い回数である。これにより、主側RAM84の情報異常が発生した場合には相対的に多い回数である第2天井回数が天井カウンタ131にセットされることとなり、主側RAM84の情報異常の発生を伴うような不正行為が行われた場合には天井時短を発生させるために必要な遊技回の実行回数が多くなるというペナルティを与えることが可能となる。

【0507】

<第6の実施形態>

本実施形態では遊技盤24に設けられた遊技領域PAの構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0508】

図44は本実施形態における遊技領域PAの構成を説明するための遊技盤24の正面図である。

【0509】

遊技盤24には、遊技領域PAの外縁の一部を区画するようにして内レール部25と外レール部26とが取り付けられており、これら内レール部25と外レール部26とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技球発射機構27（図2参照）から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域PAの上部に案内されるようになっている。

【0510】

遊技盤24には、上記第1の実施形態と同様に、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、スルーゲート35、可変表示ユニット36、特図ユニット37及び普図ユニット38が設けられている。また、上記第1の実施形態における第2作動口34に代えて特別入賞装置151が設けられている。また、本実施形態では振分入賞装置161が設けられている。

【0511】

スルーゲート35への入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、特別入賞装置151及び振分入賞装置161のいずれかへの入球が発生した場合、遊技者が使用可能な遊技媒体数を増加させるべく所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、一般入賞口31への入球が発生した場合には10個の遊技球の払い出しが実行され、特電

10

20

30

40

50

入賞装置 3 2 への入球が発生した場合には 1 5 個の遊技球の払い出しが実行され、第 1 作動口 3 3 への入球が発生した場合には 3 個の遊技球の払い出しが実行され、特別入賞装置 1 5 1 への入球が発生した場合には 1 個の遊技球の払い出しが実行され、振分入賞装置 1 6 1 への入球が発生した場合には 1 5 個の遊技球の払い出しが実行される。

【0 5 1 2】

なお、振分入賞装置 1 6 1 には後述するように排出通路領域 1 6 5 b と V 入賞通路領域 1 6 5 c とが設けられており、振分入賞装置 1 6 1 に入球した遊技球は排出通路領域 1 6 5 b 及び V 入賞通路領域 1 6 5 c のいずれかを通過することとなるが、排出通路領域 1 6 5 b 及び V 入賞通路領域 1 6 5 c のいずれを遊技球が通過したとしても同一個数（具体的には 1 5 個）の遊技球の払い出しが実行される。また、上記賞球個数は任意であり、例えば第 1 作動口 3 3 及び特別入賞装置 1 5 1 の賞球個数が同一である構成としてもよく、振分入賞装置 1 6 1 の賞球個数の方が特電入賞装置 3 2 の賞球個数よりも多い構成としてもよく少ない構成としてもよい。

10

【0 5 1 3】

その他に、遊技盤 2 4 の最下部にはアウト口 2 4 a が設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口 2 4 a を通って遊技領域 P A から排出される。また、遊技盤 2 4 には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘 2 4 b が植設されているとともに、風車等の各種部材が配設されている。

【0 5 1 4】

遊技領域 P A の中央部を含むようにして可変表示ユニット 3 6 が設けられている。当該可変表示ユニット 3 6 の周縁部が遊技盤 2 4 の表面よりもパチンコ機 1 0 前方に突出していることに起因して、遊技領域 P A に発射された遊技球が流下可能な領域が区画されている。具体的には、遊技領域 P A において可変表示ユニット 3 6 の所定の高さ位置よりも上方の領域である上側領域 P A 1 と、当該上側領域 P A 1 に対してその下方にて連続し可変表示ユニット 3 6 よりも左方の領域である左側領域 P A 2 と、上側領域 P A 1 に対してその下方にて連続し可変表示ユニット 3 6 よりも右方の領域である右側領域 P A 3 と、左側領域 P A 2 及び右側領域 P A 3 のそれぞれに対してその下方にて連続し可変表示ユニット 3 6 よりも下方の領域である下側領域 P A 4 とに区画されている。

20

【0 5 1 5】

遊技者が第 1 発射操作として基準回動量未満である第 1 範囲の回動量で発射操作装置 2 8 の操作を行うことで、上側領域 P A 1 において横方向の中央位置よりも左方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域 P A 1 → 左側領域 P A 2 → 下側領域 P A 4 の順で遊技球が流下することとなる。その一方、遊技者が第 2 発射操作として基準回動量以上である第 2 範囲の回動量で発射操作装置 2 8 の操作を行うことで、上側領域 P A 1 において横方向の中央位置よりも右方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域 P A 1 → 右側領域 P A 3 → 下側領域 P A 4 の順で遊技球が流下することとなる。つまり、遊技者は発射操作装置 2 8 の回動操作量を調整することで、左側領域 P A 2 及び右側領域 P A 3 のうち左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように遊技を行うことができるとともに、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように遊技を行うことができる。ちなみに、最大回動量で発射操作装置 2 8 の操作が行われた場合、上側領域 P A 1 → 右側領域 P A 3 → 下側領域 P A 4 の順で遊技球が流下することとなる。

30

40

【0 5 1 6】

第 1 作動口 3 3 は、下側領域 P A 4 に設置されている。第 1 作動口 3 3 は上向きに開放されており、第 1 作動口 3 3 への遊技球の入球を阻止するための開閉部材といった部材は設けられていない。そして、同一の態様で遊技球が発射されている状況では遊技状態に依存することなく第 1 作動口 3 3 への入賞確率は一定となっている。換言すれば、第 1 作動口 3 3 は、遊技領域 P A を当該第 1 作動口 3 3 に向けて流下する遊技球が常時入球可能となっている。また、第 1 作動口 3 3 は可変表示ユニット 3 6 に形成されたステージ部 3 6 b の真下に配置されており、可変表示ユニット 3 6 に形成された誘導通路を介してステージ部 3 6 b 上に流入した遊技球であってステージ部 3 6 b の横方向の中央から可変表示ユ

50

ニット 3 6 外に排出される遊技球は第 1 作動口 3 3 に入賞し易くなっている。

【0517】

上記のように第 1 作動口 3 3 は下側領域 P A 4 に設けられているが、第 1 作動口 3 3 に対して右側領域 P A 3 に向けた上流側には当該右側領域 P A 3 を流下した遊技球が第 1 作動口 3 3 に到達することを不可とするように規制釘 2 4 c が設けられている。また、ステージ部 3 6 b への誘導通路の入口が左側領域 P A 2 に対して設けられており右側領域 P A 3 に対して設けられていない。これらの構成により、左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合には第 1 作動口 3 3 への入賞は可能であるが、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合には第 1 作動口 3 3 への入賞が不可となる。但し、これに限定されることはなく、規制釘 2 4 c が設けられていない又はステージ部 3 6 b への誘導通路の入口が右側領域 P A 3 に設けられていることにより、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合であっても第 1 作動口 3 3 への入賞が可能である構成としてもよい。

10

【0518】

特別入賞装置 1 5 1 は、右側領域 P A 3 に設置されている。つまり、特別入賞装置 1 5 1 は左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合には入賞が可能である。

【0519】

特別入賞装置 1 5 1 の構成について図 4 5 (a) を参照しながら説明する。図 4 5 (a) は非誘導状態である場合における特別入賞装置 1 5 1 の縦断面図である。特別入賞装置 1 5 1 は、遊技領域 P A から流入した遊技球を遊技盤 2 4 の後方に排出するための排出通路 1 5 3 が形成されたベースユニット 1 5 1 a と、遊技領域 P A を流下する遊技球を排出通路 1 5 3 に誘導するための誘導ユニット 1 5 2 と、を備えている。排出通路 1 5 3 の入口部 1 5 3 a は遊技球 1 個分以上の開口面積を有しており、パチンコ機 1 0 前方に向けて開放されている。排出通路 1 5 3 の出口部 1 5 3 b 側には検知センサ 1 5 4 が設けられており、当該検知センサ 1 5 4 により特別入賞装置 1 5 1 に入賞した遊技球が検知される。

20

【0520】

誘導ユニット 1 5 2 は、遊技領域 P A における入口部 1 5 3 a の前方領域を流下する遊技球を下方から受け、その受けた遊技球を排出通路 1 5 3 内に誘導するためのガイド部材 1 5 5 と、排出通路 1 5 3 内への遊技球の誘導を不可とする初期位置と当該誘導を可能とする誘導位置との間でガイド部材 1 5 5 を変位させるためのガイド駆動部 1 5 6 と、ガイド部材 1 5 5 が初期位置に配置されている状況において排出通路 1 5 3 への遊技球の流入を阻止する阻止位置に配置されガイド部材 1 5 5 が誘導位置に配置されている状況において排出通路 1 5 3 への遊技球の流入を阻止しない非阻止位置に配置される阻止部材 1 5 7 とを備えている。ガイド部材 1 5 5 及び阻止部材 1 5 7 は、ガイド部材 1 5 5 が下方となるようにして縦方向に所定の間隔を置いて対向配置されている。これらガイド部材 1 5 5 及び阻止部材 1 5 7 にガイド駆動部 1 5 6 の駆動力を伝達するように伝達ユニット 1 5 8 が設けられている。

30

【0521】

ガイド駆動部 1 5 6 が非駆動状態である場合には図示しないバネなどといった付勢手段の付勢力によってガイド部材 1 5 5 は初期位置に配置され、阻止部材 1 5 7 は阻止位置に配置される。この場合、ガイド部材 1 5 5 及び阻止部材 1 5 7 はその全体が排出通路 1 5 3 内に埋没しており遊技領域 P A 内に突出していない。これにより、遊技領域 P A における排出通路 1 5 3 の入口部 1 5 3 a の前方領域を流下する遊技球がガイド部材 1 5 5 及び阻止部材 1 5 7 によって排出通路 1 5 3 内に誘導されることはなく、つまり当該遊技球が特別入賞装置 1 5 1 に入球することなく遊技領域 P A を下方へと流下する。また、阻止部材 1 5 7 が阻止位置に配置されていることにより、排出通路 1 5 3 の入口部 1 5 3 a の実質的な開口面積が遊技球 1 個分未満となる。これにより、ガイド部材 1 5 5 が初期位置に配置されている状況においては特別入賞装置 1 5 1 への遊技球の入球を確実に阻止するこ

40

50

とが可能となる。

【0522】

ガイド駆動部156が駆動状態となることにより、ガイド部材155及び阻止部材157が上記付勢手段の付勢力に抗して変位し、ガイド部材155が誘導位置に配置されるとともに阻止部材157が非阻止位置に配置される。図45(b)は誘導状態である場合における特別入賞装置151の縦断面図である。

【0523】

ガイド部材155が誘導位置に配置されている場合、当該ガイド部材155の先端側が排出通路153の入口部153aから遊技領域PA側に突出する。この突出量は遊技領域PAにおける入口部153aの前方領域を流下する遊技球を下方から受けることが可能な程度となっている。そして、このガイド部材155の先端側は上面が排出通路153の入口部153aに向けて下り傾斜となっていることにより、ガイド部材155の先端側において下方から受けた遊技球はガイド部材155の上面を転がって排出通路153内に誘導されることとなる。また、阻止部材157が非阻止位置に配置されている場合、当該阻止部材157はその先端部が阻止位置よりも上方の位置となるように変位されているため、ガイド部材155の上面を転がる遊技球は阻止部材157に干渉することなく排出通路153内に流入する。これにより、ガイド駆動部156が駆動状態となることにより、遊技領域PAにおける入口部153aの前方領域を流下する遊技球が特別入賞装置151に入球することとなる。以下、説明の便宜上、ガイド駆動部156が非駆動状態でありガイド部材155が初期位置に配置され阻止部材157が阻止位置に配置されている状態を誘導ユニット152の非誘導状態又は特別入賞装置151の閉鎖状態といい、ガイド駆動部156が駆動状態でありガイド部材155が誘導位置に配置され阻止部材157が非阻止位置に配置されている状態を誘導ユニット152の誘導状態又は特別入賞装置151の開放状態という。

【0524】

特別入賞装置151は、排出通路153の入口部153aに対してパチンコ機10前方から対向するようにして設けられたカバー部材159を備えている。カバー部材159は、遊技領域PAにおける入口部153aの前方領域において鉛直方向の通路部159aを形成するようにゲート状に形成されており、当該入口部153aの前方領域を同時に通過する遊技球を1個に制限するとともに当該遊技球のパチンコ機10前方への移動及び横方向への移動を規制するように設けられている。これにより、特別入賞装置151の誘導ユニット152が誘導状態となった場合に複数の遊技球が同時に特別入賞装置151の排出通路153内に誘導されてしまうことが阻止されているとともに、当該誘導状態において入口部153aの前方領域を通過する遊技球を排出通路153内に確実に誘導することが可能となる。

【0525】

図44に示すように、右側領域PA3において特別入賞装置151の上方にはスルーゲート35が設けられている。つまり、スルーゲート35は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。スルーゲート35は縦方向に貫通した貫通孔を有している。また、スルーゲート35の鉛直下方の位置には特別入賞装置151が設けられており、さらには右側領域PA3において特別入賞装置151よりも下流側には特電入賞装置32及び振分入賞装置161が設けられている。したがって、スルーゲート35に入賞した遊技球が、特別入賞装置151、特電入賞装置32又は振分入賞装置161へ入賞することが可能となっている。

【0526】

特別入賞装置151及びスルーゲート35が集約配置された右側領域PA3は、左方が可変表示ユニット36において遊技盤24の盤面よりもパチンコ機10前方に膨出している側壁36fにより規定されているとともに、右方が内枠13の樹脂ベース21に設けられ遊技盤24の盤面よりもパチンコ機10前方に突出した規制壁により規定されている。

当該右側領域 P A 3 は、下側領域 P A 4 よりも横方向の寸法が狭く設定されており、その横方向の寸法は遊技球の入球装置を同じ高さ位置において横方向に並べることが不可な程度となっている。これにより、右側領域 P A 3 を流下する遊技球の流下軌道を所定の範囲に制限することが可能となり、特別入賞装置 1 5 1 及びスルーゲート 3 5 への遊技球の入球が発生し易くなっている。

【 0 5 2 7 】

右側領域 P A 3 においてスルーゲート 3 5 よりも上流側における複数の釘 2 4 b の配列態様が、右側領域 P A 3 を流下する遊技球をスルーゲート 3 5 に誘導するように設定されている。これにより、右側領域 P A 3 を流下する遊技球がスルーゲート 3 5 に入球し易くなっており、スルーゲート 3 5 に入球し易いことに伴って特別入賞装置 1 5 1 に入球し易くなっている。

10

【 0 5 2 8 】

スルーゲート 3 5 への入賞に基づき特別入賞装置 1 5 1 の誘導ユニット 1 5 2 が非誘導状態から誘導状態に切り換えられることで、特別入賞装置 1 5 1 が閉鎖状態から開放状態となる。具体的には、スルーゲート 3 5 への入賞をトリガとして普図当否判定処理が行われるとともに、遊技領域 P A において遊技球が通過しない領域である左下の隅部に設けられた普図ユニット 3 8 の普図表示部 3 8 a にて絵柄の変動表示が行われる。そして、普図当否判定処理の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部 3 8 a の変動表示が終了された場合に普電開放状態へ移行する。普電開放状態では、誘導ユニット 1 5 2 が所定の態様で誘導状態となることで、特別入賞装置 1 5 1 が所定の態様で開放状態となる。

20

【 0 5 2 9 】

本実施形態であってもサポートモードとして低頻度サポートモードと、第 1 高頻度サポートモードと第 2 高頻度サポートモードとが設定されており、これら各サポートモードにおける普図当否判定処理にて電役開放当選となる確率、普図表示部 3 8 a における変動表示回の継続期間の選択態様及び普図表示部 3 8 a における停止結果の選択態様は上記第 1 の実施形態と同一である。また、各サポートモードにおいて普電開放状態となった場合に特別入賞装置 1 5 1 が開放状態となる態様（開放継続期間、開放回数、上限入賞個数、インターバル期間）は、上記第 1 の実施形態において各サポートモードにて普電開放状態となった場合に第 2 作動口 3 4 の普電役物 3 4 a が開放状態となる態様（開放継続期間、開放回数、上限入賞個数、インターバル期間）と同一である。

30

【 0 5 3 0 】

第 1 高頻度サポートモード及び第 2 高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードよりも特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生する確率が高くなる。換言すれば、低頻度サポートモードでは特別入賞装置 1 5 1 よりも第 1 作動口 3 3 への入賞が発生する確率が高くなるが、第 1 高頻度サポートモード及び第 2 高頻度サポートモードでは第 1 作動口 3 3 よりも特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生する確率が高くなる。そして、特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生した場合には、所定個数の遊技球の払出が実行されるため、第 1 高頻度サポートモード及び第 2 高頻度サポートモードでは遊技者は持ち球をあまり減らさないようにしながら遊技を行うことができる。

40

【 0 5 3 1 】

第 1 作動口 3 3 又は特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生したことに基いて当否判定処理が行われる。そして、当該当否判定処理の結果は特図ユニット 3 7 及び可変表示ユニット 3 6 の図柄表示装置 4 1 における表示演出を通じて明示される。特図ユニット 3 7 には上記第 1 の実施形態と同様に第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b が設けられている。第 1 特図表示部 3 7 a では第 1 作動口 3 3 への入賞が発生することで取得された第 1 保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として上記第 1 の実施形態と同様に大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているが、第 1 特図表示部 3 7 a の停止結果の内容は大当たり結果、時短結果及び外れ

50

結果のそれぞれで相違している。第1特図表示部37aにおける停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第1特図表示部37aにて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、第2特図表示部37bでは特別入賞装置151への入賞が発生することで取得された第2保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として上記第1の実施形態と同様に大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているとともにそれ以外にも小当たり結果が存在している。第2特図表示部37bの停止結果の内容は大当たり結果、時短結果、小当たり結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第2特図表示部37bにおける停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第2特図表示部37bにて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。

10

【0532】

特図ユニット37において、第1特図表示部37aに隣接した位置には第1特図保留表示部37cが設けられている。遊技球が第1作動口33に入賞した個数は最大4個まで保留され、第1特図保留表示部37cの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。一方、第2特図表示部37bに対応する特図保留表示部は設けられていない。遊技球が特別入賞装置151に入賞した個数は第1作動口33と異なり保留記憶されない。つまり、遊技回を開始させることが可能な状況において特別入賞装置151への入賞が発生した場合には第2特図表示部37bにおける遊技回が実行されるものの、遊技回を開始させることができない状況において特別入賞装置151への入賞が発生したとしてもそれに対して遊技回を開始契機となる保留情報は記憶されない。但し、遊技回を開始させることができない状況において特別入賞装置151への入賞が発生した場合であってもそれに対する遊技球の払い出しは実行される。

20

【0533】

第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示範囲は図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。また、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び第1特図保留表示部37cの全体分の表示範囲も、図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。これにより、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び第1特図保留表示部37cよりも図柄表示装置41への遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【0534】

30

第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bにおいて絵柄の変動表示が行われる場合、すなわち遊技回が実行されている場合、図柄表示装置41においてそれに合わせて表示演出が行われる。図柄表示装置41において遊技回用の演出が実行される場合、上記第1の実施形態と同様に図柄列Z1～Z3、第1保留表示領域42a及び状態示唆領域43が設定される。但し、本実施形態では第2保留情報が保留記憶されないため第2保留表示領域42bは表示されない。また、図柄表示装置41では遊技回用の表示演出だけでなく、大当たり結果となった後などに移行する開閉実行モード中の表示演出などが行われる。

【0535】

第1作動口33又は特別入賞装置151への入賞に基づき実行された当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合、当該大当たり結果に対応する遊技回が終了した後に開閉実行モードに移行する。開閉実行モードにおいては特電入賞装置32への入賞が可能となる。図44に示すように、特電入賞装置32は、右側領域PA3において特別入賞装置151の下方であって振分入賞装置161よりも上方の位置に設けられている。つまり、特電入賞装置32は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

40

【0536】

特電入賞装置32は、遊技盤24の背面側へと通じる図示しない大入賞口を備えているとともに、当該大入賞口を開閉する開閉扉32aを備えている。開閉扉32aは閉鎖状態及び開放状態のいずれかに配置される。具体的には、開閉扉32aは、通常は遊技球が入

50

賞できない閉鎖状態になっており、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に遊技球が入賞可能な開放状態に切り換えられるようになっている。なお、閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。また、開閉実行モードの実行内容は上記第1の実施形態と同様である。

【0537】

特別入賞装置151への入賞に基づき実行された当否判定処理にて小当たり結果が選択された場合、当該小当たり結果に対応する遊技回が終了した後に振分実行モードに移行する。振分実行モードにおいては振分入賞装置161への入賞が可能となる。

【0538】

振分入賞装置161は、図44に示すように、右側領域PA3において特別入賞装置151よりも下方の位置に設けられている。つまり、振分入賞装置161は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

【0539】

振分入賞装置161の構成について図44に加えて図46を参照しながら説明する。図46は振分入賞装置161の内部構成を説明するための縦断面図である。

【0540】

振分入賞装置161は、図44に示すように、遊技球が通過可能な大きさの振分入口161aを備えているとともに、当該振分入口161aを遊技球が通過不可である閉鎖状態と遊技球が通過可能である開放状態とに切り換える振分側開閉部材162を備えている。振分側開閉部材162は振分入口用の駆動部163により図示しないリンク機構を通じて駆動されることで開放状態となる。

【0541】

振分入口161aに入賞した遊技球は、図46に示すように、振分入賞装置161のベース体164に形成された分岐通路165に導出される。分岐通路165は、分岐通路165の入口部分から当該分岐通路165の途中位置に亘って通路方向が横方向に下り傾斜となるように設定された上流通路領域165aと、当該上流通路領域165aの下流側端部に連続し通路方向が鉛直下方となるように設定された排出通路領域165bと、当該排出通路領域165bの途中位置から分岐させて設けられ排出通路領域165bとは異なる側に遊技球を導くためのV入賞通路領域165cとを備えている。この場合、上流通路領域165aは通路方向に対して直交する方向の寸法が遊技球1個分以上であって遊技球2個分未満となっているため、通路方向に対して直交する方向に複数の遊技球が並んだ状態で上流通路領域165aを遊技球が通過することが阻止される。よって、排出通路領域165bにおけるV入賞通路領域165cへの分岐位置に複数の遊技球が同時に到達することが阻止される。

【0542】

排出通路領域165bにおけるV入賞通路領域165cへの分岐箇所には、排出通路領域165bに流入した遊技球をV入賞通路領域165cに誘導するための切換片166が設けられている。切換片166は、ベース体164における排出通路領域165bを基準としてV入賞通路領域165c側とは逆側の領域に回動可能に支持されており、排出通路領域165bの外部に全体が退避した退避位置と、排出通路領域165b内に突出したV誘導位置との間で変位可能となっている。切換片166には図示しない伝達ユニットを通じて切換用駆動部167の駆動力が伝達される。切換片166は、切換用駆動部167が非駆動状態である場合には図示しないバネなどの付勢手段の付勢力によって退避位置に配置され、切換用駆動部167が駆動状態となることでその付勢力に抗して切換片166が変位してV誘導位置に配置される。

【0543】

切換片166が退避位置に配置されている場合には、分岐通路165に流入した遊技球はV入賞通路領域165cに誘導されることなく排出通路領域165bを流下する。そし

10

20

30

40

50

て、その遊技球は、排出通路領域 1 6 5 b において切換片 1 6 6 による分岐位置よりも下流に設けられたカウント検知センサ 1 6 8 により検知された後に遊技盤 2 4 の後方に排出される。一方、切換片 1 6 6 が V 誘導位置に配置されている場合には、分岐通路 1 6 5 に流入した遊技球は切換片 1 6 6 により下方から受けられる。V 誘導位置に配置されている状態における切換片 1 6 6 の上面は、V 入賞通路領域 1 6 5 c に向けて下り傾斜となっている。これにより、切換片 1 6 6 により下方から受けられた遊技球は自重により、V 入賞通路領域 1 6 5 c に流入し、当該 V 入賞通路領域 1 6 5 c を流下する。そして、その遊技球は、V 入賞通路領域 1 6 5 c に設けられた V 入賞検知センサ 1 6 9 により検知された後に、遊技盤 2 4 の後方に排出される。

【0 5 4 4】

振分側開閉部材 1 6 2 が開放状態となる場合、当該開放状態に維持される期間は遊技球の発射周期よりも長い期間である 2 秒で一定となっているとともに、振分実行モードにおいて振分入賞装置 1 6 1 に入球可能な遊技球の上限個数は 5 個で一定となっている。また、発射操作装置 2 8 が遊技者により操作されている状況では、0 . 6 s e c に 1 個の遊技球が遊技領域 P A に向けて発射されるように遊技球発射機構 2 7 が駆動制御される。そうすると、振分側開閉部材 1 6 2 が開放状態となった場合に振分入賞装置 1 6 1 に入賞する遊技球の個数は 1 個又は 2 個となることが多く最大でも 3 個程度である。これに対して、切換片 1 6 6 はパチンコ機 1 0 への動作電力の供給が行われた場合に動作が開始され、切換片 1 6 6 は一定の周期で一定の期間に亘って V 誘導位置に配置される。そして、切換片 1 6 6 が V 誘導位置に配置される周期は 4 秒に 1 回であり、さらに V 誘導位置に保持される期間は 1 秒である。したがって、開放状態となった振分入賞装置 1 6 1 に遊技球が入球したとしても当該遊技球が切換片 1 6 6 の位置に到達したタイミングにおいて当該切換片 1 6 6 が V 誘導位置に配置されていないことが想定され、この場合には当該遊技球は V 入賞検知センサ 1 6 9 に検知されない。

【0 5 4 5】

カウント検知センサ 1 6 8 により遊技球が検知された場合及び V 入賞検知センサ 1 6 9 により遊技球が検知された場合のいずれであっても、振分入賞装置 1 6 1 に対応する同一個数の賞球の払い出しが実行される。また、振分実行モードにおいて V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知された場合には、当該振分実行モード後に開閉実行モードが発生する。一方、V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されることなく振分実行モードが終了した場合には開閉実行モードが発生しない。

【0 5 4 6】

本実施形態では振分実行モードが発生した場合であって振分入賞装置 1 6 1 に向けた遊技球の発射が継続されている場合には 1 / 2 の確率で V 入賞検知センサ 1 6 9 における遊技球の検知が発生する。但し、これに限定されることはなく当該確率が 1 / 2 よりも低い確率であってもよく高い確率であってもよい。また、振分実行モードが発生した場合であって振分入賞装置 1 6 1 に向けた遊技球の発射が継続されている場合には 1 0 0 % 又は略 1 0 0 % の確率で V 入賞検知センサ 1 6 9 における遊技球の検知が発生する構成としてもよい。

【0 5 4 7】

図 4 7 は本実施形態における主側 M P U 8 2 にて各種抽選を行うための電氣的な構成を説明するための説明図である。

【0 5 4 8】

本実施形態においても上記第 1 の実施形態と同様に当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3、乱数初期値カウンタ C I N I、変動種別カウンタ C S 及び普電乱数カウンタ C 4 が設けられている。当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3、乱数初期値カウンタ C I N I、変動種別カウンタ C S 及び普電乱数カウンタ C 4 の内容及びこれらカウンタ C 1 ~ C 4、C I N I、C S を利用する処理の内容は上記第 1 の実施形態と同一である。また、スルーゲート 3 5 への入賞が発生した場合に普電乱数カウンタ C 4 の数値情報が普図保留エリア 8 4 c に格納さ

10

20

30

40

50

れる点、及び普図保留エリア 8 4 c の構成は上記第 1 の実施形態と同様である。

【0549】

当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各数値情報は、第 1 作動口 3 3 への入賞が発生した場合に、主側 R A M 8 4 に設けられた第 1 特図用エリア 1 7 1 に格納される。また、当たり乱数カウンタ C 1 及び種別乱数カウンタ C 2 の各数値情報は、特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生した場合に、主側 R A M 8 4 に設けられた第 2 特図用の実行エリア 1 7 4 に格納される。

【0550】

第 1 特図用エリア 1 7 1 は、第 1 エリア 1 7 2 a、第 2 エリア 1 7 2 b、第 3 エリア 1 7 2 c 及び第 4 エリア 1 7 2 d を備えており、第 1 作動口 3 3 への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各数値情報が第 1 保留情報として、いずれかのエリア 1 7 2 a ~ 1 7 2 d に格納される。この場合、第 1 エリア 1 7 2 a ~ 第 4 エリア 1 7 2 d には、第 1 作動口 3 3 への入賞が複数回連続して発生した場合に、第 1 エリア 1 7 2 a → 第 2 エリア 1 7 2 b → 第 3 エリア 1 7 2 c → 第 4 エリア 1 7 2 d の順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように 4 つのエリア 1 7 2 a ~ 1 7 2 d が設けられていることにより、第 1 作動口 3 3 への遊技球の入賞履歴が最大 4 個まで保留記憶されるようになっている。なお、第 1 特図用エリア 1 7 1 において保留記憶可能な数は、4 個に限定されることはなく任意であり、2 個、3 個又は 5 個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【0551】

第 1 特図用エリア 1 7 1 には第 1 エリア 1 7 2 a ~ 第 4 エリア 1 7 2 d 以外にも第 1 特図用の実行エリア 1 7 3 が設けられている。第 1 特図用の実行エリア 1 7 3 は、第 1 特図表示部 3 7 a にて絵柄の変動表示を開始する際に、当否判定処理や各種振分判定処理などを行う対象の第 1 保留情報が格納されるエリアである。第 1 特図用の実行エリア 1 7 3 には、第 1 特図表示部 3 7 a の変動表示を開始する際に第 1 エリア 1 7 2 a に格納された保留情報がシフトされる。

【0552】

第 2 特図用の実行エリア 1 7 4 には、遊技回を開始させることが可能な状況において特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生した場合に当たり乱数カウンタ C 1 及び種別乱数カウンタ C 2 の各数値情報が第 2 保留情報として格納される。ここで、第 1 特図用エリア 1 7 1 には既に説明したとおり第 1 ~ 第 4 エリア 1 7 2 a ~ 1 7 2 d が設けられており、遊技回を開始させることが不可な状況であっても第 1 保留情報が保留記憶される構成であるのに対して、第 2 保留情報については第 2 特図用の実行エリア 1 7 4 のみが設けられており当該第 2 保留情報を保留記憶するためのエリアは設けられていない。これにより、第 1 保留情報と第 2 保留情報とで保留記憶の有無の扱いを異ならせることが可能となる。また、第 2 保留情報が契機となった遊技回においては最終的に外れとなるリーチ演出が発生しないため、第 1 保留情報にはリーチ乱数カウンタ C 3 の数値情報が含まれるのに対して、第 2 保留情報にはリーチ乱数カウンタ C 3 の数値情報は含まれない。但し、これに限定されることはなく第 2 保留情報にリーチ乱数カウンタ C 3 の数値情報が含まれる構成としてもよい。

【0553】

当たり乱数カウンタ C 1 を利用して当否判定処理が実行されることとなる。上記第 1 の実施形態では当否抽選モードとして低確率モードと高確率モードとが設定されていたが、本実施形態では当否抽選モードは 1 種類のみとなっている。

【0554】

第 1 保留情報に対して当否判定処理が実行される場合、主側 R O M 8 3 に記憶された第 1 当否テーブル 1 8 1 が参照される。図 4 8 (a) は使用対象として設定されている設定値が「設定 3」である場合における第 1 当否テーブル 1 8 1 を説明するための説明図である。図 4 8 (a) に示すように第 1 当否テーブル 1 8 1 には当否判定処理の結果として、大当たり結果、時短結果及び外れ結果が設定されている。なお、「設定 3」以外の設定値

に対応する第1当否テーブル181であっても大当たり結果、時短結果及び外れ結果が設定されている。大当たり結果に対応させて設定されている当たり乱数カウンタC1の数値情報の数が上記第1の実施形態と同様に各設定値で相違しており、時短結果に対応させて設定されている当たり乱数カウンタC1の数値情報の数が各設定値で同一となっている。

【0555】

第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合、主側ROM83に記憶された第2当否テーブル182が参照される。図48(b)は使用対象として設定されている設定値が「設定3」である場合における第2当否テーブル182を説明するための説明図である。図48(b)に示すように第2当否テーブル182には当否判定処理の結果として、大当たり結果、時短結果及び外れ結果が設定されているとともに、さらに小当たり結果が設定されている。なお、「設定3」以外の設定値に対応する第2当否テーブル182であっても大当たり結果、時短結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。大当たり結果に対応させて設定されている当たり乱数カウンタC1の数値情報の数が上記第1の実施形態と同様に各設定値で相違しており、時短結果及び小当たり結果のそれぞれに対応させて設定されている当たり乱数カウンタC1の数値情報の数が各設定値で同一となっている。

10

【0556】

当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合、種別乱数カウンタC2を利用して大当たり結果の種類が選択される。この大当たり結果の種類を決定するための大当たり用の振分判定処理が実行される場合、主側ROM83に記憶された大当たり振分テーブル183が参照される。図48(c)は大当たり振分テーブル183を説明するための説明図である。図48(c)に示すように大当たり振分テーブル183には大当たり用の振分判定処理の結果として、低頻度大当たり結果と高頻度大当たり結果とが設定されている。

20

【0557】

低頻度大当たり結果は開閉実行モードの移行契機となる。低頻度大当たり結果を契機とした開閉実行モードではラウンド遊技の実行回数が10回となる。また、開閉実行モードの終了後のサポートモードが低頻度サポートモードとなる。この場合の低頻度サポートモードは少なくとも次の開閉実行モードが発生するまで継続する。

【0558】

高頻度大当たり結果は開閉実行モードの移行契機となる。高頻度大当たり結果を契機とした開閉実行モードではラウンド遊技の実行回数が10回となる。また、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる。この場合の第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく10回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

30

【0559】

大当たり振分テーブル183は、第1保留情報に対する当否判定処理の結果が大当たり結果となった場合、及び第2保留情報に対する当否判定処理の結果が大当たり結果となった場合のいずれであっても参照される。また、いずれの設定値であっても同一の大当たり振分テーブル183が参照される。大当たり振分テーブル183は2/3の確率で低頻度大当たり結果が選択され1/3の確率で高頻度大当たり結果が選択されるように設定されているが、これらの選択確率は任意である。

40

【0560】

当否判定処理にて時短結果が選択された場合、種別乱数カウンタC2を利用して時短結果の種類が選択される。この時短結果の種類を決定するための時短用の振分判定処理が実行される場合、主側ROM83に記憶された時短振分テーブル184が参照される。図48(d)は時短振分テーブル184を説明するための説明図である。図48(d)に示すように時短振分テーブル184には時短用の振分判定処理の結果として、第1時短結果と第2時短結果とが設定されている。

【0561】

50

第1時短結果は、開閉実行モードの移行契機となることはなく、サポートモードを第2高頻度サポートモードとする時短結果である。この場合の第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく第1時短継続回数である10回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

【0562】

第2時短結果は、開閉実行モードの移行契機となることはなく、サポートモードを第2高頻度サポートモードとする時短結果である。この場合の第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく第2時短継続回数である15回の遊技回が消化された場合に終了する。15回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。つまり、第2時短結果の方が第1時短結果よりも第2高頻度サポートモードが継続する遊技回の実行回数が多い。したがって、第2時短結果の方が第1時短結果よりも遊技者にとって有利である。

【0563】

なお、本実施形態であっても天井時短が存在している。天井時短を契機として第2高頻度サポートモードが設定された場合、第1時短結果の場合と同様に、第2高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく第1時短継続回数である10回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

【0564】

時短振分テーブル184は、第1保留情報に対する当否判定処理の結果が時短結果となった場合、及び第2保留情報に対する当否判定処理の結果が時短結果となった場合のいずれであっても参照される。また、いずれの設定値であっても同一の時短振分テーブル184が参照される。時短振分テーブル184は2/3の確率で第1時短結果が選択され1/3の確率で第2時短結果が選択されるように設定されているが、これらの選択確率は任意である。

【0565】

当否判定処理にて小当たり結果が選択された場合、種別乱数カウンタC2を利用して小当たり結果の種類が選択される。この小当たり結果の種類を決定するための小当たり用の振分判定処理が実行される場合、主側ROM83に記憶された小当たり振分テーブル185が参照される。図48(e)は小当たり振分テーブル185を説明するための説明図である。図48(e)に示すように小当たり振分テーブル185には小当たり用の振分判定処理の結果として、第1小当たり結果と第2小当たり結果と第3小当たり結果とが設定されている。

【0566】

これら第1～第3小当たり結果はいずれも振分実行モードへの移行契機となる。振分実行モードにおいては既に説明したとおり振分入賞装置161が開放状態となる。当該振分入賞装置161に入球した遊技球がV入賞通路領域165cに流入してV入賞検知センサ169にて検知されることで、振分実行モード後に開閉実行モードに移行する。そして、開閉実行モードの終了後は小当たり結果の種類に応じたサポートモードとなる。図48(f)は各小当たり結果に対応する開閉実行モード及びサポートモードの組合せを説明するための説明図である。

【0567】

第1小当たり結果は、振分実行モードにおいてV入賞検知センサ169における遊技球の検知が発生して移行した開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が1回となる小当たり結果である。また、開閉実行モードの終了後のサポートモードが低頻度サポートモードとなる。

【0568】

第2小当たり結果は、振分実行モードにおいてV入賞検知センサ169における遊技球の検知が発生して移行した開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が4回となる

10

20

30

40

50

小当たり結果である。また、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる。この場合の第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく10回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

【0569】

第3小当たり結果は、振分実行モードにおいてV入賞検知センサ169における遊技球の検知が発生して移行した開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数が9回となる小当たり結果である。また、開閉実行モードの終了後のサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる。この場合の第1高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく10回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。

10

【0570】

小当たり振分テーブル185は図48(e)に示すように、第1保留情報に対する当否判定処理の結果が小当たり結果となった場合、及び第2保留情報に対する当否判定処理の結果が小当たり結果となった場合のいずれであっても参照される。また、いずれの設定値であっても同一の小当たり振分テーブル185が参照される。小当たり振分テーブル185は1/3の確率で第1小当たり結果が選択され1/3の確率で第2小当たり結果が選択され1/3の確率で第3小当たり結果が選択されるように設定されているが、これらの選択確率は任意である。

【0571】

20

図49は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図特電制御処理を示すフローチャートである。

【0572】

まず保留情報の取得処理を実行する(ステップS2701)。図50は保留情報の取得処理を示すフローチャートである。第1作動口33への入賞が発生している場合(ステップS2801: YES)、第1特図用エリア171の第1エリア172a~第4エリア172dに記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数である4個未満であることを条件として(ステップS2802: NO)、第1特図用エリア171への格納処理を実行する(ステップS2803)。当該格納処理では、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各数値情報を第1保留情報として、第1特図用エリア171の第1エリア172a~第4エリア172dにおける第1保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第1保留情報を取得した場合には、第1保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第1特図保留表示部37cの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第1保留情報を取得した場合にはそれに対応するコマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41における第1保留表示領域42aの画像が第1保留情報の新たな取得に対応させて更新される。

30

【0573】

ステップS2801にて否定判定をした場合、ステップS2802にて否定判定をした場合又はステップS2803の処理を実行した場合、特別入賞装置151への入賞が発生しているか否かを判定する(ステップS2804)。ステップS2804にて肯定判定をした場合、現状が遊技回、振分実行モード及び開閉実行モードのいずれもが実行されていない状況であることを条件として(ステップS2805: YES)、第2特図用の実行エリア174への格納処理を実行する(ステップS2806)。当該格納処理では、当たり乱数カウンタC1及び種別乱数カウンタC2の各数値情報を第2保留情報として、第2特図用の実行エリア174に格納する。つまり、第2保留情報は、第1保留情報を契機とした遊技回、第2保留情報を契機とした遊技回、振分実行モード及び開閉実行モードのいずれもが実行されていない状況においてのみ取得される。そして、詳細は後述するように当否判定処理の実行に関して、換言すれば遊技回の実行に関して、第2保留情報は第1保留情報よりも実行契機として優先されるため、第2保留情報が第2特図用の実行エリア17

40

50

4に格納された場合には即座に当該第2保留情報を契機とした当否判定処理が実行され、当該第2保留情報を契機とした遊技回が開始される。なお、第2保留情報が記憶されている個数を報知するための第2特図保留表示部は設けられておらず、さらに図柄表示装置41において第2保留情報の保留記憶数を報知するための画像は表示されない。

【0574】

特図特電制御処理（図49）の説明に戻り、ステップS2701にて保留情報の取得処理を実行した後は、主側ROM83に記憶されている特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップS2702）。特図特電アドレステーブルには、特図特電カウンタの数値情報に対応する処理を実行するためのプログラムの開始アドレスが設定されている。特図特電カウンタは、特図特電制御処理にて実行すべき処理内容を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

10

【0575】

特図特電カウンタは「0」～「8」の値を取り得るものであり、「0」～「8」の各値は各処理（ステップS2705～ステップS2713）の開始アドレスに対応している。具体的には、特図特電カウンタの値が「0」である場合には遊技回用の演出を開始させるための処理である特図変動開始処理（ステップS2705）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「1」である場合には遊技回用の演出を進行させるための処理である特図変動中処理（ステップS2706）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「2」である場合には遊技回用の演出を終了させるための処理である特図確定中処理（ステップS2707）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「3」である場合には振分実行モードの開始設定を行うための処理である振分開始用処理（ステップS2708）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「4」である場合には振分実行モード中の各種処理を実行するための振分用処理（ステップS2709）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「5」である場合には開閉実行モードのオープニングを制御するための処理である特電開始処理（ステップS2710）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「6」である場合には特電入賞装置32の開放中の状態を制御するための処理である特電開放中処理（ステップS2711）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「7」である場合には特電入賞装置32の閉鎖中の状態を制御するための処理である特電閉鎖中処理（ステップS2712）が実行対象となり、特図特電カウンタの値が「8」である場合には開閉実行モードのエンディング及び開閉実行モード終了時の遊技状態の移行を制御するための処理である特電終了処理（ステップS2713）が実行対象となる。

20

30

【0576】

特図特電制御処理では、特図特電アドレステーブルを読み出した後は（ステップS2702）、特図特電カウンタの情報に対応した開始アドレスを特図特電アドレステーブルから取得し（ステップS2703）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップS2704）。以下、ステップS2705～ステップS2713の各処理について個別に説明する。

【0577】

<特図変動開始処理>

まずステップS2705の特図変動開始処理について、図51のフローチャートを参照しながら説明する。

40

【0578】

特図変動開始処理では、第1保留情報又は第2保留情報が記憶されていることを条件として（ステップS2901：YES）、データ設定処理を実行する（ステップS2902）。データ設定処理では、第2特図用の実行エリア174に第2保留情報が記憶されている場合、第1特図用エリア171に当該第2保留情報よりも先に取得された第1保留情報が取得されているか否かに関係なく、第2特図用の実行エリア174に記憶されている第2保留情報を実行対象として設定する。これにより、第2保留情報を第1保留情報よりも当否判定処理の実行契機として優先させることが可能となるとともに、遊技回の実行契機として優先させることが可能となる。なお、第2特図用の実行エリア174に記憶された

50

第2保留情報は当該第2保留情報を契機とした遊技回が終了した場合に消去される。

【0579】

一方、データ設定処理では、第2特図用の実行エリア174に第2保留情報が記憶されていない場合、第1特図用エリア171の第1エリア172aに格納されたデータを第1特図用の実行エリア173に移動する。その後、第1特図用エリア171の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア172a～172dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であって、第2エリア172b→第1エリア172a、第3エリア172c→第2エリア172b、第4エリア172d→第3エリア172cといった具合に各エリア内のデータがシフトされた後に第4エリア172dが「0」クリアされる。また、データ設定処理では、第1特図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて第1特図保留表示部37cの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、データ設定処理では、保留減少コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41における第1保留表示領域42aの画像が第1保留情報の減少に対応させて更新される。

【0580】

データ設定処理を実行した後は当否判定処理を実行する（ステップS2903）。当否判定処理では、今回の遊技回の実行対象が第1保留情報であれば現状の設定値に対応する第1当否テーブル181（図48（a）参照）を主側ROM83から読み出し、今回の遊技回の実行対象が第2保留情報であれば現状の設定に対応する第2当否テーブル182（図48（b）参照）を主側ROM83から読み出す。なお、既に説明したとおり当否抽選モードは1種類である。当否テーブル181、182を読み出した後は、第1保留情報が今回の遊技回の契機である場合には第1特図用の実行エリア173に格納されている当たり乱数カウンタC1についての数値情報を読み出し、第2保留情報が今回の遊技回の契機である場合には第2特図用の実行エリア174に格納されている当たり乱数カウンタC1についての数値情報を読み出す。そして、その読み出した当たり乱数カウンタC1についての数値情報が上記当否テーブル181に、182に設定されている遊技結果のいずれと一致しているのかを判定する。

【0581】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップS2904：YES）、大当たり結果用の処理を実行する（ステップS2905）。大当たり結果用の処理では、上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS807～ステップS809と同一の処理を実行する。但し、大当たり用の振分判定処理では遊技回の開始対象となっている保留情報の種類及び設定値に関係なく図48（c）に示す大当たり振分テーブル183を参照する。この場合、第1保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第1特図用の実行エリア173に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が大当たり振分テーブル183に設定されている大当たり結果のいずれと一致しているのかを判定する。また、第2保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第2特図用の実行エリア174に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が大当たり振分テーブル183に設定されている大当たり結果のいずれと一致しているのかを判定する。また、大当たり用のフラグセット処理では、大当たり用の振分判定処理にて、低頻度大当たり結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行い、高頻度大当たり結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行う。また、大当たり結果用の停止結果設定処理では、大当たり用の振分判定処理にて、低頻度大当たり結果が選択された場合にはそれに対応する停止結果の情報を主側RAM84に記憶し、高頻度大当たり結果が選択された場合にはそれに対応する停止結果の情報を主側RAM84に記憶する。

【0582】

当否判定処理の結果が時短結果である場合（ステップS2906：YES）、時短結果用の処理を実行する（ステップS2907）。時短結果用の処理では、上記第1の実施形態における特図変動開始処理（図20）のステップS811～ステップS813と同一の

10

20

30

40

50

処理を実行する。但し、時短用の振分判定処理では遊技回の開始対象となっている保留情報の種類及び設定値に関係なく図48(d)に示す時短振分テーブル184を参照する。この場合、第1保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第1特図用の実行エリア173に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が時短振分テーブル184に設定されている時短結果のいずれと一致しているのかを判定する。また、第2保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第2特図用の実行エリア174に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が時短振分テーブル184に設定されている時短結果のいずれと一致しているのかを判定する。また、時短用のフラグセット処理では、時短用の振分判定処理にて、第1時短結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行い、第2時短結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行う。また、時短結果用の停止結果設定処理では、時短用の振分判定処理にて、第1時短結果が選択された場合にはそれに対応する停止結果の情報を主側RAM84に記憶し、第2時短結果が選択された場合にはそれに対応する停止結果の情報を主側RAM84に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

10

【0583】

当否判定処理の結果が小当たり結果である場合(ステップS2908: YES)、小当たり用の振分判定処理を実行する(ステップS2909)。小当たり用の振分判定処理では、遊技回の開始対象となっている保留情報の種類及び設定値に関係なく図48(e)に示す小当たり振分テーブル185を参照する。この場合、第1保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第1特図用の実行エリア173に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が小当たり振分テーブル185に設定されている小当たり結果のいずれと一致しているのかを判定する。また、第2保留情報が遊技回の開始対象となっている場合には第2特図用の実行エリア174に格納されている種別乱数カウンタC2についての数値情報が小当たり振分テーブル185に設定されている小当たり結果のいずれと一致しているのかを判定する。

20

【0584】

その後、小当たり用のフラグセット処理を実行する(ステップS2910)。小当たり用のフラグセット処理では、ステップS2909における小当たり用の振分判定処理にて、第1小当たり結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行い、第2小当たり結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行い、第3小当たり結果が選択された場合にはそれに対応するフラグのセットを行う。

30

【0585】

その後、小当たり結果用の停止結果設定処理を実行する(ステップS2911)。小当たり結果用の停止結果設定処理では、第2特図表示部37bに今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている小当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この小当たり結果用の停止結果テーブルには、第2特図表示部37bに停止表示される絵柄の停止態様の種類が、小当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップS2911では、ステップS2909にて特定した小当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側RAM84に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっていると同時に時短結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。なお、各小当たり結果に1対1で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の小当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。

40

【0586】

当否判定処理の結果が外れ結果である場合(ステップS2908: NO)、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する(ステップS2912)。具体的には、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち遊技回の実行対象となっている側に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶され

50

ている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報、時短結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び小当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【0587】

いずれかの停止結果設定処理を実行した後は、変動表示期間の特定処理を実行する（ステップS2913）。変動表示期間の特定処理では、現状が第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードであれば、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を高頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、今回の遊技回において小当たり結果が発生する場合には、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を高頻度サポート用のテーブル群における小当たり対応のテーブルに対して照合することで、小当たり態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、今回の遊技回において大当たり結果、外れリーチ表示及び小当たり結果が発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。一方、今回の遊技回において大当たり結果、外れリーチ表示及び小当たり結果が発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。

【0588】

現状が低頻度サポートモードであれば、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、今回の遊技回において小当たり結果が発生する場合には、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における小当たり対応のテーブルに対して照合することで、小当たり態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合には、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における時短対応のテーブルに対して照合することで、時短態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、今回の遊技回において大当たり結果、外れリーチ表示、小当たり結果及び時短結果が発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最長期間（具体的には10分）の情報を読み出す。これにより、低頻度サポートモードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を低下させることが可能となる。一方、今回の遊技回において大当たり結果、外れリーチ表示、小当たり結果及び時短結果が発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、第1特図用エリア171に3個以上の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出し、第1特図用エリア171に1個又は2個の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルに対して照合することで、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。

【0589】

ステップS2913にて変動表示期間の特定処理を実行した後は、今回の開始対象とな

10

20

30

40

50

っている遊技回に対応する変動用コマンド及び種別コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS2914）。変動用コマンドには、ステップS2913にて特定された変動表示期間の情報が含まれるとともに開始対象となっている遊技回が第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうちいずれに対応しているのかを示す情報が含まれる。なお、変動用コマンドにはリーチ表示を実行するか否かの情報が含まれていないが、リーチ表示が発生する場合の変動表示期間はリーチ表示が発生しない場合の変動表示期間よりも長い期間として設定されているため、音光側MPU93は変動表示期間の情報からリーチ表示の発生の有無を特定することが可能となる。種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、大当たり結果に対応している場合にはいずれの種類の当たり結果であるかを示す情報が含まれる。また、種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が時短結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、時短結果に対応している場合にはいずれの種類の時短結果であるかを示す情報が含まれる。また、種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が小当たり結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、小当たり結果に対応している場合にはいずれの種類の小当たり結果であるかを示す情報が含まれる。

10

【0590】

その後、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち今回の遊技回の開始対象となっている表示部において、絵柄の変動表示を開始させる（ステップS2915）。そして、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS2916）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップS2706）に対応する「1」となる。

20

【0591】

<特図変動中処理>

次に、特図特電制御処理（図49）のステップS2706にて実行される特図変動中処理について説明する。

【0592】

特図側タイマカウンタの値が1以上であり今回の遊技回の変動表示期間が経過していない場合であって、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部37a、37bの表示内容の更新タイミングである場合、当該特図表示部37a、37bの表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、制御対象の特図表示部37a、37bにおける絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。

30

【0593】

特図表示部37a、37bにおける絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定結果及び振分判定結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置41における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が1周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、変動表示期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部37a、37bを表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。

40

【0594】

一方、特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわち変動表示期間が経過している場合、最終停止コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、遊技回の開始時に特図変動開始処理（図51）におけるステップS2905、ステップS2907、ステップS2911及びステップS2912のいずれかにて主側RAM84に記憶された特図表示部37a、37bの絵柄の停止態様の情報を読み出す。これにより、制御対象の特図表示部37a、37bにおいて今回の遊技回の遊技結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。その後、特図側タイマカウンタに、最終停止期間（具体的には0.5sec）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。その後、特図特電カウンタの値を1加算する。これにより、特図特電カウンタの値は

50

特図確定中処理（ステップS2707）に対応する「2」となる。

【0595】

なお、音光側MPU93は最終停止コマンドを受信した場合、それに対応したコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103は当該コマンドを受信した場合、今回の遊技回の停止結果に対応する図柄の組合せを最終停止期間に亘って図柄表示装置41にて確定表示させる。

【0596】

＜特図確定中処理＞

次に、特図特電制御処理（図49）のステップS2707にて実行される特図確定中処理について、図52のフローチャートを参照しながら説明する。

【0597】

特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップS3001：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップS3002：YES）、オープニング期間に対応する情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップS3003）、オープニングコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS3004）。音光側MPU93はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて行われるようにする。その後、特図特電カウンタの値を3加算する（ステップS3005）。これにより、特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップS2710）に対応する「5」となる。

【0598】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS3002：NO）、ステップS3006にて時短状態カウンタ134の減算処理を実行し、ステップS3007にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS3008にて天井カウンタ131の減算処理を実行する。ステップS3006における時短状態カウンタ134の減算処理は、高確率モードが存在していないことに伴ってステップS1601の処理が実行されないことを除き、上記第1の実施形態における時短状態カウンタ134の減算処理（図30）と同一である。また、ステップS3007における時短結果用の設定処理は、高確率モードが存在していないことに伴ってステップS1302の処理が実行されないことを除き、上記第1の実施形態における時短結果用の設定処理（図25）と同一である。また、ステップS3008における天井カウンタ131の減算処理は、高確率モードが存在していないことに伴ってステップS1501の処理が実行されないこと、及び天井時短を契機として第2高頻度サポートモードが発生する場合には時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である10回の情報をセットすることを除き、上記第1の実施形態における天井カウンタ131の減算処理（図29）と同一である。

【0599】

その後、今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果であるか否かを判定する（ステップS3009）。今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果である場合（ステップS3009：YES）、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS3010）。これにより、特図特電カウンタの値は振分開始用処理（ステップS2708）に対応する「3」となる。今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果ではない場合（ステップS3009：NO）、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS3011）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS2705）に対応する「0」となる。

【0600】

＜振分開始用処理＞

次に、特図特電制御処理（図49）のステップS2708にて実行される振分開始用処理について説明する。

【0601】

まず振分開始コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は、主側MPU82から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モード中であることを示す演出が

10

20

30

40

50

実行されるように表示発光部 6 4 の発光制御及びスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。また、音光側 M P U 9 3 は表示側 M P U 1 0 3 に振分開始コマンドを送信する。表示側 M P U 1 0 3 は、音光側 M P U 9 3 から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モードが開始されたことを示す表示演出が実行された後に、振分実行モード中であることを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置 4 1 を表示制御する。

【 0 6 0 2 】

その後、主側 R A M 8 4 に設けられた振分入賞カウンタに「 5 」をセットする。振分入賞カウンタは、振分実行モードにおいて開放状態となっている振分入賞装置 1 6 1 に入球した遊技球の個数との関係で当該振分入賞装置 1 6 1 を開放状態から閉鎖状態に切り換える契機を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。また、振分開放期間のセット処理を実行する。振分開放期間のセット処理では、振分入賞装置 1 6 1 が開放状態に維持される期間が振分開放期間である 2 秒となるように当該 2 秒に対応する情報を主側 R A M 8 4 のタイマカウンタにセットする。そして、振分入賞装置 1 6 1 を開放状態とするために振分入口用の駆動部 1 6 3 への駆動信号の出力を開始する。その後、特図特電カウンタの値を 1 加算する。これにより、特図特電カウンタの値は振分用処理（ステップ S 2 7 0 9）に対応する「 4 」となる。

【 0 6 0 3 】

＜振分用処理＞

次に、特図特電制御処理（図 4 9）のステップ S 2 7 0 9 にて実行される振分用処理について説明する。

【 0 6 0 4 】

振分入賞装置 1 6 1 の V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されている場合、主側 R A M 8 4 に設けられた V 入賞フラグに「 1 」をセットする。V 入賞フラグは、V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。また、V 入賞コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する。音光側 M P U 9 3 は主側 M P U 8 2 から V 入賞コマンドを受信した場合、V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されたことに対応する演出が実行されるように表示発光部 6 4 の発光制御及びスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。また、音光側 M P U 9 3 は表示側 M P U 1 0 3 に V 入賞コマンドを送信する。表示側 M P U 1 0 3 は、音光側 M P U 9 3 から V 入賞コマンドを受信した場合、V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されたことを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置 4 1 を表示制御する。

【 0 6 0 5 】

振分用処理では、振分入賞装置 1 6 1 が開放状態である状況において主側 R A M 8 4 のタイマカウンタを利用して計測している振分開放期間が経過したか否かを判定する。振分開放期間が経過していない場合、振分入賞装置 1 6 1 のカウント検知センサ 1 6 8 又は V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されたか否かを判定することで振分入賞装置 1 6 1 への入賞が発生したか否かを判定する。振分入賞装置 1 6 1 への入賞が発生している場合、主側 R A M 8 4 の振分入賞カウンタの値を 1 減算する。そして、その 1 減算後における振分入賞カウンタの値が「 0 」であるか否かを判定する。

【 0 6 0 6 】

振分開放期間が経過している場合又は 1 減算後における振分入賞カウンタの値が「 0 」である場合、振分入賞装置 1 6 1 の閉鎖条件が成立しているため、振分入口用の駆動部 1 6 3 への駆動信号の出力を停止することで振分入賞装置 1 6 1 を閉鎖状態とする。その後、振分入賞装置 1 6 1 内に確実に遊技球が存在しなくなるまで振分実行モードの終了を待機するために、主側 R A M 8 4 のタイマカウンタに待機期間に対応する情報をセットする。待機期間は、振分入賞装置 1 6 1 に入球した遊技球がカウント検知センサ 1 6 8 及び V 入賞検知センサ 1 6 9 のいずれかに検知されるまでに要する最長期間よりも長い期間として設定されている。具体的には 4 秒に設定されている。このように待機期間が経過するまで振分実行モードの終了を待機することで、振分入賞装置 1 6 1 を閉鎖状態とする直前に当該振分入賞装置 1 6 1 に入球した遊技球が仮に V 入賞検知センサ 1 6 9 にて検知された

場合にそれを有効なものとして扱うことが可能となる。

【0607】

振分用処理では、主側RAM84のタイマカウンタにて計測している待機期間が経過したか否かを判定する。待機期間が経過した場合、主側RAM84のV入賞フラグに「1」がセットされているか否かを判定する。V入賞フラグに「1」がセットされている場合、開閉実行モードに移行させるための処理を実行する。具体的には、遊技盤24に設けられた特別表示部191の表示開始処理を実行する。当該表示開始処理では、特別表示部191の表示状態が開閉実行モードの実行に対応する所定の表示状態となるように当該特別表示部191を表示制御する。その後、特図確定中処理（図52）におけるステップS3003～ステップS3005と同一の処理を実行する。これにより、開閉実行モードのオープニング期間が開始されるとともに、特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップS2710）に対応する「5」となる。なお、特図確定中処理（図52）においても開閉実行モードに移行させるための処理を実行する場合に特別表示部191の表示態様が開閉実行モードの実行に対応する所定の表示状態となるように当該特別表示部191を表示制御する構成としてもよい。

10

【0608】

一方、主側RAM84のV入賞フラグに「1」がセットされていない場合、フラグクリア処理を実行する。フラグクリア処理では、今回の遊技回において利用した主側RAM84の各種フラグを「0」クリアする。例えば、振分実行モードにおいては主側RAM84の第1～第3小当たりフラグのいずれかに「1」がセットされているが、その「1」がセットされているフラグを「0」クリアする。その後、特図特電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS2705）に対応する「0」となる。

20

【0609】

ここで、振分実行モードに移行したもののV入賞検知センサ169にて遊技球が検知されなかった場合、サポートモードに移行させるための処理は実行されない。これにより、振分実行モードに移行したもののその後に開閉実行モードが発生しない場合には、振分実行モードの契機となった小当たり結果の種類に対応するサポートモード及び遊技回の継続期間テーブルの設定が行われなくすることが可能となる。そして、振分実行モードの終了後には振分実行モードの開始前におけるサポートモードが維持される。

30

【0610】

第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいては、小当たり結果の遊技回が実行された場合には時短状態カウンタ134の減算処理（ステップS3006）にて時短状態カウンタ134の値が1減算されているとともにその1減算後における時短状態カウンタ134の値が「0」である場合には低頻度サポートモードに移行させるための処理が実行されるため、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて小当たり結果の遊技回が開始されたとしても、振分実行モードにおいては低頻度サポートモードとなっていることがあり得る。この場合、振分実行モード後に開閉実行モードが発生しない場合には低頻度サポートモードの状況で新たな遊技回が実行されることになる。

40

【0611】

小当たり結果の遊技回であっても天井カウンタ131の減算処理（ステップS3008）にて天井カウンタ131の値を1減算する処理が実行されるとともにその1減算後における天井カウンタ131の値が「0」である場合には天井時短を契機として第2高頻度サポートモードに移行させるための処理が実行されるため、低頻度サポートモードにおいて小当たり結果の遊技回が開始されたとしても、振分実行モードにおいては第2高頻度サポートモードとなっていることがあり得る。この場合、振分実行モード後に開閉実行モードが発生しない場合には第2高頻度サポートモードの状況で新たな遊技回が実行されることになる。

【0612】

50

＜特電開始処理＞

次に、特図特電制御処理（図４９）のステップＳ２７１０にて実行される特電開始処理について説明する。

【０６１３】

特図側タイマカウンタの値が「０」であること、すなわちオープニング期間が経過していることを条件として、開閉回数の設定処理を実行する。この場合、今回の遊技結果が低頻度大当たり結果又は高頻度大当たり結果であれば主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタに「１０」をセットし、今回の遊技結果が第１小当たり結果であれば主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタに「１」をセットし、今回の遊技結果が第２小当たり結果であれば主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタに「４」をセットし、今回の遊技結果が第３小当たり結果であれば主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタに「９」をセットする。ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおける残りのラウンド遊技の回数を主側ＭＰＵ８２にて特定するためのカウンタである。また、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）を特図側タイマカウンタにセットする。また、主側ＲＡＭ８４の入賞カウンタに「１０」をセットする。入賞カウンタは、入賞上限個数の残り個数を主側ＭＰＵ８２にて特定するためのカウンタである。また、特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置３２を開放状態とする。その後、特図特電カウンタの値を１加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップＳ２７１１）に対応する「６」となる。

【０６１４】

＜特電開放中処理＞

次に、特図特電制御処理（図４９）のステップＳ２７１１にて実行される特電開放中処理について説明する。

【０６１５】

特図側タイマカウンタの値が「０」である場合、すなわち開放継続期間が経過している場合、主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタの値を１減算するとともに特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力が停止されるようにすることで特電入賞装置３２を閉鎖状態とする。また、特電入賞装置３２への遊技球の入球が発生している場合には入賞カウンタの値を１減算し、１減算後における入賞カウンタの値が「０」である場合には主側ＲＡＭ８４のラウンドカウンタの値を１減算するとともに特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力が停止されるようにすることで特電入賞装置３２を閉鎖状態とする。また、ラウンドカウンタの値を１減算した場合、その１減算後のラウンドカウンタの値が１以上であれば、インターバル期間の情報（具体的には３秒）を特図側タイマカウンタにセットした後に、特図特電カウンタの値を１加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電閉鎖中処理（ステップＳ２７１２）に対応する「７」となる。一方、１減算後のラウンドカウンタの値が「０」であれば、エンディング期間の情報（具体的には５秒）を特図側タイマカウンタにセットするとともに、エンディングコマンドを音光側ＭＰＵ９３に送信した後に、特図特電カウンタの値を２加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電終了処理（ステップＳ２７１３）に対応する「８」となる。なお、音光側ＭＰＵ９３はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング期間に対応する演出が、図柄表示装置４１、表示発光部６４及びスピーカ部６５にて行われるようにする。

【０６１６】

＜特電閉鎖中処理＞

次に、特図特電制御処理（図４９）のステップＳ２７１２にて実行される特電閉鎖中処理について説明する。

【０６１７】

特図側タイマカウンタの値が「０」である場合、すなわちインターバル期間が経過している場合、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）を特図側タイマカウンタにセットする。また、主側ＲＡＭ８４の入賞カウンタに「１０」をセットする。また、特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置３

2を開放状態とする。その後、特図特電カウンタの値を1減算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップS2711）に対応する「6」となる。

【0618】

＜特電終了処理＞

次に、特図特電制御処理（図49）のステップS2713にて実行される特電終了処理について、図53のフローチャートを参照しながら説明する。

【0619】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップS3101：YES）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が高頻度大当たり結果、第2小当たり結果又は第3小当たり結果である場合には（ステップS3102：YES）、主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」をセットするとともに（ステップS3103）、主側RAM84の第2高頻度フラグを「0」クリアする（ステップS3104）。第1高頻度フラグは既に説明したとおりサポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第2高頻度フラグは既に説明したとおりサポートモードが第2高頻度サポートモードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第1高頻度フラグに「1」がセットされ第2高頻度フラグが「0」クリアされることでサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる。

【0620】

その後、主側RAM84の時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である「10」の情報をセットする（ステップS3105）。時短状態カウンタ134は高頻度サポートモード（第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモード）の残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。これにより、第1時短継続回数である10回の遊技回が消化されるまでは第1高頻度サポートモードに維持される。第1高頻度サポートモードにおいては特別入賞装置151が高頻度で開放状態となる。特別入賞装置151への遊技球の入球が発生することで、高い確率で小当たり結果が選択され、小当たり結果が選択されることで振分実行モードが実行される。そして、振分実行モードにおいて振分入賞装置161のV入賞検知センサ169にて遊技球が検知されることで開閉実行モードが発生する。

【0621】

ここで、当否判定処理の結果が第1時短結果となることで第2高頻度サポートモードに設定される場合には時短状態カウンタ134に第1時短継続回数である「10」の情報がセットされるのに対して、当否判定処理の結果が第2時短結果となることで第2高頻度サポートモードに設定される場合には時短状態カウンタ134に第1時短継続回数よりも多い第2時短継続回数である「15」の情報がセットされる。つまり、第2時短結果となることで第2高頻度サポートモードに設定される場合には大当たり結果又は小当たり結果を契機として第1高頻度サポートモードが設定される場合よりも多い回数の時短継続回数が設定される。これにより、当否判定処理の結果が第2時短結果となることの有利度を高めることが可能となる。

【0622】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が低頻度大当たり結果又は第1小当たり結果である場合には（ステップS3102：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方を「0」クリアする（ステップS3106）。また、主側RAM84の時短状態カウンタ134を「0」クリアする（ステップS3107）。これにより、サポートモードが低頻度サポートモードとなる。

【0623】

ステップS3105の処理又はステップS3107の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS3108）。当該送信処理では、ステップS3102～ステップS3107の処理によって決定されたパチンコ機10の状態に対応する状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は受信

10

20

30

40

50

した状態指定コマンドの内容に対応する演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。

【0624】

その後、主側 RAM 8 4 の天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数に対応する「500」の情報をセットする（ステップ S 3 1 0 9）。そして、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップ S 3 1 1 0）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップ S 2 7 0 5）に対応する「0」となる。

【0625】

上記のとおり開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 500 回の情報がセットされる。本実施形態では既に説明したとおり当否判定処理の結果が大当たり結果となった場合には遊技回が終了した場合に開閉実行モードに移行し、当否判定処理の結果が小当たり結果となった場合には遊技回が終了した場合ではなく、V 入賞検知センサ 1 6 9 における遊技球の検知が発生した振分実行モードが終了した場合に開閉実行モードに移行する。すなわち、開閉実行モードに移行するルートが複数種類存在している。当該構成において、開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 500 回の情報をセットする構成とすることにより、いずれのルートで開閉実行モードが発生した場合であっても当該固定天井回数の情報をセットする処理を一の処理に集約することが可能となる。よって、プログラム容量の削減を図りながら、開閉実行モードの発生を契機として天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 500 回の情報がセットされるようにすることが可能となる。

【0626】

図 5 4 は主側 MPU 8 2 にて実行される本実施形態における停電監視処理を示すフローチャートである。なお、停電監視処理はタイマ割込み処理（図 1 4）におけるステップ S 2 0 1 にて実行される。

【0627】

停電監視基板 8 5 から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信している場合（ステップ S 3 2 0 1：YES）、現状が開閉実行モード中であって、当該開閉実行モードの移行の契機となった遊技結果が低頻度大当たり結果又は第 1 小当たり結果であることを条件として（ステップ S 3 2 0 2 及びステップ S 3 2 0 3：YES）、天井カウンタ 1 3 1 に特別天井回数に対応する「800」の情報をセットする（ステップ S 3 2 0 4）。この特別天井回数は特電終了処理（図 5 3）のステップ S 3 1 0 9 にて天井カウンタ 1 3 1 にセットされる固定天井回数よりも多い回数である。一方、現状が開閉実行モードではない場合（ステップ S 3 2 0 2：NO）、又は現状が開閉実行モードであったとしても当該開閉実行モードの移行の契機となった遊技結果が高頻度大当たり結果、第 2 小当たり結果及び第 3 小当たり結果のいずれかである場合（ステップ S 3 2 0 2：NO）、ステップ S 3 2 0 4 の処理を実行しない。

【0628】

ステップ S 3 2 0 2 にて否定判定をした場合、ステップ S 3 2 0 3 にて否定判定をした場合又はステップ S 3 2 0 4 の処理を実行した場合、主側 RAM 8 4 の停電フラグに「1」をセットし（ステップ S 3 2 0 5）、主側 RAM 8 4 のチェックサムを算出してその算出したチェックサムを主側 RAM 8 4 に記憶し（ステップ S 3 2 0 6）、さらに出力ポートのクリア処理を実行する（ステップ S 3 2 0 7）。その後、主側 MPU 8 2 への動作電力の供給が停止されるまで処理の進行を待機する。

【0629】

本実施形態のように開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数のセットが行われる構成においては、低頻度大当たり結果を契機とした開閉実行モードが開始された場合、又は第 1 小当たり結果を契機とした振分実行モードが発生してさらに当該振分実行モードにおいて V 入賞検知センサ 1 6 9 にて遊技球が検知されることで開閉実行モードが開始された場合、開閉実行モードの途中で動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）又は RAM クリア処

理（ステップS119）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）では上記第1の実施形態と同様に開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ131の値は維持されるため、その動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。特に、低頻度大当たり結果又は第1小当たり結果を契機とした開閉実行モードが実行された場合には当該開閉実行モード後にサポートモードが低頻度サポートモードとなるため、低頻度大当たり結果又は第1小当たり結果を契機とした開閉実行モードにおいて上記のような不正行為を行ったとしてもサポートモードとの関係で当該不正行為者に不利益が発生しない。これに対して、低頻度大当たり結果又は第1小当たり結果を契機とした開閉実行モードの途中で動作電力の供給が停止される場合には、動作電力の供給が停止される前に天井カウンタ131に特別天井回数に対応する「800」の情報がセットされる。これにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

10

【0630】

さらにまた上記のような不正行為が行われた場合には開閉実行モードが終了する場合にセットされる固定天井回数よりも多い回数である特別天井回数が天井カウンタ131にセットされる。よって、上記のような不正行為が行われた場合にはそれに対してペナルティを与えることが可能となる。

【0631】

その一方、本実施形態であっても上記第1の実施形態と同様に「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始された場合には、メイン処理（図13）におけるステップS114にて、天井カウンタ131に固定天井回数である「500」の情報がセットされる。これにより、上記のような不正行為が行われていないにも関わらず、低頻度大当たり結果又は第1小当たり結果を契機とした開閉実行モードの途中で動作電力の供給が停止された場合には、遊技ホールの管理者が「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始されるようにする操作を行うことで、開閉実行モードが終了した場合と同様に、天井カウンタ131に固定天井回数である「500」の情報をセットさせることが可能となる。

20

30

【0632】

<第7の実施形態>

本実施形態では遊技回の変動表示期間の選択態様が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0633】

図55は主側MPU82にて実行される本実施形態における特定確定中処理を示すフローチャートである。

【0634】

特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップS3301：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップS3302：YES）、オープニング期間に対応する情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップS3303）、オープニングコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS3304）。音光側MPU93はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて行われるようにする。

40

【0635】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップS3305）。つまり、大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の

50

情報がセットされる。開閉実行モードが開始される場合ではなく、開閉実行モードの途中や開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ131に固定天井回数のセットが行われる構成の場合、開閉実行モードが開始された後に動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）では既に説明したとおり開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ131の値は維持されるため、その動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。これに対して、開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされることにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

10

【0636】

その後、主側RAM84に設けられた遊技回数カウンタを「0」クリアする（ステップS3306）。遊技回数カウンタは開閉実行モードが終了した後に開始された遊技回の実行回数が基準回数となったか否かを主側MPU82にて特定するためのカウンタである。基準回数は遊技回の実行回数の下1桁の数字が基準数となる回数である。基準数として「7」が設定されている。したがって、開閉実行モードが終了した後に開始された遊技回の実行回数が「7」、「17」、「27」、「37」、「47」、「57」、「67」、「77」、「87」、「97」、「107」・・・というように、開閉実行モードが終了した後に開始された下1桁の数字が「7」である遊技回の実行回数はいずれも基準回数となる。その後、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS3307）。これにより、特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップS609）に対応する「3」となる。

20

【0637】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS3302：NO）、時短状態カウンタ134の減算処理を実行する（ステップS3308）。当該処理の内容は上記第1の実施形態における時短状態カウンタ134の減算処理（図30）と同一である。その後、時短結果用の設定処理を実行する（ステップS3309）。当該処理の内容は上記第1の実施形態における時短結果用の設定処理（図25）と同一である。その後、天井カウンタ131の減算処理を実行する（ステップS3310）。当該処理の内容は上記第1の実施形態における天井カウンタ131の減算処理（図29）と同一である。その後、高確率状態カウンタ133の減算処理を実行する（ステップS3311）。当該処理の内容は上記第1の実施形態における高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）と同一である。その後、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS3312）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS606）に対応する「0」となる。

30

【0638】

図56は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【0639】

40

まず主側RAM84の遊技回数カウンタの値を1加算する（ステップS3401）。つまり、遊技回数カウンタは開閉実行モードが開始される場合に特図確定中処理（図55）におけるステップS3306にて「0」クリアされ、遊技状態に関係なく遊技回が開始される度に変動表示期間の特定処理（図56）におけるステップS3401にて1加算される。また、遊技回数カウンタの値は、時短結果を契機として第2高頻度サポートモードへの移行が発生した場合及び天井時短を契機として第2高頻度サポートモードへの移行が発生した場合のいずれであっても「0」クリアを含めて更新されない。これにより、主側MPU82は遊技回数カウンタを利用して開閉実行モードが終了された後に実行された遊技回の回数を計測することが可能となる。なお、動作電力の供給が開始された場合にメイン処理（図13）にて設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステッ

50

プ S 1 1 9) が実行された場合にも主側 R A M 8 4 の遊技回数カウンタが「0」クリアされる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理 (ステップ S 1 1 7) 又は R A M クリア処理 (ステップ S 1 1 9) が実行された場合には、開閉実行モードが新たに発生するまでは、主側 M P U 8 2 は遊技回数カウンタを利用して動作電力の供給開始後に実行された遊技回の回数を計測することが可能となる。

【0640】

その後、主側 R A M 8 4 の遊技回数カウンタの値が基準回数であるか否かを判定する (ステップ S 3 4 0 2)。基準回数は既に説明したとおり遊技回の実行回数の下 1 桁の数字が基準数 (具体的には「7」) となる回数である。ステップ S 3 4 0 2 にて肯定判定をした場合、今回の遊技回の当否判定処理にて大当たり結果が選択されたか否かを判定する (ステップ S 3 4 0 3)。

10

【0641】

大当たり結果が選択されている場合には (ステップ S 3 4 0 3 : Y E S)、大当たり結果用のテーブルを主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に読み出す (ステップ S 3 4 0 4)。大当たり結果用のテーブルを参照してステップ S 3 4 1 1 にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、その時点の変動種別カウンタ C S の数値情報を大当たり結果用のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。リーチ表示態様の変動表示期間は複数種類存在しているが、いずれのリーチ表示態様の変動表示期間であってもリーチ表示が発生しない場合における変動表示期間よりも長い期間となる。リーチ表示態様の変動表示期間の情報が選択された場合、上記第 1 の実施形態と同様に図柄表示装置 4 1 にて確実にリーチ表示が発生する。

20

【0642】

大当たり結果が選択されていない場合には (ステップ S 3 4 0 3 : N O)、リーチ非発生用のテーブルを主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に読み出す (ステップ S 3 4 0 5)。リーチ非発生用のテーブルを参照してステップ S 3 4 1 1 にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、その時点の変動種別カウンタ C S の数値情報をリーチ非発生用のテーブルに対して照合することで、リーチ表示が発生しない態様の変動表示期間の情報を読み出す。リーチ表示が発生しない態様の変動表示期間は複数種類存在しているが、当該複数種類の変動表示期間はいずれであってもリーチ表示が発生する場合における変動表示期間よりも短い期間となる。リーチ表示が発生しない態様の変動表示期間の情報が選択された場合、上記第 1 の実施形態と同様に図柄表示装置 4 1 にて確実にリーチ表示が発生しない。

30

【0643】

ステップ S 3 4 0 2 にて否定判定をした場合、主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされている場合には (ステップ S 3 4 0 6 : Y E S)、高確率用のテーブル群を主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に読み出す (ステップ S 3 4 0 7)。高確率用のテーブル群が参照される場合における変動表示期間の選択態様は上記第 1 の実施形態と同様である。また、主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされていない場合において (ステップ S 3 4 0 6 : N O)、主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグ及び第 2 高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされている場合には (ステップ S 3 4 0 8 : Y E S)、高頻度サポート用のテーブル群を主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に読み出す (ステップ S 3 4 0 9)。高頻度サポート用のテーブル群が参照される場合における変動表示期間の選択態様は上記第 1 の実施形態と同様である。また、また、主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされていない場合において (ステップ S 3 4 0 6 : N O)、主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグ及び第 2 高頻度フラグのいずれにも「1」がセットされていない場合には (ステップ S 3 4 0 8 : N O)、低頻度サポート用のテーブル群を主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に読み出す (ステップ S 3 4 1 0)。低頻度サポート用のテーブル群が参照される場合における変動表示期間の選択態様は上記第 1 の実施形態と同様である。

40

【0644】

50

ステップ S 3 4 0 4 の処理、ステップ S 3 4 0 5 の処理、ステップ S 3 4 0 7 の処理、ステップ S 3 4 0 9 の処理又はステップ S 3 4 1 0 の処理を実行した場合、それらいずれかの処理にて読み出したテーブル群を参照して変動表示期間の選択処理を実行する（ステップ S 3 4 1 1）。当該選択処理の内容は既に説明したとおりである。そして、ステップ S 3 4 1 1 にて選択した変動表示期間の情報を主側 R A M 8 4 の特図側タイマカウンタにセットする（ステップ S 3 4 1 2）。特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図 1 4）におけるステップ S 2 1 0 のタイマ更新処理にて実行される。

【0645】

上記構成によれば、開閉実行モードが終了してからの実行回数が基準回数目となる遊技回においては、大当たり結果とならない限り図柄表示装置 4 1 にてリーチ表示が発生しないことになる。この場合、基準回数目の遊技回においてはリーチ表示が発生した時点で大当たり結果の発生が確定することとなる。これにより、遊技回の実行回数との関係で図柄表示装置 4 1 における遊技回用の演出に遊技者を注目させることが可能となる。

【0646】

基準回数を計測するための遊技回数カウンタは、開閉実行モードが実行される場合に「0」クリアされ、時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードが発生した場合及び天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードが発生した場合のいずれであっても「0」クリアされない。これにより、開閉実行モードが終了した後に時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモード又は天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードが発生したとしても、開閉実行モードが終了してからの実行回数が基準回数目となる遊技回において、大当たり結果となる場合にのみリーチ表示が発生するようにすることが可能となる。よって、基準回数目となる遊技回が遊技者にとって分かり易いものとなる。

【0647】

なお、開閉実行モードが終了してからの遊技回の実行回数が図柄表示装置 4 1 にて表示される構成としてもよい。この場合、図柄表示装置 4 1 における当該遊技回の実行回数の表示は時短結果を契機とした第 2 高頻度サポートモードが発生した場合及び天井時短を契機とした第 2 高頻度サポートモードが発生した場合のいずれであっても「0」クリアされないようにする。これにより、基準回数目となる遊技回を遊技者が認識し易くなる。

【0648】

<第 8 の実施形態>

本実施形態では主側 M P U 8 2 にて実行される時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理の処理構成が上記第 1 の実施形態と相違している。以下、上記第 1 の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第 1 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0649】

図 5 7 は主側 M P U 8 2 にて実行される本実施形態における時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理を示すフローチャートである。

【0650】

まず主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 3 5 0 1）。高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップ S 3 5 0 1：Y E S）、ステップ S 3 5 0 2 以降の処理を実行することなく本時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理を終了する。高確率状態においてはサポートモードが第 1 高頻度サポートモードとなるが、高確率状態の終了契機は既に説明したとおり高確率状態カウンタ 1 3 3 を利用して特定されるため、高確率フラグに「1」がセットされている場合には時短状態カウンタ 1 3 4 の値を減算するための処理は実行されない。

【0651】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合であって主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 3 5 0 2：Y E S）、すなわち低確率モード及び第 1 高頻度サポートモードである場合、主側 R A M 8 4 の時短状態カウンタ

10

20

30

40

50

134の値を1減算し（ステップS3503）、その1減算後における時短状態カウンタ134の値が「0」である場合（ステップS3504：YES）、主側RAM84の第1高頻度フラグを「0」クリアする（ステップS3505）。これにより、第1高頻度サポートモードが終了して低頻度サポートモードとなる。つまり、時短状態が終了して通常遊技状態となる。

【0652】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS3506）。当該送信処理では、時短状態が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65における時短状態に対応する演出の実行を終了させて、通常遊技状態に対応する演出を開始させる。

10

【0653】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合であって主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされている場合（ステップS3507：YES）、すなわち低確率モード及び第2高頻度サポートモードである場合、主側RAM84の時短状態カウンタ134の値を1減算し（ステップS3508）、その1減算後における時短状態カウンタ134の値が「0」である場合（ステップS3509：YES）、主側RAM84の第2高頻度フラグを「0」クリアする（ステップS3510）。これにより、第2高頻度サポートモードが終了して低頻度サポートモードとなる。つまり、時短状態が終了して通常遊技状態となる。また、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS3511）。当該送信処理では、時短状態が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65における時短状態に対応する演出の実行を終了させて、通常遊技状態に対応する演出を開始させる。

20

【0654】

その後、変動選択状態カウンタ132のセット処理を実行する（ステップS3512）。この場合、主側RAM84の変動選択状態カウンタ132に所定切換基準回数である50回の情報をセットする。本実施形態であっても上記第1の実施形態と同様に、当否抽選モードが高確率モードではない状況において遊技回が1回消化された場合に当該遊技回の終了時に変動選択状態カウンタ132の値が1減算される。そして、変動選択状態カウンタ132の値が1以上である状況において変動選択状態カウンタ132の値が1減算された結果、当該変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった場合に主側RAM84のリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされる。低確率モードであって低頻度サポートモードである状況においてリーチ高頻度状態フラグに「1」がセットされている場合には上記第1の実施形態と同様に変動表示期間の特定処理（図21）にてリーチ高頻度用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択される。

30

【0655】

つまり、時短結果を契機とした時短状態及び天井時短を契機とした時短状態のいずれかが終了した後において低確率モードである状況で所定切換基準回数の遊技回が消化された場合、低頻度サポートモードであれば、リーチ高頻度用のテーブル群が参照されるリーチ高頻度状態となる。そして、リーチ高頻度状態においては上記第1の実施形態と同様に低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも外れ結果である場合にリーチ表示が選択される確率が高くなるとともに、リーチ表示が選択された場合における変動表示期間も低確率モード及び低頻度サポートモードである状況であってリーチ高頻度状態ではない状況よりも長くなり易い。したがって、時短結果を契機とした時短状態及び天井時短を契機とした時短状態のいずれかが終了した後において所定切換基準回数の遊技回が消化された場合には、リーチ高頻度状態が発生することで遊技への注目度を高めることが可能となる。

40

【0656】

時短状態においては遊技回の消化効率が高くなるのに対して、リーチ高頻度状態は遊技

50

回の消化効率が低くなる。この場合に、時短状態が終了した後はリーチ高頻度状態が発生するようにすることで、遊技回の消化効率が過剰に高くなってしまわないようにすることが可能となる。

【0657】

時短状態が終了した場合には即座にリーチ高頻度状態となるのではなく、時短状態が終了した後において所定切換基準回数の遊技回が消化された場合にリーチ高頻度状態となる構成であることにより、遊技回の消化効率が高い状態から低い状態に急激に変化してしまわないようにすることが可能となる。よって、遊技者に違和感を与えないようにしながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【0658】

＜第9の実施形態＞

本実施形態では時短状態において時短結果又は天井時短が発生した場合における処理構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0659】

図58は主側MPU82にて実行される本実施形態における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【0660】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップS3601：YES）、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS3602）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS3602：YES）、ステップS3603以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、当該時短結果を契機として第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【0661】

ここで、特図確定中処理（図22）においては既に説明したとおり高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に時短結果用の設定処理（図58）が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、時短結果用の設定処理（図58）が実行されることになる。そして、当該タイミングで時短結果用の設定処理（図58）が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、時短結果を契機とした第2高頻度サポートモードの設定は行われない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、時短結果を確実に無効化させることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図22）において高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に時短結果用の設定処理（図58）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

【0662】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS3602：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS3603）。つまり、サポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを判定する。サポートモードが第1高頻度サポートモードではない場合（ステップS3603：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットし（ステップS3604）、サポートモードが第1高頻度サポートモードである場合（ステップS3603：YES）、ステップS3604の処理を実行しない。これにより、低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第1高頻度サポート

10

20

30

40

50

モードが維持され、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードが維持され、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードとなる。

【0663】

ステップS3603にて肯定判定をした場合又はステップS3604の処理を実行した場合、今回の時短結果が第1時短結果であるか否かを判定する(ステップS3605)。今回の時短結果が第1時短結果である場合(ステップS3605: YES)、主側RAM 84の時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数に対応する「100」以上であるか否かを判定する(ステップS3606)。時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数の値未満である場合(ステップS3606: NO)、時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報をセットする(ステップS3607)。

10

【0664】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する(ステップS3608)。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第1時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。

【0665】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップS3607の処理が実行された後にステップS3608の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3では第1時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」)が停止表示される。そして、これら停止結果が停止表示された後に、図柄表示装置41では時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置41の表示面において図柄列Z1～Z3が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が1回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Z1～Z3が設定される領域は元の大きさに復帰する。

20

30

【0666】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップS3607の処理が実行された後にステップS3608の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」)、第2時短発生図柄の組合せ(「3・4・1」)及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、実際には時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置41の表示面において図柄列Z1～Z3が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及びその再セットされた第1時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が1回終了した場合に終了し、当該画像の表示が

40

50

終了した場合に図柄列 Z 1 ～ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【 0 6 6 7 】

今回の時短結果が第 2 時短結果である場合（ステップ S 3 6 0 5：NO）、時短状態カウンタ 1 3 4 の現状の値に関係なく、時短状態カウンタ 1 3 4 に第 2 時短継続回数に対応する「1 5 0」の情報をセットする（ステップ S 3 6 0 9）。その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップ S 3 6 1 0）。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第 2 時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信されるようにする。

【 0 6 6 8 】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップ S 3 6 0 9 の処理が実行された後にステップ S 3 6 1 0 の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第 2 時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、第 2 時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ～ Z 3 では第 2 時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）が停止表示される。そして、これら停止結果が停止表示された後に、図柄表示装置 4 1 では時短状態が発生することを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置 4 1 の表示面において図柄列 Z 1 ～ Z 3 が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態が発生することを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が 1 回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列 Z 1 ～ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【 0 6 6 9 】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップ S 3 6 0 9 の処理が実行された後にステップ S 3 6 1 0 の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第 2 時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、第 2 時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ～ Z 3 では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第 1 時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、第 2 時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、実際には時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置 4 1 の表示面において図柄列 Z 1 ～ Z 3 が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及びその再セットされた第 2 時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が 1 回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列 Z 1 ～ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【 0 6 7 0 】

図 5 9 は主側 M P U 8 2 にて実行される本実施形態における天井カウンタ 1 3 1 の減算処理を示すフローチャートである。

【 0 6 7 1 】

まず主側 R A M 8 4 の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 3 7 0 1）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップ S 3 7 0 1：YES）、ステップ S 3 7 0 2 以降の処理を実行することなく本天井カ

ウンタ131の減算処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回においては天井カウンタ131の値の減算が実行されることはなく、さらに天井カウンタ131の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

【0672】

ここで、特図確定中処理（図22）においては既に説明したとおり高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に天井カウンタ131の減算処理（図59）が実行される。これにより、高確率モード及び第1高頻度サポートモードである状況における最後の遊技回において、高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）にて高確率状態カウンタ133の値が1減算されて当該高確率状態カウンタ133の値が「0」となることで高確率フラグ及び第1高頻度フラグが「0」クリアされる前に、天井カウンタ131の減算処理（図59）が実行されることになる。そして、当該タイミングで天井カウンタ131の減算処理（図59）が実行された場合、未だ高確率フラグに「1」がセットされているため、天井カウンタ131の値の減算が実行されない。よって、高確率モードに対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、天井カウンタ131の値の減算が実行されないようにすることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図22）において高確率状態カウンタ133の減算処理（図24）よりも前に天井カウンタ131の減算処理（図59）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

【0673】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS3701：NO）、天井カウンタ131の値が1以上であるか否かを判定する（ステップS3702）。天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS3702：NO）、ステップS3703以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。天井カウンタ131に情報をセットする処理は上記第1の実施形態と同様に、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始された場合におけるステップS114、動作電力の供給が開始された場合に主側RAM84の情報異常が発生している場合におけるステップS122、並びに開閉実行モードが開始される場合におけるステップS1005のみであり、天井カウンタ131の値が「0」となった後においては上記いずれかの処理が実行されない限り天井カウンタ131の値は「0」に維持される。一方、天井時短は、天井カウンタ131の値が1以上である状況で当該天井カウンタ131の値が1減算されて当該天井カウンタ131の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、上記のとおり天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS3702：NO）、ステップS3703以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。これにより、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり天井時短を契機とした時短状態が発生し、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく時短継続回数の遊技回が消化されて時短状態が終了して通常遊技状態となった場合、その後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても天井時短を契機とした時短状態は発生しない。よって、天井時短を契機とした時短状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0674】

天井カウンタ131の値が1以上である場合（ステップS3702：YES）、天井カウンタ131の値を1減算し（ステップS3703）、その1減算後における天井カウンタ131の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS3704）。天井カウンタ131の値が「0」である場合（ステップS3704：YES）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされているか否かに関係なく、第2高頻度フラグに「1」をセットする（ステップS3705）。これにより、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードが維持され、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井時短となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードとなる。なお、低確率モード及び第1高頻度サ

10

20

30

40

50

ポートモードは5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードが終了した後において発生し、第1時短継続回数である100回の遊技回が消化された場合に第1高頻度サポートモードは終了するため、開閉実行モードが終了した後に低確率モードにおいて固定天井回数である500回の遊技回が消化された場合に発生する天井時短は、第1高頻度サポートモードである状況において発生することはない。

【0675】

その後、主側RAM84の時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数に対応する「100」以上であるか否かを判定する（ステップS3706）。時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数の値未満である場合（ステップS3706：NO）、時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報をセットする（ステップS3707）。

10

【0676】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS3708）。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第1時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。

【0677】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップS3707の処理が実行された後にステップS3708の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。天井時短を契機とした時短状態は大当たり結果及び時短結果のいずれもが発生しない遊技回において発生するため、図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び第2時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）以外の図柄の組合せである外れ図柄の組合せ（外れリーチ図柄の組合せを含む）が停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置41の表示面において図柄列Z1～Z3が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が1回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Z1～Z3が設定される領域は元の大きさに復帰する。

20

30

【0678】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップS3707の処理が実行された後にステップS3708の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。天井時短を契機とした第1時短継続回数の再セットは大当たり結果及び時短結果のいずれもが発生しない遊技回において発生するため、図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び第2時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）以外の図柄の組合せである外れ図柄の組合せ（外れリーチ図柄の組合せを含む）が停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数が再セットされたことを示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置41の

40

50

表示面において図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第 1 時短継続回数が再セットされたことを示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が 1 回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【0679】

ステップ S 3 7 0 6 にて肯定判定をした場合又はステップ S 3 7 0 8 の処理を実行した場合、主側 R A M 8 4 のリーチ高頻度状態フラグを「0」クリアする（ステップ S 3 7 0 9）。これにより、天井時短が発生した場合には当該天井時短を契機とした第 2 高頻度サ

10

【0680】

ここで、特図確定中処理（図 2 2）においては時短結果用の設定処理（図 5 8）が実行された後に天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 5 9）が実行されるとともに当該天井カウンタ 1 3 1 の減算処理（図 5 9）では 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」であったとしても時短状態カウンタ 1 3 4 の値が「100」以上であればステップ S 3 7 0 7 及びステップ S 3 7 0 8 の処理を実行しない構成とすることにより、第 1 時短結果又は第 2 時短結果となった遊技回において天井時短を契機とした第 1 時短継続回数の再セットが行われなくすることが可能となる。これにより、時短結果を契機とした時短継続回数の再セットと天井時短を契機とした時短継続回数の再セットが重複して実行されないようにすることが可能となる。特に、第 2 時短結果を契機とした第 2 時短継続回数の再セットが行われた後に天井時短を契機とした第 1 時短継続回数の再セットが行われると時短継続回数が少なくなってしまうが、上記構成とすることによりこのような不都合が発生してしまわないようにすることが可能となる。

20

【0681】

次に、時短状態において時短結果又は天井時短が発生した場合におけるその後の遊技状態について図 6 0 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 6 0（a）は開閉実行モードである期間を示し、図 6 0（b）は主側 R A M 8 4 の第 1 高頻度フラグに「1」がセットされている期間を示し、図 6 0（c）は主側 R A M 8 4 の第 2 高頻度フラグに「1」がセットされている期間を示し、図 6 0（d）は時短状態カウンタ 1 3 4 の状態を示し、図 6 0（e）は第 1 時短結果が発生するタイミングを示し、図 6 0（f）は第 2 時短結果が発生するタイミングを示し、図 6 0（g）は天井時短が発生するタイミングを示す。

30

【0682】

まず低確率モード及び第 2 高頻度サポートモードの途中で第 2 時短結果が発生する場合について説明する。

【0683】

t 1 のタイミングで図 6 0（e）に示すように当否判定処理の結果が第 1 時短結果となることで、当該当否判定処理が実行された遊技回が終了する場合に図 6 0（c）に示すように主側 R A M 8 4 の第 2 高頻度フラグに「1」がセットされるとともに図 6 0（d）に示すように時短状態カウンタ 1 3 4 に第 1 時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、低確率モード及び第 2 高頻度サポートモードである時短状態となるとともに、当該時短状態の残りの継続回数として第 1 時短継続回数が設定された状態となる。そして、開閉実行モードへの移行契機とならない遊技回が繰り返し実行されることで図 6 0（d）に示すように時短状態カウンタ 1 3 4 の値が減算されていく。

40

【0684】

その後、時短状態カウンタ 1 3 4 の値が 1 以上であり第 2 高頻度サポートモードである t 2 のタイミングで図 6 0（f）に示すように当否判定処理の結果が第 2 時短結果となることで、当該当否判定処理が実行された遊技回が終了する場合に図 6 0（d）に示すように時短状態カウンタ 1 3 4 に第 2 時短継続回数に対応する「150」の情報がセットされる。これにより、時短状態の途中で当該時短状態の残りの継続回数が第 1 時短継続回数よ

50

りも少ない回数から第2時短継続回数に増加する。

【0685】

次に、低確率モード及び第2高頻度サポートモードの途中で天井時短が発生するものの当該天井時短の発生による利益が付与されない場合について説明する。

【0686】

t3のタイミングで図60(f)に示すように当否判定処理の結果が第2時短結果となることで、当該当否判定処理が実行された遊技回が終了する場合に図60(c)に示すように主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされるとともに図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第2時短継続回数に対応する「150」の情報がセットされる。これにより、低確率モード及び第2高頻度サポートモードである時短状態となるとともに、当該時短状態の残りの継続回数として第2時短継続回数が設定された状態となる。そして、開閉実行モードへの移行契機とならない遊技回が繰り返し実行されることで図60(d)に示すように時短状態カウンタ134の値が減算されていく。

10

【0687】

その後、時短状態カウンタ134の値が1以上であり第2高頻度サポートモードであるt4のタイミングで図60(g)に示すように天井時短が発生する。この場合、時短状態カウンタ134の値が天井時短の発生を契機として設定される第1時短継続回数よりも大きい値となっている。したがって、図60(d)に示すように時短状態カウンタ134の値はそのまま維持される。このように時短状態の途中で天井時短が発生したとしても、時短状態におけるその時点の残りの継続回数が天井時短の発生を契機として設定される第1時短継続回数よりも大きい値である場合には天井時短の発生が無効化される。

20

【0688】

次に、低確率モード及び第2高頻度サポートモードの途中で天井時短が発生し、当該天井時短の発生による利益が付与される場合について説明する。

【0689】

t5のタイミングで図60(e)に示すように当否判定処理の結果が第1時短結果となることで、当該当否判定処理が実行された遊技回が終了する場合に図60(c)に示すように主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされるとともに図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、低確率モード及び第2高頻度サポートモードである時短状態となるとともに、当該時短状態の残りの継続回数として第1時短継続回数が設定された状態となる。そして、開閉実行モードへの移行契機とならない遊技回が繰り返し実行されることで図60(d)に示すように時短状態カウンタ134の値が減算されていく。

30

【0690】

その後、時短状態カウンタ134の値が1以上であり第2高頻度サポートモードであるt6のタイミングで図60(g)に示すように天井時短が発生する。この場合、時短状態カウンタ134の値が天井時短の発生を契機として設定される第1時短継続回数よりも小さい値となっている。したがって、天井時短が発生したt6のタイミングで図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、時短状態の途中で当該時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数よりも少ない回数から第1時短継続回数に増加する。

40

【0691】

次に、低確率モード及び第1高頻度サポートモードの途中で第1時短結果が発生する場合について説明する。

【0692】

t7のタイミングで図60(a)に示すように5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで、図60(b)に示すように主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」がセットされるとともに図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、低確率モード及び第1高頻度サポートモードである時短状態となるとともに、当該時短状態の残りの継続回

50

数として第1時短継続回数が設定された状態となる。そして、開閉実行モードへの移行契機とならない遊技回が繰り返し実行されることで図60(d)に示すように時短状態カウンタ134の値が減算されていく。

【0693】

その後、時短状態カウンタ134の値が1以上であり第1高頻度サポートモードであるt8のタイミングで図60(e)に示すように当否判定処理の結果が第1時短結果となる。この場合、時短状態カウンタ134の値が第1時短結果の発生を契機として設定される第1時短継続回数よりも小さい値となっている。したがって、当否判定処理の結果が第1時短結果となった遊技回が終了する場合に図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、時短状態の途中で当該時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数よりも少ない回数から第1時短継続回数に増加する。また、当該時短状態のサポートモードは第2高頻度サポートモードに変更されるのではなく当該第2高頻度サポートモードよりも遊技者に有利な第1高頻度サポートモードが維持されるため、第1時短結果の発生を契機として第1高頻度サポートモードである時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数に設定されることになる。

10

【0694】

次に、低確率モード及び第1高頻度サポートモードの途中で第2時短結果が発生する場合について説明する。

【0695】

t9のタイミングで図60(a)に示すように5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで、図60(b)に示すように主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」がセットされるとともに図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報がセットされる。これにより、低確率モード及び第1高頻度サポートモードである時短状態となるとともに、当該時短状態の残りの継続回数として第1時短継続回数が設定された状態となる。そして、開閉実行モードへの移行契機とならない遊技回が繰り返し実行されることで図60(d)に示すように時短状態カウンタ134の値が減算されていく。

20

【0696】

その後、時短状態カウンタ134の値が1以上であり第1高頻度サポートモードであるt10のタイミングで図60(f)に示すように当否判定処理の結果が第2時短結果となる。第2時短結果の発生を契機として設定される第2時短継続回数は5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了する場合に設定される時短状態の第1時短継続回数よりも多い回数である。したがって、当否判定処理の結果が第2時短結果となった遊技回が終了する場合に図60(d)に示すように時短状態カウンタ134に第2時短継続回数に対応する「150」の情報がセットされる。これにより、時短状態の途中で当該時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数よりも少ない回数から第2時短継続回数に増加する。また、当該時短状態のサポートモードは第2高頻度サポートモードに変更されるのではなく当該第2高頻度サポートモードよりも遊技者に有利な第1高頻度サポートモードが維持されるため、第2時短結果の発生を契機として第1高頻度サポートモードである時短状態の残りの継続回数が第2時短継続回数に設定されることになる。

30

【0697】

上記構成であることにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には当該時短結果の種類に対応する時短継続回数の時短状態に移行する。これにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて当否判定処理の結果に基づき、開閉実行モードを介することなく時短状態への移行が発生する状況を生じさせることが可能となる。

40

【0698】

低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回に再セットされた状態で低

50

確率モード及び第1高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて第2時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第2時短継続回数である150回にセットされた状態で低確率モード及び第1高頻度サポートモードが継続する。これにより、第1高頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には、第2高頻度サポートモードよりも第2作動口34が開放状態となり易い第1高頻度サポートモードを継続させながら、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が多くなる状況が発生する。よって、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0699】

低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回以上であれば、今回の第1時短結果の発生によって時短状態に関する新たな設定が行われることなく低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回未満であれば、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回にセットされた状態で低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第2時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第2時短継続回数である150回にセットされた状態で低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。これにより、第2高頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には、当該第2高頻度サポートモードを継続させながら、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が多くなる状況が発生し得る。よって、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0700】

時短状態において時短結果が発生した場合、現状の時短状態の残りの継続回数と、新たに発生した時短結果により設定可能な時短継続回数とのうち多い方の回数が、その後の時短状態における残りの継続回数となる。これにより、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0701】

低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合には第1時短継続回数の時短状態に移行する。これにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井回数の遊技回の消化に基づき、開閉実行モードを介することなく時短状態への移行が発生する状況を生じさせることが可能となる。

【0702】

低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回以上であれば、今回の天井時短の発生によって時短状態に関する新たな設定が行われることなく低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回未満であれば、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回にセットされた状態で低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。つまり、時短状態において天井時短が発生した場合、現状の時短状態の残りの継続回数と、新たに発生した天井時短により設定可能な時短継続回数とのうち多い方の回数が、その後の時短状態における残りの継続回数となる。これにより、第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合には、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が多くなる状況が発生し得るため、時短状態において天井時短が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0703】

<第10の実施形態>

本実施形態では遊技盤24に設けられた遊技領域PAの構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1

10

20

30

40

50

の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0704】

図61は本実施形態における遊技領域PAの構成を説明するための遊技盤24の正面図である。

【0705】

遊技盤24には、遊技領域PAの外縁の一部を区画するようにして内レール部25と外レール部26とが取り付けられており、これら内レール部25と外レール部26とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技球発射機構27（図2参照）から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域PAの上部に案内されるようになっている。

【0706】

遊技盤24には、上記第1の実施形態と同様に、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、スルーゲート35、可変表示ユニット36、特図ユニット37及び普図ユニット38が設けられている。また、上記第1の実施形態における第2作動口34に代えて特別入賞装置151が設けられている。特別入賞装置151の構成は上記第6の実施形態と同様である。

【0707】

スルーゲート35への入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33及び特別入賞装置151のいずれかへの入球が発生した場合、遊技者が使用可能な遊技媒体数を増加させるべく所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、一般入賞口31への入球が発生した場合には10個の遊技球の払い出しが実行され、特電入賞装置32への入球が発生した場合には15個の遊技球の払い出しが実行され、第1作動口33への入球が発生した場合には3個の遊技球の払い出しが実行され、特別入賞装置151への入球が発生した場合には1個の遊技球の払い出しが実行される。なお、上記賞球個数は任意であり、第1作動口33及び特別入賞装置151の賞球個数が同一である構成としてもよい。

【0708】

その他に、遊技盤24の最下部にはアウト口24aが設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口24aを通して遊技領域PAから排出される。また、遊技盤24には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘24bが植設されているとともに、風車等の各種部材が配設されている。

【0709】

遊技領域PAの中央部を含むようにして可変表示ユニット36が設けられている。当該可変表示ユニット36の周縁部が遊技盤24の表面よりもパチンコ機10前方に突出していることに起因して、遊技領域PAに発射された遊技球が流下可能な領域が区画されている。具体的には、遊技領域PAにおいて可変表示ユニット36の所定の高さ位置よりも上方の領域である上側領域PA1と、当該上側領域PA1に対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも左方の領域である左側領域PA2と、上側領域PA1に対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも右方の領域である右側領域PA3と、左側領域PA2及び右側領域PA3のそれぞれに対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも下方の領域である下側領域PA4とに区画されている。

【0710】

遊技者が第1発射操作として基準回動量未満である第1範囲の回動量で発射操作装置28の操作を行うことで、上側領域PA1において横方向の中央位置よりも左方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域PA1→左側領域PA2→下側領域PA4の順で遊技球が流下することとなる。その一方、遊技者が第2発射操作として基準回動量以上である第2範囲の回動量で発射操作装置28の操作を行うことで、上側領域PA1において横方向の中央位置よりも右方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域PA1→右側領域PA3→下側領域PA4の順で遊技球が流下することとなる。つまり、遊技者は発射操作装置28の回動操作量を調整することで、左側領域PA2及び右側領域PA3のうち左側領域PA2を遊技球が流下するように遊技を行うことができるとともに、右側領域PA3

10

20

30

40

50

を遊技球が流下するように遊技を行うことができる。ちなみに、最大回動量で発射操作装置 28 の操作が行われた場合、上側領域 P A 1 → 右側領域 P A 3 → 下側領域 P A 4 の順で遊技球が流下することとなる。

【0711】

第 1 作動口 33 は、下側領域 P A 4 に設置されている。第 1 作動口 33 は上向きに開放されており、第 1 作動口 33 への遊技球の入球を阻止するための開閉部材といった部材は設けられていない。そして、同一の態様で遊技球が発射されている状況では遊技状態に依存することなく第 1 作動口 33 への入賞確率は一定となっている。換言すれば、第 1 作動口 33 は、遊技領域 P A を当該第 1 作動口 33 に向けて流下する遊技球が常時入球可能となっている。また、第 1 作動口 33 は可変表示ユニット 36 に形成されたステージ部 36 b の真下に配置されており、可変表示ユニット 36 に形成された誘導通路を介してステージ部 36 b 上に流入した遊技球であってステージ部 36 b の横方向の中央から可変表示ユニット 36 外に排出される遊技球は第 1 作動口 33 に入賞し易くなっている。

10

【0712】

上記のように第 1 作動口 33 は下側領域 P A 4 に設けられているが、第 1 作動口 33 に対して右側領域 P A 3 に向けた上流側には当該右側領域 P A 3 を流下した遊技球が第 1 作動口 33 に到達することを不可とするように規制釘 24 c が設けられている。また、ステージ部 36 b への誘導通路の入口が左側領域 P A 2 に対して設けられており、右側領域 P A 3 に対して設けられていない。これらの構成により、左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には第 1 作動口 33 への入賞は可能であるが、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には第 1 作動口 33 への入賞が不可となる。但し、これに限定されることはなく、規制釘 24 c が設けられていない又はステージ部 36 b への誘導通路の入口が右側領域 P A 3 に対して設けられていることにより、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合であっても第 1 作動口 33 への入賞が可能である構成としてもよい。

20

【0713】

特別入賞装置 151 は、右側領域 P A 3 に設置されている。つまり、特別入賞装置 151 は左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には入賞が可能である。

30

【0714】

右側領域 P A 3 において特別入賞装置 151 の上方にはスルーゲート 35 が設けられている。つまり、スルーゲート 35 は左側領域 P A 2 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域 P A 3 を遊技球が流下するように発射操作装置 28 が操作されている場合には入賞が可能である。スルーゲート 35 は縦方向に貫通した貫通孔を有している。また、スルーゲート 35 の鉛直下方の位置には特別入賞装置 151 が設けられており、さらには右側領域 P A 3 において特別入賞装置 151 よりも下流側には特電入賞装置 32 が設けられている。したがって、スルーゲート 35 に入賞した遊技球が、特別入賞装置 151 又は特電入賞装置 32 へ入賞することが可能となっている。

40

【0715】

特別入賞装置 151 及びスルーゲート 35 が集約配置された右側領域 P A 3 は、左方が可変表示ユニット 36 において遊技盤 24 の盤面よりもパチンコ機 10 前方に膨出している側壁 36 f により規定されているとともに、右方が内枠 13 の樹脂ベース 21 に設けられ遊技盤 24 の盤面よりもパチンコ機 10 前方に突出した規制壁により規定されている。当該右側領域 P A 3 は、下側領域 P A 4 よりも横方向の寸法が狭く設定されており、その横方向の寸法は遊技球の入球装置を同じ高さ位置において横方向に並べることが不可な程度となっている。これにより、右側領域 P A 3 を流下する遊技球の流下軌道を所定の範囲に制限することが可能となり、特別入賞装置 151 及びスルーゲート 35 への遊技球の入

50

球が発生し易くなっている。

【0716】

右側領域PA3においてスルーゲート35よりも上流側における複数の釘24bの配列態様が、右側領域PA3を流下する遊技球をスルーゲート35に誘導するように設定されている。これにより、右側領域PA3を流下する遊技球がスルーゲート35に入球し易くなっており、スルーゲート35に入球し易いことに伴って特別入賞装置151に入球し易くなっている。

【0717】

スルーゲート35への入賞に基づき特別入賞装置151の誘導ユニット152が非誘導状態から誘導状態に切り換えられることで、特別入賞装置151が閉鎖状態から開放状態となる。具体的には、スルーゲート35への入賞をトリガとして普図当否判定処理が行われるとともに、遊技領域PAにおいて遊技球が通過しない領域である左下の隅部に設けられた普図ユニット38の普図表示部38aにて絵柄の変動表示が行われる。そして、普図当否判定処理の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部38aの変動表示が終了された場合に普電開放状態へ移行する。普電開放状態では、誘導ユニット152が所定の態様で誘導状態となることで、特別入賞装置151が所定の態様で開放状態となる。

【0718】

本実施形態であってもサポートモードとして低頻度サポートモードと、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとが設定されており、これら各サポートモードにおける普図当否判定処理にて電役開放当選となる確率、普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間の選択態様及び普図表示部38aにおける停止結果の選択態様は上記第1の実施形態と同一である。また、各サポートモードにおいて普電開放状態となった場合に特別入賞装置151が開放状態となる態様（開放継続期間、開放回数、上限入賞個数、インターバル期間）は、上記第1の実施形態において各サポートモードにて普電開放状態となった場合に第2作動口34の普電役物34aが開放状態となる態様（開放継続期間、開放回数、上限入賞個数、インターバル期間）と同一である。

【0719】

第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードよりも特別入賞装置151への入賞が発生する確率が高くなる。換言すれば、低頻度サポートモードでは特別入賞装置151よりも第1作動口33への入賞が発生する確率が高くなるが、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードでは第1作動口33よりも特別入賞装置151への入賞が発生する確率が高くなる。そして、特別入賞装置151への入賞が発生した場合には、所定個数の遊技球の払出が実行されるため、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードでは遊技者は持ち球をあまり減らさないようにしながら遊技を行うことができる。

【0720】

第1作動口33又は特別入賞装置151への入賞が発生したことに基いて当否判定処理が行われる。そして、当該当否判定処理の結果は特図ユニット37及び可変表示ユニット36の図柄表示装置41における表示演出を通じて明示される。特図ユニット37には上記第1の実施形態と同様に第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bが設けられている。第1特図表示部37aでは第1作動口33への入賞が発生することで取得された第1保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として上記第1の実施形態と同様に大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているが、第1特図表示部37aの停止結果の内容は大当たり結果、時短結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第1特図表示部37aにおける停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第1特図表示部37aにて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、第2特図表示部37bでは特別入賞装置151への入賞が発生することで取得された第2保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行

10

20

30

40

50

われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として上記第1の実施形態と同様に大当たり結果、時短結果及び外れ結果が存在しているが、第2特図表示部37bの停止結果の内容は大当たり結果、時短結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第2特図表示部37bにおける停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第2特図表示部37bにて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。

【0721】

特図ユニット37において、第1特図表示部37aに隣接した位置には第1特図保留表示部37cが設けられている。遊技球が第1作動口33に入賞した個数は最大4個まで保留され、第1特図保留表示部37cの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。また、特図ユニット37において、第2特図表示部37bに隣接した位置には第2特図保留表示部37dが設けられている。遊技球が特別入賞装置151に入賞した個数は最大4個まで保留され、第2特図保留表示部37dの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【0722】

第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示範囲は図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。また、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b、第1特図保留表示部37c及び第2特図保留表示部37dの全体分の表示範囲も、図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。これにより、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b、第1特図保留表示部37c及び第2特図保留表示部37dよりも図柄表示装置41への遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【0723】

第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bにおいて絵柄の変動表示が行われる場合、すなわち遊技回が実行されている場合、図柄表示装置41においてそれに合わせて表示演出が行われる。図柄表示装置41において遊技回用の演出が実行される場合、上記第1の実施形態と同様に図柄列Z1～Z3、第1保留表示領域42a、第2保留表示領域42b及び状態示唆領域43が設定される。また、図柄表示装置41では遊技回用の表示演出だけでなく、大当たり結果となった後などに移行する開閉実行モード中の表示演出などが行われる。

【0724】

第1作動口33又は特別入賞装置151への入賞に基づき実行された当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合、当該大当たり結果に対応する遊技回が終了した後に開閉実行モードに移行する。開閉実行モードにおいては特電入賞装置32への入賞が可能となる。特電入賞装置32は、右側領域PA3において特別入賞装置151の下方の位置に設けられている。つまり、特電入賞装置32は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

【0725】

特電入賞装置32は、遊技盤24の背面側へ通じる図示しない大入賞口を備えているとともに、当該大入賞口を開閉する開閉扉32aを備えている。開閉扉32aは閉鎖状態及び開放状態のいずれかに配置される。具体的には、開閉扉32aは、通常は遊技球が入賞できない閉鎖状態になっており、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に遊技球が入賞可能な開放状態に切り換えられるようになっている。なお、閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。また、開閉実行モードの実行内容は上記第1の実施形態と同様である。

【0726】

図62は本実施形態における主側MPU82にて各種抽選を行うための電氣的な構成を説明するための説明図である。

【0727】

本実施形態においても上記第1の実施形態と同様に当たり乱数カウンタC1、種別乱数

10

20

30

40

50

カウンタC 2、リーチ乱数カウンタC 3、乱数初期値カウンタC I N I、変動種別カウンタC S及び普電乱数カウンタC 4が設けられている。当たり乱数カウンタC 1、種別乱数カウンタC 2、リーチ乱数カウンタC 3、乱数初期値カウンタC I N I、変動種別カウンタC S及び普電乱数カウンタC 4の内容及びこれらカウンタC 1～C 4、C I N I、C Sを利用する処理の内容は上記第1の実施形態と同一である。また、スルーゲート35への入賞が発生した場合に普電乱数カウンタC 4の数値情報が普図保留エリア84cに格納される点、及び普図保留エリア84cの構成は上記第1の実施形態と同様である。

【0728】

当たり乱数カウンタC 1、種別乱数カウンタC 2及びリーチ乱数カウンタC 3の各数値情報は、第1作動口33への入賞が発生した場合に、上記第1の実施形態と同様に主側RAM84の第1特図保留エリア111に格納される。当たり乱数カウンタC 1、種別乱数カウンタC 2及びリーチ乱数カウンタC 3の各数値情報は、特別入賞装置151への入賞が発生した場合に、上記第1の実施形態において第2作動口34への入賞が発生した場合と同様に主側RAM84の第2特図保留エリア112に格納される。

【0729】

特図用の実行エリア192は第1特図用の実行エリア192aと第2特図用の実行エリア192bとを備えている。第1特図用の実行エリア192aは第1特図表示部37aにて変動表示を開始する際に、当否判定処理や振分判定処理などを行う対象の第1保留情報が格納されるエリアである。第2特図用の実行エリア192bは第2特図表示部37bにて変動表示を開始する際に、当否判定処理や振分判定処理などを行う対象の第2保留情報が格納されるエリアである。具体的には、第1特図表示部37aの変動表示を開始する際には、第1特図保留エリア111の第1エリア111aに格納された第1保留情報が第1特図用の実行エリア192aにシフトされる。一方、第2特図表示部37bの変動表示を開始する際には、第2特図保留エリア112の第1エリア112aに格納された第2保留情報が第2特図用の実行エリア192bにシフトされる。

【0730】

本実施形態では、第1特図表示部37aにおける遊技回の期間の少なくとも一部と、第2特図表示部37bにおける遊技回の期間の少なくとも一部とが重複し得る構成となっている。つまり、第1特図表示部37aにおいて遊技回が実行されている途中でであっても第2特図表示部37bにおける遊技回が開始され得るとともに、第2特図表示部37bにおいて遊技回が実行されている途中でであっても第1特図表示部37aにおける遊技回が開始され得る。

【0731】

第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合、上記第1の実施形態と同様に、低確率モードであれば低確率時の第1当否テーブル121が参照され、高確率モードであれば高確率時の当否テーブル123が参照される。また、第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合、上記第1の実施形態と同様に、低確率モードであれば低確率時の第2当否テーブル122が参照され、高確率モードであれば高確率時の当否テーブル123が参照される。また、第1保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合には、上記第1の実施形態と同様に第1特図用の大当たり振分テーブル125を参照して大当たり用の振分判定処理が実行され、第1保留情報に対する当否判定処理にて時短結果が選択された場合には、上記第1の実施形態と同様に第1特図用の時短振分テーブル127を参照して時短用の振分判定処理が実行される。また、第2保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合には、上記第1の実施形態と同様に第2特図用の大当たり振分テーブル126を参照して大当たり用の振分判定処理が実行され、第2保留情報に対する当否判定処理にて時短結果が選択された場合には、上記第1の実施形態と同様に第2特図用の時短振分テーブル128を参照して時短用の振分判定処理が実行される。

【0732】

本実施形態では特図特電制御処理として、第1保留情報に対応する第1特図特電制御処

10

20

30

40

50

理と第2保留情報に対応する第2特図特電制御処理とが設定されている。これらの処理について以下に説明する。

【0733】

図63は主側MPU82にて実行される第1特図特電制御処理を示すフローチャートであり、図64は主側MPU82にて実行される第2特図特電制御処理を示すフローチャートである。なお、第1特図特電制御処理と第2特図特電制御処理とは処理構成が類似しているため、対応する処理構成ごとに説明をする。

【0734】

第1特図特電制御処理（図63）ではまず第1保留情報の取得処理を実行する（ステップS3801）。また、第2特図特電制御処理（図64）ではまず第2保留情報の取得処理を実行する（ステップS3901）。 10

【0735】

第1保留情報の取得処理では、第1作動口33への入賞が発生しており、さらに第1特図保留エリア111に記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数未満である場合、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を第1保留情報として、第1特図保留エリア111の第1エリア111a～第4エリア111dにおける第1保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第1保留情報を取得した場合には、第1保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第1特図保留表示部37cの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第1保留情報が増加したことを示す第1保留コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は受信した第1保留コマンドに対応したコマンドを表示側MPU103に送信することで、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aにおける第1保留情報の数の表示を保留個数の増加に対応させて変更させる。 20

【0736】

第2保留情報の取得処理では、特別入賞装置151への入賞が発生しており、さらに第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満である場合、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を第2保留情報として、第2特図保留エリア112の第1エリア112a～第4エリア112dにおける第2保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第2保留情報を取得した場合には、第2保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第2特図保留表示部37dの表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第2保留情報が増加したことを示す第2保留コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は受信した第2保留コマンドに対応したコマンドを表示側MPU103に送信することで、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bにおける第2保留情報の数の表示を保留個数の増加に対応させて変更させる。 30

【0737】

第1特図特電制御処理（図63）及び第2特図特電制御処理（図64）では、保留情報の取得処理（ステップS3801又はステップS3901）を実行した後は、主側ROM83に記憶されている特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップS3802、ステップS3902）。特図特電アドレステーブルには、主側RAM84に設けられた第1特図特電カウンタ及び主側RAM84に設けられた第2特図特電カウンタの数値情報に対応する処理を実行するためのプログラムの開始アドレスが設定されている。第1特図特電カウンタは第1特図特電制御処理（図63）にて実行すべき処理内容を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。第2特図特電カウンタは第2特図特電制御処理（図64）にて実行すべき処理内容を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。各特図特電カウンタの値は開始アドレスにそれぞれ対応しており、各特図特電カウンタの値が「0」である場合には特図変動開始処理（ステップS3805、ステップS3905）が実行され、各特図特電カウンタの値が「1」である場合には特図変動中処理（ステップS3806、ステップS3906）が実行され、各特図特電カウンタの値が「2」である場合には特図確定中処理（ステップS3807、ステップS3907）が実行され、各特図特 40 50

電カウンの値が「3」である場合には特電開始処理（ステップS3808、ステップS3908）が実行され、各特図特電カウンの値が「4」である場合には特電開放中処理（ステップS3809、ステップS3909）が実行され、各特図特電カウンの値が「5」である場合には特電閉鎖中処理（ステップS3810、ステップS3910）が実行され、各特図特電カウンの値が「6」である場合には特電終了処理（ステップS3811、ステップS3911）が実行される。

【0738】

第1特図特電制御処理（図63）及び第2特図特電制御処理（図64）では、特図特電アドレステーブルを読み出した後は（ステップS3802、ステップS3902）、対応する特図特電カウンの情報に対応した開始アドレスを特図特電アドレステーブルから取得し（ステップS3803、ステップS3903）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップS3804、ステップS3904）。以下、特図変動開始処理（ステップS3805、ステップS3905）、特図変動中処理（ステップS3806、ステップS3906）及び特図確定中処理（ステップS3807、ステップS3907）について説明する。なお、特電開始処理（ステップS3808、ステップS3908）、特電開放中処理（ステップS3809、ステップS3909）及び特電閉鎖中処理（ステップS3810、ステップS3910）は上記第1の実施形態におけるステップS609～ステップS611と同一である。また、特電終了処理（ステップS3811、ステップS3911）は、主側RAM84に高確率状態カウンタ133が設けられておらず、5R高確結果又は10R高確結果を契機とした開閉実行モードが終了した場合には高確率モード及び第1高頻度サポートモードである高確率状態が、大当たり結果となる遊技回が次回発生するまで継続されるようにする点を除き、上記第1の実施形態における特電終了処理（図23）と同一の処理を実行する。

【0739】

<特図変動開始処理>

まずステップS3805及びステップS3905の特図変動開始処理について、図65のフローチャートを参照しながら説明する。

【0740】

まず今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側において大当たり状態用の処理が実行されているか否かを判定する（ステップS4001）。既に説明したとおり本実施形態では第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち一方において遊技回が実行されている状況であっても他方において遊技回が実行され得る。この場合に、ステップS4001が実行され、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側において大当たり状態用の処理が実行されている場合にはステップS4002以降の処理が実行されずに新たな遊技回の開始が規制される。これにより、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち一方における遊技回を契機として開閉実行モードが実行されている状況においては、他方における遊技回が新たに開始されないように規制される。よって、開閉実行モードへの遊技者の注目度を高めることが可能となる。なお、今回が第1特図特電制御処理（図63）における特図変動開始処理であれば第2特図特電カウンの値が3以上であるか否かをステップS4001にて判定し、3以上である場合にはステップS4002以降の処理を実行しない構成であり、今回が第2特図特電制御処理（図64）における特図変動開始処理であれば第1特図特電カウンの値が3以上であるか否かをステップS4001にて判定し、3以上である場合にはステップS4002以降の処理を実行しない構成である。

【0741】

ステップS4001にて否定判定をした場合には、対応する保留個数が1個以上であるか否かを判定する（ステップS4002）。今回が第1特図特電制御処理（図63）における特図変動開始処理であれば第1特図保留エリア111に第1保留情報が1個以上記憶されているか否かを判定し、今回が第2特図特電制御処理（図64）における特図変動開始処理であれば第2特図保留エリア112に第2保留情報が1個以上記憶されているか否

かを判定する。

【0742】

ステップS4002にて肯定判定をした場合には、データ設定処理を実行する（ステップS4003）。データ設定処理では、今回が第1特図特電制御処理（図63）であれば、第1特図保留エリア111の第1エリア111aに格納されたデータを第1特図用の実行エリア192aに移動する。その後、第1特図保留エリア111の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア111a～111dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であって、第2エリア111b→第1エリア111a、第3エリア111c→第2エリア111b、第4エリア111d→第3エリア111cといった具合に各エリア内のデータがシフトされた後に第4エリア111dが「0」クリアされる。この場合、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が、第1保留情報が1個減少した内容に変更される。また、当該データ設定処理では、第1特図保留エリア111における第1保留情報が1個減少したことを示すコマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該コマンドに対応したコマンドを表示側MPU103に送信することで、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aにおける第1保留情報の数の表示を保留情報の数の減少に対応させて変更する。

10

【0743】

データ設定処理では、今回が第2特図特電制御処理（図64）であれば、第2特図保留エリア112の第1エリア112aに格納されたデータを第2特図用の実行エリア192bに移動する。その後、第2特図保留エリア112の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第1～第4エリア112a～112dに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であって、第2エリア112b→第1エリア112a、第3エリア112c→第2エリア112b、第4エリア112d→第3エリア112cといった具合に各エリア内のデータがシフトされた後に第4エリア112dが「0」クリアされる。この場合、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が、第2保留情報が1個減少した内容に変更される。また、当該データ設定処理では、第2特図保留エリア112における第2保留情報が1個減少したことを示すコマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該コマンドに対応したコマンドを表示側MPU103に送信することで、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bにおける第2保留情報の数の表示を保留情報の数の減少に対応させて変更する。

20

30

【0744】

データ設定処理を実行した後は、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側において遊技回が実行されており且つその遊技回の開始契機となった保留情報が当たり結果に対応しているか否かを判定する（ステップS4004）。ステップS4004にて否定判定をした場合には当否判定処理を実行する（ステップS4005）。当否判定処理では、当否抽選モードが低確率モードであって遊技回の開始対象が第1保留情報であれば低確率時の第1当否テーブル121を主側ROM83から読み出し、当否抽選モードが低確率モードであって遊技回の開始対象が第2保留情報であれば低確率時の第2当否テーブル122を主側ROM83から読み出し、当否抽選モードが高確率モードであれば遊技回の開始対象が第1保留情報及び第2保留情報のいずれであっても高確率時の当否テーブル123を主側ROM83から読み出す。当否テーブルを読み出した後は、第1特図用の実行エリア192a及び第2特図用の実行エリア192bのうち今回の遊技回の開始対象である側に格納された保留情報から、当否判定用の情報すなわち当たり乱数カウンタC1から取得した数値情報を読み出し、その読み出した数値情報が上記当否テーブルにおけるいずれの遊技結果と対応しているのかを判定する。

40

【0745】

当否判定処理の結果が当たり結果である場合（ステップS4006：YES）、当たり用の振分判定処理を実行する（ステップS4007）。当たり用の振分判定処理で

50

は、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の大当たり振分テーブル125を主側ROM83から読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の大当たり振分テーブル126を読み出す。そして、第1特図用の実行エリア192a及び第2特図用の実行エリア192bのうち今回の遊技回の開始対象である側に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記振分テーブルを参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の的大当たり結果に対応しているのかを特定する。

【0746】

大当たり用の振分判定処理を実行した後は、当該振分判定処理にて特定した大当たり結果の種類のに対応する主側RAM84のフラグに「1」をセットする（ステップS4008）。その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS4009）。具体的には、今回の遊技回の開始対象である特図表示部37a、37bに最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに停止表示される絵柄の停止態様の種類が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップS4009では、ステップS4008にて特定した大当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側RAM84に記憶する。なお、各大当たり結果に1対1で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の大当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。

【0747】

当否判定処理の結果が時短結果である場合（ステップS4010：YES）、時短用の振分判定処理を実行する（ステップS4011）。時短用の振分判定処理では、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の時短振分テーブル127を主側ROM83から読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の時短振分テーブル128を読み出す。そして、第1特図用の実行エリア192a及び第2特図用の実行エリア192bのうち今回の遊技回の開始対象である側に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記振分テーブルを参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の時短結果に対応しているのかを特定する。

【0748】

時短用の振分判定処理を実行した後は、当該振分判定処理にて特定した時短結果の種類に対応する主側RAM84のフラグに「1」をセットする（ステップS4012）。その後、時短結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS4013）。具体的には、今回の遊技回の開始対象である特図表示部37a、37bに最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている時短結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この時短結果用の停止結果テーブルには、第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに停止表示される絵柄の停止態様の種類が、時短結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップS4013では、ステップS4012にて特定した時短結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側RAM84に記憶する。なお、各時短結果に1対1で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の時短結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。ステップS4013にて選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【0749】

当否判定処理の結果が大当たり結果及び時短結果のいずれでもない場合（ステップS4010：NO）、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS4014）。具体的には、今回の遊技回において第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに最終的に停止表示させる絵柄の態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この

場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び時短結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっており、さらに第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bにおいて共通の1種類となっている。

【0750】

一方、ステップS4004にて肯定判定をした場合、すなわち今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側において遊技回が実行されており且つその遊技回の開始契機となった保留情報が大当たり結果に対応している場合、当否判定処理を実行することなく、既に説明した外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS4014）。つまり、本パチンコ機10は第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち一方にて遊技回が実行されている状況であっても他方にて遊技回が開始され得る構成ではあるものの、既に実行されている遊技回の開始契機となった保留情報がいずれかの当たり結果に対応している場合には、新たに実行される遊技回はその開始契機となった保留情報が当たり結果に対応しているか否かに関係なく外れ結果に対応する遊技回となる。これにより、当たり結果に対応する遊技回が重複して実行されてしまわないようにすることが可能となる。また、当たり結果に対応する遊技回が既に実行されている場合には新たな遊技回の開始が阻止される構成の場合、遊技回の開始対象となっている保留情報が取得されているにも関わらず新たな遊技回が開始されない時点で現状実行されている遊技回が当たり結果に対応する遊技回であることが明確になってしまうおそれがあるが、当たり結果に対応する遊技回が既に実行されている場合であっても新たな遊技回が開始され得る構成とすることでこのような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【0751】

ステップS4009の処理、ステップS4013の処理又はステップS4014の処理を実行した場合、主側RAM84の時短状態カウンタ134の値が1以上であることを条件として（ステップS4015：YES）、時短状態カウンタ134の値を1減算する（ステップS4016）。そして、その1減算後における時短状態カウンタ134の値が「0」である場合（ステップS4017：YES）、主側RAM84に設けられた第1時短終了フラグ及び第2時短終了フラグのうち今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応する側の時短終了フラグに「1」をセットする（ステップS4018）。第1時短終了フラグは、第1特図表示部37aにおける遊技回が終了した場合に時短状態を終了させて通常遊技状態に移行させるべきであることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第2時短終了フラグは、第2特図表示部37bにおける遊技回が終了した場合に時短状態を終了させて通常遊技状態に移行させるべきであることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【0752】

ステップS4015にて否定判定をした場合、ステップS4017にて否定判定をした場合又はステップS4018の処理を実行した場合、変動表示期間の特定処理を実行する（ステップS4019）。変動表示期間の特定処理については後に説明する。その後、今回の開始対象となっている遊技回に対応する変動用コマンド及び種別コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS4020）。変動用コマンドには、ステップS4019にて特定された変動表示期間の情報が含まれるとともに開始対象となっている遊技回が第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうちいずれに対応しているのかを示す情報が含まれる。種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が当たり結果、時短結果及び外れ結果のうちいずれに対応しているのかを示す情報が含まれるとともに、当たり結果に対応している場合にはいずれの種類の当たり結果であるかを示す情報が含まれ、時短結果に対応している場合にはいずれの種類の時短結果であるかを示す情報が含まれる。

【0753】

音光側MPU93は低頻度サポートモードにおいては、第1保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示を開始させるとともに当該図柄の変動

表示に対応する演出を表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて行わせる一方、第 2 保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信したとしても図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 における図柄の変動表示並びにそれに対応する表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 における演出を実行させない。したがって、低頻度サポートモードにおいて第 1 保留情報を契機とした遊技回が実行される場合、第 1 特図表示部 3 7 a にて絵柄の変動表示が行われるとともに図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄の変動表示が行われるのに対して、低頻度サポートモードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回が実行される場合、第 2 特図表示部 3 7 b にて絵柄の変動表示が行われる一方、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 においては図柄の変動表示が行われない。

10

【0754】

なお、図柄表示装置 4 1 の表示面における外縁側に小さく区画した表示領域を設定し、低頻度サポートモードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回が実行されている場合には当該表示領域にて点滅表示や色の切り換え表示が行われる構成としてもよい。また、低頻度サポートモードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回にて大当たり結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置 4 1 にて大当たり結果の発生を告知する演出が行われ、低頻度サポートモードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回にて時短結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置 4 1 にて時短結果の発生を告知する演出が行われる。

【0755】

20

音光側 MPU 9 3 は第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいては、第 2 保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 における図柄の変動表示を開始させるとともに当該図柄の変動表示に対応する演出を表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて行わせる一方、第 1 保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信したとしても図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 における図柄の変動表示並びにそれに対応する表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 における演出を実行させない。したがって、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいて第 1 保留情報を契機とした遊技回が実行される場合、第 1 特図表示部 3 7 a にて絵柄の変動表示が行われる一方、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 においては図柄の変動表示が行われないのに対して、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいて第 2 保留情報を契機とした遊技回が実行される場合、第 2 特図表示部 3 7 b にて絵柄の変動表示が行われるとともに図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 にて図柄の変動表示が行われる。

30

【0756】

なお、図柄表示装置 4 1 の表示面における外縁側に小さく区画した表示領域を設定し、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいて第 1 保留情報を契機とした遊技回が実行されている場合には当該表示領域にて点滅表示や色の切り換え表示が行われる構成としてもよい。また、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいて第 1 保留情報を契機とした遊技回にて大当たり結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置 4 1 にて大当たり結果の発生を告知する演出が行われ、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードにおいて第 1 保留情報を契機とした遊技回にて時短結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置 4 1 にて時短結果の発生を告知する演出が行われる。

40

【0757】

その後、第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b のうち今回の遊技回の開始対象となっている表示部において、絵柄の変動表示を開始させる（ステップ S 4 0 2 1）。また、今回の処理が第 1 特図特電制御処理（図 6 3）に対応しているのであれば第 1 特図特電カウンタの値を 1 加算し、今回の処理が第 2 特図特電制御処理（図 6 4）に対応しているのであれば第 2 特図特電カウンタの値を 1 加算する（ステップ S 4 0 2 2）。

50

【0758】

図66はステップS4019にて実行される変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【0759】

主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS4101：NO）、すなわちサポートモードが低頻度サポートモードである場合、今回の遊技回の開始対象が第1保留情報であるか否かを判定する（ステップS4102）。今回の遊技回の開始対象が第1保留情報である場合（ステップS4102：YES）、通常変動期間用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す（ステップS4103）。そして、当該通常変動期間用のテーブル群を利用して変動表示期間の選択処理を実行し（ステップS4104）、当該選択処理にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84に設けられた第1特図側タイマカウンタにセットする（ステップS4105）。第1特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。

【0760】

通常変動期間用のテーブル群を参照してステップS4104における変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を通常変動期間用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。

【0761】

今回の遊技回において時短結果が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を通常変動期間用のテーブル群における時短結果対応のテーブルに対して照合することで、時短結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。時短結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの時短結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、リーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、時短結果対応の変動表示期間として10秒、11秒、12秒及び13秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

【0762】

今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第1特図保留エリア111に3個以上の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、低頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

【0763】

一方、今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に1個又は2個の第1保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を通常変動期間用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルに対して照合することで、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。完全外れ結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの完全外れ結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間よりも長く、時短結果対応の変動表示期間及びリーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、完全外れ結果対応の変動表示期間として5秒、6秒、7秒及び8秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

【0764】

低頻度サポートモードである場合であって（ステップS 4 1 0 1：NO）、今回の遊技回の開始対象が第2保留情報である場合（ステップS 4 1 0 2：NO）、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最長期間（具体的には10分）の情報を、主側RAM 8 4に設けられた第2特図側タイマカウンタにセットする（ステップS 4 1 0 6）。第2特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS 2 1 0のタイマ更新処理にて実行される。

【0765】

上記のとおり低頻度サポートモードにおいては、第1保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば通常変動期間用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択されるのに対して、第2保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば当該遊技回の遊技結果に関係なく特図側の最長期間（具体的には10分）が遊技回の変動表示期間として選択される。そして、特図側の最長期間は通常変動期間用のテーブル群を参照して選択されるいずれの変動表示期間よりも長い期間となっている。したがって、低頻度サポートモードにおいては、遊技者は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作して遊技を行う。

【0766】

主側RAM 8 4の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップS 4 1 0 1：YES）、すなわちサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、今回の遊技回の開始対象が第1保留情報であるか否かを判定する（ステップS 4 1 0 7）。今回の遊技回の開始対象が第1保留情報である場合（ステップS 4 1 0 7：YES）、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の長期間（具体的には2分）の情報を、主側RAM 8 4の第1特図側タイマカウンタにセットする（ステップS 4 1 0 8）。

【0767】

第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合であって（ステップS 4 1 0 1：YES）、今回の遊技回の開始対象が第2保留情報である場合（ステップS 4 1 0 7：NO）、短期間変動用のテーブル群を主側ROM 8 3から主側RAM 8 4に読み出す（ステップS 4 1 0 9）。そして、当該短期間変動用のテーブル群を利用して変動表示期間の選択処理を実行し（ステップS 4 1 1 0）、当該選択処理にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM 8 4の第2特図側タイマカウンタにセットする（ステップS 4 1 1 1）。

【0768】

短期間変動用のテーブル群を参照してステップS 4 1 1 0における変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を短期間変動用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。

【0769】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。

【0770】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も

10

20

30

40

50

発生しない場合において第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状態で開始された遊技回である場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。これにより、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第2保留情報が取得される状況を担保することが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状態で開始された遊技回である場合、特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。

【0771】

上記のとおり第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいては、第2保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択されるのに対して、第1保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば当該遊技回の遊技結果に関係なく特図側の長期間（具体的には2分）が遊技回の変動表示期間として選択される。当該特図側の長期間は、第2保留情報を契機としたリーチ表示が発生しない外れ結果の遊技回において選択される特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間である。したがって、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいては、遊技者は右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作して遊技を行う。

【0772】

＜特図変動中処理＞

次に、第1特図特電制御処理（図63）のステップS3806及び第2特図特電制御処理（図64）のステップS3906にて実行される特図変動中処理について説明する。

【0773】

制御対象の特図表示部37a, 37bにおける今回の遊技回の変動表示期間が経過していない場合であって、当該特図表示部37a, 37bの表示内容の更新タイミングである場合、当該特図表示部37a, 37bの表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、制御対象の特図表示部37a, 37bにおける絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。

【0774】

特図表示部37a, 37bにおける絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定処理の結果及び振分判定処理の結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置41における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が1周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、変動表示期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部37a, 37bを表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。

【0775】

一方、変動表示期間が経過している場合、最終停止コマンドを音光側MPU93に送信する。最終停止コマンドには、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち変動表示期間が経過した側に対応する情報が含まれる。その後、今回終了対象となっている遊技回の開始時に主側RAM84に記憶された特図表示部37a, 37bの絵柄の停止態様の情報を読み出す。これにより、制御対象の特図表示部37a, 37bにおいて今回の遊技回の遊技結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。

【0776】

その後、制御対象の特図表示部37a, 37bに対応するタイマカウンタに、最終停止期間（具体的には0.5sec）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。その後、今回の処理が第1特図特電制御処理（図63）に対応しているのであれば第1特図特電カウンタの値を1加算し、今回の処理が第2特図特電制御処理（図64）に対応しているのであれば第2特図特電カウンタの値を1加算する。

【0777】

＜特図確定中処理＞

次に、第1特図特電制御処理（図63）のステップS3807及び第2特図特電制御処理（図64）のステップS3907にて実行される特図確定中処理について、図67のフローチャートを参照しながら説明する。

【0778】

最終停止期間が経過している場合であって（ステップS4201：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップS4202：YES）、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側の特図特電カウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側の特図表示部37a、37bにて遊技回が実行されている状況であるか否かを判定する（ステップS4203）。今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側の特図特電カウンタの値が「0」ではない場合（ステップS4203：NO）、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側の特図表示部37a、37bにおける絵柄の変動表示を、外れ結果を停止表示させた状態で終了させる（ステップS4204）。そして、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応しない側の特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS4205）。これにより、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの両方にて絵柄の変動表示が実行されている状況において一方の絵柄の変動表示が停止して大当たり結果となり開閉実行モードが発生する場合には、他方の絵柄の変動表示は外れ結果を停止表示させた状態で強制的に終了される。

【0779】

ステップS4203にて否定判定をした場合又はステップS4205の処理を実行した場合、オープニング期間に対応する情報（具体的には5秒）を今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応する側のタイマカウンタにセットし（ステップS4206）、オープニングコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS4207）。音光側MPU93はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて行われるようにする。

【0780】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップS4208）。つまり、大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされる。開閉実行モードが開始される場合ではなく、開閉実行モードの途中や開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ131に固定天井回数のセットが行われる構成の場合、開閉実行モードが開始された後に動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップS117）又はRAMクリア処理（ステップS119）では既に説明したとおり開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ131の値は維持されるため、その動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。これに対して、開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報がセットされることにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【0781】

その後、今回の処理が第1特図特電制御処理（図63）に対応しているのであれば第1特図特電カウンタの値を1加算し、今回の処理が第2特図特電制御処理（図64）に対応しているのであれば第2特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS4209）。

【0782】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS4202：NO）、ステップS4210にて時短状態の終了判定処理を実行し、ステップS4211にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS4212にて天井カウンタ131の減算処理を実

行する。その後、今回の処理が第1特図特電制御処理（図63）に対応しているのであれば第1特図特電カウンタを「0」クリアし、今回の処理が第2特図特電制御処理（図64）に対応しているのであれば第2特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS4213）。

【0783】

図68は特図確定中処理（図67）のステップS4210にて実行される時短状態の終了判定処理を示すフローチャートである。

【0784】

まず主側RAM84において今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応する時短終了フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4301）。すなわち今回の処理が第1特図特電制御処理（図63）に対応しているのであれば主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされているか否かを判定し、今回の処理が第2特図特電制御処理（図64）に対応しているのであれば主側RAM84の第2時短終了フラグに「1」がセットされているか否かを判定する。

【0785】

ステップS4301にて肯定判定をした場合、今回の特図特電制御処理（図63、図64）に対応する時短終了フラグを「0」クリアする（ステップS4302）。その後、主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方を「0」クリアする（ステップS4303）。これにより、時短状態が終了して通常遊技状態となる。

【0786】

第1特図表示部37aにおいて遊技回が実行されている途中であっても第2特図表示部37bにおける遊技回が開始され得るとともに、第2特図表示部37bにおいて遊技回が実行されている途中であっても第1特図表示部37aにおける遊技回が開始され得る構成において、時短状態は残りの継続回数が1回である状況で開始された終了対応の遊技回が終了した場合に終了する。この場合、終了対応の遊技回が開始された後に開始された遊技回が終了対応の遊技回よりも先に終了したとしても時短状態は継続し、終了対応の遊技回が終了した場合に終了する。これに対して、時短状態（すなわち第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモード）では第2保留情報を実行対象とした遊技回であれば短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択されるのに対して、第1保留情報を実行対象とした遊技回では特図側の長期間（具体的には2分）が一義的に選択される。そうすると、時短状態においては基本的に右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作することで第2保留情報を実行対象とした遊技回が繰り返し実行されるようにし、時短状態の残りの継続回数が1回となった場合には第1保留情報が遊技回の実行対象となるように、左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作することで、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象とした遊技回となるようにすることが可能となる。そして、第1保留情報を実行対象として終了対応の遊技回が開始されることで当該終了対応の遊技回は特図側の長期間（具体的には2分）に亘って実行されるため、当該終了対応の遊技回が実行されている間に右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作して第2保留情報を実行対象とした遊技回が繰り返し実行されるようにすることで、時短状態の継続回数を実質的に増加させることが可能となる。

【0787】

図69は特図確定中処理（図67）のステップS4211にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【0788】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップS4401：YES）、主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4402）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS4402：YES）、ステップS4403以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回の当否判定

10

20

30

40

50

処理にて時短結果（第1時短結果又は第2時短結果）が選択されたとしても、当該時短結果を契機として第2高頻度サポートモードの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【0789】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS4402：NO）、主側RAM84の第1高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4403）。つまり、サポートモードが第1高頻度サポートモードであるか否かを判定する。サポートモードが第1高頻度サポートモードではない場合（ステップS4403：NO）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」をセットし（ステップS4404）、サポートモードが第1高頻度サポートモードである場合（ステップS4403：YES）、ステップS4404の処理を実行しない。これにより、低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第1高頻度サポートモードが維持され、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードが維持され、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて時短結果となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードとなる。

【0790】

ステップS4403にて肯定判定をした場合又はステップS4404の処理を実行した場合、今回の時短結果が第1時短結果であるか否かを判定する（ステップS4405）。今回の時短結果が第1時短結果である場合（ステップS4405：YES）、主側RAM84の時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数に対応する「100」以上であるか否かを判定する（ステップS4406）。時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数の値未満である場合（ステップS4406：NO）、時短状態カウンタ134に第1時短継続回数に対応する「100」の情報をセットする（ステップS4407）。

【0791】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS4408）。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第1時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。

【0792】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップS4407の処理が実行された後にステップS4408の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3では第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示される。そして、これら停止結果が停止表示された後に、図柄表示装置41では時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置41の表示面において図柄列Z1～Z3が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態が発生することを示す画像及び第1時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が1回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Z1～Z3が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【0793】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップS4407の処理が実行された後にステップS4408の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を

実行する。この場合、図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第 1 時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、第 2 時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、実際には時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及び第 1 時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置 4 1 の表示面において図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及びその再セットされた第 1 時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が 1 回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【0794】

今回の時短結果が第 2 時短結果である場合（ステップ S 4 4 0 5：NO）、時短状態カウンタ 1 3 4 の現状の値に関係なく、時短状態カウンタ 1 3 4 に第 2 時短継続回数に対応する「150」の情報をセットする（ステップ S 4 4 0 9）。その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップ S 4 4 1 0）。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第 2 時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信されるようにする。

【0795】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップ S 4 4 0 9 の処理が実行された後にステップ S 4 4 1 0 の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第 2 時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、第 2 時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 では第 2 時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）が停止表示される。そして、これら停止結果が停止表示された後に、図柄表示装置 4 1 では時短状態が発生することを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置 4 1 の表示面において図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態が発生することを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が 1 回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【0796】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップ S 4 4 0 9 の処理が実行された後にステップ S 4 4 1 0 の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第 2 時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、第 2 時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第 1 時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、第 2 時短発生図柄の組合せ（「3・4・1」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、実際には時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及び第 2 時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置 4 1 の表示面において図柄列 Z 1 ~ Z 3 が設定さ

れる領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において時短状態における時短継続回数が再セットされたことを示す画像及びその再セットされた第2時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が1回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Z1～Z3が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【0797】

ステップS4408の処理又はステップS4410の処理を実行した場合、主側RAM84に設けられた第1時短終了フラグ及び第2時短終了フラグのそれぞれを「0」クリアする（ステップS4411）。これにより、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として特図側の長期間（具体的には2分）に亘って実行されている途中で第2保留情報を実行対象とした遊技回において時短結果が発生した場合には、当該時短状態の残りの継続回数が延長される。よって、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されることの有利度を高めることが可能となる。

【0798】

上記構成であることにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には当該時短結果の種類に対応する時短継続回数の時短状態に移行する。これにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて当否判定処理の結果に基づき、開閉実行モードを介することなく時短状態への移行が発生する状況を生じさせることが可能となる。

【0799】

低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回に再セットされた状態で低確率モード及び第1高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第1高頻度サポートモードにおいて第2時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第2時短継続回数である150回にセットされた状態で低確率モード及び第1高頻度サポートモードが継続する。これにより、第1高頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には、第2高頻度サポートモードよりも第2作動口34が開放状態となり易い第1高頻度サポートモードを継続させながら、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が多くなる状況が発生する。よって、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0800】

低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回以上であれば、今回の第1時短結果の発生によって時短状態に関する新たな設定が行われることなく低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第1時短結果が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回未満であれば、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回にセットされた状態で低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて第2時短結果が発生した場合、時短状態カウンタ134の値が第2時短継続回数である150回にセットされた状態で低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。これにより、第2高頻度サポートモードにおいて時短結果が発生した場合には、当該第2高頻度サポートモードを継続させながら、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が多くなる状況が発生し得る。よって、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0801】

時短状態において時短結果が発生した場合、現状の時短状態の残りの継続回数と、新たに発生した時短結果により設定可能な時短継続回数とのうち多い方の回数が、その後の時短状態における残りの継続回数となる。これにより、時短状態において時短結果が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0802】

図70は特図確定中処理（図67）のステップS4213にて実行される天井カウンタ131の減算処理を示すフローチャートである。

【0803】

まず主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4501）。そして、高確率フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS4501：YES）、ステップS4502以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。つまり、高確率モードである状況において実行された遊技回においては天井カウンタ131の値の減算が実行されることはなく、さらに天井カウンタ131の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

【0804】

高確率フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS4501：NO）、天井カウンタ131の値が1以上であるか否かを判定する（ステップS4502）。天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS4502：NO）、ステップS4503以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。天井カウンタ131に情報をセットする処理は上記第1の実施形態と同様に、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始された場合におけるステップS114、動作電力の供給が開始された場合に主側RAM84の情報異常が発生している場合におけるステップS122、並びに開閉実行モードが開始される場合におけるステップS4208のみであり、天井カウンタ131の値が「0」となった後においては上記いずれかの処理が実行されない限り天井カウンタ131の値は「0」に維持される。一方、天井時短は、天井カウンタ131の値が1以上である状況で当該天井カウンタ131の値が1減算されて当該天井カウンタ131の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、上記のとおり天井カウンタ131の値が「0」である場合には（ステップS4502：NO）、ステップS4503以降の処理を実行することなく本天井カウンタ131の減算処理を終了する。これにより、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり天井時短を契機とした時短状態が発生し、当該時短状態において大当たり結果が発生することなく時短継続回数の遊技回が消化されて時短状態が終了して通常遊技状態となった場合、その後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても天井時短を契機とした時短状態は発生しない。よって、天井時短を契機とした時短状態が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0805】

天井カウンタ131の値が1以上である場合（ステップS4502：YES）、天井カウンタ131の値を1減算し（ステップS4503）、その1減算後における天井カウンタ131の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS4504）。天井カウンタ131の値が「0」である場合（ステップS4504：YES）、主側RAM84の第2高頻度フラグに「1」がセットされているか否かに関係なく、第2高頻度フラグに「1」をセットする（ステップS4505）。これにより、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードが維持され、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井時短となった場合には低確率モード及び第2高頻度サポートモードとなる。なお、低確率モード及び第1高頻度サポートモードは5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了した後において発生し、第1時短継続回数である100回の遊技回が消化された場合に第1高頻度サポートモードは終了するため、開閉実行モードが終了した後に低確率モードにおいて固定天井回数である500回の遊技回が消化された場合に発生する天井時短は、第1高頻度サポートモードである状況において発生することはない。

【0806】

その後、主側RAM84の時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数に対応する「100」以上であるか否かを判定する（ステップS4506）。時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数の値未満である場合（ステップS4506：NO）、時短状態

10

20

30

40

50

カウンタ１３４に第１時短継続回数に対応する「１００」の情報をセットする（ステップＳ４５０７）。

【０８０７】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップＳ４５０８）。当該送信処理では時短状態が開始されたこと又は第１時短継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドが音光側ＭＰＵ９３に送信されるようにする。

【０８０８】

現状の遊技状態が時短状態ではない状況においてステップＳ４５０７の処理が実行された後にステップＳ４５０８の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第１時短継続回数の時短状態が開始されることを示す情報が含まれる。音光側ＭＰＵ９３は当該状態指定コマンドを受信した場合、第１時短継続回数の時短状態が開始されることを示す演出が図柄表示装置４１、表示発光部６４及びスピーカ部６５にて実行されるようにするための処理を実行する。天井時短を契機とした時短状態は大当たり結果及び時短結果のいずれもが発生しない遊技回において発生するため、図柄表示装置４１における図柄列Ｚ１～Ｚ３では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第１時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）及び第２時短発生図柄の組合せ（「３・４・１」）以外の図柄の組合せである外れ図柄の組合せ（外れリーチ図柄の組合せを含む）が停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第１時短継続回数を示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置４１の表示面において図柄列Ｚ１～Ｚ３が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第１時短継続回数を示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が１回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Ｚ１～Ｚ３が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【０８０９】

現状の遊技状態が時短状態である状況においてステップＳ４５０７の処理が実行された後にステップＳ４５０８の処理が実行された場合には状態指定コマンドに第１時短継続回数の再セットが行われたことを示す情報が含まれる。音光側ＭＰＵ９３は当該状態指定コマンドを受信した場合、第１時短継続回数の再セットが行われたことを示す演出が図柄表示装置４１、表示発光部６４及びスピーカ部６５にて実行されるようにするための処理を実行する。天井時短を契機とした第１時短継続回数の再セットは大当たり結果及び時短結果のいずれもが発生しない遊技回において発生するため、図柄表示装置４１における図柄列Ｚ１～Ｚ３では大当たり結果に対応する図柄の組合せ、第１時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）及び第２時短発生図柄の組合せ（「３・４・１」）以外の図柄の組合せである外れ図柄の組合せ（外れリーチ図柄の組合せを含む）が停止表示される。そして、当該停止結果が停止表示されて最終停止期間に亘る確定表示が終了した後に、天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第１時短継続回数が再セットされたことを示す画像が表示される。当該画像が表示されるタイミングは遊技回が終了するタイミングであるため、即座に新たな遊技回が開始され得る。この場合には、図柄表示装置４１の表示面において図柄列Ｚ１～Ｚ３が設定される領域を縮小し、その縮小した領域において新たな遊技回に対応する図柄の変動表示を行いながら、その縮小によって確保された領域において天井時短を契機とした時短状態が発生することを示す画像及び第１時短継続回数が再セットされたことを示す画像の表示を継続する。当該画像の表示は遊技回が１回終了した場合に終了し、当該画像の表示が終了した場合に図柄列Ｚ１～Ｚ３が設定される領域は元の大きさに復帰する。

【０８１０】

ステップＳ４５０６にて肯定判定をした場合又はステップＳ４５０８の処理を実行した場合、主側ＲＡＭ８４に設けられた第１時短終了フラグ及び第２時短終了フラグのそれぞ

10

20

30

40

50

れを「0」クリアする（ステップS4509）。これにより、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として特図側の長期間（具体的には2分）に亘って実行されている途中で第2保留情報を実行対象とした遊技回において時短結果が発生した場合には、当該時短状態の残りの継続回数が延長される。よって、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されることの有利度を高めることが可能となる。

【0811】

ここで、特図確定中処理（図67）においては時短結果用の設定処理（図69）が実行された後に天井カウンタ131の減算処理（図70）が実行されるとともに当該天井カウンタ131の減算処理（図70）では1減算後における天井カウンタ131の値が「0」であったとしても時短状態カウンタ134の値が「100」以上であればステップS4507及びステップS4508の処理を実行しない構成とすることにより、第1時短結果又は第2時短結果となった遊技回において天井時短を契機とした第1時短継続回数の再セットが行われなくすることが可能となる。これにより、時短結果を契機とした時短継続回数の再セットと天井時短を契機とした時短継続回数の再セットが重複して実行されないようにすることが可能となる。特に、第2時短結果を契機とした第2時短継続回数の再セットが行われた後に天井時短を契機とした第1時短継続回数の再セットが行われると時短継続回数が少なくなってしまうが、上記構成とすることによりこのような不都合が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【0812】

上記構成であることにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合には第1時短継続回数の時短状態に移行する。これにより、低確率モード及び低頻度サポートモードにおいて天井回数の遊技回の消化に基づき、開閉実行モードを介することなく時短状態への移行が発生する状況を生じさせることが可能となる。

【0813】

低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回以上であれば、今回の天井時短の発生によって時短状態に関する新たな設定が行われることなく低確率モード及び第2高頻度サポートモードが継続する。また、低確率モード及び第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合に時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回未満であれば、時短状態カウンタ134の値が第1時短継続回数である100回にセットされた状態で低確率モード及び第1高頻度サポートモードが継続する。つまり、時短状態において天井時短が発生した場合、現状の時短状態の残りの継続回数と、新たに発生した天井時短により設定可能な時短継続回数とのうち多い方の回数が、その後の時短状態における残りの継続回数となる。これにより、第2高頻度サポートモードにおいて天井時短が発生した場合には、それまでよりも時短状態の残りの継続回数が増える状況が発生し得るため、時短状態において天井時短が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【0814】

次に、音光側MPU93にて実行される左打ち報知処理について、図71のフローチャートを参照しながら説明する。左打ち報知処理は比較的短い周期（例えば4ミリ秒）で繰り返し実行される。

【0815】

高確率モードではなく（ステップS4601：NO）、高頻度サポートモード（第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモード）である場合（ステップS4602：YES）、現状の高頻度サポートモードが開始されてから実行された遊技回の回数が報知基準回数であるか否かを判定する（ステップS4603）。報知基準回数は、高頻度サポートモード（すなわち時短状態）の残りの継続回数が5回となった場合である。この5回は、第2特図保留エリア112における第2保留情報の保留上限個数に1を加算した値の回数として設定されている。

【0816】

ステップS4603にて左打ち報知用処理を実行する（ステップS4604）。左打ち報知用処理では、左打ち報知画像が図柄表示装置41にて表示されるようにするための処理を実行する。左打ち報知画像として、現状から5回後の遊技回の実行対象が第1保留情報となるように左側領域PA2を狙って遊技球の発射操作を行うべきことを遊技者に認識可能とさせる画像が表示される。これにより、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されるように発射操作を行うことを遊技者に促すことが可能となる。

【0817】

次に、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行される様子について、図72のタイムチャートを参照しながら説明する。図72（a）は時短状態である期間を示し、図72（b）は第1保留情報を実行対象とした遊技回が実行されている期間を示し、図72（c）は第2保留情報を実行対象とした遊技回が実行されている期間を示し、図72（d）は主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされている期間を示し、図72（e）は時短結果の発生タイミングを示し、図72（f）は天井時短の発生タイミングを示す。

【0818】

まず時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されるとともに終了対応の遊技回の途中で時短結果及び天井時短のいずれもが発生しない場合について説明する。

【0819】

図72（a）に示すように時短状態であるt1のタイミングで図72（b）に示すように第1保留情報を実行対象とする遊技回が開始される。当該遊技回の変動表示期間は特図側の長期間である2分である。当該遊技回は、時短状態の残りの継続回数が1回である状況において開始されているため、時短状態における終了対応の遊技回であり、当該t1のタイミングで図72（d）に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされる。その後、図72（b）に示すように第1保留情報を実行対象とした終了対応の遊技回が実行されている状況であるt2のタイミング、t3のタイミング、t4のタイミング、t5のタイミング及びt6のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで、図72（c）に示すように第2保留情報を実行対象とする遊技回が実行される。この場合、これらt2のタイミング～t6のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれにおいては図72（a）に示すように時短状態であるため、これらt2のタイミング～t6のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで開始される遊技回は短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が決定される。これら各遊技回は、第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始されているとともに大当たり結果及び外れリーチ表示のいずれも発生しないため、遊技回の変動表示期間は特図側の最短期間（具体的には3秒）となる。

【0820】

その後、t7のタイミングで図72（b）に示すように第1保留情報を実行対象とする終了対応の遊技回が終了する。この場合、図72（d）に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされているためサポートモードが低頻度サポートモードとなり、図72（a）に示すように時短状態が終了する。

【0821】

上記のとおり時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報が実行対象の遊技回が実行され、当該終了対応の遊技回では遊技回の変動表示期間が特図側の長期間（具体的には2分）となる。そして、当該終了対応の遊技回において最短期間の変動表示期間となる第2保留情報を契機とした遊技回が30回程度発生している。これにより、今回の時短状態においては第1時短継続回数及び第2時短継続回数のうち設定対象となった継続回数よりも30回程度多い回数の遊技回が実行されたことになる。

【0822】

次に、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されるとともに終了対応の遊技回の途中で時短結果が発生する場合について説明する。

【0823】

図72(a)に示すように時短状態であるt8のタイミングで図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とする遊技回が開始される。当該遊技回の変動表示期間は特図側の長期間である2分である。当該遊技回は、時短状態の残りの継続回数が1回である状況において開始されているため、時短状態における終了対応の遊技回であり、当該t8のタイミングで図72(d)に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされる。

【0824】

その後、図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とした終了対応の遊技回が実行されている状況であるt9のタイミング、t10のタイミング、t11のタイミング、t13のタイミング及びt14のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで、図72(c)に示すように第2保留情報を実行対象とする遊技回が実行される。この場合、これらt9のタイミング、t10のタイミング、t11のタイミング、t13のタイミング及びt14のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれにおいては図72(a)に示すように時短状態であるため、これらt9のタイミング、t10のタイミング、t11のタイミング、t13のタイミング及びt14のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで開始される遊技回は短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が決定される。これら各遊技回は、第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始されているとともに大当たり結果及び外れリーチ表示のいずれも発生しないため、遊技回の変動表示期間は特図側の最短期間（具体的には3秒）となる。

【0825】

t9のタイミング、t10のタイミング、t11のタイミング、t13のタイミング及びt14のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれの遊技回のうちt11のタイミングの遊技回は、図72(e)に示すように当否判定処理の結果が時短結果となる。したがって、当該遊技回が終了するt12のタイミングで図72(d)に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグが「0」クリアされるとともに、第1時短結果であれば時短状態カウンタ134に第1時短継続回数が再セットされ、第2時短結果であれば時短状態カウンタ134に第2時短継続回数が再セットされる。よって、時短状態が延長された状態となる。

【0826】

その後、t14のタイミングで図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とする終了対応の遊技回が終了する。但し、t12のタイミングで第1時短終了フラグが「0」クリアされているとともに時短状態が延長されているため、t14のタイミングでは時短状態は終了しない。

【0827】

上記のとおり時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報が実行対象の遊技回が実行され、当該終了対応の遊技回では遊技回の変動表示期間が特図側の長期間（具体的には2分）となる。そして、当該終了対応の遊技回において実行された第2保留情報が実行対象の遊技回にて時短結果が発生することで、時短状態が延長されている。時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報が実行対象の遊技回が実行されることにより、時短状態の延長という利益が付与され得るようにすることが可能となる。

【0828】

次に、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を実行対象として実行されるとともに終了対応の遊技回の途中で天井時短が発生する場合について説明する。

【0829】

図72(a)に示すように時短状態であるt15のタイミングで図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とする遊技回が開始される。当該遊技回の変動表示期間は特

10

20

30

40

50

図側の長期間である2分である。当該遊技回は、時短状態の残りの継続回数が1回である状況において開始されているため、時短状態における終了対応の遊技回であり、当該t15のタイミングで図72(d)に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされる。

【0830】

その後、図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とした終了対応の遊技回が実行されている状況であるt16のタイミング、t17のタイミング、t18のタイミング、t19のタイミング及びt21のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで、図72(c)に示すように第2保留情報を実行対象とする遊技回が実行される。この場合、これらt16のタイミング、t17のタイミング、t18のタイミング、t19のタイミング及びt21のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれにおいては図72(a)に示すように時短状態であるため、これらt16のタイミング、t17のタイミング、t18のタイミング、t19のタイミング及びt21のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれで開始される遊技回は短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が決定される。これら各遊技回は、第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始されているとともに大当たり結果及び外れリーチ表示のいずれも発生しないため、遊技回の変動表示期間は特図側の最短期間（具体的には3秒）となる。

【0831】

t16のタイミング、t17のタイミング、t18のタイミング、t19のタイミング及びt21のタイミングを含む複数のタイミングのそれぞれの遊技回のうちt19のタイミングの遊技回が終了するタイミングであるt20のタイミングで、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となり、図72(f)に示すように天井時短が発生する。当該t20のタイミングで図72(d)に示すように主側RAM84の第1時短終了フラグが「0」クリアされるとともに、時短状態カウンタ134に第1時短継続回数が再セットされる。よって、時短状態が延長された状態となる。

【0832】

その後、t21のタイミングで図72(b)に示すように第1保留情報を実行対象とする終了対応の遊技回が終了する。但し、t20のタイミングで第1時短終了フラグが「0」クリアされているとともに時短状態が延長されているため、t21のタイミングでは時短状態は終了しない。

【0833】

上記のとおり時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報が実行対象の遊技回が実行され、当該終了対応の遊技回では遊技回の変動表示期間が特図側の長期間（具体的には2分）となる。そして、当該終了対応の遊技回において実行された第2保留情報が実行対象の遊技回を契機として天井時短が発生することで、時短状態が延長されている。時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報が実行対象の遊技回が実行されることにより、時短状態の延長という利益が付与され得るようにすることが可能となる。

【0834】

<第11の実施形態>

本実施形態では主側MPU82にて実行される変動表示期間の特定処理の処理構成が上記第10の実施形態と相違している。以下、上記第10の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第10の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0835】

図73は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【0836】

主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS4701：NO）、すなわちサポートモードが低頻度サポート

10

20

30

40

50

モードである場合、ステップS4702～ステップS4706の処理を実行する。これらステップS4702～ステップS4706は上記第10の実施形態における変動表示期間の特定処理（図66）におけるステップS4102～ステップS4106と同一である。つまり、低頻度サポートモードにおいては、第1保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば通常変動期間用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択されるのに対して、第2保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば当該遊技回の遊技結果に関係なく特図側の最長期間（具体的には10分）が遊技回の変動表示期間として選択される。そして、特図側の最長期間は通常変動期間用のテーブル群を参照して選択されるいずれの変動表示期間よりも長い期間となっている。したがって、低頻度サポートモードにおいては、遊技者は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作して遊技を行う。

10

【0837】

主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップS4701：YES）、すなわちサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、今回の遊技回の開始対象が第1保留情報であるか否かを判定する（ステップS4707）。今回の遊技回の開始対象が第1保留情報である場合（ステップS4707：YES）、主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4708）。つまり、今回の第1保留情報が実行対象である遊技回が時短状態における終了対応の遊技回であるか否かを判定する。第1時短終了フラグに「1」がセットされている場合には（ステップS4708：YES）、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を主側RAM84の第1特図側タイマカウンタにセットし（ステップS4709）、第1時短終了フラグに「1」がセットされていない場合には（ステップS4708：NO）、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の長期間（具体的には2分）の情報を、主側RAM84の第1特図側タイマカウンタにセットする（ステップS4710）。

20

【0838】

第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合であって（ステップS4701：YES）、今回の遊技回の開始対象が第2保留情報である場合（ステップS4707：NO）、ステップS4711～ステップS4713の処理を実行する。これらステップS4711～ステップS4713は、上記第10の実施形態における変動表示期間の特定処理（図66）におけるステップS4109～ステップS4111と同一である。

30

【0839】

上記のとおり時短状態において第1保留情報を契機とした遊技回が終了対応の遊技回以外の遊技回として実行される場合、当該第1保留情報を契機とした遊技回の変動表示期間として特図側の長期間（具体的には2分）が選択される。これにより、時短状態において第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を低くすることが可能となる。その一方、時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報を契機とした遊技回が開始される場合、当該第1保留情報を契機とした遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）が選択される。この特図側の最短期間は時短状態において第2保留情報を契機とした遊技回であってリーチ表示が発生しない遊技回の変動表示期間として選択される期間である。これにより、第1保留情報を契機とした遊技回が時短状態における終了対応の遊技回となった場合に、当該終了対応の遊技回が実行されている状況で第2保留情報を契機とした遊技回が繰り返し実行されてしまわないようにすることが可能となる。

40

【0840】

なお、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を契機とした遊技回となった場合、当該遊技回において大当たり結果が発生する場合には当該遊技回の継続期間として特図側の最短期間よりも長い期間が選択される構成としてもよい。例えば、特図側の中期間（具体的には10秒）が選択される構成としてもよく、特図側の長期間（具体的には2

50

分)が選択される構成としてもよい。また、ステップS4711にて読み出される短期間変動用のテーブル群に含まれる大当たり用のテーブル及びその時点の変動種別カウンタCSの値を利用して、リーチ表示に発生に対応する変動表示期間が抽選により決定される構成としてもよい。これにより、時短状態における終了対応の遊技回が第1保留情報を契機とした遊技回となった場合であっても、大当たり結果が発生するまでの期間をある程度確保することが可能となる。

【0841】

＜第12の実施形態＞

本実施形態では主側MPU82にて実行される変動表示期間の特定処理の処理構成が上記第10の実施形態と相違している。以下、上記第10の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第10の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0842】

図74は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【0843】

主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグの両方に「1」がセットされていない場合(ステップS4801:NO)、すなわちサポートモードが低頻度サポートモードである場合、ステップS4802～ステップS4806の処理を実行する。これらステップS4802～ステップS4806は上記第10の実施形態における変動表示期間の特定処理(図66)におけるステップS4102～ステップS4106と同一である。つまり、低頻度サポートモードにおいては、第1保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば通常変動期間用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が選択されるのに対して、第2保留情報が遊技回の開始対象となるのであれば当該遊技回の遊技結果に関係なく特図側の最長期間(具体的には10分)が遊技回の変動表示期間として選択される。そして、特図側の最長期間は通常変動期間用のテーブル群を参照して選択されるいずれの変動表示期間よりも長い期間となっている。したがって、低頻度サポートモードにおいては、遊技者は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28を操作して遊技を行う。

【0844】

主側RAM84の第1高頻度フラグ及び第2高頻度フラグのいずれかに「1」がセットされている場合(ステップS4801:YES)、すなわちサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合、今回の遊技回の開始対象が第1保留情報であるか否かを判定する(ステップS4807)。今回の遊技回の開始対象が第1保留情報である場合(ステップS4807:YES)、主側RAM84の第1時短終了フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS4808)。つまり、今回の第1保留情報が実行対象である遊技回が時短状態における終了対応の遊技回であるか否かを判定する。

【0845】

第1時短終了フラグに「1」がセットされている場合には(ステップS4808:YES)、終了タイミング用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す(ステップS4809)。そして、当該終了タイミング用のテーブル群を利用して変動表示期間の選択処理を実行し(ステップS4810)、当該選択処理にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84の第1特図側タイマカウンタにセットする(ステップS4811)。

【0846】

終了タイミング用のテーブル群を参照してステップS4810における変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果又は時短結果が発生する場合、特図側の最長期間(具体的には3秒)の情報を読み出す。本実施形態であっても音光側MPU93は上記第10の実施形態と同様に、第1高頻度サポートモード

10

20

30

40

50

又は第2高頻度サポートモードにおいては、第2保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示を開始させるとともに当該図柄の変動表示に対応する演出を表示発光部64及びスピーカ部65にて行わせる一方、第1保留情報が遊技回の開始対象となっていることを示す変動用コマンド及び種別コマンドを受信したとしても図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示並びにそれに対応する表示発光部64及びスピーカ部65における演出を実行させない。また、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回にて大当たり結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置41にて大当たり結果の発生を告知する演出が行われ、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回にて時短結果が発生した場合には当該遊技回が終了したタイミングで図柄表示装置41にて時短結果の発生を告知する演出が行われる

10

今回の遊技回において大当たり結果及び時短結果の両方が発生しない場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を終了タイミング用のテーブル群における終了タイミング対応のテーブルに対して照合することで、終了対応の変動表示期間の情報を読み出す。当該終了対応の変動表示期間の情報として、特図側の最短期間である3秒、特図側の中期間である10秒、特図側の長期間である2分が設定されている。終了タイミング対応のテーブルでは、1/3の確率で特図側の最短期間が選択され、1/3の確率で特図側の中期間が選択され、1/3の確率で特図側の長期間が選択されるように設定されている。

20

【0847】

第1時短終了フラグに「1」がセットされていない場合には（ステップS4808：NO）、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の長期間（具体的には2分）の情報を、主側RAM84の第1特図側タイマカウンタにセットする（ステップS4812）。

【0848】

第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合であって（ステップS4801：YES）、今回の遊技回の開始対象が第2保留情報である場合（ステップS4807：NO）、ステップS4813～ステップS4815の処理を実行する。これらステップS4813～ステップS4815は、上記第10の実施形態における変動表示期間の特定処理（図66）におけるステップS4109～ステップS4111と同一である。

30

【0849】

上記のとおり時短状態において第1保留情報を契機とした遊技回が終了対応の遊技回以外の遊技回として実行される場合、当該第1保留情報を契機とした遊技回の変動表示期間として特図側の長期間（具体的には2分）が選択される。これにより、時短状態において第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を低くすることが可能となる。その一方、時短状態における終了対応の遊技回として第1保留情報を契機とした遊技回が開始される場合、当該第1保留情報を契機とした遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）、特図側の中期間（具体的には10秒）及び特図側の長期間（具体的には2分）のいずれかが抽選により選択される。特図側の最短期間が選択された場合には第1保留情報を契機とした終了対応の遊技回が実行されている状況で第2保留情報を契機とした遊技回が繰り返し実行されることはなく、特図側の中期間が選択された場合には第1保留情報を契機とした終了対応の遊技回が実行されている状況で第2保留情報を契機とした遊技回がわずかな回数実行され、特図側の長期間が選択された場合には第1保留情報を契機とした終了対応の遊技回が実行されている状況で第2保留情報を契機とした遊技回が多数回繰り返される。これにより、第1保留情報を契機として終了対応の遊技回が実行された場合、遊技者はより長い変動表示期間が選択されることを期待することとなり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

40

【0850】

<第13の実施形態>

50

本実施形態では主側MPU82の処理構成が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【0851】

図75は本実施形態における主制御装置71の正面図である。

【0852】

主制御装置71は、図75に示すように、主制御基板81が基板ボックス71aに収容されてなる。主制御基板81の一方の板面である素子搭載面には、主側MPU82が搭載されている。基板ボックス71aは当該基板ボックス71aの外部から当該基板ボックス71a内に収容された主側MPU82を目視することが可能となるように透明に形成されている。なお、基板ボックス71aは無色透明に形成されているが、基板ボックス71aの外部から当該基板ボックス71a内に収容された主側MPU82を目視することが可能であれば有色透明に形成されていてもよい。主制御装置71は基板ボックス71aにおいて主制御基板81の素子搭載面と対向する対向壁部71bがパチンコ機10後方を向くようにして樹脂ベース21の背面に搭載されている。したがって、遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に開放させて樹脂ベース21の背面を露出させることにより、基板ボックス71aの対向壁部71bを目視することが可能となるとともに当該対向壁部71bを通じて主側MPU82を目視することが可能となる。

【0853】

基板ボックス71aは複数のケース体71cを前後に組合せることにより形成されているが、これら複数のケース体71cには、これらケース体71cの分離を阻止するとともにこれらケース体71cの分離に際してその痕跡を残すための結合部71dが設けられている。結合部71dは、略直方体形状の基板ボックス71aにおける一辺に複数並設されている。これにより、一部の結合部71dを利用してケース体71cの分離を阻止している状態において当該一部の結合部71dを破壊してケース体71cを分離したとしても、その後に別の結合部71dを結合状態とすることでケース体71cの分離を再度阻止することが可能となる。また、ケース体71cの分離に際して結合部71dが破壊されてその痕跡が残ることにより、結合部71dを目視確認することでケース体71cの分離が不正に行われているか否かを把握することが可能となる。また、基板ボックス71aにおいて結合部71dが並設された一辺とは逆の一辺にはケース体71c間の境界を跨ぐようにして封印シール71eが貼り付けられている。封印シール71eはその引き剥がしに際して粘着層がケース体71cに残る。これにより、ケース体71cの分離に際して封印シール71eが剥がされた場合にはその痕跡を残すことが可能となる。

【0854】

上記構成の主制御装置71において主制御基板81には、設定キー挿入部195と、リセットボタン196と、第1～第4報知用表示装置201～204と、設定表示装置205と、異常表示装置206とが設けられている。なお、パチンコ機10の設定状態は「設定1」～「設定6」の6段階に限定されることはなく任意である。

【0855】

これら設定キー挿入部195、リセットボタン196、第1～第4報知用表示装置201～204、設定表示装置205及び異常表示装置206はいずれも主制御基板81の素子搭載面に設けられている。また、主制御基板81の素子搭載面は既に説明したとおり基板ボックス71aの対向壁部71bと対向しているが、設定キー挿入部195及びリセットボタン196は対向壁部71bにより覆われていない。つまり、対向壁部71bにおいて設定キー挿入部195及びリセットボタン196のそれぞれと対向する領域が個別の開口部とされている。これにより、基板ボックス71aの開放を要することなく、設定キー挿入部195に設定キーを挿入することが可能であり、リセットボタン196を押圧操作することが可能である。

【0856】

設定キー挿入部195に設定キーを挿入して所定方向に回転操作することにより設定キ

10

20

30

40

50

一挿入部 195 が ON 操作された状態となる。この状態においてリセットボタン 196 を押圧操作しながらパチンコ機 10 への動作電力の供給を開始させることで（すなわち主制御装置 71 の主側 MPU 82 への動作電力の供給を開始させることで）、パチンコ機 10 の設定状態を変更することが可能な状態となる。そして、この状態においてリセットボタン 196 を 1 回押圧操作する度にパチンコ機 10 の設定状態が「設定 1」～「設定 6」の範囲において昇順で 1 段階ずつ変更される。なお、「設定 6」の状態ではリセットボタン 196 が操作された場合には「設定 1」に更新される。また、設定キー挿入部 195 に挿入している設定キーを ON 操作の位置から所定方向とは反対方向に回転操作して初期位置に復帰させることにより設定キー挿入部 195 が OFF 操作された状態となる。設定キー挿入部 195 が OFF 操作された状態となることで設定値を変更可能な状態が終了し、その時点における設定値の状態では遊技を行うことが可能な状態となる。なお、設定値を変更可能な状態が終了した後にリセットボタン 196 を操作しても設定値を変更することはできない。

10

【0857】

設定キー挿入部 195 に対する ON 操作はパチンコ機 10 への動作電力の供給開始時（すなわち主制御装置 71 の主側 MPU 82 への動作電力の供給開始時）のみ有効とされる。したがって、主制御装置 71 の主側 MPU 82 において動作電力の供給開始時の処理が終了した後に設定キー挿入部 195 a に対する ON 操作を行ったとしても設定値を変更することはできない。

【0858】

20

パチンコ機 10 の設定状態は当該パチンコ機 10 における単位時間当たりの有利度を定めるものであり、「設定 n」（n は「1」～「6」の整数）の n が大きい値ほど（すなわち設定値が高いほど）有利度が高くなる。大当たり結果の当選確率を決定する当否抽選モードとして相対的に当選確率が低くなる低確率モードと相対的に当選確率が高くなる高確率モードとが存在しているが、設定値が高いほど低確率モード及び高確率モードのそれぞれにおける大当たり結果の当選確率が高くなるように設定されている。

【0859】

設定キー挿入部 195 を ON 操作した状態であってリセットボタン 196 を押圧操作しない状態でパチンコ機 10 への動作電力の供給を開始させることで（すなわち主制御装置 71 の主側 MPU 82 への動作電力の供給を開始させることで）、パチンコ機 10 の設定値を確認可能な状態となる。また、設定キー挿入部 195 が OFF 操作された状態となることで設定値を確認可能な状態が終了する。

30

【0860】

設定キー挿入部 195 を ON 操作することなくリセットボタン 196 を押圧操作した状態でパチンコ機 10 への動作電力の供給を開始させることで（すなわち主制御装置 71 の主側 MPU 82 への動作電力の供給を開始させることで）、主側 RAM 84 における所定のエリアのデータがクリアされる状態となる。リセットボタン 196 に対する ON 操作はパチンコ機 10 への動作電力の供給開始時（すなわち主制御装置 71 の主側 MPU 82 への動作電力の供給開始時）のみ有効とされる。したがって、主制御装置 71 の主側 MPU 82 において動作電力の供給開始時の処理が終了した後にリセットボタン 196 を押圧操作したとしても主側 RAM 84 のデータのクリアを行うことはできない。

40

【0861】

第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 及び設定表示装置 205 はいずれも、LED による表示用セグメントが 8 個配列されたセグメント表示器であるが、これに限定されることはなく液晶表示装置であってもよく、有機 EL ディスプレイであってもよい。第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 及び設定表示装置 205 はいずれもその表示面が主制御基板 81 の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されているとともに、基板ボックス 71 a の対向壁部 71 b により覆われている。この場合に、基板ボックス 71 a が透明に形成されていることにより、基板ボックス 71 a の外部から当該基板ボックス 71 a 内に収容された第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 の表示面及び設定表示装置 20

50

5の表示面を目視することが可能となる。また、主制御装置71は基板ボックス71aにおいて主制御基板81の素子搭載面と対向する対向壁部71bがパチンコ機10後方を向くようにして樹脂ベース21の背面に搭載されているため、遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に開放させて樹脂ベース21の背面をパチンコ機10前方に露出させた場合には、対向壁部71bを通じて第1～第4報知用表示装置201～204の表示面及び設定表示装置205の表示面を目視することが可能となる。

【0862】

第1～第4報知用表示装置201～204においては遊技履歴の管理結果の表示が行われる。また、設定表示装置205においては、設定値を変更するための設定値更新処理が実行されている状況下では選択対象となっている設定値が表示され、設定値を確認するための設定確認用処理が実行されている状況下では設定対象となっている設定値が表示される。つまり、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定1」である場合には設定表示装置205にて「1」が表示され、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定2」である場合には設定表示装置205にて「2」が表示され、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定3」である場合には設定表示装置205にて「3」が表示され、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定4」である場合には設定表示装置205にて「4」が表示され、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定5」である場合には設定表示装置205にて「5」が表示され、上記選択対象又は上記設定対象の設定値が「設定6」である場合には設定表示装置205にて「6」が表示される。なお、設定値更新処理及び設定確認用処理のいずれもが実行されていない状況では設定表示装置205は消灯状態に維持される。

【0863】

遊技履歴の管理結果を表示するための第1～第4報知用表示装置201～204及び設定値を表示するための設定表示装置205は、主制御基板81の素子搭載面において並設されている。そして、上記のとおり主制御装置71は基板ボックス71aにおいて主制御基板81の素子搭載面と対向する対向壁部71bがパチンコ機10後方を向くようにして樹脂ベース21の背面に搭載されているため、遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に開放させて樹脂ベース21の背面をパチンコ機10前方に露出させた場合には、対向壁部71bを通じて第1～第4報知用表示装置201～204の表示面及び設定表示装置205の表示面を目視することが可能となる。主制御基板81の素子搭載面には設定キー挿入部195及びリセットボタン196が設けられているため設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する場合には遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に開放させて樹脂ベース21の背面をパチンコ機10前方に露出させることとなるが、上記のとおり第1～第4報知用表示装置201～204及び設定表示装置205が素子搭載面に設けられていることにより、設定表示装置205における選択対象又は設定対象の設定値の表示だけではなく、第1～第4報知用表示装置201～204における遊技履歴の管理結果の表示も目視することが可能となる。

【0864】

異常表示装置206には単色発光タイプのLEDが設けられている。異常表示装置206はその発光面が主制御基板81の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されるとともに、基板ボックス71aの対向壁部71bにより覆われている。この場合に、基板ボックス71aが透明に形成されていることにより、基板ボックス71aの外部から当該基板ボックス71a内に收容された異常表示装置206を目視することが可能となる。また、主制御装置71は基板ボックス71aにおいて主制御基板81の素子搭載面と対向する対向壁部71bがパチンコ機10後方を向くようにして樹脂ベース21の背面に搭載されているため、遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に開放させて樹脂ベース21の背面をパチンコ機10前方に露出させた場合には、対向壁部71bを通じて異常表示装置206を目視することが可能となる。所定の異常が発生した場合に異常表示装置206が消灯状態から点灯状態となり、その点灯状態は主側MPU82への動作電力の供給が停止されるまで継続される。

【0865】

<特定制御及び非特定制御>

次に、主側MPU82における各種制御の実行内容について説明する。

【0866】

主側MPU82においてプログラムを利用して実行される各種制御は特定制御と非特定制御とで区別される。具体的には、遊技履歴の管理及び不正の監視に関する制御が非特定制御とされ、遊技者による遊技操作に基づき遊技を進行させるための制御を含めて非特定制御以外の制御が特定制御とされている。詳細には、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理（図81）による制御は後述する第1管理用処理以外の処理はいずれも特定制御に含まれ、第1管理用処理は非特定制御に含まれる。また、定期的に割り込んで起動される処理として第1タイマ割込み処理（図88）と第2タイマ割込み処理（図114）とが存在しているが、第2タイマ割込み処理（図114）はその全ての処理が特定制御に含まれ、第1タイマ割込み処理（図88）は後述する不正検知用処理及び第2管理用処理以外の処理はいずれも特定制御に含まれ、不正検知用処理及び第2管理用処理は非特定制御に含まれる。

10

【0867】

図76は主側ROM83におけるプログラム及びデータの設定態様を説明するための説明図である。主側MPU82にて実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、図76に示すように、主側ROM83においても特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが記憶されているエリアのアドレスが明確に区別されている。

20

【0868】

具体的には、アドレスX(1)～アドレスX(k+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレスX(1)～アドレスX(k+2)に連続するアドレスX(k+3)～アドレスX(k+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(k+6)～アドレスX(m+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のデータが集約して記憶されている。また、アドレスX(k+6)～アドレスX(m+2)に連続するアドレスX(m+3)～アドレスX(m+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(m+6)～アドレスX(n+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレスX(m+6)～アドレスX(n+2)に連続するアドレスX(n+3)～アドレスX(n+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(n+6)～アドレスX(p+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のデータが集約して記憶されている。なお、上記のようなプログラム及びデータとアドレスとの関係は、主側ROM83における物理アドレス及び主側MPU82において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

30

【0869】

上記のように特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよく、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよい。よって、プログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、それに伴ってプログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別して修正する場合の作業を効率的に行うことが可能となる。

40

50

【0870】

特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲と、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、特定制御用のアドレス範囲と非特定制御用のアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【0871】

特定制御用のアドレス範囲及び非特定制御用のアドレス範囲のそれぞれにおいて、プログラムとデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、プログラムとデータとで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、プログラムが記憶されたエリアのアドレス範囲と、データが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、プログラムのアドレス範囲とデータのアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【0872】

図77は主側RAM84における各エリアの設定態様を説明するための説明図である。主側MPU82にてプログラムを利用して実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、図77に示すように、主側RAM84においても特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212のアドレス範囲と、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214のアドレス範囲とが明確に区別されている。

【0873】

具体的には、アドレス $Y(1) \sim Y(r+2)$ の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のワークエリア211として設定されている。また、アドレス $Y(1) \sim Y(r+2)$ に連続するアドレス $Y(r+3) \sim Y(r+5)$ は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレス $Y(r+6) \sim Y(s+2)$ の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のスタックエリア212として設定されている。また、アドレス $Y(r+6) \sim Y(s+2)$ に連続するアドレス $Y(s+3) \sim Y(s+5)$ は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレス $Y(s+6) \sim Y(t+2)$ の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のワークエリア213として設定されている。また、アドレス $Y(s+6) \sim Y(t+2)$ に連続するアドレス $Y(t+3) \sim Y(t+5)$ は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレス $Y(t+6) \sim Y(u+2)$ の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のスタックエリア214として設定されている。なお、上記のような各エリアとアドレスとの関係は、主側RAM84における物理アドレス及び主側MPU82において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

【0874】

上記のように特定制御用のワークエリア211と、非特定制御用のワークエリア213とが区別して設定されていることにより、主側MPU82において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、各種演算などを実行する場合において主側RAM84の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうちの一方を実行する場合に他方において必要な主側RAM84の情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各ワークエリア211, 213への情報の書き込み及び各ワークエリア211, 213からの情報の読み出しに際しては主側MPU82にてロード命令が行われる。

【0875】

特定制御用のスタックエリア212と、非特定制御用のスタックエリア214とが区別

10

20

30

40

50

して設定されていることにより、主側MPU82において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、主側MPU82のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合において主側RAM84の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行している状況において主側MPU82のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合に、他方において使用される情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各スタックエリア212、214への情報の書き込みに際しては主側MPU82にてプッシュ命令が行われ、各スタックエリア212、214からの情報の読み出しに際しては主側MPU82にてポップ命令が行われる。また、各スタックエリア212、214からの情報の読み出しに際しては当該スタックエリア212、214への書き込み順序が後の情報から先に読み出し対象となる。

10

【0876】

ここで、主側MPU82において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側MPU82は特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212への情報の書き込みが可能であるとともに、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212からの情報の読み出しが可能である。一方、主側MPU82において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側MPU82は非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214からの情報の読み出しは可能であるものの、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214への情報の書き込みは不可である。これにより、特定制御に対応する処理が実行されている状況において、非特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

20

【0877】

また、主側MPU82において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側MPU82は非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214への情報の書き込みが可能であるとともに、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214からの情報の読み出しが可能である。一方、主側MPU82において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側MPU82は特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212からの情報の読み出しは可能であるものの、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212への情報の書き込みは不可である。これにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において、特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

30

【0878】

なお、主側RAM84にはパチンコ機10の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されることとなるが、当該バックアップ電力は特定制御用のワークエリア211、特定制御用のスタックエリア212、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214の全てに供給される。これにより、これら特定制御用のワークエリア211、特定制御用のスタックエリア212、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214に記憶された情報は、パチンコ機10の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されている間は記憶保持される。

40

【0879】

図78は特定制御用のワークエリア211に設けられた各種記憶エリア及び非特定制御用のワークエリア213に設けられた各種記憶エリアを説明するための説明図である。

【0880】

特定制御用のワークエリア211には、第1セキュリティカウンタ211a、特電用監視遅延タイマカウンタ211b、普電用監視遅延タイマカウンタ211c、確認フラグ群211d、前回値記憶エリア211e、セキュリティフラグ211f及びチェック中カウンタ211gが設けられている。非特定制御用のワークエリア213には、第1～第8入

50

賞監視タイマカウンタ213 a～213 h、磁気検知カウンタ213 i、磁気監視遅延タイマカウンタ213 j、第2セキュリティカウンタ213 k、第1～第3一般入賞異常フラグ213 l～213 n、特電入賞異常フラグ213 o、第1作動入賞異常フラグ213 p、第2作動入賞異常フラグ213 q、アウト異常フラグ213 r、ゲート入賞異常フラグ213 s及び磁気異常フラグ213 tが設けられている。

【0881】

特定制御用のワークエリア211における第1セキュリティカウンタ211 a及び非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213 kはいずれも、主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。パルス状のセキュリティ信号を外部出力する契機となる事象としては、設定値更新処理の実行、主側RAM84のクリア処理の実行、所定の検知センサの断線検知、所定の検知センサの短絡検知、入賞異常の検知、及び磁気異常の検知などが挙げられる。なお、パルス状のセキュリティ信号を外部出力する契機となる事象はこれら列挙したものに限定されることはなく、これらに加えて又はこれらの少なくとも一部に代えて、電波異常の検知や遊技機本体12の開放操作などが含まれていてもよい。また、上記のようなセキュリティ信号の外部出力及びそれに付随する処理を実行する場合に、前回値記憶エリア211 e及びセキュリティフラグ211 fが利用される。

【0882】

特定制御用のワークエリア211の特電用監視遅延タイマカウンタ211 bは、特電入賞装置32に設けられた特電検知センサ234 aにおける遊技球の検知を、開放状態である特電入賞装置32が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。特定制御用のワークエリア211の普電用監視遅延タイマカウンタ211 cは、第2作動口34に設けられた第2作動口検知センサ236 aにおける遊技球の検知を、開放状態である第2作動口34が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。特定制御用のワークエリア211の確認フラグ群211 dには、アウト口24 a、3個の一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びスルーゲート35のそれぞれへの遊技球の入球確認を主側MPU82にて行うための各種確認フラグが設けられている。特定制御用のワークエリア211のチェック中カウンタ211 gは、第1～第4報知用表示装置201～204の表示制御を実行する場合に利用される。

【0883】

非特定制御用のワークエリア213の第1～第3入賞監視タイマカウンタ213 a～213 cは3個設けられた一般入賞口31に1対1で対応している。第1～第3入賞監視タイマカウンタ213 a～213 cは、対応する一般入賞口31に設けられた入賞口検知センサ231 a～233 aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。なお、上記第1の実施形態では一般入賞口31は4個設けられていたが本実施形態では一般入賞口31は3個設けられている。

【0884】

非特定制御用のワークエリア213の第4入賞監視タイマカウンタ213 dは、特電入賞装置32の特電検知センサ234 aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。非特定制御用のワークエリア213の第5入賞監視タイマカウンタ213 eは、第1作動口33に設けられた第1作動口検知センサ235 aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。非特定制御用のワークエリア213の第6入賞監視タイマカウンタ

213fは、第2作動口34の第2作動口検知センサ236aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。非特定制御用のワークエリア213の第7入賞監視タイマカウンタ213gは、アウト口24aに設けられたアウト口検知センサ237aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。非特定制御用のワークエリア213の第8入賞監視タイマカウンタ213hは、スルーゲート35に設けられたゲート検知センサ238aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。

【0885】

詳細は後述するが3個の一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35及びアウト口24aへの遊技球の入球が正常であるか否かを監視するための処理は非特定制御に含まれる。この場合に、3個の一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35及びアウト口24aへの遊技球の入球が正常であるか否かの監視を行うために設けられた各種タイマカウンタ211b, 211c, 213a~213hのうち特電用監視遅延タイマカウンタ211b及び普電用監視遅延タイマカウンタ211cは特定制御用のワークエリア211に設けられているのに対して、第1~第8入賞監視タイマカウンタ213a~213hは非特定制御用のワークエリア213に設けられている。

【0886】

第1~第8入賞監視タイマカウンタ213a~213hを利用した遊技球の検知の無効期間の計測は各検知センサ231a~238aの検知結果を契機に開始されるため、当該開始契機を特定制御の処理結果を踏まえることなく非特定制御の処理にて特定することが可能である。したがって、第1~第8入賞監視タイマカウンタ213a~213hを非特定制御用のワークエリア213に設けることで、特定制御の処理結果を踏まえることなく、第1~第8入賞監視タイマカウンタ213a~213hを利用した遊技球の検知の無効期間の計測を非特定制御の処理にて行うことが可能となる。そして、このような事情において第1~第8入賞監視タイマカウンタ213a~213hを非特定制御用のワークエリア213に設けることで、特定制御用のワークエリア211において必要な記憶容量を低減させることが可能となる。

【0887】

その一方、特電用監視遅延タイマカウンタ211bを利用した遊技球の検知の有効期間の計測は特電入賞装置32を開放状態から閉鎖状態とする処理の実行を契機に開始されるとともに、普電用監視遅延タイマカウンタ211cを利用した遊技球の検知の有効期間の計測は第2作動口34を開放状態から閉鎖状態とする処理の実行を契機に開始される。そして、これら特電入賞装置32及び第2作動口34を閉鎖状態とする処理は特定制御の処理として実行されるため、当該開始契機を特定制御の処理結果を踏まえることなく非特定制御の処理にて特定することは不可能である。この場合に、特電用監視遅延タイマカウンタ211b及び普電用監視遅延タイマカウンタ211cが非特定制御用のワークエリア213に設けられていると、特電用監視遅延タイマカウンタ211b及び普電用監視遅延タイマカウンタ211cにおける有効期間の計測の開始契機を特定するための処理構成が複雑化してしまうおそれがある。これに対して、特電用監視遅延タイマカウンタ211b及び普電用監視遅延タイマカウンタ211cを非特定制御用のワークエリア213ではなく特定制御用のワークエリア211に設けることで、特定制御用のワークエリア211において必要な記憶容量がそれだけ増大してしまうものの処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

【0888】

非特定制御用のワークエリア213の第1~第3一般入賞異常フラグ213l~213nは3個の一般入賞口31に1対1で対応させて設けられており、第1~第3入賞監視タイマカウンタ213a~213cを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球

10

20

30

40

50

の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にて第1～第3一般入賞異常フラグ213l～213nのうち対応するフラグに「1」がセットされる。非特定制御用のワークエリア213の特電入賞異常フラグ213oは特電入賞装置32に対応させて設けられており、特電用監視遅延タイマカウンタ211b又は第4入賞監視タイマカウンタ213dを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にて特電入賞異常フラグ213oに「1」がセットされる。

【0889】

非特定制御用のワークエリア213の第1作動入賞異常フラグ213pは第1作動口33に対応させて設けられており、第5入賞監視タイマカウンタ213eを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にて第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされる。非特定制御用のワークエリア213の第2作動入賞異常フラグ213qは第2作動口34に対応させて設けられており、普電用監視遅延タイマカウンタ211c又は第6入賞監視タイマカウンタ213fを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にて第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされる。

【0890】

非特定制御用のワークエリア213のアウト異常フラグ213rはアウト口24aに対応させて設けられており、第7入賞監視タイマカウンタ213gを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にてアウト異常フラグ213rに「1」がセットされる。特定制御用のワークエリア213のゲート入賞異常フラグ213sはスルーゲート35に対応させて設けられており、第8入賞監視タイマカウンタ213hを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合には当該非特定制御の処理にてゲート入賞異常フラグ213sに「1」がセットされる。

【0891】

非特定制御用のワークエリア213の磁気検知カウンタ213iは、磁気異常の発生を特定した回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。本実施形態では遊技盤24の背面に図示しない磁気検知センサが設けられており、当該磁気検知センサの検知結果は主側MPU82に出力される。磁気検知センサは、磁気を検知していない場合にはLOWレベルの磁気検知信号を主側MPU82に出力し、磁気を検知した場合にHIGHレベルの磁気検知信号を主側MPU82に出力する。非特定制御用のワークエリア213の磁気監視遅延タイマカウンタ213jは、磁気異常の監視を行わない期間を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。非特定制御用のワークエリア213の磁気異常フラグ213tには、磁気監視遅延タイマカウンタ213jにおいて磁気異常の監視を行わない期間の計測が行われていない状況で磁気検知カウンタ213iにて計測している時期異常の発生回数が異常基準回数（具体的には「3」）となったことが非特定制御の処理にて特定された場合に当該非特定制御の処理にて「1」がセットされる。

【0892】

<コマンド送信の構成>

図79は主側MPU82から音光側MPU93にコマンドを送信するための電氣的な構成を説明するための説明図である。

【0893】

主側MPU82には、主側ROM83に記憶された特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して特定制御の処理を実行する機能として特定制御処理部221が設けられているとともに、主側ROM83に記憶された非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して非特定制御の処理を実行する機能として非特定制御処理部222が設けられている。特定制御処理部221にて特定制御の処理が実行される場合には

既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 からの情報の読み出し及び情報の書き込みが行われるとともに、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 からの情報の読み出しが行われる。なお、特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行される場合には非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 への情報の書き込みは行われない。非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行される場合には既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 からの情報の読み出し及び情報の書き込みが行われるとともに、特定制御用のワークエリア 2 1 1 からの情報の読み出しが行われる。なお、非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行される場合には特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 への情報の書き込みは行われない。

10

【0894】

特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行される場合及び非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行される場合のいずれであっても、主側 M P U 8 2 に設けられたレジスタエリア 2 2 3 からの情報の読み出し及びレジスタエリア 2 2 3 への情報の書き込みが行われる。レジスタエリア 2 2 3 には汎用レジスタエリア 2 2 3 a と、コマンド送信バッファ 2 2 3 b とが設けられている。汎用レジスタエリア 2 2 3 a には、フラグレジスタ、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタなどが存在している。各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタとして、W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタなどが設けられている。

20

【0895】

コマンド送信バッファ 2 2 3 b は、特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行されたことにより所定のコマンドを音声発光制御装置 9 1 の音声発光制御基板 9 2 に設けられた音光側 M P U 9 3 に送信する必要がある場合にその送信対象となる所定のコマンドが格納される。また、コマンド送信バッファ 2 2 3 b は、非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行されたことにより特定のコマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する必要がある場合にその送信対象となる特定のコマンドが格納される。コマンド送信バッファ 2 2 3 b は 1 種類のコマンドを格納することが可能な単位格納エリアが複数設けられたリングバッファとして設けられている。送信対象となったコマンドは主側 M P U 8 2 に設けられた書き込みポインタの情報に対応する単位格納エリアに書き込まれる。この場合、書き込み対象となる単位格納エリアは所定の順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の単位格納エリアが書き込み対象となった次は最初の順番の単位格納エリアが書き込み対象となる。

30

【0896】

コマンド送信バッファ 2 2 3 b の各単位格納エリアに書き込まれたコマンドは、主側 M P U 8 2 に設けられたコマンド送信回路 2 2 4 によって音光側 M P U 9 3 に送信される。コマンド送信回路 2 2 4 には読み出しポインタが設けられており、当該読み出しポインタの情報に対応する単位格納エリアに格納されたコマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する。この場合、読み出し対象となる単位可能エリアは特定の順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の単位格納エリアが読み出し対象となった次は最初の順番の単位格納エリアが読み出し対象となる。

40

【0897】

コマンド送信回路 2 2 4 は、主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 及び非特定制御処理部 2 2 2 におけるプログラムを利用した処理の実行を介在させることなく、すなわちプログラムを利用した処理の実行を介在させることなく、コマンド送信バッファ 2 2 3 b の読み出し対象の単位格納エリアからコマンドを読み出しその読み出したコマンドの送信を行う。したがって、コマンド送信回路 2 2 4 において音光側 M P U 9 3 へのコマンドの送信が行われている状況であっても特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行され得るとともに非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行され得る。さらに言うと

50

、特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行されることによりコマンド送信バッファ 223 b に格納されたコマンドがコマンド送信回路 224 により送信されている状況であっても特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行され得るだけでなく非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行され得る構成であり、非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行されることによりコマンド送信バッファ 223 b に格納されたコマンドがコマンド送信回路 224 により送信されている状況であっても非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行され得るだけでなく特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行され得る構成である。

【0898】

なお、コマンド送信回路 224 による音光側 MPU 93 へのコマンドの送信速度は、コマンド送信バッファ 223 b に新たにコマンドが格納されることによって当該コマンド送信バッファ 223 b に格納されている未送信のコマンドが上書きされてしまわない速度に設定されている。

【0899】

コマンドが送信される様子について図 80 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 80 (a) は特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行されている期間を示し、図 80 (b) は非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行されている期間を示し、図 80 (c) はコマンド送信バッファ 223 b にコマンドが格納されるタイミングを示し、図 80 (d) はコマンド送信回路 224 により音光側 MPU 93 にコマンドが送信される期間を示す。

【0900】

t1 のタイミングで図 80 (a) に示すように特定制御処理部 221 における特定制御の処理が開始される。その後、t2 のタイミングで当該特定制御の処理が実行されることにより図 80 (c) に示すようにコマンド送信バッファ 223 b にコマンドが格納される。コマンド送信バッファ 223 b に未送信のコマンドが存在していることでコマンド送信回路 224 は当該 t2 のタイミングで図 80 (d) に示すように当該コマンドの送信を開始する。特定制御処理部 221 における特定制御の処理とコマンド送信回路 224 におけるコマンドを送信する動作とは相互に独立して行われるため、図 80 (d) に示すように t2 のタイミング～t3 のタイミングに亘ってコマンド送信回路 224 にてコマンドが送信されている期間であっても図 80 (a) に示すように特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行される。

【0901】

その後、図 80 (a) に示すように特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行されている状況において t4 のタイミングで図 80 (c) に示すようにコマンド送信バッファ 223 b にコマンドが再度格納される。コマンド送信バッファ 223 b に未送信のコマンドが存在していることでコマンド送信回路 224 は当該 t4 のタイミングで図 80 (d) に示すように当該コマンドの送信を開始する。

【0902】

その後、t4 のタイミングで開始されたコマンドの送信が継続されている状況において t5 のタイミングで図 80 (a) 及び図 80 (b) に示すように特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行されている状況から非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行される状況に切り換わる。この場合、コマンド送信回路 224 におけるコマンドを送信する動作は、特定制御処理部 221 における特定制御の処理と独立して行われるだけでなく非特定制御処理部 222 における非特定制御の処理とも独立して行われる。したがって、t5 のタイミングで特定制御の処理が実行されている状況から非特定制御の処理が実行される状況に切り換わったとしても、図 80 (d) に示すようにコマンドの送信は継続される。当該コマンドの送信は t6 のタイミングで終了する。

【0903】

その後、t7 のタイミングで非特定制御の処理が実行されることにより図 80 (c) に示すようにコマンド送信バッファ 223 b にコマンドが格納される。コマンド送信バッ

10

20

30

40

50

ァ 2 2 3 b に未送信のコマンドが存在していることでコマンド送信回路 2 2 4 は当該 t 7 のタイミングで図 8 0 (d) に示すように当該コマンドの送信を開始する。非特定制御処理部 2 2 2 における非特定制御の処理とコマンド送信回路 2 2 4 におけるコマンドを送信する動作とは相互に独立して行われるため、図 8 0 (d) に示すように t 7 のタイミング ~ t 8 のタイミングに亘ってコマンド送信回路 2 2 4 にてコマンドが送信されている期間であっても図 8 0 (b) に示すように非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行される。

【 0 9 0 4 】

その後、図 8 0 (b) に示すように非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行されている状況において t 9 のタイミングで図 8 0 (c) に示すようにコマンド送信バッファ 2 2 3 b にコマンドが再度格納される。コマンド送信バッファ 2 2 3 b に未送信のコマンドが存在していることでコマンド送信回路 2 2 4 は当該 t 9 のタイミングで図 8 0 (d) に示すように当該コマンドの送信を開始する。

【 0 9 0 5 】

その後、 t 9 のタイミングで開始されたコマンドの送信が継続されている状況において t 1 0 のタイミングで図 8 0 (a) 及び図 8 0 (b) に示すように非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行されている状況から特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行される状況に切り換わる。この場合、コマンド送信回路 2 2 4 におけるコマンドを送信する動作は、非特定制御処理部 2 2 2 における非特定制御の処理と独立して行われるだけではなく特定制御処理部 2 2 1 における特定制御の処理とも独立して行われる。したがって、 t 1 0 のタイミングで特定制御の処理が実行されている状況から非特定制御の処理が実行される状況に切り換わったとしても、図 8 0 (d) に示すようにコマンドの送信は継続される。当該コマンドの送信は t 1 1 のタイミングで終了する。

【 0 9 0 6 】

上記のとおり特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行されている状況及び非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行されている状況のいずれであっても送信対象となったコマンドは、レジスタエリア 2 2 3 のコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納される。つまり、主側 R A M 8 4 において情報の書き込み対象となるエリアが特定制御の処理が実行されている状況と非特定制御の処理が実行されている状況とで相違している構成であっても、送信対象のコマンドを書き込むエリアは特定制御の処理が実行されている状況及び非特定制御の処理が実行されている状況において兼用される。よって、コマンドを格納するための処理を特定制御の処理及び非特定制御の処理の一方のみに集約させる必要がないため、コマンドを格納するための処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

【 0 9 0 7 】

コマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納されたコマンドは、特定制御の処理及び非特定制御の処理とは独立して動作するコマンド送信回路 2 2 4 により音光側 M P U 9 3 に送信される。これにより、主側 M P U 8 2 におけるプログラムを利用した処理の実行内容との関係でコマンドの送信タイミングを調整する必要がないため、主側 M P U 8 2 におけるプログラムを利用した処理の処理構成を簡素化させることが可能となる。

【 0 9 0 8 】

<メイン処理>

次に、主側 M P U 8 2 にてプログラムを利用して実行される各種処理について説明する。図 8 1 は主側 M P U 8 2 にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップ S 4 9 0 1 ~ ステップ S 4 9 3 2 の処理のうちステップ S 4 9 2 7 にて呼び出されて実行される第 1 管理用処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行され、第 1 管理用処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。

【 0 9 0 9 】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップ S 4 9 0 1）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウェイト用の所定時間（具体的には 1 秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウェイト用の所定期間において図柄表示装置 4 1 の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側 R A M 8 4 のアクセスを許可する。

【 0 9 1 0 】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップ S 4 9 0 2）。内部機能レジスタ設定処理では、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である後述する第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）の割込み周期を第 1 割込み周期（具体的には 4 ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である後述する第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）の割込み周期を上記第 1 割込み周期よりも短い周期である第 2 割込み周期（具体的には 2 ミリ秒）に設定する。

【 0 9 1 1 】

つまり、本実施形態ではタイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）と第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）とが存在している。第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）及び第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）は第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）に対して割り込んで起動される。一方、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）は第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）に対して割り込んで起動されない。また、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）及び第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）の両方が実行されていない状況において第 1 割込み周期及び第 2 割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）から先に起動される。この点、第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）は第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）が第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）よりも優先して起動される構成としてもよい。

【 0 9 1 2 】

内部機能レジスタ設定処理では、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）の第 1 割込み周期を主側 M P U 8 2 の所定のレジスタに設定するとともに、第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）の第 2 割込み周期を主側 M P U 8 2 の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第 1、第 2 割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタ C 1 の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【 0 9 1 3 】

その後、プロテクト設定処理を実行する（ステップ S 4 9 0 3）。プロテクト設定処理では、主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 に設けられたプロテクトレジスタ 2 2 3 c に「1」をセットすることで、主側 R A M 8 4 の各エリアのうち特定制御用のワークエリア 2 1 1、特定制御用のスタックエリア 2 1 2、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 以外のエリアである未使用のエリアが情報の書き込み（「0」クリアを含む）の対象から除外されるようにする。

【 0 9 1 4 】

具体的には、主側 M P U 8 2 には主側 R A M 8 4 に対する情報の書き込み及び主側 R A M 8 4 からの情報の読み出しを行うための R A M 管理回路 2 2 5（図 7 9 参照）が設けられている。R A M 管理回路 2 2 5 は、主側 M P U 8 2 におけるプログラムによる処理の実行により情報の読み出し対象となるエリアのアドレスが指定された場合、その指定されたアドレスのエリアから情報を読み出して主側 M P U 8 2 に供給し、主側 M P U 8 2 におけるプログラムによる処理の実行により情報の書き込み対象となるエリアのアドレスが指定された場合、その指定されたアドレスのエリアに指定された情報を書き込む。この場合に、主側 R O M 8 3 には主側 R A M 8 4 において未使用のエリアのアドレス範囲（アドレス Y（r+3）～アドレス Y（r+5）、アドレス Y（s+3）～アドレス Y（s+5）、アドレス Y（t+3）～アドレス Y（t+5））が予め記憶されている。R A M 管理回路

225はプロテクト設定が行われている場合には、情報の書き込み対象となるエリアのアドレスが指定された場合にそのアドレスが主側ROM83に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているのであれば、当該情報の書き込みを行わない。この情報の書き込みには「0」クリアも含まれる。これにより、主側RAM84における未使用のエリアに対して情報の書き込みが行われてしまわないようにすることが可能となる。

【0915】

なお、プロテクト設定が行われている状況において情報の書き込み対象として指定されたアドレスが主側ROM83に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれていることがRAM管理回路225にて特定された場合には、当該情報の書き込みを行わないだけではなく異常報知が実行される構成としてもよい。当該異常報知の実行態様は任意であるが、例えば表示発光部64にて異常用の発光を行わせる構成としてもよく、スピーカ部65から異常用の音を出力させる構成としてもよく、図柄表示装置41にて異常用の表示を行わせる構成としてもよく、遊技ホールに設けられた管理コンピュータに異常用の外部出力を行わせる構成としてもよい。

【0916】

主側MPU82のレジスタエリア223には図79に示すようにプロテクトレジスタ223cが設けられている。プロテクトレジスタ223cは主側RAM84における未使用のエリア（アドレスY(r+3)～アドレスY(r+5)、アドレスY(s+3)～アドレスY(s+5)、アドレスY(t+3)～アドレスY(t+5)）に対する情報の書き込みを不可とするか否かをRAM管理回路225において特定するための記憶エリアである。プロテクトレジスタ223cにプロテクト情報が設定されている場合には上記プロテクト設定が行われている状況となり、主側ROM83に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているアドレスが書き込み対象として指定されたとしても上記のとおり当該アドレスのエリアには情報の書き込みは行われず。一方、プロテクトレジスタ223cにプロテクト情報が設定されていない場合には上記プロテクト設定が行われていない状況となり、主側ROM83に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているアドレスが書き込み対象として指定された場合にそのアドレスのエリアに情報の書き込みが行われる。

【0917】

プロテクトレジスタ223cは1ビットのエリアとして設定されている。当該プロテクトレジスタ223cに「1」が設定されている場合が当該プロテクトレジスタ223cにプロテクト情報が設定されている場合に該当し、当該プロテクトレジスタ223cの情報が「0」である場合が当該プロテクトレジスタ223cにプロテクト情報が設定されていない場合に該当する。主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合にはプロテクトレジスタ223cの情報が「0」であることによりプロテクト情報が設定されていない状態であるが、ステップS4903のプロテクト設定処理が実行されることにより、プロテクトレジスタ223cに「1」がセットされてプロテクト情報が設定されている状態となる。これにより、主側RAM84における未使用のエリア（アドレスY(r+3)～アドレスY(r+5)、アドレスY(s+3)～アドレスY(s+5)、アドレスY(t+3)～アドレスY(t+5)）に対する情報の書き込みが不可となる。

【0918】

なお、プロテクトレジスタ223cは1ビットのエリアである構成に限定されることはなく、2ビット以上のエリア、1バイトのエリア又は2バイトのエリアとして設定されている構成としてもよい。

【0919】

その後、特定制御用のワークエリア211に設けられた立ち上げ処理中フラグに「1」をセットする（ステップS4904）。立ち上げ処理中フラグは、後述する第1タイマ割込み処理（図88）が起動されたとしても当該第1タイマ割込み処理（図88）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新、及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第1タイマ

10

20

30

40

50

割込み処理（図 8 8）を終了すべき状況であることを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。

【 0 9 2 0 】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図 8 1）において動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1～ステップ S 4 9 2 8）が開始された場合に「1」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1～ステップ S 4 9 2 8）が終了して残余処理（ステップ S 4 9 2 9～ステップ S 4 9 3 2）が開始される前に「0」クリアされる。第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）では立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合にはステップ S 5 5 0 6～ステップ S 5 5 2 0 の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1～ステップ S 4 9 2 8）のうち後述する設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）では立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合であってもステップ S 5 5 0 1～ステップ S 5 5 0 4 及びステップ S 5 5 2 1 の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1～ステップ S 4 9 2 8）のうち後述する設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタ C 1、種別乱数カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び乱数初期値カウンタ C I N I の更新が実行され、さらに遊技履歴の管理が実行される。

【 0 9 2 1 】

ちなみに、設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況では、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）及び第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理又は設定値更新処理において第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）又は第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図 8 1）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア 2 1 2 に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側 M P U 8 2 の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 2 1 2 に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア 2 1 2 に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図 8 1）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア 2 1 2 に退避された情報が主側 M P U 8 2 の各種レジスタに復帰される。

【 0 9 2 2 】

ステップ S 4 9 0 4 にて立ち上げ処理中フラグに「1」をセットした後は、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた停電フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 4 9 0 5）。第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）の停電情報記憶処理（ステップ S 5 5 0 1）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「1」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。

【 0 9 2 3 】

停電フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 4 9 0 5：Y E S）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップ S 4 9 0 6）。具体的には、まず特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 についてチェックサムを算出する。その後、主側 M P U 8 2 への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア 2 1 1 に保存された特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、今回のメイン処理にて上記のように算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

【 0 9 2 4 】

チェックサムが一致している場合（ステップS4906：YES）、特定制御用のワークエリア211における設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップS4907）。設定参照用エリアは現状のパチンコ機10の設定値を主側MPU82にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリアに「1」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定1」となる。設定参照用エリアに「2」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定2」となる。設定参照用エリアに「3」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定3」となる。設定参照用エリアに「4」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定4」となる。設定参照用エリアに「5」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定5」となる。設定参照用エリアに「6」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機10の設定値は「設定6」となる。ステップS4907では設定参照用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する。

【0925】

ステップS4905～ステップS4907の全てで肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定更新表示フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4908）。設定更新表示フラグは後述する設定値更新処理が実行されていることを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「1」がセットされている場合には主制御装置71の設定表示装置205にて更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理が開始された場合に「1」がセットされ設定値更新処理が終了される場合に「0」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「1」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理が実行されている状況において主側MPU82への動作電力の供給が停止された場合には、その後主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「1」がセットされた状態は設定値更新処理において設定更新表示フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【0926】

設定更新表示フラグに「1」がセットされていないことでステップS4908にて否定判定をした場合、リセットボタン196が押圧操作されているか否かを判定する（ステップS4909）。つまり、リセットボタン196が押圧操作されている状態においてパチンコ機10の電源ON操作が行われて主側MPU82への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。

【0927】

リセットボタン196が押圧操作されていない場合（ステップS4909：NO）、特定制御用のワークエリア211に設けられた遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4910）。遊技停止フラグは、停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5501～ステップS5504及びステップS5521の処理を実行する一方、ステップS5505にて肯定判定をすることでステップS5506～ステップS5520の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップS4910にて肯定判定

をした場合、後述するステップ S 4 9 2 4 及びステップ S 4 9 2 5 の処理を実行する。

【0928】

ステップ S 4 9 1 0 にて否定判定をした場合、設定キー挿入部 1 9 5 が設定キーを利用して ON 操作されているか否かを判定する（ステップ S 4 9 1 1）。設定キー挿入部 1 9 5 が設定キーを利用して ON 操作されている場合（ステップ S 4 9 1 1：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップ S 4 9 1 3）。また設定キー挿入部 1 9 5 が設定キーを利用して ON 操作されていない場合であっても（ステップ S 4 9 1 1：NO）、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた設定確認表示フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 4 9 1 2：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップ S 4 9 1 3）。

【0929】

設定確認表示フラグは設定確認用処理が実行されていることを主側 MPU 8 2 にて特定するためのフラグであり、設定確認表示フラグに「1」がセットされている場合には主制御装置 7 1 の設定表示装置 2 0 5 にて現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認表示フラグは、設定確認用処理が開始された場合に「1」がセットされ設定確認用処理が終了される場合に「0」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理が実行されていない状況においては基本的に設定確認表示フラグに「1」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理が実行されている状況において主側 MPU 8 2 への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側 MPU 8 2 への動作電力の供給が開始された場合において設定確認表示フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定確認表示フラグに「1」がセットされた状態は後述する RAM クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）が実行されるか、後述する設定値更新処理が実行されるか、又は設定確認用処理において設定確認表示フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【0930】

上記のようにリセットボタン 1 9 6 が押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部 1 9 5 が ON 操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン 1 9 6 が押圧操作されていない状況であって設定確認表示フラグに「1」がセットされている場合にも設定確認用処理が実行されることにより、設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理が実行される。これにより、パチンコ機 1 0 の現状の設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン 1 9 6 が押圧操作された場合には、設定確認用処理が実行されることなく RAM クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）及び設定値更新処理のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理よりも RAM クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）又は設定値更新処理の実行を優先させることが可能となる。

【0931】

ここで、ステップ S 4 9 1 3 にて実行される設定確認用処理について説明する。図 8 2 は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップ S 5 0 0 1～ステップ S 5 0 0 7 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 MPU 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

【0932】

まず割込み許可の設定を行う（ステップ S 5 0 0 1）。これにより、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）が第 1 割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）が第 2 割込み周期で割り込んで起動される。

【0933】

動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1～ステップ S 4 9 2 8）では基本的に第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）及び第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）の割込みが禁止されており、設定確認用処理及び設定値更新処理において割込みが許可される。したが

10

20

30

40

50

って、動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）において設定確認用処理及び設定値更新処理が実行されていない状況においては第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の実行が禁止され、設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況において第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の実行が許可される。但し、設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているため、第1タイマ割込み処理（図88）が起動されたとしても当該第1タイマ割込み処理（図88）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第1タイマ割込み処理（図88）が終了される。

10

【0934】

その後、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定確認表示フラグに「1」がセットされていないことを条件として、設定確認表示フラグに「1」をセットする（ステップS5002）。設定確認表示フラグに「1」がセットされることにより、主制御装置71の設定表示装置205にて現状設定されている設定値を示す表示が行われる。

【0935】

その後、確認開始コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS5003）。コマンド送信バッファ223bに確認開始コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該確認開始コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は確認開始コマンドを受信することにより、設定確認用処理が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置41にて表示されるように表示側MPU103を表示制御する。これにより、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。

20

【0936】

その後、設定キー挿入部195が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する（ステップS5004）。具体的には、設定キー挿入部195の状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態がON状態に対応する受信状態からOFF状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部195がON状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部195がOFF状態である状況で設定確認用処理が開始された場合においてそのOFF状態が維持されている場合にもステップS5004にて否定判定をする。設定キー挿入部195がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定していない場合（ステップS5004：NO）、ステップS5004の処理を繰り返す。

30

【0937】

設定キー挿入部195がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合（ステップS5004：YES）、特定制御用のワークエリア211における設定確認表示フラグを「0」クリアする（ステップS5005）。これにより、設定表示装置205における現状設定されている設定値を示す表示が終了する。

40

【0938】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップS5006）。これにより、設定確認用処理を終了してメイン処理（図81）における動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）に復帰する場合には第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。

【0939】

その後、確認時の復帰コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS5007）。コマンド送信バッファ223bに確認時の復帰コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作

50

によって当該確認時の復帰コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は確認時の復帰コマンドを受信することにより、図柄表示装置41における設定確認用処理が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示を終了させる。

【0940】

上記のとおりリセットボタン196を押圧操作することなく設定キー挿入部195を設定キーによりON操作した状態でパチンコ機10の電源ON操作が行われることにより、主側MPU82への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図81）が開始された状況においてリセットボタン196が押圧操作されていないとともに設定キー挿入部195がON操作された状態となり、メイン処理（図81）にて遊技を進行させるための処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下において設定値の確認を行うことが可能となる。

【0941】

メイン処理（図81）の説明に戻り、設定キー挿入部195が設定キーを利用してON操作されていない場合であって設定確認表示フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS4911及びステップS4912：NO）、通常復帰コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS4914）。コマンド送信バッファ223bに通常復帰コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該通常復帰コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は通常復帰コマンドを受信することにより、主側MPU82において動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）にてRAMクリア処理（ステップS4919）、設定確認用処理及び設定値更新処理のいずれもが実行されていないことを特定する。そして、通常復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。

【0942】

一方、ステップS4909にてリセットボタン196が押圧操作されていると判定した場合であって、ステップS4915にて設定キー挿入部195が設定キーを利用してON操作されていると判定した場合又はステップS4908にて設定更新表示フラグに「1」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップS4916）。上記のようにリセットボタン196が押圧操作されている場合であって設定キー挿入部195がON操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン196の押圧操作及び設定キー挿入部195のON操作の有無に関係なく設定更新表示フラグに「1」がセットされている場合にも設定値更新処理が実行されることにより、設定値更新処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理が実行される。これにより、設定値更新処理の実行を優先させることが可能となる。

【0943】

ここで、ステップS4916にて実行される設定値更新処理について説明する。図83は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップS5101～ステップS5115の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【0944】

まず割込み許可の設定を行う（ステップS5101）。これにより、第1タイマ割込み処理（図88）が第1割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第2タイマ割込み処理（図114）が第2割込み周期で割り込んで起動される。

【0945】

動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）では基本的に第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止されており、設定確認用処理及び設定値更新処理において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）において設定確認用処理及び設定値更新処理が実行されていない状況においては第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の実行が禁止され、設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況において第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の実行が許可される。但し、設定確認用処理又は設定値更新処理が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているため、第1タイマ割込み処理（図88）が起動されたとしても当該第1タイマ割込み処理（図88）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第1タイマ割込み処理（図88）が終了される。

10

【0946】

その後、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定更新表示フラグに「1」がセットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「1」をセットする（ステップS5102）。設定更新表示フラグに「1」がセットされることにより、主制御装置71の設定表示装置205にて現状選択されている設定値を示す表示が行われる。

【0947】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップS5103）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア211に設けられた遊技停止フラグを「0」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS4905：NO）、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップS4906：NO）、又は設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップS4907：NO）、メイン処理（図81）のステップS4922にて「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5501～ステップS5504及びステップS5521の処理を実行する一方、ステップS5505にて肯定判定をすることでステップS5506～ステップS5520の処理を実行しない。これにより、上記のような主側RAM84の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップS5103の処理にて遊技停止フラグを「0」クリアすることで、主側RAM84の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処理が実行された場合に解除することが可能となる。

20

30

【0948】

その後、特定制御用のワークエリア211における設定更新用エリアに「1」をセットする（ステップS5104）。設定更新用エリアは設定値更新処理において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリアに「1」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定1」となる。設定更新用エリアに「2」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定2」となる。設定更新用エリアに「3」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定3」となる。設定更新用エリアに「4」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定4」となる。設定更新用エリアに「5」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定5」となる。設定更新用エリアに「6」の数値情報が格納されている場合には選択対象の設定値は「設定6」となる。

40

【0949】

ステップS5104にて設定更新用エリアに「1」を設定することで、選択対象の設定値が「設定1」となる。つまり、パチンコ機10の現状の設定値がいずれであったとして

50

も設定値更新処理が開始された場合には選択対象の設定値は「設定1」となる。なお、ステップS5104の処理が実行されない構成としてもよい。この場合、設定値更新処理が開始された場合には設定参照用エリアの情報が設定更新用エリアに書き込まれるようにすることで、設定値更新処理が開始された場合にはその時点における設定対象の設定値が選択対象の設定値となる。

【0950】

その後、更新開始コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS5105）。コマンド送信バッファ223bに更新開始コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該更新開始コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置41にて表示されるように表示側MPU103を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。

【0951】

その後、設定更新用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する（ステップS5106）。「1」～「6」のいずれかではない場合（ステップS5106：NO）、設定更新用エリアに「1」を設定する（ステップS5107）。これにより、選択対象の設定値が「設定1」となる。

【0952】

ステップS5106にて肯定判定をした場合又はステップS5107の処理を実行した場合、設定キー挿入部195が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する（ステップS5108）。具体的には、設定キー挿入部195の状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ON状態に対応する受信状態からOFF状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部195がON状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部195がOFF状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのOFF状態が維持されている場合にもステップS5108にて否定判定をする。

【0953】

ステップS5108にて否定判定をした場合、リセットボタン196が押圧操作されていることを条件として（ステップS5109：YES）、設定更新用エリアの値を1加算する（ステップS5110）。これにより、リセットボタン196が1回押圧操作される度に1段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン196が押圧操作されていない場合（ステップS5109：NO）又は設定更新用エリアの値を1加算した場合にはステップS5106の処理に戻ることもなるが、ステップS5106にて設定更新用エリアの値が7以上であると判定されると、ステップS5107にて設定更新用エリアに「1」がセットされる。これにより、「設定6」の状況でリセットボタン196が1回押圧操作された場合には「設定1」に戻ることになる。

【0954】

設定キー挿入部195がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合（ステップS5108：YES）、設定更新用エリアに格納された設定値の情報を設定参照用エリアに上書きする（ステップS5111）。これにより、今回の設定値更新処理にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリアに設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機10の設定値となる。

【0955】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップS5112）。これにより、設定値更新処理を終了してメイン処理（図81）における動作電力の供給開始時の処理（ステップS4

10

20

30

40

50

901～ステップS4928)に復帰する場合には第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の割込みが禁止される。

【0956】

その後、RAMクリア処理を実行する(ステップS5113)。RAMクリア処理では、特定制御用のワークエリア211においてパチンコ機10の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア(すなわち設定参照用エリア)及び設定更新表示フラグを除いて、当該特定制御用のワークエリア211を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機10への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部38aが変動表示されていない状況であって普電役物34aが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cも「0」クリアされるため、第1特図表示部37a用の保留情報及び第2特図表示部37b用の保留情報が消去されるとともに普図表示部38a用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定確認表示フラグを「0」クリアする。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定更新用エリアを「0」クリアする。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた遊技停止フラグを「0」クリアする。また、RAMクリア処理では特定制御用のスタックエリア212を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。また、RAMクリア処理では主側MPU82の各種レジスタも「0」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップS4902の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214については「0」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【0957】

その後、更新時の復帰コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する(ステップS5114)。コマンド送信バッファ223bに更新時の復帰コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該更新時の復帰コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は更新時の復帰コマンドを受信することにより、図柄表示装置41における設定値更新処理が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示を終了させる。その後、特定制御用のワークエリア211における設定更新表示フラグを「0」クリアする(ステップS5115)。

【0958】

上記のとおりリセットボタン196を押圧操作しながらパチンコ機10の電源ON操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部195を設定キーによりON操作しながらパチンコ機10の電源ON操作を行うことに基づき、設定値更新処理が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン196を押圧操作することなく設定キー挿入部195を設定キーによりON操作しながらパチンコ機10の電源ON操作を行うことに基づき、設定確認用処理が実行される。これにより、設定値に関する設定関連処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部195に対するON操作を共通させることが可能となる。よって、設定関連処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【0959】

また、設定キー挿入部195を設定キーによりON操作しながらパチンコ機10の電源ON操作を行う場合であって、リセットボタン196の押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理が実行され、リセットボタン196の押圧操作を付加する場合には設定値更新処理が実行される。これにより、リセットボタン196の押圧操作の有無によって設定確認用処理及び設定値更新処理のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よ

って、設定確認用処理及び設定値更新処理のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとするのが可能となる。また、設定確認用処理よりも設定値更新処理を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせるのが可能となる。

【0960】

メイン処理（図81）の説明に戻り、ステップS4916にて設定値更新処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア211に設けられた第1セキュリティカウンタ211aの値を1加算する（ステップS4917）。第1セキュリティカウンタ211aは既に説明したとおり、主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。

【0961】

メイン処理（図81）において、ステップS4909にてリセットボタン196が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部195が設定キーを利用してON操作されていないと判定した場合（ステップS4915：NO）、特定制御用のワークエリア211における遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS4918）。遊技停止フラグは、停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「1」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5501～ステップS5504及びステップS5521の処理を実行する一方、ステップS5505にて肯定判定をすることでステップS5506～ステップS5520の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【0962】

遊技停止フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS4918：NO）、RAMクリア処理を実行する（ステップS4919）。RAMクリア処理では、特定制御用のワークエリア211においてパチンコ機10の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア）及び設定更新表示フラグを除いて、当該特定制御用のワークエリア211を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機10への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部38aが変動表示されていない状況であって普電役物34aが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cも「0」クリアされるため、第1特図表示部37a用の保留情報及び第2特図表示部37b用の保留情報が消去されるとともに普図表示部38a用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定確認表示フラグを「0」クリアする。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた設定更新用エリアを「0」クリアする。また、特定制御用のワークエリア211に設けられた遊技停止フラグを「0」クリアする。また、RAMクリア処理では特定制御用のスタックエリア212を「0」クリアするとともに初期設定を実行する。また、RAMクリア処理では主側MPU82の各種レジスタも「0」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップS4902の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア

10

20

30

40

50

2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 については「0」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【0 9 6 3】

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた第 1 セキュリティカウンタ 2 1 1 a の値を 1 加算する（ステップ S 4 9 2 0）。第 1 セキュリティカウンタ 2 1 1 a は既に説明したとおり、主側 M P U 8 2 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。

【0 9 6 4】

その後、クリア時の復帰コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S 4 9 2 1）。コマンド送信バッファ 2 2 3 b にクリア時の復帰コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 2 2 4 の動作によって当該クリア時の復帰コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信される。音光側 M P U 9 3 はクリア時の復帰コマンドを受信することにより、主側 M P U 8 2 において動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1 ～ステップ S 4 9 2 8）が終了したことを特定するとともに今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4 9 0 1 ～ステップ S 4 9 2 8）にてステップ S 4 9 1 9 の R A M クリア処理が実行されたことを特定する。そして、クリア時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。

【0 9 6 5】

ここで、設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図 8 1）にて実行される処理の内容について図 8 4 の説明図を参照しながら説明する。

【0 9 6 6】

設定値更新処理及び設定確認用処理のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図 8 1）にて実行される処理の内容をまず説明する。

【0 9 6 7】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図 8 1）では R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）、設定値更新処理及び設定確認用処理のいずれも実行されない。また、「R A M クリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図 8 1）では R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）が実行される一方、設定値更新処理及び設定確認用処理は実行されない。「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図 8 1）では設定値更新処理が実行される一方、R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）及び設定確認用処理は実行されない。「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図 8 1）では設定確認用処理が実行される一方、R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）及び設定値更新処理は実行されない。

【0 9 6 8】

次に、設定値更新処理が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「1」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図 8 1）にて実行される処理の内容について説明する。

【0 9 6 9】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、「R A M クリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、及び「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合のいずれであっても、メイン処理（図 8 1）では設定値更新処理が実行される一方、R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）及び設定確認用処理は実行されない。つまり、設定値更新処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際しての操作内容がいずれであったとしても設定値更

10

20

30

40

50

新処理が新たに開始される。

【0970】

上記構成であることにより、設定値更新処理の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しては、パチンコ機10の電源ON時における設定キー挿入部195及びリセットボタン196への操作内容に関係なく設定値更新処理が新たに開始されるようにすることが可能となる。これにより、設定値の更新を完了させる機会を確実に生じさせることが可能となる。よって、設定値の更新が完了していないにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【0971】

また、設定値更新処理の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しての操作内容に関係なく一義的に設定値更新処理が実行されるようにすることで、各操作内容に応じて実行される処理内容を変更させる構成に比べて処理構成を簡素化しながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

10

【0972】

次に、設定確認用処理が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「1」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図81）にて実行される処理の内容について説明する。

【0973】

「RAMクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図81）ではRAMクリア処理（ステップS4919）が実行される一方、設定値更新処理及び設定確認用処理は実行されない。つまり、設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「RAMクリア操作」が行われた場合には設定確認用処理（図81）を新たに実行することなく、RAMクリア処理（ステップS4919）を実行する。これにより、「RAMクリア操作」に対するRAMクリア処理（ステップS4919）の実行を優先させることが可能となる。なお、RAMクリア処理（ステップS4919）が実行されることで設定確認表示フラグは「0」クリアされる。

20

【0974】

「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図81）では設定値更新処理が実行される一方、設定確認用処理は実行されない。つまり、設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われた場合には設定確認用処理を新たに実行することなく、設定値更新処理を実行する。これにより、「設定変更操作」に対する設定値更新処理の実行を優先させることが可能となる。また、このように設定確認用処理が実行されなかったとしても、設定値更新処理が実行されることで選択対象の設定値が設定表示装置205にて表示されるとともに設定値更新処理の終了に際してその時点で選択対象となっている設定値の情報が設定参照用エリアに設定されるため、遊技ホールの管理者は現状のパチンコ機10の設定値を確認することができる。なお、設定値更新処理においてRAMクリア処理（ステップS5113）が実行されることで設定確認表示フラグは「0」クリアされる。

30

40

【0975】

「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図81）では停電フラグ、チェックサム及び設定値に関して異常が発生していないことを条件として設定確認用処理を実行する。これにより、設定確認用処理の途中で停電時処理が実行されたとしても、動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」を行うことで設定値の確認を再開することが可能となる。

【0976】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図81）では停電フラグ、チェックサム及び設定値に関して異常が発生していないことを条件として、設定キー挿入部195がON操作されていなくても設定確認用処理が実行される。これによ

50

り、設定確認用処理の途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の状況であったとしても設定値の確認を再開させることが可能となる。

【0977】

メイン処理（図81）においてステップS4905～ステップS4907のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、特定制御用のワークエリア211における遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップS4922）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5501～ステップS5504及びステップS5521の処理を実行する一方、ステップS5505にて肯定判定をすることでステップS5506～ステップS5520の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【0978】

その後、リセットボタン196が押圧操作されているか否かを判定する（ステップS4923）。リセットボタン196が押圧操作されていない場合（ステップS4923：NO）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS4924）。コマンド送信バッファ223bに異常コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該異常コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部64を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置41にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機10への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理が実行されるまではパチンコ機10への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【0979】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップS4920）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば100ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「1」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「0」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。

【0980】

リセットボタン196が押圧操作されている場合（ステップS4923：YES）、設定キー挿入部195が設定キーを利用してON操作されているか否かを判定する（ステップS4915）。リセットボタン196が押圧操作されているとともに設定キー挿入部195が設定キーを利用してON操作されている場合（ステップS4915及びステップS4923：YES）、設定値更新処理を実行する（ステップS4916）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側MPU82への動作電力が供給された場合、主側RAM84について異常が発生していることでステップS4905～ステップS4907のいずれかにて否定判定をした

場合であっても設定値更新処理が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、設定値更新処理では既に説明したとおりステップS 5 1 0 3にて開始時の初期設定が実行されることで遊技停止フラグが「0」クリアされる。これにより、設定値更新処理が実行された場合には、設定値の更新が完了した後に、主側RAM 8 4について異常が発生している状態を解消させることが可能となる。

【0 9 8 1】

一方、リセットボタン1 9 6が押圧操作されているものの設定キー挿入部1 9 5がON操作されていない場合（ステップS 4 9 2 3：YES、ステップS 4 9 1 5：NO）、特定制御用のワークエリア2 1 1における遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS 4 9 1 8）。ステップS 4 9 2 2にて遊技停止フラグに「1」がセットされた後におけるステップS 4 9 1 8の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「1」がセットされているため、ステップS 4 9 1 8にて肯定判定をする。この場合、ステップS 4 9 2 4にて音光側MPU 9 3に異常コマンドを送信するための処理を実行するとともに、ステップS 4 9 2 5にて異常信号を外部出力する。

【0 9 8 2】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップS 4 9 0 5～ステップS 4 9 0 7のいずれかにて否定判定をした場合、「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始されたとしてもRAMクリア処理（ステップS 4 9 1 9）は実行されない。また、遊技停止フラグに「1」がセットされている状況であって「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始された場合にもRAMクリア処理（ステップS 4 9 1 9）は実行されない。これにより、「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「1」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理が実行されるとともに当該設定値更新処理の開始時の初期設定（ステップS 5 1 0 3）にて遊技停止フラグが「0」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理を実行する必要が生じることとなる。よって、特定制御用のワークエリア2 1 1の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア2 1 1を初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【0 9 8 3】

また、遊技停止フラグに「1」がセットされている状況において主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「RAMクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップS 4 9 1 0又はステップS 4 9 1 8にて肯定判定をすることで、ステップS 4 9 2 4にて異常コマンドを送信するための処理を実行するとともにステップS 4 9 2 5にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップS 4 9 0 5～ステップS 4 9 0 7の処理結果に関係なく、設定値更新処理が実行されない限り、主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機1 0における異常報知及びパチンコ機1 0の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【0 9 8 4】

ステップS 4 9 1 3の処理を実行した場合、ステップS 4 9 1 4の処理を実行した場合、ステップS 4 9 1 7の処理を実行した場合、ステップS 4 9 2 1の処理を実行した場合、又はステップS 4 9 2 5の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア2 1 1に設けられたチェック中カウンタ2 1 1 g（図7 8参照）に初期チェック期間（具体的には5秒）に対応する情報をセットする（ステップS 4 9 2 6）。チェック中カウンタ2 1 1 gにセットされた値は第2タイマ割込み処理（図1 1 4）が起動される度に1減算される。

チェック中カウンタ 211g に 1 以上の値が設定されている場合、第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にてチェック用表示が継続される。当該チェック用表示の内容については後に詳細に説明する。

【0985】

上記構成によれば主側 MPU 82 への動作電力の供給が開始された場合、当該主側 MPU 82 にて動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4901 ～ ステップ S 4928）が終了した後であって後述する残余処理（ステップ S 4929 ～ ステップ S 4932）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

10

【0986】

また、設定確認用処理及び設定値更新処理は動作電力の供給開始時の処理（ステップ S 4901 ～ ステップ S 4928）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了する場合に開始される。これにより、初期チェック期間において第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にてチェック用表示が行われるとしても、第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【0987】

その後、CALLI 命令により第 1 管理用処理を実行する（ステップ S 4927）。CALLI 命令及び第 1 管理用処理については後に詳細に説明する。

20

【0988】

その後、特定制御用のワークエリア 211 における立ち上げ処理中フラグを「0」クリアする（ステップ S 4928）。立ち上げ処理中フラグが「0」クリアされることにより、第 1 タイマ割込み処理（図 88）が起動された場合にステップ S 5505 にて否定判定をすることでステップ S 5501 ～ ステップ S 5504 及びステップ S 5521 の処理だけではなくステップ S 5506 ～ ステップ S 5520 の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップ S 4928 では特定制御用のワークエリア 211 における停電フラグも「0」クリアする。

【0989】

その後、ステップ S 4929 ～ ステップ S 4932 の残余処理に進む。つまり、主側 MPU 82 は第 1 タイマ割込み処理（図 88）及び第 2 タイマ割込み処理（図 114）を定期的に行う構成であるが、1 のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップ S 4929 ～ ステップ S 4932 の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップ S 4929 ～ ステップ S 4932 の残余処理は非定期的に行われる非定期処理であると言える。ステップ S 4929 ～ ステップ S 4932 では、上記第 1 の実施形態におけるメイン処理（図 13）のステップ S 127 ～ ステップ S 130 と同一の処理を実行する。

30

【0990】

次に、メイン処理（図 81）のステップ S 4927 の処理について説明する。

40

【0991】

メイン処理（図 81）のステップ S 4927 では既に説明したとおり CALLI 命令により第 1 管理用処理を実行する。第 1 管理用処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、メイン処理（図 81）において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理が CALLI 命令を利用して呼び出される。

【0992】

CALLI 命令により第 1 管理用処理が実行される場合、まず主側 MPU 82 のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 212 に退避される。フラグレジスタには

50

キャリフラグ、ゼロフラグ、P/Vフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御の処理である第1管理用処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該第1管理用処理のコールや当該第1管理用処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させておくことが可能となる。

【0993】

CALLI命令により第1管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、第1タイマ割込み処理（図88）及び後述する第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である第1管理用処理の実行中に、特定制御の処理である第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【0994】

CALLI命令により第1管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避され、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止された後、第1管理用処理に対応するプログラムが開始される。

【0995】

このように、CALLI命令により第1管理用処理を実行する構成とすることにより、一の命令（「CALLI」）により、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避されるとともに、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。そして、第1管理用処理に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側MPU82のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させるための命令と、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みを禁止するための命令と、第1管理用処理のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、第1管理用処理を実行するためにプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、プログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【0996】

図85は第1管理用処理を示すフローチャートである。なお、第1管理用処理におけるステップS5201～ステップS5216の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【0997】

まず「LD SP, Y(u+2)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてY(u+2)を設定する（ステップS5201）。スタックポインタは、スタックエリア212、214においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側MPU82にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報を更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報を更新される。また、非特定制御用のスタックエリア214を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア214における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップS5201では、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。このように最後のアドレスの記憶エリアから最初のアドレスの記憶エリアに向けて情報が記憶されることは、特定制御用のスタックエリア212についても同様である。

【0998】

ちなみに、特定制御用のスタックエリア212及び非特定制御用のスタックエリア214のいずれについても、全ての記憶エリアに情報が設定されているにも関わらず追加でブッシュ命令が実行された場合には、記憶処理に関して異常が発生したものと主側RAM84の全エリアが「0」クリアされる。これにより、記憶処理に関して異常が発生しているにも関わらずそのまま遊技が進行してしまわないようにすることが可能となる。

【0999】

その後、「LD (__WABUF), WA」として、ロード命令により、主側MPU82のWAレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファに退避させる(ステップS5202)。また、「LD (__BCBUF), BC」として、ロード命令により、主側MPU82のBCレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたBCバッファに退避させる(ステップS5203)。また、「LD (__DEBUF), DE」として、ロード命令により、主側MPU82のDEレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたDEバッファに退避させる(ステップS5204)。また、「LD (__HLBUF), HL」として、ロード命令により、主側MPU82のHLレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたHLバッファに退避させる(ステップS5205)。また、「LD (__IXBUF), IX」として、ロード命令により、主側MPU82のIXレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIXバッファに退避させる(ステップS5206)。また、「LD (__IYBUF), IY」として、ロード命令により、主側MPU82のIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIYバッファに退避させる(ステップS5207)。

【1000】

主側MPU82のレジスタエリア223における汎用レジスタエリア223aには、既に説明したフラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップS5202～ステップS5207では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア213における対応するバッファに退避させている。なお、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報量はいずれも2バイトとなっている。

【1001】

これらWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタは非特定制御に対応する処理である初期設定処理(ステップS5208)及び断線短絡処理(ステップS5209)にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を初期設定処理(ステップS5208)及び断線短絡処理(ステップS5209)の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア213に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【1002】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である初期設定処理(ステップS5208)及び断線短絡処理(ステップS5209)にて利用対象となるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア213においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、初期設定処理(ステップS5208

）及び断線短絡処理（ステップS5209）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア213の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

【1003】

なお、当然のことながら主側MPU82における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【1004】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア214に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア214の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア214を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることになってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア214に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまふ。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【1005】

ステップS5202～ステップS5207の処理を実行した後は、初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）を実行する。初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）の実行後における第1管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア214に書き込まれる。そして、初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す第1管理用処理のプログラムに復帰する。初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）の詳細については後に説明する。

【1006】

初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）を実行した後は、「LD SP, Y(r+a)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに第1管理用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとしてY(r+a)を設定する（ステップS5210）。Y(r+a)のアドレスは、特定制御用のスタックエリア212におけるY(r+8)とY(s)との間のアドレスとして設定されている。

【1007】

メイン処理（図81）のステップS4927にて第1管理用処理が呼び出される直前において特定制御用のスタックエリア212に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側MPU82のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア212に記憶されている情報としては、例えば第1管理用処理が終了した後におけるメイン処理（図81）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がY(r+a)となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である初期設定処理（ステップS5208）及び断線短絡処理（ステップS5209）が終了して特定制御に対応する

10

20

30

40

50

処理に復帰する場合には、その一定の情報である $Y(r+a)$ を主側MPU82のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、特定制御に対応する主側MPU82のスタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理を開始する前に主側RAM84に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側RAM84において確保する必要がなくなる。

【1008】

その後、「LD WA, (WABUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のWAバッファに退避された情報を主側MPU82のWAレジスタに上書きする(ステップS5211)。また「LD BC, (BCBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のBCバッファに退避された情報を主側MPU82のBCレジスタに上書きする(ステップS5212)。また「LD DE, (DEBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のDEバッファに退避された情報を主側MPU82のDEレジスタに上書きする(ステップS5213)。また「LD HL, (HLBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のHLバッファに退避された情報を主側MPU82のHLレジスタに上書きする(ステップS5214)。また「LD IX, (IXBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIXバッファに退避された情報を主側MPU82のIXレジスタに上書きする(ステップS5215)。また「LD IY, (IYBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIYバッファに退避された情報を主側MPU82のIYレジスタに上書きする(ステップS5216)。ステップS5211～ステップS5216の処理が実行されることにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【1009】

ステップS5211～ステップS5216の処理を実行した後は、RETI命令により特定制御の処理に含まれるメイン処理(図81)に復帰する。RETI命令が実行されることにより、第1管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報が主側MPU82のフラグレジスタに復帰されるとともに、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第1タイマ割込み処理及び第2タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【1010】

RETI命令を実行する構成であることにより、一の命令(「RETI」)により、第1管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させ、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、第1管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御の処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御の処理のプログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【1011】

ここで、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各

10

20

30

40

50

種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理が再開される場合に主側RAM84に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【1012】

また、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理への復帰後において非特定制御の処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御の処理を間に挟んで実行される非特定制御の処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に記憶されており、主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側RAM84に退避されないとしても、非特定制御の処理を実行する上で問題が生じない。

【1013】

次に、ステップS5208にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行される初期設定処理について説明する。図86は初期設定処理を示すフローチャートである。なお、初期設定処理におけるステップS5301～ステップS5304の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1014】

初期設定処理では、非特定制御用のワークエリア213の各記憶エリアのうち、既に説明した第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213h、磁気検知カウンタ213i、磁気監視遅延タイマカウンタ213j、第2セキュリティカウンタ213k、第1～第3一般入賞異常フラグ213l～213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tの初期設定を行うための処理を実行する。これら第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213h、磁気検知カウンタ213i、磁気監視遅延タイマカウンタ213j、第2セキュリティカウンタ213k、第1～第3一般入賞異常フラグ213l～213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tはいずれも1バイトのデータ容量となっており、これら各エリアに対して連番となるようにアドレスが設定されている。第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213hのそれぞれ→磁気検知カウンタ213i→磁気監視遅延タイマカウンタ213j→第2セキュリティカウンタ213k→第1～第3一般入賞異常フラグ213l～213n→特電入賞異常フラグ213o→第1作動入賞異常フラグ213p→第2作動入賞異常フラグ213q→アウト異常フラグ213r→ゲート入賞異常フラグ213s→磁気異常フラグ213tの順序でアドレスが「1」ずつ増加する。

【1015】

初期設定処理では、まず主側MPU82の所定のレジスタに初期設定対象アドレスとして開始アドレスを設定する（ステップS5301）。当該開始アドレスは、第1入賞監視タイマカウンタ213aのアドレスとなっている。

【1016】

その後、初期設定対象アドレスに対応するエリアに対して初期設定を行う（ステップS5302）。初期設定対象アドレスが開始アドレスである場合には当該開始アドレスに対応するエリアが第1入賞監視タイマカウンタ213aであるため、当該第1入賞監視タイマカウンタ213aに対して初期設定を行う。具体的には、初期設定として第1入賞監視タイマカウンタ213aを「0」クリアする。

【1017】

その後、初期設定対象アドレスが最終アドレスであるか否かを判定する（ステップS5

303)。最終アドレスは、磁気異常フラグ213tのアドレスとなっている。初期設定対象アドレスが最終アドレスではない場合（ステップS5303：NO）、初期設定対象アドレスを次の順番のアドレスに更新する（ステップS5304）。具体的には初期設定対象アドレスを1加算する。そして、その1加算後におけるアドレスに対応するエリアに対してステップS5302にて初期設定を行い、ステップS5303の処理を実行する。

【1018】

初期設定対象アドレスが開始アドレスである状況でステップS5304の処理が実行された場合には、初期設定対象アドレスが第2入賞監視タイマカウンタ213bのアドレスとなり、当該第2入賞監視タイマカウンタ213bに対して初期設定が行われる。具体的には、初期設定として第2入賞監視タイマカウンタ213bを「0」クリアする。また、当該第2入賞監視タイマカウンタ213bのアドレスが初期設定対象アドレスである状況でステップS5304の処理が実行された場合には、初期設定対象アドレスが第3入賞監視タイマカウンタ213cのアドレスとなり、当該第3入賞監視タイマカウンタ213cに対して初期設定が行われる。具体的には、初期設定として第3入賞監視タイマカウンタ213cを「0」クリアする。

【1019】

上記ステップS5302～ステップS5304の処理が繰り返されることによってステップS5304の処理にて最終アドレスに対応する磁気異常フラグ213tのアドレスが初期設定対象アドレスに設定された場合、当該磁気異常フラグ213tを初期設定として「0」クリアした後におけるステップS5303では肯定判定をする。ステップS5303にて肯定判定をすることで本初期設定処理を終了する。なお、当該初期設定処理（図86）では非特定制御用のワークエリア213に設けられた後述する通常用カウンタエリア251、演算結果記憶エリア252、表示対象設定エリア253、切換タイミングカウンタ254及び表示対象カウンタ255に対してステップS5302の初期設定は実行されない。

【1020】

次に、ステップS5209にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行される断線短絡処理について説明する。図87は断線短絡処理を示すフローチャートである。なお、断線短絡処理におけるステップS5401～ステップS5411の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1021】

まず非特定制御用のワークエリア213に設けられた監視対象カウンタの値を「0」クリアする（ステップS5401）。監視対象カウンタは断線又は短絡の発生を監視する対象となる検知センサの種類を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。断線又は短絡の発生を監視する対象となる検知センサとして、3個の一般入賞口31のそれぞれに対して設けられた第1～第3入賞口検知センサ231a～233a、特電入賞装置32に設けられた特電検知センサ234a、第1作動口33に設けられた第1作動口検知センサ235a、第2作動口34に設けられた第2作動口検知センサ236a、アウト口24aに設けられたアウト口検知センサ237a及びスルーゲート35に設けられたゲート検知センサ238aが存在している（図90参照）。監視対象カウンタの値が「0」である場合が第1入賞口検知センサ231aに対応しており、監視対象カウンタの値が「1」である場合が第2入賞口検知センサ232aに対応しており、監視対象カウンタの値が「2」である場合が第3入賞口検知センサ233aに対応しており、監視対象カウンタの値が「3」である場合が特電検知センサ234aに対応しており、監視対象カウンタの値が「4」である場合が第1作動口検知センサ235aに対応しており、監視対象カウンタの値が「5」である場合が第2作動口検知センサ236aに対応しており、監視対象カウンタの値が「6」である場合がアウト口検知センサ237aに対応しており、監視対象カウンタの値が「7」である場合がゲート検知センサ238aに対応している。

【1022】

上記各検知センサ 231a～238a は入力用の電気経路を通じて 12V の電圧が印加される。また、上記各検知センサ 231a～238a は出力用の電気経路を通じて主側 MPU82 と接続されており、上記各検知センサ 231a～238a における検知結果に応じた電圧を主側 MPU82 に対して印加する。この場合に、出力用の電気経路に対しては複数の抵抗が接続されており、これら抵抗により主側 MPU82 に印加される電圧を所定値以下とするとともに供給される電流を所定値以下とする機能が果たされる。

【1023】

主側 MPU82 には、上記各検知センサ 231a～238a の検知部における遊技球の通過の有無に応じて電気信号が入力される。この場合、上記各検知センサ 231a～238a の検知部を遊技球が通っていない状況では LOW レベルの電気信号が主側 MPU82 10 に入力され、検知部を遊技球が通っている状況では HI レベルの電気信号が主側 MPU82 に入力される。

【1024】

上記各検知センサ 231a～238a について、上記各電気経路又はセンサ内部にて断線が生じた場合には、上記各検知センサ 231a～238a から主側 MPU82 に入力される電圧が LOW レベルの場合よりも低い電圧（すなわち 0V）となる。また、上記各電気経路間又はセンサ内部にて短絡が生じた場合には、上記各検知センサ 231a～238a から主側 MPU82 に入力される電圧が HI レベルの場合よりも高い電圧となる。主側 MPU82 は、上記各検知センサ 231a～238a から印加されている電圧が LOW レベルの場合よりも低い電圧となった場合には断線の発生と判定し、上記各検知センサ 231a～238a から印加されている電圧が HI レベルの場合よりも高い電圧となった場合には短絡の発生と判定する。 20

【1025】

断線短絡処理では、ステップ S5401 にて監視対象カウンタの値を「0」クリアした後は、監視対象カウンタの値に対応する検知センサ 231a～238a から入力される電圧が LOW レベルの場合よりも低い電圧（すなわち 0V）となっているか否かを判定することで、断線が発生しているか否かを判定する（ステップ S5402）。そして、断線が発生していると判定した場合には（ステップ S5403：YES）、断線発生コマンドを主側 MPU82 のレジスタエリア 223 におけるコマンド送信バッファ 223b に格納する（ステップ S5404）。コマンド送信バッファ 223b に断線発生コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 224 の動作によって当該断線発生コマンドが音光側 MPU93 に送信される。音光側 MPU93 は断線発生コマンドを受信することにより、表示発光部 64、スピーカ部 65 及び図柄表示装置 41 にて断線が発生したことを示す報知が実行されるようにする。この断線報知では今回断線の発生を特定した検知センサ 231a～238a の種類も報知される構成としてもよい。 30

【1026】

その後、非特定制御用のワークエリア 213 に設けられた第 2 セキュリティカウンタ 213k の値を 1 加算する（ステップ S5405）。第 2 セキュリティカウンタ 213k は既に説明したとおり、主側 MPU82 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 MPU82 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 MPU82 にて特定するために利用されるカウンタである。 40

【1027】

ステップ S5403 にて否定判定をした場合、又はステップ S5405 の処理を実行した場合、監視対象カウンタの値に対応する検知センサ 231a～238a から入力される電圧が HI レベルの場合よりも高い電圧となっているか否かを判定することで、短絡が発生しているか否かを判定する（ステップ S5406）。そして、短絡が発生していると判定した場合には（ステップ S5407：YES）、短絡発生コマンドを主側 MPU82 のレジスタエリア 223 におけるコマンド送信バッファ 223b に格納する（ステップ S5408）。コマンド送信バッファ 223b に短絡発生コマンドが格納されることにより、 50

コマンド送信回路 224 の動作によって当該短絡発生コマンドが音光側 MPU 93 に送信される。音光側 MPU 93 は短絡発生コマンドを受信することにより、表示発光部 64、スピーカ部 65 及び図柄表示装置 41 にて短絡が発生したことを示す報知が実行されるようにする。この短絡報知では今回短絡の発生を特定した検知センサ 231a～238a の種類も報知される構成としてもよい。

【1028】

その後、非特定制御用のワークエリア 213 に設けられた第 2 セキュリティカウンタ 213k の値を 1 加算する（ステップ S5409）。第 2 セキュリティカウンタ 213k は既に説明したとおり、主側 MPU 82 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 MPU 82 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 MPU 82 にて特定するために利用されるカウンタである。

【1029】

ステップ S5407 にて否定判定をした場合、又はステップ S5409 の処理を実行した場合、監視対象カウンタの値が最大値である「7」であるか否かを判定する（ステップ S5410）。ステップ S5410 にて否定判定をした場合、監視対象カウンタの値を 1 加算した後に（ステップ S5411）、その 1 加算後における監視対象カウンタの値に対応する検知センサ 231a～238a に対してステップ S5402～ステップ S5409 の処理を実行する。ステップ S5410 にて監視対象カウンタの値が最大値であると判定した場合に、本断線短絡処理を終了する。

【1030】

＜第 1 タイマ割込み処理＞

次に、主側 MPU 82 にて実行される第 1 タイマ割込み処理について説明する。図 88 は第 1 タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第 1 タイマ割込み処理におけるステップ S5501～ステップ S5521 の処理のうちステップ S5509 にて呼び出されて実行される不正検知用処理及びステップ S5521 にて呼び出されて実行される第 2 管理用処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 MPU 82 の特定制御処理部 221 にて実行され、不正検知用処理及び第 2 管理用処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 MPU 82 の非特定制御処理部 222 にて実行される。

【1031】

まず停電監視処理を実行する（ステップ S5501）。停電監視処理では、停電監視基板 85 から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、主側 RAM 84 の停電フラグに「1」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを保存する。

【1032】

その後、抽選用乱数更新処理を実行する（ステップ S5502）。抽選用乱数更新処理では、当たり乱数カウンタ C1、種別乱数カウンタ C2、リーチ乱数カウンタ C3 及び普電乱数カウンタ C4 の更新を実行する。具体的には、当たり乱数カウンタ C1、種別乱数カウンタ C2、リーチ乱数カウンタ C3 及び普電乱数カウンタ C4 から現状の数値情報を順次読み出し、それら読み出した数値情報をそれぞれ 1 加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「0」にクリアする。その後、ステップ S5503 ではメイン処理（図 81）のステップ S4930 と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップ S5504 にてメイン処理（図 81）のステップ S4931 と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する。

【1033】

その後、主側 RAM 84 の遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S5505）。遊技停止フラグ及び立

10

20

30

40

50

ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップS5505：YES）、ステップS5506～ステップS5520の処理を実行することなくステップS5521における遊技履歴の管理を行うための処理に進む。これにより、遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況においては、第1タイマ割込み処理（図88）にて停電監視、乱数更新及び遊技履歴の管理を実行するようにしながら、ステップS5506～ステップS5520における遊技を進行させるための処理は実行されないようにすることが可能となる。

【1034】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの両方に「1」がセットされていない場合（ステップS5505：NO）、ステップS5506～ステップS5520における遊技を進行させるための処理を実行する。具体的には、まずポート出力処理を実行する（ステップS5506）。ポート出力処理では、前回の第1タイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部32b、34bに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置32を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第2作動口34の普電役物34aを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。

【1035】

その後、読み込み処理を実行する（ステップS5507）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。その後、入球検知処理を実行する（ステップS5508）。当該入球検知処理では、各検知センサ231a～238aから受信している信号を読み込むとともに、アウト口24a、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びスルーゲート35への入球の有無を特定する処理を実行する。

【1036】

その後、CALL I命令により不正検知用処理を実行する（ステップS5509）。不正検知用処理については後に詳細に説明する。その後、主側RAM84の特定制御用のワークエリア211に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新するための特定制御のタイマ更新処理を実行する（ステップS5510）。この場合、記憶されている数値情報が減算されて更新されるタイマカウンタを集約して扱う構成であるが、減算式のタイマカウンタの更新及び加算式のタイマカウンタの更新の両方を集約して行う構成としてもよい。その後、不正対応処理を実行する（ステップS5511）。不正対応処理については後に詳細に説明する。

【1037】

その後、遊技球の発射制御を行うための発射制御処理を実行する（ステップS5512）。発射操作装置28に対して発射操作が継続されている状況では、上記第1の実施形態と同様に所定の発射周期となるように0.6秒に1個の遊技球が発射される。その後、入力状態監視処理として、ステップS5507の読み込み処理にて読み込んだ情報に基づいて、遊技機本体12及び前扉枠14の開放確認を行う（ステップS5513）。

【1038】

その後、遊技回の実行制御及び開閉実行モードの実行制御を行うための特図特電制御処理を実行するとともに（ステップS5514）、普図表示部38aの表示制御及び普電開放状態の実行制御を行うための普図普電制御処理を実行する（ステップS5515）。これら特図特電制御処理及び普図普電制御処理の処理内容は基本的に上記第1の実施形態と同様である。相違する部分の処理構成については後に説明する。

【1039】

続くステップS5516では、直前のステップS5514及びステップS5515の処理結果に基づいて、第1保留情報の増減個数を第1特図保留表示部37cに反映させるた

10

20

30

40

50

めの出力情報の設定、第2保留情報の増減個数を第2特図保留表示部37dに反映させるための出力情報の設定、及び普図側の保留情報の増減個数を普図保留表示部38bに反映させるための出力情報の設定を行う。また、ステップS5516では、直前のステップS5514及びステップS5515の処理結果に基づいて、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部38aの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行う。

【1040】

その後、払出制御装置77から受信したコマンド及び信号の内容を確認し、その確認結果に対応した処理を行うための払出状態受信処理を実行する（ステップS5517）。また、賞球コマンドを出力対象として設定するための払出出力処理を実行する（ステップS5518）。また、今回の第1タイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップS5519）。

【1041】

その後、設定監視処理を実行する（ステップS5520）。設定監視処理では、主側RAM84の設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定することで、使用対象として設定されている設定値が「設定1」～「設定6」のいずれかであるか否かを判定する。設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「0」又は7以上である場合には使用対象として設定されている設定値が異常であることを意味するため、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする。これにより、設定値更新処理（図83）にて使用対象の設定値の設定が新たに行われるまで遊技を進行させることができなくなる。

【1042】

ステップS5505にて肯定判定をした場合、又はステップS5520の処理を実行した場合、CALL命令により第2管理用処理を実行する（ステップS5521）。第2管理用処理については後に詳細に説明する。

【1043】

<入賞に関する構成>

次に、入賞に関する構成について説明する。図89は、遊技領域PAを流下した遊技球の排出に関する構成を説明するための説明図である。

【1044】

上記第1の実施形態と同様に一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びアウト口24aのいずれかに入球した遊技球は遊技領域PAから排出される。換言すれば、遊技球発射機構27から発射されて遊技領域PAに流入した遊技球は一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びアウト口24aのいずれかに入球することにより遊技領域PAから排出されることとなる。一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びアウト口24aのいずれかに入球した遊技球は遊技盤24の背面側に導かれる。

【1045】

遊技盤24の背面には、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びアウト口24aのそれぞれに対応させて排出通路部231～237が形成されている。排出通路部231～237に流入した遊技球はその流入した排出通路部231～237を流下することにより、遊技盤24の背面側において遊技盤24の下端部に導かれ図示しない排出球回収部にて回収される。そして、排出球回収部にて回収された遊技球は、遊技ホールにおいてパチンコ機10が設置された島設備の球循環装置に排出される。

【1046】

各排出通路部231～237には遊技球を検知するための各種検知センサ231a～237aが設けられている。これら排出通路部231～237及び検知センサ231a～237aについて以下に説明する。一般入賞口31は3個設けられているため、それら3個のそれぞれに対応させて排出通路部231～233が存在している。これらのうち最も左

の一般入賞口 3 1 に対応する第 1 排出通路部 2 3 1 の途中位置に検知範囲が存在するようにして第 1 入賞口検知センサ 2 3 1 a が設けられており、その右隣りの一般入賞口 3 1 に対応する第 2 排出通路部 2 3 2 の途中位置に検知範囲が存在するように第 2 入賞口検知センサ 2 3 2 a が設けられており、最も右の一般入賞口 3 1 に対応する第 3 排出通路部 2 3 3 の途中位置に検知範囲が存在するように第 3 入賞口検知センサ 2 3 3 a が設けられている。

【1047】

特電入賞装置 3 2 に対応させて第 4 排出通路部 2 3 4 が存在している。第 4 排出通路部 2 3 4 の途中位置に検知範囲が存在するようにして特電検知センサ 2 3 4 a が設けられており、特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球は第 4 排出通路部 2 3 4 を通過する途中で特電検知センサ 2 3 4 a にて検知される。第 1 作動口 3 3 に対応させて第 5 排出通路部 2 3 5 が存在している。第 5 排出通路部 2 3 5 の途中位置に検知範囲が存在するようにして第 1 作動口検知センサ 2 3 5 a が設けられており、第 1 作動口 3 3 に入球した遊技球は第 5 排出通路部 2 3 5 を通過する途中で第 1 作動口検知センサ 2 3 5 a にて検知される。第 2 作動口 3 4 に対応させて第 6 排出通路部 2 3 6 が存在している。第 6 排出通路部 2 3 6 の途中位置に検知範囲が存在するようにして第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a が設けられており、第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球は第 6 排出通路部 2 3 6 を通過する途中で第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a にて検知される。アウト口 2 4 a に対応させて第 7 排出通路部 2 3 7 が存在している。第 7 排出通路部 2 3 7 の途中位置に検知範囲が存在するようにしてアウト口検知センサ 2 3 7 a が設けられており、アウト口 2 4 a に入球した遊技球は第 7 排出通路部 2 3 7 を通過する途中でアウト口検知センサ 2 3 7 a にて検知される。

【1048】

各種検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 7 a のうちいずれか 1 個の検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 7 a にて検知対象となった遊技球は他の検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 7 a の検知対象となることはない。また、スルーゲート 3 5 に対してもゲート検知センサ 2 3 8 a が設けられており、遊技領域 P A を流下する途中でスルーゲート 3 5 を通過する遊技球はゲート検知センサ 2 3 8 a にて検知される。

【1049】

各種検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a としては、いずれも電磁誘導型の近接センサが用いられているが、遊技球を個別に検知できるのであれば使用するセンサは任意である。また、各種検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a は主側 M P U 8 2 と電氣的に接続されており、各種検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a の検知結果は主側 M P U 8 2 に出力される。具体的には、各種検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a は、遊技球を検知していない状況では L O W レベル信号を出力し、遊技球を検知している状況では H I レベル信号を出力する。なお、これに限定されることはなく H I 及び L O W の関係が逆であってもよい。

【1050】

次に、主側 M P U 8 2 にて、各検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a の検知結果に基づき、アウト口 2 4 a、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4 及びスルーゲート 3 5 への遊技球の入球の有無を特定するための構成について説明する。図 9 0 は主側 M P U 8 2 に検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a の検知結果が入力されるようにする構成を説明するための説明図である。

【1051】

主側 M P U 8 2 には入力ポート 2 4 1 が設けられている。入力ポート 2 4 1 は、8 種類の信号を同時に扱うことができるように 8 ビットのパラレルインターフェースとして構成されている。そして、各信号の電圧に応じて「0」又は「1」の情報が格納されるエリアが、各端子に 1 対 1 で対応させて設けられている。つまり、当該エリアとして、第 0 ビット D 0 ～ 第 7 ビット D 7 を備えている。また、入力ポート 2 4 1 には 8 種類を超える信号が入力されることとなるが、同時に入力される対象を 8 種類に制限するために、入力ポート 2 4 1 への入力対象となる信号群はドライバ I C による切換制御を通じて切り換えられる。

【1052】

第1タイマ割込み処理（図88）の入球検知処理（ステップS5508）では、入力ポート241への入力対象となる信号群が各検知センサ231a～238aからの信号群に設定される。かかる設定がなされた状況では、第0ビットD0は第1入賞口検知センサ231aからの検知信号に対応した情報が格納され、第1ビットD1は第2入賞口検知センサ232aからの検知信号に対応した情報が格納され、第2ビットD2は第3入賞口検知センサ233aからの検知信号に対応した情報が格納され、第3ビットD3は特電検知センサ234aからの検知信号に対応した情報が格納され、第4ビットD4は第1作動口検知センサ235aからの検知信号に対応した情報が格納され、第5ビットD5は第2作動口検知センサ236aからの検知信号に対応した情報が格納され、第6ビットD6はアウト口検知センサ237aからの検知信号に対応した情報が格納され、第7ビットD7はゲート検知センサ238aからの検知信号に対応した情報が格納される。

10

【1053】

上記各検知センサ231a～238aは、遊技球の通過を検知していない場合には検知信号として非検知中であることを示すLOWレベル信号を出力し、遊技球の通過を検知している場合には検知信号として検知中であることを示すHIレベル信号を出力する。そして、入力ポート241ではLOWレベル信号を受信している場合に該当するビットに対して「0」の情報を格納し、HIレベル信号を受信している場合に該当するビットに対して「1」の情報を格納する。つまり、検知センサ231a～238aにおいて遊技球の通過が検知されていない状況では該当するビットに対して非検知中を示す情報に対応した「0」の情報が格納され、遊技球の通過が検知されている状況では該当するビットに対して検知中を示す情報に対応した「1」の情報が格納される。

20

【1054】

図91は第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5508にて実行される入球検知処理を示すフローチャートである。なお、入球検知処理におけるステップS5601～ステップS5623の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【1055】

まず各種フラグクリア処理を実行する（ステップS5601）。各種フラグクリア処理では、特定制御用のワークエリア211の確認フラグ群211dに設けられた第1入賞確認フラグ、第2入賞確認フラグ、第3入賞確認フラグ、特電入賞フラグ、第1作動入賞確認フラグ、第2作動入賞確認フラグ、アウト確認フラグ及びゲート入賞確認フラグを「0」クリアする。これら各確認フラグの内容については後に説明する。なお、入球検知処理は第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5505にて否定判定をする状況においては当該第1タイマ割込み処理（図88）の各処理回において実行されるが、当該状況においては第1タイマ割込み処理（図88）の各処理回にて入球検知処理を実行した後に上記確認フラグの状態に対応する処理の実行が完了するため、入球検知処理が開始される度に上記確認フラグを「0」クリアしたとしても問題は生じない。

30

【1056】

第0ビットD0に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第1入賞口検知センサ231aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS5602：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211の第1入賞確認フラグに「1」をセットするとともに（ステップS5603）、特定制御用のワークエリア211に設けられた10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS5604）。第1入賞確認フラグは第1入賞口検知センサ231aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。10個賞球用カウンタは10個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。10個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図88）におけるステップS5518の払出出力処理にて10個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、10個賞球コマンドを1回出力した場

40

50

合には10個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は10個賞球コマンドを受信した場合、10個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。

【1057】

第1ビットD1に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が検知されたと判定する(ステップS5605: YES)。この場合、特定制御用のワークエリア211の第2入賞確認フラグに「1」をセットするとともに(ステップS5606)、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1加算する(ステップS5607)。第2入賞確認フラグは、第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

10

【1058】

第2ビットD2に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が検知されたと判定する(ステップS5608: YES)。この場合、特定制御用のワークエリア211の第3入賞確認フラグに「1」をセットするとともに(ステップS5609)、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1加算する(ステップS5610)。第3入賞確認フラグは、第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1059】

第3ビットD3に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、特電検知センサ234aにて1個の遊技球が検知されたと判定する(ステップS5611: YES)。この場合、特定制御用のワークエリア211の特電入賞確認フラグに「1」をセットするとともに(ステップS5612)、特定制御用のワークエリア211に設けられた15個賞球用カウンタの値を1加算する(ステップS5613)。特電入賞確認フラグは特電入賞装置32に1個の遊技球が入球したことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第1タイマ割込み処理(図88)の特図特電制御処理(ステップS5514)では特電入賞確認フラグに「1」がセットされていることを確認することで、特電入賞装置32への1個の遊技球の入球が発生したことを特定しラウンド遊技における特電入賞装置32への残りの入球可能個数を1減算する。また、当該特電入賞確認フラグの内容は第1タイマ割込み処理(図88)において特図特電制御処理(ステップS5514)よりも後に実行される第2管理用処理(ステップS5521)でも参照されるため、特図特電制御処理(ステップS5514)にて特電入賞確認フラグの情報が確認されたとしても、当該特電入賞確認フラグの情報はそのまま維持される。15個賞球用カウンタは15個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。15個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理(図88)におけるステップS5518の払出出力処理にて15個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、15個賞球コマンドを1回出力した場合には15個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は15個賞球コマンドを受信した場合、15個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。

20

30

40

【1060】

第4ビットD4に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第1作動口検知センサ235aにて1個の遊技球が検知されたと判定する(ステップS5614: YES)。この場合、特定制御用のワークエリア211の第1作動入賞確認フラグに「1」をセットするとともに(ステップS5615)、特定制御用のワークエリア211に設けられた1個賞球用カウンタの値を1加算する(ステップS5618)。1個賞球用カウンタは1個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理(図88)におけるステップS5518の払出出力処理にて1個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、1個賞球

50

コマンドを1回出力した場合には1個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は1個賞球コマンドを受信した場合、1個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。第1作動入賞確認フラグは第1作動口33に1個の遊技球が入球したことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1061】

図92は主側MPU82にて実行される本実施形態における保留情報の取得処理を示すフローチャートである。なお、保留情報の取得処理におけるステップS5701～ステップS5710の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【1062】

第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS5701：YES）、第1特図保留エリア111に記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として（ステップS5702：YES）、第1保留情報を取得するための処理を実行する。第1保留情報を取得するための処理では、まず第1特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS5703）。当該第1特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が調整される。これにより、第1特図保留表示部37cの表示内容が第1特図保留エリア111に格納されている第1保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第1特図保留エリア111のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS5703にて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS5704）。その後、第1保留コマンドをレジスタエリア223のコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS5705）。コマンド送信バッファ223bに第1保留コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該第1保留コマンドが音光側MPU93に送信される。これにより、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aの表示内容が第1保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

【1063】

なお、第1作動入賞確認フラグの内容は第1タイマ割込み処理（図88）において特図特電制御処理（ステップS5514）よりも後に実行される第2管理用処理（ステップS5521）でも参照される。したがって、特図特電制御処理（ステップS5514）における保留情報の取得処理（図92）にて第1作動入賞確認フラグの情報が確認されたとしても、当該第1作動入賞確認フラグの情報はそのまま維持される。

【1064】

入球検知処理（図91）の説明に戻り、第5ビットD5に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第2作動口検知センサ236aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS5617：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211の第2作動入賞確認フラグに「1」をセットするとともに（ステップS5618）、特定制御用のワークエリア211における1個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS5619）。

【1065】

図92に示す保留情報の取得処理では、第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS5706：YES）、第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として（ステップS5707：YES）、第2保留情報を取得するための処理を実行する。第2保留情報を取得するための処理では、まず第2特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS5708）。当該第2特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が調整される。これにより、第2特図保留表示部37dの表示内容が第2特図保留エリア112に格納されている第2保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第2特図保留エリア112のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS5708にて1加

算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS5709）。その後、第2保留コマンドをレジスタエリア223のコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS5710）。コマンド送信バッファ223bに第2保留コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該第2保留コマンドが音光側MPU93に送信される。これにより、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bの表示内容が第2保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

【1066】

なお、第2作動入賞確認フラグの内容は第1タイマ割込み処理（図88）において特図特電制御処理（ステップS5514）よりも後に実行される第2管理用処理（ステップS5521）でも参照されるため、特図特電制御処理（ステップS5514）にて第2作動入賞確認フラグの情報が確認されたとしても、当該第2作動入賞確認フラグの情報はそのまま維持される。

【1067】

入球検知処理（図91）の説明に戻り、第6ビットD6に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、アウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS5620：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211のアウト確認フラグに「1」をセットする（ステップS5621）。アウト確認フラグはアウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1068】

第7ビットD7に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、ゲート検知センサ238aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS5622：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211のゲート入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS5623）。ゲート入賞確認フラグはスルーゲート35に1個の遊技球が入球したことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第1タイマ割込み処理（図88）の普図普電制御処理（ステップS5515）ではゲート入賞確認フラグに「1」がセットされていることを確認することで、普図保留エリア84cに格納されている普図側の保留情報の個数が上限数である4個未満であることを条件として、現状の普電乱数カウンタC4の数値情報を普図側の保留情報として普図保留エリア84cに格納する処理を実行する。

【1069】

次に第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5509の処理について説明する。

【1070】

第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5509では既に説明したとおりCALL I命令により不正検知用処理を実行する。不正検知用処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、第1タイマ割込み処理（図88）において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理がCALL I命令を利用して呼び出される。

【1071】

CALL I命令により不正検知用処理が実行される場合、まず主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避される。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、P/Vフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御の処理である不正検知用処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該不正検知用処理のコールや当該不正検知用処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させておくことが可能となる。

【1072】

CALL I命令により不正検知用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が

10

20

30

40

50

特定制御用のスタックエリア212に退避された後、第1タイマ割込み処理（図88）及び後述する第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である不正検知用処理の実行中に、特定制御の処理である第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【1073】

CALLI命令により不正検知用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避され、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止された後、不正検知用処理に対応するプログラムが開始される。

【1074】

このように、CALLI命令により不正検知用処理を実行する構成とすることにより、一の命令（「CALLI」）により、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避されるとともに、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。そして、不正検知用処理に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側MPU82のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させるための命令と、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みを禁止するための命令と、不正検知用処理のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、不正検知用処理を実行するためにプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、プログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【1075】

図93は不正検知用処理を示すフローチャートである。なお、不正検知用処理におけるステップS5801～ステップS5818の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1076】

まず「LD SP, Y(u+2)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてY(u+2)を設定する（ステップS5801）。スタックポインタは、スタックエリア212、214においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側MPU82にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。また、非特定制御用のスタックエリア214を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア214における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップS5801では、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。

【1077】

その後、「LD (__WABUF), WA」として、ロード命令により、主側MPU82のWAレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファに退避させる（ステップS5802）。また、「LD (__BCBUF), BC」として、ロード命令により、主側MPU82のBCレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたBCバッファに退避させる（ステップS5803）。また、「LD (__DEBUF), DE」として、ロード命令により、主側MPU82のDEレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたDEバッファに退避させる（ステップS5804）。また、「LD (__HLBUF), HL」として、ロード命令により、主側MPU82のHLレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定され

10

20

30

40

50

たHLバッファに退避させる（ステップS5805）。また、「LD（__IXBUF），IX」として、ロード命令により、主側MPU82のIXレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIXバッファに退避させる（ステップS5806）。また、「LD（__IYBUF），IY」として、ロード命令により、主側MPU82のIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIYバッファに退避させる（ステップS5807）。

【1078】

主側MPU82のレジスタエリア223における汎用レジスタエリア223aには、既に説明したフラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップS5802～ステップS5807では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア213における対応するバッファに退避させている。なお、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報量はいずれも2バイトとなっている。

【1079】

これらWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタは非特定制御に対応する処理である情報クリア処理（ステップS5808）、試射試験処理（ステップS5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップS5810）及び不正検知実行処理（ステップS5811）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を情報クリア処理（ステップS5808）、試射試験処理（ステップS5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップS5810）及び不正検知実行処理（ステップS5811）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア213に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【1080】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である情報クリア処理（ステップS5808）、試射試験処理（ステップS5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップS5810）及び不正検知実行処理（ステップS5811）にて利用対象となるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア213においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、情報クリア処理（ステップS5808）、試射試験処理（ステップS5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップS5810）及び不正検知実行処理（ステップS5811）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア213の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

【1081】

なお、当然のことながら主側MPU82における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【1082】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア214に退避させるのではなく

非特定制御用のワークエリア 213 に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア 214 の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア 214 を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることになってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア 214 に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまふ。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 213 に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【1083】

ステップ S5802～ステップ S5807 の処理を実行した後は、情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）を実行する。情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）の実行後における不正検知用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア 214 に書き込まれる。そして、情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す不正検知用処理のプログラムに復帰する。

【1084】

ステップ S5809 の試射試験処理では、試射試験情報を生成し、その生成した試射試験情報を非特定制御用のワークエリア 213 に格納する。ステップ S5810 の非特定制御のタイマ更新処理では、主側 RAM 84 の非特定制御用のワークエリア 213 に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新する。当該タイマカウンタには、第 1～第 8 入賞監視タイマカウンタ 213a～213h 及び磁気監視遅延タイマカウンタ 213j が含まれる。これらタイマカウンタ 213a～213j はいずれもステップ S5810 の処理が実行される度に 1 減算され、既に「0」の状況で 1 減算されたことでキャリーフラグ（又はポロフラグ）に「1」がセットされたタイマカウンタは「0」クリアされる。情報クリア処理（ステップ S5808）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）の詳細については後に説明する。

【1085】

情報クリア処理（ステップ S5808）、試射試験処理（ステップ S5809）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S5810）及び不正検知実行処理（ステップ S5811）を実行した後は、「LD SP, Y(r+b)」として、ロード命令により、主側 MPU 82 のスタックポインタに不正検知用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとして Y(r+b) を設定する（ステップ S5812）。Y(r+b) のアドレスは、特定制御用のスタックエリア 212 における Y(r+8) と Y(s) との間のアドレスとして設定されている。

【1086】

第 1 タイマ割込み処理（図 88）のステップ S5509 にて不正検知用処理が呼び出される直前において特定制御用のスタックエリア 212 に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側 MPU 82 のスタックポインタの情報

10

20

30

40

50

(すなわちスタックポインタの値)は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア212に記憶されている情報としては、例えば不正検知用処理が終了した後における第1タイマ割込み処理(図88)の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報が $Y(r+b)$ となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である情報クリア処理(ステップS5808)、試射試験処理(ステップS5809)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS5810)及び不正検知実行処理(ステップS5811)が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報である $Y(r+b)$ を主側MPU82のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、非特定制御に対応する処理を開始する前に特定制御に対応する主側MPU82のスタックポインタの情報を主側RAM84に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側RAM84において確保する必要がなくなる。

【1087】

その後、「LD WA, (_WABUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のWAバッファに退避された情報を主側MPU82のWAレジスタに上書きする(ステップS5813)。また「LD BC, (_BCBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のBCバッファに退避された情報を主側MPU82のBCレジスタに上書きする(ステップS5814)。また「LD DE, (_DEBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のDEバッファに退避された情報を主側MPU82のDEレジスタに上書きする(ステップS5815)。また「LD HL, (_HLBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のHLバッファに退避された情報を主側MPU82のHLレジスタに上書きする(ステップS5816)。また「LD IX, (_IXBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIXバッファに退避された情報を主側MPU82のIXレジスタに上書きする(ステップS5817)。また「LD IY, (_IYBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIYバッファに退避された情報を主側MPU82のIYレジスタに上書きする(ステップS5818)。ステップS5813～ステップS5818の処理が実行されることにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【1088】

ステップS5813～ステップS5818の処理を実行した後は、RETI命令により特定制御の処理に含まれる第1タイマ割込み処理(図88)に復帰する。RETI命令が実行されることにより、不正検知用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報が主側MPU82のフラグレジスタに復帰されるとともに、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第1タイマ割込み処理及び第2タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。なお、不正検知用処理(図93)におけるRETI命令では第1タイマ割込み処理については発生を禁止している状態が維持される構成としてもよい。

【1089】

RETI命令を実行する構成であることにより、一の命令(「RETI」)により、不正検知用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させ、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切

10

20

30

40

50

り換えることができる。このため、不正検知用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御の処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御の処理のプログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【1090】

ここで、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理が再開される場合に主側RAM84に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

10

【1091】

また、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理への復帰後において非特定制御の処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御の処理を間に挟んで実行される非特定制御の処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に記憶されており、主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側RAM84に退避されないとしても、非特定制御の処理を実行する上で問題が生じない。

20

【1092】

次に、ステップS5808にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行される情報クリア処理について説明する。図94は情報クリア処理を示すフローチャートである。なお、情報クリア処理におけるステップS5901～ステップS5904の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1093】

情報クリア処理では、非特定制御用のワークエリア213の各記憶エリアのうち、既に説明した第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tの「0」クリアを行うための処理を実行する。これら第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tはいずれも1バイトのデータ容量となっており、これら各エリアに対して連番となるようにアドレスが設定されている。第1一般入賞異常フラグ213l→第2一般入賞異常フラグ213m→第3一般入賞異常フラグ213n→特電入賞異常フラグ213o→第1作動入賞異常フラグ213p→第2作動入賞異常フラグ213q→アウト異常フラグ213r→ゲート入賞異常フラグ213s→磁気異常フラグ213tの順序でアドレスが「1」ずつ増加する。

30

40

【1094】

情報クリア処理では、まず主側MPU82の所定のレジスタにクリア対象アドレスとして開始アドレスを設定する（ステップS5901）。当該開始アドレスは、第1一般入賞異常フラグ213lのアドレスとなっている。

【1095】

その後、クリア対象アドレスに対応するエリアに対して「0」クリアを行う（ステップS5902）。クリア対象アドレスが開始アドレスである場合には当該開始アドレスに対

50

応するエリアが第1一般入賞異常フラグ213 lであるため、当該第1一般入賞異常フラグ213 lを「0」クリアする。

【1096】

その後、クリア対象アドレスが最終アドレスであるか否かを判定する（ステップS5903）。最終アドレスは、磁気異常フラグ213 tのアドレスとなっている。クリア対象アドレスが最終アドレスではない場合（ステップS5903：NO）、クリア対象アドレスを次の順番のアドレスに更新する（ステップS5904）。具体的にはクリア対象アドレスを1加算する。そして、その1加算後におけるアドレスに対応するエリアに対してステップS5902にて「0」クリアを行い、ステップS5903の処理を実行する。

【1097】

クリア対象アドレスが開始アドレスである状況でステップS5904の処理が実行された場合には、クリア対象アドレスが第2一般入賞異常フラグ213 mのアドレスとなり、当該第2一般入賞異常フラグ213 mに対して「0」クリアが行われる。また、当該第2一般入賞異常フラグ213 mのアドレスがクリア対象アドレスである状況でステップS5904の処理が実行された場合には、クリア対象アドレスが第3一般入賞異常フラグ213 nのアドレスとなり、当該第3一般入賞異常フラグ213 nに対して「0」クリアが行われる。

【1098】

上記ステップS5902～ステップS5904の処理が繰り返されることによってステップS5904の処理にて最終アドレスに対応する磁気異常フラグ213 tのアドレスがクリア対象アドレスに設定された場合、当該磁気異常フラグ213 tを「0」クリアした後におけるステップS5903では肯定判定をする。ステップS5903にて肯定判定をすることで本情報クリア処理を終了する。なお、当該初期設定処理（図86）では非特定制御用のワークエリア213における第1～第8入賞監視タイマカウンタ213 a～213 h、磁気検知カウンタ213 i、磁気監視遅延タイマカウンタ213 j、第2セキュリティカウンタ213 k、通常用カウンタエリア251、演算結果記憶エリア252、表示対象設定エリア253、切換タイミングカウンタ254及び表示対象カウンタ255に対してステップS5902のクリア処理は実行されない。

【1099】

上記のように情報クリア処理が実行されることにより、後述する不正検知実行処理が実行される前に第1一般入賞異常フラグ213 l、第2一般入賞異常フラグ213 m、第3一般入賞異常フラグ213 n、特電入賞異常フラグ213 o、第1作動入賞異常フラグ213 p、第2作動入賞異常フラグ213 q、アウト異常フラグ213 r、ゲート入賞異常フラグ213 s及び磁気異常フラグ213 tを「0」クリアすることが可能となる。これらフラグ213 l～213 tが不正検知実行処理の実行前に「0」クリアされることの作用効果については後に説明する。

【1100】

次に、ステップS5811にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行される不正検知実行処理について説明する。図95は不正検知実行処理を示すフローチャートである。なお、不正検知実行処理におけるステップS6001～ステップS6019の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1101】

まず特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS6001）。既に説明したとおり特定制御の処理に含まれる入球検知処理（図91）において第2作動口検知センサ236 aにて1個の遊技球が検知されたと判定された場合、すなわち第2作動口34への1個の遊技球の入賞が発生した場合に第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされる。

【1102】

第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS6001：YE

10

20

30

40

50

S)、特定制御用のワークエリア211に設けられた普電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定するとともに(ステップS6002)、特定制御用のワークエリア211の普電用監視遅延タイマカウンタ211cの値が「0」であるか否かを判定する(ステップS6003)。

【1103】

ここで、第1タイマ割込み処理(図88)のステップS5515の普図普電制御処理にて実行される普電制御処理について図96のフローチャートを参照しながら説明する。普電制御処理は上記第1の実施形態と同様に第2作動口34における普電役物34aの普電開放状態を制御するための処理である。なお、普電制御処理におけるステップS6101～ステップS6111の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

10

【1104】

まず特定制御用のワークエリア211に設けられた普電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定することで、第2作動口34が開放状態であるか否かを判定する(ステップS6101)。普電開放状態フラグは、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が行われており第2作動口34が開放状態であることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。なお、普図普電制御処理(図15)の普図確定中処理(ステップS309)において普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が開始された場合に普電開放状態フラグに「1」がセットされるとともに、後述するステップS6110にて普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が開始された場合にも普電開放状態フラグに「1」が

20

【1105】

普電開放状態フラグに「1」がセットされている場合(ステップS6101: YES)、閉鎖判定用処理を実行する(ステップS6102)。閉鎖判定用処理では、特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合、すなわち第2作動口34への入賞が発生している場合に特定制御用のワークエリア211に設けられた普電入賞カウンタの値を1減算する。普電入賞カウンタは上記第1の実施形態と同様に、今回の普電開放状態において第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個に到達したか否かを主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1減算後における普電入賞カウンタの値が「0」である場合、第2作動口34の閉鎖条件が成立したと判定する。また、第2作動口34への入賞が発生していない場合又は普電入賞カウンタの値が「0」ではない場合、特定制御用のワークエリア211に設けられた普図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、第2作動口34における1回の開放の継続期間が経過したか否かを判定する。普図側タイマカウンタの値が「0」である場合には、第2作動口34の閉鎖条件が成立したと判定する。

30

【1106】

第2作動口34の閉鎖条件が成立している場合(ステップS6103: YES)、閉鎖設定処理を実行する(ステップS6104)。閉鎖設定処理では、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を停止することで第2作動口34を閉鎖状態とする。その後、特定制御用のワークエリア211における普電開放状態フラグを「0」クリアする(ステップS6105)。

40

【1107】

その後、特定制御用のワークエリア211における普電用監視遅延タイマカウンタ211cに普電用監視遅延期間の情報をセットする(ステップS6106)。普電用監視遅延タイマカウンタ211cは、第2作動口34に設けられた第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知を、開放状態である第2作動口34が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。普電用監視遅延期間は、開放状態である第2作動口34に入賞した遊技球が第2作動口検知センサ236aに検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設

50

定されており、具体的には1秒に設定されている。

【1108】

その後、終了分岐処理を実行する（ステップS6107）。終了分岐処理では、普電入賞カウンタの値が「0」である場合には、今回の普電開放状態が終了したとして特定制御用のワークエリア211に設けられた普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。普電入賞カウンタの値が1以上である場合には特定制御用のワークエリア211に設けられた普電開放カウンタの値を1減算する。普電開放カウンタは上記第1の実施形態と同様に、今回の普電開放状態において第2作動口34の普電役物34aを開放状態とする回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1減算後における普電開放カウンタの値が「0」である場合には今回の普電開放状態が終了したとして特定制御用のワークエリア211における普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。1減算後における普電開放カウンタの値が1以上である場合には、普電側のインターバル期間（具体的には2秒）の情報を特定制御用のワークエリア211の普図側タイマカウンタにセットする。この場合、普図普電カウンタの値が維持されるため、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理は普電制御処理（図96）に維持される。

10

【1109】

普電制御処理において特定制御用のワークエリア211における普電開放状態フラグの値が「0」であると判定した場合（ステップS6101：NO）、特定制御用のワークエリア211における普図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、普電側のインターバル期間が経過したか否かを判定する（ステップS6108）。普電側のインターバル期間が経過している場合（ステップS6108：YES）、普図側タイマカウンタに普電側の長開放の継続期間（具体的には2秒）に対応する情報をセットする（ステップS6109）。また、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を再度行うことで第2作動口34を開放状態とする（ステップS6110）。その後、特定制御用のワークエリア211における普電開放状態フラグに「1」をセットする（ステップS6111）。この場合、普図普電カウンタの値が維持されるため、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理は普電制御処理（図96）に維持される。

20

30

【1110】

不正検知実行処理（図95）の説明に戻り、特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている状況において（ステップS6001：YES）、特定制御用のワークエリア211における普電開放状態フラグに「1」がセットされておらず（ステップS6002：NO）、さらに特定制御用のワークエリア211における普電用監視遅延タイマカウンタ211cの値が「0」である場合（ステップS6003：YES）、第2作動口34が閉鎖状態となってから第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知を有効として扱う期間が経過した後であるにも関わらず当該第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」をセットする（ステップS6004）。第2作動入賞異常フラグ213qは既に説明したとおり、第2作動口34に対応させて設けられている。普電用監視遅延タイマカウンタ211c又は第6入賞監視タイマカウンタ213gを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合、当該非特定制御の処理にて第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされる。

40

【1111】

その後、普電入賞異常コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS6005）。コマンド送信バッファ223bに普電入賞異常コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該普電入賞異常コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93

50

は普電入賞異常コマンドを受信することにより、表示発光部 6 4、スピーカ部 6 5 及び図柄表示装置 4 1 にて第 2 作動口 3 4 への入賞に関して異常が発生したことを示す報知が実行されるようにする。

【1112】

その後、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k の値を 1 加算する（ステップ S 6 0 0 6）。第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k は既に説明したとおり、主側 MPU 8 2 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 MPU 8 2 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 MPU 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。

10

【1113】

ステップ S 6 0 0 1 にて否定判定をした場合、ステップ S 6 0 0 2 にて肯定判定をした場合、ステップ S 6 0 0 3 にて否定判定をした場合、又はステップ S 6 0 0 6 の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特電入賞確認フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 6 0 0 7）。既に説明したとおり特定制御の処理に含まれる入球検知処理（図 9 1）において特電検知センサ 2 3 4 a にて 1 個の遊技球が検知されたと判定された場合、すなわち特電入賞装置 3 2 への 1 個の遊技球の入賞が発生した場合に特電入賞確認フラグに「1」がセットされる。

【1114】

特電入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 6 0 0 7：YES）、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた特電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定するとともに（ステップ S 6 0 0 8）、特定制御用のワークエリア 2 1 1 の特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b の値が「0」であるか否かを判定する（ステップ S 6 0 0 9）。

20

【1115】

ここで、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）のステップ S 5 5 1 4 の特図特電制御処理にて実行される特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理について図 9 7（a）～図 9 7（c）のフローチャートを参照しながら説明する。特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理は上記第 1 の実施形態と同様に開閉実行モードにおいて特電入賞装置 3 2 の開閉制御を行うための処理である。なお、特電開始処理におけるステップ S 6 2 0 1～ステップ S 6 2 0 8、特電開放中処理におけるステップ S 6 3 0 1～ステップ S 6 3 0 7 及び特電閉鎖中処理におけるステップ S 6 4 0 1～ステップ S 6 4 0 7 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 MPU 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

30

【1116】

図 9 7（a）に示すように特電開始処理では、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた特図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、開閉実行モードのオープニング期間が経過しているか否かを判定する（ステップ S 6 2 0 1）。ステップ S 6 2 0 1 にて肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられたラウンドカウンタに今回の開閉実行モードの実行契機となった遊技結果に対応するラウンド遊技の回数の情報をセットする（ステップ S 6 2 0 2）。ラウンドカウンタは上記第 1 の実施形態と同様に開閉実行モードにおける残りのラウンド遊技の回数を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタである。また、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には 2 9 秒）を特図側タイマカウンタにセットする（ステップ S 6 2 0 3）。また、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた入賞カウンタに「10」をセットする（ステップ S 6 2 0 4）。入賞カウンタは上記第 1 の実施形態と同様に入賞上限個数の残り個数を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタである。また、特電用の駆動部 3 2 b への駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置 3 2 を開放状態とする（ステップ S 6 2 0 5）。

40

【1117】

50

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた特電開放状態フラグに「1」をセットする（ステップ S 6 2 0 6）。特電開放状態フラグは、特電用の駆動部 3 2 b への駆動信号の出力が行われており特電入賞装置 3 2 が開放状態であることを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。

【1 1 1 8】

その後、特電開放コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S 6 2 0 7）。コマンド送信バッファ 2 2 3 b に特電開放コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 2 2 4 の動作によって当該特電開放コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信される。音光側 M P U 9 3 は特電開放コマンドを受信することにより、表示発光部 6 4、スピーカ部 6 5 及び図柄表示装置 4 1 にて特電入賞装置 3 2 が開放状態となったことを示す演出が実行されるようにする。

【1 1 1 9】

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた特図特電カウンタの値を 1 加算する（ステップ S 6 2 0 8）。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（図 9 7（b））に対応する「4」となる。

【1 1 2 0】

図 9 7（b）に示す特電開放中処理では、閉鎖判定用処理を実行する（ステップ S 6 3 0 1）。閉鎖判定用処理では、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認フラグ群 2 1 1 d の特電入賞確認フラグに「1」がセットされている場合、すなわち特電入賞装置 3 2 への入賞が発生している場合に特定制御用のワークエリア 2 1 1 における入賞カウンタの値を 1 減算する。1 減算後における入賞カウンタの値が「0」である場合、特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立したと判定する。また、特電入賞装置 3 2 への入賞が発生していない場合又は入賞カウンタの値が「0」ではない場合、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、ラウンド遊技の開放継続期間が経過したか否かを判定する。特図側タイマカウンタの値が「0」である場合には、特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立したと判定する。

【1 1 2 1】

特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立している場合（ステップ S 6 3 0 2：YES）、閉鎖設定処理を実行する（ステップ S 6 3 0 3）。閉鎖設定処理では、特電用の駆動部 3 2 b への駆動信号の出力を停止することで特電入賞装置 3 2 を閉鎖状態とする。その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特電開放状態フラグを「0」クリアする（ステップ S 6 3 0 4）。

【1 1 2 2】

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b に特電用監視遅延期間の情報をセットする（ステップ S 6 3 0 5）。特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b は、特電入賞装置 3 2 に設けられた特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知を、開放状態である特電入賞装置 3 2 が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。特電用監視遅延期間は、開放状態である特電入賞装置 3 2 に入賞した遊技球が特電検知センサ 2 3 4 a に検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されており、具体的には 1 秒に設定されている。

【1 1 2 3】

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 におけるラウンドカウンタの値を 1 減算した後に（ステップ S 6 3 0 6）、エンディング分岐処理を実行する（ステップ S 6 3 0 7）。エンディング分岐処理では、1 減算後のラウンドカウンタの値が 1 以上であれば、インターバル期間の情報（具体的には 3 秒）を特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特図側タイマカウンタにセットした後に、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における特図特電カウンタの値を 1 加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電閉鎖中処理（図 9 7（c））に対応する「5」となる。一方、1 減算後のラウンドカウンタの値が「0」であれば、エンディング期間の情報（具体的には 5 秒）を特定制御用のワークエリア 2 1 1

10

20

30

40

50

における特図側タイマカウンタにセットする。また、エンディングコマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する。コマンド送信バッファ223bにエンディングコマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該エンディングコマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93はエンディングコマンドを受信することにより、表示発光部64、スピーカ部65及び図柄表示装置41にて開閉実行モードのエンディング演出が実行されるようにする。その後、特図特電カウンタの値を2加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特図特電制御処理（図18）の特電終了処理（ステップS612）に対応する「6」となる。

【1124】

図97（c）に示す特電閉鎖中処理では、特定制御用のワークエリア211における特図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、インターバル期間が経過しているか否かを判定する（ステップS6401）。ステップS6401にて肯定判定をした場合、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には29秒）を特図側タイマカウンタにセットする（ステップS6402）。また、特定制御用のワークエリア211における入賞カウンタに「10」をセットする（ステップS6403）。また、特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力が行われるようにすることで特電入賞装置32を開放状態とする（ステップS6404）。

【1125】

その後、特定制御用のワークエリア211における特電開放状態フラグに「1」をセットする（ステップS6405）。その後、特電開放コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS6406）。コマンド送信バッファ223bに特電開放コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該特電開放コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は特電開放コマンドを受信することにより、表示発光部64、スピーカ部65及び図柄表示装置41にて特電入賞装置32が開放状態となったことを示す演出が実行されるようにする。その後、特定制御用のワークエリア211における特図特電カウンタの値を1減算する（ステップS6407）。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（図97（b））に対応する「4」となる。

【1126】

不正検知実行処理（図95）の説明に戻り、特定制御用のワークエリア211における特電入賞確認フラグに「1」がセットされている状況において（ステップS6007：YES）、特定制御用のワークエリア211における特電開放状態フラグに「1」がセットされておらず（ステップS6008：NO）、さらに特定制御用のワークエリア211における特電用監視遅延タイマカウンタ211bの値が「0」である場合（ステップS6009：YES）、特電入賞装置32が閉鎖状態となってから特電検知センサ234aにおける遊技球の検知を有効として扱う期間が経過した後であるにも関わらず当該特電検知センサ234aにて遊技球が検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213における特電入賞異常フラグ213oに「1」をセットする（ステップS6010）。特電入賞異常フラグ213oは既に説明したとおり、特電入賞装置32に対応させて設けられている。特電用監視遅延タイマカウンタ211b又は第4入賞監視タイマカウンタ213eを利用した監視処理の結果、正常ではない遊技球の入球の検知が発生したことが非特定制御の処理にて特定された場合、当該非特定制御の処理にて特電入賞異常フラグ213oに「1」がセットされる。

【1127】

その後、特電入賞異常コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS6011）。コマンド送信バッファ223bに特電入賞異常コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該特電入賞異常コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は特電入賞異常コマンドを受信することにより、表示発光部64、スピーカ部65及び図

10

20

30

40

50

柄表示装置 4 1 にて特電入賞装置 3 2 への入賞に関して異常が発生したことを示す報知が実行されるようにする。

【1128】

その後、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k の値を 1 加算する（ステップ S 6 0 1 2）。第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k は既に説明したとおり、主側 M P U 8 2 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。

【1129】

ステップ S 6 0 0 7 にて否定判定をした場合、ステップ S 6 0 0 8 にて肯定判定をした場合、ステップ S 6 0 0 9 にて否定判定をした場合、又はステップ S 6 0 1 2 の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認フラグ群 2 1 1 d の第 1 入賞確認フラグ、第 2 入賞確認フラグ、第 3 入賞確認フラグ、特電入賞確認フラグ、第 1 作動入賞確認フラグ、第 2 作動入賞確認フラグ、アウト確認フラグ及びゲート入賞確認フラグのうち、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられた監視対象カウンタの値に対応する確認フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 6 0 1 3）。

【1130】

監視対象カウンタは、ステップ S 6 0 1 4 ～ステップ S 6 0 1 6 の監視処理の対象となる確認フラグの種類を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。不正検知実行処理（図 9 5）が開始されたタイミングにおいては監視対象カウンタの値は「0」となっている。ステップ S 6 0 1 4 ～ステップ S 6 0 1 6 の監視処理の対象となる確認フラグの種類は、監視対象カウンタの値が「0」である場合が第 1 入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「1」である場合が第 2 入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「2」である場合が第 3 入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「3」である場合が特電入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「4」である場合が第 1 作動入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「5」である場合が第 2 作動入賞確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「6」である場合がアウト確認フラグであり、監視対象カウンタの値が「7」である場合がゲート入賞確認フラグである。

【1131】

監視対象カウンタの現状の値に対応する確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 6 0 1 3：YES）、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ～2 1 3 h のうち非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における監視対象カウンタの値に対応する入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ～2 1 3 h の値が 1 以上であるか否かを判定する（ステップ S 6 0 1 4）。

【1132】

第 1 ～第 3 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ～2 1 3 c は既に説明したとおり、対応する一般入賞口 3 1 に設けられた入賞口検知センサ 2 3 1 a ～2 3 3 a において 1 個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。第 4 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 d は既に説明したとおり、特電入賞装置 3 2 の特電検知センサ 2 3 4 a において 1 個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。第 5 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 e は既に説明したとおり、第 1 作動口 3 3 に設けられた第 1 作動口検知センサ 2 3 5 a において 1 個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。第 6 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 f は既に説明したとおり、第 2 作動口 3 4 の第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a において 1 個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。第 7 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 g は既に説明したとおり、アウト口 2 4 a に設けられたアウト口検知センサ 2 3 7 a において 1 個の遊技球を検知してから次の遊技球

10

20

30

40

50

の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。第8入賞監視タイマカウンタ213hは既に説明したとおり、スルーゲート35に設けられたゲート検知センサ238aにおいて1個の遊技球を検知してから次の遊技球の検知を無効として扱う期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。

【1133】

監視対象カウンタの値が「0」である場合には第1入賞監視タイマカウンタ213aが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「1」である場合には第2入賞監視タイマカウンタ213bが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「2」である場合には第3入賞監視タイマカウンタ213cが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「3」である場合には第4入賞監視タイマカウンタ213dが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「4」である場合には第5入賞監視タイマカウンタ213eが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「5」である場合には第6入賞監視タイマカウンタ213fが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「6」である場合には第7入賞監視タイマカウンタ213gが確認対象となる。監視対象カウンタの値が「7」である場合には第8入賞監視タイマカウンタ213hが確認対象となる。

【1134】

監視対象カウンタの値に対応する入賞監視タイマカウンタ213a～213hの値が1以上である場合（ステップS6014：YES）、監視対象カウンタの値に対応する検知センサ231a～238aの検知結果が1個の遊技球の検知結果となってから検知無効期間（例えば0.1秒）が経過する前に当該検知センサ231a～238aの検知結果が新たな遊技球の検知結果となったことを意味する。このような状況が発生する場合としては、例えば当該検知センサ231a～238aの検知範囲において遊技球のチャタリングが発生したことで、1個の遊技球の通過に対して当該検知センサ231a～238aの検知結果が複数個の遊技球の通過に対応する検知結果となる場合が挙げられる。検知無効期間は、チャタリングが発生することなく遊技球の正常な通過が行われた場合には遊技球の新たな検知が発生しない期間として設定されている。

【1135】

ステップS6014にて肯定判定をした場合、監視対象カウンタの値に対応する検知センサ231a～238aにおいて検知無効期間が経過する前に遊技球の検知が発生したことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213における第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r及びゲート入賞異常フラグ213sのうち、監視対象カウンタの値に対応する異常フラグ213l～213sに「1」をセットする（ステップS6015）。監視対象カウンタの値が「0」である場合には第1一般入賞異常フラグ213lに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「1」である場合には第2一般入賞異常フラグ213mに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「2」である場合には第3一般入賞異常フラグ213nに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「3」である場合には特電入賞異常フラグ213oに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「4」である場合には第1作動入賞異常フラグ213pに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「5」である場合には第2作動入賞異常フラグ213qに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「6」である場合にはアウト異常フラグ213rに「1」をセットする。監視対象カウンタの値が「7」である場合にはゲート入賞異常フラグ213sに「1」をセットする。これにより、監視対象カウンタの値に対応する検知センサ231a～238aにおいて検知無効期間が経過する前に遊技球の検知が発生した場合には、対応する異常フラグ213l～213sに「1」がセットされる。

【1136】

ステップS6014にて否定判定をした場合、又はステップS6015の処理を実行した場合、監視対象カウンタの値に対応する入賞監視タイマカウンタ213a～213hに

検知無効期間をセットする（ステップS6016）。これにより、監視対象カウンタに対応する検知センサ231a～238aにおいて検知無効期間が経過する前に遊技球の検知が発生した場合及び検知無効期間が経過した後に遊技球の検知が発生した場合のいずれであっても、監視対象カウンタに対応する入賞監視タイマカウンタ213a～213hに検知無効期間がセットされる。

【1137】

その後、監視対象カウンタの値が最大値である「7」であるか否かを判定する（ステップS6017）。監視対象カウンタの値が最大値未満である場合（ステップS6017：NO）、監視対象カウンタの値を1加算した後に（ステップS6018）、ステップS6013に戻る。これにより、次の順番の監視対象の検知センサ231a～238aについてステップS6014～ステップS6016の監視処理が実行される。上記のようにステップS6013～ステップS6018の処理が実行されることにより、検知センサ231a～238aのそれぞれに対して検知無効期間内における遊技球の検知が発生していないか否かが特定される。

【1138】

監視対象カウンタの値が最大値である場合（ステップS6017：YES）、磁気監視処理を実行する（ステップS6019）。図98は当該磁気監視処理を示すフローチャートである。なお、磁気監視処理におけるステップS6501～ステップS6509の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1139】

まず非特定制御用のワークエリア213における磁気監視遅延タイマカウンタ213jの値が「0」か否かを判定する（ステップS6501）。磁気監視遅延タイマカウンタ213jは既に説明したとおり、磁気異常の監視を行わない磁気監視遅延期間を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。当該磁気監視遅延期間は任意であるが、本パチンコ機10では0.5秒に設定されている。

【1140】

磁気監視遅延タイマカウンタ213jの値が「0」である場合（ステップS6501：YES）、遊技盤24の背面に設けられた磁気検知センサの検知結果が磁気の検知に対応する検知結果であるか否かを判定する（ステップS6502）。ステップS6502にて否定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア213における磁気検知カウンタ213iの値を「0」クリアする（ステップS6503）。磁気検知カウンタ213iは既に説明したとおり、磁気異常の発生を特定した回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【1141】

ステップS6502にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア213における磁気検知カウンタ213iの値を1加算する（ステップS6504）。そして、その1加算後における磁気検知カウンタ213iの値が異常基準回数（具体的には「3」）以上である場合（ステップS6505：YES）、非特定制御用のワークエリア213における磁気異常フラグ213tに「1」をセットする（ステップS6506）。磁気異常フラグ213tに「1」がセットされることで、主側MPU82では磁気異常の発生に対処するための処理が実行される。

【1142】

その後、磁気異常コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS6507）。コマンド送信バッファ223bに磁気異常コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該磁気異常コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は磁気異常コマンドを受信することにより、表示発光部64、スピーカ部65及び図柄表示装置41にて磁気異常が発生したことを示す報知が実行されるようにする。

【1143】

その後、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k の値を 1 加算する（ステップ S 6 5 0 8）。第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k は既に説明したとおり、主側 M P U 8 2 から遊技ホールの管理コンピュータにパルス状のセキュリティ信号を外部出力する必要があるか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタであって、外部出力する場合にはパルス状のセキュリティ信号の外部出力回数を主側 M P U 8 2 にて特定するために利用されるカウンタである。

【 1 1 4 4 】

ステップ S 6 5 0 5 にて否定判定をした場合、又はステップ S 6 5 0 8 の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における磁気監視遅延タイマカウンタ 2 1 3 j に磁気監視遅延期間をセットする（ステップ S 6 5 0 9）。これにより、磁気異常の監視を行わない磁気監視遅延期間の計測が開始される。このように磁気異常の監視を行わない磁気監視遅延期間が設定されているとともに、上記のとおり磁気検知カウンタ 2 1 3 i の値が複数の回数として定められた異常基準回数以上となった場合に磁気異常の発生と特定する構成とすることにより、不正な磁気出力ではなく、電氣的なノイズにより磁気が発生した場合にまで磁気異常の発生と特定されてしまわないようにすることが可能となる。

【 1 1 4 5 】

次に、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）において上記不正検知実行処理を含む不正検知用処理よりも後の処理順序であるステップ S 5 5 1 1 にて実行される不正対応処理について、図 9 9 のフローチャートを参照しながら説明する。なお、不正対応処理におけるステップ S 6 6 0 1 ～ステップ S 6 6 2 5 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

【 1 1 4 6 】

非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における第 1 一般入賞異常フラグ 2 1 3 l に「1」がセットされている場合（ステップ S 6 6 0 1 : Y E S）、今回の処理回における第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップ S 5 5 0 8 の入球検知処理（図 9 1）にて特定した第 1 入賞口検知センサ 2 3 1 a における遊技球の検知（すなわち一般入賞口 3 1 への入賞）がチャタリングなどによる異常に起因したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップ S 5 5 0 8 の入球検知処理（図 9 1）にて特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認フラグ群 2 1 1 d の第 1 入賞確認フラグに「1」をセットしたものの、当該第 1 入賞確認フラグを「0」クリアする（ステップ S 6 6 0 2）。不正対応処理（図 9 9）は、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）の処理順序において入球検知処理（図 9 1）よりも後の処理順序であって後述する第 2 管理用処理よりも前の処理順序に設定されている。したがって、後述する第 2 管理用処理において第 1 入賞口検知センサ 2 3 1 a において遊技球が検知されていないと特定される。

【 1 1 4 7 】

その後、特定制御用のワークエリア 2 1 1 における 1 0 個賞球用カウンタの値を 1 減算する（ステップ S 6 6 0 3）。今回の処理回における第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップ S 5 5 0 8 の入球検知処理（図 9 1）にて第 1 入賞口検知センサ 2 3 1 a における遊技球の検知を契機として 1 0 個賞球用カウンタの値が 1 加算されている。また、1 0 個賞球用カウンタの値が 1 以上である場合には、第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）において本不正対応処理よりも後の処理順序であるステップ S 5 5 1 8 の払出出力処理にて、1 0 個の遊技球の払い出しを指示する 1 0 個賞球コマンドが払出制御装置 7 7 に送信されるようにするための処理が実行される。この場合に、当該第 1 入賞口検知センサ 2 3 1 a における遊技球の検知が異常に起因している場合には、1 0 個賞球用カウンタの値が 1 加算された処理回の第 1 タイマ割込み処理（図 8 8）においてステップ S 5 5 1 8 の払出出力処理が実行される前に不正対応処理（図 9 9）にて 1 0 個賞球用カウンタの値が 1 減算される。これにより、遊技球の払い出しが過剰に行われてしまわないようにすることが可能となる。

【1148】

ステップS6604～ステップS6606では第2入賞口検知センサ232aについてステップS6601～ステップS6603と同様の処理を実行し、ステップS6607～ステップS6609では第3入賞口検知センサ233aについてステップS6601～ステップS6603と同様の処理を実行する。具体的には、非特定制御用のワークエリア213における第2一般入賞異常フラグ213mに「1」がセットされている場合（ステップS6604：YES）、特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2入賞確認フラグを「0」クリアするとともに（ステップS6605）、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1減算する（ステップS6606）。また、非特定制御用のワークエリア213における第3一般入賞異常フラグ213nに「1」がセットされている場合（ステップS6607：YES）、特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第3入賞確認フラグを「0」クリアするとともに（ステップS6608）、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1減算する（ステップS6609）。

10

【1149】

非特定制御用のワークエリア213における特電入賞異常フラグ213oに「1」がセットされている場合（ステップS6610：YES）、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定した特電検知センサ234aにおける遊技球の検知（すなわち特電入賞装置32への入賞）がチャタリングなどによる異常又は閉鎖状態であるはずの特電入賞装置32に遊技球を入賞させる不正に起因したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの特電入賞確認フラグに「1」をセットしたものの、当該特電入賞確認フラグを「0」クリアする（ステップS6611）。不正対応処理（図99）は、第1タイマ割込み処理（図88）の処理順序において入球検知処理（図91）よりも後の処理順序であって特図特電制御処理（ステップS5514）及び後述する第2管理用処理よりも前の処理順序に設定されている。したがって、特電開放中処理（図97（b））又は後述する第2管理用処理において特電検知センサ234aにおいて遊技球が検知されていないと特定される。

20

30

【1150】

その後、特定制御用のワークエリア211における15個賞球用カウンタの値を1減算する（ステップS6612）。今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特電検知センサ234aにおける遊技球の検知を契機として15個賞球用カウンタの値が1加算されている。また、15個賞球用カウンタの値が1以上である場合には、第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも後の処理順序であるステップS5518の払出出力処理にて、15個の遊技球の払い出しを指示する15個賞球コマンドが払出制御装置77に送信されるようにするための処理が実行される。この場合に、当該特電検知センサ234aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因している場合には、15個賞球用カウンタの値が1加算された処理回の第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5518の払出出力処理が実行される前に不正対応処理（図99）にて15個賞球用カウンタの値が1減算される。これにより、遊技球の払い出しが過剰に行われてしまわないようにすることが可能となる。

40

【1151】

非特定制御用のワークエリア213における第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされている場合（ステップS6613：YES）、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定した第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知（すなわち第1作動口33への入賞）がチャタリングなどによる異常に起因

50

したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1作動入賞確認フラグに「1」をセットしたものの、当該第1作動入賞確認フラグを「0」クリアする（ステップS6614）。不正対応処理（図99）は、第1タイマ割込み処理（図88）の処理順序において入球検知処理（図91）よりも後の処理順序であって特図特電制御処理（ステップS5514）及び後述する第2管理用処理よりも前の処理順序に設定されている。したがって、保留情報の取得処理（図92）又は後述する第2管理用処理において第1作動口検知センサ235aにおいて遊技球が検知されていないと特定される。

10

【1152】

その後、特定制御用のワークエリア211における1個賞球用カウンタの値を1減算する（ステップS6615）。今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知を契機として1個賞球用カウンタの値が1加算されている。また、1個賞球用カウンタの値が1以上である場合には、第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも後の処理順序であるステップS5518の払出出力処理にて、1個の遊技球の払い出しを指示する1個賞球コマンドが払出制御装置77に送信されるようにするための処理が実行される。この場合に、当該第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が異常に起因している場合には、1個賞球用カウンタの値が1加算された処理回の第1タイマ割込み処理（図88）においてステップS5518の払出出力処理が実行される前に不正対応処理（図99）にて1個賞球用カウンタの値が1減算される。これにより、遊技球の払い出しが過剰に行われてしまわないようにすることが可能となる。

20

【1153】

非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされている場合（ステップS6616：YES）、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定した第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知（すなわち第2作動口34への入賞）がチャタリングなどによる異常又は閉鎖状態であるはずの第2作動口34に遊技球を入賞させる不正に起因したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」をセットしたものの、当該第2作動入賞確認フラグを「0」クリアする（ステップS6617）。不正対応処理（図99）は、第1タイマ割込み処理（図88）の処理順序において入球検知処理（図91）よりも後の処理順序であって特図特電制御処理（ステップS5514）、普図普電制御処理（ステップS5515）及び後述する第2管理用処理よりも前の処理順序に設定されている。したがって、保留情報の取得処理（図92）、普電制御処理（図96）又は後述する第2管理用処理において第2作動口検知センサ236aにおいて遊技球が検知されていないと特定される。

30

40

【1154】

その後、特定制御用のワークエリア211における1個賞球用カウンタの値を1減算する（ステップS6618）。今回の処理回における第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理（図91）にて第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知を契機として1個賞球用カウンタの値が1加算されている。また、1個賞球用カウンタの値が1以上である場合には、第1タイマ割込み処理（図88）において本不正対応処理よりも後の処理順序であるステップS5518の払出出力処理にて、1個の遊技球の払い出しを指示する1個賞球コマンドが払出制御装置77に送信されるようにするための処理が実行される。この場合に、

50

当該第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因している場合には、1個賞球用カウンタの値が1加算された処理回の第1タイマ割込み処理(図88)においてステップS5518の払出出力処理が実行される前に不正対応処理(図99)にて1個賞球用カウンタの値が1減算される。これにより、遊技球の払い出しが過剰に行われてしまわないようにすることが可能となる。

【1155】

非特定制御用のワークエリア213におけるアウト異常フラグ213rに「1」がセットされている場合(ステップS6619: YES)、今回の処理回における第1タイマ割込み処理(図88)において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理(図91)にて特定したアウト口検知センサ237aにおける遊技球の検知(すなわちアウト口24aへの入球)がチャタリングなどによる異常に起因したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第1タイマ割込み処理(図88)において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理(図91)にて特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dのアウト確認フラグに「1」をセットしたものの、当該アウト確認フラグを「0」クリアする(ステップS6620)。不正対応処理(図99)は、第1タイマ割込み処理(図88)の処理順序において入球検知処理(図91)よりも後の処理順序であって後述する第2管理用処理よりも前の処理順序に設定されている。したがって、後述する第2管理用処理においてアウト口検知センサ237aにおいて遊技球が検知されていないと特定される。

【1156】

非特定制御用のワークエリア213におけるゲート入賞異常フラグ213sに「1」がセットされている場合(ステップS6621: YES)、今回の処理回における第1タイマ割込み処理(図88)において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理(図91)にて特定したゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知(すなわちスルーゲート35への入賞)がチャタリングなどによる異常に起因したものであることを意味する。この場合、今回の処理回における第1タイマ割込み処理(図88)において本不正対応処理よりも前の処理順序であるステップS5508の入球検知処理(図91)にて特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dのゲート入賞確認フラグに「1」をセットしたものの、当該ゲート入賞確認フラグを「0」クリアする(ステップS6622)。不正対応処理(図99)は、第1タイマ割込み処理(図88)の処理順序において入球検知処理(図91)よりも後の処理順序であって普図普電制御処理(ステップS5515)よりも前の処理順序に設定されている。したがって、普図普電制御処理(ステップS5515)における普図側の保留情報を取得するための処理においてゲート検知センサ238aにおいて遊技球が検知されていないと特定される。

【1157】

非特定制御用のワークエリア213における磁気異常フラグ213tに「1」がセットされている場合(ステップS6623: YES)、特定制御用のワークエリア211に設けられた遊技停止フラグに「1」をセットする(ステップS6624)。遊技停止フラグに「1」がセットされている場合、第1タイマ割込み処理(図88)においてステップS5501～ステップS5504及びステップS5521の処理を実行する一方、ステップS5505にて肯定判定をすることでステップS5506～ステップS5520の処理を実行しない。これにより、磁気異常が発生していることが特定された場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び遊技履歴の管理を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【1158】

不正対応処理では、ステップS6601～ステップS6624の処理を実行した後、ステップS6625にてセキュリティ用処理を実行する。セキュリティ用処理については後に詳細に説明する。

【1159】

第2作動口検知センサ236aの検知結果が正常か否かの監視が行われる様子を、図1

00のタイムチャートを参照しながら説明する。図100(a)は第1タイマ割込み処理(図88)が実行されている期間を示し、図100(b)は特定制御の処理に含まれる入球検知処理(図91)が実行されている期間を示し、図100(c)は特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグの状態を示し、図100(d)は特定制御の処理に含まれる不正対応処理(図99)が実行されている期間を示し、図100(e)は特定制御の処理に含まれる保留情報の取得処理(図92)が実行されている期間を示し、図100(f)は非特定制御の処理に含まれる情報クリア処理(図94)が実行されている期間を示し、図100(g)は非特定制御の処理に含まれる不正検知実行処理(図95)が実行されている期間を示し、図100(h)は非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qの状態を示す。

10

【1160】

まず第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものではない場合について説明する。

【1161】

t1のタイミングで図100(a)に示すように第1タイマ割込み処理(図88)の新たな処理回が開始される。そして、当該処理回の第1タイマ割込み処理(図88)が実行されている状況であるt2のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が開始される。入球検知処理(図91)では最初に特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1入賞確認フラグ、第2入賞確認フラグ、第3入賞確認フラグ、特電入賞フラグ、第1作動入賞確認フラグ、第2作動入賞確認フラグ、アウト確認フラグ及びゲート入賞確認フラグを「0」クリアする。また、当該入球検知処理(図91)において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されていることが特定されることで、t3のタイミングで図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされる。

20

【1162】

その後、t4のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が終了し、当該t4のタイミングでCALLI命令により不正検知用処理(図93)が呼び出されて、図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が開始される。当該情報クリア処理(図94)では既に説明したとおり非特定制御用のワークエリア213の各記憶エリアのうち、第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tが「0」クリアされる。

30

【1163】

その後、t5のタイミングで図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が終了し、当該t5のタイミングで図100(g)に示すように不正検知実行処理(図95)が開始される。非特定制御の処理に含まれる当該不正検知実行処理(図95)では特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされていることが特定されるが、当該第2作動入賞確認フラグへの「1」のセットは異常や不正に起因するものとは特定されない。したがって、図100(h)に示すように非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」はセットされることなく、当該第2作動入賞異常フラグ213qの情報が「0」に維持される。

40

【1164】

その後、t6のタイミングで図100(g)に示すように不正検知実行処理(図95)が終了し、当該t6のタイミングで図100(d)に示すように不正対応処理(図99)が開始される。特定制御の処理に含まれる当該不正対応処理(図99)では非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされていないことが特定されるため、特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグを「0」クリアする処理は実行されない。したがって、図100(c)に示すよ

50

うに当該第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされた状態が維持される。

【1165】

その後、t7のタイミングで図100(d)に示すように不正対応処理(図99)が終了し、当該t7のタイミングで図100(e)に示すように保留情報の取得処理(図92)が開始される。当該保留情報の取得処理(図92)では図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされているため、第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として、第2保留情報を取得するための処理を実行する。なお、第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされた状態は、第1タイマ割込み処理(図88)の次の処理回における入球検知処理(図91)にて「0」クリアが行われることで解除される。その後、t8のタイミングで図100(a)に示すように第1タイマ割込み処理(図88)の今回の処理回が終了する。

10

【1166】

次に、第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものである場合について説明する。

【1167】

t9のタイミングで図100(a)に示すように第1タイマ割込み処理(図88)の新たな処理回が開始される。そして、当該処理回の第1タイマ割込み処理(図88)が実行されている状況であるt10のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が開始される。入球検知処理(図91)では最初に特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1入賞確認フラグ、第2入賞確認フラグ、第3入賞確認フラグ、特電入賞フラグ、第1作動入賞確認フラグ、第2作動入賞確認フラグ、アウト確認フラグ及びゲート入賞確認フラグを「0」クリアする。また、当該入球検知処理(図91)において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されていることが特定されることで、t11のタイミングで図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされる。

20

【1168】

その後、t12のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が終了し、当該t12のタイミングでCALL命令により不正検知用処理(図93)が呼び出されて、図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が開始される。当該情報クリア処理(図94)では既に説明したとおり非特定制御用のワークエリア213の各記憶エリアのうち、第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tが「0」クリアされる。

30

【1169】

その後、t13のタイミングで図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が終了し、当該t13のタイミングで図100(g)に示すように不正検知実行処理(図95)が開始される。非特定制御の処理に含まれる当該不正検知実行処理(図95)では特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされていることが特定される。そして、当該第2作動入賞確認フラグへの「1」のセットが異常や不正に起因するものであると特定される。したがって、t14のタイミングで図100(h)に示すように非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされる。

40

【1170】

その後、t15のタイミングで図100(g)に示すように不正検知実行処理(図95)が終了し、当該t15のタイミングで図100(d)に示すように不正対応処理(図99)が開始される。特定制御の処理に含まれる当該不正対応処理(図99)では非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットさ

50

れていることが特定される。したがって、 $t16$ のタイミングで図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグが「0」クリアされる。

【1171】

その後、 $t17$ のタイミングで図100(d)に示すように不正対応処理(図99)が終了し、当該 $t17$ のタイミングで図100(e)に示すように保留情報の取得処理(図92)が開始される。当該保留情報の取得処理(図92)では図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされていないため、第2保留情報を取得するための処理を実行しない。その後、 $t18$ のタイミングで図100(a)に示すように第1タイマ割込み処理(図88)の今回の処理回が終了する。

10

【1172】

その後、 $t19$ のタイミングで図100(a)に示すように第1タイマ割込み処理(図88)の新たな処理回が開始される。そして、当該処理回の第1タイマ割込み処理(図88)が実行されている状況である $t20$ のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が開始される。当該入球検知処理(図91)において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されていないことが特定されることで、図100(c)に示すように特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされない。

【1173】

その後、 $t21$ のタイミングで図100(b)に示すように入球検知処理(図91)が終了し、当該 $t21$ のタイミングでCALL命令により不正検知用処理(図93)が呼び出されて、図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が開始される。当該情報クリア処理(図94)では既に説明したとおり非特定制御用のワークエリア213の各記憶エリアのうち、第1一般入賞異常フラグ213l、第2一般入賞異常フラグ213m、第3一般入賞異常フラグ213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s及び磁気異常フラグ213tが「0」クリアされる。したがって、 $t22$ のタイミングで図100(h)に示すように第2作動入賞異常フラグ213qが「0」クリアされる。その後、 $t23$ のタイミングで図100(f)に示すように情報クリア処理(図94)が終了し、当該 $t23$ のタイミングで図100(g)に示すように不正検知実行処理(図95)が開始される。

20

30

【1174】

上記のとおり一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、アウト口24a及びスルーゲート35のそれぞれへの遊技球の入球を検知する各検知センサ231a~238aにて遊技球が検知されたか否かを特定するための入球検知処理(図91)及び各検知センサ231a~238aにて遊技球が検知されたことに対応させて遊技を進行させるための処理(保留情報の取得処理(図92)、普電制御処理(図96)、特電開放中処理(図97(c))、払出出力処理(ステップS5518)など)が特定制御の処理に含まれるのに対して、各検知センサ231a~238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理(図95)が非特定制御の処理に含まれている。これにより、特定制御の処理において各検知センサ231a~238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理(図95)を実行する必要がないため、主側ROM83における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータに対して割り当てられているデータ容量を不正検知実行処理(図95)以外の処理に割り当てることが可能となる。

40

【1175】

第1タイマ割込み処理(図88)における処理順序において、特定制御の処理に含まれるとともに各検知センサ231a~238aにて遊技球が検知されたか否かを特定するための処理である入球検知処理(図91)よりも後に、非特定制御の処理に含まれるとともに

50

に各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図 9 5）が実行され、当該不正検知実行処理（図 9 5）よりも後に、特定制御の処理に含まれるとともに各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a にて遊技球が検知されたことに対応させて遊技を進行させるための処理（保留情報の取得処理（図 9 2）、普電制御処理（図 9 6）、特電開放中処理（図 9 7（c））、払出出力処理（ステップ S 5 5 1 8）など）が実行される。これにより、各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図 9 5）を非特定制御の処理として実行するようにした構成であっても、異常や不正に起因した各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知に応じて遊技を進行させるための処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

10

【1 1 7 6】

特定制御の処理に含まれる入球検知処理（図 9 1）において検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a にて遊技球が検知されたことが特定された場合には特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認フラグ群 2 1 1 d に設けられた各確認フラグに「1」がセットされ、非特定制御の処理に含まれる不正検知実行処理（図 9 5）にて当該遊技球の検知が異常や不正に起因するものであることが特定された場合には非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられた各異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s に「1」がセットされ、異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s に「1」がセットされている場合には、特定制御の処理に含まれる不正対応処理（図 9 9）において「1」がセットされた異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s に対応する確認フラグが「0」クリアされる。これにより、特定制御用のワークエリア 2 1 1 に記憶された情報の読み出しは特定制御の処理及び非特定制御の処理のいずれにおいても可能であるのに対して、特定制御用のワークエリア 2 1 1 への情報の書き込みは特定制御の処理では可能であるものの非特定制御の処理では不可であり、さらに非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に記憶された情報の読み出しは特定制御の処理及び非特定制御の処理のいずれにおいても可能であるのに対して、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 への情報の書き込みは非特定制御の処理では可能であるものの特定制御の処理では不可であるという構成としながら、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

20

【1 1 7 7】

非特定制御の処理に含まれる不正検知実行処理（図 9 5）が実行された後において当該不正検知実行処理（図 9 5）が再度実行されるまでに、特定制御の処理に含まれる不正対応処理（図 9 9）が実行される。そして、当該不正対応処理（図 9 9）では不正検知実行処理（図 9 5）において情報の設定が行われた異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s に応じて、確認フラグの「0」クリアや各種賞球用カウンタの減算処理を実行する。この場合に、不正検知実行処理（図 9 5）では最初に異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s を「0」クリアした後に、当該異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s に情報を設定するための処理を実行する。これにより、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 への情報の書き込みは非特定制御の処理では可能であるものの特定制御の処理では不可であるという構成において、非特定制御の処理における適切なタイミングで異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s を「0」クリアすることが可能となる。

30

【1 1 7 8】

<セキュリティ信号に関する構成>

次に、特定制御の処理に含まれる不正対応処理（図 9 9）のステップ S 6 6 2 5 にて実行されるセキュリティ用処理について、図 1 0 1 のフローチャートを参照しながら説明する。なお、セキュリティ用処理におけるステップ S 6 7 0 1 ~ ステップ S 6 7 1 4 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

40

【1 1 7 9】

まず非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における第 2 セキュリティカウンタ 2 1 3 k の値が前回のセキュリティ用処理の実行時から増加しているか否かを判定する（ステップ S 6 7 0 1）。特定制御用のワークエリア 2 1 1 には、セキュリティ用処理が実行された場

50

合に第2セキュリティカウンタ213kの値を記憶するための前回値記憶エリア211e (図78参照) が設けられている。ステップS6701では、当該前回値記憶エリア211eの値よりも第2セキュリティカウンタ213kの値が大きい値であるか否かを判定する。

【1180】

前回値記憶エリア211eの値よりも第2セキュリティカウンタ213kの値が大きい場合 (ステップS6701: YES)、第2セキュリティカウンタ213kの値から前回値記憶エリア211eの値を減算し、その減算後の値を増加分の値として、特定制御用のワークエリア211における第1セキュリティカウンタ211aに加算する (ステップS6702)。その後、第2セキュリティカウンタ213kの値を前回値記憶エリア211eに上書きする (ステップS6703)。

10

【1181】

第1セキュリティカウンタ211aに「1」が加算される契機は既に説明したとおり、メイン処理 (図81) において設定値更新処理 (ステップS4916) が実行された場合 (ステップS4917) 及びメイン処理 (図81) においてRAMクリア処理 (ステップS4919) が実行された場合 (ステップS4920) である。第2セキュリティカウンタ213kに「1」が加算される契機は既に説明したとおり、断線短絡処理 (図87) において断線の発生が確認された場合 (ステップS5405)、断線短絡処理 (図87) において短絡の発生が確認された場合 (ステップS5409)、不正検知実行処理 (図95) において閉鎖状態である第2作動口34への遊技球の入球が確認された場合 (ステップS6006)、不正検知実行処理 (図95) において閉鎖状態である特電入賞装置32への遊技球の入球が確認された場合 (ステップS6012)、及び磁気監視処理 (図98) において磁気異常の発生が確認された場合 (ステップS6508) である。

20

【1182】

ステップS6701にて否定判定をした場合又はステップS6703の処理を実行した場合、第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上であるか否かを判定する (ステップS6704)。第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上である場合には (ステップS6704: YES)、特定制御用のワークエリア211に設けられたセキュリティフラグ211f (図78参照) に「1」をセットする (ステップS6705)。セキュリティフラグ211fに「1」がセットされている場合、主制御装置71の主制御基板81に搭載された異常表示装置206が発光状態となる。なお、セキュリティフラグ211fの値が「0」である場合には異常表示装置206は消灯状態に維持される。セキュリティフラグ211fに「1」がセットされた状態は主側MPU82への動作電力の供給が継続されている場合には維持され、メイン処理 (図81) におけるRAMクリア処理 (ステップS4919) 又は設定値更新処理 (図83) におけるRAMクリア処理 (ステップS5113) が実行された場合にセキュリティフラグ211fが「0」クリアされる。

30

【1183】

ステップS6704にて否定判定をした場合又はステップS6705の処理を実行した場合、現状が主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータにセキュリティ信号を外部出力している状況であるか否かを判定する (ステップS6706)。セキュリティ信号を外部出力している状況ではない場合 (ステップS6706: NO)、第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上であるか否かを判定するとともに (ステップS6707)、特定制御用のワークエリア211に設けられた継続期間カウンタの値が「0」であるか否かを判定する (ステップS6708)。継続期間カウンタは、セキュリティ信号の出力を出力継続期間 (具体的には200ミリ秒) に亘って継続する場合における当該出力継続期間の計測、及びセキュリティ信号の出力停止を停止継続期間 (具体的には200ミリ秒) に亘って継続する場合における当該停止継続期間の計測を主側MPU82にて行うためのカウンタである。継続期間カウンタにセットされた値は第1タイマ割込み処理 (図88) におけるステップS5510の特定制御のタイマ更新処理が実行される度に1減算される。

40

50

【1184】

第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上であって継続期間カウンタの値が「0」である場合（ステップS6707及びステップS6708：YES）、セキュリティ信号の出力開始処理を実行する（ステップS6709）。これにより、主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータに向けたセキュリティ信号の外部出力が開始される。その後、特定制御用のワークエリア211における継続期間カウンタに出力継続期間（具体的には200ミリ秒）に対応する情報をセットする（ステップS6710）。また、第1セキュリティカウンタ211aの値を1減算する（ステップS6711）。

【1185】

セキュリティ信号を外部出力している状況である場合（ステップS6706：YES）、特定制御用のワークエリア211における継続期間カウンタの値が「0」であるか否かを判定することで、出力継続期間が経過したか否かを判定する（ステップS6712）。継続期間カウンタの値が「0」である場合（ステップS6712：YES）、セキュリティ信号の出力停止処理を実行する（ステップS6713）。これにより、主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータに向けたセキュリティ信号の外部出力が停止される。その後、特定制御用のワークエリア211における継続期間カウンタに停止継続期間（具体的には200ミリ秒）に対応する情報をセットする（ステップS6714）。

【1186】

次に、セキュリティ信号が外部出力される様子について図102のタイムチャートを参照しながら説明する。図102（a）は特定制御の処理が実行されている期間を示し、図102（b）は特定制御用のワークエリア211における第1セキュリティカウンタ211aの値を示し、図102（c）は非特定制御の処理が実行されている期間を示し、図102（d）は非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213kの値を示し、図102（e）は特定制御の処理に含まれるセキュリティ用処理（図101）が実行されている期間を示し、図102（f）特定制御用のワークエリア211におけるセキュリティフラグ211fの状態を示し、図102（g）は主制御装置71の主制御基板81に搭載された異常表示装置206が発光状態となっている期間を示し、図102（h）は主側MPU82から遊技ホールの管理コンピュータにセキュリティ信号が外部出力されている期間を示す。

【1187】

t1のタイミング～t3のタイミングに亘って図102（a）に示すように主側MPU82にて特定制御の処理が実行される。この場合、主側MPU82への動作電力の供給が開始されることでメイン処理（図81）が実行される。そして、当該メイン処理（図81）において設定値更新処理（ステップS4916）又はRAMクリア処理（ステップS4919）が実行されることで、t2のタイミングで図102（b）に示すように第1セキュリティカウンタ211aの値が1加算される。

【1188】

その後、t3のタイミングでメイン処理（図81）において特定制御の処理が実行されている状況でCALL命令により非特定制御の処理に含まれる第1管理用処理（図85）が呼び出される（ステップS4927）。当該第1管理用処理（図85）は図102（c）に示すようにt3のタイミング～t5のタイミングに亘って実行される。この場合、当該第1管理用処理（図85）における断線短絡処理（図87）にて断線の発生又は短絡の発生が特定される。したがって、t4のタイミングで図102（d）に示すように第2セキュリティカウンタ213kの値が1加算される。

【1189】

その後、t5のタイミングで第1管理用処理（図85）が終了することで、図102（a）に示すようにt5のタイミング～t6のタイミングに亘って特定制御の処理が実行される。当該特定制御の処理ではメイン処理（図81）におけるステップS4927～ステップS4932の処理及び第1タイマ割込み処理（図88）におけるステップS5501～ステップS5508の処理が実行される。

10

20

30

40

50

【1190】

その後、t 6のタイミングで第1タイマ割込み処理（図88）において特定制御の処理が実行されている状況でCALL I命令により非特定制御の処理に含まれる不正検知用処理（図93）が呼び出される（ステップS5509）。当該不正検知用処理（図93）は図102（c）に示すようにt 6のタイミング～t 7のタイミングに亘って実行される。この場合、当該不正検知用処理（図93）における不正検知実行処理（図95）では閉鎖状態である第2作動口34への入賞、閉鎖状態である特電入賞装置32への入賞及び磁気異常の発生が特定されないため、第2セキュリティカウンタ213kの値は1加算されることなく維持される。

【1191】

その後、t 7のタイミングで不正検知用処理（図93）が終了することで、図102（a）に示すようにt 7のタイミング～t 10のタイミングに亘って特定制御の処理が実行される。当該特定制御の処理では第1タイマ割込み処理（図88）におけるステップS5510～ステップS5520の処理が実行される。この場合、t 8のタイミング～t 9のタイミングに亘って図102（e）に示すように不正対応処理（ステップS5511）にてセキュリティ用処理（図101）が実行される。

【1192】

セキュリティ用処理（図101）では、非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213kの値が特定制御用のワークエリア211における前回値記憶エリア211eの値よりも増加していることを特定することで、その増加分の値を第1セキュリティカウンタ211aに加算する。したがって、図102（b）に示すようにt 8のタイミングで第1セキュリティカウンタ211aの値が「1」から「2」に増加する。

【1193】

セキュリティ用処理（図101）では、第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上であることを特定することで、t 8のタイミングで図102（f）に示すようにセキュリティフラグ212fに「1」をセットする。セキュリティフラグ212fに「1」がセットされることで、当該t 8のタイミングで図102（g）に示すように異常表示装置206が発光状態となる。

【1194】

セキュリティ用処理（図101）では、第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上であることを特定することで、t 9のタイミングで図102（h）に示すようにセキュリティ信号の外部出力を開始し、図102（b）に示すように第1セキュリティカウンタ211aの値を1減算する。

【1195】

その後、t 10のタイミングで第1タイマ割込み処理（図88）において特定制御の処理が実行されている状況でCALL I命令により非特定制御の処理に含まれる後述する第2管理用処理（図107）が呼び出される（ステップS5521）、当該第2管理用処理（図107）は図102（c）に示すようにt 10のタイミング～t 11のタイミングに亘って実行される。

【1196】

その後、t 11のタイミングで第2管理用処理（図107）が終了することで、図102（a）に示すようにt 11のタイミング～t 12のタイミングに亘って特定制御の処理が実行される。当該特定制御の処理ではメイン処理（図81）におけるステップS4927～ステップS4932の処理及び第1タイマ割込み処理（図88）におけるステップS5501～ステップS5508の処理が実行される。

【1197】

その後、t 12のタイミングで第1タイマ割込み処理（図88）において特定制御の処理が実行されている状況でCALL I命令により非特定制御の処理に含まれる不正検知用処理（図93）が呼び出される（ステップS5509）。当該不正検知用処理（図93）

10

20

30

40

50

は図102(c)に示すようにt12のタイミング～t13のタイミングに亘って実行される。この場合、当該不正検知用処理(図93)における不正検知実行処理(図95)では閉鎖状態である第2作動口34への入賞、閉鎖状態である特電入賞装置32への入賞及び磁気異常の発生が特定されないため、第2セキュリティカウンタ213kの値は1加算されることなく維持される。

【1198】

その後、t13のタイミングで不正検知用処理(図93)が終了することで、図102(a)に示すようにt13のタイミング～t16のタイミングに亘って特定制御の処理が実行される。当該特定制御の処理では第1タイマ割込み処理(図88)におけるステップS5510～ステップS5520の処理が実行される。この場合、t14のタイミング～t15のタイミングに亘って図102(e)に示すように不正対応処理(ステップS5511)にてセキュリティ用処理(図101)が実行される。

【1199】

セキュリティ用処理(図101)では、非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213kの値が特定制御用のワークエリア211における前回値記憶エリア211eの値から変化していないため、図102(b)に示すように第2セキュリティカウンタ213kの値に応じて第1セキュリティカウンタ211aの値を増加させる処理は実行しない。また、セキュリティフラグ211fに「1」がセットされた状態は主側MPU82への動作電力の供給が継続されている場合には維持されるとともにメイン処理(図81)におけるRAMクリア処理(ステップS4919)又は設定値更新処理(図83)におけるRAMクリア処理(ステップS5113)が実行されない限り維持されるため、図102(g)に示すように異常表示装置206の発光状態は維持される。また、セキュリティ信号の外部出力を開始してから出力継続期間(具体的には200ミリ秒)が経過していないため、図102(h)に示すようにセキュリティ信号の外部出力を継続させる。

【1200】

その後、t16のタイミングで第1タイマ割込み処理(図88)において特定制御の処理が実行されている状況でCALL命令により非特定制御の処理に含まれる後述する第2管理用処理(図107)が呼び出される(ステップS5521)。

【1201】

上記のとおりセキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生しているか否かを特定するための処理が特定制御の処理だけではなく非特定制御の処理においても実行される。これにより、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生しているか否かを監視するための処理が非特定制御の処理に対して割り当てられることとなり、特定制御の処理についてのプログラムやデータの容量を他の処理に割り当てることが可能となる。

【1202】

特定制御用のワークエリア211に第1セキュリティカウンタ211aを設けるとともに非特定制御用のワークエリア213に第2セキュリティカウンタ213kを設け、特定制御の処理にてセキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることが特定された場合には第1セキュリティカウンタ211aの値を1加算し、非特定制御の処理にてセキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることが特定された場合には第2セキュリティカウンタ213kの値を1加算する。これにより、特定制御用のワークエリア211への情報の書き込みは特定制御の処理にて可能とするとともに非特定制御の処理では不可とし、非特定制御用のワークエリア213への情報の書き込みは非特定制御の処理にて可能とするとともに特定制御の処理では不可としながら、特定制御の処理及び非特定制御の処理のそれぞれにて、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることの特定を適切に行うことが可能となる。

【1203】

特定制御の処理に含まれるセキュリティ用処理(図101)にて非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213kの値の増加分が第1セキュリテ

10

20

30

40

50

ィカウンタ 2 1 1 a に加算され、第 1 セキュリティカウンタ 2 1 1 a の値が 1 以上である場合にセキュリティ用処理（図 1 0 1）にてセキュリティ信号の外部出力が行われる。そして、所定の停止継続期間を挟んで所定の出力継続期間以上に亘るパルス状のセキュリティ信号の外部出力が第 1 セキュリティカウンタ 2 1 1 a の値が「0」となるまで繰り返し実行される。これにより、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることの特定制御の処理及び非特定制御の処理のそれぞれにて行われる構成において、セキュリティ信号を外部出力するための処理を特定制御の処理に集約させることが可能となる。

【1 2 0 4】

第 1 セキュリティカウンタ 2 1 1 a の値が 1 以上となった場合にはセキュリティフラグ 2 1 1 f に「1」がセットされ、セキュリティフラグ 2 1 1 f に「1」がセットされた場合には異常表示装置 2 0 6 が発光状態となる。また、セキュリティフラグ 2 1 1 f に「1」がセットされた状態は、主側 M P U 8 2 への動作電力の供給が継続されている場合には維持されるとともにメイン処理（図 8 1）における R A M クリア処理（ステップ S 4 9 1 9）又は設定値更新処理（図 8 3）における R A M クリア処理（ステップ S 5 1 1 3）が実行されない限り維持され、セキュリティフラグ 2 1 1 f に「1」がセットされている場合には異常表示装置 2 0 6 が発光状態に維持される。これにより、少なくとも遊技ホールの営業中であれば、異常表示装置 2 0 6 の確認タイミングに関係なく、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生したか否かを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【1 2 0 5】

＜遊技履歴の管理に関する構成＞

次に、遊技履歴の管理に関する構成について説明する。

【1 2 0 6】

遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア 2 1 3 の各種エリア 2 5 1 ～ 2 5 4 の内容について説明する。図 1 0 3 は遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア 2 1 3 の各種エリアを説明するための説明図である。

【1 2 0 7】

非特定制御用のワークエリア 2 1 3 には、通常用カウンタエリア 2 5 1 が設けられている。通常用カウンタエリア 2 5 1 には、一般入賞カウンタ 2 5 1 a、特電入賞カウンタ 2 5 1 b、第 1 作動カウンタ 2 5 1 c、第 2 作動カウンタ 2 5 1 d 及びアウトカウンタ 2 5 1 e が設けられている。一般入賞カウンタ 2 5 1 a は所定の計測開始契機からの一般入賞口 3 1 への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。特電入賞カウンタ 2 5 1 b は所定の計測開始契機からの特電入賞装置 3 2 への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第 1 作動カウンタ 2 5 1 c は所定の計測開始契機からの第 1 作動口 3 3 への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第 2 作動カウンタ 2 5 1 d は所定の計測開始契機からの第 2 作動口 3 4 への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。アウトカウンタ 2 5 1 e は所定の計測開始契機からのアウト口 2 4 a への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。

【1 2 0 8】

通常用カウンタエリア 2 5 1 の各カウンタ 2 5 1 a ～ 2 5 1 e は、前扉枠 1 4 が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、対象となる入球部 2 4 a，3 1 ～ 3 4 に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。なお、前扉枠 1 4 が開放状態となっている状況が計測対象外となっているのは、前扉枠 1 4 を開放した状態で入球部 2 4 a，3 1 ～ 3 4 に手入れで遊技球が入球された場合の入球個数を計測対象から除外するためである。但し、これに限定されることなく前扉枠 1 4 が開放状態となっている状況も前扉枠 1 4 が閉鎖状態となっている状況と同様に計測対象とする構成としてもよい。

【1 2 0 9】

非特定制御用のワークエリア 2 1 3 には、通常用カウンタエリア 2 5 1 以外にも演算結

果記憶エリア252が設けられている。演算結果記憶エリア252は、通常用カウンタエリア251を利用して算出した遊技履歴の管理結果の情報を記憶するためのエリアである。演算結果記憶エリア252に記憶された遊技履歴の管理結果の情報は、遊技履歴の管理結果の情報が新たに算出されることで当該新たに算出された情報が上書きされるまで記憶保持される。

【1210】

図104は非特定制御用のワークエリア213における演算結果記憶エリア252の電氣的構成を説明するための説明図である。

【1211】

演算結果記憶エリア252には、主側MPU82により算出されるベース値の情報が記憶される。ベース値とは、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合のことである。

【1212】

大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口31に1個の遊技球が入球した場合には一般入賞カウンタ251aの値が1加算され、特電入賞装置32に1個の遊技球が入球した場合には特電入賞カウンタ251bの値が1加算され、第1作動口33に1個の遊技球が入球した場合には第1作動カウンタ251cの値が1加算され、第2作動口34に1個の遊技球が入球した場合には第2作動カウンタ251dの値が1加算され、アウト口24aに1個の遊技球が入球した場合にはアウトカウンタ251eの値が1加算される。そして、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における通常用カウンタエリア251の各種カウンタ251a～251eの値をK91～K95とした場合にベース値は以下のものとなる。

・ベース値：遊技球の合計払出個数（ $K91 \times$ 「一般入賞口31への入賞に対する賞球個数」 $+ K92 \times$ 「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」 $+ K93 \times$ 「第1作動口33への入賞に対する賞球個数」 $+ K94 \times$ 「第2作動口34への入賞に対する賞球個数」） $\div$ 遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（ $K91 + K92 + K93 + K94 + K95$ ）の割合。

【1213】

ベース値の算出は、非特定制御の処理に含まれる第2管理用処理（図107）にて後述する結果演算処理（図110）が実行される度に行われるが、通常用カウンタエリア251の各種カウンタ251a～251eの値は、非特定制御用のワークエリア213に設けられた管理開始フラグに「1」がセットされていない状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となることで「0」クリアされるとともに、管理開始フラグに「1」がセットされている状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となることで「0」クリアされる。

【1214】

管理開始基準個数は、シフト基準個数よりも少ない個数である300個に設定されている。パチンコ機10の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機10の動作チェックが行われることがあり、その際には各入球部に遊技球を手入れしてその後の動作がチェックされる。このような状況下におけるベース値は通常の遊技が行われる状況とは異なる値となり得る。したがって、管理開始フラグに「1」がセットされていない状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技

10

20

30

40

50

球の合計個数)がシフト基準個数よりも少ない個数である管理開始基準個数となった段階で一旦、通常用カウンタエリア251の各種カウンタ251a~251eを「0」クリアすることで、パチンコ機10の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対する上記動作チェックの影響を低減することが可能となる。なお、管理開始基準個数は300個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、300個よりも少ない個数に設定されていてもよく、300個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【1215】

シフト基準個数は、60000個に設定されている。パチンコ機10では1分間に最大で100個の遊技球の発射が行われるため、60000個は10時間における最大の発射個数となる。この場合に遊技ホールにおける一般的な営業時間は13時間程度であり、そのうち大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技が行われる時間は10時間程度となる。したがって、シフト基準個数は概ね1営業日における遊技球の最大発射個数を想定して設定されている。シフト基準個数となる度に通常用カウンタエリア251の各種カウンタ251a~251eを「0」クリアすることで、シフト基準個数の範囲においてベース値を算出することが可能となる。なお、シフト基準個数は60000個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、60000個よりも少ない個数に設定されていてもよく、60000個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【1216】

演算結果記憶エリア252には上記ベース値の情報を格納するための記憶エリアとして、現状エリア256と、第1履歴エリア257と、第2履歴エリア258と、第3履歴エリア259とが設けられている。これら各種エリア256~259はいずれも同一の記憶容量となっており、具体的にはベース値の情報を格納可能とするように1バイトの容量となっている。

【1217】

現状エリア256には直近の結果演算処理(図110)にて算出されたベース値が格納される。つまり、現状エリア256には直近のベース値が格納されることとなる。

【1218】

第1履歴エリア257には1回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。この場合、1回前の算出期間が管理開始フラグに「1」がセットされた後である状況であれば、第1履歴エリア257には、1回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数(すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数)がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、1回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「1」がセットされたのであれば、第1履歴エリア257には、1回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数(すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数)が管理開始基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。

【1219】

第2履歴エリア258には2回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。この場合、2回前の算出期間が管理開始フラグに「1」がセットされた後である状況であれば、第2履歴エリア258には、2回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数(すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数)がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、2回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「1」がセットされたのであれば、第2履歴エリア258には、2回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数(すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数)が管理開始基準個数となったタイミングにお

けるベース値が格納される。

【1220】

第3履歴エリア259には3回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。この場合、3回前の算出期間が管理開始フラグに「1」がセットされた後である状況であれば、第3履歴エリア259には、3回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、3回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「1」がセットされたのであれば、第3履歴エリア259には、3回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。

10

【1221】

現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259に格納されたベース値は、第1～第4報知用表示装置201～204にて順次報知される。具体的には、表示継続期間（具体的には5秒）が経過する度に、現状エリア256→第1履歴エリア257→第2履歴エリア258→第3履歴エリア259という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

20

【1222】

図105（a）～図105（d）は管理開始フラグに「1」がセットされている状況において各種エリア256～259に格納されたベース値が報知される場合における第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容を説明するための説明図である。図105（a）は現状エリア256に格納されたベース値が報知される場合における第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容の一例を示し、図105（b）は第1履歴エリア257に格納されたベース値が報知される場合における第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容の一例を示し、図105（c）は第2履歴エリア258に格納されたベース値が報知される場合における第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容の一例を示し、図105（d）は第3履歴エリア259に格納されたベース値が報知される場合における第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容の一例を示す。

30

【1223】

図105（a）～図105（d）に示すように第1～第4報知用表示装置201～204はいずれも8個の表示用セグメント201a～204aを有している。8個の表示用セグメント201a～204aのうち7個の表示用セグメント201a～204aはいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「8」の字を生じさせるように配列されている。一方、1個の表示用セグメント201a～204aは円形状の発光領域となっており、「8」の字状に配列されている7個の表示用セグメント201a～204aに対して右下の位置に設けられている。各種エリア256～259のいずれのベース値を報知する場合であっても、第1～第4報知用表示装置201～204のそれぞれにおいて少なくとも1個の表示用セグメント201a～204aが発光状態となる。

40

【1224】

第1報知用表示装置201では、第1～第4報知用表示装置201～204においてベース値を報知している状況であることを示す表示が行われる。具体的には、各種エリア256～259のいずれのベース値を報知する場合であっても第1報知用表示装置201には「b」の文字が表示される。第1～第4報知用表示装置201～204においてベース値以外の情報が報知される場合には第1報知用表示装置201にて「b」の文字が表示されることはない。これにより、第1報知用表示装置201にて「b」の文字が表示されていることを確認することで、遊技ホールの管理者は第1～第4報知用表示装置201～204にてベース値が報知されていることを把握することが可能となる。

50

【1225】

第2報知用表示装置202では、各種エリア256～259のうちいずれのベース値を報知している状況であるのかを示す表示が行われる。具体的には、現状エリア256のベース値が報知されている状況においては図105(a)に示すように第2報知用表示装置202にて「L.」の文字が表示される。第1履歴エリア257のベース値が報知されている状況においては図105(b)に示すように第2報知用表示装置202にて「1.」の文字が表示される。第2履歴エリア258のベース値が報知されている状況においては図105(c)に示すように第2報知用表示装置202にて「2.」の文字が表示される。第3履歴エリア259のベース値が報知されている状況においては図105(d)に示すように第2報知用表示装置202にて「3.」の文字が表示される。これにより、第2報知用表示装置202に表示されている文字を確認することで、遊技ホールの管理者は第1～第4報知用表示装置201～204にて報知されているベース値がいずれの算出期間におけるものであるのかを把握することが可能となる。

10

【1226】

第2報知用表示装置202では各種エリア256～259のうちいずれのベース値を報知している状況であっても円形状の表示用セグメント201a～204aが発光状態となる。第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204ではベース値に対応する表示として「0」～「9」のいずれかの数字が表示されることとなる。この場合に、第2報知用表示装置202にて「1」～「3」のいずれかの数字が表示されると、第2～第4報知用表示装置202～204にて3個の数字が並ぶこととなり、ベース値を把握しづらくなってしまう。これに対して、第2報知用表示装置202の右下に設けられた円形状の表示用セグメント201a～204aが発光状態となることにより、第2報知用表示装置202にて「1」～「3」のいずれかの数字が表示される場合であっても、その第2報知用表示装置202に表示される数字と第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204に表示される数字とを区別して把握することが可能となる。

20

【1227】

第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204では、報知対象となっているベース値の数字が表示される。ベース値は小数点第2位までの少数として算出されることとなるが、当該ベース値のうち小数点第1位の数字が第3報知用表示装置203にて表示され、当該ベース値のうち小数点第2位の数字が第4報知用表示装置204にて表示される。ここで、ベース値が「1.00」の場合には第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204のそれぞれにて「0」の数字が表示される。一方、報知対象となっているエリア256～259にベース値が未だ格納されていない場合には、図106(a)の説明図に示すように第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204のそれぞれにて「-」の文字が表示される。これにより、第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204の2個の表示装置にて小数点第2位までの少数として算出されるベース値を報知する場合であっても、ベース値が「1.00」の場合と、報知対象となっているエリア256～259にベース値が未だ格納されていない場合とで表示内容を区別することが可能となる。

30

【1228】

なお、ベース値が「1.00」の場合とベース値が「0.00」の場合とでは第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204の組合せの表示内容が同一となる。これに対して、両者を区別するために前者及び後者のうち一方では「00」の表示が発光状態が維持され、他方では「00」の表示が点滅状態とされる構成としてもよい。

40

【1229】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合、第1～第4報知用表示装置201～204に設けられた各表示用セグメント201a～204aが正常に発光状態となり得るかどうかを遊技ホールの管理者に確認させるために、初期チェック期間が経過するまで第1～第4報知用表示装置201～204にてチェック用表示が行われる。当該チェック用表示として具体的には、図106(b)の説明図に示すように第1～第4報知用表示

50

装置 201～204 の全ての表示用セグメント 201a～204a が発光状態に維持される。

【1230】

非特定制御用のワークエリア 213 における管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においては、図 106 (c) の説明図に示すように、第 1, 第 2 報知用表示装置 201, 202 のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント 201a, 202a が発光状態となっている状況において、第 3 報知用表示装置 203 にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第 1 位の数字が表示されるとともに、第 4 報知用表示装置 204 にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第 2 位の数字が表示される。第 1, 第 2 報知用表示装置 201, 202 のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント 201a, 202a を発光状態としながら第 3, 第 4 報知用表示装置 203, 204 にてベース値に対応する数字を表示することにより、現状報知されているベース値が管理開始フラグに「1」がセットされていない状況におけるベース値であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

10

【1231】

次に第 1 タイマ割込み処理 (図 88) のステップ S5521 の処理について説明する。

【1232】

第 1 タイマ割込み処理 (図 88) のステップ S5521 では既に説明したとおり CALL I 命令により第 2 管理用処理を実行する。第 2 管理用処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、第 1 タイマ割込み処理 (図 88) において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理が CALL I 命令を利用して呼び出される。

20

【1233】

CALL I 命令により第 2 管理用処理が実行される場合、まず主側 MPU 82 のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 212 に退避される。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、P/V フラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御の処理である第 2 管理用処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該第 2 管理用処理のコールや当該第 2 管理用処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア 212 に退避させておくことが可能となる。

30

【1234】

CALL I 命令により第 2 管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 212 に退避された後、第 1 タイマ割込み処理 (図 88) 及び後述する第 2 タイマ割込み処理 (図 114) の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である第 2 管理用処理の実行中に、特定制御の処理である第 1 タイマ割込み処理 (図 88) 及び第 2 タイマ割込み処理 (図 114) が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【1235】

CALL I 命令により第 2 管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 212 に退避され、第 1 タイマ割込み処理 (図 88) 及び第 2 タイマ割込み処理 (図 114) の割込みが禁止された後、第 2 管理用処理に対応するプログラムが開始される。

40

【1236】

このように、CALL I 命令により第 2 管理用処理を実行する構成とすることにより、一の命令 (「CALL I」) により、主側 MPU 82 のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア 212 に退避されるとともに、第 1 タイマ割込み処理 (図 88) 及び第 2 タイマ割込み処理 (図 114) の割込みが禁止される。そして、第 2 管理用処理に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側 MPU 82 のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア 212 に退避させるための命令と、第 1 タイマ割

50

込み処理（図 8 8）及び第 2 タイマ割込み処理（図 1 1 4）の割込みを禁止するための命令と、第 2 管理用処理のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、第 2 管理用処理を実行するためにプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、プログラムを記憶しておくための主側 R O M 8 3 における記憶容量を低減することができる。

【 1 2 3 7 】

図 1 0 7 は第 2 管理用処理を示すフローチャートである。なお、第 2 管理用処理におけるステップ S 6 8 0 1 ～ステップ S 6 8 1 6 の処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。

【 1 2 3 8 】

まず「L D S P , Y (u + 2) 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとして Y (u + 2) を設定する（ステップ S 6 8 0 1）。スタックポインタは、スタックエリア 2 1 2 , 2 1 4 においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側 M P U 8 2 にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。また、非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップ S 6 8 0 1 では、非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。

【 1 2 3 9 】

その後、「L D (_ W A B U F) , W A 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の W A レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された W A バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 2）。また、「L D (_ B C B U F) , B C 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の B C レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された B C バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 3）。また、「L D (_ D E B U F) , D E 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の D E レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された D E バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 4）。また、「L D (_ H L B U F) , H L 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の H L レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された H L バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 5）。また、「L D (_ I X B U F) , I X 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の I X レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された I X バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 6）。また、「L D (_ I Y B U F) , I Y 」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 の I Y レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定された I Y バッファに退避させる（ステップ S 6 8 0 7）。

【 1 2 4 0 】

主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 における汎用レジスタエリア 2 2 3 a には、既に説明したフラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップ S 6 8 0 2 ～ステップ S 6 8 0 7 では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタである W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における対応するバッファに退避させている。なお、W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタの情報量はいずれも 2 バイトとなっている。

【 1 2 4 1 】

これら W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び

10

20

30

40

50

I Yレジスタは非特定制御に対応する処理である情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

10

【1 2 4 2】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）にて利用対象となるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びI Yレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア2 1 3においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア2 1 3の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

20

【1 2 4 3】

なお、当然のことながら主側MPU 8 2における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びI Yレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【1 2 4 4】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア2 1 4に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア2 1 4の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア2 1 4を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることになってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア2 1 4に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまふ。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア2 1 3に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

30

【1 2 4 5】

ステップS 6 8 0 2～ステップS 6 8 0 7の処理を実行した後は、情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）を実行する。情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）の実行後における第2管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア2 1 4に書き込まれる。そして、情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す第2管理用処理のプログラムに

40

50

復帰する。情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）の詳細については後に説明する。

【1 2 4 6】

情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）を実行した後は、「LD SP, Y(r+c)」として、ロード命令により、主側MPU 8 2のスタックポインタに第2管理用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとしてY(r+c)を設定する（ステップS 6 8 1 0）。Y(r+c)のアドレスは、特定制御用のスタックエリア2 1 2におけるY(r+8)とY(s)との間のアドレスとして設定されている。

【1 2 4 7】

第1タイマ割込み処理（図8 8）のステップS 5 5 2 1にて第2管理用処理が呼び出される直前において特定制御用のスタックエリア2 1 2に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側MPU 8 2のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア2 1 2に記憶されている情報としては、例えば第2管理用処理が終了した後における第1タイマ割込み処理（図8 8）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がY(r+c)となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である情報異常監視処理（ステップS 6 8 0 8）及びチェック処理（ステップS 6 8 0 9）が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報であるY(r+c)を主側MPU 8 2のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、非特定制御に対応する処理を開始する前に特定制御に対応する主側MPU 8 2のスタックポインタの情報を主側RAM 8 4に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側RAM 8 4において確保する必要がなくなる。

【1 2 4 8】

その後、「LD WA, (__WABUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のWAバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のWAレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 1）。また「LD BC, (__BCBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のBCバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のBCレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 2）。また「LD DE, (__DEBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のDEバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のDEレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 3）。また「LD HL, (__HLBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のHLバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のHLレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 4）。また「LD IX, (__IXBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のIXバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のIXレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 5）。また「LD IY, (__IYBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア2 1 3のIYバッファに退避された情報を主側MPU 8 2のIYレジスタに上書きする（ステップS 6 8 1 6）。ステップS 6 8 1 1～ステップS 6 8 1 6の処理が実行されることにより、主側MPU 8 2のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【1 2 4 9】

ステップS 6 8 1 1～ステップS 6 8 1 6の処理を実行した後は、RETI命令により特定制御の処理に含まれる第1タイマ割込み処理（図8 8）に復帰する。RETI命令が実行されることにより、第2管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア2 1 2に

10

20

30

40

50

退避させたフラグレジスタの情報が主側MPU82のフラグレジスタに復帰されるとともに、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第1タイマ割込み処理及び第2タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【1250】

RETI命令を実行する構成であることにより、一の命令（「RETI」）により、第2管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させ、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、第2管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御の処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御の処理のプログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【1251】

ここで、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理が再開される場合に主側RAM84に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【1252】

また、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理への復帰後において非特定制御の処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御の処理を間に挟んで実行される非特定制御の処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に記憶されており、主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側RAM84に退避されないとしても、非特定制御の処理を実行する上で問題が生じない。

【1253】

次に、ステップS6809にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行されるチェック処理について説明する。図108はチェック処理を示すフローチャートである。なお、チェック処理におけるステップS6901～ステップS6906の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1254】

チェック処理では、前扉枠14が開放状態ではなく（ステップS6901：NO）、開閉実行モードではなく（ステップS6902：NO）、さらに高頻度サポートモードではない場合（ステップS6903：NO）、通常の入球管理処理（ステップS6904）を実行した後に、結果演算処理（ステップS6905）及び表示用処理（ステップS6906）を実行する。一方、前扉枠14が開放状態である場合（ステップS6901：YES）、開閉実行モードである場合（ステップS6902：YES）、又は高頻度サポートモードである場合（ステップS6903：YES）、通常の入球管理処理（ステップS6904）を実行することなく、結果演算処理（ステップS6905）及び表示用処理（ステップS6906）を実行する。

【1255】

図109は、ステップS6904における通常の入球管理処理を示すフローチャートで

10

20

30

40

50

ある。なお、通常の入球管理処理におけるステップS7001～ステップS7014の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1256】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7001：YES）、一般入賞口31への入賞が発生して第1入賞口検知センサ231aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS7002）。また、特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7003：YES）、一般入賞口31への入賞が発生して第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS7004）。また、特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第3入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7005：YES）、一般入賞口31への入賞が発生して第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS7006）。

【1257】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの特電入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7007：YES）、特電入賞装置32への入賞が発生して特電検知センサ234aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における特電入賞カウンタ251bの値を1加算する（ステップS7008）。

【1258】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7009：YES）、第1作動口33への入賞が発生して第1作動口検知センサ235aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における第1作動カウンタ251cの値を1加算する（ステップS7010）。

【1259】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7011：YES）、第2作動口34への入賞が発生して第2作動口検知センサ236aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251における第2作動カウンタ251dの値を1加算する（ステップS7012）。

【1260】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dのアウト確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7013：YES）、アウト口24aへの遊技球の入球が発生してアウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251におけるアウトカウンタ251eの値を1加算する（ステップS7014）。

【1261】

特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dの第1入賞確認フラグ、第2入賞確認フラグ、第3入賞確認フラグ、特電入賞確認フラグ、第1作動入賞確認フラグ、第2作動入賞確認フラグ及びアウト確認フラグの情報は、非特定制御の処理に含まれる通常の入球管理処理にて読み出されることとなるが、これらフラグに対する情報の更新は当該通常の入球管理処理においては実行されない。これらフラグを「0」クリアする処理や「1」をセットする処理は既に説明したとおり特定制御の処理に含まれる入球検知

10

20

30

40

50

処理（図 9 1）にて実行される。

【1 2 6 2】

図 1 1 0 はチェック処理（図 1 0 8）のステップ S 6 9 0 5 にて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。なお、結果演算処理におけるステップ S 7 1 0 1 ～ステップ S 7 1 1 5 の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。

【1 2 6 3】

まずベース値の演算処理を実行する（ステップ S 7 1 0 1）。当該演算処理では、通常用カウンタエリア 2 5 1 の各種カウンタ 2 5 1 a ～ 2 5 1 e の値を利用してベース値を算出する。ベース値の演算方法は既に説明したとおりである。そして、その算出したベース値を現状エリア 2 5 6 に上書きする（ステップ S 7 1 0 2）。

【1 2 6 4】

その後、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられた管理開始フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 7 1 0 3）。管理開始フラグは、パチンコ機 1 0 の製造後に初めて当該パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合において「0」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 が管理開始フラグを含めて「0」クリアされて初期化された場合にも管理開始フラグの値は「0」となる。管理開始フラグが「0」の値である状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域 P A から排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域 P A に供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となることで管理開始フラグに「1」がセットされる。また、管理開始フラグに「1」がセットされる場合に、通常用カウンタエリア 2 5 1 の各種カウンタ 2 5 1 a ～ 2 5 1 e の値が「0」クリアされて新たな算出期間が開始される。これにより、パチンコ機 1 0 の出荷段階における動作チェックの影響が、パチンコ機 1 0 の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対して及びづらくさせることが可能となる。

【1 2 6 5】

ステップ S 7 1 0 3 にて否定判定をした場合、通常用カウンタエリア 2 5 1 の各種カウンタ 2 5 1 a ～ 2 5 1 e の値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップ S 7 1 0 4）。そして、その算出した合計個数が管理開始基準個数である 3 0 0 個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップ S 7 1 0 5）。なお、合計個数が管理開始基準個数である 3 0 0 個以上であるか否かを判定する構成としてもよい。

【1 2 6 6】

ステップ S 7 1 0 5 にて肯定判定をした場合、管理開始フラグに「1」をセットする（ステップ S 7 1 0 6）。その後、データシフト処理を実行する（ステップ S 7 1 0 7）。データシフト処理では、演算結果記憶エリア 2 5 2 における現状エリア 2 5 6、第 1 履歴エリア 2 5 7、第 2 履歴エリア 2 5 8 及び第 3 履歴エリア 2 5 9 に記憶された情報を、第 2 履歴エリア 2 5 8 → 第 3 履歴エリア 2 5 9、第 1 履歴エリア 2 5 7 → 第 2 履歴エリア 2 5 8、現状エリア 2 5 6 → 第 1 履歴エリア 2 5 7 の順序でシフトする。これにより、2 回前の算出期間における最終的なベース値が 3 回前の算出期間における最終的なベース値として第 3 履歴エリア 2 5 9 に記憶され、1 回前の算出期間における最終的なベース値が 2 回前の算出期間における最終的なベース値として第 2 履歴エリア 2 5 8 に記憶され、現状の算出期間において最後に算出されたベース値が 1 回前の算出期間における最終的なベース値として第 1 履歴エリア 2 5 7 に記憶される。データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、L D I R 命令を利用する。L D I R 命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。

【1 2 6 7】

但し、管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においては基本的に第 1 ～ 第 3 履歴エリア 2 5 7 ～ 2 5 9 にベース値の情報が記憶されていないため、ステップ S 7 1 0 7 では実質的に、管理開始フラグに「1」がセットされていない状況における算出期間

の最終的なベース値の第1履歴エリア257へのシフトのみが行われる。その後、通常用カウンタエリア251の各カウンタ251a～251eを全て「0」クリアする（ステップS7108）。

【1268】

ステップS7103にて肯定判定をした場合、通常用カウンタエリア251の各種カウンタ251a～251eの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップS7109）。そして、その算出した合計個数が初期基準個数である6000個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップS7110）。ステップS7110にて否定判定をした場合には非特定制御用のワークエリア213に設けられた演算初期フラグに「1」をセットし（ステップS7111）、ステップS7110にて肯定判定をした場合には当該演算初期フラグを「0」クリアする（ステップS7112）。演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数に達しているか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1269】

ステップS7111又はステップS7112の処理を実行した場合、ステップS7109にて算出した合計個数がシフト基準個数である60000個以上であるか否かを判定する（ステップS7113）。ステップS7113にて肯定判定をした場合、データシフト処理を実行する（ステップS7114）。データシフト処理ではステップS7107と同様に演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259に記憶された情報を、第2履歴エリア258→第3履歴エリア259、第1履歴エリア257→第2履歴エリア258、現状エリア256→第1履歴エリア257の順序でシフトする。これにより、2回前の算出期間における最終的なベース値が3回前の算出期間における最終的なベース値として第3履歴エリア259に記憶され、1回前の算出期間における最終的なベース値が2回前の算出期間における最終的なベース値として第2履歴エリア258に記憶され、現状の算出期間において最後に算出されたベース値が1回前の算出期間における最終的なベース値として第1履歴エリア257に記憶される。データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、LDIR命令を利用する。LDIR命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。その後、通常用カウンタエリア251の各カウンタ251a～251eを全て「0」クリアする（ステップS7115）。

【1270】

次に、ベース値を報知するための構成について説明する。まず、主側MPU82にて各種表示部を表示制御するための構成について説明する。図111は主側MPU82にて各種表示部を表示制御するための構成を説明するためのブロック図である。

【1271】

主側MPU82にて表示制御が行われる対象として、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b、第1特図保留表示部37c、第2特図保留表示部37d、普図表示部38a、普図保留表示部38b、設定表示装置205及び第1～第4報知用表示装置201～204が少なくとも存在している。これらはいずれもLEDによる表示用セグメントが複数配列されたセグメント表示部として設けられている。これらセグメント表示部は、発光状態に対応するデータ（例えば2値データのうち一方である「1」のデータ）が設定されることにより発光状態となり、消灯状態に対応するデータ（例えば2値データのうち他方である「0」のデータ）が設定されることにより消灯状態となる。

【1272】

主制御基板81には、第1特図表示部37aに対応させて第1表示回路261が設けられており、第2特図表示部37bに対応させて第2表示回路262が設けられており、第1特図保留表示部37cに対応させて第3表示回路（図示略）が設けられており、第2特

10

20

30

40

50

図保留表示部 37d に対応させて第 4 表示回路（図示略）が設けられており、普図表示部 38a に対応させて第 5 表示回路（図示略）が設けられており、普図保留表示部 38b に対応させて第 6 表示回路（図示略）が設けられており、設定表示装置 205 に対応させて第 7 表示回路 263 が設けられており、第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 に対応させて第 8 表示回路 264 が設けられている。

【1273】

第 1 表示回路 261 は供給された表示データに対応するデータを第 1 特図表示部 37a の複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第 1 表示回路 261 に提供された表示データに対応する態様で第 1 特図表示部 37a の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第 1 表示回路 261 は提供された表示データを所定期間（例えば 20 ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第 1 表示回路 261 に提供された表示データによって発光状態となっている第 1 特図表示部 37a の表示用セグメントは新たな表示データが第 1 表示回路 261 に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第 1 特図表示部 37a の表示内容が変更される場合だけではなく第 1 特図表示部 37a の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第 1 表示回路 261 に供給される。

【1274】

第 2 表示回路 262 は供給された表示データに対応するデータを第 2 特図表示部 37b の複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第 2 表示回路 262 に提供された表示データに対応する態様で第 2 特図表示部 37b の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第 2 表示回路 262 は提供された表示データを所定期間（例えば 20 ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第 2 表示回路 262 に提供された表示データによって発光状態となっている第 2 特図表示部 37b の表示用セグメントは新たな表示データが第 2 表示回路 262 に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第 2 特図表示部 37b の表示内容が変更される場合だけではなく第 2 特図表示部 37b の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第 2 表示回路 262 に供給される。

【1275】

第 3 表示回路は供給された表示データに対応するデータを第 1 特図保留表示部 37c の複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第 3 表示回路に提供された表示データに対応する態様で第 1 特図保留表示部 37c の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第 3 表示回路は提供された表示データを所定期間（例えば 20 ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第 3 表示回路に提供された表示データによって発光状態となっている第 1 特図保留表示部 37c の表示用セグメントは新たな表示データが第 3 表示回路に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第 1 特図保留表示部 37c の表示内容が変更される場合だけではなく第 1 特図保留表示部 37c の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第 3 表示回路に供給される。

【1276】

第 4 表示回路は供給された表示データに対応するデータを第 2 特図保留表示部 37d の複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第 4 表示回路に提供された表示データに対応する態様で第 2 特図保留表示部 37d の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第 4 表示回路は提供された表示データを所定期間（例えば 20 ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表

示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第4表示回路に提供された表示データによって発光状態となっている第2特図保留表示部37dの表示用セグメントは新たな表示データが第4表示回路に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第2特図保留表示部37dの表示内容が変更される場合だけではなく第2特図保留表示部37dの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第4表示回路に供給される。

【1277】

第5表示回路は供給された表示データに対応するデータを普図表示部38aの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第5表示回路に提供された表示データに対応する態様で普図表示部38aの各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第5表示回路は提供された表示データを所定期間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第5表示回路に提供された表示データによって発光状態となっている普図表示部38aの表示用セグメントは新たな表示データが第5表示回路に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより普図表示部38aの表示内容が変更される場合だけではなく普図表示部38aの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第5表示回路に供給される。

【1278】

第6表示回路は供給された表示データに対応するデータを普図保留表示部38bの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第6表示回路に提供された表示データに対応する態様で普図保留表示部38bの各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第6表示回路は提供された表示データを所定期間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第6表示回路に提供された表示データによって発光状態となっている普図保留表示部38bの表示用セグメントは新たな表示データが第6表示回路に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより普図保留表示部38bの表示内容が変更される場合だけではなく普図保留表示部38bの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第6表示回路に供給される。

【1279】

第7表示回路263は供給された表示データに対応するデータを設定表示装置205のそれぞれに設けられた複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第7表示回路263に提供された表示データに対応する態様で設定表示装置205の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第7表示回路263は提供された表示データを所定期間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第7表示回路263に提供された表示データによって発光状態となっている設定表示装置205の表示用セグメントは新たな表示データが第7表示回路263に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより設定表示装置205の表示内容が変更される場合だけではなく設定表示装置205の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第7表示回路263に供給される。

【1280】

第8表示回路264は供給された表示データに対応するデータを第1～第4報知用表示装置201～204のそれぞれに設けられた複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第8表示回路264に提供された表示データに対応する態様で第1～第4報知用表示装置201～204の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。

この場合に、第8表示回路264は提供された表示データを所定期間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「0」の状態に近付くこととなる。したがって、第8表示回路264に提供された表示データによって発光状態となっている第1～第4報知用表示装置201～204の表示用セグメントは新たな表示データが第8表示回路264に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容が変更される場合だけではなく第1～第4報知用表示装置201～204の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第8表示回路264に供給される。

【1281】

なお、第1～第4報知用表示装置201～204のそれぞれには表示用セグメントが8個設けられている。これに対して、表示データの提供は8ビット単位で行われる。第1～第4報知用表示装置201～204の表示データが第8表示回路264に提供される場合、第1報知用表示装置201に対応する8ビットの表示データが8ビット単位のデータとして提供され、その後に第2報知用表示装置202に対応する8ビットの表示データが8ビット単位のデータとして提供され、その後に第3報知用表示装置203に対応する8ビットの表示データが8ビット単位のデータとして提供され、最後に第4報知用表示装置204に対応する8ビットの表示データが8ビット単位のデータとして提供される。

【1282】

上記のように第1～第8表示回路261～264が設けられた構成において、主側MPU82は表示IC266に対して表示データを供給する。つまり、第1～第8表示回路261～264に1対1で表示IC266が設けられているのではなく、第1～第8表示回路261～264の全てに対して共通となるように1個の表示IC266が設けられている。そして、主側MPU82は表示IC266に表示データを供給する場合、その表示データが第1～第8表示回路261～264のいずれに対応しているのかを示す種別データも表示IC266に供給する。

【1283】

主側MPU82と表示IC266との電氣的な接続について詳細には、主側MPU82と表示IC266とは、種別データ信号線LN1と、種別クロック信号線LN2と、表示データ信号線LN3と、表示クロック信号線LN4とを利用して電氣的に接続されている。これら信号線LN1～LN4はいずれも主側MPU82から表示IC266に一方方向通信で信号を送信するための信号線である。

【1284】

種別データ信号線LN1を利用して主側MPU82から表示IC266に種別データがシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による種別データの各1ビットの区切りが、種別クロック信号線LN2を利用して主側MPU82から表示IC266に送信される種別クロック信号により示される。種別データは送信対象となっている表示データが第1～第8表示回路261～264のいずれに対応しているのかを示すデータである。種別データは第1ビット～第8ビットによる8ビットのデータとして送信される。表示データが第1表示回路261に対応している場合には第1ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第2表示回路262に対応している場合には第2ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第3表示回路に対応している場合には第3ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第4表示回路に対応している場合には第4ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第5表示回路に対応している場合には第5ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第6表示回路に対応している場合には第6ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第7表示回路263に対応している場合には第7ビットがHイレベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。表示データが第8表示回路264に対応している場合には第8ビットがHイレ

10

20

30

40

50

ベルとなるとともに他のビットはLOWレベルとなる。

【1285】

表示データ信号線LN3を利用して主側MPU82から表示IC266に表示データがシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による表示データの各1ビットの区切りが、表示クロック信号線LN4を利用して主側MPU82から表示IC266に送信される表示クロック信号により示される。表示データは第1～第8ビットによる8ビット単位で送信される。

【1286】

主側MPU82は後述する第2タイマ割込み処理（図114）にて、第1～第8表示回路261～264のそれぞれに対応する表示データを表示IC266に送信する。この場合、第2タイマ割込み処理の1回の処理回では第1～第8表示回路261～264のうち1個の表示回路に対して表示データを送信するとともに、第n表示回路→第n+1表示回路となる順序に従って第2タイマ割込み処理の新たな処理回が発生する度に表示データの送信対象となる表示回路261～264が1個ずつ変更される。また、当該順序において最後の順番となる第8表示回路264に対応する表示データを送信した処理回の次の処理回における第2タイマ割込み処理では上記順序において最初の順番となる第1表示回路261に対応する表示データを送信する。なお、第1～第7表示回路261～263のいずれかに表示データを送信する第2タイマ割込み処理の処理回では8ビット単位の表示データが1個のみ送信されるが、第8表示回路264に表示データを送信する第2タイマ割込み処理の処理回では8ビット単位の表示データが第1～第4報知用表示装置201～204の数に対応させて4個送信される。

【1287】

上記のように主側MPU82が表示データを送信する構成において特定制御用のワークエリア211及び非特定制御用のワークエリア213には表示データを送信するために主側MPU82により参照される各種記憶エリアが設定されている。図112は特定制御用のワークエリア211に設けられた各種バッファ271～278を説明するための説明図である。

【1288】

図112に示すように特定制御用のワークエリア211には第1表示データバッファ271と、第2表示データバッファ272と、第3表示データバッファ273と、第4表示データバッファ274と、第5表示データバッファ275と、第6表示データバッファ276と、第7表示データバッファ277と、第8表示データバッファ278とが設けられている。

【1289】

第1表示データバッファ271には第1表示回路261に供給するための表示データが格納される。第1表示回路261は既に説明したとおり第1特図表示部37aに対応させて設けられているため、第1表示データバッファ271には第1特図表示部37aに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第1表示データバッファ271に対する表示データの格納は第1タイマ割込み処理（図88）における特図特電制御処理（ステップS5514）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップS5516）にて行われる。また、第1表示回路261に表示データを送信する第2タイマ割込み処理（図114）の処理回となった場合には、第1表示データバッファ271に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第1表示データバッファ271に格納された表示データが表示IC266に送信される。

【1290】

第2表示データバッファ272には第2表示回路262に供給するための表示データが格納される。第2表示回路262は既に説明したとおり第2特図表示部37bに対応させて設けられているため、第2表示データバッファ272には第2特図表示部37bに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第2表示データ

バッファ 272 に対する表示データの格納は第 1 タイマ割込み処理（図 88）における特図特電制御処理（ステップ S5514）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップ S5516）にて行われる。また、第 2 表示回路 262 に表示データを送信する第 2 タイマ割込み処理（図 114）の処理回となった場合には、第 2 表示データバッファ 272 に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第 2 表示データバッファ 272 に格納された表示データが表示 IC 266 に送信される。

【1291】

第 3 表示データバッファ 273 には第 3 表示回路に供給するための表示データが格納される。第 3 表示回路は既に説明したとおり第 1 特図保留表示部 37c に対応させて設けられているため第 3 表示データバッファ 273 には第 1 特図保留表示部 37c に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第 3 表示データバッファ 273 に対する表示データの格納は第 1 タイマ割込み処理（図 88）における特図特電制御処理（ステップ S5514）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップ S5516）にて行われる。また、第 3 表示回路に表示データを送信する第 2 タイマ割込み処理（図 114）の処理回となった場合には、第 3 表示データバッファ 273 に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第 3 表示データバッファ 273 に格納された表示データが表示 IC 266 に送信される。

【1292】

第 4 表示データバッファ 274 には第 4 表示回路に供給するための表示データが格納される。第 4 表示回路は既に説明したとおり第 2 特図保留表示部 37d に対応させて設けられているため第 4 表示データバッファ 274 には第 2 特図保留表示部 37d に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第 4 表示データバッファ 274 に対する表示データの格納は第 1 タイマ割込み処理（図 88）における特図特電制御処理（ステップ S5514）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップ S5516）にて行われる。また、第 4 表示回路に表示データを送信する第 2 タイマ割込み処理（図 114）の処理回となった場合には、第 4 表示データバッファ 274 に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第 4 表示データバッファ 274 に格納された表示データが表示 IC 266 に送信される。

【1293】

第 5 表示データバッファ 275 には第 5 表示回路に供給するための表示データが格納される。第 5 表示回路は既に説明したとおり普図表示部 38a に対応させて設けられているため、第 5 表示データバッファ 275 には普図表示部 38a に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第 5 表示データバッファ 275 に対する表示データの格納は第 1 タイマ割込み処理（図 88）における普図普電制御処理（ステップ S5515）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップ S5516）にて行われる。また、第 5 表示回路に表示データを送信する第 2 タイマ割込み処理（図 114）の処理回となった場合には、第 5 表示データバッファ 275 に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第 5 表示データバッファ 275 に格納された表示データが表示 IC 266 に送信される。

【1294】

第 6 表示データバッファ 276 には第 6 表示回路に供給するための表示データが格納される。第 6 表示回路は既に説明したとおり普図保留表示部 38b に対応させて設けられているため、第 6 表示データバッファ 276 には普図保留表示部 38b に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第 6 表示データバッファ 276 に対する表示データの格納は第 1 タイマ割込み処理（図 88）における普図普電制御処理（ステップ S5515）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップ S5516）にて行われる。また、第 6 表示回路に表示データを送信する第 2 タイマ割込み処理（図 114）の処理回となった場合には、第 6 表示データバッファ 276 に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第 6 表

10

20

30

40

50

示データバッファ２７６に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１２９５】

第７表示データバッファ２７７には第７表示回路２６３に供給するための表示データが格納される。第７表示回路２６３は既に説明したとおり設定表示装置２０５に対応させて設けられているため、第７表示データバッファ２７７には設定表示装置２０５に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。具体的には、設定確認用処理（図８２）が実行されている状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１１４）にて、設定表示装置２０５においてパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われるようにするための表示データが第７表示データバッファ２７７に格納される。また、設定値更新処理（図８３）が実行されている状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１１４）にて、設定表示装置２０５においてパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われるようにするための表示データが第７表示データバッファ２７７に格納される。第７表示回路２６３に表示データを送信する第２タイマ割込み処理の処理回となった場合には、第７表示データバッファ２７７に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第７表示データバッファ２７７に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

10

【１２９６】

第８表示データバッファ２７８には第８表示回路２６４に供給するための表示データが格納される。第８表示回路２６４は既に説明したとおり第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対応させて設けられているため、第８表示データバッファ２７８には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。第８表示回路２６４に表示データを送信する第２タイマ割込み処理の処理回となった場合には、第８表示データバッファ２７８に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第８表示データバッファ２７８に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

20

【１２９７】

ここで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値に対応する表示が行われる。この場合に、第８表示データバッファ２７８は特定制御用のワークエリア２１１に設けられているため、第８表示データバッファ２７８に表示データを格納する処理は特定制御に対応する処理として行われる。一方、ベース値を導出するための処理は非特定制御に対応する処理として行われるとともに、現状エリア２５６、第１履歴エリア２５７、第２履歴エリア２５８及び第３履歴エリア２５９に格納された各ベース値は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において順次表示対象となる。

30

【１２９８】

そこで、図１０３に示すように非特定制御用のワークエリア２１３には各ベース値を格納するための演算結果記憶エリア２５２だけではなく、現状エリア２５６、第１履歴エリア２５７、第２履歴エリア２５８及び第３履歴エリア２５９に格納された各ベース値のうち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４への表示対象となるベース値を格納するための表示対象設定エリア２５３が設けられている。一のベース値が継続して表示される期間は５秒となっているため、非特定制御に対応する処理にて、５秒が経過する毎に予め定められた表示順序に従って表示対象となるベース値が演算結果記憶エリア２５２から読み出され、その読み出されたベース値が表示対象設定エリア２５３に格納される。そして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値を表示する状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１１４）にて、表示対象設定エリア２５３に格納された表示データが読み出され、その読み出された表示データが第８表示データバッファ２７８に格納される。

40

【１２９９】

上記のように第１～第８表示データバッファ２７１～２７８が設けられた構成において、主側ＭＰＵ８２は第２タイマ割込み処理（図１１４）の各処理回にて、その処理回に対

50

応する表示データバッファ 271～278 から表示データを読み出し、その読み出した表示データを表示 IC 266 に送信するとともに、その表示データが第 1～第 8 表示回路 261～264 のいずれに対応しているのかを示す種別データを表示 IC 266 に送信する。図 113 は表示 IC 266 の電氣的な構成を説明するための説明図である。

【1300】

表示 IC 266 は図 113 に示すように、種別データバッファ 281 と、選択信号出力部 282 と、表示データバッファ 283 と、表示データ出力部 284 とを備えている。表示データバッファ 283 には主側 MPU 82 から受信した表示データが格納される。表示データ出力部 284 は表示データバッファ 283 に格納された表示データを第 1～第 8 表示回路 261～264 に送信する。種別データバッファ 281 には主側 MPU 82 から受信した種別データが格納される。選択信号出力部 282 は第 1～第 8 表示回路 261～264 のうち種別データバッファ 281 に格納されている種別データに対応する表示回路 261～264 を表示データの受信先として指定するための選択信号を出力する。

【1301】

詳細には図 111 に示すように、表示 IC 266 と第 1 表示回路 261 とは表示用信号群 291 を利用して電氣的に接続されている。表示用信号群 291 は 8 ビットの表示データを一度に送信することを可能とするように設けられており、8 ビット単位の表示データはパラレル通信で表示 IC 266 から送信される。また、表示用信号群 291 から分岐させて分岐信号群 292 が設けられており、当該分岐信号群 292 は第 2 表示回路 262、第 3 表示回路、第 4 表示回路、第 5 表示回路、第 6 表示回路、第 7 表示回路 263 及び第 8 表示回路 264 のそれぞれと電氣的に接続されている。分岐信号群 292 は表示用信号群 291 と同様に 8 ビットの表示データを一度に送信することを可能とするように設けられており、8 ビット単位の表示データはパラレル通信で表示 IC 266 から送信される。

【1302】

上記のように表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 が設けられていることにより、表示データバッファ 283 に格納された表示データが表示データ出力部 284 により送信された場合、その表示データは第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給される。この場合に、その供給された表示データを受信して利用すべき表示回路 261～264 を指定するために第 1～第 8 選択信号線 301～304 が設けられている。

【1303】

第 1 選択信号線 301 は表示 IC 266 と第 1 表示回路 261 とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 1 表示回路 261 に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 1 表示回路 261 に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 1 選択信号線 301 を通じて第 1 表示回路 261 に第 1 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 1 表示回路 261 のみにおいて受信されて利用される。

【1304】

第 2 選択信号線 302 は表示 IC 266 と第 2 表示回路 262 とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 2 表示回路 262 に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 2 表示回路 262 に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 2 選択信号線 302 を通じて第 2 表示回路 262 に第 2 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 2 表示回路 262 のみにおいて受信されて利用される。

【1305】

第 3 選択信号線（図示略）は表示 IC 266 と第 3 表示回路とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 3 表示回路に対応する種別データが格

10

20

30

40

50

納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 3 表示回路に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 3 選択信号線を通じて第 3 表示回路に第 3 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 3 表示回路のみにおいて受信されて利用される。

【1306】

第 4 選択信号線（図示略）は表示 IC 266 と第 4 表示回路とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 4 表示回路に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 4 表示回路に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 4 選択信号線を通じて第 4 表示回路に第 4 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 4 表示回路のみにおいて受信されて利用される。

10

【1307】

第 5 選択信号線（図示略）は表示 IC 266 と第 5 表示回路とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 5 表示回路に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 5 表示回路に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 5 選択信号線を通じて第 5 表示回路に第 5 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 5 表示回路のみにおいて受信されて利用される。

20

【1308】

第 6 選択信号線（図示略）は表示 IC 266 と第 6 表示回路とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 6 表示回路に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 6 表示回路に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 6 選択信号線を通じて第 6 表示回路に第 6 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 6 表示回路のみにおいて受信されて利用される。

【1309】

30

第 7 選択信号線 303 は表示 IC 266 と第 7 表示回路 263 とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 7 表示回路 263 に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 7 表示回路 263 に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 7 選択信号線 303 を通じて第 7 表示回路 263 に第 7 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 7 表示回路 263 のみにおいて受信されて利用される。

【1310】

第 8 選択信号線 304 は表示 IC 266 と第 8 表示回路 264 とを電氣的に接続するように設けられている。種別データバッファ 281 に第 8 表示回路 264 に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部 284 から供給している表示データを第 8 表示回路 264 に受信させて利用させるために、表示 IC 266 の選択信号出力部 282 は第 8 選択信号線 304 を通じて第 8 表示回路 264 に第 8 選択信号を送信する。これにより、表示用信号群 291 及び分岐信号群 292 を通じて第 1～第 8 表示回路 261～264 の全てに供給されている表示データが、第 8 表示回路 264 のみにおいて受信されて利用される。

40

【1311】

次に、主側 MPU 82 にて実行される本実施形態における第 2 タイマ割込み処理について、図 114 のフローチャートを参照しながら説明する。なお、第 2 タイマ割込み処理に

50

おけるステップS 7 2 0 1～ステップS 7 2 1 3の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MP U 8 2の特定制御処理部2 2 1にて実行される。

【1 3 1 2】

まず第1タイマ割込み処理（図8 8）及び第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップS 7 2 0 1）。第1タイマ割込み処理（図8 8）の発生が禁止されることにより、第1割込み周期が経過したとしても第2タイマ割込み処理（図1 1 4）に対して第1タイマ割込み処理（図8 8）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の発生が禁止されることにより、第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の実行途中において仮に第2割込み周期が経過してしまったとしても第2タイマ割込み処理（図1 1 4）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。

10

【1 3 1 3】

その後、特定制御用のワークエリア2 1 1における設定更新表示フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS 7 2 0 2）。設定更新表示フラグは主側MP U 8 2にて設定値更新処理（図8 3）を実行している状況であるか否かを主側MP U 8 2にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定値更新処理（図8 3）は主側MP U 8 2への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図8 1）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、設定値更新処理（図8 3）が開始された場合にステップS 5 1 0 1にて割込みが許可される。したがって、主側MP U 8 2にて設定値更新処理（図8 3）が実行されている状況であっても第2タイマ割込み処理（図1 1 4）は割り込んで起動される。

20

【1 3 1 4】

設定更新表示フラグに「1」がセットされている状況とは、第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の今回の処理回が主側MP U 8 2にて設定値更新処理（図8 3）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップS 7 2 0 2にて肯定判定をした場合、設定更新中における第7表示データバッファ2 7 7への設定処理を実行する（ステップS 7 2 0 3）。当該設定処理では、パチンコ機1 0の現状の選択対象となっている設定値を示す表示を設定表示装置2 0 5にて行わせるための表示データを第7表示データバッファ2 7 7に格納する。これにより、設定表示装置2 0 5にて、現状の選択対象となっている設定値を示す表示が行われる。

30

【1 3 1 5】

ステップS 7 2 0 2にて否定判定をした場合又はステップS 7 2 0 3の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア2 1 1における設定確認表示フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS 7 2 0 4）。設定確認表示フラグは主側MP U 8 2にて設定確認用処理（図8 2）を実行している状況であるか否かを主側MP U 8 2にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定確認用処理（図8 2）は主側MP U 8 2への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図8 1）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、設定確認用処理（図8 2）が開始された場合にステップS 5 0 0 1にて割込みが許可される。したがって、主側MP U 8 2にて設定確認用処理（図8 2）が実行されている状況であっても第2タイマ割込み処理（図1 1 4）は割り込んで起動される。

40

【1 3 1 6】

設定確認表示フラグに「1」がセットされている状況とは、第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の今回の処理回が主側MP U 8 2にて設定確認用処理（図8 2）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップS 7 2 0 4にて肯定判定をした場合、設定確認中における第7表示データバッファ2 7 7への設定処理を実行する（ステップS 7 2 0 5）。当該設定処理では、パチンコ機1 0の現状の設定値を示す表示を設定表示装置2 0 5にて行わせるための表示データを第7表示データバッファ2 7 7に格納する。これにより、設定表示装置2 0 5にて、現状の設定対象となっている設定値を示す表示が行われる。

50

【1317】

ステップS7204にて否定判定をした場合又はステップS7205の処理を実行した場合、第8表示データバッファ278への設定処理を実行する（ステップS7206）。図115は第8表示データバッファ278への設定処理を示すフローチャートである。なお、第8表示データバッファ278への設定処理におけるステップS7301～ステップS7310の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【1318】

まず特定制御用のワークエリア211におけるチェック中カウンタ211gの値が1以上であるか否かを判定する（ステップS7301）。チェック中カウンタ211gの値が1以上である場合（ステップS7301：YES）、初期チェック期間（具体的には5秒）であることを意味する。この場合、チェック用表示のデータを特定制御用のワークエリア211における第8表示データバッファ278に設定する（ステップS7302）。第8表示データバッファ278に設定された表示データは既に説明したとおり第1～第4報知用表示装置201～204を表示制御するための表示データである。また、チェック用表示のデータは、第1～第4報知用表示装置201～204にてチェック用表示を行わせるための表示データ、すなわち第1～第4報知用表示装置201～204のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a～204aを発光状態とするための表示データである。当該チェック用表示のデータが表示IC266に供給されることにより、図106（b）の説明図に示すように、チェック用表示として、第1～第4報知用表示装置201～204のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a～204aが発光状態となる。これにより、遊技ホールの管理者は第1～第4報知用表示装置201～204の各表示用セグメント201a～204aが正常に発光状態となり得るか否かを把握することが可能となる。

【1319】

その後、特定制御用のワークエリア211におけるチェック中カウンタ211gの値を1減算する（ステップS7303）。これにより、チェック中カウンタ211gを利用して初期チェック期間を計測している状況である場合には、当該チェック中カウンタ211gの値が第2タイマ割込み処理（図114）が起動される度に定期的に減算されることとなる。

【1320】

チェック中カウンタ211gの値が「0」であり初期チェック期間ではない場合（ステップS7301：NO）、非特定制御用のワークエリア213に設けられた管理開始フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS7304）。管理開始フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS7304：NO）、第1、第2報知用表示装置201、202について管理開始前表示の設定処理を実行する（ステップS7305）。当該設定処理では、第1、第2報知用表示装置201、202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a、202aを発光状態とするための表示データを第8表示データバッファ278に設定する。なお、第1、第2報知用表示装置201、202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a、202aを発光状態とする構成に限定されることはなく、第1、第2報知用表示装置201、202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a、202aにて点滅表示が行われるようにする構成としてもよい。

【1321】

その後、非特定制御用のワークエリア213における表示対象設定エリア253に設定された演算結果データを読み出し（ステップS7306）、その読み出した演算結果データを第3、第4報知用表示装置203、204に適用する表示データとして第8表示データバッファ278に設定する（ステップS7307）。詳細は後述するが非特定制御の処理に含まれる表示用処理（図116）では管理開始フラグに「1」がセットされていない場合、現状エリア256からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数

点第1位の数字及び小数点第2位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア253に設定する。ステップS7307ではこの演算結果データを第3,第4報知用表示装置203,204に適用する表示データとして第8表示データバッファ278に設定する。

【1322】

ステップS7305及びステップS7307にて第8表示データバッファ278に設定された表示データが表示IC266に供給されることにより、図106(c)の説明図に示すように、第1,第2報知用表示装置201,202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a,202aが発光状態となっている状況において、第3報知用表示装置203にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第1位の数字が表示されるとともに、第4報知用表示装置204にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第2位の数字が表示される。第1,第2報知用表示装置201,202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a,202aを発光状態としながら第3,第4報知用表示装置203,204にてベース値に対応する数字を表示することにより、現状報知されているベース値が管理開始フラグに「1」がセットされていない状況におけるベース値であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【1323】

管理開始フラグに「1」がセットされている状況においては、既に説明したとおり表示継続期間(具体的には5秒)が経過する度に、現状エリア256→第1履歴エリア257→第2履歴エリア258→第3履歴エリア259という予め定められた順序で第1～第4報知用表示装置201～204にて報知対象となるベース値が切り換えられるのに対して、管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においては現状エリア256のベース値が報知対象として維持される。これにより、パチンコ機10の出荷段階においてパチンコ機10の動作チェックが行われる場合には、現状のベース値を任意のタイミングで確認することが可能となる。

【1324】

管理開始フラグに「1」がセットされている場合(ステップS7304:YES)、非特定制御用のワークエリア213における表示対象設定エリア253に設定された表示データを読み出し、その読み出した表示データを第8表示データバッファ278に設定する(ステップS7308)。当該表示データが表示IC266に供給されることにより、現状エリア256のベース値が報知対象となっているのであれば図105(a)の説明図に示すような表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて行われ、第1履歴エリア257のベース値が報知対象となっているのであれば図105(b)の説明図に示すような表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて行われ、第2履歴エリア258のベース値が報知対象となっているのであれば図105(c)の説明図に示すような表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて行われ、第3履歴エリア259のベース値が報知対象となっているのであれば図105(d)の説明図に示すような表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて行われる。

【1325】

その後、非特定制御用のワークエリア213に設けられた初期表示フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS7309)。初期表示フラグは、現状エリア256のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が算出期間の開始後における演算初期のベース値であることを報知するために第1報知用表示装置201及び第2報知用表示装置202を点滅表示させるべき状況であることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。初期表示フラグに「1」がセットされている場合(ステップS7309:YES)、第1,第2報知用表示装置201,202について点滅設定処理を実行する(ステップS7310)。

【1326】

当該点滅設定処理では、第8表示データバッファ278に現状設定されている表示データに対応する表示が第1,第2報知用表示装置201,202にて行われる場合に、当該

表示が点滅表示されるようにするための設定を行う。点滅表示されるようにするための設定として、具体的には第1, 第2報知用表示装置201, 202に対する表示データの送信については第8表示データバッファ278に現状設定されている表示データに対応するデータを所定点灯期間(例えば0.5秒)が経過するまでは表示IC266に送信し、その後第1, 第2報知用表示装置201, 202の全ての表示用セグメント201a, 202aを消灯状態とするデータを所定消灯期間(例えば0.5秒)が経過するまでは表示IC266に送信し、その後はこれら所定点灯期間と所定消灯期間とが交互に繰り返されるようにする。これにより、ベース値の新たな算出期間が開始された直後において現状エリア256のベース値が報知対象となった場合には第1, 第2報知用表示装置201, 202にて演算初期表示が行われることとなり、第1~第4報知用表示装置201~204にて報知されている現状のベース値が新たな算出期間の開始直後のものであることを遊技ホールの管理者に把握させることが可能となる。

【1327】

ここで、ベース値を表示するための第1~第4報知用表示装置201~204とは別に、設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)において設定値を表示するための設定表示装置205が設けられているとともに、第2タイマ割込み処理(図114)では設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が実行されている状況において、設定表示装置205に設定値を表示させるための処理(ステップS7202~ステップS7205)だけではなく、第1~第4報知用表示装置201~204にベース値を表示させるための処理(ステップS7206)が実行される。これにより、設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が実行されている状況においては、遊技ホールの管理者は遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に回動させて主制御装置71の正面側を露出させることによって、設定表示装置205に表示されている設定値及び第1~第4報知用表示装置201~204に表示されているベース値の両方を目視確認することが可能となる。よって、遊技ホールの管理者は、設定値更新処理(図83)において過去のベース値を確認しながら設定値を新たに設定したり、設定確認処理(図82)において過去のベース値と現状の設定値との対応関係を確認したりすることが可能となる。

【1328】

第2タイマ割込み処理(図114)の説明に戻り、ステップS7206の処理を実行した後は、種別データ信号線LN1及び種別クロック信号線LN2を通じた信号の送信状態をOFF状態とするとともに(ステップS7207)、表示データ信号線LN3及び表示クロック信号線LN4を通じた信号の送信状態をOFF状態とする(ステップS7208)。その後、特定制御用のワークエリア211に設けられた種別カウンタの更新処理を実行する(ステップS7209)。

【1329】

種別カウンタは、第2タイマ割込み処理の今回の処理回において第1~第8表示データバッファ271~278のうち表示データの送信対象を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「1」である場合、第1表示データバッファ271の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「2」である場合、第2表示データバッファ272の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「3」である場合、第3表示データバッファ273の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「4」である場合、第4表示データバッファ274の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「5」である場合、第5表示データバッファ275の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「6」である場合、第6表示データバッファ276の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「7」である場合、第7表示データバッファ277の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「8」である場合、第8表示データバッファ278の表示データが送信対象となる。種別カウンタの更新処理では種別カウンタの値を1加算するとともに、その1加算後における種別カウンタの値が上限値である「8」を超えた場合には種別カウンタの値を「1」に設定する。これにより、第2タ

イマ割込み処理の各処理回ごとに第1～第8表示データバッファ271～278において表示データの送信対象が順次変更される。

【1330】

その後、種別カウンタの値に対応する種別データを主側ROM83から読み出す（ステップS7210）。具体的には、種別カウンタの値が「1」である場合には第1表示回路261に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「2」である場合には第2表示回路262に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「3」である場合には第3表示回路に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「4」である場合には第4表示回路に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「5」である場合には第5表示回路に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「6」である場合には第6表示回路に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「7」である場合には第7表示回路263に対応する種別データを主側ROM83から読み出し、種別カウンタの値が「8」である場合には第8表示回路264に対応する種別データを主側ROM83から読み出す。

【1331】

その後、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ271～278から表示データを読み出す（ステップS7211）。具体的には、種別カウンタの値が「1」である場合には第1表示データバッファ271から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「2」である場合には第2表示データバッファ272から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「3」である場合には第3表示データバッファ273から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「4」である場合には第4表示データバッファ274から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「5」である場合には第5表示データバッファ275から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「6」である場合には第6表示データバッファ276から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「7」である場合には第7表示データバッファ277から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「8」である場合には第8表示データバッファ278から表示データを読み出す。

【1332】

その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップS7212）。当該送信処理では、ステップS7210にて読み出した種別データが表示IC266に送信されるように、種別データ信号線LN1及び種別クロック信号線LN2に対する信号出力を行う。また、当該送信処理では、ステップS7211にて読み出した表示データが表示IC266に送信されるように、表示データ信号線LN3及び表示クロック信号線LN4に対する信号出力を行う。

【1333】

その後、第1タイマ割込み処理（図88）及び第2タイマ割込み処理（図114）の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップS7213）。

【1334】

図116はチェック処理（図108）のステップS6906にて実行される表示用処理を示すフローチャートである。なお、表示用処理におけるステップS7401～ステップS7420の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1335】

まず特定制御用のワークエリア211におけるチェック中カウンタ211gの値が1以上であるか否かを判定する（ステップS7401）。チェック中カウンタ211gの値が1以上である場合（ステップS7401：YES）、非特定制御用のワークエリア213に設けられた前回チェック中フラグに「1」をセットする（ステップS7402）。前回チェック中フラグはチェック中カウンタ211gの値が1以上であることを表示用処理の前の処理回において確認したことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1336】

チェック中カウンタ211gの値が「0」である場合（ステップS7401：NO）、非特定制御用のワークエリア213における管理開始フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS7403）。管理開始フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS7403：NO）、非特定制御用のワークエリア213における前回チェック中フラグを「0」クリアする（ステップS7404）。

【1337】

その後、現状エリア256からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第1位の数字及び小数点第2位の数字に対応する演算結果データを非特定制御用のワークエリア213における表示対象設定エリア253に設定する（ステップS7405）。当該演算結果データに対応する表示データが表示IC266に送信されることにより、現状エリア256のベース値における小数点第1位の数字が第3報知用表示装置203にて表示され、現状エリア256のベース値における小数点第2位の数字が第4報知用表示装置204にて表示される。上記構成であることにより、管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においては過去の算出期間におけるベース値は報知されることなく、現状の算出期間において算出されているベース値のみが報知される。

【1338】

管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においては表示対象設定エリア253に演算結果データは設定されるものの表示種別データは設定されない。管理開始フラグに「1」がセットされていない状況においてベース値の報知が行われる場合には既に説明したとおり、第1報知用表示装置201及び第2報知用表示装置202の表示内容が、管理開始フラグに「1」がセットされている状況においてベース値の報知が行われる場合とは異なる表示内容となる。具体的には、第1、第2報知用表示装置201、202のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント201a、202aが発光状態となる。

【1339】

管理開始フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7403：YES）、非特定制御用のワークエリア213における前回チェック中フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS7406）。前回チェック中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS7406：NO）、非特定制御用のワークエリア213に設けられた切換タイミングカウンタ254（図103参照）の値を1減算する（ステップS7407）。切換タイミングカウンタ254は、演算結果記憶エリア252の現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のそれぞれに記憶されたベース値のうち第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象となるベース値を切り換えるタイミングであることを主側MPU82にて特定するためのカウンタである。既に説明したとおり表示継続期間（具体的には5秒）が経過する度に、現状エリア256→第1履歴エリア257→第2履歴エリア258→第3履歴エリア259という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

【1340】

ステップS7407の処理を実行した場合、1減算後における切換タイミングカウンタ254の値が「0」となっているか否かを判定することで、現状の報知対象となっているベース値が報知対象となってから表示継続期間が経過したか否かを判定する（ステップS7408）。ステップS7408にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア213に設けられた表示対象カウンタ255（図103参照）の値を1加算する（ステップS7409）。そして、1加算後における表示対象カウンタ255の値が最大値である「3」を超えた場合（ステップS7410：YES）、表示対象カウンタ255の値を「0」クリアする（ステップS7411）。

【1341】

表示対象カウンタ255は、演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のそれぞれに記憶されたベース値のうち第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象となる

ベース値を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。具体的には表示対象カウンタの値が「0」である場合には現状エリア256に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「1」である場合には第1履歴エリア257に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「2」である場合には第2履歴エリア258に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「3」である場合には第3履歴エリア259に記憶されたベース値が報知対象となる。

【1342】

ステップS7410にて否定判定をした場合、又はステップS7411の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア213における切換タイミングカウンタ254に次の報知対象の切換タイミングに対応する値として表示継続期間（具体的には5秒）に対応する値をセットする（ステップS7412）。

10

【1343】

ステップS7408にて否定判定をした場合、又はステップS7412の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア213における表示対象設定エリア253に今回の報知対象となっているベース値に対応する表示データを設定するための処理を実行する。具体的には、まず表示対象カウンタ255の値に対応する表示種別データを表示対象設定エリア253に設定する（ステップS7413）。表示種別データは、第1～第4報知用表示装置201～204の報知対象がベース値であることを示す表示を第1報知用表示装置201に行わせるための表示データと、報知対象のベース値が演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のうちいずれに対応しているのかを示す表示を第2報知用表示装置202に行わせるための表示データとを含む。

20

【1344】

その後、演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のうち表示対象カウンタ255の値に対応するエリアからベース値を読み出し、その読み出したベース値における少数点第1位の数字及び少数点第2位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア253に設定する（ステップS7414）。演算結果データは、報知対象のベース値における小数点第1位の数字に対応する表示を第3報知用表示装置203に行わせるための表示データと、報知対象のベース値における小数点第2位の数字に対応する表示を第4報知用表示装置204に行わせるための表示データとを含む。

30

【1345】

上記のように表示対象設定エリア253に表示種別データと演算結果データとからなる表示データが設定される。第2タイマ割込み処理（図114）にて当該表示データが表示IC266に送信されることにより、第1～第4報知用表示装置201～204にて当該表示データに対応する表示が行われる。

【1346】

また、ステップS7414の処理は報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図116）が実行される度に実行される。既に説明したとおり演算結果記憶処理（図110）が実行される度に通常用カウンタエリア251の各カウンタ251a～251eにおける現状の値を利用してベース値が算出され、その算出されたベース値が演算結果記憶エリア252の現状エリア256に記憶される。この場合に、上記のとおり演算結果データを表示対象設定エリア253に設定するためのステップS7414の処理が報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図116）が実行される度に実行されることにより、現状エリア256のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が変更された場合にはその変更されたベース値を報知することが可能となる。

40

【1347】

その後、表示対象カウンタの値に基づき現状エリア256のベース値が報知対象となっているか否かを判定するとともに（ステップS7415）、非特定制御用のワークエリア

50

213に設けられた演算初期フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS7416）。演算初期フラグは既に説明した通り、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状態で遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域PAに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数に達しているか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。ステップS7415及びステップS7416の両方にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア213における初期表示フラグに「1」をセットし（ステップS7417）、ステップS7415及びステップS7416のいずれかにて否定判定をした場合、初期表示フラグを「0」クリアする（ステップS7418）。

【1348】

初期表示フラグは、現状エリア256のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が算出期間の開始後における演算初期のベース値であることを報知するために第1報知用表示装置201及び第2報知用表示装置202を点滅表示させるべき状況であることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。第2タイマ割込み処理（図114）にて初期表示フラグに「1」がセットされていることを特定した場合、表示対象設定エリア253に記憶された表示データを表示IC266に送信するだけでなく、当該表示データに対応する表示を第1～第4報知用表示装置201～204にて行わせる場合に第1報知用表示装置201及び第2報知用表示装置202を点滅表示させるとともに第3報知用表示装置203及び第4報知用表示装置204を点灯表示させる。なお、第2タイマ割込み処理（図114）にて初期表示フラグに「1」がセットされていないことを特定した場合、表示対象設定エリア253に記憶された表示データに対応する表示を第1～第4報知用表示装置201～204にて行わせる場合に第1～4報知用表示装置201～204を点灯表示させる。

【1349】

特定制御用のワークエリア211におけるチェック中カウンタ211gの値が「0」であるとともに非特定制御用のワークエリア213における管理開始フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS7401：NO、ステップS7403：YES）、非特定制御用のワークエリア213における前回チェック中フラグに「1」がセットされている場合（ステップS7406：YES）、管理開始フラグに「1」がセットされている状況で主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において、初期チェック期間（具体的には5秒）が経過したことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213における前回チェック中フラグを「0」クリアした後に（ステップS7419）、切換タイミングカウンタ254の設定処理を実行する（ステップS7420）。

【1350】

切換タイミングカウンタ254の設定処理では、非特定制御用のワークエリア213における切換タイミングカウンタ254に次の報知対象の切換タイミングに対応する値として表示継続期間（具体的には5秒）に対応する値を設定する。一方、非特定制御用のワークエリア213における表示対象カウンタ255の値は更新されることなく維持される。表示対象カウンタ255は、演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のそれぞれに記憶されたベース値のうち第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象となるベース値を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【1351】

ステップS7419及びステップS7420の処理を実行した後は、ステップS7413～ステップS7418の処理を実行する。これにより、演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のそれぞれに記憶されたベース値のうち表示対象カウンタ255の値に対応するベース値の表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて開始される。

【1352】

上記のとおり主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合における動作電力の

10

20

30

40

50

供給開始時の処理（ステップS 4 9 0 1～ステップS 4 9 2 8）において設定確認用処理（図8 2）又は設定値更新処理（図8 3）が実行されることで第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にてベース値の表示が開始された後に、設定確認用処理（図8 2）又は設定値更新処理（図8 3）が終了して初期チェック期間（具体的には5秒）が発生した場合、当該初期チェック期間が終了した場合には、演算結果記憶エリア2 5 2における現状エリア2 5 6、第1履歴エリア2 5 7、第2履歴エリア2 5 8及び第3履歴エリア2 5 9のそれぞれに記憶されたベース値のうち当該初期チェック期間が開始される直前に報知対象であったベース値の表示が第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にて再開されるとともに、その再開されたベース値の表示は初期チェック期間が開始されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく表示継続期間（具体的には5秒）に亘って行われる。これにより、初期チェック期間の終了後におけるベース値の表示を適切に行うことが可能となる。

10

【1 3 5 3】

なお、切換タイミングカウンタ2 5 4及び表示対象カウンタ2 5 5は既に説明したとおり非特定制御用のワークエリア2 1 3に設けられている。設定値更新処理（図8 3）ではRAMクリア処理（ステップS 5 1 1 3）が実行されることとなるが、当該RAMクリア処理（ステップS 5 1 1 3）では特定制御用のワークエリア2 1 1及び特定制御用のスタックエリア2 1 2に対するクリア処理が実行されるが、非特定制御用のワークエリア2 1 3及び非特定制御用のスタックエリア2 1 4に対するクリア処理が実行されない。したがって、設定値更新処理（図8 3）においてRAMクリア処理（ステップS 5 1 1 3）が実行されたとしても切換タイミングカウンタ2 5 4の情報及び表示対象カウンタ2 5 5の情報はクリアされることなく維持される。

20

【1 3 5 4】

図1 1 7は主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始された場合における第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4及び設定表示装置2 0 5にて各種表示が行われる様子を示すタイムチャートである。図1 1 7（a）は主側MPU 8 2に動作電力が供給されている期間を示し、図1 1 7（b）は設定値更新処理（図8 3）が実行されている期間を示し、図1 1 7（c）は演算結果記憶エリア2 5 2における現状エリア2 5 6に格納されているベース値が第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にて表示されている期間を示し、図1 1 7（d）は演算結果記憶エリア2 5 2における第1履歴エリア2 5 7に格納されているベース値が第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にて表示されている期間を示し、図1 1 7（e）は演算結果記憶エリア2 5 2における第2履歴エリア2 5 8に格納されているベース値が第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にて表示されている期間を示し、図1 1 7（f）は演算結果記憶エリア2 5 2における第3履歴エリア2 5 9に格納されているベース値が第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にて表示されている期間を示し、図1 1 7（g）は非特定制御用のワークエリア2 1 3における切換タイミングカウンタ2 5 4の値を示し、図1 1 7（h）は設定表示装置2 0 5にて設定値の表示が行われている期間を示し、図1 1 7（i）は第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4にてチェック用表示が行われている期間を示す。

30

【1 3 5 5】

まず動作電力の供給が開始された場合に設定確認処理（図8 2）及び設定値更新処理（図8 3）が実行されない場合について説明する。

40

【1 3 5 6】

t 1のタイミングで図1 1 7（a）に示すように主側MPU 8 2への動作電力の供給が開始される。この場合、第1タイマ割込み処理（図8 8）及び第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の実行は禁止されている。第2タイマ割込み処理（図1 1 4）の実行が禁止されていることで、第1～第4報知用表示装置2 0 1～2 0 4は消灯状態に維持され、ベース値の表示は開始されない。

【1 3 5 7】

その後、t 2のタイミングで、チェック中カウンタ2 1 1 gの設定処理（ステップS 4

50

926) が実行されるとともに、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の実行が許可される。したがって、当該t2のタイミングで図117(i)に示すように第1～第4報知用表示装置201～204においてチェック用表示が開始される。遊技ホールの管理者は当該チェック用表示を目視確認することで、第1～第4報知用表示装置201～204に故障が発生していないか否かを特定することが可能となる。

【1358】

その後、t2のタイミングから初期チェック期間(具体的には5秒)が経過することで、t3のタイミングで図117(i)に示すように第1～第4報知用表示装置201～204におけるチェック用表示が終了する。第2タイマ割込み処理(図114)の実行が許可されている状況においてチェック用表示が終了することで、図117(c)に示すように現状エリア256に格納されているベース値の表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて開始される。また、当該t3のタイミングで図117(g)に示すように、切換タイミングカウンタ254に表示継続期間(具体的には5秒)に対応する情報がセットされる。

【1359】

その後、t4のタイミングで図117(g)に示すように切換タイミングカウンタ254において計測されている表示継続期間(具体的には5秒)が経過することで、当該t4のタイミングで図117(c)及び図117(d)に示すように、第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象が現状エリア256に格納されているベース値から第1履歴エリア257に格納されているベース値に変更される。その後、t5のタイミング、t6のタイミング及びt7のタイミングを含めて、図117(g)に示すように表示継続期間(具体的には5秒)が経過する度に、図117(c)～図117(f)に示すように第1～第4報知用表示装置201～204において報知対象となるベース値が予め定められた順序(現状エリア256→第1履歴エリア257→第2履歴エリア258→第3履歴エリア259)に従って順次切り換えられる。また、最後の順序である第3履歴エリア259におけるベース値の表示が表示継続期間(具体的には5秒)に亘って行われた後は、最初の順序である現状エリア256におけるベース値の表示が表示継続期間(具体的には5秒)に亘って行われる。

【1360】

次に、動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理(図83)が実行される場合について説明する。

【1361】

t8のタイミングで図117(a)に示すように主側MPU82への動作電力の供給が開始される。この場合、第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の実行は禁止されている。第2タイマ割込み処理(図114)の実行が禁止されていることで、第1～第4報知用表示装置201～204は消灯状態に維持され、ベース値の表示は開始されない。

【1362】

その後、t9のタイミングで図117(b)に示すように主側MPU82にて設定値更新処理(図83)が開始される。設定値更新処理(図83)が開始されることで、当該t9のタイミングで図117(h)に示すように現状の選択対象となっている設定値の表示が設定表示装置205にて開始される。

【1363】

また、設定値更新処理(図83)が開始されることで第1タイマ割込み処理(図88)及び第2タイマ割込み処理(図114)の実行が許可される。第2タイマ割込み処理(図114)の実行が許可されることによって、t9のタイミングで図117(c)に示すように現状エリア256に格納されているベース値の表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて開始される。これにより、図117(h)に示すように設定表示装置205にて設定値が表示されているとともに図117(c)に示すように第1～第4報知用表

10

20

30

40

50

示装置 201～204 にてベース値が表示されている状況となる。また、当該 t9 のタイミングで図 117 (g) に示すように、切換タイミングカウンタ 254 に表示継続期間（具体的には 5 秒）に対応する情報がセットされる。

【1364】

その後、t10 のタイミングで図 117 (g) に示すように切換タイミングカウンタ 254 において計測されている表示継続期間（具体的には 5 秒）が経過することで、当該 t10 のタイミングで図 117 (c) 及び図 117 (d) に示すように、第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 における報知対象が現状エリア 256 に格納されているベース値から第 1 履歴エリア 257 に格納されているベース値に変更される。また、当該 t10 のタイミングで図 117 (g) に示すように、切換タイミングカウンタ 254 に表示継続期間（具体的には 5 秒）に対応する情報がセットされる。

10

【1365】

その後、t11 のタイミングで図 117 (g) に示すように切換タイミングカウンタ 254 において計測されている表示継続期間（具体的には 5 秒）が経過することで、当該 t11 のタイミングで図 117 (d) 及び図 117 (e) に示すように、第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 における報知対象が第 1 履歴エリア 257 に格納されているベース値から第 2 履歴エリア 258 に格納されているベース値に変更される。また、当該 t11 のタイミングで図 117 (g) に示すように、切換タイミングカウンタ 254 に表示継続期間（具体的には 5 秒）に対応する情報がセットされる。

20

【1366】

その後、t12 のタイミングで図 117 (g) に示すように切換タイミングカウンタ 254 において計測されている表示継続期間（具体的には 5 秒）が経過することで、当該 t12 のタイミングで図 117 (e) 及び図 117 (f) に示すように、第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 における報知対象が第 2 履歴エリア 258 に格納されているベース値から第 3 履歴エリア 259 に格納されているベース値に変更される。また、当該 t12 のタイミングで図 117 (g) に示すように、切換タイミングカウンタ 254 に表示継続期間（具体的には 5 秒）に対応する情報がセットされる。

【1367】

その後、図 117 (g) に示すように切換タイミングカウンタ 254 における表示継続期間の計測途中である t13 のタイミングで、図 117 (b) に示すように設定値更新処理（図 83）が終了する。設定値更新処理（図 83）が終了することで当該 t13 のタイミングで図 117 (h) に示すように設定表示装置 205 における設定値の表示が終了される。この場合、設定表示装置 205 は消灯状態となる。

30

【1368】

また、設定値更新処理（図 83）が終了することで当該 t13 のタイミングで図 117 (f) に示すように第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 においてベース値の表示が終了する。また、当該 t13 のタイミングで、チェック中カウンタ 211g の設定処理（ステップ S4926）が実行されるとともに、第 1 タイマ割込み処理（図 88）及び第 2 タイマ割込み処理（図 114）の実行が許可される。したがって、当該 t13 のタイミングで図 117 (i) に示すように第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 においてチェック用表示が開始される。遊技ホールの管理者は当該チェック用表示を目視確認することで、第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 に故障が発生していないか否かを特定することが可能となる。

40

【1369】

その後、t13 のタイミングから初期チェック期間（具体的には 5 秒）が経過することで、t14 のタイミングで図 117 (i) に示すように第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 におけるチェック用表示が終了する。第 2 タイマ割込み処理（図 114）の実行が許可されている状況においてチェック用表示が終了することで、ベース値の表示が開始される。この場合、図 117 (f) に示すように第 1～第 4 報知用表示装置 201～204 の報知対象となるベース値は、チェック用表示が開始される直前に行われていた第 3 履

50

歴エリア259のベース値である。また、図117(g)に示すように切換タイミングカウンタ254には表示継続期間(具体的には5秒)に対応する情報が新たにセットされる。これにより、チェック用表示が開始される直前に行われていた種類のベース値の表示がチェック用表示の終了後に再開されるとともに、当該ベース値の表示はチェック用表示が開始される直前における残りの表示継続期間に亘って行われるのではなく、表示継続期間が新たにセットされることで当該表示継続期間に亘って行われる。

【1370】

その後、t15のタイミングで図117(g)に示すように切換タイミングカウンタ254において計測されている表示継続期間(具体的には5秒)が経過することで、当該t15のタイミングで図117(c)及び図117(f)に示すように、第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象が第3履歴エリア259に格納されているベース値から現状エリア256に格納されているベース値に変更される。また、t16のタイミングで図117(g)に示すように切換タイミングカウンタ254において計測されている表示継続期間(具体的には5秒)が経過することで、当該t16のタイミングで図117(c)及び図117(d)に示すように、第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象が現状エリア256に格納されているベース値から第1履歴エリア257に格納されているベース値に変更される。

【1371】

ベース値を表示するための第1～第4報知用表示装置201～204とは別に、設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)において設定値を表示するための設定表示装置205が設けられているとともに、第2タイマ割込み処理(図114)では設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が実行されている状況において、設定表示装置205に設定値を表示させるための処理(ステップS7202～ステップS7205)だけではなく、第1～第4報知用表示装置201～204にベース値を表示させるための処理(ステップS7206)が実行される。これにより、設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が実行されている状況においては、遊技ホールの管理者は遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に回動させて主制御装置71の正面側を露出させることによって、設定表示装置205に表示されている設定値及び第1～第4報知用表示装置201～204に表示されているベース値の両方を目視確認することが可能となる。よって、遊技ホールの管理者は、設定値更新処理(図83)において過去のベース値を確認しながら設定値を新たに設定したり、設定確認処理(図82)において過去のベース値と現状の設定値との対応関係を確認したりすることが可能となる。

【1372】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合における動作電力の供給開始時の処理(ステップS4901～ステップS4928)において設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が実行されることで第1～第4報知用表示装置201～204にてベース値の表示が開始された後に、設定確認用処理(図82)又は設定値更新処理(図83)が終了して初期チェック期間(具体的には5秒)が発生した場合、当該初期チェック期間が終了した場合には、演算結果記憶エリア252における現状エリア256、第1履歴エリア257、第2履歴エリア258及び第3履歴エリア259のそれぞれに記憶されたベース値のうち当該初期チェック期間が開始される直前に報知対象であったベース値の表示が第1～第4報知用表示装置201～204にて再開されるとともに、その再開されたベース値の表示は初期チェック期間が開始されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく表示継続期間(具体的には5秒)に亘って行われる。これにより、初期チェック期間の終了後におけるベース値の表示を適切に行うことが可能となる。

【1373】

<情報を消去するための処理>

次に、情報を消去するための処理について説明する。図118は、メイン処理(図81)のステップS4919又は設定値更新処理(図83)のステップS5113にて実行されるRAMクリア処理を示すフローチャートである。なお、RAMクリア処理におけるス

10

20

30

40

50

テップ S 7 5 0 1 ～ステップ S 7 5 0 6 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

【 1 3 7 4 】

まずプロテクト解除処理を実行する（ステップ S 7 5 0 1）。プロテクト解除処理では、主側 R A M 8 4 の各エリアのうち特定制御用のワークエリア 2 1 1、特定制御用のスタックエリア 2 1 2、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 以外のエリアである未使用のエリアが情報の書き込み（「0」クリアを含む）の対象から除外された状態を解除するための処理を実行する。

【 1 3 7 5 】

主側 M P U 8 2 には既に説明したとおり、主側 R A M 8 4 に対する情報の書き込み及び主側 R A M 8 4 からの情報の読み出しを行うための R A M 管理回路 2 2 5（図 7 9 参照）が設けられている。R A M 管理回路 2 2 5 は、主側 M P U 8 2 におけるプログラムによる処理の実行により情報の読み出し対象となるエリアのアドレスが指定された場合、その指定されたアドレスのエリアから情報を読み出して主側 M P U 8 2 に供給し、主側 M P U 8 2 におけるプログラムによる処理の実行により情報の書き込み対象となるエリアのアドレスが指定された場合、その指定されたアドレスのエリアに指定された情報を書き込む。この場合に、主側 R O M 8 3 における特定制御用のデータには主側 R A M 8 4 において未使用のエリアのアドレス範囲（アドレス Y（r+3）～アドレス Y（r+5）、アドレス Y（s+3）～アドレス Y（s+5）、アドレス Y（t+3）～アドレス Y（t+5））が予め記憶されている。R A M 管理回路 2 2 5 は、プロテクト設定が行われている場合には、情報の書き込み対象となるエリアのアドレスが指定された場合にそのアドレスが主側 R O M 8 3 に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているのであれば当該情報の書き込みを行わない一方、プロテクト設定が解除されている場合には、情報の書き込み対象として指定されたアドレスに含まれているのであれば未使用のエリアのアドレス範囲であってもそのアドレス範囲のエリアに対して情報の書き込みを行う。この情報の書き込みには「0」クリアも含まれる。

【 1 3 7 6 】

主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 には既に説明したとおりプロテクトレジスタ 2 2 3 c が設けられている（図 7 9 参照）。プロテクトレジスタ 2 2 3 c は主側 R A M 8 4 における未使用のエリア（アドレス Y（r+3）～アドレス Y（r+5）、アドレス Y（s+3）～アドレス Y（s+5）、アドレス Y（t+3）～アドレス Y（t+5））に対する情報の書き込みを不可とするか否かを R A M 管理回路 2 2 5 において特定するための記憶エリアである。プロテクトレジスタ 2 2 3 c にプロテクト情報が設定されている場合には上記プロテクト設定が行われている状況となり、主側 R O M 8 3 に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているアドレスが書き込み対象として指定されたとしても上記のとおり当該アドレスのエリアには情報の書き込みは行われず。一方、プロテクトレジスタ 2 2 3 c にプロテクト情報が設定されていない場合には上記プロテクト設定が行われていない状況となり、主側 R O M 8 3 に記憶されている未使用のエリアのアドレス範囲に含まれているアドレスが書き込み対象として指定された場合にそのアドレスのエリアに情報の書き込みが行われる。

【 1 3 7 7 】

プロテクトレジスタ 2 2 3 c は 1 ビットのエリアとして設定されているとともに、当該プロテクトレジスタ 2 2 3 c に「1」が設定されている場合が当該プロテクトレジスタ 2 2 3 c にプロテクト情報が設定されている場合に該当し、当該プロテクトレジスタ 2 2 3 c の情報が「0」である場合が当該プロテクトレジスタ 2 2 3 c にプロテクト情報が設定されていない場合に該当する。ステップ S 7 5 0 1 のプロテクト解除処理では、プロテクトレジスタ 2 2 3 c を「0」クリアする。

【 1 3 7 8 】

その後、主側 M P U 8 2 の所定のレジスタに対象アドレスとしてアドレス Y（3）を設定する（ステップ S 7 5 0 2）。アドレス Y（3）は、図 7 7 に示すように主側 R A M 8

10

20

30

40

50

4において特定制御用のワークエリア211に含まれるエリアのアドレスであって、主側RAM84及び特定制御用のワークエリア211における先頭アドレスY(1)及び2番目のアドレスY(2)に対して次の順番に設定されているアドレスである。先頭アドレスY(1)に対応するエリアは、使用対象の設定値の情報が記憶される設定参照用エリアとなっている。また、2番目のアドレスY(2)に対応するエリアは、設定更新表示フラグとなっている。RAMクリア処理(図118)では3番目のアドレスY(3)以降のアドレスに対応するエリアに対してクリア処理が実行されるが、先頭アドレスY(1)に対応する設定参照用エリア及び2番目のアドレスY(2)に対応する設定更新表示フラグに対してはクリア処理が実行されない。これにより、RAMクリア処理(図118)によって使用対象の設定値の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となるとともに、設定値更新処理(図83)の実行途中の状況であることを示す情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。なお、RAMクリア処理(図118)の対象から除外されたエリアとして、上記第1の実施形態と同様に天井カウンタ131が含まれている構成としてもよい。

10

【1379】

その後、対象アドレスに対応するエリアに対して「0」クリアを行うとともに初期設定を実行する(ステップS7503)。クリア対象アドレスがアドレスY(3)である場合には当該アドレスY(3)に対応するエリアを「0」クリアするとともに初期設定を実行する。また、クリア対象アドレスがアドレスY(r+3)～アドレスY(r+5)のいずれかである場合には対応するエリアが未使用のエリアとなるが、ステップS7501にてプロテクトレジスタ223cが「0」クリアされているため、当該未使用のエリアに対しても「0」クリアするとともに初期設定を実行する。

20

【1380】

その後、対象アドレスがアドレスY(s+1)であるか否かを判定する(ステップS7504)。アドレスY(s+1)は、図77に示すように特定制御用のスタックエリア212に含まれるエリアのアドレスであって、当該特定制御用のスタックエリア212における最終アドレスY(s+2)に対して1個前の順序のアドレスである。特定制御用のスタックエリア212における最終アドレスY(s+2)にはRAMクリア処理(図118)を終了した後におけるプログラム上の戻り番地の情報が設定されているため、RAMクリア処理(図118)の対象から除外されている。

30

【1381】

対象アドレスがアドレスY(s+1)ではない場合(ステップS7504:NO)、対象アドレスを次の順番のアドレスに更新する(ステップS7505)。具体的には、対象アドレスを1加算する。そして、その1加算後におけるアドレスに対応するエリアに対してステップS7503にて「0」クリア及び初期設定を行い、ステップS7504の処理を実行する。

【1382】

対象アドレスが特定制御用のワークエリア211における最終アドレスY(r+2)である状況でステップS7505の処理が実行された場合には、対象アドレスが未使用のエリアに対応するアドレスY(r+3)となり、当該未使用のエリアに対して「0」クリア及び初期設定が行われる。この場合、初期設定は行われなため、単に「0」クリアされる。また、対象アドレスが未使用のエリアに対応するアドレスY(r+5)である状況でステップS7505の処理が実行された場合には、対象アドレスが特定制御用のスタックエリア212における先頭アドレスY(r+6)となり、当該特定制御用のスタックエリア212における先頭アドレスY(r+6)のエリアに対して「0」クリア及び初期設定が行われる。この場合、初期設定は行われなため、単に「0」クリアされる。

40

【1383】

上記ステップS7503～ステップS7505の処理が繰り返されることによって、特定制御用のワークエリア211におけるアドレスY(3)～アドレスY(r+2)のエリア、特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212との間のアド

50

レス範囲（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）における未使用のエリア、及び特定制御用のスタックエリア212におけるアドレス $Y(r+6)$ ～アドレス $Y(s+1)$ のエリアに対して「0」クリア及び初期設定が行われる。そして、アドレス $Y(s+1)$ のエリアに対して「0」クリア及び初期設定を行った後におけるステップS7504にて肯定判定をする。

【1384】

ステップS7504にて肯定判定をした場合、メイン処理（図81）のステップS4903と同様に、プロテクト設定処理を実行する（ステップS7506）。プロテクト設定処理では既に説明したとおり、プロテクトレジスタ223cに「1」をセットする。プロテクトレジスタ223cに「1」がセットされてプロテクト情報が設定されている状態となることにより、主側RAM84における未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ 、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対する情報の書き込みが不可となる。その後、本RAMクリア処理を終了する。

【1385】

上記のようにRAMクリア処理（図118）が実行されることにより、動作電力の供給が開始された場合に必要に応じて特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212の一部のエリアに対してクリア処理を実行することが可能となる。この場合に、主側RAM84において特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212との間に未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）が設定されている構成において、RAMクリア処理（図118）が実行される場合にはプロテクト解除処理（ステップS7501）が実行されてプロテクトレジスタ223cが「0」クリアされることで、未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ 、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対する情報の書き込みが不可となった状態が解除される。これにより、RAMクリア処理（図118）においては特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212に対してクリア処理を実行する場合に、特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212との間に設定されている未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）を含めて特定制御用のワークエリア211から特定制御用のスタックエリア212に亘る一連の範囲となるアドレス範囲（アドレス $Y(3)$ ～ $Y(s+1)$ ）を指定してクリア処理を実行すればよい。よって、特定制御用のワークエリア211においてクリア処理の対象となるアドレス範囲と特定制御用のスタックエリア212においてクリア処理の対象となるアドレス範囲とを区別してRAMクリア処理（図118）を実行する構成に比べて処理負荷を軽減することが可能となる。

【1386】

RAMクリア処理（図118）が開始される場合にプロテクト解除処理（ステップS7501）が実行されてプロテクトレジスタ223cが「0」クリアされたとしても、クリア対象となるアドレス範囲のエリアに対するクリア処理の実行が完了した場合には、プロテクト設定処理（ステップS7506）が実行されてプロテクトレジスタ223cに「1」がセットされる。これにより、RAMクリア処理（図118）が完了した段階においては、主側RAM84における未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ 、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対する情報の書き込みを再度不可とすることが可能となる。

【1387】

プロテクト解除処理（ステップS7501）においては主側MPU82のレジスタエリア223におけるプロテクトレジスタ223cを「0」クリアし、プロテクト設定処理（ステップS7506）においては当該プロテクトレジスタ223cに「1」を設定する構成である。これにより、RAMクリア処理（図118）において処理負荷を軽減しながら、主側RAM84における未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対する情報の書き込みを再度不可とすることが可能となる。

($t+5$)) に対する情報の書き込みを可能とするための処理、及び当該未使用のエリア(アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ 、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$)に対する情報の書き込みを不可とするための処理を行うことが可能となる。

【1388】

次に、非特定制御の処理に含まれる第2管理用処理(図107)のステップS6808にて実行される情報異常監視処理について図119のフローチャートを参照しながら説明する。なお、情報異常監視処理におけるステップS7601～ステップS7606の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

10

【1389】

まず非特定制御用のワークエリア213の監視処理を実行する(ステップS7601)。当該監視処理では、非特定制御用のプログラムにおいて実行している処理の処理位置を示すポインタの値が正常な数値範囲を超えた値となっているか否かを判定し、正常な数値範囲を超えた場合には異常有りとして特定する。また、非特定制御用のワークエリア213における通常用カウンタエリア251に記憶されている情報が明らかに異常な情報となっているか否かを判定する。例えば通常用カウンタエリア251においてアウトカウンタ251eの値が「0」であるにも関わらず一般入賞カウンタ251aの値が1000以上となっている場合には異常有りとして特定する。

【1390】

ステップS7601における監視処理にて異常有りとして特定した場合(ステップS7602: YES)、主側MPU82の所定のレジスタに対象アドレスとしてアドレス $Y(s+k)$ を設定する(ステップS7603)。非特定制御用のワークエリア213においてその先頭アドレス $Y(s+6)$ ～アドレス $Y(s+k-1)$ までのエリアは、特定制御の処理から非特定制御の処理が実行される場合に主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報が退避されるWAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファとなっている。情報異常監視処理(図119)では非特定制御用のワークエリア213のうちアドレス $Y(s+k)$ 以降のアドレスに対応するエリアに対してクリア処理が実行されるが、非特定制御用のワークエリア213における先頭アドレス $Y(s+6)$ ～アドレス $Y(s+k-1)$ のアドレス範囲のエリアに対してはクリア処理が実行されない。これにより、情報異常監視処理(図119)において情報異常の発生が特定されたとしても、特定制御の処理から非特定制御の処理が実行される場合に主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタから非特定制御用のワークエリア213に退避された情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

20

30

【1391】

その後、対象アドレスに対応するエリアに対して「0」クリアを行うとともに初期設定を実行する(ステップS7604)。クリア対象アドレスがアドレス $Y(s+k)$ である場合には当該アドレス $Y(s+k)$ に対応するエリアを「0」クリアするとともに初期設定を実行する。

40

【1392】

その後、対象アドレスがアドレス $Y(t+2)$ であるか否かを判定する(ステップS7605)。アドレス $Y(t+2)$ は、図77に示すように非特定制御用のワークエリア213における最終アドレスである。

【1393】

対象アドレスが非特定制御用のワークエリア213における最終アドレス($t+2$)ではない場合(ステップS7605: NO)、対象アドレスを次の順番のアドレスに更新する(ステップS7606)。具体的には、対象アドレスを1加算する。そして、その1加算後におけるアドレスに対応するエリアに対してステップS7604にて「0」クリア及

50

び初期設定を行い、ステップS7605の処理を実行する。これにより、非特定制御用のワークエリア213における所定のアドレス範囲（アドレスY（s+k）～アドレスY（t+2））に含まれるエリアに対して「0」クリア及び初期設定が行われる。当該アドレス範囲（アドレスY（s+k）～アドレスY（t+2））のエリアには、第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213h、磁気検知カウンタ213i、磁気監視遅延タイマカウンタ213j、第2セキュリティカウンタ213k、第1～第3一般入賞異常フラグ213l～213n、特電入賞異常フラグ213o、第1作動入賞異常フラグ213p、第2作動入賞異常フラグ213q、アウト異常フラグ213r、ゲート入賞異常フラグ213s、磁気異常フラグ213t、通常用カウンタエリア251、演算結果記憶エリア252、表示対象設定エリア253、切換タイミングカウンタ254及び表示対象カウンタ255が含まれる。非特定制御用のワークエリア213における最終アドレス（t+2）に対してクリア処理が実行されてステップS7605にて肯定判定をした場合、本情報異常監視処理を終了する。

10

【1394】

上記のように情報異常監視処理（図119）では非特定制御用のワークエリア213に情報異常が発生していることが特定された場合には、当該非特定制御用のワークエリア213において主側MPU82におけるレジスタの情報が退避されたエリア以外のエリアに対してクリア処理が実行される。これにより、情報異常に対処することが可能となる。

【1395】

情報異常監視処理（図119）では非特定制御用のワークエリア213に対してクリア処理が実行されるが、非特定制御用のスタックエリア214に対してはクリア処理が実行されない。非特定制御用のワークエリア213と非特定制御用のスタックエリア214との間には未使用のエリア（アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））が存在しているが、非特定制御用のワークエリア213には未使用のエリアが存在していない。したがって、情報異常監視処理（図119）において一連のアドレス範囲を指定してクリア処理を実行する構成であったとしても、プロテクト解除処理及びプロテクト設定処理を実行する必要がない。

20

【1396】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【1397】

主側MPU82にて特定制御の処理が実行される場合に情報の書き込みが行われる主側RAM84の記憶領域として特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212とが設けられていることにより、情報の書き込み対象となる記憶領域を役割に応じて特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212とで使い分けることが可能となる。また、主側RAM84のアドレスにおいて特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212との間に未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5））が設けられており、当該未使用のエリアには特定制御の処理が実行される場合に情報の書き込みが行われないため、主側RAM84のアドレスにおいて特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212とを明確に区別することが可能となる。

30

40

【1398】

この場合に、RAMクリア処理（図118）が実行される場合にはプロテクト解除処理（ステップS7501）が実行されてプロテクトレジスタ223cが「0」クリアされることで、未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）、アドレスY（s+3）～アドレスY（s+5）、アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））に対する情報の書き込みが不可となった状態が解除される。これにより、RAMクリア処理（図118）においては、特定制御用のワークエリア211と特定制御用のスタックエリア212との間に設定されている未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5））を含めて特定制御用のワークエリア211から特定制御用のスタックエリア212に亘る一連の範囲となるアドレス範囲（アドレスY（3）～Y（s+1））を指定して

50

クリア処理を実行すればよい。よって、特定制御用のワークエリア211においてクリア処理の対象となるアドレス範囲と特定制御用のスタックエリア212においてクリア処理の対象となるアドレス範囲とを区別してRAMクリア処理（図118）を実行する構成に比べて処理負荷を軽減することが可能となる。

【1399】

RAMクリア処理（図118）が開始される場合にプロテクト解除処理（ステップS7501）が実行されてプロテクトレジスタ223cが「0」クリアされたとしても、クリア対象となるアドレス範囲のエリアに対するクリア処理の実行が完了した場合には、プロテクト設定処理（ステップS7506）が実行されてプロテクトレジスタ223cに「1」がセットされる。これにより、RAMクリア処理（図118）が完了した段階においては、主側RAM84における未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）、アドレスY（s+3）～アドレスY（s+5）、アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））に対する情報の書き込みを再度不可とすることが可能となる。

【1400】

プロテクト解除処理（ステップS7501）においては主側MPU82のレジスタエリア223におけるプロテクトレジスタ223cを「0」クリアし、プロテクト設定処理（ステップS7506）においては当該プロテクトレジスタ223cに「1」を設定する構成である。これにより、RAMクリア処理（図118）において処理負荷を軽減しながら、主側RAM84における未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）、アドレスY（s+3）～アドレスY（s+5）、アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））に対する情報の書き込みを可能とするための処理、及び当該未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）、アドレスY（s+3）～アドレスY（s+5）、アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））に対する情報の書き込みを不可とするための処理を行うことが可能となる。

【1401】

RAMクリア処理（図118）では未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5））を含めて特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212に対してクリア処理が実行されるものの、非特定制御の処理で利用される非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214に対してクリア処理は実行されない。これにより、処理構成を簡素化すべく未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5））を含めてクリア処理を実行するようにした構成において、クリア処理の実行対象においても特定制御用の処理にて利用される特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212と、非特定制御用の処理にて利用される非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214とを明確に区別することが可能となる。

【1402】

情報異常監視処理（図119）では非特定制御用のワークエリア213に情報異常が発生していることが特定された場合には、当該非特定制御用のワークエリア213において主側MPU82におけるレジスタの情報が退避されたエリア以外のエリアに対してクリア処理が実行される。これにより、情報異常に対処することが可能となる。この場合に、情報異常監視処理（図119）では非特定制御用のワークエリア213に対してクリア処理が実行されるが、非特定制御用のスタックエリア214に対してはクリア処理が実行されない。非特定制御用のワークエリア213と非特定制御用のスタックエリア214との間には未使用のエリア（アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））が存在しているが、非特定制御用のワークエリア213には未使用のエリアが存在していない。当該構成において、情報異常監視処理（図119）にて一連のアドレス範囲を指定してクリア処理を実行する構成であったとしても、プロテクト解除処理及びプロテクト設定処理が実行されない。これにより、未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）、アドレスY（s+3）～アドレスY（s+5）、アドレスY（t+3）～アドレスY（t+5））に対するプロテクトの解除が不要に行われてしまわないようにすることが可能とな

10

20

30

40

50

る。

【1403】

ベース値を表示するための第1～第4報知用表示装置201～204とは別に、設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）において設定値を表示するための設定表示装置205が設けられているとともに、第2タイマ割込み処理（図114）では設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行されている状況において、設定表示装置205に設定値を表示させるための処理（ステップS7202～ステップS7205）だけではなく、第1～第4報知用表示装置201～204にベース値を表示させるための処理（ステップS7206）が実行される。これにより、設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行されている状況においては、遊技ホールの管理者は遊技機本体12を外枠11に対してパチンコ機10前方に回動させて主制御装置71の正面側を露出させることによって、設定表示装置205に表示されている設定値及び第1～第4報知用表示装置201～204に表示されているベース値の両方を目視確認することが可能となる。よって、遊技ホールの管理者は、設定値更新処理（図83）において過去のベース値を確認しながら設定値を新たに設定したり、設定確認処理（図82）において過去のベース値と現状の設定値との対応関係を確認したりすることが可能となる。

10

【1404】

ベース値が表示される第1～第4報知用表示装置201～204が主制御基板81の素子搭載面に搭載された構成において、設定値が表示される設定表示装置205も当該素子搭載面に設けられている。これにより、第1～第4報知用表示装置201～204に表示されているベース値、及び設定表示装置205に表示されている設定値の両方の確認を行い易くなる。

20

【1405】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理（図83）が実行される場合において、当該設定値更新処理（図83）が開始された場合に第1～第4報知用表示装置201～204におけるベース値の表示が開始される。これにより、遊技ホールの管理者が設定値を変更するための作業を開始する前にベース値の表示が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【1406】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合には第1～第4報知用表示装置201～204にて当該第1～第4報知用表示装置201～204の各表示用セグメント201a～204aに異常が発生しているか否かを確認可能とするチェック用表示が実行される。これにより、遊技が開始される前のタイミングにおいて、第1～第4報知用表示装置201～204における表示が正常に行われるか否かを確認することが可能となる。この場合に、設定値更新処理（図83）が実行される場合には当該設定値更新処理（図83）が終了した場合に第1～第4報知用表示装置201～204におけるチェック用表示が開始される。これにより、設定値更新処理（図83）が実行されている状況においては第1～第4報知用表示装置201～204にてベース値を表示することを優先させながら、第1～第4報知用表示装置201～204においてチェック用表示を行うことが可能となる。

30

40

【1407】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において設定確認用処理（図82）及び設定値更新処理（図83）が実行されることなく動作電力の供給開始時の処理が終了して遊技を進行させる処理が開始されることとなる場合、第1～第4報知用表示装置201～204ではチェック用表示が最初に開始され、当該チェック用表示が終了した後にベース値の表示が開始される。これにより、当該状況においてはベース値の表示開始よりもチェック用表示を優先させることが可能となる。

【1408】

主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合における動作電力の供給開始時の処理（ステップS4901～ステップS4928）において設定確認用処理（図82）又

50

は設定値更新処理（図 8 3）が実行されることで第 1～第 4 報知用表示装置 2 0 1～2 0 4 にてベース値の表示が開始された後に、設定確認用処理（図 8 2）又は設定値更新処理（図 8 3）が終了して初期チェック期間（具体的には 5 秒）が発生した場合、当該初期チェック期間が終了した場合には、演算結果記憶エリア 2 5 2 における現状エリア 2 5 6、第 1 履歴エリア 2 5 7、第 2 履歴エリア 2 5 8 及び第 3 履歴エリア 2 5 9 のそれぞれに記憶されたベース値のうち当該初期チェック期間が開始される直前に報知対象であったベース値の表示が第 1～第 4 報知用表示装置 2 0 1～2 0 4 にて再開されるとともに、その再開されたベース値の表示は初期チェック期間が開始されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく表示継続期間（具体的には 5 秒）に亘って行われる。これにより、初期チェック期間の終了後におけるベース値の表示を適切に行うことが可能となる。

10

【1 4 0 9】

特定制御の処理が実行される場合には特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 が情報の書き込み対象となるものの非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 が情報の書き込み対象となることはなく、非特定制御の処理が実行される場合には非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 が情報の書き込み対象となるものの特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 が情報の書き込み対象となることはない。これにより、特定制御の処理が実行される場合と非特定制御の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、特定制御の処理が実行される場合であっても特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 からだけではなく非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 から情報を読み出しが可能であるとともに、非特定制御の処理が実行される場合であっても非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 からだけではなく特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2 から情報を読み出しが可能である。これにより、特定制御の処理及び非特定制御の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

20

【1 4 1 0】

この場合に、非特定制御の処理において各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していたことが特定された場合には、特定制御の処理においてそれに対応する処理が実行される。これにより、各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因しているか否かを特定するための処理を特定制御の処理ではなく非特定制御の処理として実行することで特定制御の処理として実行可能な処理に余裕を持たせた構成であっても、各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していたことに対応する処理を特定制御の処理として実行することが可能となる。

30

【1 4 1 1】

特定制御の処理にて各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a にて遊技球が検知されたか否かを特定するための処理が実行される構成において、非特定制御の処理にて各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していたことが特定された場合には、特定制御の処理にて当該遊技球の検知を無効化させるための処理が実行される。これにより、各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因しているか否かを特定するための処理を特定制御の処理ではなく非特定制御の処理として実行することで特定制御の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、各検知センサ 2 3 1 a～2 3 8 a にて遊技球が検知されたか否かを特定するための処理及び当該遊技球の検知を無効化させるための処理を特定制御の処理において集約して行うことが可能となる。

40

【1 4 1 2】

一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、アウト口 2 4 a 及びスルーゲート 3 5 のそれぞれへの遊技球の入球を検知する各検知センサ 2 3 1 a～

50

238aにて遊技球が検知されたか否かを特定するための入球検知処理（図91）及び各検知センサ231a～238aにて遊技球が検知されたことに対応させて遊技を進行させるための処理（保留情報の取得処理（図92）、普電制御処理（図96）、特電開放中処理（図97（c））、払出出力処理（ステップS5518）など）が特定制御の処理に含まれるのに対して、各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図95）が非特定制御の処理に含まれている。これにより、特定制御の処理において各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図95）を実行する必要がないため、主側ROM83における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータに対して割り当てられているデータ容量を不正検知実行処理（図95）以外の処理に割り当てることが可能となる。

10

【1413】

第1タイマ割込み処理（図88）における処理順序において、特定制御の処理に含まれるとともに各検知センサ231a～238aにて遊技球が検知されたか否かを特定するための処理である入球検知処理（図91）よりも後に、非特定制御の処理に含まれるとともに各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図95）が実行され、当該不正検知実行処理（図95）よりも後に、特定制御の処理に含まれるとともに各検知センサ231a～238aにて遊技球が検知されたことに対応させて遊技を進行させるための処理（保留情報の取得処理（図92）、普電制御処理（図96）、特電開放中処理（図97（c））、払出出力処理（ステップS5518）など）が実行される。これにより、各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知が異常や不正によるものであるか否かを監視するための不正検知実行処理（図95）を非特定制御の処理として実行するようにした構成であっても、異常や不正に起因した各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知に応じて遊技を進行させるための処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

20

【1414】

特定制御の処理に含まれる入球検知処理（図91）において検知センサ231a～238aにて遊技球が検知されたことが特定された場合には特定制御用のワークエリア211における確認フラグ群211dに設けられた各確認フラグに「1」がセットされ、非特定制御の処理に含まれる不正検知実行処理（図95）にて当該遊技球の検知が異常や不正に起因するものであることが特定された場合には非特定制御用のワークエリア213に設けられた各異常フラグ213l～213sに「1」がセットされ、異常フラグ213l～213sに「1」がセットされている場合には、特定制御の処理に含まれる不正対応処理（図99）において「1」がセットされた異常フラグ213l～213sに対応する確認フラグが「0」クリアされる。これにより、特定制御用のワークエリア211に記憶された情報の読み出しは特定制御の処理及び非特定制御の処理のいずれにおいても可能であるのに対して、特定制御用のワークエリア211への情報の書き込みは特定制御の処理では可能であるものの非特定制御の処理では不可であり、さらに非特定制御用のワークエリア213に記憶された情報の読み出しは特定制御の処理及び非特定制御の処理のいずれにおいても可能であるのに対して、非特定制御用のワークエリア213への情報の書き込みは非特定制御の処理では可能であるものの特定制御の処理では不可であるという構成としながら、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

30

40

【1415】

非特定制御の処理に含まれる不正検知実行処理（図95）が実行された後において当該不正検知実行処理（図95）が再度実行されるまでに、特定制御の処理に含まれる不正対応処理（図99）が実行される。そして、当該不正対応処理（図99）では不正検知実行処理（図95）において情報の設定が行われた異常フラグ213l～213sに応じて、確認フラグの「0」クリアや各種賞球用カウンタの減算処理を実行する。この場合に、不正検知実行処理（図95）では最初に異常フラグ213l～213sを「0」クリアした後に、当該異常フラグ213l～213sに情報を設定するための処理を実行する。これ

50

により、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 への情報の書き込みは非特定制御の処理では可能であるものの特定制御の処理では不可であるという構成において、非特定制御の処理における適切なタイミングで異常フラグ 2 1 3 l ~ 2 1 3 s を「0」クリアすることが可能となる。

【1 4 1 6】

各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かの特定が非特定制御の処理にて実行される構成において、当該特定に際して参照される特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b 及び普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c は特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられている。これにより、これら特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b 及び普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c を利用して期間の計測を行うための処理を特定制御の処理にて行うことが可能となる。

10

【1 4 1 7】

また、特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b を利用した遊技球の検知の有効期間の計測は特電入賞装置 3 2 を開放状態から閉鎖状態とする処理の実行を契機に開始されるとともに、普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c を利用した遊技球の検知の有効期間の計測は第 2 作動口 3 4 を開放状態から閉鎖状態とする処理の実行を契機に開始される。そして、これら特電入賞装置 3 2 及び第 2 作動口 3 4 を閉鎖状態とする処理は特定制御の処理として実行されるため、当該開始契機を特定制御の処理結果を踏まえることなく非特定制御の処理にて特定することは不可能である。この場合に、特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b 及び普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c が非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられていると、特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b 及び普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c における有効期間の計測の開始契機を特定するための処理構成が複雑化してしまうおそれがある。これに対して、特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b 及び普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 ではなく特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けることで、特定制御用のワークエリア 2 1 1 において必要な記憶容量がそれだけ増大してしまうものの処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

20

【1 4 1 8】

各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かの特定が非特定制御の処理にて実行される構成において、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5 及びアウト口 2 4 a への遊技球の入球が正常であるか否かの監視を行う場合に参照される第 1 ~ 第 8 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ~ 2 1 3 h は非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられている。第 1 ~ 第 8 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ~ 2 1 3 h を利用した遊技球の検知の有効期間の計測は各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a の検知結果を契機に開始されるため、当該開始契機を特定制御の処理結果を踏まえることなく非特定制御の処理にて特定することが可能である。したがって、第 1 ~ 第 8 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ~ 2 1 3 h を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けることで、第 1 ~ 第 8 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ~ 2 1 3 h を利用した遊技球の検知の有効期間の計測を非特定制御の処理にて行うことが可能となる。そして、このような事情において第 1 ~ 第 8 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 a ~ 2 1 3 h を非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けることで、特定制御用のワークエリア 2 1 1 において必要な記憶容量を低減させることが可能となる。

30

40

【1 4 1 9】

特定制御処理部 2 2 1 にて特定制御の処理が実行されている状況及び非特定制御処理部 2 2 2 にて非特定制御の処理が実行されている状況のいずれであっても送信対象となったコマンドは、レジスタエリア 2 2 3 のコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納される。つまり、主側 R A M 8 4 において情報の書き込み対象となるエリアが特定制御の処理が実行されている状況と非特定制御の処理が実行されている状況とで相違している構成であっても、送信対象のコマンドを書き込むエリアは特定制御の処理が実行されている状況及び非特定制御の処理が実行されている状況において兼用される。よって、コマンドを格納するた

50

めの処理を特定制御の処理及び非特定制御の処理の一方のみに集約させる必要がないため、コマンドを格納するための処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

【1420】

コマンド送信バッファ223bは主側RAM84ではなく主側MPU82のレジスタエリア223に設けられている。これにより、特定制御の処理にて情報の書き込みが可能な主側RAM84の記憶領域と非特定制御の処理にて情報の書き込みが可能な主側RAM84の記憶領域とを特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212と非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214とで明確に区別した構成において、これらエリア211～214を利用しないようにしながら、コマンドを書き込む記憶領域を特定制御の処理と非特定制御の処理とで共通化させることが可能となる。

10

【1421】

コマンド送信バッファ223bに格納されたコマンドは、特定制御の処理及び非特定制御の処理とは独立して動作するコマンド送信回路224により音光側MPU93に送信される。これにより、主側MPU82におけるプログラムを利用した処理の実行内容との関係でコマンドの送信タイミングを調整する必要がないため、主側MPU82におけるプログラムを利用した処理の処理構成を簡素化させることが可能となる。

【1422】

セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生しているか否かを特定するための処理が特定制御の処理だけではなく非特定制御の処理においても実行される。これにより、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生しているか否かを監視するための処理が非特定制御の処理に対して割り当てられることとなり、特定制御の処理についてのプログラムやデータの容量を他の処理に割り当てることが可能となる。

20

【1423】

特定制御用のワークエリア211に第1セキュリティカウンタ211aを設けるとともに非特定制御用のワークエリア213に第2セキュリティカウンタ213kを設け、特定制御の処理にてセキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることが特定された場合には第1セキュリティカウンタ211aの値を1加算し、非特定制御の処理にてセキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることが特定された場合には第2セキュリティカウンタ213kの値を1加算する。これにより、特定制御用のワークエリア211への情報の書き込みは特定制御の処理にて可能とするとともに非特定制御の処理では不可とし、非特定制御用のワークエリア213への情報の書き込みは非特定制御の処理にて可能とするとともに特定制御の処理では不可としながら、特定制御の処理及び非特定制御の処理のそれぞれにて、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることの特を適切に行うことが可能となる。

30

【1424】

特定制御の処理に含まれるセキュリティ用処理（図101）にて非特定制御用のワークエリア213における第2セキュリティカウンタ213kの値の増加分が第1セキュリティカウンタ211aに加算され、第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上である場合にセキュリティ用処理（図101）にてセキュリティ信号の外部出力が行われる。そして、所定の停止継続期間を挟んで所定の出力継続期間以上に亘るパルス状のセキュリティ信号の外部出力が第1セキュリティカウンタ211aの値が「0」となるまで繰り返し実行される。これにより、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生していることの特が特定制御の処理及び非特定制御の処理のそれぞれにて行われる構成において、セキュリティ信号を外部出力するための処理を特定制御の処理に集約させることが可能となる。

40

【1425】

第1セキュリティカウンタ211aの値が1以上となった場合にはセキュリティフラグ211fに「1」がセットされ、セキュリティフラグ211fに「1」がセットされた場

50

合には異常表示装置 206 が発光状態となる。また、セキュリティフラグ 211 f に「1」がセットされた状態は、主側 MPU 82 への動作電力の供給が継続されている場合には維持されるとともにメイン処理（図 81）における RAM クリア処理（ステップ S 4919）又は設定値更新処理（図 83）における RAM クリア処理（ステップ S 5113）が実行されない限り維持され、セキュリティフラグ 211 f に「1」がセットされている場合には異常表示装置 206 が発光状態に維持される。これにより、少なくとも遊技ホールの営業中であれば、遊技ホールの管理者による異常表示装置 206 の確認タイミングに関係なく、セキュリティ信号の外部出力の対象となる事象が発生したか否かを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【1426】

＜第 14 の実施形態＞

本実施形態では主側 MPU 82 にて実行される第 1 タイマ割込み処理の処理構成が上記第 13 の実施形態と相違している。以下、上記第 13 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 13 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1427】

図 120 は主側 MPU 82 にて実行される本実施形態における第 1 タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第 1 タイマ割込み処理におけるステップ S 7701～ステップ S 7719 の処理のうちステップ S 7719 にて呼び出されて実行される管理用処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 MPU 82 の特定制御処理部 221 にて実行され、管理用処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 MPU 82 の非特定制御処理部 222 にて実行される。

【1428】

ステップ S 7701～ステップ S 7707 では上記第 13 の実施形態における第 1 タイマ割込み処理（図 88）のステップ S 5501～ステップ S 5507 と同一の処理を実行する。ステップ S 7708 では入球検知処理を実行する。

【1429】

図 121 はステップ S 7708 の入球検知処理を示すフローチャートである。なお、入球検知処理におけるステップ S 7801～ステップ S 7818 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 MPU 82 の特定制御処理部 221 にて実行される。

【1430】

まず賞球用カウンタの設定処理を実行する（ステップ S 7801）。賞球用カウンタの設定処理は、前回の処理回における入球検知処理（図 121）の処理内容及び不正検知実行処理（ステップ S 7911）の処理内容に応じて各賞球用カウンタの設定を行うための処理である。賞球用カウンタの設定処理の詳細については後に説明する。

【1431】

その後、各種フラグクリア処理を実行する（ステップ S 7802）。各種フラグクリア処理では上記第 13 の実施形態における各種フラグクリア処理（ステップ S 5601）と同様に、特定制御用のワークエリア 211 の確認フラグ群 211 d における第 1 入賞確認フラグ、第 2 入賞確認フラグ、第 3 入賞確認フラグ、特電入賞フラグ、第 1 作動入賞確認フラグ、第 2 作動入賞確認フラグ、アウト確認フラグ及びゲート入賞確認フラグを「0」クリアする。

【1432】

第 0 ビット D0 に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第 1 入賞口検知センサ 231 a にて 1 個の遊技球が検知されたと判定する（ステップ S 7803：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア 211 における第 1 入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップ S 7804）。第 1 入賞確認フラグは上記第 13 の実施形態と同様に、第 1 入賞口検知センサ 2

10

20

30

40

50

31aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1433】

第1ビットD1に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7805：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211における第2入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7806）。第2入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

10

【1434】

第2ビットD2に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7807：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211における第3入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7808）。第3入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1435】

第3ビットD3に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、特電検知センサ234aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7809：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211における特電入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7810）。特電入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、特電検知センサ234aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

20

【1436】

第4ビットD4に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第1作動口検知センサ235aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7811：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211における第1作動入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7812）。第1作動入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、第1作動口検知センサ235aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

30

【1437】

第5ビットD5に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第2作動口検知センサ236aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7813：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7814）。第2作動入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、第2作動口検知センサ236aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

40

【1438】

第6ビットD6に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、アウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7815：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211におけるアウト確認フラグに「1」をセットする（ステップS7816）。アウト確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、アウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1439】

第7ビットD7に「0」の情報が格納されている状況から「1」の情報が格納されてい

50

る状況に切り換わったことを確認した場合、ゲート検知センサ238aにて1個の遊技球が検知されたと判定する（ステップS7817：YES）。この場合、特定制御用のワークエリア211のゲート入賞確認フラグに「1」をセットする（ステップS7818）。ゲート入賞確認フラグは上記第13の実施形態と同様に、ゲート検知センサ238aにて1個の遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1440】

第1タイマ割込み処理（図120）の説明に戻り、ステップS7708にて入球検知処理を実行した後は、ステップS7709にて上記第13の実施形態における第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5510と同様に特定制御のタイマ更新処理を実行する。その後、ステップS7710～ステップS7718の処理を実行する。ステップS7710～ステップS7718では上記第13の実施形態における第1タイマ割込み処理（図88）のステップS5512～ステップS5520と同一の処理を実行する。

10

【1441】

本実施形態では上記第13の実施形態における第1タイマ割込み処理（図88）に設定されていた不正検知用処理（ステップS5509）及び不正対応処理（ステップS5511）が実行されない。その代わりに本実施形態における第1タイマ割込み処理（図120）では、ステップS7719にてCALLI命令により管理用処理が呼び出され、当該管理用処理にて不正検知実行処理が実行される。なお、ステップS7719の処理は、ステップS7705にて肯定判定をした場合又はステップS7718の処理を実行した場合に実行される。

20

【1442】

次に、第1タイマ割込み処理（図120）のステップS7719の処理について説明する。

【1443】

第1タイマ割込み処理（図120）のステップS7719では既に説明したとおりCALLI命令により管理用処理を実行する。管理用処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、第1タイマ割込み処理（図120）において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理がCALLI命令を利用して呼び出される。

【1444】

CALLI命令により管理用処理が実行される場合、まず主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避される。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、P/Vフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御の処理である管理用処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該管理用処理のコールや当該管理用処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させておくことが可能となる。

30

【1445】

CALLI命令により管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、第1タイマ割込み処理（図120）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である管理用処理の実行中に、特定制御の処理である第1タイマ割込み処理（図120）及び第2タイマ割込み処理（図114）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

40

【1446】

CALLI命令により管理用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避され、第1タイマ割込み処理（図120）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止された後、管理用処理に対応するプログラムが開始される。

50

【1447】

このように、CALLI命令により管理用処理を実行する構成とすることにより、一の命令（「CALLI」）により、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避されるとともに、第1タイマ割込み処理（図120）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みが禁止される。そして、管理用処理に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側MPU82のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させるための命令と、第1タイマ割込み処理（図120）及び第2タイマ割込み処理（図114）の割込みを禁止するための命令と、管理用処理のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理用処理を実行するためにプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、プログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

10

【1448】

図122は管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップS7901～ステップS7920の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1449】

まず「LD SP, Y(u+2)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてY(u+2)を設定する（ステップS7901）。スタックポインタは、スタックエリア212、214においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側MPU82にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。また、非特定制御用のスタックエリア214を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア214における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップS6801では、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。

20

【1450】

その後、「LD (__WABUF), WA」として、ロード命令により、主側MPU82のWAレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファに退避させる（ステップS7902）。また、「LD (__BCBUF), BC」として、ロード命令により、主側MPU82のBCレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたBCバッファに退避させる（ステップS7903）。また、「LD (__DEBUF), DE」として、ロード命令により、主側MPU82のDEレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたDEバッファに退避させる（ステップS7904）。また、「LD (__HLBUF), HL」として、ロード命令により、主側MPU82のHLレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたHLバッファに退避させる（ステップS7905）。また、「LD (__IXBUF), IX」として、ロード命令により、主側MPU82のIXレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIXバッファに退避させる（ステップS7906）。また、「LD (__IYBUF), IY」として、ロード命令により、主側MPU82のIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたIYバッファに退避させる（ステップS7907）。

30

【1451】

これらWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタは非特定制御に対応する処理である情報クリア処理（ステップS7908）、試射試験処理（ステップS7909）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップS79

40

50

10)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア213に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【1452】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)にて利用対象となるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア213においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア213の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

【1453】

なお、当然のことながら主側MPU82における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【1454】

ステップS7902～ステップS7907の処理を実行した後は、情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)を実行する。情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては情報クリア処理(ステップS7908)、試射試験処理(ステップS7909)、非特定制御のタイマ更新処理(ステップS7910)、不正検知実行処理(ステップS7911)、情報異常監視処理(ステップS7912)及びチェック処理(ステップS7913)の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制

御用のスタックエリア 214 に書き込まれる。そして、情報クリア処理（ステップ S 7 9 0 8）、試射試験処理（ステップ S 7 9 0 9）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S 7 9 1 0）、不正検知実行処理（ステップ S 7 9 1 1）、情報異常監視処理（ステップ S 7 9 1 2）及びチェック処理（ステップ S 7 9 1 3）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【1455】

情報クリア処理（ステップ S 7 9 0 8）の処理内容は上記第 13 の実施形態における不正検知用処理（図 9 3）のステップ S 5 8 0 8 にて実行される情報クリア処理（図 9 4）と同様である。試射試験処理（ステップ S 7 9 0 9）の処理内容は上記第 13 の実施形態における不正検知用処理（図 9 3）のステップ S 5 8 0 9 にて実行される試射試験処理と同様である。非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S 7 9 1 0）の処理内容は上記第 13 の実施形態における不正検知用処理（図 9 3）のステップ S 5 8 1 0 にて実行される非特定制御のタイマ更新処理と同様である。不正検知実行処理（ステップ S 7 9 1 1）の処理内容は上記第 13 の実施形態における不正検知用処理（図 9 3）のステップ S 5 8 1 1 にて実行される不正検知実行処理（図 9 5）と同様である。情報異常監視処理（ステップ S 7 9 1 2）の処理内容は上記第 13 の実施形態における第 2 管理用処理（図 1 0 7）のステップ S 6 8 0 8 にて実行される情報異常監視処理（図 1 1 9）と同様である。チェック処理（ステップ S 7 9 1 3）の処理内容は上記第 13 の実施形態における第 2 管理用処理（図 1 0 7）のステップ S 6 8 0 9 にて実行されるチェック処理（図 1 0 8）と同様である。

【1456】

情報クリア処理（ステップ S 7 9 0 8）、試射試験処理（ステップ S 7 9 0 9）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S 7 9 1 0）、不正検知実行処理（ステップ S 7 9 1 1）、情報異常監視処理（ステップ S 7 9 1 2）及びチェック処理（ステップ S 7 9 1 3）を実行した後は、「LD SP, Y(r+d)」として、ロード命令により、主側 MPU 8 2 のスタックポインタに管理用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとして Y(r+d) を設定する（ステップ S 7 9 1 4）。Y(r+d) のアドレスは、特定制御用のスタックエリア 212 における Y(r+8) と Y(s) との間のアドレスとして設定されている。

【1457】

第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）のステップ S 7 7 1 9 にて管理用処理が呼び出される直前において特定制御用のスタックエリア 212 に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側 MPU 8 2 のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア 212 に記憶されている情報としては、例えば第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）が終了した後におけるメイン処理（図 8 1）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報が Y(r+d) となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である情報情報クリア処理（ステップ S 7 9 0 8）、試射試験処理（ステップ S 7 9 0 9）、非特定制御のタイマ更新処理（ステップ S 7 9 1 0）、不正検知実行処理（ステップ S 7 9 1 1）、情報異常監視処理（ステップ S 7 9 1 2）及びチェック処理（ステップ S 7 9 1 3）が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報である Y(r+d) を主側 MPU 8 2 のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、非特定制御に対応する処理を開始する前に特定制御に対応する主側 MPU 8 2 のスタックポインタの情報を主側 RAM 8 4 に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側 RAM 8 4 において確保する必要がなくなる。

【1458】

その後、「LD WA, (_WABUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のWAバッファに退避された情報を主側MPU82のWAレジスタに上書きする(ステップS7915)。また「LD BC, (_BCBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のBCバッファに退避された情報を主側MPU82のBCレジスタに上書きする(ステップS7916)。また「LD DE, (_DEBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のDEバッファに退避された情報を主側MPU82のDEレジスタに上書きする(ステップS7917)。また「LD HL, (_HLBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のHLバッファに退避された情報を主側MPU82のHLレジスタに上書きする(ステップS7918)。また「LD IX, (_IXBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIXバッファに退避された情報を主側MPU82のIXレジスタに上書きする(ステップS7919)。また「LD IY, (_IYBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIYバッファに退避された情報を主側MPU82のIYレジスタに上書きする(ステップS7920)。ステップS7915～ステップS7920の処理が実行されることにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【1459】

ステップS7915～ステップS7920の処理を実行した後は、RETI命令により特定制御の処理に含まれる第1タイマ割込み処理(図120)に復帰する。RETI命令が実行されることにより、管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報が主側MPU82のフラグレジスタに復帰されるとともに、第1タイマ割込み処理(図120)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第1タイマ割込み処理及び第2タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【1460】

RETI命令を実行する構成であることにより、一の命令(「RETI」)により、管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させ、第1タイマ割込み処理(図120)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、管理用処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報を主側MPU82のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第1タイマ割込み処理(図120)及び第2タイマ割込み処理(図114)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御の処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御の処理のプログラムを記憶しておくための主側ROM83における記憶容量を低減することができる。

【1461】

ここで、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理が再開される場合に主側RAM84に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【1462】

また、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理への復帰後において非特定制御の処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御の処理を間に挟んで実行される非特定制御の処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエ

リア 2 1 3 又は非特定制御用のスタックエリア 2 1 4 に記憶されており、主側 M P U 8 2 のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御の処理が実行された場合に主側 M P U 8 2 のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側 R A M 8 4 に退避されないとしても、非特定制御の処理を実行する上で問題が生じない。

【 1 4 6 3 】

上記のとおり本実施形態では第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）において非特定制御の処理が分散して設定されているのではなく、一か所の処理として集約して設定されている。これにより、特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合における主側 M P U 8 2 の各種レジスタの情報を主側 R A M 8 4 に退避させるための処理、及び非特定制御の処理が終了して特定制御の処理に復帰する場合に主側 R A M 8 4 に退避されている情報を主側 M P U 8 2 の各種レジスタに復帰させる処理を第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）の 1 回の処理回において繰り返し実行する必要が生じない。よって、第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）の処理負荷を軽減することが可能となる。

【 1 4 6 4 】

第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）において一か所の処理として集約して設定された非特定制御の処理が第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）における最後の処理順序に設定されている。これにより、第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）の各回の処理回において当該処理回における全ての特定制御の処理の処理内容を踏まえて非特定制御の処理を実行することが可能となる。また、第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）における最後の処理順序に非特定制御の処理が設定されていることにより、当該非特定制御の処理が終了した後における第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）の戻り番地の情報を主側 R A M 8 4 に記憶させる必要が生じない。

【 1 4 6 5 】

非特定制御の処理が第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）における最後の処理順序に集約して設定されているため、第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）において入球検知処理（ステップ S 7 7 0 8）の実行後であって特図特電制御処理（ステップ S 7 7 1 2）、普図普電制御処理（ステップ S 7 7 1 3）及び払出出力処理（ステップ S 7 7 1 6）の実行前に不正検知実行処理（ステップ S 7 9 1 1）が実行されない。この場合に、第 1 タイマ割込み処理（図 1 2 0）の所定の処理回における入球検知処理（ステップ S 7 7 0 8）の処理結果を、当該所定の処理回における特図特電制御処理（ステップ S 7 7 1 2）、普図普電制御処理（ステップ S 7 7 1 3）及び払出出力処理（ステップ S 7 7 1 6）においてそのまま利用してしまうと、異常又は不正に起因した遊技球の入賞結果を契機として遊技を進行させるための処理や遊技者に遊技球を払い出すための処理が実行されてしまうおそれがある。このような不都合を発生させないようにするための処理構成について以下に説明する。

【 1 4 6 6 】

図 1 2 3 は主側 M P U 8 2 にて実行される本実施形態における保留情報の取得処理を示すフローチャートである。なお、保留情報の取得処理におけるステップ S 8 0 0 1 ～ステップ S 8 0 2 2 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

【 1 4 6 7 】

ステップ S 8 0 0 1 では特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた第 1 格納待機フラグに「1」がセットされているか否かを判定し、ステップ S 8 0 0 8 では特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた第 2 格納待機フラグに「1」がセットされているか否かを判定する。第 1 格納待機フラグは第 1 作動口検知センサ 2 3 5 a にて遊技球が検知されたことが特定された後において第 1 特図保留エリア 1 1 1 への第 1 保留情報の格納が待機されている状況であることを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。第 2 格納待機フラグは第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a にて遊技球が検知されたことが特定された後において第 2 特図保留エリア 1 1 2 への第 2 保留情報の格納が待機されている状況である

ことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【1468】

第1格納待機フラグに「1」がセットされていない場合であって（ステップS8001：NO）、第2格納待機フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS8008：NO）、特定制御用のワークエリア211における第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8015）。第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8015：YES）、第1特図保留エリア111に記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として（ステップS8016：YES）、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、特定制御用のワークエリア211に設けられた第1待機エリアに格納する（ステップS8017）。第1待機エリアは、第1作動口検知センサ235aにて遊技球が検知されたことを契機として取得された第1保留情報を、当該第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が異常に起因したものではないことが不正検知実行処理（ステップS7911）にて特定されるまで第1特図保留エリア111に格納することなく待機させるためのエリアである。その後、特定制御用のワークエリア211における第1格納待機フラグに「1」をセットする（ステップS8018）。

10

【1469】

第1格納待機フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8001：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8002）。つまり、第1格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常に起因したものであると特定されたか否かを判定する。

20

【1470】

第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされていない場合（ステップS8002：NO）、第1格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常に起因したものであると特定されなかったことを意味する。この場合、第1特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS8003）。当該第1特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が調整される。これにより、第1特図保留表示部37cの表示内容が第1特図保留エリア111に格納されている第1保留情報の数に対応することとなる。その後、第1待機エリアに待機されている第1保留情報を第1特図保留エリア111のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS8003にて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS8004）。その後、第1保留コマンドをレジスタエリア223のコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS8005）。コマンド送信バッファ223bに第1保留コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該第1保留コマンドが音光側MPU93に送信される。これにより、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aの表示内容が第1保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

30

40

【1471】

一方、第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされている場合（ステップS8002：YES）、第1格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常に起因したものであると特定されたことを意味する。この場合、第1待機エリアに待機されている第1保留情報を消去する（ステップS8006）。また、ステップS8005の処理又はステップS8006の処理を実行した場合、第1格納待機フラグを「0」クリアする（ステップS8007）。

50

【1472】

ステップS8015にて否定判定をした場合、ステップS8016にて否定判定をした場合又はステップS8018の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8019）。第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8019：YES）、第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満であることを条件として（ステップS8020：YES）、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、特定制御用のワークエリア211に設けられた第2待機エリアに格納する（ステップS8021）。第2待機エリアは、第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されたことを契機として取得された第2保留情報を、当該第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものではないことが不正検知実行処理（ステップS7911）にて特定されるまで第2特図保留エリア112に格納することなく待機させるためのエリアである。その後、特定制御用のワークエリア211における第2格納待機フラグに「1」をセットする（ステップS8022）。

10

【1473】

第2格納待機フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8008：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8009）。つまり、第2格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常に起因したものであると特定されたか否かを判定する。

20

【1474】

第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされていない場合（ステップS8009：NO）、第2格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常又は不正に起因したものであると特定されなかったことを意味する。この場合、第2特図保留カウンタの値を1加算する（ステップS8010）。当該第2特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が調整される。これにより、第2特図保留表示部37dの表示内容が第2特図保留エリア112に格納されている第2保留情報の数に対応することとなる。その後、第2待機エリアに待機されている第2保留情報を第2特図保留エリア112のうち最初の記憶エリア、すなわちステップS8010にて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する（ステップS8011）。その後、第2保留コマンドをレジスタエリア223のコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップS8012）。コマンド送信バッファ223bに第2保留コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該第2保留コマンドが音光側MPU93に送信される。これにより、図柄表示装置41の第2保留表示領域42bの表示内容が第2保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

30

40

【1475】

一方、第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされている場合（ステップS8009：YES）、第2格納待機フラグに「1」がセットされる契機となった第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が、前回の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて異常又は不正に起因したものであると特定されたことを意味する。この場合、第2待機エリアに待機されている第2保留情報を消去する（ステップS8013）。また、ステップS8012の処理又はステップS8013の処理を実行した場合、第2格納待機フラグを「0」クリアする（ステップS8014）。

【1476】

50

上記構成であることにより第1タイマ割込み処理（図120）の所定の処理回における入球検知処理（ステップS7708）にて第1作動口検知センサ235a又は第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されたことが特定されたとしても、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における保留情報の取得処理（図123）では、それに対応する保留情報が一旦、対応する待機エリアに待機される。そして、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて、当該保留情報の取得の契機となった遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであることが特定された場合に、当該所定の処理回に対して次の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における保留情報の取得処理（図123）にて、待機エリアに待機された保留情報が対応する特図保留エリア111, 112に格納される。これにより、第1タイマ割込み処理（図120）の最後の処理順序に不正検知実行処理（ステップS7911）を含めて非特定制御の処理が集約されていることに起因して、第1タイマ割込み処理（図120）における入球検知処理（ステップS7708）と保留情報の取得処理（図123）との間に不正検知実行処理（ステップS7911）が設定されていない構成であったとしても、異常又は不正に起因した遊技球の検知を契機として保留情報が特図保留エリア111, 112に格納されてしまわないようにすることが可能となる。

【1477】

なお、上記のように遊技球の検知を契機とした所定の処理の実行を一旦待機してその後不正検知実行処理（ステップS7911）にて当該遊技球の検知が異常又は不正に起因していないことが特定された場合にその待機していた所定の処理を実行する構成は、ゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知を契機とした普図普電制御処理（ステップS7713）における普図側の保留情報を取得するための処理においても採用されている。

【1478】

図124は入球検知処理（図121）のステップS7801にて実行される賞球用カウンタの設定処理を示すフローチャートである。なお、賞球用カウンタの設定処理におけるステップS8101～ステップS8120の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【1479】

特定制御用のワークエリア211における第1入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8101：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第1一般入賞異常フラグ213lに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS8102：NO）、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS8103）。前回の処理回における第1タイマ割込み処理（図120）の不正検知実行処理（ステップS7911）にて第1入賞口検知センサ231aにおける遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合に第1一般入賞異常フラグ213lに「1」がセットされる。10個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図120）におけるステップS7716の払出出力処理にて10個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、10個賞球コマンドを1回出力した場合には10個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は10個賞球コマンドを受信した場合、10個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。なお、第1入賞確認フラグは、今回の賞球用カウンタの設定処理（図124）が終了した後における入球検知処理（図121）のステップS7802にて「0」クリアされる。

【1480】

特定制御用のワークエリア211における第2入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8104：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第2一般入賞異常フラグ213mに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS8105：NO）、特定制御用のワークエリア211における10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS8106）。前回の処理回における第1タイマ割込み処理（図120）の不正検知実行処理（ステップS7911）にて第2入賞口検知センサ2

3 2 aにおける遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合に第2一般入賞異常フラグ2 1 3 mに「1」がセットされる。10個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図1 2 0）におけるステップS 7 7 1 6の払出出力処理にて10個賞球コマンドを払出制御装置7 7に出力するとともに、10個賞球コマンドを1回出力した場合には10個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置7 7は10個賞球コマンドを受信した場合、10個の遊技球が払い出されるように払出装置7 6を駆動制御する。なお、第2入賞確認フラグは、今回の賞球用カウンタの設定処理（図1 2 4）が終了した後における入球検知処理（図1 2 1）のステップS 7 8 0 2にて「0」クリアされる。

【1 4 8 1】

特定制御用のワークエリア2 1 1における第3入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS 8 1 0 7：YES）、非特定制御用のワークエリア2 1 3における第3一般入賞異常フラグ2 1 3 nに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS 8 1 0 8：NO）、特定制御用のワークエリア2 1 1における10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS 8 1 0 9）。前回の処理回における第1タイマ割込み処理（図1 2 0）の不正検知実行処理（ステップS 7 9 1 1）にて第3入賞口検知センサ2 3 3 aにおける遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合に第3一般入賞異常フラグ2 1 3 nに「1」がセットされる。10個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図1 2 0）におけるステップS 7 7 1 6の払出出力処理にて10個賞球コマンドを払出制御装置7 7に出力するとともに、10個賞球コマンドを1回出力した場合には10個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置7 7は10個賞球コマンドを受信した場合、10個の遊技球が払い出されるように払出装置7 6を駆動制御する。なお、第3入賞確認フラグは、今回の賞球用カウンタの設定処理（図1 2 4）が終了した後における入球検知処理（図1 2 1）のステップS 7 8 0 2にて「0」クリアされる。

【1 4 8 2】

特定制御用のワークエリア2 1 1における特電入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS 8 1 1 0：YES）、非特定制御用のワークエリア2 1 3における特電入賞異常フラグ2 1 3 oに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS 8 1 1 1：NO）、特定制御用のワークエリア2 1 1における15個賞球用カウンタの値を1加算するとともに（ステップS 8 1 1 2）、特定制御用のワークエリア2 1 1における入賞カウンタの値が1以上である場合にこの値を1減算する（ステップS 8 1 1 3）。前回の処理回における第1タイマ割込み処理（図1 2 0）の不正検知実行処理（ステップS 7 9 1 1）にて特電検知センサ2 3 4 aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因していることが特定された場合に特電入賞異常フラグ2 1 3 oに「1」がセットされる。15個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図1 2 0）におけるステップS 7 7 1 6の払出出力処理にて15個賞球コマンドを払出制御装置7 7に出力するとともに、15個賞球コマンドを1回出力した場合には15個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置7 7は15個賞球コマンドを受信した場合、15個の遊技球が払い出されるように払出装置7 6を駆動制御する。また、入賞カウンタの値が「0」となった場合、特図特電制御処理（ステップS 7 7 1 2）において開放状態となっている特電入賞装置3 2を閉鎖状態とするための処理を実行する。なお、特電入賞確認フラグは、今回の賞球用カウンタの設定処理（図1 2 4）が終了した後における入球検知処理（図1 2 1）のステップS 7 8 0 2にて「0」クリアされる。

【1 4 8 3】

特定制御用のワークエリア2 1 1における第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS 8 1 1 4：YES）、非特定制御用のワークエリア2 1 3における第1作動入賞異常フラグ2 1 3 pに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS 8 1 1 5：NO）、特定制御用のワークエリア2 1 1における1個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS 8 1 1 6）。前回の処理回における第1タイマ割込み

10

20

30

40

50

処理（図120）の不正検知実行処理（ステップS7911）にて第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合に第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされる。1個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図120）におけるステップS7716の払出出力処理にて1個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、1個賞球コマンドを1回出力した場合には1個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は1個賞球コマンドを受信した場合、1個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。なお、第1作動入賞確認フラグは今回の賞球用カウンタの設定処理（図124）が終了した後における入球検知処理（図121）のステップS7802にて「0」クリアされる。

【1484】

特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合（ステップS8117：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされていないことを条件として（ステップS8118：NO）、特定制御用のワークエリア211における1個賞球用カウンタの値を1加算するとともに（ステップS8119）、特定制御用のワークエリア211における普電入賞カウンタの値が1以上である場合にこの値を1減算する（ステップS8120）。前回の処理回における第1タイマ割込み処理（図120）の不正検知実行処理（ステップS7911）にて第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因していることが特定された場合に第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされる。1個賞球用カウンタの値が1以上である場合、第1タイマ割込み処理（図120）におけるステップS7716の払出出力処理にて1個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、1個賞球コマンドを1回出力した場合には1個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は1個賞球コマンドを受信した場合、1個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。また、普電入賞カウンタの値が「0」となった場合、普電普電制御処理（ステップS7713）において開放状態となっている第2作動口34を閉鎖状態とするための処理を実行する。なお、第2作動入賞確認フラグは、今回の賞球用カウンタの設定処理（図124）が終了した後における入球検知処理（図121）のステップS7802にて「0」クリアされる。

【1485】

上記構成であることにより第1タイマ割込み処理（図120）の所定の処理回における入球検知処理（ステップS7708）にて各種検知センサ231a～236aにて遊技球が検知されたことが特定されたとしても、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における払出出力処理（ステップS7716）ではそれに対応する遊技球の払い出しを実行させるための処理を実行することではなく、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における特図特電制御処理（ステップS7712）ではラウンド遊技を進行させるための処理を実行することではなく、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における普電普電制御処理（ステップS7713）では普電開放状態を進行させるための処理を実行しない。そして、当該所定の処理回の第1タイマ割込み処理（図120）における不正検知実行処理（ステップS7911）にて、各種検知センサ231a～236aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものではないことが特定された場合に、遊技球の払い出しを実行させるための処理、ラウンド遊技を進行させるための処理及び普電開放状態を進行させるための処理が実行される。これにより、第1タイマ割込み処理（図120）の最後の処理順序に不正検知実行処理（ステップS7911）を含めて非特定制御の処理が集約されていることに起因して、第1タイマ割込み処理（図120）における入球検知処理（ステップS7708）と払出出力処理（ステップS7716）、特図特電制御処理（ステップS7712）及び普電普電制御処理（ステップS7713）との間に不正検知実行処理（ステップS7911）が設定されていない構成であったとしても、異常又は不正に起因した遊技球の検知を契機として遊技球の払い出しを実行させるための処理、ラウンド遊技を進行させるための処理及び普電開放状態を進行させるための処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【1486】

図125は管理用処理（図122）のステップS7913におけるチェック処理にて実行される通常の入球管理処理を示すフローチャートである。なお、通常の入球管理処理におけるステップS8201～ステップS8221の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【1487】

特定制御用のワークエリア211における第1入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8201：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第1一般入賞異常フラグ213lに「1」がセットされていない場合（ステップS8202：NO）、一般入賞口31への入賞が発生して第1入賞口検知センサ231aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS8203）。また、特定制御用のワークエリア211における第2入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8204：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第2一般入賞異常フラグ213mに「1」がセットされていない場合（ステップS8205：NO）、一般入賞口31への入賞が発生して第2入賞口検知センサ232aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS8206）。また、特定制御用のワークエリア211における第3入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8207：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第3一般入賞異常フラグ213nに「1」がセットされていない場合（ステップS8208：NO）、一般入賞口31への入賞が発生して第3入賞口検知センサ233aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における一般入賞カウンタ251aの値を1加算する（ステップS8209）。

【1488】

特定制御用のワークエリア211における特電入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8210：YES）、非特定制御用のワークエリア213における特電入賞異常フラグ213oに「1」がセットされていない場合（ステップS8211：NO）、特電入賞装置32への入賞が発生して特電検知センサ234aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における特電入賞カウンタ251bの値を1加算する（ステップS8212）。

【1489】

特定制御用のワークエリア211における第1作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8213：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第1作動入賞異常フラグ213pに「1」がセットされていない場合（ステップS8214：NO）、第1作動口33への入賞が発生して第1作動口検知センサ235aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における第1作動カウンタ251cの値を1加算する（ステップS8215）。

【1490】

特定制御用のワークエリア211における第2作動入賞確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8216：YES）、非特定制御用のワークエリア213における第2作動入賞異常フラグ213qに「1」がセットされていない場合（ステップS8217：NO）、第2作動口34への入賞が発生して第2作動口検知センサ236aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常カウンタエリア251における第2作動カウンタ251dの値

を1加算する（ステップS8218）。

【1491】

特定制御用のワークエリア211におけるアウト確認フラグに「1」がセットされている場合であって（ステップS8219：YES）、非特定制御用のワークエリア213におけるアウト異常フラグ213rに「1」がセットされていない場合（ステップS8220：NO）、アウト口24aへの遊技球の入球が発生してアウト口検知センサ237aにて1個の遊技球が正常に検知されたことを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア213の通常用カウンタエリア251におけるアウトカウンタ251eの値を1加算する（ステップS8221）。

【1492】

通常の入球監視処理（図125）は第1タイマ割込み処理（図120）における各処理回において入球検知処理（ステップS7708）よりも後であって不正検知実行処理（ステップS7911）よりも後に実行される。したがって、各種検知センサ231a～237aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かが特定された後に、通常の入球監視処理（図125）が実行されることとなる。そして、通常の入球監視処理（図125）では異常フラグ213l～213rに「1」がセットされている場合には対応する確認フラグに「1」がセットされていたとしても、当該「1」がセットされている確認フラグに対応するカウンタ251a～251eに「1」を加算しない。これにより、遊技履歴の管理を正確に行うことが可能となる。

【1493】

<第15の実施形態>

本実施形態では時短に関する内容が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1494】

図126（a）はサポートモードの内容を説明するための説明図である。

【1495】

本実施形態におけるサポートモードの種類は上記第1の実施形態と同一である。具体的には、サポートモードには、遊技領域に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に第2作動口34の普電役物34aが単位時間当たりに開放状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されている。また、高頻度サポートモードとして第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとが設定されている。

【1496】

普電役物34aが開放状態となる普電開放状態とするか否かを抽選により決定するための普図当否判定処理が実行される場合における判定モードとして、電役開放当選となる確率が相対的に高低となるように普図側の高確率モードと普図側の低確率モードとが存在している。普図側の低確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が1/2であるのに対して、普図側の高確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が4/5である。

【1497】

普図当否判定処理が実行された場合には普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が開始されることとなる。この場合に、普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が相対的に長短となるように長期間と短期間とが存在している。長期間は10秒であるのに対して、短期間は1秒である。当該期間が短い方が一の普電開放状態と次の普電開放状態との間の最短期間が短くなるため、遊技領域に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に第2作動口34の普電役物34aが単位時間当たりに開放状態となる頻度が相対的に高くなる。

【1498】

10

20

30

40

50

普図表示部 38a の変動表示回が終了する場合に当該普図表示部 38a には当該変動表示回の実行の契機となった普図当否判定処理の判定結果に対応する停止結果が表示される。この場合に、普図当否判定処理の判定結果が外れ結果であった場合には普図表示部 38a に外れ結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行は発生しない。普図保留エリア 84c に普図側の保留情報が記憶されている場合には、当該普図側の保留情報に対して新たに普図当否判定処理が実行されて普図表示部 38a にて新たな変動表示回が開始される。一方、普図当否判定処理の判定結果が電役開放当選に対応する結果であった場合には普図表示部 38a に当選結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行が発生する。

【1499】

普電開放状態の実行モードとして、普電役物 34a への遊技球の入球期待度が相対的に高低となるように高期待度モードと低期待度モードとが存在している。低期待度モードでは普電役物 34a の短開放が 1 回発生する。短開放の継続期間は 0.7 秒となっている。上記第 1 の実施形態と同様に遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、普電役物 34a の短開放が 1 回発生した場合には第 2 作動口 34 への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は 1 個程度である。なお、普電開放状態は第 2 作動口 34 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合にも終了するが、短開放が 1 回発生した場合には上記のとおり第 2 作動口 34 への遊技球の入球が発生したとしても 1 個程度であるため第 2 作動口 34 に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【1500】

高期待度モードでは普電役物 34a の長開放が 3 回発生する。長開放の継続期間は 2 秒となっている。遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、普電役物 34a の長開放が 1 回発生した場合には第 2 作動口 34 に 3 個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では第 2 作動口 34 が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には 1 秒）を挟んで長開放が 3 回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には 9 個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第 2 作動口 34 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第 2 作動口 34 に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終了する事象が発生し得る。

【1501】

上記のように普図当否判定処理の判定モード、普図表示部 38a における普図の変動期間及び普電開放状態の実行モードが設定されている構成において、低頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は長期間となり、普電開放状態の実行モードは短開放 1 回が発生する低期待度モードとなる。また、第 1 高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の高確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放 3 回が発生する高期待度モードとなる。また、第 2 高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放 3 回が発生する高期待度モードとなる。したがって、スルーゲート 35 への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時間当たりで第 2 作動口 34 の普電役物 34a が開放状態となっている割合の期待度は、第 1 高頻度サポートモードが最も高く、第 2 高頻度サポートモードが次に高く、低頻度サポートモードが最も低い。また、低頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが低期待度モードとなるため、低頻度サポートモードである場合には第 2 作動口 34 への遊技球の入球がほとんど発生しないのに対して、第 1 高頻度サポートモード及び第 2 高頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが高期待度モードとなるため、第 1 高頻度サポートモード又は第 2 高頻度サポートモードである場合には第 2 作動口 34 への遊技球の入球が第 2 特図保留エリア 112 における第 2 保留情報の上限個数程度発生することが期

待できる。

【1502】

なお、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとで単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度を相違させるための構成は上記のものに限定されることはなく、例えば普図の変動期間として第1高頻度サポートモードでは短期間が選択されるのに対して第2高頻度サポートモードでは短期間と長期間との間である中期間が選択される構成としてもよく、普電開放状態の実行モードとして第1高頻度サポートモードでは長開放が3回発生するのに対して第2高頻度サポートモードでは長開放が2回発生する構成としてもよい。また、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとで普図当否判定処理の判定モードが普図側の高確率モードで同一であるものの普図の変動期間又は普電開放状態の実行モードの内容によって第1高頻度サポートモードの方が第2高頻度サポートモードよりも単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度が高くなる構成としてもよい。また、第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとで普図当否判定処理の判定モードが普図側の低確率モードで同一であるものの普図の変動期間又は普電開放状態の実行モードの内容によって第1高頻度サポートモードの方が第2高頻度サポートモードよりも単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度が高くなる構成としてもよい。

【1503】

図126(b)は本実施形態に設定されている時短状態の内容を説明するための説明図である。

【1504】

本実施形態では遊技状態として、通常遊技状態と、高確率状態と、時短状態ST1～ST3とが存在している。通常遊技状態は当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが低頻度サポートモードである遊技状態である。高確率状態は当否抽選モードが高確率モードであってサポートモードが高頻度サポートモードである遊技状態である。なお、高確率状態は上記第1の実施形態と同様に、当否判定処理にて5R高確結果又は10R高確結果(図10参照)となった遊技回が終了するとともにそれに続く開閉実行モードが終了した場合に発生する。時短状態ST1～ST3は当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが高頻度サポートモードである遊技状態である。また、時短状態ST1～ST3には、図126(b)に示すようにその実行態様が相違するように第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3が存在している。

【1505】

第1時短状態ST1は、当否判定処理にて5R低確結果(図10参照)となった遊技回が終了するとともにそれに続く開閉実行モードが終了した場合に発生する。第1時短状態ST1は当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが第1高頻度サポートモードとなる遊技状態である。第1時短状態ST1は大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく100回の遊技回が消化された場合にも終了する。100回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。

【1506】

第2時短状態ST2は、通常遊技状態又は時短状態において大当たり結果が発生することなく消化された遊技回の合計回数が天井回数に到達した場合に発生する。天井回数のセットは上記第1の実施形態と同様に大当たり結果が発生した場合に発生するとともに動作電力の供給開始時にも発生する。但し、これに限定されることはなく動作電力の供給開始時には天井回数のセットが行われない構成としてもよい。天井回数は任意であるが、本実施形態では900回に設定されている。この場合、当該天井回数は第1時短状態ST1の継続回数よりも多い回数に設定されているとともに上記のとおり大当たり結果が発生した場合に天井回数のセットが発生する。したがって、第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了することはない。

【1507】

第2時短状態ST2は当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが第2高頻度サポートモードとなる遊技状態である。既に説明したとおりスルーゲート35への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合に単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第2高頻度サポートモードよりも第1高頻度サポートモードの方が高いため、当該単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は第2時短状態ST2よりも第1時短状態ST1の方が遊技者にとって有利である。

【1508】

第2時短状態ST2は大当たり結果が発生することなく150回の遊技回が消化された場合に終了する。150回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。既に説明したとおり第1時短状態ST1は大当たり結果が発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。したがって、時短状態ST1～ST3の継続期間という面では、第1時短状態ST1よりも第2時短状態ST2の方が遊技者にとって有利である。但し、これに限定されることはなく、終了契機となる遊技回の消化回数が第1時短状態ST1と第2時短状態ST2とで同一である構成としてもよく、第1時短状態ST1の方が第2時短状態ST2よりも終了契機となる遊技回の消化回数が多い構成としてもよい。これらの場合、単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度及び終了契機となる遊技回の消化回数を含めて全体的に、第1時短状態ST1の方が第2時短状態ST2よりも有利となる。

【1509】

第2時短状態ST2の途中で大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合にも当該第2時短状態ST2が終了する。この場合、5R低確結果となり開閉実行モードが発生した場合には当該開閉実行モードの終了後に第1時短状態ST1となるため、時短状態ST1～ST3の優先度は第2時短状態ST2よりも第1時短状態ST1の方が高く設定されていると言える。

【1510】

第3時短状態ST3は、通常遊技状態又は時短状態ST1～ST3において実行された当否判定処理にて時短結果(図9)が選択された場合に発生する。上記第1の実施形態と同様に低確率時の第1当否テーブル121(図9(a))、低確率時の第2当否テーブル122(図9(b))及び高確率時の当否テーブル123(図9(c))のいずれが参照された場合であっても時短結果が選択され得る。但し、高確率時の当否テーブル123が参照される高確率状態において時短結果が選択されたとしても第3時短状態ST3は発生しない。また、上記第1の実施形態では時短結果として第1時短結果と第2時短結果とが存在している構成としたが、本実施形態では時短結果は1種類のみとなっている。

【1511】

第3時短状態ST3は当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが第2高頻度サポートモードとなる遊技状態である。既に説明したとおり第2時短状態ST2もサポートモードが第2高頻度サポートモードとなる。したがって、スルーゲート35への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合に単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第2時短状態ST2と第3時短状態ST3とは同一である。また、第1時短状態ST1は既に説明したとおりサポートモードが第1高頻度サポートモードとなるため、上記単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は第3時短状態ST3よりも第1時短状態ST1の方が遊技者にとって有利である。

【1512】

第3時短状態ST3は大当たり結果が発生することなく50回の遊技回が消化された場合に終了する。50回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。既に説明したとおり第1時短状態ST1は大当たり結果が発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了し、第2時短状態ST2は大当たり結果が発生することなく150回の遊

技回が消化された場合に終了する。したがって、時短状態 S T 1 ～ S T 3 の終了条件という面では、第 3 時短状態 S T 3 よりも第 1 時短状態 S T 1 の方が遊技者にとって有利であり、さらに第 3 時短状態 S T 3 よりも第 2 時短状態 S T 2 の方が遊技者にとって有利である。つまり、単位時間当たりで第 2 作動口 3 4 の普電役物 3 4 a が開放状態となっている割合の期待度及び終了契機となる遊技回の消化回数を含めて全体的に、第 1 時短状態 S T 1 の方が第 3 時短状態 S T 3 よりも有利であり、第 2 時短状態 S T 2 の方が第 3 時短状態 S T 3 よりも有利である。

【1513】

第 3 時短状態 S T 3 の途中で大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合にも当該第 3 時短状態 S T 3 が終了する。この場合、5 R 低確結果となり開閉実行モードが発生した場合には当該開閉実行モードの終了後に第 1 時短状態 S T 1 となるとともに第 1 時短状態 S T 1 の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されとしても第 1 時短状態 S T 1 が継続される。したがって、時短状態 S T 1 ～ S T 3 の優先度は第 3 時短状態 S T 3 よりも第 1 時短状態 S T 1 の方が高く設定されていると言える。また、第 3 時短状態 S T 3 の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第 3 時短状態 S T 3 が終了して第 2 時短状態 S T 2 が発生するとともに第 2 時短状態 S T 2 の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第 2 時短状態 S T 2 が継続される。したがって、時短状態 S T 1 ～ S T 3 の優先度は第 3 時短状態 S T 3 よりも第 2 時短状態 S T 2 の方が高く設定されていると言える。なお、第 3 時短状態 S T 3 の途中で時短結果が発生した場合には、第 3 時短状態 S T 3 の残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 に対応する 50 回に再セットされる。

【1514】

図 127 (a) は遊技状態を制御するために参照される主側 R O M 8 3 のデータ構成を説明するための説明図である。

【1515】

主側 R O M 8 3 には、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 と、通常用の遊技回期間テーブル 3 1 2 と、第 1 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 3 と、第 2 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 4 と、第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 5 と、高確率用の遊技回期間テーブル 3 1 6 とが設けられている。これらテーブル 3 1 1 ～ 3 1 6 は遊技回の変動表示期間を決定する場合に主側 M P U 8 2 により参照される。通常用の遊技回期間テーブル 3 1 2 は通常遊技状態において遊技回の変動表示期間を決定する場合に主側 M P U 8 2 により参照され、第 1 ～ 第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 3 ～ 3 1 5 は第 1 ～ 第 3 時短状態 S T 1 ～ S T 3 において遊技回の変動表示期間を決定する場合に主側 M P U 8 2 により参照され、高確率用の遊技回期間テーブル 3 1 6 は高確率状態において遊技回の変動表示期間を決定する場合に主側 M P U 8 2 により参照される。この場合、通常用の遊技回期間テーブル 3 1 2 が参照される場合よりも第 1 ～ 第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 3 ～ 3 1 5 又は高確率用の遊技回期間テーブル 3 1 6 が参照された場合の方が遊技回の変動表示期間として短い期間が選択され易くなっている。また、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 は通常遊技状態又は第 1 ～ 第 3 時短状態 S T 1 ～ S T 3 において参照すべき遊技回期間テーブル 3 1 2 ～ 3 1 5 を選択する場合に主側 M P U 8 2 により参照される。

【1516】

図 127 (b) は遊技状態を制御するために利用される主側 R A M 8 4 の記憶エリアを説明するための説明図である。

【1517】

主側 R A M 8 4 には、高確率フラグ 3 2 1 と、第 1 時短状態フラグ 3 2 2 と、第 2 時短状態フラグ 3 2 3 と、第 3 時短状態フラグ 3 2 4 と、天井カウンタ 3 2 5 と、状態判定用カウンタ 3 2 6 と、状態継続カウンタ 3 2 7 とが設けられている。

【1518】

高確率フラグ 3 2 1 は遊技状態が高確率状態であるか否かを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグであり、高確率状態が開始される場合に「1」がセットされ、高確率状態

が終了する場合に「0」クリアされる。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には主側MPU82の特図変動開始処理（図20）において当否判定処理（ステップS805）を実行する場合に高確率時の当否テーブル123が読み出され、高確率フラグ321の値が「0」である場合には主側MPU82の特図変動開始処理（図20）において当否判定処理（ステップS805）を実行する場合に低確率時の当否テーブル121, 122が読み出される。また、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップS406）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

10

【1519】

第1時短状態フラグ322は遊技状態が第1時短状態ST1であるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第1時短状態ST1が開始される場合に「1」がセットされ、第1時短状態ST1が終了する場合に「0」クリアされる。第1時短状態フラグ322に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップS406）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、第1時短状態フラグ322に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

20

【1520】

第2時短状態フラグ323は遊技状態が第2時短状態ST2であるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第2時短状態ST2が開始される場合に「1」がセットされ、第2時短状態ST2が終了する場合に「0」クリアされる。第2時短状態フラグ323に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、第2時短状態フラグ323に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

30

【1521】

第3時短状態フラグ324は遊技状態が第3時短状態ST3であるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、第3時短状態ST3が開始される場合に「1」がセットされ、第3時短状態ST3が終了する場合に「0」クリアされる。第3時短状態フラグ324に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、第3時短状態フラグ324に「1」がセットされている場合には、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

40

【1522】

50

なお、高確率フラグ 3 2 1 及び第 1 ～第 3 時短状態フラグ 3 2 2 ～3 2 4 のいずれにも「1」がセットされていない場合、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合には、主側 MPU 8 2 の普図変動開始処理（図 1 6）において普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップ S 4 0 5）が読み出され、さらに普図表示部 3 8 a の変動表示を開始する場合（ステップ S 4 1 5）に普図側の長期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップ S 4 1 3）。また、遊技状態が通常遊技状態である場合には、主側 MPU 8 2 の普図確定中処理（図 1 7）において普電開放状態の制御処理としてステップ S 5 0 6 ～ステップ S 5 0 8 が実行されることにより当該普電開放状態は低期待度モードとなる。この低頻度サポートモードによる制御は開閉実行モードにおいても行われる。

10

【1 5 2 3】

天井カウンタ 3 2 5 は第 2 時短状態 S T 2 が発生するまでに必要な残りの天井回数を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタである。大当たり結果となった場合又は動作電力の供給が開始された場合に天井カウンタ 3 2 5 に天井回数として「9 0 0」がセットされる。この天井カウンタ 3 2 5 の値は通常遊技状態又は第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 において 1 回の遊技回が実行される度に 1 減算され、その 1 減算後における天井カウンタ 3 2 5 の値が「0」となった場合に第 2 時短状態 S T 2 が発生する。

【1 5 2 4】

状態判定用カウンタ 3 2 6 は第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 の進行状況を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタである。第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 には遊技回の消化回数の範囲に応じて複数の段階が設定されており、各段階において遊技回の変動表示期間の決定態様が相違している。各段階に対応する値が状態判定用カウンタ 3 2 6 に設定されることとなる。また、状態継続カウンタ 3 2 7 は、高確率状態においては当該高確率状態が終了するまでの残りの継続回数を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタであり、第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 においては第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 の上記各段階が終了するまでの残りの継続回数を主側 MPU 8 2 にて特定するためのカウンタである。

20

【1 5 2 5】

次に、本実施形態における遊技状態を制御するために主側 MPU 8 2 にて実行される各種処理の内容について説明する。図 1 2 8 は主側 MPU 8 2 にて実行される本実施形態における特図確定中処理を示すフローチャートである。

30

【1 5 2 6】

特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップ S 8 3 0 1：Y E S）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップ S 8 3 0 2：Y E S）、オープニング期間に対応する情報（具体的には 5 秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップ S 8 3 0 3）、オープニングコマンドを音光側 MPU 9 3 に送信する（ステップ S 8 3 0 4）。音光側 MPU 9 3 はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて行われるようにする。

【1 5 2 7】

40

その後、天井カウンタ 3 2 5 に天井回数である 9 0 0 回の情報をセットする（ステップ S 8 3 0 5）。つまり、大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ 3 2 5 に天井回数である 9 0 0 回の情報がセットされる。開閉実行モードが開始される場合ではなく、開閉実行モードの途中や開閉実行モードが終了する場合に天井カウンタ 3 2 5 に天井回数のセットが行われる構成の場合、開閉実行モードが開始された後に動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給の再開時に設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）又は RAM クリア処理（ステップ S 1 1 9）が実行されるようにする不正行為が行われた場合、設定値更新処理（ステップ S 1 1 7）又は RAM クリア処理（ステップ S 1 1 9）では上記第 1 の実施形態と同様に開閉実行モード中であることを示す情報がクリアされるのに対して天井カウンタ 3 2 5 の値は維持されるため、そ

50

の動作電力の供給が停止されるまでにおける開閉実行モードの利益を得ながら、残りの天井回数が少ない状況で遊技が再開されてしまうおそれがある。これに対して、開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ325に天井回数である900回の情報がセットされることにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【1528】

その後、主側RAM84に設けられた大当たり開始時の外端フラグに「1」をセットする(ステップS8306)。大当たり開始時の外端フラグは、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側MPU82にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に説明する。その後、特図特電カウンタの値を1加算する(ステップS8307)。これにより、特図特電カウンタの値は特電開始処理(ステップS609)に対応する「3」となる。

10

【1529】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合(ステップS8302:NO)、ステップS8308にて時短進行用処理を実行し、ステップS8309にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS8310にて天井カウンタ325の減算処理を実行し、ステップS8311にて高確進行用処理を実行する。これらステップS8308～ステップS8311の処理の内容は後に説明する。その後、特図特電カウンタを「0」クリアする(ステップS8312)。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理(ステップS606)に対応する「0」となる。

【1530】

図129は主側MPU82にて実行される本実施形態における特電終了処理を示すフローチャートである。

20

【1531】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合(ステップS8401:YES)、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R高確結果又は10R高確結果である場合には(ステップS8402:YES)、高確率フラグ321に「1」をセットするとともに、第1時短状態フラグ322、第2時短状態フラグ323及び第3時短状態フラグ324のそれぞれを「0」クリアする(ステップS8403)。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、高確率モードであって第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。

30

【1532】

その後、状態継続カウンタ327に高確率継続回数である「100」の情報をセットする(ステップS8404)。状態継続カウンタ327は既に説明したとおり高確率状態においては当該高確率状態が終了するまでの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。本パチンコ機10では5R高確結果又は10R高確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで高確率状態となるが、当該高確率状態において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が高確率継続回数である100回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。

40

【1533】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R低確結果である場合には(ステップS8402:NO)、高確率フラグ321を「0」クリアする(ステップS8405)。また、第1時短状態フラグ322に「1」をセットするとともに、第2時短状態フラグ323及び第3時短状態フラグ324のそれぞれを「0」クリアする(ステップS8406)。これにより、5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第1高頻度サポートモードである第1時短状態ST1となる。

【1534】

その後、状態継続カウンタ327に第1時短状態ST1の第1段階の継続回数である「

50

20」の情報をセットする（ステップS8407）。状態継続カウンタ327は既に説明したとおり第1～第3時短状態ST1～ST3においては第1～第3時短状態ST1～ST3の各段階が終了するまでの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【1535】

第1～第3時短状態ST1～ST3における各段階について詳細には、当該段階には第1段階と第2段階と第3段階とが設定されている。これら各段階は遊技回の変動表示期間の決定態様が相違している。第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれにおいても開始された場合における段階は第1段階となる。第1段階は第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれであっても20回の遊技回が消化されるまで継続する。第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれにおいても第1段階が終了した場合には第2段階となる。第2段階は、第1時短状態ST1であれば79回の遊技回が消化されるまで継続し、第2時短状態ST2であれば129回の遊技回が消化されるまで継続し、第3時短状態ST3であれば29回の遊技回が消化されるまで継続する。第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれにおいても第2段階が終了した場合には第3段階となる。第3段階は第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれであっても1回の遊技回が消化された場合に終了する。第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれであっても最後の遊技回が第3段階となる。

【1536】

その後、状態判定用カウンタ326に「1」をセットする（ステップS8408）。状態判定用カウンタ326は既に説明したとおり第1～第3時短状態ST1～ST3の進行状況を主側MPU82にて特定するためのカウンタであり、第1～第3時短状態ST1～ST3の各段階に対応する値がセットされる。具体的には、第1段階である場合には状態判定用カウンタ326に「1」がセットされ、第2段階である場合には状態判定用カウンタ326に「2」がセットされ、第3段階である場合には状態判定用カウンタ326に「3」がセットされる。また、第1～第3時短状態ST1～ST3が終了する場合には状態判定用カウンタ326が「0」クリアされる。したがって、高確率フラグ321の値が「0」であって状態判定用カウンタ326の値が「0」である場合の遊技状態は通常遊技状態となる。

【1537】

ステップS8404又はステップS8408の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS8409）。当該送信処理では、ステップS8402～ステップS8408の処理によって決定されたパチンコ機10の遊技状態に対応する状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は受信した状態指定コマンドの内容に対応する演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【1538】

この場合、第1時短状態ST1への移行が発生した場合には、第1時短状態ST1が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1時短状態ST1が新たに開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。なお、音光側MPU93は第1時短状態ST1が新たに開始されることを示す演出が終了した後は、時短状態ST1～ST3の第1段階のベース演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41では第1段階に対応する背景画像の手前において第1段階に対応するキャラクタ表示が行われる。

【1539】

その後、主側RAM84に設けられた大当たり終了時の外端フラグに「1」をセットする（ステップS8410）。大当たり終了時の外端フラグは、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側MPU82にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に説明する。そ

の後、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS8411）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS606）に対応する「0」となる。

【1540】

図130は特図確定中処理（図128）のステップS8311にて実行される高確進行用処理を示すフローチャートである。

【1541】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合（ステップS8501：YES）、すなわち高確率状態である場合、状態継続カウンタ327の値を1減算する（ステップS8502）。そして、その1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」である場合（ステップS8503：YES）、開閉実行モードの終了後における高確率状態で高確率継続回数である100回の遊技回が消化されたことを意味する。この場合、高確率フラグ321を「0」クリアする（ステップS8504）。これにより、低確率モードであって低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。

10

【1542】

その後、主側RAM84に設けられた高確終了時の外端フラグに「1」をセットする（ステップS8505）。高確終了時の外端フラグは、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側MPU82にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に説明する。

【1543】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS8506）。当該送信処理では、高確率状態が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65における高確率状態に対応する演出の実行を終了させて、通常遊技状態に対応する演出を開始させる。

20

【1544】

図131は特図確定中処理（図128）のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【1545】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8601）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップS8601：YES）、ステップS8602以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回においては天井カウンタ325の値の減算が実行されることはなく、天井カウンタ325の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

30

【1546】

ここで、特図確定中処理（図128）においては既に説明したとおり高確進行用処理（図130）よりも前に天井カウンタ325の減算処理（図131）が実行される。これにより、高確率状態における最後の遊技回において、高確進行用処理（図130）にて状態継続カウンタ327の値が1減算されて当該状態継続カウンタ327の値が「0」となることで高確率フラグ321が「0」クリアされる前に、天井カウンタ325の減算処理（図131）が実行されることになる。そして、当該タイミングで天井カウンタ325の減算処理（図131）が実行された場合、未だ高確率フラグ321に「1」がセットされているため、天井カウンタ325の値の減算が実行されない。よって、高確率状態に対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、天井カウンタ325の値の減算が実行されないようにすることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図128）において高確進行用処理（図130）よりも前に天井カウンタ325の減算処理（図131）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

40

【1547】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップS8601：NO）、天井カウンタ325の値が1以上であるか否かを判定する（ステップS8602）。天

50

井カウンタ325の値が「0」である場合には（ステップS8602：NO）、ステップS8603以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。天井カウンタ325に天井回数の情報をセットする処理は上記第1の実施形態と同様に、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない状況であって遊技機本体12が開放状態である状況で動作電力の供給が開始された場合におけるステップS114、動作電力の供給が開始された場合に主側RAM84の情報異常が発生している場合におけるステップS122、並びに開閉実行モードが開始される場合におけるステップS8305のみであり、天井カウンタ325の値が「0」となった後においては上記いずれかの処理が実行されない限り天井カウンタ325の値は「0」に維持される。一方、第2時短状態ST2は、天井カウンタ325の値が1以上である状況で当該天井カウンタ325の値が1減算されて当該天井カウンタ325の値が「0」となった場合に発生する。この場合に、上記のとおり天井カウンタ325の値が「0」である場合には（ステップS8602：NO）、ステップS8603以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。これにより、1減算後における天井カウンタ325の値が「0」となり第2時短状態ST2が発生し、当該第2時短状態ST2において大当たり結果が発生することなく第2時短状態ST2の継続回数の遊技回が消化されて第2時短状態ST2が終了して通常遊技状態となった場合、その後に大当たり結果が発生しない遊技回の消化が繰り返されたとしても第2時短状態ST2は発生しない。よって、天井時短を契機とした第2時短状態ST2が過剰に発生してしまわないようにすることが可能となる。

【1548】

天井カウンタ325の値が1以上である場合（ステップS8602：YES）、天井カウンタ325の値を1減算し（ステップS8603）、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS8604）。天井カウンタ325の値が「0」である場合（ステップS8604：YES）、第2時短状態フラグ323に「1」をセットするとともに、第3時短状態フラグ324を「0」クリアする（ステップS8605）。これにより、開閉実行モードが終了した後において大当たり結果が発生することなく通常遊技状態又は第1～第3時短状態ST1～ST3において消化された遊技回の合計回数が天井回数に到達した場合には、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。

【1549】

ここで、既に説明したとおり高確率状態においてはステップS8601にて否定判定をしてステップS8602以降の処理を実行しないため高確率状態において第2時短状態ST2が発生することはない。また、天井回数は第1時短状態ST1の継続回数よりも多い回数に設定されているとともに大当たり結果が発生した場合に天井回数のセットが発生するため、第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が発生することはない。一方、第3時短状態ST3は当否判定処理にて時短結果となったことを契機として発生するとともに第3時短状態ST3であっても遊技回が消化される毎にステップS8603にて天井カウンタ325の値が1減算される。したがって、第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が発生し得る。この場合、第3時短状態ST3の途中でであってもステップS8605の処理が実行されるため、第3時短状態ST3が途中で終了して第2時短状態ST2が発生する。つまり、第3時短状態ST3よりも第2時短状態ST2が優先される。

【1550】

その後、状態継続カウンタ327に第2時短状態ST2の第1段階の継続回数である「20」の情報をセットする（ステップS8606）。状態継続カウンタ327は既に説明したとおり第1～第3時短状態ST1～ST3においては第1～第3時短状態ST1～ST3の各段階が終了するまでの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【1551】

その後、状態判定用カウンタ326に「1」をセットする（ステップS8607）。状態判定用カウンタ326は既に説明したとおり第1～第3時短状態ST1～ST3の進行状況を主側MPU82にて特定するためのカウンタであり、第1～第3時短状態ST1～ST3の各段階に対応する値がセットされる。具体的には、第1段階である場合には状態判定用カウンタ326に「1」がセットされ、第2段階である場合には状態判定用カウンタ326に「2」がセットされ、第3段階である場合には状態判定用カウンタ326に「3」がセットされる。

【1552】

その後、主側RAM84に設けられた時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップS8608）。時短発生時の外端フラグは、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側MPU82にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に説明する。

10

【1553】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS8609）。当該送信処理では第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第2時短状態ST2が開始されることを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。なお、音光側MPU93は第2時短状態ST2が新たに開始されることを示す演出が終了した後は、時短状態ST1～ST3の第1段階のベース演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41では第1段階に対応する背景画像の手前において第1段階に対応するキャラクタ表示が行われる。

20

【1554】

図132は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【1555】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップS8701：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS8702）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップS8702：YES）、ステップS8703以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

30

【1556】

ここで、特図確定中処理（図128）においては既に説明したとおり高確進行用処理（図130）よりも前に時短結果用の設定処理（図132）が実行される。これにより、高確率状態における最後の遊技回において、高確進行用処理（図130）にて状態継続カウンタ327の値が1減算されて当該状態継続カウンタ327の値が「0」となることで高確率フラグ321が「0」クリアされる前に、時短結果用の設定処理（図132）が実行されることになる。そして、当該タイミングで時短結果用の設定処理（図132）が実行された場合、未だ高確率フラグ321に「1」がセットされているため、時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定は行われない。よって、高確率状態に対応する実行態様で当否判定処理が実行された遊技回においては、時短結果を確実に無効化させることが可能となる。また、このような効果の特図確定中処理（図128）において高確進行用処理（図130）よりも前に時短結果用の設定処理（図132）を実行するという処理順序の設定によって実現することが可能となる。

40

【1557】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップS8702：NO）、第1時短状態フラグ322又は第2時短状態フラグ323に「1」がセットされている

50

か否かを判定する（ステップS 8 7 0 3、ステップS 8 7 0 4）。つまり、第1時短状態S T 1及び第2時短状態S T 2のいずれかであるか否かを判定する。第1時短状態S T 1又は第2時短状態S T 2である場合（ステップS 8 7 0 3又はステップS 8 7 0 4：Y E S）、ステップS 8 7 0 5以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第1時短状態S T 1又は第2時短状態S T 2である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、時短結果用の設定処理（図1 3 2）が実行されたタイミングにおいて第1時短状態S T 1又は第2時短状態S T 2である場合には、当該時短結果を契機とした第3時短状態S T 3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。これにより、第3時短状態S T 3よりも第1時短状態S T 1及び第2時短状態S T 2を優先させることが可能となる。

10

【1 5 5 8】

第1時短状態フラグ3 2 2及び第2時短状態フラグ3 2 3の両方に「1」がセットされていない場合（ステップS 8 7 0 3及びステップS 8 7 0 4：N O）、すなわち遊技状態が通常遊技状態及び第3時短状態S T 3のいずれかである場合、第3時短状態フラグ3 2 4に「1」をセットする（ステップS 8 7 0 5）。これにより、遊技状態が通常遊技状態であった場合には第3時短状態S T 3への移行が発生し、遊技状態が第3時短状態S T 3であった場合には第3時短状態S T 3が維持される。

【1 5 5 9】

その後、状態継続カウンタ3 2 7に第3時短状態S T 3の第1段階の継続回数である「2 0」の情報をセットする（ステップS 8 7 0 6）。状態継続カウンタ3 2 7は既に説明したとおり第1～第3時短状態S T 1～S T 3においては第1～第3時短状態S T 1～S T 3の各段階が終了するまでの残りの遊技回数を主側M P U 8 2にて特定するためのカウンタである。

20

【1 5 6 0】

その後、状態判定用カウンタ3 2 6に「1」をセットする（ステップS 8 7 0 7）。状態判定用カウンタ3 2 6は既に説明したとおり第1～第3時短状態S T 1～S T 3の進行状況を主側M P U 8 2にて特定するためのカウンタであり、第1～第3時短状態S T 1～S T 3の各段階に対応する値がセットされる。具体的には、第1段階である場合には状態判定用カウンタ3 2 6に「1」がセットされ、第2段階である場合には状態判定用カウンタ3 2 6に「2」がセットされ、第3段階である場合には状態判定用カウンタ3 2 6に「3」がセットされる。

30

【1 5 6 1】

その後、主側R A M 8 4に設けられた時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップS 8 7 0 8）。時短発生時の外端フラグは、パチンコ機1 0の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側M P U 8 2にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に詳細に説明する。

【1 5 6 2】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS 8 7 0 9）。当該送信処理では第3時短状態S T 3が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドが音光側M P U 9 3に送信されるようにする。音光側M P U 9 3は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態S T 3が新たに開始されることを示す演出が図柄表示装置4 1、表示発光部6 4及びスピーカ部6 5にて実行されるようにするための処理を実行する。なお、音光側M P U 9 3は第3時短状態S T 3が新たに開始されることを示す演出が終了した後は、時短状態S T 1～S T 3の第1段階のベース演出が図柄表示装置4 1、表示発光部6 4及びスピーカ部6 5にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置4 1では第1段階に対応する背景画像の手前において第1段階に対応するキャラクタ表示が行われる。

40

【1 5 6 3】

上記のとおり当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても当該時短結果となった遊技回の終了時において時短結果用の設定処理（図1 3 2）が実行されるタイミングにお

50

る状況に応じて、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われる場合と行われない場合とがある。この場合に、当否判定処理にて時短結果が選択された遊技回において特図表示部37a, 37bに停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われるか否かによって変化しないのに対して、図柄表示装置41に停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われるか否かによって変化する。かかる内容について以下に詳細に説明する。

【1564】

遊技回の当否判定処理（ステップS805）及び大当たり用の振分判定処理（ステップS807）により選択され得る遊技結果として、5R低確結果、5R高確結果、10R高確結果、時短結果及び外れ結果が存在している。特図表示部37a, 37bにおいて遊技回
10
の確定表示として停止表示される停止結果は、5R低確結果の場合には「1」であり、5R高確結果の場合には「2」であり、10R高確結果の場合には「3」であり、時短結果の場合には「4」であり、外れ結果の場合には「-」である。これら停止結果はいずれの遊技状況であっても変化しない。したがって、遊技ホールの管理者は特図表示部37a, 37bの停止結果を確認することで、遊技回の遊技結果を一義的に把握することが可能となる。

【1565】

図柄表示装置41において遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、大当たり結果である場合及び外れ結果である場合にはいずれの遊技状況であっても変化しないの
20
に対して、時短結果である場合には遊技状況によって変化する。かかる内容について図133のフローチャートを参照しながら説明する。図133は音光側MPU93にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側MPU82から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

【1566】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS8801：YES）、大当たり結果用の停止図柄決定処理を実行し（ステップS8802）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップS8803）。これら処理の内容は、上記第1の実施形態における変動パターンの決定処理（図28）のステップS1402及びステップS1403と同一である。
30

【1567】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS8804：YES）、現状の遊技状態が高確率状態、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれでもない場合、すなわち現状の遊技状態が通常遊技状態又は第3時短状態ST3である場合（ステップS8805及びステップS8806：NO）、又は現状の遊技状態が第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2であったとしても当該時短状態ST1, ST2の最終遊技回である場合（ステップS8806及びステップS8807：YES）、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS8808）。なお、音光側MPU93は主側MPU82から
40
受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれであるのかを特定可能であり、さらに第1, 第2時短状態ST1, ST2の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって第1, 第2時短状態ST1, ST2の最終遊技回であるか否かを特定可能である。

【1568】

時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、時短結果に対応する停止図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領
50

域 4 3 の停止結果として赤色を選択する（ステップ S 8 8 0 9）。

【1 5 6 9】

一方、今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップ S 8 8 0 4：Y E S）であって、現状の遊技状態が高確率状態である場合（ステップ S 8 8 0 5：Y E S）、又は現状の遊技状態が第 1 時短状態 S T 1 若しくは第 2 時短状態 S T 2 であって当該時短状態 S T 1、S T 2 の最終遊技回ではない場合（ステップ S 8 8 0 6：Y E S、ステップ S 8 8 0 7：N O）、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップ S 8 8 1 0）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ～ Z 3 に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として青色を選択する（ステップ S 8 8 1 1）。

10

【1 5 7 0】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が外れ結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップ S 8 8 0 4：N O）、外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップ S 8 8 1 2）。外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していることを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ～ Z 3 に停止表示させる停止結果として、外れリーチ図柄の組合せを抽選により決定するとともにその決定した外れリーチ図柄の組合せを停止表示させる有効ライン L 1 ～ L 5 を抽選により決定する。また、外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していないことを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。その後、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として赤色を選択する（ステップ S 8 8 1 3）。

20

【1 5 7 1】

ステップ S 8 8 0 3、ステップ S 8 8 0 9、ステップ S 8 8 1 1 又はステップ S 8 8 1 3 の処理を実行した場合、パターン決定処理を実行する（ステップ S 8 8 1 4）。パターン決定処理では、まず予告表示の実行の有無及び予告表示を実行する場合にはその種類を決定するための予告抽選処理を実行する。そして、当該予告抽選処理の結果、ステップ S 8 8 0 1 ～ステップ S 8 8 1 3 にて決定した停止結果及び今回受信した変動用コマンドに含まれる変動表示期間の情報に対応する変動パターンを選択し、その選択した変動パターンに対応する変動パターンテーブルを音光側 R O M 9 4 から音光側 R A M 9 5 に読み出す。音光側 M P U 9 3 はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 を制御することにより、これら表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。

30

【1 5 7 2】

その後、ステップ S 8 8 1 4 にて決定した変動パターンに対応する変動パターンコマンドを表示側 M P U 1 0 3 に送信する（ステップ S 8 8 1 5）。表示側 M P U 1 0 3 はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側 R O M 1 0 4 から表示側 R A M 1 0 5 に読み出す。表示側 M P U 1 0 3 はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置 4 1 を制御することにより、当該図柄表示装置 4 1 において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ～ Z 3 に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図 1 3 3）におけるステップ S 8 8 0 1 ～ステップ S 8 8 1 3 にて決定された停止結果となる。

40

【1 5 7 3】

上記のとおり時短結果の場合には通常遊技状態、第 3 時短状態 S T 3、又は第 1 時短状

50

態 S T 1 若しくは第 2 時短状態 S T 2 の最終遊技回である場合には図柄列 Z 1 ~ Z 3 のいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域 4 3 には赤色が停止表示される。なお、第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 の最終遊技回においては当該時短状態を終了させるための時短進行用処理（ステップ S 8 3 0 8）が実行された後に時短結果用の設定処理（図 1 3 2）が実行されるため、当該時短結果用の設定処理（図 1 3 2）が実行されるタイミングにおいては既に時短状態が終了して通常遊技状態となっている。

【1 5 7 4】

一方、高確率状態である場合、又は第 1 時短状態 S T 1 若しくは第 2 時短状態 S T 2 の最終遊技回以外の遊技回である場合、時短結果となったとしても図柄列 Z 1 ~ Z 3 には各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域 4 3 には青色が停止表示される。上記非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

【1 5 7 5】

図柄表示装置 4 1 の表示面積は特図表示部 3 7 a , 3 7 b の表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置 4 1 は遊技領域 P A の略中央に配置されているのに対して特図表示部 3 7 a , 3 7 b は遊技領域 P A の隅角側に配置されているため、図柄表示装置 4 1 の方が特図表示部 3 7 a , 3 7 b よりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置 4 1 ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部 3 7 a , 3 7 b では既に説明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置 4 1 の方が特図表示部 3 7 a , 3 7 b よりも遊技者に注目される。このような事情において第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【1 5 7 6】

第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域 4 3 には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域 4 3 に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域 4 3 に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部 3 7 a , 3 7 b が視認しづらい状況において図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域 4 3 を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

【1 5 7 7】

図 1 3 4 は特図確定中処理（図 1 2 8）のステップ S 8 3 0 8 にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【1 5 7 8】

まず高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 8 9 0 1）。高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされている場合には（ステップ S 8 9 0 1 : Y E S）、ステップ S 8 9 0 2 以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【1 5 7 9】

高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされていない場合であって第 1 時短状態フラグ 3 2 2、第 2 時短状態フラグ 3 2 3 及び第 3 時短状態フラグ 3 2 4 のいずれかに「1」がセ

10

20

30

40

50

ットされている場合（ステップS8902：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかである場合、時短用減算処理を実行する（ステップS8903）。時短用減算処理では詳細は後述するが、状態継続カウンタ327の値を1減算し、その1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」となった場合には、現状が第1～第3時短状態ST1～ST3の第1段階であれば第2段階に移行させるための処理を実行することで状態継続カウンタ327に所定の値を設定し、現状が第1～第3時短状態ST1～ST3の第2段階であれば第3段階に移行させるための処理を実行することで状態継続カウンタ327に所定の値を設定し、現状が第1～第3時短状態ST1～ST3の第3段階であれば状態継続カウンタ327の値が「0」である状態を維持させる。

【1580】

ステップS8903にて時短用減算処理を実行した後において状態継続カウンタ327の値が「0」である場合（ステップS8904：YES）、第1～第3時短状態ST1～ST3の第3段階が終了したこと、すなわち現状の第1～第3時短状態ST1～ST3が終了したことを意味する。この場合、時短状態フラグのクリア処理を実行する（ステップS8905）。当該クリア処理では、第1時短状態フラグ322に「1」がセットされているのであれば当該第1時短状態フラグ322を「0」クリアし、第2時短状態フラグ323に「1」がセットされているのであれば第2時短状態フラグ323を「0」クリアし、第3時短状態フラグ324に「1」がセットされているのであれば第3時短状態フラグ324を「0」クリアする。

【1581】

その後、主側RAM84に設けられた時短終了時の外端フラグに「1」をセットする（ステップS8906）。時短終了時の外端フラグは、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータへの信号の外部出力を制御する契機を主側MPU82にて特定するためのフラグである。当該信号の外部出力の制御内容については後に説明する。

【1582】

その後、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS8907）。当該送信処理では、現状の第1～第3時短状態ST1～ST3が終了したことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信されるようにする。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65における第1～第3時短状態ST1～ST3に対応する演出の実行を終了させて、通常遊技状態に対応する演出を開始させる。

【1583】

特図確定中処理（図128）においては既に説明したとおり、時短結果用の設定処理（図132）よりも前に時短進行用処理（図133）が実行される。これにより、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2である場合には、現状の時短状態ST1、ST2の最終遊技回以外の遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となったとしても当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われないようにしながら、現状の時短状態ST1、ST2の最終遊技回において当否判定処理の結果が時短結果となった場合には当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われるようにすることが可能となる。よって、第3時短状態ST3よりも第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の実行が優先される構成であっても、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回における時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定を有効なものとするすることで、当否判定処理にて時短結果が選択されたことの利益が遊技者に極力付与されるようにすることが可能となる。また、このような優れた効果を上記のような処理の実行順序の設定によって生じさせることが可能となる。

【1584】

次に、パチンコ機10からホールコンピュータHCへの外部出力についての構成を説明する。図135はパチンコ機10が多数設置された遊技ホールの電氣的な構成の概要を説明するための概略図である。

【1585】

10

20

30

40

50

図135に示すように、遊技ホールには島設備Sが設けられており、当該島設備Sに対して多数のパチンコ機10が設置されている。また、島設備Sには、各パチンコ機10に1対1で対応させてデータカウンタDCが設置されている。各データカウンタDCは、対応するパチンコ機10の上方に搭載されており、遊技回の実行回数を表示するための第1表示部DC1と、所定の有利状況の実行回数を表示するための第2表示部DC2とが設けられている。

【1586】

各パチンコ機10及び各データカウンタDCを管理する管理制御手段として、遊技ホールにはホールコンピュータHCが設けられている。ホールコンピュータHCは、管理プログラムを有する電子演算装置であり、その内部にMPU501が搭載されている。MPU501には、当該MPU501により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したROM502と、そのROM502内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータやパチンコ機10から入力した情報等を一時的に記憶するためのメモリであるRAM503とを備えている。

【1587】

ホールコンピュータHCは、各パチンコ機10と電気配線群EL1を通じて電氣的に接続されているとともに、各データカウンタDCと電気配線群EL2を通じて電氣的に接続されている。そして、各パチンコ機10から受信した情報に基づく管理処理を実行するとともに、その管理処理の結果に応じた信号を各データカウンタDCに送信する。

【1588】

パチンコ機10においてホールコンピュータHCに情報を送信するための構成について、図136を参照しながら詳細に説明する。図136(a)はパチンコ機10の裏パックユニット15に設けられた外部端子板331及びその周辺を拡大して示すパチンコ機10の背面図であり、図136(b)は主側RAM84に設けられた外部出力バッファ341を説明するための説明図であり、図136(c)は外部端子板331の電氣的構成を説明するためのブロック図である。

【1589】

図136(a)に示すように、外部端子板331には、複数の外部端子(出力端子)332~339が設けられている。外部端子332~339は合計8個設けられており、ホールコンピュータHCに向けて外部出力する情報の種類が相違している。

【1590】

第1大当たり信号用の外部端子332は、主側MPU82の当否判定処理において大当たり結果となったことに基づく開閉実行モードの発生中であるか否かを示す第1大当たり信号を外部出力するために用いられる。第2大当たり信号用の外部端子333は、主側MPU82の当否判定処理において大当たり結果となったことに基づく開閉実行モードの発生中であるか否か、天井回数の遊技回の消化に基づき第2時短状態ST2が発生したか否か、及び主側MPU82の当否判定処理において時短結果となったことに基づき第3時短状態ST3が発生したか否かを示す第2大当たり信号を外部出力するために用いられる。有利状態信号用の外部端子334は、主側MPU82の当否判定処理において大当たり結果となったことに基づく開閉実行モードの発生中であるか否か、高確率状態の発生中であるか否か、及び第1~第3時短状態ST1~ST3のいずれかの発生中であるか否かを示す有利状態信号を外部出力するために用いられる。

【1591】

外部端子332~339には、上記各外部端子332~334以外にも、遊技機本体12が開放中であるか否かを示す信号を外部出力するために用いられる外部端子335と、一の遊技回が終了したことを示す情報を出力するために用いられる外部端子336と、作動口33, 34への入賞が発生したことを示す情報を出力するために用いられる外部端子337と、所定個数の遊技球の払出が行われたことを示す情報を出力するために用いられる外部端子338と、所定の不正の発生が検知されたことを示す情報を出力するために用いられる外部端子339とが含まれている。

10

20

30

40

50

【1592】

上記各外部端子332～339に1対1で対応させて、主側RAM84の外部出力バッファ341には、図136(b)に示すように、複数の出力設定用の単位エリア342～349が設けられている。各出力設定用の単位エリア342～349は、所定ビット、具体的には1ビットの情報量を有しており、各単位エリア342～349には、出力無し情報である「0」及び出力有り情報である「1」のいずれかの情報が設定される。なお、各単位エリア342～349の情報量は1ビットに限定されることはなく任意であり、さらに出力無し情報及び出力有り情報のデータ構成も任意である。

【1593】

主側MPU82は図136(a)に示す電気配線群EL3を通じて外部端子板331の各外部端子332～339と1対1で対応させて電氣的に接続されており、外部出力バッファ341において「1」がセットされている単位エリア342～349に対応した外部端子332～339に所定電圧の信号を出力する。

【1594】

各外部端子332～339は、図136(c)に示すように、主側MPU82からホールコンピュータHCへ向けた電気信号の送信を可能としながら、その逆の流れを防止すべく、フォトカプラ351によって構成されている。フォトカプラ351の一次側である発光ダイオード352が抵抗353を介して主側MPU82に接続されており、二次側である受光素子354がホールコンピュータHCに接続されている。したがって、外部出力バッファ341において「1」がセットされている単位エリア342～349に対応した外部端子332～339に対して主側MPU82から信号出力がなされると、その信号出力がなされた外部端子332～339の発光ダイオード352が発光し、その光が当該外部端子332～339の受光素子354にて受光されて電気信号に変換され、当該電気信号がホールコンピュータHCへ出力される。

【1595】

なお、ホールコンピュータHCへ出力される電気信号の態様は任意であり、主側MPU82から外部出力がなされていない状況では0Vの信号が出力され、外部出力がなされることで0Vよりも大きい所定の電圧の信号が出力される態様としてもよく、信号の出力パターンがこれと逆の関係となっている態様としてもよい。また、主側MPU82から外部出力がなされていない状況では0Vよりも大きい基準電圧の信号が出力され、外部出力がなされることで上記基準電圧よりも大きい又は小さい電圧の信号が出力される態様としてもよい。

【1596】

次に、主側MPU82にて実行される外部出力に係る処理について説明する。但し、以下の説明では、外部端子板331の各外部端子332～339のうち、第1大当たり信号用の外部端子332、第2大当たり信号用の外部端子333及び有利状態信号用の外部端子334を通じた外部出力に係る構成を説明する。これら外部出力を制御するための処理は外端用処理にて実行される。外端用処理はタイマ割込み処理(図14)における外部情報設定処理(ステップS218)の一部の処理として実行される。図137は外端用処理を示すフローチャートである。

【1597】

外端用処理では、主側RAM84の大当たり開始時の外端フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS9001)。既に説明したとおり大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される場合に、特図確定中処理(図128)におけるステップS8306にて大当たり開始時の外端フラグに「1」がセットされる。大当たり開始時の外端フラグに「1」がセットされている場合(ステップS9001: YES)、第1大当たり信号のON処理(ステップS9002)、第2大当たり信号のON処理(ステップS9003)、及び有利状態信号のON処理(ステップS9004)を実行した後に、大当たり開始時の外端フラグを「0」クリアする(ステップS9005)。

【1598】

第1大当たり信号のON処理では、外部出力バッファ341において第1大当たり信号用の外部端子332に対応した第1単位エリア342に「1」をセットする。これにより、第1大当たり信号用の外部端子332を通じた第1大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHIレベルに切り換わる。そして、この第1大当たり信号がHIレベルである状態は第1単位エリア342の値が「1」である状況は継続される。なお、このHI・LOWの関係が逆であってもよい。第2大当たり信号のON処理では、外部出力バッファ341において第2大当たり信号用の外部端子333に対応した第2単位エリア343に「1」をセットする。これにより、第2大当たり信号用の外部端子333を通じた第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHIレベルに切り換わる。そして、この第2大当たり信号がHIレベルである状態は第2単位エリア343の値が「1」である状況は継続される。なお、このHI・LOWの関係が逆であってもよい。有利状態信号のON処理では、外部出力バッファ341において有利状態信号用の外部端子334に対応した第3単位エリア344に「1」をセットする。これにより、有利状態信号用の外部端子334を通じた有利状態信号の出力状態がLOWレベルからHIレベルに切り換わる。そして、この有利状態信号がHIレベルである状態は第3単位エリア344の値が「1」である状況は継続される。なお、このHI・LOWの関係が逆であってもよい。

10

【1599】

外端用処理では、主側RAM84の大当たり終了時の外端フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS9006）。既に説明したとおり大当たり結果を契機とした開閉実行モードが終了する場合に、特電終了処理（図129）におけるステップS8410にて大当たり終了時の外端フラグに「1」がセットされる。大当たり終了時の外端フラグに「1」がセットされている場合（ステップS9006：YES）、第1大当たり信号のOFF処理（ステップS9007）、及び第2大当たり信号のOFF処理（ステップS9008）を実行した後に、大当たり終了時の外端フラグを「0」クリアする（ステップS9009）。

20

【1600】

第1大当たり信号のOFF処理では、外部出力バッファ341において第1大当たり信号用の外部端子332に対応した第1単位エリア342を「0」クリアする。これにより、第1大当たり信号用の外部端子332を通じた第1大当たり信号の出力状態がHIレベルからLOWレベルに切り換わる。そして、この第1大当たり信号がLOWレベルである状態は第1単位エリア342の値が「0」である状況は継続される。第2大当たり信号のOFF処理では、外部出力バッファ341において第2大当たり信号用の外部端子333に対応した第2単位エリア343を「0」クリアする。これにより、第2大当たり信号用の外部端子333を通じた第2大当たり信号の出力状態がHIレベルからLOWレベルに切り換わる。そして、この第2大当たり信号がLOWレベルである状態は第2単位エリア343の値が「0」である状況は継続される。

30

【1601】

外端用処理では、主側RAM84の高確終了時の外端フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS9010）。既に説明したとおり高確率状態が終了する場合に、高確進行用処理（図130）におけるステップS8505にて高確終了時の外端フラグに「1」がセットされる。高確終了時の外端フラグに「1」がセットされている場合（ステップS9010：YES）、有利状態信号のOFF処理（ステップS9011）を実行した後に、高確終了時の外端フラグを「0」クリアする（ステップS9012）。

40

【1602】

有利状態信号のOFF処理では、外部出力バッファ341において有利状態信号用の外部端子334に対応した第3単位エリア344を「0」クリアする。これにより、有利状態信号用の外部端子334を通じた有利状態信号の出力状態がHIレベルからLOWレベルに切り換わる。そして、この有利状態信号がLOWレベルである状態は第3単位エリア344の値が「0」である状況は継続される。

【1603】

50

外端用処理では、主側 R A M 8 4 の時短発生時の外端フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 9 0 1 3）。既に説明したとおり天井回数の遊技回が消化されて第 2 時短状態 S T 2 が開始される場合に、天井カウンタ 3 2 5 の減算処理（図 1 3 1）におけるステップ S 8 6 0 8 にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされる。また、当否判定処理にて時短結果となったことを契機として第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される場合に、時短結果用の設定処理（図 1 3 2）におけるステップ S 8 7 0 8 にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされる。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 9 0 1 3：Y E S）、第 2 大当たり信号の O N 処理（ステップ S 9 0 1 4）、有利状態信号の O N 処理（ステップ S 9 0 1 5）、及び O N 継続カウンタの設定処理（ステップ S 9 0 1 6）を実行した後に、時短発生時の外端フラグを「0」クリアする（ステップ S 9 0 1 7）。

10

【1 6 0 4】

第 2 大当たり信号の O N 処理の内容はステップ S 9 0 0 3 と同様であり、外部出力バッファ 3 4 1 において第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 に対応した第 2 単位エリア 3 4 3 に「1」がセットされることで、第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 を通じた第 2 大当たり信号の出力状態が L O W レベルから H I レベルに切り換わる。有利状態信号の O N 処理の内容はステップ S 9 0 0 4 と同様であり、外部出力バッファ 3 4 1 において有利状態信号用の外部端子 3 3 4 に対応した第 3 単位エリア 3 4 4 に「1」がセットされることで、有利状態信号用の外部端子 3 3 4 を通じた有利状態信号の出力状態が L O W レベルから H I レベルに切り換わる。

20

【1 6 0 5】

O N 継続カウンタの設定処理では、主側 R A M 8 4 に設けられた O N 継続カウンタに O N 継続期間（具体的には 5 0 0 ミリ秒）の情報をセットする。O N 継続カウンタは、第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 が発生したことを契機として第 2 大当たり信号が H I レベルとなった場合にその H I レベルの出力状態を O N 継続期間の経過に伴って L O W レベルに切り換えるタイミングを主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。O N 継続期間は遊技回の変動表示期間として選択され得る最短期間（具体的には 3 秒）よりも短い期間となっている。

【1 6 0 6】

外端用処理では、O N 継続カウンタの値が 1 以上である場合（ステップ S 9 0 1 8：Y E S）、当該 O N 継続カウンタの値を 1 減算する（ステップ S 9 0 1 9）。そして、その 1 減算後における O N 継続カウンタの値が「0」である場合（ステップ S 9 0 2 0：Y E S）、第 2 大当たり信号の O F F 処理を実行する（ステップ S 9 0 2 1）。第 2 大当たり信号の O F F 処理の内容はステップ S 9 0 0 8 と同様であり、外部出力バッファ 3 4 1 において第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 に対応した第 2 単位エリア 3 4 3 が「0」クリアされることで、第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 を通じた第 2 大当たり信号の出力状態が H I レベルから L O W レベルに切り換わる。

30

【1 6 0 7】

既に説明したとおり O N 継続期間は遊技回の変動表示期間として選択され得る最短期間（具体的には 3 秒）よりも短い期間となっている。したがって、遊技回が終了する場合に第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 への移行が発生したことで第 2 大当たり信号の出力状態が L O W レベルから H I レベルに切り換えられたとしても、当該 H I レベルは次の遊技回が終了する前に L O W レベルに切り換えられることになる。

40

【1 6 0 8】

外端用処理では、主側 R A M 8 4 の時短終了時の外端フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S 9 0 2 2）。既に説明したとおり第 1～第 3 時短状態 S T 1～S T 3 のいずれかが終了する場合に、時短進行用処理（図 1 3 4）におけるステップ S 8 9 0 6 にて時短終了時の外端フラグに「1」がセットされる。時短終了時の外端フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S 9 0 2 2：Y E S）、有利状態信号の O F F 処理（ステップ S 9 0 2 3）を実行した後に、時短終了時の外端フラグを「0」ク

50

リアする（ステップS9024）。有利状態信号のOFF処理の内容はステップS9011と同様であり、外部出力バッファ341において有利状態信号用の外部端子334に対応した第3単位エリア344が「0」クリアされることで、有利状態信号用の外部端子334を通じた有利状態信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換わる。

【1609】

次に、第1大当たり信号、第2大当たり信号及び有利状態信号の出力状態が切り換えられる様子について図138のタイムチャートを参照しながら説明する。図138（a）は第1大当たり信号の出力状態を示し、図138（b）は第2大当たり信号の出力状態を示し、図138（c）は有利状態信号の出力状態を示し、図138（d）は開閉実行モードが発生している期間を示し、図138（e）は第1時短状態ST1が発生している期間を示し、図138（f）は第2時短状態ST2が発生している期間を示し、図138（g）は第3時短状態ST3が発生している期間を示す。

10

【1610】

t1のタイミングで図138（d）に示すように開閉実行モードが開始される。この場合、当該t1のタイミングで、図138（a）に示すように第1大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられ、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられ、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられる。

【1611】

その後、t2のタイミングで、図138（d）に示すように開閉実行モードが終了し、図138（e）に示すように第1時短状態ST1が開始される。この場合、当該t2のタイミングで、図138（a）に示すように第1大当たり信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換えられ、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換えられる。一方、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態はHイレベルに維持される。

20

【1612】

その後、t3のタイミングで、図138（e）に示すように第1時短状態ST1が終了し、遊技状態が通常遊技状態となる。この場合、当該t3のタイミングで図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換えられる。

【1613】

その後、t4のタイミングで、天井回数の遊技回が消化されることによって図138（f）に示すように第2時短状態ST2が開始される。この場合、当該t4のタイミングで、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられ、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられる。

30

【1614】

その後、t5のタイミングで、t4のタイミングから計測が開始されたON継続期間（具体的には500ミリ秒）が経過するため、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換えられる。一方、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態はHイレベルに維持される。

40

【1615】

その後、t6のタイミングで、図138（f）に示すように第2時短状態ST2が終了し、遊技状態が通常遊技状態となる。この場合、当該t6のタイミングで図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がHイレベルからLOWレベルに切り換えられる。

【1616】

その後、t7のタイミングで、時短結果に対応する遊技回が終了することによって図138（g）に示すように第3時短状態ST3が開始される。この場合、当該t7のタイミングで、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられ、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられる。

50

【1617】

その後、 t_8 のタイミングで、 t_7 のタイミングから計測が開始されたON継続期間（具体的には500ミリ秒）が経過するため、図138（b）に示すように第2大当たり信号の出力状態がHレベルからLOWレベルに切り換えられる。一方、図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態はHレベルに維持される。

【1618】

その後、 t_9 のタイミングで、図138（f）に示すように第3時短状態ST3が終了し、遊技状態が通常遊技状態となる。この場合、当該 t_9 のタイミングで図138（c）に示すように有利状態信号の出力状態がHレベルからLOWレベルに切り換えられる。

【1619】

上記のとおり第1大当たり信号は、大当たり結果を契機とした開閉実行モードである期間中において出力状態がHレベルとなり、その他の状況においては出力状態がLOWレベルとなる。第2大当たり信号は、大当たり結果を契機とした開閉実行モードである期間中において出力状態がHレベルとなるとともに、天井回数の遊技回が消化されて第2時短状態ST2が開始された場合又は時短結果に対応する遊技回が終了して第3時短状態ST3が開始された場合にON継続期間（具体的には500ミリ秒）に亘って出力状態がHレベルとなり、その他の状況においては出力状態がLOWレベルとなる。この場合、第3時短状態ST3において天井回数の遊技回が消化された場合には第3時短状態ST3が途中で終了して第2時短状態ST2が開始されることとなるが、この第2時短状態ST2の開始に際しても第2大当たり信号の出力状態はON継続期間（具体的には500ミリ秒）に亘ってHレベルとなる。また、第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が終了した場合にはそれまでの第3時短状態ST3が途中で終了して第3時短状態ST3が新たに開始されることとなるが、この第3時短状態ST3の新たな開始に際しても第2大当たり信号の出力状態はON継続期間（具体的には500ミリ秒）に亘ってHレベルとなる。ON継続期間は1回の遊技回を消化するために要する最短期間（具体的には3秒）よりも短い期間となっているため、第2大当たり信号の出力状態がHレベルである状況において第2大当たり信号の出力状態を新たにHレベルとする契機が発生することはない。有利状態信号は、大当たり結果を契機とした開閉実行モードである期間中、高確率状態である期間中及び第1～第3時短状態ST1～ST3の期間中のいずれかである状況において出力状態がHレベルとなり、その他の状況においては出力状態がLOWレベルとなる。

【1620】

パチンコ機10の外部端子板331には図136（a）に示すように8個の外部端子332～339が設けられている。これに対して、一のパチンコ機10とホールコンピュータHCとの間の信号経路は当該パチンコ機10に設けられた外部端子332～339の数よりも少ない。この場合に、第1大当たり信号用の外部端子332、第2大当たり信号用の外部端子333及び有利状態信号用の外部端子334は、開閉実行モード中に外部出力を行うためのものとして外部出力の内容が一部重複しているが、他の外部端子335～339は外部出力の内容に相関がなく独立している。したがって、従来の設備を改修することなくパチンコ機10を導入する遊技ホールでは、第1大当たり信号用の外部端子332、第2大当たり信号用の外部端子333及び有利状態信号用の外部端子334についてはいずれか1つを選択して、電気的な接続を行うものと考えられる。また、従来の設備を改修などすることにより外部端子332～339の数と同数の信号経路を提供できる遊技ホールであっても、データカウンタDCにおいて所定の有利状況の実行回数を表示するための第2表示部DC2に情報を反映する端子を、第1大当たり信号用の外部端子332、第2大当たり信号用の外部端子333及び有利状態信号用の外部端子334の中から選択する必要がある。

【1621】

第1大当たり信号用の外部端子332を選択した場合には第1大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHレベルとなった回数を計測して、その計測した回数をデータカウ

10

20

30

40

50

ンタDCの第2表示部DC2に表示させることで、当該第2表示部DC2では開閉実行モードの発生回数が表示されることになる。第2大当たり信号用の外部端子333を選択した場合には第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHIGHレベルとなった回数を計測して、その計測した回数をデータカウンタDCの第2表示部DC2に表示させることで、当該第2表示部DC2では開閉実行モードの発生回数、第2時短状態ST2の発生回数及び第3時短状態ST3の発生回数の合計回数が表示されることになる。有利状態信号用の外部端子334を選択した場合には有利状態信号の出力状態がLOWレベルからHIGHレベルとなった回数を計測して、その計測した回数をデータカウンタDCの第2表示部DC2に表示させることで、当該第2表示部DC2では通常遊技状態から開閉実行モード、高確率状態及び第1～第3時短状態ST1～ST3が発生して通常遊技状態に再度復帰するという有利継続状態の発生回数が表示されることになる。

10

【1622】

次に、第1～第3時短状態ST1～ST3における演出の実行態様について説明する。図139は時短進行用処理（図134）のステップS8903にて実行される時短用減算処理を示すフローチャートである。なお、時短用減算処理は第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかにおいて遊技回が終了した場合に実行される。

【1623】

まず状態継続カウンタ327の値を1減算する（ステップS9101）。そして、その1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」である場合（ステップS9102：YES）、状態判定用カウンタ326の値が「1」であるか否かを判定することで、現状の時短状態ST1～ST3における遊技回の消化回数が第1段階の範囲内であるか否かを判定する（ステップS9103）。

20

【1624】

状態判定用カウンタ326の値が「1」である場合（ステップS9103：YES）、現状の時短状態ST1～ST3において第1段階が終了したことを意味する。この場合、状態判定用カウンタ326に第2段階であることを示す「2」をセットする（ステップS9104）。これにより、現状の時短状態ST1～ST3の段階が第1段階から第2段階に変更される。そして、第1時短状態フラグ322に「1」がセットされている場合、すなわち現状が第1時短状態ST1である場合（ステップS9105：YES）、状態継続カウンタ327に第1時短状態ST1における第2段階の継続回数に対応する「79」をセットする（ステップS9106）。また、第2時短状態フラグ323に「1」がセットされている場合、すなわち現状が第2時短状態ST2である場合（ステップS9107：YES）、状態継続カウンタ327に第2時短状態ST2における第2段階の継続回数に対応する「129」をセットする（ステップS9108）。また、第3時短状態フラグ324に「1」がセットされている場合、すなわち現状が第3時短状態ST3である場合（ステップS9107：NO）、状態継続カウンタ327に第3時短状態ST3における第2段階の継続回数に対応する「29」をセットする（ステップS9109）。

30

【1625】

状態判定用カウンタ326の値が「2」である場合（ステップS9110：YES）、現状の時短状態ST1～ST3において第2段階が終了したことを意味する。この場合、状態判定用カウンタ326に第3段階であることを示す「3」をセットする（ステップS9111）。これにより、現状の時短状態ST1～ST3の段階が第2段階から第3段階に変更される。そして、状態継続カウンタ327に時短状態ST1～ST3における第3段階の継続回数に対応する「1」をセットする（ステップS9112）。つまり、第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれであっても第3段階は1ゲームであり、当該1ゲームは時短状態ST1～ST3の最終遊技回となっている。なお、既に説明した変動パターンの決定処理（図133）におけるステップS8807では状態判定用カウンタ326の値が「3」であるか否かを判定することで、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回であるか否かを判定することができる。

40

【1626】

50

ステップS9102にて否定判定をした場合、ステップS9106の処理を実行した場合、ステップS9108の処理を実行した場合、ステップS9109の処理を実行した場合、又はステップS9112の処理を実行した場合、ステップS9113～ステップS9115における時短中コマンドを音光側MPU93に送信するための処理を実行する。具体的には、状態判定用カウンタ326の値を読み出すとともに（ステップS9113）、状態継続カウンタ327の値を読み出す（ステップS9114）。そして、ステップS9113にて読み出した状態判定用カウンタ326の値及びステップS9114にて読み出した状態継続カウンタ327の値のそれぞれが設定された時短中コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9115）。音光側MPU93は時短中コマンドを受信することにより、時短状態ST1～ST3における進行状況を把握し、その把握結果に対応する態様で演出の実行制御を行う。

10

【1627】

一方、状態判定用カウンタ326の値が「3」であり、時短状態ST1～ST3の第3段階において1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」となった場合には（ステップS9110：NO）、状態判定用カウンタ326の値を「0」クリアする（ステップS9116）。この場合、状態継続カウンタ327の値が「0」の状態の時短用演算処理（図139）が終了して時短進行用処理（図134）のステップS8904に進む。状態継続カウンタ327の値が「0」であるためステップS8904にて肯定判定をして、ステップS8905～ステップS8907における時短状態ST1～ST3を終了させるための処理を実行する。

20

【1628】

次に、状態判定用カウンタ326の値を利用して遊技回の変動表示期間を特定するための処理構成について説明する。図140は主側MPU82にて各種抽選を行うための本実施形態における電氣的な構成を説明するための説明図である。

【1629】

上記第1の実施形態と同様に各種カウンタとして、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3、変動種別カウンタCS、乱数初期値カウンタCINI及び普電乱数カウンタC4が設けられている。また、上記第1の実施形態と同様に記憶エリアとして特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cが設けられており、特図保留エリア84aには第1保留情報が格納される第1特図保留エリア111、第2保留情報が格納される第2特図保留エリア112、及び遊技回の実行対象となる第1保留情報又は第2保留情報が格納される特図用の実行エリア113が設けられている。この場合に、上記第1の実施形態では第1保留情報又は第2保留情報として当たり乱数カウンタC1の数値情報、種別乱数カウンタC2の数値情報及びリーチ乱数カウンタC3の数値情報が格納される一方、変動種別カウンタCSの数値情報は第1保留情報又は第2保留情報として格納されない構成としたが、本実施形態では当たり乱数カウンタC1の数値情報、種別乱数カウンタC2の数値情報及びリーチ乱数カウンタC3の数値情報に加えて変動種別カウンタCSの数値情報が第1保留情報又は第2保留情報として格納される。

30

【1630】

図141は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。なお、変動表示期間の特定処理は特図変動開始処理（図20）におけるステップS815にて実行される。

40

【1631】

まず遊技回期間用アドレステーブル361を主側ROM83から読み出す（ステップS9201）。図142は遊技回期間用アドレステーブル311を説明するための説明図である。

【1632】

遊技回期間用アドレステーブル311は、開始アドレスが「00A0H」となり終了アドレスが「00A4H」となるようにして「00A0H」～「00A4H」の連番のアドレスが設定されている。なお、「H」は16進数であることを表している。遊技回期間用

50

アドレステーブル 3 1 1 における各アドレスに対応する記憶エリアには、参照すべき遊技回期間テーブルが予め記憶された主側 ROM 8 3 の記憶エリアのうちアドレスが最も小さい値となる開始アドレスの情報が設定されている。

【1 6 3 3】

具体的には、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 における開始アドレスである「0 0 A 0 H」に対応する記憶エリアには、通常遊技状態である場合に参照される通常用の遊技回期間テーブル 3 1 2 が記憶された記憶エリアの開始アドレスの情報が設定されている。また、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 における次のアドレスである「0 0 A 1 H」に対応する記憶エリアには、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における第 1 段階である場合に参照される第 1 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 3 が記憶された記憶エリアの開始アドレスの情報が設定されている。また、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 における次のアドレスである「0 0 A 2 H」に対応する記憶エリアには、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における第 2 段階である場合に参照される第 2 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 4 が記憶された記憶エリアの開始アドレスの情報が設定されている。また、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 における次のアドレスである「0 0 A 3 H」に対応する記憶エリアには、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における第 3 段階である場合に参照される第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 5 が記憶された記憶エリアの開始アドレスの情報が設定されている。また、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 における終了アドレスである「0 0 A 4 H」に対応する記憶エリアには、高確率状態である場合に参照される高確率用の遊技回期間テーブル 3 1 6 が記憶された記憶エリアの開始アドレスの情報が設定されている。

【1 6 3 4】

変動表示期間の特定処理（図 1 4 1）では、ステップ S 9 2 0 1 にて遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 を読み出した後は、高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされている場合、すなわち遊技状態が高確率状態である場合（ステップ S 9 2 0 2 : Y E S）、主側 MPU 8 2 の汎用レジスタにオフセット値として「4」をセットする（ステップ S 9 2 0 3）。高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされていない場合には（ステップ S 9 2 0 2 : N O）、状態判定用カウンタ 3 2 6 の値を読み出し（ステップ S 9 2 0 4）、その読み出した値を主側 MPU 8 2 の汎用レジスタにオフセット値としてセットする（ステップ S 9 2 0 5）。この場合、通常遊技状態であれば状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「0」であるためオフセット値は「0」となり、時短状態 S T 1 ~ S T 3 の第 1 段階であれば状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「1」であるためオフセット値は「1」となり、時短状態 S T 1 ~ S T 3 の第 2 段階であれば状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「2」であるためオフセット値は「2」となり、時短状態 S T 1 ~ S T 3 の第 3 段階であれば状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「3」であるためオフセット値は「3」となる。

【1 6 3 5】

ステップ S 9 2 0 3 又はステップ S 9 2 0 5 の処理を実行した場合、主側 MPU 8 2 の汎用レジスタに読み出した遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 の開始アドレス（「0 0 A 0 H」）に対して、ステップ S 9 2 0 3 又はステップ S 9 2 0 5 にて設定したオフセット値を加算する（ステップ S 9 2 0 6）。そして、遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1 においてステップ S 9 2 0 6 の加算後のアドレスに対応する記憶エリアに設定されている開始アドレスを読み出し（ステップ S 9 2 0 7）、その読み出した開始アドレスに対応する遊技回期間テーブル 3 1 2 ~ 3 1 6 を主側 RAM 8 4 に読み出す（ステップ S 9 2 0 8）。この場合、ステップ S 9 2 0 3 にてオフセット値として「4」が設定されている場合には、ステップ S 9 2 0 6 にて算出されるアドレスは「0 0 A 4 H」となるため、ステップ S 9 2 0 8 では高確率用の遊技回期間テーブル 3 1 6 が主側 RAM 8 4 に読み出される。また、ステップ S 9 2 0 5 にてオフセット値として「0」が設定されている場合には、ステップ S 9 2 0 6 にて算出されるアドレスは「0 0 A 0 H」となるため、ステップ S 9 2 0 8 では通常用の遊技回期間テーブル 3 1 2 が主側 RAM 8 4 に読み出される。また、ステップ S 9 2 0 5 にてオフセット値として「1」が設定されている場合には、ステップ S 9 2 0 6 にて算出されるアドレスは「0 0 A 1 H」となるため、ステップ S 9 2 0 8 で

は第1段階時短用の遊技回期間テーブル313が主側RAM84に読み出される。また、ステップS9205にてオフセット値として「2」が設定されている場合には、ステップS9206にて算出されるアドレスは「00A2H」となるため、ステップS9208では第2段階時短用の遊技回期間テーブル314が主側RAM84に読み出される。また、ステップS9205にてオフセット値として「3」が設定されている場合には、ステップS9206にて算出されるアドレスは「00A3H」となるため、ステップS9208では第3段階時短用の遊技回期間テーブル315が主側RAM84に読み出される。

【1636】

上記構成であることにより高確率状態以外の遊技状態においては状態判定用カウンタ326に格納された遊技状態を示す値をそのままオフセット値として利用することで、遊技回期間用アドレステーブル311から対応する遊技回期間テーブル312～315の開始アドレスを読み出すことが可能となる。これにより、通常遊技状態及び時短状態ST1～ST3の各段階において遊技回期間テーブル312～315を読み出すための構成を簡素化することが可能となる。特に、時短状態ST1～ST3においては各段階に対応する値が状態判定用カウンタ326に格納されることとなるが、この値がそのままオフセット値となるため、時短状態ST1～ST3の各段階を特定するための情報を利用して遊技回期間テーブル313～315を読み出すことが可能となる。

【1637】

その後、ステップS9208にて読み出した遊技回期間テーブル312～316を参照して変動表示期間の選択処理を実行する（ステップS9209）。この場合、本実施形態では変動種別カウンタCSの数値情報が第1保留情報又は第2保留情報に含まれているため、遊技回期間テーブル312～316を参照して変動種別カウンタCSの数値情報に対応する変動表示期間を選択する場合、その変動種別カウンタCSの数値情報は今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報が第1特図保留エリア111又は第2特図保留エリア112に格納された場合における変動種別カウンタCSの数値情報となる。その後、ステップS9209にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84に設けられた特図側タイマカウンタにセットする（ステップS9210）。特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。

【1638】

通常用の遊技回期間テーブル312の内容は上記第1の実施形態における低頻度サポート用のテーブル群（ステップS907）と同様であり、高確率用の遊技回期間テーブル316の内容は上記第1の実施形態における高確用のテーブル群（ステップS902）と同様である。

【1639】

第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を参照してステップS9209にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第1段階時短用の遊技回期間テーブル313におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブル312、314～316におけるリーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には第2段階時短用の遊技回期間テーブル314におけるリーチ対応のテーブルが参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易く、通常用の遊技回期間テーブル312、第3段階時短用の遊技回期間テーブル315及び高確率用の遊技回期間テーブル316におけるリーチ対応のテーブルが参照される場合よりも短い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも

10

20

30

40

50

長い期間が選択される。

【1640】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、時短状態ST1～ST3の第1段階において第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。なお、通常用の遊技回期間テーブル312が参照される場合において今回の遊技回にて大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示が発生しない場合、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に4個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば特図側の最短期間（具体的には3秒）が選択されるが、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に3個以下の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択される。

10

【1641】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第1段階時短用の遊技回期間テーブル313における非リーチ対応のテーブルに対して照合することで、非リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合における非リーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブルにおける非リーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には第2段階時短用の遊技回期間テーブル314における非リーチ対応のテーブルが参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易く、通常用の遊技回期間テーブル312、第3段階時短用の遊技回期間テーブル315及び高確率用の遊技回期間テーブル316における非リーチ対応のテーブルが参照される場合よりも短い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択される。

20

30

【1642】

第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を参照してステップS9209にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第2段階時短用の遊技回期間テーブル314におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブル312、313、315、316におけるリーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には他の遊技回期間テーブル312、313、315、316におけるリーチ対応のテーブルが参照された場合の方が長い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択される。

40

【1643】

50

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、時短状態ST1～ST3の第2段階において第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。また、今回の遊技回において時短結果が発生する場合であっても、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。

【1644】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第2段階時短用の遊技回期間テーブル314における非リーチ対応のテーブルに対して照合することで、非リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合における非リーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブルにおける非リーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には他の遊技回期間テーブル312, 313, 315, 316における非リーチ対応のテーブルが参照された場合の方が長い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択される。

【1645】

第3段階時短用の遊技回期間テーブル315を参照してステップS9209にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第3段階時短用の遊技回期間テーブル315におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブル312～314, 316におけるリーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には他の遊技回期間テーブル312～314, 316におけるリーチ対応のテーブルが参照された場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択され、より詳細には遊技回の変動表示期間として30秒以上の期間が選択される。

【1646】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数に関係なく、今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報を第3段階時短用の遊技回期間テーブル315における非リーチ対応のテーブルに対して照合することで、非リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合における非リーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は他の遊技回期間テーブル312～314, 316における非リーチ対応のテーブルが参照される場合と異なっており、具体的には他の遊技回期間テーブル312～314, 316における非リーチ対応のテーブルが参照された場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。この場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）よりも長い期間が選択され、より詳細には遊技回

の変動表示期間として20秒以上の期間が選択される。20秒という期間は、他の遊技回期間テーブル312～314, 316における非リーチ対応のテーブルが参照された場合に選択され得る最長期間(10秒)よりも長い期間となっている。

【1647】

上記構成であることにより時短状態ST1～ST3における遊技回の変動表示期間は、第2段階が最も短くなり易く、第1段階が次に短くなり易く、第3段階が最も長くなり易い。これにより、時短状態ST1～ST3においては当初は遊技回の変動表示期間が通常遊技状態の場合よりも短くなり、その後に遊技回の変動表示期間がそれまでよりも短くなり、最終遊技回においては遊技回の変動表示期間が時短状態ST1～ST3の当初より長くなるようにすることが可能となる。

10

【1648】

特に、時短状態ST1～ST3の第1段階及び第2段階では大当たり結果及び外れリーチ表示が発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間(具体的には3秒)が選択されるのに対して、時短状態ST1～ST3の最終遊技回である第3段階では大当たり結果及び外れリーチ表示が発生しない場合であっても遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数に関係なく第3段階時短用の遊技回期間テーブル315における非リーチ対応のテーブルを参照して特図側の最短期間(具体的には3秒)よりも長い期間が遊技回の変動表示期間として選択される。これにより、時短状態ST1～ST3の最終遊技回においては、当該遊技回の当否判定処理の結果、遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数に関係なく、確実に遊技回の変動表示期間を長く確保することが可能となる。

20

【1649】

ここで、時短状態ST1～ST3においては当否判定処理(ステップS805)にて時短結果が選択されたとしても、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回ではない限り、それが無効化される。この場合に、第1～第3段階時短用の遊技回期間テーブル313～315を参照して遊技回の変動表示期間が選択される場合には時短結果は外れ結果と同様の扱いとすることにより、無効化される時短結果の発生を目立たせないようにすることが可能となる。また、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回において時短結果が選択された場合には、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3が発生することとなるが、この場合であっても当該遊技回の変動表示期間はリーチ表示が発生しない外れ結果の場合と同様の変動表示期間が選択されることとなるため、遊技回の変動表示期間からは時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

30

【1650】

図143は主側MPU82にて実行される先読み用処理を示すフローチャートである。なお、先読み用処理は時短状態ST1～ST3において保留情報の取得処理(図19)にて第2保留情報が第2特図保留エリア112に格納された場合にステップS710の代わりに実行される。

40

【1651】

まず今回取得した第2保留情報よりも前に取得されて第2特図保留エリア112に格納されて遊技回の実行対象となっていない第2保留情報又は特図用の実行エリア113に格納されており遊技回の実行対象となっている第1保留情報若しくは第2保留情報が、大当たり結果の発生に対応しているか否かを判定する(ステップS9301)。ステップS9301にて否定判定をした場合、大当たり判定用処理を実行する(ステップS9302)。大当たり判定用処理では、今回取得した第2保留情報に含まれている当たり乱数カウンタC1の数値情報を、現状の設定値に対応する低確率時の第2当否テーブル122に対して照合することにより、今回取得した第2保留情報が大当たり結果に対応しているか否か

50

を判定する。今回取得した第2保留情報が当たり結果に対応している場合（ステップS9303：YES）、当たり対応の先読みコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9304）。

【1652】

今回取得した第2保留情報が当たり結果に対応していない場合（ステップS9303：NO）、変動表示期間の特定処理（図141）を実行する（ステップS9305）。この場合に実行される変動表示期間の特定処理の処理内容は、遊技回が開始される場合に実行される変動表示期間の特定処理の処理内容と同一である。そして、当該変動表示期間の特定処理にて特定された変動表示期間が所定のリーチの発生に対応する変動表示期間に対応しているか否かを判定する（ステップS9306）。所定のリーチの発生に対応する変動表示期間に対応している場合（ステップS9306：YES）、所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9307）。

10

【1653】

所定のリーチは、所定の変動表示期間（具体的には15秒）以上となる遊技回において発生するリーチ表示態様のことである。当たり結果が発生する場合には遊技回の変動表示期間が確実に所定の変動表示期間（具体的には15秒）以上となるため、当たり結果が発生する遊技回においては確実に所定のリーチが発生することとなる。

【1654】

所定のリーチの発生に対応する変動表示期間は時短状態ST1～ST3における第1段階、第2段階及び第3段階のいずれにおいても選択され得る変動表示期間ではあるものの、その選択確率が第1段階、第2段階及び第3段階のそれぞれで異なっている。具体的には、所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択される確率は、第3段階が最も高く、第1段階が次に高く、第2段階が最も低く設定されている。既に説明したとおり変動表示期間の選択に際しては遊技回期間テーブル312～316に対して、遊技回の実行契機となった保留情報における変動種別カウンタCSの数値情報が照合されることとなるが、所定のリーチの発生に対する変動表示期間が選択される確率が第1～第3段階で異なっている場合、変動種別カウンタCSの数値情報が同一であっても第1～第3段階のいずれにおいて遊技回の実行対象となるかによって所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択される場合と選択されない場合とが生じ得る。

20

【1655】

ステップS9301にて肯定判定をした場合又はステップS9306にて否定判定をした場合、第2保留コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9308）。

30

【1656】

図144は音光側MPU93にて実行される時短中演出制御処理を示すフローチャートである。なお、時短中演出制御処理は時短状態ST1～ST3において比較的短い周期（例えば4ミリ秒）で繰り返し実行される。

【1657】

時短中演出制御処理では、主側MPU82から時短中コマンドを受信しているか否かを判定する（ステップS9401）。時短中コマンドは既に説明したとおり時短用減算処理（図139）におけるステップS9115にて主側MPU82から音光側MPU93に送信される。時短中コマンドには既に説明したとおり状態判定用カウンタ326の値及び状態継続カウンタ327の値のそれぞれが設定されている。つまり、1回の遊技回が終了して主側MPU82にて時短進行用処理（図134）が実行された後における時短状態ST1～ST3の段階の種類及び当該段階の残りの継続回数が時短中コマンドに設定されている。

40

【1658】

時短中コマンドを受信している場合（ステップS9401：YES）、当該時短中コマンドに設定されている状態判定用カウンタ326の値を読み出し（ステップS9402）、その読み出した状態判定用カウンタ326の値が前回受信した時短中コマンドに設定されていた状態判定用カウンタ326の値から変化したか否かを判定する（ステップS94

50

03)。前回受信した時短中コマンドに設定されていた状態判定用カウンタ326の値は音光側RAM95に記憶されている。ステップS9403にて肯定判定をした場合、ベース演出の変更処理を実行する(ステップS9404)。

【1659】

ベース演出は図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行される基礎となる演出のことであり、遊技回において実行される遊技回用演出では当該ベース演出がそのまま利用される場合がある。時短状態ST1の第1段階では当該第1段階のベース演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行される。この場合、図柄表示装置41では第1段階に対応する背景画像の手前において第1段階に対応するキャラクタ表示が行われる。第1段階において遊技回用演出が実行される場合には当該第1段階に対応する背景画像が表示されているとともに当該第1段階に対応するキャラクタ表示が行われている状況において図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示が行われる。

10

【1660】

ベース演出の変更処理では、時短状態ST1～ST3の第1段階から第2段階への変更が発生したことを特定した場合には、時短状態ST1～ST3の第2段階のベース演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41では第2段階に対応する背景画像の手前において第2段階に対応するキャラクタ表示が行われる。第2段階において遊技回用演出が実行される場合には当該第2段階に対応する背景画像が表示されているとともに当該第2段階に対応するキャラクタ表示が行われている状況において図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示が行われる。また、ベース演出の変更処理では、時短状態ST1～ST3の第2段階から第3段階への変更が発生したことを特定した場合には、時短状態ST1～ST3の第3段階のベース演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。この場合、図柄表示装置41では第3段階に対応する背景画像の手前において第3段階に対応するキャラクタ表示が行われる。第3段階において遊技回用演出が実行される場合には当該第3段階に対応する背景画像が表示されているとともに当該第3段階に対応するキャラクタ表示が行われている状況において図柄列Z1～Z3における図柄の変動表示が行われる。

20

【1661】

ステップS9403にて否定判定をした場合又はステップS9404の処理を実行した場合、回数記憶処理を実行する(ステップS9405)。回数記憶処理では、音光側RAM95に設けられた演出側状態継続カウンタに、今回受信した時短中コマンドに設定されている状態継続カウンタ327の値を設定する。これにより、時短状態ST1～ST3の現状の段階における残りの継続回数を音光側MPU93にて特定することが可能となる。

30

【1662】

時短中演出制御処理では主側MPU82から大当たり対応の先読みコマンドを受信しているか否かを判定する(ステップS9406)。大当たり対応の先読みコマンドは既に説明したとおり先読み用処理(図143)におけるステップS9304にて主側MPU82から音光側MPU93に送信される。大当たり対応の先読みコマンドを受信している場合(ステップS9406:YES)、大当たり対応の保留抽選処理を実行する(ステップS9407)。大当たり対応の保留抽選処理の内容については後に説明する。

40

【1663】

時短中演出制御処理では主側MPU82から所定リーチ対応の先読みコマンドを受信しているか否かを判定する(ステップS9408)。所定リーチ対応の先読みコマンドは既に説明したとおり先読み用処理(図143)におけるステップS9307にて主側MPU82から音光側MPU93に送信される。所定リーチ対応の先読みコマンドを受信している場合(ステップS9408:YES)、音光側RAM95における演出側状態継続カウンタの値が5以上であることを条件として(ステップS9409:NO)、所定リーチ対応の保留抽選処理を実行する(ステップS9410)。所定リーチ対応の保留抽選処理の内容については後に説明する。

50

【1664】

時短中演出制御処理では主側MPU82から第2保留コマンドを受信しているか否かを判定する（ステップS9411）。第2保留コマンドは既に説明したとおり先読み用処理（図143）におけるステップS9308にて主側MPU82から音光側MPU93に送信される。第2保留コマンドを受信している場合（ステップS9411：YES）、通常保留を選択する（ステップS9412）。また、所定リーチ対応の先読みコマンドを受信している場合であって音光側RAM95における演出側状態継続カウンタの値が4以下である場合にも（ステップS9408及びステップS9409：YES）、通常保留表示を選択する（ステップS9412）。

【1665】

ステップS9407、ステップS9410又はステップS9412の処理を実行した場合、保留増加設定用処理を実行する（ステップS9413）。保留増加設定用処理では、図柄表示装置41における第2保留表示領域42bの第2保留画像G21、G22を増加させるための処理を実行する。以下、第2保留表示領域42bの第2保留画像G21、G22について説明する。

【1666】

図145は時短状態ST1～ST3における図柄表示装置41の表示内容を説明するための説明図である。なお、図145では時短状態ST1～ST3の各段階に対応する背景画像及び各段階に対応するキャラクタの表示は省略している。

【1667】

時短状態ST1～ST3における図柄表示装置41の表示面には図柄列Z1～Z3及び状態示唆領域43以外に第2保留表示領域42bが設定されている。第2保留表示領域42bには第2保留情報の数に対応する数の第2保留画像G21、G22が表示される。つまり、保留記憶されている第2保留情報の数が0個であれば第2保留表示領域42bには第2保留画像G21、G22は表示されない。また、保留記憶されている第2保留情報の数が1個であれば第2保留画像G21、G22が1個表示され、保留記憶されている第2保留情報の数が2個であれば第2保留画像G21、G22が2個表示され、保留記憶されている第2保留情報の数が3個であれば第2保留画像G21、G22が3個表示され、保留記憶されている第2保留情報の数が4個であれば第2保留画像G21、G22が4個表示される。第2保留画像G21、G22が複数表示される場合、それら複数の第2保留画像G21、G22は一定の間隔となるように横並びで表示される。また、保留記憶されている第2保留情報の数が増加する場合には第2保留画像G21、G22が右方に向けて増加するように表示され、第2保留情報が遊技回の開始契機となり保留記憶されている第2保留情報の数が減少する場合には第2保留画像G21、G22が左方に向けて減少するように表示される。

【1668】

音光側MPU93は時短状態ST1～ST3において大当たり対応の先読みコマンド、所定リーチ対応の先読みコマンド及び第2保留コマンドのいずれかを受信した場合、第2保留表示領域42bにおける第2保留画像G21、G22の数を増加させる。また、大当たり対応の先読みコマンドを受信した場合に実行された大当たり対応の保留抽選処理にて先読み当選となった場合又は所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合に実行された所定リーチ対応の保留抽選処理にて先読み当選となった場合、増加させる第2保留画像G21、G22の表示態様として特別保留表示を選択する。この場合、大当たり対応の保留抽選処理では1/2の確率で先読み当選となり、所定リーチ対応の保留抽選処理では1/3の確率で先読み当選となる。また、大当たり対応の先読みコマンドを受信した場合に実行された大当たり対応の保留抽選処理にて先読み当選とならなかった場合、所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合に実行された所定リーチ対応の保留抽選処理にて先読み当選とならなかった場合、又は第2保留コマンドを受信した場合、増加させる第2保留画像G21、G22の表示態様として通常保留表示を選択する。

【1669】

図145における第2保留表示領域42bの一例では、左から3個の第2保留画像G21は通常保留表示となっており、一番右の1個の第2保留画像G22が特別保留表示となっている。既に説明したとおり大当たり結果に対応する遊技回はその変動表示期間が所定の変動表示期間（具体的には15秒）以上となるため所定のリーチ表示態様が発生するとともに、外れリーチ表示に対応する遊技回であってもその変動表示期間が所定の変動表示期間（具体的には15秒）以上となる場合には所定のリーチ表示態様が発生する。そして、大当たり結果に対応する第2保留情報が取得された場合又は所定の変動表示期間以上となる外れリーチ表示に対応する第2保留情報が取得された場合に、第2保留画像G21、G22が特別保留表示となり得る。したがって、遊技者は特別保留表示となった第2保留画像G22が第2保留表示領域42bに表れたことを確認することで、その第2保留画像G22に対応する遊技回において少なくとも所定のリーチ表示態様が発生することを確信するとともに、大当たり結果が発生することを期待することとなる。

【1670】

ここで、音光側MPU93は時短中演出制御処理（図144）において所定リーチ対応の先読みコマンドを受信したとしても音光側RAM95の演出側継続カウンタの値が4以下の場合、すなわち時短状態ST1～ST3における現状の段階の残りの継続回数が4回以下の場合、所定リーチ対応の保留抽選処理（ステップS9410）を実行することなく、今回増加させる第2保留画像G21、G22の表示態様として通常保留表示を選択する。既に説明したとおり変動表示期間の選択に際しては遊技回期間テーブル312～316に対して、遊技回の実行契機となった保留情報における変動種別カウンタCSの数値情報が照合されることとなるが、所定のリーチの発生に対する変動表示期間が選択される確率が第1～第3段階で異なっているため、変動種別カウンタCSの数値情報が同一であっても第1～第3段階のいずれにおいて遊技回の実行対象となるかによって所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択される場合と選択されない場合とが生じ得る。

【1671】

この場合に、時短状態ST1～ST3における現状の段階の残りの継続回数が4回以下の場合に取得された第2保留情報がその時点の時短状態ST1～ST3における段階においては所定のリーチの発生に対応する変動表示期間に対応しているとしても、実際に遊技回の実行対象となった場合には時短状態ST1～ST3における異なる段階又は時短状態ST1～ST3以外の遊技状態となっている可能性があり、このような場合には実際の遊技回では所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択されない可能性が生じる。このような第2保留情報の取得時に先読みされた変動表示期間と当該第2保留情報が実行対象となった遊技回において選択される変動表示期間との間に不一致が生じ得る状況において、第2保留情報の取得時に先読みされた変動表示期間の内容を根拠として第2保留画像G21、G22において特別保留表示が実行されてしまうと、特別保留表示が実行されたにも関わらず、その特別保留表示の実行対象となった第2保留情報の遊技回において実際には所定のリーチが発生しないという不一致が生じてしまうおそれがある。これに対して、時短状態ST1～ST3における現状の残りの継続回数が4回以下の場合には所定リーチ対応の先読みコマンドを受信したとしても、強制的に通常保留表示が選択されるようにすることにより、上記のような不一致の発生を阻止することが可能となる。

【1672】

特に、時短状態ST1～ST3においては当該時短状態ST1～ST3の現状の段階における残りの継続回数が記憶された状態継続カウンタ327の値が時短中コマンドに設定され、その時短中コマンドが主側MPU82から音光側MPU93に送信される。そして、音光側MPU93は時短中コマンドに設定されている状態継続カウンタ327の値を音光側RAM95の演出側状態継続カウンタに設定し、所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合には演出側状態継続カウンタの値が4以下であれば強制的に通常保留表示を選択する。これにより、音光側MPU93においては所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合に強制的に通常保留表示を選択するか否かを判定する場合に、例えば時短状態ST1～ST3の残りの継続回数から現状の段階における残りの継続回数を導き出す処

理などを実行する必要はなく、時短中コマンドに設定されていた状態継続カウンタ327の値が記憶されている演出側状態継続カウンタを参照するだけでよい。よって、上記のような不一致の発生を阻止するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【1673】

次に、所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合において特別保留表示の実行が規制される様子について図146のタイムチャートを参照しながら説明する。図146(a)は第1時短状態ST1である期間を示し、図146(b)は第3時短状態ST3である期間を示し、図146(c)は状態継続カウンタ327の状態を示し、図146(d)は状態判定用カウンタ326の状態を示し、図146(e)は所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合において特別保留表示の実行が規制される期間を示す。

10

【1674】

まず第1時短状態ST1である場合について説明する。

【1675】

t1のタイミングで図146(a)に示すように第1時短状態ST1が開始される。この場合、状態継続カウンタ327には図146(c)に示すように第1段階の継続回数である「20」がセットされ、状態判定用カウンタ326には図146(d)に示すように第1段階に対応する「1」がセットされる。そして、第1時短状態ST1の第1段階において遊技回が繰り返し消化されることによって図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が徐々に減少していく。

【1676】

20

その後、t2のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が特別保留表示の規制対象の回数である4回以下となることにより、図146(e)に示すように先読み制限期間となる。当該先読み制限期間においては所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様は強制的に通常保留表示となる。

【1677】

その後、t3のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(d)に示すように状態判定用カウンタ326の値が「1」から「2」に変更される。これにより、第1時短状態ST1の段階が第1段階から第2段階に変更される。この場合、状態継続カウンタ327には「79」がセットされて5以上の値となるため、図146(e)に示すように先読み制限期間が解除される。したがって、所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信した場合には、当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様として特別保留表示が選択され得る。

30

【1678】

その後、t4のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が特別保留表示の規制対象の回数である4回以下となることにより、図146(e)に示すように先読み制限期間となる。当該先読み制限期間においては所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様は強制的に通常保留表示となる。

40

【1679】

その後、t5のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(d)に示すように状態判定用カウンタ326の値が「2」から「3」に変更される。これにより、第1時短状態ST1の段階が第2段階から第3段階に変更される。この場合、状態継続カウンタ327には「1」がセットされ、第3段階に変更されたとしても状態継続カウンタ327の値が4以下である状態が維持されるため、図146(e)に示すように先読み制限期間が維持される。したがって、第3段階である状況で所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても、当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様は強制的に通常保留表示となる。

50

【1680】

その後、t6のタイミングで図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(a)に示すように第1時短状態ST1が終了し、図146(e)に示すように先読み制限期間が解除される。但し、通常遊技状態においては第2保留画像G21、G22の表示態様を特別保留表示とするための処理自体が行われないため、第2保留情報が取得されたとしても当該第2保留情報に対応する第2保留画像G21、G22の表示態様は通常保留表示となる。また、先読み制限期間は第1時短状態ST1の第2段階において残りの継続回数が4回以下となった段階で開始されているため、大当たり結果に対応しない第2保留情報に対応する第2保留画像G21、G22として特別保留表示が行われている状況で通常遊技状態が開始されることはない。

10

【1681】

次に、第3時短状態ST3である場合について説明する。

【1682】

t7のタイミングで図146(b)に示すように第3時短状態ST3が開始される。この場合、状態継続カウンタ327には図146(c)に示すように第1段階の継続回数である「20」がセットされ、状態判定用カウンタ326には図146(d)に示すように第1段階に対応する「1」がセットされる。そして、第3時短状態ST3の第1段階において遊技回が繰り返し消化されることによって図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が徐々に減少していく。

【1683】

その後、t8のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が特別保留表示の規制対象の回数である4回以下となることにより、図146(e)に示すように先読み制限期間となる。当該先読み制限期間においては所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様は強制的に通常保留表示となる。

20

【1684】

その後、t9のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(d)に示すように状態判定用カウンタ326の値が「1」から「2」に変更される。これにより、第3時短状態ST3の段階が第1段階から第2段階に変更される。この場合、状態継続カウンタ327には「29」がセットされて5以上の値となるため、図146(e)に示すように先読み制限期間が解除される。したがって、所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信した場合には、当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様として特別保留表示が選択され得る。

30

【1685】

その後、t10のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が特別保留表示の規制対象の回数である4回以下となることにより、図146(e)に示すように先読み制限期間となる。当該先読み制限期間においては所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても、当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の表示態様は強制的に通常保留表示となる。

40

【1686】

その後、t11のタイミングで、図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(d)に示すように状態判定用カウンタ326の値が「2」から「3」に変更される。これにより、第3時短状態ST3の段階が第2段階から第3段階に変更される。この場合、状態継続カウンタ327には「1」がセットされ、第3段階に変更されたとしても状態継続カウンタ327の値が4以下である状態が維持されるため、図146(e)に示すように先読み制限期間が維持される。したがって、第3段階である状況で所定リーチ対応の先読みコマンドを音光側MPU93にて受信したとしても、当該コマンドの受信を契機として表示が開始される第2保留画像G21、G22の

50

表示態様は強制的に通常保留表示となる。

【1687】

その後、t12のタイミングで図146(c)に示すように状態継続カウンタ327の値が「0」となることで、図146(a)に示すように第3時短状態ST3が終了し、図146(e)に示すように先読み制限期間が解除される。但し、通常遊技状態においては第2保留画像G21、G22の表示態様を特別保留表示とするための処理自体が行われなため、第2保留情報が取得されたとしても当該第2保留情報に対応する第2保留画像G21、G22の表示態様は通常保留表示となる。また、先読み制限期間は第3時短状態ST3の第2段階において残りの継続回数が4回以下となった段階で開始されているため、大当たり結果に対応しない第2保留情報に対応する第2保留画像G21、G22として特別保留表示が行われている状況で通常遊技状態が開始されることはない。

10

【1688】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【1689】

時短状態として第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3が設定されていることにより、時短状態ST1～ST3を多様化させることが可能となる。この場合に、第1時短状態ST1の優先度が最も高く、第2時短状態ST2が次に高く、第3時短状態ST3が最も低くなるように実行対象となる場合の優先度が設定されている。これにより、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のそれぞれの発生契機が任意のタイミングで発生する構成において、優先して発生する時短状態ST1～ST3の種類をパチンコ機10の設計段階のものとすることが可能となる。

20

【1690】

第1時短状態ST1において第3時短状態ST3の発生契機である時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第1時短状態ST1が維持されるとともに、第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行されたとともに第2時短状態ST2が維持される。これにより、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2が時短結果に対応する遊技回の発生によって途中で終了されてしまわないようにすることが可能となる。

【1691】

特に、第1時短状態ST1は普図当否判定処理において普図側の高確率モードとなるのに対して第3時短状態ST3は普図当否判定処理において普図側の低確率モードとなるため、サポートモードの実行態様は第1時短状態ST1の方が第3時短状態ST3よりも遊技者にとって有利である。この場合に、第1時短状態ST1において時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第1時短状態ST1が維持されるようにすることにより、サポートモードの実行態様が有利である第1時短状態ST1の実行を優先させることが可能となる。

30

【1692】

第3時短状態ST3において天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第3時短状態ST3が途中で終了して第2時短状態ST2が開始される。これにより、第3時短状態ST3よりも第2時短状態ST2の実行を優先させることが可能となる。

【1693】

特に、第2時短状態ST2は継続回数が150回であるのに対して第3時短状態ST3は継続回数が50回であるため、第2時短状態ST2の方が第3時短状態ST3よりも有利である。この場合に、第3時短状態ST3において天井回数の遊技回が消化された場合には第2時短状態ST2が開始されるようにすることにより、終了条件が遊技者にとって有利である第2時短状態ST2の実行を優先させることが可能となる。

40

【1694】

5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了した場合に第1時短状態ST1に移行するとともに当該第1時短状態ST1は100回の遊技回が消化された場合に終了する。また、開閉実行モードが終了してから天井回数として900回の遊技回が実行された場合に第2時短状態ST2に移行する。したがって、第1時短状態ST1の途中で第2時短状

50

態 S T 2 の発生契機が発生することはない。よって、第 1 時短状態 S T 1 の方が第 2 時短状態 S T 2 よりも実行の優先度が高いとしても、第 1 時短状態 S T 1 の途中で第 2 時短状態 S T 2 の発生契機が発生してしまい当該発生契機が無効化されてしまうという事象が発生しないようにすることが可能となる。

【1695】

天井回数の遊技回が消化された場合には開閉実行モードが発生することなく第 2 時短状態 S T 2 が開始され、時短結果に対応する遊技回が実行された場合には開閉実行モードが発生することなく第 3 時短状態 S T 3 が開始される。これにより、通常遊技状態よりも第 2 作動口 3 4 への遊技球の入球が発生し易くなる状況が突然発生したという印象を遊技者に与えることが可能となる。この場合に、第 2 時短状態 S T 2 が開始される場合又は第 3 時短状態 S T 3 が開始される場合には、外部出力バッファ 3 4 1 において第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 に対応した第 2 単位エリア 3 4 3 に「1」がセットされることで、第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 を通じた第 2 大当たり信号の出力状態が LOW レベルから HI レベルに切り換わる。これにより、開閉実行モードへの移行を伴うことなく時短状態 S T 2, S T 3 に移行したとしても、当該移行が発生したことを遊技ホールのホールコンピュータ H C において把握することが可能となるため、時短状態 S T 2, S T 3 のような状態を不正に発生させる行為が行われたとしても遊技ホールの管理者はそれを把握することが可能となる。

【1696】

第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 を契機として第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルとなった場合、ON 継続期間である 5 0 0 ミリ秒が経過することによって当該第 2 大当たり信号の出力状態が LOW レベルに切り換えられるため、時短状態 S T 2, S T 3 の途中で第 2 大当たり信号の出力状態は LOW レベルとなる。これにより、通常遊技状態を間に挟むことなく複数回の時短状態 S T 2, S T 3 が連続する場合であってもそれら複数の時短状態 S T 2, S T 3 のそれぞれに対して第 2 大当たり信号の LOW レベルから HI レベルへの切り換えを発生させることが可能となる。

【1697】

ON 継続期間は 1 回の遊技回を消化するために要する最低期間（例えば 2 秒）よりも短い期間となっている。したがって、第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルである状況において第 2 大当たり信号の出力状態を新たに HI レベルとする契機が発生しないようにすることが可能となる。

【1698】

開閉実行モードにおいても外部出力バッファ 3 4 1 において第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 に対応した第 2 単位エリア 3 4 3 に「1」がセットされることで、第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 を通じた第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルとなる。これにより、第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 を利用して、開閉実行モードに移行したことだけではなく、第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 に移行したことを遊技ホールのホールコンピュータ H C に把握させることが可能となる。

【1699】

開閉実行モードにおいては開始から終了まで第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルに維持されるのに対して、第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 においては ON 継続期間が経過した場合に第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルから LOW レベルに切り換えられる。これにより、開閉実行モードへの移行が発生した場合及び時短状態 S T 2, S T 3 への移行が発生した場合のいずれであっても第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルに設定される構成において、遊技ホールのホールコンピュータ H C では、第 2 大当たり信号の出力状態が HI レベルに維持される期間によって開閉実行モード及び時短状態 S T 2, S T 3 のいずれに対応しているのかを特定することが可能となる。

【1700】

外部端子板 3 3 1 には第 2 大当たり信号用の外部端子 3 3 3 とは別に第 1 大当たり信号用の外部端子 3 3 2 が設けられており、当該外部端子 3 3 2 から出力される第 1 大当たり

10

20

30

40

50

信号は、大当たり結果を契機とした開閉実行モードである期間中において出力状態がH Iレベルとなり、その他の状況においては出力状態がL O Wレベルとなる。これにより、一のパチンコ機10の外部端子332～339と電氣的に接続することが可能な信号経路が少ない遊技ホールは、第1大当たり信号用の外部端子332及び第2大当たり信号用の外部端子333のうちパチンコ機10を管理する上で適切である側の外部端子332、333をホールコンピュータH Cとの電氣的な接続対象として選択することが可能となる。

【1701】

第3時短状態S T 3において天井回数の遊技回が消化された場合には第3時短状態S T 3が途中で終了して第2時短状態S T 2が開始されることとなるが、この第2時短状態S T 2の開始に際しても第2大当たり信号の出力状態はO N継続期間（具体的には500ミリ秒）に亘ってH Iレベルとなる。また、第3時短状態S T 3において時短結果に対応する遊技回が終了した場合にはそれまでの第3時短状態S T 3が途中で終了して第3時短状態S T 3が新たに開始されることとなるが、この第3時短状態S T 3の新たな開始に際しても第2大当たり信号の出力状態はO N継続期間（具体的には500ミリ秒）に亘ってH Iレベルとなる。これにより、時短状態S T 2、S T 3についての新たな設定が行われた場合には第2大当たり信号の出力状態がL O WレベルからH Iレベルに切り換わることとなり、時短状態S T 2、S T 3についての新たな設定が行われたことをホールコンピュータH Cにおいて把握することが可能となる。

【1702】

時短状態S T 1～S T 3には遊技回の消化回数の範囲に応じて複数の段階が設定されている。詳細には、当該段階には第1段階と第2段階と第3段階とが設定されている。第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれにおいても開始された場合における段階は第1段階となる。第1段階は第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれであっても20回の遊技回が消化されるまで継続する。第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれにおいても第1段階が終了した場合には第2段階となる。第2段階は、第1時短状態S T 1であれば79回の遊技回が消化されるまで継続し、第2時短状態S T 2であれば129回の遊技回が消化されるまで継続し、第3時短状態S T 3であれば29回の遊技回が消化されるまで継続する。第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれにおいても第2段階が終了した場合には第3段階となる。第3段階は第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれであっても1回の遊技回が消化された場合に終了する。第1～第3時短状態S T 1～S T 3のいずれであっても最後の遊技回が第3段階となる。これら各段階に応じて遊技回用演出の実行内容の決定態様が変化する。これにより、時短状態S T 1～S T 3における遊技回用演出の実行内容を時短状態S T 1～S T 3の進行状況に合わせながら多様化させることが可能となる。

【1703】

時短状態S T 1～S T 3における遊技回の変動表示期間は、第2段階が最も短くなり易く、第1段階が次に短くなり易く、第3段階が最も長くなり易い。これにより、時短状態S T 1～S T 3においては当初は遊技回の変動表示期間が通常遊技状態の場合よりも短くなり、その後に遊技回の変動表示期間がそれまでよりも短くなり、最終遊技回においては遊技回の変動表示期間が時短状態S T 1～S T 3の当初より長くなるようにすることが可能となる。

【1704】

特に、時短状態S T 1～S T 3の第1段階及び第2段階では大当たり結果及び外れリーチ表示が発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）が選択されるのに対して、時短状態S T 1～S T 3の最終遊技回である第3段階では大当たり結果及び外れリーチ表示が発生しない場合であっても遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数に関係なく第3段階時短用の遊技回期間テーブル315における非リーチ対応のテーブルを参照して特図側の最短

10

20

30

40

50

期間（具体的には3秒）よりも長い期間が遊技回の変動表示期間として選択される。これにより、時短状態ST1～ST3の最終遊技回においては、当該遊技回の当否判定処理の結果、遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数に関係なく、確実に遊技回の変動表示期間を長く確保することが可能となる。

【1705】

時短状態ST1～ST3においては当否判定処理（ステップS805）にて時短結果が選択されたとしても、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回ではない限り、それが無効化される。この場合に、第1～第3段階時短用の遊技回期間テーブル313～315を参照して遊技回の変動表示期間が選択される場合には時短結果は外れ結果と同様の扱いとすることにより、無効化される時短結果の発生を目立たせないようにすることが可能となる。また、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回において時短結果が選択された場合には、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3が発生することとなるが、この場合であっても当該遊技回の変動表示期間はリーチ表示が発生しない外れ結果の場合と同様の変動表示期間が選択されることとなるため、遊技回の変動表示期間からは時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【1706】

主側RAM84に状態判定用カウンタ326が設けられており、時短状態ST1～ST3の第1段階では状態判定用カウンタ326に「1」がセットされ、時短状態ST1～ST3の第2段階では状態判定用カウンタ326に「2」がセットされ、時短状態ST1～ST3の第3段階では状態判定用カウンタ326に「3」がセットされる。そして、主側MPU82における変動表示期間の特定処理（図141）では状態判定用カウンタ326の値に応じた遊技回期間テーブル313～315が読み出されて遊技回の変動表示期間が選択される。これにより、遊技回の変動表示期間を選択するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【1707】

状態判定用カウンタ326において第1段階に対応する情報、第2段階に対応する情報及び第3段階に対応する情報は「1」～「3」で連番となる数値情報として設定されている。これにより、第1段階に対応する情報、第2段階に対応する情報及び第3段階に対応する情報のそれぞれに対して個別にフラグ領域を設定しなくても上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【1708】

遊技回期間用アドレステーブル311から時短状態ST1～ST3の各段階に対応する遊技回期間テーブル313～315を読み出す場合、状態判定用カウンタ326の値をオフセット値として設定し、そのオフセット値を遊技回期間用アドレステーブル311の開始アドレスに加算することにより、読み出し対象となる遊技回期間テーブル313～315に対応するアドレスを算出する。そして、そのアドレスに対応する記憶エリアに記憶されている開始アドレスに基づいて遊技回期間テーブル313～315を読み出す。これにより、高確率状態以外の遊技状態においては状態判定用カウンタ326に格納された遊技状態を示す値をそのままオフセット値として利用することで、遊技回期間用アドレステーブル311から対応する遊技回期間テーブル312～315の開始アドレスを読み出すことが可能となる。よって、時短状態ST1～ST3の各段階において遊技回期間テーブル312～315を読み出すための構成を簡素化することが可能となる。特に、時短状態ST1～ST3においては各段階に対応する値が状態判定用カウンタ326に格納されることとなるが、この値がそのままオフセット値となるため、時短状態ST1～ST3の各段階を特定するための情報を利用して遊技回期間テーブル313～315を読み出すことが可能となる。

【1709】

時短状態ST1～ST3の各段階が開始される場合にその開始対象となる段階に対応す

る継続回数が状態継続カウンタ 3 2 7 に設定される。状態継続カウンタ 3 2 7 に設定された値は遊技回が実行される度に 1 減算され、1 減算後の状態継続カウンタ 3 2 7 の値が「0」となった場合には、現状の段階が第 1 段階又は第 2 段階であれば次の段階に移行し、現状の段階が第 3 段階であれば時短状態 S T 1 ~ S T 3 が終了して通常遊技状態に移行する。これにより、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における各段階の終了契機を特定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【1 7 1 0】

状態継続カウンタ 3 2 7 の値を含む時短中コマンドが主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に送信される。これにより、音光側 M P U 9 3 は各段階の進行状況を把握することが可能となり、各段階の進行状況に応じた演出の実行制御を行うことが可能となる。

10

【1 7 1 1】

時短中コマンドには状態継続カウンタ 3 2 7 の情報だけではなく、時短状態 S T 1 ~ S T 3 のいずれの段階に設定されているのかを示す情報が格納される状態判定用カウンタ 3 2 6 の情報も含まれる。これにより、音光側 M P U 9 3 は時短中コマンドに基づいて、時短状態 S T 1 ~ S T 3 のいずれの段階であるのかを把握することができるとともにその把握した段階の進行状況を把握することができる。

【1 7 1 2】

音光側 M P U 9 3 は時短中演出制御処理（図 1 4 4）において所定リーチ対応の先読みコマンドを受信したとしても音光側 R A M 9 5 の演出側継続カウンタの値が 4 以下の場合、すなわち時短状態 S T 1 ~ S T 3 における現状の段階の残りの継続回数が 4 回以下の場合、所定リーチ対応の保留抽選処理（ステップ S 9 4 1 0）を実行することなく、今回増加させる第 2 保留画像 G 2 1 , G 2 2 の表示態様として通常保留表示を選択する。変動表示期間の選択に際しては遊技回期間テーブル 3 1 2 ~ 3 1 6 に対して、遊技回の実行契機となった保留情報における変動種別カウンタ C S の数値情報が照合されることとなるが、所定のリーチの発生に対する変動表示期間が選択される確率が第 1 ~ 第 3 段階で異なっている場合、変動種別カウンタ C S の数値情報が同一であっても第 1 ~ 第 3 段階のいずれにおいて遊技回の実行対象となるかによって所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択される場合と選択されない場合とが生じ得る。

20

【1 7 1 3】

この場合に、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における現状の段階の残りの継続回数が 4 回以下の場合に取得された第 2 保留情報がその時点の時短状態 S T 1 ~ S T 3 における段階においては所定のリーチの発生に対応する変動表示期間に対応しているとしても、実際に遊技回の実行対象となった場合には時短状態 S T 1 ~ S T 3 における異なる段階又は時短状態 S T 1 ~ S T 3 以外の遊技状態となっている可能性があり、このような場合には実際の遊技回では所定のリーチの発生に対応する変動表示期間が選択されない可能性が生じる。このような第 2 保留情報の取得時に先読みされた変動表示期間と当該第 2 保留情報が実行対象となった遊技回において選択される変動表示期間との間に不一致が生じ得る状況において、第 2 保留情報の取得時に先読みされた変動表示期間の内容を根拠として第 2 保留画像 G 2 1 , G 2 2 において特別保留表示が実行されてしまうと、特別保留表示が実行されたにも関わらず、その特別保留表示の実行対象となった第 2 保留情報の遊技回において実際には所定のリーチが発生しないという不一致が生じてしまうおそれがある。これに対して、時短状態 S T 1 ~ S T 3 における現状の残りの継続回数が 4 回以下の場合には所定リーチ対応の先読みコマンドを受信したとしても、強制的に通常保留表示が選択されるようにすることにより、上記のような不一致の発生を阻止することが可能となる。

30

40

【1 7 1 4】

特に、時短状態 S T 1 ~ S T 3 においては当該時短状態 S T 1 ~ S T 3 の現状の段階における残りの継続回数が記憶された状態継続カウンタ 3 2 7 の値が時短中コマンドに設定され、その時短中コマンドが主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に送信される。そして、音光側 M P U 9 3 は時短中コマンドに設定されている状態継続カウンタ 3 2 7 の値を音光側 R A M 9 5 の演出側状態継続カウンタに設定し、所定リーチ対応の先読みコマンドを

50

受信した場合には演出側状態継続カウンタの値が4以下であれば強制的に通常保留表示を選択する。これにより、音光側MPU93においては所定リーチ対応の先読みコマンドを受信した場合に強制的に通常保留表示を選択するか否かを判定する場合に、例えば時短状態ST1～ST3の残りの継続回数から現状の段階における残りの継続回数を導き出す処理などを実行する必要はなく、時短中コマンドに設定されていた状態継続カウンタ327の値が記憶されている演出側状態継続カウンタを参照するだけでよい。よって、上記のような不一致の発生を阻止するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【1715】

＜第15の実施形態の別形態＞

(1) 上記第15の実施形態では時短状態ST1～ST3の実行の優先度について、第3時短状態ST3の優先度が第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2よりも低い構成としたが、これに限定されない。例えば図147(a)の説明図に示すように、第3時短状態ST3の優先度は第2時短状態ST2よりも低い一方、第1時短状態ST1よりも高い構成としてもよい。この場合、上記第1の実施形態と同様に第2時短状態ST2の途中で時短結果が発生したとしても時短結果の発生は無効化されて第2時短状態ST2が継続されるとともに第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第3時短状態ST3が終了して第2時短状態ST2が開始されるのに対して、第1時短状態ST1の途中で時短結果が発生した場合には第1時短状態ST1が終了して第3時短状態ST3が開始されることになる。第1時短状態ST1のサポートモードは第1高頻度サポートモードであるのに対して、第3時短状態ST3のサポートモードは単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度が第1高頻度サポートモードよりも低い第2高頻度サポートモードである。したがって、第1時短状態ST1の残りの継続回数が少なくとも第3時短状態ST3の継続回数よりも多い状況においては時短結果が発生しないことを遊技者は期待することとなり、第1時短状態ST1の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数よりも十分に少ない状況においては時短結果が発生することを遊技者は期待することとなる。

【1716】

ちなみに、このように第3時短状態ST3の実行の優先度が第1時短状態ST1よりも高い構成であったとしても大当たり結果を契機とした開閉実行モードが発生した場合には第3時短状態ST3を含めて全ての時短状態ST1～ST3が一旦終了する。この場合、第3時短状態ST3の途中で5R低確結果に対応する遊技回が実行された場合には開閉実行モードの発生によって第3時短状態ST3が途中で終了し、当該開閉実行モードの終了後には第1時短状態ST1が新たに開始されることとなる。

【1717】

なお、上記構成に代えて、第3時短状態ST3の優先度は第1時短状態ST1よりも低い一方、第2時短状態ST2よりも高い構成としてもよい。この場合、上記第1の実施形態と同様に第1時短状態ST1の途中で時短結果が発生したとしても時短結果の発生は無効化されて第1時短状態ST1が継続されるのに対して、第2時短状態ST2の途中で時短結果が発生した場合には第2時短状態ST2が終了して第3時短状態ST3が開始されるとともに第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了したとしても第2時短状態ST2が開始されることなく第3時短状態ST3が継続される。

【1718】

(2) 図147(b)の説明図に示すように、時短結果として第1時短結果と第2時短結果とが存在しており、第1時短結果となった場合には上記第1の実施形態における第3時短状態ST3と同様の第3A時短状態ST31が発生し、第2時短結果となった場合にはサポートモードが第2高頻度サポートモードであって継続回数が第3A時短状態ST31よりも多い回数である110回となる第3B時短状態ST32が発生する構成としてもよい。この場合、第3A時短状態ST31の実行優先度は第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3B時短状態ST32よりも高く設定されており、第3B時短状態ST32の実行優先度は第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3A時短状態ST3

1よりも低く設定されている。したがって、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3B時短状態ST32の途中で第1時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3A時短状態ST31が発生し、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3A時短状態ST31の途中で第2時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第2時短結果の発生は無効化されてそれまでの時短状態ST1、ST2、ST31が継続されることとなる。この場合、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3B時短状態ST32のいずれかであって残りの継続回数が50回以上である状況においては第1時短結果が発生しないことを遊技者は期待することとなり、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3A時短状態ST31のいずれかである場合には時短状態ST1、ST2、ST31が終了して通常遊技状態となった後に第2時短結果が発生することを遊技者は期待することとなる。

10

【1719】

なお、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3A時短状態ST31の途中で第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3B時短状態ST32が潜伏する構成としてもよい。この場合、第3B時短状態ST32が潜伏中に実行対象の時短状態ST1、ST2、ST31が終了した場合には潜伏中の第3B時短状態ST32が実行対象となるようにすることで、時短状態ST1～ST32である期間を長く確保することが可能となる。

【1720】

また、第3B時短状態ST32の実行の優先度は第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3A時短状態ST31よりも高く設定されており、第3A時短状態ST31の実行の優先度は第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3B時短状態ST32よりも低く設定されている構成としてもよい。

20

【1721】

(3) 第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、当該第3時短状態ST3の残りの継続回数が当該第3時短状態ST3の継続回数に初期化される構成としたが、これに限定されることはなく、第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、当該時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。これにより、第3時短状態ST3が過剰に継続してしまわないようにすることが可能となる。

30

【1722】

(4) 第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3が発生した場合に第2大当たり信号の出力状態がHイレベルに維持されるON継続期間は、1回の遊技回の最短期間よりも短い期間である構成に限定されない。例えば、ON継続期間は、1回の遊技回の最短期間以上であって1回の遊技回の最長期間よりも短い期間であってもよい。これにより、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3が発生した場合に第2大当たり信号の出力状態がHイレベルに維持される期間を長く確保することが可能となる。また、ON継続期間は、1回の遊技回の最長期間以上である期間であってもよい。

【1723】

(5) 第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3が発生した場合、第2大当たり信号の出力状態がON継続期間に亘ってHイレベルに維持された後にLOWレベルに切り換えられる構成としたが、これに限定されることはなく、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3が継続している間は第2大当たり信号の出力状態がHイレベルに維持される構成としてもよい。

40

【1724】

(6) 第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のうち一方が発生した場合には第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHイレベルに切り換えられるのに対して、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のうち他方が発生した場合には第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルに維持される構成としてもよい。

【1725】

50

(7) 第2時短状態ST2が開始された場合と第3時短状態ST3が開始された場合とで、第2大当たり信号の出力状態がHIレベルに維持されるON継続期間が異なる構成としてもよい。例えば、第2時短状態ST2の方が第3時短状態ST3よりもON継続期間が長い期間である構成としてもよく、第3時短状態ST3の方が第2時短状態ST2よりもON継続期間が長い期間である構成としてもよい。これにより、遊技ホールのホールコンピュータHCは第2大当たり信号の出力状態がHIレベルに維持される期間によって第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれが発生したのかを特定することが可能となる。

【1726】

(8) 第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行されることで第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化された場合にも第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHIレベルに切り換えられる構成としたが、これに限定されることはなく、通常遊技状態において第3時短状態ST3への移行が発生した場合には第2大当たり信号の出力状態がLOWレベルからHIレベルに切り換えられる一方、第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行されることで第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化された場合には第2大当たり信号の出力状態のLOWレベルからHIレベルへの切り換えが発生しない構成としてもよい。これにより、第3時短状態ST3の継続回数が初期化されたとしても第3時短状態ST3が継続している場合には、それを1回の第3時短状態ST3の発生としてホールコンピュータHCにおいて把握することが可能となる。

【1727】

(9) 主側RAM84に状態判定用カウンタ326と状態継続カウンタ327とが設けられており、時短状態ST1～ST3の段階に対応する情報が状態判定用カウンタ326にセットされるとともに時短状態ST1～ST3の各段階の残りの継続回数が状態継続カウンタ327にセットされる構成としたが、これに限定されることはなく、状態判定用カウンタ326が設けられておらず、状態継続カウンタ327には時短状態ST1～ST3の残りの継続回数がセットされる構成としてもよい。この場合、時短状態フラグ322～324に基づき時短状態ST1～ST3の種類を特定するとともに、状態継続カウンタ327に基づき現状の時短状態ST1～ST3において実行された遊技回の回数を特定することで、現状が時短状態ST1～ST3のいずれの段階に対応しているのかを特定することが可能となる。

【1728】

また、当該構成において状態継続カウンタ327の情報を含む時短中コマンドが主側MPU82から音光側MPU93に送信される構成としてもよい。この場合、音光側MPU93では現状の時短状態ST1～ST3の種類と時短中コマンドに含まれる状態継続カウンタ327の情報とから現状が時短状態ST1～ST3のいずれの段階に対応しているのかを特定し、その特定した段階に応じた演出が実行されるようにすることで、時短状態ST1～ST3の各段階に対応する演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されることになる。

【1729】

(10) 遊技回期間用アドレステーブル311には各遊技回期間テーブル311～316の開始アドレスの情報が連番となるアドレスの記憶エリアに対して設定されている構成としたが、これに限定されない。例えば、各遊技回期間テーブル311～316の開始アドレスの情報が記憶された記憶エリアのアドレスは、順番が連続する記憶エリア間のアドレスの差分がいずれもn(1よりも大きい整数)となるように設定されている構成としてもよい。この場合、変動表示期間の特定処理(図141)におけるステップS9205では、状態判定用カウンタ326の値にnを積算した値がオフセット値として特定され、ステップS9206ではそのオフセット値が遊技回期間用アドレステーブル311の開始アドレスに加算されることになる。当該構成であっても各遊技回期間テーブル311～316の開始アドレスを導出するためのオフセット値を、状態判定用カウンタ326の値を利

10

20

30

40

50

用して導出することが可能となる。

【1730】

(11) 時短結果に対応する遊技回においては時短結果対応の遊技回期間テーブルを参照して遊技回の変動表示期間が決定される構成としてもよい。この場合、時短結果に対応する遊技回において遊技回の変動表示期間を決定する場合における第1保留情報及び第2保留情報の保留記憶個数に関係なく遊技回の変動表示期間が決定され、さらにこの場合に決定される遊技回の変動表示期間が遊技回の最短の期間（具体的には3秒）よりも長い期間に設定されている構成としてもよい。これにより、時短結果に対応する遊技回において時短結果に対応する演出を実行するための期間を十分に確保することが可能となる。

【1731】

(12) 状態判定用カウンタ326の値を利用してアドレスのオフセット値を導出する構成を、時短状態ST1～ST3における遊技回の変動表示期間を特定するための構成ではなく、他の遊技状態における遊技回の変動表示期間を特定するための構成に適用してもよい。例えば、高確率状態に遊技回の消化回数に応じて変化する段階が設定されているとともに各段階に応じた態様で遊技回の変動表示期間の選択が行われる構成において、各段階に対応する遊技回期間テーブルの開始アドレスのオフセット値を状態判定用カウンタ326の値を利用して導出する構成としてもよい。また、スロットマシンにおいて所謂AT状態がゲームの実行回数に応じて変化する段階が設定されているとともに各段階に応じた態様で上乗せゲーム数の選択が行われる構成において、各段階に対応する抽選テーブルの開始アドレスのオフセット値を状態判定用カウンタ326の値を利用して導出する構成としてもよい。

【1732】

(13) 音光側MPU93は時短中コマンドに含まれる状態継続カウンタ327の値が4以下である場合に所定リーチ対応の保留抽選処理（ステップS9410）を実行しない構成としたが、これに加えて、大当たり対応の保留抽選処理（ステップS9407）も実行しない構成としてもよい。これにより、時短状態ST1～ST3の各段階の残りの継続回数が4回以下となっている状況においては、所定リーチ表示に対応する第2保留情報だけではなく大当たり結果に対応する第2保留情報であっても特別保留表示とならない。

【1733】

(14) 音光側MPU93において時短中コマンドに含まれる状態継続カウンタ327の値に応じて実行を規制する演出の内容は先読み演出に限定されない。例えば、当該規制対象となる演出が、大当たり結果が確定することを示す演出であってもよく、時短結果が確定することを示す演出であってもよく、特定のキャラクタが表示されるリーチ表示であってもよく、所謂疑似連演出であってもよく、所謂保留連演出であってもよい。

【1734】

<第16の実施形態>

本実施形態では時短結果となった場合に第3時短状態ST3が設定され得る状況が上記第15の実施形態と相違している。以下、上記第15の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第15の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1735】

図148は主側MPU82にて実行される本実施形態における時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。なお、時短結果用の設定処理は特図確定中処理（図128）におけるステップS8309にて実行される。

【1736】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合であって（ステップS9501：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップS9502：NO）、第1時短状態フラグ322又は第2時短状態フラグ323に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS9503、ステップS9504）。つまり、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれかであるか否かを判定する。第1時短状態ST

10

20

30

40

50

1 及び第 2 時短状態 S T 2 のいずれでもない場合（ステップ S 9 5 0 3 及びステップ S 9 5 0 4：N O）、すなわち遊技状態が通常遊技状態又は第 3 時短状態 S T 3 である場合、ステップ S 9 5 0 6～ステップ S 9 5 1 0 にて第 3 時短状態 S T 3 を新たに開始するための処理を実行する。

【1 7 3 7】

具体的には、第 1 時短状態フラグ 3 2 2 及び第 2 時短状態フラグ 3 2 3 の両方を「0」クリアするとともに、第 3 時短状態フラグ 3 2 4 に「1」をセットする（ステップ S 9 5 0 6）。これにより、第 3 時短状態 S T 3 が開始される。その後、状態継続カウンタ 3 2 7 に第 1 段階の継続回数である「2 0」をセットし（ステップ S 9 5 0 7）、状態判定用カウンタ 3 2 6 に第 1 段階に対応する「1」をセットする（ステップ S 9 5 0 8）。その後、主側 R A M 8 4 における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S 9 5 0 9）、第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S 9 5 1 0）。

10

【1 7 3 8】

第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 である場合（ステップ S 9 5 0 3 又はステップ S 9 5 0 4：Y E S）、現状の時短状態 S T 1、S T 2 の残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数である 5 0 回以上であるか否かを判定する（ステップ S 9 5 0 5）。具体的には、状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「3」である場合にステップ S 9 5 0 5 にて否定判定をするとともに、状態判定用カウンタ 3 2 6 の値が「2」であって状態継続カウンタ 3 2 7 の値が 4 8 以下である場合にステップ S 9 5 0 5 にて否定判定をする。

20

【1 7 3 9】

ステップ S 9 5 0 5 にて肯定判定をした場合、ステップ S 9 5 0 6～ステップ S 9 5 1 0 の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。これにより、現状が第 1 時短状態 S T 1 であれば当該第 1 時短状態 S T 1 が継続され、現状が第 2 時短状態 S T 2 であれば当該第 2 時短状態 S T 2 が継続される。

【1 7 4 0】

ステップ S 9 5 0 5 にて否定判定をした場合、第 1 時短状態フラグ 3 2 2 及び第 2 時短状態フラグ 3 2 3 の両方を「0」クリアするとともに、第 3 時短状態フラグ 3 2 4 に「1」をセットする（ステップ S 9 5 0 6）。これにより、現状が第 1 時短状態 S T 1 であれば当該第 1 時短状態 S T 1 が途中で終了されて第 3 時短状態 S T 3 が開始されるとともに、現状が第 2 時短状態 S T 3 であれば当該第 2 時短状態 S T 2 が途中で終了されて第 3 時短状態 S T 3 が開始される。その後、状態継続カウンタ 3 2 7 に第 1 段階の継続回数である「2 0」をセットし（ステップ S 9 5 0 7）、状態判定用カウンタ 3 2 6 に第 1 段階に対応する「1」をセットする（ステップ S 9 5 0 8）。その後、主側 R A M 8 4 における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S 9 5 0 9）、第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S 9 5 1 0）。

30

【1 7 4 1】

図 1 4 9 は音光側 M P U 9 3 にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側 M P U 8 2 から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

40

【1 7 4 2】

ステップ S 9 6 0 1～ステップ S 9 6 0 3 及びステップ S 9 6 1 2～ステップ S 9 6 1 5 では上記第 1 5 の実施形態における変動パターンの決定処理（図 1 3 3）のステップ S 8 8 0 1～ステップ S 8 8 0 3 及びステップ S 8 8 1 2～ステップ S 8 8 1 5 と同一の処理を実行する。

【1 7 4 3】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップ S 9 6 0 4：Y E S）、現状の遊技状態が高確率状態、第 1 時短状態 S T 1 及び第 2 時短状態 S T 2 のいずれでもない場合、す

50

なわち現状の遊技状態が通常遊技状態又は第3時短状態ST3である場合（ステップS9605及びステップS9606：NO）、又は現状の遊技状態が第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2であったとしても当該時短状態ST1、ST2の残りの継続回数が50回以下である場合（ステップS9606：YES、ステップS9607：NO）、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS9608）。なお、音光側MPU93は主側MPU82から受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれであるのかを特定可能であり、さらに第1、第2時短状態ST1、ST2の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって第1、第2時短状態ST1、ST2の残りの継続回数を特定可能である。

10

【1744】

時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、時短結果に対応する停止図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップS9609）。

【1745】

一方、今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップS9604：YES）であって、現状の遊技状態が高確率状態である場合（ステップS9605：YES）、又は現状の遊技状態が第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であって時短状態ST1、ST2の残りの継続回数が51回以上である場合（ステップS9606及びステップS9607：YES）、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップS9610）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップS9611）。

20

【1746】

ちなみに、時短結果用の設定処理（図148）ではステップS9505にて第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の残りの継続回数が50回以上であるか否かを判定しているのに対して、変動パターンの決定処理（図149）ではステップS9607にて第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の残りの継続回数が51回以上であるか否かを判定している理由は、変動パターンの決定処理（図149）は遊技回が開始される場合に実行される処理であるのに対して、時短結果用の設定処理（図148）は遊技回が終了した場合であって状態継続カウンタ327の値が1減算される時短進行用処理（図134）よりも後に実行される処理だからである。

30

【1747】

上記構成によれば第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果が発生した場合、当該時短状態ST1、ST2の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数以上であれば現状の時短状態ST1、ST2が継続されるのに対して、当該時短状態ST1、ST2の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数未満であれば現状の時短状態ST1、ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、時短状態ST1～ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

40

【1748】

第1時短状態ST1のサポートモードが第1高頻度サポートモードであり、第3時短状態ST3のサポートモードが第2高頻度サポートモードである構成において、第1時短状態ST1の途中で時短結果が発生した場合、第1時短状態ST1の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数以上であれば現状の第1時短状態ST1が継続されるのに対して、第1時短状態ST1の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数未満であれば

50

現状の第1時短状態ST1が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、相対的に有利である第1高頻度サポートモードが継続されることよりも、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードを含む高頻度サポートモードが極力長く継続されることを優先させることが可能となる。

【1749】

第2時短状態ST2はサポートモードが第3時短状態ST3と同一である第2高頻度サポートモードである。このような事情において第2時短状態ST2の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数以上であれば第2時短状態ST2が継続されるのに対して、第2時短状態ST2の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数未満であれば第2時短状態ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、第2高頻度サポートモードとなる時短状態ST2、ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

10

【1750】

時短結果の場合には通常遊技状態、第3時短状態ST3、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であって当該時短結果に対応する遊技回が終了した後における残りの継続回数が50回未満である場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。一方、高確率状態である場合、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であって当該時短結果に対応する遊技回が終了した後における残りの継続回数が50回以上である場合、時短結果となったとしても図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。状態示唆領域43には青色が停止表示される。

20

【1751】

図柄表示装置41の表示面積は特図表示部37a、37bの表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置41は遊技領域PAの略中央に配置されているのに対して特図表示部37a、37bは遊技領域PAの隅角側に配置されているため図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置41ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部37a、37bでは一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。このような事情において第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

30

【1752】

第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a、37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

40

【1753】

<第16の実施形態の別形態>

(1) 第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、現状の時短状態ST1、ST2における残りの継続回数が第3時短状

50

態 S T 3 の継続回数以上であれば現状の時短状態 S T 1 , S T 2 が継続され、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数未満であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される構成としたがこれに限定されない。例えば、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数よりも少ない回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の時短状態 S T 1 , S T 2 が継続され、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が上記基準回数以下であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される構成としてもよい。また、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数よりも多い回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の時短状態 S T 1 , S T 2 が継続され、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が上記基準回数以下であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される構成としてもよい。

10

【 1 7 5 4 】

(2) 上記 (1) のように第 3 時短状態 S T 3 の継続回数よりも少ない回数である基準回数が設定されている構成においては、第 3 時短状態 S T 3 において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、現状の第 3 時短状態 S T 3 における残りの継続回数が上記基準回数よりも多い回数であれば現状の第 3 時短状態 S T 3 が継続され、現状の第 3 時短状態 S T 3 における残りの継続回数が上記基準回数以下であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される構成としてもよい。

【 1 7 5 5 】

(3) 第 3 時短状態 S T 3 として終了条件となる継続回数が異なる複数の第 3 時短状態が設定されており、それら複数の第 3 時短状態はそれぞれ対応する種類の時短結果となる遊技回が実行された場合に発生する構成としてもよい。この場合、第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 において所定の時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が当該所定の時短結果に対応する第 3 時短状態の継続回数以上であれば現状の時短状態 S T 1 , S T 2 が継続され、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 における残りの継続回数が当該所定の時短結果に対応する第 3 時短状態の継続回数未満であれば当該第 3 時短状態が新たに開始される構成としてもよい。

20

【 1 7 5 6 】

(4) 第 1 時短状態 S T 1 において時短結果に対応する遊技回が実行された場合と、第 2 時短状態 S T 2 において時短結果に対応する遊技回が実行された場合とで、時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始されるための現状の時短状態 S T 1 , S T 2 の残りの継続回数が相違している構成としてもよい。例えば、第 1 時短状態 S T 1 において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には現状の第 1 時短状態 S T 1 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数よりも少ない回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の第 1 時短状態 S T 1 が継続され、現状の第 1 時短状態 S T 1 2 における残りの継続回数が上記基準回数以下であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される一方、第 2 時短状態 S T 2 において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には現状の第 2 時短状態 S T 2 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数以上であれば現状の第 2 時短状態 S T 2 が継続され、現状の第 2 時短状態 S T 2 における残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数未満であれば第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始される構成としてもよい。この場合、サポートモードが相対的に有利である第 1 時短状態 S T 1 の方が、サポートモードが相対的に不利である第 2 時短状態 S T 2 よりも継続され易くなる。

30

40

【 1 7 5 7 】

< 第 1 7 の実施形態 >

本実施形態では時短状態 S T 1 ~ S T 3 の終了条件が上記第 1 5 の実施形態と相違している。以下、上記第 1 5 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 1 5 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【 1 7 5 8 】

まず当否判定処理 (ステップ S 8 0 5) が実行されることにより選択され得る抽選結果

50

の内容について説明する。図150(a)は使用対象として設定されている設定値が「設定3」である場合における低確率時の第1当否テーブル361を説明するための説明図であり、図150(b)は使用対象として設定されている設定値が「設定3」である場合における低確率時の第2当否テーブル362を説明するための説明図であり、図150(c)は使用対象として設定されている設定値が「設定3」である場合における高確率時の当否テーブル363を説明するための説明図である。

【1759】

第1保留情報に対して当否判定処理(ステップS805)が実行される場合、当否抽選モードが低確率モードであれば図150(a)に示す低確率時の第1当否テーブル361が参照され、当否抽選モードが高確率モードであれば図150(c)に示す高確率時の当否テーブル363が参照される。また、第2保留情報に対して当否判定処理(ステップS805)が実行される場合、当否抽選モードが低確率モードであれば図150(b)に示す低確率時の第2当否テーブル362が参照され、当否抽選モードが高確率モードであれば図150(c)に示す高確率時の当否テーブル363が参照される。なお、高確率時の当否テーブル363が第1保留情報及び第2保留情報のそれぞれに対応させて設定されている構成としてもよい。これは他の実施形態についても同様である。

【1760】

低確率時の第1当否テーブル361及び低確率時の第2当否テーブル362には抽選結果として、上記第1の実施形態と同様に大当たり結果、時短結果及び外れ結果が設定されているとともに、これら以外にも抽選結果として小当たり結果が設定されている。高確率時の当否テーブル363には抽選結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されているものの時短結果は設定されていない。大当たり結果となった場合に選択され得る大当たり結果の種類及び振分確率は上記第1の実施形態と同一である。また、時短結果は上記第15の実施形態と同様に1種類のみである。

【1761】

小当たり結果は、開閉実行モードへの移行契機とはなるものの、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機とならない当否結果である。したがって、通常遊技状態において小当たり結果が発生した場合には開閉実行モードの終了後は通常遊技状態が継続し、高確率状態において小当たり結果が発生した場合には開閉実行モードの終了後は高確率状態が継続し、第1時短状態ST1において小当たり結果が発生した場合には開閉実行モードの終了後は第1時短状態ST1が継続し、第2時短状態ST2において小当たり結果が発生した場合には開閉実行モードの終了後は第2時短状態ST2が継続し、第3時短状態ST3において小当たり結果が発生した場合には開閉実行モードの終了後は第3時短状態ST3が継続する。また、小当たり結果を契機とした開閉実行モードでは特電入賞装置32の開放が短期間(具体的には1秒)で2回発生する構成である。したがって、当該開閉実行モードにおける特電入賞装置32への遊技球の入球は1個~3個程度となる。小当たり結果を契機とした開閉実行モードが発生したとしても天井カウンタ325への天井回数のセツトは行われない。

【1762】

図150(a)に示す低確率時の第1当否テーブル361においては小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数は時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数と同一であって大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数よりも多い個数となっている。但し、これに限定されることはなく、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数が時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数よりも多い構成としてもよく、少ない構成としてもよい。また、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数が大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタC1の数値情報の個数よりも少ない構成としてもよく、同一である構成としてもよい。また、低確率時の第1当否テーブル361には小当たり結果が設定されていない構成としてもよい。なお

、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は「設定 3」以外の設定値においても同一であり、時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は「設定 3」以外の設定値においても同一であり、大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は高い設定値ほど多い個数となっている。

【1763】

図 150 (b) に示す低確率時の第 2 当否テーブル 362 においては小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも多い個数であって大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも多い個数となっている。但し、これに限定されることはなく、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数が時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも少ない構成としてもよく、同一である構成としてもよい。また、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数が大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも少ない構成としてもよく、同一である構成としてもよい。なお、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は「設定 3」以外の設定値においても同一であり、時短結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は「設定 3」以外の設定値においても同一であり、大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は高い設定値ほど多い個数となっている。

【1764】

図 150 (c) に示す高確率時の当否テーブル 363 においては小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも多い個数となっている。但し、これに限定されることはなく、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数が大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数よりも少ない構成としてもよく、同一である構成としてもよい。なお、小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は「設定 3」以外の設定値においても同一であり、大当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は高い設定値ほど多い個数となっている。

【1765】

図 150 (a) に示す低確率時の第 1 当否テーブル 361 において小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数が 100 個であるのに対して、図 150 (b) に示す低確率時の第 2 当否テーブル 362 において小当たり結果に対して割り当てられている当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の個数は 2000 個である。したがって、当否抽選モードが低確率モードである場合、第 1 作動口 33 への入球に基づき取得された第 1 保留情報に対して当否判定処理（ステップ S805）が実行される場合よりも、第 2 作動口 34 への入球に基づき取得された第 2 保留情報に対して当否判定処理（ステップ S805）が実行された場合の方が、小当たり結果が選択される確率が高くなっている。したがって、第 1 作動口 33 及び第 2 作動口 34 のうち第 1 作動口 33 への遊技球の入球を狙って遊技が行われる通常遊技状態よりも、第 1 作動口 33 及び第 2 作動口 34 のうち第 2 作動口 34 への遊技球の入球を狙って遊技が行われる第 1～第 3 時短状態 ST1～ST3 の方が、小当たり結果が発生し易い。

【1766】

当否判定処理（ステップ S805）では、低確率時の第 1 当否テーブル 361、低確率時の第 2 当否テーブル 362 及び高確率時の当否テーブル 363 のいずれかを参照した結果、今回の遊技回の実行対象となった第 1 保留情報又は第 2 保留情報に含まれる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報が小当たり結果に該当していることを特定した場合、今回の遊

技回の終了後に小当たり結果に対応する開閉実行モードを発生させるための情報を主側RAM84に記憶させる。当該情報が主側RAM84に記憶されている場合、今回の遊技回が終了した場合に実行される特図確定中処理（図153）にて小当たり結果に対応する開閉実行モードを開始させるための処理が実行される。

【1767】

図151は、本実施形態に設定されている時短状態の内容を説明するための説明図である。

【1768】

本実施形態であっても上記第15の実施形態と同様に遊技状態として、通常遊技状態と、高確率状態と、第1時短状態ST1と、第2時短状態ST2と、第3時短状態ST3とが存在している。通常遊技状態及び高確率状態の内容は上記第15の実施形態と同一である。第1～第3時短状態ST1～ST3は発生契機及びサポートモードの種類は上記第15の実施形態と同一であるが、終了条件が上記第15の実施形態と相違している。具体的には、第1時短状態ST1は大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく10回の小当たり結果が発生した場合又は100回の遊技回が消化された場合に終了する。10回の小当たり結果が発生した場合又は100回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。第2時短状態ST2は大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく15回の小当たり結果が発生した場合又は150回の遊技回が消化された場合に終了する。15回の小当たり結果が発生した場合又は150回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。第3時短状態ST3は大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく5回の小当たり結果が発生した場合又は50回の遊技回が消化された場合に終了する。5回の小当たり結果が発生した場合又は50回の遊技回が消化された場合には通常遊技状態となる。

【1769】

図152は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【1770】

主側RAM84には上記第15の実施形態と同様に高確率フラグ321、第1時短状態フラグ322、第2時短状態フラグ323、第3時短状態フラグ324及び天井カウンタ325が設けられている。また、主側RAM84には状態判定用カウンタ326及び状態継続カウンタ327に代えて、時短遊技回数カウンタ365及び時短小当たり回数カウンタ366が設けられている。なお、高確率状態における残りの継続回数を計測するために主側RAM84には上記第1の実施形態と同様に高確率状態カウンタが設けられている。

【1771】

時短遊技回数カウンタ365は第1～第3時短状態ST1～ST3において遊技回の残りの継続回数を主側MPU82にて計測するためのカウンタであり、時短小当たり回数カウンタ366は第1～第3時短状態ST1～ST3において残りの小当たり結果の発生回数を主側MPU82にて計測するためのカウンタである。5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了する場合、特電終了処理（図129）では、上記第15の実施形態においてはステップS8407にて状態継続カウンタ327に「20」をセットし、ステップS8408にて状態判定用カウンタ326に「1」をセットする構成としたが、本実施形態ではこれらの処理に代えて、時短遊技回数カウンタ365に第1時短状態ST1の継続回数である「100」をセットするとともに時短小当たり回数カウンタ366に第1時短状態ST1の小当たり結果の発生回数である「10」をセットする。また、天井カウンタ325において計測されている残りの天井回数が「0」となった場合、天井カウンタ325の減算処理（図131）では、上記第15の実施形態においてはステップS8606にて状態継続カウンタ327に「20」をセットし、ステップS8607にて状態判定用カウンタ326に「1」をセットする構成としたが、本実施形態ではこれらの処理に代えて、時短遊技回数カウンタ365に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセッ

トするとともに時短小当たり回数カウンタ366に第2時短状態ST2の小当たり結果の発生回数である「15」をセットする。また、時短結果に対応する遊技回が終了する場合において当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の開始設定が行われる場合には、後述する時短結果用の設定処理（図155）において時短遊技回数カウンタ365に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットするとともに時短小当たり回数カウンタ366に第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数である「5」をセットする。

【1772】

図153は主側MPU82にて実行される本実施形態における特図確定中処理を示すフローチャートである。

【1773】

特図側タイマカウンタの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合であって（ステップS9701：YES）、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果である場合（ステップS9702：YES）、大当たり用処理を実行する（ステップS9703）。大当たり用処理では、上記第15の実施形態における特図確定中処理（図128）のステップS8303～ステップS8307と同一の処理を実行する。

【1774】

今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合（ステップS9702：NO）、今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果であるか否かを判定する（ステップS9704）。今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果ではない場合（ステップS9704：NO）、特図特電カウンタの値を「0」クリアする（ステップS9705）。今回の遊技回の遊技結果が小当たり結果である場合（ステップS9704：YES）、小当たり結果に対応する開閉実行モードを開始させるための小当たり用処理を実行する（ステップS9706）。小当たり用処理では、小当たり結果用のオープニング期間に対応する情報（具体的には1秒）を特図側タイマカウンタにセットし、小当たり結果用のオープニングコマンドを音光側MPU93に送信し、特図特電カウンタの値を1加算する。当該小当たり用処理が実行された場合、特図特電制御処理（図18）におけるステップS609～ステップS612では、小当たり結果用のオープニング期間が終了した後に、特電入賞装置32において短期間（具体的には1秒）による開放が2回発生するように当該特電入賞装置32を駆動制御する。また、遊技球の発射周期が0.6秒であるため実際に発生しないが、特電入賞装置32への遊技球の入球の上限個数は10個に設定されているため、仮に10個の遊技球の入球が特電入賞装置32に発生した場合には短期間による開放が2回完了していても特電入賞装置32は閉鎖状態とされて開閉実行モードが終了する。小当たり結果に対応する開閉実行モードが終了する場合には小当たり結果用のエンディング期間（具体的には1秒）が発生する。小当たり結果に対応する開閉実行モードにおける特電入賞装置32への遊技球の入球は1個～3個程度となる。

【1775】

ステップS9705又はステップS9706の処理を実行した場合、ステップS9707にて時短進行用処理を実行し、ステップS9708にて天井カウンタ325の減算処理を実行し、ステップS9709にて時短結果用の設定処理を実行し、ステップS9710にて高確進行用処理を実行する。天井カウンタ325の減算処理では、高確率状態ではない場合において天井カウンタ325の値が1以上である場合に当該天井カウンタ325の値を1減算し、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」となった場合には第2時短状態ST2とするための処理を実行する。具体的には、第2時短状態フラグ323に「1」をセットし、時短遊技回数カウンタ365に「150」をセットし、時短小当たり回数カウンタ366に「15」をセットする。また、高確進行用処理では上記第15の実施形態における高確進行用処理（図130）と同様の処理を実行する。但し、ステップS8502にて1減算の対象となるカウンタは高確率状態カウンタとなり、ステップS8503では高確率状態カウンタが「0」であるか否かを判定する。

【1776】

図154は特図確定中処理（図153）におけるステップS9707の時短進行用処理

10

20

30

40

50

を示すフローチャートである。

【1777】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって第1～第3時短状態フラグ322～324のいずれかに「1」がセットされている場合（ステップS9801：NO、ステップS9802：YES）、時短遊技回数カウンタ365の値を1減算する（ステップS9803）。また、今回の遊技回において小当たり結果が発生している場合（ステップS9804：YES）、時短小当たり回数カウンタ366の値を1減算する（ステップS9805）。

【1778】

その後、時短遊技回数カウンタ365及び時短小当たり回数カウンタ366のいずれかが「0」であるか否かを判定する（ステップS9806）。時短遊技回数カウンタ365の値が「0」である場合又は時短小当たり回数カウンタ366の値が「0」である場合（ステップS9806：YES）、時短終了時のクリア処理を実行する（ステップS9807）。当該時短終了時のクリア処理では、第1時短状態フラグ322、第2時短状態フラグ323、第3時短状態フラグ324、時短遊技回数カウンタ365及び時短小当たり回数カウンタ366のそれぞれを「0」クリアする。これにより、現状の時短状態ST1～ST3が終了する。その後、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップS9808）、現状の第1～第3時短状態ST1～ST3が終了したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9809）。

【1779】

図155は特図確定中処理（図153）におけるステップS9709の時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【1780】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合であって（ステップS9901：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップS9902：NO）、第1時短状態フラグ322又は第2時短状態フラグ323に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS9903、ステップS9904）。つまり、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれかであるか否かを判定する。第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれでもない場合（ステップS9903及びステップS9904：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態又は第3時短状態ST3である場合、ステップS9906～ステップS9910にて第3時短状態ST3を新たに開始するための処理を実行する。

【1781】

具体的には、第1時短状態フラグ322及び第2時短状態フラグ323の両方を「0」クリアするとともに、第3時短状態フラグ324に「1」をセットする（ステップS9906）。これにより、第3時短状態ST3が開始される。その後、時短遊技回数カウンタ365に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットし（ステップS9907）、時短小当たり回数カウンタ366に第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数である「5」をセットする（ステップS9908）。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップS9909）、第3時短状態ST3が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS9910）。

【1782】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2である場合（ステップS9903又はステップS9904：YES）、時短小当たり回数カウンタ366を参照することで、現状の時短状態ST1、ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数である5回以上であるか否かを判定する（ステップS9905）。

【1783】

ステップS9905にて肯定判定をした場合、ステップS9906～ステップS9910の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。これにより、現状が第

10

20

30

40

50

1時短状態ST1であれば当該第1時短状態ST1が継続され、現状が第2時短状態ST2であれば当該第2時短状態ST2が継続される。ステップS9905にて否定判定をした場合、ステップS9906～ステップS9910に示す第3時短状態ST3に示す第3時短状態ST3を新たに開始させるための処理を実行する。

【1784】

上記構成によれば第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果が発生した場合、当該時短状態ST1，ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であれば現状の時短状態ST1，ST2が継続されるのに対して、当該時短状態ST1，ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満であれば現状の時短状態ST1，ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、時短状態ST1～ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

10

【1785】

第1時短状態ST1のサポートモードが第1高頻度サポートモードであり、第3時短状態ST3のサポートモードが第2高頻度サポートモードである構成において、第1時短状態ST1の途中で時短結果が発生した場合、第1時短状態ST1の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であれば現状の第1時短状態ST1が継続されるのに対して、第1時短状態ST1の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満であれば現状の第1時短状態ST1が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、相対的に有利である第1高頻度サポートモードが継続されることよりも、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードを含む高頻度サポートモードが極力長く継続されるようにすることが可能となる。

20

【1786】

第2時短状態ST2はサポートモードが第3時短状態ST3と同一である第2高頻度サポートモードである。このような事情において第2時短状態ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であれば第2時短状態ST2が継続されるのに対して、第2時短状態ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満であれば第2時短状態ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、第2高頻度サポートモードとなる時短状態ST2，ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

30

【1787】

時短結果となった場合、通常遊技状態、第3時短状態ST3、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であって当該時短結果に対応する遊技回が終了した後における残りの小当たり結果の発生回数が5回未満である場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。一方、高確率状態である場合、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であって当該時短結果に対応する遊技回が終了した後における残りの小当たり結果の発生回数が5回以上である場合、時短結果となったとしても図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域43には青色が停止表示される。上記非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

40

【1788】

図柄表示装置41の表示面積は特図表示部37a，37bの表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置41は遊技領域PAの略中央に配置されているのに対して特図表示部37a，37bは遊技領域PAの隅角側に配置されているため、図柄表示装置41の方が特図表示部37a，37bよりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置41ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部37a，37bでは既に説

50

明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置 4 1 の方が特図表示部 3 7 a , 3 7 b よりも遊技者に注目される。このような事情において第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【1 7 8 9】

第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域 4 3 には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第 3 時短状態 S T 3 の設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域 4 3 に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域 4 3 に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部 3 7 a , 3 7 b が視認しづらい状況において図柄表示装置 4 1 における図柄列 Z 1 ~ Z 3 の各有効ライン L 1 ~ L 5 に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域 4 3 を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

【1 7 9 0】

＜第 1 7 の実施形態の別形態＞

(1) 時短結果用の設定処理の別形態について図 1 5 6 のフローチャートを参照しながら説明する。

【1 7 9 1】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合であって（ステップ S A 1 0 1 : Y E S）、高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされていない場合（ステップ S A 1 0 2 : N O）、第 1 時短状態フラグ 3 2 2 又は第 2 時短状態フラグ 3 2 3 に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S A 1 0 3、ステップ S A 1 0 4）。つまり、第 1 時短状態 S T 1 及び第 2 時短状態 S T 2 のいずれかであるか否かを判定する。第 1 時短状態 S T 1 及び第 2 時短状態 S T 2 のいずれでもない場合（ステップ S A 1 0 3 及びステップ S A 1 0 4 : N O）、すなわち遊技状態が通常遊技状態又は第 3 時短状態 S T 3 である場合、ステップ S A 1 0 7 ~ ステップ S A 1 1 1 にて第 3 時短状態 S T 3 を新たに開始するための処理を実行する。

【1 7 9 2】

具体的には、第 1 時短状態フラグ 3 2 2 及び第 2 時短状態フラグ 3 2 3 の両方を「0」クリアするとともに、第 3 時短状態フラグ 3 2 4 に「1」をセットする（ステップ S A 1 0 7）。これにより、第 3 時短状態 S T 3 が開始される。その後、時短遊技回数カウンタ 3 6 5 に第 3 時短状態 S T 3 の継続回数である「50」をセットし（ステップ S A 1 0 8）、時短小当たり回数カウンタ 3 6 6 に第 3 時短状態 S T 3 の小当たり結果の発生回数である「5」をセットする（ステップ S A 1 0 9）。その後、主側 R A M 8 4 における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S A 1 1 0）、第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S A 1 1 1）。

【1 7 9 3】

第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 である場合（ステップ S A 1 0 3 又はステップ S A 1 0 4 : Y E S）、時短小当たり回数カウンタ 3 6 6 を参照することで、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 の残りの小当たり結果の発生回数が第 3 時短状態 S T 3 の小当たり結果の発生回数である 5 回以上であるか否かを判定する（ステップ S A 1 0 5）。また、時短遊技回数カウンタ 3 6 5 を参照することで、現状の時短状態 S T 1 , S T 2 の残りの継続回数が第 3 時短状態 S T 3 の継続回数である 5 0 回よりも少ない基準回数として設定された 3 0 回以上であるか否かを判定する（ステップ S A 1 0 6）。

【1794】

ステップSA105及びステップSA106の両方にて肯定判定をした場合、すなわち現状の時短状態ST1, ST2における残りの小当たり結果の発生回数が5回以上であって残りの継続回数が30回以上である場合、ステップSA107～ステップSA111の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。これにより、現状が第1時短状態ST1であれば当該第1時短状態ST1が継続され、現状が第2時短状態ST2であれば当該第2時短状態ST2が継続される。

【1795】

ステップSA105及びステップSA106のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち現状の時短状態ST1, ST2における残りの小当たり結果の発生回数が5回未満である場合又は現状の時短状態ST1, ST2における残りの継続回数が30回未満である場合、ステップSA107～ステップSA111に示す第3時短状態ST3を新たに開始させるための処理を実行する。

【1796】

上記構成によれば第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果が発生した場合、当該時短状態ST1, ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であって残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数よりも少ない基準回数以上であれば現状の時短状態ST1, ST2が継続されるのに対して、当該時短状態ST1, ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満である場合又は当該時短状態ST1, ST2の残りの継続回数が基準回数未満である場合には現状の時短状態ST1, ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、時短状態ST1～ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

【1797】

第1時短状態ST1のサポートモードが第1高頻度サポートモードであり、第3時短状態ST3のサポートモードが第2高頻度サポートモードである構成において、第1時短状態ST1の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であって第1時短状態ST1の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数よりも少ない基準回数以上であれば現状の第1時短状態ST1が継続されるのに対して、第1時短状態ST1の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満である場合又は第1時短状態ST1の残りの継続回数が基準回数未満である場合には現状の第1時短状態ST1が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、相対的に有利である第1高頻度サポートモードが継続されることよりも、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードを含む高頻度サポートモードが極力長く継続されるようにすることが可能となる。

【1798】

第2時短状態ST2はサポートモードが第3時短状態ST3と同一である第2高頻度サポートモードである。このような事情において第2時短状態ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であって残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数よりも少ない基準回数以上であれば第2時短状態ST2が継続されるのに対して、第2時短状態ST2の残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満である場合又は当該時短状態ST1, ST2の残りの継続回数が基準回数未満である場合には第2時短状態ST2が途中で終了されて第3時短状態ST3が新たに開始される。これにより、第2高頻度サポートモードとなる時短状態ST2, ST3が極力長く継続されるようにすることが可能となる。

【1799】

(2) 第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、現状の時短状態ST1, ST2における残りの小当たりの発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であれば現状の時短状態ST1, ST2が継続され、現状の時短状態ST1, ST2における残りの小当たり結果の発生回数が

第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としたが、これに限定されない。例えば、現状の時短状態ST1、ST2における残りの遊技回の継続回数が第3時短状態ST3の遊技回の継続回数以上であれば現状の時短状態ST1、ST2が継続され、現状の時短状態ST1、ST2における残りの遊技回の継続回数が第3時短状態ST3の遊技回の継続回数未満であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としてもよい。

【1800】

また、例えば、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数よりも少ない回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の時短状態ST1、ST2が継続され、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が上記基準回数以下であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としてもよい。また、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数よりも多い回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の時短状態ST1、ST2が継続され、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が上記基準回数以下であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としてもよい。

【1801】

また、上記のように第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数よりも少ない回数である基準回数が設定されている構成においては、第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、現状の第3時短状態ST3における残りの小当たり結果の発生回数が上記基準回数よりも多い回数であれば現状の第3時短状態ST3が継続され、現状の第3時短状態ST3における残りの小当たり結果の発生回数が上記基準回数以下であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としてもよい。

【1802】

(3) 第3時短状態ST3として終了条件となる継続回数が異なる複数の第3時短状態が設定されており、それら複数の第3時短状態はそれぞれ対応する種類の時短結果となる遊技回が実行された場合に発生する構成としてもよい。この場合、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において所定の時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が当該所定の時短結果に対応する第3時短状態の小当たり結果の発生回数以上であれば現状の時短状態ST1、ST2が継続され、現状の時短状態ST1、ST2における残りの小当たり結果の発生回数が当該所定の時短結果に対応する第3時短状態の小当たり結果の発生回数未満であれば当該第3時短状態が新たに開始される構成としてもよい。

【1803】

(4) 第1時短状態ST1において時短結果に対応する遊技回が実行された場合と、第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合とで、時短結果に対応する第3時短状態ST3が新たに開始されるための現状の時短状態ST1、ST2の残りの小当たり結果の発生回数が相違している構成としてもよい。例えば、第1時短状態ST1において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には現状の第1時短状態ST1における残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数よりも少ない回数として設定された基準回数よりも多い回数であれば現状の第1時短状態ST1が継続され、現状の第1時短状態ST1における残りの小当たり結果の発生回数が上記基準回数以下であれば第3時短状態ST3が新たに開始される一方、第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には現状の第2時短状態ST2における残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数以上であれば現状の第2時短状態ST2が継続され、現状の第2時短状態ST2における残りの小当たり結果の発生回数が第3時短状態ST3の小当たり結果の発生回数未満であれば第3時短状態ST3が新たに開始される構成としてもよい。この場合、サポートモードが相対的に有利である第1時短状態ST1の方が、サポートモードが相対的に不利

10

20

30

40

50

である第2時短状態ST2よりも継続され易くなる。

【1804】

＜第18の実施形態＞

本実施形態では状態判定用カウンタ326の値と遊技状態との関係が上記第15の実施形態と相違している。以下、上記第15の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第15の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1805】

図157は状態判定用カウンタ326の値と遊技状態との関係を説明するための説明図である。

【1806】

状態判定用カウンタ326は上記第15の実施形態と同様に主側RAM84に設けられており、そのデータ容量は1バイト（8ビット）となっている。但し、これに限定されることはなく、状態判定用カウンタ326のデータ容量が1バイト未満である構成としてもよく、例えば4ビットとしてもよい。

【1807】

図157に示すように、状態判定用カウンタ326の値が「0」である場合、通常遊技状態に対応している。また、状態判定用カウンタ326の値が「1」～「3」である場合、第3時短状態ST3に対応しており、さらに「1」が第3時短状態ST3の第1段階に対応しており、「2」が第3時短状態ST3の第2段階に対応しており、「3」が第3時短状態ST3の第3段階に対応している。また、状態判定用カウンタ326の値が「4」～「6」である場合、第2時短状態ST2に対応しており、さらに「4」が第2時短状態ST2の第1段階に対応しており、「5」が第2時短状態ST2の第2段階に対応しており、「6」が第2時短状態ST2の第3段階に対応している。また、状態判定用カウンタ326の値が「7」～「9」である場合、第1時短状態ST1に対応しており、さらに「7」が第1時短状態ST1の第1段階に対応しており、「8」が第1時短状態ST1の第2段階に対応しており、「9」が第1時短状態ST1の第3段階に対応している。また、状態判定用カウンタ326の値が「10」である場合、高確率状態に対応している。

【1808】

状態判定用カウンタ326の値が7以上である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップS406）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1809】

状態判定用カウンタ326の値が「1」～「6」である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1810】

状態判定用カウンタ326の値が「0」である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の長期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS413）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS506～ステップS508が実行され

ることにより当該普電開放状態は低期待度モードとなる。

【1811】

図158は主側MPU82にて実行される本実施形態における特電終了処理を示すフローチャートである。

【1812】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップSA201：YES）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R高確結果又は10R高確結果である場合には（ステップSA202：YES）、状態判定用カウンタ326に「10」をセットするとともに（ステップSA203）、状態継続カウンタ327に高確率状態の継続回数である「100」をセットする（ステップSA204）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、高確率モードであって第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。

10

【1813】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R低確結果である場合には（ステップSA202：NO）、状態判定用カウンタ326に「7」をセットするとともに（ステップSA205）、状態継続カウンタ327に第1時短状態ST1の第1段階の継続回数である「20」をセットする（ステップSA206）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第1高頻度サポートモードである第1時短状態ST1となる。

20

【1814】

ステップSA204又はステップSA206の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップSA207）。当該送信処理では、遊技状態が高確率状態に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し、遊技状態が第1時短状態ST1に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、主側RAM84における大当たり終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA208）、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップSA209）。

【1815】

図159は特図確定中処理（図128）のステップS8311にて実行される高確進行用処理を示すフローチャートである。

30

【1816】

状態判定用カウンタ326の値が「10」である場合（ステップSA301：YES）、すなわち高確率状態である場合、状態継続カウンタ327の値を1減算する（ステップSA302）。そして、その1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」である場合（ステップSA303：YES）、開閉実行モードの終了後における高確率状態で高確率継続回数である100回の遊技回が消化されたことを意味する。この場合、状態判定用カウンタ326を「0」クリアする（ステップSA304）。これにより、低確率モードであって低頻度サポートモードである通常遊技状態となる。その後、主側RAM84における高確終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA305）、高確率状態が終了したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSA306）。

40

【1817】

図160は特図確定中処理（図128）のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【1818】

状態判定用カウンタ326の値が「10」である場合（ステップSA401：YES）、すなわち高確率状態である場合、ステップSA402以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。上記第15の実施形態と同様に高確率状態である状況において実行された遊技回においては天井カウンタ325の値の減算が実行される

50

ことはなく、天井カウンタ325の値の減算が実行されないことで第2時短状態ST2が発生することもない。

【1819】

状態判定用カウンタ326の値が「10」ではない場合（ステップSA401：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれかである場合、天井カウンタ325の値が1以上であることを条件として（ステップSA402：YES）、当該天井カウンタ325の値を1減算する（ステップSA403）。そして、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」である場合（ステップSA404：YES）、状態判定用カウンタ326に「4」をセットするとともに（ステップSA405）、状態継続カウンタ327に第2時短状態ST2の第1段階の継続回数である「20」をセットする（ステップSA406）。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA407）、第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSA408）。

10

【1820】

図161は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【1821】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップSA501：YES）、状態判定用カウンタ326の値が4以上であるか否かを判定することで、遊技状態が高確率状態、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれかであるか否かを判定する（ステップSA502）。状態判定用カウンタ326の値が4以上である場合（ステップSA502：YES）、ステップSA503以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2のいずれかである状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

20

【1822】

状態判定用カウンタ326の値が3以下である場合（ステップSA502：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態及び第3時短状態ST3のいずれかである場合、状態判定用カウンタ326に「1」をセットするとともに（ステップSA503）、状態継続カウンタ327に第3時短状態ST3の第1段階の継続回数である「20」をセットする（ステップSA504）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第3時短状態ST3となる。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA505）、第3時短状態ST3が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSA506）。

30

【1823】

なお、本実施形態であっても上記第15の実施形態と同様に、時短結果の場合には通常遊技状態、第3時短状態ST3、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2の最終遊技回である場合には図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。一方、高確率状態である場合、又は第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2の最終遊技回以外の遊技回である場合、時短結果となったとしても図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域43には青色が停止表示される。上記非リーチ外れ図柄の組合せは当否判

40

50

定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

【1824】

図柄表示装置41の表示面積は特図表示部37a, 37bの表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置41は遊技領域PAの略中央に配置されているのに対して特図表示部37a, 37bは遊技領域PAの隅角側に配置されているため、図柄表示装置41の方が特図表示部37a, 37bよりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置41ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部37a, 37bでは既に説明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置41の方が特図表示部37a, 37bよりも遊技者に注目される。このような事情において第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列Z1~Z3の各有効ラインL1~L5に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

10

【1825】

第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合、図柄列Z1~Z3の各有効ラインL1~L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST3の設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a, 37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1~Z3の各有効ラインL1~L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

20

【1826】

図162は特図確定中処理(図128)のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【1827】

まず状態判定用カウンタ326に「10」がセットされているか否かを判定する(ステップSA601)。状態判定用カウンタ326に「10」がセットされている場合(ステップSA601: YES)、すなわち遊技状態が高確率状態である場合、ステップSA602以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

30

【1828】

状態判定用カウンタ326に「10」がセットされていない場合であって状態判定用カウンタ326の値が1以上である場合(ステップSA601: NO、ステップSA602: YES)、すなわち遊技状態が第1~第3時短状態ST1~ST3のいずれかである場合、時短用減算処理を実行する(ステップSA603)。図163は時短用減算処理を示すフローチャートである。

【1829】

まず状態継続カウンタ327の値を1減算する(ステップSA701)。そして、その1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」である場合(ステップSA702: YES)、状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算する(ステップSA703)。時短用減算処理は状態判定用カウンタ326の値が「1」~「9」である場合に実行されるため状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した場合、時短状態ST1~ST3の第1段階であれば余りは「1」となり、第2段階であれば余りは「2」となり、第3段階であれば余りは「0」となる。また、第1時短状態ST1の第1段階における状態判定用カウンタ326の値は「7」であり、第2時短状態ST2の第1段階における状態判定用カウンタ326の値は「4」であり、第3時短状態ST3の第1段階における状態判定用カウンタ326の値は「1」であるため、「3」で除算した余りが「1」となる状況

40

50

においては第1時短状態ST1であれば商は「2」となり、第2時短状態ST2であれば商は「1」となり、第3時短状態ST3であれば商は「0」となる。

【1830】

ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した後は、当該除算による結果の余りが「1」であるか否かを判定することで、時短状態ST1～ST3の第1段階であるか否かを判定する（ステップSA704）。ステップSA704にて肯定判定をした場合、状態判定用カウンタ326の値を1加算する（ステップSA705）。これにより、現状が第1時短状態ST1の第1段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第1時短状態ST1の第2段階に対応する「8」となり、現状が第2時短状態ST2の第1段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第2時短状態ST2の第2段階に対応する「5」となり、現状が第3時短状態ST3の第1段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第3時短状態ST3の第2段階に対応する「2」となる。

10

【1831】

その後、ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した結果の商が「2」である場合（ステップSA706：YES）、すなわち第1時短状態ST1である場合、状態継続カウンタ327に第1時短状態ST1の第2段階の継続回数である「79」をセットする（ステップSA707）。また、ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した結果の商が「1」である場合（ステップSA708：YES）、すなわち第2時短状態ST2である場合、状態継続カウンタ327に第2時短状態ST2の第2段階の継続回数である「129」をセットする（ステップSA709）。また、ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した結果の商が「0」である場合（ステップSA708：NO）、すなわち第3時短状態ST3である場合、状態継続カウンタ327に第3時短状態ST3の第2段階の継続回数である「29」をセットする（ステップSA710）。

20

【1832】

ステップSA704にて否定判定をした場合、ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した結果の余りが「2」であるか否かを判定することで、時短状態ST1～ST3の第2段階であるか否かを判定する（ステップSA711）。ステップSA711にて肯定判定をした場合、状態判定用カウンタ326の値を1加算する（ステップSA712）。これにより、現状が第1時短状態ST1の第2段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第1時短状態ST1の第3段階に対応する「9」となり、現状が第2時短状態ST2の第2段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第2時短状態ST2の第3段階に対応する「6」となり、現状が第3時短状態ST3の第2段階であれば状態判定用カウンタ326の値は当該第3時短状態ST3の第3段階に対応する「3」となる。その後、状態継続カウンタ327に時短状態ST1～ST3における第3段階の継続回数に対応する「1」をセットする（ステップSA713）。

30

【1833】

ステップSA702にて否定判定をした場合、ステップSA707の処理を実行した場合、ステップSA709の処理を実行した場合、ステップSA710の処理を実行した場合又はステップSA713の処理を実行した場合、ステップSA714～ステップSA716における時短中コマンドを音光側MPU93に送信するための処理を実行する。具体的には、状態判定用カウンタ326の値を読み出すとともに（ステップSA714）、状態継続カウンタ327の値を読み出す（ステップSA715）。そして、ステップSA714にて読み出した状態判定用カウンタ326の値及びステップSA715にて読み出した状態継続カウンタ327の値のそれぞれが設定された時短中コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSA716）。音光側MPU93は時短中コマンドを受信することにより、時短状態ST1～ST3における進行状況を把握し、その把握結果に対応する態様で演出の実行制御を行う。

40

【1834】

一方、ステップSA703にて状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算した結果

50

の余りが「0」である場合（ステップSA711：NO）、すなわち時短状態ST1～ST3の第3段階において1減算後における状態継続カウンタ327の値が「0」となった場合には、状態判定用カウンタ326の値を「0」クリアする（ステップSA717）。この場合、状態継続カウンタ327の値が「0」の状態の時短用演算処理（図163）が終了して時短進行用処理（図162）のステップSA604に進む。状態継続カウンタ327の値が「0」であるためステップSA604にて肯定判定をして、ステップSA605～ステップSA607における時短状態ST1～ST3を終了させるための処理を実行する。具体的には、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA605）、時短状態ST1～ST3が終了したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSA606）。

10

【1835】

図164は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。なお、変動表示期間の特定処理は特図変動開始処理（図20）におけるステップS815にて実行される。

【1836】

まず遊技回期間用アドレステーブル361を主側ROM83から読み出す（ステップS9201）。その後、状態判定用カウンタ326の値が「0」である場合（ステップSA802：YES）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、主側MPU82の汎用レジスタにオフセット値として「0」をセットする（ステップSA803）。また、状態判定用カウンタ326の値が「10」である場合（ステップSA804：YES）、すなわち遊技状態が高確率状態である場合、主側MPU82の汎用レジスタにオフセット値として「4」をセットする（ステップSA805）。

20

【1837】

状態判定用カウンタ326の値が「1」～「9」である場合（ステップSA804：NO）、すなわち遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3である場合、状態判定用カウンタ326の値を「3」で除算する（ステップSA806）。そして、その除算結果の余りが「0」である場合（ステップSA807：YES）、当該余りを「3」に変更する（ステップSA808）。ステップSA807にて否定判定をした場合又はステップSA808の処理を実行した場合、ステップSA806～ステップSA808の処理による結果の余りの値を主側MPU82の汎用レジスタにオフセット値としてセットする（ステップSA809）。この場合、第1～第3時短状態ST1～ST3の第1段階であれば状態判定用カウンタ326の値が「1」、「4」及び「7」のいずれかであるため、「3」で除算した結果の余りは「1」となり、オフセット値も「1」となる。また、第1～第3時短状態ST1～ST3の第2段階であれば状態判定用カウンタ326の値が「2」、「5」及び「8」のいずれかであるため、「3」で除算した結果の余りは「2」となり、オフセット値も「2」となる。また、第1～第3時短状態ST1～ST3の第3段階であれば状態判定用カウンタ326の値が「3」、「6」及び「9」のいずれかであるため、「3」で除算した結果の余りは「0」となり、ステップSA808の処理が実行されることによって当該余りは「3」に書き換えられ、結果的にオフセット値は「3」となる。

30

【1838】

ステップSA803、ステップSA805又はステップSA809の処理を実行した場合、主側MPU82の汎用レジスタに読み出した遊技回期間用アドレステーブル311の開始アドレス（「00A0H」）に対して、ステップSA803、ステップSA805又はステップSA809にて設定したオフセット値を加算する（ステップSA810）。そして、遊技回期間用アドレステーブル311においてその加算後のアドレスに対応する記憶エリアに設定されている開始アドレスを読み出し（ステップSA811）、その読み出した開始アドレスに対応する遊技回期間テーブル312～316を主側RAM84に読み出す（ステップSA812）。この場合、ステップSA803にてオフセット値として「0」が設定されている場合には、ステップSA810にて算出されるアドレスは「00A0H」となるため、ステップSA812では通常用の遊技回期間テーブル312が主側R

40

50

AM84に読み出される。また、ステップSA805にてオフセット値として「4」が設定されている場合には、ステップSA810にて算出されるアドレスは「00A4H」となるため、ステップSA812では高確率用の遊技回期間テーブル316が主側RAM84に読み出される。また、ステップSA809にてオフセット値として「1」が設定されている場合には、ステップSA810にて算出されるアドレスは「00A1H」となるため、ステップSA812では第1段階時短用の遊技回期間テーブル313が主側RAM84に読み出される。また、ステップSA809にてオフセット値として「2」が設定されている場合には、ステップSA810にて算出されるアドレスは「00A2H」となるため、ステップSA812では第2段階時短用の遊技回期間テーブル314が主側RAM84に読み出される。また、ステップSA809にてオフセット値として「3」が設定されている場合には、ステップSA810にて算出されるアドレスは「00A3H」となるため、ステップSA812では第3段階時短用の遊技回期間テーブル315が主側RAM84に読み出される。

10

【1839】

その後、ステップSA812にて読み出した遊技回期間テーブル312～316を参照して変動表示期間の選択処理を実行する（ステップSA813）。この場合、本実施形態では変動種別カウンタCSの数値情報が第1保留情報又は第2保留情報に含まれているため、遊技回期間テーブル312～316を参照して変動種別カウンタCSの数値情報に対応する変動表示期間を選択する場合、その変動種別カウンタCSの数値情報は今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報が第1特図保留エリア111又は第2特図保留エリア112に格納された場合における変動種別カウンタCSの数値情報となる。その後、ステップSA813にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84に設けられた特図側タイマカウンタにセットする（ステップSA814）。特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。

20

【1840】

上記構成であることにより状態判定用カウンタ326によって時短状態ST1～ST3の各段階の種類だけではなく、通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれの遊技状態に滞在しているのかを特定することが可能となる。これにより、本実施形態では上記第15の実施形態において主側RAM84に設けられていた高確率フラグ321、第1時短状態フラグ322、第2時短状態フラグ323及び第3時短状態フラグ324が不要となるため、主側RAM84の構成を簡素なものとするのが可能となる。

30

【1841】

第1～第3時短状態ST1～ST3においては状態判定用カウンタ326の値に対して所定の演算処理（ステップSA806～ステップSA808）を実行することによりオフセット値を導出し、そのオフセット値を利用して遊技回期間用アドレステーブル311から対応する遊技回期間テーブル312～315の開始アドレスを読み出す構成である。これにより、時短状態ST1～ST3の各段階において遊技回期間テーブル313～315を読み出すための構成を簡素化することが可能となる。

40

【1842】

<第19の実施形態>

本実施形態では時短状態ST1～ST3の実行態様が上記第15の実施形態と相違している。以下、上記第15の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第15の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1843】

図165は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【1844】

主側RAM84には上記第15の実施形態と同様に高確率フラグ321及び天井カウン

50

タ 3 2 5 が設けられている。また、主側 R A M 8 4 には第 1 時短状態フラグ 3 2 2、第 2 時短状態フラグ 3 2 3、第 3 時短状態フラグ 3 2 4、状態判定用カウンタ 3 2 6 及び状態継続カウンタ 3 2 7 に代えて、時短対象カウンタ 3 7 1、第 1 時短状態カウンタ 3 7 2、第 2 時短状態カウンタ 3 7 3、第 3 時短状態カウンタ 3 7 4 及び時短継続カウンタ 3 7 5 が設けられている。

【1845】

時短対象カウンタ 3 7 1 は実行対象となっている時短状態 S T 1 ~ S T 3 の種類を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。高確率フラグ 3 2 1 が「1」である場合、時短対象カウンタ 3 7 1 の値に関係なく高確率状態に対応している。高確率フラグ 3 2 1 の値が「0」であって時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「0」である場合、通常遊技状態に対応している。時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「1」である場合、第 1 時短状態 S T 1 に対応している。時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「2」である場合、第 2 時短状態 S T 2 に対応している。時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「3」である場合、第 3 時短状態 S T 3 に対応している。

【1846】

高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされている場合又は時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「1」である場合、すなわち高確率状態又は第 1 時短状態 S T 1 である場合、主側 M P U 8 2 の普図変動開始処理（図 1 6）において普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップ S 4 0 6）が読み出され、さらに普図表示部 3 8 a の変動表示を開始する場合（ステップ S 4 1 5）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップ S 4 1 4）。また、主側 M P U 8 2 の普図確定中処理（図 1 7）において普電開放状態の制御処理としてステップ S 5 0 9 ~ ステップ S 5 1 1 が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1847】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「2」又は「3」である場合、すなわち第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3 である場合、主側 M P U 8 2 の普図変動開始処理（図 1 6）において普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップ S 4 0 5）が読み出され、さらに普図表示部 3 8 a の変動表示を開始する場合（ステップ S 4 1 5）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップ S 4 1 4）。また、主側 M P U 8 2 の普図確定中処理（図 1 7）において普電開放状態の制御処理としてステップ S 5 0 9 ~ ステップ S 5 1 1 が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1848】

高確率フラグ 3 2 1 の値が「0」であって時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「0」である場合、すなわち通常遊技状態である場合、主側 M P U 8 2 の普図変動開始処理（図 1 6）において普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップ S 4 0 5）が読み出され、さらに普図表示部 3 8 a の変動表示を開始する場合（ステップ S 4 1 5）に普図側の長期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップ S 4 1 3）。また、主側 M P U 8 2 の普図確定中処理（図 1 7）において普電開放状態の制御処理としてステップ S 5 0 6 ~ ステップ S 5 0 8 が実行されることにより当該普電開放状態は低期待度モードとなる。なお、上記第 1 ~ 第 1 8 の実施形態と同様に開閉実行モードにおいては当該開閉実行モードが開始される前の遊技状態に関係なく、通常遊技状態と同じ態様で、普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）、普図表示部 3 8 a の変動表示及び普電開放状態の実行制御が行われる。

【1849】

第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 は第 1 時短状態 S T 1 の残りの継続回数を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 は第 2 時短状態 S T 2 の残りの継続回数を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。第 3 時短状態カウンタ 3 7 4 は第 3 時短状態 S T 3 の残りの継続回数を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。

【1850】

本実施形態では上記第15の実施形態と同様に大当たり結果を契機とした開閉実行モードが実行されることによって時短状態ST1～ST3は強制的に終了される。したがって、第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかの途中で第1時短状態ST1の開始契機が発生することはない。また、5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了した場合に開始される第1時短状態ST1の継続回数は100回であり、当該開閉実行モードが実行される場合に当該継続回数よりも多い回数である天井回数（具体的には900回）が設定される。したがって、第1時短状態ST1の途中で第2時短状態ST2の開始契機が発生することはない。また、天井回数の遊技回の消化が完了して第2時短状態ST2が一旦発生した場合には、その後大当たり結果を契機とした開閉実行モードの発生時又は動作電力の供給開始時における天井カウンタ325への天井回数のセットが行われないうえに、第2時短状態ST2の開始契機は発生しない。したがって、第2時短状態ST2の途中で第2時短状態ST2の開始契機が発生することはない。

10

【1851】

これに対して、第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれであってもその途中で時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態ST3の開始契機が発生し得る。また、第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了して第2時短状態ST2の開始契機が発生することがある。この場合に、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には実行対象は第3時短状態ST3に変更されることなくそれまでの時短状態ST1、ST2が継続されるが、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数がセットされる。また、第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には実行対象が第2時短状態ST2に変更されるが、第3時短状態カウンタ374の値は「0」クリアされない。第3時短状態カウンタ374にセットされた継続回数の情報は、第3時短状態ST3が実行対象ではなく他の時短状態ST1、ST2が実行対象である状況であっても遊技回が実行される度に1減算される。第3時短状態カウンタ374に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況においてそれまで実行対象だった他の時短状態ST1、ST2が終了した場合にはその時点における第3時短状態カウンタ374に記憶されている残りの継続回数に亘って継続する第3時短状態ST3が実行される。一方、他の時短状態ST1、ST2が実行対象となっている状況において第3時短状態カウンタ374の値が「0」となった場合には潜伏中の第3時短状態ST3は実行対象となることなく終了する。なお、第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には上記第15の実施形態と同様に、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされる。

20

30

【1852】

時短継続カウンタ375は第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかが新たに開始されてからその時短状態ST1～ST3において実行された遊技回の回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。詳細は後述するが時短状態ST1～ST3においては時短継続カウンタ375の値に対応する態様で遊技回の変動表示期間が決定される。また、上記第1の実施形態と同様に遊技回の変動表示期間に応じて、各遊技回において図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行される遊技回用の演出の内容が異なり得るため、時短状態ST1～ST3においては時短継続カウンタ375の値に対応する態様で遊技回用の演出の実行態様が決定されるとも言える。

40

【1853】

図166は主側MPU82にて実行される本実施形態における特電終了処理を示すフローチャートである。

【1854】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップSA901：YES）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R高確結果又は10R高確結果である場合には（ステップSA902：YES）、高確率フラグ321に「1」をセットするとともに（ステップSA903）、時短対象力

50

ウンタ371及び各時短状態カウンタ372～374を「0」クリアする（ステップSA904）。また、主側RAM84に設けられた高確率状態カウンタに高確率状態の継続回数である「100」をセットする（ステップSA905）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、高確率モードであって第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。高確率状態カウンタの値は上記第1の実施形態と同様に高確率状態において遊技回が実行される度に1減算され、1減算後における高確率状態カウンタの値が「0」となった場合には高確率状態を終了させて通常遊技状態に移行させるための処理が実行される。

【1855】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R低確結果である場合には（ステップSA902：NO）、高確率フラグ321を「0」クリアし（ステップSA906）、時短対象カウンタ371に「1」をセットする（ステップSA907）。また、第1時短状態カウンタ372に第1時短状態ST1の継続回数である「100」をセットするとともに、第2時短状態カウンタ373、第3時短状態カウンタ374及び時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSA908）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第1高頻度サポートモードである第1時短状態ST1となる。また、開閉実行モードの開始前に第3時短状態ST3が潜伏していたとしても、第3時短状態ST3が潜伏していない状態となる。

【1856】

ステップSA905又はステップSA908の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップSA909）。当該送信処理では、遊技状態が高確率状態に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し、遊技状態が第1時短状態ST1に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、主側RAM84における大当たり終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSA910）、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップSA911）。

【1857】

図167は特図確定中処理（図128）のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【1858】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合（ステップSB101：YES）、すなわち高確率状態である場合、ステップSB102以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。上記第15の実施形態と同様に高確率状態である状況において実行された遊技回においては天井カウンタ325の値の減算が実行されることはなく、天井カウンタ325の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

【1859】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSB101：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれかである場合、天井カウンタ325の値が1以上であることを条件として（ステップSB102：YES）、当該天井カウンタ325の値を1減算する（ステップSB103）。そして、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」である場合（ステップSB104：YES）、時短対象カウンタ371に「2」をセットするとともに（ステップSB105）、第2時短状態カウンタ373に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットし、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB106）。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB107）、第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB108）。

10

20

30

40

50

【1860】

図168は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【1861】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップSB201：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSB202）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSB202：YES）、ステップSB203以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

10

【1862】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSB202：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかであるか否かを判定する（ステップSB203）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSB203：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSB204）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB205）、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットする（ステップSB206）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行する。また、ステップSB205にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされることとなるが、時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

20

【1863】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB207）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

30

【1864】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSB203：YES）、時短対象カウンタ371の値が「3」であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第3時短状態ST3であるか否かを判定する（ステップSB208）。時短対象カウンタ371の値が「3」である場合（ステップSB208：YES）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB209）。その後、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットする（ステップSB206）。これにより、第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第3時短状態ST3の継続回数が再度50回にセットされた状態で第3時短状態ST3が新たに開始されることになる。また、時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3における遊技回の変動表示期間の決定態様も第3時短状態ST3が新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。その後、第3時短状態ST3の途中で第3時短状態ST3が新たに開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB207）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3の途中で第3時短状態ST3が新たに開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

40

50

【1865】

ここで、上記第15～第18の実施形態では第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態ST3が新たに開始される場合であっても主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」がセットされることで、当該第3時短状態ST3の新たな開始に際して第2大当たり信号の出力状態がON継続期間に亘ってHイレベルとなる構成としたが、本実施形態では第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態ST3が新たに開始される場合には主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする処理（ステップSB205）が実行されないため、第3時短状態ST3が新たに開始されるとしても第2大当たり信号の出力状態はLOWレベルに維持される。但し、これに限定されることはなく本実施形態であって上記第15～第18の実施形態と同様に第3時短状態ST3の新たな開始に際して第2大当たり信号の出力状態がON継続期間に亘ってHイレベルとなる構成としてもよい。また、本実施形態のように第3時短状態ST3が新たに開始されるとしても第2大当たり信号の出力状態はLOWレベルに維持される構成を上記第15～第18の実施形態に適用してもよい。

10

【1866】

ステップSB203にて時短対象カウンタ371の値が1以上であると肯定判定をした場合であって、ステップSB208にて時短対象カウンタ371の値が「3」ではないと否定判定をした場合、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行されたことを意味する。この場合、ステップSB206にて第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットする処理は実行されるものの、時短対象カウンタ371に「3」をセットする処理は実行されることはなく時短対象カウンタ371の値は維持される。したがって、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には現状の時短状態ST1、ST2が維持されるものの第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数がセットされることになる。この場合、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2が実行対象となっている状況下において第3時短状態ST3が実行対象とはならないものの潜伏している状況となる。

20

【1867】

このように第3時短状態ST3が実行対象とはならないものの潜伏している状況となった場合であっても、ステップSB207では第3時短状態ST3の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3の潜伏が発生したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3が実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

30

【1868】

上記のとおり高確率状態において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には上記第15の実施形態と同様に当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3への移行、第3時短状態ST3の継続回数の再セット及び第3時短状態ST3の潜伏がいずれも発生しない。一方、通常遊技状態において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3への移行が発生し、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3の潜伏が発生し、第3時短状態ST3において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3の継続回数の再セットが発生する。この場合に、当否判定処理にて時短結果が選択された遊技回において特図表示部37a、37bに停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3に関する設定が行われるか否かによって変化しないのに対して、図柄表示装置41に停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3に関する設定が行われるか否かによって変化する。かかる内容について以下に詳細に説明する。

40

50

【1869】

遊技回の当否判定処理（ステップS805）及び大当たり用の振分判定処理（ステップS807）により選択され得る遊技結果として、5R低確結果、5R高確結果、10R高確結果、時短結果及び外れ結果が存在している。特図表示部37a、37bにおいて遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、5R低確結果の場合には「1」であり、5R高確結果の場合には「2」であり、10R高確結果の場合には「3」であり、時短結果の場合には「4」であり、外れ結果の場合には「-」である。これら停止結果はいずれの遊技状況であっても変化しない。したがって、遊技ホールの管理者は特図表示部37a、37bの停止結果を確認することで、遊技回の遊技結果を一義的に把握することが可能となる。

10

【1870】

図柄表示装置41において遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、大当たり結果である場合及び外れ結果である場合にはいずれの遊技状況であっても変化しないのに対して、時短結果である場合には遊技状況によって変化する。かかる内容について図169のフローチャートを参照しながら説明する。図169は音光側MPU93にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側MPU82から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

【1871】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSB301：YES）、大当たり結果用の停止図柄決定処理を実行し（ステップSB302）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSB303）。これら処理の内容は、上記第1の実施形態における変動パターンの決定処理（図28）のステップS1402及びステップS1403と同一である。

20

【1872】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSB304：YES）、現状の遊技状態が高確率状態であれば（ステップSB305：YES）、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB306）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、後述する潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSB307）。

30

【1873】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって（ステップSB304：YES）、現状が通常遊技状態若しくは第3時短状態ST3である場合、又は現状が第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であるものの最終遊技回である場合（ステップSB308：NO）、今回の時短結果に対応する遊技回を契機として第3時短状態ST3が新たに開始されるため、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB309）。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSB310）。

40

【1874】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって（ステップSB304：YES）、現状

50

が第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回以外の遊技回である場合（ステップSB308：YES）、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB311）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSB312）。

【1875】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が外れ結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSB304：NO）、外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB313）。外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していることを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、外れリーチ図柄の組合せを抽選により決定するとともにその決定した外れリーチ図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していないことを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSB314）。

【1876】

ステップSB303、ステップSB307、ステップSB310、ステップSB312又はステップSB314の処理を実行した場合、パターン決定処理を実行する（ステップSB315）。パターン決定処理では、ステップSB301～ステップSB314にて決定した停止結果及び今回受信した変動用コマンドに含まれる変動表示期間の情報などに対応する変動パターンを選択し、その選択した変動パターンに対応する変動パターンテーブルを音光側ROM94から音光側RAM95に読み出す。音光側MPU93はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部64及びスピーカ部65を制御することにより、これら表示発光部64及びスピーカ部65において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。

【1877】

その後、ステップSB315にて決定した変動パターンに対応する変動パターンコマンドを表示側MPU103に送信する（ステップSB316）。表示側MPU103はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側ROM104から表示側RAM105に読み出す。表示側MPU103はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置41を制御することにより、当該図柄表示装置41において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置41の状態示唆領域43に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図169）におけるステップSB301～ステップSB314にて決定された停止結果となる。

【1878】

上記のとおり通常遊技状態若しくは第3時短状態ST3である場合、又は現状が第1時短状態ST1若しくは第2時短状態ST2であるものの最終遊技回である場合において時短結果となった場合には、図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。これにより、上記第15～第18の実施形態と同様に、第3時短状態ST3への移行が発生したこと又は第3時短状態ST3の継続回数が再セットされたことを、図柄表示装置41の停止結果によって遊技者に認識させることが可能となる。

【1879】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の最終遊技回以外の遊技回である状況において時短結果となった場合には、図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。これにより、第3時短状態ST3の潜伏が発生したことを、図柄表示装置41の停止結果によって遊技者に認識させることが可能となる。

【1880】

高確率状態である状況において時短結果となった場合、図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域43には青色が停止表示される。上記非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

【1881】

図柄表示装置41の表示面積は特図表示部37a、37bの表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置41は遊技領域PAの略中央に配置されているのに対して特図表示部37a、37bは遊技領域PAの隅角側に配置されているため、図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置41ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部37a、37bでは既に説明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。このような事情において第3時短状態ST3に関する設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【1882】

第3時短状態ST3に関する設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST3に関する設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a、37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

【1883】

図170は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【1884】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSB401）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSB401：YES）、ステップSB402以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【1885】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSB401：NO、ステップSB402：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかである場合、第1時短状態カウ

10

20

30

40

50

ンタ 372 の減算処理（ステップ S B 403）、第 2 時短状態カウンタ 373 の減算処理（ステップ S B 404）、及び第 3 時短状態カウンタ 374 の減算処理（ステップ S B 405）を実行する。第 1 時短状態カウンタ 372 の減算処理では、第 1 時短状態カウンタ 372 の値が 1 以上であることを条件として、当該第 1 時短状態カウンタ 372 の値を 1 減算する。第 2 時短状態カウンタ 373 の減算処理では、第 2 時短状態カウンタ 373 の値が 1 以上であることを条件として、当該第 2 時短状態カウンタ 373 の値を 1 減算する。第 3 時短状態カウンタ 374 の減算処理では、第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上であることを条件として、当該第 3 時短状態カウンタ 374 の値を 1 減算する。

【1886】

ここで、ステップ S B 403～ステップ S B 405 の処理が現状の時短状態 S T 1～S T 3 の種類に関係なく実行されるため、第 1 時短状態 S T 1 であれば 1 回の遊技回が実行された場合に第 1 時短状態カウンタ 372 の値が 1 減算されるだけでなく、第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上であれば当該第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 減算され、第 2 時短状態 S T 2 であれば 1 回の遊技回が実行された場合に第 2 時短状態カウンタ 373 の値が 1 減算されるだけでなく、第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上であれば当該第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 減算される。したがって、第 1 時短状態 S T 1 及び第 2 時短状態 S T 2 のいずれかにおいて第 3 時短状態 S T 3 が潜伏している場合には、1 回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態 S T 1，S T 2 の残りの継続回数が 1 減算されるだけでなく、潜伏している第 3 時短状態 S T 3 の残りの継続回数も 1 減算されることになる。この場合、第 3 時短状態 S T 3 が潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態 S T 1，S T 2 が終了した場合に第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上でありそれまでの時短状態 S T 1，S T 2 に続けて第 3 時短状態 S T 3 が第 3 時短状態カウンタ 374 に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得る。また、第 3 時短状態 S T 3 が潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態 S T 1，S T 2 の途中で第 3 時短状態カウンタ 374 の値が「0」となり第 3 時短状態 S T 3 が潜伏したまま終了する状況が生じ得る。

【1887】

その後、時短対象カウンタ 371 の値が「1」である場合（ステップ S B 406：YES）、すなわち第 1 時短状態 S T 1 である場合、第 1 時短状態カウンタ 372 の値が「0」であるか否かを判定することで、第 1 時短状態 S T 1 における継続回数の遊技回の消化が完了したか否かを判定する（ステップ S B 407）。ステップ S B 407 にて肯定判定をした場合、第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上であるか否かを判定することで、第 3 時短状態 S T 3 が潜伏しているか否かを判定する（ステップ S B 408）。

【1888】

第 3 時短状態カウンタ 374 の値が 1 以上である場合（ステップ S B 408：YES）、第 1 時短状態 S T 1 において第 3 時短状態 S T 3 が潜伏していたことを意味する。この場合、時短対象カウンタ 371 に「3」をセットする（ステップ S B 409）。これにより、実行対象が第 1 時短状態 S T 1 から第 3 時短状態 S T 3 に切り換わるとともに、当該第 3 時短状態 S T 3 は第 3 時短状態カウンタ 374 に記憶されている残りの継続回数に亘って実行されることになる。その後、第 3 時短状態 S T 3 が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 93 に送信する（ステップ S B 412）。音光側 M P U 93 は当該状態指定コマンドを受信した場合、第 1 時短状態 S T 1 が終了して、潜伏していた第 3 時短状態 S T 3 が開始されたことを示す演出が図柄表示装置 41、表示発光部 64 及びスピーカ部 65 にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ 375 を「0」クリアする（ステップ S B 413）。時短継続カウンタ 375 が「0」クリアされるため、第 3 時短状態 S T 3 における遊技回の変動表示期間の決定態様は第 3 時短状態 S T 3 が新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【1889】

第 3 時短状態カウンタ 374 の値が「0」である場合（ステップ S B 408：NO）、時短対象カウンタ 371 を「0」クリアする（ステップ S B 410）。これにより、遊技

状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM 84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB 411）、第1時短状態ST 1が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU 93に送信し（ステップSB 412）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB 413）。

【1890】

時短対象カウンタ371の値が「2」である場合（ステップSB 406：NO、ステップSB 414：YES）、すなわち第2時短状態ST 2である場合、第2時短状態カウンタ373の値が「0」であるか否かを判定することで、第2時短状態ST 2における継続回数の遊技回の消化が完了したか否かを判定する（ステップSB 415）。ステップSB 415にて肯定判定をした場合、第3時短状態カウンタ374の値が1以上であるか否かを判定することで、第3時短状態ST 3が潜伏しているか否かを判定する（ステップSB 416）。

【1891】

第3時短状態カウンタ374の値が1以上である場合（ステップSB 416：YES）、第2時短状態ST 2において第3時短状態ST 3が潜伏していたことを意味する。この場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットする（ステップSB 417）。これにより、実行対象が第2時短状態ST 2から第3時短状態ST 3に切り換わるとともに、当該第3時短状態ST 3は第3時短状態カウンタ374に記憶されている残りの継続回数に亘って実行されることになる。その後、第3時短状態ST 3が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU 93に送信する（ステップSB 420）。音光側MPU 93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第2時短状態ST 2が終了して、潜伏していた第3時短状態ST 3が開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB 421）。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST 3における遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST 3が新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【1892】

第3時短状態カウンタ374の値が「0」である場合（ステップSB 416：NO）、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSB 418）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM 84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB 419）、第2時短状態ST 2が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU 93に送信し（ステップSB 420）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB 421）。

【1893】

時短対象カウンタ371の値が「3」である場合（ステップSB 406及びステップSB 414：NO）、すなわち第3時短状態ST 3である場合、第3時短状態カウンタ374の値が「0」であるか否かを判定することで、第3時短状態ST 3における継続回数の遊技回の消化が完了したか否かを判定する（ステップSB 422）。ステップSB 422にて肯定判定をした場合、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSB 423）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM 84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB 424）、第3時短状態ST 3が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU 93に送信し（ステップSB 425）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSB 426）。

【1894】

次に、図171のタイムチャートを参照しながら第3時短状態ST 3が潜伏する様子を第2時短状態ST 2との関係を例に挙げて説明する。図171（a）は第2時短状態ST 2が実行対象となっている期間を示し、図171（b）は第3時短状態ST 3が実行対象となっている期間を示し、図171（c）は天井カウンタ325の値が「0」となるタイミングを示し、図171（d）は時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し

、図171(e)は第2時短状態カウンタ373の状態を示し、図171(f)は第3時短状態カウンタ374の状態を示す。

【1895】

t1のタイミングで、通常遊技状態において図171(d)に示すように時短結果に対応する遊技回が終了することで、図171(b)に示すように第3時短状態ST3が開始される。また、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数がセットされる。そして、第3時短状態ST3において遊技回が繰り返し実行されることで、第3時短状態カウンタ374の値は徐々に減少していく。

【1896】

その後、第3時短状態ST3の途中のタイミングであるt2のタイミングで、図171(c)に示すように天井回数の遊技回の消化が完了して天井カウンタ325の値が「0」となることで、図171(a)及び図171(b)に示すように実行対象が第3時短状態ST3から第2時短状態ST2に切り換えられる。また、図171(e)に示すように第2時短状態カウンタ373に第2時短状態ST2の継続回数がセットされる。但し、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374は「0」クリアされない。これにより、第3時短状態ST3は途中で潜伏した状態となる。そして、第3時短状態ST3が潜伏している第2時短状態ST2において遊技回が繰り返し実行されることで、図171(e)に示すように第2時短状態カウンタ373の値は徐々に減少していくとともに、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値も徐々に減少していく。

【1897】

その後、第2時短状態ST2の途中のタイミングであるt3のタイミングで、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値が「0」となる。これにより、潜伏していた第3時短状態ST3が潜伏したまま終了する。

【1898】

その後、第2時短状態ST2の途中のタイミングであるt4のタイミングで、図171(d)に示すように時短結果に対応する遊技回が終了することで、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数がセットされる。但し、第2時短状態ST2の途中であるため実行対象は第2時短状態ST2に維持され、第3時短状態ST3は潜伏する。そして、第3時短状態ST3が潜伏している第2時短状態ST2において遊技回が繰り返し実行されることで、図171(e)に示すように第2時短状態カウンタ373の値は徐々に減少していくとともに、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値も徐々に減少していく。

【1899】

その後、第3時短状態ST3が潜伏している第2時短状態ST2の途中のタイミングであるt5のタイミングで、図171(d)に示すように時短結果に対応する遊技回が終了することで、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされる。但し、第2時短状態ST2の途中であるため実行対象は第2時短状態ST2に維持され、第3時短状態ST3の潜伏が継続される。そして、第3時短状態ST3が潜伏している第2時短状態ST2において遊技回が繰り返し実行されることで、図171(e)に示すように第2時短状態カウンタ373の値は徐々に減少していくとともに、図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値も徐々に減少していく。

【1900】

その後、t6のタイミングで、図171(e)に示すように第2時短状態カウンタ373の値が「0」となる。これにより、図171(a)に示すように第2時短状態ST2が終了する。また、当該t6のタイミングでは図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値が1以上であり、第3時短状態ST3が潜伏した状態となっている。したがって、当該t6のタイミングで図171(b)に示すように第3時短状態ST3が実行対象となる。当該第3時短状態ST3はこの時点で第3時短状態カウンタ374に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。そして、第3時短状態ST3において遊

10

20

30

40

50

技回が繰り返し実行されることで、第3時短状態カウンタ374の値は徐々に減少していき、t7のタイミングで図171(f)に示すように第3時短状態カウンタ374の値が「0」となることで、図171(b)に示すように第3時短状態ST3が終了して通常遊技状態に移行する。

【1901】

次に、時短状態ST1～ST3における演出の実行態様について説明する。図172は主側MPU82にて実行される本実施形態における変動表示期間の特定処理を示すフローチャートである。

【1902】

時短状態ST1～ST3ではない場合（ステップSB501：NO）、ステップSB502にて、通常遊技状態であれば通常用の遊技回期間テーブル312を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、高確率状態であれば高確率用の遊技回期間テーブル316を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。

【1903】

第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかである場合（ステップSB501：YES）、時短継続カウンタ375の値を1加算する（ステップSB503）。時短継続カウンタ375は、第1時短状態ST1が開始される場合、第2時短状態ST2が開始される場合、第3時短状態ST3が開始される場合、第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされる場合、及び第3時短状態ST3が潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1、ST2が終了してその潜伏している第3時短状態ST3が実行対象となる場合のそれぞれにおいて「0」クリアされる。

【1904】

その後、今回の遊技回が現状の時短状態ST1～ST3の最後の遊技回であるか否かを判定する（ステップSB504）。具体的には、時短対象カウンタ371の値が「1」であり第1時短状態ST1が実行対象である場合には第1時短状態カウンタ372の値が「1」であるか否かを判定する。また、時短対象カウンタ371の値が「2」であり第2時短状態ST2が実行対象である場合には第2時短状態カウンタ373の値が「1」であるか否かを判定する。また、時短対象カウンタ371の値が「3」であり第3時短状態ST3が実行対象である場合には第3時短状態カウンタ374の値が「1」であるか否かを判定する。ステップSB504にて肯定判定をした場合、第3段階時短用の遊技回期間テーブル315を主側ROM83から主側RAM84に読み出す（ステップSB505）。

【1905】

ステップSB504にて否定判定をした場合であって、時短対象カウンタ371の値が「1」であり第1時短状態ST1が実行対象である場合には（ステップSB506：YES）、時短継続カウンタ375の値が第1時短状態ST1におけるいずれの段階に対応しているのかを把握する（ステップSB507）。第1時短状態ST1が開始される場合に時短継続カウンタ375の値は「0」クリアされており、第1時短状態ST1において1回の遊技回が開始される場合に時短継続カウンタ375の値が1加算される。この場合、時短継続カウンタ375の値が「1」～「20」の範囲内であれば第1時短状態ST1の第1段階となり、時短継続カウンタ375の値が「21」～「99」の範囲内であれば第1時短状態ST1の第2段階となる。

【1906】

ステップSB504にて否定判定をした場合であって、時短対象カウンタ371の値が「2」であり第2時短状態ST2が実行対象である場合には（ステップSB508：YES）、時短継続カウンタ375の値が第2時短状態ST2におけるいずれの段階に対応しているのかを把握する（ステップSB509）。第2時短状態ST2が開始される場合に時短継続カウンタ375の値は「0」クリアされており、第2時短状態ST2において1回の遊技回が開始される場合に時短継続カウンタ375の値が1加算される。この場合、時短継続カウンタ375の値が「1」～「20」の範囲内であれば第2時短状態ST2の

第1段階となり、時短継続カウンタ375の値が「21」～「149」の範囲内であれば第2時短状態ST2の第2段階となる。

【1907】

ステップSB504にて否定判定をした場合であって、時短対象カウンタ371の値が「3」であり第3時短状態ST3が実行対象である場合には（ステップSB508：NO）、時短継続カウンタ375の値が第3時短状態ST3におけるいずれの段階に対応しているのかを把握する（ステップSB510）。第3時短状態ST3が開始される場合、第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされる場合、及び第3時短状態ST3が潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1、ST2が終了してその潜伏している第3時短状態ST3が実行対象となる場合に時短継続カウンタ375の値は「0」クリアされており、第3時短状態ST3において1回の遊技回が開始される場合に時短継続カウンタ375の値が1加算される。この場合、時短継続カウンタ375の値が「1」～「20」の範囲内であれば第3時短状態ST3の第1段階となり、時短継続カウンタ375の値が「21」～「49」の範囲内であれば第3時短状態ST3の第2段階となる。

10

【1908】

ステップSB507、ステップSB509又はステップSB510の処理を実行した場合、把握した段階に対応する遊技回期間テーブルを読み出すための処理を実行する（ステップSB511）。具体的には、実行対象の時短状態ST1～ST3における第1段階であると把握した場合には第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、実行対象の時短状態ST1～ST3における第2段階であると把握した場合には第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。

20

【1909】

ステップSB502、ステップSB505又はステップSB511の処理を実行した場合、これらの処理にて読み出した遊技回期間テーブル312～316を参照して変動表示期間の選択処理を実行する（ステップSB512）。この場合、本実施形態では変動種別カウンタCSの数値情報が第1保留情報又は第2保留情報に含まれているため、遊技回期間テーブル312～316を参照して変動種別カウンタCSの数値情報に対応する変動表示期間を選択する場合、その変動種別カウンタCSの数値情報は今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報が第1特図保留エリア111又は第2特図保留エリア112に格納された場合における変動種別カウンタCSの数値情報となる。その後、ステップSB512にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84に設けられた特図側タイマカウンタにセットする（ステップSB513）。特図側タイマカウンタにセットされた数値情報の更新はタイマ割込み処理（図14）におけるステップS210のタイマ更新処理にて実行される。

30

【1910】

通常用の遊技回期間テーブル312、第1段階時短用の遊技回期間テーブル313、第2段階時短用の遊技回期間テーブル314、及び高確率用の遊技回期間テーブル316の内容は上記第15の実施形態と同一である。

40

【1911】

第3段階時短用の遊技回期間テーブル315を参照してステップSB512にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は外れリーチ表示が発生する場合、他の遊技回期間テーブル312～314、316におけるリーチ対応のテーブルが参照された場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。具体的には、遊技回の変動表示期間として30秒以上の期間が選択される。第3段階時短用の遊技回期間テーブル315を参照してステップSB512にて変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、遊技回の開始契機となった保留情報の種類及び特図保留エリア84aに保留記憶されている保留情報の個数

50

に関係なく、さらに今回の遊技回の実行契機となった第1保留情報又は第2保留情報に含まれている変動種別カウンタCSの数値情報に関係なく、時短終了時の変動表示期間が選択される。時短終了時の変動表示期間は、他の遊技回期間テーブル312～314、316における非リーチ対応のテーブルが参照された場合に選択され得る最長の期間よりも長い変動表示期間となっており、具体的には30秒となっている。つまり、実行対象である時短状態ST1～ST3の最終遊技回においては、当否判定処理の結果及び外れリーチ表示の発生の有無に関係なく、他の遊技回期間テーブル312～314、316における非リーチ対応のテーブルが参照された場合に選択され得る最長の期間よりも長い変動表示期間である30秒以上の期間が遊技回の変動表示期間として選択される。これにより、実行対象となっている時短状態ST1～ST3の最終遊技回では、当該時短状態ST1～ST3が終了することを遊技者に認識可能とさせる演出を図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行するのに十分な時間が確保されている。

10

【1912】

なお、時短状態ST1～ST3においては主側MPU82から音光側MPU93に送信される変動用コマンドには、ステップSB512にて選択された遊技回の変動表示期間の情報だけではなく、現状の時短状態ST1～ST3の種類を示す情報、時短状態ST1～ST3における段階の種類を示す情報、及び第3時短状態カウンタ374に記憶されている値の情報が設定される。これにより、音光側MPU93は主側MPU82から受信した変動用コマンドによって遊技回の変動表示期間の情報だけではなく、実行対象となっている時短状態ST1～ST3の種類、及びその時短状態ST1～ST3の段階の種類を把握することが可能であるとともに、第3時短状態ST3が潜伏している状況であるか否か、及び第3時短状態ST3が潜伏している場合にはその潜伏している第3時短状態ST3の残りの継続回数の情報を把握することが可能である。

20

【1913】

図173は音光側MPU93の変動パターンの決定処理（図169）におけるステップSB315にて実行されるパターン決定処理を示すフローチャートである。

【1914】

今回受信した変動用コマンドに時短状態ST1～ST3であることを示す情報が設定されていない場合（ステップSB601、ステップSB603及びステップSB605：NO）、その他の決定処理を実行する（ステップSB610）。その他の決定処理では、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドの内容に対応する態様で演出の実行内容を決定する。

30

【1915】

今回受信した変動用コマンドに時短状態ST1～ST3の第1段階に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSB601：YES）、第1段階用の決定処理を実行する（ステップSB602）。第1段階用の決定処理では、第1段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。具体的には、第1段階に対応する演出の種類及び演出の選択確率で、演出の実行抽選処理が実行される。この場合、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報及び種別コマンドに含まれている遊技結果の情報に対応する態様で演出の実行内容が決定される。

40

【1916】

第1段階用の決定処理では、上記のように決定した演出の実行内容に対応する変動パターンテーブルを音光側ROM94から音光側RAM95に読み出す。音光側MPU93はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部64及びスピーカ部65を制御することにより、これら表示発光部64及びスピーカ部65において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。また、変動パターンの決定処理（図169）におけるステップSB316ではその変動パターンテーブルに対応する変動パターンコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側ROM104から表示側RAM105に読み出す。表示側MPU103はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置41を

50

制御することにより、当該図柄表示装置 4 1 において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図 1 6 9）におけるステップ S B 3 0 1 ~ ステップ S B 3 1 4 にて決定された停止結果となる。

【1 9 1 7】

今回受信した変動用コマンドに時短状態 S T 1 ~ S T 3 の第 2 段階に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップ S B 6 0 3 : Y E S）、第 2 段階用の決定処理を実行する（ステップ S B 6 0 4）。第 2 段階用の決定処理では、第 2 段階に対応する態様で演出の実行態様を決定する。具体的には、第 2 段階に対応する演出の種類及び演出の選択確率で、演出の実行抽選処理が実行される。この場合、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報及び種別コマンドに含まれている遊技結果の情報に対応する態様で演出の実行内容が決定される。第 2 段階用の決定処理では、第 1 段階用の決定処理では選択されない種類の演出を選択し得るとともに、第 1 段階用の決定処理においても選択され得る種類の演出についてはその選択確率が相違している。

【1 9 1 8】

第 2 段階用の決定処理では、上記のように決定した演出の実行内容に対応する変動パターンテーブルを音光側 R O M 9 4 から音光側 R A M 9 5 に読み出す。音光側 M P U 9 3 はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 を制御することにより、これら表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。また、変動パターンの決定処理（図 1 6 9）におけるステップ S B 3 1 6 ではその変動パターンテーブルに対応する変動パターンコマンドを表示側 M P U 1 0 3 に送信する。表示側 M P U 1 0 3 はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側 R O M 1 0 4 から表示側 R A M 1 0 5 に読み出す。表示側 M P U 1 0 3 はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置 4 1 を制御することにより、当該図柄表示装置 4 1 において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図 1 6 9）におけるステップ S B 3 0 1 ~ ステップ S B 3 1 4 にて決定された停止結果となる。

【1 9 1 9】

今回受信した変動用コマンドに時短状態 S T 1 ~ S T 3 の第 3 段階に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップ S B 6 0 5 : Y E S）、今回受信した種別コマンドを参照することで今回の遊技回が大当たり結果又は時短結果に対応しているかを判定する（ステップ S B 6 0 6）。今回の遊技回が大当たり結果又は時短結果に対応している場合には（ステップ S B 6 0 6 : Y E S）、非潜伏時の最終遊技回用の決定処理を実行する（ステップ S B 6 0 8）。また、今回の遊技回が大当たり結果及び時短結果に対応していない場合であって（ステップ S B 6 0 6 : N O）、第 3 時短状態 S T 3 が潜伏していない場合にも（ステップ S B 6 0 7 : N O）、非潜伏時の最終遊技回用の決定処理を実行する（ステップ S B 6 0 8）。一方、今回の遊技回が大当たり結果及び時短結果に対応していない場合であって（ステップ S B 6 0 6 : N O）、第 3 時短状態 S T 3 が潜伏している場合には（ステップ S B 6 0 7 : Y E S）、潜伏時の最終遊技回用の決定処理を実行する（ステップ S B 6 0 9）。

【1 9 2 0】

非潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、今回の遊技回が大当たり結果に対応しているのであれば、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報及び大当たり結果の種類に対応する態様であって第 3 段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。この場合に決定される演出の実行内容には大当たり結果が発生することを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれるが、今回の遊技回が時短状態 S T 1 ~ S T 3 の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容は含まれることはなく、さらに第 3 時短状態 S T

3が潜伏中であっても第3時短状態ST3が潜伏中であることを遊技者に認識可能とさせる内容は含まれない。大当たり結果を契機とした開閉実行モードが発生する場合には時短状態ST1～ST3の途中でであっても当該時短状態ST1～ST3が強制的に終了されるとともに潜伏中の第3時短状態ST3も強制的に終了されるため、今回の遊技回が時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる演出が実行される必要はなく、さらに第3時短状態ST3が潜伏していることを遊技者に認識可能とさせる演出が実行される必要はない。

【1921】

非潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、今回の遊技回が時短結果に対応しているのであれば、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報及び時短結果に対応する態様であって第3段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。この場合に決定される演出の実行内容には現状の時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容及び時短結果が発生することを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれるが、第3時短状態ST3が潜伏中であっても第3時短状態ST3が潜伏中であることを遊技者に認識可能とさせる内容は含まれない。時短状態ST1～ST3の最終遊技回において時短結果となった場合には第3時短状態ST3の潜伏中であるか否かに関係なく第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数がセットされることで第3時短状態ST3の継続回数に亘って継続する第3時短状態ST3が開始されるため、第3時短状態ST3が潜伏していることを遊技者に認識可能とさせる演出が実行される必要はない。

【1922】

非潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、今回の遊技回が大当たり結果及び時短結果のいずれにも対応していないのであれば、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報に対応する態様であって第3段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。この場合に決定される演出の実行内容には現状の時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれるとともに時短状態ST1～ST3が終了して通常遊技状態に移行することを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれる。また、外れリーチ表示が発生する遊技回においては図柄列Z1～Z3に外れリーチ表示に対応する図柄の組合せが停止表示された後に、現状の時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる演出及び時短状態ST1～ST3が終了して通常遊技状態に移行することを遊技者に認識可能とさせる演出が実行される。

【1923】

非潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、上記のように決定した演出の実行内容に対応する変動パターンテーブルを音光側ROM94から音光側RAM95に読み出す。音光側MPU93はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部64及びスピーカ部65を制御することにより、これら表示発光部64及びスピーカ部65において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。また、変動パターンの決定処理（図169）におけるステップSB316ではその変動パターンテーブルに対応する変動パターンコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側ROM104から表示側RAM105に読み出す。表示側MPU103はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置41を制御することにより、当該図柄表示装置41において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置41の状態示唆領域43に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図169）におけるステップSB301～ステップSB314にて決定された停止結果となる。

【1924】

潜伏時の最終遊技回用の決定処理は、今回の遊技回が大当たり結果及び時短結果の両方に対応していないこと、及び第3時短状態ST3が潜伏していることを条件に実行される。潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表

示期間の情報に対応する態様であって第3段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。この場合に決定される演出の実行内容には現状の時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれるとともに潜伏していた第3時短状態ST3が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれる。また、この第3時短状態ST3が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出においては、当該第3時短状態ST3の残りの継続回数の情報、すなわち第3時短状態カウンタ374にその時点で記憶されている値を示す情報が報知される。これにより、第3時短状態ST3の残りの継続回数を遊技者に認識させることが可能となる。また、外れリーチ表示が発生する遊技回においては図柄列Z1～Z3に外れリーチ表示に対応する図柄の組合せが停止表示された後に、現状の時短状態ST1～ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる演出及び潜伏していた第3時短状態ST3が開始されることを遊技者に認識可能とさせる演出が実行される。

10

【1925】

潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、上記のように決定した演出の実行内容に対応する変動パターンテーブルを音光側ROM94から音光側RAM95に読み出す。音光側MPU93はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部64及びスピーカ部65を制御することにより、これら表示発光部64及びスピーカ部65において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。また、変動パターンの決定処理(図169)におけるステップSB316ではその変動パターンテーブルに対応する変動パターンコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側ROM104から表示側RAM105に読み出す。表示側MPU103はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置41を制御することにより、当該図柄表示装置41において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置41の状態示唆領域43に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理(図169)におけるステップSB301～ステップSB314にて決定された停止結果となる。

20

【1926】

次に、図174のタイムチャートを参照しながら時短状態ST1～ST3における演出の実行態様を説明する。図174(a)は第1時短状態ST1が実行対象となっている期間を示し、図174(b)は第3時短状態ST3が実行対象となっている期間又は第3時短状態ST3が潜伏している期間を示し、図174(c)は時短状態ST1, ST3の第1段階である期間を示し、図174(d)は時短状態ST1, ST3の第2段階である期間を示し、図174(e)は時短状態ST1, ST3の第3段階の演出として非潜伏対応となる遊技回用の演出が実行されている期間を示し、図174(f)は時短状態ST1, ST3の第3段階の演出として潜伏対応となる遊技回用の演出が実行されている期間を示す。

30

【1927】

まず第1時短状態ST1において第3時短状態ST3の潜伏が発生しない場合について説明する。

40

【1928】

t1のタイミングで、5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで図174(a)に示すように第1時短状態ST1が開始される。この場合、図174(c)に示すように第1時短状態ST1の第1段階となるため、各遊技回では第1段階に対応する態様で演出が実行される。その後、t2のタイミングで第1時短状態ST1における第1段階に対応する継続回数の遊技回の消化が完了することで、図174(c)及び図174(d)に示すように第1時短状態ST1の第1段階が終了して第2段階となる。この場合、各遊技回では第2段階に対応する態様で演出が実行される。

【1929】

その後、t3のタイミングで第1時短状態ST1における第2段階に対応する継続回数

50

の遊技回の消化が完了することで、図174(d)に示すように第1時短状態ST1の第2段階が終了して第3段階となる。第3段階は第1時短状態ST1の最終遊技回である。この場合、第3時短状態ST3は潜伏しておらず、さらに当該最終遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生しない。したがって、t3のタイミング～t4のタイミングにおける最終遊技回では、図174(e)に示すように非潜伏対応の演出の実行態様で遊技回用の演出が実行される。当該最終遊技回は、遊技回の変動表示期間が当否判定処理の結果に関係なく30秒以上となるため、第1時短状態ST1の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出を実行するための期間を十分に確保することが可能となる。

【1930】

次に、第3時短状態ST3において途中で時短結果に対応する遊技回が発生しない場合について説明する。

【1931】

t5のタイミングで、時短結果に対応する遊技回が終了することで図174(b)に示すように第3時短状態ST3が開始される。この場合、図174(c)に示すように第3時短状態ST3の第1段階となるため、各遊技回では第1段階に対応する態様で演出が実行される。その後、t6のタイミングで第3時短状態ST3における第1段階に対応する継続回数の遊技回の消化が完了することで、図174(c)及び図174(d)に示すように第3時短状態ST3の第1段階が終了して第2段階となる。この場合、各遊技回では第2段階に対応する態様で演出が実行される。

【1932】

その後、t7のタイミングで第3時短状態ST3における第2段階に対応する継続回数の遊技回の消化が完了することで、図174(d)に示すように第3時短状態ST3の第2段階が終了して第3段階となる。第3段階は第3時短状態ST3の最終遊技回である。この場合、当該最終遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生しない。t7のタイミング～t8のタイミングにおける最終遊技回では、図174(e)に示すように非潜伏対応の演出の実行態様で遊技回用の演出が実行される。当該最終遊技回は、遊技回の変動表示期間が当否判定処理の結果に関係なく30秒以上となるため、第3時短状態ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出を実行するための期間を十分に確保することが可能となる。

【1933】

次に、第1時短状態ST1において第3時短状態ST3の潜伏が発生する場合について説明する。

【1934】

t9のタイミングで、5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了することで図174(a)に示すように第1時短状態ST1が開始される。この場合、図174(c)に示すように第1時短状態ST1の第1段階となるため、各遊技回では第1段階に対応する態様で演出が実行される。その後、t10のタイミングで第1時短状態ST1における第1段階に対応する継続回数の遊技回の消化が完了することで、図174(c)及び図174(d)に示すように第1時短状態ST1の第1段階が終了して第2段階となる。この場合、各遊技回では第2段階に対応する態様で演出が実行される。

【1935】

その後、t11のタイミングで時短結果に対応する遊技回が終了することで、図174(a)及び図174(b)に示すように第1時短状態ST1において第3時短状態ST3が潜伏した状態となる。この場合、各遊技回では第2段階に対応する演出が実行されるとともに、第1時短状態カウンタ372及び第3時短状態カウンタ374の両方の減算が行われる。

【1936】

その後、t12のタイミングで第1時短状態ST1における第2段階に対応する継続回数の遊技回の消化が完了することで、図174(d)に示すように第1時短状態ST1の

10

20

30

40

50

第2段階が終了して第3段階となる。第3段階は第1時短状態ST1の最終遊技回である。この場合、第3時短状態ST3が潜伏しており、さらに当該最終遊技回において大当たり結果及び時短結果が発生しない。したがって、t12のタイミング～t13のタイミングにおける最終遊技回では、図174(f)に示すように潜伏対応の演出の実行態様で遊技回用の演出が実行される。当該最終遊技回は、遊技回の変動表示期間が当否判定処理の結果に関係なく30秒以上となるため、第1時短状態ST1の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出及び潜伏していた第3時短状態ST3が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出を実行するための期間を十分に確保することが可能となる。また、この第3時短状態ST3が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出においては、当該第3時短状態ST3の残りの継続回数の情報、すなわち第3時短状態カウンタ374にその時点で記憶されている値を示す情報が報知される。

10

【1937】

t13のタイミングで、図174(a)に示すように第1時短状態ST1が終了して、図174(b)に示すように第3時短状態ST3が実行対象となる。この場合、時短進行用処理(図170)では潜伏していた第3時短状態ST3を実行対象とするための処理が実行された場合に時短継続カウンタ375を「0」クリアする処理(ステップSB413、ステップSB421)が実行されるとともに、変動表示期間の特定処理(図172)では時短継続カウンタ375の値に応じて時短状態ST1～ST3の第1段階及び第2段階のいずれに対応しているのかが特定されるため、潜伏していた第3時短状態ST3の残りの継続回数が1回である場合を除き、潜伏していた第3時短状態ST3の残りの継続回数に関係なく当該潜伏していた第3時短状態ST3が開始された場合には第1段階となる。したがって、t13のタイミングでは図174(c)に示すように第3時短状態ST3の第1段階となり、各遊技回では第1段階に対応する態様で演出が実行される。

20

【1938】

t13のタイミングで実行対象となった第3時短状態ST3の残りの継続回数は第1段階の継続回数以下である17回である。したがって、t13のタイミングで「0」クリアされた時短継続カウンタ375の値が第2段階に対応する値となる前に、t14のタイミングで第3時短状態ST3の最終遊技回が開始される。t13のタイミング～t14のタイミングにおける最終遊技回では、図174(e)に示すように非潜伏対応の演出の実行態様で遊技回用の演出が実行される。当該最終遊技回は、遊技回の変動表示期間が当否判定処理の結果に関係なく30秒以上となるため、第3時短状態ST3の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出を実行するための期間を十分に確保することが可能となる。

30

【1939】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【1940】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、第3時短状態ST3が潜伏した状態となる。そして、第3時短状態ST3が潜伏している状況において現状の時短状態ST1、ST2が終了した場合には、その潜伏している第3時短状態ST3が実行対象となる。これにより、時短状態ST1～ST3の実行態様を多様化させることが可能となるとともに、時短状態ST1～ST3が長く継続し得るようにすることが可能となる。

40

【1941】

時短状態ST1、ST2であるとともに第3時短状態ST3が潜伏している状況において遊技回が実行された場合には、第3時短状態カウンタ374の値が1減算されることで、潜伏している第3時短状態ST3の残りの継続回数が減少する。そして、第3時短状態ST3が潜伏している状況において1減算後の第3時短状態カウンタ374の値が「0」となった場合には、当該潜伏している第3時短状態ST3は実行対象に設定されることなく終了する。これにより、第3時短状態ST3が潜伏している場合に遊技回が実行される度に当該第3時短状態ST3の終了契機が発生する側へと徐々に近づくことが可能とな

50

るとともに、潜伏している第3時短状態ST3が実行対象に設定されことなく終了する状況が発生させることが可能となる。

【1942】

第3時短状態ST3が潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1，ST2が終了した場合には、その時点における第3時短状態カウンタ374の値がその後に実行対象となる第3時短状態ST3の残りの継続回数となる。これにより、潜伏していた第3時短状態ST3が実行対象となった場合には、当該第3時短状態ST3が潜伏してから実行対象となるまでに要した遊技回の回数に応じた途中の継続回数から当該第3時短状態ST3を開始させることが可能となる。

【1943】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2が実行対象であって第3時短状態ST3が潜伏している状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされることにより、潜伏中である第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化される。これにより、第3時短状態ST3が潜伏している状況において発生した時短結果が無駄になってしまわないようにすることが可能となる。

【1944】

第3時短状態ST3である状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされることにより、実行対象である第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化される。これにより、第3時短状態ST3が実行対象である状況において発生した時短結果が無駄になってしまわないようにすることが可能となる。

【1945】

第3時短状態ST3において天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第2時短状態ST2が潜伏するのではなく、第3時短状態ST3が途中で潜伏して第2時短状態ST2が開始される。これにより、第2時短状態ST2を第3時短状態ST3よりも優先させることが可能となる。

【1946】

第3時短状態ST3が潜伏している状況における時短状態ST1，ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第3時短状態ST3が複数潜伏するのではなく、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされることによって潜伏中の第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化される。これにより、潜伏中となっている時短状態ST3の内容を遊技者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【1947】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において時短結果に対応する遊技回が実行されることで第3時短状態ST3が潜伏する場合には、当該遊技回における図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果として潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）が表示される。これにより、遊技回用演出の停止結果を利用して第3時短状態ST3が潜伏したことを遊技者に認識させることが可能となる。

【1948】

第3時短状態ST3が潜伏している状況における時短状態ST1，ST2において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、当該遊技回における図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果として潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）が表示される。これにより、第3時短状態カウンタ374に第3時短状態ST3の継続回数が再セットされることによって潜伏中の第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化されたことを、遊技回用演出の停止結果を利用して遊技者に認識させることが可能となる。

【1949】

実行対象の時短状態ST1，ST2が終了して潜伏中の第3時短状態ST3が実行対象

10

20

30

40

50

となった場合には、時短継続カウンタ 375 の値が「0」クリアされる。主側 MPU 82 における変動表示期間の特定処理（図 172）では時短継続カウンタ 375 の値に対応する遊技回期間テーブル 313～315 を主側 ROM 83 から読み出して、遊技回の変動表示期間を選択するが、時短継続カウンタ 375 の値が「0」である場合には時短結果に対応する遊技回が実行されてそのまま第 3 時短状態 ST3 が開始される場合と同様に第 1 段階時短用の遊技回期間テーブル 313 が参照される。これにより、潜伏中の第 3 時短状態 ST3 が実行対象となることで、残りの継続回数が第 3 時短状態 ST3 の継続回数よりも少ない状況で第 3 時短状態 ST3 が開始される場合であっても、当該第 3 時短状態 ST3 が開始された場合における遊技回用演出の演出内容の決定態様を、潜伏することなく第 3 時短状態 ST3 が開始された場合と同様の決定態様とすることが可能となる。

10

【1950】

第 3 時短状態 ST3 が潜伏している状況における時短状態 ST1，ST2 の最後の遊技回では、大当たり結果及び時短結果の両方が発生しないことを条件として、潜伏時の最終遊技回用の決定処理が実行される。潜伏時の最終遊技回用の決定処理では、変動用コマンドに含まれている遊技回の変動表示期間の情報に対応する態様であって第 3 段階に対応する態様で演出の実行内容を決定する。この場合に決定される演出の実行内容には現状の時短状態 ST1～ST3 の最終遊技回であることを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれるとともに潜伏していた第 3 時短状態 ST3 が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容が含まれる。また、この第 3 時短状態 ST3 が開始されることを遊技者に認識可能とさせる内容の演出においては、当該第 3 時短状態 ST3 の残りの継続回数の情報、すなわち第 3 時短状態カウンタ 374 にその時点で記憶されている値を示す情報が報知される。これにより、第 3 時短状態 ST3 の残りの継続回数を遊技者に認識させることが可能となる。

20

【1951】

時短状態 ST1，ST2 の最後の遊技回では、第 3 時短状態 ST3 が潜伏している状況であるか否かに関係なく遊技回の変動表示期間として時短状態 ST1，ST2 における他の遊技回よりも長い期間が選択され易い。これにより、第 3 時短状態 ST3 が潜伏している状況における時短状態 ST1，ST2 の最後の遊技回において、潜伏していた第 3 時短状態 ST3 が開始されることを遊技者に認識可能とさせる演出を実行するために十分な期間を確保することが可能となる。また、時短状態 ST1，ST2 の最後の遊技回において変動表示期間を決定する場合に第 3 時短状態 ST3 が潜伏しているか否かによってその決定態様を変更する必要が生じないため、遊技回の変動表示期間を決定するための処理負荷を軽減しながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

30

【1952】

第 3 時短状態 ST3 が潜伏している状況における時短状態 ST1，ST2 の最後の遊技回であったとしても当該最後の遊技回が大当たり結果又は時短結果に対応している場合には、潜伏していた第 3 時短状態 ST3 が開始されることを遊技者に認識可能とさせる演出が実行されない。これにより、大当たり結果又は時短結果に対応する遊技回用演出に遊技者の注目を向けさせることが可能となる。

【1953】

40

<第 19 の実施形態の別形態>

(1) 第 3 時短状態 ST3 の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には当該第 3 時短状態 ST3 が潜伏するのではなく終了して第 2 時短状態 ST2 が新たに開始される構成としてもよい。第 2 時短状態 ST2 は継続回数が 150 回であり、第 3 時短状態 ST3 は継続回数が 50 回であるため、第 3 時短状態 ST3 の途中で第 2 時短状態 ST2 が開始された場合には当該第 2 時短状態 ST2 の途中で潜伏中の第 3 時短状態 ST3 の残りの継続回数が 0 回となる。したがって、第 2 時短状態 ST2 が新たに開始された場合には第 3 時短状態 ST3 を終了させたとしても、遊技状態の移行態様としては何ら影響が生じない。

【1954】

50

(2) 第3時短状態ST3の継続回数の方が第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。この場合、上記第19の実施形態のように第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第3時短状態ST3が潜伏中となり第2時短状態ST2となるようにすることで、当該第2時短状態ST2が終了した場合に未だ第3時短状態ST3の残りの継続回数が1以上である状況が生じ得ることとなる。よって、第2時短状態ST2が終了した場合に潜伏中の第3時短状態ST3が再度実行対象となり得るようにすることが可能となる。

【1955】

(3) 第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、当該第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化される構成としたが、これに限定されることはなく、第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には当該時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

10

【1956】

(4) 第3時短状態ST3の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合であっても第3時短状態ST3が潜伏する構成としてもよい。この場合、第3時短状態ST3が終了した場合にそれに続けて潜伏中の第3時短状態ST3が開始される状況が生じ得るようにすることが可能となる。

【1957】

(5) 主側MPU82における変動表示期間の特定処理(図172)では時短状態ST1, ST2の最後の遊技回が終了した場合に第3時短状態ST3が潜伏中となっている状況であるか否かに応じて当該最後の遊技回の変動表示期間の選択態様を異ならせる構成としてもよい。例えば、時短状態ST1, ST2の最後の遊技回が終了した場合に第3時短状態ST3が潜伏中となっている状況である場合には第3時短状態ST3が潜伏中となっていない状況である場合よりも当該最後の遊技回の変動表示期間が長くなる又は長くなり易い構成としてもよい。この場合、当該最後の遊技回において第3時短状態ST3が潜伏中であることに対応する演出を実行するための期間を長く確保することが可能となる。また、時短状態ST1, ST2の最後の遊技回が終了した場合に第3時短状態ST3が潜伏中となっている状況である場合には第3時短状態ST3が潜伏中となっていない状況である場合よりも当該最後の遊技回の変動表示期間が短くなる又は短くなり易い構成としてもよい。この場合、当該最後の遊技回を早く終了させて、潜伏中の第3時短状態ST3を早期に開始させることが可能となる。

20

30

【1958】

(6) 第3時短状態ST3が潜伏中である状況における時短状態ST1, ST2の最後の遊技回では、当該時短状態ST1, ST2に続いて開始される第3時短状態ST3が第1段階の途中で最後の遊技回となるのであればそれを遊技者に認識可能とさせる報知が実行され、当該時短状態ST1, ST2に続いて開始される第3時短状態ST3が第2段階の途中で最後の遊技回となるのであればそれを遊技者に認識可能とさせる報知が実行される構成としてもよい。これにより、第3時短状態ST3の演出の実行態様が通常遊技状態において時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態ST3に移行した場合の実行態様と異なるとしても遊技者に違和感を与えないようにすることが可能となる。

40

【1959】

(7) 潜伏中であつた第3時短状態ST3が遊技状態の実行対象となった場合であってもその最後の遊技回では第3段階時短用の遊技回期間テーブル315が主側ROM83から読み出されて遊技回の変動表示期間が選択される構成としたが、これに限定されることはなく、潜伏中であつた第3時短状態ST3が遊技状態の実行対象となった場合には最後の遊技回であっても当該第3時短状態ST3において実行された遊技回の回数に応じた段階に対応する遊技回期間テーブル313, 314が主側ROM83から読み出されて遊技回の変動表示期間が選択される構成としてもよい。

【1960】

50

＜第20の実施形態＞

本実施形態では時短状態ST1～ST3の実行態様が上記第15の実施形態と相違している。以下、上記第15の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第15の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【1961】

図175は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【1962】

主側RAM84には上記第15の実施形態と同様に高確率フラグ321、天井カウンタ325及び状態継続カウンタ327が設けられている。また、主側RAM84には第1時短状態フラグ322、第2時短状態フラグ323、第3時短状態フラグ324及び状態判定用カウンタ326に代えて、時短対象カウンタ381、第2時短待機カウンタ382、第3時短待機カウンタ383及び第2時短優先フラグ384が設けられている。

【1963】

時短対象カウンタ381は実行対象となっている時短状態ST1～ST3の種類を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。高確率フラグ321が「1」である場合、時短対象カウンタ381の値に関係なく高確率状態に対応している。高確率フラグ321の値が「0」であって時短対象カウンタ381の値が「0」である場合、通常遊技状態に対応している。時短対象カウンタ381の値が「1」である場合、第1時短状態ST1に対応している。時短対象カウンタ381の値が「2」である場合、第2時短状態ST2に対応している。時短対象カウンタ381の値が「3」である場合、第3時短状態ST3に対応している。

【1964】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合又は時短対象カウンタ381の値が「1」である場合、すなわち高確率状態又は第1時短状態ST1である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップS406）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1965】

時短対象カウンタ381の値が「2」又は「3」である場合、すなわち第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【1966】

高確率フラグ321の値が「0」であって時短対象カウンタ381の値が「0」である場合、すなわち通常遊技状態である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の長期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS413）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS506～ステップS508が実行されることにより当該普電開放状態は低期待度モードとなる。なお、上記第1～第19の実施形態と同様に開閉実行モードにおいては当該開閉実行モードが開始される前の遊技状態に関係なく、通

10

20

30

40

50

常遊技状態と同じ態様で、普図当否判定処理（ステップ S 4 0 7）、普図表示部 3 8 a の変動表示及び普電開放状態の実行制御が行われる。

【1 9 6 7】

第 2 時短待機カウンタ 3 8 2 は、第 3 時短状態 S T 3 において天井回数（具体的には 9 0 0 回）の遊技回の消化が完了したことで第 2 時短状態 S T 2 が実行対象となることを待機させて当該第 2 時短状態 S T 2 を潜伏させる場合に、当該第 2 時短状態 S T 2 の継続回数の情報がセットされるカウンタである。第 3 時短待機カウンタ 3 8 3 は、第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 において時短結果に対応する遊技回が実行されたことで第 3 時短状態 S T 3 が実行対象となることを待機させて当該第 3 時短状態 S T 3 を潜伏させる場合に、当該第 3 時短状態 S T 3 の継続回数の情報がセットされるカウンタである。

10

【1 9 6 8】

なお、本実施形態では上記第 1 5 の実施形態と同様に大当たり結果を契機とした開閉実行モードが実行されることによって時短状態 S T 1 ～S T 3 は強制的に終了される。したがって、第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～S T 3 のいずれかの途中で第 1 時短状態 S T 1 の開始契機が発生することはない。また、5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードが終了した場合に開始される第 1 時短状態 S T 1 の継続回数は 1 0 0 回であり、当該開閉実行モードが実行される場合に当該継続回数よりも多い回数である天井回数（具体的には 9 0 0 回）が設定される。したがって、第 1 時短状態 S T 1 の途中で第 2 時短状態 S T 2 の開始契機が発生することはない。また、天井回数の遊技回の消化が完了して第 2 時短状態 S T 2 が一旦発生した場合には、その後大当たり結果を契機とした開閉実行モードの発生時又は動作電力の供給開始時における天井カウンタ 3 2 5 への天井回数のセットが行われな限り、第 2 時短状態 S T 2 の開始契機は発生しない。したがって、第 2 時短状態 S T 2 の途中で第 2 時短状態 S T 2 の開始契機が発生することはない。

20

【1 9 6 9】

第 2 時短待機カウンタ 3 8 2 にセットされた継続回数の情報及び第 3 時短待機カウンタ 3 8 3 にセットされた継続回数の情報は、現状の時短状態 S T 1 ～S T 3 において遊技回が実行される度に 1 減算される。そして、第 2 時短待機カウンタ 3 8 2 に 1 以上の継続回数の情報が記憶されている状況において、それまで実行対象だった他の時短状態 S T 3 が終了した場合にはその時点における第 2 時短待機カウンタ 3 8 2 に記憶されている残りの継続回数に亘って第 2 時短状態 S T 2 が実行される。また、第 3 時短待機カウンタ 3 8 3 に 1 以上の継続回数の情報が記憶されている状況において、それまで実行対象だった他の時短状態 S T 1 ～S T 3 が終了した場合にはその時点における第 3 時短待機カウンタ 3 8 3 に記憶されている残りの継続回数に亘って第 3 時短状態 S T 3 が実行される。

30

【1 9 7 0】

第 2 時短優先フラグ 3 8 4 は、第 2 時短待機カウンタ 3 8 2 及び第 3 時短待機カウンタ 3 8 3 の両方が 1 以上であり第 2 時短状態 S T 2 及び第 3 時短状態 S T 3 の両方が潜伏している状況において実行対象となっていた第 3 時短状態 S T 3 が終了した場合に、その潜伏している第 2 時短状態 S T 2 及び第 3 時短状態 S T 3 のいずれを先に実行対象とするのかを主側 M P U 8 2 にて特定するためのフラグである。第 2 時短優先フラグ 3 8 4 に「1」がセットされている場合には第 2 時短状態 S T 2 が先に実行対象となり、第 2 時短優先フラグ 3 8 4 に「1」がセットされていない場合には第 3 時短状態 S T 3 が先に実行対象となる。

40

【1 9 7 1】

図 1 7 6 は主側 M P U 8 2 にて実行される本実施形態における特電終了処理を示すフローチャートである。

【1 9 7 2】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップ S B 7 0 1：Y E S）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が 5 R 高確結果又は 1 0 R 高確結果である場合には（ステップ S B 7 0 2：Y E S）、高確率フラグ 3 2 1 に「1」をセットするとともに（ステップ S B 7 0 3）、各時短待機

50

カウンタ382, 383を「0」クリアする(ステップSB704)。また、状態継続カウンタ327に高確率状態の継続回数である「100」をセットする(ステップSB705)。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、高確率モードであって第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。

【1973】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R低確結果である場合には(ステップSB702:NO)、高確率フラグ321を「0」クリアし(ステップSB706)、時短対象カウンタ381に「1」をセットする(ステップSB707)。また、状態継続カウンタ327に第1時短状態ST1の継続回数である「100」をセットするとともに、各時短待機カウンタ382, 383を「0」クリアする(ステップSB708)。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第1高頻度サポートモードである第1時短状態ST1となる。また、各時短待機カウンタ382, 383が「0」クリアされることにより、開閉実行モードが開始される前に第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の少なくとも一方が潜伏していたとしても、開閉実行モードの終了後において第1時短状態ST1が開始される場合にはその潜伏していた時短状態ST2, ST3は実行対象となることなく終了する。

【1974】

ステップSB705又はステップSB708の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する(ステップSB709)。当該送信処理では、遊技状態が高確率状態に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し、遊技状態が第1時短状態ST1に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、主側RAM84における大当たり終了時の外端フラグに「1」をセットし(ステップSB710)、特図特電カウンタを「0」クリアする(ステップSB711)。

【1975】

図177は特図確定中処理(図128)のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【1976】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合(ステップSB801:YES)、すなわち高確率状態である場合、ステップSB802以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。上記第15の実施形態と同様に高確率状態である状況において実行された遊技回においては天井カウンタ325の値の減算が実行されることはなく、天井カウンタ325の値の減算が実行されないことで第2時短状態ST2が発生することもない。

【1977】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合(ステップSB801:NO)、すなわち遊技状態が通常遊技状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のいずれかである場合、天井カウンタ325の値が1以上であることを条件として(ステップSB802:YES)、当該天井カウンタ325の値を1減算する(ステップSB803)。そして、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」である場合(ステップSB804:YES)、時短対象カウンタ381の値が1以上であるか否かを判定する(ステップSB805)。天井回数の遊技回の消化が完了する状況は通常遊技状態又は第3時短状態ST3において発生する。したがって、ステップSB805では現状の遊技状態が第3時短状態ST3であるか否かを判定していることになる。

【1978】

ステップSB805にて否定判定をした場合、時短対象カウンタ371に「2」をセットするとともに(ステップSB806)、状態継続カウンタ327に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットする(ステップSB807)。これにより、低確率

10

20

30

40

50

モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSB808）、第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB809）。

【1979】

ステップSB805にて肯定判定をした場合、すなわち現状の遊技状態が第3時短状態ST3である場合、第2時短待機カウンタ382に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットする（ステップSB811）。これにより、第3時短状態ST3が実行対象となっている状況において第2時短状態ST2が潜伏している状態となる。

【1980】

その後、第3時短待機カウンタ383の値が1以上であるか否かを判定することで、第3時短状態ST3が実行対象となっている状況において既に次の第3時短状態ST3が潜伏しているか否かを判定する（ステップSB812）。ステップSB812にて否定判定をした場合、第3時短状態ST3が実行対象となっている状況において次の第3時短状態ST3が潜伏していない状態であることを意味するため、第2時短優先フラグ384に「1」をセットする（ステップSB813）。一方、ステップSB812にて肯定判定をした場合、第3時短状態ST3が実行対象となっている状況において次の第3時短状態ST3が既に潜伏している状態であることを意味するため、ステップSB813の処理を実行しない。この場合、第2時短優先フラグ384の値は「0」に維持される。

【1981】

ステップSB812にて肯定判定をした場合又はステップSB813の処理を実行した場合、第2時短状態ST2の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB809）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第2時短状態ST2の潜伏が発生したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第2時短状態ST2が実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【1982】

図178は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【1983】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップSB901：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSB902）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSB902：YES）、ステップSB903以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【1984】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSB902：NO）、時短対象カウンタ381の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかであるか否かを判定する（ステップSB903）。時短対象カウンタ381の値が「0」である場合（ステップSB903：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ381に「3」をセットし（ステップSB904）、状態継続カウンタ327に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットし（ステップSB905）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSB906）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行する。

【1985】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行したことを示す状態指定コマンド

10

20

30

40

50

を音光側MPU93に送信する（ステップSB907）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3に移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【1986】

時短対象カウンタ381の値が1以上である場合（ステップSB903：YES）、第3時短待機カウンタ384に第3時短状態ST3の継続回数である「50」をセットする（ステップSB908）。これにより、現状が第3時短状態ST3の潜伏中ではない場合には第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかが実行対象となっている状況において第3時短状態ST3が潜伏している状態となり、現状が第3時短状態ST3の潜伏中である場合には潜伏中の第3時短状態ST3の継続回数が再セットされることになる。

10

【1987】

その後、第1～第3時短状態ST1～ST3がいずれかが実行対象となっている状況において第3時短状態ST3が潜伏している状態となったこと又は潜伏中の第3時短状態ST3の継続回数が再セットされたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSB907）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第1～第3時短状態ST1～ST3がいずれかが実行対象となっている状況において第3時短状態ST3が潜伏している状態となったことを示す演出又は潜伏中の第3時短状態ST3の継続回数が再セットされたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

20

【1988】

第1～第3時短状態ST1～ST3がいずれかが実行対象となっている状況において時短結果に対応する遊技回が実行されて第3時短状態ST3が潜伏している状態となった場合又は潜伏中の第3時短状態ST3の継続回数が再セットされた場合には主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする処理（ステップSB906）が実行されないため、この状況において第2大当たり信号の出力状態はLOWレベルに維持される。但し、これに限定されることはなく、この状況において第2大当たり信号の出力状態がON継続期間に亘ってHIレベルとなる構成としてもよい。

【1989】

なお、本実施形態であっても上記第19の実施形態と同様に、時短結果に対応する遊技回を契機として第3時短状態ST3が実行対象となる場合には当該遊技回において図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。また、時短結果に対応する遊技回を契機として第3時短状態ST3が潜伏中となる場合又は潜伏中の第3時短状態ST3の継続回数が再セットされる場合、当該遊技回において図柄列Z1～Z3のいずれかの有効ラインL1～L5に潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）が停止表示されるとともに状態示唆領域43には赤色が停止表示される。また、高確率状態であり時短結果が無効化される場合には当該時短結果に対応する遊技回において図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せとは、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せのことである。状態示唆領域43には青色が停止表示される。上記非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。

30

40

【1990】

図179は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【1991】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSC101）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSC10

50

1: YES)、ステップSC102以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【1992】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ381の値が1以上である場合(ステップSC101:NO、ステップSC102:YES)、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかである場合、状態継続カウンタ327の減算処理(ステップSC103)、第2時短待機カウンタ382の減算処理(ステップSC104)、及び第3時短待機カウンタ383の減算処理(ステップSC105)を実行する。状態継続カウンタ327の減算処理では、状態継続カウンタ327の値を1減算する。

10

【1993】

第2時短待機カウンタ382の減算処理では、第2時短待機カウンタ382の値が1以上であることを条件として第2時短待機カウンタ382の値を1減算する。また、1減算後における第2時短待機カウンタ382の値が「0」となった場合には第2時短優先フラグ384を「0」クリアする。但し、本実施形態では第2時短状態ST2は第3時短状態ST3においてのみ潜伏し得るとともに、第2時短状態ST2の継続回数が150回であって第3時短状態ST3の継続回数が50回であるため、仮に第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏している状況において実行対象となっている第3時短状態ST3が終了し潜伏中の第3時短状態ST3が先に実行対象となったとしても当該第3時短状態ST3が終了した場合に第2時短待機カウンタ382の値が50以上となっている。

20

【1994】

第3時短待機カウンタ383の減算処理では、第3時短待機カウンタ383の値が1以上であることを条件として第3時短待機カウンタ383の値を1減算する。また、1減算後における第3時短待機カウンタ383の値が「0」となった場合であって第2時短待機カウンタ382の値が1以上である場合、第2時短優先フラグ384に「1」をセットする。

【1995】

ここで、時短状態ST1～ST3においてステップSC104及びステップSC105の処理が実行されるため、第2時短状態ST2が潜伏中である場合には実行対象となっている第3時短状態ST3において1回の遊技回が実行された場合に状態継続カウンタ327の値が1減算されるだけでなく、第2時短待機カウンタ382の値が1減算される。また、第3時短状態ST3が潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態ST1～ST3において1回の遊技回が実行された場合に状態継続カウンタ327の値が1減算されるだけでなく、第3時短待機カウンタ383の値が1減算される。また、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏中である場合には実行対象となっている第3時短状態ST3において1回の遊技回が実行された場合に状態継続カウンタ327の値が1減算されるだけでなく、第2時短待機カウンタ382の値が1減算されるとともに第3時短待機カウンタ383の値が1減算される。したがって、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3のうち少なくとも一方が潜伏している場合には、1回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態ST1～ST3の残りの継続回数が1減算されるだけでなく、潜伏している時短状態ST2、ST3の残りの継続回数も1減算されることになる。

30

40

【1996】

第2時短状態ST2は継続回数が150回であるのに対して第3時短状態ST3は継続回数が50回であるため、第3時短状態ST3の途中で第2時短状態ST2が潜伏した場合には、実行対象の第3時短状態ST3が終了した場合に潜伏中の第3時短状態ST3が先に実行対象となったとしても、第2時短待機カウンタ382の値が1以上である状況で

50

実行対象となっている第3時短状態ST3が終了して潜伏中の第2時短状態ST2が実行対象となる状況が発生する。この第2時短状態ST2は、第2時短待機カウンタ382に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。

【1997】

第3時短状態ST3は継続回数が50回であるのに対して第1時短状態ST1は継続回数が100回であり第2時短状態ST2は継続回数が150回であるため、第3時短状態ST3が潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST3が終了した場合に第3時短待機カウンタ383の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST3に続けて第3時短状態ST3が第3時短待機カウンタ383に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST3の途中で第3時短待機カウンタ383の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST3が実行対象となることなく終了する状況が生じる。

10

【1998】

その後、状態継続カウンタ327の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST3が終了したか否かを判定する（ステップSC106）。状態継続カウンタ327の値が「0」である場合（ステップSC106：YES）、第3時短待機カウンタ383の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSC107）。第3時短待機カウンタ383の値が1以上である場合（ステップSC107：YES）、第3時短状態ST3が潜伏中であることを意味する。この場合、第2時短優先フラグ384に「1」がセットされているか否かを判定することで、潜伏中の第3時短状態ST3よりも先に第2時短状態ST2が潜伏状態となっているか否かを判定する（ステップSC108）。

20

【1999】

第2時短優先フラグ384に「1」がセットされていない場合（ステップSC108：NO）、第2時短状態ST2が潜伏していない、又は第2時短状態ST2が潜伏しているとしてもその第2時短状態ST2の潜伏は第3時短状態ST3の潜伏よりも後のタイミングで発生したことを意味する。この場合、時短対象カウンタ381に「3」をセットし（ステップSC109）、第3時短待機カウンタ383の値を状態継続カウンタ327にセットする（ステップSC110）。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3が実行対象となり、当該第3時短状態ST3は第3時短待機カウンタ383に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。また、第3時短移行時のクリア処理を実行する（ステップSC111）。当該クリア処理では、第3時短待機カウンタ383の値を「0」クリアする。また、第2時短待機カウンタ382の値が1以上である場合には、第2時短優先フラグ384に「1」をセットする。

30

【2000】

その後、潜伏中であった第3時短状態ST3が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSC118）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1～ST3が終了して、潜伏していた第3時短状態ST3が開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

40

【2001】

第3時短待機カウンタ383の値が「0」である場合（ステップSC107：NO）、第2時短待機カウンタ382の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSC112）。第2時短待機カウンタ382の値が1以上である場合（ステップSC112：YES）、第2時短状態ST2が潜伏中であることを意味する。また、ステップSC108にて肯定判定をした場合、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3が潜伏中であって、第2時短状態ST2が先に実行対象となることを意味する。

【2002】

これらの場合、時短対象カウンタ381に「2」をセットし（ステップSC113）、第2時短待機カウンタ382の値を状態継続カウンタ327にセットする（ステップSC

50

114)。これにより、潜伏中の第2時短状態ST2が実行対象となり、当該第2時短状態ST2は第2時短待機カウンタ384に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。また、第2時短移行時のクリア処理を実行する（ステップSC115）。当該クリア処理では、第2時短待機カウンタ382の値を「0」クリアする。また、第2時短優先フラグ384を「0」クリアする。

【2003】

その後、潜伏中であった第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSC118）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった第3時短状態ST3が終了して、潜伏していた第2時短状態ST2が開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

10

【2004】

第3時短待機カウンタ383の値が「0」であって第2時短待機カウンタ382の値が「0」である場合（ステップSC107及びステップSC112：NO）、時短対象カウンタ381を「0」クリアする（ステップSC116）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSC117）、時短状態ST1～ST3が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSC118）。

【2005】

上記構成であることにより第3時短状態ST3において天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第2時短状態ST2が潜伏した状態となる。また、第1～第3時短状態ST1～ST3のいずれかにおいて時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3が潜伏した状態となる。そして、実行対象となった時短状態ST1～ST3が終了した場合には潜伏している時短状態ST2、ST3が新たに実行対象となる。これにより、時短状態ST1～ST3の途中で時短状態ST1～ST3の新たな付与契機が発生した場合に当該付与契機が無効化されないようにすることが可能となり、時短状態ST1～ST3が付与される機会を多くすることが可能となる。

20

【2006】

時短状態ST2、ST3が潜伏している状況において遊技回が消化された場合には、実行対象となっている時短状態ST1～ST3の残りの継続回数が1減算されるだけではなく、潜伏中の時短状態ST2、ST3の残りの継続回数も1減算される。これにより、上記のように時短状態ST1～ST3が付与される機会を多くした構成であっても、時短状態ST1～ST3である期間が過剰に長く継続してしまわないようにすることが可能となる。

30

【2007】

第3時短状態ST3においては第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏し得る。これにより、時短状態ST2、ST3の潜伏の態様を多様化させることが可能となる。また、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏している場合には、先に潜伏した側の時短状態ST2、ST3から開始対象となるため、潜伏中の時短状態ST2、ST3の開始順序が遊技者にとって明確なものとなる。

40

【2008】

＜第20の実施形態の別形態＞

（1）第3時短状態ST3が潜伏している状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合、潜伏中の第3時短状態ST3の残りの継続回数が当該第3時短状態ST3の継続回数に初期化される構成に限定されることはなく、第3時短状態ST3が潜伏している状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には当該時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【2009】

（2）第3時短状態ST3が潜伏している状況において天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏している状況とな

50

り、その後に時短結果に対応する遊技回が実行されて潜伏中の第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化されたとしても、実行対象の時短状態ST1、ST3が終了した場合には潜伏中の第3時短状態ST3から先に実行対象となる構成としたが、これに限定されない。例えば、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3の両方が潜伏している状況において時短結果に対応する遊技回が実行されて潜伏中の第3時短状態ST3の残りの継続回数が第3時短状態ST3の継続回数に初期化された場合には、潜伏中の第3時短状態ST3の方が潜伏中の第2時短状態ST2よりも先に潜伏している状態となっていたとしても、実行対象の時短状態ST1、ST3が終了した場合には潜伏中の第2時短状態ST2から先に実行対象となる構成としてもよい。

【2010】

＜第21の実施形態＞

本実施形態では第3時短状態の種類が上記第19の実施形態と相違しているとともに時短状態の実行態様が上記第19の実施形態と相違している。以下、上記第19の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第19の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2011】

図180は、本実施形態に設定されている時短状態の内容を説明するための説明図である。

【2012】

本実施形態であっても上記第19の実施形態と同様に遊技状態として、通常遊技状態と、高確率状態と、第1時短状態ST1と、第2時短状態ST2とが存在している。また、第3時短状態として、第3A時短状態ST3Aと、第3B時短状態ST3Bと、第3C時短状態ST3Cとが存在している。通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2の内容は上記第19の実施形態と同一である。なお、以下の説明では便宜上、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cをまとめて第3時短状態ST3A～ST3Bとも表現する。

【2013】

第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cは、上記第19の実施形態における第3時短状態ST3と同様にサポートモードが第2高頻度サポートモードとなる。当該第2高頻度サポートモードでは上記第15の実施形態と同様に、普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。

【2014】

第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cは終了条件が相互に相違している。具体的には、第3A時短状態ST3Aは50回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となり、第3B時短状態ST3Bは100回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となり、第3C時短状態ST3Cは130回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となる。上記のとおり第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cのサポートモードは第2高頻度サポートモードで共通しているため、第3時短状態の中においては継続回数が最も多い第3C時短状態ST3Cが最も有利であり、継続回数が次に多い第3B時短状態ST3Bが次に有利であり、継続回数が最も少ない第3A時短状態ST3Aの有利度が最も低い。なお、第3A～第3C時短状態ST3A～ST3Cは第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2と同様に、大当たり結果を契機とした開閉実行モードが実行される場合に強制的に終了する。

【2015】

第3A時短状態ST3Aは、当否判定処理（ステップS805）にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップS811）にて第1時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。第3B時短状態ST3Bは、当否判定処理（ステップS805）

10

20

30

40

50

にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップ S 8 1 1）にて第 2 時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。第 3 C 時短状態 S T 3 C は、当否判定処理（ステップ S 8 0 5）にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップ S 8 1 1）にて第 3 時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。

【 2 0 1 6 】

なお、これに限定されることはなく、当否判定処理（ステップ S 8 0 5）にて選択され得る遊技結果として時短結果ではなく、第 1 時短結果、第 2 時短結果及び第 3 時短結果が設定されており、当否判定処理において第 1 ～ 第 3 時短結果のいずれかが選択され得る構成としてもよい。この場合、時短用の振分判定処理を実行する必要がなくなる。また、時短用の振分判定処理では種別乱数カウンタ C 2 の値を利用する構成であるが、これに限定されることはなく、時短用の振分判定処理においてのみ利用される抽選用カウンタの値を利用する構成としてもよい。

10

【 2 0 1 7 】

図 1 8 0 （ b ） は時短用の振分判定処理（ステップ S 8 1 1）にて参照される第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 を説明するための説明図であり、図 1 8 0 （ c ） は時短用の振分判定処理（ステップ S 8 1 1）にて参照される第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 を説明するための説明図である。

【 2 0 1 8 】

20

第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 及び第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 のいずれにも、振分対象となる時短結果の種類として、第 1 時短結果、第 2 時短結果及び第 3 時短結果が設定されている。したがって、第 1 作動口 3 3 への遊技球の入球に基づき取得された第 1 保留情報を契機とした遊技回及び第 2 作動口 3 4 への遊技球の入球に基づき取得された第 2 保留情報を契機とした遊技回のいずれであっても、第 1 時短結果、第 2 時短結果及び第 3 時短結果のそれぞれが発生し得る。

【 2 0 1 9 】

第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 では図 1 8 0 （ b ） に示すように、「 0 ～ 9 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 1 時短結果に対応しており、「 1 0 ～ 1 9 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 2 時短結果に対応しており、「 2 0 ～ 2 9 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 3 時短結果に対応している。つまり、第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 が参照される場合には第 1 時短結果、第 2 時短結果及び第 3 時短結果の選択確率が同一となっている。

30

【 2 0 2 0 】

第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 では図 1 8 0 （ c ） に示すように、「 0 ～ 7 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 1 時短結果に対応しており、「 8 ～ 1 5 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 2 時短結果に対応しており、「 1 6 ～ 2 9 」の種別乱数カウンタ C 2 が第 3 時短結果に対応している。つまり、第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 が参照される場合には第 3 時短結果の選択確率が最も高く、第 1 時短結果及び第 2 時短結果のそれぞれの選択確率は第 3 時短結果の選択確率よりも低い確率において同一となっている。既に説明したとおり第 3 時短結果を契機として発生する第 3 C 時短状態 S T 3 C は、第 1 時短結果を契機として発生する第 3 A 時短状態 S T 3 A 及び第 2 時短結果を契機として発生する第 3 B 時短状態 S T 3 B よりも有利である。したがって、第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 が参照される場合の方が第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 が参照される場合よりも、第 3 A ～ 第 3 C 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の選択態様が有利となる。

40

【 2 0 2 1 】

なお、上記構成に限定されることはなく、第 1 保留情報を契機とした遊技回及び第 2 保留情報を契機とした遊技回のいずれであっても第 1 特図用の時短振分テーブル 3 9 1 が参照される構成としてもよく、第 1 保留情報を契機とした遊技回及び第 2 保留情報を契機とした遊技回のいずれであっても第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 が参照される構成としてもよい。また、第 2 特図用の時短振分テーブル 3 9 2 においては第 3 時短結果の選択

50

確率が最も高く設定されている構成に限定されることはなく、第2時短結果の選択確率が最も高く設定されている構成としてもよく、第1時短結果の選択確率が最も高く設定されている構成としてもよく、第1～第3時短結果の選択確率が同一又は略同一である構成としてもよい。

【2022】

図181は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【2023】

主側RAM84には上記第19の実施形態と同様に高確率フラグ321、天井カウンタ325、時短対象カウンタ371及び時短継続カウンタ375が設けられている。また、主側RAM84には第1時短状態カウンタ372、第2時短状態カウンタ373及び第3時短状態カウンタ374に代えて、時短状態カウンタ386及び第3時短待機カウンタ387が設けられている。

【2024】

時短対象カウンタ371は上記第19の実施形態と同様に実行対象となっている時短状態ST1～ST3の種類を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。高確率フラグ321が「1」である場合、時短対象カウンタ371の値に関係なく高確率状態に対応している。高確率フラグ321の値が「0」であって時短対象カウンタ371の値が「0」である場合、通常遊技状態に対応している。時短対象カウンタ371の値が「1」である場合、第1時短状態ST1に対応している。時短対象カウンタ371の値が「2」である場合、第2時短状態ST2に対応している。時短対象カウンタ371の値が「3」である場合、第3時短状態ST3A～ST3Cに対応している。

【2025】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合又は時短対象カウンタ371の値が「1」である場合、すなわち高確率状態又は第1時短状態ST1である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の高確率テーブル（ステップS406）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【2026】

時短対象カウンタ371の値が「2」又は「3」である場合、すなわち第2時短状態ST2、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B又は第3C時短状態ST3Cである場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS414）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【2027】

高確率フラグ321の値が「0」であって時短対象カウンタ371の値が「0」である場合、すなわち通常遊技状態である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の長期間が当該変動表示回の継続期間として選択される（ステップS413）。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS506～ステップS508が実行されることにより当該普電開放状態は低期待度モードとなる。なお、上記第1～第20の実施形態と同様に

開閉実行モードにおいては当該開閉実行モードが開始される前の遊技状態に関係なく、通常遊技状態と同じ態様で、普図当否判定処理（ステップS407）、普図表示部38aの変動表示及び普電開放状態の実行制御が行われる。

【2028】

時短継続カウンタ375は、上記第19の実施形態と同様に第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかが新たに開始されてからその時短状態ST1～ST3Cにおいて実行された遊技回の回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。時短状態ST1～ST3Cにおいては時短継続カウンタ375の値に対応する態様で遊技回の変動表示期間が決定される。また、上記第1の実施形態と同様に遊技回の変動表示期間に応じて、各遊技回において図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行される遊技回用の演出の内容が異なり得るため、時短状態ST1～ST3Cにおいては時短継続カウンタ375の値に対応する態様で遊技回用の演出の実行態様が決定されるとも言える。

10

【2029】

時短状態カウンタ386は実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。第3時短待機カウンタ387は、第1～第3時短状態ST1～ST3Cにおいて時短結果に対応する遊技回が実行されたことで第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となることを待機させて当該第3時短状態ST3A～ST3Cを潜伏させる場合に、当該第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数の情報がセットされるカウンタである。第3時短待機カウンタ387にセットされた継続回数の情報は、現状の時短状態ST1～ST3Cにおいて遊技回が実行される度に1減算される。そして、第3時短待機カウンタ387に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況において、それまで実行対象だった他の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合にはその時点における第3時短待機カウンタ387に記憶されている残りの継続回数に亘って第3時短状態ST3A～ST3Cが実行される。

20

【2030】

図182は主側MPU82にて実行される本実施形態における特電終了処理を示すフローチャートである。

【2031】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合、すなわちエンディング期間が経過している場合（ステップSC201：YES）、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R高確結果又は10R高確結果である場合には（ステップSC202：YES）、高確率フラグ321に「1」をセットするとともに（ステップSC203）、時短対象カウンタ371、時短状態カウンタ386及び第3時短待機カウンタ387を「0」クリアする（ステップSC204）。また、主側RAM84に設けられた高確率状態カウンタに高確率状態の継続回数である「100」をセットする（ステップSC205）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、高確率モードであって第1高頻度サポートモードである高確率状態となる。高確率状態カウンタの値は上記第1の実施形態と同様に高確率状態において遊技回が実行される度に1減算され、1減算後における高確率状態カウンタの値が「0」となった場合には高確率状態を終了させて通常遊技状態に移行させるための処理が実行される。

30

40

【2032】

一方、今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R低確結果である場合には（ステップSC202：NO）、高確率フラグ321を「0」クリアし（ステップSC206）、時短対象カウンタ371に「1」をセットする（ステップSC207）。また、時短状態カウンタ386に第1時短状態ST1の継続回数である「100」をセットするとともに第3時短待機カウンタ387を「0」クリアし、さらに時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSC208）。これにより、開閉実行モードの終了後における遊技状態は、開閉実行モードの開始前における遊技状態に関係なく、低確率モードであって第1高頻度サポートモードである第1時短状態ST1となる。また、開閉実行モード

50

の開始前に第3時短状態ST3A～ST3Bが潜伏していたとしても、第3時短状態ST3A～ST3Bが潜伏していない状態となる。

【2033】

ステップSC205又はステップSC208の処理を実行した場合、状態指定コマンドの送信処理を実行する(ステップSC209)。当該送信処理では、遊技状態が高確率状態に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し、遊技状態が第1時短状態ST1に移行した場合にはそれに対応する状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、主側RAM84における大当たり終了時の外端フラグに「1」をセットし(ステップSC210)、特図特電カウンタを「0」クリアする(ステップSC211)。

10

【2034】

図183は特図確定中処理(図128)のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【2035】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合(ステップSC301: YES)、すなわち高確率状態である場合、ステップSC302以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。上記第19の実施形態と同様に高確率状態である状況において実行された遊技回においては天井カウンタ325の値の減算が実行されることはなく、天井カウンタ325の値の減算が実行されないことで天井時短が発生することもない。

20

【2036】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合(ステップSC301: NO)、すなわち遊技状態が通常遊技状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3A～ST3Cのいずれかである場合、天井カウンタ325の値が1以上であることを条件として(ステップSC302: YES)、当該天井カウンタ325の値を1減算する(ステップSC303)。そして、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」である場合(ステップSC304: YES)、時短対象カウンタ371に「2」をセットし(ステップSC305)、時短状態カウンタ386に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアする(ステップSC306)。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。その後、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし(ステップSC307)、第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSC308)。

30

【2037】

ここで、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて天井回数の遊技回の消化が完了した場合であっても第2時短状態ST2を開始するためのステップSC305～ステップSC308の処理が実行される。この場合、第3時短状態ST3A～ST3Cは潜伏するのではなく途中で終了される。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cよりも第2時短状態ST2の実行を優先させることが可能となる。

【2038】

40

その一方、第2時短状態ST2が開始される場合に第3時短待機カウンタ387は「0」クリアされない。したがって、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況であって第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象である状況において天井回数の遊技回の消化が完了した場合には、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況が維持されたまま第2時短状態ST2が開始される。但し、継続回数はいずれの第3時短状態ST3A～ST3Cよりも第2時短状態ST2の方が多いため、その潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cは実行対象となることなく終了する。なお、これに限定されることはなく、第2時短状態ST2が開始される場合には第3時短待機カウンタ387が「0」クリアされることにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cも終了される構成としてもよい。

50

【2039】

図184は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2040】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSC401：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSC402）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSC402：YES）、ステップSC403以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

10

【2041】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSC402：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかであるか否かを判定する（ステップSC403）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSC403：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSC404）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSC405）、時短状態カウンタ386への設定処理を実行する（ステップSC406）。時短状態カウンタ386への設定処理では、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば時短状態カウンタ386に「50」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば時短状態カウンタ386に「100」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば時短状態カウンタ386に「130」をセットする。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行する。また、ステップSC405にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされることとなるが、時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

20

30

【2042】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSC407）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2043】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSC403：YES）、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であるか否かを判定することで、第3時短状態ST3A～ST3Cが既に潜伏中であるか否かを判定する（ステップSC408）。第3時短待機カウンタ387の値が1以上である場合（ステップSC408：YES）、既に第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であることを意味する。この場合、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。これにより、時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合、既に第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中であれば当該時短結果が無効化される。

40

【2044】

第3時短待機カウンタ387の値が「0」である場合（ステップSC408：NO）、第3時短待機カウンタ387への設定処理を実行する（ステップSC409）。第3時短待機カウンタ387への設定処理では、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば第3時短待機カウンタ387に「50」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第2時短

50

結果であれば第3時短待機カウンタ387に「100」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば第3時短待機カウンタ387に「130」をセットする。これにより、時短状態ST1～ST3Cの途中で第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、第3時短状態ST3A～ST3Cが既に潜伏中ではないことを条件として、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏することとなる。また、この場合に潜伏する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は、当該潜伏の契機となった時短結果の種類に対応する継続回数となる。

【2045】

その後、ステップSC407にて、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者に認識させることが可能となる。

10

【2046】

上記のとおり高確率状態において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には上記第19の実施形態と同様に当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cへの移行及び第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏がいずれも発生することなく、当該時短結果が無効化される。また、既に第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況である時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にも当該時短結果が無効化される。

20

【2047】

一方、通常遊技状態において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3A～ST3Cへの移行が発生し、時短状態ST1～ST3Cであって第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状況において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生する。この場合に、当否判定処理にて時短結果が選択された遊技回において特図表示部37a, 37bに停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定が行われるか否かによって変化しないのに対して、図柄表示装置41に停止表示される停止結果は、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定が行われるか否かによって変化する。この内容について以下に詳細に説明する。

30

【2048】

遊技回の当否判定処理（ステップS805）及び各種振分判定処理（ステップS807、ステップS811）により選択され得る遊技結果として、5R低確結果、5R高確結果、10R高確結果、第1時短結果、第2時短結果、第3時短結果及び外れ結果が存在している。特図表示部37a, 37bにおいて遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、5R低確結果の場合には「1」であり、5R高確結果の場合には「2」であり、10R高確結果の場合には「3」であり、第1時短結果の場合には「4」であり、第2時短結果の場合には「5」であり、第3時短結果の場合には「6」であり、外れ結果の場合には「-」である。これら停止結果はいずれの遊技状況であっても変化しない。したがって、遊技ホールの管理者は特図表示部37a, 37bの停止結果を確認することで、遊技回の遊技結果を一義的に把握することが可能となる。

40

【2049】

図柄表示装置41において遊技回の確定表示として停止表示される停止結果は、大当たり結果である場合及び外れ結果である場合にはいずれの遊技状況であっても変化しないのに対して、第1～第3時短結果である場合には遊技状況によって変化する。かかる内容について図185のフローチャートを参照しながら説明する。図185は音光側MPU93にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側MPU82から変動用コマンド及び種別コマンド

50

を受信した場合に実行される。

【2050】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSC501：YES）、大当たり結果用の停止図柄決定処理を実行し（ステップSC502）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC503）。これら処理の内容は、上記第1の実施形態における変動パターンの決定処理（図28）のステップS1402及びステップS1403と同一である。

【2051】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1～第3時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSC504：YES）、現状の遊技状態が高確率状態であれば（ステップSC505：YES）、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC506）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSC507）。

【2052】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1～第3時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって（ステップSC504：YES）、現状の遊技状態が通常遊技状態である場合（ステップSC508：NO）、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC509）。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「2・3・4」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ（「3・4・5」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC510）。

【2053】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1～第3時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって（ステップSC504：YES）、現状の遊技状態が時短状態ST1～ST3Cである場合（ステップSC508：YES）、今回の遊技回が実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回であって、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生していない状況又は潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が1回である場合に今回の遊技回が開始された状況であるか否かを判定する（ステップSC511）。なお、音光側MPU93は主側MPU82から受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3A～ST3Cのいずれであるのか、及び時短状態ST1～ST3Cにおいて第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であるか否かを特定可能であり、さらに時短状態ST1～ST3Cの開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回であるか否かを特定可能であって、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が1回であるか否かを特定可能である。

【2054】

ステップSC511に肯定判定をした場合、時短状態ST1～ST3Cにおいて今回の遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合には今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始されることを意味する。この場合、既に説明した時短示唆用の停止図柄決定処理を実行するとともに（ステップSC509）、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC510）。

【2055】

ステップSC511にて否定判定をした場合、今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生するか否かを判定する（ステップSC512）。第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生する場合とは、時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回である場合であって当該時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる場合が該当し、また時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回ではない場合であって第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない場合が該当し、また時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回ではない場合であって潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が今回の遊技回が終了する場合に0回となる場合が該当する。

【2056】

ステップSC512にて肯定判定をした場合、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC513）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC514）。

【2057】

ステップSC512にて否定判定をした安倍、今回の第1～第3時短結果は無効化されることになる。したがって、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC506）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では既に説明したとおり、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSC507）。

【2058】

なお、今回の時短結果の種類によってステップSC507において決定される状態示唆領域43の停止結果を変更させてもよい。例えば、今回が第1時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として緑色を選択し、今回が第2時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として黄色を選択し、今回が第3時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として紫色を選択する。これにより、時短結果が無効化される場合であってもその無効化された時短結果の種類を状態示唆領域43の停止結果によって報知することが可能となる。

【2059】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が外れ結果に対応していることを示す情報が設定されている場合（ステップSC504：NO）、外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC515）。外れ用の停止図柄決定処理では、今回受

10

20

30

40

50

信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していることを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 に停止表示させる停止結果として、外れリーチ図柄の組合せを抽選により決定するとともにその決定した外れリーチ図柄の組合せを停止表示させる有効ライン L 1 ~ L 5 を抽選により決定する。また、外れ用の停止図柄決定処理では、今回受信した変動用コマンドに今回開始対象となっている遊技回がリーチ表示の発生に対応していないことを示す変動表示期間の情報が設定されている場合には、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として赤色を選択する（ステップ S C 5 1 6）。

10

【2060】

ステップ S C 5 0 3、ステップ S C 5 0 7、ステップ S C 5 1 0、ステップ S C 5 1 4 又はステップ S C 5 1 6 の処理を実行した場合、パターン決定処理を実行する（ステップ S C 5 1 7）。パターン決定処理では、ステップ S C 5 0 1 ~ ステップ S C 5 1 6 にて決定した停止結果及び今回受信した変動用コマンドに含まれる変動表示期間の情報などに対応する変動パターンを選択し、その選択した変動パターンに対応する変動パターンテーブルを音光側 R O M 9 4 から音光側 R A M 9 5 に読み出す。音光側 M P U 9 3 はその読み出した変動パターンテーブルに従って表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 を制御することにより、これら表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 において今回の遊技回に対応する変動パターンの演出を実行させる。

20

【2061】

その後、ステップ S C 5 1 7 にて決定した変動パターンに対応する変動パターンコマンドを表示側 M P U 1 0 3 に送信する（ステップ S C 5 1 8）。表示側 M P U 1 0 3 はその受信した変動パターンコマンドに対応する表示制御テーブルを表示側 R O M 1 0 4 から表示側 R A M 1 0 5 に読み出す。表示側 M P U 1 0 3 はその読み出した表示制御テーブルに従って図柄表示装置 4 1 を制御することにより、当該図柄表示装置 4 1 において今回の遊技回に対応する変動パターンの表示演出を実行させる。この場合、当該遊技回において図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 に停止表示させる停止結果及び図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 に停止表示させる停止結果は、変動パターンの決定処理（図 1 8 5）におけるステップ S C 5 0 1 ~ ステップ S C 5 1 6 にて決定された停止結果となる。

30

【2062】

上記のとおり通常遊技状態である状況、又は今回の遊技回が実行対象となっている時短状態 S T 1 ~ S T 3 C の最終遊技回であって第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の潜伏が発生していない状況若しくは潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の残りの継続回数が 1 回である場合に今回の遊技回が開始された状況において第 1 ~ 第 3 時短結果となった場合には、図柄列 Z 1 ~ Z 3 のいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 に時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）が停止表示されるとともに状態示唆領域 4 3 には赤色が停止表示される。これにより、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C への移行が発生したことを、図柄表示装置 4 1 の停止結果によって遊技者に認識させることが可能となる。

40

【2063】

時短状態 S T 1 ~ S T 3 C である状況において第 1 ~ 第 3 時短結果となった場合であって当該第 1 ~ 第 3 時短結果を契機として第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の潜伏が発生した場合には図柄列 Z 1 ~ Z 3 のいずれかの有効ライン L 1 ~ L 5 に潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）が停止表示されるとともに状態示唆領域 4 3 には赤色が停止表示される。これにより、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の潜伏が発生したことを、図柄表示装置 4 1 の停止結果によって遊技者に認識させることが可能となる。

50

【2064】

高確率状態である状況において時短結果となった場合、又は時短状態ST1～ST3Cである状況において第1～第3時短結果となったものの当該第1～第3時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生しなかった場合、図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。また、状態示唆領域43には青色が停止表示される。

【2065】

図柄表示装置41の表示面積は特図表示部37a、37bの表示面積よりも広く、さらに図柄表示装置41は遊技領域PAの略中央に配置されているのに対して特図表示部37a、37bは遊技領域PAの隅角側に配置されているため、図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。また、図柄表示装置41ではリーチ表示といった多種多様な演出が実行されるのに対して特図表示部37a、37bでは既に説明したとおり一定の態様による絵柄の変動表示が行われて遊技結果に対応する停止結果が表示されるだけであるため、この点からも図柄表示装置41の方が特図表示部37a、37bよりも遊技者に注目される。このような事情において第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定の契機とならない時短結果である場合には図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に外れ結果の場合に停止表示され得る非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されることにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【2066】

第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a、37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

【2067】

図186は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2068】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSC601）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSC601：YES）、ステップSC602以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【2069】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSC601：NO、ステップSC602：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかである場合、時短状態カウンタ386の減算処理（ステップSC603）、及び第3時短待機カウンタ387の減算処理（ステップSC604）を実行する。時短状態カウンタ386の減算処理では、時短状態カウンタ386の値を1減算する。第3時短待機カウンタ387の減算処理では、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であることを条件として第3時短待機カウンタ387の値を1減算する。

【2070】

ここで、時短状態 S T 1 ~ S T 3 C においてステップ S C 6 0 4 の処理が実行されるため、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態 S T 1 ~ S T 3 C において 1 回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ 3 8 6 の値が 1 減算されるだけでなく、第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が 1 減算される。したがって、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜伏している場合には、1 回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態 S T 1 ~ S T 3 C の残りの継続回数が 1 減算されるだけでなく、潜伏している第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の残りの継続回数も 1 減算されることになる。

【2071】

第 1 時短状態 S T 1 は継続回数が 1 0 0 回であり、第 2 時短状態 S T 2 は継続回数が 1 5 0 回であり、第 3 A 時短状態 S T 3 A は継続回数が 5 0 回であり、第 3 B 時短状態 S T 3 B は継続回数が 1 0 0 回であり、第 3 C 時短状態 S T 3 C は継続回数が 1 3 0 回であるため、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態 S T 1 ~ S T 3 C が終了した場合に第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が 1 以上でありそれまでの時短状態 S T 1 ~ S T 3 C に続けて第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態 S T 1 ~ S T 3 C の途中で第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が「0」となり潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

【2072】

その後、時短状態カウンタ 3 8 6 の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態 S T 1 ~ S T 3 C が終了したか否かを判定する（ステップ S C 6 0 5）。時短状態カウンタ 3 8 6 の値が「0」である場合（ステップ S C 6 0 5 : Y E S）、第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が 1 以上であるか否かを判定する（ステップ S C 6 0 6）。第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が 1 以上である場合（ステップ S C 6 0 6 : Y E S）、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜伏中であることを意味する。この場合、第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値を時短状態カウンタ 3 8 6 にセットし（ステップ S C 6 0 7）、第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値を「0」クリアし（ステップ S C 6 0 8）、時短対象カウンタ 3 7 1 に「3」をセットする（ステップ S C 6 0 9）。これにより、潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が実行対象となり、当該第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C は第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2073】

その後、潜伏中であった第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S C 6 1 2）。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態 S T 1 ~ S T 3 C が終了して、潜伏していた第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が開始されたことを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ 3 7 5 を「0」クリアする（ステップ S C 6 1 3）。時短継続カウンタ 3 7 5 が「0」クリアされるため、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C における遊技回の変動表示期間の決定態様は第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が新たに開始された場合の決定態様に戻るようになる。

【2074】

第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が「0」である場合（ステップ S C 6 0 6 : N O）、時短対象カウンタ 3 7 1 を「0」クリアする（ステップ S C 6 1 0）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側 R A M 8 4 における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S C 6 1 1）、時短状態 S T 1 ~ S T 3 C が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信し（ステップ S C 6 1 2）、時短継続カウンタ 3 7 5 を「0」クリアする（ステップ S C 6 1 3）。

【2075】

次に、図 1 8 7 のタイムチャートを参照しながら第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜

10

20

30

40

50

伏する様子を第1時短状態ST1との関係を例に挙げて説明する。図187(a)は第1時短状態ST1が実行対象となっている期間を示し、図187(b)は第3A時短状態ST3Aが実行対象となっている期間を示し、図187(c)は第3B時短状態ST3Bが実行対象となっている期間を示し、図187(d)は第3C時短状態ST3Cが実行対象となっている期間を示し、図187(e)は第1時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図187(f)は第2時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図187(g)は第3時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図187(h)は第3時短待機カウンタ387の値が1以上である期間を示す。

【2076】

t1のタイミングで、5R低確結果に対応する開閉実行モードが終了することで、図187(a)に示すように第1時短状態ST1が開始される。その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt2のタイミングで、図187(e)に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中ではないため、図187(h)に示すように第3時短待機カウンタ387に第3A時短状態ST3Aの継続回数がセットされ、図187(b)に示すように第3A時短状態ST3Aが潜伏した状態となる。

【2077】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であるt3のタイミングで、図187(g)に示すように第3時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、既に第3A時短状態ST3Aが潜伏しているため、第3時短結果を契機とした第3C時短状態ST3Cの潜伏は発生することなく当該第3時短結果が無効化される。

【2078】

その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt4のタイミングで、図187(h)に示すように第3時短待機カウンタ387の値が「0」となる。したがって、図187(b)に示すように潜伏していた第3A時短状態ST3Aは実行対象となることなく終了する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状態となる。

【2079】

その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt5のタイミングで、図187(f)に示すように第2時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中ではないため、図187(h)に示すように第3時短待機カウンタ387に第3B時短状態ST3Bの継続回数がセットされ、図187(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態となる。

【2080】

その後、t6のタイミングで、図187(a)に示すように第1時短状態ST1が終了する。この場合、図187(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが潜伏中であるため、当該t6のタイミングで第3B時短状態ST3Bが開始される。但し、当該第3B時短状態ST3Bの残りの継続回数は100回ではなく、t6のタイミングにおいて第3時短待機カウンタ387に記憶されている値に対応する回数となる。

【2081】

その後、第3B時短状態ST3Bの途中のタイミングであるt7のタイミングで、図187(g)に示すように第3時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中ではないため、図187(h)に示すように第3時短待機カウンタ387に第3C時短状態ST3Cの継続回数がセットされ、図187(d)に示すように第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

【2082】

その後、第3B時短状態ST3Bの途中であって第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況であるt8のタイミングで、図187(f)に示すように第2時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、既に第3C時短状態ST3Cが潜伏しているため、第2時短結果を契機とした第3B時短状態ST3Bの潜伏は発生することなく当該第2時短結果

10

20

30

40

50

が無効化される。

【2083】

その後、t9のタイミングで、図187(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが終了する。この場合、図187(d)に示すように第3C時短状態ST3Cが潜伏中であるため、当該t9のタイミングで第3C時短状態ST3Cが開始される。但し、当該第3C時短状態ST3Cの残りの継続回数は130回ではなく、t9のタイミングにおいて第3時短待機カウンタ387に記憶されている値に対応する回数となる。

【2084】

その後、t10のタイミングで、図187(d)に示すように第3C時短状態ST3Cが終了する。この場合、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していないため、遊技状態は通常遊技状態となる。

10

【2085】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【2086】

時短結果に対応する遊技回が実行されたことを契機として発生する第3時短状態として第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが設定されている。これにより、第3時短状態の種類を多様化させることが可能となる。また、これら第3時短状態ST3A～ST3Cはいずれもサポートモードが同一であって終了条件が相違している。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を多様化させながら、これら第3時短状態ST3A～ST3Cの内容が遊技者にとって分かりづらいものとなってしまうようにすることが可能となる。

20

【2087】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合だけでなく、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にも第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏した状態となる。これにより、時短状態ST1～ST3Cにおいて第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する機会を多くすることが可能となる。

【2088】

第3時短状態ST3A～ST3Cが複数種類設定されている構成であっても、潜伏可能である第3時短状態ST3A～ST3Cの数は1個のみである。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが過剰に潜伏してしまわないようにすることが可能となる。

30

【2089】

既に第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても、当該第1～第3時短結果に対して第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏に関する設定は行われることはなく、当該第1～第3時短結果は無効化される。これにより、潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの内容が遊技者にとって分かり易いものとなるとともに、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏に関する処理構成を簡素化することが可能となる。

【2090】

時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行されることで第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する場合には、当該遊技回における図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果として潜伏発生図柄の組合せ(「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」)が表示される。これにより、遊技回用演出の停止結果を利用して第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏したことを遊技者に認識させることが可能となる。

40

【2091】

潜伏発生図柄の組合せの内容は、第1～第3時短結果の種類に応じて相違している。これにより、遊技回用演出の停止結果を利用して潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を遊技者に認識させることが可能となる。

【2092】

50

第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況における時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行されることで当該第1～第3時短結果の発生が無効化される場合には、当該遊技回における図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果が表示される。当該停止結果は外れ結果であって外れリーチ表示が発生しない遊技回においても表示される停止結果である。これにより、第1～第3時短結果の発生が無効化されたことを図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果からは遊技者が認識できないようにすることが可能となる。

10

【2093】

その一方、図柄表示装置41の状態示唆領域43では第1～第3時短結果の発生が無効化されたことに対応する停止結果が表示されるとともに、特図表示部37a, 37bにおいても第1～第3時短結果に対応する停止結果が表示される。これにより、遊技ホールの管理者は状態示唆領域43又は特図表示部37a, 37bを目視することにより、第1～第3時短結果の発生が無効化される状況が発生したことを把握することが可能となる。

【2094】

<第21の実施形態の別形態>

(1) 第3A時短状態ST3Aの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも少なく、第3B時短状態ST3Bの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数と同一であり、第3C時短状態ST3Cの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも多く且つ第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は任意である。例えば、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全ての継続回数が、第1時短状態ST1の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第1時短状態ST1の継続回数よりも多く第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第3時短状態ST3A～ST3Cの一部は継続回数が第2時短状態ST2の継続回数以上である構成としてもよい。

20

【2095】

(2) 第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはそれに対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する構成としたが、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される構成としてもよく、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

30

【2096】

<第22の実施形態>

本実施形態では第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況において第1～第3時短結果に対応する遊技回が終了した場合における処理内容が上記第21の実施形態と相違している。以下、上記第21の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第21の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

40

【2097】

図188は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2098】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSC701：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSC702）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には

50

(ステップSC702: YES)、ステップSC703以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2099】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合(ステップSC702: NO)、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかであるか否かを判定する(ステップSC703)。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合(ステップSC703: NO)、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし(ステップSC704)、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし(ステップSC705)、時短状態カウンタ386への設定処理を実行する(ステップSC706)。時短状態カウンタ386への設定処理では、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば時短状態カウンタ386に「50」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば時短状態カウンタ386に「100」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば時短状態カウンタ386に「130」をセットする。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行する。また、ステップSC705にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされることとなるが、時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHIレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHIレベルとするための処理が実行される。

【2100】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSC707)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2101】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合(ステップSC703: YES)、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であるか否かに関係なく、第3時短待機カウンタ387への設定処理を実行する(ステップSC708)。第3時短待機カウンタ387への設定処理では、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば第3時短待機カウンタ387に「50」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば第3時短待機カウンタ387に「100」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば第3時短待機カウンタ387に「130」をセットする。これにより、時短状態ST1～ST3Cの途中で第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、第3時短状態ST3A～ST3Cが既に潜伏中であるか否かに関係なく、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏することとなる。また、この場合に潜伏する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は、当該潜伏の契機となった時短結果の種類に対応する継続回数となる。

【2102】

その後、ステップSC707にて、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2103】

図189は音光側MPU93にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側MPU82から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

【2104】

ステップSC801～ステップSC810では上記第21の実施形態における変動パターンの決定処理(図185)のステップSC501～ステップSC510と同一の処理を実行し、ステップSC814～ステップSC817では上記第21の実施形態における変動パターン決定処理(図185)のステップSC515～ステップSC518と同一の処理を実行する。

【2105】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1～第3時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって(ステップSC804:YES)、現状の遊技状態が時短状態ST1～ST3Cである場合(ステップSC808:YES)、今回の遊技回が実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回であって、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生していない状況又は潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が1回である場合に今回の遊技回が開始された状況であるか否かを判定する(ステップSC811)。なお、音光側MPU93は主側MPU82から受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3A～ST3Cのいずれであるのか、及び時短状態ST1～ST3Cにおいて第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であるか否かを特定可能であり、さらに時短状態ST1～ST3Cの開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回であるか否かを特定可能であって、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が1回であるか否かを特定可能である。

【2106】

ステップSC811に肯定判定をした場合、時短状態ST1～ST3Cにおいて今回の遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合には今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始されることを意味する。この場合、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する(ステップSC809)。時短示唆用の停止図柄決定処理では上記第21の実施形態と同様に、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」)を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」)を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ(「2・3・4」)を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ(「3・4・5」)を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する(ステップSC810)。

【2107】

ステップSC811にて否定判定をした場合、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する(ステップSC812)。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ(「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」)を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ(「5・6・7」)を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ(「6・7・8」)を選択し、今回が第3時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ(「7・8・9」)を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる

10

20

30

40

50

有効ライン L 1 ～ L 5 を抽選により決定する。その後、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として赤色を選択する（ステップ S C 8 1 3）。

【 2 1 0 8 】

上記のとおり第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の潜伏中に第 1 ～第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が、今回発生した時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数に上書きされる。これにより、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の潜伏中に第 1 ～第 3 時短結果が発生した場合に、当該第 1 ～第 3 時短結果が無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【 2 1 0 9 】

第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の潜伏中に第 1 ～第 3 時短結果が発生して第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が今回発生した時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数に上書きされた場合には、図柄表示装置 4 1 における遊技回の停止結果として潜伏発生図柄の組合せが停止表示される。これにより、潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数が上書きされたことを遊技者に認識させることが可能となる。

【 2 1 1 0 】

＜第 2 2 の実施形態の別形態＞

（ 1 ）第 3 A 時短状態 S T 3 A の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも少なく、第 3 B 時短状態 S T 3 B の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数と同一であり、第 3 C 時短状態 S T 3 C の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも多く且つ第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数は任意である。例えば、第 3 A 時短状態 S T 3 A 、第 3 B 時短状態 S T 3 B 及び第 3 C 時短状態 S T 3 C の全ての継続回数が、第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも多く第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の一部は継続回数が第 2 時短状態 S T 2 の継続回数以上である構成としてもよい。

【 2 1 1 1 】

（ 2 ）第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはそれに対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏する構成としたが、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が新たに開始される構成としてもよく、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【 2 1 1 2 】

＜第 2 3 の実施形態＞

本実施形態では第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の潜伏の様相が上記第 2 1 の実施形態と相違している。以下、上記第 2 1 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 2 1 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【 2 1 1 3 】

図 1 9 0 は遊技状態を制御するために利用される主側 R A M 8 4 の記憶エリアを説明するための説明図である。

【 2 1 1 4 】

主側 R A M 8 4 には上記第 2 1 の実施形態と同様に高確率フラグ 3 2 1 、天井カウンタ 3 2 5 、時短対象カウンタ 3 7 1 、時短継続カウンタ 3 7 5 、時短状態カウンタ 3 8 6 及び第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 が設けられている。また、主側 R A M 8 4 には待機対象カウンタ 3 9 5 が設けられている。

【 2 1 1 5 】

待機対象カウンタ 3 9 5 は、時短状態 S T 1 ～ S T 3 C において第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏している場合にその潜伏している第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の種

10

20

30

40

50

類を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。待機対象カウンタ395の値が「1」である場合、第3A時短状態ST3Aが潜伏している。待機対象カウンタ395の値が「2」である場合、第3B時短状態ST3Bが潜伏している。待機対象カウンタ395の値が「3」である場合、第3C時短状態ST3Cが潜伏している。

【2116】

第3時短状態ST3A～ST3Cの新たな潜伏が発生して待機対象カウンタ395に値がセットされる場合に、新たに潜伏対象となる第3時短状態ST3A～ST3Cの種類に対応する継続回数が第3時短待機カウンタ387にセットされる。第3時短待機カウンタ387にセットされた継続回数の情報は上記第21の実施形態と同様に、現状の時短状態ST1～ST3Cにおいて遊技回が実行される度に1減算される。そして、第3時短待機カウンタ387に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況において、それまで実行対象だった他の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合にはその時点における第3時短待機カウンタ387に記憶されている残りの継続回数に亘って第3時短状態ST3A～ST3Cが実行される。

【2117】

図191は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2118】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSC901：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSC902）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSC902：YES）、ステップSC903以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2119】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSC902：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかであるか否かを判定する（ステップSC903）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSC903：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSC904）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSC905）、時短状態カウンタ386への設定処理を実行する（ステップSC906）。時短状態カウンタ386への設定処理では、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば時短状態カウンタ386に「50」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば時短状態カウンタ386に「100」をセットし、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば時短状態カウンタ386に「130」をセットする。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行する。また、ステップSC905にて時短発生時の外端フラグに「1」がセットされることとなるが、時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

【2120】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSC907）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2121】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSC903：YES）、待機用設定処理を実行する（ステップSC908）。図192は待機用設定処理を示すフローチャートである。

【2122】

今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果である場合（ステップSD101：YES）、待機対象カウンタ395の値が2以上であるか否かを判定する（ステップSD102）。つまり、第3B時短状態ST3B又は第3C時短状態ST3Cが潜伏中であるか否かを判定する。第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない場合又は第3A時短状態ST3Aが潜伏している場合（ステップSD102：NO）、第3時短待機カウンタ387に「50」をセットし（ステップSD103）、待機対象カウンタ395に「1」をセットする（ステップSD104）。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状況であった場合には第3A時短状態ST3Aが潜伏している状態となり、第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であった場合には第3待機対象カウンタ387に第3A時短状態ST3Aの継続回数が再セットされる。

【2123】

今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果である場合（ステップSD105：YES）、待機対象カウンタ395の値が「3」であるか否かを判定する（ステップSD106）。つまり、第3C時短状態ST3Cが潜伏中であるか否かを判定する。第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない場合、又は第3A時短状態ST3A若しくは第3B時短状態ST3Bが潜伏している場合（ステップSD106：NO）、第3時短待機カウンタ387に「100」をセットし（ステップSD107）、待機対象カウンタ395に「2」をセットする（ステップSD108）。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状況であった場合又は第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であった場合には第3B時短状態ST3Bが潜伏している状態となり、第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況であった場合には第3待機対象カウンタ387に第3B時短状態ST3Bの継続回数が再セットされる。

【2124】

今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果である場合（ステップSD105：NO）、第3時短待機カウンタ387に「130」をセットし（ステップSD109）、待機対象カウンタ395に「3」をセットする（ステップSD110）。これにより第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状況であった場合又は第3A時短状態ST3A若しくは第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況であった場合には第3C時短状態ST3Cが潜伏している状態となり、第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況であった場合には第3待機対象カウンタ387に第3C時短状態ST3Cの継続回数が再セットされる。

【2125】

つまり、本実施形態では第3時短状態ST3A～ST3Cには潜伏対象となる場合における優先度が設定されている。具体的には、第3時短状態ST3A～ST3Cの中で継続回数が最も多い第3C時短状態ST3Cの優先度が最も高く、第3時短状態ST3A～ST3Cの中で継続回数が次に多い第3B時短状態ST3Bの優先度が次に高く、第3時短状態ST3A～ST3Cの中で継続回数が最も少ない第3A時短状態ST3Aの優先度が最も低い。したがって、第3A時短状態ST3A又は第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況で第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には潜伏対象が第3C時短状態ST3Cに変更され、第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況で第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合には潜伏対象が第3B時短状態ST3Bに変更される。但し、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cはいずれもサポートモードは第2高頻度サポートモードであるため、潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cの種類が変更されたとしても潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cのサポートモードは変更されることなく、継続回数のみが変更される。また、第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況において第1時短結果又は第2時短結果に対応す

10

20

30

40

50

る遊技回が実行されたとしても当該第1, 第2時短結果は無効化され、第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況において第1時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第1時短結果は無効化される。

【2126】

時短結果用の設定処理(図191)では待機用設定処理(ステップSC908)を実行した後は、待機用設定処理において第3時短待機カウンタ387の情報の設定が行われたか否かを判定する(ステップSC909)。なお、待機用設定処理(図192)においてはステップSD103、ステップSD107又はステップSD109の処理を実行した場合に、主側MPU82のレジスタにそれに対応する情報設定を行うため、当該情報設定が行われているか否かをステップSC909にて判定する。

【2127】

第3時短待機カウンタ387への情報の設定が行われなかった場合(ステップSC909:NO)、すなわち今回の時短結果が無効化された場合、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。一方、第3時短待機カウンタ387の情報の設定が行われた場合(ステップSC909:YES)、状態指定コマンドの送信処理を実行する(ステップSC907)。当該送信処理では、第3時短状態ST3A~ST3Cが潜伏していない状況において第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生した場合には、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A~ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。また、当該送信処理では、潜伏対象となっている第3時短状態ST3A~ST3Cの種類が変更された場合又は潜伏対象となっている第3時短状態ST3A~ST3Cの継続回数が再セットされた場合、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏の再設定が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏の再設定が発生したことを示す演出及び潜伏の再設定対象となった第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏の再設定が発生したことを遊技者が認識することが可能となる。

【2128】

図193は音光側MPU93にて実行される本実施形態における変動パターンの決定処理を示すフローチャートである。なお、変動パターンの決定処理は主側MPU82から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合に実行される。

【2129】

ステップSD201~ステップSD210では上記第21の実施形態における変動パターンの決定処理(図185)のステップSC501~ステップSC510と同一の処理を実行し、ステップSD216~ステップSD219では上記第21の実施形態における変動パターン決定処理(図185)のステップSC515~ステップSC518と同一の処理を実行する。

【2130】

今回受信した種別コマンドに今回開始対象となっている遊技回が第1~第3時短結果に対応していることを示す情報が設定されている場合であって(ステップSD204:YES)、現状の遊技状態が時短状態ST1~ST3Cである場合(ステップSD208:YES)、今回の遊技回が実行対象となっている時短状態ST1~ST3Cの最終遊技回であって、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生していない状況又は潜伏中の第3時短状態ST3A~ST3Cの残りの継続回数が1回である場合に今回の遊技回が開始された状況であるか否かを判定する(ステップSD211)。なお、音光側MPU93は主

側MPU82から受信する状態指定コマンドにより現状の遊技状態が通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3A～ST3Cのいずれであるのか、及び時短状態ST1～ST3Cにおいて第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であるか否かを特定可能であり、さらに時短状態ST1～ST3Cの開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回であるか否かを特定可能であって、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏の開始に対応する状態指定コマンドを受信した後における変動用コマンドの受信回数によって潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が1回であるか否かを特定可能である。

【2131】

ステップSD211に肯定判定をした場合、時短状態ST1～ST3Cにおいて今回の遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合には今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始されることを意味する。この場合、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSD209）。時短示唆用の停止図柄決定処理では上記第21の実施形態と同様に、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「2・3・4」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ（「3・4・5」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSD210）。

【2132】

ステップSD211にて否定判定をした場合、潜伏に関する設定が主側MPU82において発生するか否かを判定するための潜伏用判定処理を実行する（ステップSD212）。潜伏用判定処理ではまず第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生するか否かを判定する。具体的には、時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回である場合であって当該時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる場合、時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回ではない場合であって第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない場合、又は時短状態ST1～ST3Cの最終遊技回ではない場合であって潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が今回の遊技回が終了する場合に0回となる場合であるか否かを判定する。また、潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cが変更されるか否かを判定する。具体的には、第3A時短状態ST3A又は第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況で第3時短結果が発生した場合、又は第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況で第2時短結果が発生した場合であるか否かを判定する。また、主側MPU82において第3時短待機カウンタ387への継続回数の情報の再セットが行われるか否かを判定する。具体的には、第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況で第1時短結果が発生した場合、第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況で第2時短結果が発生した場合、又は第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況で第3時短結果が発生した場合であるか否かを判定する。

【2133】

潜伏用判定処理において潜伏に関する設定が主側MPU82において発生すると判定した場合（ステップSD213：YES）、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSD214）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処

10

20

30

40

50

理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSD215）。

【2134】

潜伏用判定処理において潜伏に関する設定が主側MPU82において発生しないと判定した場合（ステップSD213：NO）、今回の時短結果は無効化されることになる。したがって、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSD206）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では上記第21の実施形態と同様に、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSD207）。

10

【2135】

なお、今回の時短結果の種類によってステップSD207において決定される状態示唆領域43の停止結果を変更させてもよい。例えば、今回が第1時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として緑色を選択し、今回が第2時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として黄色を選択し、今回が第3時短結果であれば状態示唆領域43の停止結果として紫色を選択する。これにより、時短結果が無効化される場合であってもその無効化された時短結果の種類を状態示唆領域43の停止結果によって報知することが可能となる。

20

【2136】

図194は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2137】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSD301）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSD301：YES）、ステップSD302以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

30

【2138】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSD301：NO、ステップSD302：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかである場合、時短状態カウンタ386の減算処理（ステップSD303）、及び第3時短待機カウンタ387の減算処理（ステップSD304）を実行する。時短状態カウンタ386の減算処理では、時短状態カウンタ386の値を1減算する。第3時短待機カウンタ387の減算処理では、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であることを条件として第3時短待機カウンタ387の値を1減算する。

【2139】

ここで、時短状態ST1～ST3CにおいてステップSD304の処理が実行されるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cにおいて1回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ386の値が1減算されるだけでなく、第3時短待機カウンタ387の値が1減算される。したがって、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している場合には、1回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの残りの継続回数が1減算されるだけでなく、潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数も1減算されることになる。

40

【2140】

第1時短状態ST1は継続回数が100回であり、第2時短状態ST2は継続回数が1

50

50回であり、第3A時短状態ST3Aは継続回数が50回であり、第3B時短状態ST3Bは継続回数が100回であり、第3C時短状態ST3Cは継続回数が130回であるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に第3時短待機カウンタ387の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST3Cに続けて第3時短状態ST3A～ST3Cが第3時短待機カウンタ387に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST3Cの途中で第3時短待機カウンタ387の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

【2141】

その後、第3時短待機カウンタ387の値が「0」であることを条件として（ステップSD305：YES）、主側RAM395の待機対象カウンタ395を「0」クリアする（ステップSD306）。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が「0」となった場合には、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏していない状態となる。

【2142】

その後、時短状態カウンタ386の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了したか否かを判定する（ステップSD307）。時短状態カウンタ386の値が「0」である場合（ステップSD307：YES）、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSD308）。第3時短待機カウンタ387の値が1以上である場合（ステップSD308：YES）、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であることを意味する。この場合、第3時短待機カウンタ387の値を時短状態カウンタ386にセットし（ステップSD309）、第3時短待機カウンタ387の値を「0」クリアし（ステップSD310）、時短対象カウンタ371に「3」をセットする（ステップSD311）。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となり、当該第3時短状態ST3A～ST3Cは第3時短待機カウンタ387に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2143】

その後、潜伏中であった第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSD314）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1～ST3Cが終了して、潜伏していた第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSD315）。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3A～ST3Cにおける遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2144】

第3時短待機カウンタ387の値が「0」である場合（ステップSD308：NO）、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSD312）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSD313）、時短状態ST1～ST3Cが終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し（ステップSD314）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSD315）。

【2145】

上記のとおり第3時短状態ST3A～ST3Cには潜伏対象としての優先度が設定されており、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの方が今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cよりも優先度が高いのであれば、今回発生した時短結果が無効化され、今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3

10

20

30

40

50

A～ST3Cの方が潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cよりも優先度が高いのであれば、今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cに潜伏対象が切り換えられる。これにより、優先度が高い第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏対象となるようにすることが可能となる。

【2146】

第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に当該第3時短状態ST3A～ST3Cよりも優先度が高い第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生して潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cが切り換えられる場合には、図柄表示装置41における遊技回の停止結果として潜伏発生図柄の組合せが停止表示される。これにより、潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cが切り換えられたことを遊技者に認識させることが可能となる。

10

【2147】

第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に当該第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生して第3時短待機カウンタ387に継続回数が再セットされた場合には、図柄表示装置41における遊技回の停止結果として潜伏発生図柄の組合せが停止表示される。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数が再セットされたことを遊技者に認識させることが可能となる。

【2148】

第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に当該第3時短状態ST3A～ST3Cよりも優先度が低い第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生して当該時短結果が無効化された場合、図柄列Z1～Z3には各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。これにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

20

【2149】

第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a、37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

30

【2150】

＜第23の実施形態の別形態＞

(1) 第3A時短状態ST3Aの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも少なく、第3B時短状態ST3Bの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数と同一であり、第3C時短状態ST3Cの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも多く且つ第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は任意である。例えば、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全ての継続回数が、第1時短状態ST1の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第1時短状態ST1の継続回数よりも多く第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第3時短状態ST3A～ST3Cの一部は継続回数が第2時短状態ST2の継続回数以上である構成としてもよい。

40

【2151】

(2) 第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回

50

が実行された場合にはそれに対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する構成としたが、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される構成としてもよく、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【2152】

(3) 第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏対象となる優先度は第3C時短状態ST3Cが最も高く、第3B時短状態ST3Bが次に高く、第3A時短状態ST3Aが最も低い構成としたが、これに限定されることはなく、第3A時短状態ST3Aが最も高く、第3B時短状態ST3Bが次に高く、第3C時短状態ST3Cが最も低い構成としてもよく、第3B時短状態ST3Bが最も高く、第3C時短状態ST3Cが次に高く、第3A時短状態ST3Aが最も低い構成としてもよい。

【2153】

<第24の実施形態>

本実施形態では時短結果用の設定処理(図191)におけるステップSC908にて実行される待機用設定処理の処理構成が上記第23の実施形態と相違している。以下、上記第23の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第23の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2154】

図195は主側MPU82にて実行される本実施形態における待機用設定処理を示すフローチャートである。なお、本実施形態では主側RAM84に待機対象カウンタ395が設けられていない。

【2155】

今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果である場合(ステップSD401: YES)、第3時短待機カウンタ387の値が第1時短結果に対応する第3A時短状態ST3Aの継続回数の値以上であるか否かを判定する(ステップSD402)。第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中ではない場合又は潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が第3A時短状態ST3Aの継続回数よりも少ない場合(ステップSD402: NO)、第3時短待機カウンタ387に第3A時短状態ST3Aの継続回数に対応する「50」をセットする(ステップSD403)。これにより、継続回数が50回である第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状態となる。

【2156】

一方、ステップSD402にて肯定判定をした場合にはステップSD403の処理を実行することなく本待機用設定処理を終了する。したがって、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が第3A時短状態ST3Aの継続回数以上である状況において第1時短結果が発生した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定が行われることなく今回の第1時短結果が無効化される。

【2157】

今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果である場合(ステップSD404: YES)、第3時短待機カウンタ387の値が第2時短結果に対応する第3B時短状態ST3Bの継続回数の値以上であるか否かを判定する(ステップSD405)。第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中ではない場合又は潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が第3B時短状態ST3Bの継続回数よりも少ない場合(ステップSD405: NO)、第3時短待機カウンタ387に第3B時短状態ST3Bの継続回数に対応する「100」をセットする(ステップSD406)。これにより、継続回数が100回である第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状態となる。

【2158】

一方、ステップSD405にて肯定判定をした場合にはステップSD406の処理を実行することなく本待機用設定処理を終了する。したがって、潜伏中の第3時短状態ST3

A～ST3Cの残りの継続回数が第3B時短状態ST3Bの継続回数以上である状況において第2時短結果が発生した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cに関する設定が行われることなく今回の第2時短結果が無効化される。

【2159】

今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果である場合（ステップSD404：NO）、第3時短待機カウンタ387に第3B時短状態ST3Bの継続回数に対応する「130」をセットする（ステップSD407）。これにより、継続回数が130回である第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状態となる。

【2160】

上記構成であることにより第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が、今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数未満である場合に、今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数が第3時短待機カウンタ387に設定される。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に第1～第3時短結果が発生した場合には、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が極力多くなるようにすることが可能となる。

【2161】

なお、変動パターンの決定処理（図193）においては上記第23の実施形態と同様に、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏中に第1～第3時短結果に対応する遊技回が発生する場合において、当該第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる場合には時短示唆用の停止図柄決定処理（ステップSD209）を実行するとともに図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択し（ステップSD210）、当該第1～第3時短結果を契機として第3時短待機カウンタ387への継続回数のセットが行われる場合には潜伏示唆用の停止図柄決定処理（ステップSD214）を実行するとともに図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択し（ステップSD210）、当該第1～第3時短結果が無効化される場合には非リーチ外れ用の停止図柄決定処理（ステップSD206）を実行するとともに図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSD207）。

【2162】

<第25の実施形態>

本実施形態では第3時短状態の種類が上記第23の実施形態と相違している。以下、上記第23の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第23の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2163】

図196（a）は本実施形態におけるサポートモードの内容を説明するための説明図である。

【2164】

普電開放状態とするか否かを抽選により決定するための普図当否判定処理が実行される場合における判定モードとして、上記第23の実施形態と同様に、普図側の高確率モードと普図側の低確率モードとが存在している。普図側の低確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が1／2であるのに対して、普図側の高確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が4／5である。

【2165】

普図当否判定処理が実行された場合には普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が開始されることとなる。この場合に、普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が異なるように長期間、中期間及び短期間が存在している。長期間は10秒であり、中期間は5秒であり、短期間は1秒である。当該期間が短い方が一の普電開放状態と次の普電開放状態との間の最短期間が短くなるため、遊技領域に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で

10

20

30

40

50

比較した場合に第2作動口34の普電役物34aが単位時間あたりに開放状態となる頻度が相対的に高くなる。

【2166】

なお、普図の変動期間がそれぞれ固定である構成に限定されることはなく、長期間の設定、中期間の設定及び短期間の設定のそれぞれが行われる状況に代えて、複数種類の期間の中から抽選で期間が選択される場合における平均の期間が最も長くなる状況、当該平均の期間が次に長くなる状況、及び当該平均の期間が最も短くなる状況が設定されている構成としてもよい。これは他の実施形態においても同様である。

【2167】

普図表示部38aの変動表示回が終了する場合に当該普図表示部38aには当該変動表示回の実行の契機となった普図当否判定処理の判定結果に対応する停止結果が表示される。この場合に、普図当否判定処理の判定結果が外れ結果であった場合には普図表示部38aに外れ結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行は発生しない。普図保留エリア84cに普図側の保留情報が記憶されている場合には、当該普図側の保留情報に対して新たに普図当否判定処理が実行されて普図表示部38aにて新たな変動表示回が開始される。一方、普図当否判定処理の判定結果が電役開放当選に対応する結果であった場合には普図表示部38aに当選結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行が発生する。

【2168】

普電開放状態の実行モードとして、普電役物34aへの遊技球の入球期待度が異なるように高期待度モードと中期待度モードと低期待度モードとが存在している。低期待度モードでは普電役物34aの短開放が1回発生する。短開放の継続期間は0.7秒となっている。上記第1の実施形態と同様に遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの短開放が1回発生した場合には第2作動口34への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は1個程度である。なお、普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合にも終了するが、短開放が1回発生した場合には上記のとおり第2作動口34への遊技球の入球が発生したとしても1個程度であるため第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【2169】

中期待度モードでは普電役物34aの長開放が2回発生する。長開放の継続期間は2秒となっている。遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの長開放が1回発生した場合には第2作動口34に3個程度の遊技球が入球し得る。そして、中期待度モードの普電開放状態では第2作動口34が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には1秒）を挟んで長開放が2回発生する。したがって、中期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に6個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合にも終了するが、長開放が2回発生した場合には上記のとおり第2作動口34への遊技球の入球が発生したとしても6個程度であるため第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【2170】

高期待度モードでは普電役物34aの長開放が3回発生する。長開放の継続期間は2秒となっている。遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの長開放が1回発生した場合には第2作動口34に3個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では第2作動口34が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には1秒）を挟んで長開放が3回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に9個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終

10

20

30

40

50

了する事象が発生し得る。

【2171】

上記のように普図当否判定処理の判定モード、普図表示部38aにおける普図の変動期間及び普電開放状態の実行モードが設定されている構成において、サポートモードとして低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード、第2高頻度サポートモード、第3高頻度サポートモード、第4高頻度サポートモード及び第5高頻度サポートモードが設定されている。低頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は長期間となり、普電開放状態の実行モードは短開放1回が発生する低期待度モードとなる。第1高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の高確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。第2高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。第3高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は中期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放2回が発生する中期待度モードとなる。第4高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放2回が発生する中期待度モードとなる。第5高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は中期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。

【2172】

スルーゲート35への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第1高頻度サポートモードが最も高く、第2高頻度サポートモードが次に高く、第5高頻度サポートモードが次に高く、第4高頻度サポートモードが次に高く、第3高頻度サポートモードが次に高く、低頻度サポートモードが最も低い。また、低頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが低期待度モードとなるため、低頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球がほとんど発生しないのに対して、第1～第5高頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが中期待度モード又は高期待度モードとなるため、第1～第5高頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球が第2特図保留エリア112における第2保留情報の上限個数以上発生することが期待できる。

【2173】

図196(b)は本実施形態に設定されている時短状態の内容を説明するための説明図である。

【2174】

本実施形態では遊技状態として上記第23の実施形態と同様に通常遊技状態と、高確率状態と、第1時短状態ST1と、第2時短状態ST2とが存在している。また、これら以外にも、第3A時短状態ST41と、第3B時短状態ST42と、第3C時短状態ST43とが存在している。

【2175】

第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43はサポートモードの種類が相違している。具体的には、第3A時短状態ST41は第3高頻度サポートモードとなり、第3B時短状態ST42は第4高頻度サポートモードとなり、第3C時短状態ST43は第5高頻度サポートモードとなる。また、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43は終了条件が相互に相違している。具体的には、第3A時短状態ST41は50回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となり、第3B時短状態ST42は100回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となり、第3C時短状態ST43は130回の遊技回が消化された場合に終了して通常遊技状態となる。

【2176】

上記のとおりスルーゲート35への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第5高頻度サポートモード>第4高頻度サポートモード>第3高頻度サポートモードとなっている。したがって、第3時短状態ST41~43の中においては第3C時短状態ST43が最も有利であり、第3B時短状態ST42が次に有利であり、第3A時短状態ST41の有利度が最も低い。なお、第3時短状態ST41~ST43は第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2と同様に、大当たり結果を契機とした開閉実行モードが実行される場合に強制的に終了する。

【2177】

第3A時短状態ST41は、当否判定処理（ステップS805）にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップS811）にて第1時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。第3B時短状態ST42は、当否判定処理（ステップS805）にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップS811）にて第2時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。第3C時短状態ST43は、当否判定処理（ステップS805）にて時短結果となるとともにその後に実行される時短用の振分判定処理（ステップS811）にて第3時短結果が選択された場合に、これら当否判定処理及び時短用の振分判定処理が実行された遊技回の終了時に設定される。

【2178】

時短対象カウンタ371が「1」である場合、上記第23の実施形態と同様に第1時短状態ST1に対応しており、時短対象カウンタ371が「2」である場合、上記第23の実施形態と同様に第2時短状態ST2に対応している。また、時短対象カウンタ371が「3」である場合、第3A時短状態ST41に対応しており、時短対象カウンタ371が「4」である場合、第3B時短状態ST42に対応しており、時短対象カウンタ371が「5」である場合、第3C時短状態ST43に対応している。

【2179】

時短対象カウンタ371の値が「3」である場合、すなわち第3A時短状態ST41である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の中期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509に代えて普段開放カウンタに「2」をセットする処理が実行されるとともにステップS510及びステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は中期待度モードとなる。

【2180】

時短対象カウンタ371の値が「4」である場合、すなわち第3B時短状態ST42である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509に代えて普段開放カウンタに「2」をセットする処理が実行されるとともにステップS510及びステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は中期待度モードとなる。

【2181】

時短対象カウンタ371の値が「5」である場合、すなわち第3C時短状態ST43である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図

側の中期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【2182】

図197は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2183】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSD501：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSD502）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSD502：YES）、ステップSD503以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST41～ST43の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2184】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSD502：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST43のいずれかであるか否かを判定する（ステップSD503）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSD503：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSD504：YES）、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSD505）、時短状態カウンタ386に「50」をセットする（ステップSD506）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3A時短状態ST41に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSD507：YES）、時短対象カウンタ371に「4」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSD508）、時短状態カウンタ386に「100」をセットする（ステップSD509）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3B時短状態ST42に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSD507：NO）、時短対象カウンタ371に「5」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSD510）、時短状態カウンタ386に「130」をセットする（ステップSD512）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3C時短状態ST43に移行する。

【2185】

ステップSD506、ステップSD509又はステップSD511の処理を実行した場合、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSD512）。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

【2186】

その後、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSD513）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す演出及び第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2187】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSD503：YES）、待

10

20

30

40

50

機用設定処理を実行する（ステップSD514）。待機用設定処理の内容は上記第23の実施形態と同一である。本実施形態であっても第3時短状態ST41～ST43には潜伏対象となる場合における優先度が設定されている。具体的には、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードが最も有利であって継続回数が最も多い第3C時短状態ST43の優先度が最も高く、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードが次に有利であって継続回数が次に多い第3B時短状態ST42の優先度が次に高く、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードの有利度が最も低く継続回数が最も少ない第3A時短状態ST41の優先度が最も低い。したがって、第3A時短状態ST41又は第3B時短状態ST42が潜伏している状況で第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には潜伏対象が第3C時短状態ST43に変更され、第3A時短状態ST41が潜伏している状況で第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合には潜伏対象が第3B時短状態ST42に変更される。また、第3C時短状態ST43が潜伏している状況において第1時短結果又は第2時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第1、第2時短結果は無効化され、第3B時短状態ST42が潜伏している状況において第1時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第1時短結果は無効化される。

【2188】

時短結果用の設定処理（図197）では待機用設定処理（ステップSD514）を実行した後は、待機用設定処理において第3時短待機カウンタ387の情報の設定が行われたか否かを判定する（ステップSD515）。第3時短待機カウンタ387への情報の設定が行われなかった場合（ステップSD515：NO）、すなわち今回の時短結果が無効化された場合、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。

【2189】

一方、第3時短待機カウンタ387の情報の設定が行われた場合（ステップSD515：YES）、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップSD513）。当該送信処理では、第3時短状態ST41～ST43が潜伏していない状況において第3時短状態ST41～ST43の潜伏が発生した場合には、第3時短状態ST41～ST43の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST41～ST43の潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST41～ST43が実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。また、当該送信処理では、潜伏対象となっている第3時短状態ST41～ST43の種類が変更された場合又は潜伏対象となっている第3時短状態ST41～ST43の継続回数が再セットされた場合、第3時短状態ST41～ST43の潜伏の再設定が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST41～ST43の潜伏の再設定が発生したことを示す演出及び潜伏の再設定対象となった第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST41～ST43の潜伏の再設定が発生したことを遊技者が認識することが可能となる。

【2190】

なお、本実施形態であっても音光側MPU93では上記第23の実施形態と同様に変動パターンの決定処理が実行される。つまり、時短状態ST1～ST43において第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合に今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST41～ST43が新たに開始される場合には、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSD209）。時短示唆用の停止図柄決定処理では上記第23の実施形態と同様に、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1

時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」）を選択し、今回が第２時短結果であれば第２時短発生図柄の組合せ（「２・３・４」）を選択し、今回が第３時短結果であれば第３時短発生図柄の組合せ（「３・４・５」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第１～第３時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインＬ１～Ｌ５を抽選により決定する。また、図柄表示装置４１の状態示唆領域４３の停止結果として赤色を選択する（ステップＳＤ２１０）。

【２１９１】

時短状態ＳＴ１～ＳＴ４３において第１～第３時短結果に対応する遊技回が開始されて、潜伏に関する設定が主側ＭＰＵ８２において発生する場合には、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップＳＤ２１４）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置４１の図柄列Ｚ１～Ｚ３に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「５・６・７」、「６・７・８」、「７・８・９」）を選択する。この場合、今回が第１時短結果であれば第１潜伏発生図柄の組合せ（「５・６・７」）を選択し、今回が第２時短結果であれば第２潜伏発生図柄の組合せ（「６・７・８」）を選択し、今回が第３時短結果であれば第３潜伏発生図柄の組合せ（「７・８・９」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第１～第３潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインＬ１～Ｌ５を抽選により決定する。また、図柄表示装置４１の状態示唆領域４３の停止結果として赤色を選択する（ステップＳＤ２１５）。

【２１９２】

時短状態ＳＴ１～ＳＴ４３において第１～第３時短結果に対応する遊技回が開始されて、今回の時短結果が無効化される場合には、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップＳＤ２０６）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では上記第２１の実施形態と同様に、図柄表示装置４１の図柄列Ｚ１～Ｚ３に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「１・２・３」、「２・３・４」、「３・４・５」）、潜伏発生図柄の組合せ（「５・６・７」、「６・７・８」、「７・８・９」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置４１の状態示唆領域４３の停止結果として青色を選択する（ステップＳＤ２０７）。

【２１９３】

図１９８は特図確定中処理（図１２８）のステップＳ８３０８にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【２１９４】

まず高確率フラグ３２１に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＤ６０１）。高確率フラグ３２１に「１」がセットされている場合には（ステップＳＤ６０１：ＹＥＳ）、ステップＳＤ６０２以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【２１９５】

高確率フラグ３２１に「１」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ３７１の値が１以上である場合（ステップＳＤ６０１：ＮＯ、ステップＳＤ６０２：ＹＥＳ）、すなわち第１～第３時短状態ＳＴ１～ＳＴ４３のいずれかである場合、時短状態カウンタ３８６の減算処理（ステップＳＤ６０３）、及び第３時短待機カウンタ３８７の減算処理（ステップＳＤ６０４）を実行する。時短状態カウンタ３８６の減算処理では、時短状態カウンタ３８６の値を１減算する。第３時短待機カウンタ３８７の減算処理では、第３時短待機カウンタ３８７の値が１以上であることを条件として第３時短待機カウンタ３８７の値を１減算する。

【２１９６】

ここで、時短状態ＳＴ１～ＳＴ４３においてステップＳＤ６０４の処理が実行されるため、第３時短状態ＳＴ４１～ＳＴ４３が潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態ＳＴ１～ＳＴ４３において１回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ３８６の値が１減算されるだけでなく、第３時短待機カウンタ３８７の値が１減算される。し

10

20

30

40

50

たがって、第3時短状態ST41～ST43が潜伏している場合には、1回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態ST1～ST43の残りの継続回数が1減算されるだけでなく、潜伏している第3時短状態ST41～ST43の残りの継続回数も1減算されることになる。

【2197】

第1時短状態ST1は継続回数が100回であり、第2時短状態ST2は継続回数が150回であり、第3A時短状態ST41は継続回数が50回であり、第3B時短状態ST42は継続回数が100回であり、第3C時短状態ST43は継続回数が130回であるため、第3時短状態ST41～ST43が潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST43が終了した場合に第3時短待機カウンタ387の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST43に続けて第3時短状態ST41～ST43が第3時短待機カウンタ387に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST43の途中で第3時短待機カウンタ387の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST41～ST43が実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

【2198】

その後、第3時短待機カウンタ387の値が「0」であることを条件として（ステップSD605：YES）、主側RAM395の待機対象カウンタ395を「0」クリアする（ステップSD606）。これにより、潜伏中の第3時短状態ST41～ST43の残りの継続回数が「0」となった場合には、第3時短状態ST41～ST43が潜伏していない状態となる。

【2199】

その後、時短状態カウンタ386の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST43が終了したか否かを判定する（ステップSD607）。時短状態カウンタ386の値が「0」である場合（ステップSD607：YES）、第3時短待機カウンタ387の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSD608）。第3時短待機カウンタ387の値が1以上である場合（ステップSD608：YES）、第3時短状態ST41～ST43が潜伏中であることを意味する。この場合、第3時短待機カウンタ387の値を時短状態カウンタ386にセットし（ステップSD609）、第3時短待機カウンタ387の値を「0」クリアし（ステップSD610）、待機対象カウンタ395の値に「2」を加算した値を時短対象カウンタ371にセットする（ステップSD611）。これにより、潜伏中の第3時短状態ST41～ST43が実行対象となり、当該第3時短状態ST41～ST43は第3時短待機カウンタ387に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。その後、待機対象カウンタ395を「0」クリアする（ステップSD612）。

【2200】

なお、第3A時短状態ST41が潜伏している場合には待機対象カウンタ395の値が「1」であり、第3B時短状態ST42が潜伏している場合には待機対象カウンタ395の値が「2」であり、第3C時短状態ST43が潜伏している場合には待機対象カウンタ395の値が「3」である。したがって、ステップSD611では待機対象カウンタ395の値に「2」を加算した結果を時短対象カウンタ371にセットするようにすることで、潜伏中であつた第3A時短状態ST41が実行対象となった場合には時短対象カウンタ371の値が「3」となり、潜伏中であつた第3B時短状態ST42が実行対象となった場合には時短対象カウンタ371の値が「4」となり、潜伏中であつた第3C時短状態ST43が実行対象となった場合には時短対象カウンタ371の値が「5」となる。

【2201】

その後、潜伏中であつた第3時短状態ST41～ST43が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSD615）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であつた時短状態ST1～ST43が終了して、潜伏していた第3時短状態ST41～ST43が開始されたことを示す演出が

図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ 3 7 5 を「0」クリアする（ステップ S D 6 1 6）。時短継続カウンタ 3 7 5 が「0」クリアされるため、第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 における遊技回の変動表示期間の決定態様は第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 が新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2202】

第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の値が「0」である場合（ステップ S D 6 0 8：NO）、時短対象カウンタ 3 7 1 を「0」クリアする（ステップ S D 6 1 3）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側 R A M 8 4 における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S D 6 1 4）、時短状態 S T 1 ～ S T 4 3 が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信し（ステップ S D 6 1 5）、時短継続カウンタ 3 7 5 を「0」クリアする（ステップ S D 6 1 6）。

10

【2203】

上記のとおり複数種類の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 は終了条件となる継続回数が相違しているだけではなく、サポートモードが相違している。これにより、第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 を多様化させることが可能となる。

【2204】

第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 には潜伏対象としての優先度が設定されており、第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の潜伏中に第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、潜伏中の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の方が今回発生した時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 よりも優先度が高いのであれば、今回発生した時短結果が無効化され、今回発生した時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の方が潜伏中の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 よりも優先度が高いのであれば、今回発生した時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 に潜伏対象が切り換えられる。これにより、優先度が高い第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 が潜伏対象となるようにすることが可能となる。

20

【2205】

第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 においてサポートモードの有利度が最も高い第 3 C 時短状態 S T 4 3 の優先度が最も高く設定されており、サポートモードの有利度が次に高い第 3 B 時短状態 S T 4 2 の優先度が次に高く設定されており、サポートモードの有利度が最も低い第 3 A 時短状態 S T 4 1 の優先度が最も低く設定されている。これにより、相対的に有利度が高い第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 が実行対象となる機会を高めることが可能となる。

30

【2206】

第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の潜伏中に当該第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 よりも優先度が高い第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 に対応する時短結果が発生して潜伏対象の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 が切り換えられる場合には、図柄表示装置 4 1 における遊技回の停止結果として潜伏発生図柄の組合せが停止表示される。これにより、潜伏対象の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 が切り換えられたことを遊技者に認識させることが可能となる。

40

【2207】

第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の潜伏中に当該第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 に対応する時短結果が発生して第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 に継続回数が再セットされた場合には、図柄表示装置 4 1 における遊技回の停止結果として潜伏発生図柄の組合せが停止表示される。これにより、潜伏中の第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の継続回数が再セットされたことを遊技者に認識させることが可能となる。

【2208】

第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 の潜伏中に当該第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 よりも優先度が低い第 3 時短状態 S T 4 1 ～ S T 4 3 に対応する時短結果が発生して当該時短結果が無効化された場合、図柄列 Z 1 ～ Z 3 には各有効ライン L 1 ～ L 5 に非リーチ外れ

50

図柄の組合せが停止表示される。非リーチ外れ図柄の組合せは当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される。これにより、時短結果が選択されたにも関わらずそれが無効化されたことを遊技者に認識しづらくさせることが可能となる。

【2209】

第3時短状態ST41～ST43に関する設定の契機とならない時短結果である場合、上記のように図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に当否判定処理の結果が外れ結果である場合にも停止表示される非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示されるとしても、状態示唆領域43には当否判定処理の結果が外れ結果である場合とは異なる停止結果が停止表示される。つまり、第3時短状態ST41～ST43に関する設定の契機とならない時短結果である場合には状態示唆領域43に青色が停止表示されるのに対して、外れ結果である場合には状態示唆領域43に赤色が停止表示される。これにより、遊技ホールの管理者にとって特図表示部37a、37bが視認しづらい状況において図柄表示装置41における図柄列Z1～Z3の各有効ラインL1～L5に非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示された場合、状態示唆領域43を確認することで時短結果及び外れ結果のいずれであるのかを把握することが可能となる。

10

【2210】

<第25の実施形態の別形態>

(1) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43はサポートモードの種類が相違するとともに終了条件となる継続回数も相違する構成としたが、これに限定されることはなく、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43はサポートモードの種類が相違するものの終了条件となる継続回数は同一である構成としてもよい。

20

【2211】

(2) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43のうちサポートモードが最も有利である第3C時短状態ST43の継続回数が最も多い構成としたが、これに限定されることはなく、サポートモードが最も有利である第3C時短状態ST43の継続回数が最も少ない構成としてもよく、サポートモードの有利度が最も低い第3A時短状態ST41の継続回数が最も多い構成としてもよい。

【2212】

(3) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の終了条件がいずれも終了契機となる回数の遊技回が実行されることである構成としたが、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の終了条件が終了契機となる回数の小当たり結果が発生することであってその終了契機となる回数が第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43のそれぞれで相違する構成としてもよい。

30

【2213】

<第26の実施形態>

本実施形態では第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏の態様が上記第21の実施形態と相違している。以下、上記第21の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第21の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

40

【2214】

図199は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【2215】

主側RAM84には上記第21の実施形態と同様に高確率フラグ321、天井カウンタ325、時短対象カウンタ371、時短継続カウンタ375及び時短状態カウンタ386が設けられている。また、主側RAM84には第3時短待機カウンタ387の代わりに、第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402及び第3C時短待機カウンタ403が設けられている。

【2216】

50

第3 A時短待機カウンタ401は、時短状態ST1～ST3Cにおいて第3 A時短状態ST3Aが潜伏していること及びその潜伏中の第3 A時短状態ST3Aの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。第3 B時短待機カウンタ402は、時短状態ST1～ST3Cにおいて第3 B時短状態ST3Bが潜伏していること及びその潜伏中の第3 B時短状態ST3Bの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。第3 C時短待機カウンタ403は、時短状態ST1～ST3Cにおいて第3 C時短状態ST3Cが潜伏していること及びその潜伏中の第3 C時短状態ST3Cの残りの継続回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【2217】

第3 A時短待機カウンタ401にセットされた継続回数の情報、第3 B時短待機カウンタ402にセットされた継続回数の情報、及び第3 C時短待機カウンタ403にセットされた継続回数の情報は、現状の時短状態ST1～ST3Cにおいて遊技回が実行される度に1減算される。時短待機カウンタ401～403のいずれか1個に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況においてそれまで実行対象だった他の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合には、その1以上の継続回数の情報が記憶されている第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となるとともに、その実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは対応する時短待機カウンタ401～403に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。また、複数の時短待機カウンタ401～403に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況においてそれまで実行対象だった他の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合には、1以上の継続回数の情報が記憶されている時短待機カウンタ401～403に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cのうち優先度が高い側の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となるとともに、その実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは対応する時短待機カウンタ401～403に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。

【2218】

図200は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2219】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSD701：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSD702）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSD702：YES）、ステップSD703以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2220】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSD702：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかであるか否かを判定する（ステップSD703）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSD703：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSD704）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSD705）。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHIレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHIレベルとするための処理が実行される。

【2221】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSD706：YE

10

20

30

40

50

S)、時短状態カウンタ386に「50」をセットする(ステップSD707)。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば(ステップSD708: YES)、時短状態カウンタ386に「100」をセットする(ステップSD709)。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば(ステップSD708: NO)、時短状態カウンタ386に「130」をセットする(ステップSD710)。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3A~ST3Cに移行する。

【2222】

ステップSD707、ステップSD709又はステップSD710の処理を実行した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A~ST3Cに移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSD711)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A~ST3Cに移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

10

【2223】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合(ステップSD703: YES)、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば(ステップSD712: YES)、第3A時短待機カウンタ401に「50」をセットする(ステップSD713)。これにより、第3A時短状態ST3Aが潜伏していない状況においては第1時短結果を契機として第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況となり、第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況においては第1時短結果を契機として第3A時短状態ST3Aの継続回数が第3A時短待機カウンタ401に再セットされる。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば(ステップSD714: YES)、第3B時短待機カウンタ402に「100」をセットする(ステップSD715)。これにより、第3B時短状態ST3Bが潜伏していない状況においては第2時短結果を契機として第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況となり、第3B時短状態ST3Bが潜伏している状況においては第2時短結果を契機として第3B時短状態ST3Bの継続回数が第3B時短待機カウンタ402に再セットされる。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば(ステップSD714: NO)、第3C時短待機カウンタ403に「130」をセットする(ステップSD716)。これにより、第3C時短状態ST3Cが潜伏していない状況においては第3時短結果を契機として第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況となり、第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況においては第3時短結果を契機として第3C時短状態ST3Cの継続回数が第3C時短待機カウンタ403に再セットされる。

20

30

【2224】

ステップSD713、ステップSD715又はステップSD716の処理を実行した場合、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSD711)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A~ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

40

【2225】

なお、高確率状態において第1~第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には上記第21の実施形態と同様に当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A~ST3Cへの移行及び第3時短状態ST3A~ST3Cの潜伏がいずれも発生することなく、当該時短結果が無効化される。

【2226】

本実施形態においては音光側MPU93における変動パターンの決定処理の処理内容が上記第22の実施形態における変動パターンの決定処理(図189)と同一となる。つまり、時短状態ST1~ST3Aにおいて第1~第3時短結果に対応する遊技回が開始され

50

たものの、今回の遊技回が終了する場合に今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される場合には、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC809）。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「2・3・4」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ（「3・4・5」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC810）。

10

【2227】

時短状態ST1～ST3Aにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、潜伏に関する設定が主側MPU82において発生する場合には、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC812）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC813）。

20

【2228】

時短状態ST1～ST3Aにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、遊技状態が高確率状態であることにより今回の時短結果が無効化される場合には、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC806）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSC807）。

30

【2229】

図201は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2230】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSD801）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSD801：YES）、ステップSD802以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

40

【2231】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSD801：NO、ステップSD802：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかである場合、時短状態カウンタ386の減算処理（ステップSD803）、第3A時短待機カウンタ401の減算処理（ステップSD804）、第3B時短待機カウンタ402の減算処理（ステップSD805）及び第3C時短待機カウンタ403の減算処理（ステップSD806）を実行する。時短状態カウンタ386の減算処理では、時短状態カウンタ386の値を1減算する。第3A時短待機カウンタ401の減算処理では、第3A時短待機カウンタ401の値が1以

50

上であることを条件として第3 A時短待機カウンタ401の値を1減算する。第3 B時短待機カウンタ402の減算処理では、第3 B時短待機カウンタ402の値が1以上であることを条件として第3 B時短待機カウンタ402の値を1減算する。第3 C時短待機カウンタ403の減算処理では、第3 C時短待機カウンタ403の値が1以上であることを条件として第3 C時短待機カウンタ403の値を1減算する。

【2232】

ここで、時短状態ST1～ST3CにおいてステップSD804～ステップSD806の処理が実行されるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cにおいて1回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ386の値が1減算されるだけではなく、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短待機カウンタ401～403の値が1減算される。したがって、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している場合には、1回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの残りの継続回数が1減算されるだけではなく、潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数も1減算されることになる。

10

【2233】

第1時短状態ST1は継続回数が100回であり、第2時短状態ST2は継続回数が150回であり、第3 A時短状態ST3Aは継続回数が50回であり、第3 B時短状態ST3Bは継続回数が100回であり、第3 C時短状態ST3Cは継続回数が130回であるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に時短待機カウンタ401～403の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST3Cに続けて第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短待機カウンタ401～403に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST3Cの途中で時短待機カウンタ401～403の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

20

【2234】

その後、時短状態カウンタ386の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了したか否かを判定する(ステップSD807)。時短状態カウンタ386の値が「0」である場合(ステップSD807: YES)、時短待機カウンタ401～403のいずれかの値が1以上であるか否かを判定する(ステップSD808)。時短待機カウンタ401～403のいずれかの値が1以上である場合(ステップSD808: YES)、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中であることを意味する。この場合、第3時短設定処理を実行する(ステップSD809)。図202は第3時短設定処理を示すフローチャートである。

30

【2235】

まず第3 C時短待機カウンタ403の値が1以上であるか否かを判定する(ステップSD901)。そして、第3 C時短待機カウンタ403の値が1以上である場合(ステップSD901: YES)、第3 C時短待機カウンタ403の値を時短状態カウンタ375にセットし(ステップSD902)、第3 C時短待機カウンタ403を「0」クリアする(ステップSD903)。これにより、潜伏中であった第3 C時短状態ST3Cが実行対象となるとともに、当該第3 C時短状態ST3Cは第3 C時短待機カウンタ403に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。なお、この場合に第3 A時短待機カウンタ401及び第3 B時短待機カウンタ402は「0」クリアされないため、第3 A時短待機カウンタ401及び第3 B時短待機カウンタ402のうち少なくとも一方の値が1以上である場合にはその状態が維持される。

40

【2236】

第3 C時短待機カウンタ403の値が「0」である場合(ステップSD901: NO)、第3 B時短待機カウンタ402の値が1以上であるか否かを判定する(ステップSD904)。そして、第3 B時短待機カウンタ402の値が1以上である場合(ステップSD

50

904: YES)、第3B時短待機カウンタ402の値を時短状態カウンタ375にセットし(ステップSD905)、第3B時短待機カウンタ402を「0」クリアする(ステップSD906)。これにより、潜伏中であった第3B時短状態ST3Bが実行対象となるとともに、当該第3B時短状態ST3Bは第3B時短待機カウンタ402に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。なお、この場合に第3A時短待機カウンタ401は「0」クリアされないため、第3A時短待機カウンタ401の値が1以上である場合にはその状態が維持される。

【2237】

第3B時短待機カウンタ402の値が「0」である場合(ステップSD904:NO)、時短待機カウンタ401~403のうち第3A時短待機カウンタ401のみが1以上であることを意味する。この場合、第3A時短待機カウンタ401の値を時短状態カウンタ375にセットし(ステップSD907)、第3A時短待機カウンタ401を「0」クリアする(ステップSD908)。これにより、潜伏中であった第3A時短状態ST3Aが実行対象となるとともに、当該第3A時短状態ST3Aは第3A時短待機カウンタ401に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2238】

ステップSD903、ステップSD906又はステップSD908の処理を実行した場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットする(ステップSD909)。これにより、サポートモードの実行態様が第3時短状態ST3A~ST3Cに対応する態様となる。

【2239】

つまり、本実施形態では第3時短状態ST3A~ST3Cのそれぞれが同時に潜伏対象となり得るが、複数の第3時短状態ST3A~ST3Cが潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1~ST3Cが終了した場合には潜伏発動時の優先度に従って、潜伏中から実行対象に切り換わる第3時短状態ST3A~ST3Cが決定される。具体的には、第3時短状態ST3A~ST3Cの中で継続回数が最も多い第3C時短状態ST3Cの優先度が最も高く、第3時短状態ST3A~ST3Cの中で継続回数が次に多い第3B時短状態ST3Bの優先度が次に高く、第3時短状態ST3A~ST3Cの中で継続回数が最も少ない第3A時短状態ST3Aの優先度が最も低い。したがって、第3C時短状態ST3Cが潜伏している場合には当該第3C時短状態ST3Cよりも先に潜伏した第3A時短状態ST3A又は第3B時短状態ST3Bが存在していたとしても、第3C時短状態ST3Cが先に実行対象となる。また、第3C時短状態ST3Cが潜伏しておらず第3B時短状態ST3Bが潜伏している場合には当該第3B時短状態ST3Bよりも先に潜伏した第3A時短状態ST3Aが存在していたとしても、第3B時短状態ST3Bが先に実行対象となる。また、潜伏している第3A時短状態ST3Aは、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏していないことを条件として実行対象となる。

【2240】

時短進行用処理(図201)では第3時短設定処理(ステップSD809)を実行した後、潜伏中であった第3時短状態ST3A~ST3Cが開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSD812)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1~ST3Cが終了して、潜伏していた第3時短状態ST3A~ST3Cが開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする(ステップSD813)。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3A~ST3Cにおける遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST3A~ST3Cが新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2241】

時短待機カウンタ401~403の値が全て「0」である場合(ステップSD808:NO)、時短対象カウンタ371を「0」クリアする(ステップSD810)。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フ

10

20

30

40

50

ラグに「1」をセットし（ステップSD811）、時短状態ST1～ST3Cが終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し（ステップSD812）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSD813）。
【2242】

次に、図203のタイムチャートを参照しながら第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する様子を第1時短状態ST1との関係を例に挙げて説明する。図203（a）は第1時短状態ST1が実行対象となっている期間を示し、図203（b）は第3A時短状態ST3Aが実行対象となっている期間を示し、図203（c）は第3B時短状態ST3Bが実行対象となっている期間を示し、図203（d）は第3C時短状態ST3Cが実行対象となっている期間を示し、図203（e）は第1時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図203（f）は第2時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図203（g）は第3時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図203（h）は第3A時短待機カウンタ401の値が1以上である期間を示し、図203（i）は第3B時短待機カウンタ402の値が1以上である期間を示し、図203（j）は第3C時短待機カウンタ403の値が1以上である期間を示す。

10

【2243】

まず第1の例示パターンについて説明する。

【2244】

t1のタイミングで、5R低確結果に対応する開閉実行モードが終了することで、図203（a）に示すように第1時短状態ST1が開始される。その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt2のタイミングで、図203（g）に示すように第3時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図203（j）に示すように第3C時短待機カウンタ403に第3C時短状態ST3Cの継続回数がセットされ、第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

20

【2245】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況であるt3のタイミングで、図203（e）に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図203（h）に示すように第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数がセットされ、第3A時短状態ST3Aが潜伏した状態となる。つまり、この状況では第3A時短状態ST3A及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

30

【2246】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3A時短状態ST3A及び第3C時短状態ST3Cの両方が潜伏している状況であるt4のタイミングで、図203（f）に示すように第2時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図203（i）に示すように第3B時短待機カウンタ402に第3B時短状態ST3Bの継続回数がセットされ、第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態となる。つまり、この状況では第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

【2247】

その後、t5のタイミングで、図203（a）に示すように第1時短状態ST1が終了する。この場合、図203（h）～図203（j）に示すように第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となっているが、潜伏発動時の優先度は第3C時短状態ST3Cが最も高いため、当該t5のタイミングで図203（d）に示すように第3C時短状態ST3Cが開始される。但し、当該第3C時短状態ST3Cの残りの継続回数は130回ではなく、t5のタイミングにおいて第3C時短待機カウンタ403に記憶されている値に対応する回数となる。また、第3C時短状態ST3Cが開始されたとしても、図203（h）及び図203（i）に示すように第3A時短状態ST3A及び第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態は維持される。

40

【2248】

その後、第3C時短状態ST3Cの途中のタイミングであるt6のタイミングで、図2

50

03 (h) に示すように第3 A時短待機カウンタ401の値が「0」となる。したがって、潜伏していた第3 A時短状態ST3 Aは実行対象となることなく終了する。これにより、第3 B時短状態ST3 Bのみが潜伏している状態となる。

【2249】

その後、t7のタイミングで、図203 (d) に示すように第3 C時短状態ST3 Cが終了する。この場合、図203 (i) に示すように第3 B時短状態ST3 Bが潜伏した状態となっているため、当該t7のタイミングで図203 (c) に示すように第3 B時短状態ST3 Bが開始される。但し、当該第3 B時短状態ST3 Bの残りの継続回数は100回ではなく、t7のタイミングにおいて第3 B時短待機カウンタ402に記憶されている値に対応する回数となる。その後、t8のタイミングで図203 (c) に示すように第3 B時短状態ST3 Bが終了する。

10

【2250】

次に、第2の例示パターンについて説明する。

【2251】

t9のタイミングで、5 R低確結果に対応する開閉実行モードが終了することで、図203 (a) に示すように第1時短状態ST1が開始される。その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt10のタイミングで、図203 (e) に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図203 (h) に示すように第3 A時短待機カウンタ401に第3 A時短状態ST3 Aの継続回数がセットされ、第3 A時短状態ST3 Aが潜伏した状態となる。

20

【2252】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3 A時短状態ST3 Aが潜伏している状況であるt11のタイミングで、図203 (e) に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、既に第3 A時短状態ST3 Aが潜伏している状況であるが、第3 A時短待機カウンタ401に第3 A時短状態ST3 Aの継続回数（具体的には50回）が再セットされる。

【2253】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3 A時短状態ST3 Aが潜伏している状況であるt12のタイミングで、図203 (f) に示すように第2時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図203 (i) に示すように第3 B時短待機カウンタ402に第3 B時短状態ST3 Bの継続回数がセットされ、第3 B時短状態ST3 Bが潜伏した状態となる。つまり、この状況では第3 A時短状態ST3 A及び第3 B時短状態ST3 Bが潜伏した状態となる。

30

【2254】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3 A時短状態ST3 A及び第3 B時短状態ST3 Bが潜伏している状況であるt13のタイミングで、図203 (e) に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、既に第3 A時短状態ST3 Aが潜伏している状況であるが、第3 A時短待機カウンタ401に第3 A時短状態ST3 Aの継続回数（具体的には50回）が再セットされる。

【2255】

その後、t14のタイミングで、図203 (a) に示すように第1時短状態ST1が終了する。この場合、図203 (h) 及び図203 (i) に示すように第3 A時短状態ST3 A及び第3 B時短状態ST3 Bが潜伏した状態となっているが、潜伏発動時の優先度は第3 B時短状態ST3 Bが第3 A時短状態ST3 Aよりも高いため、当該t14のタイミングで図203 (c) に示すように第3 B時短状態ST3 Bが開始される。但し、当該第3 B時短状態ST3 Bの残りの継続回数は100回ではなく、t14のタイミングにおいて第3 B時短待機カウンタ402に記憶されている値に対応する回数となる。また、第3 B時短状態ST3 Bが開始されたとしても、図203 (h) に示すように第3 A時短状態ST3 Aが潜伏した状態は維持される。

40

【2256】

50

その後、第3B時短状態ST3Bの途中であって第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であるt15のタイミング及びt16のタイミングのそれぞれで、図203(e)に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、既に第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であるが、t15のタイミング及びt16のタイミングのそれぞれで第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数(具体的には50回)が再セットされる。

【2257】

その後、t17のタイミングで、図203(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが終了する。この場合、図203(h)に示すように第3A時短状態ST3Aが潜伏した状態となっているため、当該t17のタイミングで図203(b)に示すように第3A時短状態ST3Aが開始される。但し、当該第3A時短状態ST3Aの残りの継続回数は50回ではなく、t17のタイミングにおいて第3A時短待機カウンタ401に記憶されている値に対応する回数となる。その後、t18のタイミングで図203(b)に示すように第3A時短状態ST3Aが終了する。

【2258】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【2259】

主側RAM84には、第3A時短状態ST3Aに対応させて第3A時短待機カウンタ401が設けられており、第3B時短状態ST3Bに対応させて第3B時短待機カウンタ402が設けられており、第3C時短状態ST3Cに対応させて第3C時短待機カウンタ403が設けられている。そして、時短状態ST1～ST3Cにおいて第1時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数がセットされることで第3A時短状態ST3Aが潜伏中となり、時短状態ST1～ST3Cにおいて第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3B時短待機カウンタ402に第3B時短状態ST3Bの継続回数がセットされることで第3B時短状態ST3Bが潜伏中となり、時短状態ST1～ST3Cにおいて第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3C時短待機カウンタ403に第3C時短状態ST3Cの継続回数がセットされることで第3C時短状態ST3Cが潜伏中となる。これにより、複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが同時に潜伏中となることが可能であるため、時短状態ST1～ST3Cである期間を長く確保することが可能となる。

【2260】

実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している場合、潜伏が発生した順序に関係なく実行の優先度に従って実行対象となる第3時短状態ST3A～ST3Cが選択される。これにより、予め定められた優先度が高い第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる機会を多くすることが可能となる。

【2261】

第3C時短状態ST3Cの継続回数が130回であり、第3B時短状態ST3Bの継続回数が100回であり、第3A時短状態ST3Aの継続回数が50回である構成において、潜伏中から実行対象となる場合における優先度は第3C時短状態ST3Cが最も高く、第3B時短状態ST3Bが次に高く、第3A時短状態ST3Aが最も低く設定されている。これにより、初期の継続回数が多い第3時短状態ST3A～ST3Cが優先して実行対象となるようにすることが可能となる。

【2262】

同一種類の第3時短状態ST3A～ST3Cが複数同時に潜伏することはなく、各種類の第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて潜伏可能な数は1個のみとなっている。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが過剰に潜伏してしまわないようにすることが可能となる。

【2263】

所定の第3時短状態ST3A～ST3Cが既に潜伏している状況においてその潜伏して

いる第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する種類の時短結果が発生した場合には、その潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数は当該第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数に初期化される。これにより、潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数が極力多くなるようにすることが可能となるとともに、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて発生した第1～第3時短結果が無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【2264】

<第26の実施形態の別形態>

(1) 第2時短状態ST2も潜伏可能である構成としてもよい。この場合、主側RAM84に第2時短待機カウンタを設け、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第2時短待機カウンタに第2時短状態ST2の継続回数がセットされることで第2時短状態ST2が潜伏する構成としてもよい。この場合、第3時短状態ST3A～ST3C及び第2時短状態ST2が潜伏中である場合には、発生順序に関係なく第2時短状態ST2が優先して実行対象となる構成としてもよく、発生順序に関係なく第3時短状態ST3A～ST3Cが優先して実行対象となる構成としてもよく、発生順序に従って実行対象となる構成としてもよい。

【2265】

(2) 第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全てが潜伏可能である構成に限定されることはなく、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの一部は潜伏可能であるものの第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの残りは潜伏不可である構成としてもよい。この場合、時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合、その時短結果の種類によっては第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏し、その時短結果の種類によってはその発生が無効化されることとなる。

【2266】

(3) 第3A時短状態ST3Aの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも少なく、第3B時短状態ST3Bの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数と同一であり、第3C時短状態ST3Cの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも多く且つ第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は任意である。例えば、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全ての継続回数が、第1時短状態ST1の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第1時短状態ST1の継続回数よりも多く第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第3時短状態ST3A～ST3Cの一部は継続回数が第2時短状態ST2の継続回数以上である構成としてもよい。

【2267】

(4) 第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはそれに対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する構成としたが、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される構成としてもよく、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【2268】

(5) 主側RAM84には第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402及び第3C時短待機カウンタ403の一部が2個以上設けられている構成としてもよい。この場合、2個以上設けられた第3時短待機カウンタ401～403に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cは同時に複数潜伏している状況となり得る。また、主側RAM84には第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402及び第3C時

短待機カウンタ403の全部が2個以上設けられている構成としてもよい。この場合、同一種類の第3時短状態ST3A～ST3Cが同時に複数潜伏している状況となり得る。

【2269】

＜第27の実施形態＞

本実施形態では第3時短状態の種類が上記第26の実施形態と相違している。以下、上記第26の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第26の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2270】

本実施形態ではサポートモードの種類が上記第25の実施形態と同様に、低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード、第2高頻度サポートモード、第3高頻度サポートモード、第4高頻度サポートモード及び第5高頻度サポートモードの6種類となっている（図196（a）参照）。これらサポートモードの内容は上記第25の実施形態と同一である。また、時短状態の種類も上記第25の実施形態と同様に、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の5種類となっている（図196（b）参照）。これら時短状態ST1～ST43の内容は上記第25の実施形態と同一である。

【2271】

時短対象カウンタ371が「1」である場合、上記第26の実施形態と同様に第1時短状態ST1に対応しており、時短対象カウンタ371が「2」である場合、上記第26の実施形態と同様に第2時短状態ST2に対応している。また、時短対象カウンタ371が「3」である場合、第3A時短状態ST41に対応しており、時短対象カウンタ371が「4」である場合、第3B時短状態ST42に対応しており、時短対象カウンタ371が「5」である場合、第3C時短状態ST43に対応している。

【2272】

時短対象カウンタ371の値が「3」である場合、すなわち第3A時短状態ST41である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の中期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509に代えて普段開放カウンタに「2」をセットする処理が実行されるとともにステップS510及びステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は中期待度モードとなる。

【2273】

時短対象カウンタ371の値が「4」である場合、すなわち第3B時短状態ST42である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の短期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509に代えて普段開放カウンタに「2」をセットする処理が実行されるとともにステップS510及びステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は中期待度モードとなる。

【2274】

時短対象カウンタ371の値が「5」である場合、すなわち第3C時短状態ST43である場合、主側MPU82の普図変動開始処理（図16）において普図当否判定処理（ステップS407）を実行する場合に普図側の低確率テーブル（ステップS405）が読み出され、さらに普図表示部38aの変動表示を開始する場合（ステップS415）に普図側の中期間が当該変動表示回の継続期間として選択される。また、主側MPU82の普図確定中処理（図17）において普電開放状態の制御処理としてステップS509～ステップS511が実行されることにより当該普電開放状態は高期待度モードとなる。

【2275】

図204は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2276】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSE101：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSE102）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSE102：YES）、ステップSE103以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST41～ST43の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

10

【2277】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSE102：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST43のいずれかであるか否かを判定する（ステップSE103）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSE103：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSE104）。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

20

【2278】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSE105：YES）、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSE106）、時短状態カウンタ386に「50」をセットする（ステップSE107）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3A時短状態ST41に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSE108：YES）、時短対象カウンタ371に「4」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSE109）、時短状態カウンタ386に「100」をセットする（ステップSE110）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3B時短状態ST42に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSE108：NO）、時短対象カウンタ371に「5」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSE111）、時短状態カウンタ386に「130」をセットする（ステップSE112）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3C時短状態ST43に移行する。

30

【2279】

ステップSE107、ステップSE110又はステップSE112の処理を実行した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE113）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す演出及び第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

40

【2280】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSE103：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSE114：YES）、第3A時短待機カウンタ401に「50」をセットする（ステップSE115）。これにより、第3A時短状態ST41が潜伏していない状況においては第1時短結果を契機として第3A時短状態ST41が潜伏している状況となり、第3A時短状態ST41が潜伏している状況においては第1時短結果を契機として第3A時短状態ST41の継続回数が第3A時

50

短待機カウンタ401に再セットされる。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSE116：YES）、第3B時短待機カウンタ402に「100」をセットする（ステップSE117）。これにより、第3B時短状態ST42が潜伏していない状況においては第2時短結果を契機として第3B時短状態ST42が潜伏している状況となり、第3B時短状態ST42が潜伏している状況においては第2時短結果を契機として第3B時短状態ST42の継続回数が第3B時短待機カウンタ402に再セットされる。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSE116：NO）、第3C時短待機カウンタ403に「130」をセットする（ステップSE118）。これにより、第3C時短状態ST43が潜伏していない状況においては第3時短結果を契機として第3C時短状態ST43が潜伏している状況となり、第3C時短状態ST43が潜伏している状況においては第3時短結果を契機として第3C時短状態ST43の継続回数が第3C時短待機カウンタ403に再セットされる。

【2281】

ステップSE115、ステップSE117又はステップSE118の処理を実行した場合、第3時短状態ST41～ST43の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE113）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST41～ST43の潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST41～ST43が実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2282】

なお、高確率状態において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には上記第26の実施形態と同様に当該時短結果を契機とした第3時短状態ST41～ST43への移行及び第3時短状態ST41～ST43の潜伏がいずれも発生することなく、当該時短結果が無効化される。

【2283】

本実施形態においては音光側MPU93における変動パターンの決定処理の処理内容が上記第22の実施形態における変動パターンの決定処理（図189）と同一となる。つまり、時短状態ST1～ST43において第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合に今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST41～ST43が新たに開始される場合には、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC809）。時短示唆用の停止図柄決定処理では上記第21の実施形態と同様に、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「2・3・4」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ（「3・4・5」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC810）。

【2284】

時短状態ST1～ST43において第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、潜伏に関する設定が主側MPU82において発生する場合には、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC812）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第3

時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC813）。

【2285】

時短状態ST1～ST43において第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、遊技状態が高確率状態であることにより今回の時短結果が無効化される場合には、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC806）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSC807）。

【2286】

図205は時短進行用処理（図201）のステップSD809にて実行される本実施形態における第3時短設定処理を示すフローチャートである。

【2287】

まず第3C時短待機カウンタ403の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSE201）。そして、第3C時短待機カウンタ403の値が1以上である場合（ステップSE201：YES）、時短対象カウンタ371に「5」をセットし（ステップSE202）、第3C時短待機カウンタ403の値を時短状態カウンタ375にセットし（ステップSE203）、第3C時短待機カウンタ403を「0」クリアする（ステップSE204）。これにより、潜伏中であった第3C時短状態ST43が実行対象となるとともに、当該第3C時短状態ST43は第3C時短待機カウンタ403に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2288】

第3C時短待機カウンタ403の値が「0」である場合（ステップSE201：NO）、第3B時短待機カウンタ402の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSE205）。そして、第3B時短待機カウンタ402の値が1以上である場合（ステップSE205：YES）、時短対象カウンタ371に「4」をセットし（ステップSE206）、第3B時短待機カウンタ402の値を時短状態カウンタ375にセットし（ステップSE207）、第3B時短待機カウンタ402を「0」クリアする（ステップSE208）。これにより、潜伏中であった第3B時短状態ST42が実行対象となるとともに、当該第3B時短状態ST42は第3B時短待機カウンタ402に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2289】

第3B時短待機カウンタ402の値が「0」である場合（ステップSE205：NO）、時短待機カウンタ401～403のうち第3A時短待機カウンタ401のみが1以上であることを意味する。この場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットし（ステップSE209）、第3A時短待機カウンタ401の値を時短状態カウンタ375にセットし（ステップSE210）、第3A時短待機カウンタ401を「0」クリアする（ステップSE211）。これにより、潜伏中であった第3A時短状態ST41が実行対象となるとともに、当該第3A時短状態ST41は第3A時短待機カウンタ401に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。

【2290】

つまり、本実施形態では第3時短状態ST41～ST43のそれぞれが同時に潜伏対象となり得るが、複数の第3時短状態ST41～ST43が潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1～ST43が終了した場合には潜伏発動時の優先度に従って、潜伏中から実行対象に切り換わる第3時短状態ST41～ST43が決定される。具体的には

10

20

30

40

50

、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードの有利度が最も高い第3C時短状態ST43の優先度が最も高く、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードの有利度が次に高い第3B時短状態ST42の優先度が次に高く、第3時短状態ST41～ST43の中でサポートモードの有利度が最も低い第3A時短状態ST41の優先度が最も低い。したがって、第3C時短状態ST43が潜伏している場合には当該第3C時短状態ST43よりも先に潜伏した第3A時短状態ST41又は第3B時短状態ST42が存在していたとしても、第3C時短状態ST43が先に実行対象となる。また、第3C時短状態ST43が潜伏しておらず第3B時短状態ST42が潜伏している場合には当該第3B時短状態ST42よりも先に潜伏した第3A時短状態ST41が存在していたとしても、第3B時短状態ST42が先に実行対象となる。また、潜伏している第3A時短状態ST41は、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43が潜伏していないことを条件として実行対象となる。

10

【2291】

複数種類の第3時短状態ST41～ST43は終了条件となる継続回数が相違しているだけではなく、サポートモードが相違している。これにより、第3時短状態ST41～ST43を多様化させることが可能となる。

【2292】

＜第27の実施形態の別形態＞

(1) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43はサポートモードの種類が相違するとともに終了条件となる継続回数も相違する構成としたが、これに限定されることはなく、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43はサポートモードの種類が相違するものの終了条件となる継続回数は同一である構成としてもよい。

20

【2293】

(2) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43のうちサポートモードが最も有利である第3C時短状態ST43の継続回数が最も多い構成としたが、これに限定されることはなく、サポートモードが最も有利である第3C時短状態ST43の継続回数が最も少ない構成としてもよく、サポートモードの有利度が最も低い第3A時短状態ST41の継続回数が最も多い構成としてもよい。

【2294】

(3) 第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の終了条件がいずれも終了契機となる回数の遊技回が実行されることである構成としたが、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の終了条件が終了契機となる回数の小当たり結果が発生することであってその終了契機となる回数が第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43のそれぞれで相違する構成としてもよい。

30

【2295】

＜第28の実施形態＞

本実施形態では、複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況において実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合における潜伏発動時の基準が上記第26の実施形態と相違している。以下、上記第26の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第26の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

40

【2296】

図206(a)は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【2297】

主側RAM84には上記第26の実施形態と同様に高確率フラグ321、天井カウンタ325、時短対象カウンタ371、時短継続カウンタ375、時短状態カウンタ386、第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402及び第3C時短待機カウ

50

ンタ４０３が設けられている。また、主側ＲＡＭ８４には発生順記憶エリア４０５が設けられている。

【２２９８】

図２０６（ｂ）は発生順記憶エリア４０５を説明するための説明図である。

【２２９９】

発生順記憶エリア４０５は、時短状態ＳＴ１～ＳＴ３Ａにおいて複数の第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｂが潜伏対象となった場合にその潜伏対象として発生した順序を主側ＭＰＵ８２にて特定するための記憶エリアである。発生順記憶エリア４０５には発生順序を示す番号が「１」～「３」の連番で設定されており、各発生順序のデータに１対１で対応させて潜伏対象となっている第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃの情報を格納するための格納エリアが設けられている。第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃのいずれもが潜伏していない状況における時短状態ＳＴ１～ＳＴ３Ｃにおいて第１～第３時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃの種類を示す情報が「１」の順序に対応する格納エリアに格納される。また、その状況で潜伏対象となっている第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃとは異なる種類の第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃに対応する時短結果の遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃの種類を示す情報が「２」の順序に対応する格納エリアに格納される。また、その状況で潜伏対象となっている第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃとは異なる種類の第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃに対応する時短結果の遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃの種類を示す情報が「３」の順序に対応する格納エリアに格納される。

【２３００】

実行対象となっている時短状態ＳＴ１～ＳＴ３Ｃが終了する前に第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃの残りの継続回数が０回となった場合には、発生順記憶エリア４０５の情報をシフトする処理を実行する。具体的には、潜伏中に残りの継続回数が０回となった第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃが発生順序記憶エリア４０５における「１」の順序に対応する格納エリアに格納されている場合には、「２」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「１」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「３」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「２」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「３」の順序に対応する格納エリアを「０」クリアする。潜伏中に残りの継続回数が０回となった第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃが発生順序記憶エリア４０５における「２」の順序に対応する格納エリアに格納されている場合には、「１」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報はそのまま維持させながら、「３」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「２」の順序に対応する格納エリアにシフトし、「３」の順序に対応する格納エリアを「０」クリアする。

【２３０１】

第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃが潜伏している状況において実行対象となっている時短状態ＳＴ１～ＳＴ３Ｃが終了した場合、発生順記憶エリア４０５における「１」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報に対応する第３時短状態ＳＴ３Ａ～ＳＴ３Ｃが実行対象となる。また、発生順記憶エリア４０５の情報をシフトする処理を実行する。具体的には、「２」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「１」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「３」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「２」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「３」の順序に対応する格納エリアを「０」クリアする。

【２３０２】

図２０７は特図確定中処理（図１２８）のステップＳ８３０９にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【２３０３】

今回の遊技回の遊技結果が第１～第３時短結果のいずれかである場合（ステップＳＥ３０１：ＹＥＳ）、高確率フラグ３２１に「１」がセットされているか否かを判定する（ス

10

20

30

40

50

テップ S E 3 0 2)。そして、高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされている場合には（ステップ S E 3 0 2：Y E S）、ステップ S E 3 0 3 以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2304】

高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされていない場合（ステップ S E 3 0 2：N O）、時短対象カウンタ 3 7 1 の値が 1 以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第 1 ～第 3 時短状態 S T 1 ～ S T 3 C のいずれかであるか否かを判定する（ステップ S E 3 0 3）。時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「0」である場合（ステップ S E 3 0 3：N O）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ 3 7 1 に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ 3 7 5 を「0」クリアし（ステップ S E 3 0 4）、主側 R A M 8 4 における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップ S E 3 0 5）。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第 1 5 の実施形態と同様に第 2 大当たり信号用の外端端子 3 3 3 に対して第 2 大当たり信号の出力状態を O N 継続期間に亘って H I レベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子 3 3 4 に対して有利状態信号の出力状態を H I レベルとするための処理が実行される。

【2305】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第 1 時短結果であれば（ステップ S E 3 0 6：Y E S）、時短状態カウンタ 3 8 6 に「50」をセットする（ステップ S E 3 0 7）。また、今回の遊技回の遊技結果が第 2 時短結果であれば（ステップ S E 3 0 8：Y E S）、時短状態カウンタ 3 8 6 に「100」をセットする（ステップ S E 3 0 9）。また、今回の遊技回の遊技結果が第 3 時短結果であれば（ステップ S E 3 0 8：N O）、時短状態カウンタ 3 8 6 に「130」をセットする（ステップ S E 3 1 0）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C に移行する。

【2306】

ステップ S E 3 0 7、ステップ S E 3 0 9 又はステップ S E 3 1 0 の処理を実行した場合、通常遊技状態から第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S E 3 1 1）。音光側 M P U 9 3 は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C に移行したことを示す演出が図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2307】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が 1 以上である場合（ステップ S E 3 0 3：Y E S）、今回の遊技回の遊技結果が第 1 時短結果であれば（ステップ S E 3 1 2：Y E S）、第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 の値が 1 以上であるか否かを判定することで、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中であるか否かを判定する（ステップ S E 3 1 3）。第 3 A 時短状態 S T 3 A が既に潜伏中である場合（ステップ S E 3 1 3：Y E S）、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中において第 1 時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第 1 時短結果は無効化される。

【2308】

第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中ではない場合（ステップ S E 3 1 3：N O）、第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 に「50」をセットする（ステップ S E 3 1 4）。これにより、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏した状態となる。

【2309】

その後、発生順記憶エリア 4 0 5 への設定処理を実行する（ステップ S E 3 1 5）。当該設定処理では、発生順記憶エリア 4 0 5 において第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の種類を示す情報が格納されていない格納エリアのうち順序の情報が前側の順序に対応する格納エリアに、第 3 A 時短状態 S T 3 A の種類を示す情報を格納する。この場合、全ての格

10

20

30

40

50

納エリアに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されていない場合には「1」の順序に対応する格納エリアに第3A時短状態ST3Aの種類を示す情報を格納し、「1」の順序に対応する格納エリアのみに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「2」の順序に対応する格納エリアに第3A時短状態ST3Aの種類を示す情報を格納し、「1」の順序及び「2」の順序のそれぞれに対応する格納エリアに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「3」の順序に対応する格納エリアに第3A時短状態ST3Aの種類を示す情報を格納する。

【2310】

その後、第3A時短状態ST3Aの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE316）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3A時短状態ST3Aの潜伏が発生したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3A時短状態ST3Aが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

10

【2311】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合であって（ステップSE303：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSE317：YES）、第3B時短待機カウンタ402の値が1以上であるか否かを判定することで、第3B時短状態ST3Bが潜伏中であるか否かを判定する（ステップSE318）。第3B時短状態ST3Bが既に潜伏中である場合（ステップSE318：YES）、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第3B時短状態ST3Bが潜伏中において第2時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第2時短結果は無効化される。

20

【2312】

第3B時短状態ST3Bが潜伏中ではない場合（ステップSE318：NO）、第3B時短待機カウンタ402に「100」をセットする（ステップSE319）。これにより、第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態となる。

【2313】

その後、発生順記憶エリア405への設定処理を実行する（ステップSE320）。当該設定処理では、発生順記憶エリア405において第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されていない格納エリアのうち順序の情報が前側の順序に対応する格納エリアに、第3B時短状態ST3Bの種類を示す情報を格納する。この場合、全ての格納エリアに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されていない場合には「1」の順序に対応する格納エリアに第3B時短状態ST3Bの種類を示す情報を格納し、「1」の順序に対応する格納エリアのみに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「2」の順序に対応する格納エリアに第3B時短状態ST3Bの種類を示す情報を格納し、「1」の順序及び「2」の順序のそれぞれに対応する格納エリアに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「3」の順序に対応する格納エリアに第3B時短状態ST3Bの種類を示す情報を格納する。

30

40

【2314】

その後、第3B時短状態ST3Bの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE321）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3B時短状態ST3Bの潜伏が発生したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3B時短状態ST3Bが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2315】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合であって（ステップSE303：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSE317：NO）、

50

第3 C時短待機カウンタ403の値が1以上であるか否かを判定することで、第3 C時短状態ST3Cが潜伏中であるか否かを判定する(ステップSE322)。第3 C時短状態ST3Cが既に潜伏中である場合(ステップSE322: YES)、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、第3 C時短状態ST3Cが潜伏中において第3時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても当該第3時短結果は無効化される。

【2316】

第3 C時短状態ST3Cが潜伏中ではない場合(ステップSE322: NO)、第3 C時短待機カウンタ403に「130」をセットする(ステップSE323)。これにより、第3 C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

【2317】

その後、発生順記憶エリア405への設定処理を実行する(ステップSE324)。当該設定処理では、発生順記憶エリア405において第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す情報が格納されていない格納エリアのうち順序の情報が前側の順序に対応する格納エリアに、第3 C時短状態ST3Cの種類を示す情報を格納する。この場合、全ての格納エリアに第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す情報が格納されていない場合には「1」の順序に対応する格納エリアに第3 C時短状態ST3Cの種類を示す情報を格納し、「1」の順序に対応する格納エリアのみに第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「2」の順序に対応する格納エリアに第3 C時短状態ST3Cの種類を示す情報を格納し、「1」の順序及び「2」の順序のそれぞれに対応する格納エリアに第3時短状態ST3A~ST3Cの種類を示す情報が格納されている場合には「3」の順序に対応する格納エリアに第3 C時短状態ST3Cの種類を示す情報を格納する。

【2318】

その後、第3 C時短状態ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSE325)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3 C時短状態ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3 C時短状態ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2319】

本実施形態においては音光側MPU93における変動パターンの決定処理の処理内容が上記第21の実施形態における変動パターンの決定処理(図185)と同一となる。つまり、時短状態ST1~ST3Aにおいて第1~第3時短結果に対応する遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合に今回の第1~第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A~ST3Cが新たに開始される場合には、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する(ステップSC509)。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1~Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」)を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ(「1・2・3」)を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ(「2・3・4」)を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ(「3・4・5」)を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1~第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1~L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する(ステップSC510)。

【2320】

時短状態ST1~ST3Aにおいて第1~第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、潜伏に関する設定が主側MPU82において発生する場合には、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する(ステップSC513)。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1~Z3に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ(「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」)を選択する。この場合、今回が

10

20

30

40

50

第1時短結果であれば第1潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。その後、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC514）。

【2321】

高確率状態である状況において第1～第3時短結果となった場合、又は時短状態ST1～ST3Cである状況において第1～第3時短結果となったものの当該第1～第3時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生しなかった場合には、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC506）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSC507）。

【2322】

図208は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2323】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSE401）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSE401：YES）、ステップSE402以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【2324】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSE401：NO、ステップSE402：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかである場合、時短状態カウンタ386の減算処理（ステップSE403）、第3A時短待機カウンタ401の減算処理（ステップSE404）、第3B時短待機カウンタ402の減算処理（ステップSE405）及び第3C時短待機カウンタ403の減算処理（ステップSE406）を実行する。時短状態カウンタ386の減算処理では、時短状態カウンタ386の値を1減算する。第3A時短待機カウンタ401の減算処理では、第3A時短待機カウンタ401の値が1以上であることを条件として第3A時短待機カウンタ401の値を1減算する。第3B時短待機カウンタ402の減算処理では、第3B時短待機カウンタ402の値が1以上であることを条件として第3B時短待機カウンタ402の値を1減算する。第3C時短待機カウンタ403の減算処理では、第3C時短待機カウンタ403の値が1以上であることを条件として第3C時短待機カウンタ403の値を1減算する。

【2325】

ここで、時短状態ST1～ST3CにおいてステップSE404～ステップSE406の処理が実行されるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cにおいて1回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ386の値が1減算されるだけでなく、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短待機カウンタ401～403の値が1減算される。したがって、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している場合には、1回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cの残りの継続回数が1減算されるだけでなく、潜伏している第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数も1減算されることになる。

【2326】

第1時短状態ST1は継続回数が100回であり、第2時短状態ST2は継続回数が150回であり、第3A時短状態ST3Aは継続回数が50回であり、第3B時短状態ST3Bは継続回数が100回であり、第3C時短状態ST3Cは継続回数が130回であるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に時短待機カウンタ401～403の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST3Cに続けて第3時短状態ST3A～ST3Cが対応する時短待機カウンタ401～403に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST3Cの途中で時短待機カウンタ401～403の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

10

【2327】

その後、発生順記憶エリア405の更新契機が発生したか否かを判定する（ステップSE407）。具体的には、値が1以上であった第3A～第3C時短待機カウンタ401～403のいずれかの値がステップSE404～ステップSE406の処理が実行されたことによって「0」となったか否かを判定する。1減算することによって「0」となった時短待機カウンタ401～403が存在している場合（ステップSE407：YES）、発生順記憶エリア405の更新契機が発生したとして、発生順記憶エリア405の更新処理を実行する（ステップSE408）。当該更新処理では、発生順記憶エリア405において1減算することによって「0」となった時短待機カウンタ401～403に対応する第3時短状態ST3A～ST3Bの種類を示す情報が格納された格納エリアを「0」クリアする。また、その「0」クリアした格納エリアが「1」の順序に対応する格納エリアである場合には、「2」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「1」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。また、「0」クリアした格納エリアが「2」の順序に対応する格納エリアである場合には、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。

20

【2328】

ステップSE407にて否定判定をした場合又はステップSE408の処理を実行した場合、時短状態カウンタ386の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了したか否かを判定する（ステップSE409）。時短状態カウンタ386の値が「0」である場合（ステップSE409：YES）、発生順記憶エリア405における「1」の順序に対応する格納エリアに第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報が格納されているか否かを判定する（ステップSE410）。

30

【2329】

ステップSE410にて肯定判定をした場合、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが存在していることを意味する。この場合、まず時短状態カウンタ386への設定処理を実行する（ステップSE411）。時短状態カウンタ386への設定処理では、発生順記憶エリア405において「1」の順序に対応する格納エリアに格納された第3時短状態ST3A～ST3Cの種類の情報を特定する。そして、その種類の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短待機カウンタ401～403の値を時短状態カウンタ386にセットした後に、その時短待機カウンタ401～403を「0」クリアする。具体的には、「1」の順番の格納エリアに第3A時短状態ST3Aの種類の情報が格納されている場合には第3A時短待機カウンタ401の値を時短状態カウンタ386にセットした後に第3A時短待機カウンタ401を「0」クリアし、「1」の順番の格納エリアに第3B時短状態ST3Bの種類の情報が格納されている場合には第3B時短待機カウンタ402の値を時短状態カウンタ386にセットした後に第3B時短待機カウンタ402を「0」クリアし、「1」の順番の格納エリアに第3C時短状態ST3Cの種類の情報が格納されている場合には第3C時短待機カウンタ403の値を時短状態カウンタ386にセットした後

40

50

に第3 C時短待機カウンタ403を「0」クリアする。

【2330】

その後、時短対象カウンタ371の設定処理を実行する(ステップSE412)。時短対象カウンタ371の設定処理では、時短対象カウンタ371に第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する「3」をセットする。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる。また、この実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは、ステップSE411にて時短状態カウンタ386にセットした値に対応する継続回数に亘って実行される。

【2331】

その後、発生順記憶エリア405の更新処理を実行する(ステップSE413)。当該更新処理では、「2」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「1」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。

【2332】

その後、潜伏中であった第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSE416)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1～ST3Cが終了して、潜伏していた第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする(ステップSE417)。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3A～ST3Cにおける遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2333】

ステップSE410にて否定判定をした場合、時短対象カウンタ371を「0」クリアする(ステップSE414)。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし(ステップSE415)、時短状態ST1～ST3Cが終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し(ステップSE416)、時短継続カウンタ375を「0」クリアする(ステップSE417)。

【2334】

次に、図209のタイムチャートを参照しながら第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する様子を第1時短状態ST1との関係を例に挙げて説明する。図209(a)は第1時短状態ST1が実行対象となっている期間を示し、図209(b)は第3A時短状態ST3Aが実行対象となっている期間を示し、図209(c)は第3B時短状態ST3Bが実行対象となっている期間を示し、図209(d)は第3C時短状態ST3Cが実行対象となっている期間を示し、図209(e)は第1時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図209(f)は第2時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図209(g)は第3時短結果に対応する遊技回が終了するタイミングを示し、図209(h)は第3A時短待機カウンタ401の値が1以上である期間を示し、図209(i)は第3B時短待機カウンタ402の値が1以上である期間を示し、図209(j)は第3C時短待機カウンタ403の値が1以上である期間を示す。

【2335】

t1のタイミングで、5R低確結果に対応する開閉実行モードが終了することで、図209(a)に示すように第1時短状態ST1が開始される。その後、第1時短状態ST1の途中のタイミングであるt2のタイミングで、図209(e)に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図209(h)に示すように第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数がセットされ、第3A時短状態ST3Aが潜伏した状態となる。

10

20

30

40

50

【2336】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であるt3のタイミングで、図209(f)に示すように第2時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図209(i)に示すように第3B時短待機カウンタ402に第3B時短状態ST3Bの継続回数がセットされ、第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態となる。つまり、この状況では第3A時短状態ST3A及び第3B時短状態ST3Bが潜伏した状態となる。

【2337】

その後、第1時短状態ST1の途中であって第3A時短状態ST3A及び第3B時短状態ST3Bの両方が潜伏している状況であるt4のタイミングで、図209(g)に示すように第3時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図209(j)に示すように第3C時短待機カウンタ403に第3C時短状態ST3Cの継続回数がセットされ、第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。つまり、この状況では第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となる。

【2338】

その後、t5のタイミングで、図209(a)に示すように第1時短状態ST1が終了する。この場合、図209(h)～図209(j)に示すように第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となっているが、発生順序が先であった第3時短状態ST3A～ST3Cから先に実行対象となるため、当該t5のタイミングでは図209(b)に示すように第3A時短状態ST3Aが開始される。但し、当該第3A時短状態ST3Aの残りの継続回数は50回ではなく、t5のタイミングにおいて第3A時短待機カウンタ401に記憶されている値に対応する回数となる。また、第3A時短状態ST3Aが開始されたとしても、図209(i)及び図209(j)に示すように第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態は維持される。

【2339】

その後、t6のタイミングで、図209(b)に示すように第3A時短状態ST3Aが終了する。この場合、図209(i)及び図209(j)に示すように第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態となっているが、発生順序が先であった第3時短状態ST3A～ST3Cから先に実行対象となるため、当該t6のタイミングでは図209(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが開始される。但し、当該第3B時短状態ST3Bの残りの継続回数は100回ではなく、t6のタイミングにおいて第3B時短待機カウンタ402に記憶されている値に対応する回数となる。また、第3B時短状態ST3Bが開始されたとしても、図209(j)に示すように第3C時短状態ST3Cが潜伏した状態は維持される。

【2340】

その後、第3B時短状態ST3Bの途中であって第3C時短状態ST3Cが潜伏している状況であるタイミングであるt7のタイミングで、図209(e)に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図209(h)に示すように第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数がセットされ、第3A時短状態ST3Aが潜伏した状態となる。

【2341】

その後、第3B時短状態ST3Bの途中であって第3A時短状態ST3A及び第3C時短状態ST3Cの両方が潜伏している状況であるタイミングであるt8のタイミングで、図209(e)に示すように第1時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図209(h)に示すように既に第3A時短状態ST3Aが潜伏している状況であるため、当該第1時短結果は無効化される。

【2342】

その後、t9のタイミングで、図209(c)に示すように第3B時短状態ST3Bが終了する。この場合、図209(h)及び図209(j)に示すように第3A時短状態S

10

20

30

40

50

T 3 A 及び第 3 C 時短状態 S T 3 C が潜伏した状態となっているが、発生順序が先であった第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C から先に実行対象となるため、当該 t 9 のタイミングでは図 2 0 9 (d) に示すように第 3 C 時短状態 S T 3 C が開始される。但し、当該第 3 C 時短状態 S T 3 C の残りの継続回数は 1 3 0 回ではなく、t 9 のタイミングにおいて第 3 C 時短待機カウンタ 4 0 3 に記憶されている値に対応する回数となる。また、第 3 C 時短状態 S T 3 C が開始されたとしても、図 2 0 9 (h) に示すように第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏した状態は維持される。

【 2 3 4 3 】

その後、第 3 C 時短状態 S T 3 C の途中であって第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏している状況であるタイミングである t 1 0 のタイミングで、図 2 0 9 (e) に示すように第 1 時短結果に対応する遊技回が終了する。この場合、図 2 0 9 (h) に示すように既に第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏している状況であるため、当該第 1 時短結果は無効化される。

【 2 3 4 4 】

その後、第 3 C 時短状態 S T 3 C の途中のタイミングである t 1 1 のタイミングで、図 2 0 9 (h) に示すように第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 の値が「 0 」となる。したがって、潜伏していた第 3 A 時短状態 S T 3 A は実行対象となることなく終了する。その後、t 1 2 のタイミングで図 2 0 9 (d) に示すように第 3 C 時短状態 S T 3 C が終了する。

【 2 3 4 5 】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【 2 3 4 6 】

実行対象の時短状態 S T 1 ~ S T 3 C が終了した場合に複数の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が潜伏している場合、潜伏が発生した順序が早い第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C から先に実行対象に設定される。これにより、潜伏が発生した順序に従って潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C を実行対象とすることが可能となる。

【 2 3 4 7 】

同一種類の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が複数同時に潜伏することはなく、各種類の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C において潜伏可能な数は 1 個のみとなっている。これにより、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が過剰に潜伏してしまわないようにすることが可能となる。

【 2 3 4 8 】

所定の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が既に潜伏している状況においてその潜伏している第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する種類の時短結果が発生した場合には、その時短結果が無効化される。これにより、潜伏が発生した順序に従って潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が実行対象となる構成において、潜伏の発生順序の扱いが複雑なものとなってしまうようにすることが可能となる。

【 2 3 4 9 】

< 第 2 8 の実施形態の別形態 >

(1) 図 2 1 0 は第 2 8 の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップ S E 5 0 1 ~ ステップ S E 5 1 1 では上記第 2 8 の実施形態における時短結果用の設定処理 (図 2 0 7) におけるステップ S E 3 0 1 ~ ステップ S E 3 1 1 と同一の処理を実行する。

【 2 3 5 0 】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が 1 以上である場合 (ステップ S E 5 0 3 : Y E S) 、今回の遊技回の遊技結果が第 1 時短結果であれば (ステップ S E 5 1 2 : Y E S) 、第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 の値が 1 以上であるか否かに関係なく、第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 に「 5 0 」をセットし (ステップ S E 5 1 3) 、発生順記憶エリア 4 0 5 への設定処理を実行し (ステップ S E 5 1 4) 、第 3 A 時短状態 S T 3 A の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する (ステップ S E 5 1 5) 。つまり、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中に第 1 時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第 3 A 時短待機カウンタ 4 0 1 に第 3 A 時短状態 S T 3 A の継続回数が再セットされる

10

20

30

40

50

。また、ステップ S E 5 1 4 の発生順記憶エリア 4 0 5 への設定処理では、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中ではない場合に第 1 時短結果が発生した場合には上記第 2 8 の実施形態における時短結果用の設定処理（図 2 0 7）のステップ S E 3 1 5 と同一の処理を実行する。

【2 3 5 1】

一方、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中である場合に第 1 時短結果が発生した場合には、まず発生順記憶エリア 4 0 5 において第 3 A 時短状態 S T 3 A の種類の情報が格納された格納エリアを「0」クリアする。また、その「0」クリアした格納エリアが「1」の順序に対応する格納エリアであった場合には、「2」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「1」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。また、「0」クリアした格納エリアが「2」の順序に対応する格納エリアである場合には、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。そして、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の種類が格納されていない格納エリアのうち最も前側の順序に対応する格納エリアに第 3 A 時短状態 S T 3 A の種類の情報を格納する。これにより、第 3 A 時短状態 S T 3 A が潜伏中である場合に第 1 時短結果が発生した場合、当該第 3 A 時短状態 S T 3 A の発生順序は第 1 時短結果が新たに発生した場合に既に潜伏中であった他の第 3 時短状態 S T 3 B , S T 3 C よりも後の発生順序に設定される。

【2 3 5 2】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が 1 以上である場合であって（ステップ S E 5 0 3 : Y E S）、今回の遊技回の遊技結果が第 2 時短結果であれば（ステップ S E 5 1 6 : Y E S）、第 3 B 時短待機カウンタ 4 0 2 の値が 1 以上であるか否かに関係なく、第 3 B 時短待機カウンタ 4 0 2 に「1 0 0」をセットし（ステップ S E 5 1 7）、発生順記憶エリア 4 0 5 への設定処理を実行し（ステップ S E 5 1 8）、第 3 B 時短状態 S T 3 B の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S E 5 1 9）。つまり、第 3 B 時短状態 S T 3 B が潜伏中に第 2 時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第 3 B 時短待機カウンタ 4 0 2 に第 3 B 時短状態 S T 3 B の継続回数が再セットされる。また、ステップ S E 5 1 8 の発生順記憶エリア 4 0 5 への設定処理では、第 3 B 時短状態 S T 3 B が潜伏中ではない場合に第 2 時短結果が発生した場合には上記第 2 8 の実施形態における時短結果用の設定処理（図 2 0 7）のステップ S E 3 2 0 と同一の処理を実行する。

【2 3 5 3】

一方、第 3 B 時短状態 S T 3 B が潜伏中である場合に第 2 時短結果が発生した場合には、まず発生順記憶エリア 4 0 5 において第 3 B 時短状態 S T 3 B の種類の情報が格納された格納エリアを「0」クリアする。また、その「0」クリアした格納エリアが「1」の順序に対応する格納エリアであった場合には、「2」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「1」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。また、「0」クリアした格納エリアが「2」の順序に対応する格納エリアである場合には、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。そして、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の種類が格納されていない格納エリアのうち最も前側の順序に対応する格納エリアに第 3 B 時短状態 S T 3 B の種類の情報を格納する。これにより、第 3 B 時短状態 S T 3 B が潜伏中である場合に第 2 時短結果が発生した場合、当該第 3 B 時短状態 S T 3 B の発生順序は第 2 時短結果が新たに発生した場合に既に潜伏中であった他の第 3 時短状態 S T 3 A , S T 3 C よりも後の発生順序に設定される。

【2 3 5 4】

時短対象カウンタ 371 の値が 1 以上である場合であって（ステップ S E 5 0 3：Y E S）、今回の遊技回の遊技結果が第 3 時短結果であれば（ステップ S E 5 1 6：N O）、第 3 C 時短待機カウンタ 403 の値が 1 以上であるか否かに関係なく、第 3 C 時短待機カウンタ 403 に「130」をセットし（ステップ S E 5 2 0）、発生順記憶エリア 405 への設定処理を実行し（ステップ S E 5 2 1）、第 3 C 時短状態 S T 3 C の潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 93 に送信する（ステップ S E 5 2 2）。つまり、第 3 C 時短状態 S T 3 C が潜伏中に第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第 3 C 時短待機カウンタ 403 に第 3 C 時短状態 S T 3 C の継続回数が再セットされる。また、ステップ S E 5 2 1 の発生順記憶エリア 405 への設定処理では、第 3 C 時短状態 S T 3 C が潜伏中ではない場合に第 3 時短結果が発生した場合には上記第 28 の実施形態における時短結果用の設定処理（図 207）のステップ S E 3 2 4 と同一の処理を実行する。

【2355】

一方、第 3 C 時短状態 S T 3 C が潜伏中である場合に第 3 時短結果が発生した場合には、まず発生順記憶エリア 405 において第 3 C 時短状態 S T 3 C の種類の情報が格納された格納エリアを「0」クリアする。また、その「0」クリアした格納エリアが「1」の順序に対応する格納エリアであった場合には、「2」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「1」の順序に対応する格納エリアにシフトするとともに、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。また、「0」クリアした格納エリアが「2」の順序に対応する格納エリアである場合には、「3」の順序に対応する格納エリアに格納されている情報を「2」の順序に対応する格納エリアにシフトした後に、「3」の順序に対応する格納エリアを「0」クリアする。そして、第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の種類が格納されていない格納エリアのうち最も前側の順序に対応する格納エリアに第 3 C 時短状態 S T 3 C の種類の情報を格納する。これにより、第 3 C 時短状態 S T 3 C が潜伏中である場合に第 3 時短結果が発生した場合、当該第 3 C 時短状態 S T 3 C の発生順序は第 3 時短結果が新たに発生した場合に既に潜伏中であった他の第 3 時短状態 S T 3 A、S T 3 B よりも後の発生順序に設定される。

【2356】

上記別形態では時短状態 S T 1 ~ S T 3 C の実行中において第 3 時短状態 S T 3 A ~ 3 C が潜伏中である場合に、その潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する時短結果の遊技回が実行された場合、その潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C の継続回数に対応する時短待機カウンタ 401 ~ 403 に再セットされる。これにより、潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する時短結果が発生した場合に当該時短結果が無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【2357】

潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する時短結果が発生して当該潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する時短待機カウンタ 401 ~ 403 に継続回数の情報が再セットされた場合には、その再セットの対象となった第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C はその時点で潜伏している他の第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C よりも発生順序が後の発生順序として扱われる。これにより、先に潜伏対象となった第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C に対応する時短結果が繰り返して発生することによって、後で潜伏対象となった第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C が実行対象となる機会が消失してしまわないようにすることが可能となる。

【2358】

（2）図 211 は第 28 の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップ S E 6 0 1 ~ ステップ S E 6 1 1 では上記第 28 の実施形態における時短結果用の設定処理（図 207）におけるステップ S E 3 0 1 ~ ステップ S E 3 1 1 と同一の処理を実行する。

【2359】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSE603：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSE612：YES）、第3A時短待機カウンタ401の値が1以上であるか否かを判定することで、第3A時短状態ST3Aが既に潜伏中であるか否かを判定する（ステップSE613）。第3A時短状態ST3Aが潜伏中ではない場合（ステップSE613：NO）、発生順記憶エリア405への設定処理を実行し（ステップSE614）、第3A時短待機カウンタ401に「50」をセットし（ステップSE615）、第3A時短状態ST3Aの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE616）。ステップSE614の発生順記憶エリア405への設定処理では、上記第28の実施形態における時短結果用の設定処理（図207）のステップSE315と同一の処理を実行する。

10

【2360】

一方、第3A時短状態ST3Aが既に潜伏中である場合（ステップSE613：YES）、ステップSE614における発生順記憶エリア405への設定処理を実行することなく、第3A時短待機カウンタ401に「50」をセットし（ステップSE615）、第3A時短状態ST3Aの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE616）。つまり、第3A時短状態ST3Aが潜伏中である場合に第1時短結果が発生した場合、第3A時短待機カウンタ401に第3A時短状態ST3Aの継続回数が再セットされる一方、第3A時短状態ST3Aの潜伏中の発生順序は変更されない。

【2361】

20

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合であって（ステップSE603：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSE617：YES）、第3B時短待機カウンタ402の値が1以上であるか否かを判定することで、第3B時短状態ST3Bが既に潜伏中であるか否かを判定する（ステップSE618）。第3B時短状態ST3Bが潜伏中ではない場合（ステップSE618：NO）、発生順記憶エリア405への設定処理を実行し（ステップSE619）、第3B時短待機カウンタ402に「100」をセットし（ステップSE620）、第3B時短状態ST3Bの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE621）。ステップSE619の発生順記憶エリア405への設定処理では上記第28の実施形態における時短結果用の設定処理（図207）のステップSE320と同一の処理を実行する。

30

【2362】

一方、第3B時短状態ST3Bが既に潜伏中である場合（ステップSE618：YES）、ステップSE619における発生順記憶エリア405への設定処理を実行することなく、第3B時短待機カウンタ402に「100」をセットし（ステップSE620）、第3B時短状態ST3Bの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE621）。つまり、第3B時短状態ST3Bが潜伏中である場合に第2時短結果が発生した場合、第3B時短待機カウンタ402に第3B時短状態ST3Bの継続回数が再セットされる一方、第3B時短状態ST3Bの潜伏中の発生順序は変更されない。

【2363】

40

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合であって（ステップSE603：YES）、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSE617：NO）、第3C時短待機カウンタ403の値が1以上であるか否かを判定することで、第3C時短状態ST3Cが既に潜伏中であるか否かを判定する（ステップSE622）。第3C時短状態ST3Cが潜伏中ではない場合（ステップSE622：NO）、発生順記憶エリア405への設定処理を実行し（ステップSE623）、第3C時短待機カウンタ403に「130」をセットし（ステップSE624）、第3C時短状態ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE625）。ステップSE623の発生順記憶エリア405への設定処理では、上記第28の実施形態における時短結果用の設定処理（図207）のステップSE324と同一の処理を実行する。

50

【2364】

一方、第3C時短状態ST3Cが既に潜伏中である場合（ステップSE622：YES）、ステップSE623における発生順記憶エリア405への設定処理を実行することなく、第3C時短待機カウンタ403に「130」をセットし（ステップSE624）、第3C時短状態ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE625）。つまり、第3C時短状態ST3Cが潜伏中である場合に第3時短結果が発生した場合、第3C時短待機カウンタ403に第3C時短状態ST3Cの継続回数が再セットされる一方、第3C時短状態ST3Cの潜伏中の発生順序は変更されない。

【2365】

上記別形態では時短状態ST1～ST3Cの実行中において第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏中である場合に、その潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果の遊技回が実行された場合、その潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数に対応する時短待機カウンタ401～403に再セットされる。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生した場合に当該時短結果が無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【2366】

潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生して当該潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短待機カウンタ401～403に継続回数の情報が再セットされたとしても、その再セットの対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cについてのその時点で潜伏している他の第3時短状態ST3A～ST3Cに対する発生順序が変更されない。これにより、潜伏対象となっている第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏発動時における順序を変更しないようにしながら、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する時短結果が発生した場合に当該時短結果が無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【2367】

（3）本別形態ではサポートモードの種類が上記第25の実施形態と同様に、低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード、第2高頻度サポートモード、第3高頻度サポートモード、第4高頻度サポートモード及び第5高頻度サポートモードの6種類となっている（図196（a）参照）。これらサポートモードの内容は上記第25の実施形態と同一である。また、時短状態の種類も上記第25の実施形態と同様に、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の5種類となっている（図196（b）参照）。これら時短状態ST1～ST43の内容は上記第25の実施形態と同一である。

【2368】

時短対象カウンタ371が「1」である場合、上記第25の実施形態と同様に第1時短状態ST1に対応しており、時短対象カウンタ371が「2」である場合、上記第25の実施形態と同様に第2時短状態ST2に対応している。また、時短対象カウンタ371が「3」である場合、第3A時短状態ST41に対応しており、時短対象カウンタ371が「4」である場合、第3B時短状態ST42に対応しており、時短対象カウンタ371が「5」である場合、第3C時短状態ST43に対応している。

【2369】

図212は第28の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップSE714～ステップSE727では上記第28の実施形態における時短結果用の設定処理（図207）におけるステップSE312～ステップSE325と同一の処理を実行する。

【2370】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSE701：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSE702）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には

10

20

30

40

50

(ステップSE702: YES)、ステップSE703以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST41～ST43の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2371】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合(ステップSE702: NO)、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST43のいずれかであるか否かを判定する(ステップSE703)。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合(ステップSE703: NO)、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする(ステップSE704)。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

【2372】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば(ステップSE705: YES)、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし(ステップSE706)、時短状態カウンタ386に「50」をセットする(ステップSE707)。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3A時短状態ST41に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば(ステップSE708: YES)、時短対象カウンタ371に「4」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし(ステップSE709)、時短状態カウンタ386に「100」をセットする(ステップSE710)。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3B時短状態ST42に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば(ステップSE708: NO)、時短対象カウンタ371に「5」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし(ステップSE711)、時短状態カウンタ386に「130」をセットする(ステップSE712)。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3C時短状態ST43に移行する。

【2373】

ステップSE707、ステップSE710又はステップSE712の処理を実行した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSE713)。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す演出及び第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2374】

なお、時短進行用処理(図208)におけるステップSE412の時短対象カウンタ371の設定処理では第3A時短状態ST3Aが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「3」をセットし、第3B時短状態ST3Bが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「4」をセットし、第3C時短状態ST3Cが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「5」をセットする。

【2375】

上記構成によれば複数種類の第3時短状態ST41～ST43は終了条件となる継続回数が相違しているだけでなく、サポートモードが相違している。これにより、第3時短状態ST41～ST43を多様化させることが可能となる。

【2376】

(4) 第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全てが潜伏可能である構成に限定されることはなく、第3A時短状態ST3A、第3B

10

20

30

40

50

時短状態 S T 3 B 及び第 3 C 時短状態 S T 3 C の一部は潜伏可能であるものの第 3 A 時短状態 S T 3 A、第 3 B 時短状態 S T 3 B 及び第 3 C 時短状態 S T 3 C の残りは潜伏不可である構成としてもよい。この場合、時短状態 S T 1 ～ S T 3 C において第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合、その時短結果の種類によっては第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏し、その時短結果の種類によってはその発生が無効化されることとなる。

【 2 3 7 7 】

(5) 第 3 A 時短状態 S T 3 A の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも少なく、第 3 B 時短状態 S T 3 B の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数と同一であり、第 3 C 時短状態 S T 3 C の継続回数が第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも多く且つ第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数は任意である。例えば、第 3 A 時短状態 S T 3 A、第 3 B 時短状態 S T 3 B 及び第 3 C 時短状態 S T 3 C の全ての継続回数が、第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第 1 時短状態 S T 1 の継続回数よりも多く第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第 2 時短状態 S T 2 の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の一部は継続回数が第 2 時短状態 S T 2 の継続回数以上である構成としてもよい。

【 2 3 7 8 】

(6) 第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはそれに対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏する構成としたが、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が新たに開始される構成としてもよく、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C において第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【 2 3 7 9 】

< 第 2 9 の実施形態 >

本実施形態では第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の潜伏の態様が上記第 2 1 の実施形態と相違している。以下、上記第 2 1 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 2 1 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【 2 3 8 0 】

図 2 1 3 は遊技状態を制御するために利用される主側 R A M 8 4 の記憶エリアを説明するための説明図である。

【 2 3 8 1 】

主側 R A M 8 4 には上記第 2 1 の実施形態と同様に高確率フラグ 3 2 1、天井カウンタ 3 2 5、時短対象カウンタ 3 7 1、時短継続カウンタ 3 7 5 及び時短状態カウンタ 3 8 6 が設けられている。また、主側 R A M 8 4 には第 3 時短待機カウンタ 3 8 7 の代わりに、第 1 待機カウンタ 4 0 6、第 2 待機カウンタ 4 0 7 及び第 3 待機カウンタ 4 0 8 が設けられている。

【 2 3 8 2 】

第 1 待機カウンタ 4 0 6、第 2 待機カウンタ 4 0 7 及び第 3 待機カウンタ 4 0 8 はそれぞれ第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C のいずれかが潜伏していること及びその潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の残りの継続回数を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。時短状態 S T 1 ～ S T 3 A のいずれかが実行対象となっている状況であって第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏していない状況において、第 1 ～ 第 3 時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、その実行された時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数が第 1 待機カウンタ 4 0 6 にセットされる。また、第 1 待機カウンタ 4 0 6 の値が 1 以上である状況において、第 1 ～ 第 3 時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、その実行された時短結果に対応する第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の継続回数が第 2 待機カウンタ 4 0 7 にセットされる。ま

た、第1待機カウンタ406の値が1以上であるとともに第2待機カウンタ407の値が1以上である状況において、第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、その実行された時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数が第3待機カウンタ408にセットされる。また、第1～第3待機カウンタ406～408の全ての値が1以上である状況において、第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、その時短結果は無効化される。

【2383】

第1～第3待機カウンタ406～408への継続回数のセットは、上記のとおり第3時短状態ST3A～ST3Cの種類に関係なく時短結果の発生順序に従って行われる。したがって、複数の待機カウンタ406～408に同一種類の第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数がセットされることが起こり得るとともに、全ての待機カウンタ406～408に異なる種類の第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数がセットされることが起こり得る。

【2384】

第1待機カウンタ406にセットされた継続回数の情報、第2待機カウンタ407にセットされた継続回数の情報、及び第3待機カウンタ408にセットされた継続回数の情報は、現状の時短状態ST1～ST3Cにおいて遊技回が実行される度に1減算される。そして、実行対象となっている時短状態ST1～ST3Cが終了する前に第1待機カウンタ406又は第2待機カウンタ407の残りの継続回数が0回となった場合には、待機カウンタ406～408の情報をシフトする処理を実行する。具体的には、第1待機カウンタ406の値が「0」となった場合には、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。また、第2待機カウンタ407の値が「0」となった場合には、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

【2385】

第1待機カウンタ406に1以上の継続回数の情報が記憶されている状況においてそれまで実行対象だった他の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合には、第1待機カウンタ406の値が時短状態カウンタ386にセットされる。これにより、当該第1待機カウンタ406に継続回数の情報が記憶されていた第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となるとともに、その実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは対応する第1待機カウンタ406に記憶されていた残りの継続回数に亘って実行される。また、時短状態カウンタ386への値のセットを行った後に、待機カウンタ406～408の情報をシフトする処理を実行する。具体的には、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

【2386】

図214は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2387】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合（ステップSE801：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSE802）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSE802：YES）、ステップSE803以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3A～ST3Cの設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2388】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSE802：NO）、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態

10

20

30

40

50

が第1～第3時短状態ST1～ST3Cのいずれかであるか否かを判定する（ステップSE803）。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合（ステップSE803：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSE804）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSE805）。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

10

【2389】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば（ステップSE806：YES）、時短状態カウンタ386に「50」をセットする（ステップSE807）。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSE808：YES）、時短状態カウンタ386に「100」をセットする（ステップSE809）。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSE808：NO）、時短状態カウンタ386に「130」をセットする（ステップSE810）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行する。

【2390】

ステップSE807、ステップSE809又はステップSE810の処理を実行した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE811）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST3A～ST3Cに移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

20

【2391】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSE803：YES）、第1待機カウンタ406の値が「0」であれば（ステップSE812：NO）、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第1待機カウンタ406にセットする（ステップSE813）。具体的には、第1時短結果であれば第3A時短状態ST3Aに対応する「50」を第1待機カウンタ406にセットし、第2時短結果であれば第3B時短状態ST3Bに対応する「100」を第1待機カウンタ406にセットし、第3時短結果であれば第3C時短状態ST3Cに対応する「130」を第1待機カウンタ406にセットする。

30

【2392】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE814）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

40

【2393】

第1待機カウンタ406の値が1以上である場合（ステップSE812：YES）、第2待機カウンタ407の値が「0」であれば（ステップSE815：NO）、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第2待機カウンタ407にセットする（ステップSE816）。具体的には、第1時短結果であれば第3A時短状態ST3Aに対応する「50」を第2待機カウンタ407にセットし、第2時短結果であれば第3B時短状態ST3Bに対応する「100」を第2待機カウンタ407にセットし、第3時短結果であれば第3C時短状態ST3Cに対応する「130」を第2待機カウンタ

50

407にセットする。

【2394】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE817）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2395】

第2待機カウンタ407の値が1以上である場合（ステップSE815：YES）、第3待機カウンタ408の値が「0」であれば（ステップSE818：NO）、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第3待機カウンタ408にセットする（ステップSE819）。具体的には、第1時短結果であれば第3A時短状態ST3Aに対応する「50」を第3待機カウンタ408にセットし、第2時短結果であれば第3B時短状態ST3Bに対応する「100」を第3待機カウンタ408にセットし、第3時短結果であれば第3C時短状態ST3Cに対応する「130」を第3待機カウンタ408にセットする。

【2396】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE820）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2397】

一方、第1～第3待機カウンタ406～408の全ての値が1以上である場合（ステップSE818：YES）、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。この場合、今回の時短結果を契機として潜伏に関する設定は行われることなく、今回の時短結果が無効化される。

【2398】

本実施形態においては音光側MPU93における変動パターンの決定処理の処理内容が上記第22の実施形態における変動パターンの決定処理（図189）と同一となる。つまり、時短状態ST1～ST3Aにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されたものの、今回の遊技回が終了する場合に今回の第1～第3時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される場合には、時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC809）。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）を選択する。この場合、今回が第1時短結果であれば第1時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択し、今回が第2時短結果であれば第2時短発生図柄の組合せ（「2・3・4」）を選択し、今回が第3時短結果であれば第3時短発生図柄の組合せ（「3・4・5」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第1～第3時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSC810）。

【2399】

時短状態ST1～ST3Aにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が開始されて、潜伏に関する設定が主側MPU82において発生する場合には、潜伏示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSC812）。潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、図柄

10

20

30

40

50

表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ～ Z 3 に停止表示させる停止結果として、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）を選択する。この場合、今回が第 1 時短結果であれば第 1 潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」）を選択し、今回が第 2 時短結果であれば第 2 潜伏発生図柄の組合せ（「6・7・8」）を選択し、今回が第 3 時短結果であれば第 3 潜伏発生図柄の組合せ（「7・8・9」）を選択する。また、潜伏示唆用の停止図柄決定処理では、上記のように選択した第 1 ～ 第 3 潜伏発生図柄の組合せを停止表示させる有効ライン L 1 ～ L 5 を抽選により決定する。その後、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として赤色を選択する（ステップ S C 8 1 3）。

【2400】

時短状態 S T 1 ～ S T 3 A において第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回が開始されて、遊技状態が高確率状態であることにより今回の時短結果が無効化される場合又は今回の遊技回の終了時において第 1 ～ 第 3 待機カウンタ 4 0 6 ～ 4 0 8 の全ての値が 1 以上であることにより今回の時短結果が無効化される場合には、非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップ S C 8 0 6）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ～ Z 3 に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」、「2・3・4」、「3・4・5」）、潜伏発生図柄の組合せ（「5・6・7」、「6・7・8」、「7・8・9」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の停止結果として青色を選択する（ステップ S C 8 0 7）。

【2401】

図 2 1 5 は特図確定中処理（図 1 2 8）のステップ S 8 3 0 8 にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2402】

まず高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S E 9 0 1）。高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされている場合には（ステップ S E 9 0 1：Y E S）、ステップ S E 9 0 2 以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【2403】

高確率フラグ 3 2 1 に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ 3 7 1 の値が 1 以上である場合（ステップ S E 9 0 1：N O、ステップ S E 9 0 2：Y E S）、すなわち第 1 ～ 第 3 時短状態 S T 1 ～ S T 3 C のいずれかである場合、時短状態カウンタ 3 8 6 の減算処理（ステップ S E 9 0 3）、第 1 待機カウンタ 4 0 6 の減算処理（ステップ S E 9 0 4）、第 2 待機カウンタ 4 0 7 の減算処理（ステップ S E 9 0 5）及び第 3 待機カウンタ 4 0 8 の減算処理（ステップ S E 9 0 6）を実行する。時短状態カウンタ 3 8 6 の減算処理では、時短状態カウンタ 3 8 6 の値を 1 減算する。第 1 待機カウンタ 4 0 6 の減算処理では、第 1 待機カウンタ 4 0 6 の値が 1 以上であることを条件として第 1 待機カウンタ 4 0 6 の値を 1 減算する。第 2 待機カウンタ 4 0 7 の減算処理では、第 2 待機カウンタ 4 0 7 の値が 1 以上であることを条件として第 2 待機カウンタ 4 0 7 の値を 1 減算する。第 3 待機カウンタ 4 0 8 の減算処理では、第 3 待機カウンタ 4 0 8 の値が 1 以上であることを条件として第 3 待機カウンタ 4 0 8 の値を 1 減算する。

【2404】

ここで、時短状態 S T 1 ～ S T 3 C においてステップ S E 9 0 4 ～ ステップ S E 9 0 6 の処理が実行されるため、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏中である場合には実行対象となっている時短状態 S T 1 ～ S T 3 C において 1 回の遊技回が実行された場合に時短状態カウンタ 3 8 6 の値が 1 減算されるだけでなく、潜伏中の第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C に対応する待機カウンタ 4 0 6 ～ 4 0 8 の値が 1 減算される。したがって、第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C が潜伏している場合には、1 回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている時短状態 S T 1 ～ S T 3 C の残りの継続回数が 1 減算されるだけでなく、潜伏している第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C の残りの継続回数も 1 減算され

ることになる。

【2405】

第1時短状態ST1は継続回数が100回であり、第2時短状態ST2は継続回数が150回であり、第3A時短状態ST3Aは継続回数が50回であり、第3B時短状態ST3Bは継続回数が100回であり、第3C時短状態ST3Cは継続回数が130回であるため、第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏したタイミングによっては、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に第1待機カウンタ406の値が1以上でありそれまでの時短状態ST1～ST3Cに続けて第3時短状態ST3A～ST3Cが第1待機カウンタ406に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される状況が生じ得るとともに、実行対象の時短状態ST1～ST3Cの途中で待機カウンタ406～408の値が「0」となり潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となることなく終了する状況が生じ得る。

10

【2406】

その後、待機カウンタ406～408のシフト契機が発生したか否かを判定する（ステップSE907）。具体的には、値が1以上であった第1待機カウンタ406の値がステップSE904の処理が実行されたことによって「0」となったか否かを判定する。肯定判定をした場合、待機カウンタ406～408のシフト処理を実行する（ステップSE908）。この場合、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。また、値が1以上であった第2待機カウンタ407の値がステップSE905の処理が実行されたことによって「0」となったか否かを判定する。肯定判定をした場合、待機カウンタ406～408のシフト処理を実行する（ステップSE908）。この場合、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

20

【2407】

ステップSE907にて否定判定をした場合又はステップSE908の処理を実行した場合、時短状態カウンタ386の値が「0」であるか否かを判定することで、実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了したか否かを判定する（ステップSE909）。時短状態カウンタ386の値が「0」である場合（ステップSE909：YES）、第1待機カウンタ406の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSE910）。

30

【2408】

ステップSE910にて肯定判定をした場合、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが存在していることを意味する。この場合、まず時短状態カウンタ386への設定処理を実行する（ステップSE911）。時短状態カウンタ386への設定処理では、第1待機カウンタ406の値を時短状態カウンタ386にセットする。その後、時短対象カウンタ371の設定処理を実行する（ステップSE912）。時短対象カウンタ371の設定処理では、時短対象カウンタ371に第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する「3」をセットする。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる。また、この実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは、ステップSE911にて時短状態カウンタ386にセットした値に対応する継続回数に亘って実行される。その後、待機カウンタ406～408のシフト処理を実行する（ステップSE913）。当該シフト処理では、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

40

【2409】

その後、潜伏中であった第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSE916）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1～ST3Cが終了して、潜伏していた第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための

50

処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSE917）。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3A～ST3Cにおける遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2410】

ステップSE910にて否定判定をした場合、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSE914）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSE915）、時短状態ST1～ST3Cが終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し（ステップSE916）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSE917）。

10

【2411】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【2412】

主側RAM84には第1待機カウンタ406、第2待機カウンタ407及び第3待機カウンタ408が設けられており、時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、その時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数の情報が第1待機カウンタ406→第2待機カウンタ407→第3待機カウンタ408の順で格納される。これにより、同一種類の第3時短状態ST3A～ST3Cが既に潜伏中であるか否かに関係なく、時短結果の発生順序に従って複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏した状態となる。これにより、複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが同時に潜伏する場合におけるその潜伏対象となっている第3時短状態ST3A～ST3Cの組合せを多様化させることが可能となる。

20

【2413】

第1～第3待機カウンタ406～408の全てに第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数の情報がセットされている状況において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、当該時短結果は無効化される。これにより、複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが同時に潜伏し得る構成において、処理構成を簡素化することが可能となる。

【2414】

実行対象の時短状態ST1～ST3Cが終了した場合に複数の第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している場合、潜伏が発生した順序が早い第3時短状態ST3A～ST3Cから先に実行対象に設定される。これにより、潜伏が発生した順序に従って潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cを実行対象とすることが可能となる。

30

【2415】

<第29の実施形態の別形態>

(1) 図216は第29の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップSF101～ステップSF111では上記第29の実施形態における時短結果用の設定処理（図214）におけるステップSE801～ステップSE811と同一の処理を実行する。また、ステップSF112～ステップSF120では上記第29の実施形態における時短結果用の設定処理（図214）におけるステップSE812～ステップSE820と同一の処理を実行する。

40

【2416】

時短状態ST1～ST3Cの実行中に第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合であって、第1～第3待機カウンタ406～408の全ての値が1以上である場合（ステップSF118：YES）、待機カウンタ406～408のシフト処理を実行する（ステップSF121）。当該シフト処理では、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

【2417】

50

その後、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第3待機カウンタ408にセットする（ステップSF122）。具体的には、第1時短結果であれば第3A時短状態ST3Aに対応する「50」を第3待機カウンタ408にセットし、第2時短結果であれば第3B時短状態ST3Bに対応する「100」を第3待機カウンタ408にセットし、第3時短結果であれば第3C時短状態ST3Cに対応する「130」を第3待機カウンタ408にセットする。

【2418】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF123）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

10

【2419】

上記構成によれば時短状態ST1～ST3Cの実行中に第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合であって、第1～第3待機カウンタ406～408の全ての値が1以上である場合、最も先に潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cが無効化されるとともに、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが最後の実行順序となるようにして潜伏対象となる。これにより、時短結果を契機として第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏対象として設定される頻度を高めることが可能となる。

20

【2420】

（2）図217は第29の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップSF201～ステップSF211では上記第29の実施形態における時短結果用の設定処理（図214）におけるステップSE801～ステップSE811と同一の処理を実行する。

【2421】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSF203：YES）、第3待機カウンタ408の値が「0」であれば（ステップSF212：NO）、待機カウンタ406～408への設定処理を実行する（ステップSF213）。待機カウンタ406～408への設定処理では、第1待機カウンタ406の値が「0」であれば今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第1待機カウンタ406にセットし、第1待機カウンタ406の値が1以上であって第2待機カウンタ407の値が「0」であれば今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第2待機カウンタ407にセットし、第1待機カウンタ406及び第2待機カウンタ407のそれぞれの値が1以上であれば、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数を第3待機カウンタ408にセットする。

30

【2422】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF214）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

40

【2423】

時短対象カウンタ371の値が1以上である場合であって（ステップSF203：YES）、第3待機カウンタ408の値が1以上である場合（ステップSF212：YES）、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数よりも少ない値

50

となっている待機カウンタ406～408が存在しているか否かを判定する（ステップSE215）。ステップSE215にて否定判定をした場合、そのまま本時短結果用の設定処理を終了する。この場合、今回の時短結果は無効化される。

【2424】

ステップSE215にて肯定判定をした場合、待機カウンタ406～409のうち最も継続回数が少ない待機カウンタ406～409に今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数をセットする（ステップSE216）。これにより、潜伏中の複数の第3時短状態ST3A～ST3Cのうち残りの継続回数が最も少ない第3時短状態ST3A～ST3Cに代えて、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに潜伏対象となる。また、今回の潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの実行対象となる順序は、上書き対象となったそれまでの潜伏対象の第3時短状態ST3A～ST3Cの実行対象となる順序となる。但し、これに限定されることなく、今回の潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの実行対象となる順序が最後の順序となるように待機カウンタ406～408のシフト処理が実行される構成としてもよい。

【2425】

その後、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF217）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、第3時短状態ST3A～ST3Cの潜伏が発生したことを示す演出及び潜伏対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象とはならないものの潜伏している状況となったことを遊技者が認識することが可能となる。

【2426】

上記構成によれば待機カウンタ406～408の全ての値が1以上である状況において第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行された場合には、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数よりも少ない値となっている待機カウンタ406～408が存在するのであれば、潜伏中の複数の第3時短状態ST3A～ST3Cのうち残りの継続回数が最も少ない第3時短状態ST3A～ST3Cに代えて、今回の時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに潜伏対象となる。これにより、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cの残りの継続回数が極力多くなるようにすることが可能となる。

【2427】

（3）図218は第29の実施形態における時短進行用処理の別形態を示すフローチャートである。ステップSF301～ステップSF308では上記第29の実施形態における時短進行用処理（図215）におけるステップSE901～ステップSE908と同一の処理を実行する。

【2428】

1減算後における時短状態カウンタ386の値が「0」である場合（ステップSF309：YES）、第1待機カウンタ406の値が1以上であるか否かを判定する（ステップSF310）。ステップSF310にて肯定判定をした場合、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cが存在していることを意味する。この場合、優先度が高い第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する継続回数がセットされた待機カウンタ406～408を特定する（ステップSF311）。具体的には、第1待機カウンタ406のみ値が1以上であり、第2待機カウンタ407及び第3待機カウンタ408の値が「0」である場合には、第1待機カウンタ406を特定する。また、2個以上の待機カウンタ406～408の値が1以上である場合、それら待機カウンタ406～408への継続回数のセットの契機となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を把握し、その中で最も優先度が高い種類の第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数がセットされた待機カウンタ406～408を特定する。この場合、最も優先度が高い種類の第3時短状態ST3A～ST3Cの継

続回数がセットされた待機カウンタ406～408が複数存在している場合には、それら待機カウンタ406～408のうち実行対象となる順序が最も先側である待機カウンタ406～408を特定する。上記優先度は、継続回数が最も少ない第3A時短状態ST3Aが最も高く、継続回数が次に少ない第3B時短状態ST3Bが次に高く、継続回数が最も多い第3C時短状態ST3Cが最も低く設定されているが、この順序が逆であってもよく、他の順序であってもよい。

【2429】

なお、本別形態では時短結果用の設定処理（図214）において待機カウンタ406～408に第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数をセットする場合、その第3時短状態ST3A～ST3Cの種類を示す情報も待機カウンタ406～408にセットされるとともに、待機カウンタ406～408のシフト処理が実行される場合には残りの継続回数の情報とともにセットの契機となった第3時短状態ST3A～ST3Cの種類の情報もシフトされる。

【2430】

その後、時短状態カウンタ386への設定処理を実行する（ステップSF312）。時短状態カウンタ386への設定処理では、ステップSF311にて特定した待機カウンタ406～408の値を時短状態カウンタ386にセットする。その後、時短対象カウンタ371の設定処理を実行する（ステップSF313）。時短対象カウンタ371の設定処理では、時短対象カウンタ371に第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する「3」をセットする。これにより、第3時短状態ST3A～ST3Cが実行対象となる。また、この実行対象となった第3時短状態ST3A～ST3Cは、ステップSF312にて時短状態カウンタ386にセットした値に対応する継続回数に亘って実行される。その後、待機カウンタ406～408のシフト処理を実行する（ステップSF314）。当該シフト処理では、ステップSF311にて第1待機カウンタ406が特定された場合には、第2待機カウンタ407の値を第1待機カウンタ406にシフトするとともに、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアし、ステップSF311にて第2待機カウンタ407が特定された場合には、第3待機カウンタ408の値を第2待機カウンタ407にシフトした後に、第3待機カウンタ408を「0」クリアし、ステップSF311にて第3待機カウンタ408が特定された場合には、第3待機カウンタ408を「0」クリアする。

【2431】

その後、潜伏中であった第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF317）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象であった時短状態ST1～ST3Cが終了して、潜伏していた第3時短状態ST3A～ST3Cが開始されたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。また、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSF318）。時短継続カウンタ375が「0」クリアされるため、第3時短状態ST3A～ST3Cにおける遊技回の変動表示期間の決定態様は第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始された場合の決定態様に戻ることになる。

【2432】

ステップSF310にて否定判定をした場合、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSF315）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSF316）、時短状態ST1～ST3Cが終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し（ステップSF317）、時短継続カウンタ375を「0」クリアする（ステップSF318）。

【2433】

上記構成によれば、潜伏中の第3時短状態ST3A～ST3Cを予め定められた優先度にしたがって実行対象とすることが可能となる。

【2434】

(4) 本別形態ではサポートモードの種類が上記第25の実施形態と同様に、低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード、第2高頻度サポートモード、第3高頻度サポートモード、第4高頻度サポートモード及び第5高頻度サポートモードの6種類となっている(図196(a)参照)。これらサポートモードの内容は上記第25の実施形態と同一である。また、時短状態の種類も上記第25の実施形態と同様に、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2、第3A時短状態ST41、第3B時短状態ST42及び第3C時短状態ST43の5種類となっている(図196(b)参照)。これら時短状態ST1～ST43の内容は上記第25の実施形態と同一である。

【2435】

時短対象カウンタ371が「1」である場合、上記第25の実施形態と同様に第1時短状態ST1に対応しており、時短対象カウンタ371が「2」である場合、上記第25の実施形態と同様に第2時短状態ST2に対応している。また、時短対象カウンタ371が「3」である場合、第3A時短状態ST41に対応しており、時短対象カウンタ371が「4」である場合、第3B時短状態ST42に対応しており、時短対象カウンタ371が「5」である場合、第3C時短状態ST43に対応している。

【2436】

本別形態では時短結果用の設定処理(図214)において待機カウンタ406～408に第3時短状態ST41～ST43の継続回数をセットする場合、その第3時短状態ST41～ST43の種類を示す情報も待機カウンタ406～408にセットされるとともに、待機カウンタ406～408のシフト処理が実行される場合には残りの継続回数の情報とともにセットの契機となった第3時短状態ST41～ST43の種類の情報もシフトされる。

【2437】

図219は第29の実施形態における時短結果用の設定処理の別形態を示すフローチャートである。ステップSE414～ステップSE422では上記第29の実施形態における時短結果用の設定処理(図214)におけるステップSE812～ステップSE820と同一の処理を実行する。

【2438】

今回の遊技回の遊技結果が第1～第3時短結果のいずれかである場合(ステップSF401:YES)、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する(ステップSF402)。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には(ステップSF402:YES)、ステップSF403以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST41～ST43の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2439】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合(ステップSF402:NO)、時短対象カウンタ371の値が1以上であるか否かを判定することで、現状の遊技状態が第1～第3時短状態ST1～ST43のいずれかであるか否かを判定する(ステップSF403)。時短対象カウンタ371の値が「0」である場合(ステップSF403:NO)、すなわち遊技状態が通常遊技状態である場合、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする(ステップSF404)。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

【2440】

その後、今回の遊技回の遊技結果が第1時短結果であれば(ステップSF405:YES)、時短対象カウンタ371に「3」をセットするとともに時短継続カウンタ375を

10

20

30

40

50

「0」クリアし（ステップSF406）、時短状態カウンタ386に「50」をセットする（ステップSF407）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3A時短状態ST41に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第2時短結果であれば（ステップSF408：YES）、時短対象カウンタ371に「4」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSF409）、時短状態カウンタ386に「100」をセットする（ステップSF410）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3B時短状態ST42に移行する。また、今回の遊技回の遊技結果が第3時短結果であれば（ステップSF408：NO）、時短対象カウンタ371に「5」をセットするとともに時短継続カウンタ375を「0」クリアし（ステップSF411）、時短状態カウンタ386に「130」をセットする（ステップSF412）。これにより、遊技状態が通常遊技状態から第3C時短状態ST43に移行する。

10

【2441】

ステップSF407、ステップSF410又はステップSF412の処理を実行した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF413）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、通常遊技状態から第3時短状態ST41～ST43に移行したことを示す演出及び第3時短状態ST41～ST43の種類を示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2442】

なお、時短進行用処理（図215）におけるステップSE912の時短対象カウンタ371の設定処理では第3A時短状態ST3Aが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「3」をセットし、第3B時短状態ST3Bが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「4」をセットし、第3C時短状態ST3Cが潜伏中から実行対象となった場合には時短対象カウンタ371に「5」をセットする。

20

【2443】

上記構成によれば複数種類の第3時短状態ST41～ST43は終了条件となる継続回数が相違しているだけでなく、サポートモードが相違している。これにより、第3時短状態ST41～ST43を多様化させることが可能となる。

【2444】

（5）待機カウンタ406～408の個数は3個に限定されることはなく、2個であってもよく、4個であってもよく、5個であってもよく、6個以上であってもよい。

30

【2445】

（6）待機カウンタ406～408の全てが1以上である状況において第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第1～第3時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの優先度よりも低い優先度の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する値がセットされている待機カウンタ406～408が存在している場合には最も低い優先度の第3時短状態ST3A～ST3Cに対応する値がセットされている待機カウンタ406～408に今回発生した時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数がセットされる構成としてもよい。

40

【2446】

（7）第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全てが潜伏可能である構成に限定されることはなく、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの一部は潜伏可能であるものの第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの残りは潜伏不可である構成としてもよい。この場合、時短状態ST1～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合、その時短結果の種類によっては第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏し、その時短結果の種類によってはその発生が無効化されることとなる。

【2447】

50

(8) 第3A時短状態ST3Aの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも少なく、第3B時短状態ST3Bの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数と同一であり、第3C時短状態ST3Cの継続回数が第1時短状態ST1の継続回数よりも多く且つ第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としたが、これら第3時短状態ST3A～ST3Cの継続回数は任意である。例えば、第3A時短状態ST3A、第3B時短状態ST3B及び第3C時短状態ST3Cの全ての継続回数が、第1時短状態ST1の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第1時短状態ST1の継続回数よりも多く第2時短状態ST2の継続回数よりも少ない構成としてもよく、第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。また、第3時短状態ST3A～ST3Cの一部は継続回数が第2時短状態ST2の継続回数以上である構成としてもよい。

10

【2448】

(9) 第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはそれに対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する構成としたが、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果に対応する第3時短状態ST3A～ST3Cが新たに開始される構成としてもよく、第3時短状態ST3A～ST3Cにおいて第1～第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合にはその時短結果の発生が無効化される構成としてもよい。

【2449】

<第30の実施形態>

20

本実施形態では時短状態ST1～ST3の終了条件が上記第19の実施形態と相違している。以下、上記第19の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第19の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2450】

図220(a)は本実施形態におけるサポートモードの内容を説明するための説明図である。

【2451】

本実施形態では上記第25の実施形態と同様に、普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が異なるように長期間、中期間及び短期間が存在している。長期間は10秒であり、中期間は5秒であり、短期間は1秒である。当該期間が短い方が一の普電開放状態と次の普電開放状態との間の最短期間が短くなるため、遊技領域に対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に第2作動口34の普電役物34aが単位時間当たりに開放状態となる頻度が相対的に高くなる。

30

【2452】

本実施形態では上記第25の実施形態と同様に、普電開放状態の実行モードとして、普電役物34aへの遊技球の入球期待度が異なるように高期待度モードと中期待度モードと低期待度モードとが存在している。低期待度モードでは普電役物34aの短開放が1回発生する。短開放の継続期間は0.7秒となっている。上記第1の実施形態と同様に遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの短開放が1回発生した場合には第2作動口34への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は1個程度である。なお、普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合にも終了するが、短開放が1回発生した場合には上記のとおり第2作動口34への遊技球の入球が発生したとしても1個程度であるため第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

40

【2453】

中期待度モードでは普電役物34aの長開放が2回発生する。長開放の継続期間は2秒となっている。遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの長開放が1回発生した場合には第2作動口34に3個程度の遊技球が入球し得る。そして、中期待度モードの普電開放状態では第2作動口34が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期

50

間（具体的には1秒）を挟んで長開放が2回発生する。したがって、中期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に6個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合にも終了するが、長開放が2回発生した場合には上記のとおり第2作動口34への遊技球の入球が発生したとしても6個程度であるため第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【2454】

高期待度モードでは普電役物34aの長開放が3回発生する。長開放の継続期間は2秒となっている。遊技球の発射周期は0.6秒であるため、普電役物34aの長開放が1回発生した場合には第2作動口34に3個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では第2作動口34が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には1秒）を挟んで長開放が3回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に9個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には第2作動口34に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終了する事象が発生し得る。

【2455】

上記のように普図当否判定処理の判定モード、普図表示部38aにおける普図の変動期間及び普電開放状態の実行モードが設定されている構成において、サポートモードとして低頻度サポートモード、第1高頻度サポートモード、第2高頻度サポートモード及び中頻度サポートモードが設定されている。低頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は長期間となり、普電開放状態の実行モードは短開放1回が発生する低期待度モードとなる。第1高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の高確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。第2高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は短期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放3回が発生する高期待度モードとなる。中頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は中期間となり、普電開放状態の実行モードは長開放2回が発生する中期待度モードとなる。

【2456】

スルーゲート35への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時間当たりで第2作動口34の普電役物34aが開放状態となっている割合の期待度は、第1高頻度サポートモードが最も高く、第2高頻度サポートモードが次に高く、中頻度サポートモードが次に高く、低頻度サポートモードが最も低い。また、低頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが低期待度モードとなるため、低頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球がほとんど発生しないのに対して、第1、第2高頻度サポートモード及び中頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが高期待度モード又は中期待度モードとなるため、第1、第2高頻度サポートモード及び中頻度サポートモードである場合には第2作動口34への遊技球の入球が第2特図保留エリア112における第2保留情報の上限個数以上発生することが期待できる。

【2457】

図220(b)は、本実施形態に設定されている時短状態の内容を説明するための説明図である。

【2458】

本実施形態であっても上記第19の実施形態と同様に遊技状態として、通常遊技状態と、高確率状態と、第1時短状態ST1と、第2時短状態ST2と、第3時短状態ST5とが存在している。通常遊技状態、高確率状態、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2の内容は上記第19の実施形態と同一である。第3時短状態ST5は、時短結果に対応

する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは中頻度サポートモードとなる。また、第3時短状態ST5は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく5回の小当たり結果が発生した場合又は30回の遊技回が消化された場合に終了する。なお、小当たり結果の内容は上記第17の実施形態と同一である。

【2459】

図221は遊技状態を制御するために利用される主側RAM84の記憶エリアを説明するための説明図である。

【2460】

主側RAM84には上記第19の実施形態と同様に高確率フラグ321、天井カウンタ325、時短対象カウンタ371、第1時短状態カウンタ372及び第2時短状態カウンタ373が設けられている。また、主側RAM84には第3時短状態カウンタ374に代えて、第3時短小当たり回数カウンタ411及び第3時短遊技回数カウンタ412が設けられている。なお、高確率状態における残りの継続回数を計測するために主側RAM84には上記第1の実施形態と同様に高確率状態カウンタが設けられている。

【2461】

第3時短小当たり回数カウンタ411は第3時短状態ST5において残りの小当たり結果の発生回数を主側MPU82にて計測するためのカウンタであり、第3時短遊技回数カウンタ412は第3時短状態ST5において残りの継続回数を主側MPU82にて計測するためのカウンタである。5R低確結果を契機とした開閉実行モードが終了する場合、特電終了処理（図166）では、ステップSA908にて第1時短状態カウンタ372に「100」をセットし、第2時短状態カウンタ373、第3時短小当たり回数カウンタ411及び第3時短遊技回数カウンタ412を「0」クリアする。

【2462】

図222は特図確定中処理（図128）のステップS8310にて実行される天井カウンタ325の減算処理を示すフローチャートである。

【2463】

高確率フラグ321に「1」がセットされている場合（ステップSF501：YES）、すなわち高確率状態である場合、ステップSF502以降の処理を実行することなく天井カウンタ325の減算処理を終了する。高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSF501：NO）、すなわち遊技状態が通常遊技状態、第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST5のいずれかである場合、天井カウンタ325の値が1以上であることを条件として（ステップSF502：YES）、当該天井カウンタ325の値を1減算する（ステップSF503）。そして、その1減算後における天井カウンタ325の値が「0」である場合（ステップSF504：YES）、時短対象カウンタ371の値が「3」であるか否かを判定することで、第3時短状態ST5であるか否かを判定する（ステップSF505）。なお、上記第19の実施形態と同様に第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了することはない。

【2464】

第3時短状態ST5ではない場合（ステップSF505：NO）、時短対象カウンタ371に「2」をセットするとともに（ステップSF506）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSF507）。また、第2時短状態カウンタ373に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットする（ステップSF508）。これにより、低確率モードであって第2高頻度サポートモードである第2時短状態ST2となる。その後、第2時短状態ST2が開始されたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF509）。

【2465】

一方、第3時短状態ST5である場合（ステップST505：YES）、ステップST506及びステップSF507の処理を実行することなく、第2時短状態カウンタ373に第2時短状態ST2の継続回数である「150」をセットする（ステップSF508）

。これにより、第3時短状態ST5が実行対象となっている状況において第2時短状態ST2が潜伏した状態となる。つまり、本実施形態では第3時短状態ST3の方が第2時短状態ST2よりも実行の優先度が高く設定されている。その後、第2時短状態ST2が潜伏したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF509）。

【2466】

図223は特図確定中処理（図128）のステップS8309にて実行される時短結果用の設定処理を示すフローチャートである。

【2467】

今回の遊技回の遊技結果が時短結果である場合（ステップSF601：YES）、高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSF602）。そして、高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSF602：YES）、ステップSF603以降の処理を実行することなく本時短結果用の設定処理を終了する。つまり、高確率状態である状況において実行された遊技回の当否判定処理にて時短結果が選択されたとしても、当該時短結果を契機とした第3時短状態ST3の設定が行われることなく時短結果は無効化される。

【2468】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合（ステップSF602：NO）、時短対象カウンタ371の値が「0」であることを条件として（ステップSF603：YES）、主側RAM84における時短発生時の外端フラグに「1」をセットする（ステップSF604）。つまり、時短状態ST1、ST2、ST5ではない状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には時短発生時の外端フラグに「1」をセットし、時短状態ST1、ST2、ST5である状況において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には時短発生時の外端フラグに「1」をセットしない。時短発生時の外端フラグに「1」がセットされている場合には上記第15の実施形態と同様に第2大当たり信号用の外端端子333に対して第2大当たり信号の出力状態をON継続期間に亘ってHイレベルとするための処理が実行されるとともに、有利状態信号用の外端端子334に対して有利状態信号の出力状態をHイレベルとするための処理が実行される。

【2469】

ステップSF603にて否定判定をした場合又はステップSF604の処理を実行した場合、時短対象カウンタ371に「3」をセットする（ステップSF605）。また、第3時短小当たり回数カウンタ411に第3時短状態ST5における小当たり結果の発生回数である「5」をセットし（ステップSF606）、さらに第3時短遊技回数カウンタ412に第3時短状態ST5の継続回数である「30」をセットする（ステップSF607）。つまり、通常遊技状態である場合だけではなく、第1時短状態ST1である場合又は第2時短状態ST2である場合であっても時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST5が実行対象となる。このように本実施形態では第3時短状態ST3の方が第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2よりも実行の優先度が高く設定されている。

【2470】

第1時短状態ST1において時短結果が発生して第3時短状態ST5が実行対象となる場合であっても第1時短状態カウンタ372は「0」クリアされないため、第3時短状態ST5が実行対象となっている状況において第1時短状態ST1は潜伏した状態となる。また、第2時短状態ST2において時短結果が発生して第3時短状態ST5が実行対象となる場合であっても第2時短状態カウンタ373は「0」クリアされないため、第3時短状態ST5が実行対象となっている状況において第2時短状態ST2は潜伏した状態となる。

【2471】

第3時短状態ST5において時短結果が発生した場合には、第3時短小当たり回数カウンタ411に第3時短状態ST5における小当たり結果の発生回数である「5」が再セッ

10

20

30

40

50

トされるとともに、第3時短遊技回数カウンタ412に第3時短状態ST5の継続回数である「30」が再セットされる。これにより、第3時短状態ST5において時短結果が発生したとしても当該時短結果は無効化されないようにすることが可能となる。

【2472】

その後、第3時短状態ST5ではない遊技状態において時短結果が発生した場合には第3時短状態ST5に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信し、第3時短状態ST5において時短結果が発生した場合には第3時短状態ST5が再セットされたことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF608）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、前者の場合であれば第3時短状態ST5に移行したことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行し、後者の場合であれば第3時短状態ST5が再セットされたことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

【2473】

なお、本実施形態では高確率状態以外の遊技状態においては時短結果に対応する遊技回が実行された場合には第3時短状態ST5への移行又は第3時短状態ST5の再セットが発生するため、高確率状態以外の遊技状態において時短結果に対応する遊技回が実行される場合、変動パターンの決定処理（図169）では時短示唆用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB309）。時短示唆用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）を選択する。また、時短示唆用の停止図柄決定処理では時短発生図柄の組合せを停止表示させる有効ラインL1～L5を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として赤色を選択する（ステップSB310）。

【2474】

一方、高確率状態において時短結果に対応する遊技回が実行された場合には当該時短結果が無効化されるため、高確率状態において時短結果に対応する遊技回が実行される場合、変動パターンの決定処理（図169）では非リーチ外れ用の停止図柄決定処理を実行する（ステップSB306）。非リーチ外れ用の停止図柄決定処理では、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3に停止表示させる停止結果として、大当たり結果に対応する図柄の組合せ、時短発生図柄の組合せ（「1・2・3」）、及び外れリーチ図柄の組合せ以外の図柄の組合せである非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される停止結果を抽選により決定する。また、図柄表示装置41の状態示唆領域43の停止結果として青色を選択する（ステップSB307）。

【2475】

図224は特図確定中処理（図128）のステップS8308にて実行される時短進行用処理を示すフローチャートである。

【2476】

まず高確率フラグ321に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSF701）。高確率フラグ321に「1」がセットされている場合には（ステップSF701：YES）、ステップSF702以降の処理を実行することなく本時短進行用処理を終了する。

【2477】

高確率フラグ321に「1」がセットされていない場合であって時短対象カウンタ371の値が1以上である場合（ステップSF701：NO、ステップSF702：YES）、すなわち第1～第3時短状態ST1、ST2、ST5のいずれかである場合、第1時短状態カウンタ372の減算処理（ステップSF703）、第2時短状態カウンタ373の減算処理（ステップSF704）、及び第3時短遊技回数カウンタ412の減算処理（ステップSF705）を実行する。第1時短状態カウンタ372の減算処理では、第1時短状態カウンタ372の値が1以上であることを条件として、当該第1時短状態カウンタ372の値を1減算する。第2時短状態カウンタ373の減算処理では、第2時短状態カウ

ンタ 3 7 3 の値が 1 以上であることを条件として、当該第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 の値を 1 減算する。第 3 時短遊技回数カウンタ 4 1 2 の減算処理では、第 3 時短遊技回数カウンタ 4 1 2 の値が 1 以上であることを条件として、当該第 3 時短遊技回数カウンタ 4 1 2 の値を 1 減算する。その後、今回の遊技回において小当たり結果が発生していることを条件として（ステップ S F 7 0 6 : Y E S）、第 3 時短小当たり回数カウンタ 4 1 1 の値を 1 減算する（ステップ S F 7 0 7）。

【 2 4 7 8 】

ここで、ステップ S F 7 0 3 ～ステップ S F 7 0 5 の処理が現状の時短状態 S T 1 , S T 2 , S T 5 の種類に関係なく実行されるため、第 3 時短状態 S T 5 において 1 回の遊技回が実行された場合に第 3 時短遊技回数カウンタ 4 1 2 の値が 1 減算されるだけではなく、第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 の値が 1 以上であれば当該第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 の値が 1 減算され、第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 の値が 1 以上であれば当該第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 の値が 1 減算される。したがって、第 3 時短状態 S T 5 において第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 が潜伏している場合には、1 回の遊技回が実行された場合に実行対象となっている第 3 時短状態 S T 3 の残りの継続回数が 1 減算されるだけではなく、潜伏している第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 の残りの継続回数も 1 減算されることになる。この場合、実行対象となっている第 3 時短状態 S T 5 の途中で第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 又は第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 の値が「0」となり第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2 が潜伏したまま終了する状況が生じ得る。

【 2 4 7 9 】

ステップ S F 7 0 6 にて否定判定をした場合又はステップ S F 7 0 7 の処理を実行した場合、時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「1」であるか否かを判定することで、第 1 時短状態 S T 1 であるか否かを判定する（ステップ S F 7 0 8）。第 1 時短状態 S T 1 である場合（ステップ S F 7 0 8 : Y E S）、第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 の値が「0」であるか否かを判定することで、第 1 時短状態 S T 1 における継続回数の遊技回の消化が完了したか否かを判定する（ステップ S F 7 0 9）。ステップ S F 7 0 9 にて肯定判定をした場合、時短対象カウンタ 3 7 1 を「0」クリアする（ステップ S F 7 1 1）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側 R A M 8 4 における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S F 7 1 1）、第 1 時短状態 S T 1 が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S F 7 1 2）。

【 2 4 8 0 】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「2」である場合（ステップ S F 7 1 3 : Y E S）、すなわち第 2 時短状態 S T 2 である場合、第 2 時短状態カウンタ 3 7 3 の値が「0」であるか否かを判定することで、第 2 時短状態 S T 2 における継続回数の遊技回の消化が完了したか否かを判定する（ステップ S F 7 1 4）。ステップ S F 7 1 4 にて肯定判定をした場合、時短対象カウンタ 3 7 1 を「0」クリアする（ステップ S F 7 1 5）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側 R A M 8 4 における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップ S F 7 1 6）、第 2 時短状態 S T 2 が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S F 7 1 7）。

【 2 4 8 1 】

時短対象カウンタ 3 7 1 の値が「3」である場合（ステップ S F 7 1 3 : N O）、すなわち第 3 時短状態 S T 3 である場合、第 3 時短小当たり回数カウンタ 4 1 1 及び第 3 時短遊技回数カウンタ 4 1 2 のいずれかが「0」となっているか否かを判定することで、第 3 時短状態 S T 5 の終了条件が成立しているか否かを判定する（ステップ S F 7 1 8）。第 3 時短状態 S T 5 の終了条件が成立している場合（ステップ S F 7 1 8 : Y E S）、第 1 時短状態カウンタ 3 7 2 の値が 1 以上であるか否かを判定することで、第 1 時短状態 S T 1 が潜伏中であるか否かを判定する（ステップ S F 7 1 9）。ステップ S F 7 1 9 にて肯定判定をした場合、時短対象カウンタ 3 7 1 に「1」をセットする（ステップ S F 7 2 0

）。これにより、潜伏対象であった第1時短状態ST1が実行対象となる。また、当該第1時短状態ST1は、第1時短状態カウンタ372に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。

【2482】

その後、潜伏対象であった第1時短状態ST1が実行対象となったことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF725）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象の途中で時短結果の発生に伴い第3時短状態ST5が優先して実行されたことで一旦、潜伏対象となった第1時短状態ST1が再度実行対象となったことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

10

【2483】

ステップSF719にて否定判定をした場合、第2時短状態カウンタ373の値が1以上であるか否かを判定することで、第2時短状態ST2が潜伏中であるか否かを判定する（ステップSF721）。ステップSF721にて肯定判定をした場合、時短対象カウンタ371に「2」をセットする（ステップSF722）。これにより、潜伏対象であった第2時短状態ST2が実行対象となる。また、当該第2時短状態ST2は、第2時短状態カウンタ373に記憶されている残りの継続回数に亘って実行される。

【2484】

その後、潜伏対象であった第2時短状態ST2が実行対象となったことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF725）。音光側MPU93は当該状態指定コマンドを受信した場合、実行対象の途中で時短結果の発生に伴い第3時短状態ST5が優先して実行されたことで一旦、潜伏対象となった第2時短状態ST2が再度実行対象となったことを示す演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。

20

【2485】

ステップSF721にて否定判定をした場合、時短対象カウンタ371を「0」クリアする（ステップSF723）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。また、主側RAM84における時短終了時の外端フラグに「1」をセットし（ステップSF724）、第3時短状態ST5が終了して通常遊技状態に移行したことを示す状態指定コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSF725）。

30

【2486】

上記構成によれば第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、実行対象となっていた第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2は潜伏して第3時短状態ST5が実行対象となる。第3時短状態ST5は第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2に比べて遊技者の有利度が低い。したがって、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において残りの継続回数が第3時短状態ST5の継続回数以上である状況では、遊技者は時短結果が発生しないことを期待することとなる。その一方、第3時短状態ST5は通常遊技状態よりは遊技者にとって有利であるため、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において残りの継続回数が少ない状況では、遊技者は時短結果が発生することを期待することとなる。つまり、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において残りの継続回数に応じて時短結果が発生しないことを遊技者に期待させる状況と時短結果が発生することを遊技者に期待させる状況とのそれぞれを生じさせることが可能となり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

40

【2487】

第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の途中で時短結果に対応する遊技回が実行されることで第3時短状態ST5が実行対象となった場合には、実行対象であった第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2は一旦潜伏中となり、その後に実行対象の第3時短状態ST5が終了した場合に潜伏中の第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2の残りの継続回数が1以上であれば、その潜伏中の第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2が再度実行対象となる。この場合に、第3時短状態ST5は30回の遊技回が消化された

50

場合に終了するとともに5回の小当たり結果が発生した場合にも終了するため、5回の小当たり結果が早期に発生すれば30回の遊技回が消化される前に第3時短状態ST5が終了して、潜伏中の第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2が再開されることになる。したがって、遊技者は第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2が潜伏中である第3時短状態ST5において小当たり結果が発生することを期待することとなり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【2488】

＜第30の実施形態の別形態＞

(1) 図225(a)は時短状態の別形態を説明するための説明図である。当該別形態では時短状態として、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2が設定されているとともに、第3時短状態ST5に代えて第3A時短状態ST61、第3B時短状態ST62及び第3C時短状態ST63が設定されている。

10

【2489】

第3A時短状態ST61は、上記第21の実施形態と同様に第1時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは第2高頻度サポートモードとなる。また、第3A時短状態ST61は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。第3B時短状態ST62は、上記第21の実施形態と同様に第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは第2高頻度サポートモードとなる。また、第3B時短状態ST62は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく20回の小当たり結果が発生した場合に終了する。第3C時短状態ST63は、上記第21の実施形態と同様に第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは中頻度サポートモードとなる。また、第3C時短状態ST63は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく5回の小当たり結果が発生した場合又は30回の遊技回が消化された場合に終了する。

20

【2490】

第3時短状態ST61～ST63のうち、第3B時短状態ST62が最も有利であり、第3A時短状態ST61が次に有利であり、第3C時短状態ST63の有利度が最も低い。一方、実行対象の優先度は第3C時短状態ST63が最も高く、第3A時短状態ST61が次に高く、第3B時短状態ST62が最も低い。なお、本別形態では、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行されたとしても当該時短結果に対応する第3時短状態ST61～ST63が潜伏し、実行中の第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2がそのまま実行対象として維持される。

30

【2491】

第3C時短状態ST63の途中で第1時短結果又は第2時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第3C時短状態ST63が実行対象として継続されて、発生した時短結果に対応する第3A時短状態ST61又は第3B時短状態ST62が潜伏対象となる。また、第3A時短状態ST61又は第3B時短状態ST62の途中で第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第3C時短状態ST63が実行対象となり、それまで実行対象であった第3A時短状態ST61又は第3B時短状態ST62が潜伏対象となる。これらの場合、潜伏対象となっている第3A時短状態ST61又は第3B時短状態ST62の終了条件が成立する前に第3C時短状態ST63が終了した場合には、潜伏対象となっている第3A時短状態ST61又は第3B時短状態ST62が実行対象となるため、相対的に有利度が低い第3C時短状態ST63が早期に終了することを遊技者は期待することになる。

40

【2492】

(2) 図225(b)は時短状態の別形態を説明するための説明図である。当該別形態では時短状態として、第1時短状態ST1及び第2時短状態ST2が設定されていると

50

もに、第3時短状態ST5に代えて第3A時短状態ST71、第3B時短状態ST72及び第3C時短状態ST73が設定されている。

【2493】

第3A時短状態ST71は、上記第21の実施形態と同様に第1時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは第2高頻度サポートモードとなる。また、第3A時短状態ST71は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。第3B時短状態ST72は、上記第21の実施形態と同様に第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは中頻度サポートモードとなる。また、第3B時短状態ST72は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく20回の普電開放状態が発生した場合に終了する。第3C時短状態ST73は、上記第21の実施形態と同様に第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合に発生し、サポートモードは中頻度サポートモードとなる。また、第3C時短状態ST73は、大当たり結果となり開閉実行モードが発生した場合に終了するとともに、大当たり結果が発生することなく5回の小当たり結果が発生した場合に終了する。

10

【2494】

第3時短状態ST71～ST73のうち、第3A時短状態ST71が最も有利であり、第3B時短状態ST72が次に有利であり、第3C時短状態ST73の有利度が最も低い。一方、実行対象の優先度は第3C時短状態ST73が最も高く、第3B時短状態ST72が次に高く、第3A時短状態ST71が最も低い。なお、本別形態では、第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2において第1～第3時短結果のいずれかに対応する遊技回が実行されたとしても当該時短結果に対応する第3時短状態ST71～ST73が潜伏し、実行中の第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2がそのまま実行対象として維持される。

20

【2495】

第3C時短状態ST73の途中で第1時短結果又は第2時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第3C時短状態ST73が実行対象として継続されて、発生した時短結果に対応する第3A時短状態ST71又は第3B時短状態ST72が潜伏対象となる。また、第3A時短状態ST71又は第3B時短状態ST72の途中で第3時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第3C時短状態ST73が実行対象となり、それまで実行対象であった第3A時短状態ST71又は第3B時短状態ST72が潜伏対象となる。これらの場合、潜伏対象となっている第3A時短状態ST71又は第3B時短状態ST72の終了条件が成立する前に第3C時短状態ST73が終了した場合には、潜伏対象となっている第3A時短状態ST71又は第3B時短状態ST72が実行対象となるため、相対的に有利度が低い第3C時短状態ST73が早期に終了することを遊技者は期待することになる。

30

【2496】

第3B時短状態ST72の途中で第1時短結果に対応する遊技回が実行されたとしても第3B時短状態ST72が実行対象として継続されて、発生した時短結果に対応する第3A時短状態ST71が潜伏対象となる。また、第3A時短状態ST71の途中で第2時短結果に対応する遊技回が実行された場合には、第3B時短状態ST72が実行対象となり、それまで実行対象であった第3A時短状態ST71が潜伏対象となる。これらの場合、潜伏対象となっている第3A時短状態ST71の終了条件が成立する前に第3B時短状態ST72が終了した場合には、潜伏対象となっている第3A時短状態ST71が実行対象となるため、相対的に有利度が低い第3B時短状態ST72が早期に終了することを遊技者は期待することになる。

40

【2497】

<第31の実施形態>

本実施形態では、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部

50

167の誤作動を防止するための構成を備えていることが上記第6の実施形態と相違している。以下、上記第6の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第6の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2498】

図226は本実施形態におけるパチンコ機10の電氣的構成を説明するための説明図である。

【2499】

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、主制御基板81には主側MPU82が搭載されており、当該主側MPU82には、主側ROM83、主側RAM84、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各種カウンタ回路などが内蔵されている。図226に示すように、本実施形態における主側MPU82には、入出力ポート421が内蔵されている。入出力ポート421は、入力ポートとしての機能及び出力ポートとしての機能を有する入出力ポートである。なお、主側MPU82に対して主側ROM83及び主側RAM84が1チップ化されていることは必須の構成ではなく、それぞれが個別にチップ化された構成としてもよい。

【2500】

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、主側MPU82の出力側には、特電入賞装置32における特電用の駆動部32bが接続されている。特電用の駆動部32bは、特電入賞装置32の開閉扉32a（図44参照）を開閉動作させるソレノイドである。特電入賞装置32は、特電用の駆動部32bが駆動状態となることにより開放状態となるとともに、特電用の駆動部32bが非駆動状態となることにより閉鎖状態となる。また、上記第6の実施形態において既に説明したとおり、主側MPU82の出力側には、振分入賞装置161における振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167が接続されている。振分入口用の駆動部163は、振分入賞装置161における振分入口161a（図44参照）を遊技球が通過不可である閉鎖状態と遊技球が通過可能である開放状態とに切り換える振分側開閉部材162（図44参照）を開閉動作させるソレノイドである。振分側開閉部材162は振分入口用の駆動部163により図示しないリンク機構を通じて駆動されることで開放状態となる。切換用駆動部167は、振分入賞装置161の切換片166を変位させるソレノイドである。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、切換片166は、振分入賞装置161の排出通路領域165bにおけるV入賞通路領域165c（図46参照）への分岐箇所設けられている。切換片166は、排出通路領域165bの外部に全体が退避した退避位置と、排出通路領域165b内に突出したV誘導位置との間で変位可能となっている。切換片166には図示しない伝達ユニットを通じて切換用駆動部167の駆動力が伝達される。切換片166は、切換用駆動部167が非駆動状態である場合には図示しないバネなどの付勢手段の付勢力によって退避位置に配置され、切換用駆動部167が駆動状態となることでその付勢力に抗して切換片166が変位してV誘導位置に配置される。

【2501】

入出力ポート421には、第0端子NS0、第1端子NS1及び第2端子NS2が設けられている。図227(a)は入出力ポート421の第0～第2端子NS0～NS2から出力される信号を説明するための説明図である。図227(a)に示すように、第0端子NS0は、特電用の駆動部32bの駆動制御を行うための駆動制御信号を出力するために使用される。また、第1端子NS1は、振分入口用の駆動部163の駆動制御を行うための駆動制御信号を出力するために使用されるとともに、第2端子NS2は、切換用駆動部167の駆動制御を行うための駆動制御信号を出力するために使用される。なお、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御を行うための詳細な構成については後述する。

【2502】

図226に示すように、主制御基板81には、第0誤作動防止回路422、第1誤作動防止回路423及び第2誤作動防止回路424が設けられている。第0誤作動防止回路4

10

20

30

40

50

22は、特電用の駆動部32bの誤作動を防止するための回路であり、第1誤作動防止回路423は、振分入口用の駆動部163の誤作動を防止するための回路であり、第2誤作動防止回路424は、切換用駆動部167の誤作動を防止するための回路である。なお、これらの駆動部32b、163、167の誤作動とは、設計段階において意図しない動作のことである。また、誤作動防止回路422～424の詳細については後述する。

【2503】

図226に示すように、主側MPU82には、制御レジスタ425、出力データレジスタ426及び入力データレジスタ427が設けられている。図227(b)は制御レジスタ425の構成を説明するための説明図であり、図227(c)は出力データレジスタ426の構成を説明するための説明図であり、図227(d)は入力データレジスタ427の構成を説明するための説明図である。制御レジスタ425、出力データレジスタ426及び入力データレジスタ427のそれぞれは、第0～第7ビットを有する1バイトの記憶エリアである。また、これらのレジスタ425～427は、主側MPU82によるデータの読み込み及び主側MPU82によるデータの書き込みが行われる記憶エリアである。

【2504】

図227(b)～図227(d)に示すように、制御レジスタ425の第0ビット425a、出力データレジスタ426の第0ビット426a及び入力データレジスタ427の第0ビット427aは、入出力ポート421の第0端子NS0に対応しており、制御レジスタ425の第1ビット425b、出力データレジスタ426の第1ビット426b及び入力データレジスタ427の第1ビット427bは、入出力ポート421の第1端子NS1に対応しており、制御レジスタ425の第2ビット425c、出力データレジスタ426の第2ビット426c及び入力データレジスタ427の第2ビット427cは、入出力ポート421の第2端子NS2に対応している。制御レジスタ425の第3～第7ビット、出力データレジスタ426の第3～第7ビット及び入力データレジスタ427の第3～第7ビットは、未使用であり、これらの第3～第7ビットの値は「0」で維持される。

【2505】

図227(e)は制御レジスタ425の第0～第2ビット425a～425cに設定されるデータを説明するための説明図であり、図227(f)は出力データレジスタ426の第0～第2ビット426a～426cに設定されるデータを説明するための説明図であり、図227(g)は入力データレジスタ427の第0～第2ビット427a～427cに設定されるデータを説明するための説明図である。主側MPU82は、図227(e)に示すように、第0端子NS0における入出力の方向を示すデータを制御レジスタ425の第0ビット425aに設定し、第1端子NS1における入出力の方向を示すデータを第1ビット425bに設定し、第2端子NS2における入出力の方向を示すデータを第2ビット425cに設定する。制御レジスタ425の第0～第2ビット425a～425cに設定される「0」というデータは対応する端子NS0～NS2を出力端子として機能させるためのデータであるとともに、当該第0～第2ビット425a～425cに設定される「1」というデータは対応する端子NS0～NS2を入力端子として機能させるためのデータである。

【2506】

第0～第2端子NS0～NS2を出力端子として機能させる場合、主側MPU82は、図227(f)に示すように、第0端子NS0から出力するデータを出力データレジスタ426の第0ビット426aに設定し、第1端子NS1から出力するデータを第1ビット426bに設定し、第2端子NS2から出力するデータを第2ビット426cに設定する。また、第0～第2端子NS0～NS2が入力端子として機能する場合、図227(g)に示すように、入力データレジスタ427の第0ビット427aには第0端子NS0に入力されたデータが記憶され、第1ビット427bには第1端子NS1に入力されたデータが記憶され、第2ビット427cには第2端子NS2に入力されたデータが記憶される。

【2507】

図226に示すように、主側MPU82にはポート設定回路428が設けられていると

ともに、入出力ポート421には第0出力データエリアDA0、第1出力データエリアDA1及び第2出力データエリアDA2が設けられている。ポート設定回路428は、主側MPU82にて実行される処理による制御を介することなく、制御レジスタ425及び出力データレジスタ426に設定されているデータに基づいて、入出力ポート421の制御を実行するハードウェアである。第0出力データエリアDA0は、第0端子NS0が出力端子として機能する場合に、当該第0端子NS0から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアであり、第1出力データエリアDA1は、第1端子NS1が出力端子として機能する場合に、当該第1端子NS1から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアであり、第2出力データエリアDA2は、第2端子NS2が出力端子として機能する場合に、当該第2端子NS2から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアである。

【2508】

ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第0ビット425aに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ426の第0ビット426aに設定されている「0」又は「1」のデータを第0出力データエリアDA0に設定する。第0出力データエリアDA0に「0」が設定された場合には、入出力ポート421の第0端子NS0から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHイレベルの信号が出力される状態となるとともに、第0出力データエリアDA0に「1」が設定された場合には、第0端子NS0からLOWレベルの信号が出力される状態となる。ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第1ビット425bに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ426の第1ビット426bに設定されている「0」又は「1」のデータを第1出力データエリアDA1に設定する。第1出力データエリアDA1に「0」が設定された場合には、入出力ポート421の第1端子NS1から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHイレベルの信号が出力される状態となるとともに、第1出力データエリアDA1に「1」が設定された場合には、第1端子NS1からLOWレベルの信号が出力される状態となる。ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第2ビット425cに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ426の第2ビット426cに設定されている「0」又は「1」のデータを第2出力データエリアDA2に設定する。第2出力データエリアDA2に「0」が設定された場合には、入出力ポート421の第2端子NS2から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHイレベルの信号が出力される状態となるとともに、第2出力データエリアDA2に「1」が設定された場合には、第2端子NS2からLOWレベルの信号が出力される状態となる。

【2509】

第0～第2出力データエリアDA0～DA2に設定されたデータは、所定の時間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持された後に消失するが、ポート設定回路428は当該所定の時間よりも短い周期（例えば2ミリ秒の周期）で出力データレジスタ426の第0～第2ビット426a～426cに設定されているデータを第0～第2出力データエリアDA0～DA2に設定する。このため、制御レジスタ425の第0ビット425aに「0」が設定されている場合、第0端子NS0から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ426の第0ビット426aに設定されているデータに対応する状態に維持される。また、制御レジスタ425の第1ビット425bに「0」が設定されている場合、第1端子NS1から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ426の第1ビット426bに設定されているデータに対応する状態に維持される。さらにまた、制御レジスタ425の第2ビット425cに「0」が設定されている場合、第2端子NS2から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ426の第2ビット426cに設定されているデータに対応する状態に維持される。

【2510】

主側MPU82は、出力データレジスタ426における第0～第2ビット426a～426cのうち1つのビットのデータを書き換える場合、書き換え前の出力データレジスタ426に格納されている1バイトのデータを把握し、当該把握した1バイトのデータのうち書き換え対象のビットのデータのみを変更することにより変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込む。これにより、書き換え対象のビット以外のビットのデータを維持しながら、書き換え対象のビットのデータのみが書き換えられる。

【2511】

ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第0ビット425aに「1」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第0端子NS0に入力されているLOWレベルの信号に対応する「0」のデータ又は当該第0端子NS0に入力されているHIGHレベルの信号に対応する「1」のデータを入力データレジスタ427の第0ビット427aに記憶させるデータ設定を行う。また、ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第1ビット425bに「1」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第1端子NS1に入力されているLOWレベルの信号に対応する「0」のデータ又は当該第1端子NS1に入力されているHIGHレベルの信号に対応する「1」のデータを入力データレジスタ427の第1ビット427bに記憶させるデータ設定を行う。さらにまた、ポート設定回路428は、制御レジスタ425の第2ビット425cに「1」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第2端子NS2に入力されているLOWレベルの信号に対応する「0」のデータ又は当該第2端子NS2に入力されているHIGHレベルの信号に対応する「1」のデータを入力データレジスタ427の第2ビット427cに記憶させるデータ設定を行う。これらのデータ設定は、所定の周期（例えば2ミリ秒の周期）で繰り返し実行される。主側MPU82は、制御レジスタ425の第0～第2ビット425a～425cに「1」が設定されている状態において、入力データレジスタ427の第0～第2ビット427a～427cに記憶されているデータを読み込むことにより入出力ポート421の第0～第2端子NS0～NS2に入力されている信号の状態を把握することができる。

【2512】

図226に示すように、主側MPU82には、外部出力用ポート429が設けられている。外部出力用ポート429は、パチンコ機10の外部に設けられたホールコンピュータHC（図228参照）への信号の外部出力を行うための出力ポートである。外部出力用ポート429には、第0端子GS0及び第1端子GS1が設けられている。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、サポートモードとして低頻度サポートモードと、第1高頻度サポートモードと、第2高頻度サポートモードとが設定されている。本実施形態では、パチンコ機10からホールコンピュータHCに対して出力される信号として、有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号が存在している。有利サポートモード信号は、サポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードであることを示す信号である。また、開閉実行モード信号は、開閉実行モードの発生中であることを示す信号である。第0端子GS0は、ホールコンピュータHCに外部出力される有利サポートモード信号の状態を設定するための第0設定信号を出力するために使用されるときともに、第1端子GS1は、ホールコンピュータHCに外部出力される開閉実行モード信号の状態を設定するための第1設定信号を出力するために使用される。

【2513】

図226に示すように、主側MPU82には外部出力レジスタ432が設けられているとともに、外部出力用ポート429には第0外部出力エリアGA0及び第1外部出力エリアGA1が設けられている。外部出力レジスタ432は、主側MPU82によるデータの読み込み及び主側MPU82によるデータの書き込みが行われる記憶エリアである。外部出力レジスタ432は1バイトからなる。主側MPU82は、外部出力用ポート429の第0端子GS0から出力する「0」又は「1」のデータを外部出力レジスタ432の第0ビットに設定するとともに、外部出力用ポート429の第1端子GS1から出力する「0」又は「1」のデータを外部出力レジスタ432の第1ビットに設定する。外部出力レジ

10

20

30

40

50

スタ 4 3 2 の第 2 ～第 7 ビットは未使用であり、当該第 2 ～第 7 ビットの値は「0」である。

【2 5 1 4】

第 0 外部出力エリア G A 0 及び第 1 外部出力エリア G A 1 のそれぞれは、1 ビットの記憶エリアである。ポート設定回路 4 2 8 は、所定の周期（具体的には 2 ミリ秒の周期）で、外部出力レジスタ 4 3 2 の第 0 ビットに設定されているデータを第 0 外部出力エリア G A 0 に設定するとともに、外部出力レジスタ 4 3 2 の第 1 ビットに設定されているデータを第 1 外部出力エリア G A 1 に設定する。第 0 外部出力エリア G A 0 に「0」が設定されている場合には第 0 端子 G S 0 から出力される第 0 設定信号が当該「0」に対応する L O W レベルとなるとともに、第 0 外部出力エリア G A 0 に「1」が設定されている場合には第 0 端子 G S 0 から出力される第 0 設定信号が当該「1」に対応する H I レベルとなる。また、第 1 外部出力エリア G A 1 に「0」が設定されている場合には第 1 端子 G S 1 から出力される第 1 設定信号が当該「0」に対応する L O W レベルとなるとともに、第 1 外部出力エリア G A 1 に「1」が設定されている場合には第 1 端子 G S 1 から出力される第 1 設定信号が当該「1」に対応する H I レベルとなる。

【2 5 1 5】

図 2 2 6 に示すように、主制御基板 8 1 には、外部出力用回路 4 3 1 が設けられている。外部出力用回路 4 3 1 は、停電信号の H I レベルから L O W レベルへの立ち下げと同時に有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号の H I レベルから L O W レベルへの立ち下げが行われるようにするために設けられたハードウェアである。外部出力用回路 4 3 1 には、外部出力用ポート 4 2 9 の第 0 端子 G S 0 から出力される第 0 設定信号、第 1 端子 G S 1 から出力される第 1 設定信号及び停電監視基板 8 5 から出力される停電信号が入力される。なお、有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号をホールコンピュータ H C に外部出力するための詳細な構成については後述する。

【2 5 1 6】

図 2 2 6 に示すように、主側 M P U 8 2 と停電監視基板 8 5 とを電氣的に接続する電気経路として、電気経路 L N 1 1、信号線 L N 1 2 及び信号線 L N 1 3 が設けられている。上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、停電監視基板 8 5 には、動作電力を供給する機能を有する電源・発射制御装置 7 8 が接続されている。停電監視基板 8 5 は、主制御基板 8 1 と電源・発射制御装置 7 8 とを中継する。電源・発射制御装置 7 8 は、停電監視基板 8 5 を介して、主側 M P U 8 2 に電源電圧（具体的には 5 V）を供給する。停電監視基板 8 5 は、電源・発射制御装置 7 8 から出力される最大電圧である直流安定 3 6 V の電圧を監視する。電気経路 L N 1 1 は、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に対して 5 V の電源電圧を供給するための電気経路である。また、信号線 L N 1 2 は、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に対して停電信号を出力するための信号線であるとともに、信号線 L N 1 3 は、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に対してリセット信号を出力するための信号線である。

【2 5 1 7】

パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板 8 5 は、まず停電信号を L O W レベルから H I レベルに立ち上げ、当該停電信号の立ち上げから所定の時間（具体的には 9 ミリ秒）の経過後にリセット信号を L O W レベルから H I レベルに立ち上げる。主側 M P U 8 2 は、入力されているリセット信号が L O W レベルから H I レベルに立ち上がった場合に、動作を開始する。パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が停止され、停電監視基板 8 5 において停電の発生が特定された場合、停電監視基板 8 5 は、まず停電信号を H I レベルから L O W レベルに立ち下げ、当該停電信号の立ち下げから所定の時間（具体的には 9 ミリ秒）の経過後にリセット信号を H I レベルから L O W レベルに立ち下げる。停電監視基板 8 5 は、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された後に停電信号を立ち上げた場合、停電の発生を特定するまで当該停電信号の立ち下げを行わない。また、停電監視基板 8 5 は、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始されて停電信号の立ち上げ後にリセット信号を立ち上げた場合、停電の発生を特定して停電信号を立ち下げた

後にリセット信号を立ち下げるまで、当該リセット信号の立ち下げを行わない。主側MPU82は、入力されている停電信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がったことに基づいて、停電が発生したことを把握するとともに、停電時処理を実行する。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、停電時処理は、タイマ割込み処理（図14）のステップS201における停電監視処理（図231）にて実行される。主側MPU82に入力されているリセット信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がった場合に主側MPU82の動作が停止する。なお、停電信号、リセット信号及び停電監視処理の詳細については後述する。

【2518】

図226に示すように、主制御基板81には、停電監視基板85から主側MPU82に対して出力されるリセット信号を第0～第2誤作動防止回路422～424に入力するための信号線LN14が形成されている。信号線LN14は、信号線LN13を、停電監視基板85から主側MPU82に向かう主制御基板81上の途中位置で分岐させることにより形成されている。また、図226に示すように、主制御基板81には、停電監視基板85から主側MPU82に対して出力される停電信号を外部出力用回路431に入力するための信号線LN15が形成されている。信号線LN15は、信号線LN12を、停電監視基板85から主側MPU82に向かう主制御基板81上の途中位置で分岐させることにより形成されている。

【2519】

次に、誤作動防止回路422～424及び外部出力用回路431についての説明に先立ち、主制御基板81に実装されている電子部品について説明する。図228は特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御を行うための電氣的構成を示すブロック図である。

【2520】

図228に示すように、主制御基板81には、第1論理IC433及び第2論理IC434が実装されている。第1論理IC433は、第0NAND回路441、第1NAND回路442、第2NAND回路443、第3NAND回路444及び第4NAND回路445という5つのNAND回路441～445を内蔵する電子部品である。また、第2論理IC434は、第0NOT回路451、第1NOT回路452、第2NOT回路453、第3NOT回路454、第4NOT回路455及び第5NOT回路456という6つのNOT回路451～456を内蔵する電子部品である。

【2521】

第1論理IC433におけるNAND回路441～445のそれぞれは、2つの入力端子及び1つの出力端子を備えている。NAND回路441～445は、2つの入力端子の双方にHイレベルの信号（「1」に対応する信号）が入力された場合には出力端子からLOWレベルの信号（「0」に対応する信号）を出力するとともに、当該2つの入力端子のうち少なくとも一方にLOWレベルの信号が入力された場合には出力端子からHイレベルの信号を出力する。

【2522】

NAND回路441～445は、入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を超えた場合に当該入力端子に入力されている信号がHイレベルに変化したことを認識する。また、NAND回路441～445は、入力端子にHイレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第2基準電圧（具体的には1.6V）を下回った場合に当該入力端子に入力されている信号がLOWレベルに変化したことを認識する。第1基準電圧が第2基準電圧よりも高い電圧に設定されていることにより、NAND回路441～445の入力端子にHイレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNAND回路441～445が入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。また、第2基準電圧が第1基準電圧よりも低い電圧に設定されていることによ

10

20

30

40

50

り、NAND回路441～445の入力端子にLOWレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNAND回路441～445が入力端子にHレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。

【2523】

第2論理IC434におけるNOT回路451～456のそれぞれは、1つの入力端子及び1つの出力端子を備えている。NOT回路451～456は、入力端子にHレベルの信号（「1」に対応する信号）が入力された場合には当該Hレベルの信号を反転させたLOWレベルの信号（「0」に対応する信号）を出力端子から出力するとともに、入力端子にLOWレベルの信号が入力された場合には当該LOWレベルの信号を反転させたHレベルの信号を出力端子から出力する。

【2524】

NOT回路451～456は、入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を超えた場合に当該入力端子に入力されている信号がHレベルに変化したことを認識する。また、NOT回路451～456は、入力端子にHレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第2基準電圧（具体的には1.6V）を下回った場合に当該入力端子に入力されている信号がLOWレベルに変化したことを認識する。第1基準電圧が第2基準電圧よりも高い電圧に設定されていることにより、NOT回路451～456の入力端子にHレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNOT回路451～456が入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。また、第2基準電圧が第1基準電圧よりも低い電圧に設定されていることにより、NOT回路451～456の入力端子にLOWレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNOT回路451～456が入力端子にHレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。

【2525】

図228に示すように、主制御基板81には、第1論理IC435及び第2論理IC436が実装されている。第1論理IC435は、既に説明した第1論理IC433と同一の電子部品であるとともに、第2論理IC436は、既に説明した第2論理IC434と同一の電子部品である。また、図示は省略するが、主制御基板81には、第1論理IC433、435を含む複数の第1論理ICが実装されているとともに、第2論理IC434、436を含む複数の第2論理ICが実装されている。特に、第1論理ICに内蔵されているNAND回路を組み合わせることによってAND回路の機能を有する回路、OR回路の機能を有する回路、XOR回路の機能を有する回路、NOT回路の機能を有する回路及びNOR回路の機能を有する回路を形成することが可能であるため、主制御基板81には複数の第1論理ICが実装されている。

【2526】

次に、有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号をホールコンピュータHCに外部出力するための構成について説明する。

【2527】

図228に示すように、外部出力用回路431は、第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445の一部である第3NAND回路444及び第4NAND回路445を利用して形成されている。第3NAND回路444が備えている2つの入力端子の一方は、外部出力用ポート429の第0端子GS0と電気的に接続されているとともに、当該2つの入力端子の他方は、停電監視基板85と電気的に接続されている。第3NAND回路444には、外部出力用ポート429の第0端子GS0から出力される第0設定信号と、停電監視基板85から出力される停電信号とが入力される。また、第4NAND回路445が備えている2つの入力端子の一方は、外部出力用ポート429の第1端子GS1と電気的に接続されているとともに、当該2つの入力端子の他方は、停電監視基板85と電気的に接続されている。第4NAND回路445には、外部出力用ポート

429の第1端子GS1から出力される第1設定信号と、停電監視基板85から出力される停電信号とが入力される。

【2528】

第3NAND回路444及び第4NAND回路445から出力される信号は、外部端子板457を介して、ホールコンピュータHCに外部出力される。外部端子板457には、外部出力用回路431の第3NAND回路444に対応させて第1外端NOT回路437が形成されているとともに、外部出力用回路431の第4NAND回路445に対応させて第2外端NOT回路438が形成されている。これらの第1外端NOT回路437及び第2外端NOT回路438は、上述した第0～第5NOT回路451～456と同様に、1つの入力端子及び1つの出力端子を備えている。第3NAND回路444から出力される信号は第1外端NOT回路437を介してホールコンピュータHCに外部出力されるとともに、第4NAND回路445から出力される信号は第2外端NOT回路438を介してホールコンピュータHCに外部出力される。第1外端NOT回路437からホールコンピュータHCに外部出力される信号は上述した有利サポートモード信号であるとともに、第2外端NOT回路438からホールコンピュータHCに外部出力される信号は上述した開閉実行モード信号である。

【2529】

第1外端NOT回路437及び第2外端NOT回路438は、上述した第0～第5NOT回路451～456と同様に、入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を超えた場合に当該入力端子に入力されている信号がHイレベルに変化したことを認識するとともに、入力端子にHイレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第2基準電圧（具体的には1.6V）を下回った場合に当該入力端子に入力されている信号がLOWレベルに変化したことを認識する。第3NAND回路444から外部端子板457に出力される信号が第1外端NOT回路437を介してホールコンピュータHCに外部出力される構成であることにより、ノイズの影響を受けてホールコンピュータHCに外部出力される有利サポートモード信号の状態が変化してしまうことが防止されている。また、第4NAND回路445から外部端子板457に出力される信号が第2外端NOT回路438を介してホールコンピュータHCに外部出力される構成であることにより、ノイズの影響を受けてホールコンピュータHCに外部出力される開閉実行モード信号の状態が変化してしまうことが防止されている。

【2530】

主側MPU82は、サポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状態が開始された場合に第0端子GS0から出力する第0設定信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げるとともに、当該状態が終了した場合に当該第0設定信号を立ち下げる。既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板85は、停電信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げる。そして、停電監視基板85において停電の発生が特定されるまで、停電信号のLOWレベルへの立ち下げは行われない。第3NAND回路444に入力される第0設定信号及び停電信号の双方がHイレベルである場合には、第3NAND回路444から外部端子板457の第1外端NOT回路437に対して出力される信号がLOWレベルとなる。そして、当該信号がLOWレベルとなることにより、第1外端NOT回路437からホールコンピュータHCに外部出力される有利サポートモード信号がHイレベルとなる。これにより、ホールコンピュータHCにおいて、パチンコ機10のサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状態が開始されたことを把握可能とすることができる。一方、第3NAND回路444に入力される第0設定信号及び停電信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には、第3NAND回路444から外部端子板457の第1外端NOT回路437に対して出力される信号がHイレベルとなる。そして、当該信号がHイレベルとなることにより、第1外端NOT回路437からホールコンピュー

10

20

30

40

50

タHCに外部出力される有利サポートモード信号がLOWレベルとなる。これにより、ホールコンピュータHCにおいて、パチンコ機10のサポートモードが第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状態が終了したことを把握可能とすることができる。

【2531】

主側MPU82は、開閉実行モードが開始された場合に第1端子GS1から出力する第1設定信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げるとともに、当該開閉実行モードが終了した場合に第1設定信号を立ち下げる。既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板85は、停電信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げる。そして、停電監視基板85において停電の発生が特定されるまで、停電信号のLOWレベルへの立ち下げは行われない。第4NAND回路445に入力される第1設定信号及び停電信号の双方がHイレベルである場合には、第4NAND回路445から外部端子板457の第2外端NOT回路438に対して出力される信号がLOWレベルとなる。そして、当該信号がLOWレベルとなることにより、第2外端NOT回路438からホールコンピュータHCに外部出力される開閉実行モード信号がHイレベルとなる。これにより、ホールコンピュータHCにおいて、パチンコ機10における開閉実行モードが開始されたことを把握可能とすることができる。一方、第4NAND回路445に入力される第1設定信号及び停電信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には、第4NAND回路445から外部端子板457の第2外端NOT回路438に対して出力される信号がHイレベルとなる。そして、当該信号がHイレベルとなることにより、第2外端NOT回路438からホールコンピュータHCに外部出力される開閉実行モード信号がLOWレベルとなる。これにより、ホールコンピュータHCにおいて、パチンコ機10における開閉実行モードが終了したことを把握可能とすることができる。

【2532】

外部端子板457からホールコンピュータHCに外部出力されている有利サポートモード信号がHイレベルである状態において、停電監視基板85にて停電の発生が特定された場合には、第3NAND回路444に入力されている停電信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がることにより、当該第3NAND回路444から外部端子板457の第1外端NOT回路437に出力されている信号がLOWレベルからHイレベルに立ち上がる。そして、当該信号がHイレベルに立ち上がることにより第1外端NOT回路437からホールコンピュータHCに外部出力されている有利サポートモード信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がる。このように、第3NAND回路444に入力されている第0設定信号及び停電信号の状態に基づいてホールコンピュータHCに外部出力される有利サポートモード信号の状態が決定される構成であることにより、停電信号の立ち下げと同時に有利サポートモード信号の立ち下げが行われるようにすることができる。これにより、停電信号がLOWレベルに立ち下がったにも関わらずホールコンピュータHCではパチンコ機10が第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである状態が継続されていると認識されている状態が発生してしまうことを防止できる。

【2533】

外部端子板457からホールコンピュータHCに外部出力されている開閉実行モード信号がHイレベルである状態において、停電監視基板85にて停電の発生が特定された場合には、第4NAND回路445に入力されている停電信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がることにより、当該第4NAND回路445から外部端子板457の第2外端NOT回路438に出力されている信号がLOWレベルからHイレベルに立ち上がる。そして、当該信号がHイレベルに立ち上がることにより第2外端NOT回路438からホールコンピュータHCに外部出力されている開閉実行モード信号がHイレベルからLOWレベルに立ち下がる。このように、第4NAND回路445に入力されている第1設定信号及び停電信号の状態に基づいてホールコンピュータHCに外部出力される開閉実行モード信号の状態が決定される構成であることにより、停電信号の立ち下げと同時に開閉実行モード信号の立ち下げが行われるようにすることができる。これにより、停電信号がLOW

レベルに立ち下がったにも関わらずホールコンピュータHCではパチンコ機10における開閉実行モードが継続されていると認識されている状態が発生してしまうことを防止できる。

【2534】

次に、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御を実行するための構成について説明する。

【2535】

図228に示すように、特電入賞装置32には、増幅作用及びスイッチング作用を有する素子として、第0MOSFET461が設けられている。また、振分入賞装置161には、増幅作用及びスイッチング作用を有する素子として、第1MOSFET462及び第2MOSFET463が設けられている。これらMOSFET461～463のそれぞれは、ソース、ドレイン及びゲートを備えている。MOSFET461～463は、nチャンネルエンハンスメント型のMOSFETである。なお、増幅作用及びスイッチング作用を有する素子として、nチャンネルエンハンスメント型のMOSFETに代えて、pチャンネルエンハンスメント型のMOSFET、nチャンネルデプレッション型のMOSFET、pチャンネルデプレッション型のMOSFET、接合型FET及びトランジスタ（バイポーラトランジスタ）のいずれかが設けられている構成としてもよい。

【2536】

入出力ポート421の第0端子NS0は、第0誤作動防止回路422を介して、第0MOSFET461のゲートと電気的に接続されている。第0MOSFET461のソースは特電用の駆動部32bと電気的に接続されているとともに、第0MOSFET461のドレインは接地されている。特電用の駆動部32bの一端は例えば36Vにプルアップされており、特電用の駆動部32bは、第0MOSFET461のゲートにかかる電圧がHレベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧がLOWレベルである場合に非駆動状態となる。

【2537】

入出力ポート421の第1端子NS1は、第1誤作動防止回路423を介して、第1MOSFET462のゲートと電気的に接続されている。第1MOSFET462のソースは振分入口用の駆動部163と電気的に接続されているとともに、第1MOSFET462のドレインは接地されている。振分入口用の駆動部163の一端は例えば36Vにプルアップされており、振分入口用の駆動部163は、第1MOSFET462のゲートにかかる電圧がHレベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧がLOWレベルである場合に非駆動状態となる。

【2538】

入出力ポート421の第2端子NS2は、第2誤作動防止回路424を介して、第2MOSFET463のゲートと電気的に接続されている。第2MOSFET463のソースは切換用駆動部167と電気的に接続されているとともに、第2MOSFET463のドレインは接地されている。切換用駆動部167の一端は例えば36Vにプルアップされており、切換用駆動部167は、第2MOSFET463のゲートにかかる電圧がHレベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧がLOWレベルである場合に非駆動状態となる。

【2539】

次に、誤作動防止回路422～424について説明する。

【2540】

第0誤作動防止回路422は、論理回路として、第0NOT回路451、第0NAND回路441及び第3NOT回路454を備えている。また、第1誤作動防止回路423は、論理回路として、第1NOT回路452、第1NAND回路442及び第4NOT回路455を備えているとともに、第2誤作動防止回路424は、論理回路として、第2NOT回路453、第2NAND回路443及び第5NOT回路456を備えている。

【2541】

上述したとおり、入出力ポート421の第0端子NS0は、第0誤作動防止回路422を介して、第0MOSFET461と電氣的に接続されている。図228に示すように、入出力ポート421の第0端子NS0は、第0NOT回路451を介して、第0NAND回路441が備えている2つの入力端子のうち一方の入力端子と電氣的に接続されている。当該一方の入力端子には、第0端子NS0から出力される駆動制御信号を反転させた信号が入力される。また、第0NAND回路441における他方の入力端子は、停電監視基板85と電氣的に接続されており、当該他方の入力端子にはリセット信号が入力される。図226を参照しながら既に説明したとおり、停電監視基板85から主側MPU82にリセット信号を出力するための信号線LN13を分岐させることにより信号線LN14が設けられている。図228に示すように、第0NAND回路441は当該信号線LN14を介して、停電監視基板85と電氣的に接続されている。第0NAND回路441の出力端子は、第3NOT回路454を介して、第0MOSFET461のゲートと電氣的に接続されている。

【2542】

上述したとおり、入出力ポート421の第1端子NS1は、第1誤作動防止回路423を介して、第1MOSFET462と電氣的に接続されている。図228に示すように、入出力ポート421の第1端子NS1は、第1NOT回路452を介して、第1NAND回路442が備えている2つの入力端子のうち一方の入力端子と電氣的に接続されている。当該一方の入力端子には、第1端子NS1から出力される駆動制御信号を反転させた信号が入力される。また、第1NAND回路442における他方の入力端子は、停電監視基板85と電氣的に接続されており、当該他方の入力端子にはリセット信号が入力される。第1NAND回路442は、信号線LN14と、当該信号線LN14を分岐させて形成された信号線LN16とを介して、停電監視基板85と電氣的に接続されている。第1NAND回路442の出力端子は、第4NOT回路455を介して、第1MOSFET462のゲートと電氣的に接続されている。

【2543】

上述したとおり、入出力ポート421の第2端子NS2は、第2誤作動防止回路424を介して、第2MOSFET463と電氣的に接続されている。図228に示すように、入出力ポート421の第2端子NS2は、第2NOT回路453を介して、第2NAND回路443が備えている2つの入力端子のうち一方の入力端子と電氣的に接続されている。当該一方の入力端子には、第2端子NS2から出力される駆動制御信号を反転させた信号が入力される。また、第2NAND回路443における他方の入力端子は、停電監視基板85と電氣的に接続されており、当該他方の入力端子にはリセット信号が入力される。第2NAND回路443は、信号線LN14と、当該信号線LN14を分岐させて形成された信号線LN17とを介して、停電監視基板85と電氣的に接続されている。第2NAND回路443の出力端子は、第5NOT回路456を介して、第2MOSFET463のゲートと電氣的に接続されている。

【2544】

図229は入出力ポート421の第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号及び停電監視基板85から出力されるリセット信号と、対象駆動部の状態との関係を説明するための説明図である。第0端子NS0に対応する対象駆動部は特電用の駆動部32bであり、第1端子NS1に対応する対象駆動部は振分入口用の駆動部163であり、第2端子NS2に対応する対象駆動部は切換用駆動部167である。

【2545】

上述したとおり、第0～第2NOT回路451～453は、入力端子に入力された信号を反転させた信号を出力端子から出力する。図229に示すように、第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号がLOWレベルである場合には第0～第2NOT回路451～453から出力される信号がHIGHレベルとなるとともに、第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号がHIGHレベルである場合には第0～第2NOT回路451～453から出力される信号がLOWレベルとなる。

【2546】

上述したとおり、第0～第2NAND回路441～443は、2つの入力端子に入力された信号の双方がHイレベルである場合に出力端子からLOWレベルの信号を出力するとともに、2つの入力端子に入力された信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合に出力端子からHイレベルの信号を出力する。図229に示すように、第0～第2NOT回路451～453から第0～第2NAND回路441～443に入力される信号及び停電監視基板85から第0～第2NAND回路441～443に入力されるリセット信号の双方がHイレベルである場合には第0～第2NAND回路441～443から第3～第5NOT回路454～456に出力される信号がLOWレベルとなる。また、第0～第2NOT回路451～453から第0～第2NAND回路441～443に入力される信号及び停電監視基板85から第0～第2NAND回路441～443に入力されるリセット信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には第0～第2NAND回路441～443から出力される信号がHイレベルとなる。

10

【2547】

第3～第5NOT回路454～456は、既に説明したとおり、入力端子に入力された信号を反転させた信号を出力端子から出力する。図229に示すように、第0～第2NAND回路441～443から第3～第5NOT回路454～456に入力される信号がLOWレベルである場合には第3～第5NOT回路454～456から第0～第2MOSFET461～463のゲートに出力される信号がHイレベルとなるとともに、第0～第2NAND回路441～443から第3～第5NOT回路454～456に入力される信号がHイレベルである場合には第3～第5NOT回路454～456から第0～第2MOSFET461～463のゲートに出力される信号がLOWレベルとなる。そして、上述したとおり、第0～第2MOSFET461～463のゲートに入力される信号がHイレベルとなる（第0～第2MOSFET461～463のゲートにHイレベルの電圧がかかる状態となる）ことにより当該第0～第2MOSFET461～463に対応する対象駆動部が駆動状態となるとともに、第0～第2MOSFET461～463のゲートに入力される信号がLOWレベルとなる（第0～第2MOSFET461～463のゲートにLOWレベルの電圧がかかる状態となる）ことにより当該第0～第2MOSFET461～463に対応する対象駆動部が非駆動状態となる。

20

【2548】

既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板85は、まず停電信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げ、当該停電信号の立ち上げから所定の時間（具体的には9ミリ秒）の経過後にリセット信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げる。そして、停電監視基板85にて停電の発生が特定されて停電信号の立ち下げが行われた後にリセット信号の立ち下げが行われるまで、リセット信号のLOWレベルへの立ち下げは行われない。

30

【2549】

図229に示すように、主側MPU82は、停電監視基板85から出力されているリセット信号がHイレベルである状況において、第0端子NS0から出力される駆動制御信号をLOWレベルとすることにより特電用の駆動部32bを駆動状態とすることができるとともに、当該状況において第0端子NS0から出力される駆動制御信号をHイレベルとすることにより特電用の駆動部32bを非駆動状態とすることができるとともに、当該状況において第1端子NS1から出力される駆動制御信号をLOWレベルとすることにより振分入口用の駆動部163を駆動状態とすることができるとともに、当該状況において第1端子NS1から出力される駆動制御信号をHイレベルとすることにより振分入口用の駆動部163を非駆動状態とすることができるとともに、さらにまた、主側MPU82は、停電監視基板85から出力されているリセット信号がHイレベルである状況において、第2端子NS2から出力される駆動制御信号をLOWレベルとすることにより切替用駆動部167を駆動状態とすることができるとともに、当該状況において第2端子NS2から出力される駆動

40

50

制御信号をH Iレベルとすることにより切換用駆動部167を非駆動状態とすることができる。

【2550】

第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号がLOWレベルとなることにより対象駆動部が駆動状態となる構成である。このため、第0～第2端子NS0～NS2から第0～第2NOT回路451～453に対して出力される駆動制御信号の電圧がノイズの影響を受けて瞬間的に押し上げられた場合に、当該ノイズの影響を受けて対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【2551】

次に、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合に、第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号の状態について説明する。

【2552】

主側MPU82における制御レジスタ425、出力データレジスタ426及び入力データレジスタ427は、パチンコ機10への動作電力の供給が停止されている状態において放電されており、これらのレジスタ425～427における各ビットの値は「0」となっている。これらのビット値が「0」である状態は、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合においても主側MPU82にていずれかのビットに「1」をセットする処理（例えば図233を参照しながら後述するポート出力処理におけるステップSF904の処理）が実行されるまで継続される。既に説明したとおり、制御レジスタ425の第0～第2ビット425a～425cの値が「0」である状態は、入出力ポート421の第0～第2端子NS0～NS2が出力端子として機能する状態である。また、出力データレジスタ426の第0～第2ビット426a～426cの値が「0」である状態は、主側MPU82に供給される電源電圧（安定供給状態において5V）に対応するH Iレベルの駆動制御信号が第0～第2端子NS0～NS2から出力されるように設定されている状態である。このように、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合には、主側MPU82にて制御レジスタ425、出力データレジスタ426及び入力データレジスタ427におけるいずれかのビットに「1」をセットする処理が実行されるまで、これらのレジスタ425～427は第0～第2端子NS0～NS2から電源電圧（安定供給状態において5V）に対応するH Iレベルの駆動制御信号を出力するためのデータが設定されている状態となる。また、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されると、入出力ポート421は、当該入出力ポート421の内部に設けられた回路の構成上、第0～第2端子NS0～NS2が出力端子として機能する状態となるとともに、当該第0～第2端子NS0～NS2から主側MPU82に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が出力される状態となる。このため、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合には、主側MPU82にて制御レジスタ425、出力データレジスタ426及び入力データレジスタ427におけるいずれかのビットに「1」をセットする処理が実行されるまで、第0～第2端子NS0～NS2から主側MPU82に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が出力される状態となる。

【2553】

パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、主側MPU82に供給される電源電圧は、安定状態における電圧（具体的には5V）まで徐々に上昇する。停電監視基板85は、当該停電監視基板85を介して電源・発射制御装置78が主側MPU82に供給する電源電圧が規定動作電圧（具体的には3V）を下回らない状態が所定の時間（例えば2ミリ秒）に亘って継続された場合に主側MPU82に供給される電源電圧が安定したことを認識して停電信号をLOWレベルからH Iレベルに立ち上げる。パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから停電信号が立ち上げられるまでの期間においては、主側MPU82に供給される電源電圧の上昇と当該電源電圧の降下とが繰り返される。このため、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、入出力ポート421の第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号の電圧レベルは、主側MPU82に供給される電源電圧と同様に、上昇及び降下を繰り返しながら、全体として徐々に安定状

10

20

30

40

50

態におけるH Iレベルの電圧（具体的には5 V）に向かう。

【2554】

第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号のみに基づいて特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御が行われる構成とすると、第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号の出力が安定しない状態において、これらの駆動部32b、163、167の誤作動が発生してしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、第0～第2端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号に加えて、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御を行うためのリセット信号が設けられている。リセット信号は、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後、主側MPU82に供給される電源電圧が不安定な状態となる期間においてLOWレベルに維持される。図229を参照しながら既に説明したとおり、リセット信号をLOWレベルとすることにより、駆動制御信号の状態とは無関係に、これらの駆動部32b、163、167の非駆動状態を維持することができる。これにより、パチンコ機10への動作電力の供給開始時にこれらの駆動部32b、163、167の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

10

【2555】

図228に示すように、停電監視基板85から第0～第2誤作動防止回路422～424の第0～第2NAND回路441～443へ向かう信号経路（信号線LN14）は、主制御基板81において当該信号線LN14が信号線LN16、LN17に分岐する位置よりも停電監視基板85側の位置において、電気抵抗（具体的には4.7kΩの電気抵抗）を有するプルダウン抵抗464を介して接地されている。これにより、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後、停電監視基板85がリセット信号をLOWレベルからH Iレベルに立ち上げるまでの期間において、リセット信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けてリセット信号がH Iレベルに立ち上がってしまうことを防止できる。

20

【2556】

特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の誤作動を防止するために設けられているプルダウン抵抗は、信号線LN14に設けられたプルダウン抵抗464の1つのみである。これにより、パチンコ機10の消費電量が増加してしまうことを抑制しながら、これらの駆動部32b、163、167の誤作動を防止することができる。

30

【2557】

上述したとおり、停電監視基板85から主側MPU82に向けてリセット信号を出力するための信号線LN13を途中位置で分岐させて形成された信号線LN14と、当該信号線LN14を分岐させることにより形成された信号線LN16、LN17とを利用して、第0～第2誤作動防止回路422～424にリセット信号を入力する構成である。このため、停電監視基板85とは別の装置として電源投入直後にはLOWレベルに維持されるとともにその後H Iレベルに立ち上がる信号を出力するための装置を設ける構成と比較して、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の誤作動を防止するための構成を簡素化することができる。

40

【2558】

既に説明したとおり、外部出力用回路431は、第1論理IC433に内蔵されている第3NAND回路444及び第4NAND回路445を利用して形成されている。また、図228に示すように、第0誤作動防止回路422は、第1論理IC433に内蔵されている第0NAND回路441と、第2論理IC434に内蔵されている第0NOT回路451及び第3NOT回路454とを利用して形成されており、第1誤作動防止回路423は、第1論理IC433に内蔵されている第1NAND回路442と、第2論理IC434に内蔵されている第1NOT回路452及び第4NOT回路455とを利用して形成されており、第2誤作動防止回路424は、第1論理IC433に内蔵されている第2NAND回路443と、第2論理IC434に内蔵されている第2NOT回路453及び第5

50

NOT回路456とを利用して形成されている。

【2559】

第0誤作動防止回路422の第0NOT回路451及び第3NOT回路454と、第1誤作動防止回路423の第1NOT回路452及び第4NOT回路455と、第2誤作動防止回路424の第2NOT回路453及び第5NOT回路456と、が1つの電子部品（第2論理IC434）に内蔵されている。このため、これら第0～第5NOT回路451～456を設けるために2つ以上の電子部品を主制御基板81に実装する構成と比較して、主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【2560】

第0誤作動防止回路422の第0NAND回路441と、第1誤作動防止回路423の第1NAND回路442と、第2誤作動防止回路424の第2NAND回路443と、が1つの電子部品（第1論理IC433）に内蔵されている。このため、これら第0～第2NAND回路441～443を設けるために2つ以上の電子部品を主制御基板81に実装する構成と比較して、主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【2561】

第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445の一部である第3NAND回路444及び第4NAND回路445を利用して外部出力用回路431が形成されている構成において、当該5つのNAND回路441～445のうち外部出力用回路431には含まれていない第0～第2NAND回路441～443は第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するために利用されている。これにより、外部出力用回路431及び第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するためにNAND回路を内蔵している電子部品を主制御基板81に複数実装する構成と比較して、主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【2562】

第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445の一部である第0NAND回路441と、第2論理IC434に内蔵されている6つのNOT回路451～456の一部である第0NOT回路451及び第3NOT回路454とを利用して第0誤作動防止回路422が形成されている構成において、第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445のうち第0誤作動防止回路422に含まれていない第1～第2NAND回路442～443と、第2論理IC434に内蔵されている6つのNOT回路451～456のうち第0誤作動防止回路422に含まれていない第1NOT回路452、第2NOT回路453、第4NOT回路455及び第5NOT回路456とを利用して第1～第2誤作動防止回路423～424が形成されている。これにより、第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するために主制御基板81に実装される電子部品（第1論理IC433及び第2論理IC434）の数を抑えることができる。

【2563】

第0～第2誤作動防止回路422～424のそれぞれを形成するために第1論理IC433において利用されているNAND回路441～443の数（具体的には1つ）が、当該第0～第2誤作動防止回路422～424のそれぞれを形成するために第2論理IC434において利用されているNOT回路451～456の数（具体的には2つ）とは異なる数である構成である。当該構成において、一の第1論理IC433に内蔵されているNAND回路441～443と、一の第2論理IC434に内蔵されているNOT回路451～456とを利用して第0～第2誤作動防止回路422～424が形成されていることにより、第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するために主制御基板81に実装される電子部品（第1論理IC433及び第2論理IC434）の数が抑えられている。

【2564】

外部出力用回路431に含まれる論理回路（第3NAND回路444及び第4NAND回路445）の種類はNAND回路のみである。一方、第0誤作動防止回路422に含まれる論理回路（第0NAND回路441、第0NOT回路451及び第3NOT回路454）の種類はNAND回路及びNOT回路である。第0誤作動防止回路422に含まれて

10

20

30

40

50

いる論理回路の種類（NAND回路及びNOT回路）のうちの一部のみが外部出力用回路431に含まれている論理回路の種類（NAND回路）と共通している構成において、第0誤作動防止回路422及び外部出力用回路431に共通して含まれている種類の論理回路である第0NAND回路441、第3NAND回路444及び第4NAND回路445は、一の論理IC（第1論理IC433）にまとめられている。これにより、第0誤作動防止回路422に含まれる第0NAND回路441を設けるために、外部出力用回路431に含まれる第3NAND回路444及び第4NAND回路445を内蔵している第1論理IC481とは別の第1論理ICが実装される構成と比較して、主制御基板81に実装される第1論理ICの数を抑えることができる。また、第1誤作動防止回路423及び第2誤作動防止回路424と外部出力用回路431とに共通して含まれている種類の論理回路であるNAND回路（第1～第4NAND回路442～445）も第1論理IC433にまとめられている。これにより、主制御基板81に実装される第1論理IC433の数を抑えることができる。

10

【2565】

3つの誤作動防止回路422～424のそれぞれに含まれている論理回路の種類は、NAND回路及びNOT回路で共通している。第0～第2誤作動防止回路422～424に含まれている第0～第2NAND回路441～443が一の電子部品（第1論理IC433）にまとめられている構成において、当該第0～第2誤作動防止回路422～424に含まれている第0～第5NOT回路451～456も一の電子部品（第2論理IC434）にまとめられている。これにより、これら3つの誤作動防止回路422～424を形成するために主制御基板81に実装される電子部品の数を抑えることができる。

20

【2566】

このように、主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることにより、主制御基板81の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板81の製造コストを低減することができる。

【2567】

入出力ポート421の第0端子NS0から駆動制御信号が出力される場合、第0誤作動防止回路422では、第0NOT回路451→第0NAND回路441→第3NOT回路454の順番で、信号が流れる。第0NOT回路451は信号の流れの最も上流に存在しており、第0NAND回路441は当該信号の流れの2番目に上流に存在しており、第3NOT回路454は当該信号の流れの最も下流に存在している。

30

【2568】

図228に示すように、第0NAND回路441の出力端子と第3NOT回路454の入力端子とが電氣的に接続されている。そして、出力時における信号経路で、第0NAND回路441よりも下流側に存在している第3NOT回路454が物理的な位置として、当該第0NAND回路441よりも上流側に存在している第0NOT回路451に並設された位置となるように第0誤作動防止回路422の信号経路が形成されている。信号の流れにおいて最も下流に存在している第3NOT回路454を、当該信号の流れにおいて2番目に上流に存在している第0NAND回路441よりも、当該信号の流れにおいて最も上流側に存在している第0NOT回路451と物理的に近い位置に配置することにより、第0NAND回路441を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第0NOT回路451と当該信号の流れの最も下流に存在している第3NOT回路454とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている構成とすることができる。このため、第0NAND回路441を挟んで信号の流れの上流側に存在している第0NOT回路451と当該信号の流れの下流側に存在している第3NOT回路454とが異なる論理ICに内蔵されている構成と比較して、主制御基板81に実装される第2論理IC434の数を抑えることができる。

40

【2569】

第1誤作動防止回路423においても第0誤作動防止回路422と同様に、第1NAND回路442を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第1NOT回路452と当該

50

信号の流れの最も下流に存在している第4 NOT回路455とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている。また、第2誤作動防止回路424においても第0誤作動防止回路422及び第1誤作動防止回路423と同様に、第2NAND回路443を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第2 NOT回路453と当該信号の流れの最も下流に存在している第5 NOT回路456とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている。これにより、主制御基板81に実装される第2論理IC434の数を抑えることができる。

【2570】

上述したとおり、第1論理IC433は、主制御基板81に複数実装されている第1論理ICと同一の電子部品であるとともに、第2論理IC434は、主制御基板81に複数実装されている第2論理ICと同一の電子部品である。主制御基板81に複数実装されている電子部品（第1論理IC及び第2論理IC）を利用して外部出力用回路431及び第0～第2誤作動防止回路422～424が形成されていることにより、主制御基板81に実装される電子部品の共通化が図られており、主制御基板81に実装される電子部品の種類が低減されている。これにより、主制御基板81の製造効率が高められているとともに、主制御基板81の製造コストが低減されている。

【2571】

次に、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合における対象駆動部の状態について、特電用の駆動部32bを例として、図230のタイムチャートを参照しながら説明する。図230(a)は特電用の駆動部32bが駆動状態となる期間を示し、図230(b)は第0誤作動防止回路422の第0 NOT回路451から出力される信号の状態を示し、図230(c)は入出力ポート421の第0端子NS0から第0誤作動防止回路422の第0 NOT回路451に対して出力される駆動制御信号の状態を示し、図230(d)は停電監視基板85から第0～第2誤作動防止回路422～424の第0～第2NAND回路441～443に出力されるリセット信号の状態を示し、図230(e)は停電監視基板85から主側MPU82に出力される停電信号を示し、図230(f)は電源・発射制御装置78から停電監視基板85を介して主側MPU82に供給される電源電圧を示す。

【2572】

t1のタイミングでパチンコ機10への動作電力の供給が開始されると、当該t1のタイミングで、図230(f)に示すように主側MPU82に供給されている電源電圧が上昇し始めるとともに、図230(c)に示すように入出力ポート421の第0端子NS0から第0 NOT回路451に対して出力される駆動制御信号の電圧が上昇し始める。

【2573】

t1のタイミングでは、第0 NOT回路451に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を下回っている状態、すなわち第0 NOT回路451が入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状態であるため、図230(b)に示すように第0 NOT回路451から第0NAND回路441に対して出力されている信号はHIGHレベルとなる。また、図示は省略するが、第1～第2 NOT回路452～453から第1～第2NAND回路442～443に対して出力されている信号もHIGHレベルとなる。

【2574】

既に説明したとおり、停電監視基板85を介して電源・発射制御装置78から主側MPU82に供給される電源電圧（安定状態で5V）は、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから停電信号が立ち上げられるまで、電圧の上昇と降下とを繰り返しながら全体として徐々に上昇する（図230(f)参照）。また、図230(c)に示すように、入出力ポート421の第0端子NS0から出力される駆動制御信号の電圧も、主側MPU82に供給される電源電圧と同様に、電圧の上昇と降下とを繰り返しながら全体として徐々に上昇する。また、図示は省略するが、入出力ポート421の第1端子NS1及び第2端子NS2から出力される駆動制御信号の電圧も電圧の上昇と降下とを繰り返しながら

10

20

30

40

50

全体として徐々に上昇する。このように、パチンコ機 10 への動作電力の供給が開始される t_1 のタイミングから停電信号が立ち上げられる t_7 のタイミングまでの期間に亘って、入出力ポート 421 の第 0 ～ 第 2 端子 NS0 ～ NS2 から出力される駆動制御信号の電圧は不安定な状態となる。

【2575】

t_1 のタイミングから t_7 のタイミングに亘る期間においては、第 0 NOT 回路 451 にて当該第 0 NOT 回路 451 に入力されている駆動制御信号が LOW レベルであると認識されている状態において、 t_2 のタイミング、 t_4 のタイミング及び t_6 のタイミングで、図 230 (c) に示すように第 0 NOT 回路 451 に入力されている駆動制御信号の電圧が第 1 基準電圧（具体的には 2.8 V）を超えると、第 0 NOT 回路 451 にて当該第 0 NOT 回路 451 に入力されている信号のレベルが HI レベルであると認識される。そして、図 230 (b) に示すように第 0 NOT 回路 451 から出力される信号が HI レベルから LOW レベルに立ち下がる。また、第 0 NOT 回路 451 にて当該第 0 NOT 回路 451 に入力されている駆動制御信号が HI レベルであると認識されている状態において、 t_3 のタイミング及び t_5 のタイミングで、図 230 (c) に示すように第 0 NOT 回路 451 に入力されている駆動制御信号の電圧が第 2 基準電圧（具体的には 1.6 V）を下回ると、第 0 NOT 回路 451 にて当該第 0 NOT 回路 451 に入力されている信号のレベルが LOW レベルであると認識される。そして、図 230 (b) に示すように第 0 NOT 回路 451 から出力される信号が LOW レベルから HI レベルに立ち上がる。

【2576】

このように、 t_1 のタイミングから t_7 のタイミングに亘る期間において、第 0 端子 NS0 から出力される駆動制御信号の電圧が不安定な状態となることで、第 0 NOT 回路 451 から第 0 NAND 回路 441 に対して出力される信号の立ち上がりが発生する。また、図示は省略するが、当該期間において、第 1 端子 NS1 及び第 2 端子 NS2 から出力される駆動制御信号の電圧が不安定な状態となることで、第 1 ～ 第 2 NOT 回路 452 ～ 453 から第 1 ～ 第 2 NAND 回路 442 ～ 443 に対して出力される信号の立ち上がりが発生する。一方、既に説明したとおり、停電監視基板 85 から出力されるリセット信号は、主側 MPU 82 に供給される電源電圧が不安定な状態となる期間において LOW レベルに維持される。図 229 を参照しながら既に説明したとおり、リセット信号が LOW レベルである場合には、第 0 ～ 第 2 NOT 回路 451 ～ 453 から出力されている信号の状態とは無関係に、第 0 ～ 第 2 MOSFET 461 ～ 463 のゲートに出力される信号が LOW レベルとなる。これにより、図 230 (a) に示すように特電用の駆動部 32b が非駆動状態である状態を維持することができる。また、図示は省略するが、振分入口用の駆動部 163 及び切換用駆動部 167 が非駆動状態である状態を維持することができる。また、既に説明したとおり、停電監視基板 85 から第 0 ～ 第 2 NAND 回路 441 ～ 443 へ向かう信号経路（信号線 LN14）は、プルダウン抵抗 464 を介して接地されている。このため、リセット信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生したとしても、図 230 (d) に示すように、停電監視基板 85 から第 0 ～ 第 2 NAND 回路 441 ～ 443 に対して出力されるリセット信号を LOW レベルに維持することができる。

【2577】

t_7 のタイミングで、停電監視基板 85 を介して電源・発射制御装置 78 から主側 MPU 82 に供給される電源電圧が規定動作電圧（具体的には 3 V）を下回らない状態が所定の時間（具体的には 2 ミリ秒）に亘って継続されたことを停電監視基板 85 が認識すると、図 230 (e) に示すように、停電監視基板 85 は主側 MPU 82 に対して出力している停電信号を LOW レベルから HI レベルに立ち上げる。その後、 t_7 のタイミングから所定の期間（具体的には 9 ミリ秒）の経過後である t_8 のタイミングで、停電監視基板 85 は主側 MPU 82 及び第 0 ～ 第 2 誤作動防止回路 422 ～ 424 の第 0 ～ 第 2 NAND 回路 441 ～ 443 に対して出力しているリセット信号を LOW レベルから HI レベルに立ち上げる。これにより、主側 MPU 82 の動作が開始される。具体的には、当該 t_8 のタイミングで、主側 MPU 82 にてメイン処理（図 13）が開始される。停電監視基板 8

5 が停電信号を立ち上げる t 7 のタイミングからリセット信号を立ち上げる t 8 のタイミングまでの時間は、主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧を 5 V で安定させるのに十分な時間（具体的には 9 ミリ秒）に設定されている。これにより、主側 M P U 8 2 に 5 V の電源電圧を安定的に供給することが可能な状態とした後に主側 M P U 8 2 の動作を開始させることが可能となっている。

【2578】

その後、t 9 のタイミングで、図 230（c）に示すように主側 M P U 8 2 が第 0 端子 N S 0 から出力される駆動制御信号を H I レベルから L O W レベルに立ち下げると、図 230（b）に示すように第 0 N O T 回路 451 から出力される信号が L O W レベルから H I レベルに立ち上がるとともに、M O S F E T 461 のゲートに対して出力されている信号が H I レベルとなる。これにより、当該 t 9 のタイミングで、図 230（a）に示すように特電用の駆動部 32b が駆動状態となる。

【2579】

上記のとおり、パチンコ機 10 への動作電力の供給が開始されてから主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧が規定動作電圧（具体的には 3 V）に達するまでの期間（t 1 のタイミング～t 7 のタイミングの期間）において、第 0～第 2 端子 N S 0～N S 2 から出力される駆動制御信号の電圧が不安定な状態となることで、第 0～第 2 N O T 回路 451～453 から第 0～第 2 N A N D 回路 441～443 に対して出力される信号の立ち上がりが発生するが、当該期間において停電監視基板 85 から第 0～第 2 N A N D 回路 441～443 に対して出力されるリセット信号は L O W レベルに維持される。これにより、パチンコ機 10 への動作電力の供給開始直後に対象駆動部（特電用の駆動部 32b、振分入口用の駆動部 163、切替用駆動部 167）の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【2580】

第 0～第 2 端子 N S 0～N S 2 から出力される駆動制御信号の状態と、停電監視基板 85 から出力されるリセット信号の状態との組合せに基づいて対象駆動部の駆動制御が実行される構成とするとともに、パチンコ機 10 への動作電力の供給が開始された状況においてリセット信号が L O W レベルに維持される構成とすることにより、当該状況において対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【2581】

次に、パチンコ機 10 への動作電力の供給が停止された場合について説明する。図 231 は主側 M P U 8 2 にて実行される停電監視処理を示すフローチャートである。上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、停電監視処理は、タイマ割込み処理（図 14）のステップ S 201 にて実行される。

【2582】

停電監視基板 85 から出力されている停電信号が H I レベルである場合、すなわち停電が発生していない場合（ステップ S F 801：N O）には、停電時処理（ステップ S F 802～ステップ S F 804 の処理）を実行することなく、本停電監視処理を終了する。一方、停電監視基板 85 から出力されている停電信号が L O W レベルに立ち下がっている場合、すなわち停電の発生を特定した場合（ステップ S F 801：Y E S）には、停電時処理（ステップ S F 802～ステップ S F 804）を実行する。

【2583】

停電時処理では、主側 R A M 84 の停電フラグに「1」をセットし（ステップ S F 802）、チェックサムの算出処理を実行する（ステップ S F 803）。チェックサムの算出処理では、チェックサムを算出し、その算出したチェックサムを保存する。その後、ポート設定処理を実行する（ステップ S F 804）。ポート設定処理では、制御レジスタ 425、出力データレジスタ 426 及び入力データレジスタ 427 を「0」クリアする。ポート設定回路 428 は、これらのレジスタ 425～427 の第 0～第 2 ビット 425a～425c、426a～426c、427a～427c に設定されたデータに基づいて、入出力ポート 421 の第 0～第 2 端子 N S 0～N S 2 から H I レベルの駆動制御信号が出力される状態とする。これにより、特電用の駆動部 32b、振分入口用の駆動部 163 及び切

10

20

30

40

50

換用駆動部 167 を非駆動状態とすることができる。停電時処理（ステップ S F 8 0 2 ～ステップ S F 8 0 4 ）を実行した後は、無限ループとなる。

【2584】

次に、パチンコ機 10 への動作電力の供給が停止された場合における対象駆動部の状態について、特電用の駆動部 32b を例として図 232 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 232（a）は特電用の駆動部 32b が駆動状態となる期間を示し、図 232（b）は第 0 誤作動防止回路 422 の第 3 NOT 回路 454 から第 0 MOSFET 461 に対して出力される信号の状態を示し、図 232（c）は第 0 誤作動防止回路 422 の第 0 NOT 回路 451 から第 0 NAND 回路 441 に出力される信号の状態を示し、図 232（d）は入出力ポート 421 の第 0 端子 NS0 から第 0 NOT 回路 451 に対して出力される駆動制御信号の状態を示し、図 232（e）は停電監視基板 85 から第 0 ～第 2 誤作動防止回路 422 ～424 の第 0 ～第 2 NAND 回路 441 ～443 に出力されるリセット信号の状態を示し、図 232（f）は主側 MPU 82 にて停電時処理が実行されるタイミングを示し、図 232（g）は停電監視基板 85 から主側 MPU 82 に出力される停電信号の状態を示し、図 232（h）は電源・発射制御装置 78 から出力される最大電圧を示す。

10

【2585】

図 232（a）に示すように特電用の駆動部 32b が駆動状態となっている t1 のタイミングで、パチンコ機 10 への動作電力の供給が停止されると、図 232（h）に示すように電源・発射制御装置 78 から出力される最大電圧が降下し始め、t2 のタイミングで規定電圧（具体的には 24V）を下回る。当該最大電圧を監視している停電監視基板 85 は、図 232（g）に示すように当該 t2 のタイミングで停電信号を H I レベルから L O W レベルに立ち下げる。

20

【2586】

その後、t3 のタイミングで、停電監視処理（図 231）にて停電信号の立ち下がりが認識されると、図 232（f）に示すように停電時処理（ステップ S F 8 0 2 ～ステップ S F 8 0 4 ）が実行される。既に説明したとおり、停電時処理では、出力データレジスタ 426 の第 0 ～第 2 ビット 426a ～426c に「0」が設定される。これにより、図 232（d）に示すように第 0 端子 NS0 から出力されている駆動制御信号が L O W レベルから H I レベルに立ち上がるとともに、図 232（c）に示すように第 0 NOT 回路 451 から出力される信号が H I レベルから L O W レベルに立ち下がる。そして、図 232（a）に示すように特電用の駆動部 32b が非駆動状態となる。これにより、特電入賞装置 32 が閉鎖状態となる。図示は省略するが、第 1 端子 NS1 及び第 2 端子 NS2 から出力されている駆動制御信号も、上記第 0 端子 NS0 から出力されている駆動制御信号と同様に、H I レベルとなる。そして、第 1 端子 NS1 から出力されている駆動制御信号が H I レベルとなることにより、振分入口用の駆動部 163 が非駆動状態となるとともに、振分入賞装置 161 が閉鎖状態となる。また、第 2 端子 NS2 から出力されている駆動制御信号が H I レベルとなることにより、切換用駆動部 167 が非駆動状態となるとともに、切換片 166 が退避位置に配置された状態となる。

30

【2587】

停電信号が H I レベルから L O W レベルに立ち下げられた t2 のタイミングから所定の時間（具体的には 9 ミリ秒）の経過後である t4 のタイミングで、図 232（e）に示すように停電監視基板 85 はリセット信号を H I レベルから L O W レベルに立ち下げる。これにより、主側 MPU 82 の動作が停止される。また、第 0 ～第 2 誤作動防止回路 422 ～424 の第 0 ～第 2 NAND 回路 441 ～443 に入力されているリセット信号が立ち下がることにより、当該第 0 ～第 2 NAND 回路 441 ～443 に入力されている駆動制御信号の状態とは無関係に、第 0 ～第 2 NAND 回路 441 ～443 から第 3 ～第 5 NOT 回路 454 ～456 に対して出力される信号が H I レベルとなるとともに、当該第 3 ～第 5 NOT 回路 454 ～456 から第 0 ～第 2 MOSFET 461 ～463 に対して出力される信号が L O W レベルとなる。これにより、入出力ポート 421 の第 0 ～第 2 端子 N

40

50

S 0 ～ N S 2 から出力される駆動制御信号の電圧を押し上げるノイズ等の影響を受けて駆動制御信号が一時的に H I レベルに立ち上がったとしても特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の誤作動が発生しない状態とすることができる。

【 2 5 8 8 】

第 0 ～ 第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から L O W レベルの駆動制御信号が出力されているとともに、停電監視基板 8 5 から H I レベルのリセット信号が出力されている場合に対象駆動部（特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 又は切換用駆動部 1 6 7）が駆動状態となる構成において、主側 M P U 8 2 の動作が停止するタイミングでリセット信号が L O W レベルに立ち下がることにより、当該タイミングで第 0 ～ 第 2 M O S F E T のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからない状態とすることができる。これにより、主側 M P U 8 2 の動作が停止された後に、主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧が降下し始めた影響を受けて設計段階において意図されていないタイミングで一時的に第 0 ～ 第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から H I レベルの信号が出力されている状態となった場合においても第 0 ～ 第 2 M O S F E T 4 6 1 ～ 4 6 3 のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからないようにすることができる。よって、主側 M P U 8 2 の動作が停止された後に、対象駆動部が駆動状態となってしまうことを防止できる。

【 2 5 8 9 】

停電信号が立ち下げられるタイミングよりも後のタイミングにおいてリセット信号を立ち下げることにより、停電時処理が実行された後に第 0 ～ 第 2 M O S F E T 4 6 1 ～ 4 6 3 のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからないようにすることができる。これにより、停電時処理が実行されるまでは対象駆動部（特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7）を駆動状態とすることを可能としながら、リセット信号が立ち下がった後は設計段階において意図されていないタイミングで対象駆動部が駆動状態となってしまうことを防止できる。

【 2 5 9 0 】

t 4 のタイミングは、図 2 3 2 （ h ）に示すように電源・発射制御装置 7 8 から出力される最大電圧が下がり切る前のタイミングであるとともに、主側 M P U 8 2 に供給されている電源電圧（ 5 V ）が降下し始める前のタイミングである。このため、図 2 3 2 （ d ）に示すように、第 0 端子 N S 0 から出力される駆動制御信号は、リセット信号が立ち下がる当該 t 4 のタイミングまで、電源電圧の降下の影響を受けて L O W レベルに立ち下がることはない。また、図示は省略するが、第 1 端子 N S 1 及び第 2 端子 N S 2 から出力される駆動制御信号も、リセット信号が立ち下がる当該 t 4 のタイミングまで、電源電圧の降下の影響を受けて L O W レベルに立ち下がることはない。このように、主側 M P U 8 2 に供給されている電源電圧の降下の影響を受けて第 0 ～ 第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から出力される駆動制御信号が L O W レベルに立ち下がってしまうタイミングよりも前のタイミングにおいてリセット信号を L O W レベルに立ち下げることにより、動作電力の供給停止時に特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【 2 5 9 1 】

次に、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御を実行するために主側 M P U 8 2 にて実行される各種処理について説明する。

【 2 5 9 2 】

まず主側 M P U 8 2 にて実行されるポート出力処理について図 2 3 3 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、ポート出力処理はタイマ割込み処理（図 1 4）のステップ S 2 0 7 にて実行される。

【 2 5 9 3 】

ステップ S F 9 0 1 ～ ステップ S F 9 1 0 では、振分入賞装置 1 6 1 の切換片 1 6 6 （図 4 6 参照）が退避位置に配置されている状態と V 誘導位置に配置されている状態との切り換えを行うための処理を実行する。上記第 6 の実施形態において既に説明したとおり、

切換片 166 は、切換用駆動部 167 が非駆動状態である場合には図示しないバネなどの付勢手段の付勢力によって退避位置に配置され、切換用駆動部 167 が駆動状態となることでその付勢力に抗して切換片 166 が変位して V 誘導位置に配置される。

【2594】

ポート出力処理（図 233）では、まず主側 RAM 84 に設けられた誘導時間カウンタの値を 1 加算する（ステップ SF901）。誘導時間カウンタは、切換片 166 が退避位置に配置されている状態と V 誘導位置に配置されている状態との切り換えを行うためのタイミングを主側 MPU 82 にて把握可能とするカウンタである。誘導時間カウンタは 2 バイトからなる。誘導時間カウンタの値は、約 4 ミリ秒の周期で 1 加算されて更新される。

【2595】

その後、主側 RAM 84 に設けられた誘導中フラグに「1」が設定されているか否かを判定する（ステップ SF902）。誘導中フラグは、切換片 166 が V 誘導位置に配置されている状態であることを主側 MPU 82 にて把握可能とするフラグである。誘導中フラグの値が「0」である場合（ステップ SF902：NO）、すなわち切換片 166 が退避位置に配置されている状態である場合には、主側 RAM 84 における誘導時間カウンタの値が「675」以上であるか否かを判定する（ステップ SF903）。誘導時間カウンタの値が「675」以上である場合、すなわち切換片 166 が退避位置に配置されている状態となってから 2.7 秒が経過している場合には、誘導開始処理を実行する（ステップ SF904）。

【2596】

誘導開始処理（ステップ SF904）では、出力データレジスタ 426 に設定されている 1 バイトのデータを把握し、当該 1 バイトのデータのうち第 2 ビットのデータを「1」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ 426 に書き込むことにより、出力データレジスタ 426 の第 0 ビット 426a 及び第 1 ビット 426b に設定されているデータを維持しながら、第 2 ビット 426c のデータを「1」に変更する。ポート設定回路 428 は、当該第 2 ビット 426c に設定された「1」のデータを第 2 出力データエリア DA2 に設定する。これにより、第 2 端子 NS2 から出力される駆動制御信号を HI レベルから LOW レベルに立ち下げることができる。既に説明したとおり、切換用駆動部 167 は、第 2 端子 NS2 から出力されている駆動制御信号が LOW レベルであるとともに停電監視基板 85 から出力されているリセット信号が HI レベルである場合に駆動状態となる。リセット信号は、パチンコ機 10 への動作電力の供給開始後に LOW レベルから HI レベルに立ち上がった場合、停電の発生が特定されるまで HI レベルに維持される。このため、誘導開始処理（ステップ SF904）にて第 2 端子 NS2 から出力されている駆動制御信号を LOW レベルに立ち下げることにより切換用駆動部 167 を駆動状態とすることができる。切換用駆動部 167 が駆動状態となってから約 0.3 秒後に切換片 166 が V 誘導位置に配置されている状態となる。

【2597】

その後、主側 RAM 84 の誘導中フラグに「1」をセットする（ステップ SF905）。これにより、切換用駆動部 167 が駆動状態であることを主側 MPU 82 にて把握可能とすることができる。その後、主側 RAM 84 における誘導時間カウンタの値を「0」クリアする（ステップ SF906）。これにより、切換用駆動部 167 の駆動状態への切り換えが行われた後に経過した時間を主側 MPU 82 にて把握可能とすることができる。

【2598】

誘導中フラグに「1」がセットされている場合（ステップ SF902：YES）、すなわち切換用駆動部 167 が駆動状態である場合には、主側 RAM 84 における誘導時間カウンタの値が「325」以上であること（ステップ SF907：YES）、すなわち切換用駆動部 167 の駆動状態への切り換えが行われてから 1.3 秒以上が経過していることを条件として、誘導終了処理を実行する（ステップ SF908）。

【2599】

誘導終了処理（ステップ SF908）では、出力データレジスタ 426 に設定されてい

10

20

30

40

50

る1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第2ビットのデータを「0」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第0ビット426a及び第1ビット426bに設定されているデータを維持しながら、第2ビット426cのデータを「0」に変更する。ポート設定回路428は、当該第2ビット426cに設定された「0」のデータを入出力ポート421の第2出力データエリアDA2に設定する。これにより、第2端子NS2から出力される駆動制御信号をLOWレベルからHILEVELに立ち上げることができる。そして、第2端子NS2から出力される駆動制御信号をHILEVELに立ち上げることにより、切換用駆動部167を非駆動状態として、切換片166が退避位置に配置されるようにすることができる。

10

【2600】

その後、誘導中フラグを「0」クリアする（ステップSF909）。これにより、切換用駆動部167が非駆動状態であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、誘導時間カウンタの値を「0」クリアする（ステップSF910）。これにより、切換用駆動部167の非駆動状態への切り換えが行われた後に経過した時間を主側MPU82にて把握可能とすることができる。

【2601】

このように、切換用駆動部167の駆動状態への切り換えが行われてから約0.3秒後に切換片166がV誘導位置に配置されている状態となり、当該状態は約1秒間に亘って継続される。その後、切換用駆動部167の非駆動状態への切り換えが行われ、切換片166が退避位置に配置されている状態となる。当該非駆動状態は約2.7秒間に亘って継続される。上記第6の実施形態と同様に、切換片166はパチンコ機10への動作電力の供給が行われた場合に動作が開始され、切換片166は一定の周期で一定の期間に亘ってV誘導位置に配置される。切換片166がV誘導位置に配置される周期は4秒に1回であり、切換片166がV誘導位置に保持される期間は約1秒間である。

20

【2602】

ステップSF903にて否定判定を行った場合、ステップSF906の処理を行った場合、ステップSF907にて否定判定を行った場合、又はステップSF910の処理を行った場合には、その他の出力処理を実行して（ステップSF911）、本ポート出力処理を終了する。ステップSF911におけるその他の出力処理では、前回のタイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を行うための処理を実行する。

30

【2603】

次に、主側MPU82にて実行される振分開始用処理について図234のフローチャートを参照しながら説明する。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、振分開始用処理は特図特電制御処理（図49）のステップS2708にて実行される。

【2604】

まず振分開始コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG101）。音光側MPU93は、主側MPU82から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モード中であることを示す演出が実行されるように表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。また、音光側MPU93は表示側MPU103に振分開始コマンドを送信する。表示側MPU103は、音光側MPU93から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モードが開始されたことを示す表示演出が実行された後に、振分実行モード中であることを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置41を表示制御する。その後、主側RAM84の振分入賞カウンタに「5」をセットする（ステップSG102）。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、振分入賞カウンタは、振分実行モードにおいて開放状態となっている振分入賞装置161に入球した遊技球の個数との関係で当該振分入賞装置161を開放状態から閉鎖状態に切り換える契機を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。その後、振分開放期間のセット処理を実行する（ステップSG103）。振分開放期間のセット処理では、振分入賞装置161が開放状態に

40

50

維持される期間が振分開放期間である2秒となるように当該2秒に対応する情報を主側RAM84のタイマカウンタにセットする。

【2605】

その後、振分入賞装置161を開放状態とするための振分開放処理を実行する（ステップSG104）。振分開放処理では、出力データレジスタ426に設定されている1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第1ビットのデータを「1」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第0ビット426a及び第2ビット426cに設定されているデータを維持しながら、第1ビット426bのデータを「1」に変更する。ポート設定回路428は、当該第1ビット426bに設定された「1」のデータを入出力ポート421の第1出力データエリアDA1に設定する。これにより、第1端子NS1から出力される駆動制御信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げることができる。既に説明したとおり、振分入口用の駆動部163は、第1端子NS1から出力されている駆動制御信号がLOWレベルであるとともに停電監視基板85から出力されているリセット信号がHイレベルである場合に駆動状態となる。リセット信号は、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にLOWレベルからHイレベルに立ち上がった場合、停電の発生が特定されて停電信号の立ち下げが行われた後にリセット信号の立ち下げが行われるまで、Hイレベルに維持される。このため、振分開始処理（ステップSG104）にて第1端子NS1から出力されている駆動制御信号をLOWレベルに立ち下げることにより振分入口用の駆動部163を駆動状態とすることができる。これにより、振分入賞装置161を開放状態とすることができる。

【2606】

その後、主側RAM84に設けられた振分開放中フラグに「1」をセットする（ステップSG105）。振分開放中フラグは、振分入賞装置161を開放状態に維持すべき期間であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。その後、特図特電カウンタの値を1加算することにより特図特電カウンタの値を振分用処理（ステップS2709）に対応する「4」に更新して（ステップSG106）、本振分開始用処理を終了する。

【2607】

次に、主側MPU82にて実行される振分用処理について図235のフローチャートを参照しながら説明する。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、振分用処理は特図特電制御処理（図49）のステップS2709にて実行される。

【2608】

振分入賞装置161のV入賞検知センサ169（図46参照）にて遊技球が検知されている場合（ステップSG201）、主側RAM84のV入賞フラグに「1」をセットする（ステップSG202）。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、V入賞フラグは、V入賞検知センサ169にて遊技球が検知されたことを主側MPU82にて特定するためのフラグである。その後、V入賞コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG203）。音光側MPU93は主側MPU82からV入賞コマンドを受信した場合、V入賞検知センサ169にて遊技球が検知されたことに対応する演出が実行されるように表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。また、音光側MPU93は表示側MPU103にV入賞コマンドを送信する。表示側MPU103は、音光側MPU93からV入賞コマンドを受信した場合、V入賞検知センサ169にて遊技球が検知されたことを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置41を表示制御する。

【2609】

ステップSG201にて否定判定を行った場合、又はステップSG203の処理を行った場合には、振分入賞装置161が開放状態であるか否かを判定する（ステップSG204）。ステップSG204では、主側RAM84の振分開放中フラグに「1」がセットされている場合に肯定判定を行う。振分入賞装置161が開放状態である場合（ステップSG204：YES）には、振分開放期間が経過したか否かを判定する（ステップSG205）。ステップSG205では、主側RAM84におけるタイマカウンタの値が「0」で

ある場合に肯定判定を行う。振分開放期間が経過していない場合（ステップSG205：NO）には、振分入賞装置161のカウント検知センサ168又はV入賞検知センサ169（図46参照）にて遊技球が検知されたか否かを判定することで振分入賞装置161への入賞が発生したか否かを判定する（ステップSG206）。振分入賞装置161への入賞が発生している場合（ステップSG206：YES）には、主側RAM84の振分入賞カウンタの値を1減算し（ステップSG207）、その1減算後における振分入賞カウンタの値が「0」であるか否かを判定する（ステップSG208）。

【2610】

ステップSG205又はステップSG208にて肯定判定を行った場合には、振分入賞装置161の閉鎖条件が成立しているため、振分閉鎖処理を実行する（ステップSG209）。振分閉鎖処理では、出力データレジスタ426に設定されている1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第1ビットのデータを「0」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第0ビット426a及び第2ビット426cに設定されているデータを維持しながら、第1ビット426bのデータを「0」に変更する。ポート設定回路428は、当該第1ビット426bに設定された「0」のデータを第1出力データエリアDA1に設定する。これにより、第1端子NS1から出力される駆動制御信号をLOWレベルからHIレベルに立ち上げることができる。そして、第1端子NS1から出力される駆動制御信号をHIレベルに立ち上げることにより、振分入口用の駆動部163を非駆動状態として、振分入賞装置161を閉鎖状態とすることができる。

【2611】

その後、主側RAM84の振分開放中フラグを「0」クリアする（ステップSG210）。これにより、振分入賞装置161が閉鎖状態であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、振分入賞装置161内に確実に遊技球が存在しなくなるまで振分実行モードの終了を待機するために、主側RAM84のタイマカウンタに待機期間に対応する情報をセットする（ステップSG211）。待機期間は、振分入賞装置161に入球した遊技球がカウント検知センサ168及びV入賞検知センサ169のいずれかに検知されるまでに要する最長期間よりも長い期間として設定されている。具体的には4秒に設定されている。このように待機期間が経過するまで振分実行モードの終了を待機することで、振分入賞装置161を閉鎖状態とする直前に当該振分入賞装置161に入球した遊技球が仮にV入賞検知センサ169にて検知された場合にそれを有効なものとして扱うことが可能となる。

【2612】

ステップSG204にて否定判定を行った場合には、主側RAM84のタイマカウンタにて計測している待機期間が経過したか否かを判定し（ステップSG212）、待機期間が経過した場合（ステップSG212：YES）には、主側RAM84のV入賞フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG213）。V入賞フラグに「1」がセットされている場合（ステップSG213：YES）には、開閉実行モードに移行させるための処理（ステップSG214～ステップSG217の処理）を実行する。具体的には、遊技盤24における特別表示部191の表示開始処理を実行する（ステップSG214）。当該表示開始処理では、特別表示部191の表示状態が開閉実行モードの実行に対応する所定の表示状態となるように当該特別表示部191を表示制御する。その後、ステップSG215～ステップSG217にて上記第6の実施形態における特図確定中処理（図52）のステップS3003～ステップS3005と同様の処理を実行する。具体的には、オープニング期間に対応する情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップSG215）、オープニングコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG216）。音光側MPU93はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて行われるようにする。その後、特図特電カウンタの値を「3」加算することにより特図特電カウンタの値を特電開始処理（ステップS2710）に対応する「5」に更新

して（ステップSG217）、本振分用処理を終了する。

【2613】

ステップSG213にて否定判定を行った場合には、フラグクリア処理を実行する（ステップSG218）。フラグクリア処理では、今回の遊技回において利用した主側RAM84の各種フラグを「0」クリアする。例えば、振分実行モードにおいては主側RAM84の第1～第3小当たりフラグのいずれかに「1」がセットされているが、その「1」がセットされているフラグを「0」クリアする。その後、特図特電カウンタの値を「0」クリアすることにより特図特電カウンタの値を特図変動開始処理（ステップS2705）に対応する「0」に更新して（ステップSG219）、本振分用処理を終了する。

【2614】

次に、主側MPU82にて実行される特電開始処理について図236のフローチャートを参照しながら説明する。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、特電開始処理は特図特電制御処理（図49）のステップS2710にて実行される。

【2615】

特図側タイマカウンタの値が「0」であること（ステップSG301：YES）、すなわちオープニング期間が経過していることを条件として、開閉回数の設定処理を実行する（ステップSG302）。開閉回数の設定処理では、今回の遊技結果が低頻度大当たり結果又は高頻度大当たり結果であれば主側RAM84のラウンドカウンタに「10」をセットし、今回の遊技結果が第1小当たり結果であれば主側RAM84のラウンドカウンタに「1」をセットし、今回の遊技結果が第2小当たり結果であれば主側RAM84のラウンドカウンタに「4」をセットし、今回の遊技結果が第3小当たり結果であれば主側RAM84のラウンドカウンタに「9」をセットする。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおける残りのラウンド遊技の回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。その後、開放継続時間の設定処理を実行する（ステップSG303）。開放継続時間の設定処理では、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には29秒）を特図側タイマカウンタにセットする。その後、主側RAM84の入賞カウンタに「10」をセットする（ステップSG304）。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、入賞カウンタは、入賞上限個数の残り個数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【2616】

その後、特電開放処理を実行する（ステップSG305）。特電開放処理では、出力データレジスタ426に設定されている1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第0ビットのデータを「1」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第1ビット426b及び第2ビット426cに設定されているデータを維持しながら、第0ビット426aのデータを「1」に変更する。ポート設定回路428は、当該第0ビット426aに設定された「1」のデータを第0出力データエリアDA0に設定する。これにより、第0端子NS0から出力される駆動制御信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げることができる。既に説明したとおり、特電用の駆動部32bは、第0端子NS0から出力されている駆動制御信号がLOWレベルであるとともに停電監視基板85から出力されているリセット信号がHイレベルである場合に駆動状態となる。リセット信号は、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にLOWレベルからHイレベルに立ち上がった場合、停電の発生が特定されるまでHイレベルに維持される。このため、特電開始処理（ステップSG305）にて第0端子NS0から出力されている駆動制御信号をLOWレベルに立ち下げることにより特電用の駆動部32bを駆動状態とすることができる。これにより、特電入賞装置32を開放状態とすることができる。その後、特図特電カウンタの値を1加算することにより特図特電カウンタの値を特電開放中処理（ステップS2711）に対応する「6」に更新して（ステップSG306）、本特電開始処理を終了する。

【2617】

次に、主側MPU82にて実行される特電開放中処理について図237のフローチャー

10

20

30

40

50

トを参照しながら説明する。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、特電開放中処理は特図特電制御処理（図49）のステップS2711にて実行される。

【2618】

特電入賞装置32への遊技球の入球が発生している場合（ステップSG401：YES）には、入賞カウンタの値を1減算し（ステップSG402）、その1減算後における入賞カウンタの値が「0」であるか否かを判定する（ステップSG403）。また、特電入賞装置32への遊技球の入球が発生していない場合（ステップSG401：NO）には、特図側タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定することにより解放継続期間が経過しているか否かを判定する（ステップSG404）。

【2619】

ステップSG403又はステップSG404にて肯定判定を行った場合には、主側RAM84におけるラウンドカウンタの値を1減算し（ステップSG405）、特電閉鎖処理を実行する（ステップSG406）。特電閉鎖処理では、出力データレジスタ426に設定されている1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第0ビットのデータを「0」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第1ビット426b及び第2ビット426cに設定されているデータを維持しながら、第0ビット426aのデータを「0」に変更する。ポート設定回路428は、当該第0ビット426aに設定された「0」のデータを第0出力データエリアDA0に設定する。これにより、第0端子NS0から出力される駆動制御信号をLOWレベルからHILEVELに立ち上げることができる。そして、第0端子NS0から出力される駆動制御信号をHILEVELに立ち上げることにより、特電用の駆動部32bを非駆動状態として、特電入賞装置32を閉鎖状態とすることができる。

【2620】

その後、ステップSG405にて1減算した後のラウンドカウンタの値が1以上である場合（ステップSG407：YES）には、インターバル期間の情報（具体的には3秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップSG408）、特図特電カウンタの値を1加算することにより特図特電カウンタの値を特電閉鎖中処理（ステップS2712）に対応する「7」に更新して（ステップSG409）、本特電開放中処理を終了する。一方、ステップSG405にて1減算した後のラウンドカウンタの値が「0」である場合（ステップSG407：NO）には、エンディング期間の情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタにセットし（ステップSG410）、エンディングコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG411）。音光側MPU93はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング期間に対応する演出が、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて行われるようにする。その後、特図特電カウンタの値を「2」加算することにより特図特電カウンタの値を特電終了処理（ステップS2713）に対応する「8」に更新して（ステップSG412）、本特電開放中処理を終了する。

【2621】

次に、主側MPU82にて実行される特電閉鎖中処理について図238のフローチャートを参照しながら説明する。上記第6の実施形態において既に説明したとおり、特電閉鎖中処理は特図特電制御処理（図49）のステップS2712にて実行される。

【2622】

特図側タイマカウンタの値が「0」である場合（ステップSG501：YES）、すなわちインターバル期間が経過している場合には、開放継続時間の設定処理を実行する（ステップSG502）。開放継続時間の設定処理では、ラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には29秒）を特図側タイマカウンタにセットする。その後、主側RAM84の入賞カウンタに「10」をセットする（ステップSG503）。

【2623】

その後、特電開始処理（図236）のステップSG305と同様に、特電開放処理を実行する（ステップSG504）。特電開放処理では、出力データレジスタ426に設定さ

10

20

30

40

50

れている1バイトのデータを把握し、当該1バイトのデータのうち第0ビットのデータを「1」に変更した変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ426に書き込むことにより、出力データレジスタ426の第1ビット426b及び第2ビット426cに設定されているデータを維持しながら、第0ビット426aのデータを「1」に変更する。ポート設定回路428は、当該第0ビット426aに設定された「1」のデータを第0出力データエリアDA0に設定する。これにより、第0端子NS0から出力される駆動制御信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げることができる。既に説明したとおり、特電用の駆動部32bは、第0端子NS0から出力されている駆動制御信号がLOWレベルであるとともに停電監視基板85から出力されているリセット信号がHイレベルである場合に駆動状態となる。リセット信号は、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にLOWレベルからHイレベルに立ち上がった場合、停電の発生が特定されるまでHイレベルに維持される。このため、特電開始処理（ステップSG205）にて第0端子NS0から出力されている駆動制御信号をLOWレベルに立ち下げることにより特電用の駆動部32bを駆動状態とすることができる。これにより、特電入賞装置32を開放状態とすることができる。その後、特図特電カウンタの値を1加算することにより特図特電カウンタの値を特電開放中処理（ステップS2711）に対応する「6」に更新して（ステップSG505）、本特電開始処理を終了する。

【2624】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【2625】

第0～第2誤作動防止回路422～424には、入出力ポート421の端子NS0～NS2から出力される駆動制御信号に加えて、停電監視基板85から出力されるリセット信号が入力される。誤作動防止回路422～424は、入力される駆動制御信号がLOWレベルであるとともに入力されるリセット信号がHイレベルである場合に、当該誤作動防止回路422～424に対応するMOSFET461～463に対してHイレベルの信号を出力する。そして、当該MOSFET461～463に対してHイレベルの信号が出力されることにより端子NS0～NS2に対応する対象駆動部（特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163又は切換用駆動部167）が駆動状態となる。停電監視基板85から出力されるリセット信号は、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後、主側MPU82に供給される電源電圧が不安定な状態となる期間において、LOWレベルに維持される。リセット信号がLOWレベルである状態を維持することにより、駆動制御信号の状態とは無関係に、対象駆動部が非駆動状態である状態を維持することができる。これにより、パチンコ機10への動作電力の供給開始時に対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【2626】

停電監視基板85から第0～第2誤作動防止回路422～424の第0～第2NAND回路441～443に対してリセット信号を出力するための信号経路（信号線LN14）は、プルダウン抵抗464を介して接地されている。これにより、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから停電監視基板85がリセット信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げるまでの期間において、リセット信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けてリセット信号がHイレベルに立ち上がってしまうことを防止できる。

【2627】

特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の誤作動を防止するために設けられているプルダウン抵抗は、信号線LN14に設けられたプルダウン抵抗464の1つのみである。これにより、パチンコ機10の消費電量が増加してしまうことを抑制しながら、これらの駆動部32b、163、167の誤作動を防止することができる。

【2628】

第0～第2端子NS0～NS2からLOWレベルの駆動制御信号が出力されているとと

もに、停電監視基板 8 5 から H I レベルのリセット信号が出力されている場合に対象駆動部（特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 又は切換用駆動部 1 6 7）が駆動状態となる構成において、主側 M P U 8 2 の動作が停止するタイミングでリセット信号が L O W レベルに立ち下がることにより、当該タイミングで第 0 ～第 2 M O S F E T のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからない状態とすることができる。これにより、主側 M P U 8 2 の動作が停止された後に、主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧が降下し始めた影響を受けて設計段階において意図されていないタイミングで一時的に第 0 ～第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から H I レベルの信号が出力されている状態となった場合においても第 0 ～第 2 M O S F E T 4 6 1 ～ 4 6 3 のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからないようにすることができる。よって、主側 M P U 8 2 の動作が停止された後に、対象駆動部が駆動状態となってしまうことを防止できる。

10

【 2 6 2 9 】

停電信号が立ち下げられるタイミングよりも後のタイミングにおいてリセット信号を立ち下げることにより、停電時処理が実行された後に第 0 ～第 2 M O S F E T 4 6 1 ～ 4 6 3 のゲートに H I レベルの信号に対応する電圧がかからないようにすることができる。これにより、停電時処理が実行されるまでは対象駆動部（特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7）を駆動状態とすることを可能としながら、リセット信号が立ち下がった後は設計段階において意図されていないタイミングで対象駆動部が駆動状態となってしまうことを防止できる。

【 2 6 3 0 】

20

動作電力の供給が停止された場合に、リセット信号が H I レベルから L O W レベルに立ち下げられるタイミングは、主側 M P U 8 2 に供給されている電源電圧（5 V）が降下し始める前のタイミングである。このため、入出力ポート 4 2 1 の第 0 ～第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から出力される駆動制御信号は、リセット信号が立ち下がるタイミングまで、電源電圧の降下の影響を受けて L O W レベルに立ち下がることはない。主側 M P U 8 2 に供給されている電源電圧の降下の影響を受けて第 0 ～第 2 端子 N S 0 ～ N S 2 から出力される駆動制御信号が L O W レベルに立ち下がってしまうタイミングよりも前のタイミングにおいてリセット信号を L O W レベルに立ち下げることにより、動作電力の供給停止時に特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

30

【 2 6 3 1 】

第 0 誤作動防止回路 4 2 2 の第 0 N O T 回路 4 5 1 及び第 3 N O T 回路 4 5 4 と、第 1 誤作動防止回路 4 2 3 の第 1 N O T 回路 4 5 2 及び第 4 N O T 回路 4 5 5 と、第 2 誤作動防止回路 4 2 4 の第 2 N O T 回路 4 5 3 及び第 5 N O T 回路 4 5 6 と、が 1 つの電子部品（第 2 論理 I C 4 3 4）に内蔵されている。このため、これら第 0 ～第 5 N O T 回路 4 5 1 ～ 4 5 6 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【 2 6 3 2 】

第 0 誤作動防止回路 4 2 2 の第 0 N A N D 回路 4 4 1 と、第 1 誤作動防止回路 4 2 3 の第 1 N A N D 回路 4 4 2 と、第 2 誤作動防止回路 4 2 4 の第 2 N A N D 回路 4 4 3 と、が 1 つの電子部品（第 1 論理 I C 4 3 3）に内蔵されている。このため、これら第 0 ～第 2 N A N D 回路 4 4 1 ～ 4 4 3 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

40

【 2 6 3 3 】

第 1 論理 I C 4 3 3 に内蔵されている 5 つの N A N D 回路 4 4 1 ～ 4 4 5 の一部である第 3 N A N D 回路 4 4 4 及び第 4 N A N D 回路 4 4 5 を利用して外部出力用回路 4 3 1 が形成されている構成において、当該 5 つの N A N D 回路 4 4 1 ～ 4 4 5 のうち外部出力用回路 4 3 1 に含まれていない第 0 ～第 2 N A N D 回路 4 4 1 ～ 4 4 3 は、第 0 ～第 2 誤作動防止回路 4 2 2 ～ 4 2 4 を形成するために利用されている。これにより、外部出力用回路 4 3 1 及び第 0 ～第 2 誤作動防止回路 4 2 2 ～ 4 2 4 を形成するために N A N D 回路を

50

内蔵している電子部品を主制御基板 8 1 に複数実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【2634】

第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445の一部である第0NAND回路441と、第2論理IC434に内蔵されている6つのNOT回路451～456の一部である第0NOT回路451及び第3NOT回路454とを利用して第0誤作動防止回路422が形成されている構成において、第1論理IC433に内蔵されている5つのNAND回路441～445のうち第0誤作動防止回路422に含まれていない第1～第2NAND回路442～443と、第2論理IC434に内蔵されている6つのNOT回路451～456のうち第0誤作動防止回路422に含まれていない第1NOT回路452、第2NOT回路453、第4NOT回路455及び第5NOT回路456とを利用して第1～第2誤作動防止回路423～424が形成されている。これにより、第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するために主制御基板81に実装される電子部品（第1論理IC433及び第2論理IC434）の数を抑えることができる。

10

【2635】

第0～第2誤作動防止回路422～424のそれぞれを形成するために第1論理IC433において利用されているNAND回路441～443の数（具体的には1つ）が、当該第0～第2誤作動防止回路422～424のそれぞれを形成するために第2論理IC434において利用されているNOT回路451～456の数（具体的には2つ）とは異なる数である構成である。当該構成において、一の第1論理IC433に内蔵されているNAND回路441～443と、一の第2論理IC434に内蔵されているNOT回路451～456とを利用して第0～第2誤作動防止回路422～424が形成されていることにより、第0～第2誤作動防止回路422～424を形成するために主制御基板81に実装される電子部品（第1論理IC433及び第2論理IC434）の数が抑えられている。

20

【2636】

出力時における信号経路で、第0NAND回路441よりも下流側に存在している第3NOT回路454が物理的な位置として、当該第0NAND回路441よりも上流側に存在している第0NOT回路451に並設された位置となるように第0誤作動防止回路422の信号経路が形成されている。信号の流れにおいて最も下流に存在している第3NOT回路454を、当該信号の流れにおいて2番目に上流に存在している第0NAND回路441よりも、当該信号の流れにおいて最も上流側に存在している第0NOT回路451と物理的に近い位置に配置することにより、第0NAND回路441を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第0NOT回路451と当該信号の流れの最も下流に存在している第3NOT回路454とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている構成とすることができる。このため、第0NAND回路441を挟んで信号の流れの上流側に存在している第0NOT回路451と当該信号の流れの下流側に存在している第3NOT回路454とが異なる論理ICに内蔵されている構成と比較して、主制御基板81に実装される第2論理IC434の数を抑えることができる。

30

【2637】

第1誤作動防止回路423においても第0誤作動防止回路422と同様に、第1NAND回路442を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第1NOT回路452と当該信号の流れの最も下流に存在している第4NOT回路455とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている。また、第2誤作動防止回路424においても第0誤作動防止回路422及び第1誤作動防止回路423と同様に、第2NAND回路443を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第2NOT回路453と当該信号の流れの最も下流に存在している第5NOT回路456とが第2論理IC434という一の論理ICに内蔵されている。これにより、主制御基板81に実装される第2論理IC434の数を抑えることができる。

40

【2638】

主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることにより、主制御基板81の製造効

50

率を高めることができるとともに、主制御基板 8 1 の製造コストを低減することができる。

【2639】

第 1 論理 IC 4 3 3 は、主制御基板 8 1 に複数実装されている第 1 論理 IC と同一の電子部品であるとともに、第 2 論理 IC 4 3 4 は、主制御基板 8 1 に複数実装されている第 2 論理 IC と同一の電子部品である。主制御基板 8 1 に複数実装されている電子部品（第 1 論理 IC 及び第 2 論理 IC）を利用して外部出力用回路 4 3 1 及び第 0 ～第 2 誤作動防止回路 4 2 2 ～4 2 4 が形成されていることにより、主制御基板 8 1 に実装される電子部品の共通化が図られており、主制御基板 8 1 に実装される電子部品の種類が低減されている。これにより、主制御基板 8 1 の製造効率が高められているとともに、主制御基板 8 1 の製造コストが低減されている。

10

【2640】

<第 3 2 の実施形態>

本実施形態では、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御を実行するために駆動制御信号及び選択信号の出力が行われることが上記第 3 1 の実施形態と相違している。以下、上記第 3 1 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 3 1 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2641】

図 2 3 9 は本実施形態におけるパチンコ機 1 0 の電氣的構成を説明するための説明図である。

20

【2642】

図 2 3 9 に示すように、本実施形態における主側 MPU 8 2 は、入出力ポート 4 7 1 を内蔵している。入出力ポート 4 7 1 は、入出力ポートとしての機能及び出力ポートとしての機能を有する入出力ポートである。入出力ポート 4 7 1 には、第 0 端子 NS 1 0、第 1 端子 NS 1 1、第 2 端子 NS 1 2 及び第 3 端子 NS 1 3 が設けられている。

【2643】

図 2 4 0 (a) は入出力ポート 4 7 1 の第 0 ～第 3 端子 NS 1 0 ～NS 1 3 から出力される信号を説明するための説明図である。図 2 4 0 (a) に示すように、第 0 端子 NS 1 0 は、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御を行うための駆動制御信号を出力するために使用される。また、第 1 端子 NS 1 1 は、駆動対象として特電用の駆動部 3 2 b を選択するための第 1 選択信号を出力するために使用され、第 2 端子 NS 1 2 は、駆動対象として振分入口用の駆動部 1 6 3 を選択するための第 2 選択信号を出力するために使用され、第 3 端子 NS 1 3 は、駆動対象として切換用駆動部 1 6 7 を選択するための第 3 選択信号を出力するために使用される。なお、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御を行うための詳細な構成については後述する。

30

【2644】

主制御基板 8 1 には、外部出力用回路 4 3 1、誤作動防止回路 4 7 2、第 1 選択回路 4 7 3、第 2 選択回路 4 7 4 及び第 3 選択回路 4 7 5 が設けられている。外部出力用回路 4 3 1 は、上記第 3 1 の実施形態において既に説明したとおり、停電信号の H I レベルから L O W レベルへの立ち下げと同時に有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号の H I レベルから L O W レベルへの立ち下げが行われるようにするために設けられた回路である。誤作動防止回路 4 7 2 は、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の誤作動を防止するための回路である。第 1 選択回路 4 7 3 は、駆動対象として特電用の駆動部 3 2 b を選択するための回路であり、第 2 選択回路 4 7 4 は、駆動対象として振分入口用の駆動部 1 6 3 を選択するための回路であり、第 3 選択回路 4 7 5 は、駆動対象として切換用駆動部 1 6 7 を選択するための回路である。なお、外部出力用回路 4 3 1、誤作動防止回路 4 7 2 及び選択回路 4 7 3 ～4 7 5 の詳細については後述する。

40

【2645】

50

主側MPU82には、制御レジスタ476、出力データレジスタ477及び入力データレジスタ478が設けられている。図240(b)は制御レジスタ476の構成を説明するための説明図であり、図240(c)は出力データレジスタ477の構成を説明するための説明図であり、図240(d)は入力データレジスタ478の構成を説明するための説明図である。制御レジスタ476、出力データレジスタ477及び入力データレジスタ478のそれぞれは、第0～第7ビットを有する1バイトの記憶エリアである。また、これらのレジスタ476～478は、主側MPU82によるデータの読み込み及び主側MPU82によるデータの書き込みが行われる記憶エリアである。

【2646】

制御レジスタ476の第0ビット476a、出力データレジスタ477の第0ビット477a及び入力データレジスタ478の第0ビット478aは、入出力ポート471の第0端子NS10に対応しており、制御レジスタ476の第1ビット476b、出力データレジスタ477の第1ビット477b及び入力データレジスタ478の第1ビット478bは、入出力ポート471の第1端子NS11に対応しており、制御レジスタ476の第2ビット476c、出力データレジスタ477の第2ビット477c及び入力データレジスタ478の第2ビット478cは、入出力ポート471の第2端子NS12に対応しており、制御レジスタ476の第3ビット476d、出力データレジスタ477の第3ビット477d及び入力データレジスタ478の第3ビット478dは、入出力ポート471の第3端子NS13に対応している。制御レジスタ476の第4～第7ビット、出力データレジスタ477の第4～第7ビット及び入力データレジスタ478の第4～第7ビットは、未使用であり、これらの第4～第7ビットの値は「0」で維持される。

【2647】

図240(e)は制御レジスタ476の第0～第3ビット476a～476dに設定されるデータを説明するための説明図であり、図240(f)は出力データレジスタ477の第0～第3ビット477a～477dに設定されるデータを説明するための説明図であり、図240(g)は入力データレジスタ478の第0～第3ビット478a～478dに設定されるデータを説明するための説明図である。主側MPU82は、図240(e)に示すように、第0端子NS10における入出力の方向を示すデータを制御レジスタ476の第0ビット476aに設定し、第1端子NS11における入出力の方向を示すデータを第1ビット476bに設定し、第2端子NS12における入出力の方向を示すデータを第2ビット476cに設定し、第3端子NS13における入出力の方向を示すデータを第3ビット476dに設定する。制御レジスタ476の第0～第3ビット476a～476dに設定される「0」というデータは対応する端子NS10～NS13を出力端子として機能させるためのデータであるとともに、当該第0～第3ビット476a～476dに設定される「1」というデータは対応する端子NS10～NS13を入力端子として機能させるためのデータである。

【2648】

第0～第3端子NS10～NS13を出力端子として機能させる場合、主側MPU82は、図240(f)に示すように、第0端子NS10から出力するデータを出力データレジスタ477の第0ビット477aに設定し、第1端子NS11から出力するデータを第1ビット477bに設定し、第2端子NS12から出力するデータを第2ビット477cに設定し、第3端子NS13から出力するデータを第3ビット477dに設定する。また、第0～第3端子NS10～NS13が入力端子として機能する場合、図240(g)に示すように、入力データレジスタ478の第0ビット478aには第0端子NS10に入力されたデータが記憶され、第1ビット478bには第1端子NS11に入力されたデータが記憶され、第2ビット478cには第2端子NS12に入力されたデータが記憶され、第3ビット478dには第3端子NS13に入力されたデータが記憶される。

【2649】

図239に示すように、主側MPU82にはポート設定回路479が設けられているとともに、入出力ポート471には第0出力データエリアDA10、第1出力データエリア

DA11、第2出力データエリアDA12及び第3出力データエリアDA13が設けられている。ポート設定回路479は、主側MPU82にて実行される処理による制御を介することなく、制御レジスタ476及び出力データレジスタ477に設定されているデータに基づいて、入出力ポート471の制御を実行するハードウェアである。第0出力データエリアDA10は、第0端子NS10が出力端子として機能する場合に、当該第0端子NS10から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアであり、第1出力データエリアDA11は、第1端子NS11が出力端子として機能する場合に、当該第1端子NS11から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアであり、第2出力データエリアDA12は、第2端子NS12が出力端子として機能する場合に、当該第2端子NS12から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアであり、第3出力データエリアDA13は、第3端子NS13が出力端子として機能する場合に、当該第3端子NS13から出力される駆動制御信号の状態を決定する「0」又は「1」のデータが設定される1ビットの記憶エリアである。

10

【2650】

ポート設定回路479は、制御レジスタ476の第0ビット476aに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ477の第0ビット477aに設定されている「0」又は「1」のデータを第0出力データエリアDA10に設定する。第0出力データエリアDA10に「0」が設定された場合には、入出力ポート471の第0端子NS10から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHILEVELの信号が出力される状態となるとともに、第0出力データエリアDA10に「1」が設定された場合には、第0端子NS10からLOWレベルの信号が出力される状態となる。ポート設定回路479は、制御レジスタ476の第1ビット476bに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ477の第1ビット477bに設定されている「0」又は「1」のデータを第1出力データエリアDA11に設定する。第1出力データエリアDA11に「0」が設定された場合には、入出力ポート471の第1端子NS11から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHILEVELの信号が出力される状態となるとともに、第1出力データエリアDA11に「1」が設定された場合には、第1端子NS11からLOWレベルの信号が出力される状態となる。ポート設定回路479は、制御レジスタ476の第2ビット476cに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ477の第2ビット477cに設定されている「0」又は「1」のデータを第2出力データエリアDA12に設定する。第2出力データエリアDA12に「0」が設定された場合には、入出力ポート471の第2端子NS12から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHILEVELの信号が出力される状態となるとともに、第2出力データエリアDA12に「1」が設定された場合には、第2端子NS12からLOWレベルの信号が出力される状態となる。ポート設定回路479は、制御レジスタ476の第3ビット476dに「0」（出力に対応するデータ）が設定されている場合、出力データレジスタ477の第3ビット477dに設定されている「0」又は「1」のデータを第3出力データエリアDA13に設定する。第3出力データエリアDA13に「0」が設定された場合には、入出力ポート471の第3端子NS13から主側MPU82に供給されている電源電圧（具体的には5V）に対応するHILEVELの信号が出力される状態となるとともに、第3出力データエリアDA13に「1」が設定された場合には、第3端子NS13からLOWレベルの信号が出力される状態となる。

20

30

40

【2651】

第0～第3出力データエリアDA10～DA13に設定されたデータは、所定の時間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持された後に消失するが、ポート設定回路479は当該所定の時間よりも短い周期（例えば2ミリ秒の周期）で出力データレジスタ477の第0～第3ビット477a～477dに設定されているデータを第0～第3出力データエリ

50

ＡＤＡ１０～ＤＡ１３に設定する。このため、制御レジスタ４７６の第０ビット４７６ａに「０」が設定されている場合、第０端子ＮＳ１０から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ４７７の第０ビット４７７ａに設定されているデータに対応する状態に維持される。また、制御レジスタ４７６の第１ビット４７６ｂに「０」が設定されている場合、第１端子ＮＳ１１から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ４７７の第１ビット４７７ｂに設定されているデータに対応する状態に維持される。さらにまた、制御レジスタ４７６の第２ビット４７６ｃに「０」が設定されている場合、第２端子ＮＳ１２から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ４７７の第２ビット４７７ｃに設定されているデータに対応する状態に維持される。また、制御レジスタ４７６の第３ビット４７６ｄに「０」が設定されている場合、第３端子ＮＳ１３から出力される駆動制御信号は、出力データレジスタ４７７の第３ビット４７７ｄに設定されているデータに対応する状態に維持される。

10

【２６５２】

主側ＭＰＵ８２は、出力データレジスタ４７７における第０～第３ビット４７７ａ～４７７ｄのうち１つのビットのデータを書き換える場合、書き換え前の出力データレジスタ４７７に格納されている１バイトのデータを把握し、当該把握した１バイトのデータのうち書き換え対象のビットのデータのみを変更することにより変更後データを生成する。そして、当該変更後データを出力データレジスタ４７７に書き込む。これにより、書き換え対象のビット以外のビットのデータを維持しながら、書き換え対象のビットのデータのみが書き換えられる。

20

【２６５３】

ポート設定回路４７９は、制御レジスタ４７６の第０ビット４７６ａに「１」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第０端子ＮＳ１０に入力されているＬＯＷレベルの信号に対応する「０」のデータ又は当該第０端子ＮＳ１０に入力されているＨＩレベルの信号に対応する「１」のデータを入力データレジスタ４７８の第０ビット４７８ａに記憶させるデータ設定を行う。また、ポート設定回路４７９は、制御レジスタ４７６の第１ビット４７６ｂに「１」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第１端子ＮＳ１１に入力されているＬＯＷレベルの信号に対応する「０」のデータ又は当該第１端子ＮＳ１１に入力されているＨＩレベルの信号に対応する「１」のデータを入力データレジスタ４７８の第１ビット４７８ｂに記憶させるデータ設定を行う。さらにまた、ポート設定回路４７９は、制御レジスタ４７６の第２ビット４７６ｃに「１」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第２端子ＮＳ１２に入力されているＬＯＷレベルの信号に対応する「０」のデータ又は当該第２端子ＮＳ１２に入力されているＨＩレベルの信号に対応する「１」のデータを入力データレジスタ４７８の第２ビット４７８ｃに記憶させるデータ設定を行う。また、ポート設定回路４７９は、制御レジスタ４７６の第３ビット４７６ｄに「１」（入力に対応するデータ）が設定されている場合、第３端子ＮＳ１３に入力されているＬＯＷレベルの信号に対応する「０」のデータ又は当該第３端子ＮＳ１３に入力されているＨＩレベルの信号に対応する「１」のデータを入力データレジスタ４７８の第３ビット４７８ｄに記憶させるデータ設定を行う。これらのデータ設定は、所定の周期（例えば２ミリ秒の周期）で繰り返し実行される。主側ＭＰＵ８２は、制御レジスタ４７６の第０～第３ビット４７６ａ～４７６ｄに「１」が設定されている状態において、入力データレジスタ４７８の第０～第３ビット４７８ａ～４７８ｄに記憶されているデータを読み込むことにより入出力ポート４７１の第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３に入力されている信号の状態を把握することができる。

30

40

【２６５４】

次に、外部出力用回路４３１、誤作動防止回路４７２及び選択回路４７３～４７５についての説明に先立ち、主制御基板８１に実装されている電子部品について説明する。図２４１は特電用の駆動部３２ｂ、振分入口用の駆動部１６３及び切換用駆動部１６７の駆動制御を行うための電氣的構成を示すブロック図である。

【２６５５】

50

図241に示すように、主制御基板81には、第1論理IC481及び第2論理IC482～484が実装されている。第1論理IC481は、第0NAND回路491、第1NAND回路492、第2NAND回路493、第3NAND回路494、第4NAND回路495及び第5NAND回路496という6つのNAND回路491～496を内蔵する電子部品である。また、第2論理IC482は、第0NOT回路511、第1NOT回路512及び第2NOT回路513という3つのNOT回路511～513を内蔵する電子部品であり、第2論理IC483は、第3NOT回路514、第4NOT回路515及び第5NOT回路516という3つのNOT回路514～516を内蔵する電子部品であり、第2論理IC484は、第6NOT回路517、第7NOT回路518及び第8NOT回路519という3つのNOT回路517～519を内蔵する電子部品である。第2論理IC482、第2論理IC483及び第2論理IC484は、同一の電子部品である。

【2656】

10

第1論理IC481における第0～第5NAND回路491～496のそれぞれは、2つの入力端子及び1つの出力端子を備えている。これらのNAND回路491～496は、2つの入力端子の双方にHイレベルの信号（「1」に対応する信号）が入力された場合には出力端子からLOWレベルの信号（「0」に対応する信号）を出力するとともに、当該2つの入力端子のうち少なくとも一方にLOWレベルの信号が入力された場合には出力端子からHイレベルの信号を出力する。

【2657】

NAND回路491～496は、入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を超えた場合に当該入力端子に入力されている信号がHイレベルに変化したことを認識する。また、NAND回路491～496は、入力端子にHイレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第2基準電圧（具体的には1.6V）を下回った場合に当該入力端子に入力されている信号がLOWレベルに変化したことを認識する。第1基準電圧が第2基準電圧よりも高い電圧に設定されていることにより、NAND回路491～496の入力端子にHイレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNAND回路491～496が入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。また、第2基準電圧が第1基準電圧よりも低い電圧に設定されていることにより、NAND回路491～496の入力端子にLOWレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNAND回路491～496が入力端子にHイレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。

20

30

【2658】

第2論理IC482～484における第0～第8NOT回路511～519のそれぞれは、1つの入力端子及び1つの出力端子を備えている。これらNOT回路511～519は、入力端子にHイレベルの信号（「1」に対応する信号）が入力された場合には当該Hイレベルの信号を反転させたLOWレベルの信号（「0」に対応する信号）を出力端子から出力するとともに、入力端子にLOWレベルの信号が入力された場合には当該LOWレベルの信号を反転させたHイレベルの信号を出力端子から出力する。

40

【2659】

NOT回路511～519は、入力端子にLOWレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第1基準電圧（具体的には2.8V）を超えた場合に当該入力端子に入力されている信号がHイレベルに変化したことを認識する。また、NOT511～519は、入力端子にHイレベルの信号が入力されていると認識している状況において当該入力端子に入力されている信号の電圧が第2基準電圧（具体的には1.6V）を下回った場合に当該入力端子に入力されている信号がLOWレベルに変化したことを認識する。第1基準電圧が第2基準電圧よりも高い電圧に設定されていることにより、NOT回路511～519の入力端子にHイレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNOT回路511～519が入力端

50

子にLOWレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。また、第2基準電圧が第1基準電圧よりも低い電圧に設定されていることにより、NOT回路511～519の入力端子にLOWレベルの信号が入力されている状況において、ノイズの影響を受けてNOT回路511～519が入力端子にHIGHレベルの信号が入力されていると誤認してしまう可能性が低減されている。

【2660】

図241に示すように、主制御基板81には、第1論理IC485及び第2論理IC486が実装されている。第1論理IC485は、既に説明した第1論理IC481と同一の電子部品であるとともに、第2論理IC486は、既に説明した第2論理IC482～484と同一の電子部品である。また、図示は省略するが、主制御基板81には、第1論理IC481、485を含む複数の第1論理ICが実装されているとともに、第2論理IC482～484、486を含む複数の第2論理ICが実装されている。特に、第1論理ICに内蔵されているNAND回路を組み合わせることによってAND回路の機能を有する回路、OR回路の機能を有する回路、XOR回路の機能を有する回路、NOT回路の機能を有する回路及びNOR回路の機能を有する回路を形成することが可能であるため、主制御基板81には複数の第1論理ICが実装されている。

【2661】

次に、有利サポートモード信号及び開閉実行モード信号をホールコンピュータHCに外部出力するための構成について説明する。

【2662】

上記第31の実施形態において既に説明したとおり、主側MPU82には外部出力用ポート429が設けられている。また、上述したとおり、主制御基板81には外部出力用回路431が設けられている。図241に示すように、外部出力用回路431には、上記第31の実施形態における第3NAND回路444に代えて、第1論理IC481に内蔵されている第4NAND回路495が含まれているとともに、上記第31の実施形態における第4NAND回路445に代えて、第1論理IC481に内蔵されている第5NAND回路496が含まれている。このように、外部出力用回路431は、第1論理IC481に内蔵されている6つのNAND回路491～496の一部である第4NAND回路495及び第5NAND回路496を利用して形成されている。上記第31の実施形態と同様に、第4NAND回路495には、外部出力用ポート429の第0端子GS0から出力される第0設定信号と、停電監視基板85から出力される停電信号とが入力される。また、第5NAND回路496には、外部出力用ポート429の第1端子GS1から出力される第1設定信号と、停電監視基板85から出力される停電信号とが入力される。第4NAND回路495から出力される信号は、外部端子板457の第1外端NOT回路437を介して、ホールコンピュータHCに外部出力されるとともに、第5NAND回路496から出力される信号は、外部端子板457の第2外端NOT回路438を介して、ホールコンピュータHCに外部出力される信号は有利サポートモード信号であるとともに、第2外端NOT回路438からホールコンピュータHCに外部出力される信号は開閉実行モード信号である。

【2663】

次に、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167の駆動制御を実行するための構成について説明する。

【2664】

既に説明したとおり、主制御基板81には、第1～第3選択回路473～475が設けられている。また、上記第31の実施形態と同様に、特電入賞装置32には、増幅作用及びスイッチング作用を有する素子として、第0MOSFET461が設けられているとともに、振分入賞装置161には、増幅作用及びスイッチング作用を有する素子として、第1MOSFET462及び第2MOSFET463が設けられている（図241参照）。

【2665】

図241に示すように、入出力ポート471の第0端子NS10は、誤作動防止回路4

10

20

30

40

50

7 2 及び第 1 選択回路 4 7 3 を介して、第 0 MOS F E T 4 6 1 のゲートと電氣的に接続されており、誤作動防止回路 4 7 2 及び第 2 選択回路 4 7 4 を介して、第 1 MOS F E T 4 6 2 のゲートと電氣的に接続されており、誤作動防止回路 4 7 2 及び第 3 選択回路 4 7 5 を介して、第 2 MOS F E T 4 6 3 のゲートと電氣的に接続されている。

【 2 6 6 6 】

上記第 3 1 の実施形態と同様に、第 0 MOS F E T 4 6 1 のソースは特電用の駆動部 3 2 b と電氣的に接続されているとともに、第 0 MOS F E T 4 6 1 のドレインは接地されている。特電用の駆動部 3 2 b の一端は例えば 3 6 V にプルアップされており、特電用の駆動部 3 2 b は、第 0 MOS F E T 4 6 1 のゲートにかかる電圧が H I レベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧が L O W レベルである場合に非駆動状態となる。また、上記第 3 1 の実施形態と同様に、第 1 MOS F E T 4 6 2 のソースは振分入口用の駆動部 1 6 3 と電氣的に接続されているとともに、第 1 MOS F E T 4 6 2 のドレインは接地されている。振分入口用の駆動部 1 6 3 の一端は例えば 3 6 V にプルアップされており、振分入口用の駆動部 1 6 3 は、第 1 MOS F E T 4 6 2 のゲートにかかる電圧が H I レベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧が L O W レベルである場合に非駆動状態となる。さらにまた、上記第 3 1 の実施形態と同様に、第 2 MOS F E T 4 6 3 のソースは切換用駆動部 1 6 7 と電氣的に接続されているとともに、第 2 MOS F E T 4 6 3 のドレインは接地されている。切換用駆動部 1 6 7 の一端は例えば 3 6 V にプルアップされており、切換用駆動部 1 6 7 は、第 2 MOS F E T 4 6 3 のゲートにかかる電圧が H I レベルである場合に駆動状態となるとともに、当該ゲートにかかる電圧が L O W レベルである場合に非駆動状態となる。

【 2 6 6 7 】

次に、誤作動防止回路 4 7 2 及び第 1 ～第 3 選択回路 4 7 3 ～4 7 5 について説明する。

【 2 6 6 8 】

図 2 4 1 に示すように、誤作動防止回路 4 7 2 は、論理回路として、第 1 N O T 回路 5 1 2、第 0 N A N D 回路 4 9 1 及び第 2 N O T 回路 5 1 3 を備えている。入出力ポート 4 7 1 の第 0 端子 N S 1 0 は、第 1 N O T 回路 5 1 2 を介して、第 0 N A N D 回路 4 9 1 が備えている 2 つの入力端子のうち一方の入力端子と電氣的に接続されている。当該一方の入力端子には、第 0 端子 N S 1 0 から出力される駆動制御信号を反転させた信号が入力される。また、第 0 N A N D 回路 4 9 1 における他方の入力端子は、停電監視基板 8 5 と電氣的に接続されており、当該他方の入力端子にはリセット信号が入力される。図 2 3 9 に示すように、主制御基板 8 1 には、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に対して出力されるリセット信号を誤作動防止回路 4 7 2 に入力するための信号線 L N 2 1 が形成されている。信号線 L N 2 1 は、信号線 L N 1 3 を、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に向かう主制御基板 8 1 上の途中位置で分岐させることにより形成されている。図 2 4 1 に示すように、リセット信号は、当該信号線 L N 2 1 を利用して誤作動防止回路 4 7 2 の第 0 N A N D 回路 4 9 1 に入力される。第 0 N A N D 回路 4 9 1 の出力端子は、第 2 N O T 回路 5 1 3 を介して、第 1 ～第 3 選択回路 4 7 3 ～4 7 5 と電氣的に接続されている。具体的には、誤作動防止回路 4 7 2 における第 2 N O T 回路 5 1 3 の出力端子から延びる信号線 L N 2 2 は、第 3 選択回路 4 7 5 における第 3 N A N D 回路 4 9 4 が備えている 2 つの入力端子の一方に接続されている。また、当該信号線 L N 2 2 から分岐させて形成された信号線 L N 2 3 が第 1 選択回路 4 7 3 における第 1 N A N D 回路 4 9 2 が備えている 2 つの入力端子の一方に接続されているとともに、当該信号線 L N 2 1 から分岐させて形成された信号線 L N 2 4 が第 2 選択回路 4 7 4 における第 2 N A N D 回路 4 9 3 が備えている 2 つの入力端子の一方に接続されている。

【 2 6 6 9 】

第 1 選択回路 4 7 3 は、第 3 N O T 回路 5 1 4、第 1 N A N D 回路 4 9 2 及び第 6 N O T 回路 5 1 7 を有するハードウェアである。第 3 N O T 回路 5 1 4 は、第 2 論理 I C 4 8 3 に内蔵されている 3 つの N O T 回路 5 1 4 ～5 1 6 の 1 つである。また、第 1 N A N D 回路 4 9 2 は、第 1 論理 I C 4 8 1 に内蔵されている 6 つの N A N D 回路 4 9 1 ～4 9 6

の1つであるとともに、第6 NOT回路517は、第2論理IC484に内蔵されている3つのNOT回路517～519の1つである。つまり、第1選択回路473は、第2論理IC483に内蔵されている複数のNOT回路514～516の一部と、第1論理IC481に内蔵されている複数のNAND回路491～496の一部と、第2論理IC484に内蔵されている複数のNOT回路517～519の一部と、を利用して形成されている。第1NAND回路492が備えている2つの入力端子のうちの一方は、誤作動防止回路472の第2NOT回路513と電氣的に接続されているとともに、当該2つの入力端子のうちの他方は、第6 NOT回路517を介して入出力ポート471の第1端子NS11と電氣的に接続されている。また、第1NAND回路492の出力端子は、第3 NOT回路514を介して、第0 MOSFET461のゲートと電氣的に接続されている。

10

【2670】

第1選択回路473において、第1NAND回路492が備えている2つの入力端子の双方に入力される信号がH Iレベルである場合には、第1NAND回路492から第3 NOT回路514に対して出力される信号がLOWレベルとなるとともに、第3 NOT回路514から第0 MOSFET461のゲートに対して出力される信号がH Iレベルとなる。これにより、特電用の駆動部32bを駆動状態とすることができる。一方、第1NAND回路492が備えている2つの入力端子の少なくとも一方に入力される信号がLOWレベルである場合には、第1NAND回路492から第3 NOT回路514に対して出力される信号がH Iレベルとなるとともに、第3 NOT回路514から第0 MOSFET461のゲートに対して出力される信号がLOWレベルとなる。これにより、特電用の駆動部32bを非駆動状態とすることができる。

20

【2671】

第2選択回路474は、第4 NOT回路515、第2NAND回路493及び第7 NOT回路518を有するハードウェアである。第4 NOT回路515は、第2論理IC483に内蔵されている3つのNOT回路514～516の1つである。また、第2NAND回路493は、第1論理IC481に内蔵されている6つのNAND回路491～496の1つであるとともに、第7 NOT回路518は、第2論理IC484に内蔵されている3つのNOT回路517～519の1つである。つまり、第2選択回路474は、第2論理IC483に内蔵されている複数のNOT回路514～516の一部と、第1論理IC481に内蔵されている複数のNAND回路491～496の一部と、第2論理IC484に内蔵されている複数のNOT回路517～519の一部と、を利用して形成されている。第2NAND回路493が備えている2つの入力端子のうちの一方は、誤作動防止回路472の第2NOT回路513と電氣的に接続されているとともに、当該2つの入力端子のうちの他方は、第7 NOT回路518を介して入出力ポート471の第2端子NS12と電氣的に接続されている。また、第2NAND回路493の出力端子は、第4 NOT回路515を介して、第1 MOSFET462のゲートと電氣的に接続されている。

30

【2672】

第2選択回路474において、第2NAND回路493が備えている2つの入力端子の双方に入力される信号がH Iレベルである場合には、第2NAND回路493から第4 NOT回路515に対して出力される信号がLOWレベルとなるとともに、第4 NOT回路515から第1 MOSFET462のゲートに対して出力される信号がH Iレベルとなる。これにより、振分入口用の駆動部163を駆動状態とすることができる。一方、第2NAND回路493が備えている2つの入力端子の少なくとも一方に入力される信号がLOWレベルである場合には、第2NAND回路493から第4 NOT回路515に対して出力される信号がH Iレベルとなるとともに、第4 NOT回路515から第1 MOSFET462のゲートに対して出力される信号がLOWレベルとなる。これにより、振分入口用の駆動部163を非駆動状態とすることができる。

40

【2673】

第3選択回路475は、第5 NOT回路516、第3NAND回路494及び第8 NOT回路519を有するハードウェアである。第5 NOT回路516は、第2論理IC48

50

3に内蔵されている3つのNOT回路514～516の1つである。また、第3NAND回路494は、第1論理IC481に内蔵されている6つのNAND回路491～496の1つであるとともに、第8NOT回路519は、第2論理IC484に内蔵されている3つのNOT回路517～519の1つである。つまり、第3選択回路475は、第2論理IC483に内蔵されている複数のNOT回路514～516の一部と、第1論理IC481に内蔵されている複数のNAND回路491～496の一部と、第2論理IC484に内蔵されている複数のNOT回路517～519の一部と、を利用して形成されている。第3NAND回路494が備えている2つの入力端子のうちの一方は、誤作動防止回路472の第2NOT回路513と電氣的に接続されているとともに、当該2つの入力端子のうちの他方は、第8NOT回路519を介して入出力ポート471の第3端子NS13と電氣的に接続されている。また、第3NAND回路494の出力端子は、第5NOT回路516を介して、第2MOSFET463のゲートと電氣的に接続されている。

【2674】

第3選択回路475において、第3NAND回路494が備えている2つの入力端子の双方に入力される信号がHイレベルである場合には、第3NAND回路494から第5NOT回路516に対して出力される信号がLOWレベルとなるとともに、第5NOT回路516から第2MOSFET463のゲートに対して出力される信号がHイレベルとなる。これにより、切換用駆動部167を駆動状態とすることができる。一方、第3NAND回路494が備えている2つの入力端子の少なくとも一方に入力される信号がLOWレベルである場合には、第3NAND回路494から第5NOT回路516に対して出力される信号がHイレベルとなるとともに、第5NOT回路516から第2MOSFET463のゲートに対して出力される信号がLOWレベルとなる。これにより、切換用駆動部167を非駆動状態とすることができる。

【2675】

図242は入出力ポート471の第0端子NS10から出力される駆動制御信号、第1～第3端子NS11～NS13から出力される選択信号及び停電監視基板85から出力されるリセット信号と、対象駆動部の状態との関係を説明するための説明図である。第1端子NS11に対応する対象駆動部は特電用の駆動部32bであり、第2端子NS12に対応する対象駆動部は振分入口用の駆動部163であり、第3端子NS13に対応する対象駆動部は切換用駆動部167である。

【2676】

上述したとおり、第1NOT回路512は、入力端子に入力された信号を反転させた信号を出力端子から出力する。図242に示すように、第0端子NS10から出力される駆動制御信号がLOWレベルである場合には第1NOT回路512から出力される信号がHイレベルとなるとともに、第0端子NS10から出力される駆動制御信号がHイレベルである場合には第1NOT回路512から出力される信号がLOWレベルとなる。

【2677】

上述したとおり、第0NAND回路491は、2つの入力端子に入力された信号の双方がHイレベルである場合に出力端子からLOWレベルの信号を出力するとともに、2つの入力端子に入力された信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合に出力端子からHイレベルの信号を出力する。図242に示すように、第1NOT回路512から第0NAND回路491に入力される信号及び停電監視基板85から第0NAND回路491に入力されるリセット信号の双方がHイレベルである場合には第0NAND回路491から第2NOT回路513に出力される信号がLOWレベルとなる。また、第1NOT回路512から第0NAND回路491に入力される信号及び停電監視基板85から第0NAND回路491に入力されるリセット信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には第0NAND回路491から出力される信号がHイレベルとなる。

【2678】

第2NOT回路513は、既に説明したとおり、入力端子に入力された信号を反転させた信号を出力端子から出力する。図242に示すように、第0NAND回路491から第

10

20

30

40

50

2 NOT回路513に入力される信号がLOWレベルである場合には第2 NOT回路513から第1～第3選択回路473～475に出力される信号がHレベルとなるとともに、第0 NAND回路491から第2 NOT回路513に入力される信号がHレベルである場合には第2 NOT回路513から第1～第3選択回路473～475に出力される信号がLOWレベルとなる。

【2679】

上記第31の実施形態において既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板85は、まず停電信号をLOWレベルからHレベルに立ち上げ、当該停電信号の立ち上げから所定の時間（具体的には9ミリ秒）の経過後にリセット信号をLOWレベルからHレベルに立ち上げる。そして、停電監視基板85にて停電の発生が特定されるまで、リセット信号のLOWレベルへの立ち下げは行われない。

10

【2680】

誤作動防止回路472の第2 NOT回路513から第1選択回路473の第1 NAND回路492に対して出力される信号、及び入出力ポート471の第1端子NS11から出力される第1選択信号が第6 NOT回路517にて反転された信号の双方がHレベルである場合には、上述したとおり、第0 MOSFET461のゲートに入力される信号がHレベルとなることにより特電用の駆動部32bが駆動状態となる。一方、第2 NOT回路513から第1選択回路473の第1 NAND回路492に対して出力される信号、及び入出力ポート471の第1端子NS11から出力される第1選択信号が第6 NOT回路517にて反転された信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には、上述したとおり、第0 MOSFET461のゲートに入力される信号がLOWレベルとなることにより特電用の駆動部32bが非駆動状態となる。主側MPU82は、リセット信号がHレベルである状態において、第0端子NS10から出力する駆動制御信号をHレベルからLOWレベルに立ち下げるとともに第1端子NS11から出力する第1選択信号をHレベルからLOWレベルに立ち下げることにより特電用の駆動部32bを駆動状態とすることができる。また、主側MPU82は、リセット信号がHレベルである状態において、第1端子NS11から出力する第1選択信号をHレベルとすることにより特電用の駆動部32bを非駆動状態とすることができる。

20

【2681】

誤作動防止回路472の第2 NOT回路513から第2選択回路474の第2 NAND回路493に対して出力される信号、及び入出力ポート471の第2端子NS12から出力される第2選択信号が第7 NOT回路518にて反転された信号の双方がHレベルである場合には、上述したとおり、第1 MOSFET462のゲートに入力される信号がHレベルとなることにより振分入口用の駆動部163が駆動状態となる。一方、第2 NOT回路513から第2選択回路474の第2 NAND回路493に対して出力される信号、及び入出力ポート471の第2端子NS12から出力される第2選択信号が第7 NOT回路518にて反転された信号の少なくとも一方がLOWレベルである場合には、上述したとおり、第1 MOSFET462のゲートに入力される信号がLOWレベルとなることにより振分入口用の駆動部163が非駆動状態となる。主側MPU82は、リセット信号がHレベルである状態において、第0端子NS10から出力する駆動制御信号をHレベルからLOWレベルに立ち下げるとともに第2端子NS12から出力する第2選択信号をHレベルからLOWレベルに立ち下げることにより振分入口用の駆動部163を駆動状態とすることができる。また、主側MPU82は、リセット信号がHレベルである状態において、第2端子NS12から出力する第2選択信号をHレベルとすることにより振分入口用の駆動部163を非駆動状態とすることができる。

30

40

【2682】

誤作動防止回路472の第2 NOT回路513から第3選択回路475の第3 NAND回路494に対して出力される信号、及び入出力ポート471の第3端子NS13から出力される第3選択信号が第8 NOT回路519にて反転された信号の双方がHレベルである場合には、上述したとおり、第2 MOSFET463のゲートに入力される信号がH

50

Ｉレベルとなることにより切換用駆動部１６７が駆動状態となる。一方、第２ＮＯＴ回路５１３から第３選択回路４７５の第３ＮＡＮＤ回路４９４に対して出力される信号、及び入出力ポート４７１の第３端子ＮＳ１３から出力される第３選択信号が第８ＮＯＴ回路５１９にて反転された信号の少なくとも一方がＬＯＷレベルである場合には、上述したとおり、第２ＭＯＳＦＥＴ４６３のゲートに入力される信号がＬＯＷレベルとなることにより切換用駆動部１６７が非駆動状態となる。主側ＭＰＵ８２は、リセット信号がＨＩレベルである状態において、第０端子ＮＳ１０から出力する駆動制御信号をＨＩレベルからＬＯＷレベルに立ち下げるとともに第３端子ＮＳ１３から出力する第３選択信号をＨＩレベルからＬＯＷレベルに立ち上げるにより切換用駆動部１６７を駆動状態とすることができる。また、主側ＭＰＵ８２は、リセット信号がＨＩレベルである状態において、第３端子

10

【２６８３】

次に、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に、入出力ポート４７１の第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３から出力される信号の状態について説明する。

【２６８４】

上記第３１の実施形態と同様に、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、主側ＭＰＵ８２にて制御レジスタ４７６、出力データレジスタ４７７及び入力データレジスタ４７８におけるいずれかのビットに「１」をセットする処理が実行されるまで、これらのレジスタ４７６～４７８は第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３から電源電圧（安定供給状態において５Ｖ）に対応するＨＩレベルの駆動制御信号を出力するためのデータが設定されている状態となる。また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されると、入出力ポート４７１は、当該入出力ポート４７１の内部に設けられた回路の構成上、第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３が出力端子として機能する状態となるとともに、当該第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３から主側ＭＰＵ８２に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が出力される状態となる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、主側ＭＰＵ８２にて制御レジスタ４７６、出力データレジスタ４７７及び入力データレジスタ４７８におけるいずれかのビットに「１」をセットする処理が実行されるまで、第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３から主側ＭＰＵ８２に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が出力される状態となる。

20

30

【２６８５】

上記第３１の実施形態と同様に、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから停電信号が立ち上げられるまでの期間においては、主側ＭＰＵ８２に供給される電源電圧の上昇と当該電源電圧の降下とが繰り返される。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合、入出力ポート４７１の第０～第３端子ＮＳ１０～ＮＳ１３から出力される駆動制御信号の電圧レベルは、主側ＭＰＵ８２に供給される電源電圧と同様に、上昇及び降下を繰り返しながら、徐々に安定状態におけるＨＩレベルの電圧（具体的には５Ｖ）に向かう。

【２６８６】

入出力ポート４７１から出力される信号（具体的には、第０端子ＮＳ１０から出力される駆動制御信号及び第１～第３端子ＮＳ１１～ＮＳ１３から出力される第１～第３選択信号）のみに基づいて特電用の駆動部３２ｂ、振分入口用の駆動部１６３及び切換用駆動部１６７の駆動制御が行われる構成とすると、入出力ポート４７１から出力される信号の出力が安定しない状態において、これらの駆動部３２ｂ、１６３、１６７の誤作動が発生してしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、入出力ポート４７１から出力される信号に加えて、特電用の駆動部３２ｂ、振分入口用の駆動部１６３及び切換用駆動部１６７の駆動制御を行うためのリセット信号が設けられている。リセット信号は、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、主側ＭＰＵ８２に供給される電源電圧が不安定な状態となる期間においてＬＯＷレベルに維持される。図２４２に示すように、リセット信号をＬＯＷレベルとすることにより、駆動制御信号及び第１～第３選択信号の状態

40

50

とは無関係に、これらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の非駆動状態を維持することができる。これにより、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始時にこれらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【2 6 8 7】

図 2 4 1 に示すように、停電監視基板 8 5 と誤作動防止回路 4 7 2 の第 0 N A N D 回路 4 9 1 とを電氣的に接続する信号線 L N 2 1 は、電気抵抗（具体的には 4 . 7 k Ω の電気抵抗）を有するプルダウン抵抗 4 9 7 を介して接地されている。これにより、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された後、停電監視基板 8 5 がリセット信号を L O W レベルから H I レベルに立ち上げるまでの期間において、リセット信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けてリセット信号が H I レベルに立ち上がってしまうことを防止できる。

10

【2 6 8 8】

上述したとおり、誤作動防止回路 4 7 2 は、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始時には L O W レベルに維持されるとともに主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧が安定した後に H I レベルに立ち上がる信号を利用して、特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の誤作動を防止する。当該信号として、停電監視基板 8 5 から主側 M P U 8 2 に向けて出力されるリセット信号を利用することにより、停電監視基板 8 5 とは別の装置として電源投入直後には L O W レベルに維持されるとともにその後に H I レベルに立ち上がる信号を出力するための装置を設ける構成と比較して、これらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の誤作動を防止するための構成を簡素化することができる。

20

【2 6 8 9】

図 2 4 2 に示すように、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始され、リセット信号が H I レベルに立ち上げられた後は、入出力ポート 4 7 1 の第 0 端子 N S 1 0 から出力される駆動制御信号に加えて、第 1 端子 N S 1 1 から出力される第 1 選択信号を利用して特電用の駆動部 3 2 b の駆動制御が実行され、第 2 端子 N S 1 2 から出力される第 2 選択信号を利用して振分入口用の駆動部 1 6 3 の駆動制御が実行され、第 3 端子 N S 1 3 から出力される第 3 選択信号を利用して切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御が実行される。これにより、第 1 選択回路 4 7 3 の第 1 N A N D 回路 4 9 2 に入力される 2 つの信号のいずれか一方を押し上げようとするノイズが発生した場合においても、当該ノイズの影響を受けて特電用の駆動部 3 2 b が誤って動作状態となってしまうことを防止できる。また、第 2 選択回路 4 7 4 の第 2 N A N D 回路 4 9 3 に入力される 2 つの信号のいずれか一方を押し上げようとするノイズが発生した場合においても、当該ノイズの影響を受けて振分入口用の駆動部 1 6 3 が誤って動作状態となってしまうことを防止できるとともに、第 3 選択回路 4 7 5 の第 3 N A N D 回路 4 9 4 に入力される 2 つの信号のいずれか一方を押し上げようとするノイズが発生した場合においても、当該ノイズの影響を受けて切換用駆動部 1 6 7 が誤って動作状態となってしまうことを防止できる。

30

【2 6 9 0】

リセット信号が H I レベルに立ち上げられている状態において、駆動制御信号に加えて第 1 ～第 3 選択信号を利用してこれらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の駆動制御を実行する構成において、入出力ポート 4 7 1 の第 0 端子 N S 1 0 から第 1 ～第 3 選択回路 4 7 3 ～4 7 5 の第 1 ～第 3 N A N D 回路 4 9 2 ～4 9 4 に向かう信号経路の途中であって信号線 L N 2 2 が信号線 L N 2 3 及び信号線 L N 2 4 に分岐する位置よりも第 0 端子 N S 1 0 側の位置に、誤作動防止回路 4 7 2 を設けることにより、複数（具体的には 3 つ）の選択回路 4 7 3 ～4 7 5 に対する誤作動防止回路 4 7 2 の数を 1 つのみとしながら、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始時にこれらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の誤作動が発生してしまうことを防止できる。誤作動防止回路 4 7 2 の数を 1 つに抑えることにより、主制御基板 8 1 に実装される電子部品数を低減し、主制御基板 8 1 の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板 8 1 の製造コストを低減することができる。

40

【2 6 9 1】

既に説明したとおり、外部出力用回路 4 3 1 は、第 1 論理 I C 4 8 1 の第 4 N A N D 回

50

路 4 9 5 及び第 5 N A N D 回路 4 9 6 を利用して形成されている。図 2 4 1 に示すように、誤作動防止回路 4 7 2 は、第 1 論理 I C 4 8 1 の第 0 N A N D 回路 4 9 1 と、第 2 論理 I C 4 8 2 の第 1 N O T 回路 5 1 2 及び第 2 N O T 回路 5 1 3 とを利用して形成されている。また、第 1 選択回路 4 7 3 は、第 2 論理 I C 4 8 3 の第 3 N O T 回路 5 1 4 と、第 1 論理 I C 4 8 1 の第 1 N A N D 回路 4 9 2 と、第 2 論理 I C 4 8 4 の第 6 N O T 回路 5 1 7 とを利用して形成されており、第 2 選択回路 4 7 4 は、第 2 論理 I C 4 8 3 の第 4 N O T 回路 5 1 5 と、第 1 論理 I C 4 8 1 の第 2 N A N D 回路 4 9 3 と、第 2 論理 I C 4 8 4 の第 7 N O T 回路 5 1 8 とを利用して形成されており、第 3 選択回路 4 7 5 は、第 2 論理 I C 4 8 3 の第 5 N O T 回路 5 1 6 と、第 1 論理 I C 4 8 1 の第 3 N A N D 回路 4 9 4 と、第 2 論理 I C 4 8 4 の第 8 N O T 回路 5 1 9 とを利用して形成されている。

10

【 2 6 9 2 】

誤作動防止回路 4 7 2 における第 1 N O T 回路 5 1 2 及び第 2 N O T 回路 5 1 3 が 1 つの電子部品（第 2 論理 I C 4 8 2 ）に内蔵されている。このため、これらの N O T 回路 5 1 2 , 5 1 3 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【 2 6 9 3 】

誤作動防止回路 4 7 2 は、第 2 論理 I C 4 8 2 に内蔵されている 3 つの N O T 回路 5 1 1 ~ 5 1 3 のうち一部である第 1 ~ 第 2 N O T 回路 5 1 2 ~ 5 1 3 を利用して形成されている。これにより、第 2 論理 I C 4 8 2 に内蔵されている 3 つの N O T 回路 5 1 1 ~ 5 1 3 のうち誤作動防止回路 4 7 2 に含まれていない第 0 N O T 回路 5 1 1 を他の回路を形成するために利用可能な態様で、誤作動防止回路 4 7 2 を形成することが可能となっている。

20

【 2 6 9 4 】

第 1 選択回路 4 7 3 における第 1 N A N D 回路 4 9 2 と、第 2 選択回路 4 7 4 における第 2 N A N D 回路 4 9 3 と、第 3 選択回路 4 7 5 における第 3 N A N D 回路 4 9 4 とが 1 つの電子部品（第 1 論理 I C 4 8 1 ）に内蔵されている。このため、これら第 1 ~ 第 3 N A N D 回路 4 9 2 ~ 4 9 4 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【 2 6 9 5 】

第 1 選択回路 4 7 3 における第 3 N O T 回路 5 1 4 と、第 2 選択回路 4 7 4 における第 4 N O T 回路 5 1 5 と、第 3 選択回路 4 7 5 における第 5 N O T 回路 5 1 6 とが 1 つの電子部品（第 2 論理 I C 4 8 3 ）に内蔵されている。このため、これら第 3 ~ 第 5 N O T 回路 5 1 4 ~ 5 1 6 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

30

【 2 6 9 6 】

第 1 選択回路 4 7 3 における第 6 N O T 回路 5 1 7 と、第 2 選択回路 4 7 4 における第 7 N O T 回路 5 1 8 と、第 3 選択回路 4 7 5 における第 8 N O T 回路 5 1 9 とが 1 つの電子部品（第 2 論理 I C 4 8 4 ）に内蔵されている。このため、これら第 6 ~ 第 8 N O T 回路 5 1 7 ~ 5 1 9 を設けるために 2 つ以上の電子部品を主制御基板 8 1 に実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【 2 6 9 7 】

40

第 1 論理 I C 4 8 1 に内蔵されている 6 つの N A N D 回路 4 9 1 ~ 4 9 6 の一部である第 4 N A N D 回路 4 9 5 及び第 5 N A N D 回路 4 9 6 を利用して外部出力用回路 4 3 1 が形成されている構成において、当該 6 つの N A N D 回路 4 9 1 ~ 4 9 6 のうち外部出力用回路 4 3 1 に含まれていない第 0 ~ 第 3 N A N D 回路 4 9 1 ~ 4 9 4 は、誤作動防止回路 4 7 2 及び第 1 ~ 第 3 選択回路 4 7 3 ~ 4 7 5 を形成するために利用されている。これにより、外部出力用回路 4 3 1、誤作動防止回路 4 7 2 及び第 1 ~ 第 3 選択回路 4 7 3 ~ 4 7 5 を形成するために N A N D 回路を内蔵している電子部品を主制御基板 8 1 に複数実装する構成と比較して、主制御基板 8 1 に実装する電子部品の数を抑えることができる。

【 2 6 9 8 】

第 1 論理 I C 4 8 1 に内蔵されている 6 つの N A N D 回路 4 9 1 ~ 4 9 6 の一部である

50

第1 NAND回路492と、第2論理IC483に内蔵されている3つのNOT回路514～516の一部である第3 NOT回路514と、第2論理IC484に内蔵されている3つのNOT回路517～519の一部である第6 NOT回路517とを利用して第1選択回路473が形成されている構成において、第1論理IC481に内蔵されている6つのNAND回路491～496のうち第1選択回路473に含まれていない第2～第3 NAND回路493～494と、第2論理IC483に内蔵されている3つのNOT回路514～516のうち第1選択回路473に含まれていない第4～第5 NOT回路515～516と、第2論理IC484に内蔵されている3つのNOT回路517～519のうち第1選択回路473に含まれていない第7～第8 NOT回路518～519とを利用して第2～第3選択回路474～475が形成されている。これにより、第1～第3選択回路473～475を形成するために主制御基板81に実装される電子部品（第1論理IC481及び第2論理IC483，484）の数を抑えることができる。

10

【2699】

外部出力用回路431に含まれる論理回路（NAND回路495，496）の種類はNAND回路のみである。一方、誤作動防止回路472に含まれる論理回路（NAND回路491及びNOT回路512，513）の種類はNAND回路及びNOT回路である。また、第1～第3選択回路473～475に含まれる論理回路（NAND回路492～494及びNOT回路514～519）の種類もNAND回路及びNOT回路である。誤作動防止回路472に含まれている論理回路の種類及び第1～第3選択回路473～475に含まれている論理回路の種類のうちの一部のみが外部出力用回路431に含まれている論理回路の種類と共通している構成において、誤作動防止回路472、第1～第3選択回路473～475及び外部出力用回路431に共通して含まれている種類の論理回路（NAND回路）は一の論理IC（第1論理IC481）にまとめられている。これにより、これらのNAND回路491～496を設けるために、NAND回路を内蔵している電子部品が2以上実装される構成と比較して、主制御基板81に実装される電子部品の数を抑えることができる。

20

【2700】

3つの選択回路473～475のそれぞれに含まれている論理回路の種類は、NAND回路及びNOT回路で共通している。第1～第3選択回路473～475に含まれている第1～第3 NAND回路492～494が一の電子部品（第1論理IC481）にまとめられている構成において、当該第1～第3選択回路473～475に含まれている第3～第5 NOT回路514～516が一の電子部品（第2論理IC483）にまとめられているとともに、当該第1～第3選択回路473～475に含まれている第6～第8 NOT回路517～519が一の電子部品（第2論理IC484）にまとめられている。これにより、これら3つの選択回路473～475を形成するために主制御基板81に実装される電子部品の数を抑えることができる。

30

【2701】

このように、主制御基板81に実装する電子部品の数を抑えることにより、主制御基板81の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板81の製造コストを低減することができる。

40

【2702】

入出力ポート471の第0端子NS10から駆動制御信号が出力される場合、誤作動防止回路472では、第1 NOT回路512→第0 NAND回路491→第2 NOT回路513の順番で、信号が流れる。第1 NOT回路512は信号の流れの最も上流に存在しており、第0 NAND回路491は当該信号の流れの2番目に上流に存在しており、第3 NOT回路454は当該信号の流れの最も下流に存在している。

【2703】

図241に示すように、第0 NAND回路491の出力端子と第3 NOT回路454の入力端子とが電氣的に接続されている。そして、出力時における信号経路で、第0 NAND回路491よりも下流側に存在している第2 NOT回路513が物理的な位置として、

50

当該第0 NAND回路491よりも上流側に存在している第1 NOT回路512に並設された位置となるように誤作動防止回路472の信号経路が形成されている。信号の流れにおいて最も下流に存在している第2 NOT回路513を、当該信号の流れにおいて2番目に上流に存在している第0 NAND回路491よりも、当該信号の流れにおいて最も上流側に存在している第1 NOT回路512と物理的に近い位置に配置することにより、第0 NAND回路491を挟んで信号の流れの最も上流に存在している第1 NOT回路512と当該信号の流れの最も下流に存在している第2 NOT回路513とが第2論理IC482という一の論理ICに内蔵されている構成とすることができる。このため、第0 NAND回路491を挟んで信号の流れの上流側に存在している第1 NOT回路512と当該信号の流れの下流側に存在している第2 NOT回路513とが異なる論理ICに内蔵されている構成と比較して、主制御基板81に実装される第2論理IC482の数を抑えることができる。

10

【2704】

上述したとおり、第1論理IC481は、主制御基板81に複数実装されている第1論理ICと同一の電子部品であるとともに、第2論理IC482～484は、主制御基板81に複数実装されている第2論理ICと同一の電子部品である。主制御基板81に複数実装されている電子部品（第1論理IC及び第2論理IC）を利用して外部出力用回路431、誤作動防止回路472及び第1～第3選択回路473～475が形成されていることにより、主制御基板81に実装される電子部品の共通化が図られており、主制御基板81に実装される電子部品の種類が低減されている。これにより、主制御基板81の製造効率が高められているとともに、主制御基板81の製造コストが低減されている。

20

【2705】

<第33の実施形態>

本実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合に主側MPU82にて実行される処理内容が上記第1の実施形態と相違している。以下、上記第1の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第1の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2706】

図243は本実施形態における遊技盤24の正面図であり、図244はパチンコ機10の電気的な構成を説明するために説明図である。

30

【2707】

上記第1の実施形態と同様に、遊技盤24には、前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されており、各開口部には一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、可変表示ユニット36、特図ユニット37及び普図ユニット38等がそれぞれ設けられている（図243参照）。上記第13の実施形態と同様に、遊技盤24に設けられている一般入賞口31の数は3個である。第2作動口34には、左右一対の可動片よりなるガイド片としての普電役物34aが設けられている。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、普電役物34aの閉鎖状態では遊技球が第2作動口34に入賞できず、普電役物34aが開放状態となることで第2作動口34への入賞が可能となる。また、上記第1の実施形態と同様に、遊技盤24の最下部にはアウト口24aが設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口24aを通過して遊技領域PAから排出される。

40

【2708】

本実施形態では、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認、入球部24a、31～34に入球した遊技球の検知状態の確認、及びスルーゲート35を通過する遊技球の検知状態の確認を行うための入出力確認期間が設けられている。入出力確認期間では、タイマ割込み処理（図249）のステップSG904にて後述する入出力確認用処理（図253）が実行される。入出力確認用処理は、主側MPU82の入力ポートへのデータの入力及び出力ポートからのデータの出力が正常に行われる状態であることを遊技ホールの管理者が把握可能とするために実行される。

50

【2709】

図243に示すように、図柄表示装置41の右下には入出力確認表示装置521が設けられている。入出力確認表示装置521が設けられている領域は、遊技領域PAにおいて遊技球が通過しない領域である。入出力確認表示装置521は、入出力確認期間であることを報知する専用の表示装置である。入出力確認表示装置521は、発光部521a（例えばLED）を備えており、入出力確認期間において点灯状態となる。

【2710】

上記第1の実施形態と同様に、主側MPU82の出力側には、特電入賞装置32の開閉動作を行うために駆動制御される特電用の駆動部32bと、普電役物34aの開閉動作を行うために駆動制御される普電用の駆動部34bとが接続されている（図244参照）。また、図244に示すように、主側MPU82の出力側には、入出力確認表示装置521が接続されている。主側MPU82は、入出力確認期間が開始される場合に入出力確認表示装置521を点灯させるとともに、当該入出力確認期間が終了する場合に入出力確認表示装置521を消灯させる。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が点灯状態となっていることを確認することにより入出力確認期間であることを把握することができる。

【2711】

上記第13の実施形態と同様に、主側MPU82の入力側には、第1入賞口検知センサ231a、第2入賞口検知センサ232a、第3入賞口検知センサ233a、特電検知センサ234a、第1作動口検知センサ235a、第2作動口検知センサ236a、アウト口検知センサ237a及びゲート検知センサ238aが接続されている（図244参照）。上記第13の実施形態において既に説明したとおり、一般入賞口31に入球した遊技球は、第1～第3入賞口検知センサ231a～233aのいずれかにおいて検知される。また、特電入賞装置32に入球した遊技球は特電検知センサ234aにて検知され、第1作動口33に入球した遊技球は第1作動口検知センサ235aにて検知され、第2作動口34に入球した遊技球は第2作動口検知センサ236aにて検知され、アウト口24aに入球した遊技球はアウト口検知センサ237aにて検知される。各種検知センサ231a～237aのうちいずれか1個の検知センサ231a～237aにて検知対象となった遊技球は他の検知センサ231a～237aの検知対象となることはない。また、遊技領域PAを流下する途中でスルーゲート35を通過する遊技球はゲート検知センサ238aにて検知される。上記第13の実施形態において既に説明したとおり、上記各検知センサ231a～238aは、遊技球の通過を検知していない場合には検知信号として非検知中であることを示すLOWレベル信号を出力し、遊技球の通過を検知している場合には検知信号として検知中であることを示すHIGHレベル信号を出力する。なお、LOWレベルとHIGHレベルとの関係が逆であってもよい。

【2712】

図245は主側RAM84の構成を説明するための説明図である。図245に示すように、主側RAM84には確認フラグ群522が設けられている。確認フラグ群522には、第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522c、特電入賞確認フラグ522d、第1作動入賞確認フラグ522e、第2作動入賞確認フラグ522f、アウト確認フラグ522g及びゲート入賞確認フラグ522hが設けられている。

【2713】

第1入賞確認フラグ522aは、一般入賞口31に入球した遊技球が第1入賞口検知センサ231aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグであり、第2入賞確認フラグ522bは、一般入賞口31に入球した遊技球が第2入賞口検知センサ232aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグであり、第3入賞確認フラグ522cは、一般入賞口31に入球した遊技球が第3入賞口検知センサ233aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。特電入賞確認フラグ522dは、特電入賞装置32に入球した遊技球が特電検知センサ

234aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグであり、第1作動入賞確認フラグ522eは、第1作動口33に入球した遊技球が第1作動口検知センサ235aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグであり、第2作動入賞確認フラグ522fは、第2作動口34に入球した遊技球が第2作動口検知センサ236aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグであり、アウト確認フラグ522gは、アウト口24aに入球した遊技球がアウト口検知センサ237aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。ゲート入賞確認フラグ522hは、スルーゲート35を通過する遊技球がゲート検知センサ238aにおいて検知されたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。
【2714】

10

主側RAM84には複数のエリアが設けられており、これらのエリアのそれぞれに1対1で対応させてアドレスが設定されている。図245に示すように、主側RAM84には、後述するタイマ更新処理（図254）において更新対象となるタイマカウンタ523a～523gが集約されているタイマカウンタエリア523が設けられている。タイマカウンタエリア523は、主側RAM84において連続する「0101H」～「010BH」のアドレス範囲に設けられた合計11バイトの記憶エリアである。以下、本実施形態において、数値の後に付された「H」は当該数値が16進数で表記されていることを示す記号である。

【2715】

タイマカウンタエリア523には、確認用タイマカウンタ523aが設けられている。確認用タイマカウンタ523aは、入出力確認期間の残りの継続時間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。確認用タイマカウンタ523aは2バイトからなる。なお、タイマカウンタエリア523及び当該タイマカウンタエリア523に設けられている各タイマカウンタ523a～523gについては後に詳細に説明する。

20

【2716】

次に、主側MPU82にて実行されるメイン処理について図246のフローチャートを参照しながら説明する。上記第1の実施形態と同様に、メイン処理はパチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【2717】

ステップSG601～ステップSG602では、上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS101～ステップS102と同様の処理を実行する。具体的には、まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップSG601）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウェイト用の所定時間（具体的には1秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウェイト用の所定期間において図柄表示装置41の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側RAM84のアクセスを許可する。

30

【2718】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップSG602）。内部機能レジスタ設定処理では、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理であるタイマ割込み処理（図249）の割込み周期を所定期間（具体的には4ミリ秒）に設定する。タイマ割込み処理（図249）の詳細については後に説明する。

40

【2719】

その後、主側MPU82におけるスタックポインタの初期化処理を実行する（ステップSG603）。スタックポインタは、主側RAM84に設けられたスタックエリアにおいてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側MPU82にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。スタックエリアを使用する場合、記憶対象となる情報はスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶

50

対象となる情報が追加される度にスタックエリアにおける最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。スタックポインタの初期化处理では、スタックエリアにおける最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。これにより、プッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアをスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアとすることができる。動作電力の供給開始時にスタックポインタを初期化する構成であることにより、動作電力の供給開始後にスタックエリアにおける最後のアドレスよりも最初のアドレス側に存在するアドレスの記憶エリアがプッシュ命令による情報の書き込み対象となる構成と比較して、主側RAM84においてスタックエリアとして確保する記憶エリアのデータ容量を抑えることができる。

【2720】

なお、動作電力の供給開始時にスタックポインタの初期化处理を実行する構成においても、後述するRAMクリア処理（ステップSG620又は設定値更新処理（図247）のステップSG701）が実行されない場合には、主側RAM84においてスタックエリア以外の記憶エリアに記憶されている情報に基づいて本メイン処理（図246）及び後述するタイマ割込み処理（図249）が実行されることにより動作電力の供給が停止される前に実行されていた遊技の続きから遊技が開始される。

【2721】

その後、ステップSG604～ステップSG617では、上記第1の実施形態におけるメイン処理（図13）のステップS103～ステップS116と同様の処理を実行する。具体的には、まず主側RAM84の立ち上げ処理中フラグに「1」をセットする（ステップSG604）。立ち上げ処理中フラグは、タイマ割込み処理（図249）が起動されたとしても当該タイマ割込み処理（図249）に設定されている各種処理のうち入出力確認用処理（ステップSG904）、無効化用処理（ステップSG905）及び遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）を実行することなく当該タイマ割込み処理（図249）を終了すべき状況であることを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【2722】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図246）において動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が開始された場合に「1」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了して残余処理（ステップSG628～ステップSG631）が開始される前に「0」クリアされる。タイマ割込み処理（図249）では立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合にはステップSG903～ステップSG905及びステップSG911～ステップSG924の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）のうち後述する設定確認用処理（ステップSG613）又は設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況において、入出力確認用処理（ステップSG904）、無効化用処理（ステップSG905）及び遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行されないようにすることが可能となる。その一方、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）のうち後述する設定確認用処理（ステップSG613）又は設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況においてもステップSG901及びステップSG906～ステップSG909の処理は実行される。このため、当該状況においても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3及び乱数初期値カウンタCINIの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【2723】

ステップSG604にて立ち上げ処理中フラグに「1」をセットした後は、主側RAM84に設けられた停電フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG605）。タイマ割込み処理（図249）の停電監視処理（ステップSG901）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「1」がセットされる。上記第1の実施形態

10

20

30

40

50

と同様に、停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。

【2724】

停電フラグに「1」がセットされている場合（ステップSG605：YES）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップSG606）。具体的には、まず主側RAM84についてチェックサムを算出する。チェックサムの算出方法は任意であるが、後述するタイマ割込み処理（図249）の停電監視処理（ステップSG901）における停電時処理においてチェックサムが算出される場合の算出方法と同一の算出方法となっている。その後、主側MPU82への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて主側RAM84に保存されたチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、今回のメイン処理にて算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

10

【2725】

チェックサムが一致している場合（ステップSG606：YES）、主側RAM84の設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップSG607）。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、設定参照用エリアは現状のパチンコ機10において使用対象として設定されている設定値を主側MPU82にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。ステップSG607では設定参照用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する。

20

【2726】

ステップSG605～ステップSG607の全てで肯定判定をした場合、主側RAM84に情報異常が発生していないことを意味する。この場合、主側RAM84に設けられた設定更新中フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG608）。設定更新中フラグは後述する設定値更新処理（ステップSG618）が実行されていることを主側MPU82にて特定するためのフラグであり、設定更新中フラグに「1」がセットされている場合には主制御装置71の主制御基板81に搭載された報知用表示装置141（図244参照）にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。報知用表示装置141は複数のセグメント表示器を備えている。これら複数のセグメント表示器は主制御基板81の素子搭載面において並設されており、主制御装置71の基板ボックスを開封しなくても基板ボックスの外部から各セグメント表示器の表示面を視認可能となっている。

30

【2727】

設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況において主側MPU82への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合において設定更新中フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定更新中フラグに「1」がセットされた状態は設定値更新処理（ステップSG618）にて設定更新中フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【2728】

設定更新中フラグに「1」がセットされていないことでステップSG608にて否定判定をした場合、ステップSG609では、リセットボタン142（図244参照）が押圧操作されている状態においてパチンコ機10の電源ON操作が行われて主側MPU82への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。

40

【2729】

リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップSG609：NO）、主側RAM84における遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG610）。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、後述するタイマ割込み処理（図249）においてステップSG910にて肯定判定をすることでステップSG911～ステップSG924の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされてい

50

ない場合、前回の電源遮断時から主側RAM 84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、遊技を進行させるための処理（ステップSG 911～ステップSG 924）が実行されないことになる。ステップSG 610にて肯定判定をした場合、後述するステップSG 625及びステップSG 626の処理を実行する。

【2730】

ステップSG 610にて否定判定をした場合、設定キー挿入部143（図244参照）が設定キーを利用してON操作されているか否かを判定する（ステップSG 611）。設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されている場合（ステップSG 611：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップSG 613）。また、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていない場合であっても（ステップSG 611：NO）、主側RAM 84に設けられた設定確認中フラグに「1」がセットされている場合（ステップSG 612：YES）、設定確認用処理を実行する（ステップSG 613）。

【2731】

設定確認中フラグは設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されていることを主側MPU 82にて特定するためのフラグであり、設定確認中フラグに「1」がセットされている場合には報知用表示装置141にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認中フラグは、設定確認用処理（ステップSG 613）が開始された場合に「1」がセットされ設定確認用処理（ステップSG 613）が終了される場合に「0」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されていない状況においては基本的に設定確認中フラグに「1」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されている状況において主側MPU 82への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側MPU 82への動作電力の供給が開始された場合において設定確認中フラグに「1」がセットされた状態となる。この設定確認中フラグに「1」がセットされた状態は後述するRAMクリア処理（ステップSG 620）が実行されるか、後述する設定値更新処理（ステップSG 618）が実行されるか、又は設定確認用処理（ステップSG 613）において設定確認中フラグを「0」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【2732】

上記のようにリセットボタン142が押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部143がON操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン142が押圧操作されていない状況であって設定確認中フラグに「1」がセットされている場合にも設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されることにより、設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理（ステップSG 613）が実行される。これにより、パチンコ機10の現状の設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142が押圧操作された場合には、設定確認用処理（ステップSG 613）が実行されることなくRAMクリア処理（ステップSG 620）及び設定値更新処理（ステップSG 618）のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理（ステップSG 613）よりもRAMクリア処理（ステップSG 620）又は設定値更新処理（ステップSG 618）の実行を優先させることが可能となる。

【2733】

ここで、ステップSG 613にて実行される設定確認用処理について説明する。

【2734】

設定確認用処理ではまず割込み許可の設定を行う。これにより、タイマ割込み処理（図249）が所定周期で割り込んで起動される。本パチンコ機10においては動作電力の供

10

20

30

40

50

給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）では基本的にタイマ割込み処理（図249）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（ステップSG613）及び設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況においてタイマ割込み処理（図249）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（ステップSG613）又は設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているため、タイマ割込み処理（図249）が起動されたとしても当該タイマ割込み処理（図249）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、入出力確認用処理（ステップSG904）、無効化用処理（ステップSG905）及び遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該タイマ割込み処理（図249）が終了される。その後、主側RAM84の設定確認中フラグに「1」がセットされていないことを条件として、設定確認中フラグに「1」をセットする。設定確認中フラグに「1」がセットされることにより、パチンコ機10の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が報知用表示装置141にて行われる。その後、確認開始コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、設定確認用処理（ステップSG613）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（ステップSG613）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置41にて表示されるように表示側MPU103が表示制御される。

【2735】

その後、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する。設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合、主側RAM84の設定確認中フラグを「0」クリアする。これにより、報知用表示装置141にて、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、割込み禁止の設定を行う。これにより、設定確認用処理（ステップSG613）を終了してメイン処理（図246）における動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）に復帰する場合にはタイマ割込み処理（図249）の割込みが禁止される。その後、確認時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41における設定確認用処理（ステップSG613）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（ステップSG613）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示が終了される。

【2736】

メイン処理（図246）の説明に戻り、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていない場合であって設定確認中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップSG611及びステップSG612：NO）、遊技機本体12が開放中であるか否かを判定する（ステップSG614）。遊技機本体12が外枠11に対して開放状態となっている場合（ステップSG614：YES）、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップSG615）。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、天井カウンタ131は残りの天井回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。

【2737】

ステップSG614にて否定判定をした場合又はステップSG615の処理を実行した場合、通常復帰コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG616）。音光側MPU93は通常復帰コマンドを受信することにより、主側MPU82において動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）にてRAMクリア処理（ステップSG620）、設定確認用処理（ステップSG613）及び設定値更新処理（ステップSG618）のいずれもが実行されていないことを特定する。

【2738】

一方、ステップSG609にてリセットボタン142が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていると判定した場合（ステップSG617：YES）、又はステップSG608にて設定更新中フラグに「1」がセットされていると判定した場合、CALL命令により設定値更新処理を実行する（ステップSG618）。上記のようにリセットボタン142が押圧操作されている場合であって設定キー挿入部143がON操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作の有無に関係なく設定更新中フラグに「1」がセットされている場合にも設定値更新処理（ステップSG618）が実行されることにより、設定値更新処理（ステップSG618）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「RAMクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理（ステップSG618）が実行される。これにより、設定値更新処理（ステップSG618）の実行を優先させることが可能となる。

【2739】

設定値更新処理（ステップSG618）の実行に際しては、設定値更新処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行される。設定値更新処理に対応するサブルーチンのプログラムは、動作電力の供給開始後において最初に呼び出されるサブルーチンのプログラムである。また、既に説明したとおり、ステップSG603にてスタックポインタの初期化処理が実行されることにより、プッシュ命令による書き込み対象の記憶エリアはスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアが書き込み対象となっている。このため、設定値更新処理に対応するサブルーチンのプログラムの実行に際しては設定値更新処理（ステップSG618）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアに書き込まれるとともに、スタックエリアにおいてプッシュ命令による書き込み対象となる記憶エリアが最後から2番目の記憶エリアに更新される。設定値更新処理（ステップSG618）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。

【2740】

図247はステップSG618における設定値更新処理を示すフローチャートである。

【2741】

まずCALL命令によりRAMクリア処理を実行する（ステップSG701）。RAMクリア処理（ステップSG701）の実行に際しては、RAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはRAMクリア処理（ステップSG701）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアにおける最後から2番目のアドレスの記憶エリアに書き込まれる。そして、RAMクリア処理（ステップSG701）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。なお、RAMクリア処理の内容については後に詳細に説明する。

【2742】

ステップSG701にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、設定値更新処理のステップSG702に進む。ステップSG702～ステップSG703では、上記第4の実施形態における設定値更新処理（図42）のステップS2501～ステップS2502と同様の処理を実行する。具体的には、タイマ割込み処理（図249）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定を行う（ステップSG702）。設定値更新処理（図247）の実行中にタイマ割込み処理（図249）が起動される場合には、ステップSG901及びステップSG906～ステップSG909の処理が実行される一方、入出力確認用処理（ステップSG904）、無効化用処理（ステップSG905）及び遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）

は実行されない。その後、主側RAM84の設定更新中フラグに「1」をセットする（ステップSG703）。これにより、設定値更新処理（図247）が実行されている状態であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

【2743】

その後、ステップSG704～ステップSG714では、上記第4の実施形態における設定値更新処理（図42）のステップS2507～ステップS2517と同様の処理を実行する。具体的には、主側RAM84の設定更新用エリアに「1」をセットし（ステップSG704）、更新開始コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG705）。これにより、図柄表示装置41にて、設定値更新処理が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示が開始される。その後、設定更新用エリアに格納された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定する（ステップSG706）。「1」～「6」のいずれかではない場合（ステップSG706：NO）、設定更新用エリアに「1」をセットする（ステップSG707）。これにより、更新対象の設定値が「設定1」となる。

【2744】

ステップSG706にて肯定判定をした場合又はステップSG707の処理を実行した場合、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する（ステップSG708）。ステップSG708にて否定判定をした場合、リセットボタン142が押圧操作されていることを条件として（ステップSG709：YES）、設定更新用エリアの値を1加算する（ステップSG710）。これにより、リセットボタン142が1回押圧操作される度に1段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップSG709：NO）又は設定更新用エリアの値を1加算した場合にはステップSG706の処理に戻ることにするが、ステップSG706にて設定更新用エリアの値が7以上であると判定すると、ステップSG707にて設定更新用エリアに「1」をセットする。これにより、「設定6」の状態でリセットボタン142が1回押圧操作された場合には「設定1」に戻るようになる。

【2745】

設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合（ステップSG708：YES）、設定更新用エリアに格納された設定値の情報を設定参照用エリアに上書きする（ステップSG711）。これにより、今回の設定値更新処理にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリアに設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機10の設定値となる。

【2746】

その後、タイマ割込み処理（図249）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行い（ステップSG712）、更新時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG713）。音光側MPU93は、更新時の復帰コマンドを受信した場合、図柄表示装置41における設定値更新処理が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像の表示が終了するようにする。また、音光側MPU93は、更新時の復帰コマンドを受信した場合、RAMクリア処理（ステップSG701）が実行されたことを報知する初期化報知が行われるように図柄表示装置41の表示制御及び表示発光部64の発光制御を実行する。なお、初期化報知については後に詳細に説明する。その後、主側RAM84の設定更新中フラグを「0」クリアする（ステップSG714）。

【2747】

設定値を更新するためにリセットボタン142の押圧操作が行われる時間は遊技ホールの管理者による動作に応じて変動する時間である。また、設定値更新処理（図247）の実行中にタイマ割込み処理（図249）の発生が許可されることにより、タイマ割込み処理（図247）のステップSG906～ステップSG908にて各種カウンタの更新が行

10

20

30

40

50

われる。設定値更新処理（図247）では、RAMクリア処理（ステップSG701）を実行した後、設定値を更新するためのリセットボタン142の押圧操作が開始される前にタイマ割込み処理（図249）の発生を許可し、当該リセットボタン142の押圧操作の終了後にタイマ割込み処理（図249）の発生を禁止する構成である。これにより、RAMクリア処理（ステップSG701）にて各種カウンタの値を「0」クリアした後、上記変動する時間（設定値を更新するためにリセットボタン142の押圧操作が行われる時間）を利用して各種カウンタの更新を行うことができる。

【2748】

メイン処理（図246）の説明に戻り、ステップSG609にてリセットボタン142が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されていないと判定した場合（ステップSG617：NO）、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG619）。遊技停止フラグは、遊技を進行させるための処理（タイマ割込み処理（図249）におけるステップSG911～ステップSG924）が実行されない状態とすべきことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図249）のステップSG910にて肯定判定が行われてステップSG911～ステップSG924の処理は実行されない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合又は設定値が異常である場合には、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行されないことになる。

【2749】

遊技停止フラグに「1」がセットされていない場合（ステップSG619：NO）には、既に説明した設定値更新処理（図247）のステップSG701と同様に、CALL命令によりRAMクリア処理を実行する（ステップSG620）。RAMクリア処理（ステップSG620）の実行に際しては、RAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行される。ステップSG620にてRAMクリア処理が実行される場合、RAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムは、動作電力の供給開始後において最初に呼び出されるサブルーチンのプログラムである。また、既に説明したとおり、ステップSG603にてスタックポインタの初期化処理が実行されることによりスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアが書き込み対象となっている。このため、RAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムの実行に際してはRAMクリア処理（ステップSG620）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアに書き込まれる。そして、RAMクリア処理（ステップSG620）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。なお、RAMクリア処理の内容については後に詳細に説明する。

【2750】

ステップSG620にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、メイン処理のステップSG621に進む。ステップSG621では、クリア時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93はクリア時の復帰コマンドを受信することにより、主側MPU82において動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了したことを特定するとともに今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）にてRAMクリア処理（ステップSG620）が実行されたことを特定する。音光側MPU93は、クリア時の復帰コマンドを受信した場合、RAMクリア処理（ステップSG620）が実行されたことを報知する初期化報知が行われるように図柄表示装置41の表示制御及び表示発光部64の発光制御を実行する。なお、初期化報知についての詳細は後に説明する。

【2751】

メイン処理（図246）においてステップSG605～ステップSG607のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップSG622）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「1」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図249）のステップSG910にて肯定判定が行われてステップSG911～ステップSG924の処理は実行されない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行されないことになる。

10

【2752】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップSG623）。その後、リセットボタン142が押圧操作されているか否かを判定する（ステップSG624）。リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップSG624：NO）、異常コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSG625）。音光側MPU93は、当該異常コマンドを受信した場合、異常報知が行われるように、図柄表示装置41の表示制御、表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。異常報知では、音光側MPU93は、異常を報知する態様で表示発光部64を発光させるとともに、スピーカ部65から「設定変更をして下さい。」という音声を出させる。また、図柄表示装置41にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。異常報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機10への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップSG618）が実行されるまではパチンコ機10への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

20

【2753】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップSG626）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば100ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「1」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「0」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。

30

【2754】

リセットボタン142が押圧操作されている場合（ステップSG624：YES）、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されているか否かを判定する（ステップSG617）。リセットボタン142が押圧操作されているとともに設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されている場合（ステップSG617及びステップSG624：YES）、CALL命令により設定値更新処理を実行する（ステップSG618）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側MPU82への動作電力が供給された場合には、主側RAM84について異常が発生していることでステップSG605～ステップSG607のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（ステップSG618）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、当該設定値更新処理（図247）ではステップSG701にてRAMクリア処理が実行されることにより遊技停止フラグが「0」クリアされる。これにより、設定値更新処理（ステップSG618）が実行された場合には、設定値の更新の完了時に、主側RAM84において発生していた情報の異常が解消されている状態とすることが可能となる。

40

【2755】

「設定変更操作」が行われている状況で主側MPU82への動作電力の供給が開始され

50

、主側RAM 84について異常が発生していることでステップSG 605～ステップSG 607のいずれかにて否定判定が行われて設定値更新処理（ステップSG 618）が実行される場合においても、設定値更新処理に対応するサブルーチンのプログラムは、動作電力の供給開始後において最初に呼び出されるサブルーチンのプログラムである。このため、既に説明したとおり、設定値更新処理に対応するサブルーチンのプログラムの実行に際しては設定値更新処理（ステップSG 618）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアに書き込まれる。

【2756】

一方、リセットボタン142が押圧操作されているものの設定キー挿入部143がON操作されていない場合（ステップSG 624：YES、ステップSG 617：NO）、主側RAM 84の遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG 619）。ステップSG 622にて遊技停止フラグに「1」がセットされた後におけるステップSG 619の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「1」がセットされているため、ステップSG 619にて肯定判定をする。この場合、ステップSG 625にて音光側MPU 93に異常コマンドを送信するとともにステップSG 626にて異常信号を外部出力する。

【2757】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップSG 605～ステップSG 607のいずれかにて否定判定をした場合、「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 82への動作電力の供給が開始されたとしてもRAMクリア処理（ステップSG 620）は実行されない。また、遊技停止フラグに「1」がセットされている状況であって「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 82への動作電力の供給が開始された場合にもRAMクリア処理（ステップSG 620）は実行されない。これにより、「RAMクリア操作」が行われている状況で主側MPU 82への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「1」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（ステップSG 618）が実行されるとともに当該設定値更新処理（ステップSG 618）にて遊技停止フラグが「0」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（ステップSG 618）を実行する必要があることとなる。よって、主側RAM 84の情報異常の発生に際しては主側RAM 84の一部のエリアを初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【2758】

遊技停止フラグに「1」がセットされている状況において主側MPU 82への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「RAMクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップSG 610又はステップSG 619にて肯定判定をすることで、ステップSG 625にて異常コマンドを送信するとともにステップSG 626にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「1」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップSG 605～ステップSG 607の処理結果に関係なく、設定値更新処理（ステップSG 618）が実行されない限り、主側MPU 82への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機10における異常報知及びパチンコ機10の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【2759】

ステップSG 613の処理を実行した場合、ステップSG 616の処理を実行した場合、ステップSG 618の処理を実行した場合、ステップSG 621の処理を実行した場合、又はステップSG 626の処理を実行した場合には、主側RAM 84の立ち上げ処理中

10

20

30

40

50

フラグを「0」クリアする（ステップSG627）。これにより、後述するタイマ割込み処理（図249）のステップSG902にて否定判定が行われるようにすることができる。とともに、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていないことを条件としてステップSG910にて否定判定が行われるようにすることができる。なお、ステップSG627では主側RAM84の停電フラグも「0」クリアする。

【2760】

その後、ステップSG628～ステップSG631の残余処理に進む。つまり、主側MPU82はタイマ割込み処理（図249）を定期的に行う構成であるが、1のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間はタイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップSG628～ステップSG631の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップSG628～ステップSG631の残余処理は非定期的に行われる非定期処理であると言える。

【2761】

残余処理では、まずステップSG628にてタイマ割込み処理（図249）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う。続くステップSG629では、乱数初期値カウンタCINIの更新を行う乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップSG630にて変動種別カウンタCSの更新を行う変動用カウンタ更新処理を実行する。これらの更新処理では、主側RAM84の対応するカウンタから現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を1加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「0」にクリアする。その後、ステップSG631にて、タイマ割込み処理（図249）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定を行う。ステップSG631の処理を実行した場合には、ステップSG628に戻り、ステップSG628～ステップSG631の処理を繰り返す。

【2762】

次に、主側MPU82にて実行されるRAMクリア処理について図248のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、RAMクリア処理は、設定値更新処理（図247）のステップSG701及びメイン処理（図246）のステップSG620にて実行される。

【2763】

メイン処理（図246）のステップSG620にて呼び出されるRAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムは、設定値更新処理（図247）のステップSG701にて呼び出されるサブルーチンのプログラムと同一のプログラムである。このため、ステップSG701にて呼び出されるサブルーチンのプログラムとは別のプログラムとしてステップSG620にて呼び出されるサブルーチンのプログラムが主側ROM83に記憶されている構成と比較して、RAMクリア処理を実行するために主側ROM83に記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【2764】

既に説明したとおり、主側RAM84には複数のエリアが設けられており、これらのエリアのそれぞれに1対1で対応させてアドレスが設定されている。RAMクリア処理において初期化の対象となるエリアは、主側RAM84において連続する「0006H」～「04AFH」のアドレス範囲に設定されている。

【2765】

RAMクリア処理では、まず初期化の対象となるアドレス範囲（「0007H」～「04AFH」）の先頭アドレスである「0007H」を初期化対象アドレスとしてセットする（ステップSG801）。初期化対象アドレスは、ステップSG802における対象エリアのクリア処理にて初期化の対象となる主側RAM84のエリアを特定するためのアドレスである。初期化対象アドレスは、ステップSG804における初期化対象アドレスの更新処理にて更新される。

【2766】

ステップSG801にて初期化対象アドレスをセットした後は、対象エリアのクリア処理を実行する（ステップSG802）。対象エリアのクリア処理では、初期化対象アドレスにより特定される主側RAM84のエリアに対して「0」クリアを行うとともに初期設定を実行する。その後、現状における初期化対象アドレスとして、RAMクリア処理において初期化の対象となるアドレス範囲の終了アドレスである「04AFH」がセットされているか否かを判定し（ステップSG803）、現状における初期化対象アドレスが終了アドレスではない場合（ステップSG803：NO）には、初期化対象アドレスの更新処理を実行する（ステップSG804）。初期化対象アドレスの更新処理では、現状における初期化対象アドレスの次のアドレスを初期化対象アドレスとして特定することにより、「0007H」→「0008H」→…→「04AEH」→「04AFH」の順番で、初期化対象アドレスを更新する。そして、ステップSG802に進み、ステップSG803にて肯定判定が行われるまでステップSG802～ステップSG804の処理を繰り返し実行する。これにより、主側RAM84において初期化の対象となるアドレス範囲（「0007H」～「04AFH」）に設定されているエリアを初期化することができる。

10

【2767】

ステップSG803にて肯定判定が行われるまでステップSG802～ステップSG804の処理が繰り返し実行されることにより、RAMクリア処理（図248）では、主側RAM84においてパチンコ機10の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア）、天井カウンタ131、立ち上げ処理中フラグ、主側RAM84において役比を算出するための情報が記憶されたエリア及びスタックエリアを除いて、主側RAM84のエリアの「0」クリア及び初期設定が実行される。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機10への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部38aが変動表示されていない状況であって普電役物34aが閉鎖状態である状況となる。また、特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cも「0」クリアされるため、第1保留情報、第2保留情報及び普図側の保留情報が消去される。また、設定更新中フラグ、設定確認中フラグ及び設定更新用エリアが「0」クリアされる。さらにまた、遊技停止フラグが「0」クリアされる。また、主側RAM84のタイマカウンタエリア523におけるタイマカウンタ523a～523gも「0」クリアされる。

20

30

【2768】

スタックエリアは、RAMクリア処理（図248）において「0」クリア及び初期設定の対象となるエリアからは除外されている。このため、メイン処理（図246）のステップSG620にてRAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される場合、又は設定値更新処理（図247）のステップSG701にてRAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される場合にスタックエリアに記憶された戻り番地の情報は記憶保持される。

【2769】

ステップSG803にて肯定判定を行った場合、すなわち主側RAM84において初期化の対象となるアドレス範囲に設定されているエリアの初期化が終了した場合には、各種レジスタのクリア処理を実行することにより、主側MPU82の各種レジスタを「0」クリアする（ステップSG805）。主側MPU82におけるスタックポインタは、各種レジスタのクリア処理（ステップSG805）において「0」クリアされる対象から除外されている。これにより、RAMクリア処理（図248）の終了後に、メイン処理（図246）のステップSG620にてRAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される場合にスタックエリアに記憶された戻り番地又は設定値更新処理（図247）のステップSG701にてRAMクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される場合にスタックエリアに記憶された戻り番地に復帰することができる。

40

50

【2770】

その後、既に説明したメイン処理（図246）のステップSG602と同様に、内部機能レジスタ設定処理を実行することにより、タイマ割込み処理（図249）の割込み周期を所定周期（具体的には4ミリ秒）に設定する（ステップSG806）。

【2771】

その後、「LDW（KAKUTIM），2500」という命令を実行する（ステップSG807）。「LDW」は16ビットの転送命令であり、「KAKUTIM」は主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aであり、「2500」は入出力確認期間（具体的には10秒）に対応する数値情報である。ステップSG807にて「LDW（KAKUTIM），2500」という命令が実行されることにより、確認用タイマカウンタ523aに「2500」という数値情報が設定される。確認用タイマカウンタ523aの値は、その値が「1」以上である場合には、後述するタイマ更新処理（図254）が実行される度に1減算されて更新される。ステップSG807にて入出力確認期間に対応する数値情報が確認用タイマカウンタ523aに設定されることにより、メイン処理（図246）において動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に、10秒間に亘って入出力確認用処理（ステップSG904）が実行される入出力確認期間となる。

【2772】

入出力確認期間に対応する数値情報を確認用タイマカウンタ523aに設定するステップSG807の処理は、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にメイン処理（図246）のステップSG618における設定値更新処理又はメイン処理（図246）のステップSG620におけるRAMクリア処理が実行される場合、すなわちRAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される場合に実行される一方、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際してステップSG618における設定値更新処理及びステップSG620におけるRAMクリア処理のいずれもが実行されない場合、すなわちRAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行されない場合には実行されない。このため、入出力確認用処理（ステップSG904）は、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合に実行される処理であるといえる。

【2773】

遊技ホールの管理者は、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際してリセットボタン142の押圧操作を行うことによりRAMクリア処理（ステップSG620）の実行後に入出力確認用処理（ステップSG904）が実行されるようにすることができるとともに、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作を行うことにより設定値更新処理（ステップSG618）の実行後に入出力確認用処理（ステップSG904）が実行されるようにすることができるとともに、遊技ホールの管理者は、リセットボタン142の押圧操作を行うことなくパチンコ機10への動作電力の供給を開始することにより、入出力確認期間（具体的には10秒間）を生じさせないようにして、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行される状態を迅速に作り出すことができる。

【2774】

パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後に、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される場合には入出力確認期間が設定されるとともに、RAMクリア処理が実行されない場合には入出力確認期間が設定されない構成において、RAMクリア処理に対応するサブルーチンに入出力確認期間を発生させるための処理（ステップSG807）が設定されている。これにより、RAMクリア処理が実行される場合には入出力確認期間が設定されるとともに、RAMクリア処理が実行されない場合には入出力確認期間が設定されないようにするための処理構成を簡素化することができる。

【2775】

スタックポインタの初期化処理（ステップSG603）が実行されることなく電源投入及び電源遮断が繰り返される構成とすると、主側RAM84のスタックエリアにおいて、電源投入後にプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスが最初のアドレス側にシフトしていく可能性が考えられる。このため、いずれかのタイミングにおいてスタックポインタの初期化処理を実行する必要がある。既に説明したとおり、RAMクリア処理は、設定値更新処理（図247）のステップSG701及びメイン処理（図246）のステップSG620において呼び出される共通のサブルーチンのプログラムにより実行される。また、動作電力の供給が開始されてから設定値更新処理（図247）のステップSG701にてRAMクリア処理が実行されるまでにスタックポインタの値が更新される回数（CALL命令が実行される回数である2回）は、動作電力の供給が開始されてからメイン処理（図246）のステップSG620にてRAMクリア処理が実行されるまでにスタックポインタの値が更新される回数（CALL命令が実行される回数である1回）とは一致しない。このため、設定値更新処理（図247）のステップSG701にてRAMクリア処理が実行される場合におけるスタックポインタの値は、メイン処理（図246）のステップSG620にてRAMクリア処理が実行される場合におけるスタックポインタの値とは一致しない。設定値更新処理（図247）のステップSG701及びメイン処理（図246）のステップSG620にて、共通のサブルーチンのプログラムを呼び出してRAMクリア処理を実行する構成において、RAMクリア処理にてスタックポインタを初期化する構成とすると、RAMクリア処理を実行するための処理構成が複雑化してしまう。これに対して、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される前にステップSG603にてスタックポインタの初期化処理を実行することにより、ステップSG620及びステップSG701にてRAMクリア処理に対応する共通のサブルーチンを呼び出す構成としながら、RAMクリア処理の処理構成が複雑化してしまうことを防止できる。

【2776】

次に、図249のフローチャートを参照しながらタイマ割込み処理を説明する。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、タイマ割込み処理は4msecの周期で繰り返し起動される。

【2777】

ステップSG901では、上記第1の実施形態におけるタイマ割込み処理（図14）のステップS201と同様に、停電監視処理を実行する（ステップSG901）。停電監視処理では、停電監視基板85から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、主側RAM84の停電フラグに「1」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを保存する。

【2778】

ステップSG901にて停電監視処理を実行した後は、主側RAM84の立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているか否かを判定し（ステップSG902）、立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップSG902：NO）には、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aの値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップSG903）。確認用タイマカウンタ523aの値が「1」以上である場合（ステップSG903：YES）には、CALL命令により入出力確認用処理を実行する（ステップSG904）。入出力確認用処理（ステップSG904）の実行に際しては、入出力確認用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては入出力確認用処理（ステップSG904）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、入出力確認用処理（ステップSG904）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。ステップSG904にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、ステップSG905～ステップSG924の処理を

実行することなく本タイマ割込み処理を終了する。なお、入出力確認用処理の内容は後に詳細に説明する。

【2779】

立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている場合には、ステップSG902にて肯定判定が行われるため、入出力確認用処理（ステップSG904）は実行されない。立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状態でタイマ割込み処理が実行される状況は、設定確認用処理（ステップSG613）又は設定値更新処理（図247）が実行されている状況である。遊技ホールの管理者は、設定確認用処理（ステップSG613）が実行されている状況においては設定値の確認を優先的に行うことが考えられるとともに、設定値更新処理（図247）が実行されている状況においては設定値を更新する作業を優先的に行うことが考えられる。このため、設定確認用処理（ステップSG613）又は設定値更新処理（図247）が実行されている状況において入出力確認用処理が実行される構成とすると、遊技ホールの管理者による入出力確認期間中の確認作業（特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認、入球部24a、31～34に入球した遊技球の検知状態の確認及びスルーゲート35を通過する遊技球の検知状態の確認）が十分に行われる前に10秒間の入出力確認期間が終了してしまうおそれがある。また、既に説明したとおり、設定確認用処理（ステップSG613）が終了する場合又は設定値更新処理（図247）が終了する場合には、タイマ割込み処理による割込みが禁止される。さらにまた、設定確認用処理（ステップSG613）の実行期間及び設定値更新処理（図247）の実行期間は、遊技ホールの管理者による操作態様に応じて変動する期間である。このため、設定確認用処理（ステップSG613）の実行期間又は設定値更新処理（図247）の実行期間が10秒未満となる場合には、入出力確認期間が満了前に中断されてしまう。これに対して、立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされていない状態、すなわち動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に入出力確認期間が開始される構成である。これにより、遊技ホールの管理者は入出力確認期間中の確認作業に集中することができる。また、入出力確認期間が満了前に中断されてしまうことを防止できる。

【2780】

確認用タイマカウンタ523aの値が「0」である場合（ステップSG903：NO）には、無効化用処理を実行する（ステップSG905）。詳細は後述するが、無効化用処理には、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間（具体的には1秒）を設定するための処理が含まれている。確認後無効化期間は、特電検知センサ234aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されることにより遊技球が検知された場合においても当該遊技球の検知が無効なものとして扱われる期間であるとともに、第2作動口検知センサ236aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されることにより遊技球が検出された場合においても当該遊技球の検出が無効なものとして扱われる期間である。入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間を設定することにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにおいて検知された場合に、当該遊技球の検知が発生したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できるとともに、特電入賞装置32への入球が想定されていない期間において特電検知センサ234aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて特電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。このように、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間を設定することにより、特電入賞装置32に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であることを確認するために入出力確認期間中に特電入賞装置32に手入れされた遊技球が原因となって、遊技球の払い出しが実行されてしまう可能性を低減することができるとともに、当該遊技球が原因となって特電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。なお、特電入球エラー報知の詳細については後述する。

【2781】

入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間を設定することにより、入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにおいて検知された場合に、当該遊技球の検知が発生したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できるとともに、当該遊技球が検知されたことに基づいて当否判定処理（上記第1の実施形態において既に説明した特図変動開始処理（図20）のステップS805）が実行されてしまうことを防止できる。また、第2作動口34への入球が想定されていない期間において第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて普電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。このように、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間を設定することにより、第2作動口34に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であることを確認するために第2作動口34に手入れされた遊技球が原因となって、遊技球の払い出しが実行されてしまう可能性を低減することができるとともに、当否判定処理が実行されてしまう可能性を低減することができる。また、当該遊技球が原因となって普電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。なお、普電入球エラー報知の詳細については後述する。
【2782】

10

ステップSG902にて肯定判定を行った場合又はステップSG905の処理を行った場合には、ステップSG906に進む。ステップSG906～ステップSG924では、上記第1の実施形態におけるタイマ割込み処理（図14）のステップS202～ステップS220と同様の処理を実行する。具体的には、まず抽選用乱数更新処理を実行する（ステップSG906）。その後、ステップSG907ではメイン処理（図246）のステップSG629と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップSG908にてメイン処理（図246）のステップSG630と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する。

20

【2783】

その後、不正用の監視対象として設定されている所定の事象が発生しているか否かを監視する不正検知処理を実行する（ステップSG909）。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、所定の事象が発生していることを確認することで、主側RAM84に設けられた遊技停止フラグに「1」をセットする。

【2784】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSG910）。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップSG910：YES）、ステップSG911～ステップSG924の処理を実行することなく本タイマ割込み処理を終了する。これにより、遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況にて、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）は実行されないようにすることが可能となる。

30

【2785】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「1」がセットされていない場合（ステップSG910：NO）、ステップSG911～ステップSG924における遊技を進行させるための処理を実行する。具体的には、まずポート出力処理を実行する（ステップSG911）。ポート出力処理では、前回のタイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部32b、34bに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置32を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第2作動口34の普電役物34aを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。その後、読み込み処理を実行する（ステップSG912）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。

40

50

【2786】

その後、「CALL SWREAD2」という命令を実行する（ステップSG913）。「SWREAD2」は入球検知処理である。ステップSG913では、CALL命令により入球検知処理を実行する。入球検知処理（ステップSG913）の実行に際しては、入球検知処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては入球検知処理（ステップSG913）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、入球検知処理（ステップSG913）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。入球検知処理では、各検知センサ231a～238aから受信している信号を読み込むとともに、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、アウト口24a及びスルーゲート35への入球の有無を特定する処理を実行する。ステップSG913にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、タイマ割込み処理（図249）のステップSG914に進む。なお、入球検知処理の詳細については後述する。

10

【2787】

ステップSG914では、「CALL TIMER」という命令を実行する。「TIMER」はタイマ更新処理である。ステップSG914では、CALL命令によりタイマ更新処理を実行する。タイマ更新処理（ステップSG914）の実行に際しては、タイマ更新処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはタイマ更新処理（ステップSG914）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、タイマ更新処理（ステップSG914）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。タイマ更新処理では、主側RAM84のタイマカウンタエリア523に設けられている7種類のタイマカウンタ523a～523gの数値情報をまとめて更新する。ステップSG914にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、タイマ割込み処理（図249）のステップSG915に進む。なお、タイマ更新処理の詳細については後述する。

20

【2788】

ステップSG915では、遊技球の発射制御を行うための発射制御処理を実行する。発射操作装置28に対して発射操作が継続されている状況では、既に説明したとおり、所定の発射周期となるように0.6秒に1個の遊技球が発射される。その後、入力状態監視処理として、ステップSG912の読み込み処理にて読み込んだ情報に基づいて、各検知センサ231a～238aの断線確認や、遊技機本体12及び前扉枠14の開放確認を行う（ステップSG916）。

30

【2789】

その後、遊技回の実行制御及び開閉実行モードの実行制御を行うための特図特電制御処理を実行するとともに（ステップSG917）、普図表示部38aの表示制御及び普電開放状態の実行制御を行うための普図普電制御処理を実行する（ステップSG918）。これら特図特電制御処理及び普図普電制御処理の処理内容は基本的に上記第1の実施形態と同様である。相違する部分の処理構成については後に説明する。

40

【2790】

続くステップSG919では表示制御処理を実行する。ステップSG919における表示制御処理では、直前のステップSG917及びステップSG918の処理結果に基づいて、第1保留情報の増減個数を第1特図保留表示部37cに反映させるための出力情報の設定、第2保留情報の増減個数を第2特図保留表示部37dに反映させるための出力情報の設定、及び普図側の保留情報の増減個数を普図保留表示部38bに反映させるための出力情報の設定を行う。また、ステップSG919における表示制御処理では、直前のステップSG917及びステップSG918の処理結果に基づいて、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部38aの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行う。

50

【2791】

その後、払出制御装置77から受信したコマンド及び信号の内容を確認し、その確認結果に対応した処理を行うための払出状態受信処理を実行する（ステップSG920）。また、賞球コマンドを出力対象として設定するための払出出力処理を実行する（ステップSG921）。また、今回のタイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップSG922）。

【2792】

その後、設定監視処理を実行する（ステップSG923）。設定監視処理では、主側RAM84の設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「1」～「6」のいずれかであるか否かを判定することで、使用対象として設定されている設定値が「設定1」～「設定6」のいずれかであるか否かを判定する。設定参照用エリアに記憶された設定値の情報が「0」又は7以上である場合には使用対象として設定されている設定値が異常であることを意味するため、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする。これにより、設定値更新処理（ステップSG618）にて使用対象の設定値の設定が新たに行われるまで遊技を進行させることができなくなる。その後、管理用処理を実行する（ステップSG924）。管理用処理では役比を算出するための遊技履歴を記憶するための処理、その記憶された遊技履歴を利用して役比を算出するための処理、及びその算出された役比が報知用表示装置141にて表示されるようにするための処理を実行する。

【2793】

このように、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後に、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される場合には、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後にタイマ割込み処理（図249）の実行が許可され、当該タイマ割込み処理（図249）のステップSG902にて否定判定が行われるとともにステップSG903にて肯定判定が行われることにより10秒に亘って入出力確認期間が開始される。そして、当該入出力確認期間が終了した場合には、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていないことを条件として、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行される遊技可能状態となる。入出力確認用処理が実行される場合には、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後においても入出力確認期間が終了するまで、遊技を進行させるための処理は実行されない。パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合に、遊技可能状態となるタイミングよりも前のタイミングにおいて入出力確認用処理を実行することにより、遊技可能状態となる前に特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とすることができる。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われない状態となっていることが見落とされた状態のまま遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。また、遊技可能状態となる前に各入球部24a、31～34に入球した遊技球の検知及びスルーゲート35を通過する遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とすることができる。これにより、これらの遊技球の検知が正常に行われない状態となっていることが見落とされた状態のまま遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【2794】

パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作が行われた場合には、設定値更新処理が実行され、当該設定値更新処理の終了後に入出力確認用処理が実行される。このため、遊技ホールの管理者は、設定値を更新する操作と、特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認、並びに検知センサ231a～238aによる遊技球の検知状態の確認と、を連続して行うことができる。

【2795】

設定値更新処理が実行された場合には、設定値更新処理を終了させるための操作が行われることにより入出力確認期間が開始される。このため、設定値更新処理を終了させるた

10

20

30

40

50

めの操作に加えて入出力確認期間を開始させるための操作を必要とする構成と比較して、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の動作確認、並びに検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a による遊技球の検知状態の確認を行うための処理構成を簡素化することができる。

【2796】

次に、主側 RAM 8 4 の立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている「立ち上げ処理中」、主側 RAM 8 4 の遊技停止フラグに「1」がセットされている「遊技停止中」、主側 RAM 8 4 の確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が 1 以上であり入出力確認用処理が実行されている「入出力確認期間」、又は「遊技可能状態」においてタイマ割込み処理（図 2 4 9）が起動された場合に実行される処理について説明する。「遊技可能状態」は、立ち上げ処理中、遊技停止中及び入出力確認期間のいずれでもない状態である。

10

【2797】

図 2 5 0 はタイマ割込み処理（図 2 4 9）に設定されている各種処理のうち立ち上げ処理中、遊技停止中、入出力確認期間及び遊技可能状態において実行される処理を説明するための説明図である。図 2 5 0 に示すように、タイマ割込み処理には、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）と、入出力確認用処理（ステップ S G 9 0 4）と、無効化期間の設定を行う無効化用処理（ステップ S G 9 0 5）と、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップ S G 9 0 6 ~ ステップ S G 9 0 9）と、遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ~ ステップ S G 9 2 4）と、を含む各種処理が設定されている。

【2798】

立ち上げ処理中にタイマ割込み処理が起動された場合には、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）と、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップ S G 9 0 6 ~ ステップ S G 9 0 9）とが実行される。また、遊技停止中にタイマ割込み処理が起動された場合には、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）と、無効化期間の設定、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップ S G 9 0 5 ~ ステップ S G 9 0 9）とが実行される。さらにまた、入出力確認期間においてタイマ割込み処理が起動された場合には、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）と、入出力確認用処理（ステップ S G 9 0 4）とが実行される。また、遊技可能状態においてタイマ割込み処理が起動された場合には、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）と、無効化期間の設定、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップ S G 9 0 5 ~ ステップ S G 9 0 9）と、遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ~ ステップ S G 9 2 4）とが実行される。

20

【2799】

入出力確認期間においてタイマ割込み処理が起動された場合には、タイマ割込み処理に設定されている各種処理のうち無効化期間の設定、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップ S G 9 0 5 ~ ステップ S G 9 0 9）と、遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ~ ステップ S G 9 2 4）とは実行されない。遊技を進行させるための処理が実行されないことにより、入出力確認期間中に遊技が進行してしまうことを防止できる。また、入出力確認期間中に無効化期間の設定、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理と、遊技を進行させるための処理とが実行される構成と比較して、入出力確認期間においてタイマ割込み処理を実行するための主側 MPU 8 2 の処理負荷を軽減することができる。

30

【2800】

入出力確認期間においてタイマ割込み処理が起動された場合、停電監視処理（ステップ S G 9 0 1）が実行される。既に説明したとおり、停電の発生が特定されて主側 MPU 8 2 の動作が停止する前に停電時処理を実行することにより、主側 RAM 8 4 における停電フラグに「1」をセットすることができるとともに、主側 RAM 8 4 についてチェックサムを算出して記憶することができる。また、既に説明したとおり、設定変更操作が行われていない状態において動作電力の供給が開始された後、停電フラグに「1」がセットされていない場合又は主側 MPU 8 2 への動作電力の供給開始後に算出された主側 RAM 8 4 についてのチェックサムが動作電力の供給停止前に記憶されたチェックサムと一致しない場合には異常報知が実行される。これに対して、入出力確認期間においても停電監視処理

40

50

が実行される構成であることにより、入出力確認期間中に停電の発生が特定された場合においても主側MPU82の動作が停止してしまう前に停電時処理を実行することができる。これにより、停電が発生して入出力確認期間が中断された後、設定変更操作が行われていない状態で動作電力の供給が開始された場合に、異常報知が実行されてしまうことを防止できる。

【2801】

タイマ割込み処理が起動された場合には、当該タイマ割込み処理が起動された状況がいずれの状況であっても停電監視処理（ステップSG901）が実行される。このため、停電の発生が特定された場合には、当該停電の発生が特定された状況がいずれの状況であっても主側MPU82の動作が停止する前に停電監視処理（ステップSG901）を実行することができる。これにより、停電の発生が特定された状況がいずれの状況であっても主側RAM84の停電フラグに「1」がセットされているとともに主側RAM84について算出されたチェックサムが記憶されている状態で主側MPU82の動作が停止されるようにすることができる。よって、設定変更操作が行われない状態で動作電力の供給が再開された場合においても停電フラグに「1」がセットされていないと判定されて異常報知が実行されてしまうことを防止できるとともに、主側MPU82への動作電力の供給再開後に算出された主側RAM84についてのチェックサムが動作電力の供給停止前に記憶されたチェックサムと一致しないと判定されて異常報知が実行されてしまう可能性を低減することができる。

【2802】

タイマ割込み処理が起動された場合に、当該タイマ割込み処理の一の処理回にて実行される処理は、当該タイマ割込み処理に設定されている複数の処理のうちの一部のみである。一の処理回でタイマ割込み処理に設定されている全ての処理が実行されることはない。タイマ割込み処理に設定されている各種処理のうち当該タイマ割込み処理が起動された状況に対応する処理の組合せのみが実行される構成であることにより、一の処理回でタイマ割込み処理に設定されている全ての処理が実行される状況が発生し得る構成と比較して、タイマ割込み処理を実行するための主側MPU82の処理負荷を軽減することができる。

【2803】

次に、特電用監視遅延期間及び普電用監視遅延期間について説明する。

【2804】

上記第13の実施形態と同様に、開閉実行モードにおいて開放状態であった特電入賞装置32が閉鎖状態となった場合には特電用監視遅延期間が設定される。特電用監視遅延期間は、特電入賞装置32に設けられた特電検知センサ234aにおける遊技球の検知を、開放状態である特電入賞装置32が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間である。特電用監視遅延期間は、開放状態である特電入賞装置32に入賞した遊技球が特電検知センサ234aに検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されており、具体的には1秒に設定されている。開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間の終了時に特電用監視遅延期間を設定することにより、当該開放期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が特電用監視遅延期間中に特電検知センサ234aにて検知された場合に、当該遊技球の検知を有効として扱うことができる。

【2805】

開閉実行モードにおいて開放中であつた特電入賞装置32に入球した遊技球が特電入賞装置32の開放期間及び特電用監視遅延期間のいずれにも該当しないタイミングで特電検知センサ234aにて検知された場合、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しが行われることはなく、特電入賞装置32への入球が想定されていない期間において特電検知センサ234aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて特電入球エラー報知が実行される。特電用監視遅延期間として、1秒の期間が設定されていることにより、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が特電用監視遅延期間後に検知されてしまう可能性が低減されている。

【2806】

上記第13の実施形態と同様に、開放状態であった第2作動口34が閉鎖状態となった場合には普電用監視遅延期間が設定される。普電用監視遅延期間は、第2作動口34に設けられた第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知を、開放状態である第2作動口34が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間である。普電用監視遅延期間は、開放状態である第2作動口34に入賞した遊技球が第2作動口検知センサ236aに検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されており、具体的には1秒に設定されている。電役開放当選に基づく普電役物34aの開放期間の終了時に普電用監視遅延期間を設定することにより、当該開放期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が普電用監視遅延期間中に第2作動口検知センサ236aにて検知された場合に、当該遊技球の検知を有効として扱うことができる。

10

【2807】

電役開放当選に基づく普電役物34aの開放期間中に第2作動口34に入球した遊技球が普電役物34aの開放期間及び普電用監視遅延期間のいずれにも該当しないタイミングで第2作動口検知センサ236aにて検知された場合、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出し及び普電当否判定処理が行われることはなく、第2作動口34への入球が想定されていない期間において第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が発生したことに基いて普電入球エラー報知が実行される。普電用監視遅延期間として、1秒の期間が設定されていることにより、電役開放当選に基づく普電役物34aの開放期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が普電用監視遅延期間後に検知されてしまう可能性が低減されている。

20

【2808】

図245に示すように、主側RAM84のタイマカウンタエリア523には、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gが設けられている。特電用監視遅延タイマカウンタ523fは、特電用監視遅延期間であることを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタであるとともに、普電用監視遅延タイマカウンタ523gは、普電用監視遅延期間であることを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。これら特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gのそれぞれは1バイトからなる。特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値は、後述するタイマ更新処理（図254）において更新される。特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が1以上である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が1減少するとともに、特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が「0」である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には当該状態が維持される。また、普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値が1以上である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値が1減少するとともに、普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値が「0」である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には当該状態が維持される。主側MPU82は、特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が1以上であることに基づいて特電用監視遅延期間であることを把握するとともに、普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値が1以上であることに基づいて普電用監視遅延期間であることを把握する。

30

40

【2809】

次に、主側MPU82にて実行される特電開放中処理について図251を参照しながら説明する。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、特電開放中処理は特図特電制御処理（図18）のステップS610にて実行される。

【2810】

まず閉鎖判定用処理を実行する（ステップSH101）。閉鎖判定用処理では、主側RAM84の確認フラグ群522における特電入賞確認フラグ522dに「1」がセットされている場合、すなわち特電入賞装置32への入賞が発生している場合に主側RAM84における入賞カウンタの値を1減算し、その1減算後における入賞カウンタの値が「0」

50

である場合、特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立したと判定する。入賞カウンタは、上記第 1 の実施形態と同様に、入賞上限個数の残り個数を主側 M P U 8 2 にて特定するためのカウンタである。また、特電入賞装置 3 2 への入賞が発生していない場合又は入賞カウンタの値が「0」ではない場合、主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 に設けられた特図側タイマカウンタ 5 2 3 c（図 2 4 5 参照）の値が「0」であるか否かを判定することで、ラウンド遊技の開放継続期間が経過したか否かを判定する。特図側タイマカウンタ 5 2 3 c は、特図特電制御処理（図 1 8）において設定される期間の残りの継続時間を主側 M P U 8 2 にて把握可能とするタイマカウンタである。ステップ S H 1 0 1 では、特図側タイマカウンタ 5 2 3 c の値が「0」である場合には、特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立したと判定する。

10

【2 8 1 1】

特電入賞装置 3 2 の閉鎖条件が成立している場合（ステップ S H 1 0 2 : Y E S）、閉鎖設定処理を実行する（ステップ S H 1 0 3）。閉鎖設定処理では、特電用の駆動部 3 2 b への駆動信号の出力を停止することで特電入賞装置 3 2 を閉鎖状態とする。その後、主側 R A M 8 4 に設けられた特電開放状態フラグを「0」クリアする（ステップ S H 1 0 4）。特電開放状態フラグは、開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間であることを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。特電開放状態フラグを「0」クリアすることにより、開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間が終了したことを主側 M P U 8 2 にて把握可能にすることができる。

【2 8 1 2】

その後、特電用監視遅延期間（1 秒）に対応する「2 5 0」という数値情報を主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における特電用監視遅延タイマカウンタ 5 2 3 f にセットする（ステップ S H 1 0 5）。これにより、開放状態であった特電入賞装置 3 2 が閉鎖状態となった後の 1 秒間を特電用監視遅延期間とすることができるとともに、当該特電用監視遅延期間において特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知された場合に当該遊技球の検知を有効として扱うことができる。

20

【2 8 1 3】

その後、主側 R A M 8 4 におけるラウンドカウンタの値を 1 減算し（ステップ S H 1 0 6）、エンディング分岐処理を実行する（ステップ S H 1 0 7）。エンディング分岐処理では、1 減算後のラウンドカウンタの値が 1 以上であれば、インターバル期間の情報（具体的には 3 秒）を主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における特図側タイマカウンタ 5 2 3 c にセットした後に、主側 R A M 8 4 における特図特電カウンタの値を 1 加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特図特電制御処理（図 1 8）のステップ S 6 1 1 における特電閉鎖中処理に対応する「5」となる。一方、1 減算後のラウンドカウンタの値が「0」であれば、エンディング期間の情報（具体的には 5 秒）を特図側タイマカウンタ 5 2 3 c にセットする。また、エンディングコマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する。音光側 M P U 9 3 はエンディングコマンドを受信することにより、表示発光部 6 4、スピーカ部 6 5 及び図柄表示装置 4 1 にて開閉実行モードのエンディング演出が実行されるようにする。その後、特図特電カウンタの値を 2 加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特図特電制御処理（図 1 8）の特電終了処理（ステップ S 6 1 2）に対応する「6」となる。

30

【2 8 1 4】

次に、タイマ割込み処理（図 2 4 9）のステップ S G 9 1 8 における普図普電制御処理にて実行される普電制御処理について図 2 5 2 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、普電制御処理は普図普電制御処理（図 1 5）のステップ S 3 1 0 にて実行される。

【2 8 1 5】

まず主側 R A M 8 4 に設けられた普電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定することで、第 2 作動口 3 4 が開放状態であるか否かを判定する（ステップ S H 2 0 1）。普電開放状態フラグは、電役開放当選に基づく第 2 作動口 3 4 の開放期間であ

40

50

ることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。なお、普図普電制御処理（図15）の普図確定中処理（ステップS309）において普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が開始された場合に普電開放状態フラグに「1」がセットされるとともに、後述するステップSH210にて普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が開始された場合にもステップSH211にて普電開放状態フラグに「1」がセットされる。

【2816】

普電開放状態フラグに「1」がセットされている場合（ステップSH201：YES）、閉鎖判定用処理を実行する（ステップSH202）。閉鎖判定用処理では、主側RAM84の確認フラグ群522における第2作動入賞確認フラグ522fに「1」がセットされている場合、すなわち第2作動口34への入賞が発生している場合に主側RAM84に設けられた普電入賞カウンタの値を1減算する。普電入賞カウンタは上記第1の実施形態と同様に、今回の普電開放状態において第2作動口34への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である10個に到達したか否かを主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1減算後における普電入賞カウンタの値が「0」である場合、第2作動口34の閉鎖条件が成立したと判定する。また、第2作動口34への入賞が発生していない場合又は普電入賞カウンタの値が「0」ではない場合、主側RAM84のタイマカウンタエリア523に設けられた普図側タイマカウンタ523d（図245参照）の値が「0」であるか否かを判定することで、第2作動口34における1回の開放の継続期間が経過したか否かを判定する。普図側タイマカウンタ523dは、普図普電制御処理（図15）において設定される期間の残りの継続時間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。ステップSH202では、普図側タイマカウンタ523dの値が「0」である場合には、第2作動口34の閉鎖条件が成立したと判定する。

【2817】

第2作動口34の閉鎖条件が成立している場合（ステップSH203：YES）、閉鎖設定処理を実行する（ステップSH204）。閉鎖設定処理では、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を停止することで第2作動口34を閉鎖状態とする。その後、主側RAM84における普電開放状態フラグを「0」クリアする（ステップSH205）。

【2818】

その後、普電用監視遅延期間（1秒）に対応する「250」という数値情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523における普電用監視遅延タイマカウンタ523gにセットする（ステップSH206）。これにより、開放状態であった普電役物34aが閉鎖状態となった後の1秒間を普電用監視遅延期間とすることができるとともに、当該普電用監視遅延期間において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合に当該遊技球の検知を有効として扱うことができる。

【2819】

その後、終了分岐処理を実行する（ステップSH207）。終了分岐処理では、普電入賞カウンタの値が「0」である場合には、今回の普電開放状態が終了したとして主側RAM84に設けられた普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。普電入賞カウンタの値が1以上である場合には主側RAM84に設けられた普電開放カウンタの値を1減算する。普電開放カウンタは上記第1の実施形態と同様に、今回の普電開放状態において第2作動口34の普電役物34aを開放状態とする回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1減算後における普電開放カウンタの値が「0」である場合には今回の普電開放状態が終了したとして主側RAM84における普図普電カウンタの値を「0」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理（ステップS307）となる。1減算後における普電開放カウンタの値が1以上である場合には、普電側のインターバル期間（具体的には2秒）の情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523における普図側タイマカウンタ523dにセットする。この場合、普図普電カウンタの値が維持されるため、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理は普電制御処理（図252）に維持

される。

【2820】

普電制御処理において主側RAM84における普電開放状態フラグの値が「0」であると判定した場合（ステップSH201：NO）、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における普電側タイマカウンタ523dの値が「0」であるか否かを判定することで、普電側のインターバル期間が経過したか否かを判定する（ステップSH208）。普電側のインターバル期間が経過している場合（ステップSH208：YES）、開放継続期間の設定処理を実行する（ステップSH209）。開放継続期間の設定処理では、低頻度サポートモードである場合には普図の変動期間として長期間（10秒）に対応する情報（「2500」）を普図側タイマカウンタ523dにセットし、第1高頻度サポートモード又は第2高頻度サポートモードである場合には普図の変動期間として短期間（1秒）に対応する情報（「250」）を普図側タイマカウンタ523dにセットする。その後、普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力を再度行うことで第2作動口34を開放状態とする（ステップSH210）。その後、主側RAM84における普電開放状態フラグに「1」をセットする（ステップSH211）。この場合、普図普電カウンタの値が維持されるため、普図普電制御処理の次の処理回における実行対象の処理は普電制御処理（図252）に維持される。

【2821】

<入出力確認用処理>

次に、主側MPU82にて実行される入出力確認用処理のプログラム内容について図253の説明図を参照しながら説明する。既に説明したとおり、入出力確認用処理はタイマ割込み処理（図249）のステップSG904にて実行される。図253に示すように本プログラムには、行番号として「1001」～「1006」が設定されている。プログラムの命令は、コール命令又はジャンプ命令が実行される場合を除いて、行番号の小さい方から大きい方に向かう順番で実行される。

【2822】

図253に示すように、「1001」の行番号には「KAKUSYORI10」が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機10の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1001」では何ら命令を実行することなく次の行番号「1002」に進む。

【2823】

「1002」の行番号には、タイマ割込み処理（図249）のステップSG914と同様に、「CALL TIMER」という命令が設定されている。既に説明したとおり、「TIMER」はタイマ更新処理である。行番号「1002」では、CALL命令によりタイマ更新処理を実行する。行番号「1002」では、タイマ割込み処理（図249）のステップSG914にて呼び出されるサブルーチンと同一のサブルーチンを呼び出す。タイマ更新処理の実行に際しては、タイマ更新処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはタイマ更新処理の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、タイマ更新処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。タイマ更新処理では、主側RAM84のタイマカウンタエリア523に設けられている7種類のタイマカウンタ523a～523gの数値情報をまとめて更新する。行番号「1002」にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、入出力確認用処理（図253）において当該行番号「1002」の次に設定されている行番号「1003」に進む。なお、タイマ更新処理の詳細については後述する。

【2824】

「1003」の行番号には、タイマ割込み処理（図249）のステップSG913と同様に、「CALL SWREAD2」という命令が設定されている。既に説明したとおり、「SWREAD2」は入球検知処理である。行番号「1003」では、CALL命令に

より入球検知処理を実行する。行番号「1003」では、タイマ割込み処理（図249）のステップSG913にて呼び出されるサブルーチンと同一のサブルーチンを呼び出す。入球検知処理の実行に際しては、入球検知処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては入球検知処理の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、入球検知処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。入球検知処理では、各検知センサ231a～238aから受信している信号を読み込むとともに、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、アウト口24a及びスルーゲート35への入球の有無を特定する処理を実行する。行番号「1003」にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、入出力確認用処理（図253）において当該行番号「1003」の次に設定されている行番号「1004」に進む。なお、入球検知処理の詳細については後述する。

【2825】

「1004」の行番号には「CALL COMSEND」という命令が設定されている。「COMSEND」は入球報知コマンド送信処理である。行番号「1004」では、CALL命令により入球コマンド送信処理を実行する。入球コマンド送信処理の実行に際しては、入球コマンド送信処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては入球コマンド送信処理の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、入球コマンド送信処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。行番号「1004」にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、入出力確認用処理（図253）において当該行番号「1004」の次に設定されている行番号「1005」に進む。なお、入球報知コマンド送信処理の内容については後に詳細に説明する。

【2826】

「1005」の行番号には「CALL DSKKNY」という命令が設定されている。「DSKKNY」は動作確認用処理である。行番号「1005」では、CALL命令により動作確認用処理を実行する。動作確認用処理の実行に際しては、動作確認用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては動作確認用処理の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、動作確認用処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。行番号「1005」にて呼び出したサブルーチンが終了した場合には、入出力確認用処理（図253）において当該行番号「1005」の次に設定されている行番号「1006」に進む。なお、動作確認用処理の内容については後に詳細に説明する。

【2827】

「1006」の行番号には「RET」という命令が設定されている。既に説明したとおり、入出力確認用処理はタイマ割込み処理（図249）のステップSG904にてCALL命令により呼び出されるサブルーチンであり、入出力確認用処理の終了時にRET命令が実行されることにより、ステップSG905～ステップSG924の処理が実行されることなくタイマ割込み処理（図249）が終了する。

【2828】

既に説明したとおり、入出力確認期間においてタイマ割込み処理（図249）が起動された場合には、停電監視処理（ステップSG901）と入出力確認用処理（ステップSG904）とが実行される一方、無効化期間の設定、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理（ステップSG905～ステップSG909）と、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）とは実行されない構成である。当該構成において、入出力確認用処理（図253）の行番号「1002」及び行番号「1003

10

20

30

40

50

」では、遊技を進行させるための処理において呼び出されるタイマ更新処理に対応するサブルーチンと、入球検知処理に対応するサブルーチンが呼び出される。これにより、入出力確認期間においても、タイマ割込み処理が起動される度にタイマ更新処理及び入球検知処理が実行されるようにすることができる。

【2829】

入出力確認用処理において、遊技を進行させるための処理に含まれている複数の処理を実行するためのプログラムのうち一部の処理を実行するプログラムのみを利用する構成であることにより、当該複数の処理を実行するためのプログラムの全体を利用する構成と比較して、入出力確認期間において入出力確認用処理を実行するための主側MPU82の処理負荷を軽減することができる。

10

【2830】

遊技を進行させるための処理においてタイマカウンタの更新を行うためのプログラムとは別のプログラムとして入出力確認用処理においてタイマカウンタの更新を行うためのプログラムが主側ROM83に記憶されている構成と比較して、タイマカウンタの更新を行うために主側ROM83に記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。また、遊技を進行させるための処理において入球部24a、31～34に入球した遊技球の検知状況及びスルーゲート35を通過する遊技球の検知状況を確認するためのプログラムとは別のプログラムとして入出力確認用処理において入球部24a、31～34に入球した遊技球の検知状況及びスルーゲート35を通過する遊技球の検知状況を確認するためのプログラムが主側ROM83に記憶されている構成と比較して、これらの遊技球の検知状況を確認するために主側ROM83に記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

20

【2831】

次に、主側MPU82にて実行されるタイマ更新処理（図254）についての説明に先立ち、タイマカウンタエリア523の構成について説明する。

【2832】

既に説明したとおり、主側RAM84には、タイマ更新処理（図254）において更新対象となるタイマカウンタ523a～523gが集約されているタイマカウンタエリア523が設けられている（図245参照）。そして、既に説明したとおり、タイマカウンタエリア523には、確認用タイマカウンタ523a、特図側タイマカウンタ523c、普図側タイマカウンタ523d、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gが設けられている。また、図245に示すように、タイマカウンタエリア523には、切換タイマカウンタ523b及び確認後無効化タイマカウンタ523eが設けられている。確認用タイマカウンタ523a、切換タイマカウンタ523b、特図側タイマカウンタ523c及び普図側タイマカウンタ523dのそれぞれは2バイトからなるとともに、確認後無効化タイマカウンタ523e、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gのそれぞれは1バイトからなる。

30

【2833】

切換タイマカウンタ523bは、入出力確認期間において、特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態から閉鎖状態に切り換えるタイミング、並びに特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態から開放状態に切り換えるタイミングを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。確認後無効化タイマカウンタ523eは、入出力確認期間の終了時に設定される確認後無効化期間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。

40

【2834】

タイマカウンタエリア523に設けられた7つのタイマカウンタ523a～523gは、確認用タイマカウンタ523a→切換タイマカウンタ523b→特図側タイマカウンタ523c→普図側タイマカウンタ523d→確認後無効化タイマカウンタ523e→特電用監視遅延タイマカウンタ523f→普電用監視遅延タイマカウンタ523gの順番で、タイマ更新処理（図254）において更新の対象となる対象タイマカウンタが更新される

50

ように、連続する「0101H」～「010BH」のアドレス範囲に設定されている。

【2835】

次に、主側MPU82にて実行されるタイマ更新処理について図254のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、タイマ更新処理は、入出力確認期間においては入出力確認用処理（図253）の行番号「1002」にて実行されるとともに、遊技可能状態においてはタイマ割込み処理（図249）のステップSG914にて実行される。

【2836】

ステップSH301～ステップSH305では、タイマカウンタエリア523に設けられた7つのタイマカウンタ523a～523gのうち2バイトのタイマカウンタ523a～523dの更新を行う。まず更新対象となる対象タイマカウンタとして主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aを設定する（ステップSH301）。ステップSH301では、対象タイマカウンタを特定するためのアドレスとして確認用タイマカウンタ523aに対応するアドレス（「0101H」～「0102H」）の先頭アドレスである「0101H」を設定する。対象タイマカウンタは、後述する対象タイマカウンタの第1更新処理（ステップSH305）にて更新される。

【2837】

その後、タイマカウンタエリア523に設けられた7つのタイマカウンタ523a～523gのうち2バイトのタイマカウンタ523a～523dの更新が終了するまで、ステップSH302～ステップSH305の処理を繰り返し実行する。具体的には、まず対象タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定し（ステップSH302）、対象タイマカウンタの値が「0」ではない場合（ステップSH302：NO）には2バイト用減算処理を実行する（ステップSH303）。2バイト用減算処理では、対象タイマカウンタの値を1減算する演算を実行する。一方、対象タイマカウンタの値が「0」である場合（ステップSH302：YES）には2バイト用減算処理を実行しない。これにより、対象タイマカウンタの値が「0」を下回らない態様で対象タイマカウンタの値を更新することができる。

【2838】

その後、現状における対象タイマカウンタが普図側タイマカウンタ523dであるか否かを判定する（ステップSH304）。ステップSH304にて否定判定を行った場合、すなわち2バイトのタイマカウンタ523a～523dの中に未だ更新の対象となっていないタイマカウンタが残っている場合には、対象タイマカウンタの第1更新処理を実行する（ステップSH305）。対象タイマカウンタの第1更新処理では、対象タイマカウンタを特定するためのアドレスに「2」を加算する。これにより、確認用タイマカウンタ523a→切換タイマカウンタ523b→特図側タイマカウンタ523c→普図側タイマカウンタ523dの順番で、対象タイマカウンタが更新される。

【2839】

その後、ステップSH302に進み、ステップSH304にて肯定判定が行われるまで、ステップSH302～ステップSH305の処理を繰り返し実行する。そして、ステップSH304にて肯定判定を行った場合、すなわち2バイトのタイマカウンタ523a～523dの更新が終了した場合には、ステップSH306に進む。

【2840】

ステップSH306～ステップSH311では、タイマカウンタエリア523に設けられた7つのタイマカウンタ523a～523gのうち1バイトのタイマカウンタ523e～523gの更新を行う。まず対象タイマカウンタを特定するためのアドレスに2を加算することにより、更新対象となる対象タイマカウンタとして主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認後無効化タイマカウンタ523eを設定する（ステップSH306）。対象タイマカウンタは、後述する対象タイマカウンタの第2更新処理（ステップSH311）にて更新される。

【2841】

10

20

30

40

50

その後、1バイト用減算処理を実行する（ステップSH307）。1バイト用減算処理では、対象タイマカウンタの値を1減算する演算を実行する。その後、1バイト用減算処理の実行によりキャリフラグに「1」がセットされたか否かを判定する（ステップSH308）。1バイト用減算処理では、対象タイマカウンタの最上位ビット（第0～第7ビットのうち第7ビット）への桁借りが発生した場合にはキャリフラグに「1」がセットされるとともに、対象タイマカウンタの最上位ビットへの桁借りが発生しなかった場合にはキャリフラグの値が「0」となる。キャリフラグに「1」がセットされた場合（ステップSH308：YES）には対象タイマカウンタの値を「0」クリアする（ステップSH309）。これにより、対象タイマカウンタの値が「0」を下回らない態様で対象タイマカウンタの値を更新することができる。

10

【2842】

その後、現状における対象タイマカウンタが普電用監視遅延タイマカウンタ523gであるか否かを判定する（ステップSH310）。ステップSH310にて否定判定を行った場合、すなわち1バイトのタイマカウンタ523e～523gの中に未だ更新の対象となっていないタイマカウンタが残っている場合には、対象タイマカウンタの第2更新処理を実行する（ステップSH311）。対象タイマカウンタの第2更新処理では、対象タイマカウンタを特定するためのアドレスに「1」を加算する。これにより、確認後無効化タイマカウンタ523e→特電用監視遅延タイマカウンタ523f→普電用監視遅延タイマカウンタ523gの順番で、対象タイマカウンタが更新される。

【2843】

その後、ステップSH307に進み、ステップSH310にて肯定判定が行われるまで、ステップSH307～ステップSH311の処理を繰り返し実行する。そして、ステップSH310にて肯定判定を行った場合、すなわち1バイトのタイマカウンタ523e～523gの更新が終了した場合には、本タイマ更新処理を終了する。

20

【2844】

このように、タイマカウンタ523a～523gの値が1以上である状態においてタイマ更新処理が実行された場合には当該タイマカウンタ523a～523gの値が1減少するとともに、タイマカウンタ523a～523gの値が「0」である状態においてタイマ更新処理が実行された場合には当該タイマカウンタ523a～523gの値が「0」である状態が維持される。

30

【2845】

既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にRAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される場合には、当該RAMクリア処理の実行後に入出力確認用処理（図253）が実行される。RAMクリア処理では、タイマカウンタエリア523に設けられたタイマカウンタ523a～523gが「0」クリアされた後に、これらのタイマカウンタ523a～523gのうち確認用タイマカウンタ523aのみに数値情報（具体的には「2500」）がセットされる。入出力確認用処理においてタイマ更新処理に対応するサブルーチンが呼び出されてタイマ更新処理が実行される場合、確認用タイマカウンタ523aの値が1減算されるとともに、切換タイマカウンタ523b、特図側タイマカウンタ523c、普図側タイマカウンタ523d、確認後無効化タイマカウンタ523e、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値は「0」に維持される。これにより、遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行されない入出力確認期間においてもタイマ更新処理に対応するサブルーチンが呼び出される構成としても、当該入出力期間中に実行されるタイマ更新処理において遊技を進行させるための処理にて利用されるタイマカウンタ523e～523gが更新されてしまうことを防止できる。

40

【2846】

次に、主側MPU82にて実行される動作確認用処理について図255のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理（図253）の行番号「1005」にて実行される。動作確認用処理は、入出力確認期間に

50

において4ミリ秒の周期で繰り返し実行される。

【2847】

まず入出力確認表示装置521の点灯処理を実行する(ステップSH401)。入出力確認表示装置521の点灯処理では、入出力確認表示装置521を点灯状態とするための点灯信号を出力する。入出力確認表示装置521の点灯状態は、当該点灯信号の出力が行われない状態が所定の期間(例えば20ミリ秒)に亘って継続された場合に終了するが、入出力確認期間においては動作確認用処理(図255)が実行される度に点灯信号の出力が行われる。これにより、入出力確認期間において入出力確認表示装置521を点灯状態とすることができる。そして、入出力確認表示装置521が点灯していることに基づいて入出力確認期間であることを遊技ホールの管理者が把握可能とすることができる。

10

【2848】

その後、主側RAM84に設けられた入出力確認中フラグ524(図245参照)に「1」がセットされているか否かを判定する(ステップSH402)。入出力確認中フラグ524は、入出力確認期間であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。ステップSH402にて否定判定を行った場合、すなわちパチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから最初に動作確認用処理(図255)が実行される処理回である場合には、ステップSH403～ステップSH407にて特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態にするための処理を実行する。具体的には、まず特電用の駆動信号出力処理を実行する(ステップSH403)。特電用の駆動信号出力処理では、特電用の駆動部32bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を開放状態とする。その後、普電用の駆動信号出力処理を実行する(ステップSH404)。普電用の駆動信号出力処理では、普電用の駆動部34bに対して駆動信号を出力することにより普電用の駆動部34bを駆動状態とするとともに普電役物34aを開放状態とする。

20

【2849】

その後、主側RAM84に設けられた動作確認開放中フラグ525(図245参照)に「1」をセットする(ステップSH405)。動作確認開放中フラグ525は、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすべき状況であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。その後、主側RAM84の入出力確認中フラグ524に「1」をセットする(ステップSH406)。これにより、入出力確認期間であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、切換タイマカウンタ523bの設定処理を実行する(ステップSH407)。切換タイマカウンタ523bの設定処理(ステップSH407)は、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態を開始させる場合、並びに特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を開始させる場合に実行される。切換タイマカウンタ523bの設定処理(ステップSH407)では、特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態又は閉鎖状態を継続させる2秒に対応する「500」という数値情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523における切換タイマカウンタ523bにセットする。

30

【2850】

ステップSH402にて肯定判定を行った場合、すなわち入出力確認期間において動作確認用処理(図255)が既に1回以上実行されている場合には、主側RAM84における切換タイマカウンタ523bの値が「0」であるか否かを判定する(ステップSH408)。切換タイマカウンタ523bの値が「0」ではない場合(ステップSH408:NO)、すなわち特電入賞装置32及び普電役物34aについて開放状態を閉鎖状態に切り換えるタイミング又は閉鎖状態を開放状態に切り換えるタイミングではない場合には、主側RAM84の動作確認開放中フラグ525に「1」がセットされているか否かを判定する(ステップSH409)。動作確認開放中フラグ525に「1」がセットされていない場合(ステップSH409:NO)、すなわち特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態である場合には、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対して駆動信号を出力することなく、そのまま本動作確認用処理を終了する。これにより、特電入賞装

40

50

置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が継続される。

【 2 8 5 1 】

一方、動作確認開放中フラグ 5 2 5 に「1」がセットされている場合（ステップ S H 4 0 9 : Y E S）には、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態を継続させるための処理（ステップ S H 4 1 0 ~ ステップ S H 4 1 1）を実行する。具体的には、上述したステップ S H 4 0 3 と同様に、特電用の駆動信号出力処理を実行し（ステップ S H 4 1 0）、上述したステップ S H 4 0 4 と同様に、普電用の駆動信号出力処理を実行して（ステップ S H 4 1 1）、本動作確認用処理を終了する。

【 2 8 5 2 】

特電入賞装置 3 2 の開放状態は特電用の駆動部 3 2 b を駆動状態とするための駆動信号の出力が行われない状態が所定の時間（例えば 2 0 ミリ秒）に亘って継続された場合に終了するとともに、普電役物 3 4 a の開放状態は普電用の駆動部 3 4 b を駆動状態とするための駆動信号の出力が行われない状態が所定の時間（例えば 2 0 ミリ秒）に亘って継続された場合に終了する。入出力確認期間において動作確認開放中フラグ 5 2 5 に「1」がセットされている場合には、動作確認用処理（図 2 5 5）が実行される度に特電用の駆動部 3 2 b 及び普電用の駆動部 3 4 b に対して駆動信号が出力される。これにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態を継続させることができる。

【 2 8 5 3 】

ステップ S H 4 0 8 にて肯定判定を行った場合には、主側 R A M 8 4 の動作確認開放中フラグ 5 2 5 に「1」がセットされているか否かを判定し（ステップ S H 4 1 2）、動作確認開放中フラグ 5 2 5 に「1」がセットされている場合（ステップ S H 4 1 2 : Y E S）には、ステップ S H 4 1 3 ~ ステップ S H 4 1 5 及びステップ S H 4 0 7 にて特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を開放状態から閉鎖状態に切り換えるための処理を実行する。

【 2 8 5 4 】

具体的には、まず特電入賞装置 3 2 の閉鎖処理を実行する（ステップ S H 4 1 3）。特電入賞装置 3 2 の閉鎖処理では、特電用の駆動部 3 2 b に対する駆動信号の出力を停止させることにより特電入賞装置 3 2 を閉鎖状態とする。その後、普電役物 3 4 a の閉鎖処理を実行する（ステップ S H 4 1 4）。普電役物 3 4 a の閉鎖処理では、普電用の駆動部 3 4 b に対する駆動信号の出力を停止させることにより普電役物 3 4 a を閉鎖状態とする。その後、主側 R A M 8 4 の動作確認開放中フラグ 5 2 5 の値を「0」クリアする（ステップ S H 4 1 5）。これにより、入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を開放状態とすべき状況ではないことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とすることができる。その後、ステップ S H 4 0 7 に進み、切換タイマカウンタ 5 2 3 b の設定処理を実行する。切換タイマカウンタ 5 2 3 b の設定処理では、上述したとおり、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態を継続させる時間（具体的には 2 秒）に対応する「5 0 0」という数値情報を切換タイマカウンタ 5 2 3 b にセットする。

【 2 8 5 5 】

一方、ステップ S H 4 1 2 にて否定判定を行った場合には、ステップ S H 4 0 3 に進み、ステップ S H 4 0 3 ~ ステップ S H 4 0 7 にて特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を閉鎖状態から開放状態に切り換えるための処理を実行する。ステップ S H 4 0 3 ~ ステップ S H 4 0 7 の処理の内容は既に説明したとおりである。ステップ S H 4 0 3 にて特電用の駆動部 3 2 b に対して駆動信号を出力することにより特電入賞装置 3 2 を開放状態とすることができるとともに、ステップ S H 4 0 4 にて普電用の駆動部 3 4 b に対して駆動信号を出力することにより普電役物 3 4 a を開放状態とすることができる。ステップ S H 4 0 5 にて動作確認開放中フラグ 5 2 5 に「1」をセットすることにより、入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を開放状態とすべき状況であることを主側 M P U 8 2 にて把握可能とすることができる。ステップ S H 4 0 6 にて入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」をセットすることにより、入出力確認期間であることを主側 M P U 8 2 にて把握可能とすることができる。ステップ S H 4 0 7 にて「5 0 0」という数値情報を切換タイマカウンタ 5 2 3 b にセットすることにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3

10

20

30

40

50

4 a の開放状態が 2 秒に亘って継続されるようにすることができる。

【2856】

このように、入出力確認期間では、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が 2 秒間に亘って開放状態となる確認開放継続状態と、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が 2 秒間に亘って閉鎖状態となる確認閉鎖継続状態と、が交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置 5 2 1 が点灯状態であることに基づいて入出力確認期間であることを把握することができる。そして、当該入出力確認期間における特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の動作態様を確認することにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開閉動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

10

【2857】

遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ～ステップ S G 9 2 4）が実行される遊技可能状態においては、普電役物 3 4 a の開閉動作が行われるタイミングとは無関係に特電入賞装置 3 2 の開閉動作が行われる構成において、入出力確認期間においては、普電役物 3 4 a の開閉動作が行われるタイミングと同一のタイミングで特電入賞装置 3 2 の開閉動作が行われる。これにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を閉鎖状態から開放状態に切り換えるタイミングと、開放状態から閉鎖状態に切り換えるタイミングとを主側 M P U 8 2 にて把握するための構成を簡素化することができる。

【2858】

一の切換タイマカウンタ 5 2 3 b の値に基づいて、特電入賞装置 3 2 の開閉動作を行うタイミング及び普電役物 3 4 a の開閉動作を行うタイミングが把握される。このため、特電入賞装置 3 2 の開閉動作を行うタイミングを把握するために設けられているタイマカウンタとは別のタイマカウンタとして普電役物 3 4 a の開閉動作を行うタイミングを把握するためのタイマカウンタが設けられている構成と比較して、これらの開閉動作を行うタイミングを把握可能とするための構成を簡素化することができる。

20

【2859】

入出力確認期間は、R A M クリア処理（ステップ S G 6 2 0）又は設定値更新処理（図 2 4 7）が終了した場合に開始され、当該入出力確認期間が開始されてから 1 0 秒が経過することにより終了する。遊技ホールの管理者は、R A M クリア処理（ステップ S G 6 2 0）又は設定値更新処理（図 2 4 7）を実行させる必要はあるものの特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の動作確認、並びに検知センサ 2 3 1 a ～ 2 3 8 a による遊技球の検知状態の確認を行う必要はない場合、入出力確認期間中にパチンコ機 1 0 を放置することにより所定の時間後に遊技を進行させるための処理が実行される状態とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者による管理負担を軽減することができる。

30

【2860】

次に、主側 M P U 8 2 に実行される入球検知処理について図 2 5 6 のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、入球検知処理は、入出力確認期間においては入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番号「1 0 0 3」にて実行されるとともに、遊技可能状態においてはタイマ割込み処理（図 2 4 9）のステップ S G 9 1 3 にて実行される。

40

【2861】

まず各種フラグクリア処理を実行する（ステップ S H 5 0 1）。各種フラグクリア処理では、主側 R A M 8 4 の確認フラグ群 5 2 2 に設けられた第 1 入賞確認フラグ 5 2 2 a、第 2 入賞確認フラグ 5 2 2 b、第 3 入賞確認フラグ 5 2 2 c、特電入賞確認フラグ 5 2 2 d、第 1 作動入賞確認フラグ 5 2 2 e、第 2 作動入賞確認フラグ 5 2 2 f、アウト確認フラグ 5 2 2 g 及びゲート入賞確認フラグ 5 2 2 h を「0」クリアする。なお、遊技可能状態においては、タイマ割込み処理（図 2 4 9）のステップ S G 9 1 3 にて入球検知処理が実行されるとともに、当該タイマ割込み処理の処理回が終了する前に当該入球検知処理にて確認フラグ群 5 2 2 に設定された情報に基づいて払出出力処理（ステップ S G 9 2 1）が実行される。また、入出力確認期間においては、入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番

50

号「1003」にて入球検知処理が実行されるとともに、当該入出力確認用処理が終了する前に当該入球検知処理にて確認フラグ群522に設定された情報に基づいて後述する入球報知コマンド送信処理（行番号「1004」）が実行される。このため、入球検知処理が開始される度に上記確認フラグを「0」クリアしたとしても問題は生じない。

【2862】

その後、第1入賞口検知センサ231aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出された場合（ステップSH502：YES）、確認フラグ群522の第1入賞確認フラグ522aに「1」をセットし（ステップSH503）、主側RAM84に設けられた10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH504）。また、第2入賞口検知センサ232aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出された場合（ステップSH505：YES）、確認フラグ群522の第2入賞確認フラグ522bに「1」をセットし（ステップSH506）、主側RAM84における10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH507）。さらにまた、第3入賞口検知センサ233aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出された場合（ステップSH508：YES）、確認フラグ群522の第3入賞確認フラグ522cに「1」をセットし（ステップSH509）、主側RAM84における10個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH510）。上記第13の実施形態と同様に、10個賞球用カウンタは10個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。10個賞球用カウンタの値が1以上である場合、タイマ割込み処理（図249）におけるステップSG921の払出出力処理にて10個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、10個賞球コマンドを1回出力した場合には10個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は10個賞球コマンドを受信した場合、10個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。

【2863】

ステップSH508にて否定判定を行った場合、又はステップSH510の処理を行った場合には、ステップSH511に進む。ステップSH511では、第1作動口検知センサ235aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定し、当該検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSH511：YES）には、第1作動入賞確認フラグ522eに「1」をセットし（ステップSH512）、主側RAM84に設けられた1個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH513）。1個賞球用カウンタは1個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。1個賞球用カウンタの値が1以上である場合、タイマ割込み処理（図249）におけるステップSG921の払出出力処理にて1個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、1個賞球コマンドを1回出力した場合には1個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は1個賞球コマンドを受信した場合、1個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。

【2864】

ステップSH511にて否定判定を行った場合、又はステップSH513の処理を行った場合には、アウト口検知センサ237aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定し（ステップSH514）、当該検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSH514：YES）、確認フラグ群522のアウト確認フラグ522gに「1」をセットする（ステップSH515）。また、ゲート検知センサ238aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出された場合（ステップSH516：YES）、確認フラグ群522のゲート入賞確認フラグ522hに「1」をセットする（ステップSH517）。

【2865】

ステップSH516にて否定判定を行った場合、又はステップSH517の処理を行っ

た場合には、入球検知対応処理を実行する（ステップSH518）。図257は入球検知対応処理を示すフローチャートである。

【2866】

入球検知対応処理では、特電検知センサ234aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHILEVELへの立ち上がりが検出された場合（ステップSH601：YES）、主側RAM84の特電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSH602）。既に説明したとおり、特電開放状態フラグは、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。特電開放状態フラグに「1」がセットされていない場合（ステップSH602：NO）には、主側RAM84における特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップSH603）。 10

【2867】

開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間である場合（ステップSH602：YES）、又は特電用監視遅延期間である場合（ステップSH603：YES）には、主側RAM84に設けられた15個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH604）。15個賞球用カウンタは15個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側MPU82にて特定するためのカウンタである。15個賞球用カウンタの値が1以上である場合、タイマ割込み処理（図249）におけるステップSG921の払出出力処理にて15個賞球コマンドを払出制御装置77に出力するとともに、15個賞球コマンドを1回出力した場合には15個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置77は15個賞球コマンドを受信した場合、15個の遊技球が払い出されるように払出装置76を駆動制御する。 20

【2868】

ステップSH603にて否定判定を行った場合には、主側RAM84の入出力確認中フラグ524に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSH605）。ステップSH604の処理を行った場合、又はステップSH605にて肯定判定を行った場合には、主側RAM84の確認フラグ群522における特電入賞確認フラグ522dに「1」をセットする（ステップSH606）。これにより、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間又は入出力確認期間において特電検知センサ234aにて遊技球が検知されたことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。 30

【2869】

ステップSH605にて否定判定を行った場合には、主側RAM84に設けられた確認後無効化タイマカウンタ523eの値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップSH607）。ステップSH607にて否定判定を行った場合、すなわち開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況において特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合には、特電入球エラーコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH608）。特電入球エラーコマンドは、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特電検知センサ234aにて遊技球が検知される特電入球エラーが発生したことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は当該特電入球エラーコマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて特電入球エラー報知が行われるようにする。具体的には、表示発光部64を特電入球エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「特電入球エラー発生」という音声出力させる。また、図柄表示装置41にて「特電入球エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。特電入球エラー報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。 40

【2870】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップSH609）。これにより、タイマ割込み処理（図249）が起動されても遊技を進行させるための 50

処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行されない状態とすることができる。その後、メイン処理（図246）のステップSG626と同様に異常時の外部出力処理を実行する（ステップSH610）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば100ミリ秒）に亘って行われる。

【2871】

このように、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合には特電入球エラーが発生して遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合は、特電入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が確認後無効化期間に特電検知センサ234aにて検知された場合に特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。よって、入出力確認期間において特電入賞装置32に手入れされた遊技球が原因となって特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【2872】

ステップSH601にて否定判定を行った場合、ステップSH606の処理を行った場合、又はステップSH607にて肯定判定を行った場合には、第2作動口検知センサ236aから主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定し（ステップSH611）、当該検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSH611：YES）には、主側RAM84の普電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSH612）。既に説明したとおり、普電開放状態フラグは、電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。ステップSH612にて否定判定を行った場合には、主側RAM84の普電用監視遅延タイマカウンタ523gの値が「1」以上であるか否か、すなわち普電用監視遅延期間であるか否かを判定する（ステップSH613）。

【2873】

電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間である場合（ステップSH612：YES）又は普電用監視遅延期間である場合（ステップSH613：YES）には、主側RAM84の1個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップSH614）。一方、電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間及び普電用監視遅延期間のいずれでもない場合（ステップSH612：NO、ステップSH613：NO）には、主側RAM84の入出力確認中フラグ524に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSH615）。

【2874】

ステップSH614の処理を行った場合、又はステップSH615にて肯定判定を行った場合には、主側RAM84に設けられた第2作動入賞確認フラグ522fに「1」をセットする（ステップSH616）。これにより、第2作動口34への入球が検知されたことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

【2875】

ステップSH615にて否定判定を行った場合には、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認後無効化タイマカウンタ523eの値が1以上であるか否かを判定し（ステップSH617）、確認後無効化タイマカウンタ523eの値が1以上である場合（ステップSH617：YES）、すなわち確認後無効化期間である場合には、ステップSH614、ステップSH617、ステップSH618、ステップSH609及びステップSH610の処理を実行することなく、そのまま本入球検知対応処理を終了する。入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて検知された場合には、遊技球の払い出しが行われることはなく、第2作動入賞確認フラグ522fに「1」をセットする処理も行われない。ま

10

20

30

40

50

た、後述する普電入球エラーも発生しない。

【2876】

ステップSH617にて否定判定を行った場合、すなわち電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない場合には、普電入球エラーコマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSH618)。普電入球エラーコマンドは、電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知される普電入球エラーが発生したことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は当該普電入球エラーコマンドを受信することにより、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて普電入球エラー報知が行われるようにする。具体的には、表示発光部64を普電入球エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「普電入球エラー発生」という音声を出力させる。また、図柄表示装置41にて「普電入球エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。普電入球エラー報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。

10

【2877】

その後、ステップSH609に進む。既に説明したとおり、ステップSH609では、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする。これにより、タイマ割込み処理(図249)が起動されても遊技を進行させるための処理(ステップSG911～ステップSG924)が実行されない状態とすることができる。その後、メイン処理(図246)のステップSG626と同様に異常時の外部出力処理を実行する(ステップSH610)。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間(例えば100ミリ秒)に亘って行われる。

20

【2878】

このように、電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には普電入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合は、普電入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間に第2作動口検知センサ236aにて検知された場合に普電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。入出力確認期間において第2作動口34に手入れされた遊技球が原因となって普電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

30

【2879】

次に、主側MPU82にて実行される入球報知コマンド送信処理について図258のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、入球報知コマンド送信処理は入出力確認用処理(図253)の行番号「1004」にて実行される。入球報知コマンド送信処理は、入出力確認期間において実行される一方、遊技可能状態においては実行されない。

40

【2880】

主側RAM84の確認フラグ群522における第1入賞確認フラグ522aに「1」がセットされている場合(ステップSH701:YES)には、共通入球報知コマンドを音光側MPU93に送信する(ステップSH702)。共通入球報知コマンドは、入出力確認期間において一般入賞口31又は第1作動口33に入球した遊技球が検知されたことを報知する共通入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。共通入球報知コマンドは、ステップSH702、ステップSH704、ステップSH706及びステップSH710にて送信される。音光側MPU93は共通入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94から共通入球報知音テー

50

ブルを読み出し、当該読み出した共通入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って共通入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【2881】

遊技盤24に3個設けられている一般入賞口31への入球が発生した場合に出力される入球報知音と、第1作動口33への入球が発生した場合に出力される入球報知音とが共通化されていることにより、音光側ROM94に記憶しておく入球報知音テーブルのデータ容量が抑えられているとともに、入球報知音の種類が多くなり過ぎてしまうことが防止されている。

【2882】

確認フラグ群522における第2入賞確認フラグ522bに「1」がセットされている場合（ステップSH703：YES）には、共通入球報知音コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH704）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から第2入球報知音が出力されるようにすることができる。また、確認フラグ群522における第3入賞確認フラグ522cに「1」がセットされている場合（ステップSH705：YES）には、共通入球報知音コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH706）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から第3入球報知音が出力されるようにすることができる。

【2883】

確認フラグ群522における特電入賞確認フラグ522dに「1」がセットされている場合（ステップSH707：YES）には、特電入球報知音コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH708）。特電入球報知音コマンドは、入出力確認期間において特電入賞装置32に入球した遊技球が特電検知センサ234aにおいて検知されたことを報知する特電入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は特電入球報知音コマンドを受信した場合、音光側ROM94から特電入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した特電入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って特電入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において開閉動作が行われている特電入賞装置32に遊技球を手入れして特電入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、特電入賞装置32に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

【2884】

確認フラグ群522における第1作動入賞確認フラグ522eに「1」がセットされている場合（ステップSH709：YES）には、共通入球報知音コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH710）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

【2885】

確認フラグ群522における第2作動入賞確認フラグ522fに「1」がセットされている場合（ステップSH711：YES）には、第2作動入球報知音コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH712）。第2作動入球報知音コマンドは、入出力確認期間において第2作動口34に入球した遊技球が第2作動口検知センサ236aにおいて検知されたことを報知する第2作動入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は第2作動入球報知音コマンドを受信した場合、音光側ROM94から第2作動入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した第2作動入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って第2作動入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において普電役物34aの開閉動作により開放状態と閉鎖状態との切り換えが行われている第2作動口34に遊技球を手入れして第2作動入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、第2作動口34に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

【2886】

10

20

30

40

50

確認フラグ群522におけるアウト確認フラグ522gに「1」がセットされている場合（ステップSH713：YES）には、アウト報知コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH714）。アウト報知コマンドは、入出力確認期間においてアウト口24aに入球した遊技球がアウト口検知センサ237aにおいて検知されたことを報知するアウト入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93はアウト入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からアウト入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したアウト入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってアウト入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【2887】

確認フラグ群522におけるゲート入賞確認フラグ522hに「1」がセットされている場合（ステップSH715：YES）には、ゲート入球報知コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSH716）。ゲート入球報知コマンドは、入出力確認期間においてスルーゲート35を通過する遊技球がゲート検知センサ238aにおいて検知されたことを報知するゲート入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93はゲート入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からゲート入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したゲート入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってゲート入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【2888】

音光側MPU93は、共通入球報知音、特電入球報知音、第2作動入球報知音、アウト入球報知音及びゲート入球報知音のいずれかの出力中に、共通入球報知コマンド、特電入球報知コマンド、第2作動入球報知コマンド、アウト入球報知コマンド及びゲート入球報知コマンドのいずれかを受信した場合、受信した順番でこれらの入球報知コマンドに対応する入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【2889】

ステップSH716にてゲート入球報知コマンドを送信した後は、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aの値を「0」クリアする（ステップSH717）。これにより、次のタイマ割込み処理（図249）の処理回においてステップSG903にて否定判定が行われてステップSG905以降の処理が実行されるようにする。詳細は後述するが、ステップSH717にて確認用タイマカウンタ523aの値が「0」クリアされた後において最初に無効化用処理（ステップSG905）が実行される場合、特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とするための処理が実行されるとともに、入出力確認期間が終了する。このため、入出力確認期間の開始時からの経過時間が10秒に達する前に入出力確認期間が終了する場合においても当該入出力確認期間の終了後には特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となっているようにすることができる。

【2890】

タイマ割込み処理（図249）にて、主側RAM84における立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされていないこと及び確認用タイマカウンタ523aの値が1以上であることを条件として入出力確認用処理（ステップSG904）が実行される構成において、入出力確認期間中にスルーゲート35への入球が検知されたことに基づいて入出力確認期間を終了させるために入球コマンド送信処理（図258）に設定されている処理は、確認用タイマカウンタ523aを「0」クリアする処理のみである。これにより、入出力確認期間を途中で終了させるための処理構成を簡素化することができる。

【2891】

上記のとおり、入出力確認期間において、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34又はアウト口24aに入球した遊技球が検知された場合には、スピーカ部65から入球報知音が出力される。また、入出力確認期間においてスルーゲー

10

20

30

40

50

ト 3 5 を通過する遊技球が検知された場合にも入球報知音が出力される。遊技ホールの管理者は、これらの入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 及びスルーゲート 3 5 に遊技球を手入れして入球報知音が出力されることを確認することにより、当該入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 又はスルーゲート 3 5 に対応する検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a にて遊技球の検知が正常に行われていることを把握することができるとともに、当該入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 又はスルーゲート 3 5 に対応する検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a と主側 M P U 8 2 とを電氣的に接続する信号線に断線が発生していないことを把握することができる。また、遊技ホールの管理者は、これらの入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 又はスルーゲート 3 5 に遊技球を手入れして入球報知音が出力されないことを発見することにより、当該入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 又はスルーゲート 3 5 に対応する検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a において遊技球の検知が正常に行われていない状態であることを把握することができるとともに、当該入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 又はスルーゲート 3 5 に対応する検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a と主側 M P U 8 2 とを電氣的に接続する信号線に断線が発生している可能性を把握することができる。

10

【 2 8 9 2 】

入出力確認期間は、当該入出力確認期間が開始されてから 1 0 秒間が経過した場合、又はスルーゲート 3 5 に入球した遊技球がゲート検知センサ 2 3 8 a にて検知された場合に終了する。遊技ホールの管理者は、1 0 秒間に設定されている入出力確認期間の途中でスルーゲート 3 5 に遊技球を入球させることにより当該入出力確認期間の満了を待たずに当該入出力確認期間を終了させることができる。これにより、RAM クリア処理（ステップ S G 6 2 0 又はステップ S G 7 0 1）が実行される場合においても、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始されてから遊技を進行可能な状態となるまでの期間を短縮可能とすることができる。

20

【 2 8 9 3 】

図 2 4 3 に示すように、遊技盤 2 4 においてスルーゲート 3 5 は、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4 及びアウト口 2 4 a よりも遊技球の流下方向の上流側に配置されている。このため、スルーゲート 3 5 に入球した遊技球が他の入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 に入球する可能性は考えられるが、一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4 又はアウト口 2 4 a に入球した遊技球がスルーゲート 3 5 に入球することはない。入出力確認期間の満了前に当該入出力確認期間を終了させる方法として、他の入球部 2 4 a , 3 1 ~ 3 4 よりも遊技球の流下方向の上流側に配置されているスルーゲート 3 5 に遊技球を手入れする方法が設定されていることにより、入出力確認期間（1 0 秒間）の満了前に遊技ホールの管理者が意図しないタイミングで当該入出力確認期間が終了してしまうことが防止されている。

30

【 2 8 9 4 】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される無効化用処理について図 2 5 9（a）のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、無効化用処理は、主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が「0」である場合に、タイマ割込み処理（図 2 4 9）のステップ S G 9 0 5 にて実行される。

【 2 8 9 5 】

まず主側 R A M 8 4 の入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされているか否かを判定し（ステップ S H 8 0 1）、入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされていない場合（ステップ S H 8 0 1：NO）には、そのまま本無効化用処理を終了する。ステップ S H 8 0 1 では、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始後に R A M クリア処理（ステップ S G 6 2 0 又はステップ S G 7 0 1）が実行されなかった場合、又は入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が「0」となった後に既に無効化用処理（図 2 5 9（a））におけるステップ S H 8 0 2 ~ ステップ S H 8 1 0 の処理が実行されている場合に否定判定が行われる。一方、入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされている場合（ステップ S H 8 0 1：YES）、すなわち入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が「0」となった後において最初に無効化用処理（図 2 5 9（a））が実

40

50

行される処理回である場合には、ステップSH802～ステップSH810の処理を実行する。

【2896】

ステップSH802～ステップSH804では、既に説明した動作確認用処理（図255）のステップSH413～ステップSH415と同様の処理を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖処理を実行することにより特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力を停止させる（ステップSH802）。これにより、特電入賞装置32を閉鎖状態とすることができる。その後、普電役物34aの閉鎖処理を実行することにより普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力を停止させる（ステップSH803）。これにより、普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。その後、主側RAM84の動作確認開放中フラグ525を「0」クリアする（ステップSH804）。

10

【2897】

このように、入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となった後において最初に無効化用処理（図259（a））が実行される場合、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となる。これにより、入出力確認期間の終了後においては、当該入出力確認期間が開始されてから10秒が経過する前に当該入出力確認期間が終了した場合においても、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となっているようにすることができる。

【2898】

その後、タイマカウンタエリア523における切換タイマカウンタ523bを「0」クリアする（ステップSH805）。その後、入出力確認中フラグ524を「0」クリアする（ステップSH806）。これにより、入出力確認期間が終了したことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、入出力確認表示装置521の消灯処理を実行する（ステップSH807）。入出力確認表示装置521の消灯処理では、入出力確認表示装置521に対する点灯信号の出力を停止させることにより、入出力確認表示装置521を消灯状態とする。これにより、入出力確認表示装置521が消灯されたことに基づいて入出力確認期間が終了したことを遊技ホールの管理者が把握可能とすることができる。

20

【2899】

その後、既に説明した入球検知処理（図256）のステップSH501と同様に、各種フラグクリア処理を実行する（ステップSH808）。各種フラグクリア処理では、主側RAM84の確認フラグ群522における第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522c、特電入賞フラグ525d、第1作動入賞確認フラグ522e、第2作動入賞確認フラグ522f、アウト確認フラグ522g及びゲート入賞確認フラグ522hを「0」クリアする。第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522cを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中に一般入賞口31に遊技球が入球したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。特電入賞フラグ525dを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中に特電入賞装置32に遊技球が入球したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。ゲート入賞確認フラグ522hを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中にスルーゲート35に遊技球が入球したことに基づいて普図当否判定処理が行われてしまうこと及び遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。第1作動入賞確認フラグ522e及び第2作動入賞確認フラグ522fを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中に第1作動口33又は第2作動口34に遊技球が入球したことに基づいて当否判定処理が行われてしまうこと及び遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。

30

40

【2900】

その後、賞球用カウンタのクリア処理を実行する（ステップSH809）。賞球用カウンタのクリア処理では、主側RAM84における1個賞球用カウンタ、10個賞球用カウンタ及び15個賞球用カウンタの値を「0」クリアする。これにより、入出力確認期間に発生した一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びスル

50

ーゲート 3 5 への遊技球の入球に基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。

【2901】

その後、確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の設定処理を実行する（ステップ S H 8 1 0）。確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の設定処理では、確認後無効化期間（具体的には 1 秒）に対応する「2 5 0」という数値情報を主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e にセットする。これにより、入出力確認期間の終了時からの 1 秒間を確認後無効化期間とすることができる。

【2902】

次に、確認後無効化期間について説明する。図 2 5 9（b）は確認後無効化期間、特図表示部 3 7 a，3 7 b の変動表示期間及び普図の変動期間を説明するための説明図である。

【2903】

既に説明したとおり、入出力確認用処理（図 2 5 3）は、R A M クリア処理（ステップ S G 6 2 0 又はステップ S G 7 0 1）が実行された場合に実行される処理である。R A M クリア処理が実行された場合には、低確率モード及び低頻度サポートモードである通常遊技状態となり、主側 R A M 8 4 の第 1 特図保留エリア 1 1 1 及び第 2 特図保留エリア 1 1 2（図 7）に保留記憶されている保留情報の個数が「0」となり、主側 R A M 8 4 の普図保留エリア 8 4 c（図 7）に保留記憶されている保留情報の個数が「0」となる。また、既に説明したとおり、入出力確認用処理が実行される場合には、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された後においても入出力確認期間が終了するまで、遊技を進行させるための処理は実行されない。このため、入出力確認期間が終了した場合には、通常遊技状態であり、第 1 特図保留エリア 1 1 1、第 2 特図保留エリア 1 1 2 及び普図保留エリア 8 4 c に保留記憶されている保留情報の個数が「0」である状態において、遊技が開始されることとなる。

【2904】

上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、特図変動開始処理（図 2 0）のステップ S 8 1 5 にて実行される変動表示期間の特定処理では、通常遊技状態であるとともにリーチ高頻度状態である場合、リーチ高頻度用のテーブル群が参照される。そして、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合には、その時点の変動種別カウンタ C S の数値情報をリーチ高頻度用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。また、通常遊技状態であるとともにリーチ高頻度状態ではない場合、低頻度サポート用のテーブル群が参照される。そして、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合には、その時点の変動種別カウンタ C S の数値情報を手頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。リーチ高頻度用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブル及び低頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルには、リーチ表示態様の変動表示期間として 1 5 秒の期間、1 8 秒の期間及び 2 0 秒の期間が設定されている。図 2 5 9（b）に示すように、通常遊技状態における特図表示部 3 7 a，3 7 b のリーチ表示態様の最短変動表示期間は 1 5 秒である。確認後無効化期間は当該リーチ表示態様の最短変動表示期間よりも短い期間（具体的には 1 秒）に設定されている。これにより、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間が設定される構成において、入出力確認期間の終了直後に遊技球が第 1 作動口 3 3 に入賞して大当たり結果が発生し、当該大当たり結果に対応する開閉実行モードの開始直後に遊技球が特電入賞装置 3 2 に入賞した場合には、当該遊技球の入賞が有効として扱われて、当該遊技球の入賞に基づいて遊技球の払い出しが行われるようにすることができる。

【2905】

確認後無効化期間は、特電用監視遅延期間と同様に、1 秒に設定されている。当該 1 秒の期間は、既に説明したとおり、開放状態である特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が特電検知センサ 2 3 4 a に検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間である。また、既に説明したとおり、入出力確認期間が終了する場合には、当該入出力確認期

10

20

30

40

50

間が途中で終了する場合においても特電入賞装置 3 2 を閉鎖状態とするための処理が実行される。入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間として 1 秒の期間を設定することにより、入出力確認期間中に特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が正常に行われる状態であることを確認するために特電入賞装置 3 2 に手入れされた遊技球が確認後無効化期間の終了後に特電検知センサ 2 3 4 a にて検知されてしまう可能性が低減されている。
【2906】

上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、普図当否判定処理が実行された場合には普図表示部 3 8 a において絵柄の変動表示が開始されることとなる。この場合に、普図表示部 3 8 a において絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が相対的に長短となるように長期間（10 秒）と短期間（1 秒）とが存在している。図 2 5 9（b）に示すように、低頻度サポートモードにおける普図の変動期間は 10 秒であり、確認後無効化期間は当該普図の変動期間よりも短い期間（具体的には 1 秒）に設定されている。これにより、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間が設定される構成において、当該確認後無効化期間の終了直後に遊技球がスルーゲート 3 5 に入賞して普電役物 3 4 a の電役開放当選が発生し、当該電役開放当選に基づく第 2 作動口 3 4 の開放期間が開始された直後に遊技球が第 2 作動口 3 4 に入賞した場合には、当該遊技球の入賞が有効として扱われて、当該遊技球の入賞に基づいて当否判定処理及び遊技球の払い出しが行われるようにすることができる。

【2907】

確認後無効化期間は、普電用監視遅延期間と同様に、1 秒に設定されている。当該 1 秒の期間は、既に説明したとおり、開放状態である第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球が第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a に検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間である。また、既に説明したとおり、入出力確認期間が終了する場合には、当該入出力確認期間が途中で終了する場合においても普電役物 3 4 a を閉鎖状態とするための処理が実行される。入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間として 1 秒の期間を設定することにより、入出力確認期間中に第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a における遊技球の検知が正常に行われる状態であることを確認するために第 2 作動口 3 4 に手入れされた遊技球が確認後無効化期間の終了後に第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a にて検知されてしまう可能性が低減されている。

【2908】

次に、特電入球エラー報知が実行される様子について図 2 6 0 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 2 6 0（a）は特電入球エラー報知の実行期間を示し、図 2 6 0（b）は確認後無効化期間を示し、図 2 6 0（c）は入出力確認期間を示し、図 2 6 0（d）は特電入賞装置 3 2 が開放状態となる期間を示し、図 2 6 0（e）は特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知されるタイミングを示し、図 2 6 0（f）は特電入賞装置 3 2 に遊技球が入球するタイミングを示す。

【2909】

まず特電入球エラー報知が実行される場合について説明する。

【2910】

図 2 6 0（b）及び図 2 6 0（c）に示すように、t 1 のタイミングは確認後無効化期間及び入出力確認期間のいずれでもない。また、図示は省略するが、t 1 のタイミングは開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間及び特電用監視遅延期間でもない。図 2 6 0（d）に示すように、当該 t 1 のタイミングにおいて特電入賞装置 3 2 は閉鎖されている。当該 t 1 のタイミングで、図 2 6 0（e）に示すように特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知されると、特電入球エラーが発生し、図 2 6 0（a）に示すように特電入球エラー報知が実行される。

【2911】

このように、開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において、特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知されると、特電入球エラーが発生するとともに、特電入球エ

10

20

30

40

50

ラー報知が実行される。これにより、特電入賞装置 3 2 への入球の発生が設計段階で想定されていない状況において特電入賞装置 3 2 に遊技球を入球させる不正行為、又は当該状況において特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が検知されたかのように特電検知センサ 2 3 4 a から主側 MPU 8 2 に送信される信号を不正に操作する不正行為が行われた場合に、遊技ホールの管理者が当該不正行為を発見し易くすることができる。

【2912】

次に、確認後無効化期間において特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が発生する場合について説明する。

【2913】

図 260 (c) 及び図 260 (d) に示すように、t 2 のタイミングは入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 が開放状態となっているタイミングである。当該 t 2 のタイミングで、図 260 (f) に示すように特電入賞装置 3 2 に遊技球が入球する。その後、t 3 のタイミングで、図 260 (d) に示すように特電入賞装置 3 2 の開放状態が終了するとともに、図 260 (c) に示すように入出力確認期間が終了する。そして、図 260 (b) に示すように確認後無効化期間が開始される。その後、t 4 のタイミングで、図 260 (e) に示すように特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知される。当該 t 4 のタイミングは、図 260 (b) に示すように確認後無効化期間であるため、図 260 (a) に示すように特電入球エラー報知は実行されない。

【2914】

このように、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間が設定される構成とすることにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特電検知センサ 2 3 4 a にて検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。また、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止することができる。

【2915】

次に、特電入賞装置 3 2 又は第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球が検知されるタイミングと、当該遊技球が検知されたことに基づいて実行される処理との関係について説明する。図 261 (a) は特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が検知されるタイミングと、当該遊技球が検知されたことに基づいて実行される処理との関係についての説明図であり、図 261 (b) は第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球が検知されるタイミングと、当該遊技球が検知されたことに基づいて実行される処理との関係についての説明図である。

【2916】

図 261 (a) に示すように、開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間中又は特電用監視遅延期間中に特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知された場合には、当該遊技球が検知されたことに基づいて 15 個の遊技球の払い出しが行われる。入出力確認期間中に特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知された場合には、遊技球の払い出しが行われることなく、特電入球報知音の出力が行われる。確認後無効化期間中に特電検知センサ 2 3 4 a において遊技球が検知された場合には、遊技球の払い出し及び特電入球報知音の出力の双方が行われない。これら開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間以外の状況において特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知された場合には、特電入球エラーが発生し、遊技を進行させるための処理が実行されない状態となるとともに、特電入球エラー報知が実行される。

【2917】

特電入賞装置 3 2 への入球の発生が設計段階で想定されていない状況において特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球が検知された場合には特電入球エラーが発生する構成において、入出力確認期間の終了時には当該特電入球エラーの対象とならない確認後無効化期間が設定される。このため、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特電検知センサ 2 3 4 a にて検知された場合に、特電入球エラー

10

20

30

40

50

が発生してしまうことを防止することができる。これにより、入出力確認期間の終了直後に不必要な特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【2918】

確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにて遊技球が検知されても当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しは行われない構成であるため、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにて検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。

【2919】

図261(b)に示すように、電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間中又は普電用監視遅延期間中に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には、当該遊技球が検知されたことに基づいて1個の遊技球の払い出しが行われるとともに、当否判定処理が実行される。入出力確認期間中に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には、遊技球の払い出し及び当否判定処理が行われることなく、第2作動入球報知音の出力が行われる。確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には、遊技球の払い出し、当否判定処理及び第2作動入球報知音の出力は行われない。これら電役開放当選に基づく第2作動口34の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間以外の状況において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には、普電入球エラーが発生し、遊技を進行させるための処理が実行されない状態となるとともに、普電入球エラー報知が実行される。

【2920】

第2作動口34への入球の発生が設計段階で想定されていない状況において第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合には普電入球エラーが発生する構成において、入出力確認期間の終了時には当該普電入球エラーの対象とならない確認後無効化期間が設定される。このため、入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて検知された場合に、普電入球エラーが発生してしまうことを防止することができる。これにより、入出力確認期間の終了直後に不必要な普電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【2921】

確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知されても当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出し及び当否判定処理は行われない構成であるため、入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出し及び当否判定処理が行われてしまうことを防止できる。

【2922】

次に、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合に図柄表示装置41にて実行される初期化報知について説明する。

【2923】

初期化報知では、RAMクリア処理が実行されたことを示す態様で表示発光部64の発光制御が行われるとともに、図柄表示装置41に初期化報知画面526が表示される。図262(a)は初期化報知画面526の内容を説明するための説明図である。図262(a)に示すように、初期化報知画面526の中央部には「RAMが初期化されました。」という文字及び「入出力の確認期間です。」という文字が表示される。

【2924】

初期化報知画面526の右側下部には、確認期間表示エリア526aが設けられている。確認期間表示エリア526aには、入出力確認期間が満了するまでの残りの継続時間が表示される。入出力確認期間の残りの継続時間を確認期間表示エリア526aに表示することにより、入出力確認期間の終了後に遊技ホールの管理者が遊技球を入球させてしまうことを防止できるとともに、当該入球された遊技球が検知されて遊技球の払い

10

20

30

40

50

出しなどが実行されてしまうことを防止できる。

【2925】

初期化報知画面526において、確認期間表示エリア526aの下には、「ゲートへの入球でも終了できます。」という文字が表示される。これにより、スルーゲート35への入球を発生させることにより入出力確認期間の満了前において当該入出力確認期間を終了させる方法を遊技ホールの管理者に報知することができる。

【2926】

入出力確認期間は、初期化報知の実行期間中に終了する。入出力確認期間の開始時からの経過時間が10秒に達して入出力確認期間が終了した場合、又はゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて入出力確認期間が途中で終了した場合、初期化報知画面526の確認期間表示エリア526aに「入出力の確認期間です。」という文字に代えて「確認期間終了」という文字が表示される。

【2927】

次に、音光側MPU93にて実行される初期化報知用処理について図262(b)のフローチャートを参照しながら説明する。初期化報知用処理は比較的短い周期（例えば4ミリ秒）で繰り返し実行される。

【2928】

まず音光側RAM95に設けられた初期化報知タイマカウンタの値が「0」であるか否かを判定する（ステップSH901）。初期化報知タイマカウンタは、初期化報知の実行期間を音光側MPU93にて把握可能とするタイマカウンタである。初期化報知タイマカウンタには、初期化報知の開始時に初期化報知の実行期間（具体的には11秒）に対応する「2750」という数値情報がセットされる。初期化報知タイマカウンタの値は、4ミリ秒毎に1減算されて更新され、初期化報知が開始されてから11秒が経過した場合に「0」となる。

【2929】

ステップSH901にて肯定判定を行った場合、すなわち初期化報知が実行されていない状況である場合には、主側MPU82からクリア時の復帰コマンド又は更新時の復帰コマンドを受信したか否かを判定し（ステップSH902）、クリア時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれも受信していない場合には、そのまま本初期化報知用処理を終了する。一方、クリア時の復帰コマンド又は更新時の復帰コマンドを受信している場合（ステップSH902：YES）には、初期化報知の開始処理を実行する（ステップSH903）。

【2930】

初期化報知の開始処理（ステップSH903）では、音光側ROM94から初期化報知テーブルを読み出し、当該読み出した初期化報知テーブルに従って初期化報知が行われるように、図柄表示装置41の表示制御及び表示発光部64の発光制御を開始する。その後、初期化報知タイマカウンタの設定処理を実行する（ステップSH904）。初期化報知タイマカウンタの設定処理では、初期化報知の実行期間（具体的には11秒）に対応する「2750」という数値情報を初期化報知タイマカウンタにセットする。

【2931】

ステップSH901にて否定判定を行った場合、すなわち初期化報知が実行されている状態である場合には、初期化報知実行処理を実行する（ステップSH905）。初期化報知実行処理では、ステップSH903にて読み出した初期化報知テーブルに従って図柄表示装置41の表示制御及び表示発光部64の発光制御を実行する。ステップSH905にて図柄表示装置41の表示制御が行われることにより、初期化報知画面526の確認期間表示エリア526aに表示される入出力確認期間の残りの継続時間が更新される。また、入出力確認期間の開始時からの経過時間が10秒に達して入出力確認期間が終了した場合には、初期化報知画面526の確認期間表示エリア526aに「確認期間終了」という文字が表示されている状態となる。

【2932】

その後、初期化報知タイマカウンタの値を「1」減算し（ステップSH906）、その1減算後の初期化報知タイマカウンタの値が「0」となったか否かを判定する（ステップSH907）。ステップSH907にて否定判定を行った場合には、主側MPU82からゲート入球報知コマンドを受信したか否かを判定し（ステップSH908）、ゲート入球報知コマンドを受信している場合（ステップSH908：YES）には、入出力確認期間の終了報知処理を実行する（ステップSH909）。入出力確認期間の終了報知処理では、初期化報知画面526の確認期間表示エリア526aに「確認期間終了」という文字が表示されるように、図柄表示装置41の表示制御を実行する。これにより、確認期間表示エリア526aの表示内容に基づいて入出力確認期間が終了したことを遊技者に報知することができる。

10

【2933】

初期化報知タイマカウンタの値が「0」となった場合（ステップSH907：YES）、すなわち初期化報知の実行期間が終了した場合には、初期化報知の終了処理を実行する（ステップS610）。初期化報知の終了処理では、ステップSH903にて読み出した初期化報知テーブルをクリアし、図柄表示装置41及び表示発光部64において実行されていた初期化報知を終了させる。

【2934】

次に、入出力確認期間において入球報知音が出力される様子、特電入賞装置32の開閉動作が行われる様子及び普電役物34aの開閉動作が行われる様子について、特電入賞装置32を例に挙げて、図263のタイムチャートを参照しながら説明する。図263（a）はスピーカ部65から特電入球報知音が出力されるタイミングを示し、図263（b）は特電入賞装置32に遊技球が入球するタイミングを示し、図263（c）は特電入賞装置32が開放状態となる期間を示し、図263（d）は主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aの値が1以上である期間を示し、図263（e）はメイン処理（図246）のステップSG620にてRAMクリア処理が実行されるタイミングを示し、図263（f）はパチンコ機10への動作電力の供給が開始されるタイミングを示し、図263（g）は初期化報知の実行期間を示す。

20

【2935】

リセットボタン142の押圧操作が行われている状態において、図263（f）に示すようにt1のタイミングでパチンコ機10への動作電力の供給が開始されると、図263（e）に示すようにt2のタイミングでRAMクリア処理（ステップSG620）が実行される。その後、図263（g）に示すようにt3のタイミングで図柄表示装置41及び表示発光部64にて初期化報知が開始される。

30

【2936】

既に説明したとおり、入出力確認期間（確認用タイマカウンタ523aの値が1以上である期間）において特電入賞装置32では、2秒に亘る確認開放継続状態と、2秒に亘る確認閉鎖継続状態とが交互に繰り返される。具体的には、図263（c）に示すように、t4のタイミングからt5のタイミングに亘る2秒間と、t6のタイミングからt9のタイミングに亘る2秒間と、t10のタイミングからt11のタイミングに亘る2秒間とにおいて、特電入賞装置32は開放状態となる。また、図263（c）に示すように、t5のタイミングからt6のタイミングに亘る2秒と、t9のタイミングからt10のタイミングに亘る2秒とにおいて、特電入賞装置32は閉鎖状態となる。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間における特電入賞装置32の動作態様を確認することにより、特電入賞装置32の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。図示は省略するが、入出力確認期間において普電役物34aでは、2秒に亘る確認開放継続状態と、2秒に亘る確認閉鎖継続状態とが交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間における普電役物34aの動作態様を確認することにより、普電役物34aの開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

40

【2937】

特電入賞装置32が開放状態となっているt7のタイミングで図263（b）に示すよ

50

うに特電入賞装置 3 2 に遊技球が入球すると、図 2 6 3 (a) に示すように t 8 のタイミングでスピーカ部 6 5 から特電入球報知音が出力される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間中に遊技球を特電入賞装置 3 2 に入球させるとともに、スピーカ部 6 5 から特電入球報知音が出力されることを確認することにより、特電検知センサ 2 3 4 a にて遊技球の検知が正常に行われている状態であること、及び特電検知センサ 2 3 4 a と主側 M P U 8 2 とを電氣的に接続する信号線に断線が発生していないことを確認することができる。図示は省略するが、入出力確認期間中に第 2 作動口 3 4 に遊技球が入球すると、スピーカ部 6 5 から第 2 作動入球報知音が出力される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間中に遊技球を第 2 作動口 3 4 に入球させるとともに、スピーカ部 6 5 から第 2 作動入球報知音が出力されることを確認することにより、第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a にて遊技球の検知が正常に行われている状態であること、及び第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a と主側 M P U 8 2 とを電氣的に接続する信号線に断線が発生していないことを確認することができる。

10

【2 9 3 8】

t 4 のタイミングから 1 0 秒が経過する t 1 1 のタイミングで、図 2 6 3 (d) に示すように確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が「0」となる。その後、t 3 のタイミングから 1 1 秒が経過する t 1 2 のタイミングで、図 2 6 3 (g) に示すように図柄表示装置 4 1 及び表示発光部 6 4 における初期化報知が終了する。入出力確認期間が終了する t 1 1 のタイミングは、初期化報知が終了する t 1 2 のタイミングよりも前のタイミングである。既に説明したとおり、入出力確認期間の終了後は、主側 R A M 8 4 の遊技停止フラグに「1」がセットされていないことを条件として、タイマ割込み処理（図 2 4 9）が起動された場合に遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ～ステップ S G 9 2 4）が実行される状態となる。入出力確認期間が終了した状態で初期化報知が終了する構成とすることにより、遊技を進行させるための処理が実行される状態となった後に初期化報知が終了するようにすることができる。このため、遊技ホールの管理者は、初期化報知が終了したことを確認することにより遊技を進行させるための処理が実行される状態となっていることを把握することができる。

20

【2 9 3 9】

次に、特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球の検知が正常に行われない状態であることが発見される様子について説明する。

30

【2 9 4 0】

t 1 3 のタイミングは、図 2 6 3 (c) 及び図 2 6 3 (d) に示すように入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 が開放状態となっているタイミングである。当該 t 1 3 のタイミングで、図 2 6 3 (b) に示すように遊技ホールの管理者が特電入賞装置 3 2 に遊技球を入球させたにも関わらず、図 2 6 3 (a) に示すように、スピーカ部 6 5 から特電入球報知音は出力されない。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、特電入賞装置 3 2 に遊技球を入球させたにも関わらず特電入球報知音の出力が行われないことを確認することにより、特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球の検知が主側 M P U 8 2 において正常に実行されない状態であることを把握することができる。パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合に、遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1 ～ステップ S G 9 2 4）が実行される状態となるタイミングよりも前のタイミングにおいて、特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球の検知が主側 M P U 8 2 において正常に実行されない状態であることを把握可能とすることにより、当該状態のまま遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

40

【2 9 4 1】

図示は省略するが、第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球の検知が正常に行われない状態となっている場合には、入出力確認期間中に第 2 作動口 3 4 に遊技球を入球させたとしても第 2 作動入球報知音の出力が行われない。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、第 2 作動口 3 4 に遊技球を入球させたにも関わらず第 2 作動入球報知音の出力が行われないことを確認することにより、第 2 作動口 3 4 に入球した遊技球の検知が主側 M P U

50

8 2において正常に実行されない状態であることを把握することができる。パチンコ機 1 0への動作電力の供給が開始された場合に、遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1～ステップ S G 9 2 4）が実行される状態となるタイミングよりも前のタイミングにおいて、第 2 作動口 3 4に入球した遊技球の検知が主側 M P U 8 2において正常に実行されない状態であることを把握可能とすることにより、当該状態のままで遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【2 9 4 2】

次に、入出力確認期間の終了時に設定される確認後無効化期間と、当該入出力確認期間の終了後に遊技球が特電入賞装置 3 2又は第 2 作動口 3 4に入球するタイミングとの関係について図 2 6 4のタイムチャートを参照しながら説明する。図 2 6 4（a）は確認後無効化期間を示し、図 2 6 4（b）は第 1 特図表示部 3 7 aの変動表示期間を示し、図 2 6 4（c）は開閉実行モードの実行期間を示し、図 2 6 4（d）は第 1 作動口 3 3への入賞が発生するタイミングを示し、図 2 6 4（e）は普図の変動期間を示し、図 2 6 4（f）は普電役物 3 4 aが開放状態となる期間を示し、図 2 6 4（g）はスルーゲート 3 5への入賞が発生するタイミングを示し、図 2 6 4（h）は入出力確認期間を示す。

【2 9 4 3】

まず確認後無効化期間と、入出力確認期間の終了後に遊技球が特電入賞装置 3 2に入球するタイミングとの関係について説明する。

【2 9 4 4】

t 1のタイミングで、図 2 6 4（h）に示すように入出力確認期間が終了すると、図 2 6 4（a）に示すように当該 t 1のタイミングから t 3のタイミングに亘って確認後無効化期間（具体的には 1 秒）が設定される。入出力確認期間が終了した t 1のタイミングの直後である t 2のタイミングで、図 2 6 4（d）に示すように第 1 作動口 3 3への入賞が発生すると、図 2 6 4（b）に示すように第 1 特図表示部 3 7 aの変動表示が開始される。既に説明したとおり、通常遊技状態における特図表示部 3 7 a，3 7 bのリーチ表示態様の最短変動表示期間は 1 5 秒である。t 2のタイミングから 1 5 秒が経過した t 4のタイミングで、図 2 6 4（b）に示すように第 1 特図表示部 3 7 aの変動表示が終了する。そして、大当たり結果となった場合には、当該 t 4のタイミングの後に開閉実行モードのオープニング演出が実行され、当該オープニング演出が終了する t 5のタイミングで、図 2 6 4（c）に示すように開閉実行モードが開始される。

【2 9 4 5】

図 2 6 4（a）及び図 2 6 4（b）に示すように、確認後無効化期間が終了する t 3のタイミングは、第 1 特図表示部 3 7 aの変動表示が終了する t 4のタイミングよりも前のタイミングである。このように、確認後無効化期間は、開閉実行モードが開始される前に終了する。これにより、入出力確認期間が終了した後に遊技が開始されて特電入賞装置 3 2への入賞が発生した場合に、その特電入賞装置 3 2への入賞が確認後無効化期間の設定によって無効とされてしまうことを防止できる。

【2 9 4 6】

次に、確認後無効化期間と、入出力確認期間の終了後に遊技球が第 2 作動口 3 4に入球するタイミングとの関係について説明する。

【2 9 4 7】

t 6のタイミングで、図 2 6 4（h）に示すように入出力確認期間が終了すると、図 2 6 4（a）に示すように当該 t 6のタイミングから 1 秒間に亘って確認後無効化期間が設定される。入出力確認期間が終了した t 6のタイミングの直後である t 7のタイミングで、図 2 6 4（g）に示すようにスルーゲート 3 5への入賞が発生すると、図 2 6 4（e）に示すように普図表示部 3 8 aの変動表示が開始される。既に説明したとおり、低頻度サポートモードにおける普図表示部 3 8 aの変動期間は 1 0 秒である。t 7のタイミングから 1 0 秒が経過した t 9のタイミングで、図 2 6 4（e）に示すように普図表示部 3 8 aの変動表示が終了する。そして、普電役物 3 4 aの普電開放当選となった場合には、当該 t 9のタイミングの後である t 10のタイミングで、図 2 6 4（f）に示すように普電役

10

20

30

40

50

物 3 4 a が開放状態となる。

【 2 9 4 8 】

図 2 6 4 (a) 及び図 2 6 4 (e) に示すように、確認後無効化期間が終了する t 8 のタイミングは、普図表示部 3 8 a の変動表示が終了する t 9 のタイミングよりも前のタイミングである。このため、確認後無効化期間は、普電役物 3 4 a が開放状態となる前に終了する。これにより、入出力確認期間が終了した後に遊技が開始されて第 2 作動口 3 4 への入賞が発生した場合に、その第 2 作動口 3 4 への入賞が確認後無効化期間の設定によって無効とされてしまうことを防止できる。

【 2 9 4 9 】

次に、動作電力の供給が停止されることで入出力確認期間が中断された後に、動作電力の供給が再開されることで当該中断された入出力確認期間が再開される様子について図 2 6 5 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 2 6 5 (a) は入出力確認期間を示し、図 2 6 5 (b) は主側 R A M 8 4 における停電フラグの状態を示し、図 2 6 5 (c) は主側 M P U 8 2 にて停電時処理が実行されるタイミングを示し、図 2 6 5 (d) は設定値更新処理 (図 2 4 7) のステップ S G 7 0 1 にて R A M クリア処理が実行されるタイミングを示し、図 2 6 5 (e) は設定値更新処理が実行されるタイミングを示し、図 2 6 5 (f) はパチンコ機 1 0 に動作電力が供給されている期間を示す。

【 2 9 5 0 】

リセットボタン 1 4 2 の押圧操作及び設定キー挿入部 1 4 3 の O N 操作が行われている状態、すなわち設定変更操作が行われている状態において、図 2 6 5 (f) に示すように t 1 のタイミングでパチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始されると、図 2 6 5 (e) に示すように t 2 のタイミングで設定値更新処理が開始され、当該設定値更新処理のステップ S G 7 0 1 にて図 2 6 5 (d) に示すように R A M クリア処理が実行される。その後、t 3 のタイミングで、図 2 6 5 (e) に示すように設定値更新処理が終了すると、図 2 6 5 (a) に示すように入出力確認期間が開始される。

【 2 9 5 1 】

入出力確認期間が開始されてから 1 0 秒が経過していない t 4 のタイミングで、図 2 6 5 (f) に示すように動作電力の供給が停止されると、図 2 6 5 (c) に示すように主側 M P U 8 2 にて停電時処理が実行されることにより図 2 6 5 (b) に示すように主側 R A M 8 4 の停電フラグに「 1 」がセットされる。また、主側 M P U 8 2 の動作が停止されることにより、図 2 6 5 (a) に示すように当該 t 4 のタイミングで入出力確認期間が中断する。

【 2 9 5 2 】

その後、図 2 6 5 (f) に示すように t 5 のタイミングで動作電力の供給が再開される。図 2 6 5 (b) に示すように当該 t 5 のタイミングにおいて主側 R A M 8 4 の停電フラグには「 1 」がセットされている。動作電力の供給の再開に際してリセットボタン 1 4 2 の押圧操作及び設定キー挿入部 1 4 3 の O N 操作 (すなわち設定変更操作) が行われなかった場合には、R A M クリア処理 (ステップ S G 6 2 0 又はステップ S G 7 0 1) が実行されない。このため、入出力確認期間が中断した t 4 のタイミングで主側 R A M 8 4 の確認用タイマカウンタ 5 2 3 a に記憶されていた情報が維持される。

【 2 9 5 3 】

その後、t 6 のタイミングでメイン処理 (図 2 4 6) におけるステップ S G 6 2 7 の処理が実行されると、主側 R A M 8 4 における立ち上げ処理中フラグが「 0 」クリアされるとともに、図 2 6 5 (b) に示すように主側 R A M 8 4 における停電フラグが「 0 」クリアされる。その後、t 7 のタイミングでメイン処理 (図 2 4 6) のステップ S G 6 3 1 にてタイマ割込み処理 (図 2 4 9) の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定が行われる。上述したとおり、R A M クリア処理が実行されていないため、入出力確認期間が中断した t 4 のタイミングで確認用タイマカウンタ 5 2 3 a に記憶されていた情報が記憶保持されている状態でタイマ割込み処理 (図 2 4 9) の発生が許可される。これにより、図 2 6 5 (a) に示すように、t 4 のタイミングで中断した入出

10

20

30

40

50

力確認期間が当該 7 のタイミングで再開される。

【2954】

このように、入出力確認期間の途中で停電の発生が特定された場合、停電監視処理が実行されて停電フラグに「1」がセットされる。そして、動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作が行われなかった場合には、当該停電の発生が特定された際に主側RAM84の確認用タイマカウンタ523aに記憶されていた情報を利用して入出力確認期間が再開される。これにより、入出力確認期間の途中で停電の発生が特定されることで当該入出力確認期間が中断された場合には、動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作を不要としながら当該中断された入出力確認期間を再開させることができる。とともに、当該再開された入出力確認期間の終了後に遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）が実行される状態とすることができる。

10

【2955】

図示は省略するが、入出力確認期間の途中で停電の発生が特定され、動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作が行われた場合には、設定値更新処理（図247）が実行された後に新たな入出力確認期間（10秒間）が発生する。これにより、入出力確認期間の途中で停電の発生が特定された場合には、遊技可能状態となる前に入出力確認期間を発生させることができる。

【2956】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

20

【2957】

入出力確認期間では、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が行われる。これにより、入出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの動作態様を確認することにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。よって、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【2958】

入出力確認期間では、入球部24a、31～34に入球した遊技球又はスルーゲート35を通過する遊技球が検知されたことを示す入球報知音の出力が行われる。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、入球部24a、31～34又はスルーゲート35に遊技球を手入れして当該入球部24a、31～34又はスルーゲート35に対応する入球報知音の出力が行われることを確認することにより当該入球部24a、31～34又はスルーゲート35に手入れした遊技球の検知が正常に行われる状態であることを把握することができる。また、遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、入球部24a、31～34又はスルーゲート35に遊技球を手入れしたにも関わらず当該入球部24a、31～34又はスルーゲート35に対応する入球報知音の出力が行われない場合に、当該入球部24a、31～34に入球する遊技球又はスルーゲート35を通過する遊技球の検知が正常に行われない状態となっていることを把握することができる。

30

【2959】

確認用タイマカウンタ523aの値が「0」である状態においてパチンコ機10への動作電力の供給が開始されると、当該動作電力の供給開始時にRAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行される場合には入出力確認用処理が実行される一方、当該動作電力の供給開始時にRAMクリア処理が実行されない場合には入出力確認用処理は実行されない。これにより、確認用タイマカウンタ523aの値が「0」である状態においてパチンコ機10への動作電力の供給が開始される場合に、入出力確認期間を発生させるか否かを遊技ホールの管理者が選択可能とすることができる。確認用タイマカウンタ523aの値が「0」である状態においてパチンコ機10への動作電力の供給が開始されるとともに当該動作電力の供給開始時にRAMクリア処理が実行されない場合には入出力確認用処理が実行されない構成とすることにより、パチンコ機10への動作電力

40

50

の供給の開始に際してRAMクリア処理（ステップSG620）を実行させるための操作（RAMクリア操作）又は設定値更新処理（図247）を実行させるための操作（設定変更操作）が行われなかった場合には、迅速に遊技を進行させるための処理が実行される状態とすることができる。

【2960】

パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作が行われた場合には設定値更新処理が実行され、当該設定値更新処理の終了後に入出力確認用処理が実行される。このため、遊技ホールの管理者は、設定値を更新する操作と、特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認、並びに検知センサ231a～238aによる遊技球の検知状態の確認とを連続して行うことができる。

10

【2961】

設定値更新処理が実行された場合には、設定値更新処理を終了させるための操作が行われることにより入出力確認期間が開始される。このため、設定値更新処理を終了させるための操作に加えて入出力確認期間を開始させるための操作を必要とする構成と比較して、特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認、並びに検知センサ231a～238aによる遊技球の検知状態の確認を行うための処理構成を簡素化することができる。

【2962】

設定値更新処理（図247）のステップSG701にて呼び出されるRAMクリア処理に対応するサブルーチンは、メイン処理（図246）のステップSG620にて呼び出されるサブルーチンと同一である。そして、当該RAMクリア処理において入出力確認期間に対応する数値情報が確認用タイマカウンタ523aにセットされることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に入出力確認期間となる。これにより、動作電力の供給開始時の処理が終了した後に入出力確認期間を発生させるための処理構成を簡素化することができる。

20

【2963】

動作電力の供給開始時の処理が実行された後、タイマ割込み処理では確認用タイマカウンタ523aの値が「1」以上である場合に入出力確認用処理を実行する。タイマ割込み処理において入出力確認用処理を実行する場合には、遊技を進行させるための処理は実行されない。タイマ割込み処理において遊技を進行させるための処理が実行される場合と、入出力確認用処理が実行される場合とがある構成において、一の処理回でこれら遊技を進行させるための処理及び入出力確認用処理の双方が実行されることがないようにすることにより、タイマ割込み処理を実行するための主側MPU82の処理負荷が大きくなり過ぎてしまうことを防止できる。

30

【2964】

タイマ割込み処理において入出力確認用処理を実行する構成とすることにより、入出力確認用処理において利用される確認用タイマカウンタ523aの値を定期的に更新（具体的には4ミリ秒の周期で更新）するための処理構成を簡素化することができる。

【2965】

遊技を進行させるための処理において呼び出されるタイマ更新処理のサブルーチンは、入出力確認用処理においても呼び出される。これにより、タイマカウンタエリア523に設けられたタイマカウンタ523a～523gの更新を行うために主側ROM83に記憶しておくプログラムのデータ容量を抑えることができる。

40

【2966】

タイマ割込み処理において入出力確認用処理が実行される場合には、当該タイマ割込み処理にて遊技を進行させるための処理が実行されない構成において、入出力確認用処理では遊技を進行させるための処理にて呼び出されるサブルーチンの一部（入球検知処理に対応するサブルーチン及びタイマ更新処理に対応するサブルーチン）が呼び出される。これにより、入出力確認用処理及び遊技を進行させるための処理を実行するために主側ROM83に記憶しておくプログラムのデータ容量を低減することができる。

50

【2967】

遊技を進行させるための処理が実行される状況においては、特電入賞装置32の開閉動作は普電役物34aの開閉動作とは無関係に行われる構成において、入出力確認期間においては、共通のタイミングで特電入賞装置32の開閉動作及び普電役物34aの開閉動作が行われる。これにより、入出力確認期間において特電入賞装置32の開閉動作及び普電役物34aの開閉動作を行うタイミングを把握するための構成を簡素化することができる。

【2968】

一の切換タイマカウンタ523bの値に基づいて、特電入賞装置32の開閉動作を行うタイミング及び普電役物34aの開閉動作を行うタイミングが把握される。このため、特電入賞装置32の開閉動作を行うタイミングを把握するために設けられているタイマカウンタとは別のタイマカウンタとして普電役物34aの開閉動作を行うタイミングを把握するためのタイマカウンタが設けられている構成と比較して、これらの開閉動作を行うタイミングを把握可能とするための構成を簡素化することができる。

10

【2969】

入出力確認期間は、RAMクリア処理（ステップSG620）又は設定値更新処理（図247）が終了した場合に開始され、当該入出力確認期間が開始されてから10秒が経過することにより終了する。遊技ホールの管理者は、RAMクリア処理（ステップSG620）又は設定値更新処理（図247）を実行させる必要はあるものの特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認、並びに検知センサ231a～238aによる遊技球の検知状態の確認を行う必要はない場合、入出力確認期間中にパチンコ機10を放置することにより所定の時間後に遊技を進行させるための処理が実行される状態とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者による管理負担を軽減することができる。

20

【2970】

入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間（具体的には1秒）が設定される。確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合、当該遊技球が検知されたことに基づく遊技球の払い出し、特電入球報知音の出力及び特電入球エラー報知は行われない。これにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が当該入出力確認期間の終了後に検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づく遊技球の払い出し、特電入球報知音の出力及び特電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。

30

【2971】

確認後無効化期間は、通常遊技状態における特図表示部37a、37bのリーチ表示態様の最短変動表示期間（具体的には15秒）よりも短い期間（具体的には1秒）に設定されている。これにより、入出力確認期間の終了直後に第1作動口33に遊技球が入賞し、当該入賞を契機として開始された遊技回において大当たり結果となり、当該大当たり結果の発生を契機として開始された開閉実行モードの開始直後に特電入賞装置32に遊技球が入賞した場合に、当該入賞が無効なものとして扱われてしまうことを防止できる。

【2972】

開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況において特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合には特電入球エラー報知が実行される構成において、確認後無効化期間中に特電検知センサ234aにて遊技球が検知された場合には特電入球エラー報知は実行されない。これにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が当該入出力確認期間の終了直後に検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて特電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。

40

【2973】

入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間（具体的には1秒）が設定される。確認後無効化期間中に第2作動口検知センサ236aにて遊技球が検知された場合、当該遊技球が検知されたことに基づく遊技球の払い出し、第2作動入球報知音の出力及び普電入球エラー報知は行われない。これにより、入出力確認期間の終了直前に第2作動口34に入球

50

した遊技球が当該入出力確認期間の終了後に検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づく遊技球の払い出し、第2作動入球報知音の出力及び普電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。

【2974】

確認後無効化期間は、通常遊技状態における普図の変動期間（具体的には10秒）よりも短い期間（具体的には1秒）に設定されている。これにより、入出力確認期間の終了直後にスルーゲート35に遊技球が入賞し、当該入賞を契機として実行された普図当否判定処理において電役開放当選となり、普図の変動期間の終了後に普電役物34aが開状態となって第2作動口34に遊技球が入賞した場合に、当該入賞が無効なものとして扱われてしまうことを防止できる。

【2975】

<第33の実施形態の別形態>

(1) RAMクリア処理（図248）において主側RAM84における初期化の対象となるエリアに記憶されている情報を「0」クリアするとともに当該エリアについて初期設定を行う処理（ステップSG801～ステップSG806）の実行後に入出力確認期間に対応する数値情報を確認用タイマカウンタ523aにセットする処理（ステップSG807）を実行する構成に代えて、主側RAM84における初期化の対象となるエリアに記憶されている情報を「0」クリアするとともに当該エリアについて初期設定を行う処理の実行前に入出力確認期間に対応する数値情報を確認用タイマカウンタ523aにセットする処理を実行する構成としてもよい。当該構成において、確認用タイマカウンタ523aは、初期化の対象となるエリアから除外されている。また、既に説明したとおり、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了するまで入出力確認用処理は実行されない。これにより、入出力確認期間に対応する数値情報が確認用タイマカウンタ523aにセットされた後に、主側RAM84における初期化の対象となるエリアに記憶されている情報を「0」クリアするとともに当該エリアについて初期設定を行う処理（ステップSG801～ステップSG806）が実行される構成としても、動作電力の供給開始時の処理の実行後に確認用タイマカウンタ523aの値が1以上であることに基づいて入出力確認用処理（ステップSG904）が実行されるようにすることができる。

【2976】

(2) 入出力確認用処理においてもタイマ割込み処理（図249）において遊技を進行させるための処理（ステップSG911～ステップSG924）に含まれているポート出力処理（ステップSG911）に対応するサブルーチンが呼び出される構成としてもよい。入出力確認期間及び遊技可能状態の双方において、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対して信号を出力する処理のプログラムを共通化することにより、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対して信号を出力する処理の処理構成を簡素化することができる。

【2977】

(3) メイン処理（図246）のステップSG603にて実行されるスタックポインタの初期化処理において、スタックエリアにおける最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定した後、主側RAM84におけるスタックエリアを「0」クリアする構成としてもよい。これにより、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合には、主側RAM84におけるスタックエリアが「0」クリアされるようにすることができる。なお、本構成において主側RAM84におけるスタックエリアはチェックサムの算出対象から除外されており、スタックポインタの初期化処理においてスタックエリアが「0」クリアされることが原因となって主側MPU82の動作再開後に算出される主側RAM84についてのチェックサムが動作停止前に記憶されたチェックサムと一致しないと判定されてしまうことが防止されている。

【2978】

<第34の実施形態>

本実施形態では、入出力確認期間における特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放継続期間と、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖継続期間とが上記第 3 3 の実施形態と相違している。以下、上記第 3 3 の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第 3 3 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2 9 7 9】

図 2 6 6 は本実施形態における入出力確認期間及び確認後無効化期間について説明するための説明図である。入出力確認期間は上記第 3 3 の実施形態と同様に 1 0 秒に設定されている。図 2 6 6 に示すように、入出力確認期間における特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の 1 回の開放継続期間は 1 . 9 秒に設定されているとともに、入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態が終了してから次の開放状態が開始されるまでの間隔も 1 . 9 秒に設定されている。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理（図 2 5 5）のステップ S H 4 0 7 では、切換タイマカウンタ 5 2 3 b の設定処理が実行される。切換タイマカウンタ 5 2 3 b の設定処理は、入出力確認期間において特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態を開始させる場合、並びに特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態を開始させる場合に実行される。本実施形態における切換タイマカウンタ 5 2 3 b の設定処理では、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態又は閉鎖状態を継続させる 1 . 9 秒に対応する「4 7 5」という数値情報を主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における切換タイマカウンタ 5 2 3 b にセットする。これにより、入出力確認期間では、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態が 1 . 9 秒に亘って継続された後に特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が閉鎖状態に切り換えられるようにすることができるとともに、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が 1 . 9 秒に亘って継続された後に特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が開放状態に切り換えられるようにすることができる。

【2 9 8 0】

入出力確認期間の開始時からの経過時間が 9 . 5 秒に達するまでにゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生しない場合、入出力確認期間では 9 . 5 秒間に亘って特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開閉動作が行われる。その後、0 . 5 秒間に亘って特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が継続されて、当該入出力確認期間が終了する。そして、入出力確認期間の終了時に、0 . 5 秒の確認後無効化期間が設定される。一方、入出力確認期間の開始時からの経過時間が 9 . 5 秒に達するまでにゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生した場合には、ゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生したタイミングにて特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を閉鎖状態とするとともに、当該特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が 0 . 5 秒に亘って継続されるようにする。そして、当該 0 . 5 秒が経過した場合に入出力確認期間が終了する。これにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が 0 . 5 秒に亘って継続された後に入出力確認期間が終了する構成において、入出力確認期間の開始時からの経過時間が 9 . 5 秒に達する前に遊技ホールの管理者がスルーゲート 3 5 に遊技球を手入れする操作を行うことにより入出力確認期間を 1 0 秒よりも短い期間に短縮可能とすることができる。

【2 9 8 1】

図 2 6 6 に示すように、通常遊技状態における普図の変動期間は、上記第 3 3 の実施形態における 1 0 秒よりも短い 1 秒である。通常遊技状態における特図表示部 3 7 a , 3 7 b のリーチ表示態様の最短変動表示期間は、上記第 3 3 の実施形態と同様に、1 5 秒である。

【2 9 8 2】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される入球報知コマンド送信処理について図 2 6 7 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、入球報知コマンド送信処理は入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番号「1 0 0 4」にて実行される。

【2 9 8 3】

ステップS I 1 0 1～ステップS I 1 1 4では、上記第33の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図258）のステップS H 7 0 1～ステップS H 7 1 4と同一の処理を実行する。ステップS I 1 0 1～ステップS I 1 1 4の処理内容は上記第33の実施形態において既に説明したとおりである。ステップS I 1 1 3にて否定判定を行った場合又はステップS I 1 1 4の処理を行った場合、ステップS I 1 1 5～ステップS I 1 1 6では、上記第33の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図258）のステップS H 7 1 5～ステップS H 7 1 6と同様の処理を実行する。具体的には、確認フラグ群522におけるゲート入賞確認フラグ522hに「1」がセットされている場合（ステップS I 1 1 5：YES）には、ゲート入球報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS I 1 1 6）。

10

【2984】

その後、タイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aの値が0.5秒に対応する「125」以上であるか否かを判定する（ステップS I 1 1 7）。入出力確認期間が終了するまでに0.5秒以上の時間が残っている場合（ステップS I 1 1 7：YES）には、ステップS I 1 1 8～ステップS I 1 2 2において、特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とするとともに、入出力確認期間が終了するまでに当該特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を0.5秒に亘って継続させるための処理を実行する。ステップS I 1 1 8～ステップS I 1 2 0では、上記第33の実施形態における動作確認用処理（図255）のステップS H 4 1 3～ステップS H 4 1 5と同様の処理を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖処理を実行することにより特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力を停止させて特電入賞装置32を閉鎖状態とする（ステップS I 1 1 8）。その後、普電役物34aの閉鎖処理を実行することにより普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力を停止させて普電役物34aを閉鎖状態とする（ステップS I 1 1 9）。その後、主側R A M 8 4の動作確認開放中フラグ525を「0」クリアする（ステップS I 1 2 0）。

20

【2985】

その後、特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を継続させる0.5秒間に対応する「125」という数値情報をタイマカウンタエリア523における切換タイマカウンタ523bにセットし（ステップS I 1 2 1）、当該0.5秒に対応する「125」という数値情報をタイマカウンタエリア523における確認用タイマカウンタ523aにセットする（ステップS I 1 2 2）。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となっている状態が0.5秒に亘って継続された後に確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となって入出力確認期間が終了するようにすることができる。

30

【2986】

ゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生したタイミングにおいて入出力確認期間の残り時間が0.5秒未満である場合（ステップS I 1 1 7：NO）には、特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とするとともに、入出力確認期間が終了するまでに当該特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を0.5秒に亘って継続させるための処理（ステップS I 1 1 8～ステップS I 1 2 2）を実行することなく、そのまま本入球報知コマンド送信処理を終了する。既に説明したとおり、入出力確認期間の開始時からの経過時間が9.5秒に達するまでにゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生しない場合、入出力確認期間では9.5秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が行われた後に、0.5秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続されて、当該入出力確認期間が終了する。このため、入出力確認期間の開始時からの経過時間が9.5秒に達しているとともに既に特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となっている状態においてゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生した場合には、ステップS I 1 1 8～ステップS I 1 2 2の処理を実行しなくても0.5秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続した後に入出力確認期間が終了するようにすることができる。

40

【2987】

50

上記のとおり、ゲート検知センサ 238a における遊技球の検知が発生したことに基づいて入出力確認期間が途中で終了する場合においても特電入賞装置 32 及び普電役物 34a の最後の開放状態が終了してから 0.5 秒後に入出力確認期間が終了する。これにより、入出力確認期間における最後の 0.5 秒間を特電入賞装置 32 及び第 2 作動口 34 に遊技球が入球できない状態とすることができる。

【2988】

次に、確認後無効化期間が設定される様子について図 268 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 268 (a) は確認後無効化期間を示し、図 268 (b) は普電役物 34a が開放状態となる期間を示し、図 268 (c) は特電入賞装置 32 が開放状態となる期間を示し、図 268 (d) は入出力確認期間を示し、図 268 (e) は図柄表示装置 41 及び表示発光部 64 にて実行される初期化報知の実行期間を示す。

10

【2989】

図 268 (e) に示すように t1 のタイミングで図柄表示装置 41 及び表示発光部 64 にて初期化報知が開始される。その後、t2 のタイミングで、図 268 (d) に示すように入出力確認期間が開始される。図 268 (b) 及び図 268 (c) に示すように、入出力確認期間において特電入賞装置 32 及び普電役物 34a は、当該入出力確認期間が開始される t2 のタイミングから t3 のタイミングに亘る 1.9 秒間、t4 のタイミングから t5 のタイミングに亘る 1.9 秒間及び t6 のタイミングから t7 のタイミングに亘る 1.9 秒間において開放状態となるとともに、t3 のタイミングから t4 のタイミングに亘る 1.9 秒間及び t5 のタイミングから t6 のタイミングに亘る 1.9 秒間において閉鎖状態となる。このように、入出力確認期間が開始される t2 のタイミングから 9.5 秒が経過する t7 のタイミングまでの期間において、特電入賞装置 32 及び普電役物 34a の開閉動作が実行される。入出力確認期間における特電入賞装置 32 及び普電役物 34a の最後の開放状態が終了する t7 のタイミングから当該入出力確認期間が終了する t8 のタイミングまでの期間は 0.5 秒間である。

20

【2990】

t8 のタイミングで、図 268 (d) に示すように入出力確認期間が終了すると、図 268 (a) に示すように確認後無効化期間（具体的には 0.5 秒）が設定される。その後、図 268 (a) に示すように t9 のタイミングで確認後無効化期間が終了する。その後、図 268 (e) に示すように t10 のタイミングで初期化報知が終了する。

30

【2991】

このように、入出力確認期間において特電入賞装置 32 及び普電役物 34a の最後の開放状態が終了してから当該入出力確認期間が終了するまでの 0.5 秒間に亘って特電入賞装置 32 及び普電役物 34a が閉鎖状態となる。このため、入出力確認期間における最後の 0.5 秒間は、特電入賞装置 32 及び第 2 作動口 34 に遊技球が入球できない状態となる。これにより、入出力確認期間中に特電入賞装置 32 又は第 2 作動口 34 に入球した遊技球が当該入出力確認期間の終了後に特電検知センサ 234a 又は第 2 作動口検知センサ 236a において検知される可能性を低減することができる。

【2992】

入出力確認期間における最後の 0.5 秒間において普電役物 34a を閉鎖状態とするとともに、当該入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間（具体的には 0.5 秒）を設定することにより、図 266 に示すように、入出力確認期間における普電役物 34a の最後の開放状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間を 1 秒間とすることができる。これにより、入出力確認期間中に第 2 作動口 34 に入球した遊技球が確認後無効化期間の終了後に検知されて第 2 作動口入球検知エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。

40

【2993】

入出力確認期間における最後の 0.5 秒間において特電入賞装置 32 を閉鎖状態とし、当該入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間（具体的には 0.5 秒）を設定することにより、図 266 に示すように、入出力確認期間における特電入賞装置 32 の最後の開放

50

状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間を1秒間とすることができる。これにより、入出力確認期間中に特電入賞装置32に入球した遊技球が確認後無効化期間の終了後に検知されて特電入球検知エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。

【2994】

入出力確認期間における最後の0.5秒間において普電役物34a及び特電入賞装置32を閉鎖状態とすることにより、入出力確認期間の終了時に設定される確認後無効化期間を1秒間よりも短い0.5秒間としながら、入出力確認期間において最後の開放状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間を1秒間とすることができる。確認後無効化期間として1秒よりも短い0.5秒の期間が設定されているとともに、入出力確認期間において普電役物34aの最後の開放状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間として1秒の期間が確保されている構成とすることにより、通常遊技状態における普図の変動期間として1秒という短い期間が設定されている構成においても、入出力確認期間中に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間の終了後に第2作動口検知センサ236aにて検知されてしまうことを防止できる。

【2995】

<第34の実施形態の別形態>

(1) 上記第34の実施形態では、通常遊技状態における普図の変動期間として1秒の期間のみが選択される構成としたが、これに限定されることはなく、通常遊技状態において普図の変動期間として選択され得る期間が複数存在しており、普図の変動期間を選択する抽選が実行される構成としてもよい。具体的には、通常遊技状態において選択され得る普図の変動期間として1秒の期間と、10秒の期間とが存在している。普図当否判定処理の結果が電役開放当選となった場合には、普図の変動期間を選択する普図側変動期間抽選処理が実行される。普図側変動期間抽選処理では、1/5の確率で1秒の変動期間が選択されるとともに、4/5の確率で10秒の変動期間が選択される。上記第34の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認期間において普電役物34aの最後の開放状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間として1秒の期間が確保されている構成とすることにより、通常遊技状態における普図の変動期間として1秒という短い期間が選択され得る構成においても、入出力確認期間中に第2作動口34に入球した遊技球が確認後無効化期間の終了後に第2作動口検知センサ236aにて検知されてしまうことを防止できる。

【2996】

<第35の実施形態>

本実施形態では遊技盤24に設けられた遊技領域PAの構成が上記第33の実施形態と相違している。以下、上記第33の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第33の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【2997】

図269は本実施形態における遊技領域PAの構成を説明するための遊技盤24の正面図である。

【2998】

遊技盤24には、遊技領域PAの外縁の一部を区画するようにして内レール部25と外レール部26とが取り付けられており、これら内レール部25と外レール部26とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技球発射機構27(図2参照)から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域PAの上部に案内されるようになっている。

【2999】

遊技盤24には、上記第1の実施形態と同様に、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、スルーゲート35、可変表示ユニット36、特図ユニット37及び普図ユニット38が設けられている。また、上記第1の実施形態における第2作動口34に代えて特別入賞装置151が設けられている。さらにまた、本実施形態ではV入賞装置531が設けられている。

【3000】

スルーゲート35への入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、特別入賞装置151及びV入賞装置531のいずれかへの入球が発生した場合、遊技者が使用可能な遊技媒体数を増加させるべく所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、一般入賞口31への入球が発生した場合には10個の遊技球の払い出しが実行され、特電入賞装置32への入球が発生した場合には15個の遊技球の払い出しが実行され、第1作動口33への入球が発生した場合には3個の遊技球の払い出しが実行され、特別入賞装置151への入球が発生した場合には1個の遊技球の払い出しが実行され、V入賞装置531への入球が発生した場合には15個の遊技球の払い出しが実行される。

10

【3001】

なお、V入賞装置531には後述するように排出通路領域535bとV入賞通路領域535cとが設けられており、V入賞装置531に入球した遊技球は排出通路領域535b及びV入賞通路領域535cのいずれかを通過することとなるが、排出通路領域535b及びV入賞通路領域535cのいずれを遊技球が通過したとしても同一個数（具体的には15個）の遊技球の払い出しが実行される。また、上記賞球個数は任意であり、例えば第1作動口33及び特別入賞装置151の賞球個数が同一である構成としてもよく、V入賞装置531の賞球個数の方が特電入賞装置32の賞球個数よりも多い構成としてもよく少ない構成としてもよい。

20

【3002】

その他に、遊技盤24の最下部にはアウト口24aが設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口24aを通過して遊技領域PAから排出される。また、遊技盤24には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘24bが植設されているとともに、風車等の各種部材が配設されている。

【3003】

遊技領域PAの中央部を含むようにして可変表示ユニット36が設けられている。当該可変表示ユニット36の周縁部が遊技盤24の表面よりもパチンコ機10前方に突出していることに起因して、遊技領域PAに発射された遊技球が流下可能な領域が区画されている。具体的には、遊技領域PAにおいて可変表示ユニット36の所定の高さ位置よりも上方の領域である上側領域PA1と、当該上側領域PA1に対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも左方の領域である左側領域PA2と、上側領域PA1に対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも右方の領域である右側領域PA3と、左側領域PA2及び右側領域PA3のそれぞれに対してその下方にて連続し可変表示ユニット36よりも下方の領域である下側領域PA4とに区画されている。

30

【3004】

遊技者が第1発射操作として基準回動量未満である第1範囲の回動量で発射操作装置28の操作を行うことで、上側領域PA1において横方向の中央位置よりも左方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域PA1→左側領域PA2→下側領域PA4の順で遊技球が流下することとなる。その一方、遊技者が第2発射操作として基準回動量以上である第2範囲の回動量で発射操作装置28の操作を行うことで、上側領域PA1において横方向の中央位置よりも右方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域PA1→右側領域PA3→下側領域PA4の順で遊技球が流下することとなる。つまり、遊技者は発射操作装置28の回動操作量を調整することで、左側領域PA2及び右側領域PA3のうち左側領域PA2を遊技球が流下するように遊技を行うことができるとともに、右側領域PA3を遊技球が流下するように遊技を行うことができる。ちなみに、最大回動量で発射操作装置28の操作が行われた場合、上側領域PA1→右側領域PA3→下側領域PA4の順で遊技球が流下することとなる。

40

【3005】

第1作動口33は、下側領域PA4に設置されている。第1作動口33は上向きに開放されており、第1作動口33への遊技球の入球を阻止するための開閉部材といった部材は

50

設けられていない。そして、同一の態様で遊技球が発射されている状況では遊技状態に依存することなく第1作動口33への入賞確率は一定となっている。換言すれば、第1作動口33は、遊技領域PAを当該第1作動口33に向けて流下する遊技球が常時入球可能となっている。また、第1作動口33は可変表示ユニット36に形成されたステージ部36bの真下に配置されており、可変表示ユニット36に形成された誘導通路を介してステージ部36b上に流入した遊技球であってステージ部36bの横方向の中央から可変表示ユニット36外に排出される遊技球は第1作動口33に入賞し易くなっている。

【3006】

上記のように第1作動口33は下側領域PA4に設けられているが、第1作動口33に対して右側領域PA3に向けた上流側には当該右側領域PA3を流下した遊技球が第1作動口33に到達することを不可とするように規制釘24cが設けられている。また、ステージ部36bへの誘導通路の入口が左側領域PA2に対して設けられており右側領域PA3に対して設けられていない。これらの構成により、左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には第1作動口33への入賞は可能であるが、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には第1作動口33への入賞が不可となる。但し、これに限定されることはなく、規制釘24cが設けられていない又はステージ部36bへの誘導通路の入口が右側領域PA3に設けられていることにより、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合であっても第1作動口33への入賞が可能である構成としてもよい。

【3007】

特別入賞装置151は、右側領域PA3に設置されている。つまり、特別入賞装置151は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

【3008】

特別入賞装置151の構成は上記第6の実施形態と同一である。上記第6の実施形態において図45(a)及び図45(b)を参照しながら既に説明したとおり、特別入賞装置151は、遊技領域PAから流入した遊技球を遊技盤24の後方に排出するための排出通路153が形成されたベースユニット151aと、遊技領域PAを流下する遊技球を排出通路153に誘導するための誘導ユニット152と、を備えている。排出通路153の入口部153aは遊技球1個分以上の開口面積を有しており、パチンコ機10前方に向けて開放されている。排出通路153の出口部153b側には検知センサ154が設けられており、当該検知センサ154により特別入賞装置151に入賞した遊技球が検知される。誘導ユニット152は、遊技領域PAにおける入口部153aの前方領域を流下する遊技球を下方から受け、その受けた遊技球を排出通路153内に誘導するためのガイド部材155と、排出通路153内への遊技球の誘導を不可とする初期位置と当該誘導を可能とする誘導位置との間でガイド部材155を変位させるためのガイド駆動部156と、ガイド部材155が初期位置に配置されている状況において排出通路153への遊技球の流入を阻止する阻止位置に配置されガイド部材155が誘導位置に配置されている状況において排出通路153への遊技球の流入を阻止しない非阻止位置に配置される阻止部材157とを備えている。ガイド駆動部156が非駆動状態である場合には特別入賞装置151が閉鎖状態となるとともに、ガイド駆動部156が駆動状態となることにより特別入賞装置151が開放状態となる。閉鎖状態では、遊技領域PAにおける排出通路153の入口部153aの前方領域を流下する遊技球が特別入賞装置151に入球することなく遊技領域PAを下方へと流下する。一方、開放状態では、遊技領域PAにおける入口部153aの前方領域を流下する遊技球が特別入賞装置151に入球することとなる。

【3009】

図269に示すように、右側領域PA3において特別入賞装置151の上方にはスルーゲート35が設けられている。つまり、スルーゲート35は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域P

10

20

30

40

50

A 3を遊技球が流下するように発射操作装置 2 8 が操作されている場合には入賞が可能である。スルーゲート 3 5 は縦方向に貫通した貫通孔を有している。また、スルーゲート 3 5 の鉛直下方の位置には特別入賞装置 1 5 1 が設けられており、さらには右側領域 P A 3 において特別入賞装置 1 5 1 よりも下流側には特電入賞装置 3 2 及び V 入賞装置 5 3 1 が設けられている。したがって、スルーゲート 3 5 に入賞した遊技球が、特別入賞装置 1 5 1、特電入賞装置 3 2 又は V 入賞装置 5 3 1 へ入賞することが可能となっている。

【 3 0 1 0 】

特別入賞装置 1 5 1 及びスルーゲート 3 5 が集約配置された右側領域 P A 3 は、左方が可変表示ユニット 3 6 において遊技盤 2 4 の盤面よりもパチンコ機 1 0 前方に膨出している側壁 3 6 f により規定されているとともに、右方が内枠 1 3 の樹脂ベース 2 1 に設けられ遊技盤 2 4 の盤面よりもパチンコ機 1 0 前方に突出した規制壁により規定されている。当該右側領域 P A 3 は、下側領域 P A 4 よりも横方向の寸法が狭く設定されており、その横方向の寸法は遊技球の入球装置を同じ高さ位置において横方向に並べることが不可な程度となっている。これにより、右側領域 P A 3 を流下する遊技球の流下軌道を所定の範囲に制限することが可能となり、特別入賞装置 1 5 1 及びスルーゲート 3 5 への遊技球の入球が発生し易くなっている。

【 3 0 1 1 】

右側領域 P A 3 においてスルーゲート 3 5 よりも上流側における複数の釘 2 4 b の配列態様が、右側領域 P A 3 を流下する遊技球をスルーゲート 3 5 に誘導するように設定されている。これにより、右側領域 P A 3 を流下する遊技球がスルーゲート 3 5 に入球し易くなっており、スルーゲート 3 5 に入球し易いことに伴って特別入賞装置 1 5 1 に入球し易くなっている。

【 3 0 1 2 】

スルーゲート 3 5 への入賞に基づき特別入賞装置 1 5 1 の誘導ユニット 1 5 2 が非誘導状態から誘導状態に切り換えられることで、特別入賞装置 1 5 1 が閉鎖状態から開放状態となる。具体的には、スルーゲート 3 5 への入賞をトリガとして普図当否判定処理が行われるとともに、遊技領域 P A において遊技球が通過しない領域である左下の隅部に設けられた普図ユニット 3 8 の普図表示部 3 8 a にて絵柄の変動表示が行われる。そして、普図当否判定処理の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部 3 8 a の変動表示が終了された場合に普電開放状態へ移行する。普電開放状態では、誘導ユニット 1 5 2 が所定の態様で誘導状態となることで、特別入賞装置 1 5 1 が所定の態様で開放状態となる。

【 3 0 1 3 】

第 1 作動口 3 3 又は特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生したことに基づいて当否判定処理が行われる。そして、当該当否判定処理の結果は特図ユニット 3 7 及び可変表示ユニット 3 6 の図柄表示装置 4 1 における表示演出を通じて明示される。特図ユニット 3 7 には上記第 1 の実施形態と同様に第 1 特図表示部 3 7 a 及び第 2 特図表示部 3 7 b が設けられている。第 1 特図表示部 3 7 a では第 1 作動口 3 3 への入賞が発生することで取得された第 1 保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した停止結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として大当たり結果及び外れ結果が存在しているが、第 1 特図表示部 3 7 a の停止結果の内容は大当たり結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。なお、本実施形態における当否判定処理の判定結果には上記第 1 の実施形態における時短結果は含まれていない。

【 3 0 1 4 】

第 1 特図表示部 3 7 a における停止結果の表示は、次回の遊技回が開始されて第 1 特図表示部 3 7 a にて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、第 2 特図表示部 3 7 b では特別入賞装置 1 5 1 への入賞が発生することで取得された第 2 保留情報に対して当否判定処理が行われることで絵柄の変動表示が行われる。そして、当否判定処理の判定結果に対応した結果が表示される。この場合、当否判定処理の判定結果として大当

10

20

30

40

50

たり結果及び外れ結果が存在している。第2特図表示部37bの停止結果の内容は大当たり結果及び外れ結果のそれぞれで相違している。第2特図表示部37bにおける停止結果の表示は、次の遊技回が開始されて第2特図表示部37bにて新たな絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。

【3015】

特図ユニット37において、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bに隣接した位置には、第1特図保留表示部37c及び第2特図保留表示部37dが設けられている。遊技球が第1作動口33に入賞した個数は最大4個まで保留され、第1特図保留表示部37cの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。また、遊技球が特別入賞装置151に入賞した個数は最大4個まで保留され、第2特図保留表示部37dの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

10

【3016】

第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bの表示範囲は図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。また、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び第1特図保留表示部37cの全体分の表示範囲も、図柄表示装置41の表示面よりも狭い範囲となっている。これにより、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び第1特図保留表示部37cよりも図柄表示装置41への遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【3017】

第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bにおいて絵柄の変動表示が行われる場合、すなわち遊技回が実行されている場合、図柄表示装置41においてそれに合わせて表示演出が行われる。図柄表示装置41において遊技回用の演出が実行される場合、上記第1の実施形態と同様に図柄列Z1～Z3、第1保留表示領域42a及び第2保留表示領域42bが設定される。また、図柄表示装置41では遊技回用の表示演出だけでなく、大当たり結果となった後などに移行する開閉実行モード中の表示演出などが行われる。なお、本実施形態では上記第1の実施形態における状態示唆領域43の設定は行われない。

20

【3018】

第1作動口33又は特別入賞装置151への入賞に基づき実行された当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合、当該大当たり結果に対応する遊技回が終了した後に開閉実行モードに移行する。開閉実行モードにおいて後述する通常ラウンド遊技が実行される場合には、特電入賞装置32への入賞が可能となる。図269に示すように、特電入賞装置32は、右側領域PA3において特別入賞装置151の下方であってV入賞装置531よりも上方の位置に設けられている。つまり、特電入賞装置32は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

30

【3019】

特電入賞装置32は、遊技盤24の背面側へと通じる図示しない大入賞口を備えているとともに、当該大入賞口を開閉する開閉扉32aを備えている。開閉扉32aは閉鎖状態及び開放状態のいずれかに配置される。具体的には、開閉扉32aは、通常は遊技球が入賞できない閉鎖状態になっており、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に遊技球が入賞可能な開放状態に切り換えられるようになっている。なお、閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。

40

【3020】

開閉実行モードにおいて後述するVラウンド遊技が実行される場合には、V入賞装置531への入賞が可能となる。V入賞装置531は、図269に示すように、右側領域PA3において特別入賞装置151よりも下方の位置に設けられている。つまり、V入賞装置531は左側領域PA2を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域PA3を遊技球が流下するように発射操作装置28が操作されている場合には入賞が可能である。

50

【3021】

V入賞装置531の構成について図269に加えて図270を参照しながら説明する。図270はV入賞装置531の内部構成を説明するための縦断面図である。

【3022】

V入賞装置531は、図269に示すように、遊技球が通過可能な大きさの装置入口531aを備えているとともに、当該装置入口531aを遊技球が通過不可である閉鎖状態と遊技球が通過可能である開放状態とに切り換えるV入賞側開閉部材532を備えている。V入賞側開閉部材532はV入口用の駆動部533により図示しないリンク機構を通じて駆動されることで開放状態となる。

【3023】

装置入口531aに入賞した遊技球は、図270に示すように、V入賞装置531のベース体534に形成された分岐通路535に導出される。分岐通路535は、分岐通路535の入口部分から当該分岐通路535の途中位置に亘って通路方向が横方向に下り傾斜となるように設定された上流通路領域535aと、当該上流通路領域535aの下流側端部に連続し通路方向が鉛直下方となるように設定された排出通路領域535bと、当該排出通路領域535bの途中位置から分岐させて設けられ排出通路領域535bとは異なる側に遊技球を導くためのV入賞通路領域535cとを備えている。この場合、上流通路領域535aは通路方向に対して直交する方向の寸法が遊技球1個分以上であって遊技球2個分未満となっているため、通路方向に対して直交する方向に複数の遊技球が並んだ状態で上流通路領域535aを遊技球が通過することが阻止される。よって、排出通路領域535bにおけるV入賞通路領域535cへの分岐位置に複数の遊技球が同時に到達することが阻止される。

【3024】

排出通路領域535bにおけるV入賞通路領域535cへの分岐箇所には、排出通路領域535bに流入した遊技球をV入賞通路領域535cに誘導するための切換片536が設けられている。切換片536は、ベース体534における排出通路領域535bを基準としてV入賞通路領域535c側とは逆側の領域に回動可能に支持されており、排出通路領域535bの外部に全体が退避した退避位置と、排出通路領域535b内に突出したV誘導位置との間で変位可能となっている。

【3025】

切換片536には図示しない伝達ユニットを通じて切換用駆動部537の駆動力が伝達される。切換用駆動部537は、ステッピングモータである。切換用駆動部537は、主側MPU82と電氣的に接続されている。主側MPU82は、切換片536をV誘導位置に向けて回転させるための誘導パルス信号及び切換片536を退避位置に向けて回転させるための退避パルス信号を出力する。切換片536は、切換用駆動部537が誘導パルス信号を受信する度に退避位置からV誘導位置に向かう方向に所定の回転角度で回転する。また、切換片536は、切換用駆動部537が退避パルス信号を受信する度にV誘導位置から退避位置に向かう方向に所定の回転角度で回転する。退避位置に配置されている切換片536をV誘導位置に配置するために主側MPU82が出力する誘導パルス信号の数は「50」であるとともに、V誘導位置に配置されている切換片536を退避位置に配置するために主側MPU82が出力する退避パルス信号の数も「50」である。

【3026】

ベース体534には、退避位置に配置されている切換片536を検知可能な復帰検知センサ541が設けられている。復帰検知センサ541は、主側MPU82の入力側と電氣的に接続されている。復帰検知センサ541から主側MPU82に対して出力される検知信号は、切換片536が退避位置よりもV誘導位置側に配置されている場合にHレベルとなるとともに、切換片536が退避位置に配置されている場合にLOWレベルとなる。主側MPU82は、復帰検知センサ541から入力される検知信号がLOWレベルであることを確認することにより切換片536が退避位置に配置されている状態であることを把握することができる。主側MPU82は、切換片536が退避位置に配置されている状態

10

20

30

40

50

を基準として、当該状態から誘導パルス信号を50回に亘って出力した場合に切換片536が誘導位置に配置されている状態であると認識する。切換片536が退避位置に配置されている状態は、切換片536が原点に復帰している状態ともいえる。

【3027】

切換片536が退避位置に配置されている場合には、分岐通路535に流入した遊技球はV入賞通路領域535cに誘導されることなく排出通路領域535bを流下する。そして、その遊技球は、排出通路領域535bにおいて切換片536による分岐位置よりも下流に設けられたカウント検知センサ538により検知された後に遊技盤24の後方に排出される。一方、切換片536がV誘導位置に配置されている場合には、分岐通路535に流入した遊技球は切換片536により下方から受けられる。V誘導位置に配置されている状態における切換片536の上面は、V入賞通路領域535cに向けて下り傾斜となっている。これにより、切換片536により下方から受けられた遊技球は自重により、V入賞通路領域535cに流入し、当該V入賞通路領域535cを流下する。そして、その遊技球は、V入賞通路領域535cに設けられたV入賞検知センサ539により検知された後に、遊技盤24の後方に排出される。

10

【3028】

上記第33の実施形態において既に説明したとおり、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合には、入出力確認期間が設定される。本実施形態では、入出力確認期間の開始時に切換片536を退避位置に復帰させる退避位置復帰（原点復帰）が実行される。これにより、RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合には、切換片536が退避位置に復帰している状態とすることができる。

20

【3029】

ベース体534は透明又は半透明な材質により構成されており、遊技盤24に固定されているV入賞装置531を斜め上方から視認することにより、窓パネル62及びベース体534を通じてV入賞装置531の内部に設けられた切換片536を視認可能な状態となっている。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間中に切換片536の状態を視認することにより切換片536の退避位置復帰が正常に行われたか否かを把握することができる。

【3030】

切換片536は、退避位置復帰の実行期間及びV入賞ラウンド遊技の実行期間のみににおいて動作する。また、上述したとおり、切換片536は外部から視認可能である。このため、これらの期間以外の期間において切換片536の動作が行われている場合には切換片536を不正に動作させる行為が行われていることを遊技ホールの管理者が把握可能となっている。

30

【3031】

本実施形態では、開閉実行モードにおいて実行されるラウンド遊技として、通常ラウンド遊技とV入賞ラウンド遊技とが設けられている。通常ラウンド遊技は、上記第1の実施形態におけるラウンド遊技と同様に、予め定められた開放継続期間（例えば30秒）が経過すること、及び予め定められた上限個数の遊技球が特電入賞装置32に入賞することのいずれか一方の条件が満たされるまで特電入賞装置32の開放状態が継続する遊技のことである。V入賞ラウンド遊技は、V入賞装置531の装置入口531aが開放状態となり、遊技球がV入賞装置531の排出通路領域535b又はV入賞通路領域535cを通過可能な状態となる遊技である。このV入賞ラウンド遊技は、V入賞装置531の装置入口531aが開放されてから所定時間（例えば30秒）が経過する場合に終了される。また、V入賞ラウンド遊技は、V入賞装置531のカウント検知センサ538又はV入賞検知センサ539にて検知された遊技球の合計個数が上限数（例えば10個）に達した場合にも終了される。

40

【3032】

図269に示すように、図柄表示装置41の下方には入出力確認表示装置521が設けられている。入出力確認表示装置521は、上記第33の実施形態と同様に、入出力確認

50

期間であることを報知する専用の表示装置である。入出力確認表示装置 5 2 1 は、発光部 5 2 1 a（例えば L E D）を備えており、入出力確認期間において点灯状態となる。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置 5 2 1 を確認することにより入出力確認期間であるか否かを把握することができる。

【3 0 3 3】

図 2 7 1 はパチンコ機 1 0 の電氣的な構成を説明するために説明図である。

【3 0 3 4】

上記第 3 3 の実施形態と同様に、主側 M P U 8 2 の出力側には、特電入賞装置 3 2 の開閉動作を行うために駆動制御される特電用の駆動部 3 2 b と、入出力確認表示装置 5 2 1 とが接続されている（図 2 7 1 参照）。また、図 2 7 1 に示すように、主側 M P U 8 2 の出力側には、特別入賞装置 1 5 1 の開閉動作を行うために駆動制御されるガイド駆動部 1 5 6 と、V 入賞装置 5 3 1 における装置入口 5 3 1 a の開閉動作を行うために制御される V 入口用の駆動部 5 3 3 と、V 入賞装置 5 3 1 における切換片 5 3 6 の回動動作を行うために制御される切換用駆動部 5 3 7 とが接続されている。

【3 0 3 5】

主側 M P U 8 2 の入力側には、V 入賞装置 5 3 1 におけるカウント検知センサ 5 3 8、V 入賞検知センサ 5 3 9 及び復帰検知センサ 5 4 1 が接続されている。また、主側 M P U 8 2 の入力側には、第 1 入賞口検知センサ 5 5 1、第 2 入賞口検知センサ 5 5 2、第 3 入賞口検知センサ 5 5 3、特電検知センサ 5 5 4、第 1 作動口検知センサ 5 5 5、特別入賞検知センサ 5 5 6、アウト口検知センサ 5 5 7 及びゲート検知センサ 5 5 8 が接続されている。図 2 6 9 に示すように遊技盤 2 4 には 3 個の一般入賞口 3 1 が設けられている。一般入賞口 3 1 に入球した遊技球は、第 1～第 3 入賞口検知センサ 5 5 1～5 5 3 のいずれかにおいて検知される。特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球は特電検知センサ 5 5 4 にて検知され、第 1 作動口 3 3 に入球した遊技球は第 1 作動口検知センサ 5 5 5 にて検知され、特別入賞装置 1 5 1 に入球した遊技球は特別入賞検知センサ 5 5 6 にて検知され、アウト口 2 4 a に入球した遊技球はアウト口検知センサ 5 5 7 にて検知される。各種検知センサ 5 5 1～5 5 7 のうちいずれか 1 個の検知センサ 5 5 1～5 5 7 にて検知対象となった遊技球は他の検知センサ 5 5 1～5 5 7 の検知対象となることはない。また、遊技領域 P A を流下する途中でスルーゲート 3 5 を通過する遊技球はゲート検知センサ 5 5 8 にて検知される。上記各検知センサ 5 3 8、5 3 9、5 4 1、5 5 1～5 5 8 は、遊技球の通過を検知していない場合には検知信号として非検知中であることを示す L O W レベル信号を出力し、遊技球の通過を検知している場合には検知信号として検知中であることを示す H I レベル信号を出力する。但し、L O W レベルと H I レベルとの関係が逆であってもよい。

【3 0 3 6】

図 2 7 2 は主側 R A M 8 4 の構成を説明するための説明図である。主側 R A M 8 4 には、上記第 3 3 の実施形態と同様に確認フラグ群 5 2 2 が設けられている。確認フラグ群 5 2 2 には、上記第 3 3 の実施形態と同様に、第 1 入賞確認フラグ 5 2 2 a、第 2 入賞確認フラグ 5 2 2 b、第 3 入賞確認フラグ 5 2 2 c、特電入賞確認フラグ 5 2 2 d、第 1 作動入賞確認フラグ 5 2 2 e、アウト確認フラグ 5 2 2 g 及びゲート入賞確認フラグ 5 2 2 h が設けられている。また、確認フラグ群 5 2 2 には、図 2 7 2 に示すように、特別入賞確認フラグ 5 2 2 i、カウント入賞確認フラグ 5 2 2 j 及び V 入賞確認フラグ 5 2 2 k が設けられている。

【3 0 3 7】

特別入賞確認フラグ 5 2 2 i は、特別入賞検知センサ 5 5 6 にて特別入賞装置 1 5 1 に入球した遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。また、カウント入賞確認フラグ 5 2 2 j は、カウント検知センサ 5 3 8 にて V 入賞装置 5 3 1 に入球して排出通路領域 5 3 5 b に案内された遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグであるとともに、V 入賞確認フラグ 5 2 2 k は、V 入賞検知センサ 5 3 9 にて V 入賞装置 5 3 1 に入球して V 入賞通路領域 5 3 5 c に案内された遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。

【3038】

主側RAM84には、タイマ更新処理（図254）において更新対象となるタイマカウンタ523a～523iが集約されているタイマカウンタエリア523が設けられている。タイマカウンタエリア523には、上記第33の実施形態と同様に、確認用タイマカウンタ523a、切換タイマカウンタ523b、特図側タイマカウンタ523c、普図側タイマカウンタ523d、確認後無効化タイマカウンタ523e、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gが設けられている。また、タイマカウンタエリア523には、図272に示すように、V入賞用無効化タイマカウンタ523h及びV入賞用監視遅延タイマカウンタ523iが設けられている。確認用タイマカウンタ523a、切換タイマカウンタ523b、特図側タイマカウンタ523c、普図側タイマカウンタ523d、V入賞用無効化タイマカウンタ523h及びV入賞用監視遅延タイマカウンタ523iのそれぞれは2バイトからなるとともに、確認後無効化タイマカウンタ523e、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gのそれぞれは1バイトからなる。タイマカウンタエリア523は、合計15バイトの記憶エリアである。

10

【3039】

上記第33の実施形態において既に説明したとおり、確認後無効化タイマカウンタ523eは、入出力確認期間の終了時に設定される確認後無効化期間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。本実施形態における確認後無効化期間は、特電検知センサ554から主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されることにより遊技球が検知された場合においても当該遊技球の検知が無効なものとして扱われる期間であるとともに、特別入賞検知センサ556から主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されることにより遊技球が検出された場合においても当該遊技球の検出が無効なものとして扱われる期間である。確認後無効化期間は、開放状態である特電入賞装置32に入球した遊技球が特電検知センサ554にて検知されるまでの期間として想定される最長期間及び開放状態である特別入賞装置151に入球した遊技球が特別入賞検知センサ556にて検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間であり、具体的には1秒に設定されている。

20

【3040】

入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間を設定することにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特電検知センサ554において検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できるとともに、特電入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。また、入出力確認期間の終了直前に特別入賞装置151に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特別入賞検知センサ556において検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうこと、当該遊技球が検知されたことに基づいて当否判定処理（上記第1の実施形態において既に説明した特図変動開始処理（図20）のステップS805）が実行されてしまうこと及び後述する特別入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。

30

40

【3041】

上記第33の実施形態において既に説明したとおり、普電用監視遅延タイマカウンタ523gは、普電用監視遅延期間であることを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。本実施形態における普電用監視遅延期間は、特別入賞装置151に設けられた特別入賞検知センサ556における遊技球の検知を、開放状態である特別入賞装置151が閉鎖状態となった後においても有効として扱う期間である。普電用監視遅延期間は、開放状態である特別入賞装置151に入賞した遊技球が特別入賞検知センサ556に検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されており、具体的には1秒に設定されている。電役開放当選に基づく特別入賞装置151の開放期間の終了時に普電用監視遅延期間を設定することにより、当該開放期間の終了直前に特別入賞装置

50

151に入球した遊技球が普電用監視遅延期間中に特別入賞検知センサ556にて検知された場合に、当該遊技球の検知を有効として扱うことができる。

【3042】

V入賞用無効化タイマカウンタ523hは、入出力確認用処理の実行期間の終了時に設定されるV入賞用無効化期間であるか否かを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。V入賞用無効化期間は、V入賞ラウンド遊技の実行期間、V入賞用監視遅延期間及び入出力確認期間のいずれでもない状況においてV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538にて遊技球が検知された場合に、当該遊技球の検知は無効化されるが、当該遊技球が検知されたことに基づくV入賞用入球エラー報知は実行されない期間である。

10

【3043】

V入賞用監視遅延タイマカウンタ523iは、開放状態であるV入賞装置531が閉鎖状態となった後においても当該V入賞装置531に設けられたV入賞検知センサ539及びカウント検知センサ538における遊技球の検知を有効として扱う期間であるV入賞用監視遅延期間を主側MPU82にて特定するために利用されるカウンタである。

【3044】

V入賞用無効化期間及びV入賞用監視遅延期間は、開放状態であるV入賞装置531に入賞した遊技球がカウント検知センサ538又はV入賞検知センサ539に検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されている。既に説明したとおり、V入賞装置531は、分岐通路535が排出通路領域535b及びV入賞通路領域535cに分岐している構成である。このため、V入賞装置531に入球した遊技球がカウント検知センサ538又はV入賞検知センサ539にて検知されるまでの期間として想定される最長期間は、特電入賞装置32に入球した遊技球が特電検知センサ554にて検知されるまでに想定される最長期間及び特別入賞装置151に入球した遊技球が特別入賞検知センサ556にて検知されるまでに想定される最長期間よりも長い。V入賞用無効化期間及びV入賞用監視遅延期間は、確認後無効化期間（1秒）、特電用監視遅延期間（1秒）及び普電用監視遅延期間（1秒）よりも長い1.5秒に設定されている。

20

【3045】

タイマカウンタエリア523に設けられた9個のタイマカウンタ523a～523iは、確認用タイマカウンタ523a→切換タイマカウンタ523b→特図側タイマカウンタ523c→普図側タイマカウンタ523d→V入賞用無効化タイマカウンタ523h→V入賞用監視遅延タイマカウンタ523i→確認後無効化タイマカウンタ523e→特電用監視遅延タイマカウンタ523f→普電用監視遅延タイマカウンタ523gの順番で、タイマ更新処理（図254）において更新の対象となる対象タイマカウンタが更新されるように、連続する「0101H」～「010FH」のアドレス範囲に設定されている。

30

【3046】

V入賞用無効化タイマカウンタ523h及びV入賞用監視遅延タイマカウンタ523iの値は、タイマ更新処理（図254）において更新される。V入賞用無効化タイマカウンタ523hの値が1以上である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合にはV入賞用無効化タイマカウンタ523hの値が1減少するとともに、V入賞用無効化タイマカウンタ523hの値が「0」である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には当該状態が維持される。また、V入賞用監視遅延タイマカウンタ523iの値が1以上である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合にはV入賞用監視遅延タイマカウンタ523iの値が1減少するとともに、V入賞用監視遅延タイマカウンタ523iの値が「0」である状態においてタイマ更新処理（図254）が実行される場合には当該状態が維持される。

40

【3047】

図272に示すように、主側RAM84には、切換制御カウンタ542及びV入賞タイマカウンタ543が設けられている。切換制御カウンタ542は、切換片536の状態を主側MPU82にて把握可能とするカウンタである。切換制御カウンタ542には「0」

50

～「3」のいずれかの数値情報が設定される。切換制御カウンタ542の値が「0」である状態は、切換片536が退避位置に維持されている状態であるとともに、切換片536が原点に復帰している状態である。また、切換制御カウンタ542の値が「1」である状態は、切換片536が退避位置から誘導位置に向けて回動している状態であり、切換制御カウンタ542の値が「2」である状態は、切換片536が誘導位置に維持されている状態であり、切換制御カウンタ542の値が「3」である状態は、切換片536が誘導位置から退避位置に向けて回動している状態である。V入賞タイマカウンタ543は、切換用駆動部537に対して誘導パルス信号が出力される状態を継続する時間と、切換用駆動部537に対して退避パルス信号が出力される状態を継続する時間と、切換用駆動部537に対して誘導パルス信号及び退避パルス信号を出力しない状態を継続する時間とがセットされるタイマカウンタである。

10

【3048】

＜主側MPU82にて各種抽選を行うための電氣的構成＞

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、主側RAM84の各種カウンタエリア84bには、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2、リーチ乱数カウンタC3、乱数初期値カウンタCINI、変動種別カウンタCS及び普電乱数カウンタC4が設けられている。

【3049】

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、普電乱数カウンタC4は、例えば、0～250の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。普電乱数カウンタC4は定期的に更新され、スルーゲート35に遊技球が入賞したタイミングで普図保留エリア84cに格納される。そして、所定のタイミングにおいて、その格納された普電乱数カウンタC4の値によって普電役物34aを開放状態に制御するか否かを決定するための普図当否判定処理が行われる。

20

【3050】

図273(a)はサポートモードの内容を説明するための説明図である。サポートモードには、遊技領域PAに対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況と比較した場合に特別入賞装置151が単位時間あたりに開放状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されている。

【3051】

特別入賞装置151が開放状態となる普電開放状態とするか否かを抽選により決定するための普図当否判定処理が実行される場合における判定モードとして、電役開放当選となる確率が相対的に高低となるように普図側の高確率モードと普図側の低確率モードとが存在している。普図側の低確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が1/2であるのに対して、普図側の高確率モードでは1回の普図当否判定処理において電役開放当選となる確率が4/5である。

30

【3052】

普図当否判定処理が実行された場合には普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が開始されることとなる。この場合に、普図表示部38aにおいて絵柄の変動表示が実行される変動表示回の継続期間である普図の変動期間として、当該期間が相対的に長短となるように長期間(10秒)と短期間(1秒)とが存在している。低頻度サポートモードにおける普図の変動期間は10秒であるとともに、高頻度サポートモードにおける普図の変動期間は1秒である。

40

【3053】

普図表示部38aの変動表示回が終了する場合に当該普図表示部38aには当該変動表示回の実行の契機となった普図当否判定処理の判定結果に対応する停止結果が表示される。この場合に、普図当否判定処理の判定結果が外れ結果であった場合には普図表示部38aに外れ結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行は発生しない。普図保留エリア84cに普図側の保留情報が記憶されている場合には、当該普図側の保留情報に対して新たに普図当否判定処理が実行されて普図表示部38aにて新たな変動表示回が

50

開始される。一方、普図当否判定処理の判定結果が電役開放当選に対応する結果であった場合には普図表示部 38 a に当選結果に対応する停止結果が表示され、普電開放状態への移行が発生する。

【3054】

普電開放状態の実行モードとして、特別入賞装置 151 への遊技球の入球期待度が相対的に高低となるように高期待度モードと低期待度モードとが存在している。低期待度モードでは特別入賞装置 151 の短開放が 1 回発生する。短開放の継続期間は 0.7 秒となっている。既に説明したとおり遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、特別入賞装置 151 の短開放が 1 回発生した場合には特別入賞装置 151 への遊技球の入球が基本的には発生することなく発生したとしても入球個数は 1 個程度である。なお、普電開放状態は特別入賞装置 151 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合にも終了するが、短開放が 1 回発生した場合には上記のとおり特別入賞装置 151 への遊技球の入球が発生したとしても 1 個程度であるため特別入賞装置 151 に普電側の上限個数の遊技球が入球することはない。

【3055】

高期待度モードでは特別入賞装置 151 の長開放が 3 回発生する。長開放の継続期間は 2 秒となっている。既に説明したとおり遊技球の発射周期は 0.6 秒であるため、特別入賞装置 151 の長開放が 1 回発生した場合には特別入賞装置 151 に 3 個程度の遊技球が入球し得る。そして、高期待度モードの普電開放状態では特別入賞装置 151 が閉鎖状態となっている普電側のインターバル期間（具体的には 1 秒）を挟んで長開放が 3 回発生する。したがって、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には 9 個程度の遊技球が入球し得る。なお、上記のとおり普電開放状態は特別入賞装置 151 への遊技球の入球個数が普電側の上限個数である 10 個となった場合に終了するため、高期待度モードの普電開放状態が発生した場合には特別入賞装置 151 に普電側の上限個数の遊技球が入球することで当該普電開放状態が終了する事象が発生し得る。

【3056】

上記のように普図当否判定処理の判定モード、普図表示部 38 a における普図の変動期間及び普電開放状態の実行モードが設定されている構成において、低頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の低確率モードとなり、普図の変動期間は長期間（10 秒）となり、普電開放状態の実行モードは短開放 1 回が発生する低期待度モードとなる。また、高頻度サポートモードでは普図当否判定処理の判定モードは普図側の高確率モードとなり、普図の変動期間は短期間（1 秒）となり、普電開放状態の実行モードは長開放 3 回が発生する高期待度モードとなる。したがって、スルーゲート 35 への入賞が発生するように同一の態様で遊技球の発射が継続された場合、単位時間当たりで特別入賞装置 151 が開放状態となっている割合の期待度は、高頻度サポートモードの方が低頻度サポートモードよりも高い。また、低頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが低期待度モードとなるため、低頻度サポートモードである場合には特別入賞装置 151 への遊技球の入球がほとんど発生しないのに対して、高頻度サポートモードでは普電開放状態の実行モードが高期待度モードとなるため、高頻度サポートモードである場合には特別入賞装置 151 への遊技球の入球が第 2 特図保留エリア 112 における第 2 保留情報の上限個数以上発生することが期待できる。

【3057】

上記第 1 の実施形態において既に説明したとおり、当たり乱数カウンタ C1 は、0～9999 の範囲内で順に 1 ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。特に当たり乱数カウンタ C1 が 1 周した場合、その時点の乱数初期値カウンタ CINI の値が当該当たり乱数カウンタ C1 の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタ CINI は、当たり乱数カウンタ C1 と同様のループカウンタである（値＝0～9999）。当たり乱数カウンタ C1 は定期的に更新され、第 1 作動口 33 に入賞した遊技球が検知されたタイミングで第 1 特図保留エリア 111 に格納され、特別入賞装置 151 に入賞した遊技球が検知されたタイミングで第 2 特図保留エリア 112 に格納される。そ

して、この格納された当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報を利用して当否判定処理が行われる。

【3058】

当否判定処理に際して当選となる乱数の値は、主側 ROM 83 に当否テーブルとして記憶されている。上記第 1 の実施形態と同様に、当否判定処理の当否抽選モードとして大当たり結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在している。低確率モードにおいて当否判定処理にて参照される当否テーブルとして、低確率時の当否テーブル 561 が設けられている。また、高確率モードにおいて当否判定処理にて参照される当否テーブルとして高確率時の当否テーブル 562 が設けられている。図 273 (b) は低確率時の当否テーブル 561 を説明するための説明図であり、図 273 (c) は高確率時の当否テーブル 562 を説明するための説明図である。

10

【3059】

図 273 (b) 及び図 273 (c) に示すように当否判定処理の結果として、大当たり結果と外れ結果とが存在している。大当たり結果は、複数回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードへの移行契機となるとともに、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機となり得る当否結果である。外れ結果は、開閉実行モードの移行契機とならずに、さらに当否抽選モード及びサポートモードについても移行契機とならない当否結果である。

【3060】

上記第 1 の実施形態と同様に、本パチンコ機 10 には単位時間当たりの有利度を定める設定値として「設定 1」～「設定 6」が存在している。図 273 (b) に示すように低確率時の当否テーブル 561 では、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。

20

【3061】

具体的には、最も低い設定値である「設定 1」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 50 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9950 個が設定されている。また、「設定 1」よりも 1 段階高い設定値である「設定 2」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 52 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9948 個が設定されている。また、「設定 2」よりも 1 段階高い設定値である「設定 3」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 54 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9946 個が設定されている。また、「設定 3」よりも 1 段階高い設定値である「設定 4」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 56 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9944 個が設定されている。また、「設定 4」よりも 1 段階高い設定値である「設定 5」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 58 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9942 個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定 6」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 60 個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタ C 1 の数値情報の数として 9940 個が設定されている。上記のとおりいずれの設定値であっても低確率モードにおいては時短結果となる確率は大当たり結果となる確率よりも高くなっている。

30

40

【3062】

低確率時の当否テーブル 561 は、低確率モードであり第 1 保留情報に対して当否判定処理が実行される場合及び低確率モードであり第 2 保留情報に対して当否判定処理が実行される場合のいずれであっても参照される。したがって、低確率モードにおいて第 1 保留情報に対して当否判定が実行される場合に大当たり結果が選択される確率は、低確率モードにおいて第 2 保留情報に対して当否判定が実行される場合に大当たり結果が選択される確率と同一である。

【3063】

50

なお、これに限定されることはなく、当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率として、第2保留情報に対して当否判定が実行される場合の方が第1保留情報に対して当否判定が実行される場合よりも高い確率が設定されている構成としてもよく、第1保留情報に対して当否判定が実行される場合の方が第2保留情報に対して当否判定が実行される場合よりも高い確率が設定されている構成としてもよい。

【3064】

図273(c)に示すように高確率時の当否テーブル562では、「設定1」～「設定6」に、大当たり結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として500個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタC1の数値情報の数として9500個が設定されている。

10

【3065】

高確率時の当否テーブル562は、高確率モードであり第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合及び高確率モードであり第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合のいずれであっても参照される。これにより、高確率モードにおいて第1保留情報に対して当否判定処理が実行される場合及び高確率モードにおいて第2保留情報に対して当否判定処理が実行される場合のそれぞれに対応させて当否テーブルを設ける構成に比べて、当否テーブル562を記憶するために必要な主側ROM83の記憶容量を抑えることが可能となる。

【3066】

低確率モードである場合に、「設定1」において大当たり結果となる確率は $1/200$ であり、「設定2」において大当たり結果となる確率は約 $1/192$ であり、「設定3」において大当たり結果となる確率は約 $1/185$ であり、「設定4」において大当たり結果となる確率は約 $1/179$ であり、「設定5」において大当たり結果となる確率は約 $1/172$ であり、「設定6」において大当たり結果となる確率は約 $1/167$ である。また、高確率モードである場合に、「設定1」～「設定6」において大当たり結果となる確率は $1/20$ である。このように、「設定1」～「設定6」のいずれであっても大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合よりも高くなる。

20

【3067】

上記のとおり第1保留情報を契機とした場合及び第2保留情報を契機とした場合のいずれであっても高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高くなるように設定されていることにより高い設定値ほど遊技者にとって有利となる。また、開閉実行モードは単位時間当たりにおける遊技者の持ち球の増加量が最も多くなる期間であり、当該開閉実行モードの移行契機となる大当たり結果の確率が設定値に応じて変動することにより、設定値に対する遊技者の注目度を高めることが可能となる。

30

【3068】

設定値及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合、大当たり結果となる確率は、第1保留情報を契機とした場合と第2保留情報を契機とした場合とで同一となっている。これにより、第1保留情報を契機とした場合と第2保留情報を契機とした場合とで大当たり結果の発生確率に差異が生じないようにすることが可能となる。

【3069】

40

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、種別乱数カウンタC2は、0～29の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。種別乱数カウンタC2は定期的に更新され、第1作動口33に入賞した遊技球が検知されたタイミングで第1特図保留エリア111に格納され、特別入賞装置151に入賞した遊技球が検知されたタイミングで第2特図保留エリア112に格納される。

【3070】

本実施形態においても、開閉実行モードにおけるラウンド遊技の実行回数、開閉実行モード終了後の当否抽選モード及び開閉実行モード終了後のサポートモードという3つの条件に差異を設けることにより、複数の大当たり結果が設定されている。第1保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合における大当たり用の振分判定処理

50

にて参照される大当たり振分テーブルとして第1特図用の大当たり振分テーブル563（図274（a）参照）が設けられている。また、第2保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択された場合における大当たり用の振分判定処理にて参照される大当たり振分テーブルとして第2特図用の大当たり振分テーブル564（図274（b）参照）が設けられている。

【3071】

ここで、開閉実行モードが終了した後の遊技状態について説明する。遊技状態としては、低確率モードであって低頻度サポートモードである通常遊技状態と、高確率モードであって高頻度サポートモードである高確率状態と、低確率モードであって高頻度サポートモードである時短状態とが設定されている。高確率状態及び時短状態では、通常遊技状態よりも1回の遊技回が消化されるのに要する期間の平均期間が短くなる。

10

【3072】

図274（a）は第1特図用の大当たり振分テーブル563を説明するための説明図であり、図274（b）は第2特図用の大当たり振分テーブル564を説明するための説明図である。図274（a）に示すように第1特図用の大当たり振分テーブル563には、大当たり結果の種類として、5R通常結果、5R確変結果及び16R確変結果が設定されているとともに、図274（b）に示すように第2特図用の大当たり振分テーブル564には、大当たり結果の種類として、5R確変結果及び16R確変結果が設定されている。

【3073】

図274（c）は5R通常結果、5R確変結果及び16R確変結果の内容を説明するための説明図である。5R通常結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用の振分判定処理にて選択されることで発生する。図274（c）に示すように、5R通常結果は、開閉実行モードにおいて通常ラウンド遊技が5回実行される大当たり結果である。5R通常結果が発生したことに基づく開閉実行モードが終了した場合には、当否抽選モードが低確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる。つまり、遊技状態が時短状態となる。この場合の低確率モードは少なくとも次の開閉実行モードが発生するまで継続する。また、高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。つまり、5R通常結果が発生したことに基づく開閉実行モードが終了して時短状態となった後、開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合には、時短状態が終了するとともに通常遊技状態となる。

20

30

【3074】

5R確変結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用の振分判定処理にて選択されることで発生する。図274（c）に示すように、5R確変結果は、開閉実行モードにおいて4回の通常ラウンド遊技及び1回のV入賞ラウンド遊技が実行される大当たり結果である。V入賞ラウンド遊技は、合計5回実行されるラウンド遊技のうち最後（5回目）のラウンド遊技として実行される。なお、開閉実行モードにおいてV入賞ラウンド遊技が最後のラウンド遊技として実行される構成に限定されることはなく、例えばV入賞ラウンド遊技が最初（1回目）のラウンド遊技として実行される構成としてもよく、V入賞ラウンド遊技が3回目のラウンド遊技として実行される構成としてもよい。

40

【3075】

5R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードにおいてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生した場合には当該開閉実行モードの終了後に、当否抽選モードが高確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる。つまり、遊技状態が高確率状態となる。当該高確率状態は次の開閉実行モードが発生するまで継続される。一方、5R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードにおいてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生しなかった場合には当該開閉実行モードの終了後に、当否抽選モードが低確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポ

50

ートモードとなる。つまり、遊技状態が時短状態となる。この場合の低確率モードは少なくとも次回の開閉実行モードが発生するまで継続する。また、高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。つまり、5R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードが終了して時短状態となった後、開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合には、時短状態が終了するとともに通常遊技状態となる。

【3076】

16R確変結果は、既に説明したとおり当否判定処理にて大当たり結果となり大当たり用の振分判定処理にて選択されることで発生する。図274(c)に示すように、16R確変結果は、開閉実行モードにおいて15回の通常ラウンド遊技及び1回のV入賞ラウンド遊技が実行される大当たり結果である。V入賞ラウンド遊技は、合計16回実行されるラウンド遊技のうち最後(16回目)のラウンド遊技として実行される。なお、開閉実行モードにおいてV入賞ラウンド遊技が最後のラウンド遊技として実行される構成に限定されることはなく、例えばV入賞ラウンド遊技が最初(1回目)のラウンド遊技として実行される構成としてもよく、V入賞ラウンド遊技が8回目のラウンド遊技として実行される構成としてもよい。

【3077】

16R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードにおいてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生した場合には当該開閉実行モードの終了後に、当否抽選モードが高確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる。つまり、遊技状態が高確率状態となる。当該高確率状態は次の開閉実行モードが発生するまで継続される。一方、16R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードにおいてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生しなかった場合には当該開閉実行モードの終了後に、当否抽選モードが低確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる。つまり、遊技状態が時短状態となる。この場合の低確率モードは少なくとも次回の開閉実行モードが発生するまで継続する。また、高頻度サポートモードは開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合に終了する。100回の遊技回が消化された場合にはサポートモードは低頻度サポートモードとなる。つまり、16R確変結果が発生したことに基づく開閉実行モードが終了して時短状態となった後、開閉実行モードが新たに発生することなく100回の遊技回が消化された場合には、時短状態が終了するとともに通常遊技状態となる。

【3078】

図274(a)に示すように、第1特図用の大当たり振分テーブル563には振分対象となる大当たり結果の種類として、5R通常結果、5R確変結果及び16R確変結果が設定されている。第1特図用の大当たり振分テーブル563では、「0~14」の種別乱数カウンタC2が5R通常結果に対応しており、「15~22」の種別乱数カウンタC2が5R確変結果に対応しており、「23~29」の種別乱数カウンタC2が16R確変結果に対応している。一方、図274(b)に示すように、第2特図用の大当たり振分テーブル564には振分対象となる大当たり結果の種類として、5R確変結果及び16R確変結果が設定されている。第2特図用の大当たり振分テーブル564では、「0~14」の種別乱数カウンタC2が5R確変結果に対応しており、「15~29」の種別乱数カウンタC2が16R確変結果に対応している。

【3079】

V入賞ラウンド遊技を含む開閉実行モードが実行される確率は、第2特図用の大当たり振分テーブル564の方が第1特図用の大当たり振分テーブル563よりも多い。また、ラウンド遊技の平均実行回数も、第2特図用の大当たり振分テーブル564の方が第1特図用の大当たり振分テーブル563よりも多い。したがって、大当たり当選となった場合に選択され得る大当たり結果の種類としては、第1作動口33への入賞が発生して当否判定処理が行われる場合よりも、特別入賞装置151への入賞が発生して当否判定処理が行

10

20

30

40

50

われる場合の方が遊技者にとって有利である。

【3080】

上記第1の実施形態において既に説明したとおり、リーチ乱数カウンタC3は、例えば0～238の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。リーチ表示は、最終的に同一の図柄の組合せが停止表示される遊技回ではリーチ乱数カウンタC3の値に関係なく実行される。また、外れ結果に対応した遊技回では、主側ROM83に記憶されたリーチ用テーブルを参照してリーチ乱数カウンタC3がリーチ表示の発生に対応している場合にリーチ表示が実行される。

【3081】

上記第1の実施において既に説明したとおり、変動種別カウンタCSは、例えば0～198の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に「0」に戻る構成となっている。変動種別カウンタCSは、特図表示部37a, 37bにおける変動表示期間と、図柄表示装置41における図柄の変動表示期間とを主側MPU82において決定する上で用いられる。変動種別カウンタCSは繰り返し更新され、特図表示部37a, 37bにおける変動表示の開始時及び図柄表示装置41による図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して取得される。

【3082】

<特図特電制御処理>

次に、主側MPU82にて実行される特図特電制御処理について図275のフローチャートを参照しながら説明する。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、特図特電制御処理はタイム割込み処理（図249）のステップSG917にて実行される。

【3083】

まず保留情報の取得処理を実行する（ステップSI201）。保留情報の取得処理では、第1作動口33への入賞が発生しており、さらに第1特図保留エリア111に記憶されている第1保留情報の数が上限記憶数未満（具体的には「4」未満）である場合、第1保留情報を取得するための処理を実行する。第1保留情報を取得するための処理では、まず第1特図保留エリア111に記憶されている未処理の第1保留情報の数を主側MPU82にて把握するために主側RAM84に設けられた第1特図保留カウンタの値を1加算する。当該第1特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第1特図保留表示部37cの表示内容が調整される。これにより、第1特図保留表示部37cの表示内容が第1特図保留エリア111に格納されている第1保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第1特図保留エリア111のうち最初の記憶エリア、すなわち今回の第1作動口33への入賞に基づいて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する。その後、第1保留コマンドを音光側MPU93に送信する。これにより、図柄表示装置41の第1保留表示領域42aの表示内容が第1保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側MPU103によって図柄表示装置41が表示制御される。

【3084】

保留情報の取得処理では、特別入賞装置151への入賞が発生しており、さらに第2特図保留エリア112に記憶されている第2保留情報の数が上限記憶数未満（具体的には「4」未満）であることを条件として、第2保留情報を取得するための処理を実行する。第2保留情報を取得するための処理では、まず第2特図保留エリア112に記憶されている未処理の第2保留情報の数を主側MPU82にて把握するために主側RAM84に設けられた第2特図保留カウンタの値を1加算する。当該第2特図保留カウンタの値に応じて、特図ユニット37における第2特図保留表示部37dの表示内容が調整される。これにより、第2特図保留表示部37dの表示内容が第2特図保留エリア112に格納されている第2保留情報の数に対応することとなる。その後、当たり乱数カウンタC1、種別乱数カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、第2特図保留エリア112のうち最初の記憶エリア、すなわち今回の特別入賞装置151への入賞に基づいて1加算した保留記憶数と対応する記憶エリアに格納する。その後、第2保留コマンドを音光側MPU93に

10

20

30

40

50

送信する。これにより、図柄表示装置 4 1 の第 2 保留表示領域 4 2 b の表示内容が第 2 保留情報の増加に対応する表示内容となるように表示側 M P U 1 0 3 によって図柄表示装置 4 1 が表示制御される。

【3085】

ステップ S I 2 0 1 にて保留情報の取得処理を実行した後は、主側 R A M 8 4 に設けられた特図特電カウンタの数値情報を読み出すとともに（ステップ S I 2 0 2）、主側 R O M 8 3 に設けられた特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップ S I 2 0 3）。そして、特図特電アドレステーブルから特図特電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップ S I 2 0 4）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップ S I 2 0 5）。

10

【3086】

特図特電カウンタは、特図特電制御処理におけるステップ S I 2 0 6 ～ステップ S I 2 1 2 の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側 M P U 8 2 にて把握するためのカウンタであり、特図特電アドレステーブルには、特図特電カウンタの数値情報に対応させて、ステップ S I 2 0 6 ～ステップ S I 2 1 2 の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されている。特図特電カウンタの値が「0」である場合にはステップ S I 2 0 6 の特図変動開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「1」である場合にはステップ S I 2 0 7 の特図変動中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「2」である場合にはステップ S I 2 0 8 の特図確定中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「3」である場合にはステップ S I 2 0 9 のラウンド開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「4」である場合にはステップ S I 2 1 0 のラウンド用開放中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「5」である場合にはステップ S I 2 1 1 のラウンド用閉鎖中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「6」である場合にはステップ S I 2 1 2 のラウンド終了処理にジャンプする。以下、ステップ S I 2 0 6 ～ステップ S I 2 1 2 の各処理について個別に説明する。

20

【3087】

<特図変動開始処理>

まずステップ S I 2 0 6 の特図変動開始処理について、図 2 7 6 のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図変動開始処理は既に遊技回が実行されている状況及び開閉実行モードが実行されている状況においては実行されない。

30

【3088】

ステップ S I 3 0 1 ～ステップ S I 3 0 4 では、上記第 1 の実施形態における特図変動開始処理（図 2 0）のステップ S 8 0 1 ～ステップ S 8 0 4 と同様の処理を実行する。具体的には、第 2 特図保留エリア 1 1 2 に第 2 保留情報が格納されておらず第 1 特図保留エリア 1 1 1 に第 1 保留情報が格納されている場合（ステップ S I 3 0 1：Y E S、ステップ S I 3 0 2：N O）、第 1 データ設定処理を実行する（ステップ S I 3 0 3）。第 1 データ設定処理の処理内容は上記第 1 の実施形態において既に説明したとおりである。一方、第 2 特図保留エリア 1 1 2 に第 2 保留情報が格納されている場合には（ステップ S I 3 0 1 及びステップ S I 3 0 2：Y E S）、当該第 2 保留情報よりも先に取得された第 1 保留情報が第 1 特図保留エリア 1 1 1 に記憶されていたとしても、第 2 データ設定処理を実行する（ステップ S I 3 0 4）。第 2 データ設定処理の処理内容は上記第 1 の実施形態において既に説明したとおりである。第 2 保留情報が記憶されている場合には当該第 2 保留情報よりも先に取得された第 1 保留情報が記憶されていたとしても第 2 保留情報が特図用の実行エリア 1 1 3 へのシフト対象となる。これにより、第 1 保留情報よりも第 2 保留情報の方が、遊技回の開始対象として優先して消化されることとなる。

40

【3089】

ステップ S I 3 0 3 の処理又はステップ S I 3 0 4 の処理を実行した場合、当否判定処理を実行する（ステップ S I 3 0 5）。当否判定処理では、当否抽選モードが低確率モードであれば遊技回の開始対象が第 1 保留情報及び第 2 保留情報のいずれであっても低確率時の当否テーブル 5 6 1（図 2 7 3（b）参照）を主側 R O M 8 3 から主側 R A M 8 4 に

50

読み出すとともに、当否抽選モードが高確率モードであれば遊技回の開始対象が第1保留情報及び第2保留情報のいずれであっても高確率時の当否テーブル562（図273（c）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。当否テーブル561、562を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、当否判定用の情報すなわち当たり乱数カウンタC1から取得した数値情報を読み出し、その読み出した数値情報が、上記読み出した当否テーブル561、562のうち現状の使用対象の設定値に対応するデータ群において、大当たり結果として設定されている数値情報のいずれかと一致しているか否かを判定する。

【3090】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップS I 306：YES）、大当たり用の振分判定処理を実行する（ステップS I 307）。大当たり用の振分判定処理では、遊技回の開始対象が第1保留情報であれば第1特図用の大当たり振分テーブル563（図274（a）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出し、遊技回の開始対象が第2保留情報であれば第2特図用の大当たり振分テーブル564（図274（b）参照）を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。大当たり振分テーブル563、564を読み出した後は、特図用の実行エリア113に格納された保留情報から、振分判定用の情報すなわち種別乱数カウンタC2から取得した数値情報を読み出し、上記大当たり振分テーブル563、564を参照することにより、その読み出した数値情報がいずれの種類の当当たり結果に対応しているのかを特定する。

【3091】

大当たり用の振分判定処理を実行した後は、当該大当たり用の振分判定処理にて特定した大当たり結果の種類に対応する主側RAM84のフラグに「1」をセットする（ステップS I 308）。その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS I 309）。具体的には、今回の遊技回の開始対象である特図表示部37a、37bに最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに停止表示される絵柄の停止態様の種類が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップS I 309では、ステップS I 308にて特定した大当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側RAM84に記憶する。なお、各大当たり結果に1対1で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の当当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている大当たり結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別乱数カウンタC2の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。

【3092】

当否判定処理の結果が大当たり結果ではない場合（ステップS I 306：NO）には、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップS I 310）。具体的には、今回の遊技回において第1特図表示部37a又は第2特図表示部37bに最終的に停止表示させる絵柄の態様の情報を、主側ROM83に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側RAM84に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び時短結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっており、さらに第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bにおいて共通の1種類となっている。

【3093】

ステップS I 309の処理又はステップS I 310の処理を実行した場合、変動表示期間の特定処理を実行する（ステップS I 311）。変動表示期間の特定処理では、まず主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされているか否かを判定する。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、高確率フラグは、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを主側MPU82にて特定するためのフラグである。高確率フラグに「1」がセットされている場合、つまり当否抽選モードが高確率モードである場合、高確率用の

10

20

30

40

50

テーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。高確率用のテーブル群を参照して変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を高確率用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。リーチ表示態様の変動表示期間として、15秒の期間、18秒の期間及び20秒の期間が存在している。これらのリーチ表示態様の変動表示期間は、リーチ表示が発生しない場合における変動表示期間よりも長い期間である。

10

【3094】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、高確率モードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

【3095】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。これにより、高確率モードにおいて第2保留情報が取得される状況を担保することが可能となる。

20

【3096】

主側RAM84の高確率フラグに「1」がセットされていない場合には、主側RAM84に設けられた高頻度フラグに「1」がセットされているか否かを判定する。高頻度フラグは、サポートモードが高頻度サポートモードであることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。高頻度フラグに「1」がセットされている場合、つまり当否抽選モードが低確率モードであってサポートモードが高頻度サポートモードである場合（遊技状態が時短状態である場合）には、高頻度サポート用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。高頻度サポート用のテーブル群を参照して変動表示期間の選択処理が実行される状況においては、今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を高頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。この場合におけるリーチ表示態様の変動表示期間の選択態様は高確率用のテーブル群が参照される場合と異なっており、具体的には高確率用のテーブル群が参照された場合の方が高頻度サポート用のテーブル群が参照される場合よりも長い変動表示期間が選択され易くなっている。但し、この関係が逆であってもよい。

30

40

【3097】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に2個以上の第2保留情報が記憶されている状況で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、高頻度サポートモードにおいて第2保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

50

【3098】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第2保留情報が遊技回の実行対象であって第2特図保留エリア112に1個の第2保留情報が記憶されている状態で開始された遊技回である場合、又は今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象となっている場合、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の中期間（具体的には10秒）の情報を読み出す。これにより、高頻度サポートモードにおいて第2保留情報が取得される状況を担保することが可能となる。

【3099】

高頻度フラグに「1」がセットされていない場合、つまり当否抽選モードが低確率モードであるとともにサポートモードが低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合には、低頻度サポート用のテーブル群を主側ROM83から主側RAM84に読み出す。今回の遊技回において大当たり結果が発生する場合、又は当否判定処理の結果が外れ結果であるとともに実行対象となっている保留情報におけるリーチ乱数カウンタC3に対応する数値情報が外れリーチ表示の発生に対応しており今回の遊技回において外れリーチ表示が発生する場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルに対して照合することで、リーチ表示態様の変動表示期間の情報を読み出す。低頻度サポート用のテーブル群におけるリーチ対応のテーブルには、リーチ表示態様の変動表示期間として15秒の期間、18秒の期間及び20秒の期間が設定されている。低確率モード及び低頻度サポートモードである場合における特図表示部37a, 37bのリーチ表示態様の最短変動表示期間は15秒である。

【3100】

今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合には、第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に3個以上の第1保留情報が記憶されている状態で開始された遊技回であれば、今回の遊技回の変動表示期間として特図側の最短期間（具体的には3秒）の情報を読み出す。これにより、低頻度サポートモードにおいて第1保留情報を契機とした遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

【3101】

一方、今回の遊技回において大当たり結果が発生することなくさらに外れリーチ表示も発生しない場合において第1保留情報が遊技回の実行対象であって第1特図保留エリア111に1～2個の第1保留情報が記憶されている状態で開始された遊技回である場合、又は第2保留情報が遊技回の実行対象である場合、その時点の変動種別カウンタCSの数値情報を低頻度サポート用のテーブル群における完全外れ結果対応のテーブルに対して照合することで、完全外れ結果対応の変動表示期間の情報を読み出す。完全外れ結果対応の変動表示期間の情報は複数種類設定されており、いずれの完全外れ結果対応の変動表示期間であっても、特図側の最短期間（3秒）よりも長く、時短結果対応の変動表示期間及びリーチ表示が発生することに対応する変動表示期間よりも短い期間となっている。具体的には、完全外れ結果対応の変動表示期間として5秒、6秒、7秒及び8秒が設定されており、これらのうち取得された変動種別カウンタCSの値に対応する期間が今回の遊技回の変動表示期間として選択される。

【3102】

高確率用のテーブル群、高頻度サポート用のテーブル群又は低頻度サポート用のテーブル群を読み出した場合には、その読み出したテーブル群を参照して変動表示期間の選択処理を実行する。当該選択処理の内容は既に説明したとおりである。そして、当該変動表示期間の選択処理にて選択した変動表示期間の情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523における特図側タイマカウンタ523cにセットする。特図側タイマカウンタ523cにセットされた数値情報の更新は、タイマ更新処理（図254）にて実行される。

【3103】

ステップSI311にて変動表示期間の特定処理を実行した後は、今回の開始対象とな

10

20

30

40

50

っている遊技回に対応する変動用コマンド及び種別コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS I 3 1 2）。変動用コマンドには、ステップS I 3 1 1にて特定された変動表示期間の情報が含まれるとともに開始対象となっている遊技回が第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうちいずれに対応しているのかを示す情報が含まれる。また、種別コマンドには、今回の開始対象となっている遊技回が大当たり結果に対応しているか否かの情報が含まれるとともに、大当たり結果に対応している場合にはいずれの種類の大当たり結果であるかを示す情報が含まれる。

【3104】

その後、第1特図表示部37a及び第2特図表示部37bのうち今回の遊技回の開始対象となっている表示部において、絵柄の変動表示を開始させる（ステップS I 3 1 3）。そして、特図特電カウンタの値を1加算する（ステップS I 3 1 4）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップS I 2 0 7）に対応する「1」となる。

【3105】

なお、音光側MPU93は変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合、それらコマンドに対応した遊技回用演出の実行内容を決定するための処理を実行する。そして、その処理結果に対応するテーブルに従って表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。これにより、今回の遊技回の変動表示期間に亘って表示発光部64における発光演出、及びスピーカ部65における音出力演出が実行される。また、音光側MPU93は今回決定した遊技回用演出の実行内容に対応するコマンドを表示側MPU103に送信する。表示側MPU103は当該コマンドを受信することにより、そのコマンドに対応するテーブルに従って図柄表示装置41の表示制御を実行する。これにより、今回の遊技回の変動表示期間に亘って図柄表示装置41における表示演出が実行される。

【3106】

<特図変動中処理>

次に、特図特電制御処理（図275）のステップS I 2 0 7にて実行される特図変動中処理について説明する。

【3107】

特図側タイマカウンタ523cの値が1以上であり今回の遊技回の変動表示期間が経過していない場合であって、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部37a、37bの表示内容の更新タイミングである場合、当該特図表示部37a、37bの表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、制御対象の特図表示部37a、37bにおける絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。

【3108】

特図表示部37a、37bにおける絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定結果及び振分判定結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置41における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が1周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、変動表示期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部37a、37bを表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。

【3109】

一方、特図側タイマカウンタ523cの値が「0」である場合、すなわち変動表示期間が経過している場合、最終停止コマンドを音光側MPU93に送信する。その後、遊技回の開始時に特図変動開始処理（図276）におけるステップS I 3 0 9又はステップS I 3 1 0にて主側RAM84に記憶された特図表示部37a、37bの絵柄の停止態様の情報を読み出す。これにより、制御対象の特図表示部37a、37bにおいて今回の遊技回の遊技結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。その後、特図側タイマカウンタ523cに、最終停止期間（具体的には0.5sec）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。その後、特図特電カウンタの値

10

20

30

40

50

を1加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特図確定中処理（ステップS I 2 0 8）に対応する「2」となる。

【3 1 1 0】

なお、音光側M P U 9 3は最終停止コマンドを受信した場合、それに対応したコマンドを表示側M P U 1 0 3に送信する。表示側M P U 1 0 3は当該コマンドを受信した場合、今回の遊技回の停止結果に対応する図柄の組合せを最終停止期間に亘って図柄表示装置4 1にて確定表示させる。

【3 1 1 1】

＜特図確定中処理＞

次に、特図特電制御処理（図2 7 5）のステップS I 2 0 8にて実行される特図確定中処理について説明する。

【3 1 1 2】

特図確定中処理では、特図側タイマカウンタ5 2 3 cの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合、遊技状態が時短状態であることを条件として主側R A M 8 4に設けられた時短状態カウンタの値を1減算する。時短状態カウンタは、時短状態において実行可能な残りの遊技回数を主側M P U 8 2にて把握可能とするカウンタである。既に説明したとおり、5 R確変結果又は1 6 R確変結果を契機とした開閉実行モードにおいてV入賞が発生することなく当該開閉実行モードが終了することで時短状態となるが、当該時短状態において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が時短状態継続回数である1 0 0回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても通常遊技状態（低確率モード及び低頻度サポートモード）となる。当該1減算後の時短状態カウンタの値が「0」である場合には、主側R A M 8 4の高頻度フラグを「0」クリアすることにより低頻度サポートモードに設定する。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。

【3 1 1 3】

特図側タイマカウンタ5 2 3 cの値が「0」であり最終停止期間が経過している場合、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果であることを条件として、オープニング期間（具体的には5秒）に対応する情報（「1 2 5 0」）を特図側タイマカウンタ5 2 3 cにセットし、オープニングコマンドを音光側M P U 9 3に送信する。音光側M P U 9 3はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング期間に対応する演出が、図柄表示装置4 1、表示発光部6 4及びスピーカ部6 5にて行われるようにする。その後、特図特電カウンタの値を1加算する。これにより、特図特電カウンタの値はラウンド開始処理（ステップS I 2 0 9）に対応する「3」となる。一方、今回の遊技回の遊技結果が大当たり結果ではない場合には、特図特電カウンタを「0」クリアする。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS I 2 0 6）に対応する「0」となる。

【3 1 1 4】

＜ラウンド開始処理＞

次に、特図特電制御処理（図2 7 5）のステップS I 2 0 9にて実行されるラウンド開始処理について図2 7 7のフローチャートを参照しながら説明する。

【3 1 1 5】

まずオープニング期間が経過しているか否かを判定する（ステップS I 4 0 1）。ステップS I 4 0 1では、主側R A M 8 4のタイマカウンタエリア5 2 3における特図側タイマカウンタ5 2 3 cの値が「0」である場合に肯定判定を行う。オープニング期間が経過しており今回の遊技結果が5 R通常結果又は5 R確変結果である場合（ステップS I 4 0 1：Y E S、ステップS I 4 0 2：Y E S）には、主側R A M 8 4のラウンドカウンタに「5」をセットする（ステップS I 4 0 3）。また、オープニング期間が経過しており今回の遊技結果が1 6 R確変結果である場合（ステップS I 4 0 1：Y E S、ステップS I 4 0 2：N O）には、主側R A M 8 4のラウンドカウンタに「1 6」をセットする（ステップS I 4 0 4）。ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおける残りのラウンド遊技の回数を主側M P U 8 2にて特定するためのカウンタである。

【3 1 1 6】

ステップS I 4 0 3又はステップS I 4 0 4の処理を行った場合には、開放継続期間の設定処理を実行する(ステップS I 4 0 5)。既に説明したとおり、今回の遊技結果が5 R通常結果、5 R確変結果及び1 6 R確変結果のいずれの場合においても開閉実行モードにおける最初(1回目)のラウンド遊技は通常ラウンド遊技となる。開放継続期間の設定処理(ステップS I 4 0 5)では、通常ラウンド遊技の開放継続期間(具体的には3 0秒)に対応する「7 5 0 0」という数値情報を特図側タイマカウンタ5 2 3 cにセットする。

【3 1 1 7】

その後、特電用の駆動信号出力処理を実行する(ステップS I 4 0 6)。特電用の駆動信号出力処理では、特電用の駆動部3 2 bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部3 2 bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置3 2を開放状態とする。その後、主側RAM 8 4の特電開放状態フラグに「1」をセットする(ステップS I 4 0 7)。これにより、通常ラウンド遊技における特電入賞装置3 2の開放期間であることを主側MPU 8 2にて把握可能とすることができる。その後、特図特電カウンタの値を1加算する(ステップS I 4 0 8)。これにより、特図特電カウンタの値はラウンド用開放中処理(ステップS I 2 1 0)に対応する「4」となる。

【3 1 1 8】

<ラウンド用開放中処理>

次に、特図特電制御処理(図2 7 5)のステップS I 2 1 0にて実行されるラウンド用開放中処理について、図2 7 8のフローチャートを参照しながら説明する。

【3 1 1 9】

主側RAM 8 4の確認フラグ群5 2 2における特電入賞確認フラグ5 2 2 dに「1」がセットされていない場合(ステップS I 5 0 1: NO)、主側RAM 8 4のV入賞確認フラグ5 2 2 kに「1」がセットされているか否かを判定し(ステップS I 5 0 2)、V入賞確認フラグ5 2 2 kに「1」がセットされていない場合(ステップS I 5 0 2: NO)には、主側RAM 8 4のカウント入賞確認フラグ5 2 2 jに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS I 5 0 3)。主側RAM 8 4の確認フラグ群5 2 2における特電入賞確認フラグ5 2 2 dに「1」がセットされている場合(ステップS I 5 0 1: YES)、主側RAM 8 4のV入賞確認フラグ5 2 2 kに「1」がセットされている場合(ステップS I 5 0 2: YES)、又は主側RAM 8 4のカウント入賞確認フラグ5 2 2 jに「1」がセットされている場合(ステップS I 5 0 3: YES)には、主側RAM 8 4の入賞カウンタの値を「1」減算し(ステップS I 5 0 4)、当該1減算後の入賞カウンタの値が「0」であるか否かを判定する(ステップS I 5 0 5)。

【3 1 2 0】

既に説明したとおり、通常ラウンド遊技が実行されている状況においては特電入賞装置3 2への入球が可能であるとともにV入賞装置5 3 1への入球が不可である。特電入賞確認フラグ5 2 2 d、V入賞確認フラグ5 2 2 k及びカウント入賞確認フラグ5 2 2 jのうち通常ラウンド遊技が実行されている状況において「1」がセットされ得るフラグは特電入賞確認フラグ5 2 2 dのみである。通常ラウンド遊技において特電入賞装置3 2に入球した遊技球の数は特電入賞確認フラグ5 2 2 dに「1」がセットされている状態となる回数に基づいて把握される。

【3 1 2 1】

V入賞ラウンド遊技が実行されている状況においてはV入賞装置5 3 1への入球が可能であるとともに特電入賞装置3 2への入球が不可である。また、通常ラウンド遊技とV入賞ラウンド遊技との間には、通常ラウンド遊技の終了時に設定される特電用監視遅延期間(1秒)よりも長いインターバル期間(3秒)が設定されている。このため、特電入賞確認フラグ5 2 2 d、V入賞確認フラグ5 2 2 k及びカウント入賞確認フラグ5 2 2 jのうちV入賞ラウンド遊技が実行されている状況において「1」がセットされ得るフラグはV入賞確認フラグ5 2 2 k及びカウント入賞確認フラグ5 2 2 jのみである。V入賞ラウンド遊技の実行期間においては、切換片5 3 6の回動制御が実行されて、V入賞装置5 3 1に入球した遊技球が排出通路領域5 3 5 bに案内される状態又はV入賞装置5 3 1に入球

10

20

30

40

50

した遊技球がV入賞通路領域535cに案内される状態が作り出される。V入賞ラウンド遊技の実行期間においてラウンド用開放中処理(図278)が実行される状況は、V入賞確認フラグ522k及びカウント入賞確認フラグ522jのいずれか一方に「1」がセットされている状況又はV入賞確認フラグ522k及びカウント入賞確認フラグ522jのいずれにも「1」がセットされていない状況である。V入賞ラウンド遊技においてV入賞装置531に入球した遊技球の数はV入賞確認フラグ522k又はカウント入賞確認フラグ522jに「1」がセットされている状態となる回数に基づいて把握される。

【3122】

ステップS I 5 0 3にて否定判定を行った場合、又はステップS I 5 0 5にて否定判定を行った場合には、開放継続期間が経過したか否かを判定する(ステップS I 5 0 6)。ステップS I 5 0 6では、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における特図側タイマカウンタ523cの値が「0」である場合に肯定判定を行う。

10

【3123】

ステップS I 5 0 5にて肯定判定を行った場合、又はステップS I 5 0 6にて肯定判定を行った場合には、主側RAM84のV入賞開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップS I 5 0 7)。V入賞開放状態フラグは、V入賞ラウンド遊技にてV入賞装置531が開放状態となっていることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。

【3124】

V入賞開放状態フラグに「1」がセットされていない場合(ステップS I 5 0 7:NO)、すなわち特電入賞装置32が開放状態である場合には、特電入賞装置32の閉鎖処理を実行する(ステップS I 5 0 8)。特電入賞装置32の閉鎖処理では、特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力を停止させることにより特電用の駆動部32bを非駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を閉鎖状態とする。その後、主側RAM84の特電開放状態フラグを「0」クリアし(ステップS I 5 0 9)、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における特電用監視遅延タイマカウンタ523fに特電用監視遅延期間(1秒)の情報(「250」)をセットする(ステップS I 5 1 0)。これにより、通常ラウンド遊技の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が特電用監視遅延期間中に特電検知センサ554にて検知された場合に、当該遊技球の検知を有効とすることができる。

20

30

【3125】

ステップS I 5 0 7にて肯定判定を行った場合、すなわちV入賞装置531が開放状態である場合には、V入賞装置531の閉鎖処理を実行する(ステップS I 5 1 1)。V入賞装置531の閉鎖処理では、V入口用の駆動部533に対する駆動信号の出力を停止させることによりV入口用の駆動部533を非駆動状態とするとともに、V入賞装置531を閉鎖状態とする。その後、V入賞開放状態フラグを「0」クリアする(ステップS I 5 1 2)。これにより、V入賞装置531が閉鎖状態となったことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、主側RAM84のタイマカウンタエリア523におけるV入賞用監視遅延タイマカウンタ523iにV入賞用監視遅延期間(1.5秒)の情報(「375」)をセットする(ステップS I 5 1 3)。これにより、V入賞ラウンド遊技の終了直前にV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞用監視遅延期間中にカウント検知センサ538又はV入賞検知センサ539にて検知された場合に、当該遊技球の検知を有効とすることができる。

40

【3126】

ステップS I 5 1 0又はステップS I 5 1 3の処理を行った場合には、主側RAM84におけるラウンドカウンタの値を「1」減算し(ステップS I 5 1 4)、その1減算後のラウンドカウンタの値が1以上であれば(ステップS I 5 1 5:NO)、インターバル期間の設定処理を実行する(ステップS I 5 1 6)。当該設定処理では、インターバル期間(3秒)の情報(「750」)を特図側タイマカウンタ523cにセットする。その後、特図特電カウンタの値を1加算する(ステップS I 5 1 7)。これにより、特図特電カウ

50

ンタの値はラウンド用閉鎖中処理（ステップS I 2 1 1）に対応する「5」となる。一方、ステップS I 5 1 4にて1減算した後のラウンドカウンタの値が「0」であれば（ステップS I 5 1 5：YES）、エンディング期間の設定処理を実行する（ステップS I 5 1 8）。当該設定処理では、エンディング期間の情報（具体的には5秒）を特図側タイマカウンタ5 2 3 cにセットする。その後、エンディングコマンドを音光側M P U 9 3に送信し（ステップS I 5 1 9）、特図特電カウンタの値を2加算する（ステップS I 5 2 0）。これにより、特図特電カウンタの値はラウンド終了処理（ステップS I 2 1 2）に対応する「6」となる。なお、音光側M P U 9 3はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング期間に対応する演出が、図柄表示装置4 1、表示発光部6 4及びスピーカ部6 5にて行われるようにする。

10

【3 1 2 7】

ステップS I 5 0 6にて否定判定を行った場合には、主側R A M 8 4のV入賞開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS I 5 2 1）。V入賞開放状態フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS I 5 2 1：NO）、すなわち特電入賞装置3 2が開放状態である場合には、既に説明したラウンド開始処理（図2 7 7）のステップS I 4 0 6と同様に、特電用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 5 2 2）。特電用の駆動信号出力処理では、特電用の駆動部3 2 bに対して駆動信号を出力する。このように、通常ラウンド遊技の実行期間においては、ラウンド用開放中処理が実行される度に特電用の駆動部3 2 bに対して駆動信号が出力される。これにより、特電入賞装置3 2の開放状態を継続させることができる。

20

【3 1 2 8】

一方、V入賞開放状態フラグに「1」がセットされている場合（ステップS I 5 2 1：YES）、すなわちV入賞装置5 3 1が開放状態である場合には、V入賞用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 5 2 3）。V入賞用の駆動信号出力処理では、V入口用の駆動部5 3 3に対して駆動信号を出力することによりV入口用の駆動部5 3 3を駆動状態とするとともに、V入賞装置5 3 1を開放状態とする。このように、V入賞ラウンド遊技の実行期間においては、ラウンド用開放中処理が実行される度にV入賞用の駆動部5 3 3に対して駆動信号が出力される。これにより、V入賞装置5 3 1の開放状態を継続させることができる。

【3 1 2 9】

その後、C A L L 命令によりV入賞装置5 3 1における切換片5 3 6の制御を行うための切換用処理を実行する（ステップS I 5 2 4）。切換用処理（ステップS I 5 2 4）の実行に際しては、切換用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては切換用処理（ステップS I 5 2 4）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令によりスタックエリアに書き込まれる。そして、切換用処理（ステップS I 5 2 4）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。ステップS I 5 2 4における切換用処理が終了した場合には、本ラウンド用開放中処理を終了する。なお、切換用処理（ステップS I 5 2 4）の内容については後に詳細に説明する。

30

【3 1 3 0】

<ラウンド用閉鎖中処理>

次に、特図特電制御処理（図2 7 5）のステップS I 2 1 1にて実行されるラウンド用閉鎖中処理について図2 7 9のフローチャートを参照しながら説明する。

40

【3 1 3 1】

まずインターバル期間が経過したか否かを判定する（ステップS I 6 0 1）。ステップS I 6 0 1では、主側R A M 8 4のタイマカウンタエリア5 2 3における特図側タイマカウンタ5 2 3 cの値が「0」である場合に肯定判定を行う。インターバル期間が経過した場合（ステップS I 6 0 1：YES）には、開放継続期間の設定処理を実行する（ステップS I 6 0 2）。当該設定処理では、ラウンド遊技の開放継続期間（具体的には3 0秒）

50

の情報（「7500」）を特図側タイマカウンタ523cにセットする。その後、主側RAM84の入賞カウンタに「10」をセットする（ステップS I 603）。

【3132】

その後、今回の遊技結果が5R確変結果及び16R確変結果のいずれかである場合（ステップS I 604：YES）には、主側RAM84におけるラウンドカウンタの値が「1」であるか否かを判定する（ステップS I 605）。ラウンドカウンタの値が2以上である場合（ステップS I 605：NO）、つまり通常ラウンド遊技の開始タイミングである場合には、特電用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 606）。特電用の駆動信号出力処理では、特電用の駆動部32bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を開放状態とする。その後、主側RAM84の特電開放状態フラグに「1」をセットする（ステップS I 607）。これにより、通常ラウンド遊技において特電入賞装置32が開放状態となっていることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

10

【3133】

ラウンドカウンタの値が「1」である場合（ステップS I 605：YES）、すなわち5R確変結果又は16R確変結果に対応する開閉実行モードにおける最後のラウンド遊技（V入賞ラウンド遊技）の開始タイミングである場合には、V入賞用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 608）。V入賞用の駆動信号出力処理では、V入口用の駆動部533に対して駆動信号を出力することによりV入口用の駆動部533を駆動状態とするとともに、V入賞装置531を開放状態とする。その後、主側RAM84におけるV入賞開放状態フラグに「1」をセットする（ステップS I 609）。これにより、V入賞ラウンド遊技の実行期間であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

20

【3134】

その後、既に説明したラウンド用開放中処理（図278）のステップS I 524と同様に、CALL命令により切換用処理を実行する（ステップS I 610）。なお、切換用処理（ステップS I 610）の内容については後に詳細に説明する。

【3135】

ステップS I 604にて否定判定を行った場合、ステップS I 607の処理を行った場合又はステップS I 610の処理を行った場合には、特図特電カウンタの値を1減算する（ステップS I 611）。これにより、特図特電カウンタの値はラウンド用開放中処理（ステップS I 210）に対応する「4」となる。

30

【3136】

次に、主側MPU82にて実行される切換用処理について図280のフローチャートを参照しながら説明する。既に説明したとおり、切換用処理は、ラウンド用開放中処理（図278）のステップS I 524及びラウンド用閉鎖中処理（図279）のステップS I 610にて実行される。

【3137】

主側RAM84のV入賞開放状態フラグに「1」がセットされている場合（ステップS I 701：YES）、すなわちV入賞ラウンド遊技の実行期間である場合には、切換片536の制御を行うための処理（ステップS I 702～ステップS I 720）を実行する。当該切換片536の制御を行うための処理は、V入賞ラウンド遊技の実行期間のみににおいて実行される。

40

【3138】

切換片536の制御を行うための処理では、具体的には、まず主側RAM84におけるV入賞タイマカウンタ543の値が「0」であるか否かを判定し（ステップS I 702）、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」ではない場合（ステップS I 702：NO）にはV入賞タイマカウンタ543の値を1減算する（ステップS I 703）。一方、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合（ステップS I 702：YES）にはステップS I 703の処理を実行することなくステップS I 704に進む。これにより、V入賞ラウンド遊技の実行期間において切換用処理（図280）が実行される度に、V入賞

50

タイマカウンタ543の値が「0」を下回らない態様でV入賞タイマカウンタ543の値が1減算されて更新されるようにすることができる。V入賞タイマカウンタ543の更新は、タイマ更新処理（図254）では行われたい。これにより、切替片536の制御を行うための処理が実行されない期間においてV入賞タイマカウンタ543の値が更新されてしまうことを防止できる。

【3139】

ステップS I 7 0 2にて肯定判定を行った場合、又はステップS I 7 0 3の処理を行った場合には、主側RAM84における切替制御カウンタ542の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS I 7 0 4）。切替制御カウンタ542の値が「0」である場合（ステップS I 7 0 4：YES）、すなわち切替片536が退避位置に維持される状況である場合には、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS I 7 0 5）。V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合（ステップS I 7 0 5：YES）、すなわち切替片536を退避位置に維持する期間が終了した場合には、切替制御カウンタ542に「1」をセットする（ステップS I 7 0 6）。これにより、切替片536が退避位置から誘導位置に向けて回動する状態とすることができる。その後、誘導パルス信号を切替用駆動部537に対して出力する回数に対応する「50」という数値情報をV入賞タイマカウンタ543にセットする（ステップS I 7 0 7）。これにより、50回に亘って誘導パルス信号が出力されるようにすることができる。

【3140】

切替制御カウンタ542の値が「1」である場合（ステップS I 7 0 4：NO、ステップS I 7 0 8：YES）、すなわち切替片536を退避位置から誘導位置に向けて回動させている状態である場合には、誘導パルス信号の出力処理を実行する（ステップS I 7 0 9）。誘導パルス信号の出力処理では、切替用駆動部537に対して誘導パルス信号を出力することにより切替片536を誘導位置に向けて回動させる。その後、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合（ステップS I 7 1 0：YES）、すなわち切替片536を退避位置から誘導位置に向けて回動させる期間の終了タイミングである場合には、切替制御カウンタ542に「2」をセットする（ステップS I 7 1 1）。これにより、切替片536が誘導位置に維持される状態とすることができる。その後、切替片536を誘導位置に維持する時間（具体的には4秒間）に対応する「1000」という数値情報をV入賞タイマカウンタ543にセットする（ステップS I 7 1 2）。これにより、切替片536が誘導位置に配置されている状態を4秒間に亘って継続させることができる。

【3141】

切替制御カウンタ542の値が「2」である場合（ステップS I 7 0 4：NO、ステップS I 7 0 8：NO、ステップS I 7 1 3：YES）、すなわちV入賞装置531において切替片536が誘導位置に維持される状態である場合には、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」であるか否かを判定する（ステップS I 7 1 4）。V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合（ステップS I 7 1 4：YES）、すなわち切替片536を誘導位置に維持する期間が終了した場合には、切替制御カウンタ542に「3」をセットする（ステップS I 7 1 5）。これにより、切替片536が誘導位置から退避位置に向けて回動する状態とすることができる。その後、退避パルス信号を切替用駆動部537に対して出力する回数に対応する「50」という数値情報をV入賞タイマカウンタ543にセットする（ステップS I 7 1 6）。これにより、50回に亘って退避パルス信号が出力されるようにすることができる。

【3142】

既に説明したとおり、切替制御カウンタ542には「0」～「3」のいずれかの数値情報が設定される。切替制御カウンタ542の値が「0」～「2」のいずれでもない場合（ステップS I 7 0 4：NO、ステップS I 7 0 8：NO、ステップS I 7 1 3：NO）、すなわち切替制御カウンタ542の値が「3」であり、切替片536を誘導位置から退避位置に向けて回動させている状態である場合には、退避パルス信号の出力処理を実行する（ステップS I 7 1 7）。退避パルス信号の出力処理では、切替用駆動部537に対して

退避パルス信号を出力することにより切換片536を退避位置に向けて回動させる。その後、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合（ステップS I 7 1 8：YES）、すなわち切換片536を誘導位置から退避位置に向けて回動させる期間の終了タイミングである場合には、切換制御カウンタ542の値を「0」クリアする（ステップS I 7 1 9）。これにより、切換片536が退避位置に維持される状態とすることができる。その後、切換片536を退避位置に維持する時間（具体的には5.6秒間）に対応する「1400」という数値情報をV入賞タイマカウンタ543にセットする（ステップS I 7 2 0）。これにより、切換片536が退避位置に配置されている状態を5.6秒間に亘って継続させることができる。

【3143】

＜ラウンド終了処理＞

次に、特図特電制御処理（図275）のステップS I 2 1 2にて実行されるラウンド終了処理について、図281のフローチャートを参照しながら説明する。

【3144】

まずエンディング期間が経過したか否かを判定する（ステップS I 8 0 1）。ステップS I 8 0 1では、特図側タイマカウンタ523cの値が「0」である場合に肯定判定を行う。エンディング期間が経過しており今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R確変結果及び16R確変結果のいずれかである場合には（ステップS I 8 0 1：YES、ステップS I 8 0 2：YES）、主側RAM84の高頻度フラグに「1」をセットすることにより高頻度サポートモードに設定する（ステップS I 8 0 3）。

【3145】

その後、主側RAM84に設けられたV入賞発生フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS I 8 0 4）。V入賞発生フラグは、V入賞ラウンド遊技の実行期間中又は後述するV入賞用監視遅延期間中にV入賞検知センサ539にて1個以上の遊技球が検知されたこと、すなわちV入賞が発生したことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。V入賞発生フラグに「1」がセットされている場合（ステップS I 8 0 4：YES）、すなわち今回の開閉実行モードにおいてV入賞が発生した場合には、主側RAM84の高確率フラグに「1」をセットすることにより高確率モードに設定する（ステップS I 8 0 5）。これにより、遊技状態を高確率状態とすることができる。その後、V入賞発生フラグを「0」クリアする（ステップS I 8 0 6）。

【3146】

ステップS I 8 0 4にて否定判定を行った場合、すなわち今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R確変結果又は16R確変結果であり今回の開閉実行モードにおいてV入賞が発生しなかった場合には、主側RAM84の高確率フラグを「0」クリアすることにより低確率モードに設定する（ステップS I 8 0 7）。これにより、遊技状態を時短状態とすることができる。その後、主側RAM84における時短状態カウンタに時短状態継続回数である「100」をセットする（ステップS I 8 0 8）。既に説明したとおり、時短状態カウンタは、時短状態において実行可能な残りの遊技回数を主側MPU82にて把握可能とするカウンタである。既に説明したとおり、5R確変結果又は16R確変結果を契機とした開閉実行モードにおいてV入賞が発生することなく当該開閉実行モードが終了することで時短状態となるが、当該時短状態において大当たり結果が新たに発生することなく実行された遊技回の回数が時短状態継続回数である100回となった場合には、大当たり結果が発生していなくても通常遊技状態（低確率モード及び低頻度サポートモード）となる。

【3147】

今回の開閉実行モードの契機となった遊技結果が5R通常結果であった場合（ステップS I 8 0 2：NO）には、主側RAM84の高確率フラグを「0」クリアすることにより低確率モードに設定し（ステップS I 8 0 9）、主側RAM84の高頻度フラグを「0」クリアすることにより低頻度サポートモードに設定する（ステップS I 8 1 0）。これにより、遊技状態が通常遊技状態となる。

10

20

30

40

50

【3148】

ステップS I 8 0 6、ステップS I 8 0 8又はステップS I 8 1 0の処理を行った場合には、状態指定コマンドの送信処理を実行する（ステップS I 8 1 1）。当該送信処理では、ステップS I 8 0 2～ステップS I 8 1 0の処理によって決定されたパチンコ機10の状態に対応する状態指定コマンドが音光側M P U 9 3に送信されるようにする。音光側M P U 9 3は受信した状態指定コマンドの内容に対応する演出が図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて実行されるようにするための処理を実行する。その後、特図特電カウンタを「0」クリアする（ステップS I 8 1 2）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップS I 2 0 6）に対応する「0」となる。

【3149】

次に、主側M P U 8 2にて実行される動作確認用処理について図282のフローチャートを参照しながら説明する。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理（図253）の行番号「1005」にて実行される。

【3150】

ステップS I 9 0 1～ステップS I 9 0 3では、上記第33の実施形態における動作確認用処理（図255）のステップS H 4 0 1～ステップS H 4 0 3と同様の処理を実行する。具体的には、まず入出力確認表示装置521の点灯処理を実行する（ステップS I 9 0 1）。入出力確認表示装置521の点灯処理では、入出力確認表示装置521に対して点灯信号を出力する。入出力確認期間においては動作確認用処理が実行される度に点灯信号の出力が行われる。これにより、入出力確認期間において入出力確認表示装置521の点灯状態を継続させることができる。

【3151】

その後、主側R A M 8 4の入出力確認中フラグ524に「1」がセットされていない場合（ステップS I 9 0 2：NO）、すなわちパチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから最初に動作確認用処理が実行される処理回である場合には、ステップS I 9 0 3～ステップS I 9 0 8にて特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を開放状態するための処理を実行する。具体的には、まず特電用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 9 0 3）。特電用の駆動信号出力処理では、特電用の駆動部32bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を開放状態とする。その後、ガイド用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 9 0 4）。ガイド用の駆動信号出力処理では、特別入賞装置151のガイド駆動部156に対して駆動信号を出力することによりガイド駆動部156を駆動状態とする。これにより、ガイド部材155を誘導位置に配置させるとともに阻止部材157を非阻止位置に配置させて、特別入賞装置151を開放状態とすることができる。その後、V入賞用の駆動信号出力処理を実行する（ステップS I 9 0 5）。V入賞用の駆動信号出力処理では、V入口用の駆動部533に対して駆動信号を出力することによりV入口用の駆動部533を駆動状態とするとともに、V入賞装置531を開放状態とする。その後、主側R A M 8 4の動作確認開放中フラグ525に「1」をセットする（ステップS I 9 0 6）。動作確認開放中フラグ525は、入出力確認期間において特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を開放状態とすべき状況であることを主側M P U 8 2にて把握可能とするフラグである。その後、主側R A M 8 4の入出力確認中フラグ524に「1」をセットする（ステップS I 9 0 7）。これにより、入出力確認期間であることを主側M P U 8 2にて把握可能とすることができる。

【3152】

その後、切換タイマカウンタ523bの設定処理を実行する（ステップS I 9 0 8）。切換タイマカウンタ523bの設定処理（ステップS I 9 0 8）は、入出力確認期間において特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を開放状態とする場合と、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を閉鎖状態とする場合とに実行される。切換タイマカウンタ523bの設定処理（ステップS I 9 0 8）では、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の開放状態又は閉鎖状態を

10

20

30

40

50

継続させる２秒に対応する「５００」という数値情報を切換タイマカウンタ５２３ｂにセットする。

【３１５３】

ステップＳＩ９０２にて肯定判定を行った場合、すなわち入出力確認期間において動作確認用処理が既に１回以上実行されている場合には、切換タイマカウンタ５２３ｂの値が「０」であるか否かを判定し（ステップＳＩ９０９）、切換タイマカウンタ５２３ｂの値が「０」ではない場合（ステップＳＩ９０９：ＮＯ）には、主側ＲＡＭ８４の動作確認開放中フラグ５２５に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ９１０）。動作確認開放中フラグ５２５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ９１０：ＮＯ）、すなわち特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１が閉鎖状態となっており当該閉鎖状態を継続させる状況である場合には、ステップＳＩ９１１～ステップＳＩ９１３の処理を実行することなくステップＳＩ９１９に進む。これにより、特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１の閉鎖状態が継続される。

10

【３１５４】

一方、動作確認開放中フラグ５２５に「１」がセットされている場合（ステップＳＩ９１０：ＹＥＳ）、すなわち特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１が開放状態となっており当該開放状態を継続させる状況である場合には、特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１の開放状態を継続させるための処理（ステップＳＩ９１１～ステップＳＩ９１３）を実行する。具体的には、上述したステップＳＩ９０３と同様に、特電用の駆動信号出力処理を実行し（ステップＳＩ９１１）、上述したステップＳＩ９０４と同様に、ガイド用の駆動信号出力処理を実行し（ステップＳＩ９１２）、上述したステップＳＩ９０５と同様に、Ｖ入賞用の駆動信号出力処理を実行する（ステップＳＩ９１３）。このように、入出力確認期間において特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１の開放状態を継続させる状況においては、動作確認用処理が実行される度に特電用の駆動部３２ｂ、ガイド駆動部１５６及びＶ入口用の駆動部５３３に対して駆動信号が出力される。これにより、特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１の開放状態を継続させることができる。

20

【３１５５】

ステップＳＩ９０９にて肯定判定を行った場合には、主側ＲＡＭ８４の動作確認開放中フラグ５２５に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ９１４）。動作確認開放中フラグ５２５に「１」がセットされている場合（ステップＳＩ９１４：ＹＥＳ）には、ステップＳＩ９１５～ステップＳＩ９１８及びステップＳＩ９０８にて特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１を開放状態から閉鎖状態に切り換えるための処理を実行する。

30

【３１５６】

具体的には、まず特電入賞装置３２の閉鎖処理を実行する（ステップＳＩ９１５）。特電入賞装置３２の閉鎖処理では、特電用の駆動部３２ｂに対する駆動信号の出力を停止させることにより特電入賞装置３２を閉鎖状態とする。その後、特別入賞装置１５１の閉鎖処理を実行する（ステップＳＩ９１６）。特別入賞装置１５１の閉鎖処理では、ガイド駆動部１５６に対する駆動信号の出力を停止させることにより特別入賞装置１５１を閉鎖状態とする。その後、Ｖ入賞装置５３１の閉鎖処理を実行する（ステップＳＩ９１７）。Ｖ入賞装置５３１の閉鎖処理では、Ｖ入口用の駆動部５３３に対する駆動信号の出力を停止させることによりＶ入賞装置５３１を閉鎖状態とする。その後、主側ＲＡＭ８４の動作確認開放中フラグ５２５の値を「０」クリアする（ステップＳＩ９１８）。これにより、特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１が閉鎖状態となっていることを主側ＭＰＵ８２にて把握可能とすることができる。その後、ステップＳＩ９０８に進み、切換タイマカウンタ５２５ｅの設定処理を実行する。切換タイマカウンタ５２５ｅの設定処理では、上述したとおり、特電入賞装置３２、特別入賞装置１５１及びＶ入賞装置５３１の閉鎖状態を継続させる時間（具体的には２秒）に対応する「５００」という数値情報を切換タイマカウンタ５２５ｅにセットする。

40

50

【3157】

一方、ステップS I 9 1 4にて否定判定を行った場合には、ステップS I 9 0 3に進み、ステップS I 9 0 3～ステップS I 9 0 8にて特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を開放状態とするための処理を実行する。ステップS I 9 0 3～ステップS I 9 0 8の処理の内容は既に説明したとおりである。

【3158】

このように、入出力確認期間が開始された場合には、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が2秒間に亘って開放状態となる開放継続状態と、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が2秒間に亘って閉鎖状態となる閉鎖継続状態と、が交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が点灯状態となっていることを確認することにより入出力確認期間であることを把握し、当該入出力確認期間において特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の動作態様を確認することにより、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の開閉動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3159】

ステップS I 9 0 8の処理を行った場合、ステップS I 9 1 0にて否定判定を行った場合又はステップS I 9 1 3の処理を行った場合には、主側RAM84に設けられた退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS I 9 1 9）。退避位置復帰済みフラグは、入出力確認期間において既にV入賞装置531における切換片536の退避位置への復帰が終了したことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされていない場合（ステップS I 9 1 9：NO）、すなわち切換片536の退避位置復帰が終了していない場合には、切換片536を退避位置に復帰させるための退避位置復帰処理を実行する（ステップS I 9 2 0）。一方、退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされている場合（ステップS I 9 1 9：YES）、すなわち切換片536の退避位置復帰が終了している場合には、そのまま本動作確認用処理を終了する。

【3160】

次に、動作確認用処理（図282）のステップS I 9 2 0にて実行される退避位置復帰処理について、図283のフローチャートを参照しながら説明する。

【3161】

まず主側RAM84に設けられた退避位置復帰中フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 1 0 1）。退避位置復帰中フラグは、切換片536の退避位置への復帰動作が行われている状態であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。退避位置復帰中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS J 1 0 1：NO）、すなわち切換片536の退避位置への復帰動作が開始されるタイミングである場合には、退避位置復帰中フラグに「1」をセットする（ステップS J 1 0 2）。これにより、切換片536の退避位置への復帰動作が行われている状態であることを主側MPU82にて把握可能となる。

【3162】

その後、主側RAM84における切換制御カウンタ542に「3」をセットする（ステップS J 1 0 3）。既に説明したとおり、切換制御カウンタ542の値が「0」である状態は、切換片536が退避位置に維持されている状態であり、切換制御カウンタ542の値が「1」である状態は、切換片536が退避位置から誘導位置に向けて回動している状態であり、切換制御カウンタ542の値が「2」である状態は、切換片536が誘導位置に維持されている状態であり、切換制御カウンタ542の値が「3」である状態は、切換片536が誘導位置から退避位置に向けて回動している状態である。ステップS J 1 0 3にて切換制御カウンタ542に「3」をセットすることにより、切換片536が誘導位置から退避位置に向けて回動している状態であることを主側MPU82にて把握可能となる。

10

20

30

40

50

【3163】

その後、主側RAM84におけるV入賞タイマカウンタ543に「55」をセットする（ステップSJ104）。既に説明したとおり、V入賞タイマカウンタ543には、切換用駆動部537に対して誘導パルス信号が出力される状態を継続する時間と、切換用駆動部537に対して退避パルス信号が出力される状態を継続する時間と、切換用駆動部537に対して誘導パルス信号及び退避パルス信号を出力しない状態を継続する時間とがセットされる。

【3164】

既に説明したとおり、誘導位置に配置されている切換片536を退避位置に退避させるために必要な退避パルス信号の出力数は「50」である。これに対して、ステップSJ104では当該「50」を超える「55」という数値情報が設定される。これにより、切換片536の退避位置への復帰動作において切換片536が退避位置に復帰しない事態を回避することができる。

10

【3165】

ステップSJ101にて肯定判定を行った場合、又はステップSJ104の処理を行った場合には、切換片536が退避位置に復帰したか否かを判定する（ステップSJ105）。ステップSJ105では、復帰検知センサ541から主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHILEVELへの立ち上がりが検出された場合に切換片536が退避位置に復帰したと判定する。

【3166】

切換片536が退避位置に復帰した場合（ステップSJ105：YES）には、切換制御カウンタ542の値を「0」クリアする（ステップSJ106）。既に説明したとおり、切換制御カウンタ542の値が「0」である状態は、切換片536が退避位置に維持されている状態であるとともに、切換片536が原点に復帰している状態に対応している。切換片536が誘導位置に配置されている状態において、V入賞装置531を開放状態とする不正が行われた場合にはV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞通路領域535cを流下してV入賞検知センサ539にて検知される状態が発生してしまう。これに対して、RAMクリア処理が実行された場合には切換片536を退避位置に復帰させるとともに切換片536が退避位置に配置されている状態をV入賞ラウンド遊技が開始されるまで継続させることにより、V入賞装置531を開放状態とする不正が行われたとしてもV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞検知センサ539にて検知されてしまうことを防止できる。

20

30

【3167】

その後、V入賞タイマカウンタ543の値を「0」クリアする（ステップSJ107）。既に説明したとおり、切換制御カウンタ542及びV入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合、切換用処理（図280）のステップSI704及びステップSI705にて肯定判定が行われる。そして、ステップSI706にて切換制御カウンタ542に「1」がセットされるとともに、ステップSI707にてV入賞タイマカウンタ543に「50」がセットされる。切換片536の退避位置復帰の終了時に切換制御カウンタ542及びV入賞タイマカウンタ543の値を「0」クリアすることにより、切換片536の退避位置復帰が終了してから最初のV入賞ラウンド遊技が開始された場合に、切換片536の退避位置から誘導位置への回動が開始されるようにすることができる。

40

【3168】

その後、退避位置復帰中フラグを「0」クリアし（ステップSJ108）、退避位置復帰済みフラグに「1」をセットする（ステップSJ109）。これにより、切換片536の退避位置復帰が終了した状態であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

【3169】

ステップSJ105にて否定判定を行った場合には、V入賞タイマカウンタ543の値を1減算する（ステップSJ110）。これにより、切換片536の退避位置への復帰動

50

作中に4ミリ秒の周期でV入賞タイマカウンタ543の値が更新されるようにすることができる。その後、ステップS J 1 1 0にて1減算した後のV入賞タイマカウンタ543の値が「0」であるか否かを判定する(ステップS J 1 1 1)。V入賞タイマカウンタ543の値が「0」ではない場合(ステップS J 1 1 1: NO)には、退避パルス信号の出力処理を実行する(ステップS J 1 1 2)。退避パルス信号の出力処理では、切換用駆動部537に対して退避パルス信号を出力する。これにより、切換片536を退避位置に向けて回動させることができる。

【3170】

一方、V入賞タイマカウンタ543の値が「0」である場合(ステップS J 1 1 1: YES)、すなわち切換用駆動部537に対して退避パルス信号を55回に亘って出力したにも関わらず切換片536の退避位置への復帰が確認されない場合には、切換片制御エラーコマンドを音光側MPU93に送信する(ステップS J 1 1 3)。切換片制御エラーコマンドは、切換片536の制御が正常に実行されない状態となる切換片制御エラーが発生したことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は当該切換片制御エラーコマンドを受信した場合、切換片制御エラー報知が行われるように図柄表示装置41の表示制御、表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。切換片制御エラー報知において、音光側MPU93は、表示発光部64を切換片制御エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「切換片制御エラー発生」という音声出力させる。また、図柄表示装置41にて「切換片制御エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。切換片制御エラー報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。

【3171】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする(ステップS J 1 1 4)。これにより、タイマ割込み処理(図249)が起動されても遊技を進行させるための処理(ステップSG911～ステップSG924)が実行されない状態とすることができる。その後、上記第33の実施形態におけるメイン処理(図246)のステップSG626と同様に異常時の外部出力処理を実行する(ステップS J 1 1 5)。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間(例えば100ミリ秒)に亘って行われる。

【3172】

切換片536の退避位置復帰が正常に行われなかった場合には切換片制御エラー報知が行われるため、遊技ホールの管理者は切換片制御エラー報知が行われたことに基づいて切換片536の退避位置復帰が正常に行われなかったことを把握できる。これにより、切換片536が正常に動作しない状態が見落とされて遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3173】

次に、主側MPU82にて実行される入球検知対応処理について図284のフローチャートを参照しながら説明する。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、入球検知対応処理は入球検知処理(図256)のステップSH518にて実行される。

【3174】

ステップS J 2 0 1～ステップS J 2 1 0では、上記第33の実施形態における入球検知対応処理(図257)のステップSH601～ステップSH610と同様の処理を実行する。具体的には、特電検知センサ554から主側MPU82に入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出された場合(ステップS J 2 0 1: YES)には、主側RAM84の特電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定し(ステップS J 2 0 2)、特電開放状態フラグに「1」がセットされていない場合(ステップS J 2 0 2: NO)には、主側RAM84のタイマカウンタエリア523における特電用監視遅延タイマカウンタ523fの値が「1」以上であるか否かを判定する(ス

10

20

30

40

50

テップ S J 2 0 3)。

【3 1 7 5】

開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間である場合 (ステップ S J 2 0 2 : Y E S)、又は特電用監視遅延期間である場合 (ステップ S J 2 0 3 : Y E S) には、主側 R A M 8 4 に設けられた 1 5 個賞球用カウンタの値を 1 加算する (ステップ S J 2 0 4)。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、1 5 個賞球用カウンタの値が 1 以上である場合、タイマ割込み処理 (図 2 4 9) におけるステップ S G 9 2 1 の払出力処理にて 1 5 個賞球コマンドを払出制御装置 7 7 に出力するとともに、1 5 個賞球コマンドを 1 回出力した場合には 1 5 個賞球用カウンタの値を 1 減算する。払出制御装置 7 7 は 1 5 個賞球コマンドを受信した場合、1 5 個の遊技球が払い出されるように払出装置 7 6 を駆動制御する。

10

【3 1 7 6】

ステップ S J 2 0 3 にて否定判定を行った場合には、主側 R A M 8 4 の入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされているか否かを判定する (ステップ S J 2 0 5)。ステップ S J 2 0 4 の処理を行った場合、又はステップ S J 2 0 5 にて肯定判定を行った場合には、主側 R A M 8 4 の確認フラグ群 5 2 2 における特電入賞確認フラグ 5 2 2 d に「1」をセットする (ステップ S J 2 0 6)。これにより、特電入賞装置 3 2 への 1 個の遊技球の入球が発生したことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とすることができる。

【3 1 7 7】

ステップ S J 2 0 5 にて否定判定を行った場合には、主側 R A M 8 4 における確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の値が「1」以上であるか否かを判定する (ステップ S J 2 0 7)。ステップ S J 2 0 7 にて否定判定を行った場合、すなわち開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況において特電検知センサ 5 5 4 にて遊技球が検知された場合には、特電入球エラーコマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する (ステップ S J 2 0 8)。音光側 M P U 9 3 は当該特電入球エラーコマンドを受信することにより、図柄表示装置 4 1、表示発光部 6 4 及びスピーカ部 6 5 にて特電入球エラー報知が行われるようにする。具体的には、表示発光部 6 4 を特電入球エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部 6 5 から「特電入球エラー発生」という音声を出力させる。また、図柄表示装置 4 1 にて「特電入球エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。特電入球エラー報知はパチンコ機 1 0 への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が停止された場合に終了される。

20

30

【3 1 7 8】

その後、主側 R A M 8 4 の遊技停止フラグに「1」をセットする (ステップ S J 2 0 9)。これにより、タイマ割込み処理 (図 2 4 9) が起動されても遊技を進行させるための処理 (ステップ S G 9 1 1 ~ ステップ S G 9 2 4) が実行されない状態とすることができる。その後、メイン処理 (図 2 4 6) のステップ S G 6 2 6 と同様に異常時の外部出力処理を実行する (ステップ S J 2 1 0)。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間 (例えば 1 0 0 ミリ秒) に亘って行われる。

40

【3 1 7 9】

このように、開閉実行モードにおける特電入賞装置 3 2 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特電検知センサ 5 5 4 にて遊技球が検知された場合には特電入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間に特電検知センサ 5 5 4 にて遊技球が検知された場合は、特電入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球が確認後無効化期間に特電検知センサ 5 5 4 にて検知された場合に特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。よって、入出力確認期間中に特電入賞装置 3 2 に手入れされた遊技球が原因となって特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

50

【3180】

ステップS J 2 0 1にて否定判定を行った場合、ステップS J 2 0 6の処理を行った場合、又はステップS J 2 0 7にて肯定判定を行った場合には、特別入賞検知センサ5 5 6から主側M P U 8 2に入力される検知信号のLOWレベルからHIGHレベルへの立ち上がりを検出されたか否かを判定し（ステップS J 2 1 1）、当該検知信号の立ち上がりを検出された場合（ステップS J 2 1 1：YES）には、主側R A M 8 4の普電開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 2 1 2）。普電開放状態フラグは、電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間であることを主側M P U 8 2にて把握可能とするフラグである。ステップS J 2 1 2にて否定判定を行った場合には、主側R A M 8 4の普電用監視遅延タイマカウンタ5 2 3 gの値が「1」以上であるか否か、すなわち普電用監視遅延期間であるか否かを判定する（ステップS J 2 1 3）。

10

【3181】

電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間である場合（ステップS J 2 1 2：YES）又は普電用監視遅延期間である場合（ステップS J 2 1 3：YES）には、主側R A M 8 4の1個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS J 2 1 4）。一方、電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間及び普電用監視遅延期間のいずれでもない場合（ステップS J 2 1 2：NO、ステップS J 2 1 3：NO）には、主側R A M 8 4の入出力確認中フラグ5 2 4に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 2 1 5）。

【3182】

ステップS J 2 1 4の処理を行った場合、又はステップS J 2 1 5にて肯定判定を行った場合には、主側R A M 8 4に設けられた特別入賞確認フラグ5 2 2 iに「1」をセットする（ステップS J 2 1 6）。これにより、特別入賞装置1 5 1への入球が検知されたことを主側M P U 8 2にて把握可能とすることができる。

20

【3183】

ステップS J 2 1 5にて否定判定を行った場合には、主側R A M 8 4のタイマカウンタエリア5 2 3における確認後無効化タイマカウンタ5 2 3 eの値が1以上であるか否かを判定し（ステップS J 2 1 7）、確認後無効化タイマカウンタ5 2 3 eの値が1以上である場合（ステップS J 2 1 7：YES）、すなわち確認後無効化期間である場合には、ステップS J 2 1 4、ステップS J 2 1 6～ステップS J 2 1 8、ステップS J 2 0 9及びステップS J 2 1 0の処理を実行することなく、ステップS J 2 1 9に進む。入出力確認期間の終了直前に特別入賞装置1 5 1に入球した遊技球が確認後無効化期間中に特別入賞検知センサ5 5 6にて検知された場合には、遊技球の払い出しが行われることはなく、特別入賞確認フラグ5 2 2 iに「1」をセットする処理も行われない。また、特別入球エラー報知も行われない。

30

【3184】

ステップS J 2 1 7にて否定判定を行った場合、すなわち電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない場合には、特別入球エラーコマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 2 1 8）。特別入球エラーコマンドは、電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特別入賞検知センサ5 5 6にて遊技球が検知される特別入球エラーが発生したことを音光側M P U 9 3に認識させるためのコマンドである。音光側M P U 9 3は当該特別入球エラーコマンドを受信することにより、図柄表示装置4 1、表示発光部6 4及びスピーカ部6 5にて特別入球エラー報知が行われるようにする。具体的には、表示発光部6 4を特別入球エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部6 5から「特別入球エラー発生」という音声出力させる。また、図柄表示装置4 1にて「特別入球エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。特別入球エラー報知はパチンコ機1 0への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機1 0への動作電力の供給が停止された場合に終了される。

40

50

【3185】

その後、ステップS J 2 0 9に進む。既に説明したとおり、ステップS J 2 0 9では、主側RAM 8 4の遊技停止フラグに「1」をセットする。これにより、タイマ割込み処理（図2 4 9）が起動されても遊技を進行させるための処理（ステップS G 9 1 1～ステップS G 9 2 4）が実行されない状態とすることができる。その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップS J 2 1 0）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば1 0 0ミリ秒）に亘って行われる。

【3186】

このように、電役開放当選に基づく特別入賞装置1 5 1の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特別入賞検知センサ5 5 6にて遊技球が検知された場合には特別入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間に特別入賞検知センサ5 5 6にて遊技球が検知された場合は、特別入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に特別入賞装置1 5 1に入球した遊技球が確認後無効化期間に特別入賞検知センサ5 5 6にて検知された場合に特別入球エラーが発生してしまうことを防止できる。よって、入出力確認期間中に特別入賞装置1 5 1に手入れされた遊技球が原因となって特別入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【3187】

ステップS J 2 1 0の処理を行った場合、ステップS J 2 1 1にて否定判定を行った場合、ステップS J 2 1 6の処理を行った場合又はステップS J 2 1 7にて肯定判定を行った場合には、V入賞用入球検知対応処理を実行する（ステップS J 2 1 9）。図2 8 5はV入賞用入球検知対応処理を示すフローチャートである。

【3188】

V入賞用入球検知対応処理では、V入賞検知センサ5 3 9から主側MPU 8 2に入力される検知信号のLOWレベルからH Iレベルへの立ち上がり又はカウント検知センサ5 3 8から主側MPU 8 2に入力される検知信号のLOWレベルからH Iレベルへの立ち上がりが検出された場合（ステップS J 3 0 1：YES）、主側RAM 8 4のV入賞開放状態フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 3 0 2）。V入賞開放状態フラグに「1」がセットされていない場合（ステップS J 3 0 2：NO）、すなわちV入賞ラウンド遊技の実行期間ではない場合には、主側RAM 8 4のタイマカウンタエリア5 2 3におけるV入賞用監視遅延タイマカウンタ5 2 3 iの値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップS J 3 0 3）。既に説明したとおり、V入賞用監視遅延タイマカウンタ5 2 3 iは、開放状態であるV入賞装置5 3 1が閉鎖状態となった後においても当該V入賞装置5 3 1に設けられたV入賞検知センサ5 3 9及びカウント検知センサ5 3 8における遊技球の検知を有効として扱う期間であるV入賞用監視遅延期間を主側MPU 8 2にて特定するために利用されるカウンタである。V入賞用監視遅延期間は、開放状態であるV入賞装置5 3 1に入賞した遊技球がV入賞検知センサ5 3 9又はカウント検知センサ5 3 8にて検知されるまでの期間として想定される最長期間以上の期間として設定されており、具体的には1. 5秒に設定されている。

【3189】

ステップS J 3 0 2又はステップS J 3 0 3にて肯定判定を行った場合には、主側RAM 8 4に設けられた1 5個賞球用カウンタの値を1加算する（ステップS J 3 0 4）。既に説明したとおり、1 5個賞球用カウンタの値が1以上である場合、タイマ割込み処理（図2 4 9）におけるステップS G 9 2 1の払出出力処理にて1 5個賞球コマンドを払出制御装置7 7に出力するとともに、1 5個賞球コマンドを1回出力した場合には1 5個賞球用カウンタの値を1減算する。払出制御装置7 7は1 5個賞球コマンドを受信した場合、1 5個の遊技球が払い出されるように払出装7 6を駆動制御する。

【3190】

ステップS J 3 0 3にて否定判定を行った場合には、主側RAM 8 4の入出力確認中フ

10

20

30

40

50

ラグ524に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 3 0 5）。ステップS J 3 0 4の処理を行った場合又はステップS J 3 0 5にて肯定判定を行った場合には、ステップS J 3 0 1にて立ち上がりが検知された信号がV入賞検知センサ539から主側MPU82に入力される検知信号であるか否かを判定する（ステップS J 3 0 6）。V入賞検知センサ539から主側MPU82に入力される検知信号の立ち上がりが検出されていた場合（ステップS J 3 0 6：YES）には、主側RAM84の確認フラグ群522におけるV入賞確認フラグ522kに「1」をセットする（ステップS J 3 0 7）。これにより、V入賞ラウンド遊技の実行期間又はV入賞用監視遅延期間であれば主側RAM84におけるラウンドカウンタの値が1減算されるようにすることができるとともに、入出力確認期間であればV入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにすることができる。その後、主側RAM84のV入賞発生フラグに「1」をセットする（ステップS J 3 0 8）。これにより、開閉実行モードにおいてV入賞が発生したことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

【3191】

ステップS J 3 0 1にて立ち上がりが検知された信号がカウント検知センサ538から主側MPU82に入力される検知信号であった場合（ステップS J 3 0 6：NO）には、主側RAM84の確認フラグ群522におけるカウント入賞確認フラグ522jに「1」をセットする（ステップS J 3 0 9）。これにより、V入賞ラウンド遊技の実行期間又はV入賞用監視遅延期間であれば主側RAM84におけるラウンドカウンタの値が1減算されるようにすることができるとともに、入出力確認期間であればカウント入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにすることができる。

【3192】

ステップS J 3 0 5にて否定判定を行った場合には、主側RAM84におけるV入賞用無効化タイマカウンタ523hの値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップS J 3 1 0）。既に説明したとおり、V入賞用無効化タイマカウンタ523hは、入出力確認用処理の実行期間の終了時に設定されるV入賞用無効化期間であるか否かを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。また、既に説明したとおり、V入賞用無効化期間は、V入賞ラウンド遊技の実行期間、V入賞用監視遅延期間及び入出力確認期間のいずれでもない状況においてV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538にて遊技球が検知された場合に、当該遊技球の検知は無効化されるが、当該遊技球が検知されたことに基づくV入賞用入球エラー報知は実行されない期間である。入出力確認期間の終了時にV入賞用無効化期間を設定することにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置32に入球した遊技球が当該V入賞用無効化期間中にV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538にて検知された場合に当該遊技球の検知に基づいて、遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止することができるとともに、V入賞用入球エラー報知が実行されてしまうことを防止できる。

【3193】

ステップS J 3 1 0にて否定判定を行った場合、すなわちV入賞ラウンド遊技の実行期間、V入賞用監視遅延期間、入出力確認期間及びV入賞用無効化期間のいずれにも該当しないタイミングにおいてV入賞装置531への入球が検知された場合には、V入賞用入球エラーコマンドを音光側MPU93に送信する（ステップS J 3 1 1）。V入賞用入球エラーコマンドは、開閉実行モード、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及びV入賞用無効化期間のいずれでもない状況において特電入賞装置32への入球が検知されるV入賞用入球エラーが発生したことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93は当該V入賞用入球エラーコマンドを受信した場合、V入賞用入球エラー報知が行われるように、図柄表示装置41の表示制御、表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。V入賞用入球エラー報知では、音光側MPU93は、表示発光部64をV入賞用入球エラーの発生に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部65から「V入賞用入球エラー発生」という音声出力させる。また、図柄表示装置41にて「V入賞用入球エラー発生」という文字画像が表示されるようにする。V入

10

20

30

40

50

賞用入球エラー報知はパチンコ機 10 への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機 10 への動作電力の供給が停止された場合に終了される。

【3194】

その後、主側 RAM 84 の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップ S J 3 1 2）。これにより、タイマ割込み処理（図 2 4 9）が起動されても遊技を進行させるための処理（ステップ S G 9 1 1～ステップ S G 9 2 4）が実行されない状態とすることができる。その後、メイン処理（図 2 4 6）のステップ S G 6 2 6 と同様に異常時の外部出力処理を実行する（ステップ S J 3 1 3）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば 100 ミリ秒）に亘って行われる。

10

【3195】

このように、V 入賞ラウンド遊技の実行期間、V 入賞用監視遅延期間、入出力確認期間及び V 入賞用無効化期間のいずれでもない状況において V 入賞装置 531 への入球が検知された場合には V 入賞用入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、V 入賞用無効化期間中に V 入賞検知センサ 539 又はカウント検知センサ 538 にて遊技球が検知された場合は、V 入賞用入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に V 入賞装置 531 に入球した遊技球が当該入出力確認期間の終了直後に V 入賞検知センサ 539 又はカウント検知センサ 538 にて検知された場合に V 入賞用入球エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。よって、入出力確認期間中に V 入賞装置 531 に入球した遊技球が原因となって V 入賞用入球エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。

20

【3196】

次に、主側 MPU 82 にて実行される入球報知コマンド送信処理について図 2 8 6 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 33 の実施形態において既に説明したとおり、入球報知コマンド送信処理は入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番号「1004」にて実行される。入球報知コマンド送信処理は、入出力確認期間において実行される一方、遊技可能状態においては実行されない。

【3197】

ステップ S J 4 0 1～ステップ S J 4 1 0 では、上記第 33 の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図 2 5 8）のステップ S H 7 0 1～ステップ S H 7 1 0 と同様の処理を実行する。具体的には、主側 RAM 84 の確認フラグ群 522 における第 1 入賞確認フラグ 522 a に「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 0 1：YES）には、共通入球報知コマンドを音光側 MPU 93 に送信する（ステップ S J 4 0 2）。共通入球報知コマンドは、ステップ S J 4 0 2、ステップ S J 4 0 4、ステップ S J 4 0 6 及びステップ S J 4 1 0 にて送信される。音光側 MPU 93 は共通入球報知コマンドを受信した場合、音光側 ROM 94 から共通入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した共通入球報知音テーブルに従って 0.6 秒間に亘って共通入球報知音が出力されるようにスピーカ部 65 の音出力制御を実行する。

30

【3198】

確認フラグ群 522 における第 2 入賞確認フラグ 522 b に「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 0 3：YES）には、共通入球報知コマンドを音光側 MPU 93 に送信する（ステップ S J 4 0 4）。これにより、0.6 秒間に亘ってスピーカ部 65 から第 2 入球報知音が出力されるようにすることができる。また、確認フラグ群 522 における第 3 入賞確認フラグ 522 c に「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 0 5：YES）には、共通入球報知コマンドを音光側 MPU 93 に送信する（ステップ S J 4 0 6）。これにより、0.6 秒間に亘ってスピーカ部 65 から第 3 入球報知音が出力されるようすることができる。

40

【3199】

確認フラグ群 522 における特電入賞確認フラグ 522 d に「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 0 7：YES）には、特電入球報知コマンドを音光側 MPU 93 に

50

送信する（ステップS J 4 0 8）。音光側M P U 9 3は特電入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4から特電入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した特電入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って特電入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3200】

確認フラグ群522における第1作動入賞確認フラグ522eに「1」がセットされている場合（ステップS J 4 0 9：Y E S）には、共通入球報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 4 1 0）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

【3201】

確認フラグ群522における特別入賞確認フラグ522iに「1」がセットされている場合（ステップS J 4 1 1：Y E S）には、特別入球報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 4 1 2）。特別入球報知コマンドは、入出力確認期間において特別入賞装置151に入球した遊技球が特別入賞検知センサ556において検知されたことを報知する特別入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側M P U 9 3に認識させるためのコマンドである。音光側M P U 9 3は特別入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4から特別入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した特別入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って特別入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3202】

確認フラグ群522におけるV入賞確認フラグ522kに「1」がセットされている場合（ステップS J 4 1 3：Y E S）には、V入球報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 4 1 4）。V入球報知コマンドは、入出力確認期間においてV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞検知センサ539において検知されたことを報知するV入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側M P U 9 3に認識させるためのコマンドである。音光側M P U 9 3はV入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4からV入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したV入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってV入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3203】

確認フラグ群522におけるカウント入賞確認フラグ522jに「1」がセットされている場合（ステップS J 4 1 5：Y E S）には、カウント入球報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 4 1 6）。カウント入球報知コマンドは、入出力確認期間においてV入賞装置531に入球した遊技球がカウント検知センサ538において検知されたことを報知するカウント入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側M P U 9 3に認識させるためのコマンドである。音光側M P U 9 3はカウント入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4からカウント入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したカウント入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってカウント入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3204】

ステップS J 4 1 5にて否定判定を行った場合又はステップS J 4 1 6の処理を行った場合には、ステップS J 4 1 7～ステップS J 4 2 0において、上記第33の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図258）のステップS H 7 1 3～ステップS H 7 1 6と同様の処理を実行する。具体的には、確認フラグ群522におけるアウト確認フラグ522gに「1」がセットされている場合（ステップS J 4 1 7：Y E S）には、アウト報知コマンドを音光側M P U 9 3に送信する（ステップS J 4 1 8）。音光側M P U 9 3はアウト入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4からアウト入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したアウト入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってアウト入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3205】

確認フラグ群 5 2 2 におけるゲート入賞確認フラグ 5 2 2 h に「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 1 9 : Y E S）には、ゲート入球報知コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S J 4 2 0）。音光側 M P U 9 3 はゲート入球報知コマンドを受信した場合、音光側 R O M 9 4 からゲート入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したゲート入球報知音テーブルに従って 0 . 6 秒間に亘ってゲート入球報知音が出力されるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。

【3 2 0 6】

音光側 M P U 9 3 は、共通入球報知音、特電入球報知音、特別入球報知音、アウト入球報知音、ゲート入球報知音、カウント入球報知音及び V 入球報知音のいずれかの出力中に、共通入球報知コマンド、特電入球報知コマンド、第 2 作動入球報知コマンド、アウト入球報知コマンド、ゲート入球報知コマンド、カウント入球報知コマンド及び V 入球報知コマンドのいずれかを受信した場合、受信した順番でこれらの入球報知コマンドに対応する入球報知音がスピーカ部 6 5 から出力されるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。

【3 2 0 7】

ステップ S J 4 2 0 にてゲート入球報知コマンドを送信した後は、主側 R A M 8 4 における退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされているか否かを判定し（ステップ S J 4 2 1）、退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされている場合（ステップ S J 4 2 1 : Y E S）には主側 R A M 8 4 のタイマカウンタエリア 5 2 3 における確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値を「0」クリアする（ステップ S J 4 2 2）。これにより、次のタイマ割込み処理（図 2 4 9）の処理回においてステップ S G 9 0 3 にて否定判定が行われてステップ S G 9 0 5 以降の処理が実行されるようにする。詳細は後述するが、ステップ S J 4 2 2 にて確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が「0」クリアされた後において最初に無効化用処理（図 2 8 7（a））が実行される場合、特電入賞装置 3 2、特別入賞装置 1 5 1 及び V 入賞装置 5 3 1 を閉鎖状態とするための処理が実行されるとともに、入出力確認期間が終了する。このため、入出力確認期間の開始時からの経過時間が 1 0 秒に達する前に入出力確認期間が終了する場合においても当該入出力確認期間の終了後には特電入賞装置 3 2、特別入賞装置 1 5 1 及び V 入賞装置 5 3 1 が閉鎖状態となっているようにすることができる。

【3 2 0 8】

タイマ割込み処理（図 2 4 9）にて、主側 R A M 8 4 における立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされていないこと及び確認用タイマカウンタ 5 2 3 a の値が 1 以上であることを条件として入出力確認用処理（ステップ S G 9 0 4）が実行される構成において、入出力確認期間中にスルーゲート 3 5 への入球が検知されたことに基いて入出力確認期間を終了させるために入球コマンド送信処理（図 2 8 6）に設定されている処理は、確認用タイマカウンタ 5 2 3 a を「0」クリアする処理のみである。これにより、入出力確認期間を途中で終了させるための処理構成を簡素化することができる。

【3 2 0 9】

退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされていない場合（ステップ S J 4 2 1 : N O）には、ステップ S J 4 2 2 の処理を実行することなく、本入球報知コマンド送信処理を終了する。これにより、入出力確認期間においてスルーゲート 3 5 への入球が検知された場合においても切換片 5 3 6 の退避位置復帰が完了していない場合には入出力確認期間を途中で終了させるための処理が実行されないようにすることができる。入出力確認期間において切換片 5 3 6 が誘導位置から退避位置に向かって回動している途中で入出力確認期間が終了してしまうことを防止することにより、切換片 5 3 6 が退避位置に復帰している状態で入出力確認期間が終了するようにすることができる。

【3 2 1 0】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される無効化用処理について図 2 8 7（a）のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、無効化用処理はタイマ割込み処理（図 2 4 9）のステップ S G 9 0 5 にて実行される。

【3211】

主側RAM84の入出力確認中フラグ524に「1」がセットされている場合（ステップSJ501：YES）、ステップSJ502～ステップSJ513の処理を実行する。ステップSJ502～ステップSJ513の処理は、入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となった後において最初に無効化用処理が実行される処理回のみにおいて実行される。ステップSJ502～ステップSJ505では、既に説明した動作確認用処理（図282）のステップSI915～ステップSI918と同様の処理を実行する。具体的には、まず特電入賞装置32の閉鎖処理を実行することにより、特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力を停止させて特電入賞装置32を閉鎖状態とする（ステップSJ502）。その後、特別入賞装置151の閉鎖処理を実行することにより、ガイド駆動部156に対する駆動信号の出力を停止させて特別入賞装置151を閉鎖状態とする（ステップSJ503）。その後、V入賞装置531の閉鎖処理を実行することにより、V入口用の駆動部533に対する駆動信号の出力を停止させてV入賞装置531を閉鎖状態とする（ステップSJ504）。その後、主側RAM84の動作確認開放中フラグ525の値を「0」クリアする（ステップSJ505）。これにより、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が閉鎖状態となっていることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

10

【3212】

このように、入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となった後において最初に無効化用処理（図287（a））が実行される場合、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531を閉鎖状態とするための処理が実行される。これにより、入出力確認期間の終了後においては、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が閉鎖状態となっているようにすることができる。

20

【3213】

その後、主側RAM84における切替タイマカウンタ523bの値を「0」クリアし（ステップSJ506）、入出力確認中フラグ524を「0」クリアする（ステップSJ507）。これにより、入出力確認期間が終了したことを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、主側RAM84の退避位置復帰済みフラグを「0」クリアする（ステップSJ508）。

【3214】

その後、ステップSJ509～ステップSJ512では、上記第33の実施形態における無効化用処理（図259（a））のステップSH807～ステップSH810と同様の処理を実行する。具体的には、まず入出力確認表示装置521の消灯処理を実行する（ステップSJ509）。入出力確認表示装置521の消灯処理では、入出力確認表示装置521に対する点灯信号の出力を停止させることにより入出力確認表示装置521を点灯状態から消灯状態に切り換える。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が消灯状態となったことを確認することにより入出力確認期間が終了したことを把握することができる。

30

【3215】

その後、各種フラグクリア処理を実行する（ステップSJ510）。各種フラグクリア処理では、主側RAM84の確認フラグ群522における第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522c、特電入賞フラグ525d、第1作動入賞確認フラグ522e、アウト確認フラグ522g、ゲート入賞確認フラグ522h、特別入賞確認フラグ522i、カウント入賞確認フラグ522j及びV入賞確認フラグ522kを「0」クリアするとともに、主側RAM84のV入賞発生フラグを「0」クリアする。第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522cを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中に一般入賞口31に遊技球が入球したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。ゲート入賞確認フラグ522hを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中にスルーゲート35に遊技球が入球したことに基づいて普図当否判定処理が行われてしまうこと

40

50

を防止できる。第1作動入賞確認フラグ522e及び特別入賞確認フラグ522iを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中に第1作動口33又は特別入賞装置151に遊技球が入球したことに基づいて当否判定処理が行われてしまうことを防止できるとともに遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。カウント入賞確認フラグ522j及びV入賞確認フラグ522kを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中にV入賞装置531に遊技球が入球したことに基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。V入賞発生フラグを「0」クリアすることにより、入出力確認期間中にV入賞装置531に遊技球が入球したことに基づいてV入賞が発生した状態となってしまうことを防止できる。

【3216】

その後、賞球用カウンタのクリア処理を実行する（ステップS J 511）。賞球用カウンタのクリア処理では、主側RAM84における1個賞球用カウンタ、10個賞球用カウンタ及び15個賞球用カウンタの値を「0」クリアする。これにより、入出力確認期間に発生した一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、特別入賞装置151及びV入賞装置531への遊技球の入球に基づいて遊技球の払い出しが行われてしまうことを防止できる。

【3217】

その後、確認後無効化タイマカウンタ523eの設定処理を実行する（ステップS J 512）。確認後無効化タイマカウンタ523eの設定処理では、確認後無効化期間（具体的には1秒）に対応する「250」という数値情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523における確認後無効化タイマカウンタ523eにセットする。その後、V入賞用無効化タイマカウンタ523hの設定処理を実行する（ステップS J 513）。V入賞用無効化タイマカウンタ523hの設定処理では、V入賞用無効化期間（具体的には1.5秒）に対応する「375」という数値情報を主側RAM84のタイマカウンタエリア523におけるV入賞用無効化タイマカウンタ523hにセットする。このように、入出力確認期間の終了時には、確認後無効化期間及びV入賞用無効化期間の設定が行われる。

【3218】

次に、確認後無効化期間及びV入賞用無効化期間について説明する。図287（b）は確認後無効化期間、V入賞用無効化期間、特図表示部37a、37bの変動表示期間及び普図の変動期間を説明するための説明図である。

【3219】

上記第33の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認用処理（図253（a））は、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にRAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合に実行される。RAMクリア処理が実行された場合には、低確率モードであるとともに低頻度サポートモードである通常遊技状態となり、第1特図保留エリア111及び第2特図保留エリア112に保留記憶されている保留情報の個数が「0」となり、普図保留エリア84cに保留記憶されている保留情報の個数が「0」となる。また、既に説明したとおり、入出力確認用処理が実行される場合には、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後においても入出力確認期間が終了するまで、遊技を進行させるための処理は実行されない。このため、入出力確認期間が終了した場合には、通常遊技状態であり、第1特図保留エリア111、第2特図保留エリア112及び普図保留エリア84cに保留記憶されている保留情報の個数が「0」である状態において、遊技が開始されることとなる。

【3220】

既に説明したとおり、通常遊技状態における特図表示部37a、37bのリーチ表示態様の最短変動表示期間は15秒である。図287（b）に示すように、確認後無効化期間（具体的には1秒）及びV入賞用無効化期間（具体的には1.5秒）は、当該リーチ表示態様の最短変動表示期間よりも短い期間に設定されている。確認後無効化期間が当該変動期間よりも短い期間に設定されていることにより、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間が設定される構成において、入出力確認期間の終了直後に遊技球が第1作動口33

10

20

30

40

50

に入賞して大当たり結果が発生し、当該大当たり結果に対応する開閉実行モードの開始直後に遊技球が特電入賞装置 3 2 に入賞した場合には、当該遊技球の入賞を有効として、当該遊技球の入賞に基づいて遊技球の払い出しが行われるようにすることができる。

【3 2 2 1】

既に説明したとおり、V入賞ラウンド遊技は、4回又は15回の通常ラウンド遊技が終了した後に開始される。これに対して、入出力確認期間の終了時に設定されるV入賞用無効化期間は、通常ラウンド遊技が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて終了する。このため、入出力確認期間の終了時にV入賞用無効化期間が設定されたことが原因となってV入賞ラウンド遊技の実行期間にカウント検知センサ 5 3 8 又はV入賞検知センサ 5 3 9 における遊技球の検知が発生した場合に当該遊技球の検知が無効とされてしまうことが防止されている。

10

【3 2 2 2】

既に説明したとおり、通常遊技状態における普図の変動期間は10秒である。図 2 5 9 (c) に示すように、確認後無効化期間は通常遊技状態における普図の変動期間よりも短い期間（具体的には1秒）に設定されている。これにより、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間が設定される構成において、当該確認後無効化期間の終了直後に遊技球がスルーゲート 3 5 に入賞して電役開放当選が発生し、当該電役開放当選に基づく特別入賞装置 1 5 1 の開放期間が開始された直後に遊技球が特別入賞装置 1 5 1 に入賞した場合には、当該遊技球の入賞が有効なものとして扱われて、当該遊技球の入賞に基づいて当否判定処理及び遊技球の払い出しが行われるようにすることができる。

20

【3 2 2 3】

次に、切換片 5 3 6 の制御が行われる様子について図 2 8 8 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 2 8 8 (a) は切換片 5 3 6 の退避位置復帰が実行される期間を示し、図 2 8 8 (b) はV入賞装置 5 3 1 が開放状態となる期間を示し、図 2 8 8 (c) は主側 RAM 8 4 における切換制御カウンタ 5 4 2 の値を示し、図 2 8 8 (d) は入出力確認期間を示し、図 2 8 8 (e) はメイン処理（図 2 4 6）においてRAMクリア処理（ステップ S G 6 2 0）が実行されるタイミングを示し、図 2 8 8 (f) はV入賞ラウンド遊技の実行期間を示し、図 2 8 8 (g) はパチンコ機 1 0 への動作電力の供給状態を示す。

【3 2 2 4】

まず入出力確認期間において切換片 5 3 6 の退避位置復帰が行われる様子について説明する。

30

【3 2 2 5】

図 2 8 8 (g) に示すように、t 1 のタイミングでパチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始される。図 2 8 8 (c) に示すように当該 t 1 のタイミングにおいて切換制御カウンタ 5 4 2 の値は「1」である。動作電力の供給の開始に際してリセットボタン 1 4 2 の押圧操作が行われていた場合には、図 2 8 8 (e) に示すように、t 2 のタイミングでRAMクリア処理（ステップ S G 6 2 0）が実行される。これにより、図 2 8 8 (c) に示すように切換制御カウンタ 5 4 2 の値が「0」クリアされる。

【3 2 2 6】

その後、図 2 8 8 (d) に示すように t 3 のタイミングから t 9 のタイミングまでの10秒間に亘って入出力確認期間となる。入出力確認期間が開始される t 3 のタイミングで、図 2 8 8 (b) に示すようにV入賞装置 5 3 1 の装置入口 5 3 1 a が開放状態となることによりV入賞装置 5 3 1 が開放状態となる。V入賞装置 5 3 1 は、t 3 のタイミングから t 5 のタイミングまでの2秒間に亘って開放状態となり、t 5 のタイミングから t 6 のタイミングまでの2秒間に亘って閉鎖状態となり、t 6 のタイミングから t 7 のタイミングまでの2秒間に亘って開放状態となり、t 7 のタイミングから t 8 のタイミングまでの2秒間に亘って閉鎖状態となり、t 8 のタイミングから t 9 のタイミングまでの2秒間に亘って開放状態となる。このように、入出力確認期間では、V入賞装置 5 3 1 が開放状態となる2秒間の期間と、V入賞装置 5 3 1 が閉鎖状態となる2秒間に期間とが交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において装置入口 5 3 1 a の開閉動作

40

50

が正常に行われるか否かを確認することによりV入賞装置531の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

【3227】

入出力確認期間が開始される t_3 のタイミングにおいて、図288(c)に示すように切換制御カウンタ542に「3」がセットされて、図288(a)に示すように切換片536の退避位置復帰が開始される。その後、 t_4 のタイミングで切換片536が退避位置に配置されている状態となり、図288(a)に示すように切換片536の退避位置復帰が終了する。切換片536が退避位置に配置されている状態は、V入賞ラウンド遊技が開始されるまで継続される。

【3228】

上記第33の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認用処理は、RAMクリア処理が実行された場合に実行される処理である。上記のとおり、入出力確認期間の開始時に切換片536の退避位置復帰が実行される。これにより、RAMクリア処理が実行された場合には切換片536が退避位置に復帰している状態で遊技を進行させるための処理が実行される遊技可能状態となるようにすることができる。

【3229】

次に、V入賞ラウンド遊技において切換片536の制御が行われる様子について説明する。

【3230】

図288(f)に示すように、 t_{10} のタイミングから t_{15} のタイミングまでの30秒間に亘ってV入賞ラウンド遊技が実行される。V入賞ラウンド遊技が開始される t_{10} のタイミングにおいて、図288(b)に示すようにV入賞装置531の装置入口531aが開放状態となることによりV入賞装置531が開放状態となる。V入賞装置531の開放状態はV入賞ラウンド遊技が終了するまで継続され、V入賞装置531はV入賞ラウンド遊技が終了する t_{15} のタイミングにおいて閉鎖状態となる。

【3231】

V入賞ラウンド遊技が開始される t_{10} のタイミングにおいて、図288(c)に示すように切換制御カウンタ542の値が「0」から「1」に更新され、当該 t_{10} のタイミングから t_{11} のタイミングに亘って、誘導パルス信号の出力が行われる。これにより、切換片536が退避位置から誘導位置に向かって回動する。

【3232】

その後、 t_{11} のタイミングで切換片536が誘導位置に配置されて、図288(c)に示すように切換制御カウンタ542の値が「2」に更新される。切換制御カウンタ542の値が「2」である状態は t_{11} のタイミングから t_{12} のタイミングまでの4秒間に亘って継続され、当該4秒間に亘って切換片536は誘導位置に配置される。これにより、V入賞装置531に入球した遊技球がV入賞通路領域535cに案内されてV入賞検知センサ539にて検知される状態となる。

【3233】

その後、図288(c)に示すように t_{12} のタイミングで切換制御カウンタ542の値が「3」に更新され、当該 t_{12} のタイミングから t_{13} のタイミングに亘って退避パルス信号が出力される状態となる。これにより、切換片536は誘導位置から退避位置に向かって回動する。

【3234】

その後、図288(c)に示すように t_{13} のタイミングで切換制御カウンタ542の値が「0」に更新され、当該 t_{13} のタイミングから t_{14} のタイミングまでの5.6秒間に亘って切換片536が退避位置に維持される。これにより、V入賞装置531に入球した遊技球が排出通路領域535bに案内されてカウント検知センサ538にて検知される状態となる。その後、 t_{14} のタイミングで切換制御カウンタ542の値が「1」に更新され、誘導パルス信号が出力される状態となる。

【3235】

10

20

30

40

50

V入賞ラウンド遊技では、退避位置に配置されている切換片536が誘導位置に向けて回動する0.2秒の第1期間と、切換片536が誘導位置に維持される4秒の第2期間と、切換片536が退避位置に向けて回動する0.2秒の第3期間と、切換片536が退避位置に維持される5.6秒の第4期間とで構成される合計10秒間の開閉動作が繰り返される。V入賞ラウンド遊技が30秒間に亘って実行される場合には、当該第1～第4期間で構成される合計10秒の開閉動作が3回繰り返される。V入賞ラウンド遊技が終了するタイミングにおける切換制御カウンタ542の値及びV入賞タイマカウンタ543の値は、次のV入賞ラウンド遊技が実行されるまで記憶保持される。そして、当該次のV入賞ラウンド遊技は、当該記憶保持されている切換制御カウンタ542の値及びV入賞カウンタの値を利用して開始される。

10

【3236】

常に切換片536が退避位置に配置されている状態からV入賞ラウンド遊技が開始される構成とすると、V入賞ラウンド遊技の終了後に切換片536を退避位置に復帰させる必要が生じる。そうすると、V入賞ラウンド遊技の終了後も切換片536の動作が行われてしまう。これに対して、V入賞ラウンド遊技の終了時に切換片536の動作を中断させ、次のV入賞ラウンド遊技では当該切換片536の動作が中断された状態から切換片536の動作が再開される構成とすることにより、V入賞ラウンド遊技の終了後も切換片536の動作が行われてしまうことを防止できる。入出力確認期間における切換片536の退避位置復帰の実行期間及びV入賞ラウンド遊技の実行期間のみにおいて切換片536が動作する構成とすることにより、これらの期間以外の期間において切換片536の動作が確認された場合に切換片536を不正に動作させる行為が行われたことを遊技ホールの管理者が把握可能とすることができる。

20

【3237】

入出力確認期間において切換片536が退避位置に配置されている状態となった後、当該切換片536が退避位置に配置されている状態は入出力確認期間が終了してから最初にV入賞ラウンド遊技が開始されるまで継続される。これにより、RAMクリア処理が実行された場合には、切換片536が退避位置に配置されている状態においてRAMクリア処理が実行されてから最初に実行されるV入賞ラウンド遊技が開始されるようにすることができる。

【3238】

以上詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

30

【3239】

入出力確認期間が開始された場合には、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が2秒間に亘って開放状態となる開放継続状態と、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531が2秒間に亘って閉鎖状態となる閉鎖継続状態と、が交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が点灯状態となっていることを確認することにより入出力確認期間であることを把握し、当該入出力確認期間において特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の動作態様を確認することにより、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531の開閉動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

40

【3240】

入出力確認期間中に切換片536の退避位置復帰が正常に行われなかった場合には、切換片536の退避位置復帰が正常に行われなかったことを報知する切換片制御エラー報知が行われる。これにより、切換片536が正常に動作しない状態が見落とされて遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3241】

開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特電検知センサ554にて遊

50

技球が検知された場合には特電入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間に特電検知センサ 554 にて遊技球が検知された場合は、特電入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に特電入賞装置 32 に入球した遊技球が確認後無効化期間に特電検知センサ 554 にて検知された場合に特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。よって、入出力確認期間中に特電入賞装置 32 に入球した遊技球が原因となって特電入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【3242】

電役開放当選に基づく特別入賞装置 151 の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれでもない状況において特別入賞検知センサ 556 にて遊技球が検知された場合には特別入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、確認後無効化期間に特別入賞検知センサ 556 にて遊技球が検知された場合は、特別入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前に特別入賞装置 151 に入球した遊技球が確認後無効化期間に特別入賞検知センサ 556 にて検知された場合に特別入球エラーが発生してしまうことを防止できる。よって、入出力確認期間中に特別入賞装置 151 に入球した遊技球が原因となって特別入球エラーが発生してしまうことを防止できる。

【3243】

V入賞ラウンド遊技の実行期間、V入賞用監視遅延期間、入出力確認期間及びV入賞用無効化期間のいずれでもない状況においてV入賞装置 531 への入球が検知された場合にはV入賞用入球エラーとなり遊技を進行させるための処理が実行されない状態とする構成において、V入賞用無効化期間中にV入賞検知センサ 539 又はカウント検知センサ 538 にて遊技球が検知された場合は、V入賞用入球エラーが発生する場合から除外されている。これにより、入出力確認期間の終了直前にV入賞装置 531 に入球した遊技球が当該入出力確認期間の終了直後にV入賞検知センサ 539 又はカウント検知センサ 538 にて検知された場合にV入賞用入球エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。よって、入出力確認期間中にV入賞装置 531 に入球した遊技球が原因となってV入賞用入球エラーが発生してしまう可能性を低減することができる。

【3244】

＜第35の実施形態の別形態＞

(1) 上記第35の実施形態において、動作確認用処理にて切換片 536 を退避位置に復帰させる処理が実行される構成に代えて、動作確認用処理にて切換片 536 の動作確認を行うことを可能とする切換片 536 の動作確認処理が実行される構成としてもよい。第33の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理(図253)の行番号「1005」にて実行される処理であり、入出力確認用処理は、動作電力の供給が開始された後においてRAMクリア処理が実行される場合には実行される一方、RAMクリア処理が実行されない場合には実行されない。V入賞装置 531 のベース体 534 には、退避位置に配置されている切換片 536 を検知可能な復帰検知センサ 541 が設けられているとともに、V誘導位置に配置されている切換片 536 を検知可能なV誘導検知センサが設けられている。主側RAM 84 には、入出力確認期間においてV誘導検知センサにおける切換片 536 の検知が発生したことを主側MPU 82 にて把握可能とするV誘導検知済みフラグと、入出力確認期間において復帰検知センサ 541 における切換片 536 の検知が発生したことを主側MPU 82 にて把握可能とする復帰検知済みフラグと、が設けられている。切換片 536 の動作確認処理では、主側RAM 84 に設けられたV誘導検知済みフラグに「1」がセットされていない場合、V誘導検知センサにおける切換片 536 の検知が発生しているか否かを判定し、V誘導検知センサにおける切換片 536 の検知が発生していない場合には、切換用駆動部 537 にV誘導パルス信号を出力する処理を実行する。一方、V誘導検知センサにおける切換片 536 の検知が発生している場合には、V誘導検知済みフラグに「1」をセットする。また、切換片 536 の動作確認処理では、V誘導検知済みフラグに「1」がセットされているとともに、復帰検知済みフラグ

に「1」がセットされていない場合、復帰検知センサ541における切換片536の検知が発生しているか否かを判定し、復帰検知センサ541における切換片536の検知が発生していない場合には、切換用駆動部537に退避パルス信号を出力する処理を実行する。一方、復帰検知センサ541における切換片536の検知が発生している場合には、復帰検知済みフラグに「1」をセットする。入出力確認期間の終了時にタイマ割込み処理（図249）のステップSG905にて実行される無効化用処理では、主側RAM84におけるV誘導検知済みフラグ及び復帰検知済みフラグの双方に「1」がセットされている状態ではない場合、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて切換片536の動作エラー報知が実行されるようにする。これにより、切換片536がV誘導位置まで回動する動作及び切換片536が退避位置まで回動する動作の少なくとも一方が正常に行われない状態となっていることを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。よって、当該状態において遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

10

【3245】

<第36の実施形態>

本実施形態では入出力確認期間中に切換片536が正常に動作する状態であるか否かを確認可能とする確認動作が実行されることが上記第35の実施形態と相違している。以下、上記第35の実施形態と相違する構成について説明する。なお、上記第35の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【3246】

図289（a）は本実施形態における遊技盤24の正面図である。

20

【3247】

図289（a）に示すように、図柄表示装置41の下方には確認済み表示装置544が設けられている。確認済み表示装置544は、上記第35の実施形態において既に説明した入出力確認表示装置521に並設されている。確認済み表示装置544は、入出力確認期間において、V入賞装置531におけるカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方にて遊技球が検知されたことを報知する確認済み報知を行うための表示装置である。確認済み表示装置544は、発光部542a（例えばLED）を備えており、入出力確認期間においてカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方にて遊技球が検知された場合に点灯状態となる。

【3248】

30

上記第35の実施形態において既に説明したとおり、V入賞装置531に入球した遊技球はカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539のいずれか一方にて検知される。このため、カウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方にて遊技球の検知が正常に行われる状態であることを把握するためには、入出力確認期間中に2つ以上の遊技球をV入賞装置531に手入れする必要がある。V入賞装置531に手入れされた遊技球がカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の一方において連続して検知された場合には、3つ以上の遊技球がV入賞装置531に対して手入れされることとなる。そうすると、遊技ホールの管理者は、V入球報知音及びカウント入球報知音のうち既に出力された報知音を記憶しながらV入賞装置531に次の遊技球を手入れする必要があるが生じてしまう。これに対して、入出力確認期間中にカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方にて遊技球の検知が行われた場合に点灯状態となる確認済み表示装置544が設けられていることにより、既にV入球報知音が出力されたか否か及び既にカウント入球報知音が出力されたか否かを把握していなくても確認済み表示装置544が点灯状態となっていることに基づいてカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方にて遊技球の検知が正常に行われる状態であることを把握可能とすることができる。

40

【3249】

遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、V入賞装置531に複数の遊技球を手入れし、確認済み表示装置544が点灯状態となることを確認することにより、切換片536の動作を目視で直接確認することなく、V入賞装置531において切換片536が

50

退避位置に配置されている状態から切換片 5 3 6 が誘導位置に配置されている状態に切り換えられたことを把握することができる。

【3 2 5 0】

図 2 8 9 (b) は主側 R A M 8 4 の構成を説明するための説明図である。図 2 8 9 (b) に示すように、主側 R A M 8 4 にはカウント入球確認済みフラグ 5 4 5、V 入球確認済みフラグ 5 4 6 及び確認済み報知中フラグ 5 4 7 が設けられている。カウント入球確認済みフラグ 5 4 5 は、入出力確認期間においてカウント検知センサ 5 3 8 にて 1 個以上の遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグであるとともに、V 入球確認済みフラグ 5 4 6 は、入出力確認期間において V 入賞検知センサ 5 3 9 にて 1 個以上の遊技球が検知されたことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。また、確認済み報知中フラグ 5 4 7 は、確認済み報知が行われている状態であることを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。

10

【3 2 5 1】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される動作確認用処理について図 2 9 0 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番号「1 0 0 5」にて実行される。

【3 2 5 2】

ステップ S J 6 0 1 ～ステップ S J 6 1 8 では、上記第 3 5 の実施形態における動作確認用処理（図 2 8 2）のステップ S I 9 0 1 ～ステップ S I 9 1 8 と同一の処理を実行する。ステップ S J 6 0 1 ～ステップ S J 6 1 8 の処理内容は上記第 3 5 の実施形態において既に説明したとおりである。ステップ S J 6 0 8 の処理を行った場合、ステップ S J 6 1 0 にて否定判定を行った場合又はステップ S J 6 1 3 の処理を行った場合には、主側 R A M 8 4 に設けられた退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S J 6 1 9）。退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされていない場合（ステップ S J 6 1 9：N O）、すなわち切換片 5 3 6 の退避位置復帰が終了していない場合には、切換片 5 3 6 を退避位置に復帰させるための退避位置復帰処理を実行する（ステップ S J 6 2 0）。退避位置復帰処理の内容は上記第 3 5 の実施形態において図 2 8 3 のフローチャートを参照しながら既に説明したとおりである。一方、退避位置復帰済みフラグに「1」がセットされている場合（ステップ S J 6 1 9：Y E S）、すなわち切換片 5 3 6 の退避位置復帰が終了している場合には、C A L L 命令により切換用処理を実行する（ステップ S J 6 2 1）。

20

30

【3 2 5 3】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される切換用処理について図 2 9 1 のフローチャートを参照しながら説明する。上述したとおり、切換用処理は、動作確認用処理（図 2 9 0）のステップ S J 6 2 1 にて実行される。また、上記第 3 5 の実施形態において既に説明したとおり、切換用処理は、ラウンド用開放中処理（図 2 7 8）のステップ S I 5 2 4 及びラウンド用閉鎖中処理（図 2 7 9）のステップ S I 6 1 0 においても実行される。

【3 2 5 4】

主側 R A M 8 4 の V 入賞開放状態フラグに「1」がセットされていない場合（ステップ S J 7 0 1：N O）、すなわち V 入賞ラウンド遊技の実行期間ではない場合には、主側 R A M 8 4 の入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S J 7 0 2）。V 入賞ラウンド遊技の実行期間及び入出力確認期間のいずれにも該当しない状況である場合（ステップ S J 7 0 1：N O、ステップ S J 7 0 2：N O）には、切換片 5 3 6 の制御を行うための処理（ステップ S J 7 0 3 ～ステップ S J 7 2 1）を実行することなく、本切換用処理を終了する。このように、切換片 5 3 6 の制御を行うための処理（ステップ S J 7 0 3 ～ステップ S J 7 2 1）は、V 入賞ラウンド遊技の実行期間である場合又は入出力確認期間において切換片 5 3 6 の退避位置復帰が終了している場合に実行される。

40

【3 2 5 5】

V 入賞ラウンド遊技の実行期間である場合（ステップ S J 7 0 1：Y E S）又は入出力

50

確認期間において切換片 5 3 6 の退避位置復帰が終了している場合（動作確認用処理（図 2 9 0 のステップ S J 6 2 1：Y E S、ステップ S J 7 0 1：N O、ステップ S J 7 0 2：Y E S）には、上記第 3 5 の実施形態における切換用処理（図 2 8 0）のステップ S I 7 0 2～ステップ S I 7 2 0 と同様に、切換片 5 3 6 の制御を行うための処理（ステップ S J 7 0 3～ステップ S J 7 2 1）を実行する。切換片 5 3 6 の制御を行うための処理の内容は上記第 3 5 の実施形態において既に説明したとおりである。

【3 2 5 6】

上述したとおり、切換用処理（図 2 9 1）は、ラウンド用開放中処理（図 2 7 8）のステップ S I 5 2 4、ラウンド用閉鎖中処理（図 2 7 9）のステップ S I 6 1 0 及び動作確認用処理（図 2 9 0）のステップ S J 6 2 1 にて実行される。入出力確認期間において切換片 5 3 6 の制御を行うための処理は、V 入賞ラウンド遊技の実行期間において切換片 5 3 6 の制御を行うための処理と同一の処理である。これにより、切換片 5 3 6 の制御を行うために主側 R O M 8 3 に記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【3 2 5 7】

入出力確認期間において切換片 5 3 6 の退避位置復帰が終了した場合には、V 入賞ラウンド遊技の実行期間と同様に、切換片 5 3 6 の制御を行うための処理（ステップ S J 7 0 3～ステップ S J 7 2 1）が実行される。これにより、退避位置に配置されている切換片 5 3 6 が誘導位置に向かって回動し、4 秒間に亘って切換片 5 3 6 が誘導位置に配置されている状態となる。その後、切換片 5 3 6 が誘導位置から退避位置に向かって回動し、入出力確認期間が終了するまで切換片 5 3 6 が退避位置に配置されている状態が継続される。

【3 2 5 8】

上記第 3 5 の実施形態において既に説明したとおり、切換片 5 3 6 の動作は外部から視認可能である。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において切換片 5 3 6 の動作が正常に行われていることを外部から確認することにより切換片 5 3 6 の回動制御が正常に行われる状態であることを把握することができる。

【3 2 5 9】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行される入球報知コマンド送信処理について図 2 9 2 のフローチャートを参照しながら説明する。上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおり、入球報知コマンド送信処理は入出力確認用処理（図 2 5 3）の行番号「1 0 0 4」にて実行される。入球報知コマンド送信処理は、入出力確認期間において実行される一方、遊技可能状態においては実行されない。

【3 2 6 0】

ステップ S J 8 0 1～ステップ S J 8 1 2 では、上記第 3 5 の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図 2 8 6）のステップ S J 4 0 1～ステップ S J 4 1 2 と同一の処理を実行する。ステップ S J 8 0 1～ステップ S J 8 1 2 の処理内容は上記第 3 5 の実施形態において既に説明したとおりである。ステップ S J 8 1 1 にて否定判定を行った場合又はステップ S J 8 1 2 の処理を行った場合には、ステップ S J 8 1 3～ステップ S J 8 1 4 において、上記第 3 5 の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図 2 8 6）のステップ S J 4 1 7～ステップ S J 4 1 8 と同様の処理を実行する。具体的には、確認フラグ群 5 2 2 におけるアウト確認フラグ 5 2 2 g に「1」がセットされている場合（ステップ S J 8 1 3：Y E S）には、アウト報知コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する（ステップ S J 8 1 4）。音光側 M P U 9 3 はアウト入球報知コマンドを受信した場合、音光側 R O M 9 4 からアウト入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したアウト入球報知音テーブルに従って 0. 6 秒間に亘ってアウト入球報知音が出力されるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。

【3 2 6 1】

ステップ S J 8 1 3 にて否定判定を行った場合又はステップ S J 8 1 4 の処理を行った場合には、ステップ S J 8 1 5～ステップ S J 8 1 6 において、上記第 3 5 の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図 2 8 6）のステップ S J 4 1 9～ステップ S J 4 2 0 と同様の処理を実行する。具体的には、確認フラグ群 5 2 2 におけるゲート入賞確認フ

ラグ522hに「1」がセットされている場合（ステップSJ815：YES）には、ゲート入球報知コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSJ816）。音光側MPU93はゲート入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からゲート入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したゲート入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってゲート入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3262】

ステップSJ815にて否定判定を行った場合、又はステップSJ816の処理を行った場合には、V入賞用確認報知処理を実行する（ステップSJ817）。図293はV入賞用確認報知処理を示すフローチャートである。

【3263】

ステップSJ901～ステップSJ902では、上記第35の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図286）のステップSJ413～ステップSJ414と同様の処理を実行する。具体的には、V入賞用確認報知処理では、確認フラグ群522におけるV入賞確認フラグ522kに「1」がセットされている場合（ステップSJ901：YES）には、V入球報知コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSJ902）。V入球報知コマンドは、入出力確認期間においてV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞検知センサ539において検知されたことを報知するV入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93はV入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からV入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したV入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってV入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3264】

その後、主側RAM84に設けられた確認済み報知中フラグ547（図272）に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSJ903）。確認済み報知中フラグ547は、入出力確認期間中にV入賞検知センサ539及びカウント検知センサ538の双方において遊技球が検知されたことに基づいて確認済み報知が行われたことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされていない場合（ステップSJ903：NO）には、主側RAM84におけるV入球確認済みフラグ546に「1」をセットする（ステップSJ904）。ステップSJ904では、既にV入球確認済みフラグ546に「1」がセットされている状態である場合には当該状態が維持されるようにする。

【3265】

ステップSJ901にて否定判定を行った場合、ステップSJ903にて肯定判定を行った場合又はステップSJ904の処理を行った場合には、ステップSJ905～ステップSJ906において、上記第35の実施形態における入球報知コマンド送信処理（図286）のステップSJ415～ステップSJ416と同様の処理を実行する。具体的には、確認フラグ群522におけるカウント入賞確認フラグ522jに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSJ905）。カウント入賞確認フラグ522jに「1」がセットされている場合（ステップSJ905：YES）には、カウント入球報知コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSJ906）。カウント入球報知コマンドは、入出力確認期間においてV入賞装置531に入球した遊技球がカウント検知センサ538において検知されたことを報知するカウント入球報知音をスピーカ部65から出力すべきことを音光側MPU93に認識させるためのコマンドである。音光側MPU93はカウント入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からカウント入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したカウント入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってカウント入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3266】

その後、主側RAM84の確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされていない場合（ステップSJ907：NO）には、主側RAM84におけるカウント入球確認済みフラグ545に「1」をセットする（ステップSJ908）。ステップSJ908では、

10

20

30

40

50

既にカウント入球確認済みフラグ545に「1」がセットされている状態である場合には当該状態が維持されるようにする。

【3267】

ステップS J 9 0 5にて否定判定を行った場合、ステップS J 9 0 7にて肯定判定を行った場合、又はステップS J 9 0 8の処理を行った場合には、主側RAM84の確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップS J 9 0 9）。確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされていない場合（ステップS J 9 0 9：NO）には、主側RAM84におけるV入球確認済みフラグ546及びカウント入球確認済みフラグ545の双方に「1」がセットされていること（ステップS J 9 1 0：YES、ステップS J 9 1 1：YES）を条件として、確認済み報知を実行するための処理（ステップS J 9 1 2～ステップS J 9 1 5）を実行する。

10

【3268】

具体的には、まず主側RAM84におけるV入球確認済みフラグ546を「0」クリアし（ステップS J 9 1 2）、主側RAM84におけるカウント入球確認済みフラグ545を「0」クリアする（ステップS J 9 1 3）。その後、確認済み報知中フラグ547に「1」をセットする（ステップS J 9 1 4）。これにより、確認済み表示装置544が点灯状態であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。その後、確認済み表示装置544の点灯処理を実行する（ステップS J 9 1 5）。当該点灯処理では、確認済み表示装置544（図289）を点灯状態とするための点灯信号を出力する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、確認済み表示装置544が点灯状態となったことを確認することによりV入賞装置531に入球した遊技球の検知がカウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方において正常に行われる状態であることを把握することができる。また、ステップS J 9 0 9にて肯定判定を行った場合、すなわち既に確認済み報知が行われている状況である場合にもステップS J 9 1 5に進み、確認済み表示装置544の点灯処理を実行する。このように、確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされている場合には、V入賞用確認報知処理が実行される度に確認済み表示装置544に対して点灯信号が出力される。これにより、確認済み表示装置544の点灯状態を継続させることができる。

20

【3269】

本実施形態における入出力確認期間は、動作電力の供給が停止される場合を除いて、当該入出力確認期間（10秒）が満了するまで継続される。これにより、切換片536の退避位置復帰が行われている途中で入出力確認期間が終了してしまうことを防止できる。

30

【3270】

次に、確認済み報知が行われる様子について図294のタイムチャートを参照しながら説明する。図294（a）は確認済み報知の実行期間を示し、図294（b）はスピーカ部65からカウント入球報知音が出力される期間を示し、図294（c）はスピーカ部65からV入球報知音が出力される期間を示し、図294（d）は主側RAM84の確認済み報知中フラグ547の状態を示し、図294（e）は主側RAM84のカウント入球確認済みフラグ545の状態を示し、図294（f）はV入賞検知センサ539にて遊技球が検知されるタイミングを示し、図294（g）は切換片536の退避位置復帰が実行される期間を示し、図294（h）は入出力確認期間を示す。

40

【3271】

図294（h）に示すように、t1のタイミングで入出力確認期間が開始されると、図294（g）に示すように、当該t1のタイミングからt2のタイミングに亘って切換片536の退避位置復帰が行われる。その後、V入賞装置531に入球した遊技球がt3のタイミングでカウント検知センサ538にて検知されると、図294（e）に示すように主側RAM84のカウント入球確認済みフラグ545に「1」がセットされる。また、図294（b）に示すように、当該t3のタイミングからt4のタイミングに亘ってスピーカ部65からカウント入球報知音が出力される。これにより、遊技ホールの管理者はV入賞装置531に入球して排出通路領域535bに案内された遊技球がカウント検知センサ

50

538にて正常に検知される状態であることを把握することができる。

【3272】

その後、t5のタイミングで、図294(f)に示すようにV入賞装置531に入球した遊技球がV入賞検知センサ539にて検知されると、図294(c)に示すように当該t5のタイミングからt6のタイミングに亘ってスピーカ部65からV入球報知音が出力される。これにより、遊技ホールの管理者はV入賞装置531に入球してV入賞通路領域535cに案内された遊技球がV入賞検知センサ539にて正常に検知される状態であることを把握することができる。また、当該t5のタイミングで、図294(e)に示すようにカウント入球確認済みフラグ545が「0」クリアされるとともに、図294(d)に示すように確認済み報知中フラグ547に「1」がセットされる。そして、図294(a)に示すように、確認済み報知が開始される。既に説明したとおり、確認済み報知では、確認済み表示装置544が点灯状態となる。その後、t7のタイミングで、図294(h)に示すように入出力確認期間が終了すると、図294(d)に示すように確認済み報知中フラグ547が「0」クリアされるとともに、図294(a)に示すように確認済み報知が終了する。

10

【3273】

遊技ホールの管理者は、入出力確認期間においてV入賞装置531に複数の遊技球を入球させて確認済み表示装置544が点灯状態となったことを確認することにより、カウント検知センサ538及びV入賞検知センサ539の双方において遊技球の検知が正常に行われる状態であることを把握することができるとともに、切換片536の動作を外部から直接視認することなく切換片536が退避位置に配置されている状態から誘導位置に配置されている状態への切り換えが正常に行われる状態であることを把握することができる。

20

【3274】

<第36の実施形態の別形態>

(1) 上記第36の実施形態では、RAMクリア処理が実行される場合に切換片536を原点に復帰させる処理及び切換片536の回動制御を実行する処理が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に主制御基板81に設けられた原点復帰ボタンが操作されていることに基づいて切換片536を退避位置に復帰させる原点復帰用処理が実行され、当該原点復帰用処理が実行される場合には入出力確認用処理が実行される構成としてもよい。原点復帰ボタンが操作されていることに基づいて原点復帰用処理が実行される構成とすることにより、RAMクリア処理の実行の有無とは無関係に、原点復帰用処理が実行されるようにすることができる。これにより、RAMクリア処理が実行されない状況においても、遊技ホールの管理者が原点復帰ボタンを操作することにより切換片536を退避位置に復帰させることを可能とすることができる。原点復帰用処理は、メイン処理(図246)において残余処理(ステップSG628～ステップSG631)が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて実行される。主側MPU82は、原点復帰用処理の終了時に、入出力確認期間(10秒)に対応する数値情報(「2500」)を確認用タイマカウンタ523aにセットする。これにより、原点復帰用処理が実行された場合には、メイン処理(図246)のステップSG627にて立ち上げ処理中フラグの値が「0」クリアされた後に、入出力確認用処理が実行される入出力確認期間が発生するようにすることができる。入出力確認期間では、切換片536の回動制御を実行する処理が実行される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において切換片536の動作態様を目視により確認することにより、切換片536の回動制御が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、切換片536の回動制御が正常に行われない状態で遊技が実行されてしまう可能性を低減することができる。

30

40

【3275】

<第37の実施形態>

本実施形態では主側MPU82の処理構成が上記第33の実施形態と相違している。以下、上記第33の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第33の実

50

施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【3276】

図295は本実施形態における主制御装置71の構成を説明するための説明図であり、図296は主側RAM84の構成を説明するための説明図である。

【3277】

主側MPU82においてプログラムを利用して実行される各種制御は、上記第13の実施形態と同様に、特定制御と非特定制御とで区別される。具体的には、遊技履歴の管理及び入出力確認期間における動作確認に関する制御が非特定制御とされ、遊技者による遊技操作に基づき遊技を進行させるための制御を含めて非特定制御以外の制御が特定制御とされている。詳細には、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理（図246）による制御は特定制御に含まれる。また、定期的に割り込んで起動されるタイマ割込み処理（図300）において、後述する入出力確認用処理（ステップSK404）及び管理用処理（ステップSK424）以外の処理はいずれも特定制御に含まれ、入出力確認用処理（ステップSK404）及び管理用処理（ステップSK424）は非特定制御に含まれる。

【3278】

上記第13の実施形態と同様に、主側MPU82にて実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、主側ROM83においても特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが記憶されているエリアのアドレスが明確に区別されている。

【3279】

具体的には、上記第13の実施形態において図76を参照しながら既に説明したとおり、アドレスX(1)～アドレスX(k+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレスX(1)～アドレスX(k+2)に連続するアドレスX(k+3)～アドレスX(k+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(k+6)～アドレスX(m+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のデータが集約して記憶されている。また、アドレスX(k+6)～アドレスX(m+2)に連続するアドレスX(m+3)～アドレスX(m+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(m+6)～アドレスX(n+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレスX(m+6)～アドレスX(n+2)に連続するアドレスX(n+3)～アドレスX(n+5)はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスX(n+6)～アドレスX(p+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のデータが集約して記憶されている。なお、上記のようなプログラム及びデータとアドレスとの関係は、主側ROM83における物理アドレス及び主側MPU82において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

【3280】

上記のように特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよく、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよい。よって、プログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、それに伴ってプログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別して修正する場合の作業を効率的に行うことが可能となる。

【3281】

特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲と、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、特定制御用のアドレス範囲と非特定制御用のアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【3282】

特定制御用のアドレス範囲及び非特定制御用のアドレス範囲のそれぞれにおいて、プログラムとデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、プログラムとデータとで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、プログラムが記憶されたエリアのアドレス範囲と、データが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、プログラムのアドレス範囲とデータのアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【3283】

図296に示すように、主側RAM84には、特定制御用のワークエリア211、特定制御用のスタックエリア212、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214が設けられている。上記第13の実施形態と同様に、主側MPU82にてプログラムを利用して実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、主側RAM84においても特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212のアドレス範囲と、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214のアドレス範囲とが明確に区別されている。

【3284】

具体的には、上記第13の実施形態において図77を参照しながら既に説明したとおり、アドレスY(1)～アドレスY(r+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のワークエリア211として設定されている。また、アドレスY(1)～アドレスY(r+2)に連続するアドレスY(r+3)～アドレスY(r+5)は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスY(r+6)～アドレスY(s+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のスタックエリア212として設定されている。また、アドレスY(r+6)～アドレスY(s+2)に連続するアドレスY(s+3)～アドレスY(s+5)は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスY(s+6)～アドレスY(t+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のワークエリア213として設定されている。また、アドレスY(s+6)～アドレスY(t+2)に連続するアドレスY(t+3)～アドレスY(t+5)は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後続けてアドレスY(t+6)～アドレスY(u+2)の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のスタックエリア214として設定されている。なお、上記のような各エリアとアドレスとの関係は、主側RAM84における物理アドレス及び主側MPU82において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

【3285】

上記のように特定制御用のワークエリア211と、非特定制御用のワークエリア213とが区別して設定されていることにより、主側MPU82において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、各種演算などを実行する場合において主側RAM84の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうちの一方を実行する場合に他方において必要な主側RAM84の情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各ワークエリア211、213への情報の書き込み及び各ワークエリア211、213からの情報の読み出しに際しては主側MPU82にてロード命令が行われる。

【3286】

特定制御用のスタックエリア 212 と、非特定制御用のスタックエリア 214 とが区別して設定されていることにより、主側 MPU 82 において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、主側 MPU 82 のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合において主側 RAM 84 の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行している状況において主側 MPU 82 のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合に、他方において使用される情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各スタックエリア 212, 214 への情報の書き込みに際しては主側 MPU 82 にてプッシュ命令が行われ、各スタックエリア 212, 214 からの情報の読み出しに際しては主側 MPU 82 にてポップ命令が行われる。また、各スタックエリア 212, 214 からの情報の読み出しに際しては当該スタックエリア 212, 214 への書き込み順序が後の情報から先に読み出し対象となる。

10

【3287】

ここで、主側 MPU 82 において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側 MPU 82 は特定制御用のワークエリア 211 及び特定制御用のスタックエリア 212 への情報の書き込みが可能であるとともに、特定制御用のワークエリア 211 及び特定制御用のスタックエリア 212 からの情報の読み出しが可能である。一方、主側 MPU 82 において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側 MPU 82 は非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 からの情報の読み出しは可能であるものの、非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 への情報の書き込みは不可である。これにより、特定制御に対応する処理が実行されている状況において、非特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

20

【3288】

また、主側 MPU 82 において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側 MPU 82 は非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 への情報の書き込みが可能であるとともに、非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 からの情報の読み出しが可能である。一方、主側 MPU 82 において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側 MPU 82 は特定制御用のワークエリア 211 及び特定制御用のスタックエリア 212 からの情報の読み出しは可能であるものの、特定制御用のワークエリア 211 及び特定制御用のスタックエリア 212 への情報の書き込みは不可である。これにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において、特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

30

【3289】

なお、主側 RAM 84 にはパチンコ機 10 の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されることとなるが、当該バックアップ電力は特定制御用のワークエリア 211、特定制御用のスタックエリア 212、非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 の全てに供給される。これにより、これら特定制御用のワークエリア 211、特定制御用のスタックエリア 212、非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 に記憶された情報は、パチンコ機 10 の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されている間は記憶保持される。

40

【3290】

上記第 33 の実施形態において既に説明したとおり、主側 MPU 82 の入力側には、第 1 入賞口検知センサ 231a、第 2 入賞口検知センサ 232a、第 3 入賞口検知センサ 233a、特電検知センサ 234a、第 1 作動口検知センサ 235a、第 2 作動口検知センサ 236a、アウト口検知センサ 237a 及びゲート検知センサ 238a が接続されている。

【3291】

50

本実施形態では、タイマ割込み処理（図300）のステップSK411～ステップSK423の処理が実行される遊技可能状態においては後述する入球検知処理（タイマ割込み処理（図300）のステップSK413）にて主側MPU82がこれらの検知センサ231a～238aから入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを特定するとともに、入出力確認期間においては後述する入球報知用処理（図302）にて主側MPU82がこれらの検知センサ231a～238aから入力される検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを特定する。入球検知処理（ステップSK413）は特定制御用の処理に含まれているとともに、入球報知用処理（図302）は非特定制御用の処理に含まれている。図296に示すように、特定制御用のワークエリア211には入球検知処理（ステップSK413）にて利用される第1検知信号記憶エリア571が設けられているとともに、非特定制御用のワークエリア213には入球報知用処理（図302）にて利用される第2検知信号記憶エリア572が設けられている。

【3292】

図297（a）は第1検知信号記憶エリア571の構成を説明するための説明図であり、図297（b）は第2検知信号記憶エリア572の構成を説明するための説明図である。図297（a）に示すように、第1検知信号記憶エリア571は1バイトからなるエリアであり、第0～第7ビット571a～571hを有している。入球検知処理（ステップSK413）では、第1入賞口検知センサ231aから入力されている検知信号に対応するデータが第0ビット571aに記憶され、第2入賞口検知センサ232aから入力されている検知信号に対応するデータが第1ビット571bに記憶され、第3入賞口検知センサ233aから入力されている検知信号に対応するデータが第2ビット571cに記憶され、特電検知センサ234aから入力されている検知信号に対応するデータが第3ビット571dに記憶され、第1作動口検知センサ235aから入力されている検知信号に対応するデータが第4ビット571eに記憶され、第2作動口検知センサ236aから入力されている検知信号に対応するデータが第5ビット571fに記憶され、アウト口検知センサ237aから入力されている検知信号に対応するデータが第6ビット571gに記憶され、ゲート検知センサ238aから入力されている検知信号に対応するデータが第7ビット571hに記憶される。第0～第7ビット571a～571hに記憶されるデータは、LOWレベルの検知信号に対応する「0」というデータ又はHIレベルの検知信号に対応する「1」というデータである。入球検知処理（ステップSK413）では、前回の処理回にて第1検知信号記憶エリア571の各ビット571a～571hに記憶したデータと、現状において各検知センサ231a～238aから入力されている検知信号の状態とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。

【3293】

図297（b）に示すように、第2検知信号記憶エリア572は1バイトからなるエリアであり、第0～第7ビット572a～572hを有している。入球報知用処理（図302）では、第1入賞口検知センサ231aから入力されている検知信号に対応するデータが第0ビット572aに記憶され、第2入賞口検知センサ232aから入力されている検知信号に対応するデータが第1ビット572bに記憶され、第3入賞口検知センサ233aから入力されている検知信号に対応するデータが第2ビット572cに記憶され、特電検知センサ234aから入力されている検知信号に対応するデータが第3ビット572dに記憶され、第1作動口検知センサ235aから入力されている検知信号に対応するデータが第4ビット572eに記憶され、第2作動口検知センサ236aから入力されている検知信号に対応するデータが第5ビット572fに記憶され、アウト口検知センサ237aから入力されている検知信号に対応するデータが第6ビット572gに記憶され、ゲート検知センサ238aから入力されている検知信号に対応するデータが第7ビット572hに記憶される。第0～第7ビット572a～572hに記憶されるデータは、LOWレベルの検知信号に対応する「0」というデータ又はHIレベルの検知信号に対応する「1

10

20

30

40

50

」というデータである。入球報知用処理（図302）では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の各ビット572a～572hに記憶したデータと、現状において各検知センサ231a～238aから入力されている検知信号の状態とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHILEVELへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。

【3294】

非特定制御用のワークエリア213に第2検知信号記憶エリア572が設けられていることにより、入出力確認期間中に入球検知処理（ステップSK413）を実行することなく、検知センサ231a～238aから入力される検知信号の立ち上がりを検出することができる。非特定制御の処理に含まれている入出力確認用処理（図301）の実行中に、特定制御の処理に含まれている入球検知処理（ステップSK413）の実行を不要とすることにより、非特定制御の処理が実行されている状態から特定制御の処理が実行されている状態への移行、及び特定制御の処理が実行されている状態から非特定制御の処理が実行されている状態への移行を不要として、入出力確認用処理（図301）を実行するための処理負荷を軽減することができる。

【3295】

図296に示すように、非特定制御用のワークエリア213には、入出力確認用処理（ステップSK404）にて利用される確認用タイマカウンタ573、動作確認開放中フラグ574、入出力確認終了フラグ575及び切換タイマカウンタ576が設けられている。確認用タイマカウンタ573は、入出力確認期間の残りの継続時間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。動作確認開放中フラグ574は、入出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの開放期間であることを主側MPU82にて把握可能とするフラグであるとともに、入出力確認終了フラグ575は、入出力確認期間が終了したことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。切換タイマカウンタ576は、上記第33の実施形態における切換タイマカウンタ523bと同様に、入出力確認期間において、特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態から閉鎖状態に切り換えるタイミング、並びに特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態から開放状態に切り換えるタイミングを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。

【3296】

上記第13の実施形態と同様に、主側MPU82には、特定制御処理部221、非特定制御処理部222及びレジスタエリア223が設けられている（図295参照）。特定制御処理部221は主側ROM83に記憶された特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して特定制御の処理を実行する機能として設けられているとともに、非特定制御処理部222は主側ROM83に記憶された非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して非特定制御の処理を実行する機能として設けられている。特定制御処理部221にて特定制御の処理が実行される場合及び非特定制御処理部222にて非特定制御の処理が実行される場合のいずれであっても、主側MPU82に設けられたレジスタエリア223からの情報の読み出し及びレジスタエリア223への情報の書き込みが行われる。

【3297】

上記第13の実施形態と同様に、レジスタエリア223には汎用レジスタエリア223aと、コマンド送信バッファ223bとが設けられている（図295参照）。汎用レジスタエリア223aには、フラグレジスタ、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタなどが存在している。各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタとして、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタなどが設けられている。コマンド送信バッファ223bは、特定制御処理部221にて特定制御の処理が実行されたことにより所定のコマンドを音声発光制御装置91の音声発光制御基板92に設けられた音光側MPU93に送信する必要がある場合にその送信対象となる所定のコマンドが格納される。また、コマンド送信バッファ223bは、非特定制御処理部222にて非特定制御の処理が実行されたことにより特定のコマンドを音光側MPU93に送信する必要がある場合にその送信対象となる特定

10

20

30

40

50

のコマンドが格納される。コマンド送信バッファ 223 b は 1 種類のコマンドを格納することが可能な単位格納エリアが複数設けられたリングバッファとして設けられている。送信対象となったコマンドは主側 MPU 82 に設けられた書き込みポインタの情報に対応する単位格納エリアに書き込まれる。この場合、書き込み対象となる単位格納エリアは所定の順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の単位格納エリアが書き込み対象となった次は最初の順番の単位格納エリアが書き込み対象となる。

【3298】

上記第 13 の実施形態において既に説明したとおり、コマンド送信バッファ 223 b の各単位格納エリアに書き込まれたコマンドは、主側 MPU 82 に設けられたコマンド送信回路 224 によって音光側 MPU 93 に送信される。コマンド送信回路 224 には読み出しポインタが設けられており、当該読み出しポインタの情報に対応する単位格納エリアに格納されたコマンドを音光側 MPU 93 に送信する。この場合、読み出し対象となる単位可能エリアは特定の順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の単位格納エリアが読み出し対象となった次は最初の順番の単位格納エリアが読み出し対象となる。コマンド送信回路 224 は、主側 MPU 82 の特定制御処理部 221 及び非特定制御処理部 222 におけるプログラムを利用した処理の実行を介在させることなく、すなわちプログラムを利用した処理の実行を介在させることなく、コマンド送信バッファ 223 b の読み出し対象の単位格納エリアからコマンドを読み出しその読み出したコマンドの送信を行う。したがって、コマンド送信回路 224 において音光側 MPU 93 へのコマンドの送信が行われている状況であっても特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行され得るとともに非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行され得る。さらに言うと、特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行されることによりコマンド送信バッファ 223 b に格納されたコマンドがコマンド送信回路 224 により送信されている状況であっても特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行され得るだけではなく非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行され得る構成であり、非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行されることによりコマンド送信バッファ 223 b に格納されたコマンドがコマンド送信回路 224 により送信されている状況であっても非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行され得るだけではなく特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行され得る構成である。なお、コマンド送信回路 224 による音光側 MPU 93 へのコマンドの送信速度は、コマンド送信バッファ 223 b に新たにコマンドが格納されることによって当該コマンド送信バッファ 223 b に格納されている未送信のコマンドが上書きされてしまわない速度に設定されている。

【3299】

図 295 に示すように、レジスタエリア 223 には、出力用レジスタ 223 d が設けられている。出力用レジスタ 223 d は、1 バイトからなるレジスタであり、第 0 ～ 第 7 ビットを有している。特定制御処理部 221 にて特定制御の処理が実行される場合及び非特定制御処理部 222 にて非特定制御の処理が実行される場合のいずれであっても、出力用レジスタ 223 d からの情報の読み出し及び出力用レジスタ 223 d への情報の書き込みが行われる。

【3300】

図 297 (c) は出力用レジスタ 223 d における各ビットの役割を説明するための説明図である。図 297 (c) に示すように、出力用レジスタ 223 d の第 0 ビットは、特電用の駆動部 32 b に対する信号の出力状態を指定する「0」又は「1」のデータが設定されるエリアであり、出力用レジスタ 223 d の第 1 ビットは、普電用の駆動部 34 b に対する信号の出力状態を指定する「0」又は「1」のデータが設定されるエリアであり、出力用レジスタ 223 d の第 2 ビットは、入出力確認表示装置 521 に対する信号の出力状態を指定する「0」又は「1」のデータが設定されるエリアである。出力用レジスタ 223 d の第 3 ～ 第 7 ビットは、未使用のエリアである。

【3301】

図 295 に示すように、主側 MPU 82 にはポート設定回路 577 が設けられている。

ポート設定回路577は、主側MPU82にて実行される処理による制御を介することなく、出力用レジスタ223dに設定されているデータに基づいて、信号出力のための制御を実行するハードウェアである。ポート設定回路577は、出力用レジスタ223dの第0ビットの値が「1」である場合には特電用の駆動部32bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を開放状態とする。また、ポート設定回路577は、当該第0ビットの値が「0」である場合には特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が行われなくようにすることにより特電用の駆動部32bを非駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を閉鎖状態とする。ポート設定回路577は、出力用レジスタ223dの第1ビットの値が「1」である場合には普電用の駆動部34bに対して駆動信号を出力することにより普電用の駆動部34bを駆動状態とするとともに、普電役物34aを開放状態とする。また、ポート設定回路577は、当該第1ビットの値が「0」である場合には普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が行われなくようにすることにより普電用の駆動部34bを非駆動状態とするとともに、普電役物34aを閉鎖状態とする。ポート設定回路577は、出力用レジスタ223dの第2ビットの値が「1」である場合には入出力確認表示装置521に対して点灯信号を出力することにより入出力確認表示装置521を点灯状態とする。また、ポート設定回路577は、当該第2ビットの値が「0」である場合には入出力確認表示装置521に対する点灯信号の出力が行われなくようにすることにより入出力確認表示装置521を消灯状態とする。

【3302】

ポート設定回路577が出力用レジスタ223dに設定されているデータに基づいて特電用の駆動部32bへの駆動信号、普電用の駆動部34bへの駆動信号又は入出力確認表示装置521への点灯信号を出力する動作は、所定の周期（例えば2ミリ秒の周期）で行われる。このため、出力用レジスタ223dの第0ビットに「1」がセットされた場合には、当該第0ビットが「0」クリアされるまで特電用の駆動部32bの駆動状態が継続されるとともに、特電入賞装置32の開放状態が継続される。また、出力用レジスタ223dの第1ビットに「1」がセットされた場合には、当該第1ビットが「0」クリアされるまで普電用の駆動部34bの駆動状態が継続されるとともに、普電役物34aの開放状態が継続される。さらにまた、出力用レジスタ223dの第2ビットに「1」がセットされた場合には、当該第2ビットが「0」クリアされるまで入出力確認表示装置521の点灯状態が継続される。

【3303】

次に、主側MPU82にて実行されるRAMクリア処理について図297(d)のフローチャートを参照しながら説明する。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、RAMクリア処理は、メイン処理（図246）のステップSG620及び設定値更新処理（図247）のステップSG701にて実行される。

【3304】

まず特定制御用のワークエリア211のクリア処理を実行する（ステップSK101）。特定制御用のワークエリア211のクリア処理では、アドレスY(5)～アドレスY(r+2)のエリアを「0」クリアするとともに、当該アドレスY(5)～アドレスY(r+2)のエリアの初期設定を行う。アドレスY(5)は、主側RAM84において特定制御用のワークエリア211に含まれるエリアのアドレスであって、主側RAM84及び特定制御用のワークエリア211における先頭アドレスY(1)及び2番目のアドレスY(2)～4番目のアドレスY(4)に対して次の順番に設定されているアドレスである。先頭アドレスY(1)に対応するエリアは、使用対象の設定値の情報が記憶される設定参照エリアとなっている。また、2番目のアドレスY(2)～3番目のアドレスY(3)に対応するエリアは、天井カウンタ131となっている。さらにまた、4番目のアドレスY(4)に対応するエリアには、立ち上げ処理中フラグが設けられている。RAMクリア処理（図297(d)）では5番目のアドレスY(5)以降のアドレスに対応するエリアに対してクリア処理が実行されるが、先頭アドレスY(1)及び2～4番目のアドレスY(

2)～4番目のアドレスY(4)に対応するエリアに対してはクリア処理が実行されない。これにより、RAMクリア処理(図297(d))によって使用対象の設定値の情報、天井カウンタ131に格納されている情報及び立ち上げ処理中フラグに設定されている情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【3305】

特定制御用のワークエリア211のクリア処理(ステップSK101)が実行されることにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「0」クリアされるため、パチンコ機10への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部38aが変動表示されていない状況であって普電役物34aが閉鎖状態である状況となる。また、特図保留エリア84a及び普図保留エリア84cも「0」クリアされるため、第1保留情報、第2保留情報及び普図側の保留情報が消去される。また、設定更新中フラグ、設定確認中フラグ及び設定更新用エリアが「0」クリアされる。さらにまた、遊技停止フラグが「0」クリアされる。また、タイマカウンタエリア523におけるタイマカウンタ523a～523gも「0」クリアされる。

10

【3306】

その後、特定制御用のスタックエリア212のクリア処理を実行する(ステップSK102)。特定制御用のスタックエリア212のクリア処理では、アドレスY(r+6)～アドレスY(s+1)のエリアを「0」クリアするとともに、当該アドレスY(r+6)～アドレスY(s+1)のエリアの初期設定を行う。

20

【3307】

その後、CALLI命令により非特定制御用の一部クリア処理を実行する(ステップSK103)。非特定制御用のワークエリア213には役比を算出するための情報が記憶されるエリアが設けられているが、非特定制御用の一部クリア処理において当該エリアは「0」クリア及び初期設定の対象から除外されている。これにより、RAMクリア処理(図297(d))によって役比を算出するための情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。非特定制御用の一部クリア処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、メイン処理(図246)において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理がCALLI命令を利用して呼び出される。

30

【3308】

CALLI命令により非特定制御用の一部クリア処理が実行される場合、まず主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避される。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、P/Vフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御の処理である非特定制御用の一部クリア処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御用の一部クリア処理のコールや当該非特定制御用の一部クリア処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させておくことが可能となる。

40

【3309】

CALLI命令により非特定制御用の一部クリア処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、タイマ割込み処理(図300)の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である非特定制御用の一部クリア処理の実行中に、特定制御の処理であるタイマ割込み処理(図300)が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【3310】

図298は非特定制御用の一部クリア処理を示すフローチャートである。なお、非特定制御用の一部クリア処理におけるステップSK201～ステップSK216の処理は、非

50

スレジスタが存在している。この場合に、ステップSK203～ステップSK208では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア213における対応するバッファに退避させている。なお、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報量はいずれも2バイトとなっている。

【3316】

これらWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタは非特定制御に対応する処理である確認用クリア処理（ステップSK209）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を確認用クリア処理（ステップSK209）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア213に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【3317】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である確認用クリア処理（ステップSK209）にて利用対象となるWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア213においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、確認用クリア処理（ステップSK209）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア213の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

【3318】

なお、当然のことながら主側MPU82における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【3319】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア214に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア214の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア214を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることになってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア214に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまふ。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【3320】

ステップSK203～ステップSK208の処理を実行した後は、CALL命令により確認用クリア処理（ステップSK209）を実行する。確認用クリア処理（ステップSK209）の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている確認用クリア処理（ステップSK209）に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては確認用クリア処理（ステップSK2

10

20

30

40

50

09)の実行後における非特定制御用の一部クリア処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア214に書き込まれる。そして、確認用クリア処理(ステップSK209)が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す非特定制御用の一部クリア処理のプログラムに復帰する。確認用クリア処理(ステップSK209)の詳細については後に説明する。

【3321】

確認用クリア処理(ステップSK209)を実行した後は、「LD WA, (__WABUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のWAバッファに退避された情報を主側MPU82のWAレジスタに上書きする(ステップSK210)。また「LD BC, (__BCBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のBCバッファに退避された情報を主側MPU82のBCレジスタに上書きする(ステップSK211)。また「LD DE, (__DEBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のDEバッファに退避された情報を主側MPU82のDEレジスタに上書きする(ステップSK212)。また「LD HL, (__HLBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のHLバッファに退避された情報を主側MPU82のHLレジスタに上書きする(ステップSK213)。また「LD IX, (__IXBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIXバッファに退避された情報を主側MPU82のIXレジスタに上書きする(ステップSK214)。また「LD IY, (__IYBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のIYバッファに退避された情報を主側MPU82のIYレジスタに上書きする(ステップSK215)。ステップSK210～ステップSK215の処理が実行されることにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【3322】

その後、「LD SP, (__SPBUF)」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア213のSPバッファに退避された情報を主側MPU82のスタックポインタに上書きする(ステップSK216)。これにより、主側MPU82のスタックポインタの情報が非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応する情報に復帰することとなる。

【3323】

既に説明したとおり、RAMクリア処理は、メイン処理(図246)のステップSG620にて実行される場合と、設定値更新処理(図247)のステップSG701にて実行される場合とがある。このため、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応するスタックポインタの情報は変動し得る。これに対して、非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応するスタックポインタの情報が非特定制御用のワークエリア213に退避される。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応するスタックポインタの情報が変動し得る構成であったとしても、非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、主側MPU82のスタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【3324】

ステップSK216の処理を実行した後は、RETI命令により特定制御の処理に含まれるメイン処理(図246)又は設定値更新処理(図247)に復帰する。RETI命令が実行されることにより、非特定制御用の一部クリア処理の実行前に特定制御用のスタックエリア212に退避させたフラグレジスタの情報が主側MPU82のフラグレジスタに復帰されるとともに、タイマ割込み処理(図300)の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定

制御を実行するための情報に復帰するとともに、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【3325】

ここで、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理が再開される場合に主側RAM84に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【3326】

また、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御の処理への復帰後において非特定制御の処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御の処理を間に挟んで実行される非特定制御の処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に記憶されており、主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御の処理が実行された場合に主側MPU82のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側RAM84に退避されないとしても、非特定制御の処理を実行する上で問題が生じない。

【3327】

図299は非特定制御用の一部クリア処理（図298）のステップSK209にて実行される確認用クリア処理を示すフローチャートである。なお、確認用クリア処理におけるステップSK301～ステップSK305の処理は、主側MPU82において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3328】

ステップSK301～ステップSK304では、非特定制御用のワークエリア213に設けられているエリアのうち入出力確認用処理（図301）において利用されるエリアを「0」クリアする処理を実行する。具体的には、非特定制御用のワークエリア213における確認用タイマカウンタ573を「0」クリアし（ステップSK301）、動作確認開放中フラグ574を「0」クリアする（ステップSK302）。その後、入出力確認終了フラグ575を「0」クリアし（ステップSK303）、切換タイマカウンタ576を「0」クリアする（ステップSK304）。

【3329】

その後、「LDW（KAKUTIM），2500」という命令を実行する（ステップSK305）。「LDW」は16ビットの転送命令であり、「KAKUTIM」は非特定制御用のワークエリア213における確認用タイマカウンタ573であり、「2500」は10秒に設定されている入出力確認期間に対応する数値情報である。ステップSK305にて「LDW（KAKUTIM），2500」という命令が実行されることにより、確認用タイマカウンタ573に「2500」という数値情報がセットされる。これにより、入出力確認期間が10秒に設定される。また、入出力確認期間に対応する「2500」という数値情報を確認用タイマカウンタ573にセットすることにより、メイン処理（図246）における動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に、タイマ割込み処理（図300）が起動された場合に入出力確認期間が開始されるようにすることができる。

【3330】

RAMクリア処理（ステップSG620又はステップSG701）が実行された場合には、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に入出力確認期間が開始される構成において、RAMクリア処理が実行された場合には、非特定制御用のワークエリア213に設けられているエリアのうち入出力確認用処理（図301）において利用されるエリアが「0」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア213に設けられているエリアのうち入出力確認用処理において利用さ

10

20

30

40

50

れるエリアが「0」クリアされた状態で、入出力確認用処理が実行されるようにすることができる。

【3331】

次に、主側MPU82にて実行されるタイマ割込み処理について図300のフローチャートを参照しながら説明する。なお、タイマ割込み処理におけるステップSK401～ステップSK424の処理のうちステップSK404にて呼び出されて実行される入出力確認用処理及びステップSK424にて呼び出される管理用処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行され、入出力確認用処理及び管理用処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

10

【3332】

ステップSK401では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG901と同様に、停電監視処理を実行する。その後、特定制御用のワークエリア211における立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされているか否かを判定し（ステップSK402）、立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップSK402：NO）には、非特定制御用のワークエリア213における確認用タイマカウンタ573の値が「1」以上であるか否かを判定する（ステップSK403）。確認用タイマカウンタ573の値が「1」以上である場合（ステップSK403：YES）には、CALL命令により入出力確認用処理を実行する（ステップSK404）。CALL命令により入出力確認用処理が実行される場合、まず主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避される。これにより、当該入出力確認用処理のコールや当該入出力確認用処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア212に退避させておくことが可能となる。また、CALL命令により入出力確認用処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、タイマ割込み処理（図300）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である入出力確認用処理の実行中に、特定制御の処理であるタイマ割込み処理（図300）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。なお、入出力確認用処理については後に詳細に説明する。

20

【3333】

確認用タイマカウンタ573の値が「0」である場合（ステップSK403：NO）には、無効化用処理を実行する（ステップSK405）。無効化用処理については後に詳細に説明する。ステップSK402にて肯定判定を行った場合又はステップSK405の処理を行った場合にはステップSK406に進む。ステップSK406～ステップSK423では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG906～ステップSG923と同様の処理を実行する。具体的には、まず抽選用乱数更新処理を実行する（ステップSK406）。その後、ステップSK407ではメイン処理（図246）のステップSG629と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップSK408ではメイン処理（図246）のステップSG630と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する。

40

【3334】

その後、不正用の監視対象として設定されている所定の事象が発生しているか否かを監視する不正検知処理を実行する（ステップSK409）。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、所定の事象が発生していることを確認することで、主側RAM84に設けられた遊技停止フラグに「1」をセットする。

【3335】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSK410）。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップSK410：YES）、ステップSK411～ステップSK423の処理を実行することなくステップ

50

S K 4 2 4における遊技履歴の管理を行うための処理（管理用処理）に進む。これにより、立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況においては、タイマ割込み処理（図300）にて停電監視処理（ステップS G 9 0 1）と、各種カウンタの更新、不正監視及び遊技履歴の管理を実行する処理（ステップS K 4 0 6～ステップS K 4 0 9及びステップS K 4 2 4）とを実行するようにしながら、無効化用処理（ステップS K 4 0 5）及び遊技を進行させるための処理（ステップS K 4 1 1～ステップS K 4 2 3）は実行されないようにすることが可能となる。また、遊技停止フラグに「1」がセットされている状況においては、タイマ割込み処理（図300）にて停電監視処理（ステップS G 9 0 1）と、無効化期間の設定、各種カウンタの更新、不正監視及び遊技履歴の管理を実行する処理（ステップS K 4 0 5、ステップS K 4 0 6～ステップS K 4 0 9及びステップS K 4 2 4）とを実行するようにしながら、遊技を進行させるための処理（ステップS K 4 1 1～ステップS K 4 2 3）は実行されないようにすることが可能となる。

10

【3336】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「1」がセットされていない場合（ステップS K 4 1 0：NO）、ステップS K 4 1 1～ステップS K 4 2 3における遊技を進行させるための処理を実行する。具体的には、まずポート出力処理を実行する（ステップS K 4 1 1）。ポート出力処理では、前回のタイマ割込み処理において出力情報の切替設定が行われている場合に、その設定に対応した出力を各種駆動部32b、34bに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置32を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には、出力用レジスタ223dの第0ビットに「1」をセットすることにより特電用の駆動部32bへの駆動信号の出力が開始されるようにするとともに、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には、出力用レジスタ223dの第0ビットを「0」クリアすることにより当該駆動信号の出力が停止されるようにする。また、第2作動口34の普電役物34aを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には、出力用レジスタ223dの第1ビットに「1」をセットすることにより普電用の駆動部34bへの駆動信号の出力が開始されるようにするとともに、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には出力用レジスタ223dの第1ビットを「0」クリアすることにより当該駆動信号の出力が停止されるようにする。その後、読み込み処理を実行する（ステップS K 4 1 2）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。

20

30

【3337】

その後、「CALL SWREAD2」という命令を実行する（ステップS K 4 1 3）。「SWREAD2」は入球検知処理である。ステップS K 4 1 3では、CALL命令により入球検知処理を実行する。入球検知処理（ステップS K 4 1 3）の実行に際しては、入球検知処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては入球検知処理（ステップS K 4 1 3）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア212に書き込まれる。そして、入球検知処理（ステップS K 4 1 3）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。既に説明したとおり、入球検知処理では、前回の処理回にて特定制御用のワークエリア211における第1検知信号記憶エリア571の各ビット571a～571hに記憶したデータと、各検知センサ231a～238aから受信している検知信号の状態とに基づいて、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、アウト口24a及びスルーゲート35への入球の有無を特定する処理を実行する。ステップS K 4 1 3にて呼び出したサブルーチンのプログラムが終了した場合には、タイマ割込み処理（図300）のステップS K 4 1 4に進む。

40

【3338】

ステップS K 4 1 4では、「CALL TIMER」という命令を実行する。「TIMER」はタイマ更新処理である。ステップS K 4 1 4では、CALL命令によりタイマ更新処理を実行する。タイマ更新処理（ステップS K 4 1 4）の実行に際しては、タイマ更

50

新処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはタイマ更新処理（ステップSK414）の実行後における戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア212に書き込まれる。そして、タイマ更新処理（ステップSK414）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すプログラムに復帰する。タイマ更新処理では、主側RAM84における特定制御用のワークエリア211に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新する。具体的には、特図側タイマカウンタ523c、普図側タイマカウンタ523d、確認後無効化タイマカウンタ523e、特電用監視遅延タイマカウンタ523f及び普電用監視遅延タイマカウンタ523gの数値情報をまとめて更新する。一方、非特定制御用のワークエリア213に設けられている確認用タイマカウンタ573及び切換タイマカウンタ576は、タイマ更新処理（ステップSK414）における更新の対象から除外されている。ステップSK414にて呼び出したサブルーチンのプログラムが終了した場合には、タイマ割込み処理（図300）のステップSK415に進む。

【3339】

ステップSK415～ステップSK423では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG915～ステップSG923と同一の処理を実行する。ステップSK415～ステップSK423の処理内容は上記第33の実施形態において既に説明したとおりである。ステップSK410にて肯定判定を行った場合又はステップSK423の処理を行った場合には、CALL命令により管理用処理を実行する（ステップSK424）。管理用処理では、上記第33の実施形態と同様に、役比を算出するための遊技履歴を記憶するための処理、その記憶された遊技履歴を利用して役比を算出するための処理、及びその算出された役比が報知用表示装置141にて表示されるようにするための処理を実行する。

【3340】

上記のとおり、確認用タイマカウンタ573の値が1以上である場合には、ステップSK403にて肯定判定が行われて入出力確認用処理（ステップSK404）が実行された後、ステップSK405～ステップSK424の処理が実行されることなく、本タイマ割込み処理（図300）が終了する。入出力確認期間中にタイマ割込み処理が起動された場合には、役比を報知用表示装置141に表示するための処理が実行されないようにすることにより、入出力確認期間中に報知用表示装置141を消灯状態とすることができる。このため、報知用表示装置141を見ながら設定値を更新する操作を行った遊技ホールの管理者は、当該設定値を更新する操作の後に報知用表示装置141が消灯状態となったことを確認することにより入出力確認期間となったことを把握することができる。

【3341】

入出力確認期間においては、タイマ割込み処理（図300）が起動されても当該タイマ割込み処理におけるステップSK405～ステップSK424の処理が実行されない構成とすることにより、入出力確認期間における主側MPU82の処理負荷を軽減することができる。

【3342】

次に、タイマ割込み処理（図300）のステップSK404にて実行される入出力確認用処理について図301のフローチャートを参照しながら説明する。なお、入出力確認用処理におけるステップSK501～ステップSK516の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3343】

まず既に説明した非特定制御用の一部クリア処理（図298）のステップSK202と同様に、「LD SP, Y(u+2)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとして、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスであるY(u+2)を設定する（ステップSK

10

20

30

40

50

501)。これにより、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスに対応する記憶エリアが書き込み対象となっている状態とすることができる。

【3344】

その後、ステップSK502～ステップSK507では、既に説明した非特定制御用の一部クリア処理（図298）のステップSK203～ステップSK208と同一の処理を実行する。これにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファに退避させる。

【3345】

その後、CALL命令により入球報知用処理を実行し（ステップSK508）、CALL命令により動作確認用処理を実行する（ステップSK509）。なお、入球報知用処理（ステップSK508）及び動作確認用処理（ステップSK509）の詳細については後に説明する。

【3346】

その後、「LD SP, Y(r+e)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに入出力確認用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとして、特定制御用のスタックエリア212におけるY(r+8)とY(s)との間のアドレスとして設定されているY(r+e)を設定する（ステップSK510）。これにより、スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることができる。

【3347】

その後、ステップSK511～ステップSK516では、既に説明した非特定制御用の一部クリア処理（図298）のステップSK710～ステップSK715と同一の処理を実行することにより、非特定制御用のワークエリア213のWAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファに退避された情報を主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタに上書きする。これにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【3348】

その後、RETI命令により特定制御の処理に含まれるタイマ割込み処理（図300）に復帰する。既に説明したとおり、RETI命令が実行されることにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【3349】

次に、入出力確認用処理（図301）のステップSK508にて実行される入球報知用処理について、図302のフローチャートを参照しながら説明する。入球報知用処理は入出力確認期間において実行される一方、入出力確認期間が終了した場合にはタイマ割込み処理が起動されても実行されなくなる。なお、入球報知用処理におけるステップSK601～ステップSK625の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3350】

まず第1入賞口検知センサ231aの信号比較処理を実行する（ステップSK601）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて非特定制御用のワークエリア213における第2検知信号記憶エリア572の第0ビット572aに記憶したデータと、現状において第1入賞口検知センサ231aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、第1入賞口検知センサ231aから入力されている検知信号がLOWレ

10

20

30

40

50

ベルの場合には第0ビット572aを「0」クリアするとともに、第1入賞口検知センサ231aから入力されている検知信号がHレベルの場合には第0ビット572aに「1」をセットする。

【3351】

その後、ステップSK601にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK602：YES）には、共通入球報知コマンドをレジスタエリア223のコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSK603）。共通入球報知コマンドは、ステップSK603、ステップSK606、ステップSK609及びステップSK615にてコマンド送信バッファ223bに格納される。コマンド送信バッファ223bに共通入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該共通入球報知コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は共通入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94から共通入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した共通入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って共通入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3352】

遊技盤24に3個設けられている一般入賞口31への入球が発生した場合に出力される入球報知音と、第1作動口33への入球が発生した場合に出力される入球報知音とが共通化されていることにより、音光側ROM94に記憶しておく入球報知音テーブルのデータ容量が抑えられているとともに、入球報知音の種類が多くなり過ぎてしまうことが防止されている。

【3353】

ステップSK602にて否定判定を行った場合、又はステップSK603の処理を行った場合には、第2入賞口検知センサ232aの信号比較処理を実行する（ステップSK604）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の第1ビット572bに記憶したデータと、現状において第2入賞口検知センサ232aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、第2入賞口検知センサ232aから入力されている検知信号がLOWレベルの場合には第1ビット572bを「0」クリアするとともに、第2入賞口検知センサ232aから入力されている検知信号がHレベルの場合には第1ビット572bに「1」をセットする。

【3354】

その後、ステップSK604にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK605：YES）には、共通入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSK606）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

【3355】

ステップSK605にて否定判定を行った場合、又はステップSK606の処理を行った場合には、第3入賞口検知センサ233aの信号比較処理を実行する（ステップSK607）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の第2ビット572cに記憶したデータと、現状において第3入賞口検知センサ233aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、第3入賞口検知センサ233aから入力されている検知信号がLOWレベルの場合には第2ビット572cを「0」クリアするとともに、第3入賞口検知センサ233aから入力されている検知信号がHレベルの場合には第2ビット572cに「1」をセットする。

【3356】

その後、ステップSK607にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK608：YES）には、共通入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSK609）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

【3357】

ステップSK608にて否定判定を行った場合、又はステップSK609の処理を行った場合には、特電検知センサ234aの信号比較処理を実行する（ステップSK610）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の第3ビット572dに記憶したデータと、現状において特電検知センサ234aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、特電検知センサ234aから入力されている検知信号がLOWレベルの場合には第3ビット572dを「0」クリアするとともに、特電検知センサ234aから入力されている検知信号がHIレベルの場合には第3ビット572dに「1」をセットする。

10

【3358】

その後、ステップSK610にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK611：YES）には、特電入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSK612）。コマンド送信バッファ223bに特電入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該特電入球報知コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は特電入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94から特電入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した特電入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って特電入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において開閉動作が行われている特電入賞装置32に遊技球を手入れして特電入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、特電入賞装置32に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

20

【3359】

ステップSK611にて否定判定を行った場合、又はステップSK612の処理を行った場合には、第1作動口検知センサ235aの信号比較処理を実行する（ステップSK613）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の第4ビット572eに記憶したデータと、現状において第1作動口検知センサ235aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、第1作動口検知センサ235aから入力されている検知信号がLOWレベルの場合には第4ビット572eを「0」クリアするとともに、第1作動口検知センサ235aから入力されている検知信号がHIレベルの場合には第4ビット572eに「1」をセットする。

30

【3360】

その後、ステップSK613にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK614：YES）には、共通入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSK615）。これにより、0.6秒間に亘ってスピーカ部65から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

【3361】

ステップSK614にて否定判定を行った場合、又はステップSK615の処理を行った場合には、第2作動口検知センサ236aの信号比較処理を実行する（ステップSK616）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア572の第5ビット572fに記憶したデータと、現状において第2作動口検知センサ236aから主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のLOWレベルからHIレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、第2作動口検知センサ236aから入力されている検知信号がLOWレベルの場合には第5ビット572fを「0」クリアするとともに、第2作動口検知センサ236aから入力されている検知信号がHIレベルの場合には第5ビット572fに「1」をセットする。

40

【3362】

その後、ステップSK616にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップSK617：YES）には、第2作動入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに

50

格納する（ステップS K 6 1 8）。コマンド送信バッファ2 2 3 bに第2作動入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路2 2 4の動作によって当該第2作動入球報知コマンドが音光側M P U 9 3に送信される。音光側M P U 9 3は第2作動入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4から第2作動入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した第2作動入球報知音テーブルに従って0. 6秒間に亘って第2作動入球報知音が出力されるようにスピーカ部6 5の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において普電役物3 4 aの開閉動作により開放状態と閉鎖状態との切り換えが行われている第2作動口3 4に遊技球を手入れして第2作動入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、第2作動口3 4に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

10

【3 3 6 3】

ステップS K 6 1 7にて否定判定を行った場合、又はステップS K 6 1 8の処理を行った場合には、アウト口検知センサ2 3 7 aの信号比較処理を実行する（ステップS K 6 1 9）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア5 7 2の第6ビット5 7 2 gに記憶したデータと、現状においてアウト口検知センサ2 3 7 aから主側M P U 8 2に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のL O WレベルからH Iレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、アウト口検知センサ2 3 7 aから入力されている検知信号がL O Wレベルの場合には第6ビット5 7 2 gを「0」クリアするとともに、アウト口検知センサ2 3 7 aから入力されている検知信号がH Iレベルの場合には第6ビット5 7 2 gに「1」をセットする。

20

【3 3 6 4】

その後、ステップS K 6 1 9にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップS K 6 2 0：Y E S）には、アウト入球報知コマンドをコマンド送信バッファ2 2 3 bに格納する（ステップS K 6 2 1）。コマンド送信バッファ2 2 3 bにアウト入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路2 2 4の動作によって当該アウト入球報知コマンドが音光側M P U 9 3に送信される。音光側M P U 9 3はアウト入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4からアウト入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したアウト入球報知音テーブルに従って0. 6秒間に亘ってアウト入球報知音が出力されるようにスピーカ部6 5の音出力制御を実行する。

【3 3 6 5】

ステップS K 6 2 0にて否定判定を行った場合、又はステップS K 6 2 1の処理を行った場合には、ゲート検知センサ2 3 8 aの信号比較処理を実行する（ステップS K 6 2 2）。当該信号比較処理では、前回の処理回にて第2検知信号記憶エリア5 7 2の第7ビット5 7 2 hに記憶したデータと、現状においてゲート検知センサ2 3 8 aから主側M P U 8 2に入力されている検知信号とに基づいて、当該検知信号のL O WレベルからH Iレベルへの立ち上がりが検出されたか否かを判定する。その後、ゲート検知センサ2 3 8 aから入力されている検知信号がL O Wレベルの場合には第7ビット5 7 2 hを「0」クリアするとともに、ゲート検知センサ2 3 8 aから入力されている検知信号がH Iレベルの場合には第7ビット5 7 2 hに「1」をセットする。

30

【3 3 6 6】

その後、ステップS K 6 2 2にて検知信号の立ち上がりが検出された場合（ステップS K 6 2 3：Y E S）には、ゲート入球報知コマンドをコマンド送信バッファ2 2 3 bに格納する（ステップS K 6 2 4）。コマンド送信バッファ2 2 3 bにゲート入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路2 2 4の動作によって当該ゲート入球報知コマンドが音光側M P U 9 3に送信される。音光側M P U 9 3はゲート入球報知コマンドを受信した場合、音光側R O M 9 4からゲート入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したゲート入球報知音テーブルに従って0. 6秒間に亘ってゲート入球報知音が出力されるようにスピーカ部6 5の音出力制御を実行する。

40

【3 3 6 7】

音光側M P U 9 3は、共通入球報知音、特電入球報知音、第2作動入球報知音、アウト

50

入球報知音及びゲート入球報知音のいずれかの出力中に、共通入球報知コマンド、特電入球報知コマンド、第2作動入球報知コマンド、アウト入球報知コマンド及びゲート入球報知コマンドのいずれかを受信した場合、受信した順番でこれらの入球報知コマンドに対応する入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3368】

その後、非特定制御用のワークエリア213における確認用タイマカウンタ573に「1」をセットする(ステップSK625)。これにより、後述する動作確認用処理(図303)が実行されることで確認用タイマカウンタ573の値が「0」となり入出力確認期間が終了するようにすることができる。このように、入出力確認期間中にゲート検知センサ238aにて遊技球が検知された場合には、当該入出力確認期間における残りの継続期間とは無関係に、当該入出力期間が終了する。遊技ホールの管理者は、スルーゲート35に遊技球を入球させることにより、入出力確認期間を早期に終了させることができる。

【3369】

このように、入出力期間において、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34又はアウト口24aに入球した遊技球が検知された場合には、スピーカ部65から入球報知音が出力される。また、入出力確認期間においてスルーゲート35を通過する遊技球が検知された場合にも入球報知音が出力される。遊技ホールの管理者は、これらの入球部24a、31~34及びスルーゲート35に遊技球を手入れして入球報知音が出力されることを確認することにより、当該入球部24a、31~34又はスルーゲート35に対応する検知センサ231a~238aにて遊技球の検知が正常に行われていることを把握することができるとともに、当該入球部24a、31~34又はスルーゲート35に対応する検知センサ231a~238aと主側MPU82とを電氣的に接続する信号線に断線が発生していないことを把握することができる。また、遊技ホールの管理者は、これらの入球部24a、31~34又はスルーゲート35に遊技球を手入れして入球報知音が出力されないことを発見することにより、当該入球部24a、31~34又はスルーゲート35に対応する検知センサ231a~238aにおいて遊技球の検知が正常に行われていないことを把握することができるとともに、当該入球部24a、31~34又はスルーゲート35に対応する検知センサ231a~238aと主側MPU82とを電氣的に接続する信号線に断線が発生している可能性を把握することができる。

【3370】

入出力確認期間は、当該入出力確認期間が開始されてから10秒間が経過した場合、又はスルーゲート35に入球した遊技球がゲート検知センサ238aにて検知された場合に終了する。遊技ホールの管理者は、10秒間に設定されている入出力確認期間の途中でスルーゲート35に遊技球を入球させることにより当該入出力確認期間の満了を待たずに当該入出力確認期間を終了させることができる。これにより、RAMクリア処理(ステップSG620又はステップSG701)が実行される場合においても、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてから遊技を進行可能な状態となるまでの期間を短縮可能とすることができる。

【3371】

既に説明したとおり、パチンコ機10への動作電力の供給開始後にRAMクリア処理(ステップSG620又はステップSG701)が実行される場合には、動作電力の供給開始時の処理(ステップSG601~ステップSG627)が終了した後に入出力確認期間となり、当該入出力確認期間の終了後に主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされていないことを条件として遊技を進行させるための処理(ステップSK411~ステップSK423)が実行される遊技可能状態となる。パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合に、遊技可能状態となるタイミングよりも前のタイミングにおいて入出力確認用処理を実行することにより、遊技可能状態となる前に各検知センサ231a~238aにて遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とすることができる。これにより、検知センサ231a~238aにて遊技球の検知が正常に行われない

10

20

30

40

50

状態となっていることが見落とされた状態のまま遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3372】

図243に示すように、遊技盤24においてスルーゲート35は、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34及びアウト口24aよりも遊技球の流下方向の上流側に配置されている。このため、スルーゲート35に入球した遊技球が他の入球部24a、31～34に入球する可能性は考えられるが、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34又はアウト口24aに入球した遊技球がスルーゲート35に入球することはない。入出力確認期間の満了前に当該入出力確認期間を終了させる方法として、他の入球部24a、31～34よりも遊技球の流下方向の上流側に配置されているスルーゲート35に遊技球を手入れする方法が設定されていることにより、入出力確認期間（10秒間）の満了前に遊技ホールの管理者が意図しないタイミングで当該入出力確認期間が終了してしまうことが防止されている。

10

【3373】

次に、入出力確認用処理（図301）のステップSK509にて実行される動作確認用処理について、図303のフローチャートを参照しながら説明する。なお、動作確認用処理におけるステップSK701～ステップSK719の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3374】

まず非特定制御用のワークエリア213における確認用タイマカウンタ573の値を1減算し（ステップSK701）、その1減算後の確認用タイマカウンタ573の値が「0」であるか否かを判定する（ステップSK702）。確認用タイマカウンタ573の値が1以上である場合（ステップSK702：NO）には、入出力確認期間の開始タイミングであるか否かを判定する（ステップSK703）。ステップSK703では、確認用タイマカウンタ573の値が初期値（「2500」）から1減算された「2499」である場合に肯定判定を行う。入出力確認期間の開始タイミングである場合（ステップSK703：YES）には、入出力確認表示装置521の点灯設定処理を実行する（ステップSK704）。入出力確認表示装置521の点灯設定処理では、出力用レジスタ223dの第2ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路577の動作により入出力確認表示装置521に対する点灯信号の出力が開始されて入出力確認表示装置521の点灯状態が開始される。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が点灯していることに基づいて入出力確認期間であることを把握することができる。

20

30

【3375】

その後、特電入賞装置32の開放設定処理を実行する（ステップSK705）。特電入賞装置32の開放設定処理では、出力用レジスタ223dの第0ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路577の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が開始されて特電入賞装置32が開放状態となる。その後、普電役物34aの開放設定処理を実行する（ステップSK706）。普電役物34aの開放設定処理では、出力用レジスタ223dの第1ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路577の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が開始されて普電役物34aが開放状態となる。その後、主側RAM84の動作確認開放中フラグ574に「1」をセットする（ステップSK707）。これにより、入出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの開放期間であることを主側MPU82にて把握可能とすることができる。

40

【3376】

その後、切換タイマカウンタ576の設定処理を実行する（ステップSK708）。切換タイマカウンタ576の設定処理（ステップSK708）は、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とする場合、並びに特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とする場合に実行される。切換タイマカウンタ576の設定

50

処理（ステップSK708）では、特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態又は閉鎖状態を継続させる2秒に対応する「500」という数値情報を非特定制御用のワークエリア213における切換タイマカウンタ576にセットする。

【3377】

入出力確認期間の開始タイミングではない場合（ステップSK703：NO）には、非特定制御用のワークエリア213における切換タイマカウンタ576の値を1減算し（ステップSK709）、その1減算後の切換タイマカウンタ576の値が「0」であるか否かを判定する（ステップSK710）。切換タイマカウンタ576の値が「0」ではない場合（ステップSK710：NO）には、そのまま本動作確認用処理を終了する。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態である場合には当該開放状態が継続されるとともに、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態である場合には当該閉鎖状態が継続される。

【3378】

切換タイマカウンタ576の値が「0」である場合（ステップSK710：YES）には、非特定制御用のワークエリア213における動作確認開放中フラグ574に「1」がセットされているか否かを判定し（ステップSK711）、動作確認開放中フラグ574に「1」がセットされている場合（ステップSK711：YES）には、特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態から閉鎖状態に切り換えるための処理（ステップSK712～ステップSK714及びステップSK708）を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖設定処理を実行する（ステップSK712）。特電入賞装置32の閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第0ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32が開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。

【3379】

その後、普電役物34aの閉鎖設定処理を実行する（ステップSK713）。普電役物34aの閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第1ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて普電役物34aが開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。

【3380】

その後、非特定制御用のワークエリア213における動作確認開放中フラグ574を「0」クリアする（ステップSK714）。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態であることを主側MPU82にて把握可能となる。その後、既に説明したステップSK708に進み、切換タイマカウンタ576の設定処理を実行する（ステップSK708）。切換タイマカウンタ576の設定処理（ステップSK708）では、特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を継続させる2秒に対応する「500」という数値情報を切換タイマカウンタ576にセットする。

【3381】

動作確認開放中フラグ574に「1」がセットされていない場合（ステップSK711：NO）には、ステップSK705に進み、既に説明したステップSK705～ステップSK708の処理を実行する。ステップSK705～ステップSK708の処理が実行されることにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態から開放状態に切り換わる。

【3382】

このように、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認が開始された場合には、特電入賞装置32及び普電役物34aが2秒間に亘って開放状態となる確認開放継続状態と、特電入賞装置32及び普電役物34aが2秒間に亘って閉鎖状態となる確認閉鎖継続状態と、が交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの動作態様を確認することにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを確認することができる。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が

正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3383】

確認用タイマカウンタ573の値が「0」である場合（ステップSK702：YES）、すなわち入出力確認期間の終了タイミングである場合には、入出力確認期間を終了するための処理（ステップSK715～ステップSK719）を実行する。ステップSK715～ステップSK717では、ステップSK712～ステップSK714と同様の処理を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖設定処理を実行する（ステップSK715）。特電入賞装置32の閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第0ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32が開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。その後、普電役物34aの閉鎖設定処理を実行する（ステップSK716）。普電役物34aの閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第1ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて普電役物34aが開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。その後、非特定制御用のワークエリア213における動作確認開放中フラグ574を「0」クリアする（ステップSK717）。これにより、入出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの開放期間ではないことを主側MPU82にて把握可能となる。

10

【3384】

その後、非特定制御用のワークエリア213における入出力確認終了フラグ575に「1」をセットする（ステップSK718）。入出力確認終了フラグ575は、入出力確認期間が設定されたこと及び当該入出力確認期間が既に終了したことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。ステップSK718にて入出力確認終了フラグ575に「1」がセットされることにより、後述する無効化用処理（図304）にて確認後無効化期間及び確認後無効化期間の設定が行われるようにすることができる。

20

【3385】

その後、入出力確認表示装置521の消灯設定処理を実行して（ステップSK719）、本動作確認用処理を終了する。入出力確認表示装置521の消灯設定処理（ステップSK719）では、出力用レジスタ223dの第2ビットを「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により入出力確認表示装置521に対する点灯信号の出力が停止されて入出力確認表示装置521が点灯状態から消灯状態に切り換わる。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置521が点灯状態から消灯状態に切り換わったことを確認することにより入出力確認期間が終了したことを把握することができる。

30

【3386】

次に、タイマ割込み処理（図300）のステップSK405にて実行される無効化用処理について説明する。図304は無効化用処理を示すフローチャートである。なお、無効化用処理におけるステップSK801～ステップSK804の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側MPU82の特定制御処理部221にて実行される。

【3387】

まず特定制御用のワークエリア211に設けられた入出力確認済みフラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSK801）。入出力確認済みフラグは、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間の設定が既に終了したことを主側MPU82にて把握可能とするフラグである。入出力確認済みフラグに「1」がセットされていない場合（ステップSK801：NO）には、非特定制御用のワークエリア213における入出力確認終了フラグ575に「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSK802）。ステップSK802にて肯定判定を行った場合、すなわち入出力確認期間にて確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となった後において最初に無効化用処理（図304）が実行されるタイミングである場合には、特定制御用のワークエリア211に設けられた確認後無効化タイマカウンタ523eの設定処理を実行する（ステップSK803

40

50

）。確認後無効化タイマカウンタ523eは、上記第33の実施形態と同様に、確認後無効化期間であることを主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。確認後無効化タイマカウンタ523eの値は、タイマ割込み処理（図300）のステップSK414におけるタイマ更新処理にて更新される。確認後無効化タイマカウンタ523eの設定処理では、確認後無効化期間（1秒）に対応する「250」という数値情報を確認後無効化タイマカウンタ523eに設定する。その後、特定制御用のワークエリア211における入出力確認済みフラグに「1」をセットする（ステップSK804）。これにより、無効化用処理（図304）の次回以降の処理回においてステップSK801にて肯定判定が行われてステップSK802～ステップSK804の処理が実行されないようにすることができる。

10

【3388】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【3389】

入出力確認用処理を非特定制御の処理として実行することにより、特定制御の処理を実行するためのプログラムのデータ容量が増大してしまうことを抑制しながら、入出力確認期間を設けることができる。

【3390】

設定値更新処理が実行されている状態においては報知用表示装置141にて設定値の表示が行われる構成において、当該設定値更新処理の終了後に開始される入出力確認期間では報知用表示装置141が消灯状態に維持される。そして、入出力確認期間が終了した場合には、報知用表示装置141にて遊技履歴の管理結果の表示が行われる。このため、遊技ホールの管理者は、パチンコ機10に動作電力が供給されている状態において報知用表示装置141が消灯状態となっていることに基づいて入出力確認期間であることを把握することができる。

20

【3391】

入出力確認期間においては、タイマ割込み処理（図300）が起動されても当該タイマ割込み処理におけるステップSK405～ステップSK424の処理が実行されない構成とすることにより、入出力確認期間における主側MPU82の処理負荷を軽減することができる。

【3392】

<第38の実施形態>

本実施形態では入出力確認用処理の処理構成が上記第37の実施形態と相違している。以下、上記第37の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第37の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【3393】

図305（a）は本実施形態における特定制御用のワークエリア211の構成を説明するための説明図である。

【3394】

特定制御用のワークエリア211には、確認用タイマカウンタ581が設けられている。確認用タイマカウンタ581は、上記第33の実施形態における確認用タイマカウンタ523aと同様に、入出力確認期間の残りの継続時間を主側MPU82にて把握可能とするタイマカウンタである。確認用タイマカウンタ581は2バイトからなる。確認用タイマカウンタ581にセットされた数値情報の更新は、入出力確認用処理（図306（a））の行番号「1102」及びタイマ割込み処理（図300）のステップSK414にて実行されるタイマ更新処理にて実行される。

40

【3395】

図305（b）は主側MPU82にて実行されるRAMクリア処理を示すフローチャートである。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、RAMクリア処理はメイン処理（図246）のステップSG620及び設定値更新処理（図247）のステップSG701にて実行される。なお、RAMクリア処理におけるステップSK901～ステッ

50

プ S K 9 0 3 の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行される。

【 3 3 9 6 】

ステップ S K 9 0 1 ～ステップ S K 9 0 2 では、上記第 3 7 の実施形態における R A M クリア処理（図 2 9 7 （ d ））のステップ S K 1 0 1 ～ステップ S K 1 0 2 と同様の処理を実行する。具体的には、まず特定制御用のワークエリア 2 1 1 のクリア処理を実行する（ステップ S K 9 0 1）。特定制御用のワークエリア 2 1 1 のクリア処理では、アドレス Y （ 5 ）～アドレス Y （ r + 2 ）のエリアを「 0 」クリアするとともに、当該アドレス Y （ 5 ）～アドレス Y （ r + 2 ）のエリアの初期設定を行う。その後、特定制御用のスタックエリア 2 1 2 のクリア処理を実行する（ステップ S K 9 0 2）。特定制御用のスタック
10
エリア 2 1 2 のクリア処理では、アドレス Y （ r + 6 ）～アドレス Y （ s + 1 ）のエリアを「 0 」クリアするとともに、当該アドレス Y （ r + 6 ）～アドレス Y （ s + 1 ）のエリアの初期設定を行う。

【 3 3 9 7 】

その後、「 L D W （ K A K U T I M ） , 2 5 0 0 」という命令を実行する（ステップ S K 9 0 3）。「 L D W 」は 1 6 ビットの転送命令であり、「 K A K U T I M 」は特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認用タイマカウンタ 5 8 1 であり、「 2 5 0 0 」は入出力確認期間（ 1 0 秒）に対応する数値情報である。ステップ S K 9 0 3 にて「 L D W （ K A K U T I M ） , 2 5 0 0 」という命令が実行されることにより、入出力確認期間である 1 0 秒に対応する「 2 5 0 0 」という数値情報が特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認用タイマカウンタ 5 8 1 にセットされる。これにより、メイン処理（図 2 4 6 ）における動作電力の供給開始時の処理（ステップ S G 6 0 1 ～ステップ S G 6 2 7 ）が終了した後にタイマ割込み処理（図 3 0 0 ）が起動された場合に入出力確認期間が開始されるようにすることができる。
20

【 3 3 9 8 】

上述したとおり、確認用タイマカウンタ 5 8 1 は特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられている。このため、特定制御の処理として実行される R A M クリア処理（図 3 0 5 （ b ））において、非特定制御の処理を実行することなく、入出力確認期間に対応する数値情報を確認用タイマカウンタ 5 8 1 にセットして入出力確認期間が開始されるようにすることができる。これにより、入出力確認期間を設定するための処理構成を簡素化することができる。
30

【 3 3 9 9 】

次に、主側 M P U 8 2 にて実行されるタイマ割込み処理について説明する。本実施形態におけるタイマ割込み処理は、ステップ S K 4 0 4 において C A L L I 命令に代えて C A L L 命令により入出力確認用処理を実行する点において上記第 3 7 の実施形態におけるタイマ割込み処理（図 3 0 0 ）と相違している。本実施形態における入出力確認用処理は、特定制御の処理として実行される。

【 3 4 0 0 】

次に、タイマ割込み処理（図 3 0 0 ）のステップ S K 4 0 4 にて実行される入出力確認用処理のプログラム内容について、図 3 0 6 （ a ）の説明図を参照しながら説明する。図 3 0 6 （ a ）に示すように本プログラムには、行番号として「 1 1 0 1 」～「 1 1 0 4 」が設定されている。プログラムの命令は、コール命令又はジャンプ命令が実行される場合を除いて、行番号の小さい方から大きい方に向かう順番で実行される。なお、入出力確認用処理における行番号「 1 1 0 2 」～行番号「 1 1 0 4 」の処理のうち行番号「 1 1 0 3 」にて呼び出されて実行される入出力確認実行処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行され、入出力確認実行処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。
40

【 3 4 0 1 】

図 3 0 6 （ a ）に示すように、「 1 1 0 1 」の行番号には「 K A K U S Y O R I 2 0 」

10

20

30

40

50

が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機10の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1101」では何ら命令を実行することなく次の行番号「1102」に進む。

【3402】

「1102」の行番号には、タイマ割込み処理（図300）のステップSK414と同様に、「CALL TIMER」という命令が設定されている。上記第37の実施形態において既に説明したとおり、「TIMER」はタイマ更新処理である。行番号「1102」では、CALL命令によりタイマ更新処理を実行する。タイマ更新処理では、確認用タイマカウンタ581を含む特定制御用のワークエリア211に設けられているタイマカウンタの値を1減算することにより当該タイマカウンタの値を更新する。タイマ更新処理において、1減算後のタイマカウンタの値が「0」を下回る場合には当該タイマカウンタを「0」クリアする。タイマ更新処理が終了した場合には、行番号「1102」の次に設定されている行番号「1103」に進む。

【3403】

「1103」の行番号には「CALL INSKNJ」という命令が設定されている。「INSKNJ」は入出力確認実行処理である。行番号「1103」では、CALL命令により後述する入出力確認実行処理を実行する。入出力確認実行処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、入出力確認用処理（図306（a））において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理がCALL命令を利用して呼び出される。CALL命令により入出力確認実行処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、タイマ割込み処理（図300）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である入出力確認実行処理の実行中に、特定制御の処理であるタイマ割込み処理（図300）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。行番号「1103」にて入出力確認実行処理を実行した場合には、「1104」の行番号に進む。

【3404】

「1104」の行番号には「RET」という命令が設定されている。上述したとおり、入出力確認用処理はタイマ割込み処理（図300）のステップSK404にて呼び出されるサブルーチンである。また、上記第37の実施形態において既に説明したとおり、タイマ割込み処理（図300）では、ステップSK404の処理が終了した場合には、そのままタイマ割込み処理（図300）を終了する。したがって、「RET」という命令が実行されることで、入出力確認用処理が終了するとともに、当該入出力確認用処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される前に実行されていたタイマ割込み処理（図300）が終了する。

【3405】

次に、入出力確認用処理（図306（a））の行番号「1103」にて実行される入出力確認実行処理について図306（b）のフローチャートを参照しながら説明する。なお、入出力確認実行処理におけるステップSL101～ステップSL116の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3406】

ステップSL101～ステップSL107では、上記第37の実施形態における入出力確認用処理（図301）のステップSK501～ステップSK507と同一の処理を実行する。これにより、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスに対応する記憶エリアが書き込み対象となる。また、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファに退避させることができる。

【3407】

その後、CALL命令により入球報知用処理を実行し（ステップSL108）、CAL

10

20

30

40

50

L 命令により動作確認用処理を実行する（ステップ S L 1 0 9）。入球報知用処理（ステップ S L 1 0 8）の内容は上記第 3 7 の実施形態における入出力確認用処理（図 3 0 1）のステップ S K 5 0 8 と同一である。なお、動作確認用処理（ステップ S L 1 0 9）の詳細については後に説明する。

【3 4 0 8】

その後、「L D S P, Y (r + f)」として、ロード命令により、主側 M P U 8 2 のスタックポインタに入出力確認用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとして、特定制御用のスタックエリア 2 1 2 における Y (r + 8) と Y (s) との間のアドレスとして設定されている Y (r + f) を設定する（ステップ S L 1 1 0）。これにより、スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。

10

【3 4 0 9】

その後、ステップ S L 1 1 1 ～ステップ S L 1 1 6 では、上記第 3 7 の実施形態における入出力確認用処理（図 3 0 1）のステップ S K 5 1 1 ～ステップ S K 5 1 6 と同一の処理を実行する。これにより、主側 M P U 8 2 の W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【3 4 1 0】

ステップ S L 1 1 1 ～ステップ S L 1 1 6 の処理を実行した後は、R E T I 命令により特定制御の処理に含まれる入出力確認用処理（図 3 0 6 (a)）に復帰する。既に説明したとおり、R E T I 命令が実行されることにより、主側 M P U 8 2 のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

20

【3 4 1 1】

次に、入出力確認実行処理（図 3 0 6 (b)）のステップ S L 1 0 9 にて実行される動作確認用処理について説明する。図 3 0 7 は動作確認用処理を示すフローチャートである。なお、動作確認用処理におけるステップ S L 2 0 1 ～ステップ S L 2 1 9 の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。

【3 4 1 2】

特定制御用のワークエリア 2 1 1 における確認用タイマカウンタ 5 8 1 の値が 1 以上である場合（ステップ S L 2 0 1 : N O）には、入出力確認期間の開始タイミングであるか否かを判定する（ステップ S L 2 0 2）。ステップ S L 2 0 2 では、確認用タイマカウンタ 5 8 1 の値が初期値（「2 5 0 0」）から 1 減算された「2 4 9 9」である場合に肯定判定を行う。入出力確認期間の開始タイミングである場合（ステップ S L 2 0 2 : Y E S）には、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における入出力確認終了フラグ 5 7 5 を「0」クリアする（ステップ S L 2 0 3）。上記第 3 7 の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認終了フラグ 5 7 5 は、入出力確認期間が設定されたこと及び当該入出力確認期間が既に終了したことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。ステップ S L 2 0 3 にて入出力確認終了フラグ 5 7 5 を「0」クリアすることにより、入出力確認終了フラグ 5 7 5 に「1」がセットされている状態においてパチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合においても、入出力確認期間が終了するまで入出力確認終了フラグ 5 7 5 に「1」がセットされてない状態とすることができる。

30

40

【3 4 1 3】

上記第 3 7 の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認終了フラグ 5 7 5 は非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられている。このため、特定制御の処理である R A M クリア処理（図 3 0 5 (b)）において入出力確認終了フラグ 5 7 5 を「0」クリアする構成とすると特定制御の処理が実行されている状況において非特定制御の処理を実行する必要が生じて R A M クリア処理の処理構成が複雑化してしまう。これに対して、入出力確認期間において、非特定制御の処理に含まれている動作確認用処理（図 3 0 7）が最

50

初に実行される処理回において入出力確認終了フラグ 575 を「0」クリアする構成とすることにより、入出力確認終了フラグ 575 を「0」クリアするための処理構成を簡素化することができる。

【3414】

ステップ S L 2 0 3 にて入出力確認終了フラグ 575 を「0」クリアした後は、ステップ S L 2 0 4 ～ステップ S L 2 0 8 において、上記第 37 の実施形態における動作確認用処理（図 303）のステップ S K 7 0 4 ～ステップ S K 7 0 8 と同様の処理を実行する。具体的には、まず入出力確認表示装置 521 の点灯設定処理を実行する（ステップ S L 2 0 4）。入出力確認表示装置 521 の点灯設定処理では、出力用レジスタ 223 d の第 2 ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路 577 の動作により入出力確認表示装置 521 に対して点灯信号が出力されて入出力確認表示装置 521 の点灯状態が開始される。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置 521 が点灯状態となったことを確認することにより入出力確認期間であることを把握することができる。

10

【3415】

その後、特電入賞装置 32 の開放設定処理を実行する（ステップ S L 2 0 5）。特電入賞装置 32 の開放設定処理では、出力用レジスタ 223 d の第 0 ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路 577 の動作により特電用の駆動部 32 b に対して駆動信号が出力されて特電入賞装置 32 が開放状態となる。その後、普電役物 34 a の開放設定処理を実行する（ステップ S L 2 0 6）。普電役物 34 a の開放設定処理では、出力用レジスタ 223 d の第 1 ビットに「1」をセットする。これにより、ポート設定回路 577 の動作により普電用の駆動部 34 b に対して駆動信号が出力されて普電役物 34 a が開放状態となる。その後、主側 R A M 84 の動作確認開放中フラグ 574 に「1」をセットする（ステップ S L 2 0 7）。これにより、入出力確認期間における特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a の開放期間であることを主側 M P U 82 にて把握可能とすることができる。

20

【3416】

その後、切換タイマカウンタ 576 の設定処理を実行する（ステップ S L 2 0 8）。切換タイマカウンタ 576 の設定処理（ステップ S L 2 0 8）は、入出力確認期間において特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a を開放状態とする場合、並びに特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a を閉鎖状態とする場合に実行される。切換タイマカウンタ 576 の設定処理（ステップ S L 2 0 8）では、特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a の開放状態又は閉鎖状態を継続させる 2 秒に対応する「500」という数値情報を特定制御用のワークエリア 211 における切換タイマカウンタ 576 にセットする。

30

【3417】

ステップ S L 2 0 2 にて否定判定を行った場合には、ステップ S L 2 0 9 ～ステップ S L 2 1 4 にて上記第 37 の実施形態における動作確認用処理（図 303）のステップ S K 7 0 9 ～ステップ S K 7 1 4 と同様の処理を実行する。具体的には、まず非特定制御用のワークエリア 213 における切換タイマカウンタ 576 の値を 1 減算し（ステップ S L 2 0 9）、その 1 減算後の切換タイマカウンタ 576 の値が「0」であるか否かを判定する（ステップ S L 2 1 0）。切換タイマカウンタ 576 の値が「0」ではない場合（ステップ S L 2 1 0：N O）には、そのまま本動作確認用処理を終了する。これにより、特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a が開放状態である場合には当該開放状態が継続されるとともに、特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a が閉鎖状態である場合には当該閉鎖状態が継続される。

40

【3418】

切換タイマカウンタ 576 の値が「0」である場合（ステップ S L 2 1 0：Y E S）には、非特定制御用のワークエリア 213 における動作確認開放中フラグ 574 に「1」がセットされているか否かを判定し（ステップ S L 2 1 1）、動作確認開放中フラグ 574 に「1」がセットされている場合（ステップ S L 2 1 1：Y E S）には、特電入賞装置 32 及び普電役物 34 a を開放状態から閉鎖状態に切り換えるための処理（ステップ S L 2

50

12～ステップSL214及びステップSL208)を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖設定処理を実行する(ステップSL212)。特電入賞装置32の閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第0ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32が開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。

【3419】

その後、普電役物34aの閉鎖設定処理を実行する(ステップSL213)。普電役物34aの閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第1ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて普電役物34aが開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。

10

【3420】

その後、非特定制御用のワークエリア213における動作確認開放中フラグ574を「0」クリアする(ステップSL214)。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態であることを主側MPU82にて把握可能となる。その後、既に説明したステップSL208に進み、切換タイマカウンタ576の設定処理を実行する(ステップSL208)。切換タイマカウンタ576の設定処理(ステップSL208)では、特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態を継続させる2秒に対応する「500」という数値情報を切換タイマカウンタ576にセットする。

【3421】

動作確認開放中フラグ574に「1」がセットされていない場合(ステップSL211:NO)には、ステップSL205に進み、既に説明したステップSL205～ステップSL208の処理を実行する。ステップSL205～ステップSL208の処理が実行されることにより、特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態から開放状態に切り換わる。

20

【3422】

このように、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの動作確認が開始された場合には、特電入賞装置32及び普電役物34aが2秒間に亘って開放状態となる確認開放継続状態と、特電入賞装置32及び普電役物34aが2秒間に亘って閉鎖状態となる確認閉鎖継続状態と、が交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの動作態様を確認することにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを確認することができる。これにより、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

30

【3423】

確認用タイマカウンタ581の値が「0」である場合(ステップSL201:YES)、すなわち入出力確認期間の終了タイミングである場合、ステップSL215～ステップSL219では、上記第37の実施形態における動作確認用処理(図303)のステップSK715～ステップSK719と同様の処理を実行する。具体的には、特電入賞装置32の閉鎖設定処理を実行する(ステップSL215)。特電入賞装置32の閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第0ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32が開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。その後、普電役物34aの閉鎖設定処理を実行する(ステップSL216)。普電役物34aの閉鎖設定処理では、出力用レジスタ223dの第1ビットの値を「0」クリアする。これにより、ポート設定回路577の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて普電役物34aが開放状態から閉鎖状態に切り換えられる。その後、非特定制御用のワークエリア213における動作確認開放中フラグ574を「0」クリアする(ステップSL217)。これにより、入出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの開放期間ではないことを主側MPU82にて把握可能となる。

40

【3424】

50

その後、非特定制御用のワークエリア 2 1 3 における入出力確認終了フラグ 5 7 5 に「1」をセットする（ステップ S L 2 1 8）。入出力確認終了フラグ 5 7 5 は、入出力確認期間が設定されたこと及び当該入出力確認期間が既に終了したことを主側 M P U 8 2 にて把握可能とするフラグである。ステップ S L 2 1 8 にて入出力確認終了フラグ 5 7 5 に「1」がセットされることにより、後述する無効化用処理（図 3 0 4）にて確認後無効化期間の設定が行われるようにすることができる。

【3 4 2 5】

その後、入出力確認表示装置 5 2 1 の消灯設定処理を実行して（ステップ S L 2 1 9）、本動作確認用処理を終了する。入出力確認表示装置 5 2 1 の消灯設定処理（ステップ S L 2 1 9）では、出力用レジスタ 2 2 3 d の第 2 ビットを「0」クリアする。これにより、ポート設定回路 5 7 7 の動作により入出力確認表示装置 5 2 1 に対する点灯信号の出力が停止されて入出力確認表示装置 5 2 1 が点灯状態から消灯状態に切り換わる。遊技ホールの管理者は、入出力確認表示装置 5 2 1 が点灯状態から消灯状態に切り換わったことを確認することにより入出力確認期間が終了したことを把握することができる。

【3 4 2 6】

上述したとおり、入出力確認用処理では、特定制御の処理としてタイマ更新処理が実行されるとともに、非特定制御の処理として入出力確認実行処理が実行される。また、入出力確認実行処理では、非特定制御の処理として、入球報知用処理及び動作確認用処理が実行される。入出力確認期間において主側 M P U 8 2 にて実行されるタイマ更新処理、入球報知用処理及び動作確認用処理のうち入球報知用処理及び動作確認用処理を非特定制御の処理とすることにより、特定制御の処理を実行するために主側 R O M 8 3 に記憶しておくプログラムのデータ容量を低減することができる。

【3 4 2 7】

特定制御用のワークエリア 2 1 1 に確認用タイマカウンタ 5 8 1 が設けられており、特定制御の処理であるタイマ更新処理にて確認用タイマカウンタ 5 8 1 の更新が行われる構成とすることにより、確認用タイマカウンタ 5 8 1 を含むタイマカウンタを更新するための処理をタイマ更新処理に集約させることができる。これにより、タイマカウンタを更新するための処理が特定制御用の処理及び非特定制御用の処理の双方に設けられている構成と比較して、タイマカウンタの値を更新するための処理構成を簡素化することができる。

【3 4 2 8】

< 第 3 9 の実施形態 >

本実施形態では入出力確認用処理の処理構成が上記第 3 8 の実施形態と相違している。以下、上記第 3 8 の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第 3 8 の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【3 4 2 9】

図 3 0 8（a）は本実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される入出力確認用処理のプログラム内容を説明するための説明図である。上記第 3 8 の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認用処理はタイマ割込み処理（図 3 0 0）のステップ S K 4 0 4 にて実行される。図 3 0 8（a）に示すように本プログラムには、行番号として「1 2 0 1」～「1 2 0 5」が設定されている。プログラムの命令は、コール命令又はジャンプ命令が実行される場合を除いて、行番号の小さい方から大きい方に向かう順番で実行される。なお、入出力確認用処理における行番号「1 2 0 2」～行番号「1 2 0 5」の処理のうち行番号「1 2 0 4」にて呼び出されて実行される入出力確認実行処理以外の処理は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の特定制御処理部 2 2 1 にて実行され、入出力確認実行処理は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側 M P U 8 2 の非特定制御処理部 2 2 2 にて実行される。

【3 4 3 0】

図 3 0 8（a）に示すように、「1 2 0 1」の行番号には「K A K U S Y O R I 3 0」が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機 1 0 の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1 2 0 1」では何ら命令を実行

10

20

30

40

50

することなく次の行番号「1202」に進む。

【3431】

「1202」の行番号には、タイマ割込み処理（図300）のステップSK414と同様に、「CALL TIMER」という命令が設定されている。上記第37の実施形態において既に説明したとおり、「TIMER」はタイマ更新処理である。行番号「1202」では、CALL命令によりタイマ更新処理を実行する。タイマ更新処理では、確認用タイマカウンタ581を含む特定制御用のワークエリア211に設けられているタイマカウンタの更新が行われる。更新対象のタイマカウンタの値が1以上である状態においてタイマ更新処理が実行される場合には当該更新対象のタイマカウンタの値が1減少する。また、更新対象のタイマカウンタの値が「0」である状態においてタイマ更新処理が実行される場合には当該状態が維持される。タイマ更新処理が終了した場合には、行番号「1202」の次に設定されている行番号「1203」に進む。

10

【3432】

「1203」の行番号には、タイマ割込み処理（図300）のステップSK413と同様に、「CALL SWREAD2」という命令が設定されている。上記第37の実施形態において既に説明したとおり、「SWREAD2」は入球検知処理である。行番号「1203」では、CALL命令により入球検知処理を実行する。入球検知処理が終了した場合には、行番号「1203」の次に設定されている行番号「1204」に進む。行番号「1203」における入球検知処理の内容は、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG913と同一である。

20

【3433】

「1204」の行番号には「CALL I NSKNJ」という命令が設定されている。上記第38の実施形態において既に説明したとおり、「NSKNJ」は入出力確認実行処理である。行番号「1204」では、CALL I命令により後述する入出力確認実行処理を実行する。入出力確認実行処理は非特定制御の処理に含まれる。つまり、入出力確認用処理（図308（a））において特定制御の処理を実行している状況から非特定制御の処理を実行する状況となる場合に、当該非特定制御の処理がCALL I命令を利用して呼び出される。CALL I命令により入出力確認実行処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア212に退避された後、タイマ割込み処理（図300）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御の処理である入出力確認実行処理の実行中に、特定制御の処理であるタイマ割込み処理（図300）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。行番号「1204」にて入出力確認実行処理を実行した場合には、「1205」の行番号に進む。

30

【3434】

「1205」の行番号には「RET」という命令が設定されている。上記第36の実施形態において既に説明したとおり、入出力確認用処理はタイマ割込み処理（図300）のステップSK404にて呼び出されるサブルーチンである。また、上記第36の実施形態において既に説明したとおり、タイマ割込み処理（図300）では、ステップSK404の処理が終了した場合には、そのままタイマ割込み処理（図300）を終了する。したがって、「RET」という命令が実行されることで、入出力確認用処理が終了するとともに、当該入出力確認用処理に対応するサブルーチンのプログラムが呼び出される前に実行されていたタイマ割込み処理（図300）が終了する。

40

【3435】

次に、入出力確認用処理（図308（a））の行番号「1204」にて実行される入出力確認実行処理について図308（b）のフローチャートを参照しながら説明する。なお、動作確認用処理におけるステップSL301～ステップSL316の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3436】

ステップSL301～ステップSL307では、上記第38の実施形態における入出力

50

確認実行処理（図306（b））のステップSL101～ステップSL107と同一の処理を実行する。これにより、非特定制御用のスタックエリア214における最後のアドレスに対応する記憶エリアが書き込み対象となる。また、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア213に設定されたWAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファに退避させることができる。

【3437】

その後、CALL命令により入球報知コマンド送信用処理を実行し（ステップSL308）、CALL命令により動作確認用処理を実行する（ステップSL309）。動作確認用処理（ステップSL309）の内容は上記第38の実施形態における入出力確認実行処理（図306（b））のステップSL109と同一である。なお、入球報知コマンド送信用処理（ステップSL308）の詳細については後に説明する。

【3438】

その後、「LDS P, Y(r+g)」として、ロード命令により、主側MPU82のスタックポインタに入出力確認用処理の終了後における特定制御への復帰時における固定アドレスとしてY(r+g)を設定する（ステップSL310）。Y(r+g)のアドレスは、特定制御用のスタックエリア212におけるY(r+8)とY(s)との間のアドレスとして設定されている。

【3439】

その後、ステップSL311～ステップSL316では、上記第38の実施形態における入出力確認実行処理（図306（b））のステップSL111～ステップSL116と同一の処理を実行する。これにより、主側MPU82のWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【3440】

その後、RETI命令により特定制御の処理に含まれる入出力確認用処理（図308（a））に復帰する。既に説明したとおり、RETI命令が実行されることにより、主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【3441】

次に、動作確認用処理（図308（b））のステップSL308にて実行される入球報知コマンド送信用処理についての説明に先立ち、当該入球報知コマンド送信用処理にて参照される特定制御用のワークエリア211の構成について説明する。

【3442】

図309（a）は特定制御用のワークエリア211の構成を説明するための説明図である。特定制御用のワークエリア211には、確認フラグ群522が設けられている。上記第33の実施形態において図245を参照しながら既に説明したとおり、確認フラグ群522には、第1入賞確認フラグ522a、第2入賞確認フラグ522b、第3入賞確認フラグ522c、特電入賞確認フラグ522d、第1作動入賞確認フラグ522e、第2作動入賞確認フラグ522f、アウト確認フラグ522g及びゲート入賞確認フラグ522hが設けられている。

【3443】

次に、動作確認用処理（図308（b））のステップSL308にて実行される入球報知コマンド送信用処理について、図309（b）のフローチャートを参照しながら説明する。なお、入球報知コマンド送信用処理におけるステップSL401～ステップSL416の処理は、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して主側MPU82の非特定制御処理部222にて実行される。

【3444】

確認フラグ群522における第1入賞確認フラグ522aに「1」がセットされている

10

20

30

40

50

場合（ステップ S L 4 0 1 : Y E S）には、共通入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 0 2）。共通入球報知コマンドは、ステップ S L 4 0 2、ステップ S L 4 0 4、ステップ S L 4 0 6 及びステップ S L 4 1 0 にてコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納される。コマンド送信バッファ 2 2 3 b に第 1 入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 2 2 4 の動作により当該第 1 入球報知コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信される。音光側 M P U 9 3 は第 1 入球報知コマンドを受信した場合、音光側 R O M 9 4 から第 1 入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した第 1 入球報知音テーブルに従って 0.6 秒間に亘って第 1 入球報知音が出力されるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。
【 3 4 4 5 】

10

遊技盤 2 4 に 3 個設けられている一般入賞口 3 1 への入球が発生した場合に出力される入球報知音と、第 1 作動口 3 3 への入球が発生した場合に出力される入球報知音とが共通化されていることにより、音光側 R O M 9 4 に記憶しておく入球報知音テーブルのデータ容量が抑えられているとともに、入球報知音の種類が多くなり過ぎてしまうことが防止されている。

【 3 4 4 6 】

確認フラグ群 5 2 2 における第 2 入賞確認フラグ 5 2 2 b に「1」がセットされている場合（ステップ S L 4 0 3 : Y E S）には、共通入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 0 4）。これにより、0.6 秒間に亘ってスピーカ部 6 5 から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。また、確認フラグ群 5 2 2 における第 3 入賞確認フラグ 5 2 2 c に「1」がセットされている場合（ステップ S L 4 0 5 : Y E S）には、共通入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 0 6）。これにより、0.6 秒間に亘ってスピーカ部 6 5 から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

20

【 3 4 4 7 】

確認フラグ群 5 2 2 における特電入賞確認フラグ 5 2 2 d に「1」がセットされている場合（ステップ S L 4 0 7 : Y E S）には、特電入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 0 8）。コマンド送信バッファ 2 2 3 b に特電入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 2 2 4 の動作によって当該特電入球報知コマンドが音光側 M P U 9 3 に送信される。音光側 M P U 9 3 は特電入球報知コマンドを受信した場合、音光側 R O M 9 4 から特電入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した特電入球報知音テーブルに従って 0.6 秒間に亘って特電入球報知音が出力されるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において開閉動作が行われている特電入賞装置 3 2 に遊技球を手入れして特電入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、特電入賞装置 3 2 に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

30

【 3 4 4 8 】

確認フラグ群 5 2 2 における第 1 作動入賞確認フラグ 5 2 2 e に「1」がセットされている場合（ステップ S L 4 0 9 : Y E S）には、共通入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 1 0）。これにより、0.6 秒間に亘ってスピーカ部 6 5 から共通入球報知音が出力されるようにすることができる。

40

【 3 4 4 9 】

確認フラグ群 5 2 2 における第 2 作動入賞確認フラグ 5 2 2 f に「1」がセットされている場合（ステップ S L 4 1 1 : Y E S）には、第 2 作動入球報知コマンドを主側 M P U 8 2 のレジスタエリア 2 2 3 におけるコマンド送信バッファ 2 2 3 b に格納する（ステップ S L 4 1 2）。コマンド送信バッファ 2 2 3 b に第 2 作動入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路 2 2 4 の動作によって当該第 2 作動入球報知コマンドが

50

音光側MPU93に送信される。音光側MPU93は第2作動入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94から第2作動入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出した第2作動入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘って第2作動入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において普電役物34aの開閉動作により開放状態と閉鎖状態との切り換えが行われている第2作動口34に遊技球を手入れして第2作動入球報知音が出力されるか否かを確認することにより、第2作動口34に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。

【3450】

確認フラグ群522におけるアウト確認フラグ522gに「1」がセットされている場合（ステップSL413：YES）には、アウト入球報知コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSL414）。コマンド送信バッファ223bにアウト入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該アウト入球報知コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93はアウト入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からアウト入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したアウト入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってアウト入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3451】

確認フラグ群522におけるゲート入賞確認フラグ522hに「1」がセットされている場合（ステップSL415：YES）には、ゲート入球報知コマンドを主側MPU82のレジスタエリア223におけるコマンド送信バッファ223bに格納する（ステップSL416）。コマンド送信バッファ223bにゲート入球報知コマンドが格納されることにより、コマンド送信回路224の動作によって当該ゲート入球報知コマンドが音光側MPU93に送信される。音光側MPU93はゲート入球報知コマンドを受信した場合、音光側ROM94からゲート入球報知音テーブルを読み出し、当該読み出したゲート入球報知音テーブルに従って0.6秒間に亘ってゲート入球報知音が出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3452】

音光側MPU93は、共通入球報知音、特電入球報知音、第2作動入球報知音、アウト入球報知音及びゲート入球報知音のいずれかの出力中に、共通入球報知コマンド、特電入球報知コマンド、第2作動入球報知コマンド、アウト入球報知コマンド及びゲート入球報知コマンドのいずれかを受信した場合、受信した順番でこれらの入球報知コマンドに対応する入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにスピーカ部65の音出力制御を実行する。

【3453】

第1～第3入賞確認フラグ522a～522c、特電入賞確認フラグ522d、第1～第2作動入賞確認フラグ522e～522f、アウト確認フラグ522g及びゲート入賞確認フラグ522hは、特定制御用のワークエリア211に設けられており、これらのフラグのクリア処理は入球検知処理（タイマ割込み処理（図300）のステップSK413及び入出力確認用処理（図308（a））の行番号「1203」）にて実行される。このため、入球報知用処理を非特定制御の処理とするとともに入球報知用処理が非特定制御の処理として実行される構成としても、入出力確認期間中に入球部に入球した遊技球が検知されたとしても、当該遊技球が検知されたことに基づいて遊技球の払い出しなどが行われてしまうことを防止できる。

【3454】

上述したとおり、入出力確認用処理では、特定制御の処理としてタイマ更新処理及び入球検知処理が実行されるとともに、非特定制御の処理として入出力確認実行処理が実行される。また、入出力確認実行処理では、非特定制御の処理として、入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理が実行される。入出力確認期間において主側MPU82にて実

10

20

30

40

50

行されるタイマ更新処理、入球検知処理、入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理のうち入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理を非特定制御の処理とすることにより、特定制御の処理を実行するために主側ROM 83に記憶しておくプログラムのデータ容量を低減することができる。

【3455】

特定制御用のワークエリア211に確認用タイマカウンタ581が設けられており、特定制御の処理であるタイマ更新処理にて確認用タイマカウンタ581の更新が行われる構成とすることにより、確認用タイマカウンタ581を含むタイマカウンタを更新するための処理をタイマ更新処理に集約させることができる。これにより、タイマカウンタの値を更新するための処理構成を簡素化することができる。

10

【3456】

遊技を進行させるための処理（ステップSK411～ステップSK423）において入球検知処理を実行するために呼び出されるサブルーチンを利用して、入出力確認期間においても当該サブルーチンを呼び出すことにより特定制御の処理として入球検知処理が実行される。これにより、非特定制御の処理として入球部に入球した遊技球を検知するための処理を実行するためのプログラムを主側ROM 83に記憶することを不要として、主側ROM 83に記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【3457】

<第40の実施形態>

本実施形態ではメイン処理の処理構成が第33の実施形態と相違している。以下、上記第33の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第33の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

20

【3458】

図310(a)は本実施形態における主側MPU 82の構成を説明するための説明図である。

【3459】

図310(a)に示すように、主側MPU 82は、汎用レジスタとして、Wレジスタ591a、Aレジスタ591b、Bレジスタ592a、Cレジスタ592b、Dレジスタ593a及びEレジスタ593bを備えている。これら6個の汎用レジスタのそれぞれは、1バイトのレジスタである。これらの汎用レジスタは、対応する2つの汎用レジスタを組み合わせるによりペアレジスタとして使用することもできる。具体的には、Wレジスタ591aとAレジスタ591bとを組み合わせると2バイトのWAレジスタ591として使用できるとともに、Bレジスタ592aとCレジスタ592bとを組み合わせると2バイトのBCレジスタ592として使用することができる。また、Dレジスタ593aとEレジスタ593bとを組み合わせると2バイトのDEレジスタ593として使用することができる。

30

【3460】

図310(a)に示すように、主側MPU 82は、ゼロフラグZF及びジャンプフラグJFを備えている。ゼロフラグZFは1ビットからなる。ゼロフラグZFは、演算後のレジスタの内容が「0」である場合に「1」となり、演算後のレジスタの内容が「0」ではない場合に「0」となるフラグである。ジャンプフラグJFは1ビットからなる。ジャンプフラグJFは、デクリメント命令であるDEC命令を実行した場合、ゼロフラグZFの値と同一の値をとる。具体的には、DEC命令によりレジスタの値を1減算する演算が実行され、当該演算後のレジスタの値が「0」となった場合、ゼロフラグZFの値は「1」となるとともに、ジャンプフラグJFの値は当該ゼロフラグZFの値と同一の「1」となる。また、DEC命令によりレジスタの値を1減算する演算が実行され、当該演算後のレジスタの値が「0」にはならなかった場合、ゼロフラグZFの値は「0」となるとともに、ジャンプフラグJFの値は当該ゼロフラグZFの値と同一の「0」となる。ジャンプフラグJFは、後述するJRS命令において参照される。

40

【3461】

50

図310(a)に示すように、主側MPU82には、出力用レジスタ594が設けられている。出力用レジスタ594は、1バイトからなるレジスタであり、第0～第7ビット594a～594hを有している。主側MPU82にて各種処理が実行される場合に、出力用レジスタ594からの情報の読み出し及び出力用レジスタ594への情報の書き込みが行われる。

【3462】

図310(b)は出力用レジスタ594における各ビット594a～594hの役割を説明するための説明図である。図310(b)に示すように、出力用レジスタ594の第5ビット594fは、特電用の駆動部32bに対する信号の出力状態を指定する「0」又は「1」のデータが設定されるエリアであり、出力用レジスタ594の第6ビット594gは、普電用の駆動部34bに対する信号の出力状態を指定する「0」又は「1」のデータが設定されるエリアである。出力用レジスタ594の第0～第4ビット594a～594e及び第7ビット594hは、未使用のエリアである。

【3463】

図310(a)に示すように、主側MPU82にはポート設定回路595が設けられている。ポート設定回路595は、主側MPU82にて実行される処理による制御を介することなく、出力用レジスタ594に設定されているデータに基づいて、信号出力のための制御を実行するハードウェアである。ポート設定回路595は、出力用レジスタ594の第5ビット594fの値が「1」である場合には特電用の駆動部32bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32bを駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を開放状態とする。また、ポート設定回路595は、当該第5ビット594fの値が「0」である場合には特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が行われなくようにすることにより特電用の駆動部32bを非駆動状態とするとともに、特電入賞装置32を閉鎖状態とする。ポート設定回路595は、出力用レジスタ594の第6ビット594gの値が「1」である場合には普電用の駆動部34bに対して駆動信号を出力することにより普電用の駆動部34bを駆動状態とするとともに、普電役物34aを開放状態とする。また、ポート設定回路595は、当該第6ビット594gの値が「0」である場合には普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が行われなくようにすることにより普電用の駆動部34bを非駆動状態とするとともに、普電役物34aを閉鎖状態とする。ポート設定回路595は、これらの信号出力が所定の周期（例えば2ミリ秒の周期）で行われるようにする。このため、出力用レジスタ594の第5ビット594fに「1」がセットされた場合には、当該第5ビット594fが「0」クリアされるまで特電用の駆動部32bの駆動状態が継続されるとともに、特電入賞装置32の開放状態が継続される。また、出力用レジスタ594の第6ビット594gに「1」がセットされた場合には、当該第6ビット594gが「0」クリアされるまで普電用の駆動部34bの駆動状態が継続されるとともに、普電役物34aの開放状態が継続される。

【3464】

本実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後に、メイン処理（図311）における動作電力の供給開始時の処理（ステップSL501～ステップSL528）の実行中に、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うためのポート出力確認処理（ステップSL522）が実行される。ポート出力確認処理（ステップSL522）では、約10秒間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が実行される。当該開閉動作では、約0.2秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態となる開放期間と、約0.2秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となる閉鎖期間とが交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、ポート出力確認処理（ステップSL522）が実行される出力確認期間において、特電入賞装置32の動作態様を確認することにより特電入賞装置32の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが正常に行われる状態であるか否かを確認することができる。これにより、特

10

20

30

40

50

電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。また、詳細は後述するが、ポート出力確認処理（ステップ S L 5 2 2）では、第 1 出力確認処理（行番号「1 3 0 4」～行番号「1 3 1 6」）、第 2 出力確認処理（行番号「1 3 0 4」～行番号「1 3 1 1」）、第 3 出力確認処理（行番号「1 3 0 6」～行番号「1 3 0 9」）及び第 4 出力確認処理（行番号「1 3 1 3」～行番号「1 3 1 4」）が実行される（図 3 1 3（a）参照）。また、ポート出力確認処理（ステップ S L 5 2 2）では、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を開放状態とするための第 1 出力設定データ又は特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を閉鎖状態とするための第 2 出力設定データが出力用レジスタ 5 9 4 に設定される。

10

【3 4 6 5】

図 3 1 0（c）はポート出力確認処理（ステップ S L 5 2 2）において A レジスタ 5 9 1 b、B レジスタ 5 9 2 a、C レジスタ 5 9 2 b 及び D E レジスタ 5 9 3 に格納されるデータを説明するための説明図である。図 3 1 0（c）に示すように、ポート出力確認処理（ステップ S L 5 2 2）において、A レジスタ 5 9 1 b は出力用レジスタ 5 9 4 に設定するための第 1 出力設定データ又は第 2 出力設定データを格納するために利用される。また、B レジスタ 5 9 2 a は第 1 出力確認処理の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用されるとともに、C レジスタ 5 9 2 b は第 2 出力確認処理の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用される。さらにまた、D E レジスタ 5 9 3 は第 3 出力確認処理の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用される。

20

【3 4 6 6】

図 3 1 1 は主側 M P U 8 2 にて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理は、上記第 1 の実施形態と同様に、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【3 4 6 7】

ステップ S L 5 0 1～ステップ S L 5 2 1 では、上記第 3 の実施形態におけるメイン処理（図 2 4 6）のステップ S G 6 0 1～ステップ S G 6 2 1 と同様の処理を実行する。具体的には、電源投入初期設定処理を実行し（ステップ S L 5 0 1）、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップ S L 5 0 2）。その後、主側 M P U 8 2 におけるスタックポインタの初期化処理を実行する（ステップ S L 5 0 3）。これにより、プッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアをスタックエリアにおける最後のアドレスの記憶エリアとすることができる。

30

【3 4 6 8】

その後、主側 R A M 8 4 の立ち上げ処理中フラグに「1」をセットし（ステップ S L 5 0 4）、主側 R A M 8 4 に設けられた停電フラグに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップ S L 5 0 5）。停電フラグに「1」がセットされている場合（ステップ S L 5 0 5：Y E S）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップ S L 5 0 6）。具体的には、主側 R A M 8 4 についてのチェックサムを算出し、主側 M P U 8 2 の動作停止前に記憶したチェックサムと一致しているか否かを判定する。チェックサムが一致している場合（ステップ S L 5 0 6：Y E S）、主側 R A M 8 4 の設定参照用エリアに格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップ S L 5 0 7）。

40

【3 4 6 9】

ステップ S L 5 0 5～ステップ S L 5 0 7 の全てで肯定判定をした場合、主側 R A M 8 4 に情報異常が発生していないことを意味する。この場合、主側 R A M 8 4 に設けられた設定更新中フラグに「1」がセットされているか否かを判定し（ステップ S L 5 0 8）、設定更新中フラグに「1」がセットされていない場合（ステップ S L 5 0 8：N O）には、リセットボタン 1 4 2（図 2 4 4 参照）が押圧操作されている状態においてパチンコ機 1 0 の電源 O N 操作が行われて主側 M P U 8 2 への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する（ステップ S L 5 0 9）。リセットボタン 1 4 2 が押圧操作されていない場合（

50

ステップ S L 5 0 9 : N O) 、主側 R A M 8 4 における遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップ S L 5 1 0)。ステップ S L 5 1 0 にて肯定判定をした場合、後述するステップ S L 5 2 6 及びステップ S L 5 2 7 の処理を実行する。

【3 4 7 0】

ステップ S L 5 1 0 にて否定判定をした場合、設定キー挿入部 1 4 3 (図 2 4 4 参照) が設定キーを利用して O N 操作されているか否かを判定する(ステップ S L 5 1 1)。設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 操作されている場合(ステップ S L 5 1 1 : Y E S)、設定確認用処理を実行する(ステップ S L 5 1 3)。また、設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 操作されていない場合であっても(ステップ S L 5 1 1 : N O)、主側 R A M 8 4 に設けられた設定確認中フラグに「1」がセットされている場合(ステップ S L 5 1 2 : Y E S)、設定確認用処理を実行する(ステップ S L 5 1 3)。設定確認用処理の内容は上記第 3 3 の実施形態において既に説明したとおりである。

10

【3 4 7 1】

設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 操作されていない場合であって設定確認中フラグに「1」がセットされていない場合(ステップ S L 5 1 1 及びステップ S L 5 1 2 : N O)、遊技機本体 1 2 が開放中であるか否かを判定する(ステップ S L 5 1 4)。遊技機本体 1 2 が外枠 1 1 に対して開放状態となっている場合(ステップ S L 5 1 4 : Y E S)、主側 R A M 8 4 の天井カウンタ 1 3 1 に固定天井回数である 5 0 0 回の情報をセットする(ステップ S L 5 1 5)。

20

【3 4 7 2】

ステップ S L 5 1 4 にて否定判定をした場合又はステップ S L 5 1 5 の処理を実行した場合、通常復帰コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する(ステップ S L 5 1 6)。一方、ステップ S L 5 0 9 にてリセットボタン 1 4 2 が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 操作されていると判定した場合(ステップ S L 5 1 7 : Y E S)、又はステップ S L 5 0 8 にて設定更新中フラグに「1」がセットされていると判定した場合、C A L L 命令により設定値更新処理を実行する(ステップ S L 5 1 8)。設定値更新処理の内容は、上記第 3 3 の実施形態において図 2 4 7 のフローチャートを参照しながら既に説明したとおりである。

【3 4 7 3】

ステップ S L 5 0 9 にてリセットボタン 1 4 2 が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部 1 4 3 が設定キーを利用して O N 操作されていないと判定した場合(ステップ S L 5 1 7 : N O)、主側 R A M 8 4 の遊技停止フラグに「1」がセットされているか否かを判定する(ステップ S L 5 1 9)。遊技停止フラグに「1」がセットされていない場合(ステップ S L 5 1 9 : N O)には、上記第 3 3 の実施形態において既に説明した設定値更新処理(図 2 4 7)のステップ S G 7 0 1 と同様に、C A L L 命令により R A M クリア処理を実行する(ステップ S L 5 2 0)。

30

【3 4 7 4】

R A M クリア処理は、設定値更新処理(図 2 4 7)のステップ S G 7 0 1 及びメイン処理(図 3 1 1)のステップ S L 5 2 0 にて実行される。R A M クリア処理の内容は基本的に上記第 3 3 の実施形態において図 2 4 8 のフローチャートを参照しながら既に説明したとおりである。但し、主側 R A M 8 4 は上記第 3 3 の実施形態における確認用タイマカウンタ 5 2 3 a を不具備であり、R A M クリア処理(ステップ S G 7 0 1 又はステップ S L 5 2 0)では確認用タイマカウンタ 5 2 3 a に入出力確認期間に対応する数値情報を設定する処理は実行されない。ステップ S L 5 2 0 にて R A M クリア処理を実行した後、クリア時の復帰コマンドを音光側 M P U 9 3 に送信する(ステップ S L 5 2 1)。

40

【3 4 7 5】

ステップ S L 5 1 8 の処理を行った場合、又はステップ S L 5 2 1 の処理を行った場合には、ポート出力確認処理を実行する(ステップ S L 5 2 2)。ポート出力確認処理は、メイン処理において設定値更新処理(ステップ S L 5 1 8)又は R A M クリア処理(ステップ S L 5 2 0)が実行された場合に実行される処理であるとともに、メイン処理におい

50

てこれら設定値更新処理及びRAMクリア処理が実行されなかった場合には実行されない処理である。設定値更新処理が実行される場合にもRAMクリア処理が実行されるため、ポート出力確認処理は、RAMクリア処理（ステップSL520又はステップSG701）が実行された場合に実行される処理ともいえる。ポート出力確認処理は、主側RAM84の記憶エリアを利用することなく主側MPU82の各種レジスタを利用して実行される。これにより、RAMクリア処理（ステップSL520又はステップSG701）が実行されてから遊技を進行させるための処理（ステップSL607～ステップSL620）が行われる遊技可能状態が開始されるまでの間に、主側RAM84に新たな情報が記憶されてしまうことを防止できる。なお、ポート出力確認処理の詳細については後に説明する。

【3476】

ステップSL505～ステップSL507のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「1」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、ステップSL523～ステップSL527において上記第33の実施形態におけるメイン処理（図246）のステップSG622～ステップSG626と同様の処理を実行する。具体的には、まず主側RAM84の遊技停止フラグに「1」をセットする（ステップSL523）。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「1」がセットされていない場合、前回の電源遮断時から主側RAM84の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、遊技を進行させるための処理（ステップSL607～ステップSL620）が実行されないことになる。

【3477】

その後、主側RAM84の天井カウンタ131に固定天井回数である500回の情報をセットする（ステップSL524）。その後、リセットボタン142が押圧操作されているか否かを判定する（ステップSL525）。リセットボタン142が押圧操作されていない場合（ステップSL525：NO）、異常コマンドを音光側MPU93に送信する（ステップSL526）。音光側MPU93は、当該異常コマンドを受信した場合、異常報知が行われるように、図柄表示装置41の表示制御、表示発光部64の発光制御及びスピーカ部65の音出力制御を実行する。異常報知では、音光側MPU93は、異常を報知する態様で表示発光部64を発光させるとともに、スピーカ部65から「設定変更をして下さい。」という音声を出させる。また、図柄表示装置41にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。異常報知はパチンコ機10への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機10への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機10への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップSL518）が実行されるまではパチンコ機10への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【3478】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップSL527）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば100ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「1」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「0」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。

【3479】

リセットボタン142が押圧操作されている場合（ステップSL525：YES）、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されているか否かを判定する（ステップSL517）。リセットボタン142が押圧操作されているとともに設定キー挿入部143が設定キーを利用してON操作されている場合（ステップSL525：YES、ステップSL517：YES）、CALL命令により設定値更新処理を実行する（ステップSL518）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。

【3480】

一方、リセットボタン１４２が押圧操作されているものの設定キー挿入部１４３がＯＮ操作されていない場合（ステップＳＬ５２５：ＹＥＳ、ステップＳＬ５１７：ＮＯ）、主側ＲＡＭ８４の遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ５１９）。ステップＳＬ５２３にて遊技停止フラグに「１」がセットされた後におけるステップＳＬ５１９の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「１」がセットされているため、ステップＳＬ５１９にて肯定判定をする。この場合、ステップＳＬ５２６にて音光側ＭＰＵ９３に異常コマンドを送信するとともにステップＳＬ５２７にて異常信号を外部出力する。

【３４８１】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップＳＬ５０５～ステップＳＬ５０７のいずれかにて否定判定をした場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が開始されたとしてもＲＡＭクリア処理（ステップＳＬ５２０）は実行されない。また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であって「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が開始された場合にもＲＡＭクリア処理（ステップＳＬ５２０）は実行されない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（ステップＳＬ５１８）が実行されるとともに当該設定値更新処理（ステップＳＬ５１８）にて遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（ステップＳＬ５１８）を実行する必要があることとなる。よって、主側ＲＡＭ８４の情報異常の発生に際しては主側ＲＡＭ８４の一部のエリアを初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【３４８２】

遊技停止フラグに「１」がセットされている状況において主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「ＲＡＭクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップＳＬ５１０又はステップＳＬ５１９にて肯定判定をすることで、ステップＳＬ５２６にて異常コマンドを送信するとともにステップＳＬ５２７にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップＳＬ５０５～ステップＳＬ５０７の処理結果に関係なく、設定値更新処理（ステップＳＬ５１８）が実行されない限り、主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機１０における異常報知及びパチンコ機１０の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【３４８３】

ステップＳＬ５１３の処理を実行した場合、ステップＳＬ５１６の処理を実行した場合、ステップＳＬ５２２の処理を実行した場合、又はステップＳＬ５２７の処理を実行した場合には、主側ＲＡＭ８４の立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＬ５２８）。これにより、後述するタイマ割込み処理（図３１２）のステップＳＬ６０６にて主側ＲＡＭ８４の遊技停止フラグに「１」がセットされていないことを条件として否定判定が行われるようにすることができる。なお、ステップＳＬ５２８では主側ＲＡＭ８４の停電フラグも「０」クリアする。

【３４８４】

その後、ステップＳＬ５２９～ステップＳＬ５３２の残余処理に進む。ステップＳＬ５２９～ステップＳＬ５３２では、上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図２４６）のステップＳＧ６２８～ステップＳＧ６３１と同一の処理を実行する。ステップＳＬ５２９～ステップＳＬ５３２の処理内容は上記第３３の実施形態において既に説明したとおり

10

20

30

40

50

である。

【3485】

次に、図312のフローチャートを参照しながらタイマ割込み処理を説明する。上記第1の実施形態において既に説明したとおり、タイマ割込み処理は4msecの周期で繰り返し起動される。

【3486】

ステップSL601では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG901と同様に、停電監視処理を実行する（ステップSL601）。その後、ステップSL602～ステップSL605では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG906～ステップSG909と同様の処理を実行する。具体的には、抽選用乱数更新処理を実行し（ステップSL602）、メイン処理（図311）のステップSL530と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに（ステップSL603）、メイン処理（図311）のステップSL531と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する（ステップSL604）。その後、不正用の監視対象として設定されている所定の事象が発生しているか否かを監視する不正検知処理を実行する（ステップSL605）。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、所定の事象が発生していることを確認することで、主側RAM84に設けられた遊技停止フラグに「1」をセットする。

【3487】

その後、主側RAM84の遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされているか否かを判定する（ステップSL606）。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「1」がセットされている場合（ステップSL606：YES）、ステップSL607～ステップSL620の処理を実行することなく本タイマ割込み処理を終了する。これにより、遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「1」がセットされている状況においては、タイマ割込み処理（図312）にて停電監視処理（ステップSL601）と、各種カウンタの更新及び不正監視を実行する処理（ステップSL602～ステップSL605）とが実行されるようにしながら、遊技を進行させるための処理（ステップSL607～ステップSL620）は実行されないようにすることが可能となる。

【3488】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「1」がセットされていない場合（ステップSL606：NO）、ステップSL607～ステップSL620における遊技を進行させるための処理を実行する。ステップSL607～ステップSL620では、上記第33の実施形態におけるタイマ割込み処理（図249）のステップSG911～ステップSG924と同一の処理を実行する。これらステップSL607～ステップSL620の処理の内容は、上記第33の実施形態において既に説明したとおりである。

【3489】

次に、ポート出力確認処理のプログラム内容について図313（a）及び図313（b）の説明図を参照しながら説明する。図313（a）は主側MPU82にて実行されるポート出力確認処理のプログラム内容を説明するための説明図であり、図313（b）は第1出力確認処理、第2出力確認処理及び第3出力確認処理の繰り返し実行回数を説明するための説明図である。既に説明したとおり、ポート出力確認処理はメイン処理（図311）のステップSL522にて実行される。

【3490】

図313（a）に示すようにポート出力確認処理のプログラムには、行番号として「1301」～「1317」が設定されている。上述したとおり、ポート出力確認処理には、行番号「1304」～行番号「1316」における第1出力確認処理、行番号「1304」～行番号「1311」における第2出力確認処理、行番号「1306」～行番号「1309」における第3出力確認処理及び行番号「1313」～行番号「1314」における第4出力確認処理が含まれている。ポート出力確認処理のプログラムの詳細な説明に先立

10

20

30

40

50

ち、これら第1～第4出力確認処理の内容について説明する。

【3491】

既に説明したとおり、出力用レジスタ594にセットされるデータとして、特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とするための第1出力設定データと、特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とするための第2出力設定データとが存在している。第1出力設定データは、「01100000B」（「60H」）という数値情報であり、第1出力設定データが出力用レジスタ594にセットされることにより、出力用レジスタ594の第5ビット594f及び第6ビット594gに「1」がセットされる。本実施形態において、数値の後に付された「H」は当該数値が16進数で表記されていることを示す記号であるとともに、数値の後に付された「B」は当該数値が2進数で表記されていることを示す記号である。既に説明したとおり、当該第5ビット594f及び第6ビット594gに「1」がセットされると、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が行われて特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態となるようにすることができる。第2出力設定データは、「00000000B」（「00H」）という数値情報であり、第2出力設定データが出力用レジスタ594にセットされることにより、出力用レジスタ594の第5ビット594f及び第6ビット594gに「0」がセットされる。既に説明したとおり、当該第5ビット594f及び第6ビット594gに「0」がセットされると、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となるようにすることができる。ポート出力確認処理（図313（a））に設定されている行番号「1301」～「1317」のうち出力用レジスタ594に第1出力設定データ又は第2出力設定データをセットするための処理が設定されている行番号は「1307」である。行番号「1307」の処理は第3出力確認処理に含まれている。

【3492】

図310（c）を参照しながら既に説明したとおり、ポート出力確認処理では、出力用レジスタ594に設定するための第1出力設定データ又は第2出力設定データがAレジスタ591bに格納される。詳細は後述するが、行番号「1307」の処理は、Aレジスタ591bにセットされているデータ（第1出力設定データ及び第2出力設定データのいずれか）を出力用レジスタ594にセットする処理である。Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で行番号「1307」の処理が実行される場合には、当該第1出力設定データが出力用レジスタ594にセットされる。これにより、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が行われて特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態となるようにすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で行番号「1307」の処理が実行される場合には、当該第2出力設定データが出力用レジスタ594にセットされる。これにより、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となるようにすることができる。

【3493】

第3出力確認処理（行番号「1306」～行番号「1309」）は、当該行番号「1307」の処理を65535回に亘って繰り返し実行するための処理である。図313（b）に示すように、1回の第2出力確認処理において第3出力確認処理は65535回実行される。Aレジスタ591bにセットされているデータ（第1出力設定データ及び第2出力設定データのいずれか）は、第3出力確認処理において変更されない。このため、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で第3出力確認処理が開始された場合には、当該第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が65535回に亘って繰り返し実行される。これにより、当該処理が65535回に亘って繰り返し実行される期間（約40ミリ秒）に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセッ

トされている状態で第3出力確認処理が開始された場合には、当該第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が65535回に亘って繰り返し実行される。これにより、当該処理が65535回に亘って繰り返し実行される期間（約40ミリ秒）に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。

【3494】

第2出力確認処理（行番号「1304」～行番号「1311」）は、第3出力確認処理を5回に亘って繰り返し実行するための処理である。図313（b）に示すように、1回の第1出力確認処理において第2出力確認処理は5回実行される。Aレジスタ591bにセットされているデータ（第1出力設定データ及び第2出力設定データのいずれか）は、第2出力確認処理において変更されない。このため、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、当該第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回（上述した65535回の5倍）に亘って繰り返し実行される。これにより、ポート出力確認処理（図313（a））が実行される出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理（行番号「1307」）が327675回実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、当該第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回（上述した65535回の5倍）に亘って繰り返し実行される。これにより、出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理（行番号「1307」）が327675回実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。

【3495】

第4出力確認処理（行番号「1313」～行番号「1314」）は、第2出力確認処理が実行された後に実行される。第4出力確認処理は、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態と、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えを行うための処理である。Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態において第4出力確認処理が実行されることによりAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態となるとともに、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態において第4出力確認処理が実行されることによりAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態となる。

【3496】

第1出力確認処理（行番号「1304」～行番号「1316」）は、上述した第2出力確認処理及び第4出力確認処理を50回に亘って繰り返し実行するための処理である。第1出力確認処理では、「Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理」→「Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理」→「Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理」→…→「Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理」の順番で、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理と、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理とが交互に合計50回実行される。図313（b）に示すように、当該合計50回のうちAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理の実行回数は25回であるとともに、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状

態における第2出力確認処理及び第4出力確認処理の実行回数は25回である。これにより、約0.2秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態となる開放期間と、約0.2秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となる閉鎖期間とが合計約10秒間に亘って交互に繰り返されるようにすることができる。

【3497】

図310(c)を参照しながら既に説明したとおり、Bレジスタ592aは第1出力確認処理(行番号「1304」～行番号「1316」)の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用されるとともに、Cレジスタ592bは第2出力確認処理(行番号「1304」～行番号「1311」)の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用される。また、DEレジスタ593は第3出力確認処理(行番号「1306」～行番号「1309」)の繰り返し実行回数を示す数値情報を格納するために利用される。

10

【3498】

次に、ポート出力確認処理のプログラム(図313(a))の詳細について説明する。上述したとおり、本プログラムには、行番号として「1301」～「1317」が設定されている。プログラムの命令は、コール命令又はジャンプ命令が実行される場合を除いて、行番号の小さい方から大きい方に向かう順番で実行される。

【3499】

図313(a)に示すように、「1301」の行番号には「LD A, 60H」という命令が設定されている。「LD」は8ビット転送命令としてのLD命令であり、「A」は転送先としてAレジスタ591bを指定する内容であり、「60H」は「01100000B」という第1出力設定データの16進数表記である。既に説明したとおり、第1出力設定データは、特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とするために出力用レジスタ594に設定されるデータである。行番号「1301」にて「LD A, 60H」という命令が実行されることによりAレジスタ591bに「60H」という数値情報が転送される。これにより、出力設定データとして「01100000B」を設定することができる。

20

【3500】

「1302」の行番号には「LD B, 32H」という命令が設定されている。「LD」は8ビット転送命令としてのLD命令であり、「B」は転送先としてBレジスタ592aを指定する内容であり、「32H」は第1出力確認処理(行番号「1304」～行番号「1316」)の繰り返し実行回数を50回に設定するための数値情報である。行番号「1302」にて「LD B, 32H」という命令が実行されることによりBレジスタ592aに「32H」という数値情報が転送される。これにより、第1出力確認処理の繰り返し実行回数を50回に設定することができる。

30

【3501】

「1303」の行番号には「LD C, 05H」という命令が設定されている。「LD」は8ビット転送命令としてのLD命令であり、「C」は転送先としてCレジスタ592bを指定する内容である。また、「05H」は、第1出力確認処理(行番号「1304」～行番号「1316」)における第2出力確認処理(行番号「1304」～行番号「1311」)の繰り返し実行回数を5回に設定するための数値情報である。行番号「1303」にて「LD C, 05H」という命令が実行されることによりCレジスタ592bに「05H」という数値情報が転送される。これにより、1回の第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数を5回に設定することができる。

40

【3502】

「1304」の行番号には「RS20」が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機10の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1304」では何ら命令を実行することなく次の行番号「1305」に進む。

【3503】

「1305」の行番号には「LD DE, FFFFH」という命令が設定されている。「LD」は16ビット転送命令としてのLD命令であり、「DE」は転送先としてDEレ

50

レジスタ593を指定する内容である。また、「FFFFH」は、第2出力確認処理（行番号「1304」～行番号「1311」）における第3出力確認処理（行番号「1306」～行番号「1309」）の繰り返し実行回数を65535回に設定するための数値情報である。行番号「1305」にて「LD DE, FFFFFH」という命令が実行されることによりDEレジスタ593に「FFFFH」という数値情報が転送される。これにより、1回の第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数を65535回に設定することができる。

【3504】

「1306」の行番号には「RS30」が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機10の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1306」では何ら命令を実行することなく次の行番号「1307」に進む。

【3505】

「1307」の行番号には「OUT (CPU_PINIO0), A」という命令が設定されている。「OUT」は出力命令としてのOUT命令である。「CPU_PINIO0」は主側MPU82における出力用レジスタ594に対応する1バイトのポート番号であり、「A」はAレジスタ591bである。行番号「1307」にて「OUT (CPU_PINIO0), A」という命令が実行されることにより、Aレジスタ591bに設定されている出力設定データが出力用レジスタ594に設定される。上述したとおり、ポート出力確認処理において出力用レジスタ594に設定される出力設定データとして、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対して駆動信号を出力することにより特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bを駆動状態とするための第1出力設定データ（「60H」）と、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力を停止させることにより特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bを非駆動状態とするための第2出力設定データ（「00H」）とが存在している。行番号「1307」にて出力用レジスタ594に第1出力設定データが出力された場合には、出力用レジスタ594の第5ビット594f及び第6ビット594gに「1」がセットされる。これにより、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32bに駆動信号が出力されて特電入賞装置32が開放状態となるようにすることができるとともに、ポート設定回路595の動作により普電用の駆動部34bに駆動信号が出力されて普電役物34aが開放状態となるようにすることができ。また、行番号「1307」にて出力用レジスタ594に第2出力設定データが出力された場合には、出力用レジスタ594における第5ビット594f及び第6ビット594gが「0」クリアされる。これにより、ポート設定回路595の動作により特電用の駆動部32bに対する駆動信号の出力が停止されて特電入賞装置32が閉鎖状態となるようにすることができるとともに、ポート設定回路595の動作により普電用の駆動部34bに対する駆動信号の出力が停止されて普電役物34aが閉鎖状態となるようにすることができ。

【3506】

「1308」の行番号には「DEC DE」という命令が設定されている。「DEC」は16ビットのレジスタデクリメント命令（DEC命令）であり、「DE」はDEレジスタ593である。行番号「1308」にて「DEC DE」という命令が実行されることによりDEレジスタ593の値が1減算される。これにより、第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数が1減算される。行番号「1308」にて「DEC DE」という命令が実行された場合、当該命令により実行される演算（DEレジスタ593の値を1減算する演算）の演算結果が「0」であればゼロフラグZF及びジャンプフラグJFの値は「1」となるとともに、当該演算結果が「0」以外であればゼロフラグZF及びジャンプフラグJFの値は「0」となる。行番号「1308」の命令の実行後にDEレジスタ593に設定されている第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数が「0」となった場合にはジャンプフラグJFの値が「1」となるとともに、行番号「1308」の命令の実行後にDEレジスタ593に設定されている第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数が1以上の値となった場合にはジャンプ

10

20

30

40

50

フラグ J F の値が「0」となる。

【3507】

「1309」の行番号には「JRS 0, RS30」という命令が設定されている。「JRS」は語長1バイトの条件付きジャンプ命令である。「0」はジャンプ先のプログラムアドレスにジャンプする条件として、ジャンプフラグ J F の値が「0」であること、という条件を設定する内容である。「RS30」はジャンプ先として当該「RS30」が設定されている行番号「1306」を指定する内容である。行番号「1309」では、ジャンプフラグ J F の値が「0」であることを条件として「RS30」が設定されている行番号「1306」にジャンプする。一方、ジャンプフラグ J F の値が「1」である場合には行番号「1306」にジャンプすることなく次の行番号「1310」に進む。

10

【3508】

上述したとおり、行番号「1308」の命令の実行後に D E レジスタ 593 に設定されている第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数が1以上の値となった場合にはジャンプフラグ J F の値が「0」となる。この場合には、行番号「1309」の命令が実行されることにより行番号「1306」にジャンプする。そして、第3出力確認処理を再度実行する。また、上述したとおり、行番号「1308」の命令の実行後に D E レジスタ 593 に設定されている第2出力確認処理における第3出力確認処理の繰り返し実行回数が「0」となった場合にはジャンプフラグ J F の値が「1」となる。この場合には、行番号「1309」に「JRS 0, RS30」という命令が設定されていても行番号「1306」にジャンプすることなく、次の行番号「1310」に進む。上述したとおり、1回の第2出力確認処理において、第3出力確認処理は65535回に亘って繰り返し実行される。これにより、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で第3出力確認処理が開始された場合には、当該第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が65535回に亘って繰り返し実行される約40ミリ秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で第3出力確認処理が開始された場合には、当該第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が65535回に亘って繰り返し実行される約40ミリ秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。

20

【3509】

「1310」の行番号には「DEC C」という命令が設定されている。「DEC」は8ビットのデクリメント命令であり、「C」はCレジスタ592bである。行番号「1310」にて「DEC C」という命令が実行されることによりCレジスタ592bの値が1減算される。これにより、第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数が1減算される。行番号「1310」にて「DEC C」という命令が実行された場合、当該命令により実行される演算（Cレジスタ592bの値を1減算する演算）の演算結果が「0」であればゼロフラグ Z F の値は「1」となるとともに、当該演算結果が「0」以外であればゼロフラグ Z F の値は「0」となる。行番号「1310」の命令の実行後にCレジスタ592bに設定されている第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数が「0」となった場合にはゼロフラグ Z F の値が「1」となるとともに、行番号「1310」の命令の実行後にCレジスタ592bに設定されている第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数が1以上の値となった場合にはゼロフラグ Z F の値が「0」となる。

30

40

【3510】

「1311」の行番号には「JR NZ, RS20」という命令が設定されている。「JR」は語長2バイトの条件付きジャンプ命令であり、「NZ」はジャンプの条件として、ゼロフラグ Z F の値が「0」であること、という条件を指定する内容であり、「RS20」はジャンプ先として「RS20」が設定されている行番号「1304」を指定する内容である。行番号「1311」では、ゼロフラグ Z F の値が「0」であることを条件として「RS20」が設定されている行番号「1304」にジャンプする。一方、ゼロフラグ

50

Z Fの値が「1」である場合には行番号「1304」にジャンプすることなく次の行番号「1312」に進む。

【3511】

上述したとおり、行番号「1310」の命令の実行後にCレジスタ592bに設定されている第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数が1以上の値となった場合にはゼロフラグZFの値が「0」となる。この場合には、行番号「1311」の命令が実行されることにより行番号「1304」にジャンプする。そして、第2出力確認処理を再度実行する。また、上述したとおり、行番号「1310」の命令の実行後にCレジスタ592bに設定されている第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数が「0」となった場合にはゼロフラグZFの値が「1」となる。この場合には、行番号「1311」に「JR NZ, RS20」という命令が設定されていても行番号「1304」にジャンプすることなく、次の行番号「1312」に進む。上述したとおり、1回の第1出力確認処理において、第2出力確認処理は5回に亘って繰り返し実行される。また、上述したとおり、1回の第2出力確認処理において、第3出力確認処理は65535回に亘って繰り返し実行される。このため、Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、当該第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回に亘って繰り返し実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、当該第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回に亘って繰り返し実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。

【3512】

「1312」の行番号には、既に説明した「1303」の行番号と同様に、「LD C, 05H」という命令が設定されている。「LD」は8ビット転送命令としてのLD命令であり、「C」は転送先としてCレジスタ592bを指定する内容である。また、「05H」は、第1出力確認処理（行番号「1304」～行番号「1316」）における第2出力確認処理（行番号「1304」～行番号「1311」）の繰り返し実行回数を5回に設定するための数値情報である。行番号「1312」にて「LD C, 05H」という命令が実行されることによりCレジスタ592bに「05H」という数値情報が転送される。これにより、1回の第1出力確認処理における第2出力確認処理の繰り返し実行回数を5回に設定することができる。

【3513】

「1313」の行番号には「XOR A, 0FFH」という命令が設定されている。「XOR」はXOR命令という排他的論理和命令であり、「A」はAレジスタ591bを指定する内容であり、「0FFH」は「000011111111B」という数値情報である。行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」が実行されることにより、Aレジスタ591bの値と「11111111B」との排他的論理和の演算結果がAレジスタ591bに格納される。行番号「1313」では、Aレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果がAレジスタ591bに格納される。

【3514】

「1314」の行番号には「AND A, 60H」という命令が設定されている。「AND」は8ビットデータの論理積を演算するAND命令であり、「A」はAレジスタ591bを指定する内容であり、「60H」は「01100000B」という第1出力設定データである。行番号「1314」にて「AND A, 60H」という命令が実行されることによりAレジスタ591bに格納されているデータと第1出力設定データとの論理積の

演算が実行され、当該演算の結果がAレジスタ591bに格納される。

【3515】

図314(a)及び図314(b)は第4出力確認処理の実行前後においてAレジスタ591bに格納されているデータを説明するための説明図である。

【3516】

まずAレジスタ591bに第1出力設定データ(「60H」)が設定されている状態において第4出力確認処理(行番号「1313」～行番号「1314」)が実行される場合について、図314(a)を参照しながら説明する。Aレジスタ591bに第1出力設定データ(「60H」)が格納されている状態において、行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行されると、Aレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させることにより導出される数値情報がAレジスタ591bに格納される。具体的には、「01100000B」と「11111111B」との排他的論理和である「10011111B」がAレジスタ591bに格納される。その後、行番号「1314」にて「AND A, 60H」という命令が実行されると、「10011111B」と「01100000B」との論理積である「00000000B」(第2出力設定データ)がAレジスタ591bに格納される。このように、Aレジスタ591bに第1出力設定データが格納されている状態において第4出力確認処理が実行された場合には、Aレジスタ591bに第2出力設定データが格納されている状態となる。

【3517】

次に、Aレジスタ591bに第2出力設定データ(「00H」)が設定されている状態において第4出力確認処理(行番号「1313」～行番号「1314」)が実行される場合について、図314(b)を参照しながら説明する。Aレジスタ591bに第2出力設定データ(「00H」)が格納されている状態において、行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行されると、Aレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させることにより導出される数値情報がAレジスタ591bに格納される。具体的には、「00000000B」と「11111111B」との排他的論理和である「11111111B」がAレジスタ591bに格納される。その後、行番号「1314」にて「AND A, 60H」という命令が実行されると、「11111111B」と「01100000B」との論理積である「01100000B」(第1出力設定データ)がAレジスタ591bに格納される。このように、Aレジスタ591bに第2出力設定データが格納されている状態において第4出力確認処理が実行された場合には、Aレジスタ591bに第1出力設定データが格納されている状態となる。

【3518】

上記のとおり、第2出力設定データにおける第0～第7ビットが「0」であり、第1出力設定データにおける第0～第7ビットのうち少なくとも1つのビットの値が「1」であり、Aレジスタ591bに第1出力設定データ又は第2出力設定データがセットされている状態において第4出力確認処理が実行される構成において、行番号「1313」にてAレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果がAレジスタ591bに格納され、行番号「1314」にてAレジスタ591bに格納されている数値情報と第1出力設定データとの論理積を算出する演算が実行される構成とすることにより、第4出力確認処理が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。Aレジスタ591bに格納されている出力設定データは、第4出力確認処理が実行される度に、第1出力設定データ→第2出力設定データ→第1出力設定データ→第2出力設定データ→…→第1出力設定データ→第2出力設定データの順番で、交互に更新される。

【3519】

ポート出力確認処理（図 3 1 3（a））の説明に戻り、行番号「1 3 1 4」の命令を実行した後は、次の行番号「1 3 1 5」に進む。「1 3 1 5」の行番号には「RS 4 0」が設定されている。これは命令ではなくパチンコ機 1 0 の開発者によるプログラムの確認に際して参照されるデータである。したがって、行番号「1 3 1 5」では何ら命令を実行することなく次の行番号「1 3 1 6」に進む。

【3 5 2 0】

「1 3 1 6」の行番号には「DJNZ RS 2 0」という命令が設定されている。「DJNZ」は、レジスタ 5 9 2 a の値を 1 減算し、その 1 減算後のレジスタ 5 9 2 a の値が「0」ではない場合にはジャンプ先にジャンプする一方、その 1 減算後のレジスタ 5 9 2 a の値が「0」である場合にはジャンプ先にジャンプすることなく次の行番号に進む DJNZ 命令である。また、「RS 2 0」は、ジャンプ先として当該「RS 2 0」が設定されている行番号「1 3 0 4」を指定する内容である。行番号「1 3 1 6」にて「DJNZ RS 2 0」という命令が実行されることによりレジスタ 5 9 2 a の値が 1 減算される。そして、その 1 減算後のレジスタ 5 9 2 a の値が「0」ではない場合には「RS 2 0」が設定されている行番号「1 3 0 4」にジャンプする一方、その 1 減算後のレジスタ 5 9 2 a の値が「0」である場合には行番号「1 3 0 4」にジャンプすることなく次の行番号「1 3 1 7」に進む。

【3 5 2 1】

既に説明したとおり、レジスタ 5 9 2 a には第 1 出力確認処理の繰り返し実行回数が設定されている。上述したとおり、第 1 出力確認処理は 5 0 回に亘って繰り返し実行される。また、上述したとおり、レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている状態において第 4 出力確認処理が実行された場合には、レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データが格納されている状態となるとともに、レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データが格納されている状態において第 4 出力確認処理が実行された場合には、レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている状態となる。

【3 5 2 2】

レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている状態において第 1 出力確認処理が実行されることにより、約 0. 2 秒間に亘って特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が開放状態となる。レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている状態において第 1 出力確認処理が実行された場合には、レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データが格納されている状態となり、当該状態において次の第 1 出力確認処理の処理回が実行される。これにより、約 0. 2 秒間に亘って特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が閉鎖状態となる。また、レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データが格納されている状態において第 1 出力確認処理が実行された場合には、レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている状態となり、当該状態において次の第 1 出力確認処理の処理回が実行される。これにより、約 0. 2 秒間に亘って特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が開放状態となる。

【3 5 2 3】

「1 3 1 7」の行番号には「RET」という命令が設定されている。「RET」はサブルーチンからの復帰命令である。行番号「1 3 1 7」にて「RET」という命令が実行されることにより、現状において呼び出されているサブルーチンを終了して当該サブルーチンを呼び出した処理の次に設定されている処理に復帰する。具体的には、メイン処理（図 3 1 1）のステップ S L 5 2 8 に進む。

【3 5 2 4】

次に、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開閉動作が行われる様子について図 3 1 5 のタイムチャートを参照しながら説明する。図 3 1 5（a）は特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a が開放状態となる期間を示し、図 3 1 5（b）は第 1 出力設定データが出力用レジスタ 5 9 4 に設定される期間を示し、図 3 1 5（c）は第 2 出力設定データが出力用レジスタ 5 9 4 に設定される期間を示し、図 3 1 5（d）は第 4 出力確認処理が実行されるタイミングを示し、図 3 1 5（e）は第 2 出力確認処理が終了するタイミングを示し

10

20

30

40

50

、図315 (f) はBレジスタ592 aの値が1以上である期間を示し、図315 (g) はポート出力確認処理が実行される出力確認期間を示す。

【3525】

t1のタイミングで、図315 (g) に示すようにポート出力確認処理 (図313 (a)) が実行される出力確認期間が開始されると、図315 (f) に示すように第1出力確認処理の実行回数である「50」がBレジスタ592 aにセットされる。また、当該t1のタイミングで、Aレジスタ591 bに第1出力設定データ (「60H」) がセットされて、図315 (b) に示すように第1出力設定データが出力用レジスタ594に設定されている状態が開始されるとともに、図315 (a) に示すようにポート設定回路595の動作により特電入賞装置32及び普電役物34 aが開放状態となる。

10

【3526】

その後、図315 (e) に示すように、t2のタイミングで1回目の第2出力確認処理が終了し、t3のタイミングで2回目の第2出力確認処理が終了し、t4のタイミングで3回目の第2出力確認処理が終了し、t5のタイミングで4回目の第2出力確認処理が終了し、t6のタイミングで5回目の第2出力確認処理が終了する。既に説明したとおり、1回の第2出力確認処理において行番号「1307」の処理が実行される回数は65535回であるとともに、第2出力確認処理が5回繰り返されることにより行番号「1307」の処理が327675回実行される。5回目の第2出力確認処理が終了するt6のタイミングで、Bレジスタ592 aの値は1減算されて「49」となる。また、当該t6のタイミングで、図315 (d) に示すように第4出力確認処理が実行されると、Aレジスタ591 bにセットされている出力設定データが第1出力設定データから第2出力設定データに切り換わり、図315 (b) 及び図315 (c) に示すように出力用レジスタ594に設定される出力設定データが第1出力設定データから第2出力設定データに切り換わる。既に説明したとおり、出力用レジスタ594に第2出力設定データがセットされることにより、図315 (a) に示すようにポート設定回路595の動作により特電入賞装置32及び普電役物34 aが開放状態から閉鎖状態に切り換わる。

20

【3527】

その後、図315 (e) に示すように、t7のタイミングで1回目の第2出力確認処理が終了し、t8のタイミングで2回目の第2出力確認処理が終了し、t9のタイミングで3回目の第2出力確認処理が終了し、t10のタイミングで4回目の第2出力確認処理が終了し、t11のタイミングで5回目の第2出力確認処理が終了する。5回目の第2出力確認処理が終了するt11のタイミングで、Bレジスタ592 aの値は1減算されて「48」となる。また、当該t11のタイミングで、図315 (d) に示すように第4出力確認処理が実行されると、Aレジスタ591 bにセットされている出力設定データが第2出力設定データから第1出力設定データに切り換わり、図315 (b) 及び図315 (c) に示すように出力用レジスタ594に設定される出力設定データが第2出力設定データから第1出力設定データに切り換わる。既に説明したとおり、出力用レジスタ594に第1出力設定データがセットされることにより、図315 (a) に示すように特電入賞装置32及び普電役物34 aが閉鎖状態から開放状態に切り換わる。

30

【3528】

このように、出力確認期間では、特電入賞装置32及び普電役物34 aが開放状態となる約0.2秒の期間 (t1のタイミング～t6のタイミング) と、特電入賞装置32及び普電役物34 aが閉鎖状態となる約0.2秒の期間 (t6のタイミング～t11のタイミング) とが交互に繰り返される。

40

【3529】

特電入賞装置32及び普電役物34 aが開放状態となっているt12のタイミングで5回目の第2出力確認処理が終了すると、Bレジスタ592 aの値は1減算されて「1」となる。また、当該t12のタイミングで、図315 (d) に示すように第4出力確認処理が実行されると、Aレジスタ591 bにセットされている出力設定データが第1出力設定データから第2出力設定データに切り換わり、図315 (b) 及び図315 (c) に示す

50

ように出力用レジスタ594に設定される出力設定データが第1出力設定データから第2出力設定データに切り換わる。既に説明したとおり、出力用レジスタ594に第2出力設定データがセットされることにより、図315(a)に示すように特電入賞装置32及び普電役物34aが開放状態から閉鎖状態に切り換わる。

【3530】

その後、図315(e)に示すように、t13のタイミングで1回目の第2出力確認処理が終了し、t14のタイミングで2回目の第2出力確認処理が終了し、t15のタイミングで3回目の第2出力確認処理が終了し、t16のタイミングで4回目の第2出力確認処理が終了し、t17のタイミングで5回目の第2出力確認処理が終了する。5回目の第2出力確認処理が終了するt17のタイミングで、Bレジスタ592aの値は1減算されて「0」となるとともに、図315(g)に示すように出力確認期間が終了する。

10

【3531】

図315(e)に示すように、t17のタイミングで第4出力確認処理が実行されることによりAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態から第1出力設定データがセットされている状態に切り換わるが、Bレジスタ592aの値が「0」となりポート出力確認処理が終了するため、Aレジスタ591bにセットされた第2出力設定データが出力用レジスタ594にセットされることはない。出力確認期間は、約0.2秒に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aが閉鎖状態となった後に終了する。そして、出力確認期間の終了後も特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続される。

20

【3532】

上記のとおり、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された後に、RAMクリア処理(ステップSL520又はステップSG701)が実行された場合にはポート出力確認処理が実行されるとともに、RAMクリア処理(ステップSL520又はステップSG701)が実行されなかった場合にはポート出力確認処理が実行されない構成において、ポート出力確認処理は、主側RAM84の記憶エリアを利用することなく主側MPU82の各種レジスタを利用して実行される。これにより、RAMクリア処理(ステップSL520又はステップSG701)が実行されてから遊技を進行させるための処理(ステップSL607～ステップSL620)が行われる遊技可能状態が開始されるまでの間に、主側RAM84に新たな情報が記憶されてしまうことを防止できる。よって、RAMクリア処理(ステップSL520又はステップSG701)が実行された場合には、主側RAM84が初期化された状態が維持された状態で遊技可能状態が開始されるようにすることができる。

30

【3533】

Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、当該第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理(行番号「1307」)が327675回に亘って繰り返し実行されることにより、出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、第1出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを開放状態とすることができる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で第2出力確認処理が開始された場合には、当該第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理(行番号「1307」)が327675回に亘って繰り返し実行されることにより、出力確認期間において特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖状態が継続されている時間をタイマカウンタを利用して計測する処理を不要としながら、第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が327675回実行される約0.2秒の期間に亘って特電入賞装置32及び普電役物34aを閉鎖状態とすることができる。このように、ポート出力確認処理に、タイマカウンタを利用して特電入賞装置32及び普電役物34aの開放状態が継続されている時間を計測する処理及び特電入賞装置32及び普電役物34aの閉鎖

40

50

状態が継続されている時間を計測する処理が含まれていない構成とすることにより、主側 R A M 8 4 の記憶エリアを利用することなく主側 M P U 8 2 の各種レジスタを利用してポート出力確認処理を実行することを可能とすることができるとともに、ポート出力確認処理の処理構成を簡素化することができる。

【3534】

ポート出力確認処理に、タイマカウンタを利用して特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開放状態が継続されている時間を計測する処理及び特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の閉鎖状態が継続されている時間を計測する処理が含まれていない構成とすることにより、ポート出力確認処理の実行中にタイマ割込み処理による割込みの発生を不要とすることができる。タイマ割込み処理には、ポート出力確認処理が実行される出力確認期間において特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a の開閉動作を実行するための処理が設定されていない。これにより、タイマ割込み処理の処理構成を簡素化することができる。

【3535】

第 2 出力設定データにおける第 0 ～第 7 ビットが「0」であり、第 1 出力設定データにおける第 0 ～第 7 ビットのうち少なくとも 1 つのビットの値が「1」であり、A レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データ又は第 2 出力設定データがセットされている状態において第 4 出力確認処理が実行される構成において、行番号「1313」にて A レジスタ 5 9 1 b の各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果が A レジスタ 5 9 1 b に格納され、行番号「1314」にて A レジスタ 5 9 1 b に格納されている数値情報と第 1 出力設定データとの論理積を算出する演算が実行される構成とすることにより、第 4 出力確認処理が実行される度に A レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データがセットされている状態と A レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。これにより、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を開放状態から閉鎖状態に切り換えるための処理と、特電入賞装置 3 2 及び普電役物 3 4 a を閉鎖状態から開放状態に切り換えるための処理との処理構成を簡素化することができる。

【3536】

<第 40 の実施形態の別形態>

(1) 上記第 40 の実施形態では出力用レジスタ 5 9 4 の第 0 ～第 7 ビット 5 9 4 a ～5 9 4 h のうち第 5 ビット 5 9 4 f 及び第 6 ビット 5 9 4 g のみが使用されるエリアである構成としたが、これに限定されることはなく、第 0 ～第 4 ビット 5 9 4 a ～5 9 4 e 及び第 7 ビット 5 9 4 h の一部が使用される構成としてもよい。具体的には、遊技盤 2 4 には出力確認期間においてのみ点灯状態となる出力確認表示装置が設けられている。遊技ホールの管理者は出力確認表示装置が点灯状態となっていることを確認することにより出力確認期間であることを把握することができる。出力用レジスタ 5 9 4 の第 7 ビット 5 9 4 h には、出力確認表示装置を点灯状態とするための「1」というデータ又は出力確認表示装置を消灯状態とするための「0」というデータがセットされる。ポート設定回路 5 9 5 は、出力用レジスタ 5 9 4 の第 7 ビット 5 9 4 h に「1」がセットされている場合、出力確認表示装置への点灯信号の出力を行うことにより出力確認表示装置を点灯状態とするとともに、第 7 ビット 5 9 4 h の値が「0」である場合、出力確認表示装置への点灯信号の出力を停止することにより出力確認表示装置が消灯状態となるようにする。主側 M P U 8 2 は、出力確認期間において、A レジスタ 5 9 1 b にセットされている第 1 出力設定データ又は第 2 出力設定データを出力用レジスタ 5 9 4 にセットする処理を実行した後、当該出力用レジスタ 5 9 4 における第 7 ビット 5 9 4 h に「1」をセットする処理を実行する。これにより、出力確認期間では、A レジスタ 5 9 1 b に第 1 出力設定データが格納されている期間及び A レジスタ 5 9 1 b に第 2 出力設定データが格納されている期間のいずれにおいても出力確認表示装置への点灯信号の出力が行われて出力確認表示装置の点灯状態が維持されるようにすることができる。

【3537】

(2) 上記第 40 の実施形態において、出力用レジスタ 5 9 4 における第 0 ～第 4 ビッ

ト594a～594e及び第7ビット594hを使用して入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33及び第2作動口34）に入球した遊技球の検知が発生したことを報知する入球報知が実行される構成としてもよい。主側MPU82にはHレジスタ及びLレジスタが設けられている。これらHレジスタ及びLレジスタのそれぞれは、第0～第7ビットを有している。出力確認期間の開始時において、Hレジスタ及びLレジスタの各ビットは「0」クリアされる。出力確認期間において、Hレジスタの第0ビット、Lレジスタの第0ビット及び出力用レジスタ594の第0ビット594aは第1入賞口検知センサ231aに対応しており、Hレジスタの第1ビット、Lレジスタの第1ビット及び出力用レジスタ594の第1ビット594bは第2入賞口検知センサ232aに対応しており、Hレジスタの第2ビット、Lレジスタの第2ビット及び出力用レジスタ594の第2ビット594cは第3入賞口検知センサ233aに対応しており、Hレジスタの第3ビット、Lレジスタの第3ビット及び出力用レジスタ594の第3ビット594dは特電検知センサ234aに対応しており、Hレジスタの第4ビット、Lレジスタの第4ビット及び出力用レジスタ594の第4ビット594eは第1作動口検知センサ235aに対応しており、Hレジスタの第7ビット、Lレジスタの第7ビット及び出力用レジスタ594の第7ビット594hは第2作動口検知センサ236aに対応している。

【3538】

遊技盤24には、出力確認期間において、第1入賞口検知センサ231aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する第1一般入球表示装置、第2入賞口検知センサ232aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する第2一般入球表示装置、第3入賞口検知センサ233aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する第3一般入球表示装置、特電検知センサ234aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する特電入球表示装置、第1作動口検知センサ235aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する第1作動入球表示装置及び第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が発生したことを報知する第2作動入球表示装置が設けられている。これらの入球表示装置は、出力確認期間の開始時に消灯状態となっており、出力確認期間においていずれかの検知センサ231a～236aにおける遊技球の検知が発生した場合には、当該検知センサに対応する入球表示装置が点灯状態となる。これらの入球表示装置は、出力確認期間の終了時に消灯される。遊技ホールの管理者は、出力確認期間において遊技球を手入れした入球部に対応する入球表示装置が点灯状態となるか否かを確認することにより、当該入球部に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを特定することができる。ポート設定回路595は、出力用レジスタ594の第0～第4ビット594a～594e及び第7ビット594hのうち「1」がセットされているビットに対応する入球表示装置への点灯信号の出力を行うことにより当該入球表示装置を点灯状態とするとともに、当該第0～第4ビット594a～594e及び第7ビット594hのうち値が「0」であるビットに対応する入球表示装置への点灯信号の出力が行われなくようにすることにより当該入球表示装置を消灯状態とする。

【3539】

本構成では、ポート出力確認処理において、検知センサ231a～236aにおける遊技球の検知が発生したことに伴うデータ設定を行うための入球対応処理が実行される。入球対応処理では、主側MPU82に入力されている検知センサ231a～236aのLOWの検知信号に対応する「0」のデータ又はHIの検知信号に対応する「1」のデータをHレジスタにおいて対応する第0～第4ビット及び第7ビットにセットする。また、入球対応処理では、Hレジスタの第0～第4ビット及び第7ビットに設定されているデータと、主側MPU82に入力されている検知信号とに基づいて、各検知センサ231a～236aにおいて遊技球の検知が発生したか否かを判定する。そして、Lレジスタの第0～第4ビット及び第7ビットのうち遊技球の検知が発生した検知センサに対応するビットに「1」をセットする。

【3540】

本構成では、Aレジスタ591bにセットされている第1出力設定データ又は第2出力

設定データを出力用レジスタ594にセットする処理が実行された後、出力用レジスタ594に格納されている数値情報に対してレジスタに格納されている数値情報を加算する入球情報設定処理が実行される。これにより、出力確認期間において、出力用レジスタ594の第0～第4ビット594a～594e及び第7ビット594hのうち遊技球の検知が発生した検知センサ231a～236aに対応するビットに「1」がセットされている状態とすることができるとともに、遊技球の検知が発生していない検知センサ231a～236aに対応するビットの値が「0」である状態とすることができ。

【3541】

ポート出力確認処理では、Aレジスタ591bにセットされている第1出力設定データ又は第2出力設定データを出力用レジスタ594にセットする処理及び入球情報設定処理が所定の回数（例えば3000回）に亘って繰り返し実行される度に入球対応処理が実行される。これにより、タイマ割込み処理による割込みが禁止されている状態においても主側RAM84の記憶エリアを利用することなく、所定の周期（例えば約4ミリ秒の周期）で入球対応処理が実行されるようにすることができる。

【3542】

(3) 上記第40の実施形態では特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに駆動信号を出力させるためのデータが出力用レジスタ594の第5ビット594f及び第6ビット594gにセットされる構成としたが、これに限定されることはなく、例えばこれらの駆動部32b、34bに駆動信号を出力させるためのデータが出力用レジスタ594の第0ビット594a及び第1ビット594bにセットされる構成としてもよい。当該構成において、Aレジスタ591bにセットされる第1出力設定データは「00000011B」（「03H」）であるとともに、第2出力設定データは「00000000B」（「00H」）である。ポート出力確認処理（図313（a））の行番号「1314」では、「AND A, 03H」という命令が実行される。Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに「11111100B」という数値情報がセットされている状態となり、当該状態において行番号「1314」にて「AND A, 03H」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに第2出力設定データ（「00000000B」）がセットされている状態となる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに「11111111B」という数値情報がセットされている状態となり、当該状態において行番号「1314」にて「AND A, 03H」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに第1出力設定データ（「00000011B」）がセットされている状態となる。このように、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに駆動信号を出力させるためのデータが出力用レジスタ594の第0ビット594a及び第1ビット594bにセットされる構成とした場合においても、第4出力確認処理（行番号「1313」～「1314」）が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。

【3543】

また、例えば、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに駆動信号を出力させるためのデータが出力用レジスタ594の第2ビット594c及び第3ビット594dにセットされる構成としてもよい。当該構成において、Aレジスタ591bにセットされる第1出力設定データは「00001100B」（「0CH」）であるとともに、第2出力設定データは「00000000B」（「00H」）である。ポート出力確認処理（図313（a））の行番号「1314」では、「AND A, 0CH」という命令が実行される。Aレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態で行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに「11110011B」という数値情報がセットされている状態となり、当該状態にお

10

20

30

40

50

いて行番号「1314」にて「AND A, 0CH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに第2出力設定データ（「00000000B」）がセットされている状態となる。また、Aレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態で行番号「1313」にて「XOR A, 0FFH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに「11111111B」という数値情報がセットされている状態となり、当該状態において行番号「1314」にて「AND A, 0CH」という命令が実行された場合にはAレジスタ591bに第1出力設定データ（「00001100B」）がセットされている状態となる。このように、特電用の駆動部32b及び普電用の駆動部34bに駆動信号を出力させるためのデータが出力用レジスタ594の第2ビット594c及び第3ビット594dにセットされる構成とした場合においても、第4出力確認処理（行番号「1313」～「1314」）が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。

【3544】

上記のとおり、第2出力設定データにおける第0～第7ビットが「0」であり、第1出力設定データにおける第0～第7ビットのうち少なくとも1つのビットの値が「1」であり、Aレジスタ591bに第1出力設定データ又は第2出力設定データがセットされている状態において第4出力確認処理が実行される構成において、行番号「1313」にてAレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果がAレジスタ591bに格納され、行番号「1314」にてAレジスタ591bに格納されている数値情報と第1出力設定データとの論理積を算出する演算が実行される構成とすることにより、第4出力確認処理が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。

【3545】

（4）上記第40の実施形態では、第1出力設定データ及び第2出力設定データのビット数が「8」である構成としたが、これに限定されることはなく、これらの出力設定データのビット数が「7」以下である構成としてもよく、これらの出力設定データのビット数が「9」以上である構成としてもよい。具体的には、第1出力設定データ及び第2出力設定データのビット数が「2」～「7」及び「9」以上のいずれかの整数であり、第1出力設定データは1つ以上のビットの値が「1」である数値情報であり、第2出力設定データは全てのビットの値が「0」である数値情報であり、Aレジスタ591bは第1出力設定データ又は第2出力設定データをセット可能なビット数であり、Aレジスタ591bに第1出力設定データ又は第2出力設定データがセットされている状態において第4出力確認処理が実行される構成において、行番号「1313」にてAレジスタ591bの各ビットに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果がAレジスタ591bに格納され、行番号「1314」にてAレジスタ591bに格納されている数値情報と第1出力設定データとの論理積を算出する演算が実行される構成とすることにより、第4出力確認処理が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセットされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。

【3546】

第1出力設定データ及び第2出力設定データのビット数が「1」であるとともに、Aレジスタ591bのビット数が「1」である構成において、第4出力確認処理では、行番号「1313」の処理のみが実行されて行番号「1314」の処理は実行されない。行番号「1313」にてAレジスタ591bに格納されている「0」又は「1」のデータを「0」と「1」との間で反転させる演算が実行されて当該演算結果がAレジスタ591bに格納される。これにより、第4出力確認処理が実行される度にAレジスタ591bに第1出力設定データがセットされている状態とAレジスタ591bに第2出力設定データがセッ

トされている状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。

【3547】

＜他の実施形態＞

なお、上述した実施形態の記載内容に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能である。例えば以下のように変更してもよい。ちなみに、以下の別形態の構成を、上記各実施形態の構成に対して、個別に適用してもよく、組合せて適用してもよい。

【3548】

(1) 上記各実施形態において特定確定中処理にて時短結果用の設定処理が実行された後に天井カウンタ131の減算処理が実行される構成に限定されることはなく、天井カウンタ131の減算処理が実行された後に時短結果用の設定処理が実行される構成としてもよい。この場合、時短状態の設定が可能な遊技回において当否判定処理にて時短結果が選択されるとともに1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となる天井時短が発生した場合、天井時短を契機とした時短状態の設定が時短結果を契機とした時短状態の設定よりも優先されることとなる。したがって、天井時短を契機とした時短状態において設定される時短継続回数は、時短結果を契機とした時短状態において設定される時短継続回数以上の回数又は時短結果を契機とした時短状態において設定される時短継続回数よりも多い回数であることが好ましい。

【3549】

(2) 上記各実施形態において時短結果として第1時短結果及び第2時短結果が設定されている構成としたが、第1時短結果及び第2時短結果のうち一方のみが設定されている構成としてもよい。また、3種類以上の時短結果が設定されている構成としてもよい。この場合、時短結果を契機とした時短状態において設定される時短継続回数は上記各実施形態と同様にいずれの種類の時短結果であったとしても天井時短を契機とした時短状態において設定される時短継続回数以上である構成としてもよく、少なくとも一部の時短結果については時短継続回数が天井時短を契機とした時短状態において設定される時短継続回数よりも少ない回数である構成としてもよい。

【3550】

(3) 上記各実施形態において時短結果を契機とした時短状態において設定される時短継続回数は、天井時短を契機とした時短状態において設定される時短継続回数以下である構成としてもよく、天井時短を契機とした時短状態において設定される時短継続回数よりも少ない回数である構成としてもよい。

【3551】

(4) 上記各実施形態において時短結果を契機とした時短状態では第2高頻度サポートモードとなるのではなく第1高頻度サポートモードとなる構成としてもよい。この場合、大当たり結果又は時短結果を契機とした時短状態では第1高頻度サポートモードとなり、天井時短を契機とした時短状態では第2高頻度サポートモードとなる。

【3552】

(5) 上記各実施形態において天井時短を契機とした時短状態では第2高頻度サポートモードとなるのではなく第1高頻度サポートモードとなる構成としてもよい。この場合、大当たり結果又は天井時短を契機とした時短状態では第1高頻度サポートモードとなり、時短結果を契機とした時短状態では第2高頻度サポートモードとなる。

【3553】

(6) 上記各実施形態において第1時短結果及び第2時短結果のうち一方を契機とした時短状態では第1高頻度サポートモードとなり、他方を契機とした時短状態では第2高頻度サポートモードとなる構成としてもよい。これにより、時短結果の種類に応じた高頻度サポートモードが設定されるようにすることが可能となる。

【3554】

(7) 上記各実施形態において第1高頻度サポートモードと第2高頻度サポートモードとでは普図当否判定において電役開放当選となる確率が相違し、それ以外の普図・普電の

10

20

30

40

50

実行態様が同一である構成としたが、当該確率に加えて又は代えて、他の実行態様が異なる構成としてもよい。例えば、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのうち一方が他方よりも普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間が長い構成としてもよく、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのうち一方が他方よりも普図表示部38aにおける変動表示回の継続期間の平均期間が長い構成としてもよく、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのうち一方が他方よりも普電開放状態において第2作動口34又は特別入賞装置151が開放状態となる回数が多い構成としてもよく、第1高頻度サポートモード及び第2高頻度サポートモードのうち一方が他方よりも普電開放状態において第2作動口34又は特別入賞装置151が開放状態となる合計の期間が長い構成としてもよい。この場合、いずれの実行態様であっても第1高頻度サポートモードの方が第2高頻度サポートモードよりも有利となる構成としてもよく、いずれの実行態様であっても第2高頻度サポートモードの方が第1高頻度サポートモードよりも有利となる構成としてもよく、一部の実行態様については第1高頻度サポートモードの方が第2高頻度サポートモードよりも有利であり残りの実行態様については第2高頻度サポートモードの方が第1高頻度サポートモードよりも有利である構成としてもよい。

【3555】

また、いずれのサポートモードであっても普図当否判定において電役開放当選となる確率が同一又は略同一である構成としてもよい。

【3556】

(8) 上記各実施形態では時短結果が発生した場合及び天井時短が発生した場合のいずれであっても第2高頻度サポートモードの時短状態が発生する構成としたが、これに限定されることはなく、例えば時短結果が発生した場合には第1高頻度サポートモードの時短状態が発生するのに対して天井時短が発生した場合には第2高頻度サポートモードの時短状態が発生する構成としてもよく、時短結果が発生した場合には第2高頻度サポートモードの時短状態が発生するのに対して天井時短が発生した場合には第1高頻度サポートモードの時短状態が発生する構成としてもよく、時短結果が発生した場合には第1高頻度サポートモードの時短状態が発生するのに対して天井時短が発生した場合には高確率状態が発生する構成としてもよく、時短結果が発生した場合には第2高頻度サポートモードの時短状態が発生するのに対して天井時短が発生した場合には高確率状態が発生する構成としてもよい。

【3557】

(9) 上記各実施形態では当否判定処理にて時短結果となり時短状態が発生する場合には図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果によって時短状態が発生することが報知される構成としたが、これに限定されることはなく、遊技回の変動表示期間の途中で図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3では時短結果に対応する停止結果が停止表示され、その後当該遊技回の終了タイミングまで、時短結果を契機とした時短状態が開始されることを遊技者に認識可能とさせるための報知が実行される構成としてもよい。但し、当該構成の場合、遊技回用の演出を決定する段階で時短結果を契機とした時短状態が発生するか否かを特定する必要があるため、時短結果用の設定処理は遊技回の開始時に実行されるようにする必要がある。

【3558】

(10) 上記各実施形態では天井時短を契機とした時短状態が発生する場合、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3の停止結果によっては当該時短状態が発生することの報知が実行されない構成としたが、これに限定されることはなく、遊技回の変動表示期間の途中で図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3では天井時短に対応する停止結果が停止表示され、その後当該遊技回の終了タイミングまで、天井時短を契機とした時短状態が開始されることを遊技者に認識可能とさせるための報知が実行される構成としてもよい。但し、当該構成の場合、遊技回用の演出を決定する段階で天井時短を契機とした時短状態が発生するか否かを特定する必要があるため、天井カウンタ131の減算処理は遊技回の開始時に実行されるようにする必要がある。

【3559】

(11) 上記各実施形態では当否判定処理にて時短結果となり当該当否判定処理が実行された遊技回が終了した場合、当該時短結果を契機とした時短状態における新たな遊技回の開始が即座に許容される構成としたが、これに限定されることはなく、時短結果を契機として時短状態が発生する場合には当該時短結果となった遊技回が終了した場合には所定期間（例えば5秒）に亘って新たな遊技回の開始が阻止される構成としてもよい。この場合、当該所定期間を利用して、時短結果を契機とした時短状態が開始されることを遊技者に認識可能とさせるための報知を実行することが可能となる。

【3560】

(12) 上記各実施形態では天井時短が発生する遊技回が終了した場合、当該天井時短を契機とした時短状態における新たな遊技回の開始が即座に許容される構成としたが、これに限定されることはなく、天井時短を契機として時短状態が発生する場合には当該天井時短となった遊技回が終了した場合には所定期間（例えば5秒）に亘って新たな遊技回の開始が阻止される構成としてもよい。この場合、当該所定期間を利用して、天井時短を契機とした時短状態が開始されることを遊技者に認識可能とさせるための報知を実行することが可能となる。

10

【3561】

(13) 上記各実施形態では遊技回が終了する場合に時短状態カウンタ134の減算処理、変動選択状態カウンタ132の減算処理、時短結果用の設定処理及び天井カウンタ131の減算処理を実行する構成としたが、これらの処理を、当否判定処理を実行した後であって変動表示期間の特定処理を実行する前に実行する構成としてもよい。この場合、変動表示期間の特定処理を実行する前に天井時短が発生するか否かを特定することが可能となるため、特図表示部37a、37bの停止結果として天井時短の発生に対応する停止結果が選択される構成としてもよく、図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3における停止結果として天井時短の発生に対応する停止結果が選択される構成としてもよい。

20

【3562】

(14) 上記各実施形態では時短状態カウンタ134の減算処理及び時短結果用の設定処理の両方を遊技回の終了時に実行する構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態カウンタ134の減算処理については遊技回の開始時に実行し、時短結果用の設定処理は遊技回の終了時に実行する構成としてもよい。

30

【3563】

(15) 上記各実施形態では時短状態カウンタ134の減算処理及び天井カウンタ131の減算処理の両方を遊技回の終了時に実行する構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態カウンタ134の減算処理については遊技回の開始時に実行し、天井カウンタ131の減算処理は遊技回の終了時に実行する構成としてもよい。

【3564】

(16) 上記各実施形態では時短状態は所定の時短継続回数の遊技回が消化された場合に終了する構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態において実行された終了抽選処理にて終了抽選結果となった場合に当該時短状態が終了する構成としてもよい。この場合、当該終了抽選処理を実行して終了抽選結果となった場合には時短状態を終了させる処理が、時短結果用の設定処理及び天井カウンタ131の減算処理よりも前に実行される構成としてもよい。これにより、時短状態が終了した遊技回において時短結果又は天井時短を契機とした新たな時短状態が開始され得るようにすることが可能となる。

40

【3565】

(17) 上記第1の実施形態などでは時短結果用の設定処理及び高確率状態カウンタ133の減算処理の両方を遊技回の終了時に実行する構成としたが、これに限定されることはなく、時短結果用の設定処理については遊技回の開始時に実行し、高確率状態カウンタ133の減算処理は遊技回の終了時に実行する構成としてもよい。

【3566】

(18) 上記第1の実施形態などでは天井カウンタ131の減算処理及び高確率状態カ

50

ウンタ 1 3 3 の減算処理の両方を遊技回の終了時に実行する構成としたが、これに限定されることはなく、天井カウンタ 1 3 1 の減算処理については遊技回の開始時に実行し、高確率状態カウンタ 1 3 3 の減算処理は遊技回の終了時に実行する構成としてもよい。

【3 5 6 7】

(19) 上記各実施形態では高確率状態においては遊技回が実行されたとしても天井カウンタ 1 3 1 の値が減算されない構成としたが、これに限定されることはなく、高確率状態であっても遊技回が実行された場合には天井カウンタ 1 3 1 の値が減算される構成としてもよい。この場合、高確率状態において 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となることが起こり得るが、この場合には天井時短の発生を無効として高確率状態を継続させることが好ましい。

10

【3 5 6 8】

(20) 上記第 1 の実施形態などでは時短状態であっても遊技回が実行された場合には天井カウンタ 1 3 1 の値が減算される構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態においては遊技回が実行されたとしても天井カウンタ 1 3 1 の値が減算されない構成としてもよい。

【3 5 6 9】

(21) 上記各実施形態では所定の契機が発生した場合に天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 に固定天井回数などの数値がセットされるとともに遊技回が実行された場合に天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 の値が 1 減算され、その 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 の値が「0」となった場合に時短状態が発生する構成としたが、これに限定されることはなく、所定の契機が発生した場合に天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 が「0」クリアされるとともに遊技回が実行された場合に天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 の値が 1 加算され、その 1 加算後における天井カウンタ 1 3 1 , 3 2 5 の値が固定天井回数などの発生契機に対応する値となった場合に時短状態が発生する構成としてもよい。

20

【3 5 7 0】

(22) 上記各実施形態では当たり乱数カウンタ C 1 を利用した当否判定処理にて時短結果を発生させるか否かを決定する構成としたが、これに限定されることはなく、当たり乱数カウンタ C 1 とは別の乱数カウンタを利用した別の判定処理にて時短結果を発生させるか否かを決定する構成としてもよい。この場合、上記第 3 の実施形態においては転落乱数カウンタ C 5 を利用した転落判定処理にて時短結果を発生させるか否かを決定する構成

30

【3 5 7 1】

(23) 上記各実施形態では種別乱数カウンタ C 2 を利用して時短結果の種類を決定する構成としたが、これに限定されることはなく、種別乱数カウンタ C 2 とは異なる乱数カウンタを利用して時短結果の種類を決定する構成としてもよい。また、当たり乱数カウンタ C 1 を利用した当否判定処理にて時短結果を発生させるか否かを決定するのではなく、当たり乱数カウンタ C 1 を利用した当否判定処理にて大当たり結果、第 1 時短結果、第 2 時短結果及び外れ結果のいずれを発生させるのかを決定する構成としてもよい。

【3 5 7 2】

(24) 上記第 1 の実施形態では主側 R A M 8 4 の情報異常が発生した場合には天井カウンタ 1 3 1 に開閉実行モードが発生した場合と同じ固定天井回数に対応する情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、開閉実行モードが発生した場合における固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。また、上記第 4 の実施形態では主側 R A M 8 4 の情報異常が発生した場合において設定値更新処理が実行された場合には天井カウンタ 1 3 1 に開閉実行モードが発生した場合と同じ固定天井回数に対応する情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、開閉実行モードが発生した場合における固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。

40

【3 5 7 3】

(25) 上記各実施形態では 1 減算後における天井カウンタ 1 3 1 の値が「0」となっ

50

た場合に天井時短を契機とした時短状態が発生する構成において情報異常が発生した場合に天井カウンタ131に天井回数の情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合に高確率状態が発生する構成において情報異常が発生した場合に天井カウンタ131に天井回数の情報をセットする構成としてもよく、1減算後における天井カウンタ131の値が「0」となった場合に開閉実行モードが発生する構成において情報異常が発生した場合に天井カウンタ131に天井回数の情報をセットする構成としてもよい。

【3574】

(26) 上記第1の実施形態などでは設定値更新処理が実行される場合には天井カウンタ131に天井回数の情報をセットしない構成としたが、設定値更新処理が実行される場合には天井カウンタ131に天井回数の情報をセットする構成としてもよい。これにより、設定値の変更に際して天井カウンタ131に天井回数の情報がセットされるようにすることが可能となる。

10

【3575】

(27) 上記各実施形態ではRAMクリア処理が実行される場合には天井カウンタ131, 325に天井回数の情報をセットしない構成としたが、RAMクリア処理が実行される場合には天井カウンタ131, 325に天井回数の情報をセットする構成としてもよい。これにより、主側RAM84のクリアに際して天井カウンタ131, 325に天井回数の情報がセットされるようにすることが可能となる。

【3576】

20

(28) 上記各実施形態では設定変更操作、設定確認操作及びRAMクリア操作が行われていない状況であって遊技機本体12が開放状態とされた状況で動作電力の供給が開始された場合に天井カウンタ131, 325に固定天井回数に対応する情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、当該状況においては固定天井回数よりも多い回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、当該状況においては固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。また、設定変更操作、設定確認操作及びRAMクリア操作が行われていない状況であって前扉枠14が開放状態とされた状況で動作電力の供給が開始された場合に天井カウンタ131, 325に固定天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、固定天井回数よりも多い回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。また、専用の操作ボタンが操作されている状況で動作電力の供給が開始された場合に天井カウンタ131, 325に固定天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、固定天井回数よりも多い回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。

30

【3577】

(29) 上記第1の実施形態などでは開閉実行モードが開始される場合には特図確定中処理にて天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、オープニング期間の途中のタイミングで天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、開閉実行モードにおける最初のラウンド遊技が開始される直前のタイミングで天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。これらの場合であっても開閉実行モードが開始される場合に天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットすることが可能となる。

40

【3578】

(30) 上記第6の実施形態では特電終了処理にてエンディング期間が経過したことを確認した場合に天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としたが、これに限定されることはなく、開閉実行モードにおける最後のラウンド遊技が終了したタイミングで天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、エンディング期間が開始される直前のタイミングで天井カウンタ131に天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよく、エンディング期間の途中のタイミングで天

50

井カウンタ１３１に天井回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。

【３５７９】

（３１）上記第６の実施形態では停電監視処理において低頻度大当たり結果又は第１小当たり結果を契機とした開閉実行モード中であることを特定した場合には、固定天井回数よりも多い回数である特別天井回数に対応する情報を天井カウンタ１３１にセットする構成としたが、これに限定されることはなく、上記状況においては固定天井回数に対応する情報を天井カウンタ１３１にセットする構成としてもよく、上記状況においては固定天井回数よりも少ない回数に対応する情報を天井カウンタ１３１にセットする構成としてもよい。また、停電監視処理では開閉実行モード中であればその契機が低頻度大当たり結果又は第１小当たり結果ではなかったとしても、天井回数に対応する情報を天井カウンタ１３１にセットする構成としてもよい。

10

【３５８０】

（３２）上記第１の実施形態などでは１減算後における変動選択状態カウンタ１３２の値が「０」となった場合、リーチ高頻度状態となりリーチ表示が発生し易くなる構成としたが、これに限定されることはなく、１減算後における変動選択状態カウンタ１３２の値が「０」となった場合には、天井時短が近づいていることを示す演出が行われる状態となる構成としてもよい。この状態における遊技回の変動表示期間はリーチ表示が発生する場合及び完全外れ結果となる場合とは異なる変動表示期間が選択されるようにすることにより、当該変動表示期間の情報から音光側ＭＰＵ９３は天井時短が近づいていることを示す演出を実行すべき状態であることを特定することが可能となる。

20

【３５８１】

（３３）上記第１の実施形態などでは開閉実行モードを契機として天井カウンタ１３１に天井回数の情報をセットする場合に変動選択状態カウンタ１３２に期間切換基準回数に対応する情報をセットするものの、動作電力の供給が開始される場合におけるメイン処理にて天井カウンタ１３１に天井回数の情報をセットする場合には変動選択状態カウンタ１３２に期間切換基準回数に対応する情報をセットしない構成としたが、これに限定されることはなく、動作電力の供給が開始される場合におけるメイン処理にて天井カウンタ１３１に天井回数の情報をセットする場合には変動選択状態カウンタ１３２に期間切換基準回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。つまり、天井カウンタ１３１に天井回数の情報をセットする場合には常に変動選択状態カウンタ１３２に期間切換基準回数に対応する情報をセットする構成としてもよい。この場合、天井カウンタ１３１にセットされる天井回数が複数種類存在している場合には当該天井回数に対して所定回数少ない回数に対応する情報を変動選択状態カウンタ１３２にセットする構成とすることで、いずれの天井回数がセットされた場合であったとしても天井時短が発生する所定回数前の遊技回においてリーチ高頻度状態となるようにすることが可能となる。

30

【３５８２】

（３４）上記第１の実施形態などでは１減算後における変動選択状態カウンタ１３２の値が「０」となった場合であっても時短状態である場合にはリーチ高頻度状態とならない構成としたが、時短状態であってもリーチ高頻度状態となる構成としてもよい。時短状態においてリーチ高頻度状態となった場合、外れ結果となる遊技回にてリーチ表示が発生する確率が高くなるとともに大当たり結果又は外れリーチ表示が発生する遊技回において長い期間の変動表示期間が選択される確率が高くなるものの、リーチ表示が発生しない外れ結果の遊技回では特図側の最短期間が選択されることとなる。

40

【３５８３】

（３５）上記第７の実施形態では主側ＲＡＭ８４の遊技回数カウンタの値が基準回数となった場合にはいずれの遊技状態であっても大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、高確率状態においては基準回数となったとしても当該制御が行われない構成としてもよく、時短状態においては基準回数となったとしても当該制御が行われない構成としてもよい。

【３５８４】

50

(36) 上記第7の実施形態では主側RAM84の遊技回数カウンタの値が基準回数となった場合にはその遊技回においてのみ大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、基準回数となった遊技回から特定回数(例えば3回)の遊技回に亘って大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としてもよい。

【3585】

(37) 上記第7の実施形態では開閉実行モードが終了した後に実行された遊技回の回数が基準回数となる度に大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、開閉実行モード又は時短状態が終了した後に実行された遊技回の回数が基準回数となる度に大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としてもよく、時短状態が終了した後に実行された遊技回の回数が基準回数となる度に大当たり結果が発生しない遊技回にてリーチ表示が発生しない制御が実行される構成としてもよい。

【3586】

(38) 上記第8の実施形態では時短結果を契機とした時短状態及び天井時短を契機とした時短状態のいずれが終了した場合であっても変動選択状態カウンタ132に所定切換基準回数に対応する情報をセットし、1減算後における変動選択状態カウンタ132の値が「0」となった場合にリーチ高頻度状態とする構成としたが、これに限定されることはなく、変動選択状態カウンタ132に所定切換基準回数に対応する情報をセットする処理が、時短結果を契機とした時短状態が終了する場合には実行されるが天井時短を契機とした時短状態が終了する場合には実行されない構成としてもよく、天井時短を契機とした時短状態が終了する場合には実行されるが時短結果を契機とした時短状態が終了する場合には実行されない構成としてもよい。

【3587】

(39) 上記第9の実施形態では時短状態において時短結果又は天井時短が発生した場合には、現状の時短状態における残りの継続回数及び新たな時短状態に対応する時短継続回数のうち多い側の回数がその後の時短状態における残りの継続回数となる構成としたが、これに限定されることはなく、現状の時短状態における残りの継続回数及び新たな時短状態に対応する時短継続回数のうち少ない側の回数がその後の時短状態における残りの継続回数となる構成としてもよく、現状の時短状態における残りの継続回数に関係なく新たな時短状態に対応する時短継続回数がその後の時短状態における残りの継続回数となる構成としてもよく、現状の時短状態における残りの継続回数に新たな時短状態に対応する時短継続回数が加算された結果の回数その後の時短状態における残りの継続回数となる構成としてもよい。

【3588】

(40) 上記第9の実施形態では第1高頻度サポートモードである時短状態において時短結果又は天井時短が発生した場合、時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数又は第2時短継続回数に設定され得るものの第1高頻度サポートモードである時短状態が継続する構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態の残りの継続回数が第1時短継続回数又は第2時短継続回数に設定され得るとともに第2高頻度サポートモードである時短状態となる構成としてもよい。

【3589】

(41) 上記各実施形態では高確率状態などにおいて当否判定処理にて時短結果が選択されて当該時短結果が無効とされる場合には図柄表示装置41の図柄列Z1～Z3では非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される構成としたが、これに限定されることはなく、外れリーチ図柄の組合せが停止表示される構成としてもよい。この場合であっても、時短結果が無効とされたことを図柄列Z1～Z3における停止結果からは遊技者が認識しづらくなる。

【3590】

(42) 上記各実施形態では高確率状態などにおいて当否判定処理にて時短結果が選択

されて当該時短結果が無効とされる場合には図柄表示装置 4 1 の図柄列 Z 1 ~ Z 3 では非リーチ外れ図柄の組合せが停止表示される構成としたが、これに限定されることはなく、時短結果が無効とされる場合であっても時短結果が無効とされない場合と同様に図柄列 Z 1 ~ Z 3 の停止結果として第 1 時短発生図柄の組合せ又は第 2 時短発生図柄の組合せが停止表示される構成としてもよい。

【3591】

(43) 上記各実施形態では高確率状態などにおいて当否判定処理にて時短結果が選択されて当該時短結果が無効とされる場合、第 1 時短結果である場合と第 2 時短結果である場合とで図柄表示装置 4 1 の状態示唆領域 4 3 の表示内容が異なる構成としたが、これに限定されることはなく、時短結果が無効とされる場合には第 1 時短結果である場合及び第 2 時短結果である場合のいずれであっても状態示唆領域 4 3 の表示内容が同一である構成としてもよい。

10

【3592】

(44) 上記第 10 ~ 第 12 の実施形態では 1 減算後における時短状態カウンタ 134 の値が「0」となる契機となった遊技回が終了するまでは当該遊技回の開始契機となった保留情報とは異なる側の保留情報を契機とした遊技回が終了したとしても時短状態が終了しない構成としたが、これに限定されることはなく、時短状態において 1 減算後における時短状態カウンタ 134 の値が「0」となる契機となった所定の遊技回が開始される前に開始された特定の遊技回が継続している場合には所定の遊技回が終了したとしても特定の遊技回が終了するまでは時短状態が継続される構成としてもよい。所定の遊技回が第 2 保留情報を契機とした遊技回であり、特定の遊技回が第 1 保留情報を契機とした遊技回である場合、第 10 の実施形態又は第 12 の実施形態において第 1 保留情報を契機とした遊技回の変動表示期間として特図側の長期間が選択された場合には、第 2 保留情報を契機とした上記所定の遊技回が終了した後であっても上記特定の遊技回が終了するまでに第 2 保留情報を契機とした遊技回を繰り返し消化することが可能となる。

20

【3593】

(45) 第 10 ~ 第 12 の実施形態では時短状態における第 2 保留情報を契機とした遊技回にて短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が決定される場合、当該遊技回の当否判定処理の結果が時短結果であったとしても、リーチ表示が発生しない外れ結果の遊技回と同様の態様で変動表示期間が決定される構成としたが、これに限定されることはなく、第 2 保留情報を契機とした遊技回にて短期間変動用のテーブル群を参照して遊技回の変動表示期間が決定される場合において当該遊技回の当否判定処理の結果が時短結果であった場合にはリーチ表示が発生しない外れ結果の遊技回とは異なる態様で変動表示期間が決定される構成としてもよい。これにより、時短状態において時短結果が発生する場合には遊技回の変動表示期間の決定態様をそれに対応する態様とすることが可能となる。

30

【3594】

(46) 上記第 1 ~ 第 5、第 7 ~ 第 12 の実施形態において主側 MPU 82 の当否判定処理の結果として、大当たり結果、時短結果及び外れ結果の他に小当たり結果が存在している構成としてもよい。当該小当たり結果は、開閉実行モードへの移行契機とはなるものの、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機とならない当否結果である。また、小当たり結果を契機とした開閉実行モードでは特電入賞装置 32 の開放が短期間（例えば 1 秒）で 1 回又は 2 回発生する構成であるため、当該開閉実行モードにおける特電入賞装置 32 への遊技球の入球は 1 個 ~ 3 個程度となる。当該小当たり結果を契機とした開閉実行モードが発生したとしても天井カウンタ 131 への天井回数のセット及び変動選択状態カウンタ 132 への回数のセットが行われなくようにすることが好ましい。これにより、大当たり結果を契機とした開閉実行モードを基準として天井時短及びリーチ高頻度状態を発生させることが可能となる。

40

【3595】

(47) 上記各実施形態において時短結果となった場合における図柄表示装置 4 1 の状

50

態示唆領域 43 の停止結果が当該時短結果を契機として第 2 高頻度サポートモードが設定される場合と設定されない場合とで変化する構成としたが、これに限定されることはなく、時短結果となった場合における図柄表示装置 41 の状態示唆領域 43 の停止結果が当該時短結果を契機として第 2 高頻度サポートモードが設定される場合と設定されない場合とで変化しない構成としてもよい。例えば、第 1 時短結果となった場合には当該第 1 時短結果を契機として第 2 高頻度サポートモードが設定されるか否かに関係なく状態示唆領域 43 に青色が停止表示され、第 2 時短結果となった場合には当該第 2 時短結果を契機として第 2 高頻度サポートモードが設定されるか否かに関係なく状態示唆領域 43 に緑色が停止表示される構成としてもよい。

【3596】

(48) 上記第 13 の実施形態では主側 RAM 84 の未使用のエリア（アドレス Y (r+3) ~ アドレス Y (r+5)、アドレス Y (s+3) ~ アドレス Y (s+5)、アドレス Y (t+3) ~ アドレス Y (t+5)）に対してプロテクト設定が行われる構成としたが、当該未使用のエリア（アドレス Y (r+3) ~ アドレス Y (r+5)、アドレス Y (s+3) ~ アドレス Y (s+5)、アドレス Y (t+3) ~ アドレス Y (t+5)）に対してプロテクト設定が行われない構成としてもよい。この場合であっても RAM クリア処理（図 118）では主側 RAM 84 のアドレスにおいて特定制御用のワークエリア 211 と特定制御用のスタックエリア 212 との間に存在している未使用のエリア（アドレス Y (r+3) ~ アドレス Y (r+5)）を含めてクリア処理が実行される構成とすることで、当該クリア処理の実行対象となるアドレス範囲を指定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【3597】

(49) 上記第 13 の実施形態では情報異常監視処理（図 119）においてクリア処理の対象となる記憶領域が非特定制御用のワークエリア 213 である構成としたが、これに限定されることはなく、当該クリア処理の対象となる記憶領域が非特定制御用のワークエリア 213 及び非特定制御用のスタックエリア 214 である構成としてもよい。この場合、主側 RAM 84 のアドレスにおいて非特定制御用のワークエリア 213 と非特定制御用のスタックエリア 214 との間には未使用のエリア（アドレス Y (t+3) ~ アドレス Y (t+5)）が存在しているため、クリア処理を実行する前に RAM クリア処理（図 118）のステップ S7501 と同様にプロテクト解除処理を実行してプロテクトレジスタ 223c を「0」クリアすることでプロテクトを解除した後に、当該未使用のエリア（アドレス Y (t+3) ~ アドレス Y (t+5)）を含めて非特定制御用のワークエリア 213 に含まれるアドレスから非特定制御用のスタックエリア 214 に含まれるアドレスまでの一連のアドレスを指定してクリア処理を実行し、さらに当該クリア処理の実行後に RAM クリア処理（図 118）のステップ S7506 と同様にプロテクト設定処理を実行してプロテクトレジスタ 223c に「1」を設定することでプロテクトを再度設定する構成としてもよい。これにより、情報異常監視処理（図 119）において非特定制御用のワークエリア 213 だけではなく非特定制御用のスタックエリア 214 にもクリア処理を実行する場合における処理構成を簡素化することが可能となる。

【3598】

(50) 上記第 13 の実施形態では RAM クリア処理（図 118）においてプロテクト解除処理（ステップ S7501）が実行された場合には、主側 RAM 84 のアドレスにおいて特定制御用のワークエリア 211 と特定制御用のスタックエリア 212 との間に設けられた未使用のエリア（アドレス Y (r+3) ~ アドレス Y (r+5)）、主側 RAM 84 のアドレスにおいて特定制御用のスタックエリア 212 と非特定制御用のワークエリア 213 との間に設けられた未使用のエリア（アドレス Y (s+3) ~ アドレス Y (s+5)）、及び主側 RAM 84 のアドレスにおいて非特定制御用のワークエリア 213 と非特定制御用のスタックエリア 214 との間に設けられた未使用のエリア（アドレス Y (t+3) ~ アドレス Y (t+5)）の全てについてプロテクトが解除される構成としたが、これに限定されることはなく、クリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれる未使用の

10

20

30

40

50

リア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）についてはプロテクトが解除されるが、それ以外の未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）についてはプロテクトが解除されない構成としてもよい。

【3599】

この場合、クリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれる未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）と、クリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれない未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）のそれぞれに対応させてプロテクトレジスタ223cを設け、メイン処理（図81）のプロテクト設定処理（ステップS4903）ではそれらプロテクトレジスタ223cの全てに「1」をセットすることで、全ての未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ 、アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）についてプロテクトを設定し、RAMクリア処理（図118）のプロテクト解除処理（ステップS7501）ではクリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれる未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）に対応するプロテクトレジスタ223cを「0」クリアしてプロテクトを解除する一方、クリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれない未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対応するプロテクトレジスタ223cは「0」クリアしないことでプロテクトを解除しない構成としてもよい。また、クリア処理が終了した後におけるRAMクリア処理（図118）のプロテクト設定処理（ステップS7506）では未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）に対応するプロテクトレジスタ223cに「1」をセットすることで当該未使用のエリア（アドレス $Y(r+3)$ ～アドレス $Y(r+5)$ ）に対してプロテクトを再度設定する。これにより、クリア処理の対象となるアドレス範囲に含まれない未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ 、アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）に対するプロテクトが不必要に解除されてしまわないようにすることが可能となる。

【3600】

（51）上記第13の実施形態ではRAMクリア処理（図118）において特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212に対するクリア処理は実行されるが、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214に対するクリア処理は実行されない構成としたが、これに限定されることはなく、特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212に加えて、非特定制御用のワークエリア213に対するクリア処理も実行される構成としてもよく、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214に対するクリア処理も実行される構成としてもよい。非特定制御用のワークエリア213に対するクリア処理も実行される構成においては、主側RAM84のアドレスにおいて特定制御用のスタックエリア212と非特定制御用のワークエリア213との間に設けられた未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ ）もクリア処理の実行対象となる一連のアドレス範囲に含まれることとなる。また、非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214に対するクリア処理も実行される構成においては、主側RAM84のアドレスにおいて特定制御用のスタックエリア212と非特定制御用のワークエリア213との間に設けられた未使用のエリア（アドレス $Y(s+3)$ ～アドレス $Y(s+5)$ ）、及び主側RAM84のアドレスにおいて非特定制御用のワークエリア213と非特定制御用のスタックエリア214との間に設けられた未使用のエリア（アドレス $Y(t+3)$ ～アドレス $Y(t+5)$ ）もクリア処理の実行対象となる一連のアドレス範囲に含まれることとなる。

【3601】

（52）上記第13の実施形態では設定表示装置205が設けられており設定確認用処理（図82）及び設定値更新処理（図83）では当該設定表示装置205にて設定値が表

10

20

30

40

50

示される構成としたが、これに限定されることはなく、設定表示装置 205 が設けられておらず、上記設定値の表示が図柄表示装置 41 にて行われる構成としてもよい。また、上記設定値の表示が第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて行われる構成としてもよい。

【3602】

第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて設定値が表示される構成においては、設定確認用処理（図 82）及び設定値更新処理（図 83）では、第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 において設定値の表示とベース値の表示とが所定期間（例えば 5 秒）毎に交互に表示される構成としてもよい。これにより、ベース値が表示される第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 において設定値が表示される構成であったとしても、当該第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 を確認することでベース値と設定値との両方を確認しながら、設定確認作業又は設定変更作業を行うことが可能となる。

【3603】

また、第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて設定値が表示される構成においては、設定確認用処理（図 82）又は設定値更新処理（図 83）が実行されている状況においては第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて設定値の表示が行われ、設定確認用処理（図 82）及び設定値更新処理（図 83）のうち実行対象となっていた処理が終了した場合に当該設定値の表示が終了される構成としてもよい。この場合、設定確認用処理（図 82）及び設定値更新処理（図 83）が開始される前にベース値の表示が開始される構成においては、設定値の表示が終了した場合には設定値の表示が開始される直前に第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて表示対象となっていた種類のベース値の表示が第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて再開される構成としてもよい。また、この再開に際しては、その再開される種類のベース値の表示が前回中止されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく、表示継続期間に亘って行われる構成としてもよい。

【3604】

また、設定確認用処理（図 82）及び設定値更新処理（図 83）が開始される前にベース値の表示が開始される構成において、第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて設定値の表示が行われる場合には当該表示の前又は後に第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にてチェック用表示が行われる構成としてもよい。この場合、設定値の表示が終了してベース値の表示が再開される場合又はチェック用表示が終了してベース値の表示が再開される場合に、チェック用表示又は設定値の表示の開始直前に第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて表示対象となっていた種類のベース値の表示が第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 にて再開される構成としてもよい。また、この再開に際しては、その再開される種類のベース値の表示が前回中止されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく、表示継続期間に亘って行われる構成としてもよい。

【3605】

（53）上記第 13 の実施形態では第 1 ～ 第 4 報知用表示装置 201 ～ 204 ではベース値が表示される構成としたが、これに限定されることはなく、ベース値に代えて又は加えて以下のパラメータの少なくとも 1 個が演算されて表示される構成としてもよい。なお、アウト口 24a への遊技球の入球個数を「K1」とし、一般入賞口 31 への遊技球の入球個数を「K2」とし、特電入賞装置 32 への遊技球の入球個数を「K3」とし、第 1 作動口 33 への遊技球の入球個数を「K4」とし、第 2 作動口 34 への遊技球の入球個数を「K5」とする。

- ・第 1 パラメータ：一般入賞口 31 への遊技球の合計入球個数 $K2$ / 遊技領域 PA から排出された遊技球の合計個数 $(K1 + K2 + K3 + K4 + K5)$ の割合
- ・第 2 パラメータ：特電入賞装置 32 への遊技球の合計入球個数 $K3$ / 遊技領域 PA から排出された遊技球の合計個数 $(K1 + K2 + K3 + K4 + K5)$ の割合
- ・第 3 パラメータ：第 1 作動口 33 への遊技球の合計入球個数 $K4$ / 遊技領域 PA から排出された遊技球の合計個数 $(K1 + K2 + K3 + K4 + K5)$ の割合
- ・第 4 パラメータ：第 2 作動口 34 への遊技球の合計入球個数 $K5$ / 遊技領域 PA から排

出された遊技球の合計個数（ $K1 + K2 + K3 + K4 + K5$ ）の割合

・第5パラメータ： $(K3 \times \text{「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」} + K5 \times \text{「第2作動口34への入賞に対する賞球個数」}) / \text{遊技球の合計払出個数} (K2 \times \text{「一般入賞口31への入賞に対する賞球個数」} + K3 \times \text{「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」} + K4 \times \text{「第1作動口33への入賞に対する賞球個数」} + K5 \times \text{「第2作動口34への入賞に対する賞球個数」})$ の割合

・第6パラメータ： $K3 \times \text{「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」} / \text{遊技球の合計払出個数} (K2 \times \text{「一般入賞口31への入賞に対する賞球個数」} + K3 \times \text{「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」} + K4 \times \text{「第1作動口33への入賞に対する賞球個数」} + K5 \times \text{「第2作動口34への入賞に対する賞球個数」})$ の割合

・第7パラメータ：全遊技状態における遊技球の合計払出個数（ $K2 \times \text{「一般入賞口31への入賞に対する賞球個数」} + K3 \times \text{「特電入賞装置32への入賞に対する賞球個数」} + K4 \times \text{「第1作動口33への入賞に対する賞球個数」} + K5 \times \text{「第2作動口34への入賞に対する賞球個数」}) / \text{全遊技状態における遊技領域PAから排出された遊技球の合計個数} (K1 + K2 + K3 + K4 + K5)$ の割合。

【3606】

上記構成において例えば第1パラメータが第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象として設定されているとともに、複数の異なるタイミングの第1パラメータが第1～第4報知用表示装置201～204にて所定の表示継続期間（例えば5秒）が経過する毎に順次切り換え表示される構成としてもよい。この場合、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行される場合には、設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行されている状況において第1～第4報知用表示装置201～204にて第1パラメータの上記順次切り換え表示が行われる構成としてもよい。また、第1パラメータの上記順次切り換え表示が行われている状況において第1～第4報知用表示装置201～204におけるチェック用表示が実行された場合には、当該チェック用表示の終了後には当該チェック用表示の開始直前に表示対象となっていた種類の第1パラメータの表示が再開される構成としてもよく、当該再開に際しては所定の表示継続期間の計測が新たに開始される構成としてもよい。

【3607】

また、例えば第1～第7パラメータが第1～第4報知用表示装置201～204における報知対象として設定されているとともに、第1～第7パラメータが第1～第4報知用表示装置201～204にて所定の表示継続期間（例えば5秒）が経過する毎に順次切り換え表示される構成としてもよい。この場合、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行される場合には、設定確認用処理（図82）又は設定値更新処理（図83）が実行されている状況において第1～第4報知用表示装置201～204にて第1～第7パラメータの上記順次切り換え表示が行われる構成としてもよい。また、第1～第7パラメータの順次切り換え表示が行われている状況において第1～第4報知用表示装置201～204におけるチェック用表示が実行された場合には、当該チェック用表示の終了後には当該チェック用表示の開始直前に表示対象となっていた種類のパラメータの表示が再開される構成としてもよく、当該再開に際しては所定の表示継続期間の計測が新たに開始される構成としてもよい。

【3608】

（54）上記第13の実施形態では第1～第4報知用表示装置201～204及び設定表示装置205が遊技盤24の背面に搭載された主制御装置71に設けられており、第1～第4報知用表示装置201～204及び設定表示装置205を確認するためには外枠11に対する遊技機本体12の施錠状態を解除して、当該遊技機本体12をパチンコ機10前方に回動させる必要がある構成としたが、これに限定されることはなく、第1～第4報知用表示装置201～204がパチンコ機10の前面に設けられている構成としてもよく、設定表示装置205がパチンコ機10の前面に設けられている構成としてもよく、第1

10

20

30

40

50

～第４報知用表示装置２０１～２０４及び設定表示装置２０５の両方がパチンコ機１０の前面に設けられている構成としてもよい。

【３６０９】

また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４及び設定表示装置２０５の少なくとも一方がパチンコ機１０の前面に設けられている構成においては、その前面に設けられた表示装置が他の情報を表示するための表示装置として兼用される構成としてもよい。例えば、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４がパチンコ機１０の前面に設けられた構成においては当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値以外にも開閉実行モードにおける遊技球の払出個数が表示される構成としてもよい。また、設定表示装置２０５がパチンコ機１０の前面に設けられた構成においては当該設定表示装置２０５では設定値以外にもパチンコ機１０の異常に対応する表示が行われる構成としてもよい。

10

【３６１０】

また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４及び設定表示装置２０５が遊技機の前面に設けられた構成をスロットマシンに適用してもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値以外にも遊技者が所有している仮想メダルの数及び小役入賞が成立した場合に遊技者に付与された遊技媒体の数のうち一方が表示され、設定表示装置２０５では設定値以外にも上記仮想メダルの数及び上記付与された遊技媒体の数のうち他方が表示される構成としてもよい。

【３６１１】

(５５) 上記第１３の実施形態ではチェック用表示が終了した後は遊技機本体１２が閉鎖状態及び開放状態のいずれであっても主側ＭＰＵ８２への動作電力の供給が継続されている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の表示が継続される構成としたが、これに限定されることはなく、遊技機本体１２が開放状態となった場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の表示が開始される構成としてもよい。この場合、遊技機本体１２が開放状態となった場合には、遊技機本体１２が前回閉鎖される直前に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示対象となっていた種類のベース値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて再開される構成としてもよい。また、この再開に際しては、その再開される種類のベース値の表示が前回中止されたタイミングにおける残りの表示継続期間に関係なく、その再開される種類のベース値の表示継続期間に亘る表示が新たに行われる構成としてもよい。

20

30

【３６１２】

(５６) 上記第１３の実施形態では、主側ＭＰＵ８２における非特定制御の処理にて、各検知センサ２３１ａ～２３８ａにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かを監視するための処理、及び磁気検知センサにて磁気を検知したか否かを監視するための処理が実行され、主側ＭＰＵ８２における特定制御の処理にて、それら監視結果に対応する処理が実行される構成としたが、非特定制御の処理においてこれら監視するための処理のうち一部の処理が実行される構成としてもよい。また、これら監視するための処理に加えて又は代えて、非特定制御の処理にて、電波検知センサにて電波を検知したか否かを監視するための処理が実行され、特定制御の処理にてその監視結果に対応する処理が実行される構成としてもよい。

40

【３６１３】

(５７) 上記第１３の実施形態では各検知センサ２３１ａ～２３８ａにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かを特定するための特電用監視遅延タイマカウンタ２１１ｂ、普電用監視遅延タイマカウンタ２１１ｃ及び第１～第８入賞監視タイマカウンタ２１３ａ～２１３ｈのうち特電用監視遅延タイマカウンタ２１１ｂ及び普電用監視遅延タイマカウンタ２１１ｃが特定制御用のワークエリア２１１に設けられ、第１～第８入賞監視タイマカウンタ２１３ａ～２１３ｈが非特定制御用のワークエリア２１３に設けられた構成としたが、これに限定されない。例えば上記タイマカウンタ２１１ｂ、２１１ｃ、２１３ａ～２１３ｈの全てが特定制御用のワークエリア２１１に設けられている構成としてもよく、例えば上記タイマカウンタ２１１ｂ、２１１ｃ、２１３ａ～２１３ｈ

50

の全てが非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられている構成としてもよい。

【3 6 1 4】

(58) 上記第 1 4 の実施形態では入球検知処理 (図 1 2 1) において賞球用カウンタの設定処理 (ステップ S 7 8 0 1) を実行した後に各種フラグクリア処理 (ステップ S 7 8 0 2) を実行し、当該各種フラグクリア処理 (ステップ S 7 8 0 2) を実行した後に各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a にて遊技球が検知されたか否かを監視するための処理 (ステップ S 7 8 0 3 ~ ステップ S 7 8 1 8) を実行することにより、所定処理回の第 1 タイマ割込み処理 (図 1 2 0) の入球検知処理 (図 1 2 1) における各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a の監視結果に応じた各種賞球用カウンタへの設定処理が、所定処理回に対して次の処理回の第 1 タイマ割込み処理 (図 1 2 0) における入球検知処理 (図 1 2 1) まで留保される構成としたが、これに限定されることはなく、入球検知処理 (図 1 2 1) では各処理回において各検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a にて遊技球が検知されたか否かを監視するための処理が実行されるとともに当該監視結果に応じた各種賞球用カウンタへの設定処理が実行され、その後の不正検知実行処理 (ステップ S 7 9 1 1) において検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していることが特定された場合には、その検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a に対応する賞球用カウンタの値が 1 減算される構成としてもよい。この場合、入球検知処理 (図 1 2 1) にて所定の賞球用カウンタの値が 1 加算され、その後の払出出力処理 (ステップ S 7 7 1 6) において当該所定の賞球用カウンタの値が「1」であることに起因してそれに対応する賞球コマンドが出力されるとともに当該所定の賞球用カウンタの値が 1 減算されてその値が「0」となった後に、所定の賞球用カウンタの値を 1 加算する契機となった遊技球の検知が異常又は不正に起因したことが特定された場合には当該所定の賞球用カウンタの値が 1 減算されて「-1」となる。「-1」となった所定の賞球用カウンタは、その後に当該所定の賞球用カウンタに対応する検知センサにて遊技球が検知されたことが新たに特定された場合に 1 加算されて「0」となる。したがって、異常又は不正に起因した遊技球の検知に基づき実行された遊技球の払出分は、その後の正規の遊技球の検知に基づく遊技球の払い出しが実行されないことにより補われることとなる。

【3 6 1 5】

(59) 上記第 1 3 , 第 1 4 の実施形態では第 1 作動口検知センサ 2 3 5 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していることが特定された場合には、第 1 保留情報の第 1 特図保留エリア 1 1 1 への格納及び 1 個の遊技球の払い出しの両方が実行されない構成としたが、これに限定されることはなく、これらのうち一方のみが実行されない構成としてもよい。また、当該構成を第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a における遊技球の検知が異常又は不正に起因していることが特定された場合における処理に対して適用してもよい。

【3 6 1 6】

(60) 上記第 1 3 , 第 1 4 の実施形態では特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設けられた特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b において計測されている期間との関係で特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が不正に起因していることが特定された場合、及び非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設けられた第 4 入賞監視タイマカウンタ 2 1 3 e において計測されている期間との関係で特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合のいずれであっても特電入賞異常フラグ 2 1 3 o に「1」がセットされる構成としたが、これに限定されることはなく、それぞれの場合に応じて異なる異常フラグに「1」がセットされて、その「1」がセットされた異常フラグに対応する処理が実行される構成としてもよい。例えば、特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が不正に起因していることが特定された場合には所定の異常フラグに「1」がセットされ、当該所定の異常フラグに「1」がセットされている場合には 1 5 個賞球用カウンタの値が 1 加算されないだけでなく遊技停止フラグに「1」がセットされて遊技を進行させるための処理の実行が阻止されるのに対して、特電検知センサ 2 3 4 a における遊技球の検知が異常に起因していることが特定された場合には特定の異常フラグに「1」がセットされ、当該特定の異常フラグに「1」がセットされている場合には 1 5

個賞球用カウンタの値は1加算されないものの遊技停止フラグに「1」がセットされないことで遊技を進行させるための処理の実行が阻止されない構成としてもよい。これにより、それぞれに対応した処理を実行することが可能となる。

【3617】

(61) 上記第13, 第14の実施形態では特定制御用のワークエリア211に設けられた特電用監視遅延タイマカウンタ211b又は普電用監視遅延タイマカウンタ211cにおいて計測されている期間との関係で特電検知センサ234a又は第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が不正に起因したものであるか否かの監視が非特定制御の処理にて実行されるとともに、非特定制御用のワークエリア213に設けられた第1〜第8入賞監視タイマカウンタ213a〜213hにおいて計測されている期間との関係で検知センサ231a〜238aにおける遊技球の検知が異常に起因したものであるか否かの監視が非特定制御の処理にて実行される構成としたが、これに限定されることはなく、例えば前者の監視が非特定制御の処理にて実行され、後者の監視が特定制御の処理にて実行される構成としてもよい。

10

【3618】

(62) 上記第13の実施形態ではコマンド送信バッファ223bに格納されたコマンドは、プログラムを利用することなく動作するコマンド送信回路224により音光側MPU93に送信される構成としたが、これに限定されることはなく、プログラムを利用した制御により音光側MPU93に送信される構成としてもよい。この場合、当該制御が特定制御の処理として実行される構成としてもよく、非特定制御の処理として実行される構成としてもよい。

20

【3619】

(63) 上記第13の実施形態では音光側MPU93に送信されるコマンドがコマンド送信バッファ223bに格納される構成としたが、これに加えて又は代えて、払出制御装置77に送信されるコマンドがコマンド送信バッファ223bに格納される構成としてもよい。

【3620】

(64) 上記第13の実施形態では特定制御の処理にて音光側MPU93にコマンドを送信する必要がある場合にはそのコマンドがコマンド送信バッファ223bに格納されるとともに、非特定制御の処理にて音光側MPU93にコマンドを送信する必要がある場合にもそのコマンドがコマンド送信バッファ223bに格納される構成としたが、これに限定されることはなく、特定制御の処理にて音光側MPU93にコマンドを送信する必要がある場合にはそのコマンドが特定制御用のワークエリア211又は特定制御用のスタックエリア212に格納され、非特定制御の処理にて音光側MPU93にコマンドを送信する必要がある場合にはそのコマンドが非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に格納される構成としてもよい。この場合、それら格納されたコマンドを送信するための処理がコマンド送信回路224によって行われる構成としてもよく、特定制御の処理にて行われる構成としてもよく、非特定制御の処理にて行われる構成としてもよい。

30

【3621】

(65) 上記第13の実施形態ではセキュリティ用処理(図101)において第2セキュリティカウンタ213kの値が第1セキュリティカウンタ211aの値に加算され、その加算後における第1セキュリティカウンタ211aの値に対応する数のセキュリティ信号が外部出力される構成としたが、これに限定されることはなく、第1セキュリティカウンタ211aの値と第2セキュリティカウンタ213kの値との合計値が主側MPU82のレジスタに格納され、当該レジスタに格納された合計値に対応する数のセキュリティ信号が外部出力される構成としてもよい。

40

【3622】

(66) 上記第13の実施形態ではセキュリティ信号を出力するための処理が特定制御の処理にて実行される構成としたが、非特定制御の処理にて実行される構成としてもよい

50

。この場合、第1セキュリティカウンタ211aの値が第2セキュリティカウンタ213kの値に加算され、その加算後における第2セキュリティカウンタ213kの値に対応する数のセキュリティ信号が外部出力される構成としてもよい。また、非特定制御の処理において、第1セキュリティカウンタ211aの値と第2セキュリティカウンタ213kの値との合計値が主側MPU82のレジスタに格納され、当該レジスタに格納された合計値に対応する数のセキュリティ信号が外部出力される構成としてもよい。

【3623】

(67) 上記第13、第14の実施形態では特定制御の処理が実行されている状況において非特定制御の処理が開始される場合には主側MPU82のフラグレジスタの情報が特定制御の処理にて特定制御用のスタックエリア212に退避され、その他のレジスタの情報
10
が非特定制御の処理にて非特定制御用のワークエリア213に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、フラグレジスタの情報が特定制御用のワークエリア211に退避され、その他のレジスタの情報が非特定制御用のスタックエリア214に退避される構成としてもよい。

【3624】

また、フラグレジスタの情報及びその他のレジスタの情報のいずれもが特定制御の処理にて特定制御用のワークエリア211又は特定制御用のスタックエリア212に退避される構成としてもよい。この場合、非特定制御の処理が終了して特定制御の処理に復帰する場合には、特定制御の処理にてフラグレジスタ及びその他のレジスタへの情報の復帰が行
20
われる。

【3625】

また、フラグレジスタの情報及びその他のレジスタの情報のいずれもが非特定制御の処理にて非特定制御用のワークエリア213又は非特定制御用のスタックエリア214に退避される構成としてもよい。この場合、非特定制御の処理が終了して特定制御の処理に復帰する場合には、非特定制御の処理にてフラグレジスタ及びその他のレジスタへの情報の復帰が行
30
われる。

【3626】

(68) 上記第13、第14の実施形態では設定キー挿入部195がON操作されているとともにリセットボタン196が押圧操作されている操作が設定変更操作であり、設定
30
キー挿入部195がON操作されているとともにリセットボタン196が押圧操作されていない操作が設定確認操作である構成としたが、これら設定変更操作及び設定確認操作はこれに限定されることはなく、設定キー挿入部195が設定キーによってOFF位置、第1位置及び第2位置に切り換え配置可能である構成においては設定キー挿入部195が設定キーにより第1位置に切り換え配置されることが設定変更操作であり、設定キー挿入部195が設定キーにより第2位置に切り換え配置されることが設定確認操作である構成としてもよい。

【3627】

(69) 上記第15～第30の実施形態における実行対象の優先度、遊技回の変動表示期間の選択、遊技状態の潜伏及び演出の実行に関する特徴的な構成を、時短状態に対して適用する構成に加えて又は代えて、高確率状態に適用してもよく、通常遊技状態よりも第2作動口34への遊技球の頻度が低くなる遊技状態に適用してもよく、通常遊技状態よりも大当たり結果となる確率が高くなる状態と低くなる状態とが存在している構成に対して適用してもよい。
40

【3628】

(70) 上記第15～第30の実施形態において第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了し得る構成としてもよい。例えば、第1時短状態ST1の継続回数が600回であり、天井回数の遊技回が500回である場合、第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了し得る。この場合、第1時短状態ST1の方が第2時短状態ST2よりも実行対象の優先度が高い構成とすることにより、第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了したとしても当該天井回数の遊技回の消化が無効化
50

されて第1時短状態ST1が継続されることになる。また、第2時短状態ST2の方が第1時短状態ST1よりも実行対象の優先度が高い構成とすることにより、第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第1時短状態ST1が途中で終了して第2時短状態ST2が新たに開始されることになる。

【3629】

なお、上記構成において、第1時短状態ST1が次の開閉実行モードが発生するまで継続する構成としてもよく、第1時短状態ST1として継続回数が天井回数よりも少ない第1時短状態と継続回数が天井回数よりも多い第1時短状態とが存在している構成としてもよい。

【3630】

また、上記構成において第1時短状態ST1の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第1時短状態ST1が継続されて第2時短状態ST2が潜伏する構成としてもよい。この場合、第2時短状態ST2が潜伏している状況において遊技回が実行された場合には当該第2時短状態ST2の残りの継続回数が減少し、当該第2時短状態ST2が潜伏している状況において第1時短状態ST1が終了した場合には潜伏している第2時短状態ST2が実行対象となる構成としてもよい。

【3631】

(71) 上記第15～第19、第21～第30の実施形態において第3時短状態ST3の途中で天井回数の遊技回の消化が完了した場合には第3時短状態ST3がそのまま継続される構成としてもよい。この場合、第2時短状態ST2が潜伏し、第2時短状態ST2が潜伏している状況において遊技回が実行された場合には当該第2時短状態ST2の残りの継続回数が減少し、当該第2時短状態ST2が潜伏している状況において第3時短状態ST3が終了した場合には潜伏している第2時短状態ST2が実行対象となる構成としてもよい。

【3632】

(72) 上記第15～第30の実施形態において時短状態ST1～ST3、ST1～ST3C、ST1～ST43である場合には当該時短状態ST1～ST3、ST1～ST3C、ST1～ST43が終了するために必要な残りの更新事象（例えば遊技回の発生又は小当たり結果の発生）の発生回数が図柄表示装置41などの報知手段において報知される構成としてもよい。これにより、遊技者は時短状態ST1～ST3、ST1～ST3C、ST1～ST43である場合に当該時短状態ST1～ST3が終了するために必要な残りの更新事象（例えば遊技回の発生又は小当たり結果の発生）の発生回数を把握しながら遊技を行うことが可能となる。

【3633】

(73) 上記第19～第29の実施形態において時短状態である状況で第3時短状態が潜伏した場合には、それに対応する表示が図柄表示装置41において行われる構成としてもよい。この場合、潜伏している第3時短状態の残りの継続回数が図柄表示装置41にて表示される構成としてもよい。これにより、潜伏している第3時短状態が現状の時短状態が終了するまでに終了してしまうか否かを遊技者に把握させることが可能となる。また、複数の第3時短状態が潜伏している場合にはそれら第3時短状態の全てについて残りの継続回数が図柄表示装置41にて表示される構成としてもよく、現状の時短状態が終了した場合に実行対象となる第3時短状態については残りの継続回数が図柄表示装置41にて表示されるものの他の潜伏中の第3時短状態については残りの継続回数が報知されない構成としてもよい。また、第3時短状態が潜伏している表示は図柄表示装置41にて行われるものの、当該第3時短状態の残りの継続回数は遊技者に報知されない構成としてもよい。この場合、潜伏している第3時短状態が現状の時短状態が終了するまでに終了してしまうか否かを遊技者に予測させることが可能となる。

【3634】

(74) 上記第19～第29の実施形態において時短状態である状況で第3時短状態が潜伏した場合、当該潜伏中の第3時短状態は遊技回が実行されたとしても残りの継続回数

10

20

30

40

50

が減算されない構成としてもよい。この場合、潜伏している第3時短状態が実行対象となることなく終了することはないため、現状の実行対象の時短状態が終了した場合には潜伏している第3時短状態が確実に発生するとともに当該第3時短状態の残りの継続回数は当該第3時短状態の初期の継続回数となる。

【3635】

(75) 第19～第25の実施形態では時短状態ST1～ST3, ST1～ST3Cである状況であって第3時短状態ST3, ST3A～ST3Cが潜伏している状況において開閉実行モードが発生した場合には、実行対象であった時短状態ST1～ST3, ST1～ST3Cだけではなく潜伏中の第3時短状態ST3, ST3A～ST3Cも強制的に終了される構成としたが、これに限定されることはなく、開閉実行モードが発生した場合には実行対象であった時短状態ST1～ST3, ST1～ST3Cは終了する一方、潜伏中の第3時短状態ST3, ST3A～ST3Cはそのまま維持される構成としてもよい。

10

【3636】

(76) 第19～第25のように開閉実行モードが発生した場合に実行対象であった時短状態ST1～ST3, ST1～ST3Cだけではなく潜伏中の第3時短状態ST3, ST3A～ST3Cも強制的に終了される構成を、第26～第29の実施形態における第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏する構成に対して適用してもよい。

【3637】

(77) 上記第21～第29の実施形態において第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43の終了条件が継続回数の遊技回が実行されることである構成としたが、これに限定されることはなく、少なくとも一部の第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43の終了条件が所定回数の小当たり結果が発生することである構成としてもよく、少なくとも一部の第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43の終了条件が所定回数の普電開放状態が発生することである構成としてもよく、少なくとも一部の第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43の終了条件が所定時間の経過である構成としてもよく、少なくとも一部の第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43の終了条件が所定個数の遊技球が遊技領域PAから排出されることである構成としてもよい。

20

【3638】

(78) 上記第15～第30の実施形態では第2時短状態ST2の継続回数の方が第1時短状態ST1の継続回数よりも多い構成としたが、これに限定されることはなく、第1時短状態ST1の継続回数と第2時短状態ST2の継続回数とが同一である構成としてもよく、第1時短状態ST1の継続回数の方が第2時短状態ST2の継続回数よりも多い構成としてもよい。

30

【3639】

(79) 上記第15～第30の実施形態において第1時短状態ST1、第2時短状態ST2及び第3時短状態ST3, ST3A～ST3C, ST41～ST43のサポートモードが全て同一である構成としてもよい。この場合、いずれの時短状態であっても普図当否判定が普図側の低確率モードとなる構成としてもよい。

【3640】

40

(80) 上記第21～第29の実施形態において第3時短状態ST3A～ST3C, ST41～ST43は3種類に限定されることはなく、2種類であってもよく、4種類であってもよく、5種類であってもよく、6種類以上であってもよい。

【3641】

(81) 上記第31, 第32の実施形態において、論理回路としてNAND回路のみを利用して、誤作動防止回路422～424, 472、外部出力用回路431及び選択回路473～475が形成されている構成としてもよい。上記第31の実施形態と同様に、NAND回路は2つの入力端子と1つの出力端子とを備えている。NAND回路における2つの入力端子の双方に同一の信号を入力すると、当該2つの入力端子の双方にHレベルの信号が入力された場合には出力端子からLOWレベルの信号(Hレベルの信号を反転

50

させた信号)が出力されるとともに、当該2つの入力端子の双方にLOWレベルの信号が
入力された場合には出力端子からHイレベルの信号(LOWレベルの信号を反転させた信
号)が出力される。つまり、NAND回路をNOT回路として機能させることができる。
上記第31の実施形態では、第0～第2誤作動防止回路422～424に含まれている第
0～第5NOT回路451～456に代えて6つのNAND回路を設けることにより、論
理回路としてNAND回路のみを利用して第0～第2誤作動防止回路422～424及び
外部出力用回路431を形成することができる。これにより、これらの回路422～42
4、431を形成するために主制御基板81に実装される電子部品をNAND回路を内蔵
している電子部品のみとすることができる。また、上記第32の実施形態では、誤作動防
止回路472に含まれている第1NOT回路512及び第2NOT回路513と、第1～
第3選択回路473～475に含まれている第3～第8NOT回路514～519とに代
えて8個のNAND回路を設けることにより、論理回路としてNAND回路のみを利用し
て誤作動防止回路472、第1～第3選択回路473～475及び外部出力用回路431
を形成することができる。これにより、これらの回路472、473～475、431を
形成するために主制御基板81に実装される電子部品をNAND回路を内蔵している電子
部品のみとすることができる。主制御基板81に実装される電子部品の種類を低減する
ことにより、主制御基板81の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板81の
製造コストを低減することができる。

【3642】

(82) 上記第31、第32の実施形態において、NAND回路及びNOT回路の組合
せに代えてAND回路が設けられている構成としてもよい。AND回路は、2つの入力端
子及び1つの出力端子を備えている。AND回路は、2つの入力端子の双方にHイレベル
の信号(「1」に対応する信号)が入力された場合には出力端子からHイレベルの信号(
「1」に対応する信号)を出力するとともに、2つの入力端子のうち少なくとも一方にL
OWレベルの信号が入力された場合には出力端子からLOWレベルの信号を出力する。こ
のため、NAND回路及び当該NAND回路の出力端子と電氣的に接続されているNOT
回路との組み合わせに代えて、AND回路を利用することができる。上記第31の実施形
態では、第0誤作動防止回路422の第0NAND回路441及び第3NOT回路454
の組合せと、第1誤作動防止回路423の第1NAND回路442及び第4NOT回路4
55の組合せと、第2誤作動防止回路424の第2NAND回路443及び第5NOT回
路456の組合せとに代えて、3つのAND回路が設けられている。これにより、第0～
第2誤作動防止回路422～424に含まれている論理回路の数を低減することができる
とともに、第0～第2誤作動防止回路422～424の構成を簡素化することができる。
また、上記第32の実施形態では、誤作動防止回路472の第0NAND回路491及び
第2NOT回路513の組合せと、第1選択回路473の第1NAND回路492及び第
3NOT回路514の組合せと、第2選択回路474の第2NAND回路493及び第4
NOT回路515の組合せと、第3選択回路475の第3NAND回路494及び第5N
OT回路516の組合せとに代えて、AND回路が4つ設けられている。これにより、誤
作動防止回路472及び第1～第3選択回路473～475に含まれている論理回路の数を
低減することができるとともに、誤作動防止回路472及び第1～第3選択回路473
～475の構成を簡素化することができる。

【3643】

(83) 上記第31、第32の実施形態において、一の電子部品に内蔵されている複数の
回路を利用して形成される複数の回路は、誤作動防止回路422～424、472、外
部出力用回路431及び選択回路473～475に限定されることはなく、例えば一の電
子部品に内蔵されている複数のオペアンプを利用して複数のバッファ回路が形成されてい
る構成としてもよい。具体的には、主制御基板81には、第1バッファ回路及び第2バッ
ファ回路が設けられている。また、主制御基板81には、第1オペアンプ及び第2オペア
ンプを内蔵しているバッファ用電子部品が実装されている。第1バッファ回路は、バッフ
ァ用電子部品に内蔵されている複数のオペアンプのうち第1オペアンプを利用して形成さ

10

20

30

40

50

れているとともに、第２バッファ回路は、当該バッファ用電子部品に内蔵されている複数のオペアンプのうち第１バッファ回路に含まれていない第２オペアンプを利用して形成されている。このように、一の電子部品（バッファ用電子部品）に内蔵されている複数のオペアンプ（第１オペアンプ及び第２オペアンプ）を利用して複数の回路（第１バッファ回路及び第２バッファ回路）が形成されている。これにより、第１バッファ回路に含まれるオペアンプを主制御基板８１に設けるための電子部品とは別の電子部品として第２バッファ回路に含まれるオペアンプを主制御基板８１に設けるための電子部品を実装する構成と比較して、主制御基板８１に実装される電子部品の数を低減することができる。

【３６４４】

（８４）上記第３１，第３２の実施形態においては、一の電子部品に内蔵されている複数の論理回路を利用して複数の回路を形成する構成としたが、これに限定されることはなく、例えば、一の電子部品に内蔵されている複数の抵抗を利用して複数の回路を形成する構成としてもよい。具体的には、主制御基板８１には不正な磁気を検知されたことを報知するための第１不正報知用ＬＥＤと、主側ＭＰＵ８２にて当該第１不正報知用ＬＥＤの発光制御を行うための第１不正報知用回路と、不正な電波を検知されたことを報知するための第２不正報知用ＬＥＤと、主側ＭＰＵ８２にて当該第２不正報知用ＬＥＤの発光制御を行うための第２不正報知用回路とが設けられている。主制御基板８１には、所定の抵抗値を有する第１抵抗及び第２抵抗を内蔵している不正報知用電子部品が実装されている。第１報知用回路は、不正報知用電子部品に内蔵されている複数の抵抗のうち第１抵抗を利用して形成されているとともに、第２報知用回路は、当該不正報知用電子部品に内蔵されている複数の抵抗のうち第１報知用回路に含まれていない第２抵抗を利用して形成されている。このように、一の電子部品（不正報知用電子部品）に内蔵されている複数の抵抗（第１抵抗及び第２抵抗）を利用して複数の回路（第１不正報知用回路及び第２不正報知用回路）が形成されている。これにより、第１不正報知用回路に含まれる抵抗を主制御基板８１に設けるための電子部品とは別の電子部品として第２不正報知用回路に含まれる抵抗を主制御基板８１に設けるための電子部品を実装する構成と比較して、主制御基板８１に実装される電子部品の数を低減することができる。

【３６４５】

また、一の電子部品に内蔵されている複数のダイオードを利用して複数の回路を形成する構成としてもよい。具体的には、主制御基板８１には第１整流回路及び第２整流回路が設けられている。また、主制御基板８１には、第１整流ダイオード及び第２整流ダイオードを内蔵している整流用電子部品が実装されている。第１整流回路は、整流用電子部品に内蔵されている複数の整流ダイオードのうち第１整流ダイオードを利用して形成されているとともに、第２整流回路は、当該整流用電子部品に内蔵されている複数の整流ダイオードのうち第１整流回路に含まれていない第２整流ダイオードを利用して形成されている。このように、一の電子部品（整流用電子部品）に内蔵されている複数の整流ダイオード（第１整流ダイオード及び第２整流ダイオード）を利用して複数の回路（第１整流回路及び第２整流回路）が形成されている。これにより、第１整流回路に含まれる整流ダイオードを主制御基板８１に設けるための電子部品とは別の電子部品として第２整流回路に含まれる整流ダイオードを主制御基板８１に設けるための電子部品を実装する構成と比較して、主制御基板８１に実装される電子部品の数を低減することができる。

【３６４６】

（８５）上記第３２の実施形態において、第１～第３端子ＮＳ１１～ＮＳ１３から出力される第１～第３選択信号を利用して制御対象となる駆動部が特定される構成としたが、これに限定されることはなく、例えば主側ＭＰＵ８２から出力されるアドレスデータに基づいて制御対象となる駆動部が特定される構成としてもよい。具体的には、主制御基板８１には、第１選択回路４７３、第２選択回路４７４及び第３選択回路４７５に代えて、第１選択ＩＣ、第２選択ＩＣ及び第３選択ＩＣが設けられている。主制御基板８１に設けられた第１選択ＩＣ、第２選択ＩＣ及び第３選択ＩＣのそれぞれには、１バイトのアドレスが設定されている。主側ＭＰＵ８２は、第１～第３選択ＩＣのいずれかを選択するための

アドレスデータを出力する8個のアドレス出力端子を備えている。第1～第3選択ICのそれぞれには、当該アドレス出力端子から出力されるアドレスデータと、誤作動防止回路472の第2NOT回路513から出力される信号とが入力される。第0MOSFET461は、第1選択回路473に代えて第1選択ICと電氣的に接続されており、第1MOSFET462は、第2選択回路474に代えて第2選択ICと電氣的に接続されており、第2MOSFET463は、第3選択回路475に代えて第3選択ICと電氣的に接続されている。第1～第3選択ICは、自己のアドレスデータが入力されている状態となった場合、誤作動防止回路472から入力される信号の電圧レベルと同じ電圧レベルの信号を対応するMOSFET461～463に出力する。主側MPU82は、第0端子NS10から出力する駆動制御信号をLOWレベルに立ち下げ、制御対象となる駆動部に対応する選択ICのアドレスデータをアドレス出力端子から出力する。第1～第3選択ICは、入力される駆動制御信号がLOWレベルに立ち下がっていると同時に、自己のアドレスデータが入力されている状態となった場合に、対応するMOSFET461～463のゲートにかかる電圧をHレベルに立ち上げる。これにより、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163又は切換用駆動部167を駆動状態とすることができる。駆動制御信号に加えて、主側MPU82から出力されるアドレスデータを利用して対象駆動部の駆動制御を行う構成であることにより、誤作動防止回路472の第2NOT回路513から第1～第3選択ICに入力される信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けて対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。当該構成において、入出力ポート471の第0端子NS10から第1～第3選択ICに向かう信号経路の途中であって第0端子NS10から延びる信号線が各選択ICに向けて分岐する箇所よりも第0端子NS10側の位置に誤作動防止回路472を設けることにより、複数の選択ICに対する誤作動防止回路472の数を1つに抑えることができる。誤作動防止回路472に数を抑えることにより、主制御基板81に実装される電子部品数を低減し、主制御基板81の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板81の製造コストを低減することができる。なお、第1～第3選択ICを特定するために主側MPU82から出力されるアドレスデータのデータ容量は、第1～第3選択ICを識別可能なデータ容量(2ビット)以上であれば任意である。

【3647】

また、主側MPU82が主制御基板81に設けられたアドレスデコーダを介して第1～第3選択ICと電氣的に接続されている構成としてもよい。アドレスデコーダは、第1選択ICに第1セレクト信号を出力し、第2選択ICに第2セレクト信号を出力し、第3選択ICに第3セレクト信号を出力する。アドレスデコーダは、主側MPU82から当該アドレスデコーダに入力されるアドレスデータに対応するセレクト信号をLOWレベルからHレベルに立ち上げる。例えば、アドレスデコーダは、第1選択ICのアドレスデータが入力されている状態となった場合に第1セレクト信号をHレベルに立ち上げる。第1～第3選択ICは、誤作動防止回路472の第2NOT回路513から入力される信号がHレベルである状態において当該選択ICに対応するセレクト信号がHレベルに立ち上がった場合に、対応するMOSFET461～463のゲートにかかる電圧をHレベルに立ち上げる。これにより、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163又は切換用駆動部167を駆動状態とすることができる。このように、アドレスデコーダを利用することにより、第1～第3選択ICの周辺の配線パターンを簡素化することができる。

【3648】

(86) 上記第32の実施形態において、誤作動防止回路472に代えて、不正検知中(例えば不正な磁気の検知中)に特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167が駆動状態となることを防止する回路(不正検知中の動作防止回路)が設けられている構成としてもよい。具体的には、遊技盤24の背面には、不正な磁気を検知する磁気検知センサが設けられている。磁気検知センサは磁気検知信号を出力する。磁気検知信号は、不正な磁気を検知されていない状態においてHレベルとなるとともに、不正な磁気を検知されている状態においてLOWレベルとなる。不正検知中の動作防止

10

20

30

40

50

回路には、上記第32の実施形態における誤作動防止回路472と同様に、第1NOT回路512、第0NAND回路491及び第2NOT回路513が含まれている。第0NAND回路491が備えている2つの入力端子のうち一方の入力端子には、リセット信号に代えて、磁気検知信号が入力される。上記第32の実施形態と同様に、当該2つの入力端子のうち他方の入力端子は第1NOT回路512を介して入出力ポート471の第0端子NS10と電氣的に接続されているとともに、第0NAND回路491の出力端子は第1選択回路473の第1NAND回路492、第2選択回路474の第2NAND回路493及び第3選択回路475の第3NAND回路494と電氣的に接続されている。主側MPU82は、不正な磁気が検知されていない状態（第0NAND回路491に入力されている磁気検知信号がHイレベルである状態）において、第0端子NS10から出力される駆動制御信号をLOWレベルに立ち下げるとともに、第1～第3端子NS11～NS13から出力される第1～第3選択信号のいずれかをLOWレベルに立ち下げることにより、当該立ち下げられた選択信号に対応する駆動部（特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163又は切換用駆動部167）を駆動状態とすることができる。一方、不正な磁気が検知されている状態が発生すると、第0NAND回路491に入力されている磁気検知信号がLOWレベルとなることにより第0NAND回路491から出力される信号をLOWレベルに維持することができる。これにより、不正な磁気の検知中は、第0～第3端子NS10～NS13から出力される信号の状態とは無関係に、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167を非駆動状態とすることができる。上記第32の実施形態において既に説明したとおり、駆動制御信号に加えて第1～第3選択信号を利用して対象駆動部の駆動制御を実行する構成であることにより、駆動制御信号と第1～第3選択信号とのいずれか一方に信号の電圧レベルを押し上げようとするノイズが発生した場合においても対象駆動部の誤作動が発生してしまうことが防止されている。当該構成において、入出力ポート471の第0端子NS10と第1～第3選択回路473～475の第1～第3NAND回路492～494とを電氣的に接続する信号経路において、第0端子NS10から延びる信号線が第1～第3NAND回路492～494に向けて分岐する位置よりも第0端子NS10側の位置に誤作動防止回路472を設けることにより、複数（具体的には3つ）の選択回路473～475に対して不正検知中の動作防止回路の数を1つに抑えることができる。不正検知中の動作防止回路の数を抑えることにより、主制御基板81に実装される電子部品を低減し、主制御基板81の製造効率を高めることができるとともに、主制御基板81の製造コストを低減することができる。

【3649】

（87）上記第31、第32の実施形態において、停電監視基板85が停電信号及びリセット信号に加えて、特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167（対象駆動部）の誤作動の発生を防止するために利用される誤作動防止信号を出力する構成としてもよい。具体的には、誤作動防止回路422～424、472には、リセット信号に代えて誤作動防止信号が入力される。パチンコ機10への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板85は、まず停電信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げる。そして、リセット信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げるタイミングよりも前のタイミングにおいて誤作動防止信号をLOWレベルからHイレベルに立ち上げる。誤作動防止信号の立ち上げが行われるタイミングは、主側MPU82に供給される電源電圧が規定動作電圧（3V）を超えて安定した後のタイミングである。このように、リセット信号よりも先に誤作動防止信号が立ち上がる構成とすることにより、対象駆動部の誤作動を防止しながら、当該対象駆動部の駆動制御を実行可能な状態で主側MPU82の動作が開始されるようにすることができる。停電監視基板85は、停電の発生を特定した場合、まず停電信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げる。そして、リセット信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げるタイミングよりも前のタイミングにおいて誤作動防止信号をHイレベルからLOWレベルに立ち下げる。これにより、停電の発生が特定された場合には、早期に誤作動防止信号を立ち下げて、対象駆動部の誤作動を防止することができる。なお、誤作動防止信号が停電監視基板85から出力される構成に限定され

ることはなく、主制御基板 8 1 に誤作動防止信号を出力するための信号出力回路が形成されている構成としてもよい。信号出力回路は、当該信号出力回路に入力される停電信号の立ち上がりを認識した場合に誤作動防止信号を立ち上げるタイミングを把握することができるとともに、停電信号の立ち下がりを経験した場合に誤作動防止信号を立ち下げるタイミングを把握することができる。

【3650】

(88) 上記第 3 1, 第 3 2 の実施形態において、誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される駆動制御信号及びリセット信号に基づいて実行される制御の対象は、特電用の駆動部 3 2 b, 振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 に限定されることはなく、誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される駆動制御信号及びリセット信号に基づいて、第 1 の実施形態における普電用の駆動部 3 4 b (図 6) の駆動制御、第 1 特図表示部 3 7 a (図 3) における LED の発光制御、第 2 特図表示部 3 7 b (図 3) における LED の発光制御、又は普図表示部 3 8 a (図 3) における LED の発光制御が実行される構成としてもよい。誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される駆動制御信号及びリセット信号に基づいて普電用の駆動部 3 4 b の駆動制御が実行される構成とすることにより、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始が開始されてから主側 MPU 8 2 に電源電圧が安定的に供給される状態となるまでの間に、普電用の駆動部 3 4 b の誤作動が発生してしまうことを防止できる。また、誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される駆動制御信号及びリセット信号に基づいて第 1 特図表示部 3 7 a、第 2 特図表示部 3 7 b 又は普図表示部 3 8 a における LED の発光制御が実行される構成とすることにより、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始が開始されてから主側 MPU 8 2 に電源電圧が安定的に供給される状態となるまでの間に、第 1 特図表示部 3 7 a、第 2 特図表示部 3 7 b 又は普図表示部 3 8 a に誤った情報が表示されてしまうことを防止できる。

【3651】

(89) 上記第 3 1, 第 3 2 の実施形態において、汎用の入出力ポートである入出力ポート 4 2 1, 4 7 1 に代えて、出力専用のポートが設けられている構成としてもよい。パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合、主側 MPU 8 2 に供給される電源電圧に対応する電圧レベルの信号が当該出力専用のポートの各端子から出力される状態となる。出力専用のポートの端子から出力される駆動制御信号と、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始時に LOW レベルに維持されるリセット信号とに基づいて特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7 の駆動制御が行われる構成とすることにより、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給開始が開始されてから主側 MPU 8 2 に電源電圧が安定的に供給される状態となるまでの間に、これらの駆動部 3 2 b, 1 6 3, 1 6 7 の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【3652】

(90) 上記第 3 1, 第 3 2 の実施形態において、停電監視基板 8 5 から出力されるリセット信号に代えて、主側 MPU 8 2 から出力される駆動許可信号が誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される構成としてもよい。具体的には、主側 MPU 8 2 は、駆動許可出力ポートを備えており、当該駆動許可出力ポートには駆動許可信号を出力するための駆動許可出力端子が設けられている。誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 には、入出力ポート 4 2 1, 4 7 1 から出力される駆動制御信号と、駆動許可出力ポートから出力される駆動許可信号とが入力される。そして、誤作動防止回路 4 2 2 ~ 4 2 4, 4 7 2 に入力される駆動制御信号が LOW レベルであるとともに、駆動許可信号が HI レベルである場合に対象駆動部 (特電用の駆動部 3 2 b、振分入口用の駆動部 1 6 3 及び切換用駆動部 1 6 7) が駆動状態となる。上記第 3 1 の実施形態において既に説明したとおり、パチンコ機 1 0 への動作電力の供給が開始された場合、停電監視基板 8 5 から主側 MPU 8 2 に出力されているリセット信号が LOW レベルから HI レベルに立ち上がることで主側 MPU 8 2 の動作が開始される。主側 MPU 8 2 は、メイン処理 (図 1 3) のステップ S 1 0 1 における電源投入初期設定処理において駆動許可出力ポートから出力される駆動許可信号を LOW レベルから HI レベルに立ち上げる。これにより、主側 M

PU82が入出力ポート421, 471から出力される駆動制御信号をHレベルからLOWレベルに立ち下げることにより対象駆動部を駆動状態とすることが可能な状態とすることができる。駆動許可信号がHレベルである状態は、主側MPU82にて停電の発生が特定されるまで継続される。駆動許可出力端子は、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された状況において、ブルダウン抵抗を介して接地されている状態となっている。このため、パチンコ機10への動作電力の供給が開始された状況において、駆動許可出力端子から出力される駆動許可信号はLOWレベルに維持される。これにより、入出力ポート421, 471から出力される駆動制御信号の状態とは無関係に、対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。また、駆動許可信号の電圧を押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けて駆動許可信号がHレベルに立ち上がってしまうことを防止できる。このように、誤作動防止回路422~424, 472に入力される駆動制御信号及び駆動許可信号に基づいて対象駆動部の駆動制御が実行される構成としてもパチンコ機10への動作電力の供給開始時に対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

10

【3653】

(91) 上記第31, 第32の実施形態において、入出力ポート421, 471が主側MPU82に内蔵されている構成に代えて、入出力ポート421, 471が主制御基板81に設けられているとともに主側MPU82と当該入出力ポート421, 471とが電気的に接続されている構成としてもよい。

20

【3654】

(92) 上記第31, 第32の実施形態において、NOT回路451~456, 511~519にて当該NOT回路451~456, 511~519にLOWレベルの信号が入力されていると認識されている状況において当該NOT回路451~456, 511~519に入力されている信号がHレベルに変化したと認識されるための閾値電圧と、NOT回路451~456, 511~519にて当該NOT回路451~456, 511~519にHレベルの信号が入力されていると認識されている状況において当該NOT回路451~456, 511~519に入力されている信号がLOWレベルに変化したと認識されるための閾値電圧と、が同一の電圧（例えば2.4V）である構成としてもよい。

【3655】

(93) 上記第31, 第32の実施形態において、NAND回路441~445, 491~496にて当該NAND回路441~445, 491~496にLOWレベルの信号が入力されていると認識されている状況において当該NAND回路441~445, 491~496に入力されている信号がHレベルに変化したと認識されるための閾値電圧と、NAND回路441~445, 491~496にて当該NAND回路441~445, 491~496にHレベルの信号が入力されていると認識されている状況において当該NAND回路441~445, 491~496に入力されている信号がLOWレベルに変化したと認識されるための閾値電圧と、が同一の電圧（例えば2.4V）である構成としてもよい。

30

【3656】

(94) 上記第31, 第32の実施形態において、第0~第2出力データエリアDA0~DA2（第32の実施形態では第0~第3出力データエリアDA10~DA13）に設定された「0」又は「1」のデータが所定の時間（具体的には20ミリ秒）に亘って記憶保持された後に消失される構成に限定されることはなく、第0~第2出力データエリアDA0~DA2に設定された「0」又は「1」のデータは次に当該出力データエリアDA0~DA2にデータが設定されるまで記憶保持される構成としてもよい。

40

【3657】

(95) 上記第31の実施形態において、出力データレジスタ426における第0~第2ビット426a~426cに設定されているデータをポート設定回路428が入出力ポート421の第0~第2出力データエリアDA0~DA2に設定する構成に代えて、タイマ割込み処理が起動される度に主側MPU82が出力データレジスタ426における第0

50

～第2ビット426a～426cに設定されているデータを入出力ポート421の第0～第2出力データエリアDA0～DA2に設定する構成としてもよい。第0～第2出力データエリアDA0～DA2に設定されたデータは、所定の時間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持された後に消失するが、4ミリ秒の周期で起動されるタイマ割込み処理にて、第0～第2出力データエリアDA0～DA2の設定が行われる構成とすることにより、第0～第2出力データエリアDA0～DA2に設定されたデータが消失されてしまう前に次の設定が行われるようにすることができる。これにより、出力データレジスタ426の第0～第2ビット426a～426cに設定されているデータに対応する態様で第0～第2端子NS0～NS2からのデータ出力が行われるようにすることができる。また、上記第32の実施形態において、出力データレジスタ477における第0～第3ビット477a～477dに設定されているデータをポート設定回路479が入出力ポート471の第0～第3出力データエリアDA10～DA13に設定する構成に代えて、タイマ割込み処理が起動される度に主側MPU82が出力データレジスタ477における第0～第3ビット477a～477dに設定されているデータを入出力ポート471の第0～第3出力データエリアDA10～DA13に設定する構成としてもよい。第0～第3出力データエリアDA10～DA13に設定されたデータは、所定の時間（例えば20ミリ秒）に亘って記憶保持された後に消失するが、4ミリ秒の周期で起動されるタイマ割込み処理にて、第0～第3出力データエリアDA10～DA13の設定が行われる構成とすることにより、第0～第3出力データエリアDA10～DA13に設定されたデータが消失されてしまう前に次の設定が行われるようにすることができる。これにより、出力データレジスタ477の第0～第3ビット477a～477dに設定されているデータに対応する態様で第0～第3端子NS10～NS13からのデータ出力が行われるようにすることができる。

【3658】

(96) 上記第32の実施形態において、第1～第3選択回路473～475のそれぞれに対して1対1で対応させて誤作動防止回路が設けられている構成としてもよい。具体的には、第1選択回路473に対応させて第0誤作動防止回路が設けられており、第2選択回路474に対応させて第1誤作動防止回路が設けられており、第3選択回路475に対応させて第2誤作動防止回路が設けられている。入出力ポート471には第0端子NS10に代えて第4～第6端子が設けられている。第4端子は特電用の駆動部32bの駆動制御を実行するための第0駆動制御信号を出力するために使用され、第5端子は振分入口用の駆動部163の駆動制御を実行するための第1駆動制御信号を出力するために使用され、第6端子は切換用駆動部167の駆動制御を実行するための第2駆動制御信号を出力するために使用される。第4端子は第0誤作動防止回路を介して第1選択回路473の第1NAND回路492が備えている2つの入力端子の一方と電気的に接続されており、第5端子は第1誤作動防止回路を介して第2選択回路474の第2NAND回路493が備えている2つの入力端子の一方と電気的に接続されており、第6端子は第2誤作動防止回路を介して第3選択回路475の第3NAND回路494が備えている2つの入力端子の一方と電気的に接続されている。このように、第1～第3選択回路473～475のそれぞれに対して1対1で対応させて誤作動防止回路が設けられている構成としても、第0～第2駆動制御信号、リセット信号及び第1～第3選択信号を利用して対象駆動部（特電用の駆動部32b、振分入口用の駆動部163及び切換用駆動部167）の駆動制御を実行する構成とすることにより、リセット信号がHレベルに立ち上がった後も、第0～第2駆動制御信号と第1～第3選択信号とのいずれか一方にノイズが発生した場合に当該ノイズの影響を受けて対象駆動部の誤作動が発生してしまうことを防止できる。

【3659】

(97) 上記第33～第35、第37の実施形態では、ゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて入出力確認期間を終了させる処理が実行される構成としたが、これに代えて又は加えて、入出力確認期間中に特電検知センサ234a及び第2作動口検知センサ236a（第35の実施形態では特別入賞装置151）の双方において遊技球の検知が発生した場合に入出力確認期間を終了させる処理が実行される構

成としてもよい。第33、第34、第37の実施形態では、入出力確認期間において、特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作が行われる。開閉動作の対象となっている特電入賞装置32に入球した遊技球の検知及び開閉動作の対象となっている第2作動口34に入球した遊技球の検知の双方が発生したことに基づいて入出力確認期間が終了する構成とすることにより、特電入賞装置32及び第2作動口34に関する確認が終了するタイミングで入出力確認期間を終了させることができる。また、第35の実施形態では、入出力確認期間において、特電入賞装置32及び特別入賞装置151の開閉動作が行われる。開閉動作の対象となっている特電入賞装置32に入球した遊技球の検知及び開閉動作の対象となっている特別入賞装置151に入球した遊技球の検知の双方が発生したことに基づいて入出力確認期間が終了する構成とすることにより、特電入賞装置32及び特別入賞装置151に関する確認が終了するタイミングで入出力確認期間を終了させることができる。

10

【3660】

(98) 上記第33～第40の実施形態において、入出力確認期間（第40の実施形態では出力確認期間）では、所定の周期（例えば4ミリ秒の周期）で発射操作装置28の回動操作が検知されたか否かを判定する処理が実行され、発射操作装置28の回動操作が検知された場合には入出力確認期間を終了させるための処理が実行される構成としてもよい。これにより、入出力確認期間が終了していない状態において遊技者による発射操作装置28の回動操作が行われた場合には、当該発射操作装置28の回動操作が検知されたタイミングにて入出力確認期間が終了するようにすることができる。

【3661】

20

(99) 第33～第40の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合及び「RAMクリア操作」が行われた場合の双方において入出力確認期間が設定されて入出力確認用処理が実行される構成（第40の実施形態ではポート出力確認処理が実行される構成）としたが、これに限定されることはなく、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合には入出力確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される一方、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア操作」が行われた場合には入出力確認用処理が実行されない構成としてもよい。また、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア処理」が行われた場合には入出力確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される一方、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合には入出力確認用処理が実行されない構成としてもよい。

30

【3662】

(100) 第33～第40の実施形態では、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に入出力確認期間が設定されて入出力確認用処理が実行される構成（第40の実施形態ではポート出力確認処理が実行される構成）としたが、これに加えて又は代えて、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われたことに基づいて入出力確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される構成としてもよい。これにより、第33～第39の実施形態では、パチンコ機10の現状における設定値の確認と併せて、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35、第36の実施形態では特別入賞装置151の動作確認）及び各種入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531及びアウト口24a）に入球した遊技球の検知状態の確認を行うことが可能となるようにすることができる。また、第40の実施形態では、パチンコ機10の現状における設定値の確認と併せて、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うことが可能となるようにすることができる。

40

【3663】

(101) 第33～第39の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われたことに基づいて入出力確認期間が設定されて入出力確認用処理が実行され、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確

50

認操作」が行われなかった場合には入出力確認用処理が実行されない構成としてもよい。また、上記第40の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われたことに基づいてポート出力確認処理が実行され、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われなかった場合にはポート出力確認処理が実行されない構成としてもよい。これにより、第33～第39の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われる度に、パチンコ機10の現状における設定値の確認と併せて、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35，第36の実施形態では特別入賞装置151の動作確認）及び各種入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531及びアウト口24a）に入球した遊技球の検知状態の確認を行うことが可能となるようにすることができる。また、第35，第36の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われる度に、切換片536の退避位置復帰が実行されるようにすることができる。さらにまた、第40の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われる度に、パチンコ機10の現状における設定値の確認と併せて、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うことが可能となるようにすることができる。

【3664】

（102）第33～第39の実施形態において、メイン処理（図246）のステップSG616にて通常復帰コマンドを送信する処理が実行されることに基づいて入出力確認用処理が実行され、動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）において通常復帰コマンドを送信する処理（ステップSG616）が行われない場合には入出力確認用処理が実行されない構成としてもよい。また、第40の実施形態において、メイン処理（図311）のステップSL516にて通常復帰コマンドを送信する処理が実行されることに基づいてポート出力確認処理が実行され、動作電力の供給開始時の処理（ステップSL501～ステップSL528）において通常復帰コマンドを送信する処理（ステップSL516）が行われない場合にはポート出力確認処理が実行されない構成としてもよい。これにより、第33～第39の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」、「設定確認操作」及び「RAMクリア操作」が行われることなくさらに主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35，第36の実施形態では特別入賞装置151の動作確認）及び各種入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531及びアウト口24a）に入球した遊技球の検知状態の確認を行うことが可能となるようにすることができる。また、第35，第36の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」、「設定確認操作」及び「RAMクリア操作」が行われることなくさらに主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、切換片536の退避位置復帰が実行されるようにすることができる。さらにまた、第40の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」、「設定確認操作」及び「RAMクリア操作」が行われることなくさらに主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うことが可能となるようにすることができる。

【3665】

（103）第33～第39の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始される場合には、当該動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア操作」が行われた場合、通常復帰コマンドを送信する処理が実行される場合、及び主側RAM84に情報異常が発生した場合のいずれにおいても入出力確認期間が設定されて入出力確認用処理が実行される構成としてもよい。また、第40の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供

10

20

30

40

50

給が開始されてメイン処理が開始される場合には、当該動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア操作」が行われた場合、通常復帰コマンドを送信する処理が実行される場合、及び主側RAM84に情報異常が発生した場合のいずれにおいてもポート出力確認処理が実行される構成としてもよい。これにより、第33～第39の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始される度に、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35，第36の実施形態では特別入賞装置151の動作確認）及び各種入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531及びアウト口24a）に入球した遊技球の検知状態の確認を行うことが可能となるようにすることができる。また、第35，第36の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始される度に、切換片536の退避位置復帰が実行されるようにすることができる。さらにまた、第40の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始される度に、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うことが可能となるようにすることができる。

【3666】

（104）第33～第39の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始され、当該動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア操作」が行われた場合、及び通常復帰コマンドを送信する処理が実行される場合には入出力確認期間が設定されて入出力確認用処理が実行され、主側RAM84に情報異常が発生した場合には入出力確認用処理が実行されない構成としてもよい。また、第40の実施形態において、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始され、当該動作電力の供給の開始に際して「設定変更操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「設定確認操作」が行われた場合、当該動作電力の供給の開始に際して「RAMクリア操作」が行われた場合、及び通常復帰コマンドを送信する処理が実行される場合にはポート出力確認処理が実行され、主側RAM84に情報異常が発生した場合にはポート出力確認処理が実行されない構成としてもよい。これにより、第33～第39の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始され、主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35，第36の実施形態では特別入賞装置151の動作確認）及び各種入球部（一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531及びアウト口24a）に入球した遊技球の検知状態の確認を行うことが可能となるようにすることができる。また、第35，第36の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始され、主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、切換片536の退避位置復帰が実行されるようにすることができる。さらにまた、第40の実施形態では、パチンコ機10への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始され、主側RAM84に情報異常が発生しなかった場合に、特電入賞装置32の動作確認及び普電役物34aの動作確認を行うことが可能となるようにすることができる。

【3667】

（105）第33～第40の実施形態において、RAMクリア処理にて呼び出される複数のサブルーチンのうち一部のサブルーチンのプログラムと同一のプログラムが設定値更新処理にて呼び出される構成としてもよい。具体的には、メイン処理（図246）のステップSG620におけるRAMクリア処理では、まず「CALL RAMクリア実行処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されてRAMクリア実行処理が実行される。その後、「CALL 設定値表示実行処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが

10

20

30

40

50

呼び出されて設定値表示実行処理が実行される。

【3668】

RAMクリア実行処理では、上記第33の実施形態において既に説明したRAMクリア処理（図248）のステップSG801～ステップSG807と同一の処理が実行される。その後、設定値表示実行処理では、所定の期間（例えば2秒間）に亘って、報知用表示装置141にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示を行うための処理を実行するとともに、当該所定の期間が経過した場合にこれらの表示を終了させるための処理を実行する。これにより、メイン処理（図246）にてRAMクリア処理（ステップSG620）が実行される場合には、RAMクリア実行処理が実行された後に所定の期間に亘って報知用表示装置141にて現状使用対象となっている設定値を確認可能な状況が発生するようにすることができる。

10

【3669】

メイン処理（図246）のステップSG618にて実行される設定値更新処理では、まず「CALL RAMクリア実行処理」という命令が実行される。これにより、上記第33の実施形態において既に説明したRAMクリア処理（図248）のステップSG801～ステップSG807と同一の処理が実行される。その後、上記第33の実施形態における設定値更新処理（図247）のステップSG702～ステップSG714と同一の処理が実行される。設定値更新処理（図247）では、「CALL 設定値表示実行処理」という命令は実行されない。

【3670】

20

このように、メイン処理（図246）のステップSG620におけるRAMクリア処理ではRAMクリア実行処理及び設定値表示実行処理が実行される構成において、設定値更新処理（ステップSG618）では、当該RAMクリア処理（ステップSG620）にてRAMクリア実行処理を実行するために利用されるサブルーチンのプログラムと同一のプログラムを利用してRAMクリア実行処理が実行される。これにより、RAMクリア処理（ステップSG620）にてRAMクリア実行処理を実行するためのプログラムとは別のプログラムとして設定値更新処理（ステップSG618）にてRAMクリア実行処理を実行するためのプログラムが記憶されている構成と比較して、RAMクリア処理（ステップSG620）及び設定値更新処理（ステップSG618）を実行するために主側ROM83に予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

30

【3671】

（106）第33～第40の実施形態において、RAMクリア処理にて呼び出される複数のサブルーチンのうち一部のサブルーチンのプログラムと同一のプログラムが設定確認用処理にて呼び出される構成としてもよい。具体的には、メイン処理（図246）のステップSG620におけるRAMクリア処理では、まず「CALL RAMクリア実行処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されてRAMクリア実行処理が実行される。その後、「CALL 設定値表示開始処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示開始処理が実行される。その後、「CALL 設定値表示中処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示中処理が実行される。

40

【3672】

RAMクリア実行処理では、上記第33の実施形態において既に説明したRAMクリア処理（図248）のステップSG801～ステップSG807と同一の処理が実行される。その後、設定値表示開始処理では、まず割込み許可の設定を行う。これにより、タイマ割込み処理（図249）が所定周期で割り込んで起動される。その後、報知用表示装置141にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示を開始するための処理を実行する。その後、主側RAM84の設定確認中フラグに「1」をセットする。その後、設定値表示中処理では、所定の期間（例えば2秒間）に亘って、報知用表示装置141にて設定値を確認している状況であることを示す表示及

50

び現状設定されている設定値を示す表示を行うための処理を実行するとともに、当該所定の期間が経過した場合にこれらの表示を終了させるための処理を実行する。具体的には、設定確認中フラグを「0」クリアする。これにより、報知用表示装置141にて、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、割込み禁止の設定を行う。【3673】

上記構成により、メイン処理（図246）にてRAMクリア処理（ステップSG620）が実行される場合には、RAMクリア実行処理が実行された後に所定の期間に亘って報知用表示装置141にて設定値を確認可能な状況が発生するようにすることができる。

【3674】

メイン処理（図246）のステップSG613にて実行される設定確認用処理では、まず「CALL 設定値表示開始処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示開始処理が実行される。設定値表示開始処理の内容は上述したとおりである。その後、「CALL 設定値確認中処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値確認中処理が実行される。

【3675】

設定値確認中処理では、確認開始コマンドを音光側MPU93に送信し、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する。設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合、主側RAM84の設定確認中フラグを「0」クリアする。これにより、報知用表示装置141にて、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、割込み禁止の設定を行う。その後、確認時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する。

【3676】

設定確認用処理（ステップSG613）では、「CALL RAMクリア実行処理」という命令及び「CALL 設定値表示中処理」という命令は実行されない。このように、メイン処理（図246）のステップSG620におけるRAMクリア処理ではRAMクリア実行処理、設定値表示開始処理及び設定値表示中処理が実行される構成において、設定確認用処理（ステップSG613）では、当該RAMクリア処理（ステップSG620）にて設定値表示開始処理を実行するために利用されるサブルーチンのプログラムと同一のプログラムを利用して設定値表示開始処理が実行される。これにより、RAMクリア処理（ステップSG620）にて設定値表示開始処理を実行するためのプログラムとは別のプログラムとして設定確認用処理（ステップSG613）にて設定値表示開始処理を実行するためのプログラムが記憶されている構成と比較して、RAMクリア処理（ステップSG620）及び設定確認用処理（ステップSG613）を実行するために主側ROM83に予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【3677】

（107）第33～第40の実施形態において、設定値更新処理にて呼び出される複数のサブルーチンのうち一部のサブルーチンのプログラムと同一のプログラムが設定確認用処理にて呼び出される構成としてもよい。具体的には、メイン処理（図246）のステップSG618における設定値更新処理では、まず「CALL RAMクリア処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されてRAMクリア処理が実行される。当該RAMクリア処理では、上記第33の実施形態において既に説明したRAMクリア処理（図248）のステップSG801～ステップSG807と同一の処理が実行される。その後、「CALL 設定値表示開始処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示開始処理が実行される。その後、「CALL 設定値表示中処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示中処理が実行される。その後、「CALL 設定値更新実行処理」という命令が

10

20

30

40

50

実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値更新実行処理が実行される。

【3678】

設定値表示開始処理では、まず割込み許可の設定を行う。これにより、タイマ割込み処理（図249）が所定周期で割り込んで起動される。その後、報知用表示装置141にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示を開始するための処理を実行する。その後、主側RAM84の設定確認中フラグに「1」をセットする。その後、設定値表示中処理では、所定の期間（例えば2秒間）に亘って、報知用表示装置141にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示を行うための処理を実行するとともに、当該所定の期間が経過した場合にこれらの表示を終了させるための処理を実行する。具体的には、設定確認中フラグを「0」クリアする。これにより、報知用表示装置141にて、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、設定値更新実行処理では、上記第33の実施形態において既に説明した設定値更新処理（図247）のステップSG703～ステップSG714と同一の処理が実行される。

10

【3679】

上記構成により、メイン処理（図246）にて設定値更新処理（ステップSG618）が実行される場合には、RAMクリア処理が実行された後に所定の期間に亘って報知用表示装置141にて現状使用対象に設定されている設定値を確認可能な状況が発生し、当該所定の期間の経過後に使用対象の設定値を変更可能な状況となるようにすることができる。

20

【3680】

メイン処理（図246）のステップSG613にて実行される設定確認用処理では、まず「CALL 設定値表示開始処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値表示開始処理が実行される。設定値表示開始処理の内容は上述したとおりである。その後、「CALL 設定値確認中処理」という命令が実行されることによりCALL命令によりサブルーチンのプログラムが呼び出されて設定値確認中処理が実行される。

【3681】

設定値確認中処理では、確認開始コマンドを音光側MPU93に送信し、設定キー挿入部143が設定キーを利用してON状態からOFF状態に切り換わったか否かを判定する。設定キー挿入部143がON状態からOFF状態に切り換わったことを特定した場合、主側RAM84の設定確認中フラグを「0」クリアする。これにより、報知用表示装置141にて、パチンコ機10の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機10の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。その後、割込み禁止の設定を行うとともに、確認時の復帰コマンドを音光側MPU93に送信する。設定確認用処理（ステップSG613）では、「CALL RAMクリア処理」という命令、「CALL 設定値表示中処理」という命令及び「CALL 設定値更新実行処理」という命令は実行されない。

30

【3682】

このように、メイン処理（図246）のステップSG618にて実行される設定値更新処理ではRAMクリア処理、設定値表示開始処理、設定値表示中処理及び設定値更新実行処理が実行される構成において、設定確認用処理（ステップSG613）では、当該設定値更新処理（ステップSG618）にて設定値表示開始処理を実行するために利用されるサブルーチンのプログラムと同一のプログラムを利用して設定値表示開始処理が実行される。これにより、設定値更新処理（ステップSG618）にて設定値表示開始処理を実行するためのプログラムとは別のプログラムとして設定確認用処理（ステップSG613）にて設定値表示開始処理を実行するためのプログラムが記憶されている構成と比較して、設定値更新処理（ステップSG618）及び設定確認用処理（ステップSG613）を実行するために主側ROM83に予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することが

40

50

できる。

【3683】

(108) 上記第33～第40の実施形態において、主側MPU82への動作電力の供給が継続されている状況においても遊技ホールの管理者による操作が行われたことに基づいてRAMクリア処理が実行される構成としてもよい。第33～第39の実施形態に本構成が適用される場合においては、主側MPU82への動作電力の供給が行われている状態において、リセットボタン142の押圧操作が行われている状態が所定の期間（例えば5秒）に亘って継続された場合、リセットボタン142が押圧操作されている状態においてパチンコ機10の電源ON操作が行われて主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合と同様に、メイン処理（図246）が実行されるとともに、当該メイン処理（図246）のステップSG609にて肯定判定が行われる。このため、ステップSG617及びステップSG619にて否定判定が行われた場合には、ステップSG620にてRAMクリア処理が実行されることにより、確認用タイマカウンタ523a、581の設定が行われる。その後、立ち上げ処理が終了した後に、確認用タイマカウンタ523a、581の値が1以上であることに基づいて、入出力確認期間が開始される。第40の実施形態に本構成が適用される場合においては、主側MPU82への動作電力の供給が行われている状態において、リセットボタン142の押圧操作が行われている状態が所定の期間（例えば5秒）に亘って継続された場合、リセットボタン142が押圧操作されている状態においてパチンコ機10の電源ON操作が行われて主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合と同様に、メイン処理（図311）が実行されるとともに、当該メイン処理（図311）のステップSL509にて肯定判定が行われる。このため、ステップSL517及びステップSL519にて否定判定が行われた場合には、RAMクリア処理（ステップSL520）及びステップSL521の処理が実行された後に、ステップSL522にてポート出力確認処理が実行されて、出力確認期間が開始される。このように、主側MPU82への動作電力の供給が継続されている状況において遊技ホールの管理者による操作が行われたことに基づいてRAMクリア処理が実行された場合にも入出力確認期間又は出力確認期間が設定される構成とすることにより、遊技が正常に実行される状態ではない状態において遊技が開始されてしまうことを防止できる。

【3684】

(109) 第33～第40の実施形態において、通常遊技状態における普図の変動期間が0.9秒間であり、確認後無効化期間として、当該普図の変動期間（0.9秒）と、発射された遊技球が誘導レールを離れてから遊技盤24においてスルーゲート35の入口が設けられている高さ位置まで鉛直下方に落下する場合に最低限必要な期間（例えば0.2秒）との合計期間よりも短い期間（例えば1秒）が設定されている構成としてもよい。これにより、通常遊技状態における普図の変動期間として短い期間を設定可能としながら、確認後無効化期間の終了直後に遊技球がスルーゲート35に入賞して電役開放当選が発生し、当該電役開放当選に基づく第2作動口34（第35、第36の実施形態では特別入賞装置151）の開放期間が開始された直後に遊技球が第2作動口34に入賞した場合には、当該遊技球の入賞が有効として扱われて、当該遊技球の入賞に基づいて当否判定処理及び遊技球の払い出しが行われるようにすることができる。

【3685】

(110) 上記第33～第40の実施形態では、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に特電入賞装置32及び普電役物34a（第35、第36の実施形態では特電入賞装置32、特別入賞装置151及びV入賞装置531）の動作が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とするための処理が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、例えばRAMクリア処理の実行契機が発生した場合に演出用の可動物が正常に動作する状態であるか否かを確認可能とする処理が実行される構成としてもよい。具体的には、遊技盤24には演出用の可動物として、大当たり報知用可動物が設けられている。大当たり報知用可動物は、当否判定処理にて大当たり結果が発生したことを報知する場合に動作する。大当たり結果が発生した場合には、開閉実行モードのオープニング演出におい

て当該大当たり報知用可動物を上下に動作させる演出が実行される。RAMクリア処理の実行契機が発生した場合には、当該大当たり報知用可動物を初期位置に復帰させる動作及び初期位置に復帰した大当たり報知用可動物を上下に移動させる動作を行わせるための処理が実行される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、当該大当たり報知用可動物の動作態様を確認することにより、当該大当たり報知用可動物が正常に動作する状態であるか否かを確認することができる。

【3686】

(111) 上記第33～第39の実施形態において、動作確認用処理にて主側MPU82と払出制御装置77との通信が正常に行われる状態であることを確認可能とする通信確認処理が実行される構成としてもよい。第33の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理(図253)の行番号「1005」にて実行される処理であり、入出力確認用処理は、動作電力の供給が開始された後においてRAMクリア処理が実行される場合には実行される一方、RAMクリア処理が実行されない場合には実行されない。払出制御装置77には、未払出の賞球個数の情報などが一時記憶されるRAMが設けられている。入出力確認期間が開始された場合、通信確認処理では、払出制御装置77に払出クリアコマンドを送信する。払出制御装置77は、払出クリアコマンドを受信した場合、払出制御装置77のRAMに記憶されている情報をクリアし、払出クリア済みコマンドを主側MPU82に送信する。通信確認処理では、主側RAM84に設けられた払出クリア済みフラグに「1」がセットされていない場合、払出クリア済みコマンドを受信したか否かを判定し、払出クリア済みコマンドを受信した場合には払出クリア済みフラグに「1」をセットする。入出力確認期間の終了時にタイマ割込み処理(図249)のステップSG905にて実行される無効化用処理では、払出クリア済みフラグに「1」がセットされていない場合、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65にて払出通信エラー報知が実行されるようにする。これにより、主側MPU82と払出制御装置77との通信が正常に行われない状態となっていることを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。よって、当該状態において遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【3687】

(112) 上記第33～第40の実施形態において、動作確認用処理(第40の実施形態ではポート出力確認処理)にて特図ユニット37及び普図ユニット38の発光制御が正常に行われる状態であることを確認可能とするユニット発光確認処理が実行される構成としてもよい。第33の実施形態において既に説明したとおり、動作確認用処理は入出力確認用処理(図253)の行番号「1005」にて実行される処理であり、入出力確認用処理は、動作電力の供給が開始された後においてRAMクリア処理が実行される場合には実行される一方、RAMクリア処理が実行されない場合には実行されない。ユニット発光確認処理では、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b、第1特図保留表示部37c、第2特図保留表示部37d、普図表示部38a及び普図保留表示部38bの全点灯状態と消灯状態とが交互に繰り返されるようにするための処理が実行される。具体的には、これらの表示部37a～37d、38a、38bを全点灯状態とするための信号出力が行われている状態とした後、1秒が経過する度に当該信号出力が行われる状態と、当該信号出力が行われない状態との切り換えが行われる。全点灯状態及び消灯状態は、1秒間に亘る全点灯状態→1秒間に亘る消灯状態→…→1秒間に亘る全点灯状態→1秒間に亘る消灯状態の順番で、交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、これらの表示部37a～37d、38a、38bの点灯態様を確認することにより、これらの表示部37a～37d、38a、38bの発光制御が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、これらの表示部37a～37d、38a、38bの発光制御が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。また、遊技ホールの管理者は、これらの表示部37a～37d、38a、38bの全点灯状態(1秒間)と消灯状態(1秒間)との切り換えが行われていることに基づいて、入出力確認期間であることを把握することができる。これにより、入出力確認期間である

10

20

30

40

50

ことを報知する専用の装置を不具備としながら、入出力確認期間であることを遊技ホールの管理者が気付き易い態様で報知することを可能とすることができる。

【3688】

(113) 上記第33～第40の実施形態において、動作確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）にて表示発光部64の発光制御が正常に行われる状態であることを確認可能とする表示発光確認処理が実行される構成としてもよい。表示発光確認処理では、表示発光部64の点灯状態と消灯状態とが交互に繰り返されるようにするための処理が実行される。具体的には、表示発光部64を点灯状態とするためのコマンドを音光側MPU93に送信した後、1秒が経過する度に表示発光部64を消灯状態とするためのコマンドと、表示発光部64を点灯状態とするためのコマンドとを交互に送信する。表示発光部64では、1秒間の点灯状態と1秒間の消灯状態とが交互に繰り返される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間において、表示発光部64の点灯態様を確認することにより、表示発光部64の発光制御が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、表示発光部64の発光制御が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。また、遊技ホールの管理者は、表示発光部64の点灯状態（1秒間）と消灯状態（1秒間）との切り換えが行われていることに基づいて、入出力確認期間であることを把握することができる。これにより、入出力確認期間であることを報知する専用の装置を不具備としながら、入出力確認期間であることを遊技ホールの管理者が気付き易い態様で報知することを可能とすることができる。

【3689】

(114) 上記第33～第39の実施形態では、メイン処理（図246）にて動作電力の供給開始時の処理（ステップSG601～ステップSG627）が終了した後に入出力確認用処理が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、動作電力の供給開始時の処理が終了する前に入出力確認用処理が実行される構成としてもよい。具体的には、メイン処理（図246）において、ステップSG618にて設定値更新処理を実行した場合、又はステップSG621にてクリア時の復帰コマンドを送信した場合には、ステップSG627にて立ち下げ処理中フラグを「0」クリアするタイミングよりも前のタイミングにおいて、タイマ割込み処理（図249）による割込みを許可し、確認用タイマカウンタ523aの値が「0」となるまで、タイマ割込み処理（図249）が起動される度に入出力確認用処理（図253）を実行する。これにより、メイン処理（図246）において残余処理が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて入出力確認期間が終了するようにすることができる。

【3690】

(115) 上記第33～第39の実施形態において、入出力確認期間中にタイマ割込み処理が起動された場合に、入出力確認用処理が実行される一方、停電監視処理は実行されない構成としてもよい。入出力確認期間中に停電の発生が特定された場合には、停電時処理が実行されないため、主側RAM84における停電フラグに「1」がセットされることなく動作電力の供給が停止する。その後、動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作が行われなかった場合には、停電フラグに「1」がセットされていないため、メイン処理（図246）において、遊技停止フラグに「1」がセットされるとともに、異常コマンドの送信（ステップSG625）及び異常時の外部出力処理（ステップSG626）の対象となる。上記第33の実施形態において既に説明したとおり、異常報知を停止させるためには動作電力の供給の再開に際してリセットボタン142の押圧操作及び設定キー挿入部143のON操作、すなわち「設定変更操作」を行う必要があり、当該「設定変更操作」が行われた場合には設定値更新処理（図247）のステップSG701にてRAMクリア処理が実行されるとともに、動作電力の供給開始時の処理の終了後に入出力確認用処理が実行される。これにより、入出力確認期間の途中において動作電力の供給が停止された場合においても、遊技を進行させるための処理が実行される遊技可能状態が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて、特電入賞装置32の動作確認、普電役物34aの動作確認（第35、第36の実施

10

20

30

40

50

形態では特別入賞装置 1 5 1 の動作確認) 及び各種入球部 (一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1 及びアウト口 2 4 a) に入球した遊技球の検知状態の確認を行う機会を確保することができる。

【3 6 9 1】

(1 1 6) 上記第 3 3 ~ 第 4 0 の実施形態では、入出力確認期間 (第 4 0 の実施形態では出力確認期間) において特電入賞装置 3 2 の開閉制御及び普電役物 3 4 a の開閉制御 (第 3 5、第 3 6 の実施形態では特別入賞装置 1 5 1 の開閉制御) が同じ態様で行われる構成としたが、これに限定されることはなく、例えば特電入賞装置 3 2 が開放状態となる場合には普電役物 3 4 a が閉鎖状態となるとともに、特電入賞装置 3 2 が閉鎖状態となる場合には普電役物 3 4 a が開放状態となる構成としてもよい。これにより、第 3 3 ~ 第 3 9 の実施形態では、遊技ホールの管理者が遊技球を各種入球部 (一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1 及びアウト口 2 4 a) に手入れして当該入球部に対応する入球報知音がスピーカ部 6 5 から出力されるか否かを確認する場合に、その確認作業を容易化することができる。

【3 6 9 2】

(1 1 7) 上記第 3 3 ~ 第 3 9 の実施形態では入出力確認期間の終了時に無効化期間を設定する処理が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、入出力確認期間の開始前に無効化期間を設定する処理が実行されるとともに入出力確認期間の終了後に無効化期間が発生する構成としてもよい。第 3 3、第 3 4 の実施形態では、RAM クリア処理 (図 2 4 8) のステップ S G 8 0 7 にて入出力確認期間 (1 0 秒) に対応する「2 5 0 0」という数値情報が確認用タイマカウンタ 5 2 3 a にセットされた後、入出力確認期間 (1 0 秒) と確認後無効化期間 (1 秒) との合計期間 (1 1 秒) に対応する「2 7 5 0」という数値情報が確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e にセットされる。これら確認用タイマカウンタ 5 2 3 a 及び確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の値は、入出力確認用処理 (図 2 5 3) の行番号「1 0 0 2」におけるタイマ更新処理において、1 減算する処理が実行されて更新される。これにより、入出力確認期間の終了時には確認後無効化期間に対応する数値情報が確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e にセットされている状態とすることができる。第 3 3 の実施形態においては、入出力確認期間の開始時からの経過時間が 1 0 秒に達するタイミングよりも前のタイミングにてゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生した場合、確認用タイマカウンタ 5 2 3 a を「0」クリアする処理が実行された後に、確認後無効化期間 (1 秒) に対応する「2 5 0」という数値情報を確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e にセットする処理が実行される。また、第 3 4 の実施形態においては、入出力確認期間の開始時からの経過時間が 9 . 5 秒に達するタイミングよりも前のタイミングにてゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生した場合、0 . 5 秒に対応する「1 2 5」という数値情報を確認用タイマカウンタ 5 2 3 a にセットする処理が実行された後に、当該 0 . 5 秒と確認後無効化期間 (1 秒) との合計期間 (1 . 5 秒) に対応する「3 7 5」という数値情報を確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e にセットする処理が実行される。これにより、ゲート検知センサ 2 3 8 a における遊技球の検知が発生したことに基づいて入出力確認期間が終了する場合においても当該入出力確認期間の終了後に確認後無効化期間 (1 秒) が発生するようにすることができる。入出力確認期間中に特電検知センサ 2 3 4 a 又は第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a における遊技球の検知が発生した場合には、確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の値とは無関係に、入出力確認中フラグ 5 2 4 に「1」がセットされていることに基づいて特電入賞確認フラグ 5 2 2 d 又は第 2 作動入賞確認フラグ 5 2 2 f に「1」がセットされる。このため、入出力確認期間の開始前に確認後無効化タイマカウンタ 5 2 3 e の設定が行われる構成としても入出力確認期間中に特電検知センサ 2 3 4 a 又は第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a における遊技球の検知が発生した場合には特電入球報知音又は第 2 作動入球報知音がスピーカ部 6 5 から出力されるようにすることができる。

【3693】

第35, 第36の実施形態では、RAMクリア処理(図248)のステップSG807にて入出力確認期間(10秒)に対応する「2500」という数値情報が確認用タイマカウンタ523aにセットされた後、入出力確認期間(10秒)と確認後無効化期間(1秒)との合計期間(11秒)に対応する「2750」という数値情報が確認後無効化タイマカウンタ523eにセットされるとともに、入出力確認期間(10秒)とV入賞用無効化期間(1.5秒)との合計期間(11.5秒)に対応する「2875」という数値情報がV入賞用無効化タイマカウンタ523hにセットされる。これら確認用タイマカウンタ523a、確認後無効化タイマカウンタ523e及びV入賞用無効化タイマカウンタ523hの値は、入出力確認用処理(図253)の行番号「1002」におけるタイマ更新処理にて更新される。これにより、入出力確認期間の終了時には、確認後無効化期間に対応する数値情報が確認後無効化タイマカウンタ523eにセットされている状態とすることができる。第35の実施形態においては、入出力確認期間の開始時からの経過時間が10秒に達するタイミングよりも前のタイミングにてゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生した場合、確認用タイマカウンタ523aを「0」クリアする処理が実行された後に、確認後無効化期間(1秒)に対応する「250」という数値情報を確認後無効化タイマカウンタ523eにセットする処理及びV入賞用無効化期間(1.5秒)に対応する「375」という数値情報をV入賞用無効化タイマカウンタ523hにセットする処理が実行される。これにより、ゲート検知センサ238aにおける遊技球の検知が発生したことに基づいて入出力確認期間が終了する場合においても当該入出力確認期間の終了後に、確認後無効化期間(1秒)及びV入賞用無効化期間(1.5秒)が発生するようにすることができる。入出力確認期間中に特電検知センサ554又は特別入賞検知センサ556における遊技球の検知が発生した場合には、確認後無効化タイマカウンタ523eの値とは無関係に、入出力確認中フラグ524に「1」がセットされていることに基づいて特電入賞確認フラグ522d又は特別入賞確認フラグ522iに「1」がセットされる。このため、入出力確認期間の開始前に確認後無効化タイマカウンタ523eの設定が行われる構成とした場合においても入出力確認期間中に特電検知センサ554又は特別入賞検知センサ556における遊技球の検知が発生した場合には特電入球報知音又は特別入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにすることができる。また、入出力確認期間中にV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538における遊技球の検知が発生した場合には、V入賞用無効化タイマカウンタ523hの値とは無関係に、入出力確認中フラグ524に「1」がセットされていることに基づいてV入賞確認フラグ522k又はカウント入賞確認フラグ522jに「1」がセットされる。このため、入出力確認期間の開始前にV入賞用無効化タイマカウンタ523hの設定が行われる構成とした場合においても入出力確認期間中にV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538における遊技球の検知が発生した場合にはV入球報知音又はカウント入球報知音がスピーカ部65から出力されるようにすることができる。

【3694】

第37~第39の実施形態では、RAMクリア処理(図297)のステップSK102にて特定制御用のスタックエリアのクリア処理が実行された後、確認後無効化期間(1秒)に対応する「250」という数値情報が確認後無効化タイマカウンタ523eにセットされる。入出力確認期間においては、タイマ更新処理が実行されないため、確認後無効化タイマカウンタ523eの値は更新されない。これにより、入出力確認期間の終了時に確認後無効化期間に対応する数値情報が確認後無効化タイマカウンタ523eにセットされている状態とすることができる。入出力確認期間中に特電検知センサ234a又は第2作動口検知センサ236aにおける遊技球の検知が発生した場合には、確認後無効化タイマカウンタ523eの値とは無関係に、特電入球報知コマンド又は第2作動入球報知コマンドをコマンド送信バッファ223bに格納する処理が実行される。このため、入出力確認期間の開始前に確認後無効化タイマカウンタ523eの設定が行われる構成とした場合に

10

20

30

40

50

においても入出力確認期間中に特電検知センサ 2 3 4 a 又は第 2 作動口検知センサ 2 3 6 a における遊技球の検知が発生した場合には特電入球報知音又は第 2 作動入球報知音がスピーカ部 6 5 から出力されるようにすることができる。

【3 6 9 5】

(1 1 8) 上記第 3 3 ~ 第 3 9 の実施形態では入出力確認期間において入球部（一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 1 作動口 3 3、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1 及びアウト口 2 4 a）に入球した遊技球の検知が発生した場合にスピーカ部 6 5 から入球報知音が出力される入球報知を実行する構成としたが、これに限定されることはなく、例えば図柄表示装置 4 1 において入球報知が実行される構成としてもよい。具体的には、入出力確認期間において、図柄表示装置 4 1 には入球部に対応する名称のリストが赤字で表示される。主側 MPU 8 2 は、遊技球の検知が発生した検知センサ（第 3 3、第 3 4、第 3 7 ~ 第 3 9 の実施形態では検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a のいずれか、第 3 5、第 3 6 の実施形態では検知センサ 5 5 1 ~ 5 5 8 のいずれか）に対応する入球報知コマンドを音光側 MPU 9 3 に送信し、音光側 MPU 9 3 は図柄表示装置 4 1 において受信した入球報知コマンドに対応する入球部の名称が黒字に切り換わるように図柄表示装置 4 1 の表示制御を行う。例えば、第 3 3 の実施形態であれば、入出力確認期間の開始時に「一般入賞口（左）」、「一般入賞口（中）」、「一般入賞口（右）」、「特電入賞装置」、「第 1 作動口」、「第 2 作動口」、「スルーゲート」及び「アウト口」という名称が赤字で図柄表示装置 4 1 に表示される。その後、いずれかの検知センサ 2 3 1 a ~ 2 3 8 a において遊技球の検知が発生した場合には当該検知センサに対応する名称が黒字に切り換わる。これにより、既に遊技球の検知が発生した検知センサに対応する入球部の名称、及び未だ遊技球の検知が発生していない検知センサに対応する入球部の名称を遊技ホールの管理者が視覚により把握可能とすることができる。

【3 6 9 6】

また、例えば、遊技盤 2 4 に設けられた入球報知発光部において入球報知が実行される構成としてもよい。具体的には、遊技盤 2 4 には、各入球部に対応する入球報知発光部が設けられている。例えば、第 3 3 の実施形態であれば、遊技盤 2 4 には、3 つの一般入賞口 3 1 に対応する第 1 一般入球報知発光部、第 2 一般入球報知発光部及び第 3 一般入球報知発光部が設けられているとともに、特電入賞装置 3 2 に対応する特電入球報知発光部、第 1 作動口 3 3 に対応する第 1 作動入球報知発光部、第 2 作動口 3 4 に対応する第 2 作動入球報知発光部、スルーゲート 3 5 に対応するゲート入球報知発光部及びアウト口 2 4 a に対応するアウト入球報知発光部が設けられている。これらの入球報知発光部は、入出力確認期間の開始時には消灯状態となっており、入出力確認期間において遊技球の検知が発生した検知センサに対応する入球報知発光部が点灯状態に切り換えられる。これにより、既に遊技球の検知が発生した検知センサに対応する入球部、及び未だ遊技球の検知が発生していない検知センサに対応する入球部を遊技ホールの管理者が視覚により把握可能とすることができる。

【3 6 9 7】

(1 1 9) 上記第 3 7 ~ 第 3 9 の実施形態では、S P バッファ、W A バッファ、B C バッファ、D E バッファ、H L バッファ、I X バッファ及び I Y バッファが非特定制御用のワークエリア 2 1 3 に設定されている構成としたが、これに限定されることはなく、これらのバッファが特定制御用のワークエリア 2 1 1 に設定されている構成としてもよい。第 3 7 の実施形態では、特定制御に対応する処理である R A M クリア処理（図 2 9 7 (d)）を実行している状況から非特定制御に対応する処理である確認用クリア処理（ステップ S K 2 0 9）を実行する状況となる場合、スタックポインタ、W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタの情報を対応するバッファに退避させる処理が実行された後に、確認用クリア処理が実行される。その後、特定制御に対応する処理として、当該退避された情報を W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、H L レジスタ、I X レジスタ、I Y レジスタ及びスタックポインタに復帰させる処理が実行される。また、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図 3 0 0）

を実行している状況から非特定制御に対応する処理である入球報知用処理（ステップSK508）及び動作確認用処理（ステップSK509）を実行する状況となる場合、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を対応するバッファに退避させる処理が実行された後に、入球報知用処理及び動作確認用処理が実行される。その後、特定制御に対応する処理として、当該退避された情報をWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタに復帰させる処理が実行される。第38の実施形態では、特定制御に対応する処理である入出力確認用処理（図306（a））を実行している状況から非特定制御に対応する処理である入球報知用処理（ステップSL108）及び動作確認用処理（ステップSL109）を実行する状況となる場合、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を対応するバッファに退避させる処理が実行された後に、入球報知用処理及び動作確認用処理が実行される。その後、特定制御に対応する処理として、当該退避された情報をWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタに復帰させる処理が実行される。第39の実施形態では、特定制御に対応する処理である入出力確認用処理（図308（a））を実行している状況から非特定制御に対応する処理である入球報知コマンド送信用処理（ステップSL308）及び動作確認用処理（ステップSL309）を実行する状況となる場合、WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタの情報を対応するバッファに退避させる処理が実行された後に、入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理が実行される。その後、特定制御に対応する処理として、当該退避された情報をWAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、HLレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタに復帰させる処理が実行される。このように、SPバッファ、WAバッファ、BCバッファ、DEバッファ、HLバッファ、IXバッファ及びIYバッファが特定制御用のワークエリア211に設定されている構成とすることにより、これらのバッファが非特定制御用のワークエリア213に設定されている構成と比較して、主側RAM84において非特定制御用のワークエリア213のデータ容量を低減することができる。

【3698】

（120）上記第33～第40の実施形態では、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に入出力確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される構成としたが、これに加えて又は代えて、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び普図表示部38aにおける表示が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とする表示部確認用処理が実行される構成としてもよい。第33～第39の実施形態に本構成を適用する場合、タイマ割込み処理では、確認用タイマカウンタ523a、581の値が1以上であることに基いて表示部確認用処理が実行される。また、第40の実施形態に本構成を適用する場合、メイン処理（図311）のステップSL518の処理が実行された場合、又はステップSL521の処理が実行された場合に、表示部確認用処理が実行される。表示部確認用処理が実行される表示部確認期間（具体的には10秒）では、第1特図表示部37a、第2特図表示部37b及び普図表示部38aにおける全てのセグメントを点灯状態とする処理が実行される。遊技ホールの管理者は、表示部確認期間の開始後にこれらの表示部37a、37b、38aにおける全てのセグメントが点灯状態となっているか否かを確認することにより、これらの表示部37a、37b、38aにおいて点灯しないセグメントが存在しているか否かを確認することができる。

【3699】

また、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に入出力確認用処理（第40の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される構成に加えて又は代えて、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合にスピーカ部65の音出力制御が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とする音出力確認用処理が実行される構成としてもよい。第33～第39の実施形態に本構成を適用する場合、タイマ割込み処理では、確認用タイマカウンタ52

3 a, 5 8 1 の値が 1 以上であることに基づいて音出力確認用処理が実行される。また、第 4 0 の実施形態に本構成を適用する場合、メイン処理（図 3 1 1）のステップ S L 5 1 8 の処理が実行された場合、又はステップ S L 5 2 1 の処理が実行された場合に、音出力確認用処理が実行される。音出力確認用処理が実行される音出力確認期間（具体的には 1 0 秒）の開始時には主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に音出力確認開始コマンドが送信されるとともに、音出力確認期間の終了時には主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に音出力確認終了コマンドが送信される。音光側 M P U 9 3 は、音出力確認開始コマンドを受信した場合に予め定められた確認音が連続的に出力されている状態となるようにスピーカ部 6 5 の音出力制御を実行するとともに、音出力確認終了コマンドを受信した場合に当該確認音の出力が停止されるようにする。遊技ホールの管理者は、音出力確認期間の開始後にスピーカ部 6 5 から途切れることなく連続的に確認音が出力されているか否かを確認することにより、スピーカ部 6 5 からの音出力が正常に行われる状態であるか否かを特定することができる。

【3 7 0 0】

また、R A M クリア処理の実行契機が発生した場合に入出力確認用処理（第 4 0 の実施形態ではポート出力確認処理）が実行される構成に加えて又は代えて、R A M クリア処理の実行契機が発生した場合に表示発光部 6 4 の発光制御が正常に行われる状態であるか否かを確認可能とする発光確認用処理が実行される構成としてもよい。第 3 3 ～第 3 9 の実施形態に本構成を適用する場合、タイマ割込み処理では、確認用タイマカウンタ 5 2 3 a, 5 8 1 の値が 1 以上であることに基づいて発光確認用処理が実行される。また、第 4 0 の実施形態に本構成を適用する場合、メイン処理（図 3 1 1）のステップ S L 5 1 8 の処理が実行された場合、又はステップ S L 5 2 1 の処理が実行された場合に、発光確認用処理が実行される。発光確認用処理が実行される発光確認期間（具体的には 1 0 秒）の開始時には主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に発光確認開始コマンドが送信されるとともに、発光確認期間の終了時には主側 M P U 8 2 から音光側 M P U 9 3 に発光確認終了コマンドが送信される。音光側 M P U 9 3 は、発光確認開始コマンドを受信した場合、発光確認終了コマンドを受信するまで、表示発光部 6 4 が発光している状態となるように、表示発光部 6 4 の発光制御を実行する。遊技ホールの管理者は、発光確認期間の開始後に表示発光部 6 4 の発光状態を確認することにより、表示発光部 6 4 の発光が正常に行われる状態であるか否かを特定することができる。

【3 7 0 1】

（1 2 1）上記第 3 3 ～第 3 9 の実施形態では、R A M クリア処理が実行された場合に入出力確認用処理が実行される入出力確認期間が発生する構成としたが、これに限定されることはなく、主側 M P U 8 2 への動作電力の供給が開始された場合に主制御基板 8 1 に設けられた点灯確認ボタンが操作されていることに基づいて特図ユニット 3 7 の各表示部 3 7 a ～3 7 d 及び普図ユニット 3 8 の各表示部 3 8 a, 3 8 b を全点灯状態とする点灯確認処理が実行され、当該点灯確認処理が実行される場合には入出力確認用処理が実行される構成としてもよい。点灯確認ボタンが操作されていることに基づいて入出力確認期間が発生する構成とすることにより、R A M クリア処理の実行の有無とは無関係に、入出力確認期間を発生させることができる。これにより、R A M クリア処理が実行されない状況においても、遊技ホールの管理者が点灯確認ボタンを操作して入出力確認期間を発生させることを可能とすることができる。点灯確認処理は、メイン処理（図 2 4 6）において残余処理（ステップ S G 6 2 8 ～ステップ S G 6 3 1）が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて実行される。点灯確認処理では、2 秒間に亘って特図ユニット 3 7 の各表示部 3 7 a ～3 7 d 及び普図ユニット 3 8 の各表示部 3 8 a, 3 8 b を全点灯状態とするための信号出力が行われる。遊技ホールの管理者は、これらの表示部 3 7 a ～3 7 d, 3 8 a, 3 8 b の点灯状態を確認することによりこれらの表示部 3 7 a ～3 7 d, 3 8 a, 3 8 b の発光制御が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。これにより、当該発光制御が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。主側 M P U 8 2 は、点灯確認処理の終了時に、入出力確認期間（1 0 秒）

に対応する数値情報（「2500」）を確認用タイマカウンタ523aにセットする。これにより、点灯確認処理が実行された場合には、メイン処理（図246）のステップSG627にて立ち上げ処理中フラグの値が「0」クリアされた後に、入出力確認用処理が実行される入出力確認期間が発生するようにすることができる。

【3702】

（122）上記第33～第39の実施形態では、確認用タイマカウンタ523a，581の値が1以上である場合に入出力確認用処理が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、入出力確認期間を設定すべきことを主側MPU82にて把握可能とするために主側RAM84に設けられた入出力確認設定フラグに「1」がセットされていることに基づいて入出力確認用処理が実行される構成としてもよい。第33～第36の実施形態では、RAMクリア処理（図248）のステップSG806の処理が実行された後に、入出力確認設定フラグに「1」をセットする処理が実行される。タイマ割込み処理（図249）では、ステップSG903にて入出力確認設定フラグに「1」がセットされているか否かの判定が行われ、入出力確認設定フラグに「1」がセットされている場合に入出力確認用処理が実行される。第37の実施形態では、非特定制御用のワークエリア213に入出力確認設定フラグが設けられており、確認用クリア処理（図299）のステップSK304の処理が実行された後に、入出力確認設定フラグに「1」をセットする処理が実行される。タイマ割込み処理（図300）では、ステップSK403にて入出力確認設定フラグに「1」がセットされているか否かの判定が行われ、入出力確認設定フラグに「1」がセットされている場合に入出力確認用処理が実行される。第38，第39の実施形態では、特定制御用のワークエリア211に入出力確認設定フラグが設けられており、RAMクリア処理（図305（b））のステップSK902の処理が実行された後に、入出力確認設定フラグに「1」をセットする処理が実行される。タイマ割込み処理（図300）では、ステップSK403にて入出力確認設定フラグに「1」がセットされているか否かの判定が行われ、入出力確認設定フラグに「1」がセットされている場合に入出力確認用処理が実行される。主側RAM84（第37～第39の実施形態では非特定制御用のワークエリア213）には、入出力確認期間の開始時に10秒に対応する「2500」という数値情報を確認用タイマカウンタ523aにセットする処理が実行されたことを主側MPU82にて把握可能とする入出力確認期間設定済みフラグが設けられている。入出力確認用処理では、確認用タイマカウンタ523a，573，581の値が「0」である場合、入出力確認期間設定済みフラグに「1」がセットされているか否かを判定する。入出力確認期間設定済みフラグに「1」がセットされていない場合、すなわち入出力確認期間が開始されるタイミングである場合には、10秒に対応する数値情報を確認用タイマカウンタ523aにセットする処理が実行されて、入出力確認期間設定済みフラグに「1」がセットされる。一方、確認用タイマカウンタ523a，573，581の値が「0」であるとともに、入出力確認期間設定済みフラグに「1」がセットされている場合、すなわち入出力確認期間が終了するタイミングである場合には入出力確認設定フラグを「0」クリアする。これにより、タイマ割込み処理において入出力確認用処理が実行されない状態となり、入出力確認期間が終了する。このように、タイマ割込み処理が実行される場合に、主側RAM84に設けられた入出力確認設定フラグに「1」がセットされていることに基づいて入出力確認用処理が実行される構成とした場合においても、RAMクリア処理の実行契機が発生した場合に入出力確認期間が設定されるようにすることができる。

【3703】

（123）上記第37～第39の実施形態において、非特定制御に対応する処理として、各検知センサ231a～238aにおける遊技球の検知が異常又は不正に起因したものであるか否かを監視するための処理、及び磁気検知センサにて磁気を検知したか否かを監視するための処理が実行される構成としてもよく、使用対象として設定されている設定値に異常が発生したか否かを監視するための処理が実行される構成としてもよい。

【3704】

（124）上記第33～第36，第38，第39の実施形態において、入出力確認用処

理にて、各種カウンタの更新を行うための処理に対応するサブルーチンが呼び出される構成としてもよい。上記第33～第36の実施形態においては、入出力確認用処理にて、タイマ割込み処理（図249）のステップSG906における抽選用乱数更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラム、ステップSG907における乱数初期値更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラム及びステップSG908における変動用カウンタ更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラムを利用して、抽選用乱数更新処理、乱数初期値更新処理及び変動用カウンタ更新処理が実行される。また、上記第38、第39の実施形態においては、入出力確認用処理にて、タイマ割込み処理（図300）のステップSK406における抽選用乱数更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラム、ステップSK407における乱数初期値更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラム及びステップSK408における変動用カウンタ更新処理を実行するためのサブルーチンのプログラムを利用して、抽選用乱数更新処理、乱数初期値更新処理及び変動用カウンタ更新処理が実行される。これにより、入出力確認用処理を実行するためのプログラムのデータ容量が増加してしまうことを抑制しながら、入出力確認期間においても各種カウンタの更新が行われるようにすることができる。

【3705】

（125）上記第33～第39の実施形態では、入出力確認表示装置521が点灯状態となることにより入出力確認期間であることの報知が行われる構成としたが、これに加えて又は代えて、図柄表示装置41、表示発光部64及びスピーカ部65において入出力確認期間であることの報知が行われる構成としてもよい。具体的には、主側MPU82は入出力確認期間の開始時に入出力確認開始コマンドを音光側MPU93に送信するとともに、入出力確認期間の終了時に入出力確認終了コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は、入出力確認開始コマンドを受信した場合、入出力確認終了コマンドを受信するまでの期間に亘って、入出力確認期間であることの報知が実行されるようにする。当該報知では、図柄表示装置41に「入出力確認中」という文字が表示される。また、入出力確認期間に対応する発光態様で表示発光部64が発光するとともに、入出力確認期間に対応する音がスピーカ部65から出力される。これにより、入出力確認期間であることを遊技ホールの管理者が把握し易くすることができる。

【3706】

（126）第33～第40の実施形態において、開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間（第35、第36の実施形態では通常ラウンド遊技の実行期間）及び特電監視遅延期間にて特電検知センサ234a、554における遊技球の検知が発生した場合にはタイマ割込み処理にて特電入球発光報知処理が実行される一方、入出力確認期間及び確認後無効化期間にて特電検知センサ234a、554における遊技球の検知が発生した場合には特電入球発光報知処理が実行されない構成としてもよい。特電入球発光報知処理では、特電入球発光報知コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93は特電入球発光報知コマンドを受信した場合、特電入賞装置32に入球した遊技球が検知されたことを報知する特電入球発光報知が行われるように表示発光部64の発光制御を実行する。これにより、特電入賞装置32に遊技球が入球して特電入球発光報知が実行された場合には、当該遊技球の入球が発生したことに基づいて遊技球の払い出しが行われることを遊技者が把握可能にすることができる。

【3707】

（127）第35、第36の実施形態において、V入賞ラウンド遊技の実行期間及びV入賞用監視遅延期間にてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生した場合にはタイマ割込み処理にてV入賞発光報知処理が実行される一方、入出力確認期間及びV入賞用無効化期間にてV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生した場合にはV入賞発光報知処理が実行されない構成としてもよい。V入賞発光報知処理では、V入賞発光報知コマンドを音光側MPU93に送信する。音光側MPU93はV入賞発光報知コマンドを受信した場合、V入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生したことを報知するV入賞発光報知が行われるように表示発光部64の発光制御を実行する。これによ

り、V入賞装置531に遊技球が入球してV入賞発光報知が実行された場合には、V入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生したこと及び当該遊技球の検知が無効化されないことを遊技者が把握可能にすることができる。

【3708】

(128) 上記第33～第39の実施形態において、確認後無効化期間では特電検知センサ234a(第35, 第36の実施形態では特電検知センサ554)における遊技球の検知が発生したか否かを判定する処理、及び第2作動口検知センサ236a(第35, 第36の実施形態では特別入賞検知センサ556)における遊技球の検知が発生したか否かを判定する処理が実行されない構成としてもよい。当該構成とした場合においても、確認後無効化期間において特電検知センサ234aの検知範囲に遊技球が存在している状態が発生したことに基づいて遊技球の払い出し、特電入球報知音の出力及び特電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。これにより、入出力確認期間中に特電入賞装置32に入球した遊技球が原因となって遊技球の払い出し、特電入球報知音の出力及び特電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。また、当該構成とした場合においても、確認後無効化期間において第2作動口検知センサ236aの検知範囲に遊技球が存在している状態が発生したことに基づいて当否判定処理、遊技球の払い出し、第2作動入球報知音の出力及び普電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。これにより、入出力確認期間中に第2作動口34に入球した遊技球が原因となって当否判定処理、遊技球の払い出し、第2作動入球報知音の出力及び普電入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。

【3709】

(129) 上記第35, 第36の実施形態において、V入賞用無効化期間ではV入賞検知センサ539における遊技球の検知が発生したか否かを判定する処理、及びカウント検知センサ538における遊技球の検知が発生したか否かを判定する処理が実行されない構成としてもよい。当該構成とした場合においても、V入賞用無効化期間においてV入賞検知センサ539又はカウント検知センサ538の検知範囲に遊技球が存在している状態が発生したことに基づいて遊技球の払い出し及びV入賞用入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。これにより、入出力確認期間中にV入賞装置531に入球した遊技球が原因となって遊技球の払い出し及びV入賞用入球エラー報知が行われてしまうことを防止できる。

【3710】

(130) 上記第33～第40の実施形態において、特電入賞装置32の閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。また、上記第33, 第34, 第37～第40の実施形態において、普電役物34aの閉鎖状態では第2作動口34への入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。さらにまた、上記第35, 第36の実施形態において、特別入賞装置151の閉鎖状態では特別入賞装置151への入球が不可ではないが開放状態よりも入球が発生しづらい状態となる構成としてもよく、V入賞装置531の閉鎖状態ではV入賞装置531への入球が不可ではないが開放状態よりも入球が発生しづらい状態となる構成としてもよい。また、切換片536が退避位置に配置されている状態では、分岐通路535に流入した遊技球がV入賞通路領域535cに誘導されるよりも排出通路領域535bを流下し易い状態となる構成としてもよく、切換片536がV誘導位置に配置されている状態では、分岐通路535に流入した遊技球が排出通路領域535bを流下するよりもV入賞通路領域535cに誘導され易い状態となる構成としてもよい。

【3711】

(131) 上記第33～第40の実施形態は次のような構成にも適用できる。遊技球が流下する遊技領域PAには、第1作動口33、第2作動口34、特電入賞装置32及びV入賞装置が設けられている。第1作動口33及び第2作動口34のいずれかへの入賞に基づく当否判定処理の結果が小当たり結果となったことに基づいて、V入賞装置が閉状態から開状態に切換制御される構成である。V入賞装置は所定の期間(例えば29秒間)に亘

って開状態となる。V入賞装置が開状態となることにより遊技領域PAを流下する遊技球がV入賞装置に入球可能となる。V入賞装置は、入球した遊技球をV入賞領域に誘導する誘導状態と、入球した遊技球を排出領域に誘導する非誘導状態とを切換可能なVレバーを備えている。V入賞装置に入球してV入賞領域に誘導された遊技球が検知された場合には、特電入賞装置32の開閉動作が行われる開閉実行モードに移行する。Vレバーの切換制御は、V入賞装置が開状態となるタイミングで開始されるとともに、V入賞装置が開状態となるタイミングで終了する。V入賞装置が開状態となっている状況において、Vレバーの切換制御は、所定の誘導期間（例えば5秒間）に亘る誘導状態と所定の非誘導期間（例えば5秒間）に亘る非誘導状態とが交互に繰り返されるように実行される。入出力確認期間では、V入賞装置の開閉動作及びVレバーの切換制御が実行される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間中にV入賞装置の開閉動作が行われるか否かを確認することにより、V入賞装置の開閉動作が正常に行われる状態であるか否かを把握することができる。また、入出力確認期間では、V入賞領域に誘導された遊技球が検知された場合にスピーカ部65からV入賞報知音が出力されるとともに、排出領域に誘導された遊技球が検知された場合にスピーカ部65から排出報知音が出力される。遊技ホールの管理者は、入出力確認期間中にV入賞装置に複数の遊技球を手入れしてV入賞報知音及び排出報知音の双方が出力されることを確認することによりVレバーの切換制御が正常に行われる状態であることを確認することができる。

10

【3712】

(132) 上記各実施形態において、単位時間当たりの有利度を定める設定値が6段階で設けられている構成に限定されることはなく、当該設定値が7段階以上で設けられている構成としてもよく、1段階～5段階のいずれかで設けられている構成としてもよい。設定値が1段階で設けられている構成では、主側MPU82への動作電力の供給が開始された場合に設定変更操作が行われていることに基づいて、主側RAM84の設定参照用エリアに「1」をセットする処理が実行される。これにより、現状における設定値が「設定1」に設定されている状態とすることができる。

20

【3713】

(133) 主制御装置71から出力されるコマンドに基づいて、音声発光制御装置91により表示制御装置101が制御される構成に代えて、主制御装置71から出力されるコマンドに基づいて、表示制御装置101が音声発光制御装置91を制御する構成としてもよい。また、音声発光制御装置91と表示制御装置101とが別々に設けられた構成に代えて、両制御装置が一の制御装置として設けられた構成としてもよく、それら両制御装置のうち一方の機能が主制御装置71に集約されていてもよく、それら両制御装置の両機能が主制御装置71に集約されていてもよい。また、主制御装置71から音声発光制御装置91に出力されるコマンドの構成や、音声発光制御装置91から表示制御装置101に出力されるコマンドの構成も任意である。

30

【3714】

(134) 遊技回用の演出が実行される装置は、図柄表示装置41に限定されることはなく、可動式に設けられた装飾部材が動作することで遊技回用の演出が実行される構成としてもよく、所定の発光部を点灯させることで遊技回用の演出が実行される構成としてもよく、上記各態様の全部又は一部の組合せによって遊技回用の演出が実行される構成としてもよい。

40

【3715】

(135) 上記実施形態とは異なる他のタイプのパチンコ機等、例えば特別装置の特定領域に遊技球が入ると電動役物が所定回数開放するパチンコ機や、特別装置の特定領域に遊技球が入ると権利が発生して大当たりとなるパチンコ機、他の役物を備えたパチンコ機、アレンジボール機、雀球等の遊技機にも、本発明を適用できる。

【3716】

また、弾球式でない遊技機、例えば、複数種の図柄が周方向に付された複数のリールを備え、メダルの投入及びスタートレバーの操作によりリールの回転を開始し、ストップス

50

イッチが操作されるか所定時間が経過することでリールが停止した後に、表示窓から視認できる有効ライン上に特定図柄又は特定図柄の組合せが成立していた場合にはメダルの払い出し等といった特典を遊技者に付与するスロットマシンにも本発明を適用できる。

【3717】

また、外枠に開閉可能に支持された遊技機本体に貯留部及び取込装置を備え、貯留部に貯留されている所定数の遊技球が取込装置により取り込まれた後にスタートレバーが操作されることによりリールの回転を開始する、パチンコ機とスロットマシンとが融合された遊技機にも、本発明を適用できる。

【3718】

(136) 上記第1～第40の実施形態の特徴的な構成を任意の組合せで相互に適用してもよい。例えば上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第7の実施形態の特徴的な構成と、上記第10の実施形態の特徴的な構成と、上記第15の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第6の実施形態の特徴的な構成と、上記第8の実施形態の特徴的な構成と、上記第9の実施形態の特徴的な構成と、上記第19の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第8の実施形態の特徴的な構成と、上記第21の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第14の実施形態の特徴的な構成と、上記第23の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第13の実施形態の特徴的な構成と、上記第26の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第14の実施形態の特徴的な構成と、上記第28の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第13の実施形態の特徴的な構成と、上記第29の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよく、上記第1の実施形態の特徴的な構成と、上記第14の実施形態の特徴的な構成と、上記第30の実施形態の特徴的な構成とを組合せてもよい。また、上記第1～第40の実施形態の特徴的な構成を所定の組合せで適用した構成に対して、上記別形態の構成を任意の組合せで適用してもよい。

【3719】

＜上記実施形態から抽出される発明群について＞

以下、上述した実施形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお以下においては、理解の容易のため、上記実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

【3720】

＜特徴A群＞

特徴A1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第1～第8の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回において、所定開始契機（時短結果、天井時短）が発生していることを特定した場合に所定遊技状態（低確率モード及び第2高頻度サポートモードである時短状態）を開始させ、当該所定開始契機が発生していないことを特定した場合に前記所定遊技状態を開始させない所定開始処理（第1～第8の実施形態における主側MPU82にて実行される時短結果用の設定処理又は天井カウンタ131の減算処理）を実行する所定開始実行手段（第1～第8の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理を実行する機能、第1～第8の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ131の減算処理を実行する機能）と、

前記遊技回において、所定終了契機（1減算後における時短状態カウンタ134の値が「0」となること）が発生していることを特定した場合に前記所定遊技状態を終了させ、当該所定終了契機が発生していないことを特定した場合に前記所定遊技状態を終了させない所定終了処理（第1～第8の実施形態における主側MPU82にて実行される時短状態

10

20

30

40

50

カウンタ 1 3 4 の減算処理) を実行する所定終了実行手段 (第 1 ～第 8 の実施形態における主側 M P U 8 2 の時短状態カウンタ 1 3 4 の減算処理を実行する機能) と、
を備え、

1 回の前記遊技回において前記所定終了処理が実行された後に前記所定開始処理が実行されることを特徴とする遊技機。

【 3 7 2 1 】

特徴 A 1 によれば、所定開始処理にて所定開始契機が発生していることが特定された場合に所定遊技状態が開始され、所定終了処理にて所定終了契機が発生していることが特定された場合に所定遊技状態が終了するため、所定遊技状態であることを期待する遊技者は、所定遊技状態ではない場合には所定開始契機が発生することを期待し、所定遊技状態である場合には所定終了契機が発生しないことを期待する。この場合に、1 回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行される。これにより、1 回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には、当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。よって、所定終了契機が発生した遊技回であっても所定遊技状態が継続され得るようにすることが可能となる。また、1 回の遊技回における処理の実行順序を所定終了処理の実行後に所定開始処理が実行される順序とするという簡素な構成によって上記のような優れた効果を奏することが可能である。

10

【 3 7 2 2 】

特徴 A 2 . 前記所定開始実行手段は、前記所定遊技状態においては前記所定開始契機の発生を無効とすることを特徴とする特徴 A 1 に記載の遊技機。

20

【 3 7 2 3 】

特徴 A 2 によれば、所定遊技状態においては所定開始契機の発生が無効となるため、所定遊技状態の途中で所定遊技状態が新たに開始されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、1 回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には、当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。これにより、所定遊技状態の途中で所定遊技状態が新たに開始されてしまわないようにした構成において、1 回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生した場合には当該所定開始契機の発生が有効なものとして扱われて所定遊技状態が長く継続する状況が発生し得るようにすることが可能となる。

30

【 3 7 2 4 】

特徴 A 3 . 前記所定終了処理及び前記所定開始処理はいずれも前記遊技回において前記遊技回実行手段における前記遊技回用動作が終了した後に実行されることを特徴とする特徴 A 1 又は A 2 に記載の遊技機。

【 3 7 2 5 】

特徴 A 3 によれば、所定終了処理及び所定開始処理はいずれも遊技回用動作が終了した後に実行されるため、これら処理が遊技回用動作を開始させるための処理及び遊技回用動作を進行させるための処理が実行されない状況で実行されることとなり、処理負荷を分散することが可能となる。また、このように処理負荷を分散した構成であっても上記特徴 A 1 の構成を備え、1 回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行されるため、1 回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。

40

【 3 7 2 6 】

特徴 A 4 . 前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段 (天井カウンタ 1 3 1) を備え、

当該所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数 (第 1 ～

50

4, 第7, 第8の実施形態では固定天井回数、第5の実施形態では第1天井回数又は第2天井回数、第6の実施形態では固定天井回数又は特別天井回数)となった場合に前記所定開始契機が発生することを特徴とする特徴A1乃至A3のいずれか1に記載の遊技機。

【3727】

特徴A4によれば、所定契機回数の遊技回が実行されたことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、上記特徴A1の構成を備え、1回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行されるため、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。これにより、所定契機回数の遊技回が実行されたことを契機として所定遊技状態が発生する可能性を高めることが可能となる。

10

【3728】

特徴A5. 所定抽選処理(第1～第8の実施形態における主側MPU82にて実行される保留情報の取得処理及び当否判定処理)を実行する所定抽選手段(第1～第8の実施形態における主側MPU82の保留情報の取得処理及び当否判定処理を実行する機能)を備え、

前記遊技回制御手段は、前記所定抽選処理の結果に対応する動作結果となるように前記遊技回実行手段を制御するものであり、

前記所定抽選処理の結果が所定抽選結果(時短結果)となった場合に前記所定開始契機が発生することを特徴とする特徴A1乃至A4のいずれか1に記載の遊技機。

20

【3729】

特徴A5によれば、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、上記特徴A1の構成を備え、1回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行されるため、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。これにより、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったことを契機として所定遊技状態が発生する可能性を高めることが可能となる。

【3730】

特徴A6. 前記所定遊技状態における前記遊技回の実行回数を計測する特定計測手段(時短状態カウンタ134)を備え、

当該特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が特定契機回数(第1時短継続回数、第2時短継続回数)となった場合に前記所定終了契機が発生することを特徴とする特徴A1乃至A5のいずれか1に記載の遊技機。

30

【3731】

特徴A6によれば、所定遊技状態において実行された遊技回の実行回数が特定契機回数となったことに基づいて所定遊技状態が終了するため、所定遊技状態の終了契機が遊技者にとって明確なものとなる。

【3732】

特徴A7. 1回の前記遊技回において前記所定開始契機及び前記所定終了契機の両方が発生する場合、前記所定終了処理が実行されるまでに前記所定遊技状態において実行された前記遊技回の回数と前記所定開始処理が実行されてから前記所定遊技状態において実行された前記遊技回の回数との合計回数が、前記所定遊技状態ではない遊技状態から前記所定遊技状態となった場合に設定される当該所定遊技状態の継続可能回数よりも多い回数となり得ることを特徴とする特徴A6に記載の遊技機。

40

【3733】

特徴A7によれば、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合、上記特徴A1の構成を備え、1回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行されるため、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契

50

機の両方が発生する場合には当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。そして、このような事象が発生した場合、所定終了処理が実行されるまでに所定遊技状態において実行された遊技回の回数と所定開始処理が実行されてから所定遊技状態において実行された遊技回の回数との合計回数が、所定遊技状態ではない遊技状態から所定遊技状態となった場合に設定される当該所定遊技状態の継続可能回数よりも多い回数となり得る。これにより、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生することの有利度を高めることが可能となる。

【3734】

特徴A8．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第1～第5，第7，第8の実施形態では第2作動口34、第6の実施形態では特別入賞装置151）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第1～第5，第7，第8の実施形態では主側MPU82におけるステップS709の処理を実行する機能、第6の実施形態では主側MPU82におけるステップS2806の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第1～第8の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第1～第8の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第1～第8の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記遊技回制御手段は、遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴A1乃至A7のいずれか1に記載の遊技機。

【3735】

特徴A8によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、遊技者は所定遊技状態となること及び所定遊技状態が長く継続することを期待することとなる。この場合に、上記特徴A1の構成を備え、1回の遊技回において所定終了処理が実行された後に所定開始処理が実行されるため、1回の遊技回において所定開始契機及び所定終了契機の両方が発生する場合には当該遊技回において先に所定終了処理が実行されることで現状の所定遊技状態が終了された後に、当該遊技回において後に所定開始処理が実行されることで所定遊技状態が再度開始される。よって、遊技者は所定終了契機が発生するのであれば当該所定終了契機が発生する遊技回において所定開始契機が発生することを期待することとなる。

【3736】

なお、特徴A1～A8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a2

0、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3737】

上記特徴A群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3738】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3739】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3740】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技を進行させるための処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3741】

<特徴B群>

特徴B1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回において、特定終了契機（1減算後における高確率状態カウンタ133の値が「0」となること）が発生していることを特定した場合に特定遊技状態（高確率状態）を終了させ、当該特定終了契機が発生していないことを特定した場合に前記特定遊技状態を終了させない特定終了処理（第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82にて実行される高確率状態カウンタ133の減算処理）を実行する特定終了実行手段（第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82の高確率状態カウンタ133の減算処理を実行する機能）と、

前記遊技回において、所定開始契機（時短結果、天井時短）が発生していることを特定した場合に所定遊技状態（低確率モード及び第2高頻度サポートモードである時短状態）を開始させ、当該所定開始契機が発生していないことを特定した場合に前記所定遊技状態を開始させない所定開始処理（第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82にて実行される時短結果用の設定処理又は天井カウンタ131の減算処理）を実行する所定開始実行手段（第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理を実行する機能、第1、第4、第5、第7～第9の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ131の減算処理を実行する機能）と、を備え、

前記所定開始実行手段は、前記特定遊技状態において前記所定開始処理が実行された場合には前記所定開始契機が発生しないようにするものであり、又は前記特定遊技状態において前記所定開始処理が実行された場合には前記所定開始契機の発生を無効とするものであり、

1回の前記遊技回において前記所定開始処理が実行された後に前記特定終了処理が実行されることを特徴とする遊技機。

【3742】

特徴 B 1 によれば、特定終了処理にて特定終了契機が発生していることが特定された場合に特定遊技状態が終了され、所定開始処理にて所定開始契機が発生していることが特定された場合に所定遊技状態が開始されるため、特定遊技状態であることを期待する遊技者は特定遊技状態において特定終了契機が発生しないことを期待し、所定遊技状態であることを期待する遊技者は所定遊技状態ではない遊技状態において所定開始契機が発生することを期待する。

【3743】

この場合に、特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機が発生しない、又は特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機の発生が無効となる。これにより、特定遊技状態において所定遊技状態が重複して発生してしまわないようにすることが可能となる。

10

【3744】

また、1回の遊技回において所定開始処理が実行された後に特定終了処理が実行されるため、特定遊技状態が終了する遊技回であっても、特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機が発生しない、又は特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機の発生が無効となる。これにより、特定遊技状態の最後の遊技回であっても特定遊技状態において開始された遊技回において所定遊技状態が発生してしまわないようにすることが可能となる。よって、遊技者に対する利益の付与が過剰なものとなってしまうようにすることが可能となる。また、1回の遊技回における処理の実行順序を所定開始処理の実行後に特定終了処理が実行される順序とするという簡素な構成によって上記のような優れた効果を奏することが可能である。

20

【3745】

特徴 B 2 . 前記特定遊技状態の方が前記所定遊技状態よりも遊技者にとって有利であることを特徴とする特徴 B 1 に記載の遊技機。

【3746】

特徴 B 2 によれば、特定遊技状態の方が所定遊技状態よりも遊技者にとって有利であるため、特定遊技状態において実行された遊技回においては所定遊技状態が発生しない構成であっても遊技者に大きな不利益を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3747】

特徴 B 3 . 前記特定終了処理及び前記所定開始処理はいずれも前記遊技回において前記遊技回実行手段における前記遊技回用動作が終了した後に実行されることを特徴とする特徴 B 1 又は B 2 に記載の遊技機。

30

【3748】

特徴 B 3 によれば、特定終了処理及び所定開始処理はいずれも遊技回用動作が終了した後に実行されるため、これら処理が遊技回用動作を開始させるための処理及び遊技回用動作を進行させるための処理が実行されない状況で実行されることとなり、処理負荷を分散することが可能となる。また、このように処理負荷を分散した構成であっても上記特徴 B 1 の構成を備え、特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機が発生しない、又は特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機の発生が無効となる構成において、1回の遊技回において所定開始処理が実行された後に特定終了処理が実行されるため、遊技者に対する利益の付与が過剰なものとなってしまうようにすることが可能となる。

40

【3749】

特徴 B 4 . 所定抽選処理（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 にて実行される保留情報の取得処理及び当否判定処理）を実行する所定抽選手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 の保留情報の取得処理及び当否判定処理を実行する機能）を備え、

前記遊技回制御手段は、前記所定抽選処理の結果に対応する動作結果となるように前記遊技回実行手段を制御するものであり、

前記所定抽選処理の結果が所定抽選結果（時短結果）となった場合に前記所定開始契機

50

が発生する構成であり、

前記所定開始実行手段は、前記特定遊技状態において前記所定開始処理が実行された場合には前記所定開始契機の発生を無効とするものであることを特徴とする特徴 B 1 乃至 B 3 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3750】

特徴 B 4 によれば、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、上記特徴 B 1 の構成を備え、特定遊技状態において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機の発生が無効となる構成において、1 回の遊技回において所定開始処理が実行された後に特定終了処理が実行されるため、遊技者に対する利益の付与が過剰なものとなってしまうようにすることが可能となる。

10

【3751】

特徴 B 5 . 前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ 131）を備え、

前記所定開始実行手段は、前記所定開始処理として、前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新処理（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 , 第 8 の実施形態では主側 MPU 82 にて実行されるステップ S 1503、第 9 の実施形態では主側 MPU 82 にて実行されるステップ S 3703）、及び当該所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態では固定天井回数）となった場合に前記所定開始契機の発生として前記所定遊技状態を開始させる開始実行処理（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 , 第 8 の実施形態では主側 MPU 82 にて実行されるステップ S 1506、第 9 の実施形態では主側 MPU 82 にて実行されるステップ S 3705）を実行するものであり、

20

前記特定遊技状態においては前記回数更新処理が実行されないことを特徴とする特徴 B 1 乃至 B 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3752】

特徴 B 5 によれば、所定契機回数の遊技回が実行されたことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、特定遊技状態においては遊技回が実行されたとしても所定計測手段にて計測されている遊技回の実行回数を更新するための回数更新処理が実行されない。これにより、特定遊技状態においては、所定遊技状態が発生しないだけでなく、所定遊技状態の発生を近付ける回数更新処理すら実行されないようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴 B 1 の構成を備え、1 回の遊技回において所定開始処理が実行された後に特定終了処理が実行されるため、特定遊技状態が終了する遊技回であっても所定遊技状態の発生を近付ける回数更新処理が実行されないようにすることが可能となる。

30

【3753】

特徴 B 6 . 取得契機が発生したことに基づいて特別情報（第 1 保留情報、第 2 保留情報）を取得する取得手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ S 704 及びステップ S 709 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 82 の当否判定処理を実行する機能）と、

40

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 82 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、を備え、

前記遊技回制御手段は、遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の 1 回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記特定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記付与判定の結果が前記付与対応結果となる確率が高い遊技状態であることを特徴とする特徴 B 1 乃至 B 5 のいずれ

50

か 1 に記載の遊技機。

【3754】

特徴 B 6 によれば、特定遊技状態においては付与判定の結果が付与対応結果となる確率が高くなるため、特定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3755】

特徴 B 7 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における第 2 作動口 3 4）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 7 0 9 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第 1 , 第 4 , 第 5 , 第 7 ~ 第 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

前記遊技回制御手段は、遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の 1 回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴 B 1 乃至 B 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3756】

特徴 B 7 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3757】

特徴 B 8 . 前記特定遊技状態は、前記所定遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴 B 7 に記載の遊技機。

【3758】

特徴 B 8 によれば、所定入球手段の開放状態のなり易さに関して、特定遊技状態は所定遊技状態よりも有利となる。したがって、特定遊技状態において実行された遊技回においては所定遊技状態が発生しない構成であっても遊技者に大きな不利益を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3759】

なお、特徴 B 1 ~ B 8 の構成に対して、特徴 A 1 ~ A 8、特徴 B 1 ~ B 8、特徴 C 1 ~ C 8、特徴 D 1 ~ D 8、特徴 E 1 ~ E 9、特徴 F 1 ~ F 6、特徴 G 1 ~ G 1 1、特徴 H 1 ~ H 8、特徴 I 1 ~ I 5、特徴 J 1 ~ J 7、特徴 K 1 ~ K 7、特徴 L 1 ~ L 5、特徴 M 1 ~ M 4、特徴 N 1 ~ N 8、特徴 O 1 ~ O 8、特徴 P 1 ~ P 6、特徴 Q 1 ~ Q 1 6、特徴 R 1 ~ R 6、特徴 S 1 ~ S 7、特徴 T 1 ~ T 3、特徴 U 1 ~ U 5、特徴 V 1 ~ V 6、特徴 W 1 ~ W 1 1、特徴 X 1 ~ X 1 4、特徴 Y 1 ~ Y 1 0、特徴 Z 1 ~ Z 1 0、特徴 a 1 ~ a 2

10

20

30

40

50

0、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3760】

<特徴C群>

特徴C1．遊技回において遊技回用動作が実行されるよう遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第2の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

10

前記遊技回が開始された場合における遊技状態の情報を記憶する状態記憶手段（主側RAM84のスタート高確フラグ）と、

前記遊技回用動作が終了した後において、所定開始契機（時短結果、天井時短）が発生していることを特定した場合に所定遊技状態（低確率モード及び第2高頻度サポートモードである時短状態）を開始させ、当該所定開始契機が発生していないことを特定した場合に前記所定遊技状態を開始させない所定開始処理（第2の実施形態における主側MPU82にて実行される時短結果用の設定処理又は天井カウンタ131の減算処理）を実行する所定開始実行手段（第2の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理を実行する機能、第2の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ131の減算処理を実行する機能）と、

20

を備え、

前記所定開始実行手段は、前記状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている状況（主側RAM84のスタート高確フラグに「1」がセットされている状況）において前記所定開始処理が実行された場合、前記所定開始契機が発生しないようにする又は前記所定開始契機の発生を無効とすることを特徴とする遊技機。

【3761】

特徴C1によれば、所定開始処理にて所定開始契機が発生していることが特定された場合に所定遊技状態が開始されるため、所定遊技状態であることを期待する遊技者は所定遊技状態ではない遊技状態において所定開始契機が発生することを期待する。また、所定開始処理は遊技回用動作が終了した後に実行されるため、所定開始処理が遊技回用動作を開始させるための処理及び遊技回用動作を進行させるための処理が実行されない状況で実行されることとなり、処理負荷を分散することが可能となる。

30

【3762】

この場合に、状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている状況において所定開始処理が実行された場合には、所定開始契機が発生しないようにする又は所定開始契機の発生を無効とする。これにより、特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態において所定遊技状態が重複して発生してしまわないようにすることが可能となる。また、状態記憶手段には遊技回が開始された場合における遊技状態の情報が記憶される。これにより、遊技回用動作が終了した後に所定開始処理が実行される構成において、遊技回が開始された場合における遊技状態が特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態であり当該遊技回において所定開始処理が実行される前に当該遊技状態の終了条件が成立していたとしても、当該遊技回において所定遊技状態が発生してしまわないようにすることが可能となる。よって、特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態の利益が付与された遊技回において所定遊技状態が発生してしまわないようにすることが可能となり、遊技者に対する利益の付与が過剰なものとなってしまうようにすることが可能となる。

40

【3763】

特徴C2．前記状態記憶手段は、前記遊技回が開始された場合における遊技状態が特定遊技状態（高確率状態）である場合に前記特定状態情報を記憶するものであり、

50

本遊技機は、前記遊技回用動作が終了した後において、特定終了契機（１減算後における高確率状態カウンタ１３３の値が「０」となること）が発生していることを特定した場合に特定遊技状態（高確率状態）を終了させ、当該特定終了契機が発生していないことを特定した場合に前記特定遊技状態を終了させない特定終了処理（第２の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて実行される高確率状態カウンタ１３３の減算処理）を実行する特定終了実行手段（第２の実施形態における主側ＭＰＵ８２の高確率状態カウンタ１３３の減算処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｃ１に記載の遊技機。

【３７６４】

特徴Ｃ２によれば、特定終了処理にて特定終了契機が発生していることが特定された場合に特定遊技状態が終了されるため、特定遊技状態であることを期待する遊技者は特定遊技状態において特定終了契機が発生しないことを期待する。また、特定終了処理は遊技回用動作が終了した後に実行されるため、特定終了処理が遊技回用動作を開始させるための処理及び遊技回用動作を進行させるための処理が実行されない状況で実行されることとなり、処理負荷を分散することが可能となる。

【３７６５】

この場合に、遊技回用動作が終了した後に特定終了処理及び所定開始処理の両方が実行されることになる。そうすると、これら特定終了処理及び所定開始処理の実行順序によっては特定遊技状態において開始された遊技回であっても特定遊技状態ではない遊技状態となった後に所定開始処理が実行される可能性がある。これに対して、上記特徴Ｃ１の構成を備え、特定遊技状態において開始された遊技回では、当該遊技回が開始された場合に情報記憶手段に特定状態情報が記憶され、状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている状況において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機が発生しないようにする又は所定開始契機の発生を無効とする。よって、特定終了処理及び所定開始処理の実行順序に関係なく、特定遊技状態において開始された遊技回において所定遊技状態が発生してしまわなようにすることが可能となる。

【３７６６】

特徴Ｃ３．前記状態記憶手段は、前記遊技回が開始された場合における遊技状態が特定遊技状態（高確率状態）である場合に前記特定状態情報を記憶するものであり、

前記特定遊技状態の方が前記所定遊技状態よりも遊技者にとって有利であることを特徴とする特徴Ｃ１又はＣ２に記載の遊技機。

【３７６７】

特徴Ｃ３によれば、特定遊技状態の方が所定遊技状態よりも遊技者にとって有利であるため、特定遊技状態において開始された遊技回においては所定遊技状態が発生しない構成であっても遊技者に大きな不利益を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【３７６８】

特徴Ｃ４．取得契機が発生したことに基づいて特別情報（第１保留情報、第２保留情報）を取得する取得手段（第２の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳ７０４及びステップＳ７０９の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第２の実施形態における主側ＭＰＵ８２の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第２の実施形態における主側ＭＰＵ８２の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、
を備え、

前記遊技回制御手段は、遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の１回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記特定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記付与判定の結果が前記付

10

20

30

40

50

と対応結果となる確率が高い遊技状態であることを特徴とする特徴 C 2 又は C 3 に記載の遊技機。

【3769】

特徴 C 4 によれば、特定遊技状態においては付与判定の結果が付与対応結果となる確率が高くなるため、特定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3770】

特徴 C 5 . 所定抽選処理（第 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 にて実行される保留情報の取得処理及び当否判定処理）を実行する所定抽選手段（第 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 の保留情報の取得処理及び当否判定処理を実行する機能）を備え、

10

前記遊技回制御手段は、前記所定抽選処理の結果に対応する動作結果となるように前記遊技回実行手段を制御するものであり、

前記所定抽選処理の結果が所定抽選結果（時短結果）となった場合に前記所定開始契機が発生する構成であり、

前記所定開始実行手段は、前記状態記憶手段に前記特定状態情報が記憶されている状況において前記所定開始処理が実行された場合、前記所定開始契機の発生を無効とするものであることを特徴とする特徴 C 1 乃至 C 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3771】

特徴 C 5 によれば、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、上記特徴 C 1 の構成を備え、遊技回が開始された場合における遊技状態の情報が状態記憶手段に記憶されるとともに、状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている状況において所定開始処理が実行された場合には所定開始契機の発生を無効とするため、遊技回が開始された場合における遊技状態が特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態であり当該遊技回において所定開始処理が実行される前に当該遊技状態の終了条件が成立していたとしても、当該遊技回において所定遊技状態が発生してしまわなようにすることが可能となる。

20

【3772】

特徴 C 6 . 前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ 1 3 1）を備え、

前記所定開始実行手段は、前記所定開始処理として、前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新処理（第 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 にて実行されるステップ S 2 1 0 3）、及び当該所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（第 2 の実施形態では固定天井回数）となった場合に前記所定開始契機の発生として前記所定遊技状態を開始させる開始実行処理（第 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 にて実行されるステップ S 2 1 0 6）を実行するものであり、

30

前記状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている場合、前記回数更新処理が実行されないことを特徴とする特徴 C 1 乃至 C 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3773】

特徴 C 6 によれば、所定契機回数の遊技回が実行されたことに基づいて所定遊技状態が発生する構成において、状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている場合には遊技回が実行されたとしても所定計測手段にて計測されている遊技回の実行回数を更新するための回数更新処理が実行されない。これにより、特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態においては、所定遊技状態が発生しただけではなく、所定遊技状態の発生を近付ける回数更新処理すら実行されないようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴 C 1 の構成を備え、遊技回が開始された場合における遊技状態の情報が状態記憶手段に記憶されるとともに、状態記憶手段に特定状態情報が記憶されている状況において所定開始処理が実行された場合には所定計測手段にて計測されている遊技回の実行回数を更新するための回数更新処理が実行されないため、特定状態情報を記憶させる契機となる遊技状態が終了する遊技回であっても所定遊技状態の発生を近付ける回数更新処理が実行されないよう

40

50

にすることが可能となる。

【3774】

特徴C7. 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2の実施形態における第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第2の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第2の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第2の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記遊技回制御手段は、前記遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴C1乃至C6のいずれか1に記載の遊技機。

【3775】

特徴C7によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3776】

特徴C8. 前記状態記憶手段は、前記遊技回が開始された場合における遊技状態が特定遊技状態（高確率状態）である場合に前記特定状態情報を記憶するものであり、

前記特定遊技状態は、前記所定遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴C7に記載の遊技機。

【3777】

特徴C8によれば、所定入球手段の開放状態のなり易さに関して、特定遊技状態は所定遊技状態よりも有利となる。したがって、特定遊技状態において実行された遊技回においては所定遊技状態が発生しない構成であっても遊技者に大きな不利益を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3778】

なお、特徴C1～C8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～

10

20

30

40

50

o 1 6、特徴 p 1 ~ p 1 0、特徴 q 1 ~ q 7、特徴 r 1 ~ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3 7 7 9】

上記特徴 B 群及び上記特徴 C 群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3 7 8 0】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3 7 8 1】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3 7 8 2】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技者に対する利益の付与が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3 7 8 3】

<特徴 D 群>

特徴 D 1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第 1 特図表示部 3 7 a、第 2 特図表示部 3 7 b）を制御する遊技回制御手段（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

特定遊技状態（高確率状態）において当該特定遊技状態を終了させるか否かを決定する特定終了抽選処理（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される転落判定処理）を実行する特定抽選手段（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 の転落判定処理を実行する機能）と、

所定抽選処理（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される保留情報の取得処理及び当否判定処理）を実行する所定抽選手段（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 の保留情報の取得処理及び当否判定処理を実行する機能）と、

前記所定抽選処理の結果が所定抽選結果（時短結果）となったことに基づいて、遊技者に所定特典（第 2 高頻度サポートモード）を付与する所定特典付与手段（第 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 の時短結果用の設定処理を実行する機能）と、
を備え、

前記特定抽選手段は、1 回の前記遊技回において前記所定抽選処理が実行される前に前記特定終了抽選処理を実行することを特徴とする遊技機。

【3 7 8 4】

特徴 D 1 によれば、特定終了抽選処理にて特定遊技状態を終了させる抽選結果となった場合に特定遊技状態が終了され、所定抽選処理にて所定抽選結果となったことに基づき所定特典が遊技者に付与されるため、特定遊技状態であることを期待する遊技者は特定遊技状態において特定終了抽選処理にて当該特定遊技状態を終了させる抽選結果とならないことを期待し、所定特典が付与されることを期待する遊技者は所定抽選処理にて所定抽選結果となることを期待する。この場合に、1 回の遊技回において所定抽選処理が実行される前に特定終了抽選処理が実行される。これにより、特定遊技状態における遊技回において特定終了抽選処理の抽選結果が特定遊技状態を終了させる抽選結果となる場合には、当該特定遊技状態を終了させる抽選結果となった後に所定抽選処理が実行されるため、特定遊技状態が終了する遊技回においては特定遊技状態が終了した状況で所定抽選処理が実行されるようにすることが可能となる。よって、抽選処理を好適に行うことが可能となる。

10

20

30

40

50

【3785】

特徴D2．前記所定抽選手段は、前記特定遊技状態であるか否かに応じて前記所定抽選処理の実行態様を相違させることを特徴とする特徴D1に記載の遊技機。

【3786】

特徴D2によれば、特定遊技状態であるか否かに応じて所定抽選処理の実行態様が相違するため、所定抽選処理が実行されるタイミングにおける遊技状態に遊技者は注目することとなる。この場合に、上記特徴D1の構成を備え、特定遊技状態における遊技回において特定終了抽選処理の抽選結果が特定遊技状態を終了させる抽選結果となる場合には当該特定遊技状態を終了させる抽選結果となった後に所定抽選処理が実行されるため、特定遊技状態が終了する遊技回においては特定遊技状態が終了した状況で所定抽選処理が実行される。よって、所定抽選処理においては特定遊技状態が終了する遊技回を特定遊技状態ではない遊技回として扱うことが可能となる。

10

【3787】

特徴D3．前記特定終了抽選処理の結果が終了結果（転落結果）となったことに基づいて、前記特定遊技状態を終了させる特定終了処理（第3の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップS2208）を実行する手段（第3の実施形態における主側MPU82のステップS2208の処理を実行する機能）を備え、

前記特定終了抽選処理の結果が前記終了結果となった場合、前記所定抽選処理が実行される前に前記特定終了処理が実行されることを特徴とする特徴D1又はD2に記載の遊技機。

20

【3788】

特徴D3によれば、特定遊技状態における遊技回において特定終了抽選処理の結果が終了結果となった場合には、当該遊技回において所定抽選処理が実行される前に特定遊技状態を終了させることが可能となる。

【3789】

特徴D4．遊技球が流下する遊技領域に設けられ、開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置32）と、

当該可変入球手段を前記開放状態とした後に前記閉鎖状態に切り換える可変入球制御を実行する可変入球制御手段（第3の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理を実行する機能）と、

30

前記所定抽選処理の結果が特別抽選結果（大当たり結果）となったことに基づいて、前記可変入球制御が実行される特別遊技状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させる特別移行手段（第3の実施形態における主側MPU82の特電開始処理を実行する機能）と、を備えていることを特徴とする特徴D1乃至D3のいずれか1に記載の遊技機。

【3790】

特徴D4によれば、所定抽選処理の結果が特別抽選結果となったことに基づいて可変入球手段に対する可変入球制御が実行される特別遊技状態が発生する構成において、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったことに基づいて所定特典が付与される。これにより、特別遊技状態が発生させるか否かを決定する所定抽選処理の構成を利用して、所定特典を付与するか否かを決定することが可能となる。

40

【3791】

特徴D5．前記特定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定抽選処理の結果が前記特別抽選結果となる確率が高い遊技状態であることを特徴とする特徴D4に記載の遊技機。

【3792】

特徴D5によれば、特定遊技状態においては特別遊技状態が発生する確率が高くなるため、特定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、上記特徴D1の構成を備え、特定抽選処理の結果が特定遊技状態を終了させる結果となる遊技回においては特定遊技状態が終了した後に所定抽選処理が実行される。これにより、特定遊技状態において所定抽選処理が実行される遊技回の発生頻度を抑えることが可能となる。

50

【3793】

特徴D6．数値情報を更新する特定更新手段（種別乱数カウンタC2）と、

前記所定抽選処理の結果が前記特別抽選結果となった場合に前記特定更新手段により更新された前記数値情報を利用して特別種類抽選処理（第3の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップS2211の処理）を実行することで、遊技者に付与可能な特典（開閉実行モード、当否抽選モード及びサポートモード）の種類を決定する手段（第3の実施形態における主側MPU82のステップS2211の処理を実行する機能）と、

前記所定抽選処理の結果が前記所定抽選結果となった場合に前記特定更新手段により更新された前記数値情報を利用して所定種類抽選処理（第3の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップS2217の処理）を実行することで、遊技者に付与可能な前記所定特典の種類を決定する手段（第3の実施形態における主側MPU82のステップS2217の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴D4又はD5に記載の遊技機。

【3794】

特徴D6によれば、所定抽選処理の結果が特別抽選結果となった場合には特別種類抽選処理により選択された種類の特典が付与されるため、当該特典の付与態様を多様化させることが可能となる。また、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となった場合には所定種類抽選処理により選択された種類の所定特典が付与されるため、当該所定特典の付与態様を多様化させることが可能となる。この場合に、特別種類抽選処理にて特定更新手段の数値情報が利用される構成において、所定種類抽選処理においても特定更新手段の数値情報が利用される。これにより、特別抽選結果となった場合に付与する特典の種類を決定するための構成を利用して、所定抽選結果となった場合に付与する所定特典の種類を決定することが可能となる。

【3795】

特徴D7．前記所定特典付与手段は、前記特定遊技状態である状況で前記所定抽選処理の結果が前記所定抽選結果となったとしても、前記所定特典を付与しないことを特徴とする特徴D1乃至D6のいずれか1に記載の遊技機。

【3796】

特徴D7によれば、特定遊技状態である状況で所定抽選処理の結果が所定抽選結果となったとしても所定特典が付与されないことにより、所定特典が過剰に付与されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴D1の構成を備え、特定遊技状態における遊技回において特定終了抽選処理の抽選結果が特定遊技状態を終了させる抽選結果となる場合には当該特定遊技状態を終了させる抽選結果となった後に所定抽選処理が実行されるため、特定遊技状態が終了する遊技回においては特定遊技状態が終了した状況で所定抽選処理が実行される。よって、特定遊技状態が終了する遊技回においては所定特典が付与され得るようにすることが可能となる。

【3797】

特徴D8．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第3の実施形態における主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第3の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定抽選手段は、前記特別情報が取得されたことに基づいて前記所定抽選処理を実行し、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第2高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴D1乃至D7のいずれか1に記載の遊

10

20

30

40

50

技機。

【3798】

特徴D8によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、特別情報が取得されることで所定抽選処理が実行される構成において、所定遊技状態である場合には別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、遊技者は所定遊技状態となること及び所定遊技状態が長く継続することを期待することとなる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3799】

なお、特徴D1～D8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3800】

上記特徴D群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3801】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3802】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3803】

ここで、上記例示等のような遊技機においては抽選処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3804】

<特徴E群>

特徴E1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第1～第12の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ131）と、

前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新手段（第1、第3～第8の実施形態では主側MPU82におけるステップS1503の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS2103の処理を実行する機能、第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS3703の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4503の処理を実行する機能）と、

前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（第1～

10

20

30

40

50

第4, 第6～第12の実施形態では固定天井回数、第5の実施形態では第1天井回数又は第2天井回数)となった場合に所定特典(第2高頻度サポートモード)を付与する所定特典付与手段(第1, 第3～第8の実施形態では主側MPU82におけるステップS1506の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS2106の処理を実行する機能、第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS3705の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4505の処理を実行する機能)と、

動作電力の供給が開始された場合に所定記憶手段(主側RAM84)に情報異常が発生していることを特定した場合、異常対応処理(第1～第3, 第6～第12の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS121、第4の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS2421、第5の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS2621)を実行する異常対応手段(第1～第3, 第6～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS121の処理を実行する機能、第4の実施形態では主側MPU82におけるステップS2421の処理を実行する機能、第5の実施形態では主側MPU82におけるステップS2621の処理を実行する機能)と、

前記情報異常が発生したことに基づいて、前記所定計測手段の情報が所定の初期値(第1～第4, 第6～第12の実施形態では「500」、第5の実施形態では「800」)となるようにする所定設定処理(第1～第3, 第6～第12の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS122、第4の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS2506、第5の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS2622)を実行する所定設定手段(第1～第3, 第6～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS122の処理を実行する機能、第4の実施形態では主側MPU82におけるステップS2506の処理を実行する機能、第5の実施形態では主側MPU82におけるステップS2622の処理を実行する機能)と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【3805】

特徴E1によれば、所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与されるため、遊技回が繰り返し実行されたことに対して遊技者に所定特典が付与されるようにすることが可能となる。また、動作電力の供給が開始された場合に所定記憶手段に情報異常が発生している場合には異常対応処理が実行されるため、情報異常の発生に対して対処することが可能となる。この場合に、情報異常が発生したことに基づいて所定計測手段の情報が所定の初期値となる。情報異常が発生している場合には所定計測手段の情報が異常な情報となっているおそれがあるが、このような状況においては所定計測手段の情報が所定の初期値となるため、所定計測手段の情報が異常な情報のまま遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【3806】

特徴E2. 遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理(当否判定処理)を実行する手段(主側MPU82における当否判定処理を実行する機能)と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作(設定変更操作)が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況(設定値更新処理が実行される状況)となるようにする状況発生手段(第1～第3, 第6～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS117の処理を実行する機能、第5の実施形態では主側MPU82におけるステップS2617の処理を実行する機能)と、

を備え、
前記所定設定手段は、前記設定可能状況において前記所定設定処理を実行しないことを特徴とする特徴E1に記載の遊技機。

【3807】

特徴E2によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となってい

10

20

30

40

50

ることを期待することとなる。この場合に、設定可能状況において所定計測手段の情報が所定の初期値に設定されないため、設定可能状況が発生したとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴 E 1 の構成を備え、情報異常が発生したことに基づいて所定計測手段の情報が所定の初期値となるため、所定計測手段の情報が異常な情報のまま遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【3808】

特徴 E 3 . 前記異常対応手段は、前記異常対応処理にて異常対応情報（「1」の情報）を異常対応記憶領域（主側 RAM 8 4 の遊技停止フラグ）に記憶させるものであり、

本遊技機は、前記設定可能状況が発生する場合に前記異常対応記憶領域を初期化する手段（第 1 ～第 3 , 第 5 ～第 1 2 の実施形態では主側 MPU 8 2 における設定値更新処理にて RAM クリアを実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 E 2 に記載の遊技機。

【3809】

特徴 E 3 によれば、情報異常が発生したことに基づき記憶された異常対応情報を消去するためには設定可能状況が発生させる必要がある構成において、当該設定可能状況において所定計測手段の情報が所定の初期値となるのではなく、異常対応情報が記憶される場合に所定計測手段の情報が所定の初期値となる。これにより、設定可能状況においては異常対応情報が記憶されているか否かに関係なく異常対応記憶領域を初期化すればよく、異常対応情報が記憶されているか否かによって設定可能状況における処理の実行内容を相違させる必要がない。よって、設定可能状況における処理の負荷を軽減することが可能となる。

【3810】

特徴 E 4 . 前記異常対応手段は、前記異常対応処理にて異常対応情報（「1」の情報）を異常対応記憶領域（主側 RAM 8 4 の遊技停止フラグ）に記憶させるものであり、

本遊技機は、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（当否判定処理）を実行する手段（主側 MPU 8 2 における当否判定処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定変更操作）が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第 4 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ S 2 4 1 7 の処理を実行する機能）と、

前記設定可能状況が発生する場合に前記異常対応記憶領域を初期化する手段（第 4 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ S 2 5 0 4 及びステップ S 2 5 0 5 の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定設定手段は、前記異常対応情報が記憶されていない状況で前記設定可能状況が発生する場合には前記所定設定処理を実行することではなく、前記異常対応情報が記憶されている状況で前記設定可能状況が発生する場合に前記所定設定処理を実行することを特徴とする特徴 E 1 に記載の遊技機。

【3811】

特徴 E 4 によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、情報異常が発生したことに基づき記憶された異常対応情報を消去するためには設定可能状況が発生させる必要がある。この場合に、異常対応情報が記憶されていない状況で設定可能状況が発生する場合には所定計測手段の情報が所定の初期値となることはなく、異常対応情報が記憶されている状況で設定可能状況が発生する場合には所定計測手段の情報が所定の初期値となる。これにより、設定可能状況が発生した場合には基本的に所定計測手段の情報が所定の初期値とならないようにしながら、異常対応情報を消去するために設定可能状況が発生した場合にはそれに合わせて所定計測手段の情報が所定の初期値となるようにすることが可能となる。

【3812】

特徴E5．動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作（RAMクリア操作）が行われていることに基づいて前記所定記憶手段に対して所定の情報の初期化処理を実行する手段（第1～第3，第6～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS119の処理を実行する機能、第4の実施形態では主側MPU82におけるステップS2419の処理を実行する機能、第5の実施形態では主側MPU82におけるステップS2619の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化処理が実行されたとしても前記所定計測手段の情報が初期化されることはなく、

前記所定設定手段は、前記初期化処理が実行されたとしても前記所定設定処理を実行しないことを特徴とする特徴E1乃至E4のいずれか1に記載の遊技機。

10

【3813】

特徴E5によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作が行われていることに基づいて所定記憶手段に対して所定の情報の初期化処理が実行される構成において、当該初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が所定の初期値に設定されない。これにより、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴E1の構成を備え、情報異常が発生したことに基づいて所定計測手段の情報が所定の初期値となるため、所定計測手段の情報が異常な情報のまま遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

20

【3814】

特徴E6．遊技者に有利な特別遊技状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させる手段（第1～第4，第6～第12の実施形態における主側MPU82の特電開始処理を実行する機能）と、

前記特別遊技状態への移行を契機として、前記所定計測手段の情報が前記所定の初期値となるようにする手段（第1，第4，第8，第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS1005の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS1905の処理を実行する機能、第3の実施形態では主側MPU82におけるステップS2305の処理を実行する機能、第6の実施形態では主側MPU82におけるステップS3109の処理を実行する機能、第7の実施形態では主側MPU82におけるステップS3305の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4208の処理を実行する機能）と、

30

を備えていることを特徴とする特徴E1乃至E5のいずれか1に記載の遊技機。

【3815】

特徴E6によれば、特別遊技状態への移行を契機として所定計測手段の情報が所定の初期値となる構成において、動作電力の供給が開始された場合に情報異常が発生している場合にも所定計測手段の情報が所定の初期値となる。これにより、情報異常が発生した場合には所定特典が付与されるために必要な遊技回の実行回数を、特別遊技状態が発生した後において所定特典が付与されるために必要な遊技回の実行回数と同一とすることが可能となる。

40

【3816】

特徴E7．遊技者に有利な特別遊技状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させる手段（主側MPU82における特電開始処理を実行する機能）を備え、

前記所定特典付与手段は、前記特別遊技状態が終了した後において実行された前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となっていることを前記所定計測手段により計測されている情報に基づいて特定した場合、前記所定特典を付与するものであり、

前記所定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数（第5の実施形態における「800」）と、前記特別遊技状態が終了した後において前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数（第5の実施形態における「500」）

50

とが相違していることを特徴とする特徴 E 1 乃至 E 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3817】

特徴 E 7 によれば、特別遊技状態が発生した後に実行された遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与される構成において、情報異常が発生した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数と、特別遊技状態が終了した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数とが相違している。これにより、所定特典が付与されるまでに必要な遊技回の実行回数を、特別遊技状態が終了した後と、情報異常が発生した後とで相違させることが可能となる。

【3818】

特徴 E 8 . 前記所定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数の方が、前記特別遊技状態が終了した後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数よりも多い回数であることを特徴とする特徴 E 7 に記載の遊技機。

【3819】

特徴 E 8 によれば、情報異常が発生した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数の方が、特別遊技状態が終了した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数よりも多い回数であることにより、不正に情報異常が発生させる行為が行われた場合にはその後に所定特典が付与されるまでに必要な遊技回の実行回数を多くすることが可能となる。

【3820】

特徴 E 9 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 1 ～ 第 5 , 第 7 ～ 第 9 の実施形態では第 2 作動口 3 4、第 6 , 第 1 0 ～ 第 1 2 の実施形態では特別入賞装置 1 5 1）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（第 1 ～ 第 5 , 第 7 ～ 第 9 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 7 0 9 の処理を実行する機能、第 6 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 2 8 0 6 の処理を実行する機能、第 1 0 ～ 第 1 2 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 3 9 0 1 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第 1 ～ 第 1 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第 1 ～ 第 1 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第 1 ～ 第 1 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記遊技回制御手段は、前記遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の 1 回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第 2 高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴 E 1 乃至 E 8 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3821】

特徴 E 9 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態

10

20

30

40

50

である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3822】

なお、特徴E1～E9の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【3823】

上記特徴E群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3824】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【3825】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3826】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

30

【3827】

<特徴F群>

特徴F1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第1～第5、第7～第12の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ131）と、

前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新手段（第1、第3～第5、第7、第8の実施形態では主側MPU82におけるステップS1503の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS2103の処理を実行する機能、第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS3703の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4503の処理を実行する機能）と、

40

前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（第1～第4、第7～第12の実施形態では固定天井回数、第5の実施形態では第1天井回数又は第2天井回数）となった場合に所定特典（第2高頻度サポートモード）を付与する所定特典付与手段（第1、第3～第5、第7、第8の実施形態では主側MPU82におけるステップS1506の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS2106の処理を実行する機能、第9の実施形態では主側MPU82におけるステ

50

ップS3705の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4505の処理を実行する機能)と、

遊技者に有利な特別遊技状態(開閉実行モード)に遊技状態を移行させる特別移行手段(第1～第5, 第7～第12の実施形態における主側MPU82の特電開始処理を実行する機能)と、

前記特別遊技状態が開始される場合に前記所定計測手段の情報が特定の初期値(第1～第5, 第7～第12の実施形態における「500」)となるようにする所定設定処理(第1, 第4, 第5, 第8, 第9の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS1005の処理、第2の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS1905の処理、第3の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS2305の処理、第7の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS3305の処理、第10～第12の実施形態では主側MPU82にて実行されるステップS4208の処理)を実行する所定設定手段(第1, 第4, 第5, 第8, 第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS1005の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS1905の処理を実行する機能、第3の実施形態では主側MPU82におけるステップS2305の処理を実行する機能、第7の実施形態では主側MPU82におけるステップS3305の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS4208の処理を実行する機能)と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【3828】

特徴F1によれば、所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与されるため、遊技回が繰り返し実行されたことに対して遊技者に所定特典が付与されるようにすることが可能となる。また、特別遊技状態を契機として所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されるため、特別遊技状態の終了後に実行された遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与されるようにすることが可能となる。この場合に、特別遊技状態を契機として所定計測手段の情報が特定の初期値に設定される場合、特別遊技状態が開始される場合に当該特定の初期値の設定が行われる。これにより、特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為が行われたとしても、その維持された所定計測手段の情報は特別遊技状態が開始される場合に設定された特定の初期値となる。よって、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【3829】

特徴F2. 遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理(当否判定処理)を実行する手段(主側MPU82における当否判定処理を実行する機能)と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作(設定変更操作)が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況(設定値更新処理が実行される状況)となるようにする状況発生手段(第1～第3, 第7～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS117の処理を実行する機能、第4の実施形態では主側MPU82におけるステップS2417の処理を実行する機能、第5の実施形態では主側MPU82におけるステップS2617の処理を実行する機能)と、
を備え、

前記所定設定手段は、前記設定可能状況において前記所定設定処理を実行しないことを特徴とする特徴F1に記載の遊技機。

【3830】

特徴F2によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定可能状況において所定計測手段の情報が

特定の初期値に設定されないため、設定可能状況が発生したとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴 F 1 の構成を備え、特別遊技状態が開始される場合に当該特定の初期値の設定が行われる。これにより、特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為が行われたとしても、その維持された所定計測手段の情報は特別遊技状態が開始される場合に設定された特定の初期値となる。よって、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【3831】

特徴 F 3 . 動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作 (RAM クリア操作) が行われていることに基づいて所定記憶手段 (主側 RAM 8 4) に対して所定の情報の初期化処理を実行する手段 (第 1 ~ 第 3 , 第 7 ~ 第 1 2 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 1 1 9 の処理を実行する機能、第 4 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 2 4 1 9 の処理を実行する機能、第 5 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 2 6 1 9 の処理を実行する機能) を備え、

前記初期化処理が実行されたとしても前記所定計測手段の情報が初期化されることはなく、

前記所定設定手段は、前記初期化処理が実行されたとしても前記所定設定処理を実行しないことを特徴とする特徴 F 1 又は F 2 に記載の遊技機。

【3832】

特徴 F 3 によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作が行われていることに基づいて所定記憶手段に対して所定の情報の初期化処理が実行される構成において、当該初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されない。これにより、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴 F 1 の構成を備え、特別遊技状態が開始される場合に当該特定の初期値の設定が行われる。これにより、特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為が行われたとしても、その維持された所定計測手段の情報は特別遊技状態が開始される場合に設定された特定の初期値となる。よって、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【3833】

特徴 F 4 . 遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理 (当否判定処理) を実行する手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 ~ 第 1 2 の実施形態における主側 MPU 8 2 の当否判定処理を実行する機能) と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作 (設定変更操作) が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況 (設定値更新処理が実行される状況) となるようにする状況発生手段 (第 1 ~ 第 3 , 第 7 ~ 第 1 2 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 1 1 7 の処理を実行する機能、第 4 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 2 4 1 7 の処理を実行する機能、第 5 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 2 6 1 7 の処理を実行する機能) と、
を備え、

前記所定設定手段は、前記初期化処理が実行されたとしても前記所定設定処理を実行しない構成であって前記設定可能状況において前記所定設定処理を実行しない構成であり、動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作及び前記所定関連操作の両方が行われていない所定状況 (第 1 ~ 第 3 , 第 7 ~ 第 1 2 の実施形態では主側 MPU 8 2 におけるステップ S 1 1 3 にて肯定判定をする状況、第 4 の実施形態では主側 MPU 8 2 における

10

20

30

40

50

ステップ S 2 4 1 3 にて肯定判定をする状況、第 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 2 6 1 3 にて肯定判定をする状況）である場合に前記所定設定処理を実行することを特徴とする特徴 F 3 に記載の遊技機。

【 3 8 3 4 】

特徴 F 4 によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されないとともに、設定可能状況において所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されないため、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となるだけでなく、設定可能状況が発生したとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作及び所定関連操作の両方が行われていない所定状況である場合に所定計測手段の情報が特定の初期値に設定される。これにより、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されないとともに設定可能状況において所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されない構成において、動作電力の供給が開始される場合に所定状況となるようにすることで所定計測手段の情報を特定の初期値に設定することが可能となる。

【 3 8 3 5 】

特徴 F 5 . 遊技球が流下する遊技領域に設けられ、開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置 3 2 ）と、

当該可変入球手段を前記開放状態とした後に前記閉鎖状態に切り換える可変入球制御を実行する可変入球制御手段（第 1 ～第 5 , 第 7 ～第 1 2 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理を実行する機能）と、
を備え、

前記特別移行手段は、前記遊技回用動作の動作結果が特別結果（大当たり結果に対応する停止結果）となる前記遊技回が終了した後に前記特別遊技状態に遊技状態を移行させるものであり、

前記特別遊技状態において前記可変入球制御が実行される構成であり、

前記所定設定手段は、前記遊技回用動作の動作結果が前記特別結果となった以降であって前記特別遊技状態において前記可変入球制御が開始される前に前記所定設定処理を実行することを特徴とする特徴 F 1 乃至 F 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 3 8 3 6 】

特徴 F 5 によれば、遊技回用動作の動作結果が特別結果となった以降であって特別遊技状態において可変入球制御が開始される前に、所定計測手段の情報を特定の初期値に設定することが可能となる。

【 3 8 3 7 】

特徴 F 6 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 1 ～第 5 , 第 7 ～第 9 の実施形態では第 2 作動口 3 4 、第 1 0 ～第 1 2 の実施形態では特別入賞装置 1 5 1 ）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（第 1 ～第 5 , 第 7 ～第 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 7 0 9 の処理を実行する機能、第 1 0 ～第 1 2 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 3 9 0 1 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第 1 ～第 5 , 第 7 ～第 1 2 の実施形態における主側 M P U 8 2 の当否判定処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第 1 ～第 5 , 第 7 ～第 1 2 の実施形態における主側 M P U 8 2 の普図普電制御処理を実行する機能）と、

を備え、

10

20

30

40

50

前記遊技回制御手段は、前記遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第2高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴F1乃至F5のいずれか1に記載の遊技機。

【3838】

特徴F6によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3839】

なお、特徴F1～F6の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3840】

上記特徴F群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3841】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3842】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3843】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技が適切に行われるようにする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3844】

<特徴G群>

特徴G1. 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第6の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ131）と、

前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行

10

20

30

40

50

回数を更新する回数更新手段（第6の実施形態における主側MPU82のステップS1503の処理を実行する機能）と、

前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（第6の実施形態における固定天井回数又は特別天井回数）となった場合に所定特典（第2高頻度サポートモード）を付与する所定特典付与手段（第6の実施形態における主側MPU82のステップS1506の処理を実行する機能）と、

遊技者に有利な特別遊技状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させる特別移行手段（第6の実施形態における主側MPU82の特電開始処理を実行する機能）と、

前記特別遊技状態が終了する場合に前記所定計測手段の情報が特定の初期値（第6の実施形態における「500」）となるようにする所定設定処理（第6の実施形態における主側MPU82のステップS3109の処理）を実行する所定設定手段（第6の実施形態における主側MPU82のステップS3109の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【3845】

特徴G1によれば、所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与されるため、遊技回が繰り返し実行されたことに対して遊技者に所定特典が付与されるようにすることが可能となる。また、特別遊技状態を契機として所定計測手段の情報が特定の初期値に設定されるため、特別遊技状態の終了後に実行された遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典が付与されるようにすることが可能となる。この場合に、特別遊技状態を契機として所定計測手段の情報が特定の初期値に設定される場合、特別遊技状態が終了する場合に当該特定の初期値の設定が行われる。これにより、特別遊技状態に移行する直前の遊技状況が複数パターン存在する構成であっても特別遊技状態を契機として所定計測手段に特定の初期値を設定する処理を特別遊技状態が終了する場合の処理として集約することが可能となる。よって、処理構成の簡素化を図りながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【3846】

特徴G2．前記特別移行手段は、

前記遊技回が終了した場合に前記特別遊技状態に遊技状態を移行させる手段（第6の実施形態における主側MPU82のステップS3002～ステップS3005の処理を実行する機能）と、

前記遊技回の終了とは異なる事象が発生した場合に前記特別遊技状態に遊技状態を移行させる手段（第6の実施形態における主側MPU82の振分用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴G1に記載の遊技機。

【3847】

特徴G2によれば、遊技回が終了した後に特別遊技状態に移行する場合と、遊技回の終了とは異なる事象が発生した場合に特別遊技状態に移行する場合とがある。これにより、特別遊技状態に移行するパターンを多様化させることが可能となる。この場合に、上記特徴G1の構成を備え、特別遊技状態が終了する場合に所定計測手段に特定の初期値が設定されるため、特別遊技状態に移行する直前の遊技状況が複数パターン存在する構成であっても特別遊技状態を契機として所定計測手段に特定の初期値を設定する処理を特別遊技状態が終了する場合の処理として集約することが可能となる。

【3848】

特徴G3．前記特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合には、動作電力の供給が開始された後に前記所定計測手段の情報が前記特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値である状況で前記遊技回が実行されるようにするための特定設定処理（第6の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップS3204）を実行する特定設定手段（第6の実施形態における主側MPU82のステップS3204の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴G1又はG2に記載の遊技機。

【3849】

特別遊技状態が終了する場合に所定計測手段に特定の初期値が設定される構成の場合、

特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為が想定される。これに対して、特徴 G 3 によれば、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合には、動作電力の供給が開始された後に所定計測手段の情報が特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値である状況で遊技回が実行されるようにするための特定設定処理が実行される。これにより、上記のような不正行為を無力化させることが可能となる。

【3850】

特徴 G 4 . 動作電力の供給が停止されることを特定した場合、停電時処理（第 6 の実施形態における主側 MPU 8 2 にて実行される停電監視処理）を実行する手段（第 6 の実施形態における主側 MPU 8 2 の停電監視処理を実行する機能）を備え、

前記特定設定手段は、前記特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止される場合、前記停電時処理において前記特定設定処理を実行することを特徴とする特徴 G 3 に記載の遊技機。

【3851】

特徴 G 4 によれば、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止される場合、停電時処理において所定計測手段に特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値が設定されるため、当該所定計測手段に初期値を設定する処理を動作電力の供給開始時に実行する構成に比べて、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止される状況であるか否かを特定し易くなる。

【3852】

特徴 G 5 . 前記所定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数（第 6 の実施形態における「500」）と、前記特定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数（第 6 の実施形態における「800」）とが相違していることを特徴とする特徴 G 3 又は G 4 に記載の遊技機。

【3853】

特徴 G 5 によれば、特別遊技状態が終了した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数と、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合であって動作電力の供給が再開された後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数とが相違している。これにより、所定特典が付与されるまでに必要な遊技回の実行回数を、特別遊技状態が終了した後に、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止されて動作電力の供給が再開された後とで相違させることが可能となる。

【3854】

特徴 G 6 . 前記特定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数の方が、前記所定設定処理が実行された後に前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったと特定されるまでに必要な前記遊技回の実行回数よりも多い回数であることを特徴とする特徴 G 3 乃至 G 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3855】

特徴 G 6 によれば、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合であって動作電力の供給が再開された後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数の方が、特別遊技状態が終了した後に遊技回の実行回数が所定契機回数となったと特定されるまでに必要な遊技回の実行回数よりも多い回数であることにより、不正に特別遊技状態の途中で動作電力の供給を停止させる行為が行われた場合にはその後に所定特典が付与されるまでに必要な遊技回の実行回数を多くすることが可能となる。

【3856】

特徴 G 7 . 遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（第 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される当否判定処理）を実行する手段（第 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 の当否判定処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定変更操作）が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 1 1 7 の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記設定可能状況において前記所定計測手段の情報が変更されないことを特徴とする特徴 G 3 乃至 G 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

10

【 3 8 5 7 】

特徴 G 7 によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定可能状況において所定計測手段の情報が初期値に設定されないため、設定可能状況が発生したとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴 G 3 の構成を備え、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合には、動作電力の供給が開始された後に所定計測手段の情報が特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値である状況で遊技回が実行されるようにするための特定設定処理が実行される。これにより、特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為を無力化させることが可能となる。

20

【 3 8 5 8 】

特徴 G 8 . 動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作（R A M クリア操作）が行われていることに基づいて所定記憶手段（主側 R A M 8 4）に対して所定の情報の初期化処理を実行する手段（第 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 1 1 9 の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化処理が実行されたとしても前記所定計測手段の情報が初期化されることはなく、

30

前記初期化処理が実行されたとしても前記所定計測手段の情報が変更されないことを特徴とする特徴 G 3 乃至 G 7 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 3 8 5 9 】

特徴 G 8 によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作が行われていることに基づいて所定記憶手段に対して所定の情報の初期化処理が実行される構成において、当該初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が初期値に設定されない。これにより、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。当該構成において上記特徴 G 3 の構成を備え、特別遊技状態の途中で動作電力の供給が停止された場合には、動作電力の供給が開始された後に所定計測手段の情報が特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値である状況で遊技回が実行されるようにするための特定設定処理が実行される。これにより、特別遊技状態においてある程度の利益を得た後であって特別遊技状態が終了する前に、動作電力の供給を停止させるとともに動作電力の供給を再度開始させることによって所定計測手段の情報が維持されるようにしながら特別遊技状態を強制的に終了させる不正行為を無力化させることが可能となる。

40

【 3 8 6 0 】

特徴 G 9 . 遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（第 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される当否判定処理）を実行する手段（第 6 の実施形態における主側 M P U 8

50

2の当否判定処理を実行する機能)と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作(設定変更操作)が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況(設定値更新処理が実行される状況)となるようにする状況発生手段(第6の実施形態における主側MPU82のステップS117の処理を実行する機能)と、
を備え、

前記初期化処理が実行されたとしても前記所定計測手段の情報が変更されない構成であって前記設定可能状況において前記所定計測手段の情報が変更されない構成であり、

本遊技機は、動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作及び前記所定関連操作の両方が行われていない所定状況(第6の実施形態における主側MPU82のステップS113にて肯定判定をする状況)である場合に前記所定計測手段の情報が前記特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値となるようにする手段(第6の実施形態における主側MPU82のステップS114の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴G8に記載の遊技機。

【3861】

特徴G9によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が初期値に設定されないとともに、設定可能状況において所定計測手段の情報が初期値に設定されないため、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となるだけでなく、設定可能状況が発生したとしても所定計測手段の情報を動作電力の供給停止前の情報に維持させることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作及び所定関連操作の両方が行われていない所定状況である場合に所定計測手段の情報が特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値に設定される。これにより、初期化処理が実行されたとしても所定計測手段の情報が初期値に設定されないとともに設定可能状況において所定計測手段の情報が初期値に設定されない構成において、動作電力の供給が開始される場合に所定状況となるようにすることで所定計測手段の情報を特定の初期値又は当該特定の初期値とは異なる初期値に設定することが可能となる。

【3862】

特徴G10. 遊技球が流下する遊技領域に設けられ、開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段(特電入賞装置32)と、

当該可変入球手段を前記開放状態とした後に前記閉鎖状態に切り換える可変入球制御を実行する可変入球制御手段(第6の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理を実行する機能)と、
を備え、

前記特別遊技状態において前記可変入球制御が実行される構成であり、

前記所定設定手段は、前記特別遊技状態における前記可変入球制御が完了した以降であって当該特別遊技状態の終了タイミング以前に前記所定設定処理を実行することを特徴とする特徴G1乃至G9のいずれか1に記載の遊技機。

【3863】

特徴G10によれば、特別遊技状態において可変入球制御が完了した以降であって特別遊技状態の終了タイミング以前に、所定計測手段の情報を特定の初期値に設定することが可能となる。

【3864】

特徴G11. 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段(第6の実施形態における特別入賞装置151)と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報(第2保留情報)を取得する取得手段(第6の実施形態における主側MPU82のステップS2806の処理を実行する機能)と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（第6の実施形態における主側MPU82にて実行される当否判定処理）を行う付与判定手段（第6の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第6の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記遊技回制御手段は、前記遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第2高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴G1乃至G10のいずれか1に記載の遊技機。

10

【3865】

特徴G11によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

20

【3866】

なお、特徴G1～G11の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

30

【3867】

上記特徴G群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3868】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3869】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

40

【3870】

ここで、上記例示等のような遊技機においては処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3871】

<特徴H群>

50

特徴 H 1 . 遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段 (第 1 特図表示部 3 7 a 、 第 2 特図表示部 3 7 b) を制御する遊技回制御手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能) と、

前記遊技回の継続期間を決定する期間決定手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 の変動表示期間の特定処理を実行する機能) と、

前記遊技回の実行回数を計測する特定計測手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 9 の実施形態では変動選択状態カウンタ 1 3 2 、 第 7 の実施形態では主側 R A M 8 4 の遊技回数カウンタ) と、

前記遊技回が実行された場合に前記特定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する特定更新手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 1 7 0 3 の処理を実行する機能、 第 7 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 3 4 0 1 の処理を実行する機能) と、

計測基準契機 (開閉実行モード) が発生してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が特定基準回数 (第 1 ~ 第 5 , 第 9 の実施形態では 5 0 0 回、 第 7 の実施形態では下 1 桁が「 7 」となる遊技回数) となったことに基づいて、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる態様変更手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 1 7 0 5 の処理を実行する機能、 第 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 のステップ S 3 4 0 2 ~ ステップ S 3 4 0 5 の処理を実行する機能) と、

所定付与契機 (時短結果) が発生した場合に所定特典 (第 2 高頻度サポートモード) を付与する所定特典付与手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 の時短結果用の設定処理を実行する機能) と、
を備え、

前記所定付与契機が発生して前記所定特典が付与されたとしても前記計測基準契機は発生しないことを特徴とする遊技機。

【 3 8 7 2 】

特徴 H 1 によれば、計測基準契機が発生してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となったことに基づいて遊技回の継続期間の決定態様に変更されるため、遊技回が繰り返し実行された場合において遊技回の継続期間の決定態様が画一化してしまわないようにすることが可能となる。また、所定付与契機が発生した場合には所定特典が付与されるため、遊技者は所定付与契機が発生することを期待することとなる。この場合に、所定付与契機が発生して所定特典が付与されたとしても計測基準契機は発生しない。これにより、遊技回の継続期間の決定態様に変更されるタイミングに影響を与えないようにしながら、所定付与契機の発生に対して所定特典を付与することが可能となる。

【 3 8 7 3 】

特徴 H 2 . 所定抽選処理 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される保留情報の取得処理及び当否判定処理) を実行する所定抽選手段 (第 1 ~ 第 5 , 第 7 , 第 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 の保留情報の取得処理及び当否判定処理を実行する機能) を備え、

前記遊技回制御手段は、前記所定抽選処理の結果に対応する動作結果となるように前記遊技回実行手段を制御するものであり、

前記所定抽選処理の結果が所定抽選結果 (時短結果) となった場合に前記所定付与契機が発生する構成であることを特徴とする特徴 H 1 に記載の遊技機。

【 3 8 7 4 】

特徴 H 2 によれば、所定抽選処理の結果が所定抽選結果となった場合に所定特典が付与され得る構成において、遊技回の継続期間の決定態様に変更されるタイミングに影響を与えないようにしながら、所定抽選結果となったことに基づく所定特典の付与を行うことが可能となる。

【 3 8 7 5 】

特徴 H 3 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段 (第 1 ~ 第 5 , 第

10

20

30

40

50

7, 第9の実施形態における第2作動口34)と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報(第2保留情報)を取得する取得手段(第1~第5, 第7, 第9の実施形態における主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能)と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定(当否判定処理)を行う付与判定手段(第1~第5, 第7, 第9の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能)と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果(大当たり結果)となったことに基づいて、遊技者に特典(開閉実行モード)を付与する特典付与手段(第1~第5, 第7, 第9の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能)と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段(第1~第5, 第7, 第9の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能)と、

を備え、

前記遊技回制御手段は、前記遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるようにするものであり、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態(通常遊技状態)よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態(第2高頻度サポートモード)に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴H1又はH2に記載の遊技機。

【3876】

特徴H3によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、上記特徴H1の構成を備え、所定付与契機が発生して所定遊技状態が発生したとしても計測基準契機は発生しない。これにより、遊技回の継続期間の決定態様が変更されるタイミングに影響を与えないようにしながら、所定付与契機が発生に対する所定遊技状態への移行を発生させることが可能となる。

【3877】

特徴H4. 前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段(天井カウンタ131)と、

前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新手段(第1, 第3~第5, 第7の実施形態では主側MPU82におけるステップS1503の処理を実行する機能、第2の実施形態では主側MPU82におけるステップS2103の処理を実行する機能、第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS3703の処理を実行する機能)と、

を備え、

前記計測基準契機から前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数(第1~第4, 第7~第9の実施形態では固定天井回数、第5の実施形態では第1天井回数又は第2天井回数)となった場合に前記所定特典(第2高頻度サポートモード)又はそれとは異なる特典が付与される構成であり、

前記特定基準回数は、前記所定契機回数よりも所定の回数分少ない回数であることを特徴とする特徴H1乃至H3のいずれか1に記載の遊技機。

【3878】

特徴H4によれば、計測基準契機から所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回数となった場合に所定特典又はそれとは異なる特典が付与されるため、遊技回が繰り返し実行されたことに対して遊技者に所定特典又はそれとは異なる特典が付与されるようにすることが可能となる。この場合に、特定基準回数は所定契機回数よりも所定の回数分少ない回数である。これにより、計測基準契機から所定計測手段により計測

10

20

30

40

50

されている遊技回の実行回数が所定契機回数となり所定特典又はそれとは異なる特典が付与されるよりも所定の回数分前の遊技回において遊技回の継続期間の決定態様を異ならせることが可能となる。よって、遊技回の継続期間の決定態様を変更することを利用して、遊技回の実行回数が所定契機回数となることにより所定特典又はそれとは異なる特典が付与される状況が近づいていることを遊技者に認識させることが可能となる。この場合に、上記特徴 H 1 の構成を備え、所定付与契機が発生して所定特典が付与されたとしても計測基準契機は発生しない。これにより、上記のような遊技内容に対して、所定付与契機の発生による所定特典の付与が影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3879】

特徴 H 5 . 前記態様変更手段は、前記計測基準契機が発生してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となったことに基づいて前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる場合、前記遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるようにすることを特徴とする特徴 H 4 に記載の遊技機。

【3880】

特徴 H 5 によれば、計測基準契機から所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回数となり所定特典又はそれとは異なる特典が付与されるよりも所定の回数分前の遊技回において遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるため、遊技回の実行回数が所定契機回数となることにより所定特典又はそれとは異なる特典が付与される前に遊技回の消化効率を低下させることが可能となり、短期間に過剰な特典が付与されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴 H 1 の構成を備え、所定付与契機が発生して所定特典が付与されたとしても計測基準契機は発生しない。これにより、上記のような遊技内容に対して、所定付与契機の発生による所定特典の付与が影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3881】

特徴 H 6 . 前記特定基準回数は複数種類設定されており、

前記態様変更手段は、計測基準契機が発生してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となる度に、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を所定決定態様に変更させる（第 7 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ S 3 4 0 1 ～ステップ S 3 4 0 5 の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 H 1 乃至 H 3 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3882】

特徴 H 6 によれば、計測基準契機が発生してから実行された遊技回の回数が複数種類の特定基準回数のいずれかとなる度に、遊技回の継続期間の決定態様が所定決定態様に変更されるため、遊技回の内容に遊技者が注目する状況を定期的に繰り返し発生させることが可能となる。この場合に、上記特徴 H 1 の構成を備え、所定付与契機が発生して所定特典が付与されたとしても計測基準契機は発生しない。これにより、上記のような遊技内容に対して、所定付与契機の発生による所定特典の付与が影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。

【3883】

特徴 H 7 . 前記態様変更手段は、前記計測基準契機が発生してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となった場合の状況が特定状況（第 2 高頻度サポートモード）である場合、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させないことを特徴とする特徴 H 1 乃至 H 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【3884】

特徴 H 7 によれば、特定状況である場合には計測基準契機が発生してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となったとしても遊技回の継続期間の決定態様に変更されないため、遊技回の継続期間の決定態様を変更することが好ましくない状況においては遊技回の継続期間の決定態様に変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【3885】

特徴H8．前記態様変更手段は、前記計測基準契機が発生してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となったことに基づいて前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる場合、前記遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるようにするものであり、

前記特定状況は、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様が、通常遊技状態である場合よりも前記遊技回の継続期間の平均期間が短くなる決定態様である状況であることを特徴とする特徴H7に記載の遊技機。

【3886】

特徴H8によれば、計測基準契機が発生してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となった場合には遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなることにより、遊技回の演出として派手な演出が発生する状況を生じさせることが可能となる。この場合に、遊技回の継続期間の平均期間が通常遊技状態である場合よりも短い状況において、計測基準契機が発生してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となった場合には遊技回の継続期間の決定態様に変更されない。これにより、遊技回の消化効率が高い状況を優先させることが可能となる。

【3887】

なお、特徴H1～H8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3888】

<特徴I群>

特徴I1．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第8の実施形態における第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第8の実施形態における主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第8の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第8の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるように遊技実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b）を制御する遊技回制御手段（第8の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

前記遊技回の継続期間を決定する期間決定手段（第8の実施形態における主側MPU82の変動表示期間の特定処理を実行する機能）と、

10

20

30

40

50

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第8の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第2高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させる所定移行手段と、

前記遊技回の実行回数を計測する特定計測手段（第8の実施形態では変動選択状態カウンタ132）と、

前記所定遊技状態が終了してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が特定基準回数（第8の実施形態における50回）となったことに基づいて、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる態様変更手段（第8の実施形態における主側MPU82のステップS1705及びステップS3512の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【3889】

特徴I1によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となったことに基づいて遊技回の継続期間の決定態様に変更されるため、所定遊技状態が終了してから特定基準回数の遊技回が消化されたタイミングで遊技回の継続期間の決定態様に変化を与えることが可能となる。よって、遊技回の継続期間の決定態様が画一化してしまわないようにすることが可能となるとともに、遊技者に意外性を与えることが可能となる。

【3890】

特徴I2．前記所定移行手段は、前記付与判定の結果が、前記特別情報が所定対応情報に対応しているとする所定対応結果（時短結果）となったことに基づいて、前記特典を付与することなく、前記所定遊技状態に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴I1に記載の遊技機。

【3891】

特徴I2によれば、付与判定の結果に基づき、特典が付与されることなく所定遊技状態に遊技状態が移行する状況を生じさせることが可能となる。そして、上記特徴I1の構成を備え、当該所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となったことに基づいて遊技回の継続期間の決定態様に変更されるため、所定遊技状態が終了してから特定基準回数の遊技回が消化されたタイミングで遊技回の継続期間の決定態様に変化を与えることが可能となる。よって、遊技回の継続期間の決定態様が画一化してしまわないようにすることが可能となるとともに、遊技者に意外性を与えることが可能となる。

【3892】

特徴I3．前記態様変更手段は、前記所定遊技状態が終了してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となったことに基づいて前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる場合、前記遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるようにすることを特徴とする特徴I1又はI2に記載の遊技機。

【3893】

特徴I3によれば、所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となった場合には遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるため、所定遊技状態が発生した場合にはその後に遊技回の消化効率を低下させることが可能となり、短期間に過剰な特典が付与されてしまわないようにすることが可能となる。

【3894】

特徴I4．前記態様変更手段は、前記所定遊技状態が終了してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となった場合の状況が特定

10

20

30

40

50

状況（第2高頻度サポートモード）である場合、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させないことを特徴とする特徴I 1乃至I 3のいずれか1に記載の遊技機。

【3895】

特徴I 4によれば、特定状況である場合には所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となったとしても遊技回の継続期間の決定態様を変更されないため、遊技回の継続期間の決定態様を変更することが好ましくない状況においては遊技回の継続期間の決定態様を変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【3896】

特徴I 5．前記態様変更手段は、前記所定遊技状態が終了してから前記特定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記特定基準回数となったことに基づいて前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様を変更させる場合、前記遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなるようにするものであり、

10

前記特定状況は、前記期間決定手段における前記遊技回の継続期間の決定態様が、通常遊技状態である場合よりも前記遊技回の継続期間の平均期間が短くなる決定態様である状況であることを特徴とする特徴I 4に記載の遊技機。

【3897】

特徴I 5によれば、所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となった場合には遊技回の継続期間の平均期間がそれまでよりも長くなることにより、遊技回の演出として派手な演出が発生する状況を生じさせることが可能となる。この場合に、遊技回の継続期間の平均期間が通常遊技状態である場合よりも短い状況において、所定遊技状態が終了してから実行された遊技回の回数が特定基準回数となった場合には遊技回の継続期間の決定態様を変更されない。これにより、遊技回の消化効率が高い状況を優先させることが可能となる。

20

【3898】

なお、特徴I 1～I 5の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 11、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 16、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 11、特徴X 1～X 14、特徴Y 1～Y 10、特徴Z 1～Z 10、特徴a 1～a 20、特徴b 1～b 8、特徴c 1～c 6、特徴d 1～d 11、特徴e 1～e 15、特徴f 1～f 15、特徴g 1～g 12、特徴h 1～h 11、特徴i 1～i 18、特徴j 1～j 14、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

30

【3899】

<特徴J群>

特徴J 1．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第9の実施形態における第2作動口34）と、

40

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第9の実施形態における主側MPU 82のステップS 709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第9の実施形態における主側MPU 82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第9の実施形態における主側MPU 82の特電開始処理、特電開放

50

中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能)と、

遊技回用動作が開始され、前記付与判定の判定結果に対応する状態として当該遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記遊技回用動作が行われるように遊技実行手段(第1特図表示部37a、第2特図表示部37b)を制御する遊技回制御手段(第9の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能)と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段(第9の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能)と、

所定移行契機(時短結果、天井時短)が発生したことに基づいて、前記特典を付与することなく、別遊技状態(通常遊技状態)よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態(第2高頻度サポートモード)とする所定状態設定手段(第9の実施形態における主側MPU82のステップS3604及びステップS3705の処理を実行する機能)と、

を備え、

前記所定移行契機が発生した遊技状況に応じて、その後の前記所定遊技状態の実行態様が相違し得ることを特徴とする遊技機。

【3900】

特徴J1によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。また、所定移行契機が発生したことに基づいて所定遊技状態となる場合、特典が付与されることなく所定遊技状態となる。これにより、遊技者に意外性を与えることが可能となる。この場合に、所定移行契機が発生した遊技状況に応じてその後の所定遊技状態の実行態様が相違し得る。これにより、所定遊技状態の実行態様を多様化させることが可能となり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【3901】

特徴J2. 前記所定遊技状態において前記所定移行契機が発生した場合と、前記所定遊技状態ではない状況において前記所定移行契機が発生した場合とで、その後の前記所定遊技状態の実行態様が相違し得ることを特徴とする特徴J1に記載の遊技機。

【3902】

特徴J2によれば、所定遊技状態において所定移行契機が発生したか否かに応じて、その後の所定遊技状態の移行態様が相違し得るため、所定移行契機が発生するか否かだけでなく、所定遊技状態において所定移行契機が発生するか否かに遊技者を注目させることが可能となる。

【3903】

特徴J3. 前記所定遊技状態として、第1所定遊技状態(第1高頻度サポートモード)と、当該第1所定遊技状態とは前記所定入球手段が前記開放状態となる頻度が相違する第2所定遊技状態(第2高頻度サポートモード)と、が存在しており、

前記所定状態設定手段は、

前記第1所定遊技状態において前記所定移行契機が発生した場合、当該第1所定遊技状態が継続されるようにする第1所定状態設定手段(第9の実施形態における主側MPU82のステップS3603にて肯定判定をする機能)と、

前記第1所定遊技状態ではない遊技状態において前記所定移行契機が発生した場合、その後の遊技状態が前記第2所定遊技状態であるようにする第2所定状態設定手段(第9の実施形態における主側MPU82のステップS3604の処理を実行する機能)と、を備えていることを特徴とする特徴J1又はJ2に記載の遊技機。

【3904】

特徴J3によれば、所定遊技状態として第1所定遊技状態と、当該第1所定遊技状態とは所定入球手段が開放状態となる頻度が相違する第2所定遊技状態とが存在していること

10

20

30

40

50

により、所定遊技状態の実行態様を多様化させることが可能となる。また、第1所定遊技状態において所定移行契機が発生した場合には第1所定遊技状態が継続され、第2所定遊技状態ではない遊技状態において所定移行契機が発生した場合にはその後の遊技状態が第2所定遊技状態である。これにより、第1所定遊技状態において所定移行契機が発生するか否かに遊技者を注目させることが可能となる。

【3905】

特徴J4．前記第1所定遊技状態の方が前記第2所定遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となる頻度が高いことを特徴とする特徴J3に記載の遊技機。

【3906】

特徴J4によれば、第1所定遊技状態の方が第2所定遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となる頻度が高い構成において、第1所定遊技状態において所定移行契機が発生した場合には第1所定遊技状態が継続されることにより、遊技者にとって有利な側である第1所定遊技状態の継続を優先させることが可能となる。

【3907】

特徴J5．前記所定遊技状態において実行された前記遊技回の回数が終了基準回数（第1時短継続回数、第2時短継続回数）となったことに基づいて、当該所定遊技状態を終了させる手段（第9の実施形態における主側MPU82の時短状態カウンタ134の減算処理を実行する機能）を備え、

前記所定状態設定手段は、前記所定移行契機が発生したことに基づいて前記所定遊技状態に移行させる場合、当該所定遊技状態の前記終了基準回数が所定の回数（第1時短継続回数、第2時短継続回数）となるようにする構成であり、

本遊技機は、前記所定遊技状態において前記所定移行契機が発生した場合、その時点における前記所定遊技状態の前記終了基準回数に到達するまでに必要な残りの回数、及び前記所定の回数のうち多い側の回数が、その後の前記所定遊技状態の前記終了基準回数となるようにする手段（第9の実施形態における主側MPU82のステップS3605～ステップS3610及びステップS3706～ステップS3708の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴J1乃至J4のいずれか1に記載の遊技機。

【3908】

特徴J5によれば、所定遊技状態において所定移行契機が発生した場合にはその後の所定遊技状態の終了基準回数が遊技者にとって有利な回数となるようにすることが可能となる。

【3909】

特徴J6．前記所定移行契機は、前記付与判定の結果が、前記特別情報が所定対応情報に対応しているとする所定対応結果（時短結果）となったことに基づいて発生することを特徴とする特徴J1乃至J5のいずれか1に記載の遊技機。

【3910】

特徴J6によれば、付与判定の結果に基づき、特典が付与されることなく所定遊技状態に遊技状態が移行する状況を生じさせることが可能となる。この場合に上記のように優れた効果を奏することが可能となる。

【3911】

特徴J7．前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段（天井カウンタ131）と、前記遊技回が実行された場合に前記所定計測手段にて計測されている前記遊技回の実行回数を更新する回数更新手段（第9の実施形態における主側MPU82のステップS3703の処理を実行する機能）と、を備え、

前記所定移行契機は、前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数（固定天井回数）となった場合に発生することを特徴とする特徴J1乃至J6のいずれか1に記載の遊技機。

【3912】

特徴J7によれば、所定計測手段により計測されている遊技回の実行回数が所定契機回

10

20

30

40

50

数となった場合に所定遊技状態となるため、遊技回が繰り返し実行されたことに対して遊技状態が所定遊技状態に移行するようにすることが可能となる。この場合に上記のように優れた効果を奏することが可能となる。

【3913】

なお、特徴J1～J7の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3914】

上記特徴H群、上記特徴I群及び上記特徴J群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3915】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3916】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3917】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3918】

<特徴K群>

特徴K1. 取得契機が発生したことに基づいて特別情報（第1保留情報、第2保留情報）を取得する取得手段（第1～第5，第7～第9の実施形態では主側MPU82におけるステップS704及びステップS709の処理を実行する機能、第6の実施形態では主側MPU82におけるステップS2803及びステップS2806の処理を実行する機能、第10～第12の実施形態では主側MPU82におけるステップS3801及びステップS3901の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が所定対応情報に対応しているか否かの所定判定（当否判定処理）を行う所定判定手段（第1～第12の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記所定判定の結果が、前記特別情報が前記所定対応情報に対応しているとする所定対応結果（時短結果）となったことに基づいて、遊技者に所定特典（第2高頻度サポートモード）を付与する所定特典付与手段（第1～第12の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理を実行する機能）と、

所定絵柄の変動表示が開始され、前記所定判定の判定結果に対応する停止結果として当該所定絵柄の変動表示が終了されることを遊技回の1回として、各遊技回において前記所定絵柄の変動表示が行われるように所定表示手段（第1特図表示部37a、第2特図表示

10

20

30

40

50

部 3 7 b) を表示制御する所定表示制御手段 (第 1 ~ 第 1 2 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能) と、

前記遊技回において特定絵柄 (図柄列 Z 1 ~ Z 3 の図柄) の変動表示が実行されるように特定表示手段 (図柄表示装置 4 1) を表示制御する特定表示制御手段 (音光側 M P U 9 3、表示側 M P U 1 0 3) と、
を備え、

前記所定表示手段は、前記特定表示手段よりも表示範囲が狭い構成であり、

前記所定特典付与手段は、制限状況 (第 1 ~ 第 8 の実施形態では高確率状態又は時短状態、第 9 ~ 第 1 2 の実施形態では高確率状態) ではない付与可能状況 (第 1 ~ 第 8 の実施形態では通常遊技状態、第 9 ~ 第 1 2 の実施形態では通常遊技状態又は時短状態) において前記所定判定の結果が前記所定対応結果となったことに基づいて前記所定特典を付与し、前記制限状況において前記所定判定の結果が前記所定対応結果となった場合には前記所定特典を付与しない構成であり、

前記所定表示制御手段は、前記付与可能状況及び前記制限状況のいずれであっても、前記所定判定の結果が前記所定対応結果となった場合、前記所定表示手段における前記所定絵柄の変動表示の停止結果として所定停止結果 (「4」又は「5」) が表示されるようにするものであり、

前記特定表示制御手段は、

前記付与可能状況において前記所定判定の結果が前記所定対応結果となった場合、前記特定表示手段における前記特定絵柄の変動表示の停止結果として特定停止結果 (「1・2 3」又は「3・4・1」) が表示されるようにする付与可能対応手段 (第 1 ~ 第 1 2 の実施形態における音光側 M P U 9 3 のステップ S 1 4 0 8 の処理を実行する機能) と、

前記制限状況において前記所定判定の結果が前記所定対応結果となった場合、前記特定表示手段における前記特定絵柄の変動表示の停止結果として、前記所定判定の結果が外れ結果である場合に表示され得る所定外れ結果 (非リーチ外れ図柄の組合せ) が表示されるようにする制限対応手段 (第 1 ~ 第 1 2 の実施形態における音光側 M P U 9 3 のステップ S 1 4 1 0 の処理を実行する機能) と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【3919】

特徴 K 1 によれば、所定判定の結果が所定対応結果となったことに基づいて所定特典が付与されるため、遊技者は所定判定の結果が所定対応結果となることを期待することとなる。また、付与可能状況において所定判定の結果が所定対応結果となったことに基づいて所定特典が付与される一方、制限状況において所定判定の結果が所定対応結果となったとしても所定特典が付与されない。これにより、所定特典が付与される状況を制限することが可能となる。

【3920】

この場合に、所定表示手段よりも表示範囲が広い特定表示手段においては、付与可能状況において所定判定の結果が所定対応結果となった場合には特定絵柄の変動表示の停止結果として特定停止結果が表示されるのに対して、制限状況において所定判定の結果が所定対応結果となった場合には特定絵柄の変動表示の停止結果として所定判定の結果が外れ結果である場合に表示され得る所定外れ結果が表示される。これにより、所定特典が付与される場合には当該所定特典が付与されることを目立たせることができ、所定判定の結果が所定対応結果となったにも関わらず所定特典が付与されない場合にはそれが目立たないようにすることが可能となる。

【3921】

その一方、所定表示手段においては、付与可能状況及び制限状況のいずれであっても、所定判定の結果が所定対応結果となった場合には所定絵柄の変動表示の停止結果として所定停止結果が表示される。これにより、所定判定の結果が所定対応結果となったことを遊技ホールの管理者が容易に目視確認することが可能となる。また、所定表示手段は特定表示手段よりも表示範囲が狭いため、制限状況において所定表示手段にて所定停止結果が表

10

20

30

40

50

示されたとしても、制限状況において所定判定の結果が所定対応結果となったことを遊技者が気付きづらくなる。

【3922】

特徴K2．前記特定表示制御手段は、前記制限状況において前記所定判定の結果が前記所定対応結果となった場合と前記所定判定の結果が前記外れ結果となった場合とで、前記特定表示手段における特別表示領域（状態示唆領域43）の表示内容を相違させる表示相違手段（第1～第12の実施形態における音光側MPU93のステップS1412及びステップS1413の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴K1に記載の遊技機。

【3923】

特徴K2によれば、制限状況において所定判定の結果が所定対応結果となった場合に特定表示手段における特定絵柄の変動表示の停止結果として所定外れ結果が表示されるとしても、特定表示手段の特別表示領域における表示内容は所定判定の結果が外れ結果となった場合とは異なる表示内容となるため、遊技ホールの管理者は特定表示手段において所定外れ結果が表示されている場合にそれが制限状況における所定対応結果を契機としているのか否かを特定表示手段の表示内容からも把握することが可能となる。

【3924】

特徴K3．前記所定対応結果として、少なくとも第1所定対応結果（第1時短結果）と第2所定対応結果（第2時短結果）とが存在しており、

前記所定特典付与手段は、前記所定判定の結果が前記第1所定対応結果である場合と前記所定判定の結果が前記第2所定対応結果である場合とで、付与する前記所定特典の内容を相違させるものであり、

前記所定表示制御手段は、前記所定判定の結果が前記第1所定対応結果である場合と前記所定判定の結果が前記第2所定対応結果である場合とで前記所定停止結果の内容を相違させるものであり、

前記付与可能対応手段は、前記付与可能状況において前記所定判定の結果が前記第1所定対応結果となった場合と前記第2所定対応結果となった場合とで前記特定停止結果の内容を相違させるものであり、

前記制限対応手段は、前記制限状況において前記所定判定の結果が前記第1所定対応結果となった場合及び前記第2所定対応結果となった場合のいずれであっても、前記特定表示手段における前記特定絵柄の変動表示の停止結果として、前記所定外れ結果が表示されるようにするものであり、

前記表示相違手段は、前記制限状況において前記所定判定の結果が前記第1所定対応結果となった場合と前記第2所定対応結果となった場合とで、前記特別表示領域の表示内容を相違させるものであることを特徴とする特徴K2に記載の遊技機。

【3925】

特徴K3によれば、付与可能状況において所定判定の結果が第1所定対応結果となった場合と第2所定対応結果となった場合とで、特定表示手段における特定絵柄の変動表示の停止結果である特定停止結果の内容が相違することにより、その後に付与される所定特典の内容を特定停止結果の内容によって遊技者に示唆することが可能となる。その一方、制限状況において所定判定の結果が第1所定対応結果となった場合及び第2所定対応結果となった場合のいずれであっても、特定表示手段における特定絵柄の変動表示の停止結果として所定外れ結果が表示されるため、所定対応結果の種類も含めて所定対応結果となったことを遊技者が認識しづらくなるようにすることが可能となる。また、この場合であっても特定表示手段における特別表示領域の表示内容は所定判定の結果が第1所定対応結果となった場合と第2所定対応結果となった場合とで相違するため、遊技ホールの管理者は特定表示手段において所定外れ結果が表示されている場合にそれが制限状況におけるいずれの所定対応結果を契機としているのか否かを特定表示手段の表示内容からも把握することが可能となる。

【3926】

特徴 K 4 . 前記特定表示手段における前記特別表示領域の表示範囲は、前記特定表示手段における前記特定絵柄が表示される表示領域の表示範囲よりも狭いことを特徴とする特徴 K 2 又は K 3 に記載の遊技機。

【 3 9 2 7 】

特徴 K 4 によれば、制限状況において所定判定の結果が所定対応結果となった場合には特定表示手段における特別表示領域の表示内容が、所定判定の結果が外れ結果となった場合とは異なる表示内容となる構成であっても、特定表示手段における特別表示領域の表示範囲は特定表示手段における特定絵柄が表示される表示領域の表示範囲よりも狭いため、遊技者にとって当該特別表示領域が目立たないようにすることが可能となる。

【 3 9 2 8 】

特徴 K 5 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 8 の実施形態における第 2 作動口 3 4）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第 8 の実施形態における主側 M P U 8 2 の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記取得契機は、前記所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて発生する構成であり、

前記所定特典付与手段は、前記所定特典の付与として、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定遊技状態（第 2 高頻度サポートモード）に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴 K 1 乃至 K 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 3 9 2 9 】

特徴 K 5 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が所定対応情報に対応している場合に所定遊技状態に移行し得る。そして、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【 3 9 3 0 】

特徴 K 6 . 前記所定判定の結果が、前記特別情報が付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特定特典（開閉実行モード）を付与する特定特典付与手段（第 8 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）を備え、

前記所定特典付与手段は、前記所定判定の結果が前記所定対応結果となったことに基づいて、前記特定特典を付与することなく前記所定遊技状態に遊技状態を移行させることを特徴とする特徴 K 5 に記載の遊技機。

【 3 9 3 1 】

特徴 K 6 によれば、所定判定の結果が所定対応結果となった場合、特定特典が付与されることなく所定遊技状態に遊技状態が移行する。これにより、遊技者に意外性を与えることが可能となる。

【 3 9 3 2 】

特徴 K 7 . 前記所定判定の結果が、前記特別情報が付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特定特典（開閉実行モード）を付与する特定特典付与手段（第 8 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）を備え、

前記制限状況は、前記所定判定の結果が前記付与対応結果となる確率が別遊技状態よりも高くなる特定遊技状態（高確率状態）である状況であることを特徴とする特徴 K 1 乃至 K 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 3 9 3 3 】

特徴 K 7 によれば、所定判定の結果が付与対応結果となる確率が別遊技状態よりも高く

10

20

30

40

50

なる特定遊技状態においては所定判定の結果が所定対応結果となったとしても所定特典が付与されないようにすることが可能となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏することが可能である。

【3934】

なお、特徴K1～K7の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【3935】

上記特徴K群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3936】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【3937】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3938】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

30

【3939】

<特徴L群>

特徴L1. 第1取得契機（第1作動口33への遊技球の入球）が発生したことに基づいて第1特別情報（第1保留情報）を取得する第1取得手段（第10～第12の実施形態における主側MPU82のステップS3801の処理を実行する機能）と、

前記第1特別情報が特定特典（開閉実行モード）の付与に対応する情報であるか否かの第1付与判定（第10～第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理のステップS4005）を実行する第1付与判定手段（第10～第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理にてステップS4005の処理を実行する機能）と、

40

第1遊技回用動作が開始され、前記第1付与判定の結果に対応する状態として当該第1遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、前記第1特別情報を契機とした各遊技回において前記第1遊技回用動作が第1遊技実行手段（第1特図表示部37a）にて実行されるようにする第1遊技制御手段（第10～第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

第2取得契機（特別入賞装置151への遊技球の入球）が発生したことに基づいて第2特別情報（第2保留情報）を取得する第2取得手段（第10～第12の実施形態における主側MPU82のステップS3901の処理を実行する機能）と、

50

前記第 2 特別情報が前記特定特典の付与に対応する情報であるか否かの第 2 付与判定（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の第 2 特図特電制御処理における特図変動開始処理のステップ S 4005）を実行する第 2 付与判定手段（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の第 2 特図特電制御処理における特図変動開始処理にてステップ S 4005 の処理を実行する機能）と、

第 2 遊技回用動作が開始され、前記第 2 付与判定の結果に対応する状態として当該第 2 遊技回用動作が終了されることを遊技回の 1 回として、前記第 2 特別情報を契機とした各遊技回において前記第 2 遊技回用動作が第 2 遊技実行手段（第 2 特図表示部 37b）にて実行されるようにする第 2 遊技制御手段（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の第 2 特図特電制御処理における特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能）と、

10

所定遊技状態（時短状態）に遊技状態を移行させる所定移行手段（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の時短結果用の設定処理及び天井カウンタ 131 の減算処理を実行する機能）と、

前記所定遊技状態にて実行された前記第 1 特別情報を契機とした遊技回及び前記第 2 特別情報を契機とした遊技回の合計回数が終了契機回数（第 1 時短継続回数、第 2 時短継続回数）となったことに基づいて、前記所定遊技状態を終了させる所定終了手段（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の時短状態の終了判定処理を実行する機能）と、を備え、

前記第 1 特別情報を契機とした遊技回が実行されている期間の少なくとも一部と、前記第 2 特別情報を契機とした遊技回が実行されている期間の少なくとも一部とが重複し得る構成であり、

20

前記所定終了手段は、前記第 1 特別情報を契機とした遊技回及び前記第 2 特別情報を契機とした遊技回のうち一方の遊技回が終了した場合に前記合計回数が前記終了契機回数となったとしても、当該一方の遊技回が開始される前に開始されていた他方の遊技回の途中である場合には当該他方の遊技回が終了した後に前記所定遊技状態を終了させることを特徴とする遊技機。

【3940】

特徴 L 1 によれば、第 1 特別情報を契機とした遊技回と第 2 特別情報を契機とした遊技回とが重複して実行され得るため、遊技回の全体的な実行頻度を高めることが可能となる。この場合に、第 1 特別情報を契機とした遊技回及び第 2 特別情報を契機とした遊技回のうち一方の遊技回が終了した場合に合計回数が終了契機回数となったとしても、当該一方の遊技回が開始される前に開始されていた他方の遊技回の途中である場合には当該他方の遊技回が終了した後に所定遊技状態が終了する。これにより、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも 1 回少ない状況で開始された遊技回の継続期間、並びに当該遊技回の契機となった特別情報とは異なる側の特別情報を契機とした遊技回の開始タイミング及びその遊技回の継続期間に応じて所定遊技状態が終了するまでに実行された遊技回の回数が変動することになり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

30

【3941】

特徴 L 2 . 前記所定遊技状態において前記第 2 特別情報を契機とした遊技回の継続期間の平均期間が前記第 1 特別情報を契機とした遊技回の継続期間の平均期間よりも短くなるようにする期間決定手段（第 10～第 12 の実施形態における主側 MPU 82 の変動表示期間の特定処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 L 1 に記載の遊技機。

40

【3942】

特徴 L 2 によれば、所定遊技状態においては遊技回の継続期間の平均期間が相対的に短くなる第 2 特別情報を契機とした遊技回が繰り返されるようにすることで、遊技回の消化効率を高めることが可能となる。その一方、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも 1 回少ない状況では、遊技回の継続期間の平均期間が相対的に長くなる第 1 特別情報を契機とした遊技回が開始されるようにすることで、当該第 1 特別情報を契機とした遊技回が終了するまでは所定遊技状態は継続する。そして、当該第 1 特別情報を契機とし

50

た遊技回が実行されている間に第2特別情報を契機とした遊技回が実行されるようにすることで、所定遊技状態において実行された遊技回の合計回数を終了契機回数よりも多くさせることが可能となる。

【3943】

特徴L3．前記期間決定手段は、前記所定遊技状態において前記合計回数が前記終了契機回数よりも1回少ない状況で開始された前記第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間を抽選により決定する手段（第12の実施形態における主側MPU82のステップS4809～ステップS4811の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴L2に記載の遊技機。

【3944】

特徴L3によれば、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況において第1特別情報を契機とした遊技回が開始される場合、当該遊技回の継続期間が抽選により決定されるため、所定遊技状態において実行される遊技回の回数を極力多くしたい遊技者は当該第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間として長い期間が選択されることを期待することとなる。

【3945】

特徴L4．第1領域（左側領域PA2）を遊技球が流下する場合に当該遊技球が入球可能となる第1入球手段（第1作動口33）と、

第2領域（右側領域PA3）を遊技球が流下する場合に当該遊技球が入球可能となる第2入球手段（特別入賞装置151）と、

を備え、

前記第1取得契機は前記第1入球手段に遊技球が入球した場合に発生し、

前記第2取得契機は前記第2入球手段に遊技球が入球した場合に発生することを特徴とする特徴L1乃至L3のいずれか1に記載の遊技機。

【3946】

特徴L4によれば、所定遊技状態において第1特別情報を契機とした遊技回及び第2特別情報を契機とした遊技回のいずれを実行させるのかを遊技者が選択することが可能となる。特に、上記特徴L2又はL3を備えた構成においては、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況となるまでは第2特別情報を契機とした遊技回が繰り返されるようにし、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況となった場合には第1特別情報を契機とした遊技回が実行されるようにし、当該第1特別情報を契機とした遊技回が開始された後は第2特別情報を契機とした遊技回が実行されるようにすることで、所定遊技状態が終了するまでに極力多くの遊技回が実行されるようにすることが可能となる。

【3947】

特徴L5．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第10～第12の実施形態における特別入賞装置151）と、

前記所定入球手段を閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第2取得契機は前記所定入球手段に遊技球が入球した場合に発生し、

前記所定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴L1乃至L4のいずれか1に記載の遊技機。

【3948】

特徴L5によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき第2特別情報が取得され、当該第2特別情報が特定特典の付与に対応する情報であるか否かが判定される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏

10

20

30

40

50

することが可能である。

【3949】

なお、特徴L1～L5の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【3950】

上記特徴L群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3951】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【3952】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3953】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3954】

30

<特徴M群>

特徴M1. 第1取得契機(第1作動口33への遊技球の入球)が発生したことに基づいて第1特別情報(第1保留情報)を取得する第1取得手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82のステップS3801の処理を実行する機能)と、

前記第1特別情報が特定特典(開閉実行モード)の付与に対応する情報であるか否かの第1付与判定(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理のステップS4005)を実行する第1付与判定手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理にてステップS4005の処理を実行する機能)と、

40

第1遊技回用動作が開始され、前記第1付与判定の結果に対応する状態として当該第1遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、前記第1特別情報を契機とした各遊技回において前記第1遊技回用動作が第1遊技実行手段(第1特図表示部37a)にて実行されるようにする第1遊技制御手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第1特図特電制御処理における特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能)と、

第2取得契機(特別入賞装置151への遊技球の入球)が発生したことに基づいて第2特別情報(第2保留情報)を取得する第2取得手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82のステップS3901の処理を実行する機能)と、

前記第2特別情報が前記特定特典の付与に対応する情報であるか否かの第2付与判定(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第2特図特電制御処理における特図

50

変動開始処理のステップS4005)を実行する第2付与判定手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第2特図特電制御処理における特図変動開始処理にてステップS4005の処理を実行する機能)と、

第2遊技回用動作が開始され、前記第2付与判定の結果に対応する状態として当該第2遊技回用動作が終了されることを遊技回の1回として、前記第2特別情報を契機とした各遊技回において前記第2遊技回用動作が第2遊技実行手段(第2特図表示部37b)にて実行されるようにする第2遊技制御手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の第2特図特電制御処理における特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能)と、

所定遊技状態(時短状態)に遊技状態を移行させる所定移行手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理及び天井カウンタ131の減算処理を実行する機能)と、

前記所定遊技状態にて実行された前記第1特別情報を契機とした遊技回及び前記第2特別情報を契機とした遊技回の合計回数が終了契機回数(第1時短継続回数、第2時短継続回数)となったことに基づいて、前記所定遊技状態を終了させる所定終了手段(第11, 第12の実施形態における主側MPU82の時短状態の終了判定処理を実行する機能)と、

前記所定遊技状態において前記第2特別情報を契機とした遊技回の継続期間の平均期間が前記第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間の平均期間よりも短くなるようにする期間決定手段(第11の実施形態では主側MPU82のステップS4710～ステップS4713の処理を実行する機能、第12の実施形態では主側MPU82のステップS4812～ステップS4815の処理を実行する機能)と、
を備え、

前記第1特別情報を契機とした遊技回が実行されている期間の少なくとも一部と、前記第2特別情報を契機とした遊技回が実行されている期間の少なくとも一部とが重複し得る構成であり、

前記所定終了手段は、前記第1特別情報を契機とした遊技回及び前記第2特別情報を契機とした遊技回のうち一方の遊技回が終了した場合に前記合計回数が前記終了契機回数となったとしても、当該一方の遊技回が開始される前に開始されていた他方の遊技回の途中である場合には当該他方の遊技回が終了した後に前記所定遊技状態を終了させるものであり、

前記期間決定手段は、前記所定遊技状態において前記合計回数が前記終了契機回数よりも1回少ない状況で開始された前記第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間を、前記所定遊技状態における他の状況で開始された前記第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間よりも短い期間となるようにする又は短い期間となり易くする短期間選択手段(第11の実施形態では主側MPU82のステップS4709の処理を実行する機能、第12の実施形態では主側MPU82のステップS4809～ステップS4811の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする遊技機。

【3955】

特徴M1によれば、第1特別情報を契機とした遊技回と第2特別情報を契機とした遊技回とが重複して実行され得るため、遊技回の全体的な実行頻度を高めることが可能となる。また、所定遊技状態においては遊技回の継続期間の平均期間が相対的に短くなる第2特別情報を契機とした遊技回が繰り返されるようにすることで、遊技回の消化効率を高めることが可能となる。

【3956】

この場合に、第1特別情報を契機とした遊技回及び第2特別情報を契機とした遊技回のうち一方の遊技回が終了した場合に合計回数が終了契機回数となったとしても、当該一方の遊技回が開始される前に開始されていた他方の遊技回の途中である場合には当該他方の遊技回が終了した後に所定遊技状態が終了する。これにより、所定遊技状態の終了契機となった遊技回が終了するまでは所定遊技状態を継続させることが可能となる。

【3957】

但し、当該構成においては、所定遊技状態における合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況で第1特別情報を契機とした遊技回が開始されるようにした場合、当該第1特別情報を契機とした遊技回が終了するまでの間に第2特別情報を契機とした遊技回が繰り返し実行されて、所定遊技状態において実行された遊技回の実質的な合計回数が終了契機回数よりも極端に多くなってしまうおそれがある。これに対して、所定遊技状態において合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況で開始された第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間は、所定遊技状態における他の状況で開始された第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間よりも短い期間となる又は短い期間となり易くなる。これにより、所定遊技状態において実行された遊技回の実質的な合計回数が終了契機回数よりも極端に多くなってしまうようにすることが可能となる。

10

【3958】

特徴M2．前記短期間選択手段は、前記所定遊技状態において前記合計回数が前記終了契機回数よりも1回少ない状況で開始された前記第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間を、前記所定遊技状態における前記第2特別情報を契機とした遊技回において選択される継続期間以下の期間とすることを特徴とする特徴M1に記載の遊技機。

【3959】

特徴M2によれば、所定遊技状態において合計回数が終了契機回数よりも1回少ない状況で開始された第1特別情報を契機とした遊技回の継続期間は、所定遊技状態における第2特別情報を契機とした遊技回において選択される継続期間以下の期間となるため、所定遊技状態において実行された遊技回の実質的な合計回数が終了契機回数よりも多くなってしまうようにすることが可能となる。

20

【3960】

特徴M3．第1領域（左側領域PA2）を遊技球が流下する場合に当該遊技球が入球可能となる第1入球手段（第1作動口33）と、

第2領域（右側領域PA3）を遊技球が流下する場合に当該遊技球が入球可能となる第2入球手段（特別入賞装置151）と、
を備え、

前記第1取得契機は前記第1入球手段に遊技球が入球した場合に発生し、

前記第2取得契機は前記第2入球手段に遊技球が入球した場合に発生することを特徴とする特徴M1又はM2に記載の遊技機。

30

【3961】

特徴M3によれば、所定遊技状態において第1特別情報を契機とした遊技回及び第2特別情報を契機とした遊技回のいずれを実行させるのかを遊技者が選択することが可能となる。

【3962】

特徴M4．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第11、第12の実施形態における特別入賞装置151）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

40

前記第2取得契機は前記所定入球手段に遊技球が入球した場合に発生し、

前記所定遊技状態は、別遊技状態（通常遊技状態）よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い遊技状態であることを特徴とする特徴M1乃至M3のいずれか1に記載の遊技機。

【3963】

特徴M4によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき第2特別情報が取得され、当該第2特別情報が特定特典の付与に対応する情報であるか否かが判定される構成において、所定遊技状態である場合、別遊技状態である場合よりも所定入球手段が開放状態となり易くなる。よって、所定遊技状態は遊技者にとって有利な遊技状態となる。この場合に、既に説明したような優れた効果を奏

50

することが可能である。

【3964】

なお、特徴M1～M4の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【3965】

上記特徴M群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3966】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【3967】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3968】

ここで、上記例示等のような遊技機においては遊技が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3969】

30

<特徴N群>

特徴N1. 所定の各種処理（特定制御の処理）を実行する制御手段（第13の実施形態における主側MPU82）と、

当該制御手段において前記所定の各種処理が実行される場合に情報が書き込まれる情報記憶手段（第13の実施形態における主側RAM84）と、
を備え、

前記情報記憶手段は、

前記所定の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われる第1記憶領域（第13の実施形態における特定制御用のワークエリア211）と、

当該第1記憶領域に対して前記情報記憶手段のアドレスにおいて連続し、前記所定の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われない第2記憶領域（第13の実施形態における未使用のエリア（アドレスY（r+3）～アドレスY（r+5）））と、

40

当該第2記憶領域に対して前記情報記憶手段のアドレスにおいて連続し、前記所定の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われる第3記憶領域（第13の実施形態における特定制御用のスタックエリア212）と、
を備え、

本遊技機は、所定の情報消去契機（ステップS4918にて否定判定、又は設定値更新処理の実行）が発生した場合、前記第1記憶領域、前記第2記憶領域及び前記第3記憶領域を含む前記情報記憶手段の記憶領域に対して情報消去処理（RAMクリア処理）を実行する消去実行手段（第13の実施形態における主側MPU82のRAMクリア処理を実行

50

する機能)を備えていることを特徴とする遊技機。

【3970】

特徴N1によれば、制御手段において所定の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われる記憶領域として、第1記憶領域と第3記憶領域とが設けられていることにより、情報の書き込み対象となる記憶領域を役割に応じて第1記憶領域と第3記憶領域とで使い分けることが可能となる。また、情報記憶手段のアドレスにおいて第1記憶領域と第3記憶領域との間に第2記憶領域が設けられており、当該第2記憶領域には所定の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われないため、情報記憶手段のアドレスにおいて第1記憶領域と第3記憶領域とを明確に区別することが可能となる。

【3971】

この場合に、所定の情報消去契機が発生した場合には、所定の各種処理が実行される場合に利用される第1記憶領域及び第3記憶領域だけではなく、所定の各種処理が実行される場合に利用されない第2記憶領域も含めて情報消去処理が実行される。これにより、第1記憶領域及び第3記憶領域を個別に指定して情報消去処理を実行するのではなく、情報記憶手段のアドレスにおいて連続する第1記憶領域、第2記憶領域及び第3記憶領域をまとめて指定して情報消去処理を実行することが可能となる。よって、情報消去処理を実行する場合における処理構成を簡素化することが可能となる。

【3972】

特徴N2．前記消去実行手段は、前記第1記憶領域の所定のアドレス(アドレスY(3))から前記第3記憶領域の特定のアドレス(アドレスY(s+1))までの連続するアドレス範囲の前記情報記憶手段における記憶領域に対して前記情報消去処理を実行することを特徴とする特徴N1に記載の遊技機。

【3973】

特徴N2によれば、第1記憶領域と第3記憶領域との間に未使用の領域として第2記憶領域が設けられている構成であっても、第1記憶領域の所定のアドレスから第3記憶領域の特定のアドレスまでの一連のアドレス範囲の記憶領域に対して情報消去処理を実行すればよいと、情報消去処理を実行する場合における処理構成を簡素化することが可能となる。

【3974】

特徴N3．前記第2記憶領域に対して情報の書き込みが行われないように所定不可設定を行う所定不可設定手段(第13の実施形態における主側MPU82のステップS4903及びステップS7506の処理を実行する機能)と、

前記情報消去処理が実行される場合に、前記所定不可設定を解除する所定不可解除手段(第13の実施形態における主側MPU82のステップS7501の処理を実行する機能)と、

を備えていることを特徴とする特徴N1又はN2に記載の遊技機。

【3975】

特徴N3によれば、所定不可設定が行われることにより第2記憶領域に対して情報の書き込みが行われないようになるため、第2記憶領域に対して間違っ

【3976】

特徴N4．前記所定不可設定手段は、前記情報消去処理が実行された後に、前記所定不可設定を行うことを特徴とする特徴N3に記載の遊技機。

【3977】

特徴N4によれば、情報消去処理が実行される場合に所定不可設定が解除されたとしても、情報消去処理が実行された後に所定不可設定が行われる。これにより、情報消去処理

10

20

30

40

50

が実行された後は、第2記憶領域に対して間違って情報の書き込みが行われてしまわない状態に再度することが可能となる。

【3978】

特徴N5．前記所定不可設定手段は、前記制御手段への動作電力の供給が開始された場合に、前記所定不可設定を行うことを特徴とする特徴N3又はN4に記載の遊技機。

【3979】

特徴N5によれば、制御手段への動作電力の供給が開始された場合に所定不可設定が行われるため、遊技が開始される前に、第2記憶領域に対して間違って情報の書き込みが行われてしまわない状態とすることが可能となる。

【3980】

特徴N6．前記所定不可設定が行われた場合に二値情報のうち一方の情報となり、前記所定不可設定が解除された場合に当該二値情報のうち他方の情報となる所定設定領域（プロテクトレジスタ223c）を有し、

本遊技機は、前記所定設定領域の情報が前記一方の情報である場合、前記第2記憶領域を情報の書き込み対象から除外する手段（RAM管理回路225）を備えていることを特徴とする特徴N3乃至N5のいずれか1に記載の遊技機。

【3981】

特徴N6によれば、所定不可設定とするためには所定設定領域の情報を二値情報のうち一方の情報とし、所定不可設定を解除するためには所定設定領域の情報を二値情報のうち他方の情報とすればよい。これにより、所定不可設定とするための処理負荷、及び所定不可設定を解除するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【3982】

特徴N7．前記制御手段は、

前記所定の各種処理を実行する所定制御実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の特定制御の処理を実行する機能）と、

別の各種処理（非特定制御の処理）を実行する別制御実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の非特定制御の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記情報記憶手段は、前記別の各種処理が実行される場合に情報の書き込みが行われる第4記憶領域（第13の実施形態における非特定制御用のワークエリア213）を備え、

前記第1記憶領域及び前記第3記憶領域は、前記所定の各種処理が実行される場合には情報の書き込みが行われる一方、前記別の各種処理が実行される場合には情報の書き込みが行われることはなく、

前記第4記憶領域は、前記別の各種処理が実行される場合には情報の書き込みが行われる一方、前記所定の各種処理が実行される場合には情報の書き込みが行われることはなく、

前記消去実行手段は、前記所定の情報消去契機が発生した場合に前記第4記憶領域に対しては前記情報消去処理を実行しないことを特徴とする特徴N1乃至N6のいずれか1に記載の遊技機。

【3983】

特徴N7によれば、制御手段において所定の各種処理が実行される場合には情報記憶手段における第1記憶領域及び第3記憶領域が情報の書き込み対象となり、制御手段において別の各種処理が実行される場合には情報記憶手段における第4記憶領域が情報の書き込み対象となる。これにより、制御手段において実行される処理の種類に応じて情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を区別することが可能となる。この場合に、所定の情報消去契機が発生した場合には所定の各種処理が実行される場合に未使用の領域である第2記憶領域を含めて情報消去処理が実行される構成において、第4記憶領域に対しては情報消去処理が実行されない。これにより、処理構成を簡素化すべく第2記憶領域を含めて情報消去処理を実行するようにした構成において、情報消去処理の実行対象においても第1記憶領域及び第3記憶領域と第4記憶領域とを区別することが可能となる。

【3984】

10

20

30

40

50

特徴N 8．前記第2記憶領域に対して情報の書き込みが行われないように所定不可設定を行う所定不可設定手段（第13の実施形態における主側MPU 82のステップS 4903及びステップS 7506の処理を実行する機能）と、

前記情報消去処理が実行される場合に、前記所定不可設定を解除する所定不可解除手段（第13の実施形態における主側MPU 82のステップS 7501の処理を実行する機能）と、

特定の情報消去契機（ステップS 7602にて肯定判定）が発生した場合に前記第4記憶領域に対して情報の消去処理を実行する別消去手段（第13の実施形態における主側MPU 82の情報異常監視処理を実行する機能）と、

を備え、

当該別消去手段により前記第4記憶領域に対して前記情報の消去処理が実行される場合、前記所定不可設定が解除されないことを特徴とする特徴N 7に記載の遊技機。

【3985】

特徴N 8によれば、所定の情報消去契機が発生した場合には第4記憶領域に対して情報消去処理が実行されないようにした構成において、特定の情報消去契機が発生した場合には第4記憶領域に対して情報の消去処理が実行される。これにより、第4記憶領域に対しても情報の消去処理が実行され得るようにすることが可能となる。この場合に、当該情報の消去処理が実行される場合には所定不可設定が解除されない。これにより、第2記憶領域に対して情報の消去処理が実行されない状況において所定不可設定が解除されてしまわないようにすることが可能となる。

【3986】

なお、特徴N 1～N 8の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 11、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 16、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 11、特徴X 1～X 14、特徴Y 1～Y 10、特徴Z 1～Z 10、特徴a 1～a 20、特徴b 1～b 8、特徴c 1～c 6、特徴d 1～d 11、特徴e 1～e 15、特徴f 1～f 15、特徴g 1～g 12、特徴h 1～h 11、特徴i 1～i 18、特徴j 1～j 14、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【3987】

上記特徴N群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【3988】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【3989】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【3990】

ここで、上記例示等のような遊技機においては制御手段にて処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【3991】

<特徴O群>

10

20

30

40

50

特徴〇１．遊技者の有利度に対応する設定値に対応する態様で利益付与用処理（主側ＭＰＵ８２のステップＳ８０５）を実行する手段（主側ＭＰＵ８２のステップＳ８０５の処理を実行する機能）と、

使用対象となる前記設定値の設定を行うことが可能な設定可能状況（第１３の実施形態における設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第１３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳ４９０８又はステップＳ４９１５にて肯定判定をする機能）と、

遊技が実行されることにより特定事象（アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４への遊技球の入球）が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２５１）に記憶させる履歴記憶実行手段（第１３及び第１４の実施形態における主側ＭＰＵ８２の通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（第１３の実施形態における主側ＭＰＵ８２の結果演算処理を実行する機能）と、

当該情報導出手段により導出された前記態様情報が報知されるように態様報知手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を制御する態様報知制御手段（第１３の実施形態における主側ＭＰＵ８２の第２タイマ割込み処理及び表示用処理を実行する機能）と、を備え、

前記設定可能状況であっても前記態様報知手段にて前記態様情報が報知され得ることを特徴とする遊技機。

【３９９２】

特徴〇１によれば、使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、特定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が報知される。これにより、特定事象の発生回数又は発生頻度を遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。この場合に、設定可能状況であっても態様報知手段にて態様情報が報知され得る。これにより、報知されている態様情報の内容を確認しながら、それに応じた態様で設定値を設定することが可能となる。よって、遊技機の管理を好適に行うことが可能となる。

【３９９３】

特徴〇２．前記設定可能状況において前記設定値が報知されるように設定報知手段（設定表示装置２０５）を制御する手段（第１３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳ７２０３及びステップＳ７２０７～ステップＳ７２１２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴〇１に記載の遊技機。

【３９９４】

特徴〇２によれば、設定可能状況においては設定報知手段にて設定値が報知され、態様報知手段にて態様情報が報知される。これにより、遊技ホールの管理者は、態様報知手段にて報知されている態様情報の内容を確認しながら、当該態様情報の内容を踏まえた所望の設定値が設定報知手段にて報知された状態となるまで設定作業を行うことが可能となる。よって、態様情報の内容を踏まえた所望の設定値を設定するための作業効率を高めることが可能となる。

【３９９５】

特徴〇３．前記設定報知手段は、前記態様報知手段が搭載された搭載面（主制御基板８１の素子搭載面）に搭載されていることを特徴とする特徴〇２に記載の遊技機。

【３９９６】

特徴〇３によれば、態様報知手段が搭載された搭載面に設定報知手段が搭載されているため、態様報知手段にて報知されている態様情報の内容及び設定報知手段にて報知されて

10

20

30

40

50

いる設定値の両方の確認を行い易くなる。

【3997】

特徴〇４．前記状況発生手段は、動作電力の供給が開始された場合に状況発生契機（リセットボタン１９６の押圧操作及び設定キー挿入部１９５のＯＮ操作の両方が行われていること、設定更新表示フラグに「１」がセットされていること）が発生していることに基づいて前記設定可能状況となるようにするものであり、

前記態様報知制御手段は、動作電力の供給が開始された場合であって前記設定可能状況となる場合、当該設定可能状況が開始された場合に前記態様情報に対応する報知を開始させることを特徴とする特徴〇１乃至〇３のいずれか１に記載の遊技機。

【3998】

特徴〇４によれば、動作電力の供給が開始された場合に状況発生契機が発生していることに基づいて設定可能状況となるため、設定値の設定を行うためには動作電力の供給を再度開始させる必要が生じる。よって、設定値の設定を不正に行う行為を行いつらくさせることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合であって設定可能状況となる場合、当該設定可能状況が開始された場合に態様情報に対応する報知が開始される。これにより、遊技ホールの管理者が設定値を設定するための作業を開始する前に態様情報に対応する報知が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【3999】

特徴〇５．前記態様報知手段に異常が発生しているか否かを確認可能とするチェック用表示を当該態様報知手段に行わせるチェック制御手段（第１３の実施形態における主側MPU８２のステップＳ４９２６及びステップＳ７３０２の処理を実行する機能）を備え、

当該チェック制御手段は、前記設定可能状況が終了した場合、前記態様報知手段において前記チェック用表示を開始させることを特徴とする特徴〇１乃至〇４のいずれか１に記載の遊技機。

【4000】

特徴〇５によれば、態様報知手段に異常が発生しているか否かを確認可能とするチェック用表示が行われるため、遊技ホールの管理者はチェック用表示を確認することで態様報知手段に異常が発生しているか否かを特定することが可能となる。この場合に、設定可能状況が発生する場合には当該設定可能状況が終了した場合にチェック用表示が開始される。これにより、設定可能状況において態様報知手段にて態様情報に対応する報知を行うことを、態様報知手段のチェック用表示よりも優先させることが可能となる。

【4001】

特徴〇６．前記状況発生手段は、動作電力の供給が開始された場合に状況発生契機（リセットボタン１９６の押圧操作及び設定キー挿入部１９５のＯＮ操作の両方が行われていること、設定更新表示フラグに「１」がセットされていること）が発生していることに基づいて前記設定可能状況となるようにするものであり、

前記態様報知制御手段は、前記動作電力の供給が開始された場合に前記設定可能状況とならない所定状況（設定確認用処理及び設定値更新処理が実行されない状況）となった場合、前記チェック用表示が終了した後に前記態様情報に対応する報知を開始させる（第１３の実施形態におけるメイン処理のステップＳ４９３２にて第２タイマ割込み処理の実行が許可されることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の報知が開始される場合）ことを特徴とする特徴〇５に記載の遊技機。

【4002】

特徴〇６によれば、動作電力の供給が開始された場合に状況発生契機が発生していることに基づいて設定可能状況となるため、設定値の設定を行うためには動作電力の供給を再度開始させる必要が生じる。よって、設定値の設定を不正に行う行為を行いつらくさせることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合に設定可能状況とならない所定状況となった場合、チェック用表示が終了した後に態様情報に対応する報知が開始される。これにより、設定可能状況とならない場合には態様情報に対応する報知の開始よりもチェック用表示を優先させることが可能となる。

10

20

30

40

50

【4003】

特徴〇7．前記情報導出手段により導出された前記態様情報を複数記憶する態様情報記憶手段（第13の実施形態における演算結果記憶エリア252）を備え、

前記態様報知制御手段は、

前記態様情報記憶手段に記憶された複数の前記態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるように前記態様報知手段を制御する順次報知制御手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS7408～ステップS7414の処理を実行する機能）と、

前記設定可能状況の終了後における前記チェック用表示が終了した場合、当該チェック用表示が開始される直前に報知対象となっていた種類の前記態様情報から報知が実行されるように前記態様報知手段を制御する報知再開手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS7419及びステップS7420の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴〇5又は〇6に記載の遊技機。

10

【4004】

特徴〇7によれば、態様報知手段では複数の態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるため、遊技ホールの管理者は態様報知手段を確認することで複数の態様情報の内容を把握することが可能となる。この場合に、設定可能状況の終了後におけるチェック用表示が終了した場合には、当該チェック用表示が開始される直前に報知対象となっていた種類の態様情報から報知が実行される。これにより、チェック用表示の終了後には、当該チェック用表示の発生によって中断された種類の態様情報の内容から遊技ホールの管理者は確認することが可能となる。

20

【4005】

特徴〇8．前記順次報知制御手段は、所定の報知継続期間（表示継続期間）が経過したことに基づいて報知対象となる前記態様情報の種類を変更するものであり、

前記報知再開手段は、前記設定可能状況の終了後における前記チェック用表示が終了した場合、当該チェック用表示が開始される直前に報知対象となっていた種類の前記態様情報から報知が実行されるようにするものであって、当該種類の前記態様情報に対応する報知が、前記チェック用表示が開始された場合における残りの前記所定の報知継続期間に関係なく前記所定の報知継続期間に亘って実行されるようにするものであることを特徴とする特徴〇7に記載の遊技機。

30

【4006】

特徴〇8によれば、設定可能状況の終了後におけるチェック用表示が終了した場合には、当該チェック用表示が開始される直前に報知対象となっていた種類の態様情報から報知が実行されるとともに、当該種類の態様情報の報知はチェック用表示の終了後から所定の報知継続期間に亘って実行される。これにより、チェック用表示の終了後には、当該チェック用表示の発生によって中断された種類の態様情報の内容を遊技ホールの管理者が確認する機会を十分に担保することが可能となる。

【4007】

なお、特徴〇1～〇8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

40

50

【４００８】

上記特徴〇群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【４００９】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【４０１０】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【４０１１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【４０１２】

<特徴P群>

特徴P 1. 表示対象情報（ベース値）を複数記憶する表示対象記憶手段（第13の実施形態における演算結果記憶エリア252）と、

当該表示対象記憶手段に記憶された複数の前記表示対象情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるように所定表示手段（第1～第4報知用表示装置201～204）を制御し、所定の表示継続期間（表示継続期間）が経過したことに基づいて表示対象となる前記表示対象情報の種類を変更する所定表示制御手段（第13の実施形態における主側MPU82の第2タイマ割込み処理及び表示用処理を実行する機能）と、を備え、

前記所定表示制御手段は、前記表示対象情報に対応する表示が行われない所定状況が終了した場合、当該所定状況が開始される直前に表示対象となっていた種類の前記表示対象情報から表示が実行されるようにするものであって、当該種類の前記表示対象情報に対応する表示が、前記所定状況が開始された場合における残りの前記所定の表示継続期間に関係なく前記所定の表示継続期間に亘って実行されるようにする表示再開手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS7419及びステップS7420の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【４０１３】

特徴P 1によれば、所定表示手段では複数の表示対象情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるとともに所定の表示継続期間が経過したことに基づいて表示対象となる表示対象情報の種類が変更されるため、遊技ホールの管理者は所定表示手段を確認することで複数の表示対象情報の内容を把握することが可能となる。この場合に、所定状況が終了した場合には、当該所定状況が開始される直前に表示対象となっていた種類の表示対象情報から表示が実行されるとともに、当該種類の表示対象情報の表示は所定状況の終了後から所定の表示継続期間に亘って実行される。これにより、所定状況の終了後には、当該所定状況の発生によって中断された種類の表示対象情報の内容を遊技ホールの管理者が確認する機会を十分に担保することが可能となる。

【４０１４】

特徴P 2. 前記所定表示手段に前記表示対象情報に対応する表示とは異なる別表示を行わせる別表示制御手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS4926及びステップS7302の処理を実行する機能）を備え、

前記所定状況は前記別表示が行われている状況であり、

前記表示再開手段は、前記別表示が終了した場合、当該別表示が開始される直前に表示対象となっていた種類の前記表示対象情報から表示が実行されるようにするものであって、当該種類の前記表示対象情報に対応する表示が、前記別表示が開始された場合における

残りの前記所定の表示継続期間に関係なく前記所定の表示継続期間に亘って実行されるようにすることを特徴とする特徴 P 1 に記載の遊技機。

【4015】

特徴 P 2 によれば、所定表示手段にて別表示が行われる状況となった場合には表示対象情報に対応する表示が行われないため、別表示を優先して行うことが可能となる。この場合に、別表示が終了した場合には、当該別表示が開始される直前に表示対象となっていた種類の表示対象情報から表示が実行されるとともに、当該種類の表示対象情報の表示は別表示の終了後から所定の表示継続期間に亘って実行される。これにより、別表示の終了後には、当該別表示の発生によって中断された種類の表示対象情報の内容を遊技ホールの管理者が確認する機会を十分に担保することが可能となる。

10

【4016】

特徴 P 3 . 前記別表示制御手段は、前記別表示として、前記所定表示手段に異常が発生しているか否かを確認可能とするチェック用表示を当該所定表示手段に行わせることを特徴とする特徴 P 2 に記載の遊技機。

【4017】

特徴 P 3 によれば、所定表示手段に異常が発生しているか否かを確認可能とするチェック用表示が行われるため、遊技ホールの管理者はチェック用表示を確認することで所定表示手段に異常が発生していないか否かを特定することが可能となる。この場合に、上記特徴 P 1 の構成を備え、チェック用表示が終了した場合には、当該チェック用表示が開始される直前に表示対象となっていた種類の表示対象情報から表示が実行されるとともに、当該種類の表示対象情報の表示はチェック用表示の終了後から所定の表示継続期間に亘って実行される。これにより、チェック用表示の終了後には、当該チェック用表示の発生によって中断された種類の表示対象情報の内容を遊技ホールの管理者が確認する機会を十分に担保することが可能となる。

20

【4018】

特徴 P 4 . 前記所定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において第 1 状況（設定値更新処理が実行される状況）である場合、前記チェック用表示が開始される前に前記表示対象情報の表示を開始する手段（第 13 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 5 1 0 1 の処理を実行する機能）と、

30

動作電力の供給が開始された場合において第 2 状況（設定確認用処理及び設定値更新処理が実行されない状況）である場合、前記チェック用表示が終了するまで前記表示対象情報の表示を開始させることなく前記チェック用表示が終了した後に前記表示対象情報の表示を開始させる手段（第 13 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 4 9 3 2 の処理を実行する機能）と、を備えていることを特徴とする特徴 P 3 に記載の遊技機。

【4019】

特徴 P 4 によれば、動作電力の供給が開始された場合における状況に応じて、チェック用表示が開始される前に表示対象情報の表示が開始される場合と、チェック用表示が終了するまで表示対象情報の表示が開始されることなくチェック用表示が終了した後に表示対象情報の表示が開始される場合とを生じさせることが可能となる。

40

【4020】

特徴 P 5 . 遊技者の有利度に対応する設定値に対応する態様で利益付与用処理（主側 M P U 8 2 のステップ S 8 0 5）を実行する手段（主側 M P U 8 2 のステップ S 8 0 5 の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に状況発生契機（リセットボタン 196 の押圧操作及び設定キー挿入部 195 の ON 操作の両方が行われていること、設定更新表示フラグに「1」がセットされていること）が発生していることに基づいて、前記チェック用表示が開始される前に、使用対象となる前記設定値の設定を行うことが可能な設定可能状況（第 13 の実施形態における設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段

50

(第13の実施形態における主側MPU82のステップS4908又はステップS4915にて肯定判定をする機能)と、

を備え、

前記第1状況は、前記設定可能状況が発生する場合に発生し、

前記第2状況は、前記設定可能状況が発生しない場合に発生することを特徴とする特徴P4に記載の遊技機。

【4021】

特徴P5によれば、使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合に設定可能状況が発生する場合にはチェック用表示が開始される前に表示対象情報の表示が開始され、動作電力の供給が開始された場合に設定可能状況が発生しない場合にはチェック用表示が終了するまで表示対象情報の表示が開始されることなくチェック用表示が終了した後に表示対象情報の表示が開始される。これにより、設定可能状況となる場合には当該設定可能状況において表示対象情報の表示が実行され得るようにしながら、設定可能状況とならない場合にはチェック用表示が終了した後に表示対象情報の表示が開始されるようにすることが可能となる。

【4022】

特徴P6. 遊技が実行されることにより特定事象(アウト口24a、一般入賞口31、特電入賞装置32、第1作動口33及び第2作動口34への遊技球の入球)が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段(通常用カウンタエリア251)に記憶させる履歴記憶実行手段(第13及び第14の実施形態における主側MPU82の通常の入球管理処理を実行する機能)と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報(ベース値)を導出する情報導出手段(第13の実施形態における主側MPU82の結果演算処理を実行する機能)と、

を備え、

前記表示対象情報は前記態様情報であることを特徴とする特徴P1乃至P5のいずれか1に記載の遊技機。

【4023】

特徴P6によれば、特定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が表示される。これにより、特定事象の発生回数又は発生頻度を遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。この場合に、上記特徴P1に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【4024】

なお、特徴P1~P6の構成に対して、特徴A1~A8、特徴B1~B8、特徴C1~C8、特徴D1~D8、特徴E1~E9、特徴F1~F6、特徴G1~G11、特徴H1~H8、特徴I1~I5、特徴J1~J7、特徴K1~K7、特徴L1~L5、特徴M1~M4、特徴N1~N8、特徴O1~O8、特徴P1~P6、特徴Q1~Q16、特徴R1~R6、特徴S1~S7、特徴T1~T3、特徴U1~U5、特徴V1~V6、特徴W1~W11、特徴X1~X14、特徴Y1~Y10、特徴Z1~Z10、特徴a1~a20、特徴b1~b8、特徴c1~c6、特徴d1~d11、特徴e1~e15、特徴f1~f15、特徴g1~g12、特徴h1~h11、特徴i1~i18、特徴j1~j14、特徴k1~k4、特徴l1~l19、特徴m1~m16、特徴n1~n8、特徴o1~o16、特徴p1~p10、特徴q1~q7、特徴r1~r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4025】

上記特徴P群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4026】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【4027】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

10

【4028】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定表示手段における表示が好適に行われるようにする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【4029】

<特徴Q群>

特徴Q1. 第1処理群の処理(特定制御の処理)を実行する第1処理群実行手段(第13, 第14の実施形態における主側MPU82の特定制御の処理を実行する機能)と、

第2処理群の処理(非特定制御の処理)を実行する第2処理群実行手段(第13, 第14の実施形態における主側MPU82の非特定制御の処理を実行する機能)と、

20

前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第1処理対応記憶領域(第13, 第14の実施形態における特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212)と、

前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第2処理対応記憶領域(第13, 第14の実施形態における非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214)と、を備え、

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、所定事象(第13, 第14の実施形態における主側MPU82のステップS6003にて肯定判定する事象、ステップS6009にて肯定判定する事象、ステップS6014にて肯定判定する事象又はステップS6505にて肯定判定する事象)が発生している場合に前記第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報(異常フラグ213l~213tのいずれかに「1」をセットすること)を記憶させる発生情報記憶処理を実行する手段(第13, 第14の実施形態における主側MPU82のステップS6004、ステップS6010、ステップS6015又はステップS6506の処理を実行する機能)を備え、

30

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されている場合に特別処理を実行する特別処理実行手段(第13の実施形態では主側MPU82のステップS6602、ステップS6603、ステップS6605、ステップS6606、ステップS6608、ステップS6609、ステップS6611、ステップS6612、ステップS6614、ステップS6615、ステップS6617、ステップS6618、ステップS6620、ステップS6622又はステップS6624の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS8006の処理、ステップS8013の処理、ステップS8102にて肯定判定をする処理、ステップS8105にて肯定判定をする処理、ステップS8108にて肯定判定をする処理、ステップS8111にて肯定判定をする処理、ステップS8115にて肯定判定をする処理、ステップS8118にて肯定判定をする処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする遊技機。

40

【4030】

50

特徴Q 1によれば、第1処理群の処理が実行される場合には第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第2処理群の処理が実行される場合には第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第1処理群の処理が実行される場合と第2処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第1処理群の処理が実行される場合であっても第1処理対応記憶領域からだけではなく第2処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第2処理群の処理が実行される場合であっても第2処理対応記憶領域からだけではなく第1処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

10

【4031】

この場合に、第2処理群の処理において所定事象が発生していることが特定されて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には、第1処理群の処理においてそれに対応する特別処理が実行される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせた構成であっても、所定事象が発生したことに対する特別処理を第1処理群の処理として実行することが可能となる。よって、制御手段における処理を好適に実行することが可能となる。

20

【4032】

特徴Q 2．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生しているか否かを特定する付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態では主側MPU82のステップS5602、ステップS5605、ステップS5608、ステップS5611、ステップS5614、ステップS5617、ステップS5620又はステップS5622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS7803、ステップS7805、ステップS7807、ステップS7809、ステップS7811、ステップS7813、ステップS7815又はステップS7817の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記付与契機処理にて特定された前記特典の付与契機を無効化させる処理であることを特徴とする特徴Q 1に記載の遊技機。

30

【4033】

特徴Q 2によれば、第1処理群の処理である付与契機処理にて特典の付与契機が発生しているか否かが特定され、第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて上記特典の付与契機が無効化される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

40

【4034】

特徴Q 3．前記第1処理群実行手段は、

前記第1処理群の処理として、前記特典の付与契機が発生していることが前記付与契機処理にて特定された場合、前記特典の付与を留保するための留保処理を実行する手段（第14の実施形態における主側MPU82のステップS8017～ステップS8018又はステップS8021～ステップS8022の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理として、前記留保処理が実行された後において前記特別処理が実行されなかった場合、前記留保処理において留保された前記特典を付与するための特典付与処理を実行する手段（第14の実施形態における主側MPU82のステップS8004又はステップS8011の処理を実行する機能）と、

50

を備えていることを特徴とする特徴Q 2に記載の遊技機。

【4035】

特徴Q 3によれば、第1処理群の処理では特典の付与契機が発生していることが特定された場合には特典の付与が一旦留保され、その後に第2処理群の処理にて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されることなく第1処理群の処理にて特典の付与契機を無効化させる処理が実行されなかった場合に、第1処理群の処理にて上記一旦留保された特典が付与される。これにより、第1処理群の処理における付与契機処理と特典付与処理との間で第2処理群の処理である発生情報記憶処理が実行されなかったとしても、所定事象が発生していない場合には特典の付与契機に対して特典が付与されるようにするとともに、所定事象が発生している場合には特典の付与契機を無効化して特典が付与されないようにすることが可能となる。

10

【4036】

特徴Q 4．前記留保処理は、抽選処理にて利用される数値情報を数値情報更新手段（当たり乱数カウンタC 1、種別乱数カウンタC 2、リーチ乱数カウンタC 3）から取得する処理であり、

前記特典付与処理は、前記数値情報を前記抽選処理にて利用可能となるように前記第1処理対応記憶領域に記憶させる処理であることを特徴とする特徴Q 3に記載の遊技機。

【4037】

特徴Q 4によれば、特典の付与契機が発生した場合には、数値情報更新手段から数値情報が取得されてその取得された数値情報を利用して抽選処理が実行される構成において、特典の付与契機が発生した場合には数値情報更新手段から数値情報は取得されるもののそれが留保された状態となり、その後に所定事象が発生していないことが特定された場合にその留保された数値情報が抽選処理にて利用可能となるように第1処理対応記憶領域に記憶される。これにより、特典の付与契機が発生したタイミングにおける数値情報の取得を可能としながら、上記特徴Q 3にて説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

20

【4038】

特徴Q 5．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記留保処理において前記特典の付与が留保されている状況において前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定する情報特定処理を実行する手段（第14の実施形態における主側MPU 82のステップS 8002又はステップS 8009の処理を実行する機能）を備え、

30

前記特別処理実行手段は、前記情報特定処理にて前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に前記特別処理を実行するものであることを特徴とする特徴Q 3又はQ 4に記載の遊技機。

【4039】

特徴Q 5によれば、留保処理にて特典の付与が留保されている状況において第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定するための情報特定処理が実行され、当該所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に特別処理として特典の付与契機が無効化される構成である。これにより、特典の付与が留保されていない状況において情報特定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

40

【4040】

特徴Q 6．処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第1タイマ割込み処理）を開始させる手段（第14の実施形態における主側MPU 82の第1タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記所定単位処理に、前記発生情報記憶処理、前記特別処理、前記付与契機処理、前記留保処理及び前記特典付与処理が含まれており、

前記発生情報記憶処理が前記第1処理群の処理よりも後の処理順序となるように、1回の処理回における前記所定単位処理の処理順序が設定されていることを特徴とする特徴Q 3乃至Q 5のいずれか1に記載の遊技機。

【4041】

50

特徴Q 6によれば、第2処理群の処理である発生情報記憶処理が1回の処理回における所定単位処理において第1処理群の処理よりも後の処理順序となるようにしながら、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4042】

特徴Q 7. 前記所定単位処理には、前記発生情報記憶処理以外にも前記第2処理群の処理（第14の実施形態における情報クリア処理、試射試験処理、非特定制御のタイマ更新処理、情報異常監視処理及びチェック処理）が含まれており、

前記第2処理群の処理が前記第1処理群の処理よりも後の処理順序となるように、1回の処理回における前記所定単位処理の処理順序が設定されていることを特徴とする特徴Q 6に記載の遊技機。

【4043】

特徴Q 7によれば、1回の処理回における所定単位処理において第2処理群の処理が第1処理群の処理よりも後の処理順序として集約されることにより、1回の処理回における所定単位処理において第1処理群の処理と第2処理群の処理との間の移行を繰り返す必要がなくなる。また、当該構成であっても上記特徴Q 3の構成を備え、第1処理群の処理では特典の付与契機が発生していることが特定された場合には特典の付与が一旦留保され、その後に第2処理群の処理にて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されることなく第1処理群の処理にて特典の付与契機を無効化させる処理が実行されなかった場合に、第1処理群の処理にて上記一旦留保された特典が付与される。これにより、第1処理群の処理における付与契機処理と特典付与処理との間で第2処理群の処理である発生情報記憶処理が実行されなかったとしても、所定事象が発生していない場合には特典の付与契機に対して特典が付与されるようにするとともに、所定事象が発生している場合には特典の付与契機を無効化して特典が付与されないようにすることが可能となる。

【4044】

特徴Q 8. 前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生していることを特定した場合に前記第1処理対応記憶領域に付与契機情報（確認フラグ群211dの各確認フラグに「1」をセットすること）を記憶させる付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5603、ステップS5606、ステップS5609、ステップS5612、ステップS5615、ステップS5618、ステップS5621又はステップS5623の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記第1処理対応記憶領域に記憶された前記付与契機情報を消去させる処理であることを特徴とする特徴Q 1乃至Q 7のいずれか1に記載の遊技機。

【4045】

特徴Q 8によれば、第1処理群の処理である付与契機処理において特典の付与契機が発生していることが特定された場合には第1処理対応記憶領域に付与契機情報が記憶され、その後に第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されることで第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて第1処理対応記憶領域の上記付与契機情報が消去される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を、第1処理対応記憶領域を利用しながら第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

【4046】

特徴Q 9. 前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第1処理対応記憶領域に前記付与契機情報が記憶されている場合に特典付与処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5518、ステップS5704又はステップS5709の処理を実行する機能）を備え、

前記発生情報記憶処理及び前記特別処理は、前記付与契機処理が実行された後であって

10

20

30

40

50

前記特典付与処理が実行される前に実行されることを特徴とする特徴Q 8に記載の遊技機。
【4047】

特徴Q 9によれば、第2処理群の処理である発生情報記憶処理及び第1処理群の処理である特別処理は、第1処理群の処理である付与契機処理が実行された後であって第1処理群の処理である特典付与処理が実行される前に実行される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、所定事象が発生している場合には特典付与処理が実行される前に特典の付与契機を無効化させることが可能となる。

【4048】

特徴Q 10．処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第1タイマ割込み処理）を開始させる手段（第13の実施形態における主側MPU82の第1タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定する情報特定処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS6601、ステップS6604、ステップS6607、ステップS6610、ステップS6613、ステップS6616、ステップS6619又はステップS6621の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理実行手段は、前記情報特定処理にて前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に前記特別処理を実行するものであり、

前記所定単位処理に、前記発生情報記憶処理、前記付与契機処理、前記特典付与処理及び前記情報特定処理が含まれており、

前記付与契機処理が実行された後に前記発生情報記憶処理が実行され、当該発生情報記憶処理が実行された後に前記情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に前記特典付与処理が実行されるように、1回の処理回における前記所定単位処理の処理順序が設定されていることを特徴とする特徴Q 9に記載の遊技機。

【4049】

特徴Q 10によれば、所定単位処理に発生情報記憶処理、付与契機処理、特典付与処理及び情報特定処理が含まれている構成において、付与契機処理が実行された後に発生情報記憶処理が実行され、当該発生情報記憶処理が実行された後に情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に特典付与処理が実行されるように当該所定単位処理における処理の実行順序を設定するだけで、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4050】

特徴Q 11．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定する情報特定処理を実行する手段（第13の実施形態では主側MPU82のステップS6601、ステップS6604、ステップS6607、ステップS6610、ステップS6613、ステップS6616、ステップS6619又はステップS6621の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS8002、ステップS8009、ステップS8102、ステップS8105、ステップS8108、ステップS8111、ステップS8115、ステップS8118の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理実行手段は、前記情報特定処理にて前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に前記特別処理を実行するものであり、

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、前記情報特定処理が実行された後に前記所定事象発生情報を消去させる発生情報消去処理を実行する手段（第13、第14の実施形態における主側MPU82の情報クリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Q 1乃至Q 10のいずれか1に記載の遊技機。

10

20

30

40

50

【4051】

特徴Q11によれば、第1処理群の処理である情報特定処理において第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に、第1処理群の処理である特別処理が実行される構成において、上記情報特定処理が実行された後に、第2処理群の処理である発生情報消去処理にて所定事象発生情報が消去される。これにより、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合にはそれに対して特別処理が実行されるようにしながら、当該所定事象発生情報を第2処理群の処理において消去することが可能となる。

【4052】

特徴Q12．前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、前記所定事象が発生しているか否かを特定する事象発生特定処理を実行する手段（第13，第14の実施形態におけるステップS6001～ステップS6003、ステップS6007～ステップS6009又はステップS6013～ステップS6014の処理を実行する機能）を備え、

10

前記所定事象が発生していることが前記事象発生特定処理にて特定された場合に、前記発生情報記憶処理にて前記第2処理対応記憶領域への前記所定事象発生情報の記憶が行われる構成であり、

前記発生情報消去処理は、前記事象発生特定処理が実行される場合において当該事象発生特定処理が実行される前に実行されることを特徴とする特徴Q11に記載の遊技機。

【4053】

20

特徴Q12によれば、第2処理群の処理である事象発生特定処理において所定事象が発生していることが特定された場合に、第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて第2処理対応記憶領域への所定事象発生情報の記憶が行われる構成において、事象発生特定処理が実行される場合において当該事象発生特定処理が実行される前に、所定事象発生情報を消去するための発生情報消去処理が実行される。つまり、所定事象発生情報が一旦消去された後に事象発生特定処理及び発生情報記憶処理が実行される。これにより、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報を記憶させるための処理が第2処理群の処理にて実行されるとともに第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されている場合における特別処理が第1処理群の処理にて実行される構成において、1回の所定事象発生情報の記憶によって特別処理が複数回実行されてしまわないようにしながら、第2処理群の処理において適切なタイミングで所定事象発生情報を消去する発生情報消去処理を実行することが可能となる。

30

【4054】

特徴Q13．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、所定の計測開始事象（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6104又はステップS6303）が発生したことに基づいて、前記第1処理対応記憶領域に設けられた所定の計測用記憶領域（特電用監視遅延タイマカウンタ211b、普電用監視遅延タイマカウンタ211c）を用いて所定監視期間の計測を開始する所定計測開始処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6106又はステップS6305の処理を実行する機能）を備え、

40

前記発生情報記憶処理では、前記所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において当該所定対応事象が発生している場合に前記所定事象の発生として前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報を記憶させることを特徴とする特徴Q1乃至Q12のいずれか1に記載の遊技機。

【4055】

特徴Q13によれば、所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に所定事象の発生として第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されて特別処理が実行される構成において、所定の計測用記憶領域を用いた所定監視期間の計測を行うための処理を第1処理群の処理において行うことが可能となる。

50

【4056】

特徴Q14．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記所定の計測開始事象が発生したか否かを特定するための処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6103又はステップS6302の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Q13に記載の遊技機。

【4057】

特徴Q14によれば、第1処理群の処理において所定の計測開始事象が発生したか否かを特定するための処理が実行される構成において、上記特徴Q13の構成を備え、所定の計測用記憶領域を用いた所定監視期間の計測を行うための処理が第1処理群の処理において行われる。これにより、所定監視期間の計測を行うための処理を第1処理群の処理に集約させることが可能となる。

10

【4058】

特徴Q15．前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、特定の計測開始事象（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6013の肯定判定）が発生したことに基づいて、前記第2処理対応記憶領域に設けられた特定の計測用記憶領域（第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213h）を用いて特定監視期間の計測を開始する特定計測開始処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6016の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Q13又はQ14に記載の遊技機。

【4059】

特徴Q15によれば、特定の計測開始事象が発生したことに基づいて特定監視期間の計測を行うための処理は第2処理群の処理に含まれている。これにより、各種期間を計測するための処理を、計測対象となる期間の種類の単位で、第1処理群の処理と第2処理群の処理とに分散させることが可能となる。

20

【4060】

特徴Q16．前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、前記特定監視期間との関係で特定対応事象が発生すべきではない状況において当該特定対応事象が発生している場合に前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報を記憶させる処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6015の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Q15に記載の遊技機。

30

【4061】

特徴Q16によれば、第1処理群の処理において計測される所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に所定事象の発生として第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されて特別処理が実行されるとともに、第2処理群の処理において計測される特定監視期間との関係で特定対応事象が発生すべきではない状況において特定対応事象が発生している場合にも第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されて特別処理が実行される。これにより、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報を記憶させる契機となる事象が発生しているか否かを特定するための各期間を計測する処理を、計測対象となる期間の種類の単位で、第1処理群の処理と第2処理群の処理とに分散させることが可能となる。

40

【4062】

なお、特徴Q1～Q16の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1

50

～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4063】

<特徴R群>

特徴R 1. 第1処理群の処理（特定制御の処理）を実行する第1処理群実行手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82の特定制御の処理を実行する機能）と、

第2処理群の処理（非特定制御の処理）を実行する第2処理群実行手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82の非特定制御の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第1処理対応記憶領域（第13，第14の実施形態における特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212）と、

10

前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第2処理対応記憶領域（第13，第14の実施形態における非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214）と、を備え、

前記第2処理群実行手段は、

前記第2処理群の処理として、所定事象（第13，第14の実施形態における主側MPU 82のステップS 6003にて肯定判定する事象、ステップS 6009にて肯定判定する事象、又はステップS 6014にて肯定判定する事象）が発生しているか否かを特定する事象発生特定処理を実行する手段（第13，第14の実施形態におけるステップS 6001～ステップS 6003、ステップS 6007～ステップS 6009又はステップS 6013～ステップS 6014の処理を実行する機能）と、

20

前記第2処理群の処理として、前記所定事象が発生していることが前記事象発生特定処理にて特定された場合に、前記第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報（異常フラグ213 l～213 rのいずれかに「1」をセットすること）を記憶させる発生情報記憶処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82のステップS 6004、ステップS 6010又はステップS 6015の処理を実行する機能）と、

30

を備え、

前記第1処理群実行手段は、

前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定する情報特定処理を実行する手段（第13の実施形態では主側MPU 82のステップS 6601、ステップS 6604、ステップS 6607、ステップS 6610、ステップS 6613、ステップS 6616、ステップS 6619又はステップS 6621の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU 82のステップS 8002、ステップS 8009、ステップS 8102、ステップS 8105、ステップS 8108、ステップS 8111、ステップS 8115、ステップS 8118の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理として、前記情報特定処理にて前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に特別処理を実行する特別処理実行手段（第13の実施形態では主側MPU 82のステップS 6602、ステップS 6603、ステップS 6605、ステップS 6606、ステップS 6608、ステップS 6609、ステップS 6611、ステップS 6612、ステップS 6614、ステップS 6615、ステップS 6617、ステップS 6618、ステップS 6620又はステップS 6622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU 82のステップS 8006の処理、ステップS 8013の処理、ステップS 8102にて肯定判定をする処理、ステップS 8105にて肯定判定をする処理、ステップS 8108にて肯定判定をする処理、ステップS 8111にて肯定判定をする処理、ステップS 8115にて肯定判定をする処理、ステップS 8118にて肯定判定をする処理を実行する機能）と、

40

50

を備え、

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、前記事象発生特定処理が実行される場合において当該事象発生特定処理が実行される前に前記所定事象発生情報を消去させる発生情報消去処理を実行する手段（第13、第14の実施形態における主側MPU82の情報クリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【4064】

特徴R1によれば、第1処理群の処理が実行される場合には第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第2処理群の処理が実行される場合には第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第1処理群の処理が実行される場合と第2処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第1処理群の処理が実行される場合であっても第1処理対応記憶領域からだけではなく第2処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第2処理群の処理が実行される場合であっても第2処理対応記憶領域からだけではなく第1処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

【4065】

この場合に、第2処理群の処理において所定事象が発生していることが特定されて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には、第1処理群の処理においてそれに対応する特別処理が実行される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせた構成であっても、所定事象が発生したことに対する特別処理を第1処理群の処理として実行することが可能となる。よって、制御手段における処理を好適に実行することが可能となる。

【4066】

また、第2処理群の処理である事象発生特定処理において所定事象が発生していることが特定された場合に、第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて第2処理対応記憶領域への所定事象発生情報の記憶が行われる構成において、事象発生特定処理が実行される場合において当該事象発生特定処理が実行される前に、所定事象発生情報を消去するための発生情報消去処理が実行される。つまり、所定事象発生情報が一旦消去された後に事象発生特定処理及び発生情報記憶処理が実行される。これにより、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報を記憶させるための処理が第2処理群の処理にて実行されるとともに第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されている場合における特別処理が第1処理群の処理にて実行される構成において、1回の所定事象発生情報の記憶によって特別処理が複数回実行されてしまわないようにしながら、第2処理群の処理において適切なタイミングで所定事象発生情報を消去する発生情報消去処理を実行することが可能となる。

【4067】

特徴R2．前記事象発生特定処理が実行された後であって次の前記事象発生特定処理の実行に対応する前記発生情報消去処理が実行される前に、前記情報特定処理が実行されることを特徴とする特徴R1に記載の遊技機。

【4068】

特徴R2によれば、第1処理群の処理である情報特定処理において第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に、第1処理群の処理である特別処理が実行される構成において、上記情報特定処理が実行された後に、第2処理群の処理である発生情報消去処理にて所定事象発生情報が消去される。これにより、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合にはそれに対して特別処理が実行されるようにしながら、当該所定事象発生情報を第2処理群の処理において消去することが可能となる。

【4069】

特徴R3．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生しているか否かを特定する付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態では主側MPU82のステップS5602、ステップS5605、ステップS5608、ステップS5611、ステップS5614、ステップS5617、ステップS5620又はステップS5622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS7803、ステップS7805、ステップS7807、ステップS7809、ステップS7811、ステップS7813、ステップS7815又はステップS7817の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記付与契機処理にて特定された前記特典の付与契機を無効化させる処理であることを特徴とする特徴R1又はR2に記載の遊技機。

10

【4070】

特徴R3によれば、第1処理群の処理である付与契機処理にて特典の付与契機が発生しているか否かが特定され、第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて上記特典の付与契機が無効化される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

20

【4071】

特徴R4．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生していることを特定した場合に前記第1処理対応記憶領域に付与契機情報（確認フラグ群211dの各確認フラグに「1」をセットすること）を記憶させる付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5603、ステップS5606、ステップS5609、ステップS5612、ステップS5615、ステップS5618、ステップS5621又はステップS5623の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記第1処理対応記憶領域に記憶された前記付与契機情報を消去させる処理であることを特徴とする特徴R1乃至R3のいずれか1に記載の遊技機。

30

【4072】

特徴R4によれば、第1処理群の処理である付与契機処理において特典の付与契機が発生していることが特定された場合には第1処理対応記憶領域に付与契機情報が記憶され、その後に第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されることで第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて第1処理対応記憶領域の上記付与契機情報が消去される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を、第1処理対応記憶領域を利用しながら第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

40

【4073】

特徴R5．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第1処理対応記憶領域に前記付与契機情報が記憶されている場合に特典付与処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5518、ステップS5704又はステップS5709の処理を実行する機能）を備え、

前記事象発生特定処理及び前記情報特定処理は、前記付与契機処理が実行された後であって前記特典付与処理が実行される前に実行されることを特徴とする特徴R4に記載の遊技機。

【4074】

50

特徴 R 5 によれば、第 2 処理群の処理である事象発生特定処理及び第 1 処理群の処理である情報特定処理は、第 1 処理群の処理である付与契機処理が実行された後であって第 1 処理群の処理である特典付与処理が実行される前に実行される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第 1 処理群の処理ではなく第 2 処理群の処理として実行することで第 1 処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、所定事象が発生している場合には特典付与処理が実行される前に特典の付与契機を無効化させることが可能となる。

【4075】

特徴 R 6 . 処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第 1 タイマ割込み処理）を開始させる手段（第 1 3 の実施形態における主側 M P U 8 2 の第 1 タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

10

前記所定単位処理に、前記事象発生特定処理、前記付与契機処理、前記特典付与処理及び前記情報特定処理が含まれており、

前記付与契機処理が実行された後に前記事象発生特定処理が実行され、当該事象発生特定処理が実行された後に前記情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に前記特典付与処理が実行されるように、1 回の処理回における前記所定単位処理の処理順序が設定されていることを特徴とする特徴 R 5 に記載の遊技機。

【4076】

特徴 R 6 によれば、所定単位処理に事象発生特定処理、付与契機処理、特典付与処理及び情報特定処理が含まれている構成において、付与契機処理が実行された後に事象発生特定処理が実行され、当該事象発生特定処理が実行された後に情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に特典付与処理が実行されるように当該所定単位処理における処理の実行順序を設定するだけで、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

20

【4077】

なお、特徴 R 1 ~ R 6 の構成に対して、特徴 A 1 ~ A 8、特徴 B 1 ~ B 8、特徴 C 1 ~ C 8、特徴 D 1 ~ D 8、特徴 E 1 ~ E 9、特徴 F 1 ~ F 6、特徴 G 1 ~ G 1 1、特徴 H 1 ~ H 8、特徴 I 1 ~ I 5、特徴 J 1 ~ J 7、特徴 K 1 ~ K 7、特徴 L 1 ~ L 5、特徴 M 1 ~ M 4、特徴 N 1 ~ N 8、特徴 O 1 ~ O 8、特徴 P 1 ~ P 6、特徴 Q 1 ~ Q 1 6、特徴 R 1 ~ R 6、特徴 S 1 ~ S 7、特徴 T 1 ~ T 3、特徴 U 1 ~ U 5、特徴 V 1 ~ V 6、特徴 W 1 ~ W 1 1、特徴 X 1 ~ X 1 4、特徴 Y 1 ~ Y 1 0、特徴 Z 1 ~ Z 1 0、特徴 a 1 ~ a 2 0、特徴 b 1 ~ b 8、特徴 c 1 ~ c 6、特徴 d 1 ~ d 1 1、特徴 e 1 ~ e 1 5、特徴 f 1 ~ f 1 5、特徴 g 1 ~ g 1 2、特徴 h 1 ~ h 1 1、特徴 i 1 ~ i 1 8、特徴 j 1 ~ j 1 4、特徴 k 1 ~ k 4、特徴 l 1 ~ l 1 9、特徴 m 1 ~ m 1 6、特徴 n 1 ~ n 8、特徴 o 1 ~ o 1 6、特徴 p 1 ~ p 1 0、特徴 q 1 ~ q 7、特徴 r 1 ~ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

30

【4078】

<特徴 S 群>

特徴 S 1 . 第 1 処理群の処理（特定制御の処理）を実行する第 1 処理群実行手段（第 1 3 , 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 の特定制御の処理を実行する機能）と、

40

第 2 処理群の処理（非特定制御の処理）を実行する第 2 処理群実行手段（第 1 3 , 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 の非特定制御の処理を実行する機能）と、

前記第 1 処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第 2 処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第 1 処理対応記憶領域（第 1 3 , 第 1 4 の実施形態における特定制御用のワークエリア 2 1 1 及び特定制御用のスタックエリア 2 1 2）と、

前記第 2 処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第 1 処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第 2 処理対応記憶領域（第 1 3 , 第 1 4 の実施形態にお

50

ける非特定制御用のワークエリア 2 1 3 及び非特定制御用のスタックエリア 2 1 4) と、を備え、

前記第 1 処理群実行手段は、前記第 1 処理群の処理として、所定の計測開始事象（第 1 3, 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 6 1 0 4 又はステップ S 6 3 0 3）が発生したことに基づいて、前記第 1 処理対応記憶領域に設けられた所定の計測用記憶領域（特電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 b、普電用監視遅延タイマカウンタ 2 1 1 c）を用いて所定監視期間の計測を開始する所定計測開始処理を実行する手段（第 1 3, 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 6 1 0 6 又はステップ S 6 3 0 5 の処理を実行する機能）を備え、

前記第 2 処理群実行手段は、前記第 2 処理群の処理として、前記所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において当該所定対応事象が発生している場合に所定対応処理を実行する所定対応実行手段（第 1 3, 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 6 0 0 4、ステップ S 6 0 1 0 又はステップ S 6 0 1 5 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【4079】

特徴 S 1 によれば、第 1 処理群の処理が実行される場合には第 1 処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第 2 処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第 2 処理群の処理が実行される場合には第 2 処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第 1 処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第 1 処理群の処理が実行される場合と第 2 処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第 1 処理群の処理が実行される場合であっても第 1 処理対応記憶領域からだけではなく第 2 処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第 2 処理群の処理が実行される場合であっても第 2 処理対応記憶領域からだけではなく第 1 処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第 1 処理群の処理及び第 2 処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

【4080】

この場合に、所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に第 2 処理群の処理において所定対応処理が実行される。これにより、所定対応事象が発生しているか否かを特定するための処理を第 1 処理群の処理ではなく第 2 処理群の処理として実行することで第 1 処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせることが可能となる。よって、制御手段における処理を好適に実行することが可能となる。

【4081】

また、所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に第 2 処理群の処理にて所定対応処理が実行される構成において、所定の計測用記憶領域を用いた所定監視期間の計測を行うための処理を第 1 処理群の処理において行うことが可能となる。

【4082】

特徴 S 2. 前記第 1 処理群実行手段は、前記第 1 処理群の処理として、前記所定の計測開始事象が発生したか否かを特定するための処理を実行する手段（第 1 3, 第 1 4 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S 6 1 0 3 又はステップ S 6 3 0 2 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 S 1 に記載の遊技機。

【4083】

特徴 S 2 によれば、第 1 処理群の処理において所定の計測開始事象が発生したか否かを特定するための処理が実行される構成において、上記特徴 S 1 の構成を備え、所定の計測用記憶領域を用いた所定監視期間の計測を行うための処理が第 1 処理群の処理において行われる。これにより、所定監視期間の計測を行うための処理を第 1 処理群の処理に集約させることが可能となる。

【4084】

特徴S3．前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、特定の計測開始事象（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6013の肯定判定）が発生したことに基づいて、前記第2処理対応記憶領域に設けられた特定の計測用記憶領域（第1～第8入賞監視タイマカウンタ213a～213h）を用いて特定監視期間の計測を開始する特定計測開始処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU82のステップS6016の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴S1又はS2に記載の遊技機。

【4085】

特徴S3によれば、特定の計測開始事象が発生したことに基づいて特定監視期間の計測を行うための処理は第2処理群の処理に含まれている。これにより、各種期間を計測するための処理を、計測対象となる期間の種類の単位で、第1処理群の処理と第2処理群の処理とに分散させることが可能となる。

10

【4086】

特徴S4．前記所定対応実行手段は、前記特定監視期間との関係で特定対応事象が発生すべきではない状況において当該特定対応事象が発生している場合に前記所定対応処理を実行することを特徴とする特徴S3に記載の遊技機。

【4087】

特徴S4によれば、第1処理群の処理において計測される所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に所定対応処理が実行されるとともに、第2処理群の処理において計測される特定監視期間との関係で特定対応事象が発生すべきではない状況において特定対応事象が発生している場合にも所定対応処理が実行される。これにより、所定対応処理を実行する契機となる事象が発生しているか否かを特定するための各期間を計測する処理を、計測対象となる期間の種類の単位で、第1処理群の処理と第2処理群の処理とに分散させることが可能となる。

20

【4088】

特徴S5．前記所定対応処理は、前記所定監視期間との関係で前記所定対応事象が発生すべきではない状況において当該所定対応事象が発生している場合に前記第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報（異常フラグ213l～213rのいずれかに「1」をセットすること）を記憶させる処理であり、

30

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されている場合に特別処理を実行する特別処理実行手段（第13の実施形態では主側MPU82のステップS6602、ステップS6603、ステップS6605、ステップS6606、ステップS6608、ステップS6609、ステップS6611、ステップS6612、ステップS6614、ステップS6615、ステップS6617、ステップS6618、ステップS6620又はステップS6622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS8006の処理、ステップS8013の処理、ステップS8102にて肯定判定をする処理、ステップS8105にて肯定判定をする処理、ステップS8108にて肯定判定をする処理、ステップS8111にて肯定判定をする処理、ステップS8115にて肯定判定をする処理、ステップS8118にて肯定判定をする処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴S1乃至S4のいずれか1に記載の遊技機。

40

【4089】

特徴S5によれば、所定監視期間との関係で所定対応事象が発生すべきではない状況において所定対応事象が発生している場合に第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶され、第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶されている場合に第1処理群の処理において特別処理が実行される。これにより、所定対応事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせた構成であっても、所定対応事象が発生したことに対する特別処理を第1処理群の処理として実行することが可能となる。

50

【4090】

特徴S6．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生しているか否かを特定する付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態では主側MPU82のステップS5602、ステップS5605、ステップS5608、ステップS5611、ステップS5614、ステップS5617、ステップS5620又はステップS5622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU82のステップS7803、ステップS7805、ステップS7807、ステップS7809、ステップS7811、ステップS7813、ステップS7815又はステップS7817の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記付与契機処理にて特定された前記特典の付与契機を無効化させる処理であることを特徴とする特徴S5に記載の遊技機。

10

【4091】

特徴S6によれば、第1処理群の処理である付与契機処理にて特典の付与契機が発生しているか否かが特定され、第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されて第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて上記特典の付与契機が無効化される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

20

【4092】

特徴S7．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生していることを特定した場合に前記第1処理対応記憶領域に付与契機情報（確認フラグ群211dの各確認フラグに「1」をセットすること）を記憶させる付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5603、ステップS5606、ステップS5609、ステップS5612、ステップS5615、ステップS5618、ステップS5621又はステップS5623の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理は、前記第1処理対応記憶領域に記憶された前記付与契機情報を消去させる処理であることを特徴とする特徴S5に記載の遊技機。

30

【4093】

特徴S7によれば、第1処理群の処理である付与契機処理において特典の付与契機が発生していることが特定された場合には第1処理対応記憶領域に付与契機情報が記憶され、その後に第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されることで第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて第1処理対応記憶領域の上記付与契機情報が消去される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機の発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を、第1処理対応記憶領域を利用しながら第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

40

【4094】

なお、特徴S1～S7の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14

50

、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4095】

＜特徴T群＞

特徴T 1．第1処理群の処理（特定制御の処理）を実行する第1処理群実行手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82の特定制御の処理を実行する機能）と、

第2処理群の処理（非特定制御の処理）を実行する第2処理群実行手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82の非特定制御の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第1処理対応記憶領域（第13，第14の実施形態における特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212）と、

前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第2処理対応記憶領域（第13，第14の実施形態における非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214）と、を備え、

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、所定事象（第13，第14の実施形態における主側MPU 82のステップS 6003にて肯定判定する事象、ステップS 6009にて肯定判定する事象、又はステップS 6014にて肯定判定する事象）が発生している場合に前記第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報（異常フラグ213 l～213 rのいずれかに「1」をセットすること）を記憶させる発生情報記憶処理を実行する手段（第13，第14の実施形態における主側MPU 82のステップS 6004、ステップS 6010又はステップS 6015の処理を実行する機能）を備え、

前記第1処理群実行手段は、

前記第1処理群の処理として、特典の付与契機が発生していることを特定した場合に前記第1処理対応記憶領域に付与契機情報（確認フラグ群211 dの各確認フラグに「1」をセットすること）を記憶させる付与契機処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU 82のステップS 5603、ステップS 5606、ステップS 5609、ステップS 5612、ステップS 5615、ステップS 5618、ステップS 5621又はステップS 5623の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されている場合に前記第1処理対応記憶領域に記憶された前記付与契機情報を消去させる特別処理を実行する特別処理実行手段（第13の実施形態では主側MPU 82のステップS 6602、ステップS 6603、ステップS 6605、ステップS 6606、ステップS 6608、ステップS 6609、ステップS 6611、ステップS 6612、ステップS 6614、ステップS 6615、ステップS 6617、ステップS 6618、ステップS 6620又はステップS 6622の処理を実行する機能、第14の実施形態では主側MPU 82のステップS 8006の処理、ステップS 8013の処理、ステップS 8102にて肯定判定をする処理、ステップS 8105にて肯定判定をする処理、ステップS 8108にて肯定判定をする処理、ステップS 8111にて肯定判定をする処理、ステップS 8115にて肯定判定をする処理、ステップS 8118にて肯定判定をする処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【4096】

特徴T 1によれば、第1処理群の処理が実行される場合には第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第2処理群の処理が実行される場合には第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対

10

20

30

40

50

象となるものの第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第1処理群の処理が実行される場合と第2処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第1処理群の処理が実行される場合であっても第1処理対応記憶領域からだけではなく第2処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第2処理群の処理が実行される場合であっても第2処理対応記憶領域からだけではなく第1処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

【4097】

この場合に、第1処理群の処理である付与契機処理において特典の付与契機が発生していることが特定された場合には第1処理対応記憶領域に付与契機情報が記憶され、その後第2処理群の処理である発生情報記憶処理にて所定事象が発生していることが特定されることで第2処理対応記憶領域に所定事象発生情報が記憶された場合には第1処理群の処理である特別処理にて第1処理対応記憶領域の上記付与契機情報が消去される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、特典の付与契機が発生を特定するための処理及び当該特典の付与契機を無効化させるための処理を、第1処理対応記憶領域を利用しながら第1処理群の処理において集約して行うことが可能となる。

【4098】

特徴T2．前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第1処理対応記憶領域に前記付与契機情報が記憶されている場合に特典付与処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5518、ステップS5704又はステップS5709の処理を実行する機能）を備え、

前記発生情報記憶処理及び前記特別処理は、前記付与契機処理が実行された後であって前記特典付与処理が実行される前に実行されることを特徴とする特徴T1に記載の遊技機。

【4099】

特徴T2によれば、第2処理群の処理である発生情報記憶処理及び第1処理群の処理である特別処理は、第1処理群の処理である付与契機処理が実行された後であって第1処理群の処理である特典付与処理が実行される前に実行される。これにより、所定事象が発生しているか否かを特定するための処理を第1処理群の処理ではなく第2処理群の処理として実行することで第1処理群の処理として実行可能な処理に余裕を持たせながら、所定事象が発生している場合には特典付与処理が実行される前に特典の付与契機を無効化させることが可能となる。

【4100】

特徴T3．処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第1タイマ割込み処理）を開始させる手段（第13の実施形態における主側MPU82の第1タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されているか否かを特定する情報特定処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS6601、ステップS6604、ステップS6607、ステップS6610、ステップS6613、ステップS6616、ステップS6619又はステップS6621の処理を実行する機能）を備え、

前記特別処理実行手段は、前記情報特定処理にて前記第2処理対応記憶領域に前記所定事象発生情報が記憶されていることが特定された場合に前記特別処理を実行するものであり、

前記所定単位処理に、前記発生情報記憶処理、前記付与契機処理、前記特典付与処理及び前記情報特定処理が含まれており、

前記付与契機処理が実行された後に前記発生情報記憶処理が実行され、当該発生情報記

10

20

30

40

50

憶処理が実行された後に前記情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に前記特典付与処理が実行されるように、1回の処理回における前記所定単位処理の処理順序が設定されていることを特徴とする特徴T2に記載の遊技機。

【4101】

特徴T3によれば、所定単位処理に発生情報記憶処理、付与契機処理、特典付与処理及び情報特定処理が含まれている構成において、付与契機処理が実行された後に発生情報記憶処理が実行され、当該発生情報記憶処理が実行された後に情報特定処理が実行され、当該情報特定処理が実行された後に特典付与処理が実行されるように当該所定単位処理における処理の実行順序を設定するだけで、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4102】

なお、特徴T1～T3の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4103】

<特徴U群>

特徴U1. 各種処理を実行する制御手段（第13の実施形態における主側MPU82）を備えた遊技機において、

前記制御手段は、

前記各種処理のうち第1処理群の処理（特定制御の処理）を実行する第1処理群実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の特定制御の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第2処理群の処理（非特定制御の処理）を実行する第2処理群実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の非特定制御の処理を実行する機能）と、を備え、

本遊技機は、

前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第1処理対応記憶領域（第13の実施形態における特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212）と、

前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第2処理対応記憶領域（第13の実施形態における非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214）と、を備え、

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、第1送信契機が発生した場合に送信情報記憶領域（コマンド送信バッファ223b）に第1送信情報（通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認開始コマンド、確認時の復帰コマンド、更新開始コマンド、更新時の復帰コマンド、第1保留コマンド、第2保留コマンド）を記憶させる第1送信情報記憶処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS4914、ステップS4921、ステップS5003、ステップS5007、ステップS5105、ステップS5114、ステップS5705又はステップS5710の処理

10

20

30

40

50

を実行する機能)を備え、

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、第2送信契機が発生した場合に前記送信情報記憶領域に第2送信情報(断線発生コマンド、短絡発生コマンド、普電入賞異常コマンド、特電入賞異常コマンド又は磁気異常コマンド)を記憶させる第2送信情報記憶処理を実行する手段(第13の実施形態における主側MPU82のステップS5404、ステップS5408、ステップS6005、ステップS6011又はステップS6507の処理を実行する機能)を備え、

本遊技機は、前記送信情報記憶領域に前記第1送信情報が記憶されている場合には当該第1送信情報を送信対象(音光側MPU93)に送信し、前記送信情報記憶領域に前記第2送信情報が記憶されている場合には当該第2送信情報を送信対象(音光側MPU93)に送信する送信実行手段(コマンド送信回路224)を備えていることを特徴とする遊技機。

【4104】

特徴U1によれば、第1処理群の処理が実行される場合には第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第2処理群の処理が実行される場合には第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第1処理群の処理が実行される場合と第2処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第1処理群の処理が実行される場合であっても第1処理対応記憶領域からだけではなく第2処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第2処理群の処理が実行される場合であっても第2処理対応記憶領域からだけではなく第1処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

【4105】

この場合に、第1送信契機が発生した場合には第1処理群の処理である第1送信情報記憶処理にて第1送信情報が送信情報記憶領域に記憶され、第2送信契機が発生した場合には第2処理群の処理である第2送信情報記憶処理にて第2送信情報が送信情報記憶領域に記憶される。そして、送信情報記憶領域に第1送信情報が記憶されている場合には当該第1送信情報が送信対象に送信され、送信情報記憶領域に第2送信情報が記憶されている場合には当該第2送信情報が送信対象に送信される。つまり、第1処理群の処理にて情報の書き込みが可能な記憶領域と第2処理群の処理にて情報の書き込みが可能な記憶領域とを第1処理対応記憶領域と第2処理対応記憶領域とで区別した構成において、送信対象に送信される送信情報については共通の送信情報記憶領域に書き込まれる。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のそれぞれで送信情報が個別に送信される構成に比べて、送信情報を送信するための構成を集約することが可能となる。

【4106】

特徴U2. 前記制御手段は前記各種処理を実行する場合に当該制御手段に設けられた内部記憶手段(レジスタエリア223)に情報を書き込む構成であり、

前記送信情報記憶領域は、前記内部記憶手段に設けられていることを特徴とする特徴U1に記載の遊技機。

【4107】

特徴U2によれば、第1処理群の処理にて第1送信情報が記憶されるとともに第2処理群の処理にて第2送信情報が記憶される送信情報記憶領域が制御手段の内部記憶手段に設けられている。これにより、第1処理群の処理にて情報の書き込みが可能な記憶領域と第2処理群の処理にて情報の書き込みが可能な記憶領域とを第1処理対応記憶領域と第2処理対応記憶領域とで明確に区別した構成において、これら第1処理対応記憶領域及び第2処理対応記憶領域を利用しないようにしながら、送信情報を書き込む記憶領域を第1処理群の処理と第2処理群の処理とで共通化させることが可能となる。

【4108】

特徴U3．前記送信実行手段は、前記第1処理群実行手段及び前記第2処理群実行手段のいずれにも含まれないことを特徴とする特徴U1又はU2に記載の遊技機。

【4109】

特徴U3によれば、第1処理群の処理及び第2処理群の処理とは独立して、送信情報記憶領域に記憶された送信情報を送信対象に送信することが可能となる。

【4110】

特徴U4．前記第1処理群実行手段はプログラムを利用して前記第1処理群の処理を実行し、

前記第2処理群実行手段はプログラムを利用して前記第2処理群の処理を実行し、

前記送信実行手段はプログラムを利用することなく前記送信を行うことを特徴とする特徴U1乃至U3のいずれか1に記載の遊技機。

【4111】

特徴U4によれば、第1処理群の処理及び第2処理群の処理はプログラムを利用して実行されるのに対して、送信情報記憶領域に記憶された送信情報の送信対象への送信はプログラムを利用することなく行われる。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理とは独立して、送信情報記憶領域に記憶された送信情報を送信対象に送信することが可能となるとともに、必要なプログラム容量を増加させることなく送信情報を送信する制御を実行することが可能となる。

【4112】

特徴U5．前記第1送信情報が前記制御手段にて前記第1処理群の処理が実行されている状況だけではなく前記第2処理群の処理が実行されている状況であっても送信され得る構成であって、前記第2送信情報が前記制御手段にて前記第2処理群の処理が実行されている状況だけではなく前記第1処理群の処理が実行されている状況であっても送信され得る構成であることを特徴とする特徴U1乃至U4のいずれか1に記載の遊技機。

【4113】

特徴U5によれば、第1処理群の処理及び第2処理群の処理の実行状況に関係なく、送信情報記憶領域に記憶された送信情報を送信対象に送信することが可能となる。

【4114】

なお、特徴U1～U5の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4115】

<特徴V群>

特徴V1．各種処理のうち第1処理群の処理（特定制御の処理）を実行する第1処理群実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の特定制御の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第2処理群の処理（非特定制御の処理）を実行する第2処理群実行手段（第13の実施形態における主側MPU82の非特定制御の処理を実行する機能）と、

前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるも

10

20

30

40

50

の情報の書き込みが不可である第1処理対応記憶領域（第13の実施形態における特定制御用のワークエリア211及び特定制御用のスタックエリア212）と、

前記第2処理群の処理が実行される場合には情報の書き込み及び情報の読み出しが可能である一方、前記第1処理群の処理が実行される場合には情報の読み出しは可能であるものの情報の書き込みが不可である第2処理対応記憶領域（第13の実施形態における非特定制御用のワークエリア213及び非特定制御用のスタックエリア214）と、
を備え、

前記第1処理群実行手段は、前記第1処理群の処理として、第1更新契機が発生した場合に第1数値記憶領域（第1セキュリティカウンタ211a）の情報を更新する第1更新処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS4917又はステップS4920の処理を実行する機能）を備え、

10

前記第2処理群実行手段は、前記第2処理群の処理として、第2更新契機が発生した場合に第2数値記憶領域（第2セキュリティカウンタ213k）の情報を更新する第2更新処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のステップS5405、ステップS5409、ステップS6006、ステップS6012又はステップS6508の処理を実行する機能）を備え、

本遊技機は、前記第1数値記憶領域の情報と前記第2数値記憶領域の情報との両方に対応する特定対応処理を実行する手段（第13の実施形態における主側MPU82のセキュリティ用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【4116】

20

特徴V1によれば、第1処理群の処理が実行される場合には第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはなく、第2処理群の処理が実行される場合には第2処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となるものの第1処理対応記憶領域が情報の書き込み対象となることはない。これにより、第1処理群の処理が実行される場合と第2処理群の処理が実行される場合とで情報の書き込み対象となる記憶領域の種類を明確に区別することが可能となる。その一方、第1処理群の処理が実行される場合であっても第1処理対応記憶領域からだけではなく第2処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能であるとともに、第2処理群の処理が実行される場合であっても第2処理対応記憶領域からだけではなく第1処理対応記憶領域からも情報の読み出しが可能である。これにより、第1処理群の処理及び第2処理群の処理のうち一方の処理における処理結果に対応する情報を他方の処理において参照することが可能となる。

30

【4117】

この場合に、第1更新契機が発生した場合には第1処理群の処理である第1更新処理において第1数値記憶領域の情報が更新され、第2更新契機が発生した場合には第2処理群の処理である第2更新処理において第2数値記憶領域の情報が更新される。そして、第1数値記憶領域の情報と第2数値記憶領域の情報との両方に対応する特定対応処理が実行される。これにより、第1処理群の処理と第2処理群の処理とで明確に区別された構成において、これら第1処理群の処理及び第2処理群の処理のそれぞれにおいて特定された内容に対応する処理を実行することが可能となる。

40

【4118】

特徴V2．前記第1数値記憶領域は前記第1処理対応記憶領域に設けられていることを特徴とする特徴V1に記載の遊技機。

【4119】

特徴V2によれば、第1更新契機が発生したことに対応する情報を記憶するための記憶領域として第1処理対応記憶領域を利用することが可能となる。

【4120】

特徴V3．前記第2数値記憶領域は前記第2処理対応記憶領域に設けられていることを特徴とする特徴V2に記載の遊技機。

【4121】

50

特徴V 3によれば、第1更新契機が発生したことに対応する情報を記憶するための記憶領域として第1処理対応記憶領域を利用することが可能となるとともに、第2更新契機が発生したことに対応する情報を記憶するための記憶領域として第2処理対応記憶領域を利用することが可能となる。

【4 1 2 2】

特徴V 4．前記特定対応処理は、前記第1処理群の処理及び前記第2処理群の処理のうちいずれか一方に含まれていることを特徴とする特徴V 1乃至V 3のいずれか1に記載の遊技機。

【4 1 2 3】

特徴V 4によれば、第1更新処理が含まれる第1処理群の処理及び第2更新処理が含まれる第2処理群の処理のいずれかに特定対応処理を集約させることが可能となる。

【4 1 2 4】

特徴V 5．前記特定対応処理は、前記第1処理群の処理に含まれており、
前記第1処理対応記憶領域には、前記特定対応処理が実行された場合における前記第2数値記憶領域の情報を記憶する確認済み記憶領域（前回値記憶エリア2 1 1 e）を備え、
前記特定対応処理には、

前記第2数値記憶領域の情報と前記確認済み記憶領域の情報との差分を特定する差分特定処理（第1 3の実施形態における主側MP U 8 2のステップS 6 7 0 1～ステップS 6 7 0 3の処理）と、

当該差分特定処理により特定された差分の情報と前記第1数値記憶領域の情報との両方に対応する制御が実行されるようにする処理（第1 3の実施形態における主側MP U 8 2のステップS 6 7 0 6～ステップS 6 7 1 4の処理）と、
が含まれていることを特徴とする特徴V 1乃至V 4のいずれか1に記載の遊技機。

【4 1 2 5】

特徴V 5によれば、第1更新処理及び所定対応処理が第1処理群の処理に含まれ、第2更新処理が第2処理群の処理に含まれる構成において、第2数値記憶領域の情報の差分と第1数値記憶領域の情報との両方に対応する制御を特定対応処理にて実行することが可能となる。

【4 1 2 6】

特徴V 6．前記第1数値記憶領域を利用して前記第1更新契機が発生した回数を計測することが可能であり、

前記第2数値記憶領域を利用して前記第2更新契機が発生した回数を計測することが可能であり、

前記特定対応処理では、前記第1数値記憶領域の情報と前記第2数値記憶領域の情報との合計に対応する処理を実行することを特徴とする特徴V 1乃至V 5のいずれか1に記載の遊技機。

【4 1 2 7】

特徴V 6によれば、第1更新契機が発生した回数と第2更新契機が発生した回数との合計に対応する処理を実行する構成において既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【4 1 2 8】

なお、特徴V 1～V 6の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 1 1、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 1 6、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 1 1、特徴X 1～X 1 4、特徴Y 1～Y 1 0、特徴Z 1～Z 1 0、特徴a 1～a 2 0、特徴b 1～b 8、特徴c 1～c 6、特徴d 1～d 1 1、特徴e 1～e 1 5、特徴f 1～f 1 5、特徴g 1～g 1 2、特徴h 1～h 1 1、特徴i 1～i 1 8、特徴j 1～j 1 4、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 1 9、特徴m 1～m 1 6、特徴n 1～n 8、特徴o 1～

10

20

30

40

50

o 1 6、特徴 p 1 ~ p 1 0、特徴 q 1 ~ q 7、特徴 r 1 ~ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【 4 1 2 9 】

上記特徴 Q 群、上記特徴 R 群、上記特徴 S 群、上記特徴 T 群、上記特徴 U 群及び上記特徴 V 群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【 4 1 3 0 】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【 4 1 3 1 】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【 4 1 3 2 】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、制御手段により処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【 4 1 3 3 】

＜特徴 W 群＞

特徴 W 1、第 1 所定契機（第 1 5 の実施形態では時短結果に対応する遊技回の実行、第 2 1 の実施形態では第 1 ~ 第 3 時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第 2 作動口 3 4 が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる第 1 所定状態（第 1 5 の実施形態では第 3 時短状態 S T 3、第 2 1 の実施形態では第 3 時短状態 S T 3 A ~ S T 3 C）を実行可能とする第 1 所定状態情報（第 1 5 の実施形態では第 3 時短状態フラグ 3 2 4 の「1」の情報、第 2 1 の実施形態では事象対象カウンタ 3 7 1 の「3」の情報）を所定記憶手段（主側 R A M 8 4）に設定する第 1 情報設定手段（第 1 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 8 7 0 5 の処理を実行する機能）と、

第 2 所定契機（第 1 5、第 2 1 の実施形態における 5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードの終了又は天井回数の遊技回の消化）が発生したことに基づいて、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第 2 所定状態（第 1 5、第 2 1 の実施形態における第 1 時短状態 S T 1 又は第 2 時短状態 S T 2）を実行可能とする第 2 所定状態情報（第 1 5 の実施形態では第 1 時短状態フラグ 3 2 2 の「1」の情報又は第 2 時短状態フラグ 3 2 3 の「1」の情報、第 2 1 の実施形態では事象対象カウンタ 3 7 1 の「1」又は「2」の情報）を前記所定記憶手段に設定する第 2 情報設定手段（第 1 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 8 4 0 6 又はステップ S 8 6 0 5 の処理を実行する機能、第 2 1 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S C 2 0 7 又はステップ S C 3 0 5 の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は、前記第 1 所定状態情報よりも前記第 2 所定状態情報の方が高く設定されていることを特徴とする遊技機。

【 4 1 3 4 】

特徴 W 1 によれば、第 1 所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第 1 所定状態が実行可能となり、第 2 所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第 2 所定状態が実行可能となる。これにより、所定事象の有利度との関係で遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は、第 1 所定状態情報よりも第 2 所定状態情報の方が高く設定されている。これにより、第 1 所定状態よりも第 2 所定状態の方が優先

10

20

30

40

50

して発生するようにすることが可能となり、第1所定契機及び第2所定契機のそれぞれが任意のタイミングで発生するとしても、優先して発生する所定状態の種類を遊技機の設計段階のものとするのが可能となる。よって、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4135】

特徴W2．前記第1情報設定手段は、前記第2所定状態において前記第1所定契機が発生した場合、前記所定記憶手段に前記第1所定状態情報を設定しないことを特徴とする特徴W1に記載の遊技機。

【4136】

特徴W2によれば、第2所定状態において第1所定契機が発生したとしても、所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は第1所定状態情報よりも第2所定状態情報の方が高く設定されているため、所定記憶手段に第1所定状態情報が設定されることはなく、所定記憶手段に第2所定状態情報が設定された状態が維持される。これにより、第2所定状態において第1所定契機が発生したとしても第2所定状態が維持されるようにすることが可能となる。

【4137】

特徴W3．前記第2所定状態において前記第1所定契機が発生した場合、前記所定記憶手段に前記第1所定状態情報が設定されることが待機された待機状態に設定する待機状態設定手段（第21の実施形態における主側MPU82のステップSC409の処理を実行する機能）を備え、

前記第1情報設定手段は、前記待機状態において前記第2所定状態が終了した場合、前記所定記憶手段に前記第1所定状態情報を設定することを特徴とする特徴W2に記載の遊技機。

【4138】

特徴W3によれば、第2所定状態において第1所定契機が発生した場合には第2所定状態が維持されるものの、所定記憶手段に第1所定状態情報が設定されることが待機された待機状態に設定される。そして、待機状態において第2所定状態が終了した場合には所定記憶手段に第1所定状態情報が設定される。これにより、第2所定状態において第1所定契機が発生した場合に当該第1所定契機がそのまま無効化されてしまわないようにすることが可能となる。

【4139】

特徴W4．前記待機状態において終了契機が発生した場合、前記所定記憶手段に前記第1所定状態情報が設定されことなく当該待機状態が解除されることを特徴とする特徴W3に記載の遊技機。

【4140】

特徴W4によれば、待機状態となったとしても所定記憶手段に第1所定状態情報が設定されない状況を生じさせることが可能となる。

【4141】

特徴W5．前記第2情報設定手段は、前記第1所定状態において前記第2所定契機が発生した場合、前記所定記憶手段に前記第2所定状態情報を設定することを特徴とする特徴W1乃至W4のいずれか1に記載の遊技機。

【4142】

特徴W5によれば、第1所定状態において第2所定契機が発生した場合、所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は第1所定状態情報よりも第2所定状態情報の方が高く設定されているため、所定記憶手段に第2所定状態情報が設定される。これにより、第1所定状態において第2所定契機が発生した場合には第1所定状態に代えて第2所定状態が開始されるようにすることが可能となる。

【4143】

特徴W6．前記第1所定契機は、遊技回が実行される場合に実行された所定抽選処理（第15の実施形態ではステップS805の当否判定処理、第21の実施形態ではステップ

10

20

30

40

50

S 8 0 5 の当否判定処理及びステップ S 8 1 1 の時短用の振分判定処理)において所定契機結果(第 1 5 の実施形態では時短結果、第 2 1 の実施形態では第 1 ~ 第 3 時短結果)となったことに基づいて発生することを特徴とする特徴 W 1 乃至 W 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 1 4 4 】

特徴 W 6 によれば、第 1 所定契機は遊技回が実行される場合に実行された所定抽選処理において所定契機結果となったことに基づいて発生するため、第 1 所定契機は不規則に発生することになる。この場合に、上記特徴 W 1 の構成を備え、所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は第 1 所定状態情報よりも第 2 所定状態情報の方が高く設定されているため、所定記憶手段に第 2 所定状態情報が設定されている状況において第 1 所定契機が不規則に発生したとしても、所定記憶手段に第 2 所定状態情報が設定されている状態を維持させることが可能となる。

10

【 4 1 4 5 】

特徴 W 7 . 前記第 2 所定契機は、遊技者に有利な所定の有利遊技状態(5 R 低確結果を契機とした開閉実行モード)が実行される場合に発生することを特徴とする特徴 W 1 乃至 W 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 1 4 6 】

特徴 W 7 によれば、遊技者に有利な所定の有利遊技状態が実行されたことを契機として所定記憶手段に設定される第 2 所定状態情報の優先度が第 1 所定状態情報よりも高く設定されていることにより、有利遊技状態の実行に伴って実行される第 2 所定状態が維持され易くなるようにすることが可能となる。

20

【 4 1 4 7 】

特徴 W 8 . 遊技回の実行回数を計測する所定計測手段(第 1 5 , 第 2 1 の実施形態における天井カウンタ 3 2 5)を備え、

前記第 2 所定契機は、前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数(天井回数)となった場合に発生することを特徴とする特徴 W 1 乃至 W 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 1 4 8 】

特徴 W 8 によれば、遊技回の実行回数が所定契機回数となったことを契機として所定記憶手段に設定される第 2 所定状態情報の優先度が第 1 所定状態情報よりも高く設定されていることにより、遊技回の実行回数が所定契機回数となったことに伴って実行される第 2 所定状態が維持され易くなるようにすることが可能となる。

30

【 4 1 4 9 】

特徴 W 9 . 第 3 所定契機(第 1 5 , 第 2 1 の実施形態における 5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードの終了)が発生したことに基づいて、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第 3 所定状態(第 1 5 , 第 2 1 の実施形態における第 1 時短状態 S T 1)を実行可能とする第 3 所定状態情報(第 1 5 の実施形態では第 1 時短状態フラグ 3 2 2 の「1」の情報、第 2 1 の実施形態では事象対象カウンタ 3 7 1 の「1」の情報)を前記所定記憶手段に設定する第 3 情報設定手段(第 1 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 8 4 0 6 の処理を実行する機能、第 2 1 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S C 2 0 7 の処理を実行する機能)を備え、

40

前記所定記憶手段に対する情報の設定の優先度は、前記第 1 所定状態情報よりも前記第 3 所定状態情報の方が高く設定されており、

前記第 2 所定状態において前記第 3 所定契機が発生することではなく、前記第 3 所定状態において前記第 2 所定契機が発生しないことを特徴とする特徴 W 1 乃至 W 8 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 1 5 0 】

特徴 W 9 によれば、第 3 所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第 3 所定状態が実行可能となる。これにより、所定事象の有利度との関係で遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、所定記憶手段に対する情報

50

の設定の優先度は、第1所定状態情報よりも第3所定状態情報の方が高く設定されている。これにより、第1所定状態よりも第3所定状態の方が優先して発生するようにすることが可能となり、第1所定契機及び第3所定契機のそれぞれが任意のタイミングで発生するとしても、優先して発生する所定状態の種類を遊技機の設計段階のものとするのが可能となる。

【4151】

この場合に、第2所定状態において第3所定契機が発生することはなく、第3所定状態において第2所定契機が発生しない。これにより、第2所定状態情報と第3所定状態情報との間の設定の優先度を設定する必要がないため、優先度に従った制御を実行するための処理構成を簡素化することが可能となる。

10

【4152】

特徴W10．前記所定記憶手段に記憶されている情報に対応する遊技状態となることを特徴とする特徴W1乃至W9のいずれか1に記載の遊技機。

【4153】

特徴W10によれば、所定記憶手段に記憶されている情報に対応する遊技状態となる構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4154】

特徴W11．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第15，第21の実施形態における第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（第15，第21の実施形態における主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

20

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（第15，第21の実施形態における主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（第15，第21の実施形態における主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（第15，第21の実施形態における主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

30

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴W1乃至W10のいずれか1に記載の遊技機。

【4155】

特徴W11によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、第1所定状態又は第2所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

40

【4156】

なお、特徴W1～W11の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a

50

20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4157】

＜特徴X群＞

特徴X1. 所定契機（第19, 第20の実施形態では5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は時短結果に対応する遊技回の実行、第21～第29の実施形態では5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第2作動口34が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第19, 第20の実施形態では第1時短状態ST1、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3、第21～第29の実施形態では第1時短状態ST1、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3A～ST3C）に設定する設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSA907、ステップSB105又はステップSB204の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSB707、ステップSB806又はステップSB904の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207、ステップSC305又はステップSC404の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD704～ステップSD711の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE304～ステップSE311の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE804～ステップSE811の処理を実行する機能）と、

遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において前記所定状態の実行を待機させる待機状態に設定する待機状態設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB203にて肯定判定をした後にステップSB206の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSB811又はステップSB908の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC409の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD712～ステップSD716の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE312～ステップSE325の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE812～ステップSE820の処理を実行する機能）と、

前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB409又はステップSB417の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSC109又はステップSC113の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC607～ステップSC609の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD809の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE411～ステップSE413の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE911～ステップSE913の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【4158】

特徴X1によれば、所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態に設定される構成において、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において所定状態の実行を待機させる待機状態に設定されることがあり、待機状態に

10

20

30

40

50

において実行対象の所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、所定状態が遊技状態の実行対象となっている状況においてその後に実行対象となり得る所定状態が待機している状況となり得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。よって、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【４１５９】

特徴Ｘ２．前記待機状態において終了契機が発生した場合、当該待機状態となっていた前記所定状態は遊技状態に設定されることなく終了することを特徴とする特徴Ｘ１に記載の遊技機。

【４１６０】

特徴Ｘ２によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象となる場合だけではなく、実行対象となることがなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【４１６１】

特徴Ｘ３．更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、終了契機記憶領域（第１９の実施形態では第３時短状態カウンタ３７４、第２０の実施形態では第２時短待機カウンタ３８２又は第３時短待機カウンタ３８３、第２１の実施形態では第３時短待機カウンタ３８７、第２６、第２８の実施形態では第３Ａ時短待機カウンタ４０１、第３Ｂ時短待機カウンタ４０２又は第３Ｃ時短待機カウンタ４０３、第２９の実施形態では第１待機カウンタ４０６、第２待機カウンタ４０７又は第３待機カウンタ４０８）に記憶されている終了契機情報を終了対象情報（「０」の値）に近付ける側に更新する更新手段（第１９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＢ４０５の処理を実行する機能、第２０の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＣ１０４又はステップＳＣ１０５の処理を実行する機能、第２１の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＣ６０４の処理を実行する機能、第２６の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＤ８０４～ステップＳＤ８０６の処理を実行する機能、第２８の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＥ４０４～ステップＳＥ４０６の処理を実行する機能、第２９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＥ９０４～ステップＳＥ９０６の処理を実行する機能）を備え、

前記終了契機は、前記終了契機情報が前記終了対象情報となることであり、

前記更新手段は、前記待機状態において前記更新事象が発生した場合にも前記終了契機情報を前記終了対象情報に近付ける側に更新することを特徴とする特徴Ｘ２に記載の遊技機。

【４１６２】

特徴Ｘ３によれば、更新事象が発生したことに基づいて更新された終了契機情報が終了契機情報となった場合に待機状態となっている所定状態が終了する構成において、待機状態において更新事象が発生した場合にも終了対象情報に近付ける側に終了契機情報が更新される。これにより、所定状態が待機状態となっている場合に更新事象が発生する度に当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づけることが可能となる。

【４１６３】

特徴Ｘ４．前記待機後設定手段は、前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合、前記終了契機記憶領域に記憶されている前記終了契機情報の状態に対応する前記所定状態を実行対象の遊技状態に設定することを特徴とする特徴Ｘ３に記載の遊技機。

【４１６４】

特徴Ｘ４によれば、所定状態が待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合、その時点の終了契機情報の状態に対応する所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、待機状態となっていた所定状態を、当該所定状態が待機状態となってから実行対象となるまでに要した期間に応じた途中の状態から開始させることが可能となる。

【４１６５】

特徴Ｘ５．前記待機状態において当該待機状態となっている前記所定状態に対応する前

10

20

30

40

50

記所定契機が発生した場合、前記終了契機情報を前記終了対象情報から遠ざかる側に更新する手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB208にて否定判定をした後にステップSB206の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82における第2時短待機カウンタ382の値が1以上である状況でステップSB811の処理を実行する機能又は第3時短待機カウンタ383の値が1以上である状況でステップSB908の処理を実行する機能、第22の実施形態では主側MPU82における第3時短待機カウンタ387の値が1以上である状況でステップSC708の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82における第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況でステップSD712～ステップSD716の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82における第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況でステップSE312～ステップSE325の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82における第3時短状態ST3A～ST3Cが潜伏している状況でステップSE812～ステップSE820の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴X3又はX4に記載の遊技機。

【4166】

特徴X5によれば、所定状態が待機している状態において当該所定状態に対応する所定契機が発生した場合、終了契機情報が終了対象情報から遠ざかる側に更新される。これにより、所定状態が待機している状態において発生した所定契機が無駄なものとなってしまうようにすることが可能となる。

【4167】

特徴X6．前記待機状態において当該待機状態になっている前記所定状態に対応する前記所定契機が発生した場合、当該所定契機の発生に対して前記所定状態に関する設定が行われないことを特徴とする特徴X1乃至X4のいずれか1に記載の遊技機。

【4168】

特徴X6によれば、所定状態が待機している状態において当該所定状態に対応する所定契機が発生したとしても、当該所定契機の発生に対して所定状態に関する設定が行われない。これにより、所定状態を待機させるための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4169】

特徴X7．前記設定手段は、

前記所定契機として第1所定契機（第19、第20の実施形態では時短結果に対応する遊技回の実行、第21～第29の実施形態では第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第1所定状態（第19、第20の実施形態では第3時短状態ST3、第21～第29の実施形態では第3時短状態ST3A～ST3C）に設定する第1設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB204の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSB904の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC404の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD704～ステップSD711の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE304～ステップSE311の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE804～ステップSE811の処理を実行する機能）と、

前記所定契機として第2所定契機（第19、第20、第21～第29の実施形態における5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了又は天井回数の遊技回の消化）が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第2所定状態（第19、第20、第21～第29の実施形態における第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2）に設定する第2設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSA907又はステップSB105の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSB707又はステップSB806の処理を実行する機能、第21～第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207又はステップSC305の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記待機状態として、遊技状態が前記第2所定状態である状況において前記第1所定状態の実行が待機された状態となり得る構成であり、

前記待機後設定手段は、前記第1所定状態が待機している前記待機状態において前記第2所定状態が終了した場合に当該待機状態となっていた前記第1所定状態を実行対象の遊技状態に設定することを特徴とする特徴X1乃至X6のいずれか1に記載の遊技機。

【4170】

特徴X7によれば、第1所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第1所定状態が実行可能となり、第2所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第2所定状態が実行可能となる。これにより、所定事象の有利度との関係で遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、第2所定状態である状況において第1所定状態の実行が待機された状態となり得る構成であって、第1所定状態が待機している状態において第2所定状態が終了した場合にはその待機している第1所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、第1所定状態及び第2所定状態のそれぞれが実行対象となる頻度を高めることが可能となる。

【4171】

特徴X8．前記待機状態設定手段は、前記第2所定状態が実行対象の遊技状態である状況において前記第1所定契機が発生した場合に前記第1所定状態の実行を待機させる前記待機状態に設定することを特徴とする特徴X7に記載の遊技機。

【4172】

特徴X8によれば、第2所定状態である状況において第1所定契機が発生した場合には第1所定状態の実行が待機された状態となる。これにより、第2所定状態である状況において第1所定契機が発生した場合に当該第1所定契機が無駄なものとなってしまうようにすることが可能となる。

【4173】

特徴X9．前記第2設定手段は、前記第1所定状態が実行対象の遊技状態である状況において前記第2所定契機が発生した場合、前記第2所定状態を実行対象の遊技状態に設定することを特徴とする特徴X8に記載の遊技機。

【4174】

特徴X9によれば、第2所定状態である状況において第1所定契機が発生した場合には第1所定状態の実行が待機された状態となるだけではなく、第1所定状態である状況において第2所定契機が発生した場合には第2所定状態となる。これにより、第2所定状態を第1所定状態よりも優先させることが可能となる。

【4175】

特徴X10．前記待機状態設定手段は、前記第1所定状態である状況において前記第2所定契機が発生した場合、前記第2所定状態の実行を待機させる待機状態に設定することを特徴とする特徴X8に記載の遊技機。

【4176】

特徴X10によれば、第2所定状態である状況において第1所定契機が発生した場合には第1所定状態の実行が待機された状態となり、第1所定状態である状況において第2所定契機が発生した場合には第2所定状態の実行が待機された状態となる。これにより、発生順序に従って所定状態が消化されるようにすることが可能となる。

【4177】

特徴X11．前記待機状態設定手段は、前記第1所定状態及び前記第2所定状態の両方が待機している複数待機状態に設定し得ることを特徴とする特徴X7乃至X10のいずれか1に記載の遊技機。

【4178】

特徴X11によれば、第1所定状態及び第2所定状態の両方が待機している複数待機状態に設定され得るため、所定状態となっている頻度を高めることが可能となる。

【4179】

特徴X 1 2．前記待機後設定手段は、前記複数待機状態において実行対象となっている前記所定状態が終了した場合、待機している前記第1所定状態及び前記第2所定状態のうち予め定められた優先度が高い側を遊技状態の実行対象とすることを特徴とする特徴X 1 1に記載の遊技機。

【4 1 8 0】

特徴X 1 2によれば、複数待機状態において実行対象となっている所定状態が終了した場合には、待機している第1所定状態及び第2所定状態のうち優先度が高い側が遊技状態の実行対象となるため、優先度の高い所定状態が遊技状態の実行対象となり易くさせることが可能となる。

【4 1 8 1】

特徴X 1 3．前記待機後設定手段は、前記複数待機状態において実行対象となっている前記所定状態が終了した場合、待機している前記第1所定状態及び前記第2所定状態のうち発生順序が先であった側を遊技状態の実行対象とすることを特徴とする特徴X 1 1に記載の遊技機。

【4 1 8 2】

特徴X 1 3によれば、複数待機状態において実行対象となっている所定状態が終了した場合には、待機している第1所定状態及び第2所定状態のうち発生順序が先であった側が遊技状態の実行対象となるため、発生順序に従って所定状態が遊技状態の実行対象となるようにすることが可能となる。

【4 1 8 3】

特徴X 1 4．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口3 4）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MP U 8 2のステップS 7 0 9の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MP U 8 2の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MP U 8 2の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MP U 8 2の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴X 1乃至X 1 3のいずれか1に記載の遊技機。

【4 1 8 4】

特徴X 1 4によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【4 1 8 5】

なお、特徴X 1～X 1 4の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 1 1、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 1 6、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 1 1、特徴X 1～X 1 4、特徴Y 1～Y 1 0、特徴Z 1～Z 1 0、特徴a 1～a

10

20

30

40

50

20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4186】

<特徴Y群>

特徴Y1．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が有利移行情報に対応しているか否かの移行判定（当否判定処理）を行う移行判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記移行判定の結果が、前記特別情報が前記有利移行情報に対応しているとする有利対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、通常遊技状態よりも遊技者に有利な有利遊技状態（開閉実行モード）に移行させる有利移行手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、

所定移行契機（第15～第20、第30の実施形態では天井回数の遊技回の消化又は時短結果に対応する遊技回の実行、第21～第29の実施形態では天井回数の遊技回の消化又は第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記有利遊技状態に移行させることなく、前記通常遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定状態（第15～第20、第30の実施形態では第2時短状態ST2、第3時短状態ST3又は第3時短状態ST5、第21～第29の実施形態では第2時短状態ST2、第3時短状態ST3A～ST3C又は第3時短状態ST41～ST43）に移行させる所定移行手段（第15～第30の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ325の減算処理又は時短結果用の設定処理を実行する機能）と、

遊技状態の移行が行われたことを遊技機外部の管理装置（ホールコンピュータHC）において認識させるために用いられる認識用手段（第2大当たり信号用の外部端子333）と、

前記所定状態への移行に対応させて前記認識用手段を所定認識用状態（第2大当たり信号の出力状態をHイレベルにする状態）に設定する認識用制御手段（第15～第30の実施形態における主側MPU82のステップS9014の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【4187】

特徴Y1によれば、移行判定の結果が有利対応結果となったことに基づいて有利遊技状態に移行する構成において、所定移行契機が発生した場合には有利遊技状態に移行することなく、通常遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となり易い所定状態に移行する。これにより、通常遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となり易い状況が突然発生したという印象を遊技者に与えることが可能となり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。また、所定状態への移行に対応させて認識用手段が所定認識用状態に設定される。これにより、有利遊技状態への移行を伴うことなく所定状態に移行したとしても、当該移行が発生したことを遊技機外部の管理装置において把握することが可能となるため、所定状態のような状態を不正に発生させる行為が行われたとしても遊技ホールの管理者はそれを把握することが可能となる。よって、好適に遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【4188】

特徴Y2．前記所定移行契機は、前記移行判定の結果が、前記特別情報が所定移行情報に対応しているとする所定対応結果（第15～第20、第30の実施形態では時短結果、

10

20

30

40

50

第21～第29の実施形態では第1～第3時短結果)となったことを特徴とする特徴Y1に記載の遊技機。

【4189】

特徴Y2によれば、移行判定の結果が所定対応結果となったことに基づいて所定状態への移行が発生する構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4190】

特徴Y3. 前記移行判定が実行されたことに対応させて遊技回が開始される構成であり、前記遊技回において遊技回用動作が実行されるように遊技回実行手段(第1特図表示部37a、第2特図表示部37b)を制御する遊技回制御手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82の特図変動開始処理、特図変動中処理及び特図確定中処理を実行する機能)と、

10

前記遊技回の実行回数を計測する所定計測手段(天井カウンタ325)と、を備え、

前記所定移行契機は、前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が所定契機回数(第15～第30の実施形態における天井回数)となることを特徴とする特徴Y1に記載の遊技機。

【4191】

特徴Y3によれば、所定契機回数の遊技回が実行されたことに基づいて所定状態への移行が発生する構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4192】

20

特徴Y4. 前記所定移行手段は、

前記所定移行契機の発生として、前記移行判定の結果が、前記特別情報が所定移行情報に対応しているとする所定対応結果(第15～第20、第30の実施形態では時短結果、第21～第29の実施形態では第1～第3時短結果)となったことに基づいて、前記有利遊技状態に移行させることなく、前記通常遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定状態(第15～第20、第30の実施形態では第3時短状態ST3又は第3時短状態ST5、第21～第29の実施形態では第3時短状態ST3A～ST3C又は第3時短状態ST41～ST43)に移行させる第1所定移行手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82の時短結果用の設定処理を実行する機能)と、

前記所定移行契機の発生として、前記所定計測手段により計測されている前記遊技回の実行回数が前記所定契機回数となったことに基づいて、前記有利遊技状態に移行させることなく、前記通常遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い所定状態(第15～第30の実施形態における第2時短状態ST2)に移行させる第2所定移行手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ325の減算処理を実行する機能)と、

30

を備え、

前記認識用制御手段は、前記第1所定移行手段による前記所定状態への移行に対応させて前記認識用手段を前記所定認識用状態に設定し、前記第2所定移行手段による前記所定状態への移行に対応させて前記認識用手段を前記所定認識用状態に設定することを特徴とする特徴Y3に記載の遊技機。

40

【4193】

特徴Y4によれば、移行判定の結果が所定対応結果となったことに基づいて所定状態に移行する場合、及び所定契機回数の遊技回が実行されたことに基づいて所定状態に移行する場合のいずれであっても、認識用手段が所定認識用状態に設定されるため、いずれを契機として所定状態への移行が発生したとしても、遊技機外部の管理装置においてそれを把握することが可能となる。

【4194】

特徴Y5. 前記認識用制御手段は、前記所定状態の途中で、前記認識用手段を前記所定認識用状態から別状態(第2大当たり信号の出力状態をLOWレベルにする状態)に切り換える切換手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82のステップS902

50

1の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴Y1乃至Y4のいずれか1に記載の遊技機。

【4195】

特徴Y5によれば、所定状態への移行に伴って認識手段が所定認識用状態に設定された場合、当該所定状態の途中で認識手段が所定認識用状態から別状態に切り換えられる。これにより、通常遊技状態を間に挟むことなく複数回の所定状態が連続する場合であってもそれら複数回の所定状態のそれぞれに対して認識手段の所定認識用状態への切り換えを発生させることが可能となる。

【4196】

特徴Y6．前記切換手段は、前記所定状態への移行に対応させて前記認識手段が前記所定認識用状態に設定されてから所定継続期間(ON継続期間)が経過したことに基づいて、前記認識手段を前記所定認識用状態から前記別状態に切り換えることを特徴とする特徴Y5に記載の遊技機。

【4197】

特徴Y6によれば、所定状態への移行に対応させて認識手段が所定認識用状態に設定された場合、当該所定認識用状態に設定してから所定継続期間が経過したことに基づいて認識手段が所定認識用状態から別状態に切り換えられる。これにより、認識手段を所定状態の途中で所定認識用状態から別状態に切り換えるための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4198】

特徴Y7．前記有利遊技状態への移行に対応させて前記認識手段を所定認識用状態に設定する別制御手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82のステップS9003の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴Y1乃至Y6のいずれか1に記載の遊技機。

【4199】

特徴Y7によれば、有利遊技状態への移行が発生した場合にも認識手段が所定認識用状態に設定される。これにより、1個の認識手段を利用して、有利遊技状態に移行したことだけではなく、所定状態に移行したことを遊技機外部の管理装置に把握させることが可能となる。

【4200】

特徴Y8．前記別制御手段は、前記有利遊技状態が継続している場合、前記認識手段を前記所定認識用状態に維持させるものであり、

前記認識用制御手段は、前記所定状態の途中で、前記認識手段を前記所定認識用状態から別状態(第2大当たり信号の出力状態をLOWレベルにする状態)に切り換える切換手段(第15～第30の実施形態における主側MPU82のステップS9021の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴Y7に記載の遊技機。

【4201】

特徴Y8によれば、有利遊技状態への移行が発生した場合及び所定状態への移行が発生した場合のいずれであっても認識手段が所定認識用状態に設定される構成において、有利遊技状態が継続している場合には認識手段が所定認識用状態に維持されるのに対して、所定状態の場合にはその途中で認識手段が所定認識用状態から別状態に切り換えられる。これにより、有利遊技状態への移行が発生した場合及び所定状態への移行が発生した場合のいずれであっても認識手段が所定認識用状態に設定される構成において、遊技機外部の管理装置では、認識手段が所定認識用状態に維持される期間によって有利遊技状態及び所定状態のいずれに対応しているのかを特定することが可能となる。

【4202】

特徴Y9．遊技状態の移行が行われたことを前記管理装置において認識させるために用いられる別認識手段(第1大当たり信号用の外部端子332)を備え、

前記別制御手段は、前記有利遊技状態への移行に対応させて、前記認識手段を前記所定認識用状態に設定し、前記別認識手段を所定認識用状態に設定するものであり、

10

20

30

40

50

前記認識用制御手段は、前記所定状態への移行に対応させて、前記認識用手段を前記所定認識用状態に設定する一方、前記別認識用手段を所定認識用状態に設定しないものであることを特徴とする特徴 Y 7 又は Y 8 に記載の遊技機。

【4203】

特徴 Y 9 によれば、認識用手段とは別に、有利遊技状態に移行した場合に所定認識用状態に設定されるものの所定状態に移行した場合には所定認識用状態に設定されない別認識用手段が設けられている。これにより、遊技ホールにおいて管理したい事象に応じて、管理対象を認識用手段と別認識用手段との間で選択することが可能となる。

【4204】

特徴 Y 10. 前記認識用制御手段は、前記所定状態において当該所定状態に関する新たな設定が行われた場合に前記認識用手段を前記所定認識用状態に設定するものであることを特徴とする特徴 Y 1 乃至 Y 9 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4205】

特徴 Y 10 によれば、所定状態において当該所定状態に関する新たな設定が行われた場合にも認識用手段が所定認識用状態に設定されるため、遊技機外部の管理装置は認識用手段を利用することによって所定状態に移行しただけでなく、所定状態において当該所定状態に関する新たな設定が行われたことを把握することが可能となる。

【4206】

なお、特徴 Y 1 ～ Y 10 の構成に対して、特徴 A 1 ～ A 8、特徴 B 1 ～ B 8、特徴 C 1 ～ C 8、特徴 D 1 ～ D 8、特徴 E 1 ～ E 9、特徴 F 1 ～ F 6、特徴 G 1 ～ G 11、特徴 H 1 ～ H 8、特徴 I 1 ～ I 5、特徴 J 1 ～ J 7、特徴 K 1 ～ K 7、特徴 L 1 ～ L 5、特徴 M 1 ～ M 4、特徴 N 1 ～ N 8、特徴 O 1 ～ O 8、特徴 P 1 ～ P 6、特徴 Q 1 ～ Q 16、特徴 R 1 ～ R 6、特徴 S 1 ～ S 7、特徴 T 1 ～ T 3、特徴 U 1 ～ U 5、特徴 V 1 ～ V 6、特徴 W 1 ～ W 11、特徴 X 1 ～ X 14、特徴 Y 1 ～ Y 10、特徴 Z 1 ～ Z 10、特徴 a 1 ～ a 20、特徴 b 1 ～ b 8、特徴 c 1 ～ c 6、特徴 d 1 ～ d 11、特徴 e 1 ～ e 15、特徴 f 1 ～ f 15、特徴 g 1 ～ g 12、特徴 h 1 ～ h 11、特徴 i 1 ～ i 18、特徴 j 1 ～ j 14、特徴 k 1 ～ k 4、特徴 l 1 ～ l 19、特徴 m 1 ～ m 16、特徴 n 1 ～ n 8、特徴 o 1 ～ o 16、特徴 p 1 ～ p 10、特徴 q 1 ～ q 7、特徴 r 1 ～ r 19 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4207】

<特徴 Z 群>

特徴 Z 1. 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 2 作動口 34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（主側 MPU 82 のステップ S 709 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側 MPU 82 の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側 MPU 82 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側 MPU 82 の普図普電制御処理を実行する機能）と、

第 1 所定移行契機（第 30 の実施形態における時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、通常遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い第 1 所定状態（第 30 の実施形態における第 3 時短状態 S T 5）に移行させる第 1 所定移行手段（第 30 の実施形態における主側 MPU 82 の時短結果用の設定処理を実行する機能）と、

第 2 所定移行契機（第 30 の実施形態における天井回数の遊技回の消化）が発生したこ

10

20

30

40

50

とに基づいて、前記通常遊技状態よりも前記所定入球手段が前記開放状態となり易い第2所定状態（第30の実施形態における第2時短状態ST2）に移行させる第2所定移行手段（第30の実施形態における主側MPU82の天井カウンタ325の減算処理）と、

前記第1所定状態において実行された遊技回の回数が所定回数となることとは異なる第1終了契機（5回の小当たり結果の発生）が発生した場合に、当該第1所定状態を終了させる第1終了手段（第30の実施形態における主側MPU82の第3時短小当たり回数カウンタ411の値が「0」であることでステップSF718にて肯定判定をする機能）と、

前記第2所定状態において前記第1終了契機とは異なる第2終了契機（150回の遊技回の消化）が発生した場合に、当該第2所定状態を終了させる第2終了手段（第30の実施形態における主側MPU82のステップSF714にて肯定判定をする機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

10

【4208】

特徴Z1によれば、第1所定移行契機が発生したことに基づいて通常遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となり易い第1所定状態となり、第2所定移行契機が発生したことに基づいて通常遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となり易い第2所定状態となる。これにより、通常遊技状態よりも所定入球手段が開放状態となり易い遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、第1所定状態において遊技回が所定回数となることとは異なる第1終了契機が発生した場合に当該第1所定状態が終了するため、第1所定状態においては遊技回の消化以外に対しても遊技者の注目を向けさせることが可能となる。また、第2所定状態においては第1終了契機とは異なる第2終了契機が発生した場合に当該第2所定状態が終了するため、所定状態の終了条件を多様化させることが可能となる。よって、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

20

【4209】

特徴Z2．前記第2終了契機は、遊技回の実行回数が前記第2所定状態に対応する終了対応回数（150回）となることを特徴とする特徴Z1に記載の遊技機。

【4210】

特徴Z2によれば、第2所定状態において遊技回の実行回数が当該第2所定状態に対応する終了対応回数となった場合に当該第2所定状態が終了するため、第2所定状態においては遊技回の消化に遊技者の注目を向けさせることが可能となる。

【4211】

特徴Z3．前記第1所定状態において実行された遊技回の回数が前記第1所定状態に対応する終了対応回数（30回）となった場合に、当該第1所定状態を終了させる別終了手段（第30の実施形態における主側MPU82の第3時短遊技回数カウンタ412の値が「0」であることでステップSF718にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴Z1又はZ2に記載の遊技機。

30

【4212】

特徴Z3によれば、第1所定状態においては第1終了契機が発生した場合だけではなく、遊技回の実行回数が第1所定状態に対応する終了対応回数となった場合にも当該第1所定状態が終了するため、第1所定状態において多様な事象に遊技者の注目を向けさせることが可能となる。また、上記特徴Z2の構成を備えた場合には、遊技回の実行回数が対応する終了対応回数となることという点で、第1所定状態と第2所定状態との終了契機を把握する上で遊技者が注目すべき対象が共通しているため、所定状態における遊技内容の理解の容易化を図ることが可能となる。

40

【4213】

特徴Z4．前記第1終了契機と前記第2終了契機とは発生のし易さが相違していることを特徴とする特徴Z1乃至Z3のいずれか1に記載の遊技機。

【4214】

特徴Z4によれば、第1終了契機と第2終了契機とは発生のし易さが相違しているため、所定状態の終了のし易さという面から当該所定状態を多様化させることが可能となる。

【4215】

50

特徴 Z 5 . 前記第 1 所定状態と前記第 2 所定状態とは、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間が相違していることを特徴とする特徴 Z 1 乃至 Z 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 2 1 6 】

特徴 Z 5 によれば、第 1 所定状態と第 2 所定状態とは所定入球手段への遊技球の入球の発生頻度が相違している。これにより、終了条件だけではなく所定入球手段への遊技球の入球の発生頻度についても所定状態を多様化させることが可能となる。

【 4 2 1 7 】

特徴 Z 6 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である可変入球手段（特電入賞装置 3 2）と、

当該可変入球手段を開放状態とした後に閉鎖状態とする可変入球制御を実行する可変入球制御手段（主側 M P U 8 2 のステップ S 9 7 0 6 の処理、特電開始処理、特電開放中処理及び特電閉鎖中処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が所定対応情報に対応しているとする所定対応結果（小当たり結果）となったことに基づいて、前記可変入球制御が実行される可変制御状態が実行されるようにし、当該可変制御状態の前後において遊技状態が維持されるようにすることを可能とする手段（主側 M P U 8 2 の特電終了処理を実行する機能）と、を備え、

前記第 1 終了契機は、前記所定対応結果となった回数が終了契機回数（5 回）となったことに基づいて発生することを特徴とする特徴 Z 1 乃至 Z 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 2 1 8 】

特徴 Z 6 によれば、所定対応結果となった回数が終了契機回数となったことに基づいて第 1 所定状態が終了するため、第 1 所定状態においては所定対応結果が発生するか否かに對して遊技者の注目を向けさせることが可能となる。

【 4 2 1 9 】

特徴 Z 7 . 遊技状態の実行対象が前記第 1 所定状態及び前記第 2 所定状態のうち一方の所定状態において前記第 1 所定状態及び前記第 2 所定状態のうち他方の所定状態の実行を待機させる待機状態に設定する待機状態設定手段（第 3 0 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S F 5 0 5 にて肯定判定をしてステップ S F 5 0 8 の処理を実行する機能）と、

前記待機状態において前記一方の所定状態が終了した場合に当該待機状態になっている前記他方の所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第 3 0 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S F 7 1 9 ～ステップ S F 7 2 2 の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴 Z 1 乃至 Z 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 2 2 0 】

特徴 Z 7 によれば、第 1 所定状態及び第 2 所定状態のうち一方の所定状態である状況において他方の所定状態の実行を待機させる待機状態に設定されることがあり、待機状態において実行対象の所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている所定状態が実行対象となる。これにより、一方の所定状態が実行対象となっている状況においてその後に実行対象となり得る他方の所定状態が待機している状況となり得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【 4 2 2 1 】

特徴 Z 8 . 前記待機状態において前記第 1 終了契機及び前記第 2 終了契機のうち前記他方の所定状態に対応する終了契機が発生した場合、当該待機状態となっている前記他方の所定状態は実行対象に設定されことなく終了することを特徴とする特徴 Z 7 に記載の遊技機。

【 4 2 2 2 】

特徴 Z 8 によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象

10

20

30

40

50

となる場合だけではなく、実行対象となることなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。また、上記特徴 Z 1 の構成を備え、第 1 所定状態の第 1 終了契機と第 2 所定状態の第 2 終了契機とは相違しているため、実行対象となっている所定状態の終了契機及び待機状態となっている所定状態の終了契機のそれぞれに遊技者の注目を向けさせることが可能となり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【4 2 2 3】

特徴 Z 9．前記第 1 終了契機及び前記第 2 終了契機のうち前記一方の所定状態に対応する終了契機の方が、前記第 1 終了契機及び前記第 2 終了契機のうち前記他方の所定状態に対応する終了契機よりも発生し易いことを特徴とする特徴 Z 8 に記載の遊技機。

10

【4 2 2 4】

特徴 Z 9 によれば、一方の所定状態が実行対象であって他方の所定状態が待機状態となっている状況において、一方の所定状態の終了契機の方が他方の所定状態の終了契機よりも早く発生し易くなる。これにより、他方の所定状態が待機状態のまま終了してしまう可能性を低くすることが可能となる。

【4 2 2 5】

特徴 Z 10．前記他方の所定状態の方が前記一方の所定状態よりも、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間が長くなることを特徴とする特徴 Z 7 乃至 Z 9 のいずれか 1 に記載の遊技機。

20

【4 2 2 6】

特徴 Z 10 によれば、一方の所定状態が実行対象であって他方の所定状態が待機状態となっている状況において、他方の所定状態の方が一方の所定状態よりも所定入球手段への遊技球の入球の発生頻度が高いため、遊技者は他方の所定状態の終了契機が発生する前に一方の所定状態の終了契機が発生することを期待することとなる。

【4 2 2 7】

なお、特徴 Z 1～Z 10 の構成に対して、特徴 A 1～A 8、特徴 B 1～B 8、特徴 C 1～C 8、特徴 D 1～D 8、特徴 E 1～E 9、特徴 F 1～F 6、特徴 G 1～G 11、特徴 H 1～H 8、特徴 I 1～I 5、特徴 J 1～J 7、特徴 K 1～K 7、特徴 L 1～L 5、特徴 M 1～M 4、特徴 N 1～N 8、特徴 O 1～O 8、特徴 P 1～P 6、特徴 Q 1～Q 16、特徴 R 1～R 6、特徴 S 1～S 7、特徴 T 1～T 3、特徴 U 1～U 5、特徴 V 1～V 6、特徴 W 1～W 11、特徴 X 1～X 14、特徴 Y 1～Y 10、特徴 Z 1～Z 10、特徴 a 1～a 20、特徴 b 1～b 8、特徴 c 1～c 6、特徴 d 1～d 11、特徴 e 1～e 15、特徴 f 1～f 15、特徴 g 1～g 12、特徴 h 1～h 11、特徴 i 1～i 18、特徴 j 1～j 14、特徴 k 1～k 4、特徴 l 1～l 19、特徴 m 1～m 16、特徴 n 1～n 8、特徴 o 1～o 16、特徴 p 1～p 10、特徴 q 1～q 7、特徴 r 1～r 19 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

30

【4 2 2 8】

<特徴 a 群>

40

特徴 a 1．遊技回において遊技回用演出が実行されるように遊技回演出手段（図柄表示装置 4 1）を制御する遊技回演出制御手段（第 1 5 の実施形態における音光側 M P U 9 3 の変動パターン決定処理を実行する機能）と、

前記遊技回用演出の所定の実行内容（遊技回の変動表示期間）を決定する決定手段（第 1 5，第 1 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 の変動表示期間の特定処理を実行する機能）と、

通常遊技状態よりも遊技者に有利な所定状態（第 1 5，第 1 9 の実施形態における第 1 時短状態 S T 1、第 2 時短状態 S T 2 及び第 3 時短状態 S T 3）に遊技状態を移行させる所定移行手段（第 1 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 8 4 0 6 の処理、ステップ S 8 6 0 5 及びステップ S 8 7 0 5 の処理を実行する機能、第 1 9 の実施形態

50

では主側MPU82におけるステップSA907の処理、ステップSB105及びステップSB204の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記決定手段は、前記所定状態の進行状況に応じて前記所定の実行内容の決定態様を変化させる態様変化手段（第15の実施形態では主側MPU82におけるステップS9102～ステップS9116の処理及びステップS9201～ステップS9208の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB504～ステップSB511の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【4229】

特徴a1によれば、所定状態の進行状況に応じて遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が変化する。これにより、所定状態における遊技回用演出の所定の実行内容を所定状態の進行状況に合わせながら多様化させることが可能となる。よって、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4230】

特徴a2．前記所定の実行内容は、前記遊技回用演出の実行期間に対応する内容であることを特徴とする特徴a1に記載の遊技機。

【4231】

特徴a2によれば、所定状態の進行状況に応じて遊技回用演出の実行期間の決定態様に変化する。これにより、所定状態における遊技回用演出の実行期間を所定状態の進行状況に合わせながら多様化させることが可能となる。

【4232】

特徴a3．前記所定状態において更新事象（遊技回の消化）が発生したことに基づいて、契機記憶領域（第15の実施形態では状態継続カウンタ327、第19の実施形態では時短継続カウンタ375）に記憶されている情報を更新する更新手段（第15の実施形態では主側MPU82におけるステップS9101の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB503の処理を実行する機能）を備え、

前記態様変化手段は、前記契機記憶領域の情報に応じて前記所定の実行内容の決定態様を変化させることを特徴とする特徴a1又はa2に記載の遊技機。

【4233】

特徴a3によれば、所定状態において発生した更新事象の回数に応じて遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様に変化する。これにより、所定状態における遊技回用演出の所定の実行内容を所定状態において発生した更新事象の回数に合わせながら多様化させることが可能となる。

【4234】

特徴a4．前記態様変化手段は、前記所定状態の最後の前記遊技回における前記所定の実行内容の決定態様を、当該所定状態のそれまでの前記遊技回における前記所定の実行内容の決定態様と異ならせる最後用設定手段（第15の実施形態では主側MPU82における第3段階時短用の遊技回期間テーブル315を参照してステップS9209及びステップS9210の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB505の処理を実行した後にステップSB512及びステップSB513の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴a1乃至a3のいずれか1に記載の遊技機。

【4235】

特徴a4によれば、所定状態の最後の遊技回における遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が所定状態のそれまでの遊技回における遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様と異なるものとなる。これにより、所定状態の最後の遊技回に適した形で遊技回用演出を実行することが可能となる。

【4236】

特徴a5．前記最後用設定手段は、前記所定状態における最後の前記遊技回における前記遊技回用演出の実行期間が、当該所定状態のそれまでの前記遊技回における前記遊技回

10

20

30

40

50

用演出の実行期間よりも長くなるようにする又は長くなり易くすることを特徴とする特徴 a 4 に記載の遊技機。

【4237】

特徴 a 5 によれば、所定状態における最後の遊技回における遊技回用演出の実行期間が、当該所定状態のそれまでの遊技回における遊技回用演出の実行期間よりも長くなる又は長くなり易いことにより、所定状態の最後の遊技回であることに対応する演出を時間的な余裕を持って提供することが可能となる。

【4238】

特徴 a 6 . 前記状態変化手段は、

前記所定状態が開始されてから所定基準契機（20回の遊技回の消化）が発生するまで、前記所定の実行内容の決定状態が第1決定状態（第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を参照して遊技回の変動表示期間が決定される状態）となるようにする第1状態設定手段（第15の実施形態における主側MPU82の第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を参照してステップS9209及びステップS9210の処理を実行する機能）と、

前記所定状態において前記所定基準契機が発生した以降、前記所定の実行内容の決定状態が第2決定状態（第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を参照して遊技回の変動表示期間が決定される状態）となるようにする第2状態設定手段（第15の実施形態における主側MPU82の第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を参照してステップS9209及びステップS9210の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴 a 1 乃至 a 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4239】

特徴 a 6 によれば、所定状態が開始されてから所定基準契機が発生するまでは遊技回用演出の所定の実行内容の決定状態が第1決定状態となり、所定状態において所定基準契機が発生した以降は遊技回用演出の所定の実行内容の決定状態が第2決定状態となる。これにより、所定状態における遊技回用演出の所定の実行内容の決定状態を遊技回毎に変化させる構成に比べて処理負荷を軽減することが可能となる。

【4240】

特徴 a 7 . 前記状態変化手段は、前記所定状態において終了条件が成立した後に、当該所定状態に続けて前記所定状態が実行される場合、続けて実行される前記所定状態の最初の遊技回における前記所定の実行内容の決定状態は前記第1状態設定手段による前記第1決定状態となるようにする（第19の実施形態における主側MPU82のステップSB413又はステップSB421の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 a 6 に記載の遊技機。

【4241】

特徴 a 7 によれば、所定状態において終了条件が成立した後に当該所定状態に続けて所定状態が実行される場合には、続けて実行される所定状態の最初の遊技回における遊技回用演出の所定の演出内容の決定状態が再度、第1決定状態となる。これにより、2回の所定状態が続けて実行される場合であっても後側の所定状態が開始された場合にはその開始に対応する決定状態で遊技回用演出の所定の実行内容が決定されるようにすることが可能となる。

【4242】

特徴 a 8 . 前記所定状態が開始される場合に状態対応記憶領域（第15の実施形態における状態判定用カウンタ326）の情報が第1情報（「1」）であるようにする第1情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8408、ステップS8607及びステップS8707の処理を実行する機能）と、

前記所定状態において前記所定基準契機が発生した場合に前記状態対応記憶領域の情報が第2情報（「2」）であるようにする第2情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9104の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第 1 態様設定手段は、前記状態対応記憶領域の情報が前記第 1 情報である場合、前記所定の実行内容の決定態様が前記第 1 決定態様となるようにし、

前記第 2 態様設定手段は、前記状態対応記憶領域の情報が前記第 2 情報である場合、前記所定の実行内容の決定態様が前記第 2 決定態様となるようにすることを特徴とする特徴 a 6 又は a 7 に記載の遊技機。

【4 2 4 3】

特徴 a 8 によれば、所定状態が開始された場合には状態対応記憶領域の情報が第 1 情報となり、当該状態対応記憶領域の情報が第 1 情報である場合には遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第 1 決定態様となる。また、所定状態において所定基準契機が発生した場合には状態対応記憶領域の情報が第 2 情報となり、当該状態対応記憶領域の情報が第 2 情報である場合には遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第 2 決定態様となる。これにより、状態対応記憶領域の情報を参照することで遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様を特定することができるため、当該所定の実行内容の決定態様を特定するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【4 2 4 4】

特徴 a 9 . 前記所定状態において特定基準契機が発生した場合に前記状態対応記憶領域の情報が第 3 情報（「0」又は「3」）であるようにする第 3 情報設定手段（第 1 5 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ S 9 1 1 1 又はステップ S 9 1 1 6 の処理を実行する機能）を備え、

前記態様変化手段は、前記状態対応記憶領域の情報が前記第 3 情報である場合、前記所定の実行内容の決定態様が第 3 決定態様（第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 5 を参照して遊技回の変動表示期間が決定される態様）となるようにする第 3 態様設定手段（第 1 5 の実施形態における主側 MPU 8 2 の第 3 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 5 を参照してステップ S 9 2 0 9 及びステップ S 9 2 1 0 の処理を実行する機能）を備え、

前記第 1 情報、前記第 2 情報及び前記第 3 情報は所定の順序で連番となる数値情報であることを特徴とする特徴 a 8 に記載の遊技機。

【4 2 4 5】

特徴 a 9 によれば、状態対応記憶領域の情報を参照することによって遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様を第 1 決定態様、第 2 決定態様及び第 3 決定態様のいずれにするのかを特定することが可能となる。また、状態対応記憶領域において第 1 情報、第 2 情報及び第 3 情報は所定の順序で連番となる数値情報として設定されているため、第 1 情報、第 2 情報及び第 3 情報のそれぞれに対して個別にフラグ領域を設定しなくても上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4 2 4 6】

特徴 a 1 0 . 前記第 1 決定態様に対応する第 1 決定態様情報群（第 1 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 3）と、前記第 2 決定態様に対応する第 2 決定態様情報群（第 2 段階時短用の遊技回期間テーブル 3 1 4）と、前記第 1 決定態様情報群及び前記第 2 決定態様情報群のそれぞれを読み出すための読み出し用情報（開始アドレス）が設定された読み出し用情報群（遊技回期間用アドレステーブル 3 1 1）と、を予め記憶した特定記憶手段（主側 ROM 8 3）を備え、

前記読み出し用情報群は、第 1 アドレス（「0 0 A 1 H」）に対応する記憶領域に前記第 1 決定態様情報群の前記読み出し用情報が設定されており、第 2 アドレス（「0 0 A 2 H」）に対応する記憶領域に前記第 2 決定態様情報群の前記読み出し用情報が設定されており、

前記第 1 態様設定手段は、前記第 1 情報を利用して前記第 1 アドレスを導出し、その導出した第 1 アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第 1 決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用して前記第 1 決定態様情報群を読み出して当該第 1 決定態様情報群が前記決定手段において利用されるようにし、

前記第 2 態様設定手段は、前記第 2 情報を利用して前記第 2 アドレスを導出し、その導出した第 2 アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第 2 決定態様情

10

20

30

40

50

報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第2決定態様情報群を読み出して当該第2決定態様情報群が前記決定手段において利用されるようにすることを特徴とする特徴a 8又はa 9に記載の遊技機。

【4247】

特徴a 10によれば、第1決定態様情報群を参照することにより遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第1決定態様となり、第2決定態様情報群を参照することにより遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第2決定態様となる。また、第1決定態様情報群及び第2決定態様情報群のそれぞれを読み出すための読み出し用情報が設定された読み出し用情報群が特定記憶手段に予め記憶されているため、第1決定態様情報群及び第2決定態様情報群を読み出すための処理構成を簡素化することが可能となる。

10

【4248】

この場合に、状態対応記憶領域に第1情報が記憶されている状況においては当該第1情報を利用して読み出し用情報群の第1アドレスが導出され、その導出した第1アドレスに基づいて読み出し用情報群から読み出した第1決定態様情報群の読み出し用情報を利用することで第1決定態様情報群が読み出される。また、状態対応記憶領域に第2情報が記憶されている状況においては当該第2情報を利用して読み出し用情報群の第2アドレスが導出され、その導出した第2アドレスに基づいて読み出し用情報群から読み出した第2決定態様情報群の読み出し用情報を利用することで第2決定態様情報群が読み出される。つまり、読み出し用情報群から対応する読み出し用情報を読み出すために、所定状態における各状況を特定するための状態対応記憶領域の情報が兼用されることとなる。よって、必要な記憶容量を抑えることが可能となる。

20

【4249】

特徴a 11．前記第1態様設定手段は、前記第1情報を利用してアドレス導出処理（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9204～ステップS9206の処理）を実行することにより前記第1アドレスを導出し、その導出した第1アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第1決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第1決定態様情報群を読み出すものであり、

前記第2態様設定手段は、前記第2情報を利用して前記アドレス導出処理を実行することにより前記第2アドレスを導出し、その導出した第2アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第2決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第2決定態様情報群を読み出すことを特徴とする特徴a 10に記載の遊技機。

30

【4250】

特徴a 11によれば、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出する場合、所定状態におけるいずれの状況であっても共通のアドレス導出処理が実行される。これにより、処理構成を簡素化することが可能となる。

【4251】

特徴a 12．前記第2アドレスと前記第1アドレスとの間の差分は、前記第2情報と前記第1情報との間の差分に対応していることを特徴とする特徴a 11に記載の遊技機。

【4252】

特徴a 12によれば、第2アドレスと第1アドレスとの間の差分が、第2情報と第1情報との間の差分に対応しているため、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出するためのアドレス導出処理の処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

40

【4253】

特徴a 13．前記アドレス導出処理は、前記読み出し用情報群に設定された開始アドレスに前記状態対応記憶領域の情報に対応する情報を加算することにより前記読み出し用情報群において参照すべきアドレスを導出する処理であることを特徴とする特徴a 11又はa 12に記載の遊技機。

【4254】

特徴a 13によれば、読み出し用情報群に設定された開始アドレスに状態対応記憶領域

50

の情報に対応する情報を加算することによって読み出し用情報群において参照すべきアドレスが導出されるため、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出するためのアドレス導出処理の処理構成を簡素化することが可能となる。

【4255】

特徴a14．前記所定状態において更新事象（遊技回の消化）が発生したことに基づいて、契機記憶領域（第15の実施形態では状態継続カウンタ327）に記憶されている情報を終了対象情報（「0」の値）に近付ける側に更新する更新手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9101の処理を実行する機能）と、

前記所定状態が開始される場合に前記契機記憶領域に第1開始対象情報（「20」）を設定する手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8407、ステップS8606及びステップS8706の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定基準契機は、前記所定状態が開始される場合に前記第1開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となることであり、

本遊技機は、

前記所定基準契機が発生した場合に前記契機記憶領域に第2開始対象情報（「79」、「129」又は「29」）を設定する手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9105～ステップS9109の処理を実行する機能）と、

前記所定基準契機が発生した場合に前記第2開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となることで、前記第2状態設定手段により前記所定の実行内容の決定態様が前記第2決定態様となるようにされる状態を終了させる手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9110～ステップS9112の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴a6乃至a13のいずれか1に記載の遊技機。

【4256】

特徴a14によれば、所定状態が開始された場合に契機記憶領域に設定された第1開始対象情報が更新事象の発生に基づき情報の更新が行われることにより終了対象情報となることで遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第1決定態様から第2決定態様に変更され、この場合に契機記憶領域に設定された第2開始対象情報が更新事象の発生に基づき情報の更新が行われることにより終了対象情報となることで遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第2決定態様である状況が終了する。これにより、所定状態における各状況の終了契機を特定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4257】

特徴a15．前記決定手段を有する制御手段は、前記契機記憶領域の情報を含む所定送信情報（時短中コマンド）を前記遊技回演出制御手段に送信する手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9113～ステップS9115の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴a14に記載の遊技機。

【4258】

特徴a15によれば、契機記憶領域の情報を含む所定送信情報が遊技回演出制御手段に送信されるため、遊技回演出制御手段において所定状態における各状況の進行状況を特定することが可能となる。

【4259】

特徴a16．前記所定状態が開始される場合に状態対応記憶領域（第15の実施形態における状態判定用カウンタ326）の情報が第1情報（「1」）であるようにする第1情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8408、ステップS8607及びステップS8707の処理を実行する機能）と、

前記所定状態において前記所定基準契機が発生した場合に前記状態対応記憶領域の情報が第2情報（「2」）であるようにする第2情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9104の処理を実行する機能）と、

を備え、

10

20

30

40

50

前記第 1 態様設定手段は、前記状態対応記憶領域の情報が前記第 1 情報である場合、前記所定の実行内容の決定態様が前記第 1 決定態様となるようにし、

前記第 2 態様設定手段は、前記状態対応記憶領域の情報が前記第 2 情報である場合、前記所定の実行内容の決定態様が前記第 2 決定態様となるようにし、

前記所定送信情報には、前記状態対応記憶領域の情報も含まれていることを特徴とする特徴 a 1 5 に記載の遊技機。

【 4 2 6 0 】

特徴 a 1 6 によれば、所定状態が開始された場合には状態対応記憶領域の情報が第 1 情報となり、当該状態対応記憶領域の情報が第 1 情報である場合には遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第 1 決定態様となる。また、所定状態において所定基準契機が発生した場合には状態対応記憶領域の情報が第 2 情報となり、当該状態対応記憶領域の情報が第 2 情報である場合には遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様が第 2 決定態様となる。これにより、状態対応記憶領域の情報を参照することで遊技回用演出の所定の実行内容の決定態様を特定することができるため、当該所定の実行内容の決定態様を特定するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【 4 2 6 1 】

また、所定送信情報には契機記憶領域の情報だけではなく状態対応記憶領域の情報も含まれているため、遊技回演出制御手段は所定送信情報に基づいて所定状態のいずれの状況であるのかを特定することができるとともにその特定した状況の進行状況を特定することができる。

【 4 2 6 2 】

特徴 a 1 7 . 前記遊技回演出制御手段は、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報に基づいて、前記遊技回演出手段における演出内容を決定する演出内容決定手段（第 1 5 の実施形態における音光側 M P U 9 3 の時短中演出制御処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 a 1 5 又は a 1 6 に記載の遊技機。

【 4 2 6 3 】

特徴 a 1 7 によれば、遊技回演出制御手段において遊技回演出手段における演出内容を決定する場合に、所定送信情報に設定されている情報に基づいて当該決定を行うだけで、遊技回演出制御手段において所定状態における各状況の進行状況に応じた演出が実行されるようにすることが可能となる。

【 4 2 6 4 】

特徴 a 1 8 . 前記演出内容決定手段は、前記所定の実行内容の決定態様が前記第 1 決定態様である場合及び前記所定の実行内容の決定態様が前記第 2 決定態様である場合のいずれであっても、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合、規制対象演出が実行されないようにする規制手段（第 1 5 の実施形態における音光側 M P U 9 3 のステップ S 9 4 0 9 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 a 1 7 に記載の遊技機。

【 4 2 6 5 】

特徴 a 1 8 によれば、所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合には規制対象演出が実行されないため、各状況における進行状況が規制対象状況となっている場合には規制対象演出が実行されないようにすることが可能となる。また、このような規制対象演出の実行規制を行うべきか否かを所定送信情報から特定することが可能となる。

【 4 2 6 6 】

特徴 a 1 9 . 取得条件が成立したことに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（主側 M P U 8 2 のステップ S 7 0 9 の処理を実行する機能）と、

当該取得手段によって取得された前記特別情報を記憶する取得情報記憶手段（第 2 特図保留エリア 1 1 2）と、

当該取得情報記憶手段に記憶されている前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側 M P U 8 2 の当否判定処理を

10

20

30

40

50

実行する機能)と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果(大当たり結果)となったことに基づいて、遊技者に特典(開閉実行モード)を付与する特典付与手段(主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能)と、

を備え、

前記付与判定の実行に対応させて前記遊技回が実行される構成であり、

本遊技機は、前記取得情報記憶手段に記憶されている所定の特別情報が前記付与判定の対象となった場合における判定結果に対応する情報を、当該所定の特別情報が前記付与判定の対象となるよりも前のタイミングにおいて特定する先特定手段(第15の実施形態における主側MPU82の先読み用処理を実行する機能)を備え、

10

前記演出内容決定手段は、前記先特定手段により特定された情報に対応した所定の特別演出(特別保留表示)が、前記所定の特別情報が前記付与判定の対象となるよりも前のタイミングにおいて実行されるようにする手段(第15の実施形態における音光側MPU93におけるステップS9410の処理を実行する機能)を備え、

前記規制手段は、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報が、前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となるまでに必要な前記更新事象の発生回数が所定対象回数の範囲内であることを示す情報である前記規制対象情報である場合、前記規制対象演出として前記所定の特別演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴a18に記載の遊技機。

20

【4267】

特徴a19によれば、所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報が、契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となるまでに必要な前記更新事象の発生回数が所定対象回数の範囲内であることを示す情報である場合には、先特定の結果に対応する特別演出の実行が規制されるため、所定状態における各状況の終了が近づいている状況においては上記特別演出が実行されないようにすることが可能となる。また、このような規制対象演出の実行規制を行うべきか否かを所定送信情報から特定することが可能となる。

【4268】

特徴a20. 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段(第2作動口34)と、

30

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報(第2保留情報)を取得する取得手段(主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能)と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定(当否判定処理)を行う付与判定手段(主側MPU82の当否判定処理を実行する機能)と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果(大当たり結果)となったことに基づいて、遊技者に特典(開閉実行モード)を付与する特典付与手段(主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能)と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段(主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能)と、

40

を備え、
前記所定状態は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間が前記通常遊技状態よりも長くなる遊技状態であることを特徴とする特徴a1乃至a19のいずれか1に記載の遊技機。

【4269】

特徴a20によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入

50

球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【4270】

なお、特徴a1～a20の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【4271】

上記特徴W群、上記特徴X群、上記特徴Y群、上記特徴Z群及び上記特徴a群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4272】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【4273】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4274】

ここで、上記例示等のような遊技機においては好適に遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

30

【4275】

<特徴b群>

特徴b1. 第1制御手段(第15の実施形態における主側MPU82)と、

当該第1制御手段から送信される送信情報に基づいて、演出実行手段(図柄表示装置41)における演出の実行制御を行う第2制御手段(音光側MPU93及び表示側MPU103)と、

を備えた遊技機において、

所定遊技状況(第15の実施形態における時短状態ST1～ST3の第1段階)において更新事象(遊技回の消化)が発生したことに基づいて、契機記憶領域(第15の実施形態では状態継続カウンタ327)に記憶されている情報を終了対象情報(「0」の値)に近付ける側に更新する更新手段(第15の実施形態における主側MPU82のステップS9101の処理を実行する機能)と、

40

前記所定遊技状況において前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となった場合に、当該所定遊技状況とは異なる特定遊技状況(第15の実施形態における時短状態ST1～ST3の第2段階)に設定する状況設定手段(第15の実施形態における主側MPU82のステップS9104～ステップS9109の処理を実行する機能)と、

を備え、

前記第1制御手段は、前記契機記憶領域の情報を含む所定送信情報(時短中コマンド)を前記第2制御手段に送信する所定送信手段(第15の実施形態における主側MPU82

50

のステップS 9 1 1 3～ステップS 9 1 1 5の処理を実行する機能)を備え、

前記第2制御手段は、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報に基づいて、前記演出実行手段における演出内容を決定する演出内容決定手段(第15の実施形態における音光側MPU93の時短中演出制御処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする遊技機。

【4276】

特徴b1によれば、所定遊技状況において契機記憶領域の情報が更新事象の発生に基づき更新されることにより終了対象情報となることで所定遊技状況が終了して特定遊技状況となる。これにより、所定遊技状況の終了契機を特定するための処理構成を簡素化することが可能となる。この場合に、契機記憶領域の情報を含む所定送信情報が第1制御手段から第2制御手段に送信され、第2制御手段は演出実行手段における演出内容を決定する場合に、所定送信情報に設定されている情報に基づいて当該決定を行うだけで所定遊技状況の進行状況に応じた演出が実行されるようにすることが可能となる。よって、演出の実行制御を好適に行うことが可能となる。

【4277】

特徴b2. 前記所定遊技状況が開始される場合に前記契機記憶領域に第1開始対象情報(「20」)を設定する第1設定手段(第15の実施形態における主側MPU82のステップS8407、ステップS8606及びステップS8706の処理を実行する機能)を備え、

前記状況設定手段は、前記所定遊技状況が開始される場合に前記第1開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となった場合に、前記特定遊技状況に設定することを特徴とする特徴b1に記載の遊技機。

【4278】

特徴b2によれば、所定遊技状況が開始される場合に第1開始対象情報が設定された契機記憶領域の情報が終了対象情報となった場合に所定遊技状況が終了して特定遊技状況となる構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4279】

特徴b3. 前記特定遊技状況が開始される場合に前記契機記憶領域に第2開始対象情報(「79」、「129」又は「29」)を設定する第2設定手段(第15の実施形態における主側MPU82のステップS9105～ステップS9109の処理を実行する機能)を備え、

前記状況設定手段は、前記特定遊技状況が開始される場合に前記第2開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となった場合に、前記特定遊技状況とは異なる遊技状況に設定し、

前記演出内容決定手段は、前記所定遊技状況及び前記特定遊技状況のいずれであっても、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報に基づいて、前記演出実行手段における演出内容を決定することを特徴とする特徴b2に記載の遊技機。

【4280】

特徴b3によれば、契機記憶領域の情報を参照することによって所定遊技状況及び特定遊技状況のそれぞれの終了契機が特定される構成において、第2制御手段は所定遊技状況及び特定遊技状況のいずれであっても第1制御手段から送信された所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報に基づいて演出実行手段における演出内容を決定する。これにより、処理構成の共通化を図りながら、所定遊技状況及び特定遊技状況のそれぞれにおける演出内容を各状況の進行内容に応じたものとすることが可能となる。

【4281】

特徴b4. 前記所定遊技状況である場合に状態対応記憶領域(第15の実施形態における状態判定用カウンタ326)の情報が第1情報(「1」)であるようにする第1情報設定手段(第15の実施形態における主側MPU82のステップS8408、ステップS8607及びステップS8707の処理を実行する機能)と、

前記特定遊技状況である場合に前記状態対応記憶領域の情報が第2情報(「2」)であ

10

20

30

40

50

るようにする第2情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9104の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定送信情報には、前記状態対応記憶領域の情報も含まれていることを特徴とする特徴b3に記載の遊技機。

【4282】

特徴b4によれば、所定遊技状況である場合には状態対応記憶領域の情報が第1情報となり、特定遊技状況である場合には状態対応記憶領域の情報が第2情報となることで、状態対応記憶領域の情報を確認することで所定遊技状況及び特定遊技状況のいずれであるのかを特定することが可能となる。この場合に、所定送信情報には契機記憶領域の情報だけではなく状態対応記憶領域の情報も含まれているため、第2制御手段は所定送信情報に基づいて所定遊技状況及び特定遊技状況のいずれであるのかを特定することができるとともにその特定した状況の進行状況を特定することができる。

10

【4283】

特徴b5．前記演出内容決定手段は、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合、規制対象演出が実行されないようにする規制手段（第15の実施形態における音光側MPU93のステップS9409の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴b1乃至b4のいずれか1に記載の遊技機。

【4284】

特徴b5によれば、所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合には規制対象演出が実行されないため、所定遊技状況における進行状況が規制対象状況となっている場合には規制対象演出が実行されないようにすることが可能となる。また、このような規制対象演出の実行規制を行うべきか否かを所定送信情報から特定することが可能となる。

20

【4285】

特徴b6．前記所定遊技状況が開始される場合に前記契機記憶領域に第1開始対象情報（「20」）を設定する第1設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8407、ステップS8606及びステップS8706の処理を実行する機能）と、

前記特定遊技状況が開始される場合に前記契機記憶領域に第2開始対象情報（「79」、「129」又は「29」）を設定する第2設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9105～ステップS9109の処理を実行する機能）と、

30

を備え、

前記状況設定手段は、前記所定遊技状況が開始される場合に前記第1開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となった場合に、前記特定遊技状況に設定し、前記特定遊技状況が開始される場合に前記第2開始対象情報が設定された前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となった場合に、前記特定遊技状況とは異なる遊技状況に設定し、

前記規制手段は、前記所定遊技状況及び前記特定遊技状況のいずれであっても、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合、規制対象演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴b5に記載の遊技機。

40

【4286】

特徴b6によれば、所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報が規制対象情報である場合には規制対象演出が実行されないため、所定遊技状況及び特定遊技状況のそれぞれにおける進行状況が規制対象状況となっている場合には規制対象演出が実行されないようにすることが可能となる。また、このような規制対象演出の実行規制を行うべきか否かを所定送信情報から特定することが可能となる。

【4287】

特徴b7．取得条件が成立したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

当該取得手段によって取得された前記特別情報を記憶する取得情報記憶手段（第2特図

50

保留エリア１１２）と、

当該取得情報記憶手段に記憶されている前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側ＭＰＵ８２の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＭＰＵ８２の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、
を備え、

本遊技機は、前記取得情報記憶手段に記憶されている所定の特別情報が前記付与判定の対象となった場合における判定結果に対応する情報を、当該所定の特別情報が前記付与判定の対象となるよりも前のタイミングにおいて特定する先特定手段（第１５の実施形態における主側ＭＰＵ８２の先読み用処理を実行する機能）を備え、

前記演出内容決定手段は、前記先特定手段により特定された情報に対応した所定の特別演出（特別保留表示）が、前記所定の特別情報が前記付与判定の対象となるよりも前のタイミングにおいて実行されるようにする手段（第１５の実施形態における音光側ＭＰＵ９３におけるステップＳ９４１０の処理を実行する機能）を備え、

前記規制手段は、前記所定送信情報に設定されている前記契機記憶領域の情報が、前記契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となるまでに必要な前記更新事象の発生回数が所定対象回数の範囲内であることを示す情報である前記規制対象情報である場合、前記規制対象演出として前記所定の特別演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴ｂ５又はｂ６に記載の遊技機。

【４２８８】

特徴ｂ７によれば、所定送信情報に設定されている契機記憶領域の情報が、契機記憶領域の情報が前記終了対象情報となるまでに必要な前記更新事象の発生回数が所定対象回数の範囲内であることを示す情報である場合には、先特定の結果に対応する所定の特別演出の実行が規制されるため、所定遊技状況の終了が近づいている状況においては上記所定の特別演出が実行されないようにすることが可能となる。また、このような規制対象演出の実行規制を行うべきか否かを所定送信情報から特定することが可能となる。

【４２８９】

特徴ｂ８．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第２作動口３４）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第２保留情報）を取得する取得手段（主側ＭＰＵ８２のステップＳ７０９の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側ＭＰＵ８２の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＭＰＵ８２の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側ＭＰＵ８２の普図普電制御処理を実行する機能）と、

同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間が通常遊技状態よりも長くなる所定状態（時短状態ＳＴ１～ＳＴ３）に設定する手段（第１５の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳ８４０６、ステップＳ８６０５又はステップＳ８７０５の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定遊技状況及び前記特定遊技状況は、１回の前記所定状態に含まれる状況であることを特徴とする特徴ｂ１乃至ｂ７のいずれか１に記載の遊技機。

10

20

30

40

50

【4290】

特徴b 8によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。1回の所定状態に所定遊技状況及び特定遊技状況が含まれる構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4291】

なお、特徴b 1～b 8の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 11、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 16、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 11、特徴X 1～X 14、特徴Y 1～Y 10、特徴Z 1～Z 10、特徴a 1～a 20、特徴b 1～b 8、特徴c 1～c 6、特徴d 1～d 11、特徴e 1～e 15、特徴f 1～f 15、特徴g 1～g 12、特徴h 1～h 11、特徴i 1～i 18、特徴j 1～j 14、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4292】

<特徴c 群>

特徴c 1. 特定演出（遊技回用演出）を実行することが可能な演出実行手段（図柄表示装置41）と、

前記特定演出が実行されるように前記演出実行手段を制御する演出制御手段（音光側MPU93及び表示側MPU103）と、

前記特定演出の所定の実行内容（遊技回の変動表示期間）を決定する決定手段（第15、第19の実施形態における主側MPU82の変動表示期間の特定処理を実行する機能）と、

を備えた遊技機において、

前記決定手段は、

所定遊技状況（第15の実施形態における時短状態ST1～ST3の第1段階）である場合、前記所定の実行内容の決定態様が第1決定態様（第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を参照して遊技回の変動表示期間が決定される態様）となるようにする第1態様設定手段（第15の実施形態における主側MPU82の第1段階時短用の遊技回期間テーブル313を参照してステップS9209及びステップS9210の処理を実行する機能）と、

特定遊技状況（第15の実施形態における時短状態ST1～ST3の第2段階）である場合、前記所定の実行内容の決定態様が第2決定態様（第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を参照して遊技回の変動表示期間が決定される態様）となるようにする第2態様設定手段（第15の実施形態における主側MPU82の第2段階時短用の遊技回期間テーブル314を参照してステップS9209及びステップS9210の処理を実行する機能）と、

を備え、

本遊技機は、

前記所定遊技状況である場合に状態対応記憶領域（第15の実施形態における状態判定用カウンタ326）の情報が第1情報（「1」）であるようにする第1情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8408、ステップS8607及びステップS8707の処理を実行する機能）と、

10

20

30

40

50

前記特定遊技状況である場合に前記状態対応記憶領域の情報が第2情報（「2」）であるようにする第2情報設定手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9104の処理を実行する機能）と、

前記第1決定態様に対応する第1決定態様情報群（第1段階時短用の遊技回期間テーブル313）、前記第2決定態様に対応する第2決定態様情報群（第2段階時短用の遊技回期間テーブル314）、並びに前記第1決定態様情報群及び前記第2決定態様情報群のそれぞれを読み出すための読み出し用情報（開始アドレス）が設定された読み出し用情報群（遊技回期間用アドレステーブル311）を予め記憶した特定記憶手段（主側ROM83）と、
を備え、

前記読み出し用情報群は、第1アドレス（「00A1H」）に対応する記憶領域に前記第1決定態様情報群の前記読み出し用情報が設定されており、第2アドレス（「00A2H」）に対応する記憶領域に前記第2決定態様情報群の前記読み出し用情報が設定されており、

前記第1態様設定手段は、前記第1情報を利用して前記第1アドレスを導出し、その導出した第1アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第1決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第1決定態様情報群を読み出して当該第1決定態様情報群が前記決定手段において利用されるようにし、

前記第2態様設定手段は、前記第2情報を利用して前記第2アドレスを導出し、その導出した第2アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第2決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第2決定態様情報群を読み出して当該第2決定態様情報群が前記決定手段において利用されるようにすることを特徴とする遊技機。
【4293】

特徴c1によれば、所定遊技状況においては特定演出の所定の実行内容の決定態様が第1決定態様となり、特定遊技状況においては特定演出の所定の実行内容の決定態様が第2決定態様となるため、特定演出の所定の実行内容の決定態様を各遊技状況に応じて異ならせることが可能となる。また、第1決定態様情報群を参照することにより特定演出の所定の実行内容の決定態様が第1決定態様となり、第2決定態様情報群を参照することにより特定演出の所定の実行内容の決定態様が第2決定態様となる。また、第1決定態様情報群及び第2決定態様情報群のそれぞれを読み出すための読み出し用情報が設定された読み出し用情報群が特定記憶手段に予め記憶されているため、第1決定態様情報群及び第2決定態様情報群を読み出すための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4294】

この場合に、状態対応記憶領域に第1情報が記憶されている状況においては当該第1情報を利用して読み出し用情報群の第1アドレスが導出され、その導出した第1アドレスに基づいて読み出し用情報群から読み出した第1決定態様情報群の読み出し用情報を利用することで第1決定態様情報群が読み出される。また、状態対応記憶領域に第2情報が記憶されている状況においては当該第2情報を利用して読み出し用情報群の第2アドレスが導出され、その導出した第2アドレスに基づいて読み出し用情報群から読み出した第2決定態様情報群の読み出し用情報を利用することで第2決定態様情報群が読み出される。つまり、読み出し用情報群から対応する読み出し用情報を読み出すために、各遊技状況を特定するための状態対応記憶領域の情報が兼用されることとなる。よって、演出の実行制御を好適に行うことが可能となる。

【4295】

特徴c2．前記所定の実行内容は、前記特定演出の実行期間に対応する内容であることを特徴とする特徴c1に記載の遊技機。

【4296】

特徴c2によれば、遊技状況に応じて特定演出の実行期間の決定態様が変化するため、特定演出の実行期間を遊技状況に合わせながら多様化させることが可能となる。この場合に、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

10

20

30

40

50

【4297】

特徴c3．前記第1態様設定手段は、前記第1情報を利用してアドレス導出処理（第15の実施形態における主側MPU82のステップS9204～ステップS9206の処理）を実行することにより前記第1アドレスを導出し、その導出した第1アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第1決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第1決定態様情報群を読み出すものであり、

前記第2態様設定手段は、前記第2情報を利用して前記アドレス導出処理を実行することにより前記第2アドレスを導出し、その導出した第2アドレスに基づいて前記読み出し用情報群から読み出した前記第2決定態様情報群の前記読み出し用情報を利用することで前記第2決定態様情報群を読み出すことを特徴とする特徴c1又はc2に記載の遊技機。

10

【4298】

特徴c3によれば、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出する場合、いずれの状況であっても共通のアドレス導出処理が実行される。これにより、処理構成を簡素化することが可能となる。

【4299】

特徴c4．前記第2アドレスと前記第1アドレスとの間の差分は、前記第2情報と前記第1情報との間の差分に対応していることを特徴とする特徴c3に記載の遊技機。

【4300】

特徴c4によれば、第2アドレスと第1アドレスとの間の差分が、第2情報と第1情報との間の差分に対応しているため、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出するためのアドレス導出処理の処理構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

20

【4301】

特徴c5．前記アドレス導出処理は、前記読み出し用情報群に設定された開始アドレスに前記状態対応記憶領域の情報に対応する情報を加算することにより前記読み出し用情報群において参照すべきアドレスを導出する処理であることを特徴とする特徴c3又はc4に記載の遊技機。

【4302】

特徴c5によれば、読み出し用情報群に設定された開始アドレスに状態対応記憶領域の情報に対応する情報を加算することによって読み出し用情報群において参照すべきアドレスが導出されるため、状態対応記憶領域の情報を利用してアドレスを導出するためのアドレス導出処理の処理構成を簡素化することが可能となる。

30

【4303】

特徴c6．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

40

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、

同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間が通常遊技状態よりも長くなる所定状態（時短状態ST1～ST3）に設定する手段（第15の実施形態における主側MPU82のステップS8406、ステップS8605又はステップS8705の処理を実行する機能）と、

50

を備え、

前記所定遊技状況及び前記特定遊技状況は、1回の前記所定状態に含まれる状況であることを特徴とする特徴c 1乃至c 5のいずれか1に記載の遊技機。

【4304】

特徴c 6によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間あたりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。1回の所定状態に所定遊技状況及び特定遊技状況が含まれる構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

10

【4305】

なお、特徴c 1～c 6の構成に対して、特徴A 1～A 8、特徴B 1～B 8、特徴C 1～C 8、特徴D 1～D 8、特徴E 1～E 9、特徴F 1～F 6、特徴G 1～G 11、特徴H 1～H 8、特徴I 1～I 5、特徴J 1～J 7、特徴K 1～K 7、特徴L 1～L 5、特徴M 1～M 4、特徴N 1～N 8、特徴O 1～O 8、特徴P 1～P 6、特徴Q 1～Q 16、特徴R 1～R 6、特徴S 1～S 7、特徴T 1～T 3、特徴U 1～U 5、特徴V 1～V 6、特徴W 1～W 11、特徴X 1～X 14、特徴Y 1～Y 10、特徴Z 1～Z 10、特徴a 1～a 20、特徴b 1～b 8、特徴c 1～c 6、特徴d 1～d 11、特徴e 1～e 15、特徴f 1～f 15、特徴g 1～g 12、特徴h 1～h 11、特徴i 1～i 18、特徴j 1～j 14、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

20

【4306】

上記特徴b群及び上記特徴c群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4307】

遊技機の種類として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

30

【4308】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4309】

ここで、上記例示等のような遊技機においては演出の実行制御が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

40

【4310】

<特徴d群>

特徴d 1. 所定契機（第15～第17の実施形態における5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第2作動口34が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第15～第17の実施形態における第1時短状態ST 1、第2時短状態ST 2又は第3時短状態ST 3）を遊技状態の実行対象に設定する設定手段（第15における主側MPU 82のステップS 8406又はステップS 8605の処理を実行する機能、第16の実施形態における主側MPU 82のステップS 9506の処理を実行する機能、第17の実施形態におけるステップS 9906の処理を実行す

50

る機能)と、

前記所定状態である状況であって第1対応状況(第16の実施形態であればステップS9505にて肯定判定をする状況、第17の実施形態であればステップS9905にて肯定判定をする状況、又はステップSA105にて肯定判定をするとともにステップSA106にて肯定判定をする状況)である場合に前記所定契機が発生した場合、当該所定契機に対応する前記所定状態を新たに開始させることなく、現状の実行対象に設定されている前記所定状態を継続させる継続手段(第16の実施形態であれば主側MPU82のステップS9505にて肯定判定をする機能、第17の実施形態であれば主側MPU82のステップS9905にて肯定判定をする機能、又は主側MPU82のステップSA105にて肯定判定をするとともにステップSA106にて肯定判定をする機能)と、

10

前記所定状態である状況であって第2対応状況(第16の実施形態であればステップS9505にて否定判定をする状況、第17の実施形態であればステップS9905にて否定判定をする状況、又はステップSA105若しくはステップSA106にて否定判定をする状況)である場合に前記所定契機が発生した場合、当該所定契機に対応する前記所定状態を新たに開始させる開始手段(第16の実施形態であれば主側MPU82のステップS9505にて否定判定をする機能、第17の実施形態であれば主側MPU82のステップS9905にて否定判定をする機能、又は主側MPU82のステップSA105若しくはステップSA106にて否定判定をする機能)と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【4311】

20

特徴d1によれば、所定状態である状況であって第1対応状況である場合に所定契機が発生した場合には現状の実行対象となっている所定状態が継続され、所定状態である状況であって第2対応状況である場合に所定契機が発生した場合には当該所定契機に対応する所定状態が新たに開始される。これにより、所定状態において所定契機が発生した場合における当該所定契機の発生の扱いを所定状態における遊技状況に応じて異ならせることが可能となり、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4312】

特徴d2. 前記設定手段は、

前記所定契機として第1所定契機(第15～第17の実施形態における時短結果に対応する遊技回の実行)が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第1所定状態(第15～第17の実施形態における第3時短状態ST3)に設定する第1設定手段(第16の実施形態における主側MPU82のステップS9506の処理を実行する機能、第17の実施形態におけるステップS9906の処理を実行する機能)と、

30

前記所定契機として第2所定契機(第15～第17の実施形態における5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了又は天井回数の遊技回の消化)が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第2所定状態(第15～第17の実施形態における第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2)に設定する第2設定手段(第15における主側MPU82のステップS8406又はステップS8605の処理を実行する機能)と、
を備え、

40

前記継続手段は、前記第2所定状態である状況であって前記第1対応状況である場合に前記第1所定契機が発生した場合、前記第1所定状態を新たに開始させることなく、現状の実行対象となっている前記第2所定状態を継続させ、

前記開始手段は、前記第2所定状態である状況であって前記第2対応状況である場合に前記第1所定契機が発生した場合、前記第1所定状態を新たに開始させることを特徴とする特徴d1に記載の遊技機。

【4313】

特徴d2によれば、第1所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第1所定状態が実行可能となり、第2所定契機が発生したことに基づい

50

て所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第2所定状態が実行可能となる。これにより、所定事象の有利度との関係で遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、第2所定状態である状況であって第1対応状況である場合に第1所定契機が発生した場合には現状の実行対象となっている第2所定状態が継続され、第2所定状態である状況であって第2対応状況である場合に第1所定契機が発生した場合には第1所定状態が新たに開始される。これにより、第2所定状態において第1所定契機が発生した場合における第1所定状態の開始の有無を第2所定状態における遊技状況に応じて異ならせることが可能となり、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4314】

特徴d3．前記所定事象の有利度が前記第1所定状態と前記第2所定状態とで相違していることを特徴とする特徴d2に記載の遊技機。

10

【4315】

特徴d3によれば、所定事象の有利度が第1所定状態と第2所定状態とで相違している構成において、上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【4316】

特徴d4．前記第2所定状態の方が前記第1所定状態よりも前記所定事象の有利度が高いことを特徴とする特徴d2又はd3に記載の遊技機。

【4317】

特徴d4によれば、第2所定状態の方が第1所定状態よりも所定事象の有利度が高いため、当該有利度との関係で第1所定契機が発生した場合に第2所定状態が継続される第1遊技状況と第1所定状態が新たに開始される第2遊技状況とのそれぞれに遊技者の注目を向けさせることが可能となる。

20

【4318】

特徴d5．更新事象（第16の実施形態では遊技回、第17の実施形態では遊技回又は小当たり結果）が発生したことに基づいて、終了契機記憶領域（第16の実施形態では状態判定用カウンタ326及び状態継続カウンタ327、第17の実施形態では時短遊技回数カウンタ365及び時短小当たり回数カウンタ366）に記憶されている終了契機情報を終了対象情報（「0」の値）に近付ける側に更新する更新手段（第16の実施形態では主側MPU82におけるステップS9101～ステップS9112及びステップS9116の処理を実行する機能、第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9803～ステップS9805の処理を実行する機能）と、

30

前記所定状態において前記終了契機情報が前記終了対象情報となった場合、当該所定状態を終了させる手段（第16の実施形態では主側MPU82におけるステップS9805の処理を実行する機能、第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9807の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記第1対応状況は前記終了契機情報が第1情報範囲（第16の実施形態では残り回数が50回以上、第17の実施形態では残り小当たり回数が5回以上、第17の実施形態の別形態では残り小当たり回数が5回以上であって残り回数が30回以上）である状況であり、

40

前記第2対応状況は前記終了契機情報が第2情報範囲（第16の実施形態では残り回数が50回未満、第17の実施形態では残り小当たり回数が5回未満、第17の実施形態の別形態では残り小当たり回数が5回未満又は残り回数が30回未満）である状況であることを特徴とする特徴d1乃至d4のいずれか1に記載の遊技機。

【4319】

特徴d5によれば、実行対象となっている所定状態が終了するまでに要する更新事象の発生回数との関係で、所定状態において所定契機が発生した場合に当該所定状態が継続される場合と当該所定契機に対応する所定状態が新たに開始される場合とのいずれかが生じる。これにより、所定状態が終了するまでに要する更新事象の発生回数との関係での所定契機の発生タイミングに遊技者の注目を向けさせることが可能となり、遊技の興趣向上を

50

好適に実現することが可能となる。

【4320】

特徴d6．前記第1情報範囲には、前記終了契機情報が所定基準情報（第16の実施形態では残り回が50回、第17の実施形態では残り小当たり回数が5回、第17の実施形態の別形態では残り小当たり回数が5回であって残り回数が30回）よりも前記終了対象情報から遠い情報の範囲が含まれ、

前記第2情報範囲には、前記終了契機情報が前記所定基準情報よりも前記終了対象情報に近い情報の範囲が含まれることを特徴とする特徴d5に記載の遊技機。

【4321】

特徴d6によれば、実行対象となっている所定状態の終了が近くない状況において所定契機が発生した場合には当該所定状態が継続され、実行対象となっている所定状態の終了が近い状況において所定契機が発生した場合には当該所定契機に対応する所定状態が新たに開始される。これにより、現状の所定状態が継続されることを優先しながら、現状の所定状態の終了が近い状況においては所定状態を新たに開始することで所定状態となっている期間が長くなるようにすることが可能となる。

【4322】

特徴d7．前記所定基準情報は、前記所定状態である状況において発生した前記所定契機に対応する前記所定状態が開始される場合に前記終了契機記憶領域に設定される情報であることを特徴とする特徴d6に記載の遊技機。

【4323】

特徴d7によれば、実行対象となっている所定状態が終了するまでに要する更新事象の発生回数が所定契機に対応する所定状態における初期の更新事象の発生可能回数よりも多い場合には実行対象となっている所定状態が継続され、実行対象となっている所定状態が終了するまでに要する更新事象の発生回数が所定契機に対応する所定状態における初期の更新事象の発生可能回数よりも少ない場合には当該所定契機に対応する所定状態が新たに開始される。これにより、実行対象となっている所定状態が所定契機の発生により途中で終了されて当該所定契機に対応する所定状態が新たに開始されたとしても、遊技者に不利益感を与えないようにすることが可能となる。

【4324】

特徴d8．第1更新事象（小当たり結果）が発生したことに基づいて、第1終了契機記憶領域（第17の実施形態における時短小当たり回数カウンタ366）に記憶されている第1終了契機情報を終了対象情報に近付ける側に更新する第1更新手段（第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9805の処理を実行する機能）と、

第2更新事象（遊技回）が発生したことに基づいて、第2終了契機記憶領域（第17の実施形態における時短遊技回数カウンタ365）に記憶されている第2終了契機情報を終了対象情報に近付ける側に更新する第2更新手段（第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9803の処理を実行する機能）と、

前記所定状態において前記第1終了契機情報が終了対象情報となった場合に当該所定状態を終了させ、前記所定状態において前記第2終了契機情報が終了対象情報となった場合に当該所定状態を終了させる手段（第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9807の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴d1乃至d4のいずれか1に記載の遊技機。

【4325】

特徴d8によれば、所定状態は第1更新事象の発生回数が所定の回数となった場合に終了するとともに第2更新事象の発生回数が所定の回数となった場合にも終了する。これにより、所定状態において遊技者が注目する事象が多様化され、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4326】

特徴d9．前記第1対応状況は前記第1終了契機情報及び前記第2終了契機情報のうち予め定められた側である参照対象情報が第1情報範囲である状況であり、

10

20

30

40

50

前記第 2 対応状況は前記参照対象情報が第 2 情報範囲である状況であることを特徴とする特徴 d 8 に記載の遊技機。

【 4 3 2 7 】

特徴 d 9 によれば、第 1 終了契機情報及び第 2 終了契機情報のうち一方の終了契機情報に基づいて、所定状態において所定契機が発生した場合に実行対象の所定状態を継続させるか又は所定契機に対応する所定状態を新たに開始させるかが決定される。これにより、いずれの状況になるのかが遊技者にとって分かり易いものとする事が可能となる。

【 4 3 2 8 】

特徴 d 1 0 . 前記第 1 対応状況は前記第 1 終了契機情報が所定情報範囲であって前記第 2 終了契機情報が特定情報範囲である状況であり、

10

前記第 2 対応状況は前記第 1 終了契機情報が前記所定情報範囲ではない又は前記第 2 終了契機情報が前記特定情報範囲ではない状況であることを特徴とする特徴 d 8 に記載の遊技機。

【 4 3 2 9 】

特徴 d 1 0 によれば、第 1 終了契機情報が所定情報範囲であって第 2 終了契機情報が特定情報範囲である場合に実行対象の所定状態が継続され、第 1 終了契機情報が所定情報範囲ではない場合又は第 2 終了契機情報が特定情報範囲ではない場合に所定契機に対応する所定状態が新たに開始される。これにより、実行対象の所定状態が継続される条件をシビアに設定することが可能となる。

【 4 3 3 0 】

20

特徴 d 1 1 . 遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第 2 作動口 3 4）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第 2 保留情報）を取得する取得手段（主側 M P U 8 2 のステップ S 7 0 9 の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側 M P U 8 2 の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側 M P U 8 2 の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

30

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側 M P U 8 2 の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴 d 1 乃至 d 1 0 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 3 3 1 】

特徴 d 1 1 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

40

【 4 3 3 2 】

なお、特徴 d 1 ~ d 1 1 の構成に対して、特徴 A 1 ~ A 8、特徴 B 1 ~ B 8、特徴 C 1 ~ C 8、特徴 D 1 ~ D 8、特徴 E 1 ~ E 9、特徴 F 1 ~ F 6、特徴 G 1 ~ G 1 1、特徴 H 1 ~ H 8、特徴 I 1 ~ I 5、特徴 J 1 ~ J 7、特徴 K 1 ~ K 7、特徴 L 1 ~ L 5、特徴 M 1 ~ M 4、特徴 N 1 ~ N 8、特徴 O 1 ~ O 8、特徴 P 1 ~ P 6、特徴 Q 1 ~ Q 1 6、特徴 R 1 ~ R 6、特徴 S 1 ~ S 7、特徴 T 1 ~ T 3、特徴 U 1 ~ U 5、特徴 V 1 ~ V 6、特徴 W 1 ~ W 1 1、特徴 X 1 ~ X 1 4、特徴 Y 1 ~ Y 1 0、特徴 Z 1 ~ Z 1 0、特徴 a 1 ~ a

50

20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4333】

<特徴e群>

特徴e1. 所定契機（第19の実施形態では5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は時短結果に対応する遊技回の実行、第21～第23の実施形態では5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第2作動口34が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第19の実施形態では第1時短状態ST1、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3、第21～第23の実施形態では第1時短状態ST1、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3A～ST3C）に設定する設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSA907、ステップSB105又はステップSB204の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207、ステップSC305又はステップSC404の処理を実行する機能、第22の実施形態では主側MPU82におけるステップSC704～ステップSC706の処理を実行する機能、第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSC904～ステップSC906の処理を実行する機能）と、

遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域（第19の実施形態では第3時短状態カウンタ374、第21、第22の実施形態では第3時短待機カウンタ387、第23の実施形態では第3時短待機カウンタ387及び待機対象カウンタ395）に設定する待機情報設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB203にて肯定判定をした後にステップSB206の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC409の処理を実行する機能、第22の実施形態では主側MPU82におけるステップSC708の処理を実行する機能、第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSD101～ステップSD110の処理を実行する機能）と、

前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB409の処理を実行する機能、第21、第22の実施形態では主側MPU82におけるステップSC607～ステップSC609の処理を実行する機能、第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSD309～ステップSD311の処理を実行する機能）と、を備え、

前記待機情報設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に、前記待機記憶領域に複数の前記待機情報が記憶された状態とならないようにすることを特徴とする遊技機。

【4334】

特徴e1によれば、所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態に設定される構成において、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機されることがあり、その待機している状況において実行対象の所定状態が終了した場合に待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、所定状態が遊技状態の実行対象となっている状況においてその後に実行対象となり得る所定状態が待機している状況とな

り得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【4335】

また、待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に、待機記憶領域に複数の待機情報が記憶された状態とはならない。これにより、複数の所定状態が同時に待機している状況とならないようにすることが可能となり、待機している所定状態の内容が遊技者にとって分かり易いものとなる。よって、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4336】

特徴e2．前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態の終了契機が発生した場合、当該所定状態は遊技状態に設定されることなく終了することを特徴とする特徴e1に記載の遊技機。

10

【4337】

特徴e2によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象となる場合だけではなく、実行対象となることがなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【4338】

特徴e3．更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態の残りの前記更新事象の発生回数が少なくなるように更新処理を実行する更新手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB405の処理を実行する機能、第21，第22の実施形態では主側MPU82におけるステップSC604の処理を実行する機能、第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSD304の処理を実行する機能）を備え、

20

前記終了契機は、残りの前記更新事象の発生回数が0回となることであることを特徴とする特徴e2に記載の遊技機。

【4339】

特徴e3によれば、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合にはその待機している所定状態の残りの更新事象の発生回数が減少するため、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合には当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づくことが可能となる。

【4340】

30

特徴e4．前記待機後設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、当該待機情報に対応する前記所定状態がそれまで実行対象であった前記所定状態が終了するまでに前記更新手段により更新された後の残りの前記更新事象の発生回数が消化されるまで継続し得る前記所定状態に設定することを特徴とする特徴e3に記載の遊技機。

【4341】

特徴e4によれば、所定状態が待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合、その時点の残りの更新事象の発生回数が消化されるまで継続し得る所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、待機している所定状態を、当該所定状態が待機している状態となってから実行対象となるまでに要した期間に応じた途中の状態から開始させることが可能となる。

40

【4342】

特徴e5．前記所定状態として、第1状態（第21～第23の実施形態における第3A時短状態ST3A）と第2状態（第21～第23の実施形態における第3B時短状態ST3B）とが少なくとも存在しており、

前記待機情報設定手段は、遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において新たな前記第1状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に前記待機情報として第1待機情報（「50」）を前記待機記憶領域に設定し、遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において新たな前記第2状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に前記待機情報として第2待機情報（「100」）を前記待機記憶領

50

域に設定することを特徴とする特徴 e 1 乃至 e 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4343】

特徴 e 5 によれば、第 1 状態が待機している状態においては待機記憶領域に第 1 待機情報が設定されており、第 2 状態が待機している状態においては待機記憶領域に第 2 待機情報が設定される。これにより、待機の契機となった所定状態の種類に応じた待機状態とすることが可能となる。

【4344】

特徴 e 6 . 前記待機情報設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、その新たな前記所定状態に対応する前記待機情報を前記待機記憶領域に上書きすることを特徴とする特徴 e 1 乃至 e 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

10

【4345】

特徴 e 6 によれば、待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合には、その新たな所定状態に対応する待機情報が待機記憶領域に上書きされるため、実行対象となっている所定状態が終了した場合には最も後側の待機の契機に対応する所定状態が実行されるようにすることが可能となる。

【4346】

特徴 e 7 . 更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態の残りの前記更新事象の発生回数が少なくなるように更新処理を実行する更新手段（第 19 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SB405 の処理を実行する機能、第 22 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SC604 の処理を実行する機能、第 23 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SD304 の処理を実行する機能）を備え、

20

前記待機記憶領域に前記待機情報が上書きされた場合、当該待機情報に対応する前記所定状態の残りの前記更新事象の発生回数が当該所定状態に対応する初期回数となることを特徴とする特徴 e 6 に記載の遊技機。

【4347】

特徴 e 7 によれば、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合にはその待機している所定状態の残りの更新事象の発生回数が減少するため、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合には当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づけることが可能となる。この場合に、待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生したことで待機記憶領域に待機情報が上書きされた場合には、当該待機情報に対応する所定状態の残りの更新事象の発生回数が当該所定状態に対応する初期回数となるため、実行対象となっている所定状態が終了して待機情報に対応する所定状態が開始された場合に当該所定状態の残りの更新事象の発生回数がそれなりに多い回数となっているようにすることが可能となる。

30

【4348】

特徴 e 8 . 前記待機情報設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該契機の発生に対して前記待機記憶領域の情報の設定を行わないことを特徴とする特徴 e 1 乃至 e 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

40

【4349】

特徴 e 8 によれば、待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該契機の発生に対して待機記憶領域の情報の設定は行われなため、処理構成を簡素化することができるとともに待機している所定状態の内容が遊技者にとって分かり易いものとなる。

【4350】

特徴 e 9 . 前記待機情報設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されてい

50

る状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該所定状態の方が前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態よりも優先度（第23の実施形態における第3時短状態ST3A～ST3Cの優先度）が高い場合にその新たな前記所定状態に対応する前記待機情報を前記待機記憶領域に上書きすることを特徴とする特徴e1乃至e5のいずれか1に記載の遊技機。

【4351】

特徴e9によれば、待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該所定状態の方が待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態よりも優先度が高い場合にその新たな所定状態に対応する待機情報が待機記憶領域に上書きされる。これにより、優先度が高い所定状態が待機している状態となるようにすることが可能となる。

【4352】

特徴e10．前記設定手段は、

前記所定契機として第1所定契機（第19の実施形態では時短結果に対応する遊技回の実行、第21～第23の実施形態では第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第1所定状態（第19の実施形態では第3時短状態ST3、第21～第23の実施形態では第3時短状態ST3A～ST3C）に設定する第1設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB204の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC404の処理を実行する機能、第22の実施形態では主側MPU82におけるステップSC704の処理を実行する機能、第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSC904の処理を実行する機能）と、

前記所定契機として第2所定契機（第19、第21～第23の実施形態における5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了又は天井回数の遊技回の消化）が発生したことに基づいて、前記所定状態として、前記所定事象の有利度が前記通常遊技状態とは異なる第2所定状態（第19、第21～第23の実施形態における第1時短状態ST1又は第2時短状態ST2）に設定する第2設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSA907又はステップSB105の処理を実行する機能、第21～第23の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207又はステップSC305の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記待機情報設定手段は、遊技状態の実行対象が前記第2所定状態である状況において前記第1所定契機が発生したことに基づいて、前記待機記憶領域に前記待機情報を設定し、

前記待機後設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記第2所定状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記第1所定状態を遊技状態の実行対象に設定することを特徴とする特徴e1乃至e9のいずれか1に記載の遊技機。

【4353】

特徴e10によれば、第1所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第1所定状態が実行可能となり、第2所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる第2所定状態が実行可能となる。これにより、所定事象の有利度との関係で遊技状態を多様化させることが可能となる。この場合に、第2所定状態である状況において第1所定状態の実行が待機された状態となり得る構成であって、第1所定状態が待機している状態において第2所定状態が終了した場合にはその待機している第1所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、第1所定状態及び第2所定状態のそれぞれが実行対象となる頻度を高めることが可能となる。

【4354】

特徴e11．前記待機情報設定手段は、遊技状態の実行対象が前記第1所定状態である状況において前記第2所定契機が発生した場合、前記待機記憶領域に前記待機情報を設定しないことを特徴とする特徴e10に記載の遊技機。

【4355】

特徴e11によれば、遊技状態の実行対象が第1所定状態である状況において第2所定状態が発生した場合には待機記憶領域に待機情報が設定されない。これにより、待機情報の設定の契機となる所定状態の種類を制限することが可能となる。

【4356】

特徴e12．前記第2設定手段は、遊技状態の実行対象が前記第1所定状態である状況において前記第2所定契機が発生した場合、遊技状態の実行対象を前記第2所定状態に設定することを特徴とする特徴e10又はe11に記載の遊技機。

【4357】

特徴e12によれば、遊技状態の実行対象が第1所定状態である状況において第2所定契機が発生した場合、遊技状態の実行対象が第2所定状態となるため、第2所定状態の実行を優先させることが可能となる。

10

【4358】

特徴e13．遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において所定の遊技回（第19の実施形態では時短結果に対応する遊技回、第21～第23の実施形態では第1～第3時短結果に対応する遊技回）が実行された場合に、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生する構成であり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたことにより前記待機記憶領域に前記待機情報が設定される場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を待機演出態様とする手段（第19の実施形態では音光側MPU93におけるステップSB311及びステップSB312の処理を実行する機能、第21の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC513及びステップSC514の処理を実行する機能、第22の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC812及びステップSC813の処理を実行する機能、第23の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD214及びステップSD215の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴e1乃至e12のいずれか1に記載の遊技機。

20

【4359】

特徴e13によれば、所定の遊技回が実行されたことにより待機記憶領域に待機情報が設定される場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様が待機演出態様となるため、所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機された状態となったことを、遊技回用演出を利用して遊技者に認識させることが可能となる。

30

【4360】

特徴e14．遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において所定の遊技回（第19の実施形態では時短結果に対応する遊技回、第21～第23の実施形態では第1～第3時短結果に対応する遊技回）が実行された場合に、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生する構成であり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたものの前記待機記憶領域に前記待機情報が設定されない場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を前記所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様とする手段（第19の実施形態では音光側MPU93におけるステップSB306及びステップSB307の処理を実行する機能、第21の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC506及びステップSC507の処理を実行する機能、第22の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC806及びステップSC807の処理を実行する機能、第23の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD206及びステップSD207の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴e1乃至e13のいずれか1に記載の遊技機。

40

【4361】

特徴e14によれば、実行対象の遊技状態が所定状態である状況において所定の遊技回が実行されたものの待機記憶領域に待機情報が設定されない場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様は当該所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待

50

機演出態様となるため、所定の遊技回が発生したことを遊技者に認識させないようにすることが可能となる。

【4362】

特徴e15．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴e1乃至e14のいずれか1に記載の遊技機。

【4363】

特徴e15によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【4364】

なお、特徴e1～e15の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4365】

<特徴f群>

特徴f1．所定契機（第26～第29の実施形態における5R低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は第1～第3時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第2作動口34が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第26～第29の実施形態における第1時短状態ST1、第2時短状態ST2又は第3時短状態ST3A～ST3C）に設定する設定手段（第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207、ステップSC305又はステップSD704～ステップSD711の処理を実行する機能、第27の実施形態では主側MPU82におけるステップSE104～ステップSE113の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE304

10

20

30

40

50

～ステップSE311、ステップSE504～ステップSE511、ステップSE604～ステップSE611又はステップSE704～ステップSE713の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE804～ステップSE811、ステップSF104～ステップSF111、ステップSF204～ステップSF211又はステップSF404～ステップSF413の処理を実行する機能）と、

遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に待機情報を待機記憶領域（第26の実施形態では第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402及び第3C時短待機カウンタ403、第28の実施形態では第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402、第3C時短待機カウンタ403及び発生順記憶エリア405、第29の実施形態では第1待機カウンタ406、第2待機カウンタ407及び第3待機カウンタ408）に設定する待機情報設定手段（第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSC207、ステップSC305又はステップSD704～ステップSD711の処理を実行する機能、第27の実施形態では主側MPU82におけるステップSE104～ステップSE113の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE304～ステップSE311、ステップSE504～ステップSE511、ステップSE604～ステップSE611又はステップSE704～ステップSE713の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE804～ステップSE811、ステップSF104～ステップSF111、ステップSF204～ステップSF211又はステップSF404～ステップSF413の処理を実行する機能）と、

前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合に当該待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD901～ステップSD909の処理を実行する機能、第27の実施形態では主側MPU82におけるステップSE201～ステップSE209の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE411～ステップSE413の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE911～ステップSE913又はステップSF311～ステップSF314の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記待機記憶領域は、

前記待機情報を記憶可能である第1待機記憶領域（第26の実施形態では第3C時短待機カウンタ403、第28の実施形態では第3C時短待機カウンタ403、第29の実施形態では第1待機カウンタ406）と、

前記待機情報を記憶可能である第2待機記憶領域（第26の実施形態では第3B時短待機カウンタ402、第28の実施形態では第3B時短待機カウンタ402、第29の実施形態では第2待機カウンタ407）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【4366】

特徴f1によれば、所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態に設定される構成において、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機されることがあり、その待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合に待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、所定状態が遊技状態の実行対象となっている状況においてその後に実行対象となり得る所定状態が待機している状況となり得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【4367】

また、待機記憶領域には待機情報をそれぞれ記憶可能である第1待機記憶領域と第2待機記憶領域とが設けられている。これにより、複数の所定状態を同時に待機状態とすることが可能となり、待機状態が実行されている期間を長く確保することが可能となる。よっ

て、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4368】

特徴f2．前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態の終了契機が発生した場合、当該所定状態は遊技状態に設定されることなく終了することを特徴とする特徴f1に記載の遊技機。

【4369】

特徴f2によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象となる場合だけではなく、実行対象となることがなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【4370】

特徴f3．更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、前記待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態の残りの前記更新事象の発生回数が少なくなるように更新処理を実行する更新手段（第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD804～ステップSD806の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE404～ステップSE406の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE904～ステップSE906又はステップSF304～ステップSF306の処理を実行する機能）を備え、

前記終了契機は、残りの前記更新事象の発生回数が0回となることであることを特徴とする特徴f2に記載の遊技機。

【4371】

特徴f3によれば、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合にはその待機している所定状態の残りの更新事象の発生回数が減少するため、所定状態の実行が待機されている状態において更新事象が発生した場合には当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づくことが可能となる。

【4372】

特徴f4．前記待機後設定手段は、前記待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、当該待機情報に対応する前記所定状態がそれまで実行対象であった前記所定状態が終了するまでに前記更新手段により更新された後の残りの前記更新事象の発生回数が消化されるまで継続し得る前記所定状態に設定することを特徴とする特徴f3に記載の遊技機。

【4373】

特徴f4によれば、所定状態が待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合、その時点の残りの更新事象の発生回数が消化されるまで継続し得る所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、待機している所定状態を、当該所定状態が待機している状態となってから実行対象となるまでに要した期間に応じた途中の状態から開始させることが可能となる。

【4374】

特徴f5．前記所定状態として、第1状態（第26～第29の実施形態における第3C時短状態ST3C）と第2状態（第26～第29の実施形態における第3B時短状態ST3B）とが少なくとも存在しており、

前記待機情報設定手段は、遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において新たな前記第1状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に前記待機情報として第1待機情報（「130」）を前記第1待機記憶領域に設定し、遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において新たな前記第2状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合に前記待機情報として第2待機情報（「100」）を前記第2待機記憶領域に設定することを特徴とする特徴f1乃至f4のいずれか1に記載の遊技機。

【4375】

特徴f5によれば、第1状態が待機している状態においては第1待機記憶領域に第1待機情報が設定されており、第2状態が待機している状態においては第2待機記憶領域に第2待機情報が設定される。これにより、待機の契機となった所定状態の種類に応じた待機

10

20

30

40

50

状態とすることが可能となる。

【4376】

特徴 f 6 . 前記待機後設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、それら待機情報のうち優先度が高い側の待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する（第 26 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SD 901～ステップ SD 909 の処理を実行する機能、第 27 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SE 201～ステップ SE 209 の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 f 1 乃至 f 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4377】

特徴 f 6 によれば、複数の所定状態が待機している状況において実行対象の所定状態が終了した場合には優先度が高い側の待機情報に対応する所定状態が実行対象となる。これにより、優先度が高い側の所定状態が実行対象となる機会を多く付与することが可能となる。

【4378】

特徴 f 7 . 前記待機後設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、前記第 1 待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する（第 26 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SD 901～ステップ SD 909 の処理を実行する機能、第 27 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SE 201～ステップ SE 209 の処理を実行する機能、第 29 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SE 911～ステップ SE 913 の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 f 1 乃至 f 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4379】

特徴 f 7 によれば、第 1 待機記憶領域及び第 2 待機記憶領域の両方に待機情報が記憶されている状況において実行対象の所定状態が終了した場合には第 1 待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態を遊技状態の実行対象に設定すればよいため、待機情報に対応する所定状態を遊技状態の実行対象とするための処理負荷を軽減することが可能となる。

【4380】

特徴 f 8 . 前記待機後設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、それら前記待機情報に対応する待機記憶領域に設定された順序に関係なく、前記第 1 待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する（第 26 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SD 901～ステップ SD 909 の処理を実行する機能、第 27 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SE 201～ステップ SE 209 の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 f 7 に記載の遊技機。

【4381】

特徴 f 8 によれば、第 1 待機記憶領域及び第 2 待機記憶領域の両方に待機情報が記憶されている状況において実行対象の所定状態が終了した場合には、それら待機情報が対応する待機記憶領域に設定された順序に関係なく第 1 待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、第 1 待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態の実行を優先させることが可能となる。

【4382】

特徴 f 9 . 前記待機情報設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、その新たな前記所定状態に対応する前記待機情報を前記第 1 待機記憶領域に上書きすることを特徴とする特徴 f 6 又は f 8 に記載の遊技機。

【４３８３】

特徴 f 9 によれば、第 1 待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合には、その新たな所定状態に対応する待機情報が第 1 待機記憶領域に上書きされるため、実行対象となっている所定状態が終了した場合には最も後側の待機の契機に対応する所定状態が実行されるようにすることが可能となる。

【４３８４】

特徴 f 10 . 前記待機情報設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されていない状況において新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、その新たな前記所定状態に対応する前記待機情報を前記第 2 待機記憶領域に設定し、

10

本遊技機は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了したことで前記第 1 待機記憶領域に記憶されている前記待機情報に対応する前記所定状態が遊技状態の実行対象に設定された場合、前記第 2 待機記憶領域に記憶されている前記待機情報を前記第 1 待機記憶領域に設定する手段（第 29 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S E 9 1 3 又はステップ S F 3 1 4 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 f 7 に記載の遊技機。

【４３８５】

特徴 f 10 によれば、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が複数回発生した場合、第 1 待機記憶領域から先に待機情報が設定され、その後に第 2 待機記憶領域に待機情報が設定される。また、実行対象となっている所定状態が終了した場合には第 1 待機記憶領域に記憶されている待機情報に対応する所定状態が実行対象とされるとともに第 2 待機記憶領域に記憶されている待機情報が第 1 待機記憶領域にシフトされる。これにより、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が複数回発生した場合、先に発生した契機に対応する所定状態から順に実行対象となるようにすることが可能となる。

20

【４３８６】

特徴 f 11 . 前記待機後設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況であって前記第 2 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において実行対象の前記所定状態が終了した場合、それら待機情報のうち対応する待機記憶領域に記憶された順序が先側の待機情報に対応する前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する（第 28 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S E 4 1 1 ～ステップ S E 4 1 3 の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴 f 1 乃至 f 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

30

【４３８７】

特徴 f 11 によれば、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が複数回発生した場合、先に発生した契機に対応する所定状態から順に実行対象となるようにすることが可能となる。

40

【４３８８】

特徴 f 12 . 前記待機情報設定手段は、前記第 1 待機記憶領域に前記待機情報が記憶されている状況において当該第 1 待機記憶領域への前記待機情報の設定に対応する新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該契機の発生に対して前記第 1 待機記憶領域の情報の設定を行わないことを特徴とする特徴 f 10 又は f 11 に記載の遊技機。

【４３８９】

特徴 f 12 によれば、第 1 待機記憶領域に待機情報が記憶されている状況において当該第 1 待機記憶領域への待機情報の設定に対応する新たな所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生した場合、当該契機の発生に対して第 1 待機記憶領域の情報の設

50

定は行われなため、先に発生した契機に対応する所定状態から順に実行対象となるようにするための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4390】

特徴f13．遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において所定の遊技回（第1～第3時短結果に対応する遊技回）が実行された場合に、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生する構成であり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたことにより前記待機記憶領域に前記待機情報が設定される場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を待機演出態様とする手段（第26，第29の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD214及びステップSD215の処理を実行する機能、第28の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC513及びステップSC514の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴f1乃至f12のいずれか1に記載の遊技機。

10

【4391】

特徴f13によれば、所定の遊技回が実行されたことにより待機記憶領域に待機情報が設定される場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様が待機演出態様となるため、所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機された状態となったことを、遊技回用演出を利用して遊技者に認識させることが可能となる。

【4392】

特徴f14．遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において所定の遊技回（第1～第3時短結果に対応する遊技回）が実行された場合に、新たな前記所定状態の実行を待機させることを可能とする契機が発生する構成であり、

20

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたものの前記待機記憶領域に前記待機情報が設定されない場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を前記所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様とする手段（第26，第29の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD206及びステップSD207の処理を実行する機能、第28の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC506及びステップSC507の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴f1乃至f13のいずれか1に記載の遊技機。

30

【4393】

特徴f14によれば、実行対象の遊技状態が所定状態である状況において所定の遊技回が実行されたものの待機記憶領域に待機情報が設定されない場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様は当該所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様となるため、所定の遊技回が発生したことを遊技者に認識させないようにすることが可能となる。

【4394】

特徴f15．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

40

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、
を備え、

50

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴 f 1 乃至 f 1 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4395】

特徴 f 1 5 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【4396】

なお、特徴 f 1 ～ f 1 5 の構成に対して、特徴 A 1 ～ A 8、特徴 B 1 ～ B 8、特徴 C 1 ～ C 8、特徴 D 1 ～ D 8、特徴 E 1 ～ E 9、特徴 F 1 ～ F 6、特徴 G 1 ～ G 1 1、特徴 H 1 ～ H 8、特徴 I 1 ～ I 5、特徴 J 1 ～ J 7、特徴 K 1 ～ K 7、特徴 L 1 ～ L 5、特徴 M 1 ～ M 4、特徴 N 1 ～ N 8、特徴 O 1 ～ O 8、特徴 P 1 ～ P 6、特徴 Q 1 ～ Q 1 6、特徴 R 1 ～ R 6、特徴 S 1 ～ S 7、特徴 T 1 ～ T 3、特徴 U 1 ～ U 5、特徴 V 1 ～ V 6、特徴 W 1 ～ W 1 1、特徴 X 1 ～ X 1 4、特徴 Y 1 ～ Y 1 0、特徴 Z 1 ～ Z 1 0、特徴 a 1 ～ a 2 0、特徴 b 1 ～ b 8、特徴 c 1 ～ c 6、特徴 d 1 ～ d 1 1、特徴 e 1 ～ e 1 5、特徴 f 1 ～ f 1 5、特徴 g 1 ～ g 1 2、特徴 h 1 ～ h 1 1、特徴 i 1 ～ i 1 8、特徴 j 1 ～ j 1 4、特徴 k 1 ～ k 4、特徴 l 1 ～ l 1 9、特徴 m 1 ～ m 1 6、特徴 n 1 ～ n 8、特徴 o 1 ～ o 1 6、特徴 p 1 ～ p 1 0、特徴 q 1 ～ q 7、特徴 r 1 ～ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4397】

<特徴 g 群>

特徴 g 1. 所定契機（第 1 5 ～ 第 2 0 の実施形態では時短結果に対応する遊技回の実行、第 2 1 ～ 第 2 9 の実施形態では第 1 ～ 第 3 時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基づいて、所定事象（第 2 作動口 3 4 が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第 1 5 ～ 第 2 0 の実施形態では第 3 時短状態 S T 3、第 2 1 ～ 第 2 9 の実施形態では第 3 時短状態 S T 3 A ～ S T 3 C）に設定する設定手段（第 1 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 8 7 0 5 の処理を実行する機能、第 1 6 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 9 5 0 6 の処理を実行する機能、第 1 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S 9 9 0 6 の処理を実行する機能、第 1 8 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S A 5 0 3 の処理を実行する機能、第 1 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S B 2 0 4 の処理を実行する機能、第 2 0 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S B 9 0 4 の処理を実行する機能、第 2 1 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S C 4 0 4 の処理を実行する機能、第 2 2 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S C 7 0 4 の処理を実行する機能、第 2 3 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S C 9 0 4 の処理を実行する機能、第 2 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S D 5 0 4 ～ ステップ S D 5 1 3 の処理を実行する機能、第 2 6 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S D 7 0 4 ～ ステップ S D 7 1 1 の処理を実行する機能、第 2 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S E 1 0 5 ～ ステップ S E 1 1 3 の処理を実行する機能、第 2 8 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S E 3 0 4 ～ ステップ S E 3 1 1 の処理を実行する機能、第 2 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S E 8 0 4 ～ ステップ S E 8 1 1 の処理を実行する機能）を備え、

前記所定契機が発生した後であって当該所定契機に対応する前記所定状態が終了前の状況であっても前記所定契機が発生し得ることを特徴とする遊技機。

【4398】

特徴 g 1 によれば、所定契機が発生したことに基づいて所定事象の有利度が通常遊技状

10

20

30

40

50

態とは異なる所定状態に設定されるため、遊技者は所定契機が発生するか否かに注目することとなる。この場合に、所定契機が発生した後であって当該所定契機に対応する所定状態が終了前の状況であっても所定契機が発生し得る。これにより、所定契機が発生する状況を多様化させることが可能となり、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【4399】

特徴g2．前記所定状態において更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、当該所定状態の残りの前記更新事象の発生回数が少なくなるように更新処理を実行する手段（第15、第16の実施形態では主側MPU82におけるステップS9101の処理を実行する機能、第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9803～ステップS9805の処理を実行する機能、第18の実施形態では主側MPU82におけるステップSA701の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB405の処理を実行する機能）と、

10

前記所定状態において残りの前記更新事象の発生回数が0回となったことに基づいて当該所定状態を終了させる手段（第15、第16の実施形態では主側MPU82におけるステップS8905の処理を実行する機能、第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9807の処理を実行する機能、第18の実施形態では主側MPU82におけるステップSA605の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB423の処理を実行する機能）と、

前記所定状態において前記所定契機が発生した場合、当該所定状態の残りの前記更新事象の発生回数を当該所定状態に対応する初期回数に設定する手段（第15の実施形態では主側MPU82におけるステップS8706及びステップS8707の処理を実行する機能、第16の実施形態では主側MPU82におけるステップS9507及びステップS9508の処理を実行する機能、第17の実施形態では主側MPU82におけるステップS9907及びステップS9908の処理を実行する機能、第18の実施形態では主側MPU82におけるステップSA503及びステップSA504の処理を実行する機能、第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB206の処理を実行する機能）と、を備えていることを特徴とする特徴g1に記載の遊技機。

20

【4400】

特徴g2によれば、所定状態において所定契機が発生した場合には当該所定状態の残りの更新事象の発生回数が当該所定状態に対応する初期回数に設定されるため、所定状態が長く継続することを期待する遊技者は所定状態において所定契機が発生することを期待することとなる。

30

【4401】

特徴g3．前記所定状態において前記所定契機が発生した場合に当該所定契機に対応する前記所定状態の実行を待機させる待機状態に設定する待機状態設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB203にて肯定判定をした後にステップSB206の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSB811又はステップSB908の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC409の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD712～ステップSD716の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側MPU82におけるステップSE312～ステップSE325の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側MPU82におけるステップSE812～ステップSE820の処理を実行する機能）と、

40

前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第19の実施形態では主側MPU82におけるステップSB409又はステップSB417の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側MPU82におけるステップSC109又はステップSC113の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側MPU82におけるステップSC607～ステップSC609の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側MPU82におけるステップSD809の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側M

50

P U 8 2におけるステップS E 4 1 1～ステップS E 4 1 3の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS E 9 1 1～ステップS E 9 1 3の処理を実行する機能)と、
を備えていることを特徴とする特徴g 1又はg 2に記載の遊技機。

【4402】

特徴g 3によれば、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において所定契機が発生した場合には所定状態の実行を待機させる待機状態に設定されることがあり、待機状態において実行対象の所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、所定状態が遊技状態の実行対象となっている状況においてその後に実行対象となり得る所定状態が待機している状況となり得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

10

【4403】

特徴g 4．前記待機状態において終了契機が発生した場合、当該待機状態となっていた前記所定状態は遊技状態に設定されることなく終了することを特徴とする特徴g 3に記載の遊技機。

【4404】

特徴g 4によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象となる場合だけではなく、実行対象となることがなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【4405】

特徴g 5．更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、終了契機記憶領域（第19の実施形態では第3時短状態カウンタ374、第20の実施形態では第2時短待機カウンタ382又は第3時短待機カウンタ383、第21の実施形態では第3時短待機カウンタ387、第26、第28の実施形態では第3A時短待機カウンタ401、第3B時短待機カウンタ402又は第3C時短待機カウンタ403、第29の実施形態では第1待機カウンタ406、第2待機カウンタ407又は第3待機カウンタ408）に記憶されている終了契機情報を終了対象情報（「0」の値）に近付ける側に更新する更新手段（第19の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS B 4 0 5の処理を実行する機能、第20の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS C 1 0 4又はステップS C 1 0 5の処理を実行する機能、第21の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS C 6 0 4の処理を実行する機能、第26の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS D 8 0 4～ステップS D 8 0 6の処理を実行する機能、第28の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS E 4 0 4～ステップS E 4 0 6の処理を実行する機能、第29の実施形態では主側M P U 8 2におけるステップS E 9 0 4～ステップS E 9 0 6の処理を実行する機能）を備え、

20

前記終了契機は、前記終了契機情報が前記終了対象情報となることであり、

前記更新手段は、前記待機状態において前記更新事象が発生した場合にも前記終了契機情報を前記終了対象情報に近付ける側に更新することを特徴とする特徴g 4に記載の遊技機。

30

【4406】

特徴g 5によれば、更新事象が発生したことに基づいて更新された終了契機情報が終了契機情報となった場合に待機状態となっている所定状態が終了する構成において、待機状態において更新事象が発生した場合にも終了対象情報に近付ける側に終了契機情報が更新される。これにより、所定状態が待機状態となっている場合に更新事象が発生する度に当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づけることが可能となる。

40

【4407】

特徴g 6．前記待機後設定手段は、前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合、前記終了契機記憶領域に記憶されている前記終了契機情報の状態に対応する前記所定状態を実行対象の遊技状態に設定することを特徴とする特徴g 5に記載の遊技機。

【4408】

50

特徴 g 6 によれば、所定状態が待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合、その時点の終了契機情報の状態に対応する所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、待機状態となっていた所定状態を、当該所定状態が待機状態となってから実行対象となるまでに要した期間に応じた途中の状態から開始させることが可能となる。

【4409】

特徴 g 7 . 前記待機状態において当該待機状態となっている前記所定状態に対応する前記所定契機が発生した場合、前記終了契機情報を前記終了対象情報から遠ざかる側に更新する情報設定手段（第 19 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SB 208 にて否定判定をした後にステップ SB 206 の処理を実行する機能、第 20 の実施形態では主側 MPU 82 における第 2 時短待機カウンタ 382 の値が 1 以上である状況でステップ SB 811 の処理を実行する機能又は第 3 時短待機カウンタ 383 の値が 1 以上である状況でステップ SB 908 の処理を実行する機能、第 22 の実施形態では主側 MPU 82 における第 3 時短待機カウンタ 387 の値が 1 以上である状況でステップ SC 708 の処理を実行する機能、第 26 の実施形態では主側 MPU 82 における第 3 時短状態 ST 3A ~ ST 3C が潜伏している状況でステップ SD 712 ~ ステップ SD 716 の処理を実行する機能、第 28 の実施形態では主側 MPU 82 における第 3 時短状態 ST 3A ~ ST 3C が潜伏している状況でステップ SE 312 ~ ステップ SE 325 の処理を実行する機能、第 29 の実施形態では主側 MPU 82 における第 3 時短状態 ST 3A ~ ST 3C が潜伏している状況でステップ SE 812 ~ ステップ SE 820 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 g 5 又は g 6 に記載の遊技機。

【4410】

特徴 g 7 によれば、所定状態が待機している状態において当該所定状態に対応する所定契機が発生した場合、終了契機情報が終了対象情報から遠ざかる側に更新される。これにより、所定状態が待機している状態において発生した所定契機が無駄なものとなってしまわないようにすることが可能となる。

【4411】

特徴 g 8 . 前記情報設定手段は、前記待機状態において当該待機状態となっている前記所定状態に対応する前記所定契機が発生した場合、前記終了契機記憶領域の前記終了契機情報として当該所定状態に対応する初期回数の情報を設定することを特徴とする特徴 g 7 に記載の遊技機。

【4412】

特徴 g 8 によれば、待機状態において当該待機状態となっている所定状態に対応する所定契機が発生した場合には、待機状態となっている所定状態の残りの更新事象の発生回数が当該所定状態に対応する初期回数となるため、実行対象となっている所定状態が終了して待機状態に対応する所定状態が開始された場合に当該所定状態の残りの更新事象の発生回数がそれなりに多い回数となっているようにすることが可能となる。

【4413】

特徴 g 9 . 前記待機状態において当該待機状態になっている前記所定状態に対応する前記所定契機が発生した場合、当該所定契機の発生に対して前記所定状態に関する設定が行われないことを特徴とする特徴 g 5 又は g 6 に記載の遊技機。

【4414】

特徴 g 9 によれば、所定状態が待機している状態において当該所定状態に対応する所定契機が発生したとしても、当該所定契機の発生に対して所定状態に関する設定が行われない。これにより、所定状態を待機させるための処理構成を簡素化することが可能となる。

【4415】

特徴 g 10 . 前記所定契機は、所定の遊技回（第 19 の実施形態では時短結果に対応する遊技回、第 21 ~ 第 23 の実施形態では第 1 ~ 第 3 時短結果に対応する遊技回）が実行されることであり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたことにより前記待機状態に設定される場合、当該所定の遊技回における遊技

10

20

30

40

50

回用演出の演出態様を待機演出態様とする手段（第19の実施形態では音光側MPU93におけるステップSB311及びステップSB312の処理を実行する機能、第21の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC513及びステップSC514の処理を実行する機能、第22の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC812及びステップSC813の処理を実行する機能、第23の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD214及びステップSD215の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴g3乃至g9のいずれか1に記載の遊技機。

【4416】

特徴g10によれば、所定の遊技回が実行されたことにより待機状態に設定される場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様が待機演出態様となるため、所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機された状態となったことを、遊技回用演出を利用して遊技者に認識させることが可能となる。

【4417】

特徴g11．前記所定契機は、所定の遊技回（第19の実施形態では時短結果に対応する遊技回、第21～第23の実施形態では第1～第3時短結果に対応する遊技回）が実行されることであり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたものの前記待機状態に関する設定が行われない場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を前記所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様とする手段（第19の実施形態では音光側MPU93におけるステップSB306及びステップSB307の処理を実行する機能、第21の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC506及びステップSC507の処理を実行する機能、第22の実施形態では音光側MPU93におけるステップSC806及びステップSC807の処理を実行する機能、第23の実施形態では音光側MPU93におけるステップSD206及びステップSD207の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴g3乃至g10のいずれか1に記載の遊技機。

【4418】

特徴g11によれば、実行対象の遊技状態が所定状態である状況において所定の遊技回が実行されたものの待機状態に関する設定が行われない場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様は当該所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様となるため、所定の遊技回が発生したことを遊技者に認識させないようにすることが可能となる。

【4419】

特徴g12．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、を備え、

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴g1乃至g11のいずれか1に記載の遊技機。

【4420】

特徴 g 1 2 によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間あたりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【 4 4 2 1 】

なお、特徴 g 1 ～ g 1 2 の構成に対して、特徴 A 1 ～ A 8、特徴 B 1 ～ B 8、特徴 C 1 ～ C 8、特徴 D 1 ～ D 8、特徴 E 1 ～ E 9、特徴 F 1 ～ F 6、特徴 G 1 ～ G 1 1、特徴 H 1 ～ H 8、特徴 I 1 ～ I 5、特徴 J 1 ～ J 7、特徴 K 1 ～ K 7、特徴 L 1 ～ L 5、特徴 M 1 ～ M 4、特徴 N 1 ～ N 8、特徴 O 1 ～ O 8、特徴 P 1 ～ P 6、特徴 Q 1 ～ Q 1 6、特徴 R 1 ～ R 6、特徴 S 1 ～ S 7、特徴 T 1 ～ T 3、特徴 U 1 ～ U 5、特徴 V 1 ～ V 6、特徴 W 1 ～ W 1 1、特徴 X 1 ～ X 1 4、特徴 Y 1 ～ Y 1 0、特徴 Z 1 ～ Z 1 0、特徴 a 1 ～ a 2 0、特徴 b 1 ～ b 8、特徴 c 1 ～ c 6、特徴 d 1 ～ d 1 1、特徴 e 1 ～ e 1 5、特徴 f 1 ～ f 1 5、特徴 g 1 ～ g 1 2、特徴 h 1 ～ h 1 1、特徴 i 1 ～ i 1 8、特徴 j 1 ～ j 1 4、特徴 k 1 ～ k 4、特徴 l 1 ～ l 1 9、特徴 m 1 ～ m 1 6、特徴 n 1 ～ n 8、特徴 o 1 ～ o 1 6、特徴 p 1 ～ p 1 0、特徴 q 1 ～ q 7、特徴 r 1 ～ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【 4 4 2 2 】

< 特徴 h 群 >

特徴 h 1 . 遊技回において遊技回用演出が実行されるように遊技回演出手段（図柄表示装置 4 1）を制御する遊技回演出制御手段（第 1 9 の実施形態における音光側 M P U 9 3 の変動パターン決定処理を実行する機能）と、

所定契機（第 1 9 の実施形態における 5 R 低確結果を契機とした開閉実行モードの終了、天井回数の遊技回の消化又は時短結果に対応する遊技回の実行）が発生したことに基いて、所定事象（第 2 作動口 3 4 が開放状態となっている頻度）の有利度が通常遊技状態とは異なる所定状態（第 1 9 の実施形態では第 1 時短状態 S T 1、第 2 時短状態 S T 2 又は第 3 時短状態 S T 3）に設定する設定手段（第 1 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S A 9 0 7、ステップ S B 1 0 5 又はステップ S B 2 0 4 の処理を実行する機能）と、

遊技状態の実行対象が前記所定状態である状況において前記所定状態の実行を待機させる待機状態に設定する待機状態設定手段（第 1 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S B 2 0 3 にて肯定判定をした後にステップ S B 2 0 6 の処理を実行する機能）と、

前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている前記所定状態を遊技状態の実行対象に設定する待機後設定手段（第 1 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S B 4 0 9 又はステップ S B 4 1 7 の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記遊技回演出制御手段は、前記待機状態である場合における前記所定状態の特定の遊技回にて実行される前記遊技回用演出の演出態様を特定演出態様とする特定演出設定手段（第 1 9 の実施形態における音光側 M P U 9 3 のステップ S B 6 0 9 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【 4 4 2 3 】

特徴 h 1 によれば、遊技状態の実行対象が所定状態である状況において所定状態の実行を待機させる待機状態に設定されることがあり、待機状態において実行対象の所定状態が終了した場合に当該待機状態となっている所定状態が遊技状態の実行対象となる。これにより、所定状態が遊技状態の実行対象となっている状況においてその後実行対象となり得る所定状態が待機している状況となり得ることとなり、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【４４２４】

また、待機状態である場合における所定状態の特定の遊技回にて実行される遊技回用演出の演出態様は特定演出態様となる。これにより、遊技者は所定状態において待機状態であることを遊技回用演出から把握することが可能となり、遊技の興趣向上を好適に実現することが可能となる。

【４４２５】

特徴ｈ２．前記特定の遊技回は、前記待機状態である場合における前記所定状態の最後の遊技回であることを特徴とする特徴ｈ１に記載の遊技機。

【４４２６】

特徴ｈ２によれば、待機状態である場合における所定状態の最後の遊技回にて実行される遊技回用演出の演出態様が特定演出態様となるため、遊技者は現状の所定状態が終了した後に新たに所定状態が実行されることを遊技回用演出から把握することが可能となる。

【４４２７】

特徴ｈ３．少なくとも前記待機状態である場合における前記所定状態の最後の遊技回において実行される前記遊技回用演出の実行期間が、当該所定状態のそれまでの前記遊技回における前記遊技回用演出の実行期間よりも長くなるようにする又は長くなり易くする期間設定手段（第１９の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＢ５０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｈ２に記載の遊技機。

【４４２８】

特徴ｈ３によれば、待機状態である場合における所定状態の最後の遊技回にて実行される遊技回用演出の実行期間が、当該所定状態のそれまでの遊技回における遊技回用演出の実行期間よりも長くなる又は長くなり易くなることにより、当該遊技回用演出の演出態様を特定演出態様とする上で十分な期間を確保することが可能となる。

【４４２９】

特徴ｈ４．前記期間設定手段は、前記待機状態であるか否かに関係なく、前記所定状態の最後の遊技回において実行される前記遊技回用演出の実行期間が、当該所定状態のそれまでの前記遊技回における前記遊技回用演出の実行期間よりも長くなるようにする又は長くなり易くすることを特徴とする特徴ｈ３に記載の遊技機。

【４４３０】

特徴ｈ４によれば、待機状態であるか否かに関係なく所定状態の最後の遊技回において実行される遊技回用演出の実行期間が当該所定状態のそれまでの遊技回における遊技回用演出の実行期間よりも長くなる又は長くなり易くなることにより、所定状態の最後の遊技回において遊技回用演出の実行期間を決定する場合に待機状態であるか否かを特定する必要が生じない。よって、処理負荷の軽減を図りながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【４４３１】

特徴ｈ５．前記特定演出設定手段は、前記待機状態である場合における前記所定状態の前記特定の遊技回が所定特典の付与に対応している場合、前記遊技回用演出の演出態様を前記特定演出態様としない（第１９の実施形態における音光側ＭＰＵ９３のステップＳＢ６０６にて肯定判定をしてステップＳＢ６０８の処理を実行する機能）ことを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ４のいずれか１に記載の遊技機。

【４４３２】

特徴ｈ５によれば、待機状態である場合における所定状態の特定の遊技回であったとしても当該特定の遊技回が所定特典の付与に対応している場合には、遊技回用演出の演出態様が特定演出態様とならないため、所定特典の付与に対応する遊技回の遊技回用演出に遊技者の注目を向けさせることが可能となる。

【４４３３】

特徴ｈ６．前記待機状態において終了契機が発生した場合、当該待機状態となっていた前記所定状態は遊技状態に設定されることなく終了することを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ５のいずれか１に記載の遊技機。

10

20

30

40

50

【４４３４】

特徴ｈ６によれば、実行対象となることが待機されている所定状態がその後に実行対象となる場合だけではなく、実行対象となることなくそのまま終了する場合もある。これにより、所定状態の実行態様を多様化させることが可能となる。

【４４３５】

特徴ｈ７．更新事象（遊技回の実行）が発生したことに基づいて、終了契機記憶領域（第１９の実施形態における第３時短状態カウンタ３７４）に記憶されている終了契機情報を終了対象情報（「０」の値）に近付ける側に更新する更新手段（第１９の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＢ４０５の処理を実行する機能）を備え、

前記終了契機は、前記終了契機情報が前記終了対象情報となることであり、

前記更新手段は、前記待機状態において前記更新事象が発生した場合にも前記終了契機情報を前記終了対象情報に近付ける側に更新することを特徴とする特徴ｈ６に記載の遊技機。

【４４３６】

特徴ｈ７によれば、更新事象が発生したことに基づいて更新された終了契機情報が終了契機情報となった場合に待機状態となっている所定状態が終了する構成において、待機状態において更新事象が発生した場合にも終了対象情報に近付ける側に終了契機情報が更新される。これにより、所定状態が待機状態となっている場合に更新事象が発生する度に当該所定状態の終了契機が発生する側へと徐々に近づけることが可能となる。

【４４３７】

特徴ｈ８．前記待機後設定手段は、前記待機状態において実行対象の前記所定状態が終了した場合、前記終了契機記憶領域に記憶されている前記終了契機情報の状態に対応する前記所定状態を実行対象の遊技状態に設定することを特徴とする特徴ｈ７に記載の遊技機。

【４４３８】

特徴ｈ８によれば、所定状態が待機している状態において実行対象の所定状態が終了した場合、その時点の終了契機情報の状態に対応する所定状態が実行対象の遊技状態となる。これにより、待機状態となっていた所定状態を、当該所定状態が待機状態となってから実行対象となるまでに要した期間に応じた途中の状態から開始させることが可能となる。

【４４３９】

特徴ｈ９．前記所定契機は、所定の遊技回（第１９の実施形態における時短結果に対応する遊技回）が実行されることであり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたことにより前記待機状態に設定される場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を待機演出態様とする手段（第１９の実施形態における音光側ＭＰＵ９３のステップＳＢ３１１及びステップＳＢ３１２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ８のいずれか１に記載の遊技機。

【４４４０】

特徴ｈ９によれば、所定の遊技回が実行されたことにより待機状態に設定される場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様が待機演出態様となるため、所定状態である状況において新たな所定状態の実行が待機された状態となったことを、遊技回用演出を利用して遊技者に認識させることが可能となる。

【４４４１】

特徴ｈ１０．前記所定契機は、所定の遊技回（第１９の実施形態における時短結果に対応する遊技回）が実行されることであり、

本遊技機は、実行対象の遊技状態が前記所定状態である状況において前記所定の遊技回が実行されたものの前記待機状態に関する設定が行われない場合、当該所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様を前記所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様とする手段（第１９の実施形態における音光側ＭＰＵ９３のステップＳＢ３０６及びステップＳＢ３０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ９のいずれか１に記載の遊技機。

【4442】

特徴h10によれば、実行対象の遊技状態が所定状態である状況において所定の遊技回が実行されたものの待機状態に関する設定が行われない場合、所定の遊技回における遊技回用演出の演出態様は当該所定の遊技回とは異なる遊技回においても発生し得る非待機演出態様となるため、所定の遊技回が発生したことを遊技者に認識させないようにすることが可能となる。

【4443】

特徴h11．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第2作動口34）と、

当該所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報（第2保留情報）を取得する取得手段（主側MPU82のステップS709の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与対応情報に対応しているか否かの付与判定（当否判定処理）を行う付与判定手段（主側MPU82の当否判定処理を実行する機能）と、

前記付与判定の結果が、前記特別情報が前記付与対応情報に対応しているとする付与対応結果（大当たり結果）となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側MPU82の特電開始処理、特電開放中処理、特電閉鎖中処理及び特電終了処理を実行する機能）と、

前記所定入球手段を、閉鎖状態と開放状態との間で切り換え可能な所定入球制御手段（主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定事象は、同一の態様で前記遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに前記所定入球手段が前記開放状態となっている期間のことであることを特徴とする特徴h1乃至h10のいずれか1に記載の遊技機。

【4444】

特徴h11によれば、閉鎖状態と開放状態との間で切り換えられる所定入球手段に遊技球が入球したことに基づき特別情報が取得され、当該特別情報が付与対応情報に対応している場合に遊技者に特典が付与される構成において、所定状態である場合、同一の態様で遊技領域を遊技球が流下するように遊技が行われた場合における単位期間当たりに所定入球手段が前記開放状態となっている期間に関する有利度が通常遊技状態とは異なるものとなる。

【4445】

なお、特徴h1～h11の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4446】

上記特徴d群、上記特徴e群、上記特徴f群、上記特徴g群及び上記特徴h群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4447】

遊技機の種類として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【4448】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4449】

ここで、上記例示等のような遊技機においては好適に遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【4450】

＜特徴 i 群＞

特徴 i 1. 所定動作信号（第 31, 第 32 の実施形態において第 0～第 2 MOSFET 461～463 のゲートに対して出力される H レベルの信号）を受信している場合に所定の動作状態（駆動状態）となる所定動作手段（第 0 MOSFET 461 及び特電用の駆動部 32b、第 1 MOSFET 462 及び振分入口用の駆動部 163、第 2 MOSFET 463 及び切替用駆動部 167）と、

前記所定動作手段を前記所定の動作状態とする状況において所定信号（第 31 の実施形態では第 0～第 2 端子 NS0～NS2 から出力される L レベルの駆動制御信号、第 32 の実施形態では第 0 端子 NS10 から出力される L レベルの駆動制御信号）を送信する所定送信手段（主側 MPU 82、第 0～第 2 端子 NS0～NS2、第 0 端子 NS10）と、

動作電力の供給が開始された後に特定信号（H レベルのリセット信号）を送信する特定送信手段（停電監視基板 85 のリセット信号を出力する機能）と、

前記所定送信手段から前記所定信号が送信されており、前記特定送信手段から前記特定信号が送信されている場合に、前記所定動作手段に前記所定動作信号を送信する動作信号送信手段（第 31 の実施形態では第 0～第 2 誤作動防止回路 422～424、第 32 の実施形態では誤作動防止回路 472）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【4451】

特徴 i 1 によれば、所定送信手段から所定信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、所定動作手段に所定動作信号が送信される。このため、特定信号が送信されていない状態とすることにより、所定信号の送信の有無とは無関係に、所定動作信号が送信されない状態とすることができる。これにより、所定信号の送信状態が不安定な状態となる期間において、特定信号が送信されていない状態とすることにより、設計段階において意図されていないタイミングで所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

【4452】

特徴 i 2. 前記特定送信手段は、動作電力の供給が開始された場合に、当該動作電力が安定的に供給されている状態（第 31, 第 32 の実施形態において主側 MPU 82 に供給される電源電圧が規定動作電圧を下回らない状態が 2 ミリ秒に亘って継続された状態）となった後に、前記特定信号を送信することを特徴とする特徴 i 1 に記載の遊技機。

【4453】

特徴 i 2 によれば、動作電力の供給が開始された場合に、当該動作電力が安定的に供給されている状態となるまで、特定信号が送信されていない状態とすることにより、当該動作電力が安定的に供給されている状態となるまで、所定信号の送信の有無とは無関係に、所定動作信号が送信されない状態とすることができる。これにより、動作電力の供給が安定的に行われていない状態においても、設計段階において意図されていないタイミングで所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

【4454】

特徴 i 3. 動作電力の供給が開始された後に特別信号（停電信号）を送信する特別信号

10

20

30

40

50

送信手段（停電監視基板 8 5 の停電信号を出力する機能）を備え、

動作電力の供給が開始された後に前記特定信号が送信されるタイミングは、前記特別信号が送信されるタイミングよりも後のタイミングであることを特徴 i 1 又は i 2 に記載の遊技機。

【 4 4 5 5 】

特徴 i 3 によれば、動作電力の供給が開始された後に、特別信号が送信されるタイミングよりも後のタイミングにおいて特定信号が送信される構成とすることにより、特別信号が送信されるタイミングよりも前のタイミングにおいて特定信号が送信される構成と比較して、動作電力の供給状態が安定した状態で特定信号が送信されるようにすることができる。上記特徴 i 1 の構成を備え、所定送信手段から所定信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、所定動作手段に所定動作信号が送信される構成であるため、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで特定信号が送信されないようにすることにより、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで所定動作信号が送信されない状態とすることができる。これにより、動作電力の供給が開始された直後に所定動作手段の誤動作が発生してしまうことを防止できる。

10

【 4 4 5 6 】

特徴 i 4 . 前記特定送信手段は、動作電力の供給開始後に前記特定信号の送信を開始した後、動作電力の供給が停止されることを特定したことに基づいて前記特定信号の送信を終了するまでの期間（第 3 1 , 第 3 2 の実施形態ではリセット信号が H I レベルに立ち上げられるタイミングから停電信号が L O W レベルに立ち下げられて 9 ミリ秒が経過するタイミングまでの期間）に亘って、前記特定信号が送信されている状態を継続させることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 3 のいずれか 1 に記載の遊技機。

20

【 4 4 5 7 】

特徴 i 4 によれば、動作電力の供給が開始されて特定信号が送信されている状態となった場合には、特定送信手段において動作電力の供給が停止されることが特定されたことに基づいて特定信号の送信が終了されるまでの期間に亘って、所定信号を送信することにより所定動作手段を所定の動作状態とすることができる状態とすることができる。これにより、特定信号が送信されている状態となった後に、所定動作手段を所定の動作状態とするための処理構成を簡素化することができる。

30

【 4 4 5 8 】

特徴 i 5 . 各種処理を実行する制御手段（主側 M P U 8 2 ）と、
動作電力の供給が開始された後に特別信号（停電信号）の送信を開始し、動作電力の供給が停止されることが特定された場合に前記特別信号の送信を終了する特別信号送信手段（停電監視基板 8 5 の停電信号を出力する機能）と、
を備え、

前記制御手段は、前記特別信号の送信が終了されたことに基づいて停電対応処理（停電時処理）を実行する停電対応手段（第 3 1 の実施形態における主側 M P U 8 2 のステップ S F 8 0 1 ~ ステップ S F 8 0 4 の処理を実行する機能）を備えており、

前記特定信号の送信が終了するタイミングは、前記特別信号の送信が終了するタイミングよりも後のタイミングであることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

40

【 4 4 5 9 】

特徴 i 5 によれば、上記特徴 i 1 の構成を備え、所定送信手段から所定信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、所定動作手段に所定動作信号が送信される構成において、特別信号の送信が終了するタイミングよりも後のタイミングにおいて特定信号の送信を終了させることにより、停電対応処理が実行された後に所定動作手段に所定動作信号が送信されない状態とすることができる。これにより、停電対応処理が実行されるまでは所定動作手段を所定の動作状態とすることを可能としながら、特定信号の送信が終了した後は所定動作手段が所定の動作状態となることを防止できる。

【 4 4 6 0 】

50

特徴 i 6 . 各種処理を実行する制御手段（主側 M P U 8 2 ）を備え、

前記制御手段は、前記特定信号が送信されていない状況において当該特定信号が送信されることにより所定動作開始状態（主側 M P U 8 2 がリセットされてメイン処理が開始される状態）となることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 4 6 1 】

特徴 i 6 によれば、制御手段を所定動作開始状態とするために送信される特定信号を利用して、設計段階で意図されていないタイミングで所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。このため、特定信号とは別の信号として所定動作手段の誤動作を防止するための信号が設けられている構成と比較して、所定動作手段の誤動作を防止するための構成を簡素化することができる。

10

【 4 4 6 2 】

特徴 i 7 . 動作電力の供給が開始された場合に、前記所定送信手段に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が当該所定送信手段から出力されている状態となり、

前記所定送信手段が前記所定信号を送信している状態は、動作電力が安定的に供給されている状態における電源電圧（第 3 1 及び第 3 2 の実施形態では 5 V）に対応する電圧レベル（H I レベル）よりも低い電圧レベル（L O W レベル）の信号が当該所定送信手段から出力されている状態であることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 4 6 3 】

特徴 i 7 によれば、所定送信手段から出力されている信号の電圧レベルが下がることにより所定動作手段が所定の動作状態となる。このため、当該信号の電圧レベルを押し上げるノイズが発生した場合に、当該ノイズの影響を受けて所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

20

【 4 4 6 4 】

特徴 i 8 . 前記特定送信手段から前記動作信号送信手段に対して前記特定信号を送信するために利用される特定信号経路（第 3 1 の実施形態では信号線 L N 1 4、第 3 2 の実施形態では信号線 L N 2 1）には、前記特定信号を送信する設定が行われていない状態において前記特定信号の送信が行われていない状態を維持する信号状態維持手段（第 3 1 の実施形態ではプルダウン抵抗 4 6 4、第 3 2 の実施形態ではプルダウン抵抗 4 9 7）が設けられていることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 7 のいずれか 1 に記載の遊技機。

30

【 4 4 6 5 】

特徴 i 8 によれば、特定信号を送信する設定が行われていない状態において、ノイズの影響を受けて一時的に特定信号の送信が行われている状態となってしまうことを防止できる。これにより、特定信号を送信する設定が行われていない状態において、所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

【 4 4 6 6 】

特徴 i 9 . 前記信号状態維持手段は、所定抵抗（第 3 1 の実施形態ではプルダウン抵抗 4 6 4、第 3 2 の実施形態ではプルダウン抵抗 4 9 7）を介して前記特定信号経路を接地する構成であることを特徴とする特徴 i 8 に記載の遊技機。

【 4 4 6 7 】

40

特徴 i 9 によれば、特定信号を送信する設定が行われるまで、特定信号経路の電圧レベルが 0 である状態又は 0 に近い状態とすることができる。これにより、特定信号経路の電圧レベルを押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けて所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

【 4 4 6 8 】

特徴 i 1 0 . 各種処理を実行する制御手段（主側 M P U 8 2 ）を備え、

前記特定送信手段は、動作電力の供給が停止されることを特定した場合に、前記制御手段の動作を停止させるタイミングにおいて前記特定信号の送信を終了することを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 9 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 4 6 9 】

50

特徴 i 10 によれば、上記特徴 i 1 の構成を備え、所定送信手段から所定信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、所定動作手段に所定動作信号が送信される構成において、動作電力の供給が停止されることが特定されて制御手段の動作が停止するタイミングで特定信号の送信を終了させることにより、制御手段の動作が停止するタイミングで所定動作信号が送信されない状態とすることができる。これにより、制御手段の動作が停止された後に、所定送信手段に供給される電源電圧が降下し始めた影響を受けて設計段階において意図されていないタイミングで一時的に所定信号の送信が行われている状態となった場合においても所定動作信号の送信は行われなくすることができる。よって、制御手段の動作が停止された後に、所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

10

【4470】

特徴 i 11 . 所定電子部品（第31の実施形態では第1論理 IC 433、第2論理 IC 434、第32の実施形態では第1論理 IC 481、第2論理 IC 482～484）が実装されている所定基板（主制御基板81）を備え、

前記所定電子部品には、複数の所定論理回路（第31の実施形態では第0～第4 NAND回路441～445、第0～第5 NOT回路451～456、第32の実施形態では第0～第5 NAND回路491～496、第0～第8 NOT回路511～519）が設けられており、

前記動作信号送信手段は、前記所定電子部品に設けられている前記複数の所定論理回路のうち一部の前記所定論理回路を利用して前記所定基板に設けられていることを特徴とする特徴 i 1乃至 i 10のいずれか1に記載の遊技機。

20

【4471】

特徴 i 11 によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち動作信号送信手段を設けるために利用されていない所定論理回路を利用して他の回路を形成可能な態様で、動作信号送信手段を設けることができる。このため、所定基板に実装することが必要となる電子部品の数を抑えることができる。これにより、電子部品が実装された所定基板の製造効率を高めることができるとともに、電子部品が実装された所定基板の製造コストを抑えることができる。

【4472】

特徴 i 12 . 前記所定動作信号として、第1所定動作信号（第0 MOSFET 461のゲートに対して出力される H I レベルの信号）及び第2所定動作信号（第1 MOSFET 462又は第2 MOSFET 463のゲートに対して出力される H I レベルの信号）が存在しており、

30

前記所定動作手段として、前記第1所定動作信号を受信している場合に前記所定の動作状態となる第1所定動作手段（第0 MOSFET 461及び特電用の駆動部32b）と、前記第2所定動作信号を受信している場合に前記所定の動作状態となる第2所定動作手段（第1 MOSFET 462と振分入口用の駆動部163との組合せ、又は第2 MOSFET 463と切換用駆動部167との組合せ）と、が存在しており、

前記所定基板には、前記動作信号送信手段として、前記第1所定動作信号を送信する第1動作信号送信手段（第0誤作動防止回路422）と、前記第2所定動作信号を送信する第2動作信号送信手段（第1誤作動防止回路423又は第2誤作動防止回路424）と、が設けられており、

40

前記第1動作信号送信手段は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定論理回路のうち一部の前記所定論理回路を利用して形成されており、

前記第2動作信号送信手段は、当該所定電子部品に設けられている複数の前記所定論理回路のうち前記第1動作信号送信手段には含まれていない前記所定論理回路を利用して形成されていることを特徴とする特徴 i 11に記載の遊技機。

【4473】

特徴 i 12 によれば、第1所定電子部品に設けられている複数の第1所定論理回路のうち一部の第1所定論理回路を利用して第1動作信号送信手段が設けられている構成におい

50

て、当該第 1 所定電子部品に設けられている複数の第 1 所定論理回路のうち第 1 動作信号送信手段には含まれていない第 1 所定論理回路を利用して第 2 動作信号送信手段を形成することにより、第 1 動作信号送信手段及び第 2 動作信号送信手段を形成するために所定基板に実装される第 1 所定電子部品の数を抑えることができる。

【 4 4 7 4 】

特徴 i 1 3 . 前記所定基板には、前記所定電子部品として第 1 所定電子部品（第 3 1 の実施形態における第 1 論理 IC 4 3 3）及び第 2 所定電子部品（第 3 1 の実施形態における第 2 論理 IC 4 3 4）が実装されており、

前記第 1 所定電子部品に複数設けられている前記所定論理回路は、第 1 所定論理回路（第 0 ～第 4 NAND 回路 4 4 1 ～ 4 4 5）であり、

10

前記第 2 所定電子部品に複数設けられている前記所定論理回路は、前記第 1 所定論理回路とは異なる第 2 所定論理回路（第 0 ～第 5 NOT 回路 4 5 1 ～ 4 5 6）であり、

前記第 1 動作信号送信手段は、前記第 1 所定電子部品に設けられている複数の前記第 1 所定論理回路のうち一部の前記第 1 所定論理回路、及び前記第 2 所定電子部品に設けられている複数の前記第 2 所定論理回路のうち一部の前記第 2 所定論理回路を利用して形成されており、

前記第 2 動作信号送信手段は、前記第 1 所定電子部品に設けられている複数の前記第 1 所定論理回路のうち前記第 1 動作信号送信手段に含まれていない前記第 1 所定論理回路、及び前記第 2 所定電子部品に設けられている複数の前記第 2 所定論理回路のうち前記第 2 動作信号送信手段に含まれていない前記第 2 所定論理回路を利用して形成されていることを特徴とする特徴 i 1 2 に記載の遊技機。

20

【 4 4 7 5 】

特徴 i 1 3 によれば、第 1 動作信号送信手段を形成するために所定基板に実装される電子部品とは別の電子部品として第 2 動作信号送信手段を形成するための電子部品が所定基板に実装される構成と比較して、第 1 所定論理回路及び第 2 所定論理回路を含む第 1 動作信号送信手段と、第 1 所定論理回路及び第 2 所定論理回路を含む第 2 動作信号送信手段とを形成するために所定基板に実装することが必要となる第 1 所定電子部品及び第 2 所定電子部品の数を抑えることができる。

【 4 4 7 6 】

特徴 i 1 4 . 前記第 1 所定電子部品に設けられている複数の前記第 1 所定論理回路のうち前記第 1 動作信号送信手段を形成するために利用されている前記第 1 所定論理回路の数は、前記第 2 所定電子部品に設けられている複数の前記第 2 所定論理回路のうち前記第 1 動作信号送信手段を形成するために利用されている前記第 2 所定論理回路の数とは異なる数であることを特徴とする特徴 i 1 3 に記載の遊技機。

30

【 4 4 7 7 】

特徴 i 1 4 によれば、第 1 動作信号送信手段を形成するために必要な第 1 所定論理回路の数と、当該第 1 動作信号送信手段を形成するために必要な第 2 所定論理回路の数とが異なっている構成において、第 1 所定電子部品に設けられている複数の第 1 所定論理回路のうち一部の第 1 所定論理回路と、第 2 所定電子部品に設けられている複数の第 2 所定論理回路のうち一部の第 2 所定論理回路とを利用して第 1 動作信号送信手段を形成することにより、第 1 動作信号送信手段を形成するために必要となる第 1 所定電子部品及び第 2 所定電子部品の数を抑えることができる。

40

【 4 4 7 8 】

特徴 i 1 5 . 特定の態様で入力信号に対応する出力信号を出力する特定態様手段（第 3 1 及び第 3 2 の実施形態における外部出力用回路 4 3 1）を備え、

当該特定態様手段は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定論理回路のうち前記動作信号送信手段には含まれていない前記所定論理回路を利用して、前記所定基板に形成されていることを特徴とする特徴 i 1 1 乃至 i 1 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 4 7 9 】

特徴 i 1 5 によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち動作信

50

号送信手段を形成するために利用されていない所定論理回路を利用して特定態様手段を形成することにより、動作信号送信手段を形成するための電子部品とは別の電子部品として特定態様手段を形成するための電子部品が所定基板に実装されている構成と比較して、動作信号送信手段及び特定態様手段を形成するために所定基板に実装される電子部品の数を抑えることができる。

【4480】

特徴 i 16．前記所定動作手段として、前記所定動作信号を受信している場合に前記所定の動作状態となる第1所定動作手段（第0 MOS FET 461 及び特電用の駆動部 32b）及び前記所定動作信号を受信している場合に前記所定の動作状態となる第2所定動作手段（第1 MOS FET 462 と振分入口用の駆動部 163 との組合せ、又は第2 MOS FET 463 と切換用駆動部 167 との組合せ）が存在しており、

10

前記所定送信手段は、前記第1所定動作手段及び前記第2所定動作手段の少なくとも一方を前記所定の動作状態とする状況において前記所定信号を送信し、

前記所定動作信号を受信可能であり、当該所定動作信号を受信している場合に当該所定動作信号が前記第1所定動作手段において受信される状態とすることを可能とする第1所定対応手段（第1選択回路 473）と、

前記所定動作信号を受信可能であり、当該所定動作信号を受信している場合に当該所定動作信号が前記第2所定動作手段において受信される状態とすることを可能とする第2所定対応手段（第2選択回路 474 又は第3選択回路 475）と、

前記所定動作信号が前記第1所定対応手段において受信されるように当該第1所定対応手段に第1選択信号（第32の実施形態における H I レベルの第1選択信号）を送信する手段（主側 M P U 82、第1端子 N S 11）と、

20

前記所定動作信号が前記第2所定対応手段において受信されるように当該第2所定対応手段に第2選択信号（第32の実施形態における H I レベルの第2選択信号又は H I レベルの第3選択信号）を送信する手段（主側 M P U 82、第2端子 N S 12 又は第3端子 N S 13）と、

を備えていることを特徴とする特徴 i 1 乃至 i 15 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4481】

特徴 i 16 によれば、所定信号に加えて第1選択信号を利用して第1所定動作手段を所定の動作状態とする構成とすることにより、所定信号及び第1選択信号のいずれか一方にノイズが発生した場合に当該ノイズの影響を受けて設計段階で意図されていないタイミングで第1所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。また、所定信号に加えて第2選択信号を利用して第2所定動作手段を所定の動作状態とする構成とすることにより、所定信号及び第2選択信号のいずれか一方にノイズが発生した場合に当該ノイズの影響を受けて設計段階で意図されていないタイミングで第2所定動作手段が所定の動作状態となってしまうことを防止できる。

30

【4482】

特徴 i 17．一の前記動作信号送信手段から、前記第1所定対応手段及び前記第2所定対応手段に対して前記所定動作信号が送信されることを特徴とする特徴 i 16 に記載の遊技機。

40

【4483】

特徴 i 17 によれば、第1所定対応手段及び第2所定対応手段のそれぞれに 1 対 1 で対応させて動作信号送信手段が設けられている構成と比較して、動作信号送信手段の数を 1 つに抑えることができる。動作信号送信手段の数を抑えることにより、必要となる電子部品の数を低減し、遊技機の製造効率を高めることができるとともに、遊技機の製造コストを低減することができる。

【4484】

特徴 i 18．所定電子部品（第32の実施形態における第1論理 I C 481、第2論理 I C 482～484）が実装されている所定基板（主制御基板 81）を備え、

前記所定電子部品には、複数の所定論理回路（第0～第5 N A N D 回路 491～496

50

、第0～第8 NOT回路511～519)が設けられており、

前記動作信号送信手段は、前記所定電子部品に設けられている前記複数の所定論理回路のうち一部の前記所定論理回路を利用して前記所定基板に形成されており、

前記第1所定対応手段は、前記所定電子部品に設けられている前記複数の所定論理回路のうち前記動作信号送信手段には含まれていない前記所定論理回路を利用して前記所定基板に形成されていることを特徴とする特徴i16又はi17に記載の遊技機。

【4485】

特徴i18によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち一部の所定論理回路を利用して動作信号送信手段が設けられている構成において、当該所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち動作信号送信手段には含まれていない所定論理回路を利用して第1所定対応手段を形成することにより、動作信号送信手段及び第1所定対応手段を形成するために所定基板に実装される所定電子部品の数を抑えることができる。

【4486】

なお、特徴i1～i18の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4487】

<特徴j群>

特徴j1. 第1所定動作手段(第32の実施形態における第0 MOSFET461及び特電用の駆動部32b)に第1所定動作(特電入賞装置32の開閉動作)を行わせる状況において所定信号経路(第0端子NS10と第0～第2 MOSFET461～463とを電気的に接続する信号経路)を通じて第1所定動作信号(第0端子NS10から出力されるLOWレベルの駆動制御信号)を送信し、第2所定動作手段(第1 MOSFET462と振分入口用の駆動部163との組合せ、又は第2 MOSFET463と切換用駆動部167との組合せ)に第2所定動作(振分側開閉部材162の開閉動作又は切換片166の回転動作)を行わせる状況において前記所定信号経路を通じて第2所定動作信号(第0端子NS10から出力されるLOWレベルの駆動制御信号)を送信する所定制御手段(主側MPU82、第0端子NS10)と、

前記所定信号経路を通じて送信された前記第1所定動作信号を受信可能であり、当該第1所定動作信号を受信している場合に前記第1所定動作手段に前記第1所定動作を行わせることを可能とする第1所定対応手段(第1選択回路473)と、

前記所定信号経路を通じて送信された前記第2所定動作信号を受信可能であり、当該第2所定動作信号を受信している場合に前記第2所定動作手段に前記第2所定動作を行わせることを可能とする第2所定対応手段(第2選択回路474又は第3選択回路475)と、

前記所定信号経路を通じて送信されている前記第1所定動作信号が前記第1所定対応手段において受信されるように当該第1所定対応手段に第1選択信号(HIレベルの第1選択信号)を送信する手段(主側MPU82、第1端子NS11)と、

前記所定信号経路を通じて送信されている前記第2所定動作信号が前記第2所定対応手段において受信されるように当該第2所定対応手段に第2選択信号(HIレベルの第2選択信号又はHIレベルの第3選択信号)を送信する手段(主側MPU82、第2端子NS

10

20

30

40

50

1 2又は第3端子NS13)と、

前記所定信号経路において前記第1所定対応手段及び前記第2所定対応手段のそれぞれに向けて信号経路が分岐する箇所よりも前記所定制御手段側の位置に設けられ、当該所定信号経路を通じて前記所定制御手段から送信される信号が正常に利用されるようにすることを可能とする特定手段(誤作動防止回路472)と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【4488】

特徴j1によれば、第1所定動作信号に加えて第1選択信号を利用して第1所定動作手段に第1所定動作を行わせる構成とすることにより、第1所定動作信号及び第1選択信号のいずれか一方にノイズが発生した場合に当該ノイズの影響を受けて設計段階で意図されていないタイミングで第1所定動作手段の第1所定動作が行われてしまうことを防止できる。また、第2所定動作信号に加えて第2選択信号を利用して第2所定動作手段に第2所定動作を行わせる構成とすることにより、第2所定動作信号及び第2選択信号のいずれか一方にノイズが発生した場合に当該ノイズの影響を受けて設計段階で意図されていないタイミングで第2所定動作手段の第2所定動作が行われてしまうことを防止できる。所定信号経路において第1所定対応手段及び第2所定対応手段のそれぞれに向けて信号経路が分岐する箇所よりも所定制御手段側の位置に特定手段を設けることにより、複数の所定動作手段(第1所定動作手段及び第2所定動作手段)に対して設けられる特定手段の数を1つに抑えることができる。特定手段の数を抑えることにより、必要となる電子部品を低減し、遊技機の製造効率を高めることができるとともに、遊技機の製造コストを低減することができる。

【4489】

特徴j2.動作電力の供給が開始された後に特定信号(Hイレベルのリセット信号)を送信する特定送信手段(停電監視基板85のリセット信号を出力する機能)を備え、

前記特定手段は、前記第1所定対応手段に前記第1選択信号が送信されている状態において、前記所定制御手段から前記第1所定動作信号が送信されており、前記特定送信手段から前記特定信号が送信されている場合に、当該第1所定動作信号が前記第1所定対応手段において受信されるようにし、前記第2所定対応手段に前記第2選択信号が送信されている状態において、前記所定制御手段から前記第2所定動作信号が送信されており、前記特定送信手段から前記特定信号が送信されている場合に、当該第2所定動作信号が前記第2所定対応手段において受信されるようにすることを特徴とする特徴j1に記載の遊技機。

【4490】

特徴j2によれば、第1所定対応手段に第1選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第1所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第1所定動作信号が第1所定対応手段において受信されて第1所定動作手段に第1所定動作を行わせることができる。また、第2所定対応手段に第2選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第2所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第2所定動作信号が第2所定対応手段において受信されて第2所定動作手段に第2所定動作を行わせることができる。

【4491】

特定信号が送信されていない状態とすることにより、第1所定動作信号の送信の有無とは無関係に、第1所定動作信号が第1所定対応手段に受信されないようにして、第1所定動作手段の第1所定動作が行われなくすることができる。また、特定信号が送信されていない状態とすることにより、第2所定動作信号の送信の有無とは無関係に、第2所定動作信号が第2所定対応手段に受信されないようにして、第2所定動作手段の第2所定動作が行われなくすることができる。これにより、第1所定動作信号及び第2所定動作信号の送信状態が不安定な状態となる期間において、特定信号が送信されていない状態とすることにより、設計段階において意図されていないタイミングで第1所定動作手段の第1所定動作及び第2所定動作手段の第2所定動作が行われてしまうことを防止できる。

【4492】

特徴 j 3 . 前記特定送信手段は、動作電力の供給が開始された場合に、当該動作電力が安定的に供給されている状態（第 3 2 の実施形態において主側 M P U 8 2 に供給される電源電圧が規定動作電圧を下回らない状態が 2 ミリ秒に亘って継続された状態）となった後に、前記特定信号を送信することを特徴とする特徴 j 2 に記載の遊技機。

【 4 4 9 3 】

特徴 j 3 によれば、動作電力の供給が開始された場合に、当該動作電力が安定的に供給されている状態となるまで、特定信号が送信されていない状態とすることにより、当該動作電力が安定的に供給されている状態となるまで、第 1 所定動作信号及び第 2 所定動作信号の送信の有無とは無関係に、第 1 所定動作手段の第 1 所定動作及び第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われない状態とすることができる。これにより、動作電力の供給が安定的に行われていない状態においても、設計段階において意図されていないタイミングで第 1 所定動作手段の第 1 所定動作が行われてしまうことを防止できるとともに、第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われてしまうことを防止できる。

【 4 4 9 4 】

特徴 j 4 . 動作電力の供給が開始された後に特別信号（停電信号）を送信する特別信号送信手段（停電監視基板 8 5 の停電信号を出力する機能）を備え、

動作電力の供給が開始された後に前記特定信号が送信されるタイミングは、前記特別信号が送信されるタイミングよりも後のタイミングであることを特徴 j 2 又は j 3 に記載の遊技機。

【 4 4 9 5 】

特徴 j 4 によれば、動作電力の供給が開始された後に、特別信号が送信されるタイミングよりも後のタイミングにおいて特定信号が送信される構成とすることにより、特別信号が送信されるタイミングよりも前のタイミングにおいて特定信号が送信される構成と比較して、動作電力の供給状態が安定した状態で特定信号が送信されるようにすることができる。上記特徴 j 2 の構成を備え、第 1 所定対応手段に第 1 選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第 1 所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第 1 所定動作信号が第 1 所定対応手段において受信されて第 1 所定動作手段が第 1 所定動作をする構成であるため、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで特定信号が送信されないようにすることにより、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで第 1 所定動作手段の第 1 所定動作が行われないようにすることができる。また、上記特徴 j 2 の構成を備え、第 2 所定対応手段に第 2 選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第 2 所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第 2 所定動作信号が第 2 所定対応手段において受信されて第 2 所定動作手段が第 2 所定動作をする構成であるため、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで特定信号が送信されないようにすることにより、動作電力の供給状態が安定した状態となるまで第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われないようにすることができる。これにより、動作電力の供給が開始された直後に第 1 所定動作手段及び第 2 所定動作手段の誤動作が発生してしまうことを防止できる。

【 4 4 9 6 】

特徴 j 5 . 前記特定送信手段は、動作電力の供給開始後に前記特定信号の送信を開始した後、動作電力の供給が停止されることを特定したことに基づいて前記特定信号の送信を終了するまでの期間（第 3 2 の実施形態ではリセット信号が H I レベルに立ち上げられるタイミングから停電信号が L O W レベルに立ち下げられて 9 ミリ秒が経過するタイミングまでの期間）に亘って、前記特定信号が送信されている状態を継続させることを特徴とする特徴 j 2 乃至 j 4 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【 4 4 9 7 】

特徴 j 5 によれば、動作電力の供給が開始されて特定信号が送信されている状態となった場合には、特定送信手段において動作電力の供給が停止されることが特定されたことに基づいて特定信号の送信が終了されるまでの期間に亘って、第 1 選択信号及び第 1 所定動作信号を送信することにより第 1 所定動作手段に第 1 所定動作を行わせることができる状

10

20

30

40

50

態とすることができるとともに、第2選択信号及び第2所定動作信号を送信することにより第2所定動作手段に第2所定動作を行わせることができる状態とすることができる。これにより、特定信号が送信されている状態となった後に、第1所定動作手段に第1所定動作を行わせるための処理構成及び第2所定動作手段に第2所定動作を行わせるための処理構成を簡素化することができる。

【4498】

特徴j6．各種処理を実行する制御手段（主側MPU82）と、

動作電力の供給が開始された後に特別信号（停電信号）の送信を開始し、動作電力の供給が停止されることが特定された場合に前記特別信号の送信を終了する特別信号送信手段（停電監視基板85の停電信号を出力する機能）と、
を備え、

前記制御手段は、前記特別信号の送信が終了されたことに基づいて停電対応処理（停電時処理）を実行する停電対応手段（第31の実施形態における主側MPU82のステップSF801～ステップSF804の処理を実行する機能）を備えており、

前記特定信号の送信が終了するタイミングは、前記特別信号の送信が終了するタイミングよりも後のタイミングであることを特徴とする特徴j2乃至j5のいずれか1に記載の遊技機。

【4499】

特徴j6によれば、上記特徴j2の構成を備え、第1所定対応手段に第1選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第1所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第1所定動作信号が第1所定対応手段において受信されて第1所定動作手段が第1所定動作をする構成であるとともに、第2所定対応手段に第2選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第2所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第2所定動作信号が第2所定対応手段において受信されて第2所定動作手段が第2所定動作をする構成であるため、特別信号の送信が終了するタイミングよりも後のタイミングにおいて特定信号の送信を終了させることにより、停電対応処理が実行された後に第1所定動作手段の第1所定動作及び第2所定動作手段の第2所定動作が行われない状態とすることができる。これにより、停電対応処理が実行されるまでは第1所定動作手段に第1所定動作をさせること及び第2所定動作手段に第2所定動作をさせることを可能としながら、特定信号の送信が終了した後は設計段階で意図していないタイミングで第1所定動作手段の第1所定動作及び第2所定動作手段の第2所定動作が行われてしまうことを防止できる。

【4500】

特徴j7．各種処理を実行する制御手段（主側MPU82）を備え、

前記制御手段は、前記特定信号が送信されていない状況において当該特定信号が送信されることにより所定動作開始状態（主側MPU82がリセットされてメイン処理が開始される状態）となることを特徴とする特徴j2乃至j6のいずれか1に記載の遊技機。

【4501】

特徴j7によれば、制御手段を所定動作開始状態とするために送信される特定信号を利用して、設計段階において意図されていないタイミングで第1所定動作手段の第1所定動作が行われてしまうこと及び第2所定動作手段の第2所定動作が行われてしまうことを防止する構成とすることにより、特定信号とは別の信号として第1所定動作手段及び第2所定動作手段の誤作動を防止するための信号が設けられている構成と比較して、これら第1所定動作手段及び第2所定動作手段の誤作動を防止するための構成を簡素化することができる。

【4502】

特徴j8．動作電力の供給が開始された場合に、前記所定制御手段に供給されている電源電圧に対応する電圧レベルの信号が当該所定制御手段から出力されている状態となり、

前記所定制御手段が前記第1所定動作信号又は前記第2所定動作信号を送信している状態は、動作電力が安定的に供給されている状態における電源電圧（第32の実施形態では

10

20

30

40

50

5 V) に対応する電圧レベル (H I レベル) よりも低い電圧レベル (L O W レベル) の信号が当該所定制御手段から出力されている状態であることを特徴とする特徴 j 2 乃至 j 7 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4503】

特徴 j 8 によれば、第 1 所定動作手段の第 1 所定動作及び第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われるためには、所定制御手段から出力されている信号の電圧レベルが下がることを必要とする構成とすることにより、当該所定制御手段から出力されている信号の電圧レベルを押し上げるノイズが発生した場合に、当該ノイズの影響を受けて第 1 所定動作手段の第 1 所定動作又は第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われてしまうことを防止できる。

10

【4504】

特徴 j 9 . 前記特定送信手段から前記特定手段に対して前記特定信号を送信するために利用される特定信号経路 (第 3 2 の実施形態では信号線 L N 2 1) には、前記特定信号を送信する設定が行われていない状態において前記特定信号の送信が行われていない状態を維持する信号状態維持手段 (プルダウン抵抗 4 9 7) が設けられていることを特徴とする特徴 j 2 乃至 j 8 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4505】

特徴 j 9 によれば、特定信号を送信する設定が行われていない状態において、ノイズの影響を受けて一時的に特定信号の送信が行われている状態となってしまうことを防止できる。これにより、特定信号を送信する設定が行われていない状態において、第 1 所定動作手段の第 1 所定動作及び第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われてしまうことを防止できる。

20

【4506】

特徴 j 1 0 . 前記信号状態維持手段は、所定抵抗 (プルダウン抵抗 4 9 7) を介して前記特定信号経路を接地する構成であることを特徴とする特徴 j 9 に記載の遊技機。

【4507】

特徴 j 1 0 によれば、特定信号を送信する設定が行われるまで、特定信号経路の電圧レベルが 0 である状態又は 0 に近い状態とすることができる。これにより、特定信号経路の電圧レベルを押し上げようとするノイズが発生した場合においても当該ノイズの影響を受けて第 1 所定動作手段の第 1 所定動作及び第 2 所定動作手段の第 2 所定動作が行われてしまうことを防止できる。

30

【4508】

特徴 j 1 1 . 各種処理を実行する制御手段 (主側 M P U 8 2) を備え、
前記特定送信手段は、動作電力の供給が停止されることを特定した場合に、前記制御手段の動作を停止させるタイミングにおいて前記特定信号の送信を終了することを特徴とする特徴 j 2 乃至 j 1 0 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4509】

特徴 j 1 1 によれば、上記特徴 j 2 の構成を備え、第 1 所定対応手段に第 1 選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第 1 所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第 1 所定動作信号が第 1 所定対応手段において受信されて第 1 所定動作手段が第 1 所定動作をする構成であるとともに、第 2 所定対応手段に第 2 選択信号が送信されている状態において、所定制御手段から第 2 所定動作信号が送信されており、特定送信手段から特定信号が送信されている場合に、当該第 2 所定動作信号が第 2 所定対応手段において受信されて第 2 所定動作手段が第 2 所定動作をする構成において、動作電力の供給が停止されることが特定されて制御手段の動作が停止するタイミングで特定信号の送信を終了させることにより、制御手段の動作が停止するタイミングで第 1 所定対応手段において第 1 所定動作信号が受信されない状態及び第 2 所定対応手段において第 2 所定動作信号が受信されない状態とすることができる。これにより、制御手段の動作が停止された後に、所定制御手段に供給される電源電圧が降下し始めた影響を受けて設計段階において意図されていないタイミングで一時的に第 1 所定動作

40

50

信号又は第２所定動作信号の送信が行われている状態となった場合においても第１所定動作手段の第１所定動作が行われること及び第２所定動作手段の第２所定動作が行われることを防止できる。

【４５１０】

特徴 j １２．所定電子部品（第３２の実施形態における第１論理 IC ４８１、第２論理 IC ４８２～４８４）が実装されている所定基板（主制御基板 ８１）を備え、

前記所定電子部品には、複数の所定論理回路（第０～第５ NAND 回路 ４９１～４９６、第０～第８ NOT 回路 ５１１～５１９）が設けられており、

前記特定手段は、前記所定電子部品に設けられている前記複数の所定論理回路のうち一部の前記所定論理回路を利用して前記所定基板に設けられていることを特徴とする特徴 j １乃至 j １１のいずれか１に記載の遊技機。

10

【４５１１】

特徴 j １２によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち特定手段を形成するために利用されていない所定論理回路を利用して他の回路を形成可能な態様で、特定手段を形成することができる。このため、所定基板に実装することが必要となる電子部品の数を抑えることができる。これにより、電子部品が実装された所定基板の製造効率を高めることができるとともに、電子部品が実装された所定基板の製造コストを抑えることができる。

【４５１２】

特徴 j １３．前記第１所定対応手段は、前記所定電子部品に設けられている前記複数の所定論理回路のうち前記特定手段には含まれていない前記所定論理回路を利用して前記所定基板に形成されていることを特徴とする特徴 j １２に記載の遊技機。

20

【４５１３】

特徴 j １３によれば、上記特徴 j １２の構成を備え、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち一部の所定論理回路を利用して特定手段が設けられている構成において、当該所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち特定手段には含まれていない所定論理回路を利用して第１所定対応手段を形成することにより、特定手段及び第１所定対応手段を形成するために所定基板に実装される所定電子部品の数を抑えることができる。

【４５１４】

特徴 j １４．特定の態様で入力信号に対応する出力信号を出力する特定態様手段（第３２の実施形態における外部出力用回路 ４３１）を備え、

当該特定態様手段は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定論理回路のうち前記特定手段には含まれていない前記所定論理回路を利用して、前記所定基板に形成されていることを特徴とする特徴 j １２又は j １３に記載の遊技機。

30

【４５１５】

特徴 j １４によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定論理回路のうち特定手段を形成するために利用されていない所定論理回路を利用して特定態様手段を形成することにより、特定手段を形成するための電子部品とは別の電子部品として特定態様手段を形成するための電子部品が所定基板に実装されている構成と比較して、特定手段及び特定態様手段を形成するために所定基板に実装される所定電子部品の数を抑えることができる。

40

【４５１６】

なお、特徴 j １～j １４の構成に対して、特徴 A １～A ８、特徴 B １～B ８、特徴 C １～C ８、特徴 D １～D ８、特徴 E １～E ９、特徴 F １～F ６、特徴 G １～G １１、特徴 H １～H ８、特徴 I １～I ５、特徴 J １～J ７、特徴 K １～K ７、特徴 L １～L ５、特徴 M １～M ４、特徴 N １～N ８、特徴 O １～O ８、特徴 P １～P ６、特徴 Q １～Q １６、特徴 R １～R ６、特徴 S １～S ７、特徴 T １～T ３、特徴 U １～U ５、特徴 V １～V ６、特徴 W １～W １１、特徴 X １～X １４、特徴 Y １～Y １０、特徴 Z １～Z １０、特徴 a １～a ２０、特徴 b １～b ８、特徴 c １～c ６、特徴 d １～d １１、特徴 e １～e １５、特徴 f １～f １５、特徴 g １～g １２、特徴 h １～h １１、特徴 i １～i １８、特徴 j １～j １

50

4、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4517】

上記特徴i群及び上記特徴j群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4518】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて抽選が行われ、当該抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。また、当該抽選の結果を遊技者に予測させたり、認識させたりするための演出が行われる構成が一般的である。これらの遊技機では、各種装置の制御が実行される。

【4519】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づいて抽選が行われ、表示装置の表示面にて絵柄の変動表示が行われ、抽選にて当選結果となった場合には表示面にて特定絵柄の組み合わせ等が最終停止表示され、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する構成が知られている。そして、当該有利な遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の制御が実行されることにより当該入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。また、音出力部を有する装置の音出力制御及び発光部を有する装置の発光制御などが行われて、演出が実行される。

【4520】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、各種装置の制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【4521】

<特徴k群>

特徴k 1. 所定電子部品（第31の実施形態では第1論理IC433、第2論理IC434、第32の実施形態では第1論理IC481、第2論理IC482～484）が実装されている所定基板（主制御基板81）を備え、

前記所定電子部品には、複数の所定回路（第31の実施形態では第0～第4NAND回路441～445、第0～第5NOT回路451～456、第32の実施形態では第0～第5NAND回路491～496、第0～第8NOT回路511～519）が設けられており、

前記所定基板には、所定の回路（第31の実施形態では第0誤作動防止回路422、第32の実施形態では誤作動防止回路472）及び特定の回路（第31の実施形態では第1誤作動防止回路423、第2誤作動防止回路424、外部出力用回路431、第32の実施形態では第1～第3選択回路473～475、外部出力用回路431）が設けられており、

前記特定の回路は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定回路のうち一部の前記所定回路を利用して形成されており、

前記所定の回路は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定回路のうち前記特定の回路には含まれていない前記所定回路を利用して形成されていることを特徴とする遊技機。

【4522】

特徴k 1によれば、所定電子部品に設けられている複数の所定回路のうち一部の所定回路を利用して特定の回路を形成するとともに、当該複数の所定回路のうち特定の回路には含まれていない所定回路を利用して所定の回路を形成することにより、特定の回路に含まれている所定回路を設けるために所定基板に実装される所定電子部品とは別の電子部品として所定の回路に含まれている所定回路を設けるための所定電子部品が所定基板に実装さ

れている構成と比較して、所定基板に実装される所定電子部品を低減することができる。これにより、電子部品が実装された所定基板の製造効率を高めることができるとともに、電子部品が実装された所定基板の製造コストを低減することができる。

【4523】

特徴k2．前記所定基板には、前記所定電子部品として第1所定電子部品（第31の実施形態における第1論理IC433）及び第2所定電子部品（第31の実施形態における第2論理IC434）が実装されており、

前記第1所定電子部品に複数設けられている前記所定回路は、第1所定回路（第31の実施形態における第0～第4NAND回路441～445）であり、

前記第2所定電子部品に複数設けられている前記所定回路は、前記第1所定回路とは異なる第2所定回路（第31の実施形態における第0～第5NOT回路451～456）であり、

前記特定の回路は、前記第1所定電子部品に設けられている複数の前記第1所定回路のうち一部の前記第1所定回路と、前記第2所定電子部品に設けられている複数の前記第2所定回路のうち一部の前記第2所定回路と、を利用して形成されており、

前記所定の回路は、前記第1所定電子部品に設けられている複数の前記第1所定回路のうち前記特定の回路に含まれていない前記第1所定回路と、前記第2所定電子部品に設けられている複数の前記第2所定回路のうち前記特定の回路に含まれていない前記第2所定回路と、を利用して形成されていることを特徴とする特徴k1に記載の遊技機。

【4524】

特徴k2によれば、特定の回路を形成するために所定基板に実装される電子部品とは別の電子部品として所定の回路を形成するための電子部品が所定基板に実装される構成と比較して、第1所定回路及び第2所定回路を含む所定の回路と、第1所定回路及び第2所定回路を含む特定の回路とを形成するために所定基板に実装することが必要となる第1所定電子部品及び第2所定電子部品の数を抑えることができる。

【4525】

特徴k3．前記第1所定電子部品に設けられている複数の前記第1所定回路のうち前記所定の回路を形成するために利用されている前記第1所定回路の数は、前記第2所定電子部品に設けられている複数の前記第2所定回路のうち前記所定の回路を形成するために利用されている前記第2所定回路の数とは異なる数であることを特徴とする特徴k2に記載の遊技機。

【4526】

特徴k3によれば、所定の回路を形成するために必要な第1所定回路の数と、当該所定の回路を形成するために必要な第2所定回路の数とが異なっている構成において、第1所定電子部品に設けられている複数の第1所定回路のうち一部の第1所定回路と、第2所定電子部品に設けられている複数の第2所定回路のうち一部の第2所定回路とを利用して所定の回路を形成することにより、所定の回路を形成するために必要となる第1所定電子部品及び第2所定電子部品の数を抑えることができる。

【4527】

特徴k4．前記所定基板には、前記特定の回路として第1特定の回路（第32の実施形態における第1選択回路473）及び第2特定の回路（第32の実施形態における第2選択回路474）が設けられており、

前記所定の回路は、前記第1特定の回路及び前記第2特定の回路に所定の信号（誤作動防止回路472から第1～第3選択回路473～475に送信される信号）を送信することが可能であり、

前記第1特定の回路及び前記第2特定の回路は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定回路のうち一部の前記所定回路を利用して形成されており、

前記所定の回路は、前記所定電子部品に設けられている複数の前記所定回路のうち前記第1特定の回路及び前記第2特定の回路には含まれていない前記所定回路を利用して形成されていることを特徴とする特徴k1乃至k3のいずれか1に記載の遊技機。

【４５２８】

特徴ｋ４によれば、一の所定の回路から第１特定の回路及び第２特定の回路に所定の信号が送信される構成とすることにより、第１特定の回路及び第２特定の回路のそれぞれに１対１で対応させて所定の回路が設けられている構成と比較して、所定の回路の数を抑えることができる。一の所定電子部品に設けられている所定回路を利用して、所定の信号を送信する所定の回路と、当該所定の信号を受信する第１特定の回路及び第２特定の回路とを形成することにより、これらの回路を形成するために所定基板に実装される所定電子部品の数を抑えることができる。

【４５２９】

なお、特徴ｋ１～ｋ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ８、特徴Ｂ１～Ｂ８、特徴Ｃ１～Ｃ８、特徴Ｄ１～Ｄ８、特徴Ｅ１～Ｅ９、特徴Ｆ１～Ｆ６、特徴Ｇ１～Ｇ１１、特徴Ｈ１～Ｈ８、特徴Ｉ１～Ｉ５、特徴Ｊ１～Ｊ７、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ５、特徴Ｍ１～Ｍ４、特徴Ｎ１～Ｎ８、特徴Ｏ１～Ｏ８、特徴Ｐ１～Ｐ６、特徴Ｑ１～Ｑ１６、特徴Ｒ１～Ｒ６、特徴Ｓ１～Ｓ７、特徴Ｔ１～Ｔ３、特徴Ｕ１～Ｕ５、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１４、特徴Ｙ１～Ｙ１０、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ２０、特徴ｂ１～ｂ８、特徴ｃ１～ｃ６、特徴ｄ１～ｄ１１、特徴ｅ１～ｅ１５、特徴ｆ１～ｆ１５、特徴ｇ１～ｇ１２、特徴ｈ１～ｈ１１、特徴ｉ１～ｉ１８、特徴ｊ１～ｊ１４、特徴ｋ１～ｋ４、特徴ｌ１～ｌ１９、特徴ｍ１～ｍ１６、特徴ｎ１～ｎ８、特徴ｏ１～ｏ１６、特徴ｐ１～ｐ１０、特徴ｑ１～ｑ７、特徴ｒ１～ｒ１９のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏

【４５３０】

上記特徴ｋ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【４５３１】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて抽選が行われ、当該抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。また、当該抽選の結果を遊技者に予測させたり、認識させたりするための演出が行われる構成が一般的である。これらの遊技機は、電子部品が実装された基板を備えている。

【４５３２】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づいて抽選が行われ、表示装置の表示面にて絵柄の変動表示が行われ、抽選にて当選結果となった場合には表示面にて特定絵柄の組み合わせ等が最終停止表示され、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する構成が知られている。そして、当該有利な遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。パチンコ機は、各種装置の制御を実行するための電子部品が実装された基板を備えている。

【４５３３】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、電子部品が実装された基板の構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【４５３４】

<特徴し群>

特徴し１．動作電力の供給が開始された場合に所定実行契機（設定変更操作、ＲＡＭクリア操作、ステップＳＧ６０８にて肯定判定）が発生していることに基づいて所定の処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する所定処理実行手段（第３３～第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、

前記所定の処理が実行される場合には、所定の動作確認を行うことを可能とする所定確認用処理（第３３～第３９の実施形態では入出力確認用処理、第４０の実施形態ではポート出力確認処理）を実行し、前記所定の処理が実行されない場合には前記所定確認用処理が実行されないようにする所定確認手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ

８２の入出力確認用処理を実行する機能、第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のポート出力確認処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【４５３５】

特徴し１によれば、動作電力の供給が開始された後に、所定の処理が実行される場合には所定確認用処理が実行されるとともに、所定の処理が実行されない場合には所定確認用処理が実行されない構成とすることにより、所定の処理が実行されるか否かとは無関係に所定確認用処理を実行するか否かの判定が行われる構成と比較して、所定の処理及び所定確認用処理を実行するための処理構成を簡素化することができる。これにより、所定の処理及び所定確認用処理を実行するための処理構成を好適なものとして行うことができる。

10

【４５３６】

特徴し２．前記所定処理実行手段は、前記所定の処理として、所定記憶手段（主側ＲＡＭ８４）において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する情報消去手段（主側ＭＰＵ８２におけるＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴し１に記載の遊技機。

【４５３７】

特徴し２によれば、動作電力の供給が開始された後に、情報消去処理が実行される場合には所定確認用処理が実行されるとともに、情報消去処理が実行されない場合には所定確認用処理が実行されないように行うことができる。これにより、情報消去処理が実行される状態とすることにより、所定の動作確認を行うことが可能な状態となるように行うことができる。

20

【４５３８】

特徴し３．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）は、動作電力の供給が開始された後において、遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）が実行される状況（第３３～第４０の実施形態における遊技可能状態）が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて終了することを特徴とする特徴し１又はし２に記載の遊技機。

【４５３９】

特徴し３によれば、動作電力の供給が開始された後において、所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生させることができる。これにより、所定の動作確認が未だ行われていない状態で遊技が開始されてしまう可能性を低減することができる。また、所定の動作確認が終了していない状態において所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されてしまうことを防止できる。

30

【４５４０】

特徴し４．各種処理を実行する制御手段（主側ＭＰＵ８２）を備え、
前記制御手段は、
動作電力の供給が開始された場合に、所定立ち上げ処理（動作電力の供給開始時の処理）を実行する所定立ち上げ手段（第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＬ５０１～ステップＳＬ５２８の処理を実行する機能）と、
前記所定立ち上げ処理が実行された後に所定立ち上げ後処理（残余処理）を繰り返し実行する所定立ち上げ後実行手段（第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＬ５２９～ステップＳＬ５３２の処理を実行する機能）と、
を備えており、

40

前記所定確認用処理は、動作電力の供給が開始された場合に、前記所定立ち上げ後処理が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて実行されることを特徴とする特徴し１乃至し３のいずれか１に記載の遊技機。

【４５４１】

特徴し４によれば、動作電力の供給が開始された後において、所定立ち上げ後処理が開始される前に、所定の動作確認を行うことが可能な状態が発生するように行うことができ

50

る。また、所定の動作確認を行うことが可能な状態が終了する前に所定立ち上げ後処理が開始されてしまうことを防止できる。

【4542】

特徴し5．使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（当否判定処理）を実行する手段（主側MPU82における当否判定処理を実行する機能）を備え、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定変更操作）が行われたことに基づいて、前記所定実行契機が発生する構成であり、

前記所定処理実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて、前記所定の処理において、使用対象となる前記設定値の設定が行われるようにする所定設定実行手段（第33～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSG618の処理を実行する機能、第40の実施形態では主側MPU82におけるステップSL518の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴し1乃至し4のいずれか1に記載の遊技機。

【4543】

特徴し5によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作が行われたことに基づいて、使用対象となる設定値の設定が行われるようにすることができるとともに、所定の動作確認を行うことが可能な状態が発生するようにすることができる。これにより、所定関連操作を行うことにより使用対象となる設定値の設定が行われるようにした遊技ホールの管理者が、当該設定値の設定と併せて、所定の動作確認を行うことができるように

【4544】

特徴し6．動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて、使用対象となる前記設定値の設定が行われる設定実行状況（設定値更新処理が実行される状況）となった場合には、当該設定実行状況を終了させるための操作（設定キー挿入部143のON状態からOFF状態への切り換え操作）が行われたことに基づいて前記所定確認用処理が実行されることを特徴とする特徴し5に記載の遊技機。

【4545】

特徴し6によれば、設定実行状況を終了させるための操作が行われた場合には、所定確認用処理を開始させるための追加の操作を不要としながら所定の動作確認を行うことが可能な状態を発生させることができる。これにより、設定実行状況を終了させて所定確認用処理を開始させるための処理構成を簡素化することができる。また、所定の動作確認を行うために必要となる操作の数を抑えて、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【4546】

特徴し7．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）は、所定の終了契機（入出力確認期間の開始から10秒が経過すること）が発生した場合に終了することを特徴とする特徴し1乃至し6のいずれか1に記載の遊技機。

【4547】

特徴し7によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作が行われなくても、所定の終了契機が発生するタイミングで所定確認実行状況を終了させることができる。これにより、所定確認実行状況を終了させるための操作を不要又は省略可能として、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【4548】

特徴し8．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）を終了させるための操作（第33～第34及び第37～第38の実施形態においてスルーゲート35に遊技球を手入れする操作）が行われたことに基づいて、前記所定確認実行状況を終了させる確認状況終了手段（第33の実施形態における主側MPU82のステップSH717の処理を実行する機能、第34の実施形態における主側MPU82のステップSE122の処理を実行する機能、第35の実施形態における主側MPU82のステップSJ

４２２の処理を実行する機能、第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＫ６２５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴し１乃至し７のいずれか１に記載の遊技機。

【４５４９】

特徴し８によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作を行うことにより遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。これにより、所定の動作確認を行うことが可能となる期間を短縮可能とすることができる。よって、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【４５５０】

特徴し９．前記所定確認用処理が実行されている所定確認実行状況（第３３～第３９の実施形態における入出力確認期間）であることを報知する所定確認実行状況報知（入出力確認表示装置５２１の点灯状態）を行う所定状況報知手段（入出力確認表示装置５２１、第３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＨ４０１の処理を実行する機能、第３５の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＩ９０１の処理を実行する機能、第３６の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＪ６０１の処理を実行する機能、第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＫ７０４の処理を実行する機能、第３８の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＬ２０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴し１乃至し８のいずれか１に記載の遊技機。

【４５５１】

特徴し９によれば、所定確認実行状況報知を行うことにより、所定確認実行状況であることを遊技ホールの管理者に分かり易く報知することができる。これにより、所定確認実行状況の発生に遊技ホールの管理者が気付かなかったことが原因となって所定の動作確認を行う機会が失われてしまうことを防止することができる。よって、所定確認実行状況において所定の動作確認が行われる可能性を高めることができる。

【４５５２】

特徴し１０．前記所定確認手段は、前記所定確認用処理として、前記所定の動作確認において確認の対象となる対象物（特電入賞装置３２、普電役物３４ａ、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１、切換片５３６）の状態を変化させるための所定状態変化処理（第３３～第３９の実施形態では入出力確認用処理、第４０の実施形態ではポート出力確認処理）を実行する所定状態変化実行手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能、第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のポート出力確認処理）を備えていることを特徴とする特徴し１乃至し９のいずれか１に記載の遊技機。

【４５５３】

特徴し１０によれば、所定の処理が実行された場合に、対象物の状態が変化する態様を確認することにより対象物の状態変化が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、対象物の状態変化が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４５５４】

特徴し１１．前記対象物として、可動手段（特電入賞装置３２、普電役物３４ａ、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１、切換片５３６）が存在しており、

前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理として、前記可動手段の所定の動作（特電入賞装置３２の開閉動作、普電役物３４ａの開閉動作、特別入賞装置１５１の開閉動作、Ｖ入賞装置５３１の開閉動作、切換片５３６の退避位置復帰、切換片５３６の回動動作）が行われるようにするための所定の動作処理（第３３～第３９の実施形態では入出力確認用処理、第４０の実施形態ではポート出力確認処理）を実行する所定の動作実行手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能、第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２のポート出力確認処理）を備えていることを特徴とする特徴し１０に記載の遊技機。

10

20

30

40

50

【４５５５】

特徴し１１によれば、所定の処理が実行された場合に、可動手段の動作態様を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４５５６】

特徴し１２．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（特電入賞装置３２、第２作動口３４、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１）を備え、

前記可動手段として、前記所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた所定開閉切換手段（特電入賞装置３２の開閉扉３２ａ、第２作動口３４の普電役物３４ａ、特別入賞装置１５１のガイド部材１５５及び阻止部材１５７、Ｖ入賞装置５３１のＶ入賞側開閉部材５３２）が存在しており、

前記所定開閉切換手段の前記所定の動作は、前記所定の入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える動作であることを特徴とする特徴し１１に記載の遊技機。

【４５５７】

特徴し１２によれば、所定の処理が実行された場合に、所定開閉切換手段の動作態様を確認することにより、所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換える動作が正常に実行される状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該動作が正常に実行されない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４５５８】

特徴し１３．前記可動手段として、第１可動手段（特電入賞装置３２）及び第２可動手段（第３３，第３４，第３６～第４０の実施形態では普電役物３４ａ、第３５～第３６の実施形態では特別入賞装置１５１）が存在しており、

遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）には、前記第１可動手段を動作させるための第１動作制御処理（特図特電制御処理）とは別の処理として、前記第２可動手段を動作させるための第２動作制御処理（普図普電制御処理）が設定されている構成において、

一の前記所定の動作用処理が実行されることにより前記第１可動手段の前記所定の動作及び前記第２可動手段の前記所定の動作の双方が行われることを特徴とする特徴し１１又はし１２に記載の遊技機。

【４５５９】

特徴し１３によれば、所定の遊技進行用処理には、第１可動手段を動作させるための第１動作制御処理とは別の処理として、第２可動手段を動作させるための第２動作制御処理が設定されている構成において、一の所定の動作用処理により第１可動手段及び第２可動手段の所定の動作が行われるようにすることにより、第１可動手段及び第２可動手段の所定の動作を行わせるための処理構成を簡素化することができる。また、第１可動手段の所定の動作が行われる期間とは別の期間として第２可動手段の所定の動作が行われる期間が存在している構成と比較して、第１可動手段及び第２可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを確認するために必要となる時間を短縮することができる。

【４５６０】

特徴し１４．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第２作動口３４、スルーゲート３５、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１）を備え、

前記所定確認手段は、前記所定の処理が実行される場合に、前記所定確認用処理として、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことを報知する所定入球発生報知（入球報知音の出力）を行う所定入球発生報知処理（第３３～第３６の実施形態では主側ＭＰＵ８２における入球報知コマンド送信処理、第３７～第３８の実施形態では主側ＭＰＵ８２における入球報知用処理、第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２における入球報知コマンド送信用処理）を実行し、前記所定の処理が実行されない場合には前記所定入球発生

10

20

30

40

50

報知処理が実行されないようにする所定入球報知手段（第33～第36の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信処理を実行する機能、第37～第38の実施形態では主側MPU82における入球報知用処理を実行する機能、第39の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴1乃至13のいずれか1に記載の遊技機。

【4561】

特徴14によれば、所定確認用処理が実行される状況において、所定の入球手段に遊技球を入球させて所定入球発生報知が行われるか否かを確認することにより、所定の入球手段に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該遊技球の検知が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

10

【4562】

特徴15．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（一般入賞口31、特電入賞装置32、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531）と、

前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（第33～第35及び第37～38の実施形態における入出力確認期間）において、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことに基づいて、当該所定確認実行状況を終了させる所定状況終了手段（第33～第35の実施形態では主側MPU82のステップSH717の処理を実行する機能、第37～第39の実施形態では主側MPU82のステップSK625の処理を実行する機能）と、

20

を備えていることを特徴とする特徴1乃至14のいずれか1に記載の遊技機。

【4563】

特徴15によれば、所定確認実行状況を終了させるために操作される操作部を不要としながら、遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定の入球手段に遊技球を入球させて所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。

【4564】

特徴16．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側MPU82のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側MPU82）と、

前記制御手段において処理が実行される場合に一時的に情報が記憶される所定記憶手段（主側RAM84）と、
を備え、

30

前記制御手段は、前記所定確認手段を備えており、

前記所定確認手段は、前記内部記憶手段を利用して前記所定確認用処理を実行し、当該所定確認用処理の実行に際して前記所定記憶手段を利用しないことを特徴とする特徴1乃至15のいずれか1に記載の遊技機。

【4565】

特徴16によれば、所定確認用処理は、所定記憶手段を利用することなく内部記憶手段を利用して実行されるため、所定確認用処理の実行前後において所定記憶手段に記憶されている情報が変化しないようにすることができる。これにより、所定確認用処理を実行した後に、当該所定確認用処理の実行前に所定記憶手段に記憶されていた情報を利用可能とすることができる。

40

【4566】

特徴17．前記所定確認用処理は、前記所定実行契機が発生した場合、前記所定の処理が実行された後に実行されることを特徴とする特徴16に記載の遊技機。

【4567】

特徴17によれば、所定の処理が実行された後に所定確認用処理が実行される構成において、上記特徴16の構成を備え、所定確認用処理では所定記憶手段が利用されない構成であるため、所定確認用処理の実行後も、所定の処理が実行された直後における所定記憶手段の状態を維持することができる。これにより、所定の処理が実行された直後にお

50

ける所定記憶手段の状態が維持された状態で遊技を進行可能な状態が開始されるようにすることが可能となる。

【４５６８】

特徴し１８．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＭＰＵ８２のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＭＰＵ８２）を備え、

前記制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理（特定制御に対応する処理）を実行する第１所定処理実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第３８～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する第２所定処理実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第３８～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタに記憶されているデータ）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ８４）に退避させる退避実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＫ５０２～ステップＳＫ５０７の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ１０２～ステップＳＬ１０７の処理を実行する機能、第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ３０２～ステップＳＬ３０７の処理を実行する機能）と、

前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＫ５１１～ステップＳＫ５１６の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ１１１～ステップＳＬ１１６の処理を実行する機能、第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ３１１～ステップＳＬ３１６の処理を実行する機能）と、

を備えており、

前記所定確認用処理は、前記第２所定処理に含まれていることを特徴とする特徴し１乃至し１７のいずれか１に記載の遊技機。

【４５６９】

特徴し１８によれば、第１所定処理を実行するためのプログラムのデータ容量が増加してしまうことを防止しながら、所定確認用処理を実行可能とすることができる。また、第２所定処理が開始される前に内部記憶手段に記憶された所定情報が内部記憶手段に記憶されている状態で当該第２所定処理の終了後に第１所定処理を実行することができる。

【４５７０】

特徴し１９．前記所定記憶手段は、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２１１、特定制御用のスタックエリア２１２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２１３、非特定制御用のスタックエリア２１４）と、

を備えており、

前記所定処理実行手段は、

前記所定の処理のうち前記第１所定処理に含まれている処理として、前記第１所定記憶領域における第１消去対象の領域に記憶されている情報を消去する第１情報消去処理（第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて実行されるステップＳＫ１０１及びステップＳＫ１０２の処理）を実行する第１消去実行手段（第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２にてステップＳＫ１０１及びステップＳＫ１０２の処理を実行する機能）と、

前記所定の処理のうち前記第２所定処理に含まれている処理として、前記第２所定記憶領域における第２消去対象の領域に記憶されている情報を消去する第２情報消去処理（確認用クリア処理）を実行する第２消去実行手段（第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて確認用クリア処理を実行する機能）と、
を備えており、

前記第２所定記憶領域は、前記所定確認用処理を実行するための所定実行情報（入出力確認期間に対応する数値情報）が設定される所定実行情報設定領域（確認用タイマカウンタ５７３）を備えており、

前記第２情報消去処理には、前記所定実行情報設定領域に前記所定実行情報を設定する処理（第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて実行されるステップＳＫ３０５の処理）が含まれていることを特徴とする特徴１１８に記載の遊技機。

【４５７１】

特徴１１９によれば、第２所定処理に含まれている第２情報消去処理に、所定実行情報設定領域に所定実行情報を設定する処理が含まれていることにより、第１所定処理が実行されている状況から第２所定処理が実行されている状況への移行回数、及び第２所定処理が実行されている状況から第１所定処理が実行されている状況への移行回数が増加してしまうことを回避しながら、所定実行情報設定領域に所定実行情報を設定して所定確認用処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定確認用処理が実行されるようにするための処理構成を簡素化することができる。

【４５７２】

なお、特徴１１～１１９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ８、特徴Ｂ１～Ｂ８、特徴Ｃ１～Ｃ８、特徴Ｄ１～Ｄ８、特徴Ｅ１～Ｅ９、特徴Ｆ１～Ｆ６、特徴Ｇ１～Ｇ１１、特徴Ｈ１～Ｈ８、特徴Ｉ１～Ｉ５、特徴Ｊ１～Ｊ７、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ５、特徴Ｍ１～Ｍ４、特徴Ｎ１～Ｎ８、特徴Ｏ１～Ｏ８、特徴Ｐ１～Ｐ６、特徴Ｑ１～Ｑ１６、特徴Ｒ１～Ｒ６、特徴Ｓ１～Ｓ７、特徴Ｔ１～Ｔ３、特徴Ｕ１～Ｕ５、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１４、特徴Ｙ１～Ｙ１０、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ２０、特徴ｂ１～ｂ８、特徴ｃ１～ｃ６、特徴ｄ１～ｄ１１、特徴ｅ１～ｅ１５、特徴ｆ１～ｆ１５、特徴ｇ１～ｇ１２、特徴ｈ１～ｈ１１、特徴ｉ１～ｉ１８、特徴ｊ１～ｊ１４、特徴ｋ１～ｋ４、特徴ｌ１～ｌ１９、特徴ｍ１～ｍ１６、特徴ｎ１～ｎ８、特徴ｏ１～ｏ１６、特徴ｐ１～ｐ１０、特徴ｑ１～ｑ７、特徴ｒ１～ｒ１９のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４５７３】

<特徴ｍ群>

特徴ｍ１．処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第３３～第３９の実施形態におけるタイマ割込み処理）を開始させる所定単位実行手段（主側ＭＰＵ８２のタイマ割込み処理を実行する機能）を備えた遊技機において、

前記所定単位実行手段は、

前記所定単位処理において、遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）を実行する遊技進行手段（第３３～第３６の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＧ９１１～ステップＳＧ９２４の処理を実行する機能、第３７～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＫ４１１～ステップＳＫ４２３の処理を実行する機能）と、

前記所定単位処理において、所定の動作確認を行うことを可能とする所定確認用処理（入出力確認用処理）を実行する所定確認手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能）と、
を備えており、

前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（第３３～第３９の実施形態における入出力確認期間）において前記処理実行契機が発生した場合に実行される前記所定単位処理では、前記所定確認用処理が実行され、前記所定の遊技進行用処理は実行されないこ

10

20

30

40

50

とを特徴とする遊技機。

【４５７４】

特徴m 1によれば、所定単位処理において所定確認用処理が実行されるため、所定確認実行状況において処理実行契機が発生する度に、所定確認用処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定確認実行状況において処理実行契機が発生する度に所定確認用処理が実行されるようにするための処理構成を簡素化することができる。

【４５７５】

所定確認実行状況において所定単位処理が実行される場合には、所定の遊技進行用処理は実行されないため、所定の動作確認を行うことが可能な状況において、遊技を進行させることが可能な状態となってしまうことを防止できる。また、所定確認実行状況において所定単位処理が実行される場合に所定確認用処理及び所定の遊技進行用処理の双方が実行される構成と比較して、所定単位処理を実行するための処理負荷を軽減することができる。

【４５７６】

特徴m 2．前記所定単位実行手段は、

前記所定単位処理において、動作電力の供給状態を監視する所定監視処理（停電監視処理）を実行する所定供給状態監視手段（第３３～第３６の実施形態では主側MPU82におけるステップSG901の処理を実行する機能、第３７～第３９の実施形態では主側MPU82におけるステップSK401の処理を実行する機能）と、

前記所定監視処理において、動作電力の供給が停止されることを特定した場合に、停電対応処理（停電時処理）を実行する停電対応手段（主側MPU82における停電時処理を実行する機能）と、
を備えており、

前記所定確認用処理が実行される前記所定確認実行状況にて前記所定単位処理が実行される場合及び前記所定確認用処理が実行されない状況にて前記所定単位処理が実行される場合のいずれにおいても前記所定監視処理が実行されることを特徴とする特徴m 1に記載の遊技機。

【４５７７】

特徴m 2によれば、所定確認実行状況であるとともに所定単位処理が実行されている状態において動作電力の供給が停止される場合、及び所定確認用処理が実行されない状況であるとともに所定単位処理が実行されている状態において動作電力の供給が停止される場合のいずれにおいても停電対応処理を実行することができる。これにより、動作電力の供給が停止される場合に停電対応処理が実行されなかったことが原因となって不具合が発生してしまうことを防止できる。

【４５７８】

特徴m 3．前記所定確認実行状況において動作電力の供給が停止された場合、動作電力の供給が再開された後に前記所定確認実行状況が発生するようにする手段（第３３～第３６の実施形態では主側MPU82のステップSG903及びステップSG904の処理を実行する機能、第３７～第３９の実施形態では主側MPU82のステップSK403及びステップSK404の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴m 1又はm 2に記載の遊技機。

【４５７９】

特徴m 3によれば、所定の動作確認を行うことが可能な状況において動作電力の供給が停止された場合には、動作電力の供給が再開された後に、再び所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生させることができる。これにより、所定の動作確認が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合に、途中まで行われていた所定の動作確認が中断したまま再開されない状態となってしまうことを防止できる。

【４５８０】

特徴m 4．前記所定単位実行手段は、

前記所定単位処理において、動作電力の供給状態を監視する所定監視処理（停電監視処理）を実行する所定供給状態監視手段（第３３～第３６の実施形態では主側MPU82に

10

20

30

40

50

におけるステップSG901の処理を実行する機能、第37～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSK401の処理を実行する機能)と、

前記所定監視処理において、動作電力の供給が停止されることを特定した場合に、停電対応処理(停電時処理)を実行する手段(主側MPU82における停電時処理を実行する機能)と、

を備えており、

特別状況(第33～第39の実施形態において立ち上げ処理が実行されている状況、主側RAM84の遊技停止フラグに「1」がセットされている状況)において前記所定単位処理が実行される場合には、前記所定の遊技進行用処理及び前記所定確認用処理が実行されることはなく、前記所定監視処理が実行されることを特徴とする特徴m1乃至m3のいずれか1に記載の遊技機。

【4581】

特徴m4によれば、特別状況において所定単位処理が実行される場合に所定の遊技進行用処理が実行されないようにすることにより、特別状況において遊技が進行されてしまうことを防止できる。また、特別状況において所定単位処理が実行される場合に所定確認用処理が実行されないようにすることにより、特別状況において所定の動作確認を行うことが可能な状況となってしまうことを防止できる。特別状況において所定単位処理が実行される場合に所定監視処理が実行される構成とすることにより、所定の遊技進行用処理及び所定確認用処理が実行されない特別状況において動作電力の供給が停止される場合においても動作電力の供給が停止される場合に停電対応処理が実行されなかったことが原因とな

【4582】

特徴m5. 前記所定確認実行状況は、動作電力の供給が開始された後において、前記所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて終了することを特徴とする特徴m1乃至m4のいずれか1に記載の遊技機。

【4583】

特徴m5によれば、動作電力の供給が開始された後において、所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生させることができる。これにより、所定の動作確認が行われていない状態で遊技が開始されてしまう可能性を低減することができる。また、所定の動作確認を行うことが可能な状況が終了する前に所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されてしまうことを防止できる。

【4584】

特徴m6. 前記所定確認実行状況は、所定の終了契機(入出力確認期間の開始から10秒が経過すること)が発生したことに基づいて終了することを特徴とする特徴m1乃至m5のいずれか1に記載の遊技機。

【4585】

特徴m6によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作が行われなくても、所定の終了契機が発生するタイミングで所定確認実行状況を終了させることができる。これにより、所定確認実行状況を終了させるための操作を不要又は省略可能として、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【4586】

特徴m7. 前記所定確認実行状況を終了させるための操作(第33～第34及び第37～第38の実施形態においてスルーゲート35に遊技球を手入れする操作)が行われたことに基づいて、前記所定確認実行状況を終了させる確認状況終了手段(第33の実施形態における主側MPU82のステップSH717の処理を実行する機能、第34の実施形態における主側MPU82のステップSI122の処理を実行する機能、第35の実施形態における主側MPU82のステップSJ422の処理を実行する機能、第37の実施形態における主側MPU82のステップK625の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴m1乃至m6のいずれか1に記載の遊技機。

【4587】

特徴m7によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作を行うことにより遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。これにより、所定の動作確認を行うことが可能となる期間を短縮可能とすることができる。よって、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【4588】

特徴m8．前記所定確認実行状況であることを報知する所定確認実行状況報知（入出力確認表示装置521の点灯状態）を行う所定状況報知手段（入出力確認表示装置521、第3の実施形態における主側MPU82のステップSH401の処理を実行する機能、第35の実施形態における主側MPU82のステップSI901の処理を実行する機能、第36の実施形態における主側MPU82のステップSJ601の処理を実行する機能、第37の実施形態における主側MPU82のステップSK704の処理を実行する機能、第38の実施形態における主側MPU82のステップSL204の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴m1乃至m7のいずれか1に記載の遊技機。

【4589】

特徴m8によれば、所定確認実行状況報知を行うことにより、所定確認実行状況であることを遊技ホールの管理者に分かり易く報知することができる。これにより、所定確認実行状況の発生に遊技ホールの管理者が気付かなかったことが原因となって所定の動作確認を行う機会が失われてしまうことを防止することができる。よって、所定確認実行状況において所定の動作確認が行われる可能性を高めることができる。

【4590】

特徴m9．前記所定確認手段は、前記所定単位処理において前記所定確認用処理として、前記所定の動作確認において確認の対象となる対象物（特電入賞装置32、普電役物34a、特別入賞装置151、V入賞装置531、切換片536）の状態を変化させるための所定状態変化処理（第33～第39の実施形態における入出力確認用処理）を実行する所定状態変化実行手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴m1乃至m8のいずれか1に記載の遊技機。

【4591】

特徴m9によれば、所定確認実行状況において処理実行契機が発生する度に、所定状態変化処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定確認実行状況において処理実行契機が発生する度に所定状態変化処理が実行されるようにするための処理構成を簡素化することができる。また、所定確認実行状況において所定単位処理が実行される場合、所定の遊技進行用処理が実行されることはなく、所定状態変化処理が実行されるため、対象物の状態変化が行われている状況において、遊技を進行させることが可能な状態となってしまうことを防止できる。所定確認実行状況において、対象物の状態が変化する状態を確認することにより対象物の状態変化が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、対象物の状態変化が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4592】

特徴m10．前記対象物として、可動手段（特電入賞装置32、普電役物34a、特別入賞装置151、V入賞装置531、切換片536）が存在しており、

前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理として、前記可動手段の所定の動作（特電入賞装置32の開閉動作、普電役物34aの開閉動作、特別入賞装置151の開閉動作、V入賞装置531の開閉動作、切換片536の退避位置復帰、切換片536の回動動作）が行われるようにするための所定の動作用処理（第33～第39の実施形態における入出力確認用処理）を実行する所定の動作実行手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴m9に記載の遊技機。

【4593】

特徴m10によれば、所定確認実行状況において、可動手段の動作態様を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4594】

特徴m11．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（特電入賞装置32、第2作動口34、特別入賞装置151、V入賞装置531）を備え、

前記可動手段として、前記所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた所定開閉切換手段（特電入賞装置32の開閉扉32a、第2作動口34の普電役物34a、特別入賞装置151のガイド部材155及び阻止部材157、V入賞装置531のV入賞側開閉部材532）が存在しており、

前記所定開閉切換手段の前記所定の動作は、前記所定の入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える動作であることを特徴とする特徴m10に記載の遊技機。

【4595】

特徴m11によれば、所定確認実行状況において、所定開閉切換手段の動作態様を確認することにより、所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換える動作が正常に実行される状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該動作が正常に実行されない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4596】

特徴m12．前記可動手段として、第1可動手段（特電入賞装置32）及び第2可動手段（第33～第34及び第37～第39の実施形態では普電役物34a、第35～第36の実施形態では特別入賞装置151）が存在しており、

前記所定の遊技進行用処理には、前記第1可動手段を動作させるための第1動作制御処理（特図特電制御処理）とは別の処理として、前記第2可動手段を動作させるための第2動作制御処理（普図普電制御処理）が設定されている構成において、

一の前記所定の動作用処理が実行されることにより前記第1可動手段の前記所定の動作及び前記第2可動手段の前記所定の動作の双方が行われることを特徴とする特徴m10又はm11に記載の遊技機。

【4597】

特徴m12によれば、所定の遊技進行用処理には、第1可動手段を動作させるための第1動作制御処理とは別の処理として、第2可動手段を動作させるための第2動作制御処理が設定されている構成において、一の所定の動作用処理により第1可動手段及び第2可動手段の所定の動作が行われるようにすることにより、第1可動手段及び第2可動手段の所定の動作を行わせるための処理構成を簡素化することができる。また、第1可動手段の所定の動作が行われる期間とは別の期間として第2可動手段の所定の動作が行われる期間が存在している構成と比較して、第1可動手段及び第2可動手段の動作が正常に行われる状態であるか否かを確認するために必要となる時間を短縮することができる。

【4598】

特徴m13．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（一般入賞口31、特電入賞装置32、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531）を備え、

前記所定確認手段は、前記所定確認用処理として、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことを報知する所定入球発生報知（入球報知音の出力）を行う所定入球発生報知処理（第33～第36の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信処理、第37～第38の実施形態では主側MPU82における入球報知用処理、第39の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信用処理）を実行する所定入球報知手段（第33～第36の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信処理を実行する機能、第37～第38の実施形態では主側MPU82における入球報知

10

20

30

40

50

用処理を実行する機能、第39の実施形態では主側MPU82における入球報知コマンド送信用処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴m1乃至m12のいずれか1に記載の遊技機。

【4599】

特徴m13によれば、所定確認実行状況において、所定の入球手段に遊技球を入球させて所定入球発生報知が行われるか否かを確認することにより、所定の入球手段に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該遊技球の検知が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4600】

特徴m14．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段(一般入賞口31、特電入賞装置32、第2作動口34、スルーゲート35、特別入賞装置151、V入賞装置531)と、

前記所定確認実行状況において、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことに基づいて、当該所定確認実行状況を終了させる所定状況終了手段(第33～第35の実施形態では主側MPU82のステップSH717の処理を実行する機能、第37～第39の実施形態では主側MPU82のステップSK625の処理を実行する機能)と、を備えていることを特徴とする特徴m1乃至m13のいずれか1に記載の遊技機。

【4601】

特徴m14によれば、所定確認実行状況を終了させるために操作される操作部を不要としながら、遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定の入球手段に遊技球を入球させて所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。

【4602】

特徴m15．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段(主側MPU82のレジスタ)に情報を一時的に記憶させる制御手段(主側MPU82)と、

前記制御手段において処理が実行される場合に一時的に情報が記憶される所定記憶手段(主側RAM84)と、を備え、

前記制御手段は、

前記各種処理のうち第1所定処理(特定制御に対応する処理)を実行する第1所定処理実行手段(第37の実施形態では主側MPU82にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第38～第39の実施形態では主側MPU82にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能)と、

前記各種処理のうち第2所定処理(非特定制御に対応する処理)を実行する第2所定処理実行手段(第37の実施形態では主側MPU82にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第38～第39の実施形態では主側MPU82にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能)と、

前記第1所定処理を実行している状況から前記第2所定処理を実行する状況となる場合又は前記第2所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報(WAレジスタ、BCレジスタ、DEレジスタ、IXレジスタ及びIYレジスタに記憶されているデータ)を所定記憶手段(主側RAM84)に退避させる退避実行手段(第37の実施形態では主側MPU82におけるステップSK502～ステップSK507の処理を実行する機能、第38の実施形態では主側MPU82におけるステップSL102～ステップSL107の処理を実行する機能、第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSL302～ステップSL307の処理を実行する機能)と、

前記第2所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段(第37の実施形態では主側MPU82におけるステップSK511～ステップSK516の処理を実行する機能、第38の実施形態では主側MPU82におけるステップSL111～ステップSL116の処

10

20

30

40

50

理を実行する機能、第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSL311～ステップSL316の処理を実行する機能)と、
を備えており、

前記所定確認用処理は、前記第2所定処理に含まれていることを特徴とする特徴m1乃至m14のいずれか1に記載の遊技機。

【4603】

特徴m15によれば、第1所定処理を実行するためのプログラムのデータ容量が増加してしまうことを防止しながら、所定確認用処理を実行可能とすることができる。また、第2所定処理が開始される前に内部記憶手段に記憶された所定情報が内部記憶手段に記憶されている状態で当該第2所定処理の終了後に第1所定処理を実行することができる。

【4604】

特徴m16．前記所定記憶手段は、

前記第1所定処理が実行される場合に情報が記憶される第1所定記憶領域(特定制御用のワークエリア211、特定制御用のスタックエリア212)と、

前記第2所定処理が実行される場合に情報が記憶される第2所定記憶領域(非特定制御用のワークエリア213、非特定制御用のスタックエリア214)と、

を備えており、

本遊技機は、

動作電力の供給開始時に所定の情報消去契機(設定変更操作、RAMクリア操作、ステップSG608にて肯定判定)が発生した場合に、前記第1所定処理に含まれている処理として、前記第1所定記憶領域における第1消去対象の領域に記憶されている情報を消去する第1情報消去処理(第37の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップSK101及びステップSK102の処理)を実行する第1消去実行手段(第37の実施形態における主側MPU82にてステップSK101及びステップSK102の処理を実行する機能)と、

動作電力の供給開始時に前記所定の情報消去契機が発生した場合に、前記第2所定処理に含まれている処理として、前記第2所定記憶領域における第2消去対象の領域に記憶されている情報を消去する第2情報消去処理(確認用クリア処理)を実行する第2消去実行手段(第37の実施形態における主側MPU82にて確認用クリア処理を実行する機能)と、

を備え、

前記第2所定記憶領域は、前記所定確認用処理を実行するための所定実行情報(入出力確認期間に対応する数値情報)が設定される所定実行情報設定領域(確認用タイマカウンタ573)を備えており、

前記第2情報消去処理には、前記所定実行情報設定領域に前記所定実行情報を設定する処理(第37の実施形態における主側MPU82にて実行されるステップSK305の処理)が含まれていることを特徴とする特徴m15に記載の遊技機。

【4605】

特徴m16によれば、第2所定処理に含まれている第2情報消去処理に、所定実行情報設定領域に所定実行情報を設定する処理が含まれていることにより、第1所定処理が実行されている状況から第2所定処理が実行されている状況への移行回数、及び第2所定処理が実行されている状況から第1所定処理が実行されている状況への移行回数が増加してしまうことを回避しながら、所定実行情報設定領域に所定実行情報を設定して所定確認用処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定確認用処理が実行されるようにするための処理構成を簡素化することができる。

【4606】

なお、特徴m1～m16の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴

10

20

30

40

50

R 1 ～ R 6、特徴 S 1 ～ S 7、特徴 T 1 ～ T 3、特徴 U 1 ～ U 5、特徴 V 1 ～ V 6、特徴 W 1 ～ W 1 1、特徴 X 1 ～ X 1 4、特徴 Y 1 ～ Y 1 0、特徴 Z 1 ～ Z 1 0、特徴 a 1 ～ a 2 0、特徴 b 1 ～ b 8、特徴 c 1 ～ c 6、特徴 d 1 ～ d 1 1、特徴 e 1 ～ e 1 5、特徴 f 1 ～ f 1 5、特徴 g 1 ～ g 1 2、特徴 h 1 ～ h 1 1、特徴 i 1 ～ i 1 8、特徴 j 1 ～ j 1 4、特徴 k 1 ～ k 4、特徴 l 1 ～ l 1 9、特徴 m 1 ～ m 1 6、特徴 n 1 ～ n 8、特徴 o 1 ～ o 1 6、特徴 p 1 ～ p 1 0、特徴 q 1 ～ q 7、特徴 r 1 ～ r 1 9 のうちいずれか 1 又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【 4 6 0 7 】

<特徴 n 群>

特徴 n 1 . 処理実行契機が発生した場合に所定単位処理（第 3 3 ～第 3 9 の実施形態におけるタイマ割込み処理）を開始させる所定単位実行手段（第 3 3 ～第 3 9 の実施形態における主側 M P U 8 2 のタイマ割込み処理を実行する機能）と、

前記所定単位処理において、遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）を実行する遊技進行手段（第 3 3 ～第 3 6 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S G 9 1 1 ～ステップ S G 9 2 4 の処理を実行する機能、第 3 7 ～第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S K 4 1 1 ～ステップ S K 4 2 3 の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記所定の遊技進行用処理には、所定処理（入球検知処理、タイマ更新処理）が含まれており、

所定の状況（入出力確認期間）において前記所定単位処理が実行される場合には、前記所定の遊技進行用処理が実行されない構成であり、

本遊技機は、前記所定の状況において前記所定単位処理が実行される場合に、前記所定の遊技進行用処理において前記所定処理が実行される場合に呼び出されるプログラムと同一のプログラムを利用して、前記所定処理を実行する所定実行手段（主側 M P U 8 2 における入球検知処理を実行する機能、主側 M P U 8 2 におけるタイマ更新処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【 4 6 0 8 】

特徴 n 1 によれば、所定の状況において所定単位処理が実行される場合には所定の遊技進行用処理が実行されない構成において、当該場合に所定処理を実行するために利用されるプログラムは、所定の遊技進行用処理が実行される場合に所定処理を実行するために利用されるプログラムと同一のプログラムである。このため、所定の遊技進行用処理が実行される場合に所定処理を実行するために利用されるプログラムとは別のプログラムとして、所定の状況において所定単位処理が実行される場合に所定処理を実行するために利用されるプログラムが設定されている構成と比較して、所定の遊技進行用処理及び所定処理を実行するために予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【 4 6 0 9 】

所定の状況において所定単位処理が実行される場合には、所定の遊技進行用処理が実行されることはなく所定処理が実行されるため、当該場合に所定の遊技進行用処理が実行される構成と比較して、所定単位処理を実行するための処理負荷を軽減することができる。また、所定の遊技進行用処理が実行されない所定の状況においても、処理実行契機が発生する度に所定処理が実行されるようにすることができる。

【 4 6 1 0 】

特徴 n 2 . 前記所定実行手段は、特定の状況（第 3 3 ～第 3 9 の実施形態における遊技可能状態）において前記所定単位処理が実行される場合には、前記所定処理が実行されないようにする構成であり、

前記特定の状況において前記所定単位処理が実行される場合には、前記所定処理を含む前記所定の遊技進行用処理が実行されることを特徴とする特徴 n 1 に記載の遊技機。

【 4 6 1 1 】

10

20

30

40

50

特徴 n 2 によれば、特定の状況において所定単位処理が実行される場合には、所定処理が重複して実行されることを回避しながら、所定の遊技進行用処理において所定処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定の状況において所定単位処理が実行される場合及び特定の状況において所定単位処理が実行される場合の双方において、処理実行契機が発生する度に所定処理が実行されるようにすることができる。

【4612】

特徴 n 3 . 前記所定の状況において前記所定単位処理が実行される場合に、前記所定の遊技進行用処理には含まれていない特定処理（第 3 3 ～ 第 3 6 の実施形態では入球報知コマンド送信処理及び動作確認用処理、第 3 8 の実施形態では入球報知用処理及び動作確認用処理、第 3 9 の実施形態では入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理）を実行する特定実行手段（第 3 3 の実施形態における主側 MPU 8 2 の行番号「1004」及び行番号「1005」の処理を実行する機能、第 3 8 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ SL 10 8 及びステップ SL 10 9 の処理を実行する機能、第 3 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 のステップ SL 30 8 及びステップ SL 30 9 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 n 1 又は n 2 に記載の遊技機。

【4613】

特徴 n 3 によれば、上記特徴 n 1 の構成を備え、所定の状況において所定単位処理が実行される場合には、所定の遊技進行用処理が実行されることなく、所定処理が実行される構成であるため、当該場合には所定の遊技進行用処理に含まれている所定処理と、所定の遊技進行用処理には含まれていない特定処理とが実行されるようにすることができる。上記特徴 n 1 の構成を備え、所定の状況において所定単位処理が実行される場合には、所定の遊技進行用処理において所定処理が実行される場合に呼び出されるプログラムと同一のプログラムを利用して所定処理が実行される構成であるため、所定単位処理において所定の遊技進行用処理が実行される場合に利用されるプログラムとは別のプログラムとして所定単位処理において所定処理及び特定処理が実行される場合に利用されるプログラムが記憶されている構成と比較して、所定単位処理を実行するために予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【4614】

特徴 n 4 . 前記特定実行手段は、前記特定処理として、対象物（特電入賞装置 3 2、普電役物 3 4 a、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1、切換片 5 3 6）の状態を変化させるための所定状態変化処理（第 3 3 ～ 第 3 9 の実施形態では入出力確認用処理、第 4 0 の実施形態ではポート出力確認処理）を実行する所定状態変化実行手段（第 3 3 ～ 第 3 9 の実施形態における主側 MPU 8 2 の入出力確認用処理を実行する機能、第 4 0 の実施形態における主側 MPU 8 2 のポート出力確認処理）を備えていることを特徴とする特徴 n 3 に記載の遊技機。

【4615】

特徴 n 4 によれば、所定の状況ではない状況において所定単位処理が実行される場合には所定状態変化処理が実行されないようにしながら、所定の状況において所定単位処理が実行される場合には所定状態変化処理が実行されて対象物の状態が変化するようにすることができる。所定の状況において所定単位処理が実行される場合に、対象物の状態が変化する態様を確認することにより対象物の状態変化が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、対象物の状態変化が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4616】

特徴 n 5 . 前記対象物として、可動手段（特電入賞装置 3 2、普電役物 3 4 a、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1、切換片 5 3 6）が存在しており、

前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理として、前記可動手段の所定の動作（特電入賞装置 3 2 の開閉動作、普電役物 3 4 a の開閉動作、特別入賞装置 1 5 1 の開閉動作、V 入賞装置 5 3 1 の開閉動作、切換片 5 3 6 の退避位置復帰、切換片 5 3 6 の回転動作）が行われるようにするための所定の動作用処理（第 3 3 ～ 第 3 9 の実施形態にお

ける入出力確認用処理）を実行する所定の動作実行手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｎ４に記載の遊技機。

【４６１７】

特徴ｎ５によれば、所定の状況において所定単位処理が実行される場合に、可動手段の動作態様を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４６１８】

特徴ｎ６．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＭＰＵ８２のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＭＰＵ８２）を備え、

10

前記制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理（特定制御に対応する処理）を実行する第１所定処理実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第３８～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する第２所定処理実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第３８～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

20

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタに記憶されているデータ）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ８４）に退避させる退避実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＫ５０２～ステップＳＫ５０７の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ１０２～ステップＳＬ１０７の処理を実行する機能、第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ３０２～ステップＳＬ３０７の処理を実行する機能）と、

前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第３７の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＫ５１１～ステップＳＫ５１６の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ１１１～ステップＳＬ１１６の処理を実行する機能、第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ３１１～ステップＳＬ３１６の処理を実行する機能）と、
を備えており、

30

前記所定処理に含まれている複数の処理のうち少なくとも一部の処理（第３７の実施形態では入出力確認用処理、第３８～第３９の実施形態では入出力確認実行処理）は前記第２所定処理に含まれていることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ５のいずれか１に記載の遊技機。

40

【４６１９】

特徴ｎ６によれば、所定処理に含まれている複数の処理のうち少なくとも一部の処理が第２所定処理に含まれている構成とすることにより、所定処理に含まれている複数の処理の全てが第１所定処理に含まれている構成と比較して、第１所定処理を実行するために記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。また、第２所定処理が開始される前に内部記憶手段に記憶された所定情報が内部記憶手段に記憶されている状態で当該第２所定処理の終了後に第１所定処理を実行することができる。

【４６２０】

特徴ｎ７．前記所定の状況において前記所定単位処理が実行される場合に、前記所定の遊技進行用処理には含まれていない特定処理（第３３～第３６の実施形態では入球報知コ

50

マンド送信処理及び動作確認用処理、第38の実施形態では入球報知用処理及び動作確認用処理、第39の実施形態では入球報知コマンド送信用処理及び動作確認用処理)を実行する特定実行手段(第33の実施形態における主側MPU82の行番号「1004」及び行番号「1005」の処理を実行する機能、第38の実施形態における主側MPU82のステップSL108及びステップSL109の処理を実行する機能、第39の実施形態における主側MPU82のステップSL308及びステップSL309の処理を実行する機能)を備え、

前記所定の遊技進行用処理及び前記所定の状況において前記所定単位処理が実行される場合に前記所定実行手段により実行される前記所定処理は、前記第1所定処理に含まれており、

前記特定処理は、前記第2所定処理に含まれていることを特徴とする特徴n6に記載の遊技機。

【4621】

特徴n7によれば、第1所定処理を実行するために予め記憶されるプログラムのデータ容量を抑えながら、所定の状況において所定単位処理が実行される場合には、所定の遊技進行用処理に含まれている所定処理と、所定の遊技進行用処理には含まれていない特定処理とを実行可能とすることができる。

【4622】

特徴n8. 所定の情報消去契機(設定変更操作、RAMクリア操作、ステップSG608にて肯定判定)が発生したことに基づいて所定記憶手段(主側RAM84)において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理(RAMクリア処理)を実行する消去実行手段(第33～第36の実施形態では主側MPU82におけるステップSG801～ステップSG806の処理を実行する機能、第37の実施形態では主側MPU82におけるステップSK101及びステップSK102の処理を実行する機能、第38～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSK901及びステップSK902の処理を実行する機能)を備え、

前記所定の状況は、前記所定の情報消去契機が発生する場合に発生し、前記所定の情報消去契機が発生しない場合には発生しないことを特徴とする特徴n7に記載の遊技機。

【4623】

特徴n8によれば、所定の情報消去契機が発生して情報消去処理が実行される場合には可動手段の所定の動作が行われるようにすることができるとともに、所定の情報消去契機が発生しない場合には可動手段の所定の動作が行われないようにすることができる。

【4624】

なお、特徴n1～n8の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4625】

<特徴o群>

特徴o1. 第1実行契機(RAMクリア操作が行われること)が発生したことに基づいて、特定の処理(RAMクリア処理)を実行する特定処理実行手段(第33～第39の実施形態における主側MPU82のRAMクリア処理を実行する機能)と、

10

20

30

40

50

第2実行契機（設定変更操作が行われること）が発生したことに基づいて、前記特定の処理を含む所定の処理（設定値更新処理）を実行する所定処理実行手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82の設定値更新処理を実行する機能）と、を備え、

前記所定処理実行手段は、前記特定処理実行手段が前記特定の処理を実行するために利用するプログラムと同一のプログラムを利用して、前記所定の処理において前記特定の処理を実行することを特徴とする遊技機。

【4626】

特徴○1によれば、第1実行契機が発生したことに基づいて特定の処理が実行される場合及び第2実行契機が発生したことに基づいて所定の処理が実行される場合のいずれにおいても、特定の処理が実行されるようにすることができる。第2実行契機が発生したことに基づいて実行される所定の処理において特定の処理を実行するために利用されるプログラムは、第1実行契機が発生したことに基づいて特定の処理を実行するために利用されるプログラムと同一のプログラムであるため、第1実行契機が発生したことに基づいて特定の処理を実行するために利用されるプログラムとは別のプログラムとして、第2実行契機が発生したことに基づいて実行される所定の処理において特定の処理を実行するために利用されるプログラムが設定されている構成と比較して、所定の処理及び特定の処理を実行するために予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【4627】

特徴○2．使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（当否判定処理）を実行する手段（主側MPU82における当否判定処理を実行する機能）を備え、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定変更操作）が行われたことに基づいて、前記第2実行契機が発生する構成であり、

前記所定処理実行手段は、前記第2実行契機が発生したことに基づいて、前記所定の処理として、使用対象となる前記設定値の設定が行われるようにする所定設定値設定処理（設定値更新処理）を実行する所定設定実行手段（第33～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSG618の処理を実行する機能、第40の実施形態では主側MPU82におけるステップSL518の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○1に記載の遊技機。

【4628】

特徴○2によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作が行われたことに基づいて、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするとともに、特定の処理が実行されるようにすることができる。

【4629】

特徴○3．動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（RAMクリア操作）が行われたことに基づいて、前記第1実行契機が発生する構成であり、

前記特定処理実行手段は、前記第1実行契機が発生したことに基づいて、前記特定の処理として、所定記憶手段（主側RAM84）において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理（RAMクリア処理）を実行する消去実行手段（第33～第36の実施形態では主側MPU82におけるステップSG801～ステップSG806の処理を実行する機能、第37の実施形態では主側MPU82におけるステップSK101及びステップSK102の処理を実行する機能、第38～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSK901及びステップSK902の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○1又は○2に記載の遊技機。

【4630】

特徴○3によれば、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われたことに基づいて、所定記憶手段において消去対象の領域に記憶されている情報が消去されるようにすることができる。とともに、特定の処理が実行されるようにすることができる。

【4631】

10

20

30

40

50

特徴○４．前記特定の処理には、所定の動作確認を行うことを可能とする所定確認用処理（第３３～第３９の実施形態における入出力確認用処理）が実行されるようにするための所定確認設定処理（第３３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＧ８０７の処理、第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＫ３０５の処理、第３８の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＫ９０３の処理）が含まれていることを特徴とする特徴○１乃至○３のいずれか１に記載の遊技機。

【４６３２】

特徴○４によれば、上記特徴○１の構成を備え、第１実行契機が発生したことに基づいて特定の処理が実行される場合及び第２実行契機が発生したことに基づいて所定の処理が実行される場合のいずれにおいても特定の処理が実行される構成であるため、これらの場合のいずれにおいても所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生させることができる。

10

【４６３３】

特徴○５．前記所定確認設定処理は、前記所定確認用処理が実行される期間に対応する特定期間情報（入出力確認期間に対応する数値情報）を特定の情報記憶手段（確認用タイマカウンタ５２３ａ，５７３，５８１）に設定する処理であり、

本遊技機は、前記特定の情報記憶手段に前記特定期間情報が設定されていることに基づいて前記所定確認用処理を実行する所定確認実行手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○４に記載の遊技機。

【４６３４】

20

特徴○５によれば、特定期間情報を特定の情報記憶手段に設定する所定確認設定処理に加えて当該所定確認設定処理とは別の処理として、所定確認用処理が実行されるようにするための処理が設定されている構成と比較して、特定期間情報に対応する期間に亘って所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生させるための処理構成を簡素化することができる。

【４６３５】

特徴○６．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（第３３～第３９の実施形態における入出力確認期間）であることを報知する所定確認実行状況報知（入出力確認表示装置５２１の点灯状態）を行う所定状況報知手段（入出力確認表示装置５２１、第３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＨ４０１の処理を実行する機能、第３５の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＩ９０１の処理を実行する機能、第３６の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＪ６０１の処理を実行する機能、第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＫ７０４の処理を実行する機能、第３８の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＬ２０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○４又は○５に記載の遊技機。

30

【４６３６】

特徴○６によれば、所定確認実行状況報知を行うことにより、所定確認実行状況であることを遊技ホールの管理者に分かり易く報知することができる。これにより、所定確認実行状況の発生に遊技ホールの管理者が気付かなかったことが原因となって所定の動作確認を行う機会が失われてしまうことを防止することができる。よって、所定確認実行状況において所定の動作確認が行われる可能性を高めることができる。

40

【４６３７】

特徴○７．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）は、動作電力の供給が開始された後において、遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）が実行される状況（第３３～第３９の実施形態における遊技可能状態）が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて終了することを特徴とする特徴○４乃至○６のいずれか１に記載の遊技機。

【４６３８】

特徴○７によれば、動作電力の供給が開始された後において、所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されるタイミングよりも前のタイミングにおいて所定の動作確認を

50

行うことが可能な状況が発生させることができる。これにより、所定の動作確認が未だ行われていない状態で遊技が開始されてしまう可能性を低減することができる。また、所定の動作確認が終了していない状態において所定の遊技進行用処理が実行される状況が開始されてしまうことを防止できる。

【４６３９】

特徴○８．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（第３３～第３９の実施形態における入出力確認期間）は、所定の終了契機（入出力確認期間の開始から１０秒が経過すること）が発生したことに基づいて終了することを特徴とする特徴○４乃至○７のいずれか１に記載の遊技機。

【４６４０】

特徴○８によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作が行われなくても、所定の終了契機が発生するタイミングで所定確認実行状況を終了させることができる。これにより、所定確認実行状況を終了させるための操作を不要又は省略可能として、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【４６４１】

特徴○９．前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）を終了させるための操作（第３３～第３４及び第３７～第３８の実施形態においてスルーゲート３５に遊技球を手入れする操作）が行われたことに基づいて、前記所定確認実行状況を終了させる確認状況終了手段（第３３の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＨ７１７の処理を実行する機能、第３４の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＩ１２２の処理を実行する機能、第３５の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＳＪ４２２の処理を実行する機能、第３７の実施形態における主側ＭＰＵ８２のステップＫ６２５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○４乃至○８のいずれか１に記載の遊技機。

【４６４２】

特徴○９によれば、所定確認実行状況を終了させるための操作を行うことにより遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。これにより、所定の動作確認を行うことが可能となる期間を短縮可能とすることができる。よって、遊技ホールの管理者による遊技機の管理負担を軽減することができる。

【４６４３】

特徴○１０．前記所定確認用処理として、前記所定の動作確認において確認の対象となる対象物（特電入賞装置３２、普電役物３４ａ、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１、切換片５３６）の状態を変化させるための所定状態変化処理（第３３～第３９の実施形態における入出力確認用処理）を実行する所定状態変化実行手段（第３３～第３９の実施形態における主側ＭＰＵ８２の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴○４乃至○９のいずれか１に記載の遊技機。

【４６４４】

特徴○１０によれば、第１実行契機が発生したことに基づいて特定の処理が実行される場合及び第２実行契機が発生したことに基づいて所定の処理が実行される場合のいずれにおいても、所定状態変化処理が実行されて対象物の状態が変化するようにすることができる。また、これらの場合における対象物の状態変化の態様を確認することにより対象物の状態変化が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能とすることができる。これにより、対象物の状態変化が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４６４５】

特徴○１１．前記対象物として、可動手段（特電入賞装置３２、普電役物３４ａ、特別入賞装置１５１、Ｖ入賞装置５３１、切換片５３６）が存在しており、

前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理として、前記可動手段の所定の動作（特電入賞装置３２の開閉動作、普電役物３４ａの開閉動作、特別入賞装置１５１の開

10

20

30

40

50

閉動作、V入賞装置531の開閉動作、切換片536の退避位置復帰、切換片536の回転動作）が行われるようにするための所定の動作処理（第33～第39の実施形態における入出力確認用処理）を実行する所定の動作実行手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82の入出力確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴o10に記載の遊技機。

【4646】

特徴o11によれば、第1実行契機が発生したことに基づいて特定の処理が実行される場合及び第2実行契機が発生したことに基づいて所定の処理が実行される場合のいずれにおいても、可動手段の所定の動作が行われるようにすることができる。また、これらの場合における可動手段の動作態様を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

10

【4647】

特徴o12．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（特電入賞装置32、第2作動口34、特別入賞装置151、V入賞装置531）を備え、

前記可動手段として、前記所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた所定開閉切換手段（特電入賞装置32の開閉扉32a、第2作動口34の普電役物34a、特別入賞装置151のガイド部材155及び阻止部材157、V入賞装置531のV入賞側開閉部材532）が存在しており、

20

前記所定開閉切換手段の前記所定の動作は、前記所定の入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える動作であることを特徴とする特徴o11に記載の遊技機。

【4648】

特徴o12によれば、所定確認用処理が実行される状況において、所定開閉切換手段の動作態様を確認することにより、所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換える動作が正常に実行される状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該動作が正常に実行されない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4649】

特徴o13．前記可動手段として、第1可動手段（特電入賞装置32）及び第2可動手段（第33，第34，第36～第39の実施形態では普電役物34a、第35～第36の実施形態では特別入賞装置151）が存在しており、

30

遊技の進行を制御するための所定の遊技進行用処理（タイマ割込み処理における遊技を進行させるための処理）には、前記第1可動手段を動作させるための第1動作制御処理（特図特電制御処理）とは別の処理として、前記第2可動手段を動作させるための第2動作制御処理（普図普電制御処理）が設定されている構成において、

一の前記所定の動作処理が実行されることにより前記第1可動手段の前記所定の動作及び前記第2可動手段の前記所定の動作の双方が行われることを特徴とする特徴o11又はo12に記載の遊技機。

【4650】

40

特徴o13によれば、所定の遊技進行用処理には、第1可動手段を動作させるための第1動作制御処理とは別の処理として、第2可動手段を動作させるための第2動作制御処理が設定されている構成において、一の所定の動作処理により第1可動手段及び第2可動手段の所定の動作が行われるようにすることにより、第1可動手段及び第2可動手段の所定の動作を行わせるための処理構成を簡素化することができる。また、第1可動手段の所定の動作が行われる期間とは別の期間として第2可動手段の所定の動作が行われる期間が存在している構成と比較して、第1可動手段及び第2可動手段の動作が正常に行われる状態であるか否かを確認するために必要となる時間を短縮することができる。

【4651】

特徴o14．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（一般入賞口

50

3 1、特電入賞装置 3 2、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1) と、

前記所定確認用処理が実行される所定確認実行状況（入出力確認期間）において、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことを報知する所定入球発生報知（入球報知音の出力）を行う所定入球発生報知処理（第 3 3～第 3 6 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知コマンド送信処理、第 3 7～第 3 8 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知用処理、第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知コマンド送信用処理）を実行する所定入球報知手段（第 3 3～第 3 6 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知コマンド送信処理を実行する機能、第 3 7～第 3 8 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知用処理を実行する機能、第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 における入球報知コマンド送信用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴 o 4 乃至 o 1 3 のいずれか 1 に記載の遊技機。

10

【4 6 5 2】

特徴 o 1 4 によれば、所定確認実行状況において、所定の入球手段に遊技球を入球させて所定入球発生報知が行われるか否かを確認することにより、所定の入球手段に入球した遊技球の検知が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該遊技球の検知が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4 6 5 3】

特徴 o 1 5、遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（一般入賞口 3 1、特電入賞装置 3 2、第 2 作動口 3 4、スルーゲート 3 5、特別入賞装置 1 5 1、V 入賞装置 5 3 1) と、

20

前記所定確認実行状況において、前記所定の入球手段に入球した遊技球が検知されたことに基づいて、当該所定確認実行状況を終了させる所定状況終了手段（第 3 3～第 3 5 の実施形態では主側 M P U 8 2 のステップ S H 7 1 7 の処理を実行する機能、第 3 7～第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 のステップ S K 6 2 5 の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴 o 1 4 に記載の遊技機。

【4 6 5 4】

特徴 o 1 5 によれば、所定確認実行状況を終了させるために操作される操作部を不要としながら、遊技ホールの管理者が任意のタイミングで所定の入球手段に遊技球を入球させて所定確認実行状況を終了させることを可能とすることができる。

30

【4 6 5 5】

特徴 o 1 6、各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側 M P U 8 2 のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側 M P U 8 2）を備え、

前記制御手段は、

前記各種処理のうち第 1 所定処理（特定制御に対応する処理）を実行する第 1 所定処理実行手段（第 3 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第 3 8～第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第 2 所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する第 2 所定処理実行手段（第 3 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 にて入出力確認用処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能、第 3 8～第 3 9 の実施形態では主側 M P U 8 2 にて入出力確認実行処理及び管理用処理以外の処理を実行する機能）と、

40

前記第 1 所定処理を実行している状況から前記第 2 所定処理を実行する状況となる場合又は前記第 2 所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（W A レジスタ、B C レジスタ、D E レジスタ、I X レジスタ及び I Y レジスタに記憶されているデータ）を所定記憶手段（主側 R A M 8 4）に退避させる退避実行手段（第 3 7 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S K 5 0 2～ステップ S K 5 0 7 の処理を実行する機能、第 3 8 の実施形態では主側 M P U 8 2 におけるステップ S L 1 0 2～ステップ S L 1 0 7 の処理を実行する機能、第 3 9 の実

50

施形態では主側MPU82におけるステップSL302～ステップSL307の処理を実行する機能)と、

前記第2所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段(第37の実施形態では主側MPU82におけるステップSK511～ステップSK516の処理を実行する機能、第38の実施形態では主側MPU82におけるステップSL111～ステップSL116の処理を実行する機能、第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSL311～ステップSL316の処理を実行する機能)と、
を備えており、

前記所定確認設定処理は、前記第2所定処理に含まれていることを特徴とする特徴o4乃至o15のいずれか1に記載の遊技機。

【4656】

特徴o16によれば、所定確認設定処理が第2所定処理に含まれている構成とすることにより、第1所定処理を実行するために記憶されるプログラムのデータ容量の増大を抑えながら、特定の処理において所定確認設定処理が実行されたことに基づいて所定の動作確認を行うことが可能な状況が発生するようにすることができる。

【4657】

なお、特徴o1～o16の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4658】

上記特徴l群、m群、n群及びo群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4659】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

【4660】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4661】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【4662】

<特徴p群>

特徴p1. 可動手段(切換片536)と、

特殊遊技状態(V入賞ラウンド遊技の実行期間)において前記可動手段の特定動作(V入賞ラウンド遊技の実行期間における切換片536の回動動作)が行われるように前記可

10

20

30

40

50

動手段の制御を行う特定動作実行手段（第３５～第３６の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて特図特電制御処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に所定実行契機（設定変更操作、ＲＡＭクリア操作、ステップＳＧ６０８にて肯定判定）が発生していることに基づいて、前記可動手段を所定位置（退避位置）に位置させる所定動作（退避位置復帰）が行われるように前記可動手段の制御を行う所定動作実行手段（第３５～第３６の実施形態における主側ＭＰＵ８２にて退避位置復帰処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【４６６３】

特徴ｐ１によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定動作契機が発生していることに基づいて、可動手段の所定動作が行われて、可動手段が所定位置に位置している状態となるようにすることができる。可動手段を所定位置に位置させることにより、設計段階において意図されていない可動手段の動作が行われてしまう可能性を低減することができる。

10

【４６６４】

特徴ｐ２．動作電力の供給が開始された場合に前記所定実行契機が発生していることに基づいて、所定の処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する所定処理実行手段（主側ＭＰＵ８２におけるＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記所定動作実行手段は、前記所定の処理が実行される場合に、前記所定動作が行われるように前記可動手段の制御を行うことを特徴とする特徴ｐ１に記載の遊技機。

20

【４６６５】

特徴ｐ２によれば、動作電力の供給が開始された後に、所定の処理が実行される場合には可動手段の所定動作が行われるため、可動手段の所定動作の実行態様を確認することにより可動手段の所定動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。

【４６６６】

特徴ｐ３．前記所定処理実行手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記所定実行契機が発生していることに基づいて、前記所定の処理として、所定記憶手段（主側ＲＡＭ８４）において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する消去実行手段（第３５～第３６の実施形態における主側ＭＰＵ８２にてＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｐ２に記載の遊技機。

30

【４６６７】

特徴ｐ３によれば、情報消去処理が実行される場合に可動手段の所定動作が行われるようにすることにより、情報消去処理が実行される度に可動手段が所定位置に位置している状態とすることができる。これにより、設計段階において意図されていない可動手段の動作が行われてしまう可能性を低減することができる。

【４６６８】

特徴ｐ４．前記所定記憶手段は、前記可動手段の動作状態を示す動作状態情報（切換制御カウンタ５４２及びＶ入賞タイマカウンタ５４３に設定されるデータ）が記憶される動作状態記憶領域（切換制御カウンタ５４２、Ｖ入賞タイマカウンタ５４３）を備えており、

40

前記特定動作実行手段は、前記特殊遊技状態の終了時に前記動作状態記憶領域に記憶されている前記動作状態情報を消去することではなく、前記特殊遊技状態の開始時には当該動作状態記憶領域に記憶されている当該動作状態情報を利用して前記可動手段の制御を行う構成であり、

前記動作状態記憶領域に記憶されている前記動作状態情報は、前記情報消去処理において消去されることを特徴とする特徴ｐ３に記載の遊技機。

【４６６９】

特徴ｐ４によれば、上記特徴ｐ３の構成を備え、情報消去処理が実行される場合に可動手段の所定動作が行われる構成において、情報消去処理が実行されることにより動作状態

50

情報が消去される。このため、情報消去処理が実行されるタイミングにおいて、可動手段の実際の動作状態と、動作状態記憶領域に記憶されている動作状態情報とを一致させることができる。これにより、可動手段の実際の動作状態と、動作状態記憶領域に記憶されている動作状態情報とにずれが生じた場合においても、情報消去処理が実行されることによりそのずれが解消されるようにすることができる。

【4670】

特徴p5．前記所定の処理が実行されない場合には、前記可動手段の前記所定動作が行われないことを特徴とする特徴p2乃至p4のいずれか1に記載の遊技機。

【4671】

特徴p5によれば、所定の処理が実行されない場合には可動手段の所定動作が行われな
10
いようにすることにより、動作電力の供給開始前における可動手段の状態が維持される
ようにすることができる。上記特徴p2の構成を備え、所定の処理が実行される場合には可
動手段の所定動作が行われる構成であるため、所定の処理が実行される場合には可動手段
の所定動作が行われるとともに、所定の処理が実行されない場合には当該所定動作が行わ
れないようにすることができる。

【4672】

特徴p6．前記可動手段の前記所定動作において、前記可動手段が前記所定位置に位置
しなかった場合に所定動作異常報知（切換片制御エラー報知）を実行する所定動作異常報
知手段（第35～第36の実施形態における主側MPU82にてステップSJ113～ス
テップSJ115の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴p1乃至p
5のいずれか1に記載の遊技機。
20

【4673】

特徴p6によれば、所定動作異常報知を行うことにより可動手段の所定動作が正常に行
われなかったことを遊技ホールの管理者に気付かれ易い態様で報知することができる。こ
れにより、動作電力の供給が開始された後に、可動手段の所定動作が正常に行われなかつ
たことが見落とされた状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4674】

特徴p7．遊技球が通過可能な第1特殊領域（V入賞通路領域535c）及び第2特殊
領域（排出通路領域535b）を有する特殊入球手段（V入賞装置531）と、

前記第1特殊領域に案内された遊技球を検知する第1特殊検知手段（V入賞検知センサ
539）と、
30

前記第2特殊領域に案内された遊技球を検知する第2特殊検知手段（カウント検知セン
サ538）と、
を備え、

前記可動手段は、前記特殊入球手段に入球した遊技球が前記第1特殊領域に案内される
第1案内状態（切換片536が誘導位置に配置された状態）と、前記特殊入球手段に入球
した遊技球が前記第2特殊領域に案内される第2案内状態（切換片536が退避位置に配
置された状態）との間の切り換えを行うためのものであることを特徴とする特徴p1乃至
p6のいずれか1に記載の遊技機。

【4675】

特徴p7によれば、可動手段を利用して第1案内状態と第2案内状態との間の切り換え
を行うことにより、特殊入球手段に入球した遊技球が第1特殊領域に案内されて検知され
る状態と、当該特殊入球手段に入球した遊技球が第2特殊領域に案内されて検知される状
態と、を作り出すことができる。これにより、入球手段の数の増加を抑えながら、遊技の
内容を複雑化させることが可能となるとともに、遊技の興趣向上を図ることができる。

【4676】

特徴p8．前記可動手段の前記所定動作が行われた場合に、所定の終了契機（確認用タ
イマカウンタ523aの値が「0」になること）が発生するまで前記可動手段の所定の動
作（切換片536の回動動作）が行われるように前記可動手段の制御を行う所定の動作実
行手段（第36の実施形態における主側MPU82にてステップSJ601～ステップS
50

J 6 1 9 及びステップ S J 6 2 1 の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴 p 1 乃至 p 7 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4 6 7 7】

特徴 p 8 によれば、可動手段の所定動作が行われた後における可動手段の動作態様を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4 6 7 8】

特徴 p 9 . 前記所定の動作実行手段は、前記特定動作実行手段が前記可動手段の前記特定動作を行わせるための処理を実行するために利用されるプログラムと同一のプログラムを利用して、前記可動手段の前記所定の動作を行わせるための処理(第 3 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 にて実行される切換用処理)を実行することを特徴とする特徴 p 8 に記載の遊技機。

【4 6 7 9】

特徴 p 9 によれば、可動手段の特定動作を行わせるための処理を実行するためのプログラムとは別のプログラムとして可動手段の所定の動作を行わせるための処理を実行するためのプログラムが設定されている構成と比較して、可動手段の所定の動作を行わせるための処理及び可動手段の特定動作を行わせるための処理を実行するために予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【4 6 8 0】

特徴 p 1 0 . 遊技球が通過可能な第 1 特殊領域(V 入賞通路領域 5 3 5 c)及び第 2 特殊領域(排出通路領域 5 3 5 b)を有する特殊入球手段(V 入賞装置 5 3 1)と、

前記第 1 特殊領域に案内された遊技球を検知する第 1 特殊検知手段(V 入賞検知センサ 5 3 9)と、

前記第 2 特殊領域に案内された遊技球を検知する第 2 特殊検知手段(カウント検知センサ 5 3 8)と、
を備え、

前記可動手段は、前記特殊入球手段に入球した遊技球が前記第 1 特殊領域に案内される第 1 案内状態(切換片 5 3 6 が誘導位置に配置された状態)と、前記特殊入球手段に入球した遊技球が前記第 2 特殊領域に案内される第 2 案内状態(切換片 5 3 6 が退避位置に配置された状態)との間の切り換えを行うためのものであり、

前記可動手段の前記所定の動作が行われる所定の動作実行状況(入出力確認期間)において、前記第 1 特殊領域に案内された遊技球の検知及び前記第 2 特殊領域に案内された遊技球の検知の双方が発生した場合に、所定検知確認報知(確認済み報知)を実行する所定検知確認報知手段(確認済み表示装置 5 4 4、第 3 6 の実施形態における主側 M P U 8 2 にてステップ S J 9 0 1 ~ ステップ S J 9 1 5 の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴 p 8 又は p 9 に記載の遊技機。

【4 6 8 1】

特徴 p 1 0 によれば、所定検知確認報知が行われたことを確認することにより、特殊入球手段の内部において可動手段の動作が正常に行われていること、第 1 特殊領域に案内された遊技球の検知が正常に行われていること、及び第 2 特殊領域に案内された遊技球の検知が正常に行われていることを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。

【4 6 8 2】

なお、特徴 p 1 ~ p 1 0 の構成に対して、特徴 A 1 ~ A 8、特徴 B 1 ~ B 8、特徴 C 1 ~ C 8、特徴 D 1 ~ D 8、特徴 E 1 ~ E 9、特徴 F 1 ~ F 6、特徴 G 1 ~ G 1 1、特徴 H 1 ~ H 8、特徴 I 1 ~ I 5、特徴 J 1 ~ J 7、特徴 K 1 ~ K 7、特徴 L 1 ~ L 5、特徴 M 1 ~ M 4、特徴 N 1 ~ N 8、特徴 O 1 ~ O 8、特徴 P 1 ~ P 6、特徴 Q 1 ~ Q 1 6、特徴 R 1 ~ R 6、特徴 S 1 ~ S 7、特徴 T 1 ~ T 3、特徴 U 1 ~ U 5、特徴 V 1 ~ V 6、特徴 W 1 ~ W 1 1、特徴 X 1 ~ X 1 4、特徴 Y 1 ~ Y 1 0、特徴 Z 1 ~ Z 1 0、特徴 a 1 ~ a 2 0、特徴 b 1 ~ b 8、特徴 c 1 ~ c 6、特徴 d 1 ~ d 1 1、特徴 e 1 ~ e 1 5、特徴 f

10

20

30

40

50

1～f 15、特徴g 1～g 12、特徴h 1～h 11、特徴i 1～i 18、特徴j 1～j 14、特徴k 1～k 4、特徴l 1～l 19、特徴m 1～m 16、特徴n 1～n 8、特徴o 1～o 16、特徴p 1～p 10、特徴q 1～q 7、特徴r 1～r 19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【4683】

上記特徴p群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4684】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

10

【4685】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4686】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機に設けられた可動手段の制御が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

20

【4687】

<特徴q群>

特徴q 1. 遊技球が流下する遊技領域に設けられ、開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（第33，第34，第37～第39の実施形態では特電入賞装置32、第2作動口34、第35，第36の実施形態では特別入賞装置151、V入賞装置531）と、

特別状態（第33，第34，第37～第39の実施形態では開閉実行モードにおける特電入賞装置32の開放期間、電役開放当選に基づく普電役物34aの開放期間、第35，第36の実施形態では通常ラウンド遊技の実行期間、V入賞ラウンド遊技の実行期間、電役開放当選に基づく特別入賞装置151の開放期間）において、前記可変入球手段の前記開放状態と前記閉鎖状態との間の切り換えを行う特定切換手段（主側MPU82の特図特電制御処理を実行する機能、主側MPU82の普図普電制御処理を実行する機能）と、

30

前記可変入球手段に入球した遊技球を検知する所定検知手段（第33，第34，第37～第39の実施形態では特電検知センサ234a、第2作動口検知センサ236a、第35，第36の実施形態では特別入賞検知センサ556、カウント検知センサ538、V入賞検知センサ539）と、

を備えた遊技機において、

所定実行契機（設定変更操作、RAMクリア操作、ステップSG608にて肯定判定）が発生したことに基づいて、前記可変入球手段の前記開放状態と前記閉鎖状態との間の切り換えが行われる第1所定状況（入出力確認期間）が発生するようにする第1所定状況発生手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82の入出力確認用処理を実行する機能）と、

40

前記第1所定状況の終了後に、前記可変入球手段の前記開放状態と前記閉鎖状態との間の切り換えが行われない第2所定状況（第33，第34，第37～第39の実施形態では確認後無効化期間、第35，第36の実施形態では確認後無効化期間、V入賞用無効化期間）が発生するようにする第2所定状況発生手段（第33～第39の実施形態における主側MPU82にて無効化用処理を実行する機能）と、

前記特別状態において前記所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて所定入球対応処理（第33の実施形態における主側MPU82のステップSH604及びステップSH614の処理、第35の実施形態における主側MPU82のステップSJ

50

204及びステップSJ214の処理)を実行する所定入球対応手段(主側MPU82におけるステップSH604及びステップSH614の処理を実行する機能、主側MPU82におけるステップSJ204及びステップSJ214の処理を実行する機能)と、を備え、

前記第1所定状況及び前記第2所定状況では、前記所定検知手段の検知範囲に遊技球が存在している状態が発生したとしても前記所定入球対応処理が実行されないことを特徴とする遊技機。

【4688】

特徴q1によれば、第1所定状況において、可変入球手段の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが実行される態様を確認することにより、可変入球手段の開放状態と閉鎖状態との間の切り換え動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可変入球手段の当該切り換え動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。第1所定状況の終了後に第2所定状況が発生させることにより、第1所定状況の終了直前に可変入球手段に入球した遊技球が当該第1所定状況の終了後に発生する第2所定状況において所定検知手段の検知範囲に存在している状態が発生したとしても所定入球対応処理が実行されないようにすることができる。これにより、第1所定状況において可変入球手段に遊技球が入球したことが原因となって所定入球対応処理が実行されないようにすることができる。

【4689】

特徴q2．前記所定入球対応手段は、前記所定入球対応処理として、所定の利益を付与する処理(第33の実施形態における主側MPU82のステップSH604及びステップSH614の処理、第35の実施形態における主側MPU82のステップSJ204及びステップSJ214の処理)を実行する手段(第33の実施形態における主側MPU82のステップSH604及びステップSH614の処理を実行する機能、第35の実施形態における主側MPU82のステップSJ204及びステップSJ214の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴q1に記載の遊技機。

【4690】

特徴q2によれば、上記特徴q1の構成を備え、特別状態では可変入球手段の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが行われる構成であり、当該特別状態において所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて所定の利益が付与されるため、特別状態において可変入球手段に遊技球を入球させることを狙って遊技が行われるようにすることができる。上記特徴q1の構成を備え、第1所定状況及び第2所定状況では、所定検知手段の検知範囲に遊技球が存在している状態が発生したとしても所定入球対応処理が実行されない構成であるため、第1所定状況の終了直前に可変入球手段に入球した遊技球が当該第1所定状況の終了後に発生する第2所定状況において所定検知手段の検知範囲に存在している状態が発生したとしても所定の利益が付与されないようにすることができる。これにより、第1所定状況において可変入球手段に遊技球が入球したことが原因となって所定の利益が付与されてしまうことを防止できる。

【4691】

特徴q3．特定の終了契機(第33，第34，第37～第39の実施形態では確認後無効化期間の終了、第35，第36の実施形態では確認後無効化期間の終了、V入賞用無効化期間の終了)が発生したことに基づいて、前記第2所定状況を終了させる手段(主側MPU82におけるステップSH306～ステップSH309の処理を実行する機能)を備えていることを特徴とする特徴q1又はq2に記載の遊技機。

【4692】

特徴q3によれば、第1所定状況の終了後、特定の終了契機が発生するまでの期間に亘って第2所定状況となるようにすることができるとともに、特定の終了契機が発生したことに基づいて第2所定状況が終了されるようにすることができる。これにより、特定の終了契機が発生した後は、所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて所定入球対応処理が実行され得る状態とすることができる。

【4693】

特徴q4．所定の抽選契機（第33，第34，第37～第39の実施形態では第1作動口33への入賞、第2作動口34への入賞、スルーゲート35への入賞、第35，第36の実施形態では第1作動口33への入賞、特別入賞装置151への入賞、スルーゲート35への入賞）が発生したことに基づいて所定抽選処理（当否判定処理、普図当否判定処理）を実行する所定抽選処理実行手段（第33～第36の実施形態では主側MPU82におけるステップSG917及びステップSG918の処理を実行する機能、第37～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSK417及びステップSK418の処理を実行する機能）と、

所定継続期間（特図表示部37a，37bにおける絵柄の変動表示期間、普図表示部38aにおける変動表示期間）に亘って所定遊技回動作（特図表示部37a，37bにおける絵柄の変動表示、普図表示部38aにおける絵柄の変動表示）を行わせ、前記所定抽選処理の結果に対応した状態となるように所定遊技回実行手段（第1特図表示部37a、第2特図表示部37b、普図表示部38a）を制御する所定遊技回制御手段（第33～第36の実施形態では主側MPU82におけるステップSG917及びステップSG918の処理を実行する機能、第37～第39の実施形態では主側MPU82におけるステップSK417及びステップSK418の処理を実行する機能）と、

前記所定抽選処理の結果が所定結果（大当たり結果、電役開放当選）となり、当該所定結果に対応した状態となるように前記所定遊技回実行手段を制御する前記所定遊技回動作が終了した場合に前記特別状態に移行させる特別移行手段（主側MPU82における特図特電制御処理を実行する機能、主側MPU82における普図普電制御処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第1所定状況が終了するタイミングから前記第2所定状況が発生するタイミングまでの期間（第33，第34，第37～第39の実施形態では確認後無効化期間、第35，第36の実施形態では確認後無効化期間、V入賞用無効化期間）は、前記第1所定状況が終了した後において最初に前記所定継続期間として選択される最短の期間（通常遊技状態における特図表示部37a，37bのリーチ表示状態様の最短変動表示期間、通常遊技状態における普図の変動期間）よりも短い期間又は当該最短の期間と同一の長さの期間であることを特徴とする特徴q3に記載の遊技機。

【4694】

特徴q4によれば、第1所定状況の終了後に遊技が開始され、所定の抽選契機が発生したことに基づいて行われる所定抽選処理の結果が所定結果となり、当該所定結果に対応した状態となるように所定遊技回実行手段を制御する所定遊技回動作が終了して特別状態に移行する場合、当該特別状態に移行するタイミングよりも前のタイミング、又は当該特別状態に移行するタイミングにて第2所定状況が終了するようにすることができる。これにより、第1所定状況の終了後に遊技が開始されて特別状態に移行したにも関わらず、当該特別状態において所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて所定入球対応処理が実行されない事態を防止することができる。

【4695】

特徴q5．前記特別状態の終了後に、前記所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて前記所定入球対応処理が実行される第3所定状況（第33，第34，第37～第39の実施形態では特電用監視遅延期間、普電用監視遅延期間、第35，第36の実施形態では特電用監視遅延期間、V入賞用監視遅延期間、普電用監視遅延期間）が発生するようにする第3所定状況発生手段（第33，第34及び第37～第39の実施形態において主側MPU82にてステップSH105の処理を実行する機能、第35～第36の実施形態において主側MPU82にてステップSI510及びステップSI513の処理を実行する機能、第33～第39の実施形態において主側MPU82にてステップSH206の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴q4に記載の遊技機。

【4696】

特徴 q 5 によれば、特別状態の終了直前に可変入球手段に入球した遊技球が当該特別状態の終了後に発生した第 3 所定状況において所定検知手段にて検知された場合に、当該遊技球の検知が発生したことに基づいて所定入球対応処理が実行されるようにすることができる。これにより、特別状態において可変入球手段に遊技球が入球したにも関わらず所定入球対応処理が実行されない事態が発生してしまうことを防止できる。よって、特別状態において可変入球手段に遊技球を入球させることにより、当該遊技球が可変入球手段に入球するタイミングが特別状態の終了直前のタイミングである場合においても、所定入球対応処理が実行されると遊技者に感じさせて、遊技者を安心させることができる。

【4697】

特徴 q 6 . 前記特別状態、前記第 1 所定状況及び前記第 2 所定状況のいずれにも該当しない所定異常対応状況（第 33 , 第 34 , 第 37 ~ 第 39 の実施形態では開閉実行モードにおける特電入賞装置 32 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況、電役開放当選に基づく第 2 作動口 34 の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況、第 35 , 第 36 の実施形態では開閉実行モードにおける特電入賞装置 32 の開放期間、特電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況、電役開放当選に基づく特別入賞装置 151 の開放期間、普電用監視遅延期間、入出力確認期間及び確認後無効化期間のいずれにも該当しない状況）において、前記所定検知手段における遊技球の検知が発生したことに基づいて、所定入球異常報知（第 33 , 第 34 , 第 37 ~ 第 39 の実施形態では特電入球エラー報知、普電入球エラー報知、第 35 , 第 36 の実施形態では特電入球エラー報知、V 入賞用入球エラー報知、特別入球エラー報知）を実行する所定入球異常報知手段（第 33 , 第 34 , 第 37 ~ 第 39 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SH 608 ~ ステップ SH 610 及びステップ SH 618 の処理を実行する機能、第 35 , 第 36 の実施形態では主側 MPU 82 におけるステップ SJ 208 ~ ステップ SJ 210 及びステップ SJ 218 の処理を実行する機能、ステップ SJ 311 ~ ステップ SJ 313 の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴 q 1 乃至 q 5 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4698】

特徴 q 6 によれば、所定入球異常報知が実行されたことに基づいて、特別状態、第 1 所定状況及び第 2 所定状況のいずれにも該当しない所定異常対応状況において可変入球手段に遊技球を入球させる不正行為、又は当該所定異常対応状況において所定検知手段における遊技球の検知が発生したようにする不正行為が行われたことを遊技ホールの管理者が把握可能にすることができる。第 2 所定状況において所定検知手段における遊技球の検知が発生する事象は、所定入球異常報知の実行対象となる事象から除外されている。このため、第 1 所定状況の終了直前に可変入球手段に入球した遊技球が、当該第 1 所定状況の終了後に発生した第 2 所定状況にて検知された場合に、当該遊技球が検知されたことに基づいて所定入球異常報知が行われてしまうことを防止できる。これにより、第 1 所定状況において可変入球手段に遊技球が入球したことが原因となって所定入球異常報知が行われてしまうことを防止できる。

【4699】

特徴 q 7 . 前記第 1 所定状況発生手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記所定実行契機が発生していることに基づいて、前記第 1 所定状況が発生するようにすることを特徴とする特徴 q 1 乃至 q 6 のいずれか 1 に記載の遊技機。

【4700】

特徴 q 7 によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定実行契機が発生していることに基づいて、可変入球手段の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが行われるようにすることができる。これにより、動作電力の供給開始後に可変入球手段の開放状態と閉鎖状態との間の切り換えが開始された場合には、当該可変入球手段の切り換え動作が行われる状態を確認することにより可変入球手段の切り換え動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。よって、可変入球手段の切り換

え動作が正常に行われられない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4701】

なお、特徴q1～q7の構成に対して、特徴A1～A8、特徴B1～B8、特徴C1～C8、特徴D1～D8、特徴E1～E9、特徴F1～F6、特徴G1～G11、特徴H1～H8、特徴I1～I5、特徴J1～J7、特徴K1～K7、特徴L1～L5、特徴M1～M4、特徴N1～N8、特徴O1～O8、特徴P1～P6、特徴Q1～Q16、特徴R1～R6、特徴S1～S7、特徴T1～T3、特徴U1～U5、特徴V1～V6、特徴W1～W11、特徴X1～X14、特徴Y1～Y10、特徴Z1～Z10、特徴a1～a20、特徴b1～b8、特徴c1～c6、特徴d1～d11、特徴e1～e15、特徴f1～f15、特徴g1～g12、特徴h1～h11、特徴i1～i18、特徴j1～j14、特徴k1～k4、特徴l1～l19、特徴m1～m16、特徴n1～n8、特徴o1～o16、特徴p1～p10、特徴q1～q7、特徴r1～r19のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【4702】

上記特徴q群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4703】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【4704】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4705】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機に設けられた入球手段に遊技球が入球したことに対応する処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

30

【4706】

<特徴r群>

特徴r1. 各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側MPU82のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側MPU82）と、

前記制御手段が各種処理を実行する場合に情報が一時的に記憶される所定記憶手段（主側RAM84）と、

を備えた遊技機において、

前記制御手段は、前記所定記憶手段を利用することなく、前記内部記憶手段を利用して、所定の動作確認を行うことを可能とする所定確認用処理（ポート出力確認処理）を実行する所定確認手段（第40の実施形態における主側MPU82にてポート出力確認処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

40

【4707】

特徴r1によれば、所定確認用処理は、所定記憶手段を利用することなく内部記憶手段を利用して実行されるため、所定確認用処理の実行前後において所定記憶手段に記憶されている情報が変化しないようにすることができる。これにより、所定確認用処理を実行した後に、当該所定確認用処理の実行前に所定記憶手段に記憶されていた情報を利用可能とすることができる。

【4708】

特徴r2. 前記所定確認手段は、前記所定確認用処理として、前記所定の動作確認において確認の対象となる対象物（特電入賞装置32、普電役物34a）の状態を変化させる

50

ための所定状態変化処理（ポート出力確認処理）を実行する所定状態変化実行手段（第40の実施形態における主側MPU82にてポート出力確認処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴r1に記載の遊技機。

【4709】

特徴r2によれば、所定状態変化処理が実行される状況において、対象物の状態が変化する状態を確認することにより対象物の状態変化が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、対象物の状態変化が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4710】

特徴r3．前記対象物として、可動手段（特電入賞装置32、普電役物34a）が存在しており、

10

前記所定状態変化処理が実行されることにより前記可動手段の所定の動作（出力確認期間における特電入賞装置32及び普電役物34aの開閉動作）が行われることを特徴とする特徴r2に記載の遊技機。

【4711】

特徴r3によれば、所定状態変化処理が実行される状況において、可動手段の動作状態を確認することにより可動手段の所定の動作が正常に行われる状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、可動手段の所定の動作が正常に行われない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

【4712】

20

特徴r4．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定の入球手段（特電入賞装置32、第2作動口34）を備え、

前記可動手段として、前記所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた所定開閉切換手段（特電入賞装置32の開閉扉32a、第2作動口34の普電役物34a）が存在しており、

前記所定開閉切換手段の前記所定の動作は、前記所定の入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える動作であることを特徴とする特徴r3に記載の遊技機。

【4713】

特徴r4によれば、所定状態変化処理が実行される状況において、所定開閉切換手段の動作状態を確認することにより、所定の入球手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換える動作が正常に実行される状態であるか否かを遊技ホールの管理者が特定可能にすることができる。これにより、当該動作が正常に実行されない状態で遊技が行われてしまう可能性を低減することができる。

30

【4714】

特徴r5．前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理において、前記対象物を所定の状態（開放状態）とするための所定状態情報（第1出力設定データ）を前記内部記憶手段の所定内部記憶領域（出力用レジスタ594）に設定する所定状態情報設定処理（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1307」の処理）を実行する所定状態情報設定手段（主側MPU82における行番号「1307」の処理を実行する機能）を備えており、

40

前記所定状態情報設定処理は、前記所定状態変化処理において、所定の回数（第40の実施形態では327675回）に亘って繰り返し実行されることを特徴とする特徴r2乃至r4のいずれか1に記載の遊技機。

【4715】

特徴r5によれば、所定状態情報設定処理が所定の回数に亘って繰り返し実行される期間に亘って、所定状態情報が所定内部記憶領域に設定されている状態が維持されるようにすることができる。これにより、タイマカウンタを利用して期間を計測する処理を不要としながら、所定状態情報設定処理が所定の回数に亘って繰り返し実行される期間に亘って、対象物が所定の状態となるようにすることができる。よって、当該期間に亘って対象物を所定の状態とするための処理構成を簡素化することができる。

50

【4716】

特徴r6．前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理において、前記対象物を特定の状態（閉鎖状態）とするための特定状態情報（第2出力設定データ）を前記内部記憶手段の所定内部記憶領域（出力用レジスタ594）に設定する特定状態情報設定処理（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1307」の処理）を実行する特定状態情報設定手段（主側MPU82における行番号「1307」の処理を実行する機能）を備えており、

前記特定状態情報設定処理は、前記所定状態変化処理において、所定の回数（第40の実施形態では327675回）に亘って繰り返し実行されることを特徴とする特徴r2乃至r5のいずれか1に記載の遊技機。

10

【4717】

特徴r6によれば、特定状態情報設定処理が所定の回数に亘って繰り返し実行される期間に亘って、特定状態情報が所定内部記憶領域に設定されている状態が維持されるようにすることができる。これにより、タイマカウンタを利用して期間を計測する処理を不要としながら、特定状態情報設定処理が所定の回数に亘って繰り返し実行される期間に亘って、対象物が特定の状態となるようにすることができる。よって、当該期間に亘って対象物を特定の状態とするための処理構成を簡素化することができる。

【4718】

特徴r7．前記対象物が前記内部記憶手段の所定内部記憶領域（出力用レジスタ594）に設定されている情報（第1出力設定データ又は第2出力設定データ）に対応する状態（開放状態又は閉鎖状態）となるようにする対象物制御手段（ポート設定回路595）を備えていることを特徴とする特徴r2乃至r6のいずれか1に記載の遊技機。

20

【4719】

特徴r7によれば、所定内部記憶領域が内部記憶手段に設けられているため、所定記憶手段を利用することなく、対象物の状態を変更可能とすることができる。

【4720】

特徴r8．前記所定状態変化実行手段は、前記所定状態変化処理において、前記内部記憶手段の特定内部記憶領域（Aレジスタ591b）に設定されている情報を前記所定内部記憶領域に設定する所定の情報設定処理（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1307」の処理）を実行する所定の情報設定手段（主側MPU82における行番号「1307」の処理を実行する機能）を備えており、

30

前記所定の情報設定処理は、前記所定状態変化処理において繰り返し実行されることを特徴とする特徴r7に記載の遊技機。

【4721】

特徴r8によれば、所定状態変化処理が実行されている状況において、所定記憶手段を利用することなく、対象物の状態を内部記憶手段の特定内部記憶領域に設定されている情報に対応する状態とすることができる。これにより、特定内部記憶領域に設定されている情報を変更することにより対象物の状態を変更可能とすることができる。

【4722】

特徴r9．前記所定状態変化処理において前記所定の情報設定処理が繰り返し実行される回数に対応する所定回数情報（第40の実施形態ではBレジスタ592aに設定される「32H」、Cレジスタ592bに設定される「05H」、DEレジスタ593に設定される「FFFFH」）を前記内部記憶手段の特殊内部記憶領域（Bレジスタ592a、Cレジスタ592b、DEレジスタ593）に設定し、当該特殊内部記憶領域を利用して前記所定の情報設定処理の実行回数を計測する所定実行回数計測手段（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1308」、行番号「1310」及び行番号「1316」の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴r8に記載の遊技機。

40

【4723】

特徴r9によれば、特殊内部記憶領域が内部記憶手段に設けられているため、所定記憶手段を利用することなく、所定の情報設定処理を特殊内部記憶領域に設定された所定回数

50

情報に対応する回数に亘って繰り返し実行することができる。これにより、所定の情報設定処理が当該所定回数情報に対応する回数実行される期間に亘って、対象物の状態を内部記憶手段の特定内部記憶領域に設定されている情報に対応する状態とすることができる。特殊内部記憶領域を利用して所定の情報設定処理の実行回数を計測する構成であるため、所定の情報設定処理を実行するための命令が所定の回数分設定されている構成と比較して、所定の情報設定処理を所定の回数に亘って繰り返し実行するための処理構成を簡素化することができる。

【4724】

特徴r10．前記特定内部記憶領域に前記対象物を所定の状態（開放状態）とするための所定状態情報（第1出力設定データ）が設定されている場合には当該特定内部記憶領域に前記対象物を特定の状態（閉鎖状態）とするための特定状態情報（第2出力設定データ）が設定されている状態となるようにし、前記特定内部記憶領域に前記特定状態情報が設定されている場合には当該特定内部記憶領域に前記所定状態情報が設定されている状態となるようにする状態情報変更処理（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1313」及び行番号「1314」の処理）を実行する状態情報変更手段（主側MPU82における行番号「1313」及び行番号「1314」の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴r8又はr9に記載の遊技機。

【4725】

特徴r10によれば、特定内部記憶領域に所定状態情報が設定されている状態で状態情報変更処理が実行されることにより当該特定内部記憶領域に設定されている情報を所定状態情報から特定状態情報に変更することができるとともに、特定内部記憶領域に特定状態情報が設定されている状態で状態情報変更処理が実行されることにより当該特定内部記憶領域に設定されている情報を特定状態情報から所定状態情報に変更することができる。これにより、所定状態情報と特定状態情報との間で特定内部記憶領域に設定されている情報を変更するための処理構成を簡素化することができる。

【4726】

特徴r11．前記特定状態情報は全てのビットの値が「0」である数値情報（第40の実施形態では「00000000B」）であり、

前記状態情報変更処理は、前記特定内部記憶領域に記憶されている情報の各ビットに格納されている「0」又は「1」の情報を当該「0」と「1」との間で反転させた反転後情報（第40の実施形態における主側MPU82の行番号「1313」の処理により算出される数値情報）を導出し、当該反転後情報と前記所定状態情報との論理積を導出する処理であることを特徴とする特徴r10に記載の遊技機。

【4727】

特徴r11によれば、所定記憶手段を利用することなく、所定状態情報と特定状態情報との間で特定内部記憶領域に設定されている情報を変更することができる。また、所定状態情報と特定状態情報との間で特定内部記憶領域に設定されている情報を変更するための処理構成を簡素化することができる。

【4728】

特徴r12．前記状態情報変更処理では、前記特定内部記憶領域に設定されている情報と、全てのビットの値が「0」である数値情報との論理和が導出されることにより前記反転後情報が導出されることを特徴とする特徴r11に記載の遊技機。

【4729】

特徴r12によれば、特定内部記憶領域に記憶されている情報の各ビットに格納されている「0」又は「1」の情報を「0」と「1」との間で反転させて反転後情報を導出するための処理構成を簡素化することができる。

【4730】

特徴r13．前記所定状態変化処理の一の処理回において、前記状態情報変更処理が複数回に亘って繰り返し実行されることを特徴とする特徴r10乃至r12のいずれか1に記載の遊技機。

【４７３１】

特徴ｒ１３によれば、所定状態変化処理の一の処理回において状態情報変更処理が複数回に亘って繰り返し実行される構成において、特徴ｒ１０の構成を備え、特定内部記憶領域に所定状態情報が設定されている状態で状態情報変更処理が実行されることにより当該特定内部記憶領域に設定されている情報が所定状態情報から特定状態情報に変更されるとともに、特定内部記憶領域に特定状態情報が設定されている状態で状態情報変更処理が実行されることにより当該特定内部記憶領域に設定されている情報が特定状態情報から所定状態情報に変更される。これにより、特定内部記憶領域に設定されている情報を所定状態情報から特定状態情報に変更する処理とは別の処理として特定内部記憶領域に設定されている情報を特定状態情報から所定状態情報に変更する処理が設定されている構成と比較して、所定状態情報と特定状態情報との間で特定内部記憶領域に設定されている情報を変更するための処理構成を簡素化することができる。

10

【４７３２】

特徴ｒ１４．前記制御手段は、特別遊技状態（開閉実行モード、電役開放当選に基づく普電開放状態）において前記対象物の状態を変化させるための特定状態変化処理（特図特電制御処理、普図普電制御処理）を実行する特定状態変化実行手段（主側ＭＰＵ８２にて特図特電制御処理を実行する機能、主側ＭＰＵ８２にて普図普電制御処理を実行する機能）を備えており、

前記所定記憶手段は、前記特定状態変化処理が実行される場合に特定状態変化情報（特図側タイマカウンタ５２３ｃに設定される情報、普図側タイマカウンタ５２３ｄに設定される情報）が記憶される特定状態変化情報記憶領域（特図側タイマカウンタ５２３ｃ、普図側タイマカウンタ５２３ｄ）を備えていることを特徴とする特徴ｒ２乃至ｒ１３のいずれか１に記載の遊技機。

20

【４７３３】

特徴ｒ１４によれば、上記特徴ｒ１の構成を備え、所定記憶手段を利用することなく内部記憶手段を利用して所定確認用処理が実行される構成において、特定状態変化処理が実行される場合には所定記憶手段が利用されるため、当該特定状態変化処理の実行中に、当該特定状態変化処理以外の処理を実行するために内部記憶手段を利用可能とすることができる。

【４７３４】

特徴ｒ１５．所定の情報消去契機（設定変更操作、ＲＡＭクリア操作、ステップＳＬ５０８にて肯定判定）が発生した場合に、前記所定記憶手段において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する情報消去手段（主側ＭＰＵ８２におけるＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記所定状態変化実行手段は、前記所定の情報消去契機が発生した場合に前記所定状態変化処理を実行し、

前記特定状態変化情報記憶領域は、前記情報消去処理における前記消去対象の領域に含まれていることを特徴とする特徴ｒ１４に記載の遊技機。

30

【４７３５】

特徴ｒ１５によれば、所定状態変化処理が実行されても所定記憶手段に記憶されている情報は変化しない構成であるため、情報消去処理が実行された後において最初に特定状態変化処理が実行される場合には、特定状態変化情報記憶領域の情報が消去された状態で、当該最初の特定状態変化処理が実行されるようにすることができる。

40

【４７３６】

特徴ｒ１６．前記所定の情報消去契機が発生しなかった場合、前記情報消去処理が実行されることはなく、前記特定状態変化情報記憶領域に記憶されている情報が維持されることを特徴とする特徴ｒ１５に記載の遊技機。

【４７３７】

特徴ｒ１６によれば、所定の情報消去契機が発生しなかった場合には、特定状態変化情報記憶領域に記憶されている情報を利用して、特別遊技状態において特定状態変化処理が

50

実行されることを可能とすることができる。

【４７３８】

特徴ｒ１７．所定の情報消去契機（設定変更操作、ＲＡＭクリア操作、ステップＳＬ５０８にて肯定判定）が発生した場合に、前記所定記憶手段において消去対象の領域に記憶されている情報を消去する情報消去処理（ＲＡＭクリア処理）を実行する情報消去手段（第４０の実施形態における主側ＭＰＵ８２にてステップＳＬ５２０の処理を実行する機能、主側ＭＰＵ８２にてステップＳＧ７０１の処理を実行する機能）を備え、

前記所定確認手段は、前記所定の情報消去契機が発生した場合に前記所定確認用処理を実行することを特徴とする特徴ｒ１乃至ｒ１６のいずれか１に記載の遊技機。

【４７３９】

特徴ｒ１７によれば、上記特徴ｒ１の構成を備え、所定確認用処理は所定記憶手段を利用することなく内部記憶手段を利用して実行される構成であるため、情報消去処理の実行後に所定確認用処理が実行される場合、及び所定確認用処理の実行後に情報消去処理が実行される場合のいずれにおいても、情報消去処理及び所定確認用処理が終了した後に、情報消去処理において所定記憶手段の領域のうち消去対象の領域に記憶されている情報が消去された状態を維持することができる。

【４７４０】

特徴ｒ１８．使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理（当否判定処理）を実行する手段（主側ＭＰＵ８２における当否判定処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定変更操作）が行われたことに基づいて、使用対象となる前記設定値の設定が行われるようにする所定設定実行手段（第３３～第３９の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＧ６１８の処理を実行する機能、第４０の実施形態では主側ＭＰＵ８２におけるステップＳＬ５１８の処理を実行する機能）と、
を備え、

動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて、前記所定の情報消去契機が発生することを特徴とする特徴ｒ１７に記載の遊技機。

【４７４１】

特徴ｒ１８によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作が行われたことに基づいて、使用対象となる設定値の設定が行われるようにすることができるとともに、所定確認用処理が実行されるようにすることができる。これにより、所定関連操作を行うことにより使用対象となる設定値の設定が行われるようにした遊技ホールの管理者が当該設定値の設定と併せて所定の動作確認を行うことを可能にすることができる。

【４７４２】

特徴ｒ１９．動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたこと、又は動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（ＲＡＭクリア操作）が行われたことに基づいて、前記所定の情報消去契機が発生する構成であり、

前記所定確認手段は、前記情報消去処理が実行された後に前記所定確認用処理を実行し、

動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて前記情報消去処理が実行された後に前記所定確認用処理を実行するために利用されるプログラムは、動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて前記情報消去処理が実行された後に前記所定確認用処理を実行するために利用されるプログラムと同一のプログラムであることを特徴とする特徴ｒ１８に記載の遊技機。

【４７４３】

特徴ｒ１９によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作が行われたことに基づいて情報消去処理が実行された後に所定確認用処理を実行するために利用されるプログラムとは別のプログラムとして、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われたことに基づいて情報消去処理が実行された後に所定確認用処理を実行するために利用されるプログラムが記憶されている構成と比較して、所定確認用処理を実行するため

10

20

30

40

50

に予め記憶されるプログラムのデータ容量を低減することができる。

【4744】

なお、特徴 $r_1 \sim r_{19}$ の構成に対して、特徴 $A_1 \sim A_8$ 、特徴 $B_1 \sim B_8$ 、特徴 $C_1 \sim C_8$ 、特徴 $D_1 \sim D_8$ 、特徴 $E_1 \sim E_9$ 、特徴 $F_1 \sim F_6$ 、特徴 $G_1 \sim G_{11}$ 、特徴 $H_1 \sim H_8$ 、特徴 $I_1 \sim I_5$ 、特徴 $J_1 \sim J_7$ 、特徴 $K_1 \sim K_7$ 、特徴 $L_1 \sim L_5$ 、特徴 $M_1 \sim M_4$ 、特徴 $N_1 \sim N_8$ 、特徴 $O_1 \sim O_8$ 、特徴 $P_1 \sim P_6$ 、特徴 $Q_1 \sim Q_{16}$ 、特徴 $R_1 \sim R_6$ 、特徴 $S_1 \sim S_7$ 、特徴 $T_1 \sim T_3$ 、特徴 $U_1 \sim U_5$ 、特徴 $V_1 \sim V_6$ 、特徴 $W_1 \sim W_{11}$ 、特徴 $X_1 \sim X_{14}$ 、特徴 $Y_1 \sim Y_{10}$ 、特徴 $Z_1 \sim Z_{10}$ 、特徴 $a_1 \sim a_{20}$ 、特徴 $b_1 \sim b_8$ 、特徴 $c_1 \sim c_6$ 、特徴 $d_1 \sim d_{11}$ 、特徴 $e_1 \sim e_{15}$ 、特徴 $f_1 \sim f_{15}$ 、特徴 $g_1 \sim g_{12}$ 、特徴 $h_1 \sim h_{11}$ 、特徴 $i_1 \sim i_{18}$ 、特徴 $j_1 \sim j_{14}$ 、特徴 $k_1 \sim k_4$ 、特徴 $l_1 \sim l_{19}$ 、特徴 $m_1 \sim m_{16}$ 、特徴 $n_1 \sim n_8$ 、特徴 $o_1 \sim o_{16}$ 、特徴 $p_1 \sim p_{10}$ 、特徴 $q_1 \sim q_7$ 、特徴 $r_1 \sim r_{19}$ のうちいずれか1又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

10

【4745】

上記特徴 r 群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【4746】

遊技機的一种として、パチンコ機やスロットマシン等が知られている。これらの遊技機では、所定の抽選条件が成立したことに基づいて内部抽選が行われ、当該内部抽選の結果に応じて遊技者に特典が付与される構成が知られている。

20

【4747】

パチンコ機について具体的には、遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球したことに基づく内部抽選にて当選結果となることで特別遊技状態に移行する構成や、所定の入球部に遊技球が入球したことに基づき特別遊技状態に移行する構成が知られている。そして、特別遊技状態に移行した場合には、例えば遊技領域に設けられた入球装置の開閉が開始され、当該入球装置への入球に基づき遊技球が払い出されるようになっている。

【4748】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、処理が好適に実行される必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【4749】

以下に、以上の各特徴を適用し得る又は各特徴に適用される遊技機の基本構成を示す。

30

【4750】

パチンコ遊技機：遊技者が操作する操作手段と、その操作手段の操作に基づいて遊技球を発射する遊技球発射手段と、その発射された遊技球を所定の遊技領域に導く球通路と、遊技領域内に配置された各遊技部品とを備え、それら各遊技部品のうち所定の通過部を遊技球が通過した場合に遊技者に特典を付与する遊技機。

【4751】

スロットマシン等の回胴式遊技機：複数の絵柄を可変表示させる絵柄表示装置を備え、始動操作手段の操作に起因して前記複数の絵柄の可変表示が開始され、停止操作手段の操作に起因して又は所定時間経過することにより前記複数の絵柄の可変表示が停止され、その停止後の絵柄に応じて遊技者に特典を付与する遊技機。

40

【符号の説明】

【4752】

10…パチンコ機、24a…アウト口、27…遊技球発射機構、31…一般入賞口、32…特電入賞装置、32a…開閉扉、32b…特電用の駆動部、33…第1作動口、34…第2作動口、34a…普電役物、35…スルーゲート、37a…第1特図表示部、37b…第2特図表示部、38a…普図表示部、41…図柄表示装置、43…状態示唆領域、81…主制御基板、82…主側MPU、83…主側ROM、84…主側RAM、85…停電監視基板、93…音光側MPU、103…表示側MPU、131…天井カウンタ、133…高確率状態カウンタ、134…時短状態カウンタ、143…設定キー挿入部、151

50

…特別入賞装置、155…ガイド部材、157…阻止部材、162…振分側開閉部材、163…振分入口用の駆動部、166…切換片、167…切換用駆動部、195…設定キー挿入部、196…リセットボタン、201～204…第1～第4報知用表示装置、205…設定表示装置、211…特定制御用のワークエリア、211a…第1セキュリティカウンタ、211b…特電用監視遅延タイマカウンタ、211c…普電用監視遅延タイマカウンタ、211d…確認フラグ群、211e…前回値記憶エリア、212…特定制御用のスタックエリア、213…非特定制御用のワークエリア、213a～213h…第1～第8入賞監視タイマカウンタ、213k…第2セキュリティカウンタ、213l～213r…異常フラグ、214…非特定制御用のスタックエリア、223…レジスタエリア、223b…コマンド送信バッファ、223c…プロテクトレジスタ、224…コマンド送信回路、225…RAM管理回路、234a…特電検知センサ、236a…第2作動口検知センサ、251…通常用カウンタエリア、252…演算結果記憶エリア、311…遊技回期間用アドレステーブル、313…第1段階時短用の遊技回期間テーブル、314…第2段階時短用の遊技回期間テーブル、315…第3段階時短用の遊技回期間テーブル、322…第1時短状態フラグ、323…第2時短状態フラグ、324…第3時短状態フラグ、325…天井カウンタ、326…状態判定用カウンタ、327…状態継続カウンタ、332…第1大当たり信号用の外部端子、333…第2大当たり信号用の外部端子、365…時短遊技回数カウンタ、366…時短小当たり回数カウンタ、371…事象対象カウンタ、374…第3時短状態カウンタ、375…時短継続カウンタ、382…第2時短待機カウンタ、383…第3時短待機カウンタ、387…第3時短待機カウンタ、395…待機対象カウンタ、401…第3A時短待機カウンタ、402…第3B時短待機カウンタ、403…第3C時短待機カウンタ、406…第1待機カウンタ、407…第2待機カウンタ、408…第3待機カウンタ、411…第3時短小当たり回数カウンタ、412…第3時短遊技回数カウンタ、422～424…第0～第2誤作動防止回路、431…外部出力用回路、433…第1論理IC、434…第2論理IC、441～445…第0～第4NAND回路、451～456…第0～第5NOT回路、464…プルダウン抵抗、472…誤作動防止回路、473～475…第1～第3選択回路、481…第1論理IC、482～484…第2論理IC、491～496…第0～第5NAND回路、497…プルダウン抵抗、511～519…第0～第8NOT回路、521…入出力確認表示装置、523a…確認用タイマカウンタ、523c…特図側タイマカウンタ、523d…普図側タイマカウンタ、531…V入賞装置、532…V入賞側開閉部材、535b…排出通路領域、535c…V入賞通路領域、536…切換片、538…カウント検知センサ、539…V入賞検知センサ、542…切換制御カウンタ、543…V入賞タイマカウンタ、544…確認済み表示装置、556…特別入賞検知センサ、573…確認用タイマカウンタ、581…確認用タイマカウンタ、591b…Aレジスタ、592a…Bレジスタ、592b…Cレジスタ、593…Dレジスタ、594…出力用レジスタ、595…ポート設定回路、LN14，LN21…信号線、NS0～NS2…第0～第2端子、NS10～NS13…第0～第3端子、PA2…左側領域、PA3…右側領域。

10

20

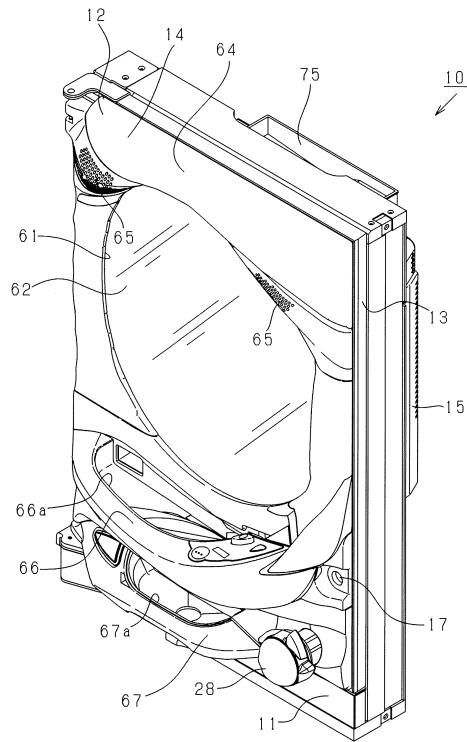
30

40

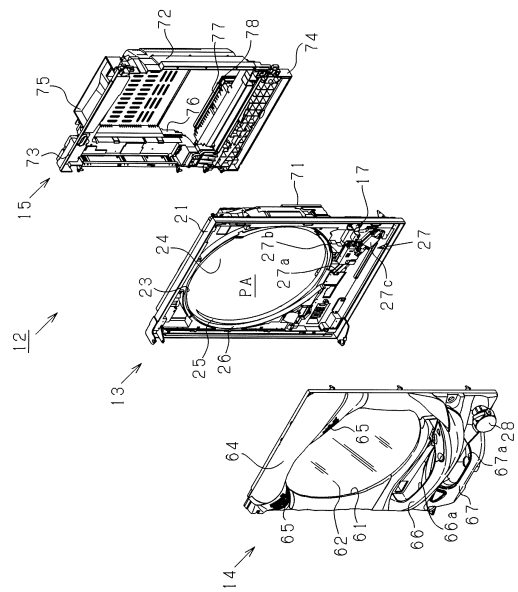
50

【図面】

【図 1】



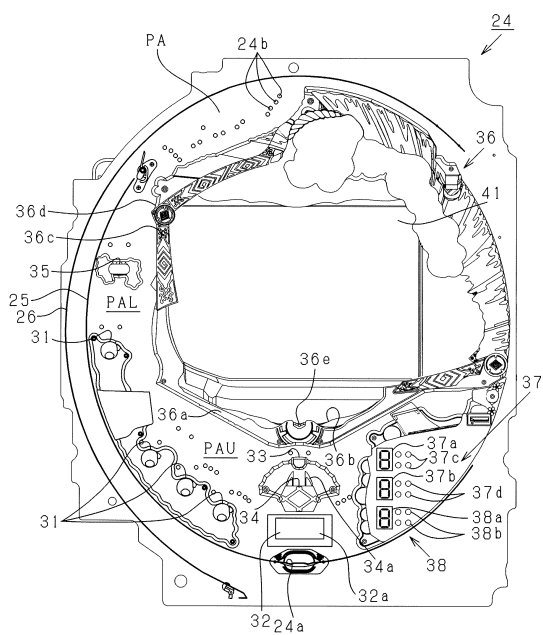
【図 2】



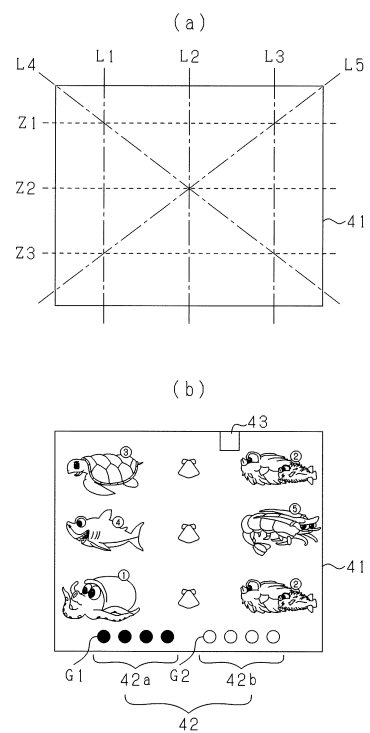
10

20

【図 3】



【図 4】

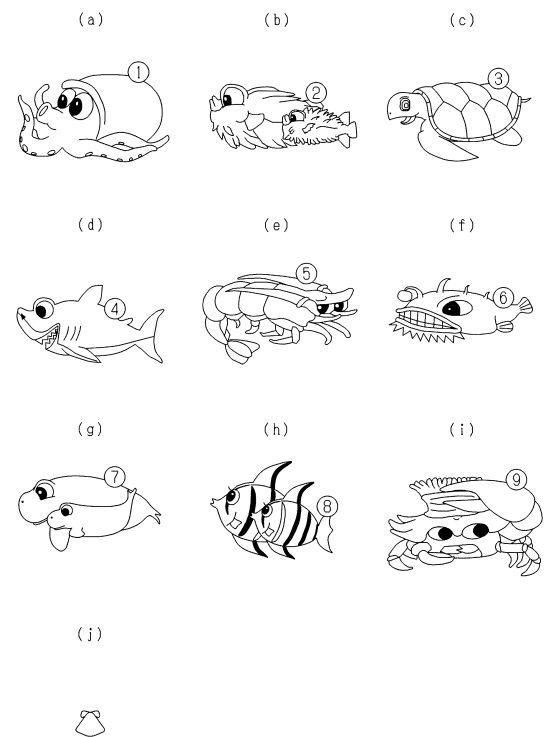


30

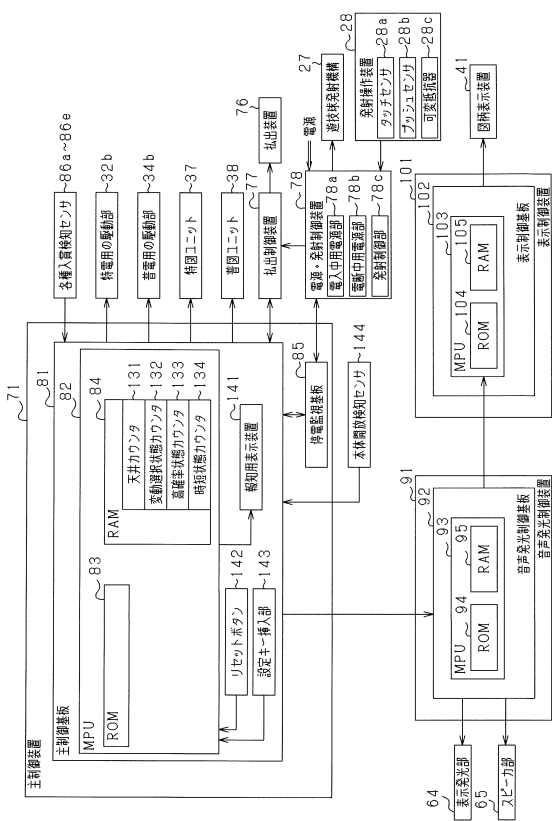
40

50

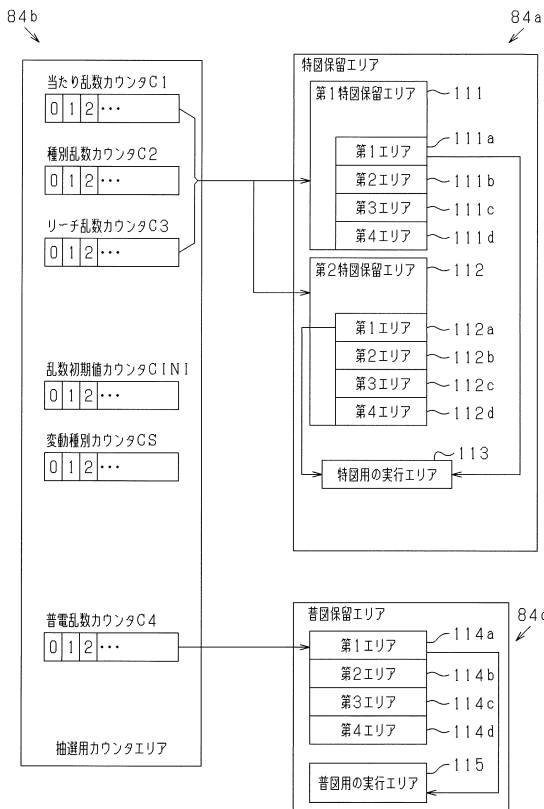
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

サポートモード	普図当否判定	普図の変動期間	普電開放状態
低頻度サポートモード	普図側の低確率モード	長期間	低期待度モード
第1高頻度サポートモード	普図側の高確率モード	短期間	高期待度モード
第2高頻度サポートモード	普図側の低確率モード	短期間	高期待度モード

10

20

30

40

50

【図 9】

121

(a) 低確率時の第1当否テーブル

設定値	大当たり結果	時短結果	外れ結果
設定1	50個	100個	9850個
設定2	52個	100個	9848個
設定3	54個	100個	9846個
設定4	56個	100個	9844個
設定5	58個	100個	9842個
設定6	60個	100個	9840個

122

(b) 低確率時の第2当否テーブル

設定値	大当たり結果	時短結果	外れ結果
設定1	50個	120個	9830個
設定2	52個	120個	9828個
設定3	54個	120個	9826個
設定4	56個	120個	9824個
設定5	58個	120個	9822個
設定6	60個	120個	9820個

123

(c) 高確率時の当否テーブル

設定値	大当たり結果	時短結果	外れ結果
設定1	500個	100個	9400個
設定2	520個	100個	9380個
設定3	540個	100個	9360個
設定4	560個	100個	9340個
設定5	580個	100個	9320個
設定6	600個	100個	9300個

【図 10】

125

(a) 第1特図用の大当たり振分テーブル

種別乱数カウンタC2	大当たり結果の種類
0~14	5R低確結果
15~22	5R高確結果
23~29	10R高確結果

126

(b) 第2特図用の大当たり振分テーブル

種別乱数カウンタC2	大当たり結果の種類
0~14	5R低確結果
15~29	10R高確結果

127

(c) 第1特図用の時短振分テーブル

種別乱数カウンタC2	時短結果の種類
0~19	第1時短結果
20~29	第2時短結果

128

(d) 第2特図用の時短振分テーブル

種別乱数カウンタC2	時短結果の種類
0~9	第1時短結果
10~29	第2時短結果

10

20

【図 11】

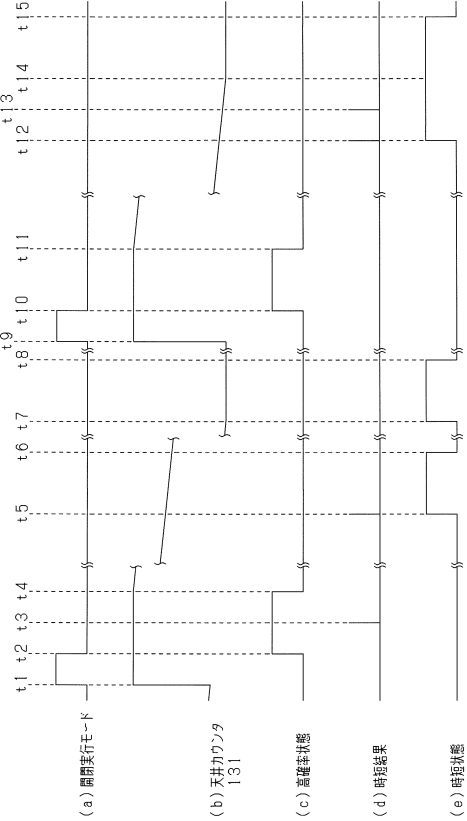
(a)

大当たり結果の種類	発生装置	開閉実行モード	当否抽選モード	サポートモード
5R低確結果	抽選	5ラウンド	低確率モード	第1高確度サポートモード 100回限定
5R高確結果	抽選	10ラウンド	高確率モード 100回限定	第1高確度サポートモード 100回限定
10R高確結果	抽選	10ラウンド	高確率モード 100回限定	第1高確度サポートモード 100回限定

(b)

時短状態の種類	発生装置	開閉実行モード	当否抽選モード	サポートモード
第1時短結果	抽選	-	低確率モード	第2高確度サポートモード 100回限定
第2時短結果	抽選	-	低確率モード	第2高確度サポートモード 150回限定
天井時短	天井回数の消化	-	低確率モード	第2高確度サポートモード 100回限定

【図 12】

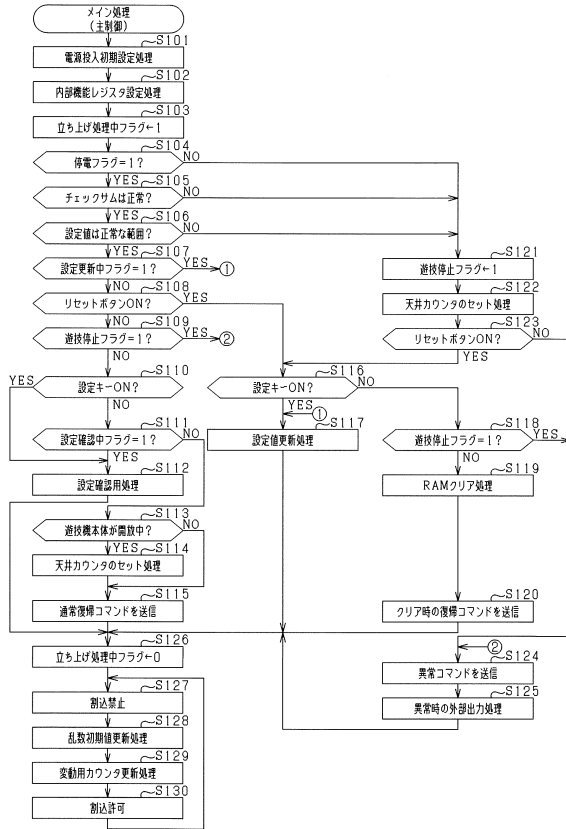


30

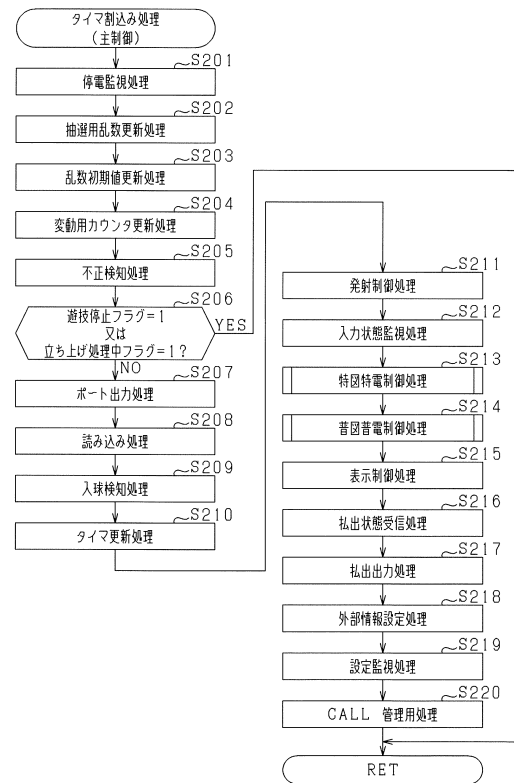
40

50

【図 13】



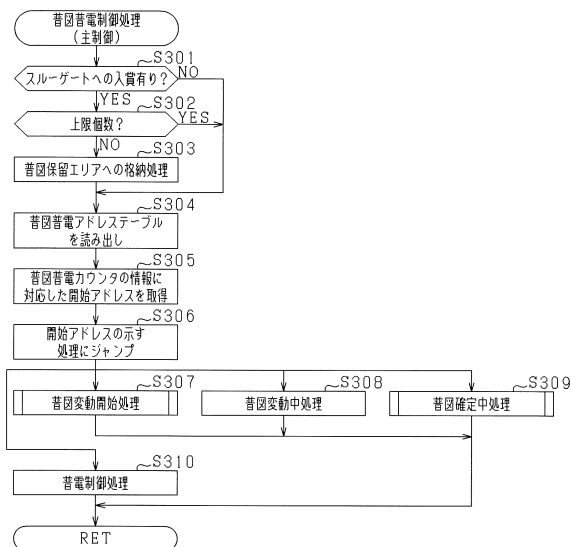
【図 14】



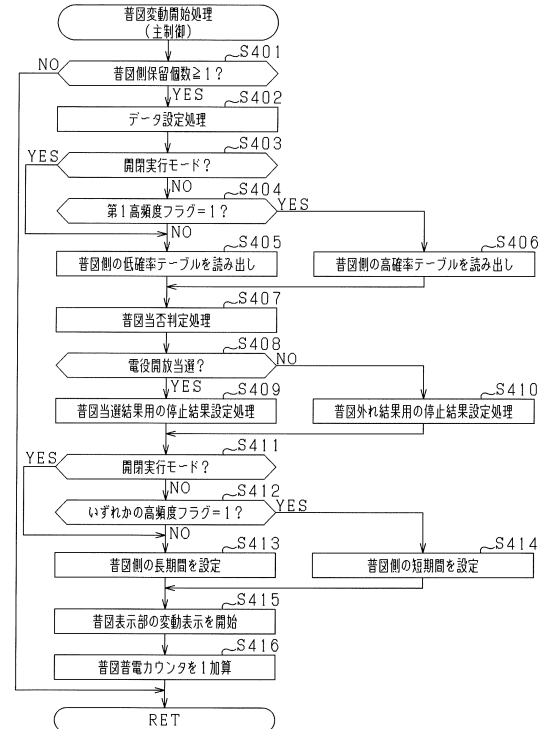
10

20

【図 15】



【図 16】

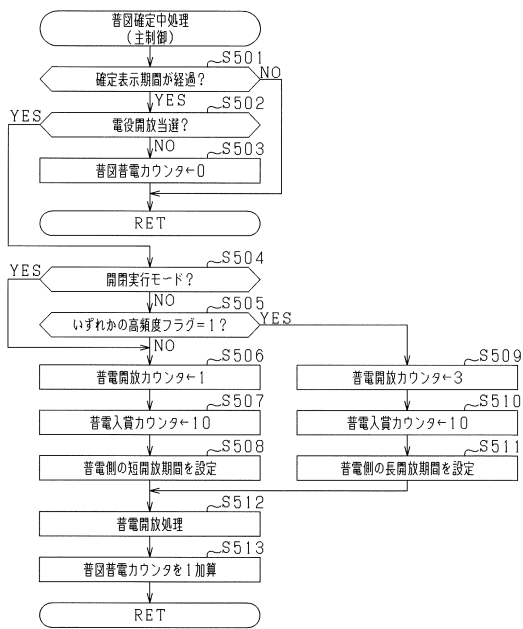


30

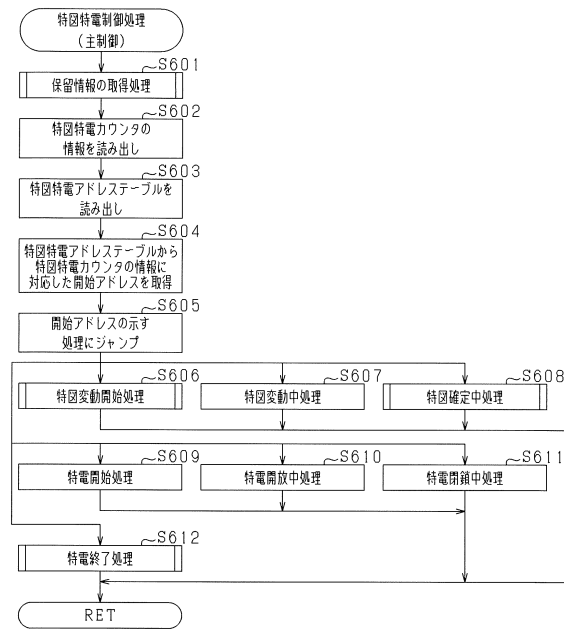
40

50

【図 17】



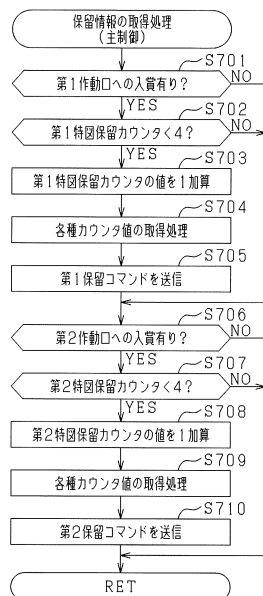
【図 18】



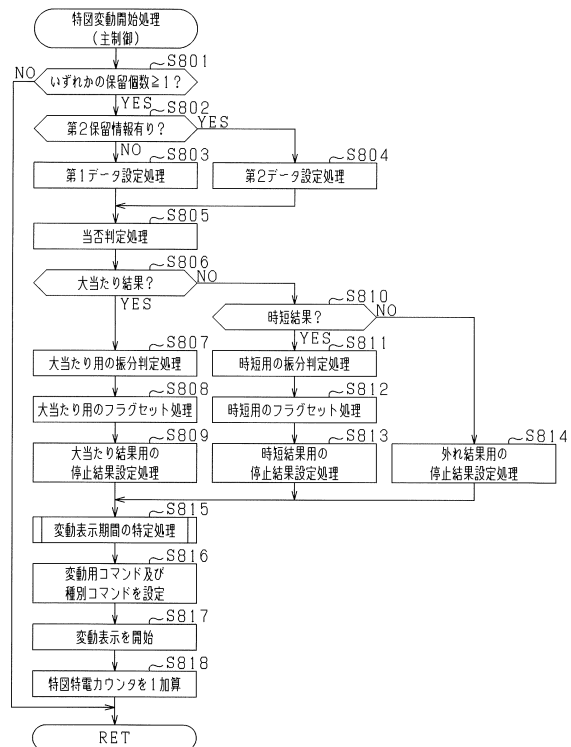
10

20

【図 19】



【図 20】

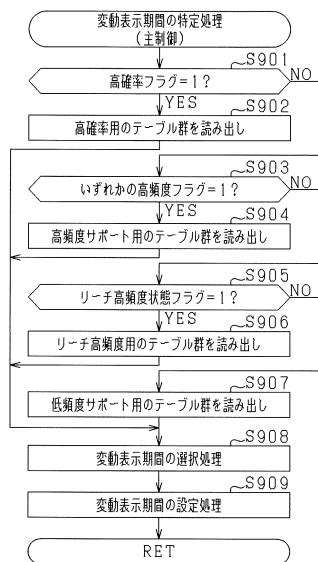


30

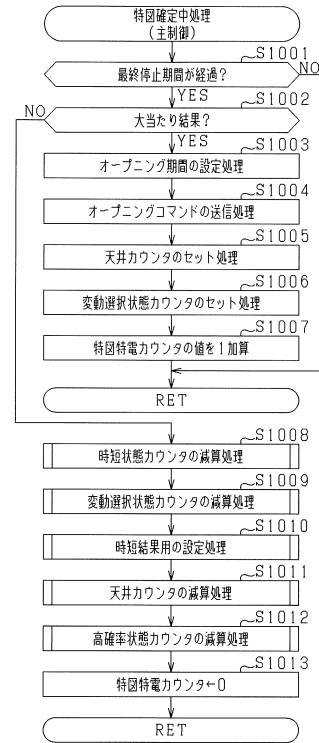
40

50

【図 2 1】



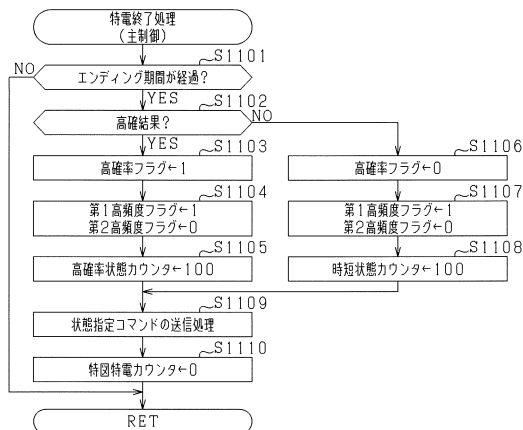
【図 2 2】



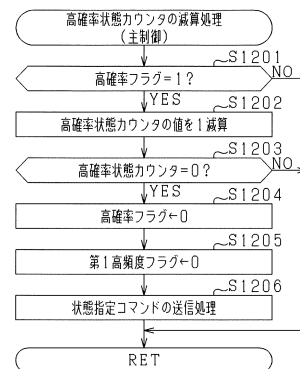
10

20

【図 2 3】



【図 2 4】

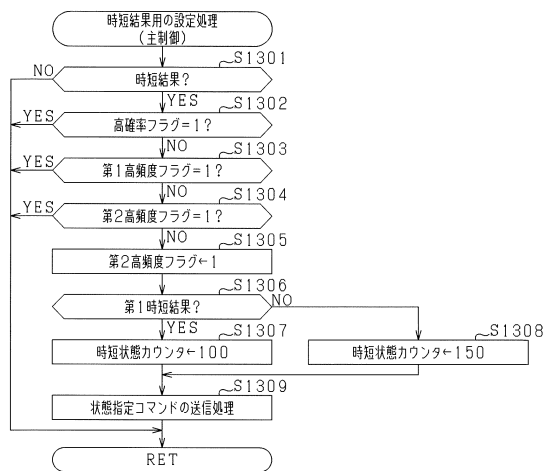


30

40

50

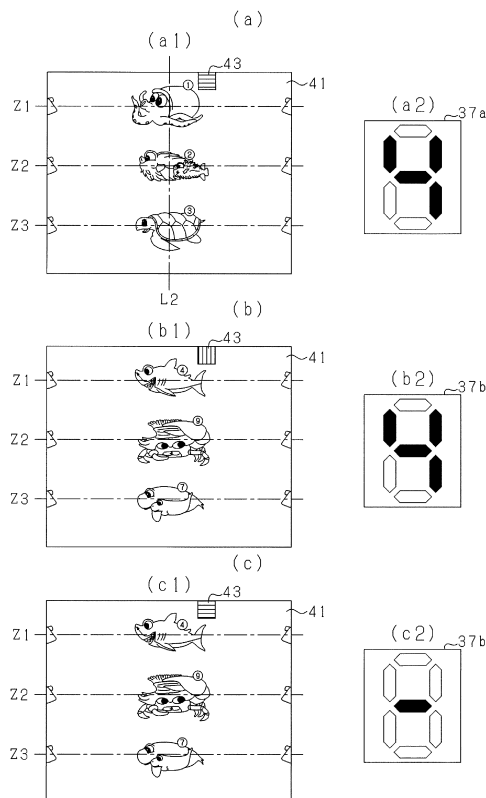
【図 25】



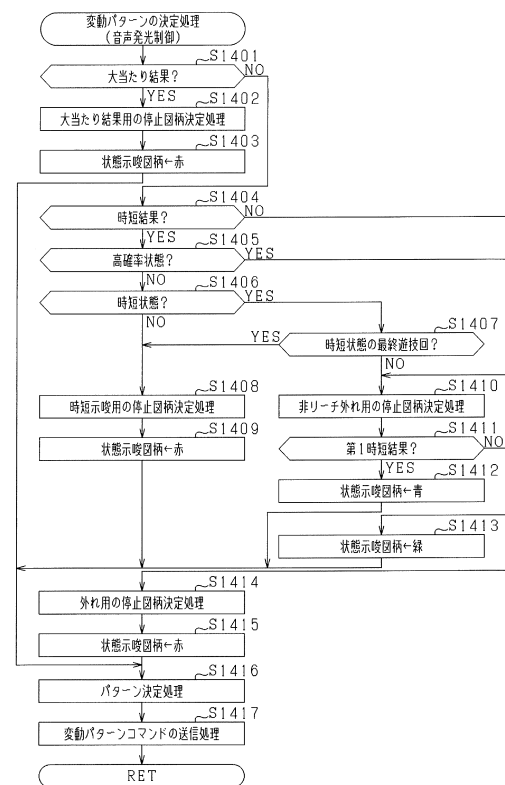
【図 26】

可否結果	特図表示部の 停止結果	図柄表示装置の停止結果	
5R低確結果		同一の偶数図柄の組合せ + 状態示唆図柄：赤	
5R高確結果		「7」図柄以外の同一の奇数図柄の組合せ + 状態示唆図柄：赤	
10R高確結果		「7」図柄の組合せ + 状態示唆図柄：赤	
第1時短結果		通常遊技状態 又は 時短状態の最終遊技回	「1・2・3」 + 状態示唆図柄：赤
		高確率状態 又は 時短状態の最終遊技回以外	非リーチ外れ図柄の組合せ + 状態示唆図柄：青
第2時短結果		通常遊技状態 又は 時短状態の最終遊技回	「3・4・1」 + 状態示唆図柄：赤
		高確率状態 又は 時短状態の最終遊技回以外	非リーチ外れ図柄の組合せ + 状態示唆図柄：緑
外れ結果		外れ図柄の組合せ (「1・2・3」及び「3・4・1」を除く) + 状態示唆図柄：赤	

【図 27】



【図 28】



10

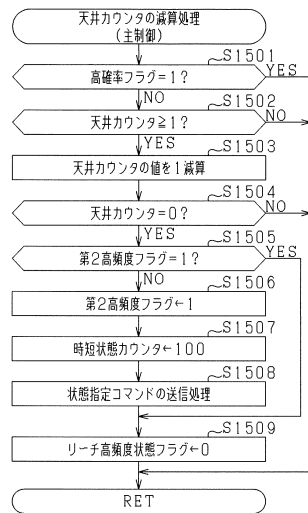
20

30

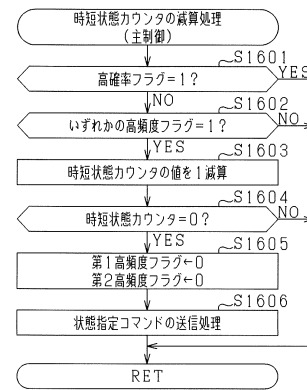
40

50

【図 29】



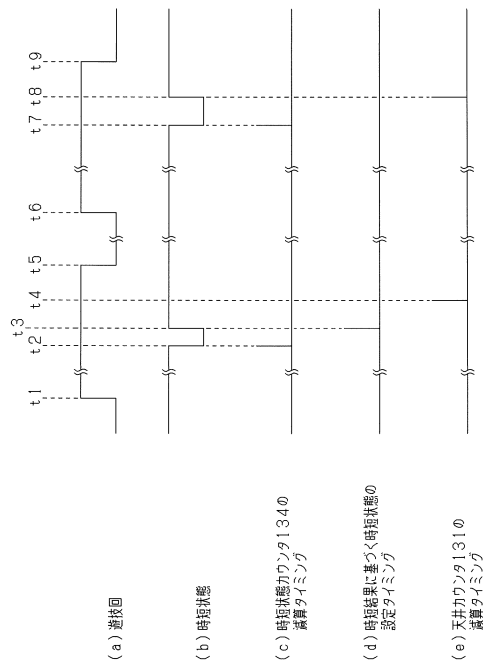
【図 30】



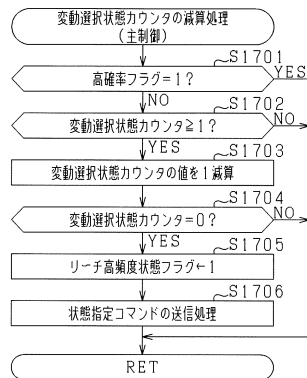
10

20

【図 31】



【図 32】

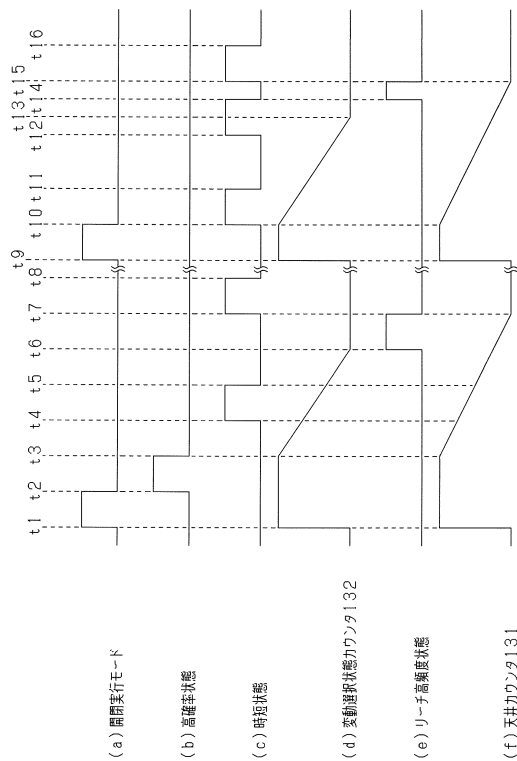


30

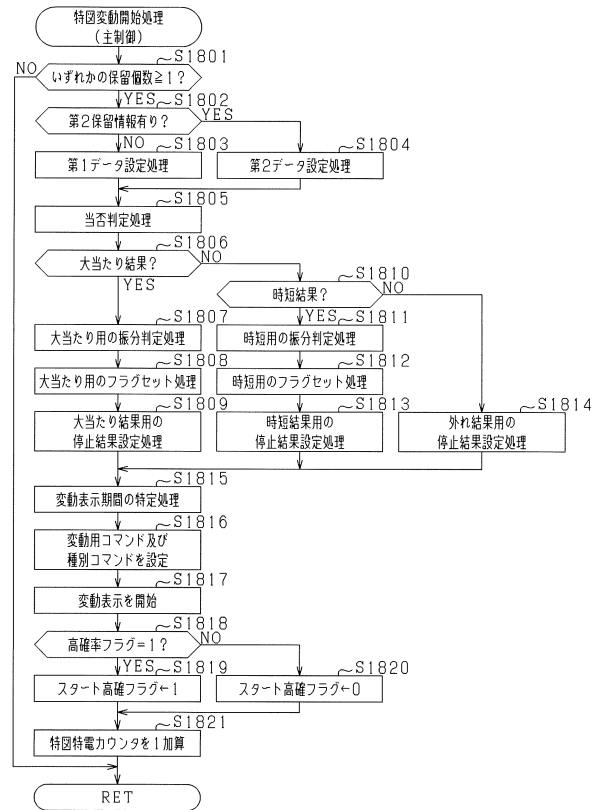
40

50

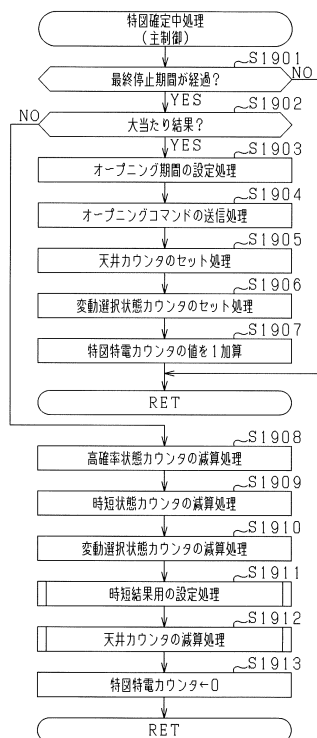
【図 3 3】



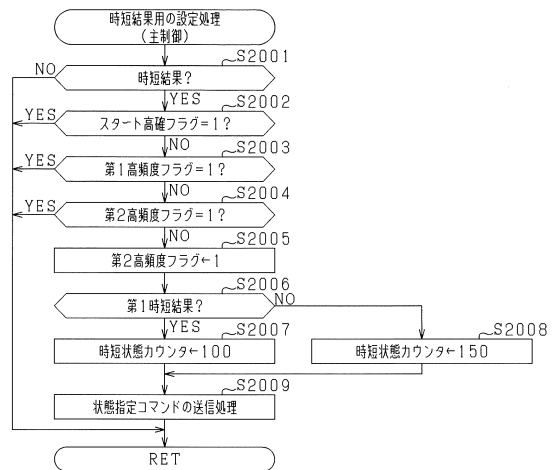
【図 3 4】



【図 3 5】



【図 3 6】



10

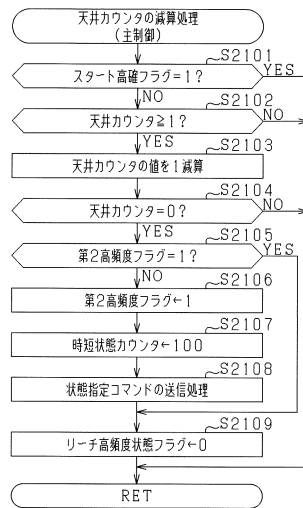
20

30

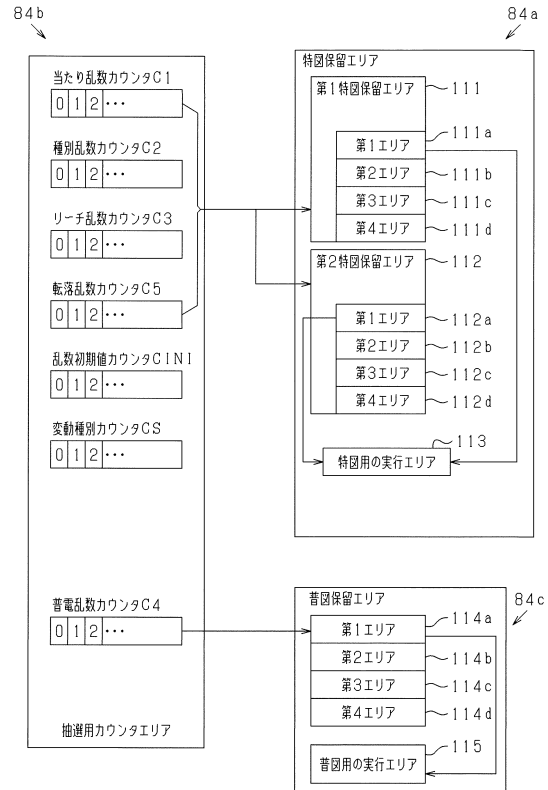
40

50

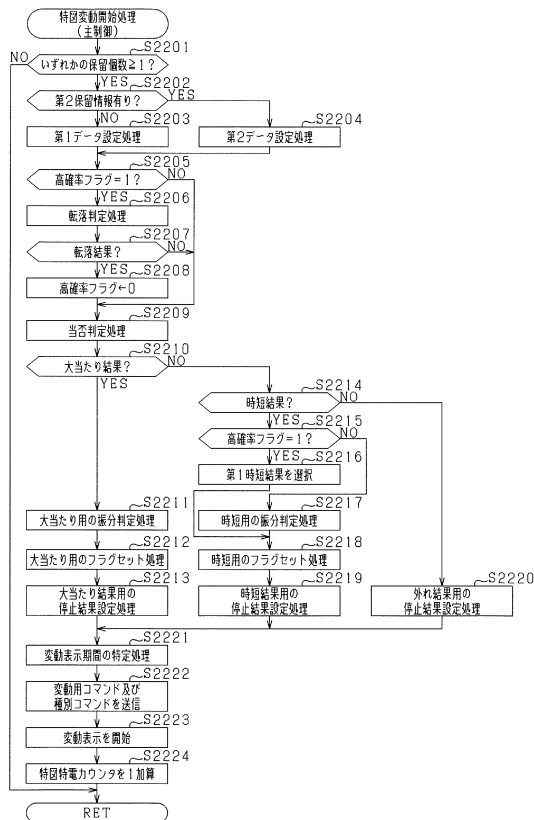
【図 37】



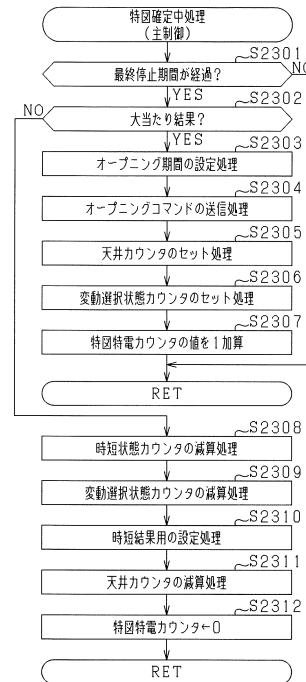
【図 38】



【図 39】



【図 40】



10

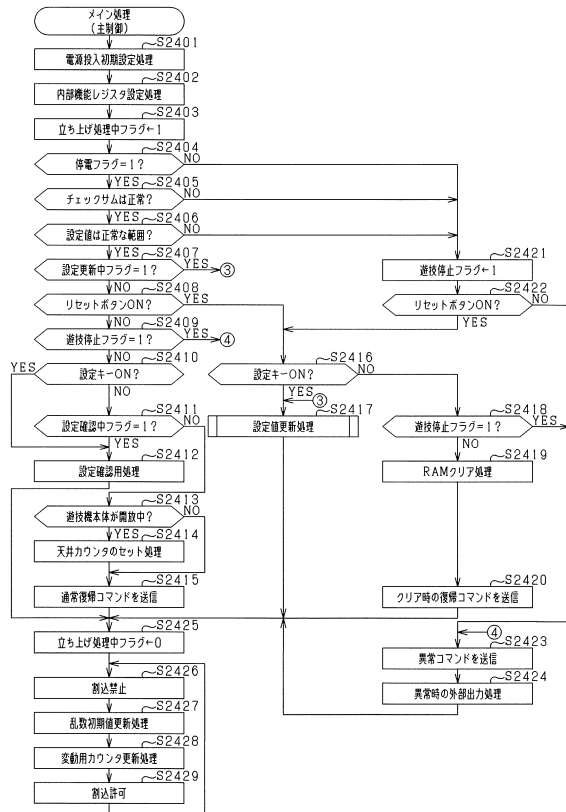
20

30

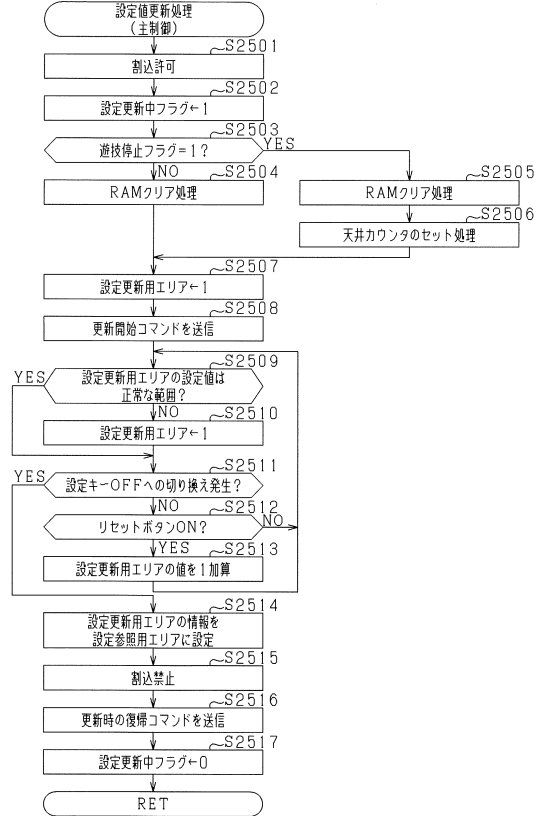
40

50

【図 4 1】



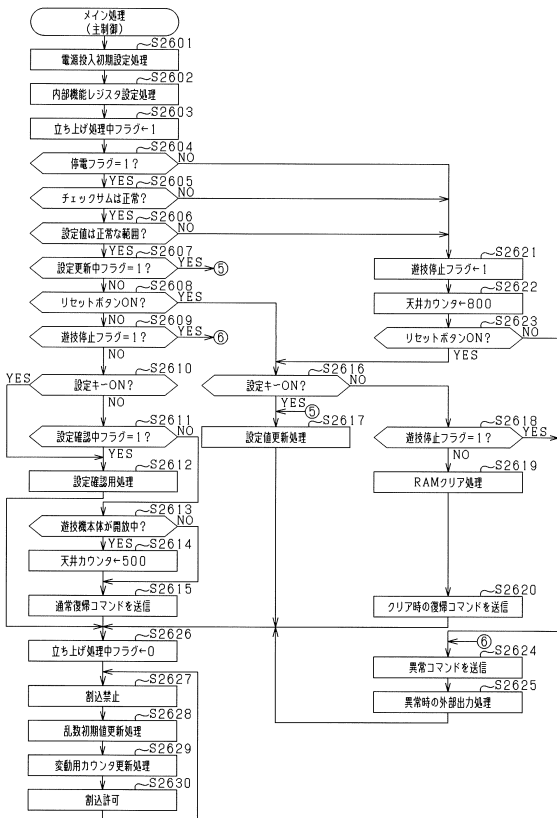
【図 4 2】



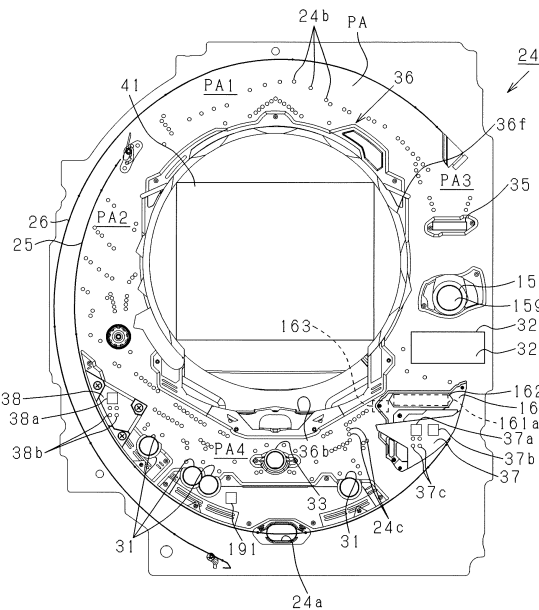
10

20

【図 4 3】



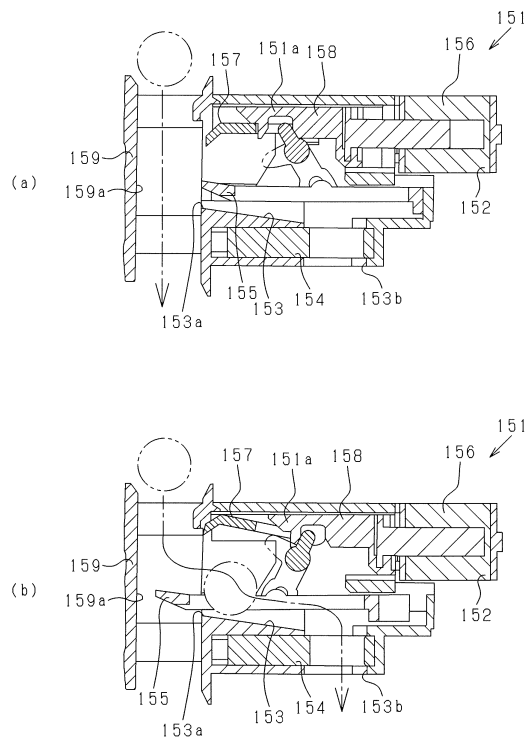
【図 44】



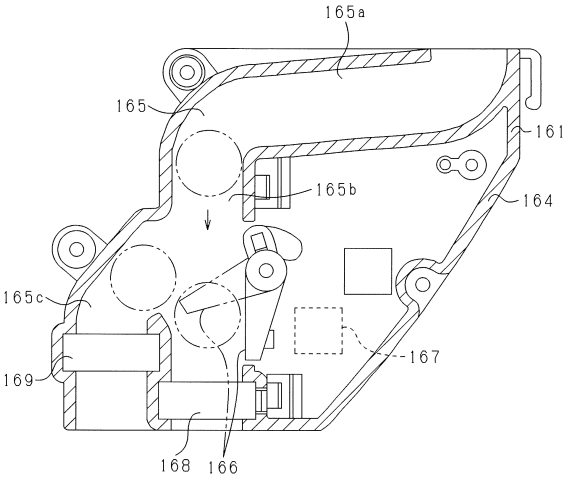
30

40

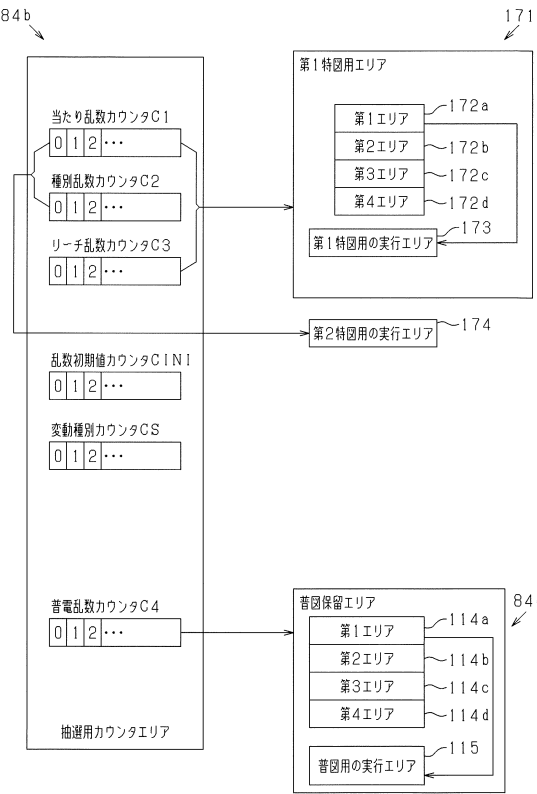
【図 4 5】



【図 4 6】



【図 4 7】



【図 4 8】

(a) 第1当否テーブル		
当たり乱数カウンタC1	当否結果	181
54個	大当たり結果	
100個	時短結果	
その他	外れ結果	
(b) 第2当否テーブル		
当たり乱数カウンタC1	当否結果	182
54個	大当たり結果	
100個	時短結果	
8000個	小当たり結果	
その他	外れ結果	
(c) 大当たり振分テーブル		
種別乱数カウンタC2	大当たり結果の種類	183
0~19	低頻度大当たり結果	
20~29	高頻度大当たり結果	
(d) 時短振分テーブル		
種別乱数カウンタC2	時短結果の種類	184
0~19	第1時短結果	
20~29	第2時短結果	
(e) 小当たり振分テーブル		
種別乱数カウンタC2	小当たり結果の種類	185
0~9	第1小当たり結果	
10~19	第2小当たり結果	
20~29	第3小当たり結果	
(f)		
小当たり結果の種類	開閉実行モード	サポートモード
第1小当たり結果	1ラウンド	低頻度サポートモード
第2小当たり結果	4ラウンド	第1高頻度サポートモード
第3小当たり結果	9ラウンド	第1高頻度サポートモード

10

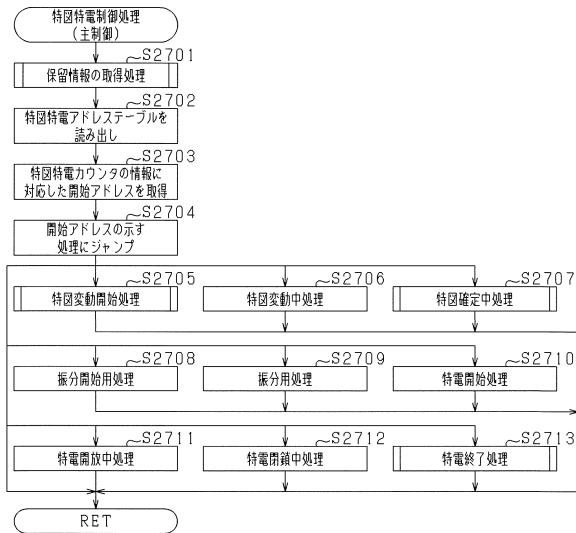
20

30

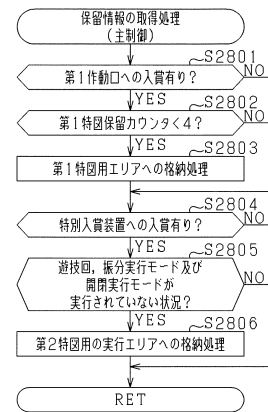
40

50

【図 49】



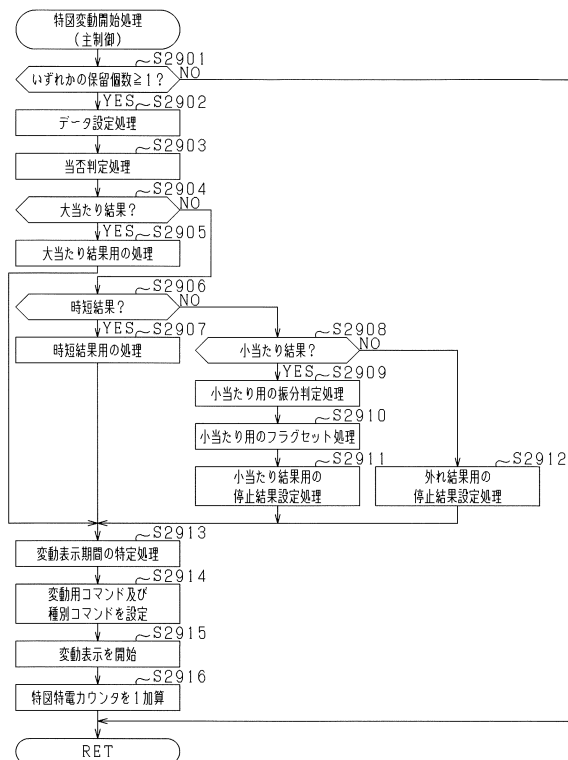
【図 50】



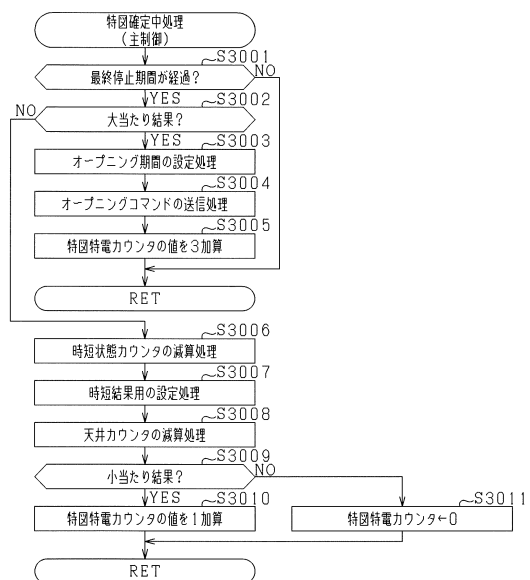
10

20

【図 51】



【図 52】

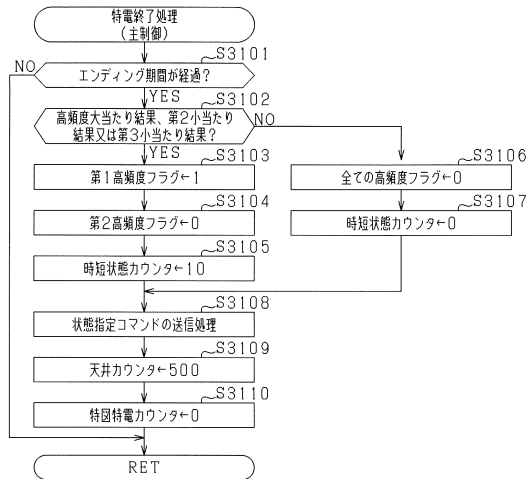


30

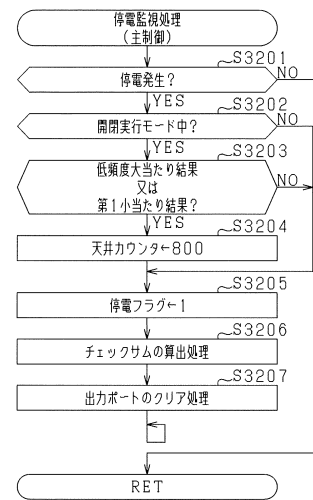
40

50

【図 5 3】



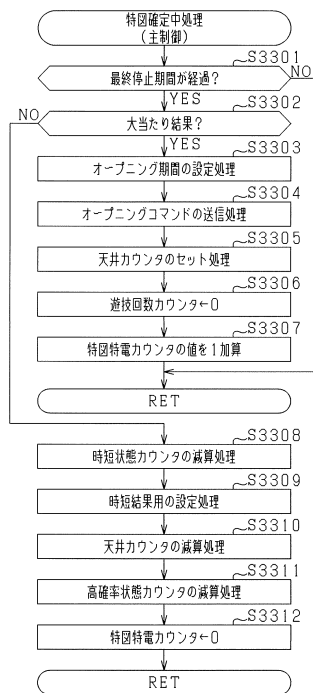
【図 5 4】



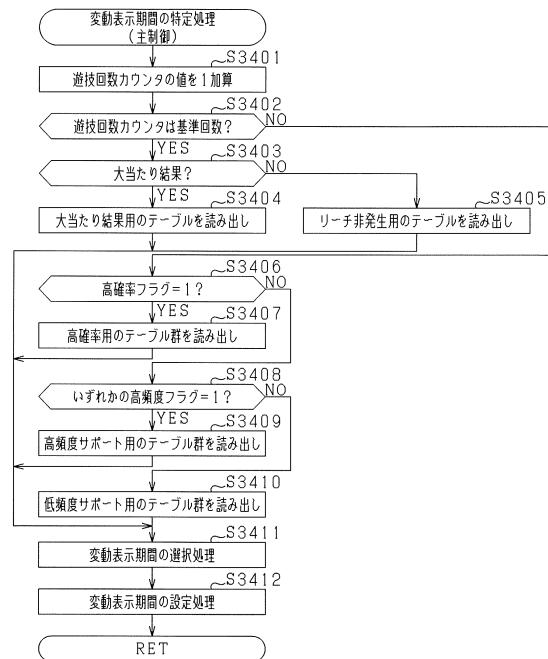
10

20

【図 5 5】



【図 5 6】

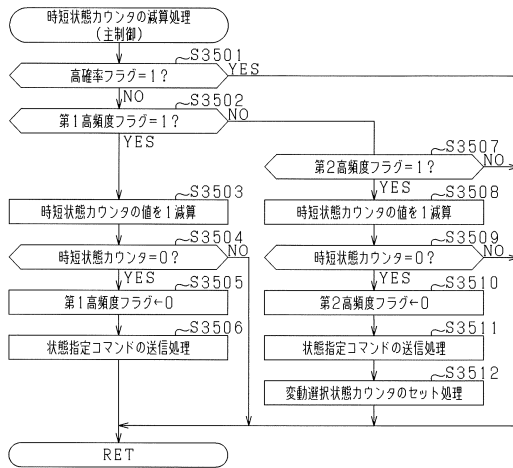


30

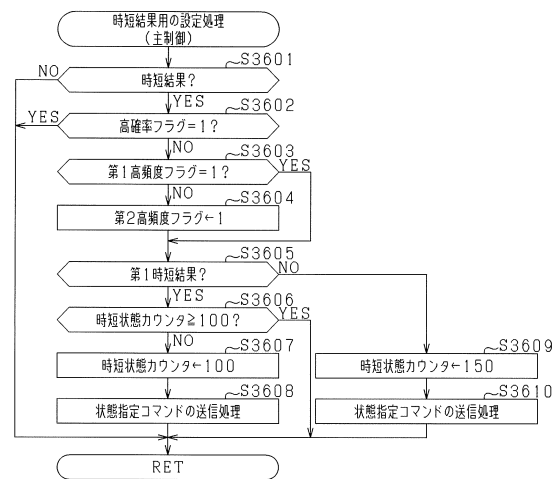
40

50

【図 57】



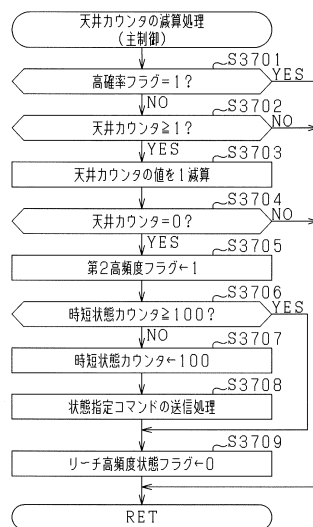
【図 58】



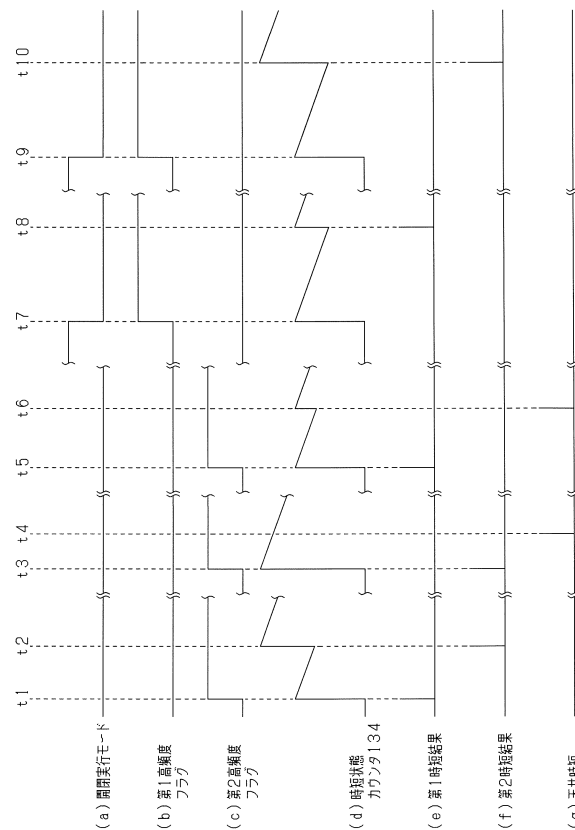
10

20

【図 59】



【図 60】

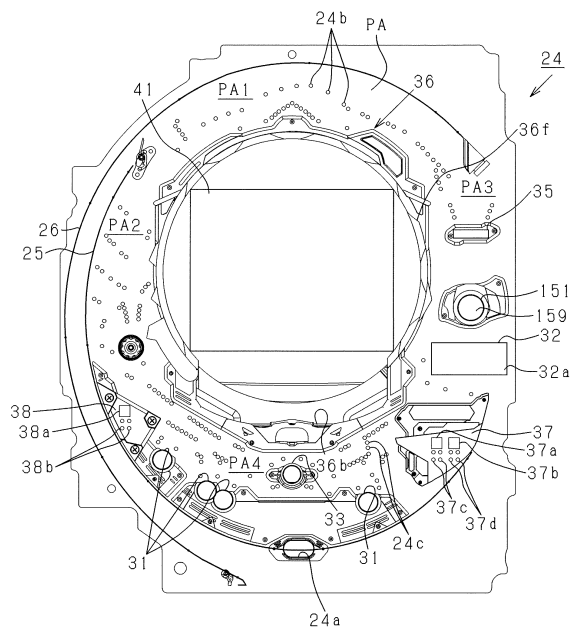


30

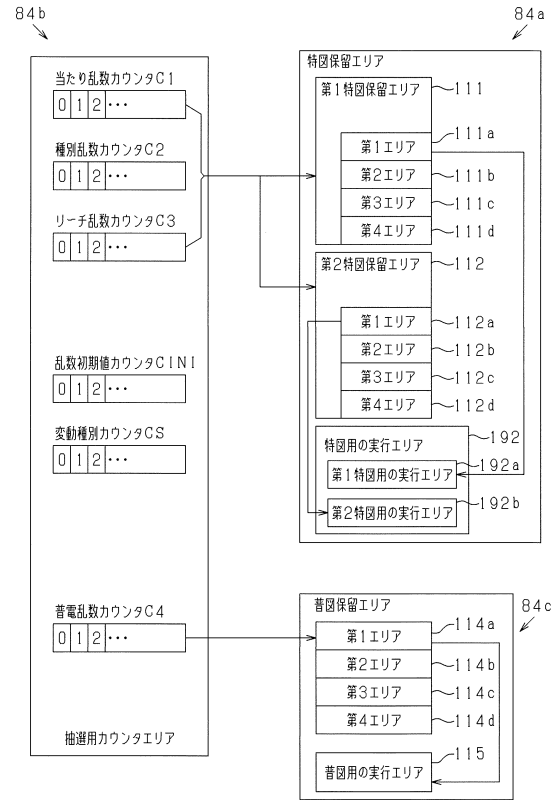
40

50

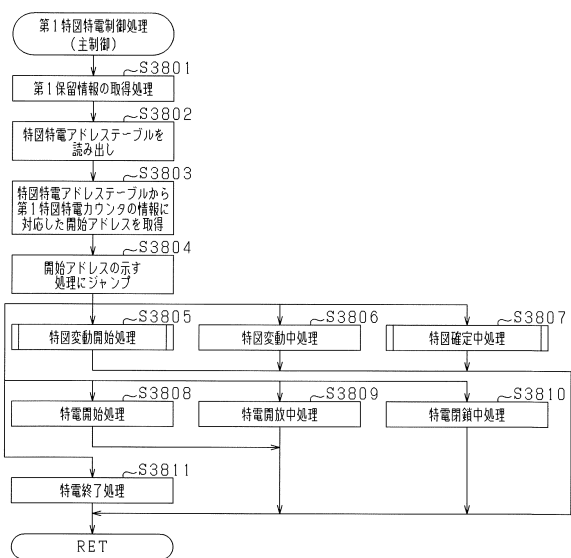
【図 6 1】



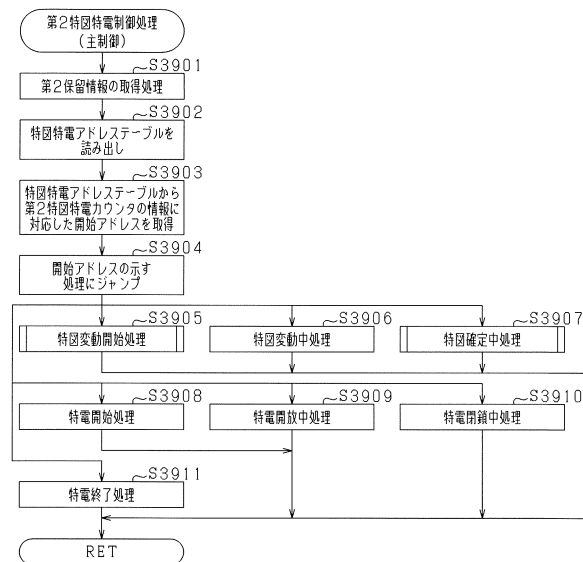
【図 6 2】



【図 6 3】



【図 6 4】



10

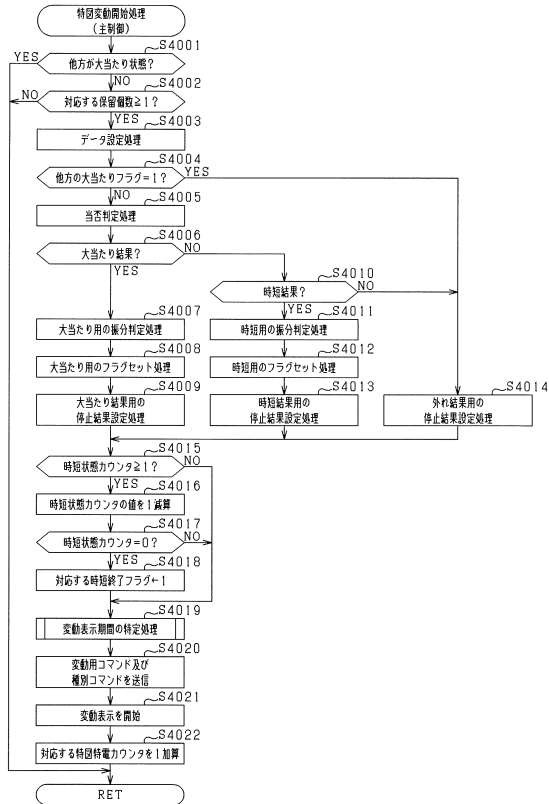
20

30

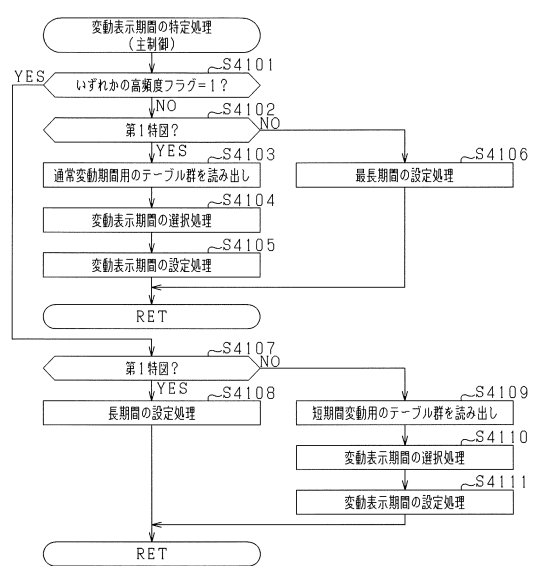
40

50

【図 6 5】



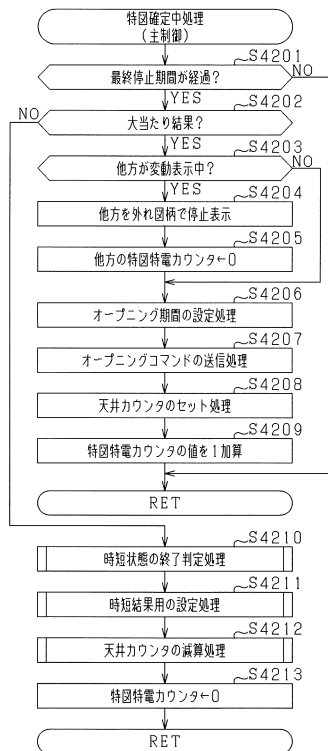
【図 6 6】



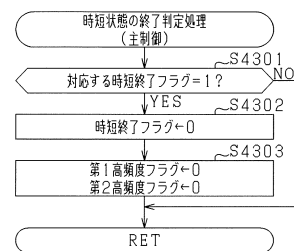
10

20

【図 6 7】



【図 6 8】

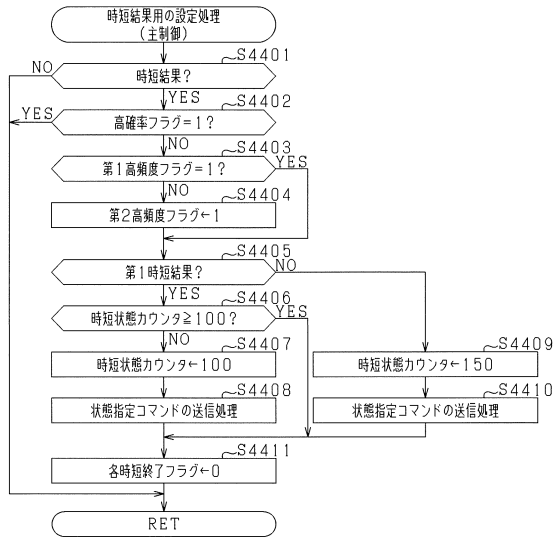


30

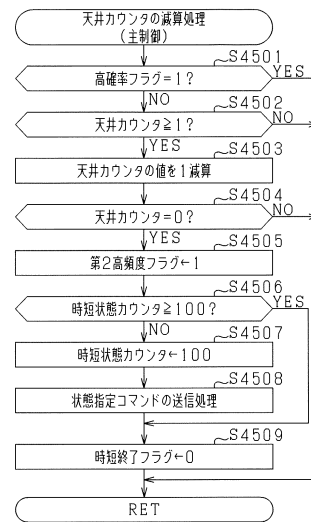
40

50

【図 69】



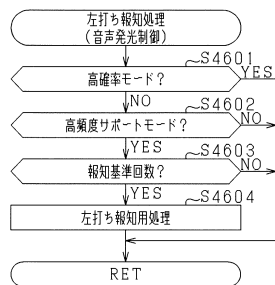
【図 70】



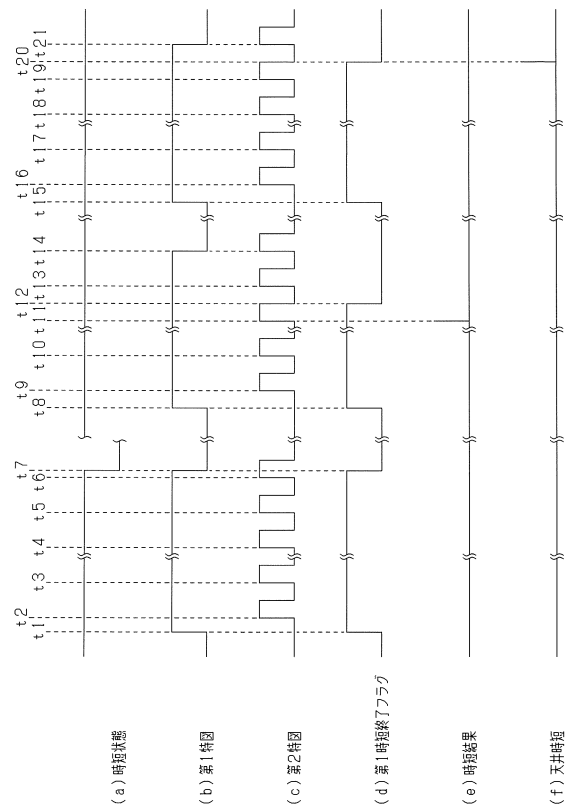
10

20

【図 71】



【図 72】

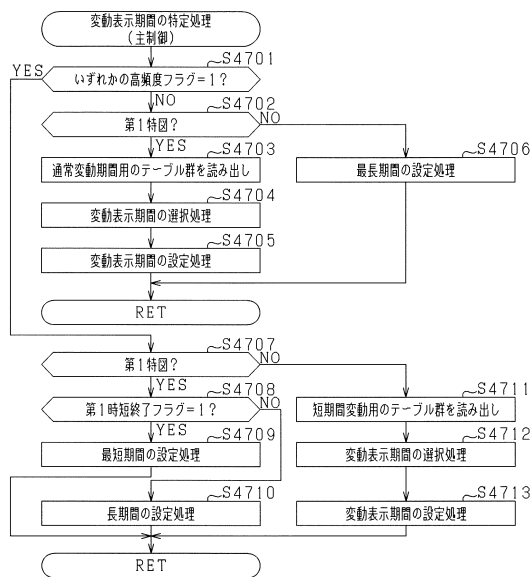


30

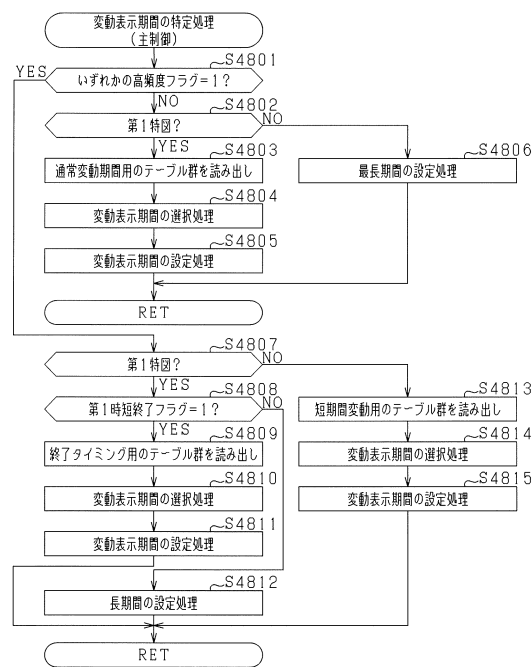
40

50

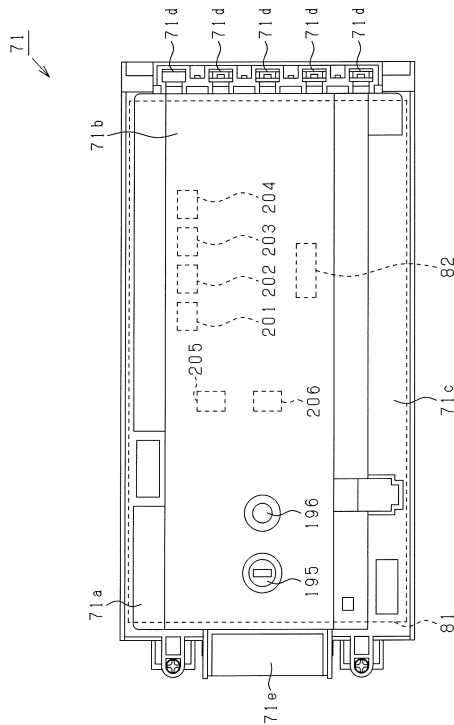
【図 7 3】



【図 7 4】



【図 7 5】



【図 7 6】

アドレス	内容
X(1)	特定制御用のプログラム
X(2)	特定制御用のプログラム
X(3)	特定制御用のプログラム
⋮	⋮
X(k)	特定制御用のプログラム
X(k+1)	特定制御用のプログラム
X(k+2)	特定制御用のプログラム
X(k+3)	未使用
X(k+4)	未使用
X(k+5)	未使用
X(k+6)	特定制御用のデータ
X(k+7)	特定制御用のデータ
X(k+8)	特定制御用のデータ
⋮	⋮
X(m)	特定制御用のデータ
X(m+1)	特定制御用のデータ
X(m+2)	特定制御用のデータ
X(m+3)	未使用
X(m+4)	未使用
X(m+5)	未使用
X(m+6)	非特定制御用のプログラム
X(m+7)	非特定制御用のプログラム
X(m+8)	非特定制御用のプログラム
⋮	⋮
X(n)	非特定制御用のプログラム
X(n+1)	非特定制御用のプログラム
X(n+2)	非特定制御用のプログラム
X(n+3)	未使用
X(n+4)	未使用
X(n+5)	未使用
X(n+6)	非特定制御用のデータ
X(n+7)	非特定制御用のデータ
X(n+8)	非特定制御用のデータ
⋮	⋮
X(p)	非特定制御用のデータ
X(p+1)	非特定制御用のデータ
X(p+2)	非特定制御用のデータ

10

20

30

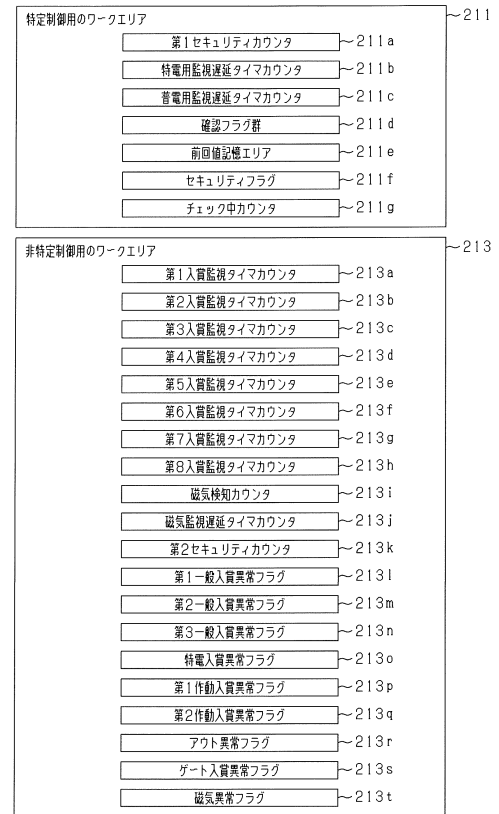
40

50

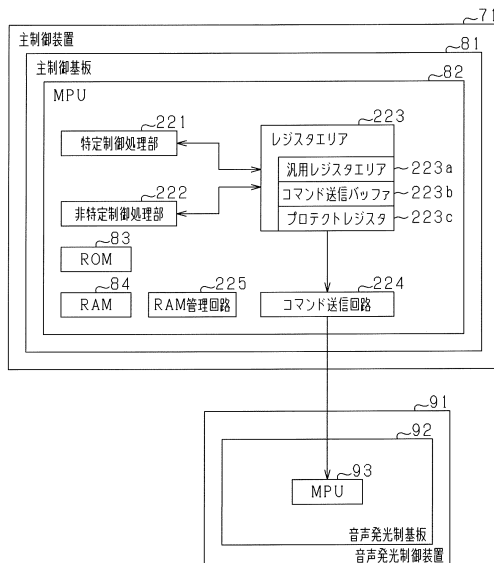
【図 77】

アドレス	内容
Y(1)	特定制御用のワークエリア
Y(2)	特定制御用のワークエリア
Y(3)	特定制御用のワークエリア
⋮	⋮
Y(r)	特定制御用のワークエリア
Y(r+1)	特定制御用のワークエリア
Y(r+2)	特定制御用のワークエリア
Y(r+3)	未使用
Y(r+4)	未使用
Y(r+5)	未使用
Y(r+6)	特定制御用のスタックエリア
Y(r+7)	特定制御用のスタックエリア
Y(r+8)	特定制御用のスタックエリア
⋮	⋮
Y(s)	特定制御用のスタックエリア
Y(s+1)	特定制御用のスタックエリア
Y(s+2)	特定制御用のスタックエリア
Y(s+3)	未使用
Y(s+4)	未使用
Y(s+5)	未使用
Y(s+6)	非特定制御用のワークエリア
Y(s+7)	非特定制御用のワークエリア
Y(s+8)	非特定制御用のワークエリア
⋮	⋮
Y(t)	非特定制御用のワークエリア
Y(t+1)	非特定制御用のワークエリア
Y(t+2)	非特定制御用のワークエリア
Y(t+3)	未使用
Y(t+4)	未使用
Y(t+5)	未使用
Y(t+6)	非特定制御用のスタックエリア
Y(t+7)	非特定制御用のスタックエリア
Y(t+8)	非特定制御用のスタックエリア
⋮	⋮
Y(u)	非特定制御用のスタックエリア
Y(u+1)	非特定制御用のスタックエリア
Y(u+2)	非特定制御用のスタックエリア

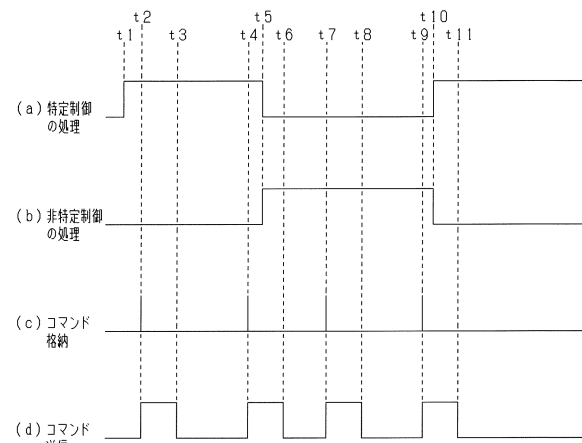
【図 78】



【図 79】



【図 80】



10

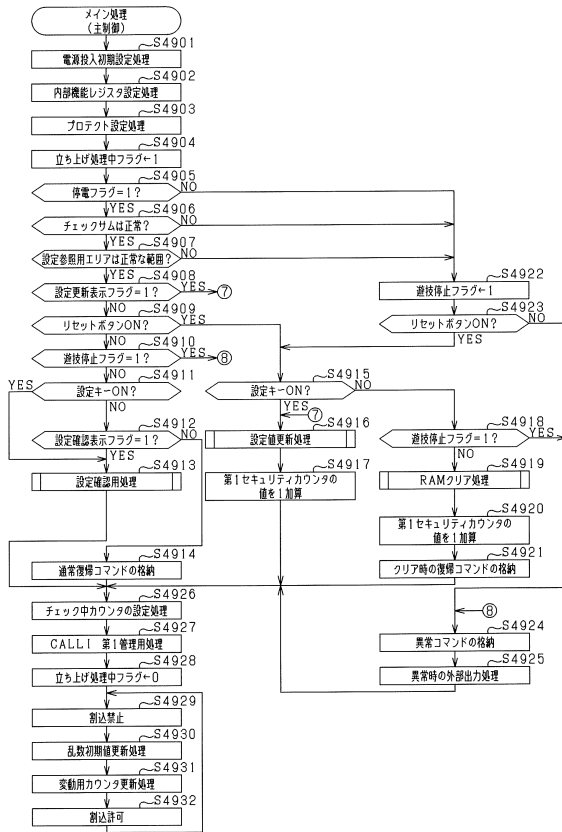
20

30

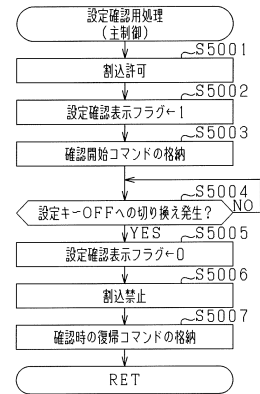
40

50

【図 8 1】



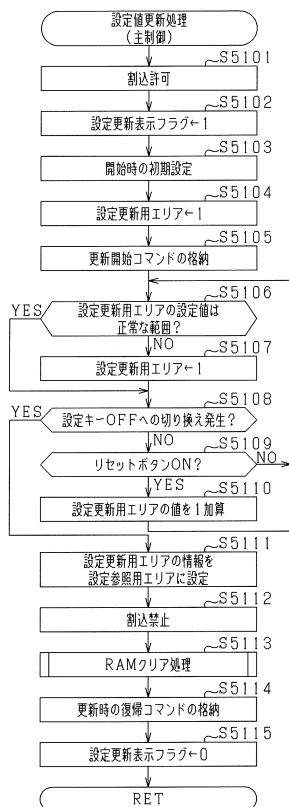
【図 8 2】



10

20

【図 8 3】



【図 8 4】

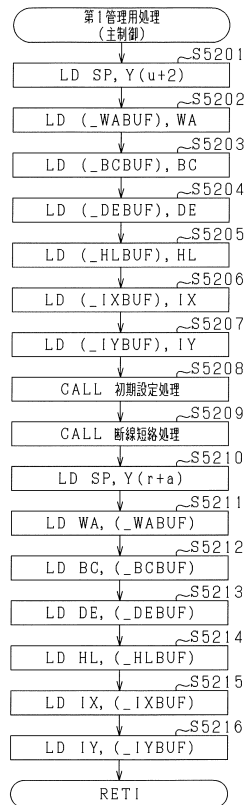
		前回の電源OFF時の状況	
		通常や電源OFF	設定確認処理中の電源OFF
電源ON時の操作	操作無し	充電	設定値更新処理 (RAMクリア処理を含む) 設定確認処理
	RAMクリア操作	RAMクリア処理	設定値更新処理 (RAMクリア処理を含む) RAMクリア処理
	設定変更操作	設定値更新処理 (RAMクリア処理を含む)	設定値更新処理 (RAMクリア処理を含む)
	設定確認操作	設定確認処理 (RAMクリア処理を含む)	設定確認処理 (RAMクリア処理を含む)

30

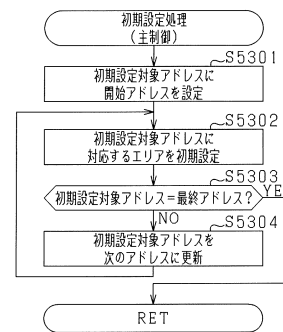
40

50

【図 85】



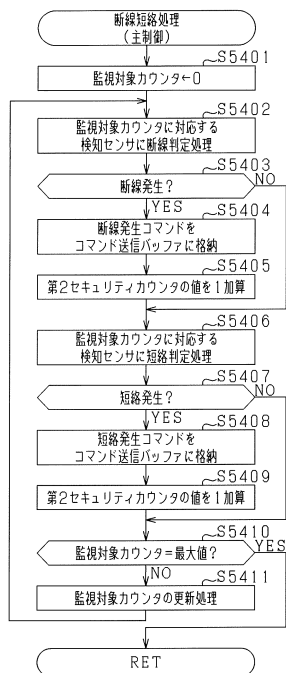
【図 86】



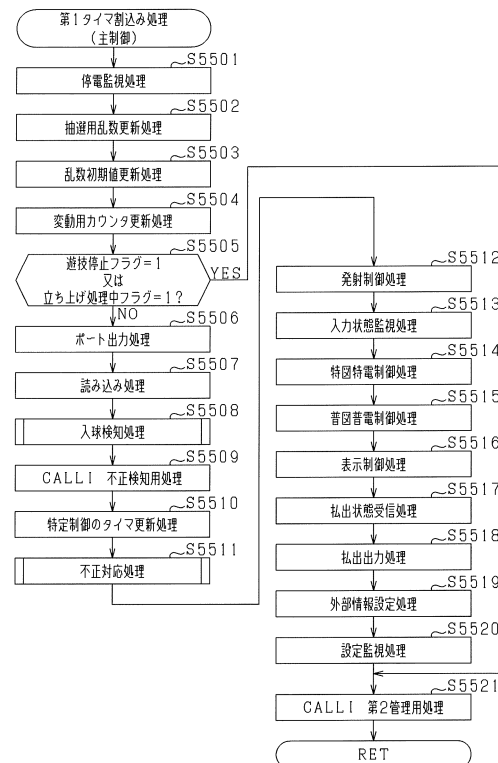
10

20

【図 87】



【図 88】

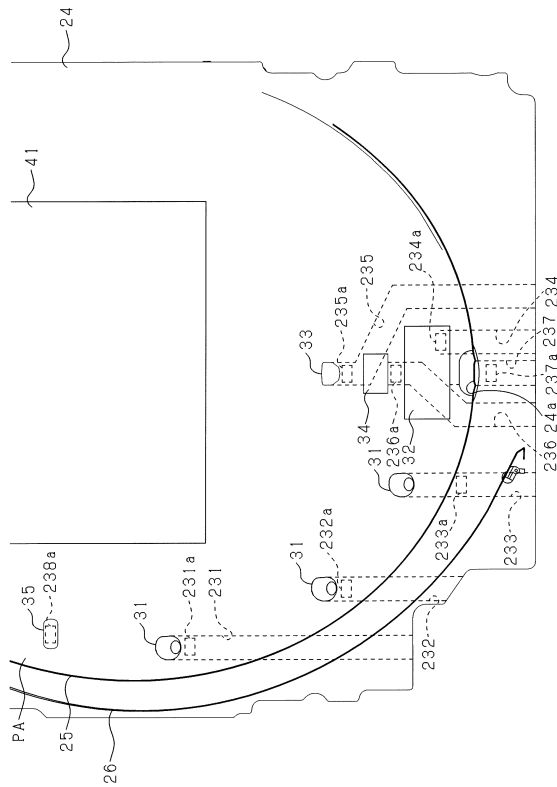


30

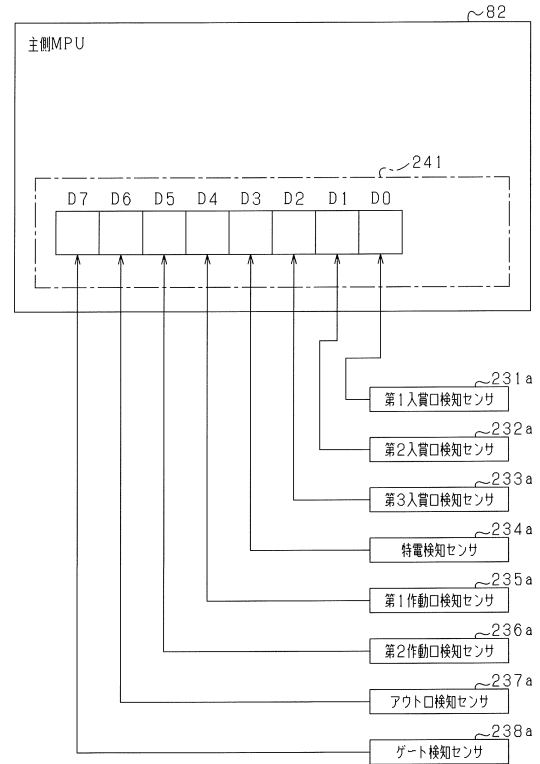
40

50

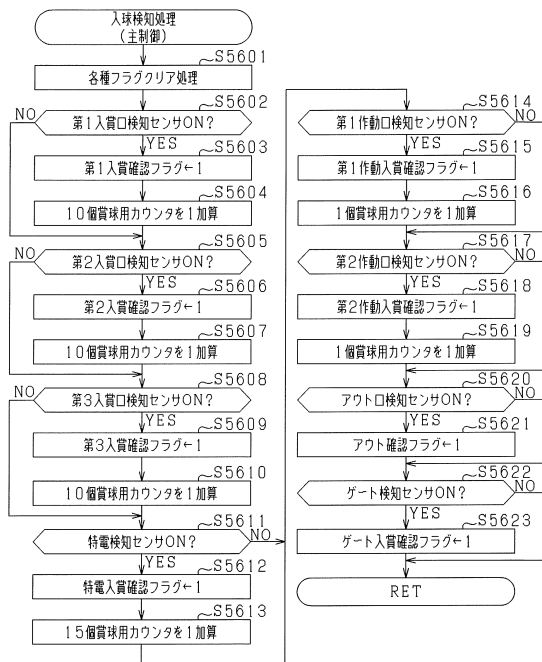
【図 89】



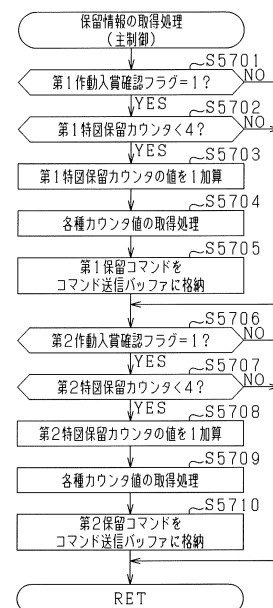
【図 90】



【図 91】



【図 92】



10

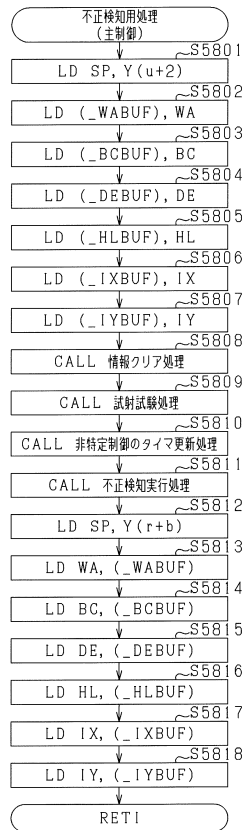
20

30

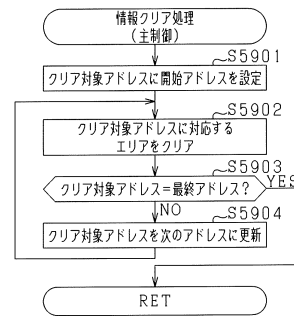
40

50

【図 9 3】



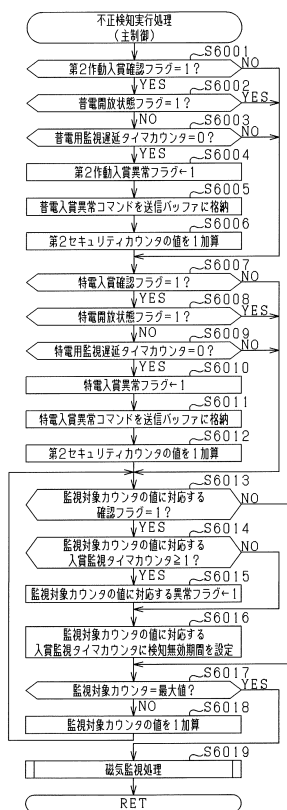
【図 9 4】



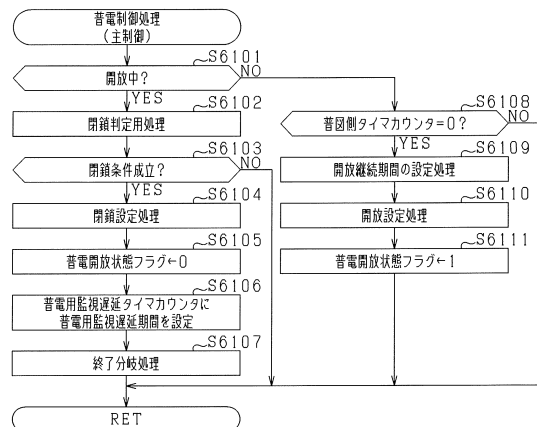
10

20

【図 9 5】



【図 9 6】

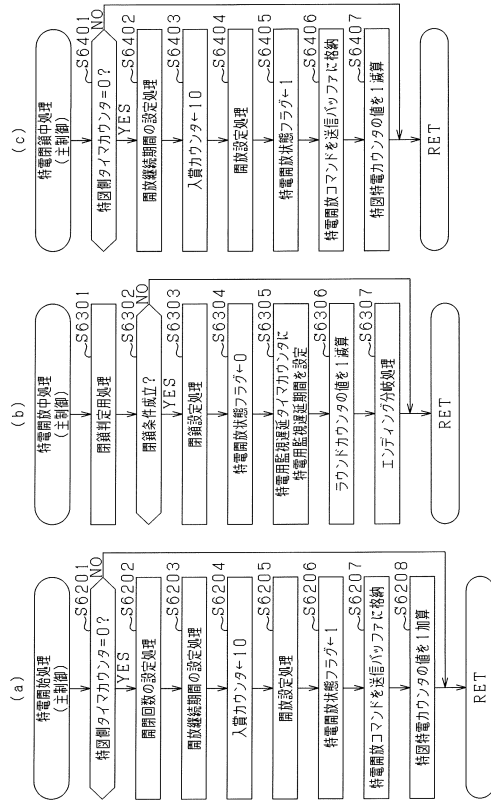


30

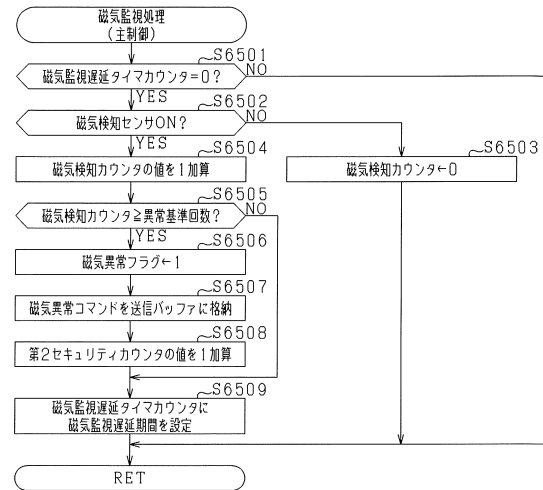
40

50

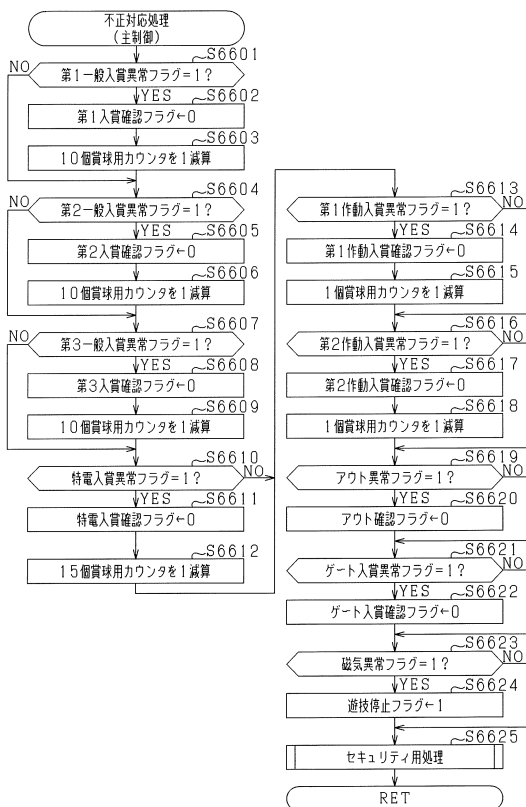
【図 97】



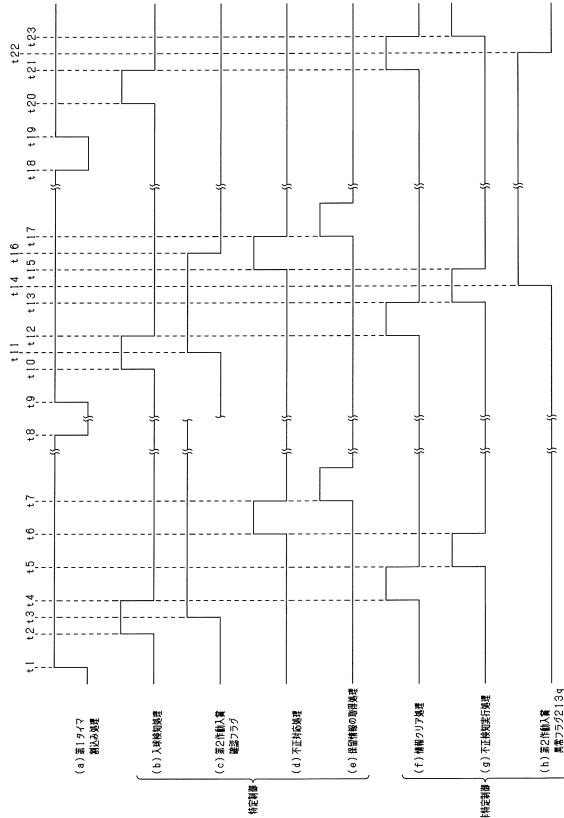
【図 98】



【図 99】



【図 100】



10

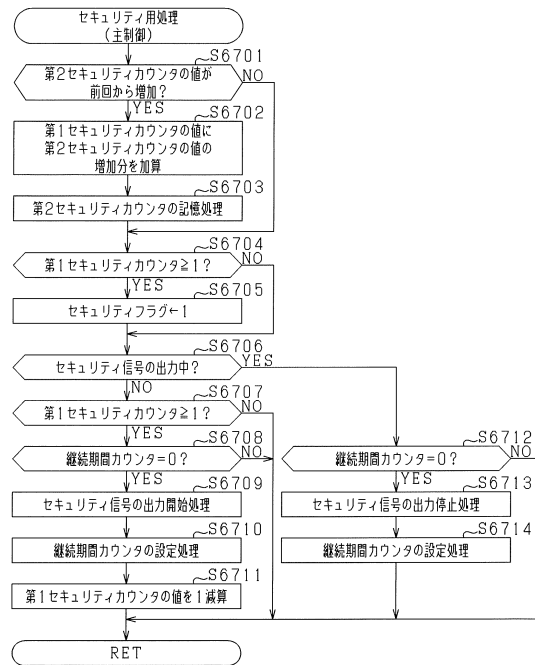
20

30

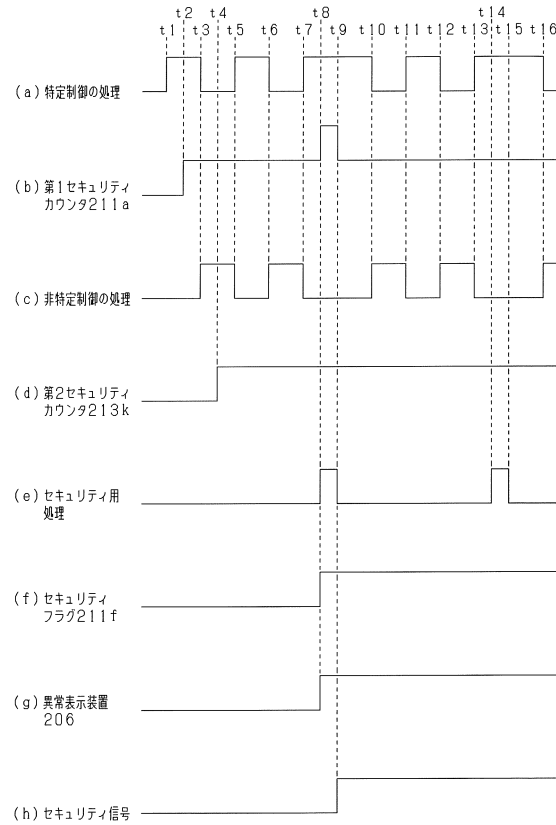
40

50

【図 1 0 1】



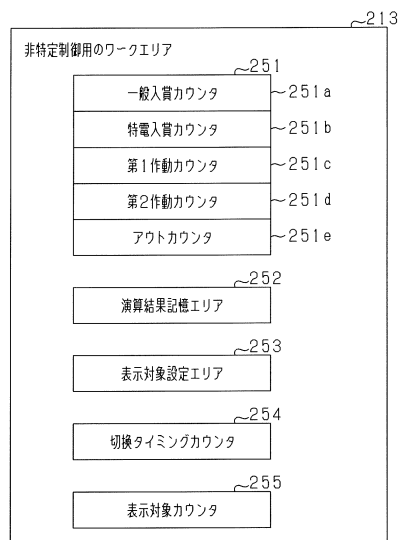
【図 1 0 2】



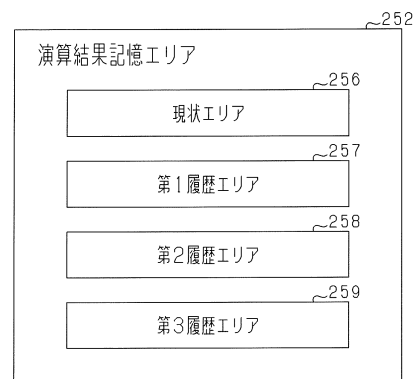
10

20

【図 1 0 3】



【図 1 0 4】

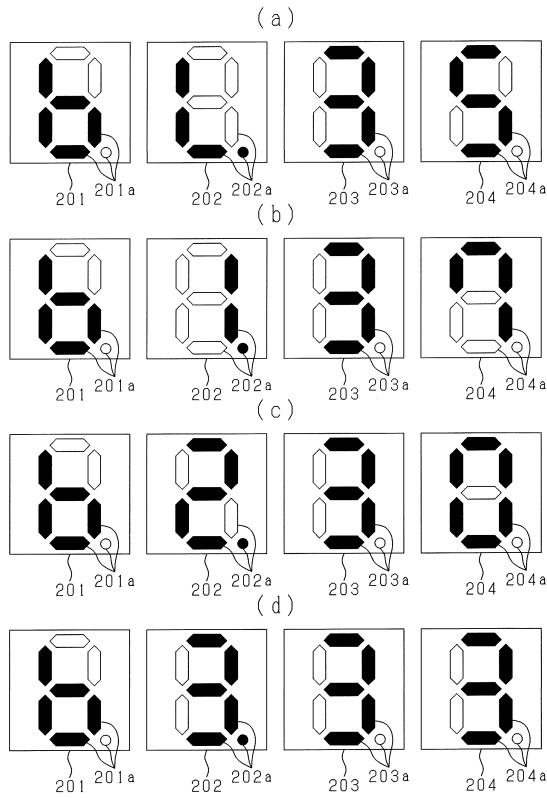


30

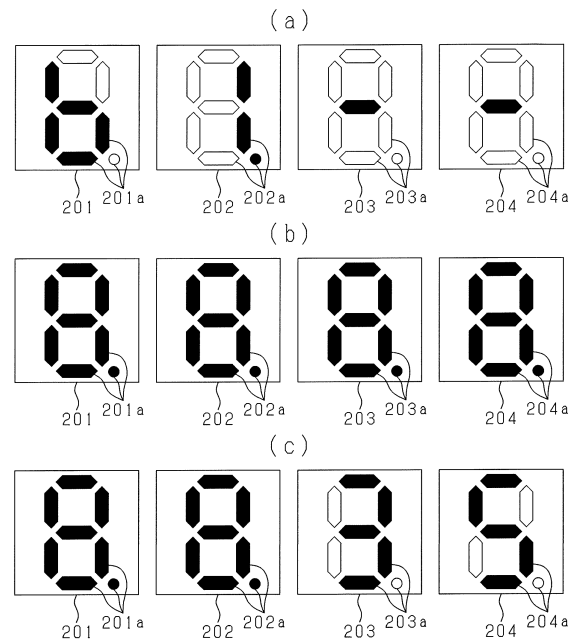
40

50

【図 105】



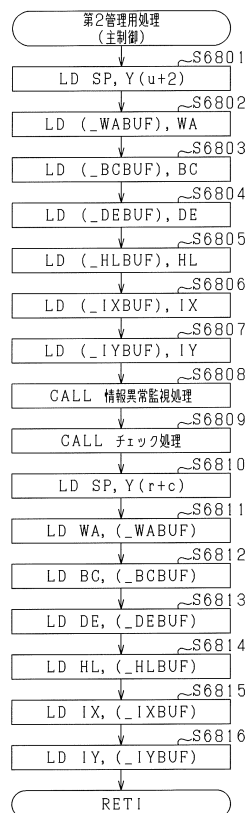
【図 106】



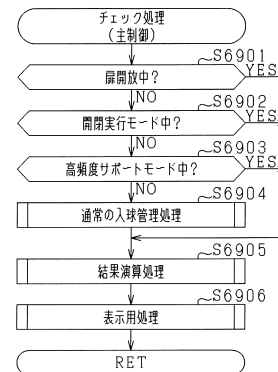
10

20

【図 107】



【図 108】

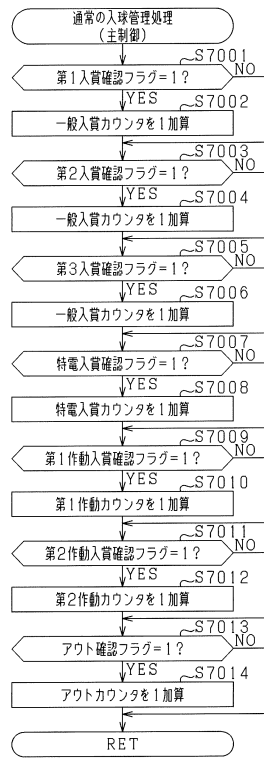


30

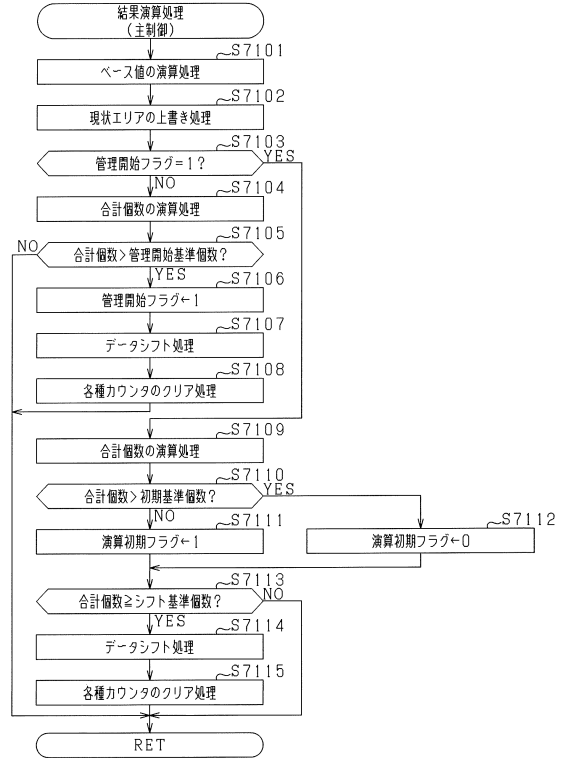
40

50

【図 1 0 9】



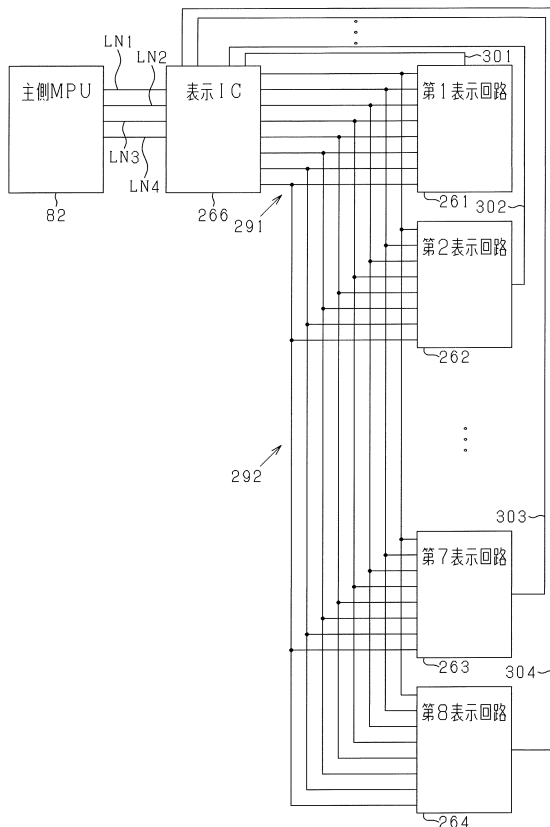
【図 1 1 0】



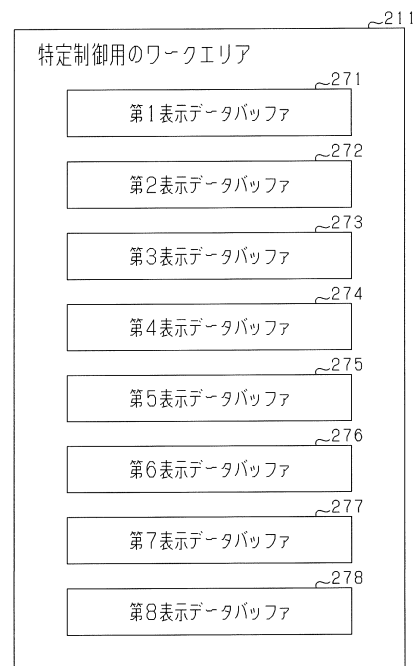
10

20

【図 1 1 1】



【図 1 1 2】

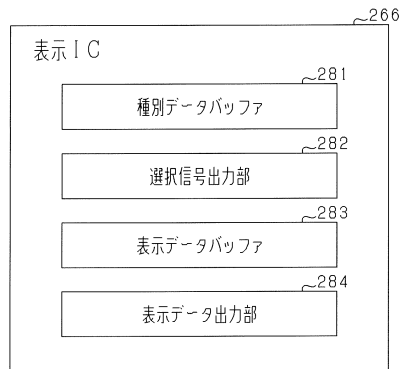


30

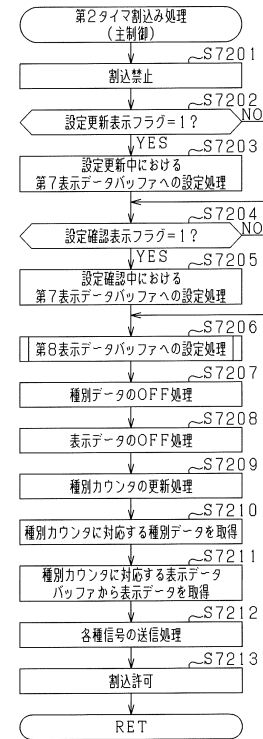
40

50

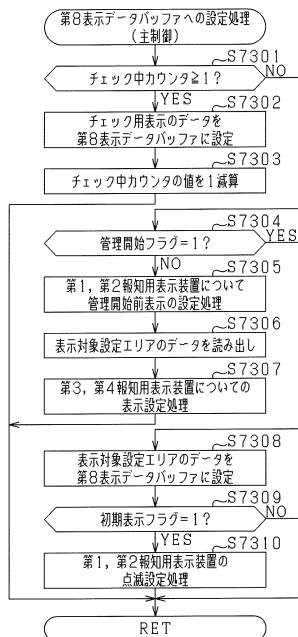
【図 1 1 3】



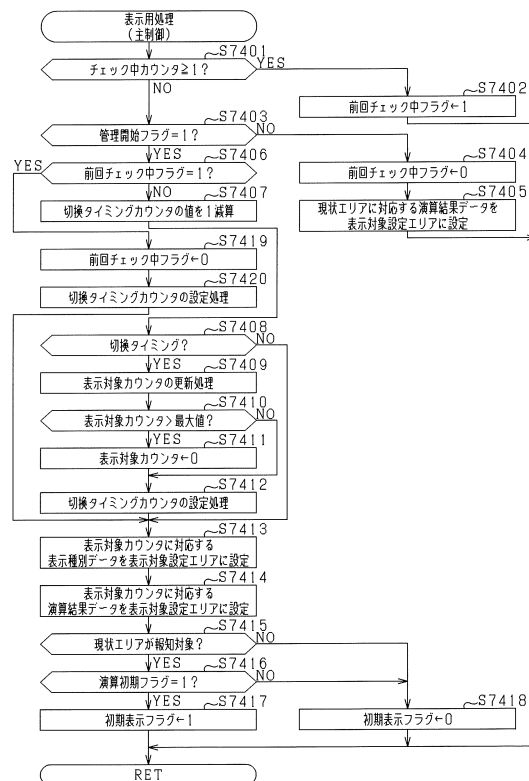
【図 1 1 4】



【図 1 1 5】



【図 1 1 6】



10

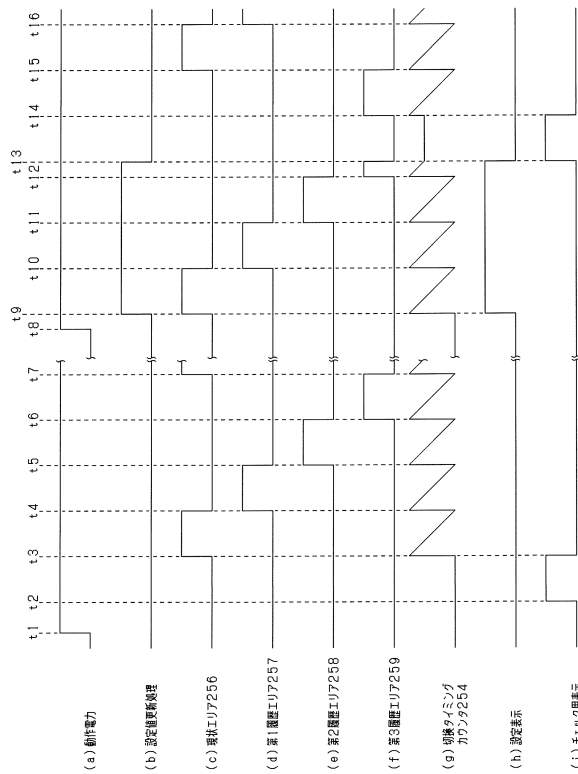
20

30

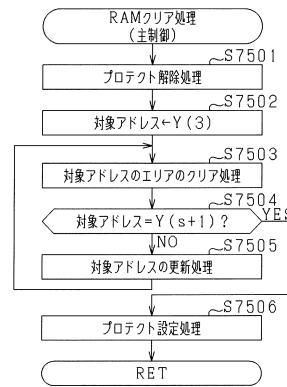
40

50

【図 1 1 7】



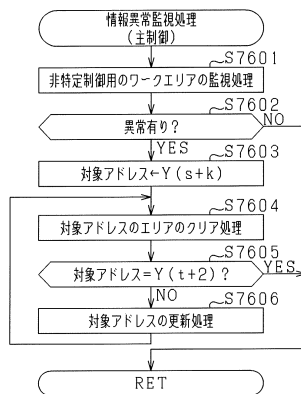
【図 1 1 8】



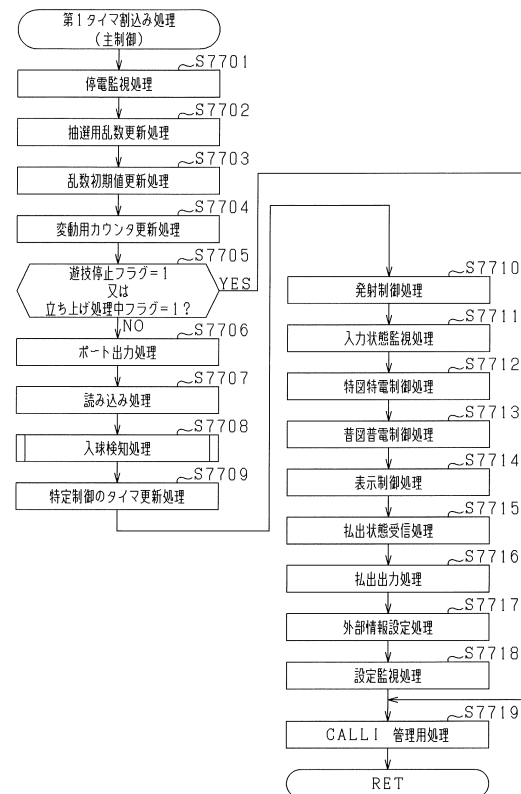
10

20

【図 1 1 9】



【図 1 2 0】

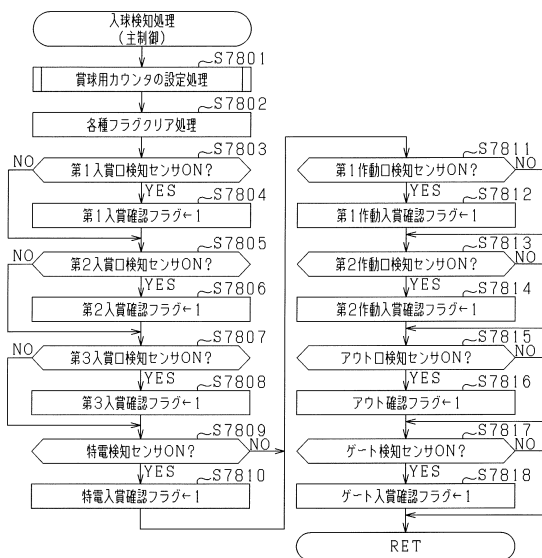


30

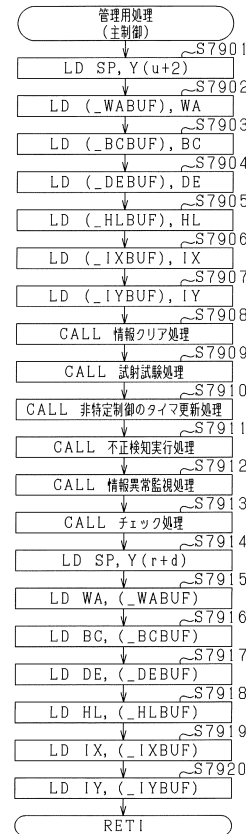
40

50

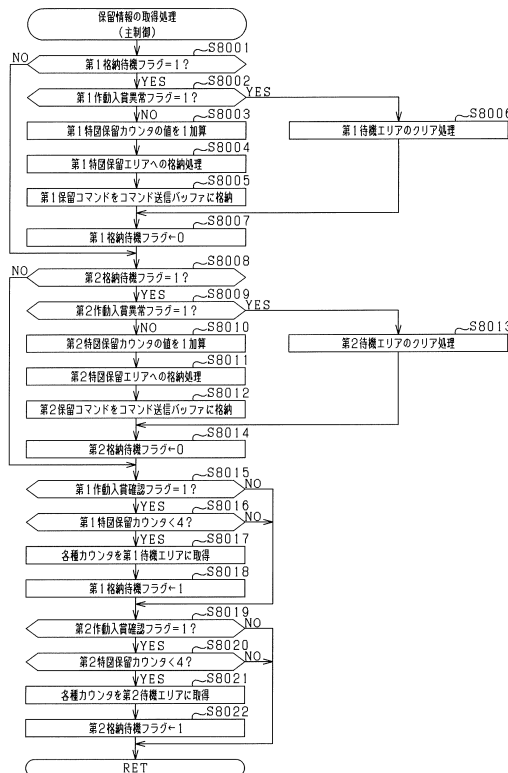
【図 1 2 1】



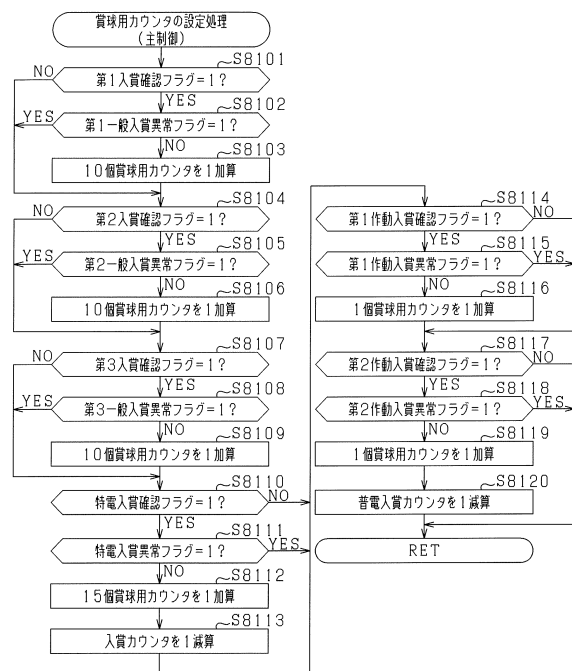
【図 1 2 2】



【図 1 2 3】



【図 1 2 4】



10

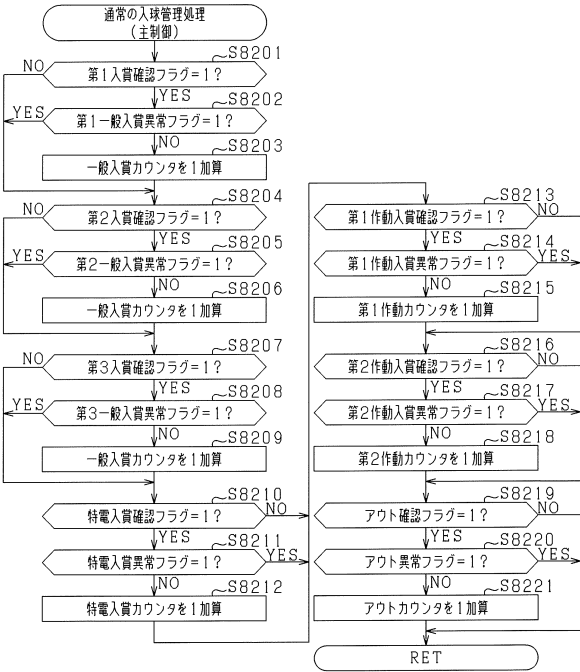
20

30

40

50

【図 1 2 5】



【図 1 2 6】

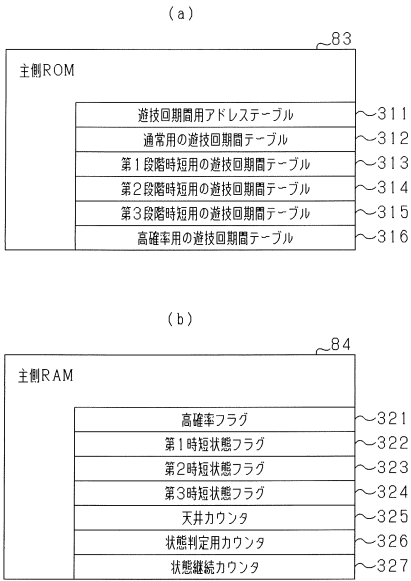
(a)

サポートモード	昔回当否判定	昔回の変動期間	昔電置放状態
低頻度サポートモード	昔回側の低確率モード	長期間	低期待度モード
第1高頻度サポートモード	昔回側の高確率モード	短期間	高期待度モード
第2高頻度サポートモード	昔回側の低確率モード	短期間	高期待度モード

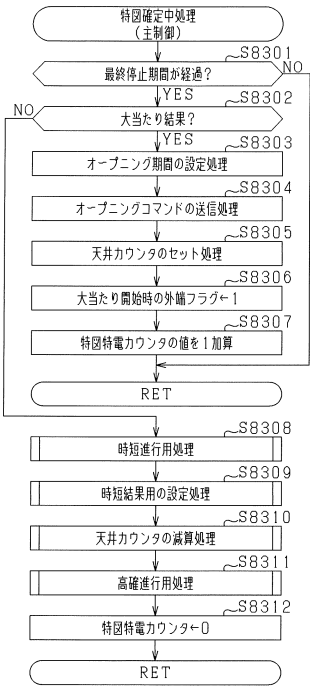
(b)

時短の種類	発生契機	サポートモード	継続回数	優先度
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回	高
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回	中
第3時短状態ST3	時短結果	第2高頻度サポートモード	50回	低

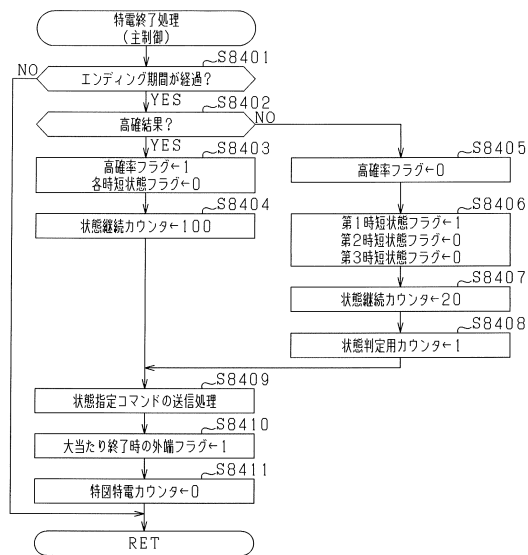
【図 1 2 7】



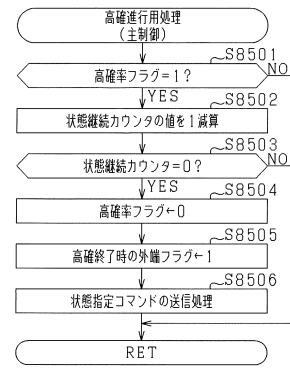
【図 1 2 8】



【図 1 2 9】



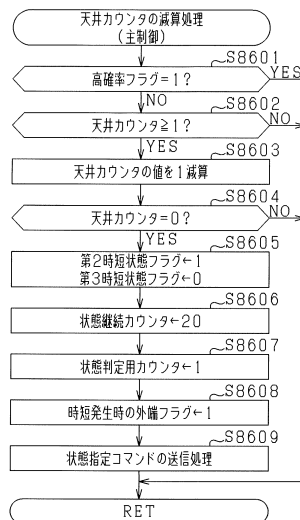
【図 1 3 0】



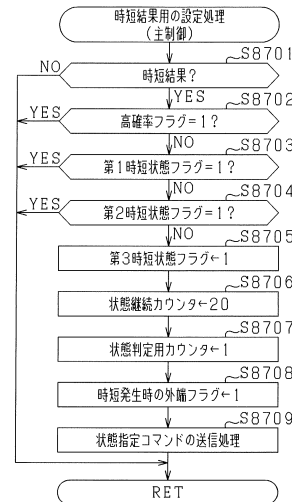
10

20

【図 1 3 1】



【図 1 3 2】

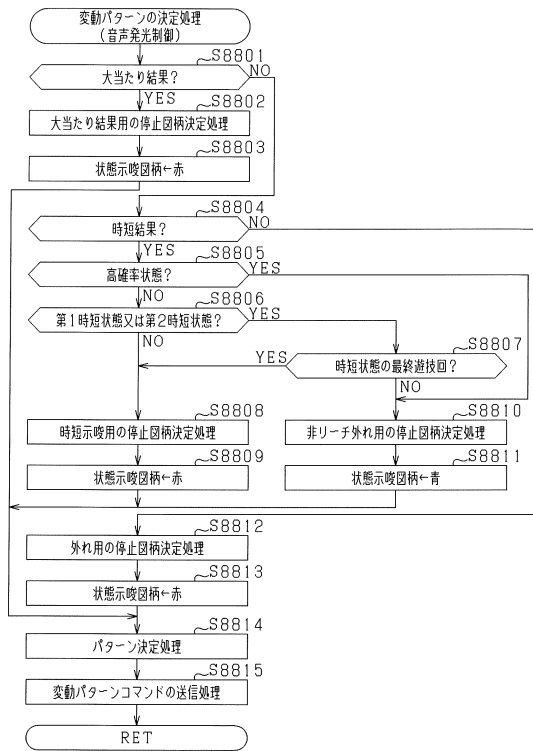


30

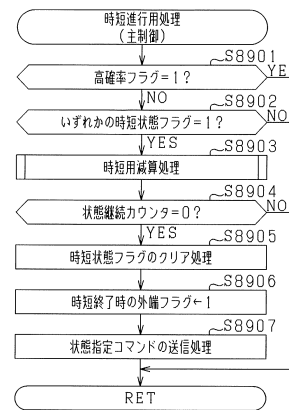
40

50

【図 1 3 3】



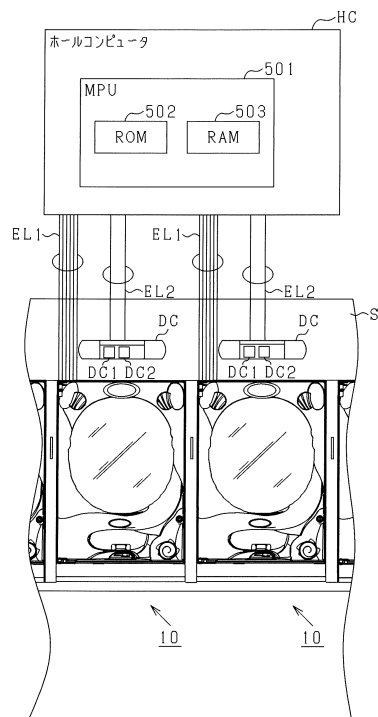
【図 1 3 4】



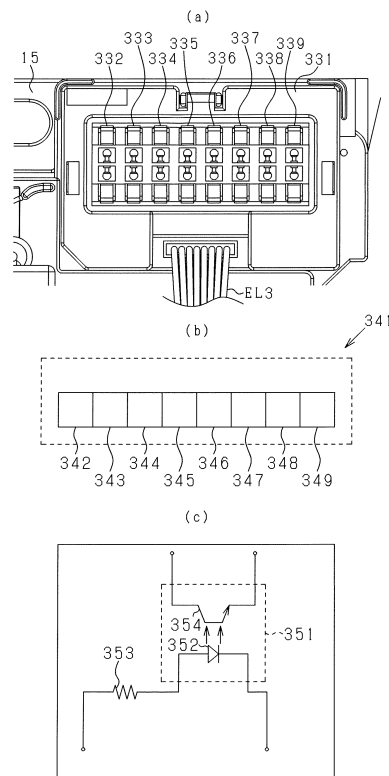
10

20

【図 1 3 5】



【図 1 3 6】

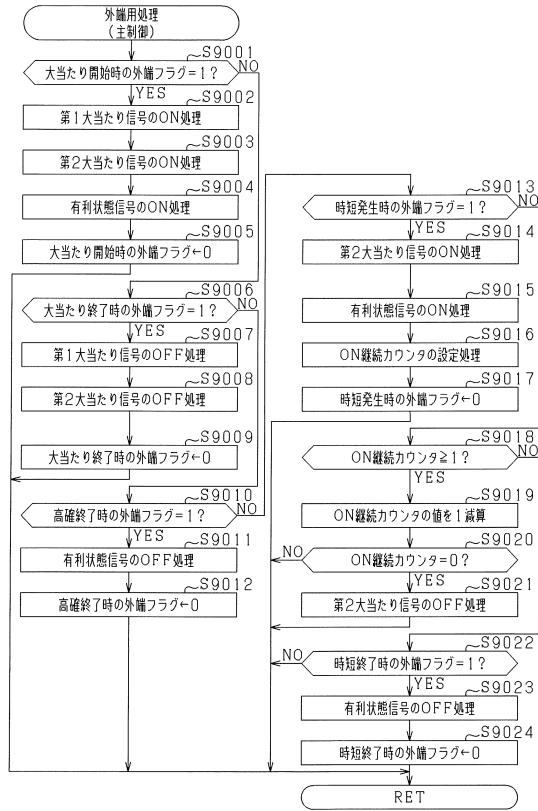


30

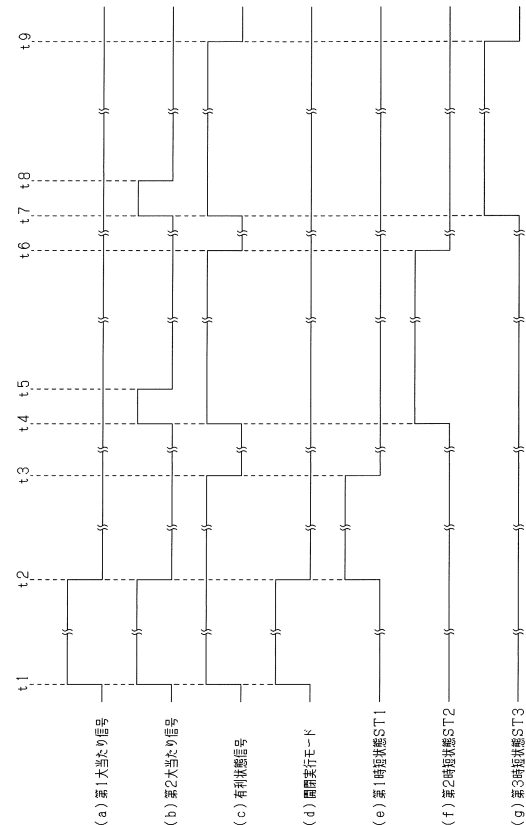
40

50

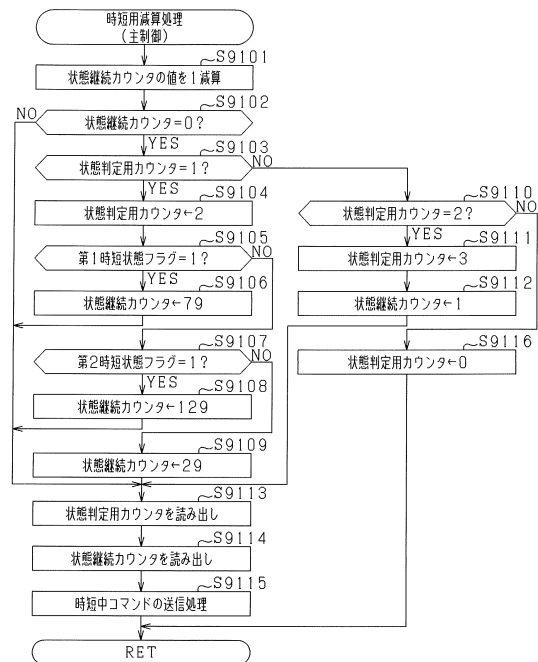
【図 1 3 7】



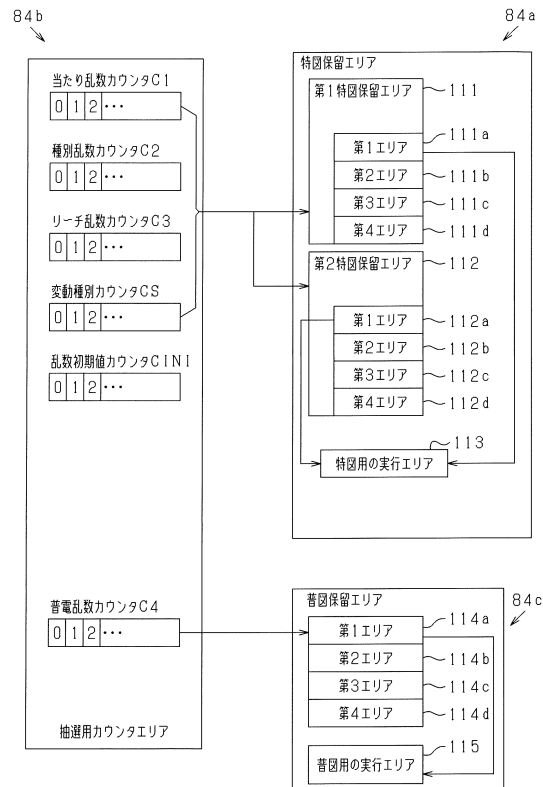
【図 1 3 8】



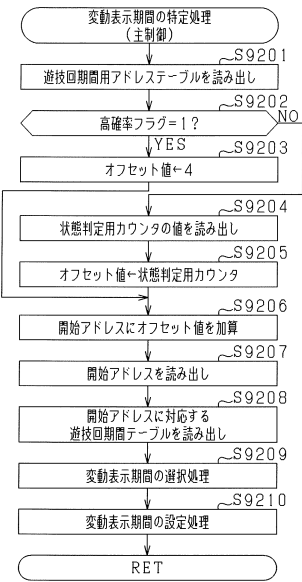
【図 1 3 9】



【図 1 4 0】



【図 1 4 1】



【図 1 4 2】

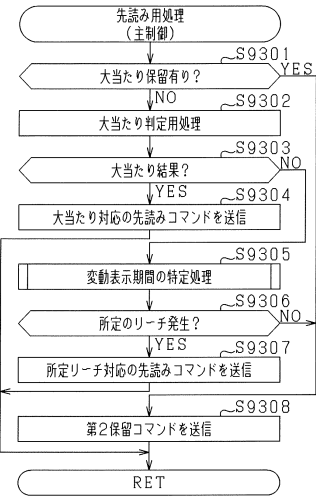
311

アドレス	データ
00A0H	通常用の開始アドレス
00A1H	第1段階時短用の開始アドレス
00A2H	第2段階時短用の開始アドレス
00A3H	第3段階時短用の開始アドレス
00A4H	高確率用の開始アドレス

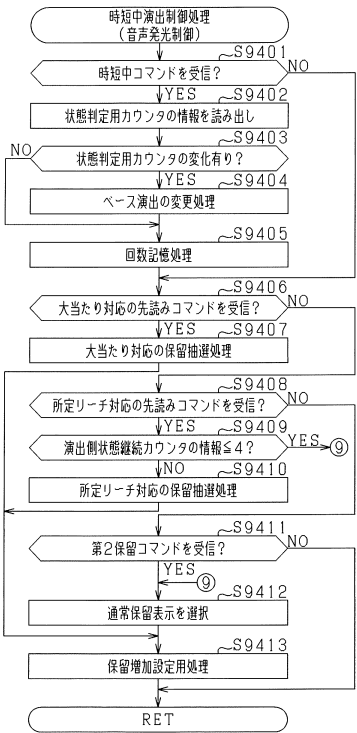
10

20

【図 1 4 3】



【図 1 4 4】

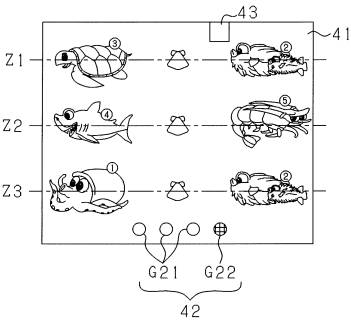


30

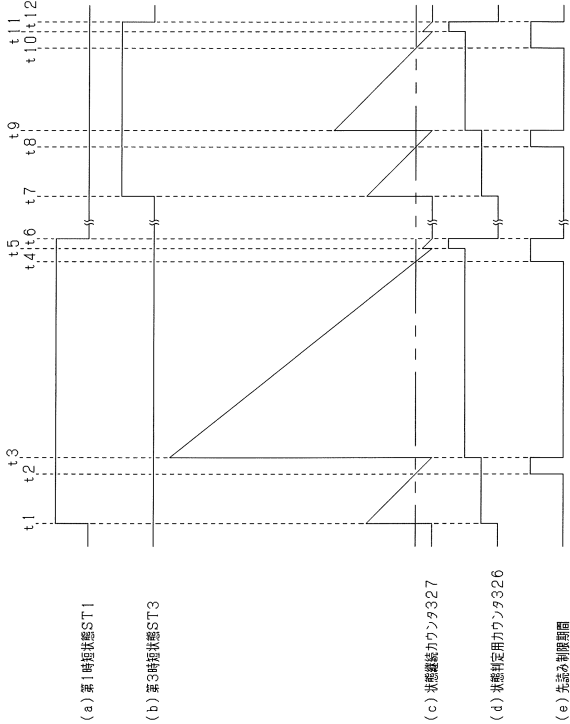
40

50

【図 1 4 5】



【図 1 4 6】



【図 1 4 7】

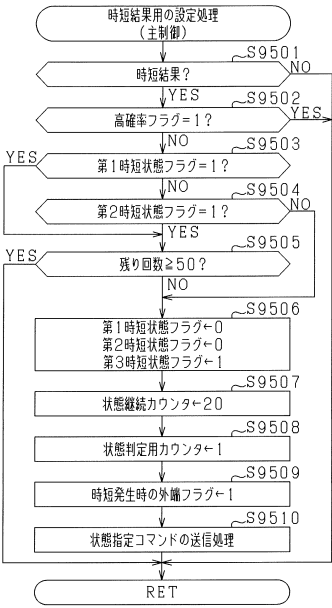
(a)

時短の種類	発生契機	サポートモード	継続回数	優先度
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回	低
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回	高
第3時短状態ST3	時短結果	第2高頻度サポートモード	50回	中

(b)

時短の種類	発生契機	サポートモード	継続回数	優先度
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回	2
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回	2
第3A時短状態ST31	第1時短結果	第2高頻度サポートモード	50回	1
第3B時短状態ST32	第2時短結果	第2高頻度サポートモード	110回	3

【図 1 4 8】



10

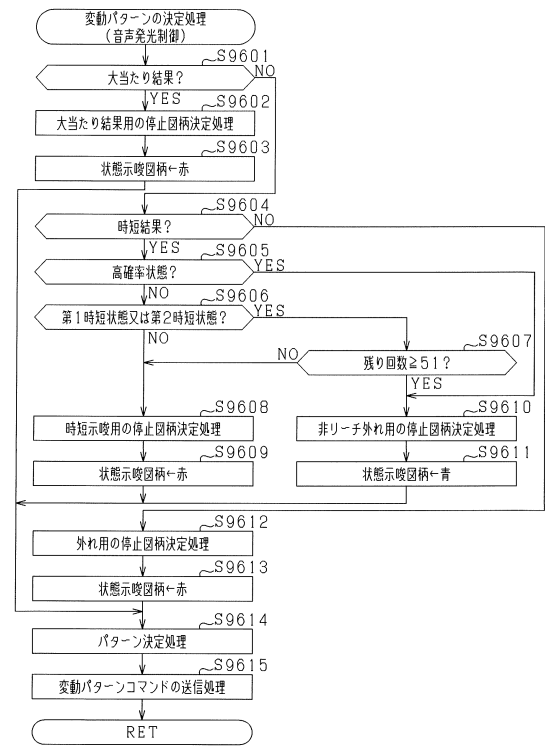
20

30

40

50

【図 1 4 9】



【図 1 5 0】

(a) 低確率時の第1当否テーブル

抽選結果	当たり乱数カウンタC1
大当たり結果	54個
小当たり結果	100個
時短結果	100個
外れ結果	9746個

(b) 低確率時の第2当否テーブル

抽選結果	当たり乱数カウンタC1
大当たり結果	54個
小当たり結果	2000個
時短結果	120個
外れ結果	7826個

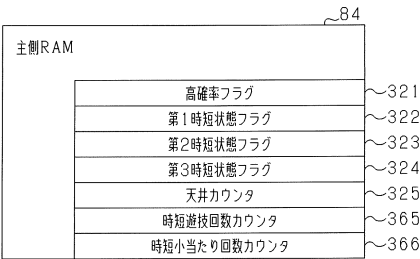
(c) 高確率時の当否テーブル

抽選結果	当たり乱数カウンタC1
大当たり結果	540個
小当たり結果	2000個
外れ結果	7460個

【図 1 5 1】

時短の種類	発生契機	サポートモード	終了条件
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	10回の小当たり結果発生 又は 100回の遊技回消化
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	15回の小当たり結果発生 又は 150回の遊技回消化
第3時短状態ST3	時短結果	第2高頻度サポートモード	5回の小当たり結果発生 又は 50回の遊技回消化

【図 1 5 2】



10

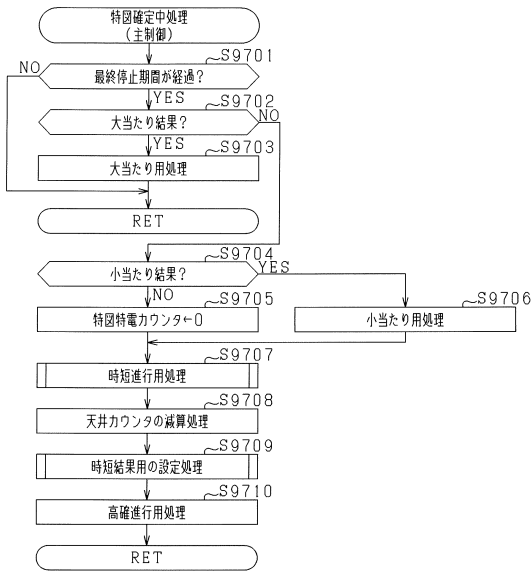
20

30

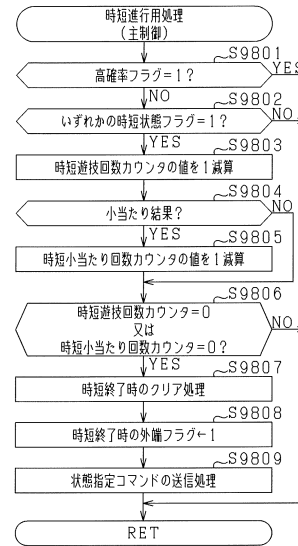
40

50

【図 153】



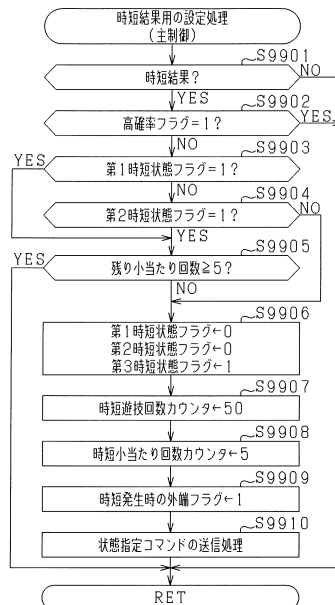
【図 154】



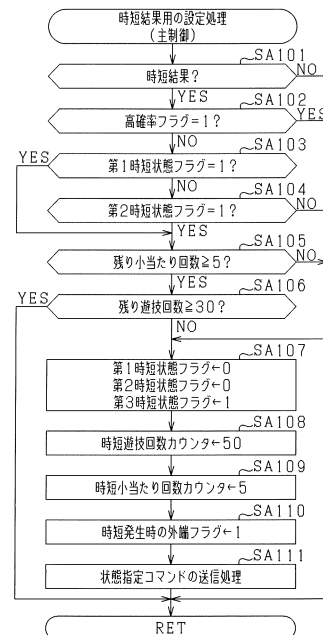
10

20

【図 155】



【図 156】



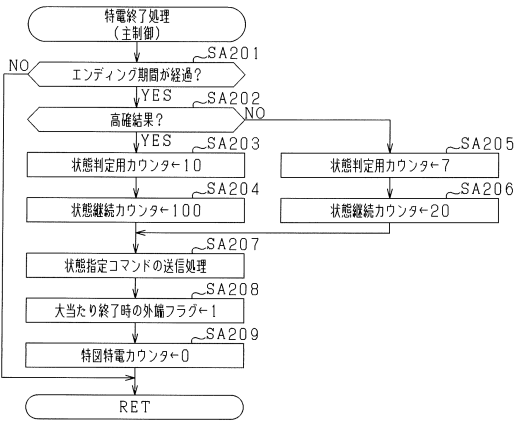
30

40

【図 1 5 7】

状態判定用カウンタ326	遊技状態	
0	通常遊技状態	
1	第3時短状態ST3	第1段階
2		第2段階
3		第3段階
4	第2時短状態ST2	第1段階
5		第2段階
6		第3段階
7	第1時短状態ST1	第1段階
8		第2段階
9		第3段階
10	高確率状態	

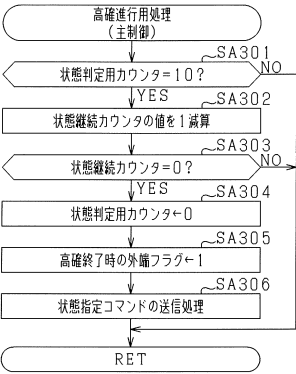
【図 1 5 8】



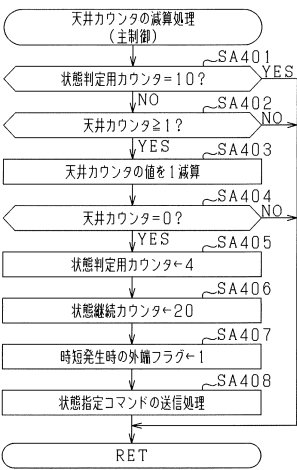
10

20

【図 1 5 9】



【図 1 6 0】

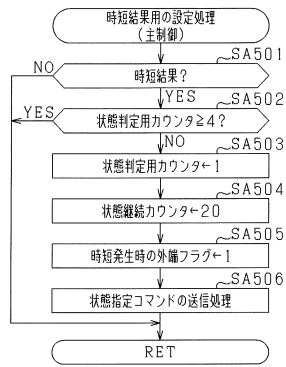


30

40

50

【図 1 6 1】



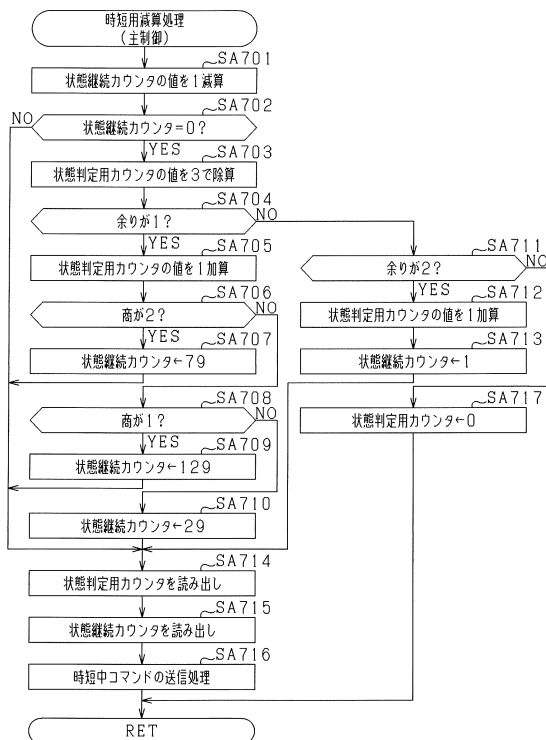
【図 1 6 2】



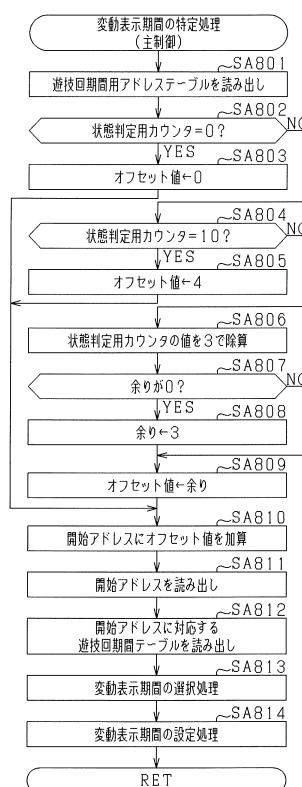
10

20

【図 1 6 3】



【図 1 6 4】



30

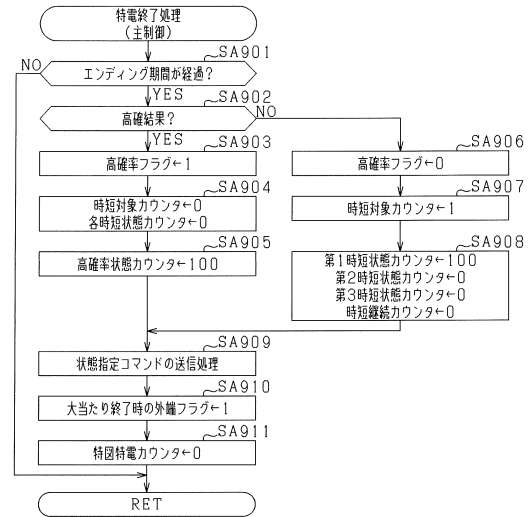
40

50

【図 1 6 5】



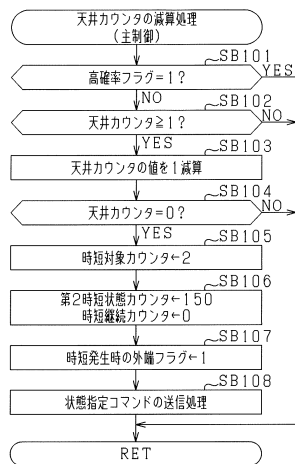
【図 1 6 6】



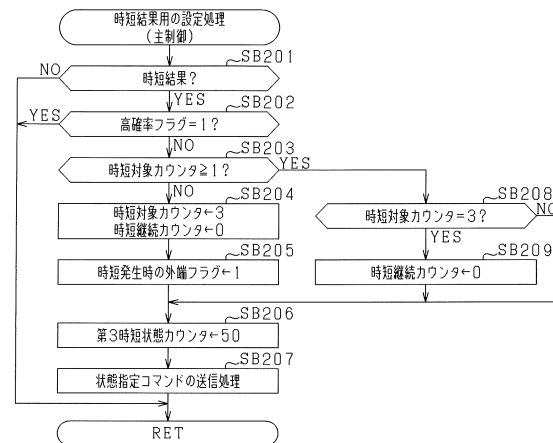
10

20

【図 1 6 7】



【図 1 6 8】

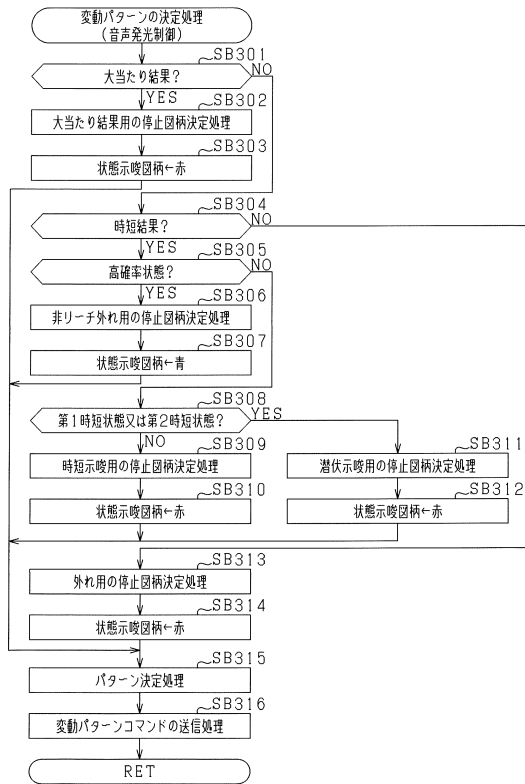


30

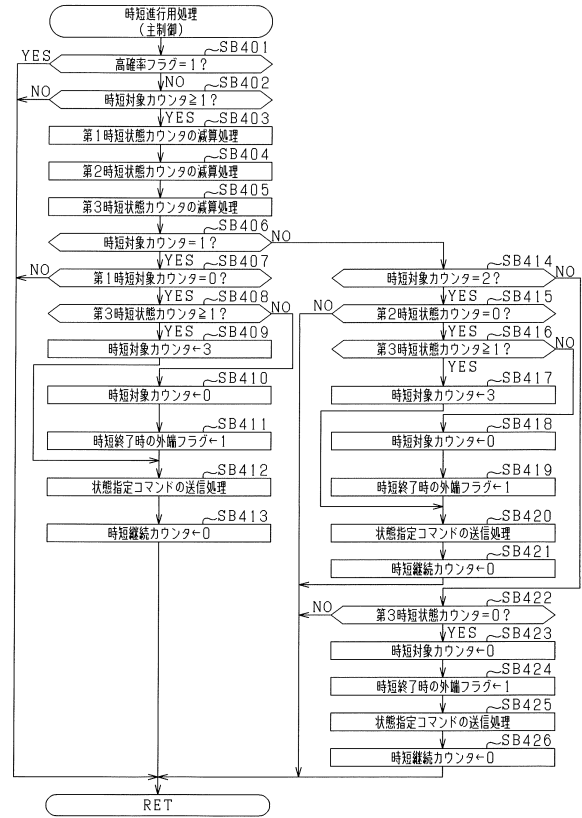
40

50

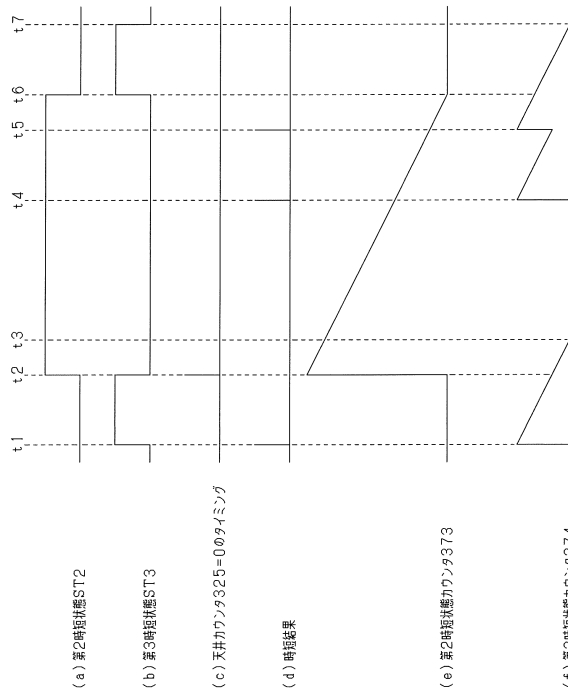
【図 169】



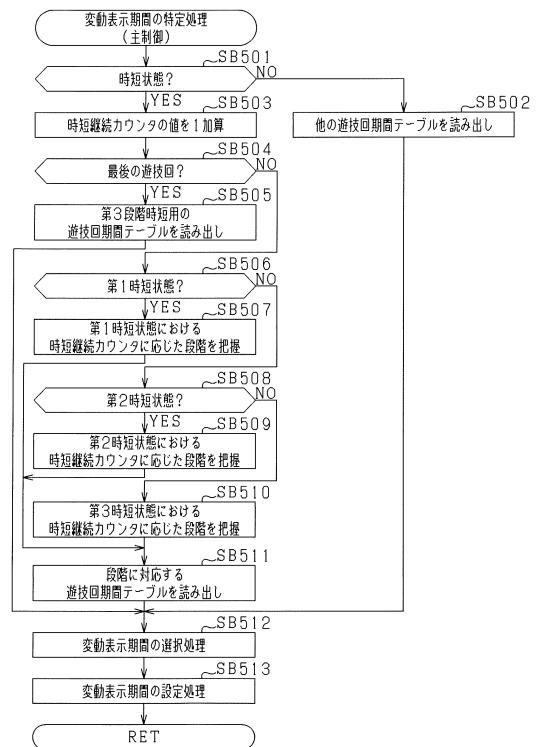
【図 170】



【図 171】



【図 172】



10

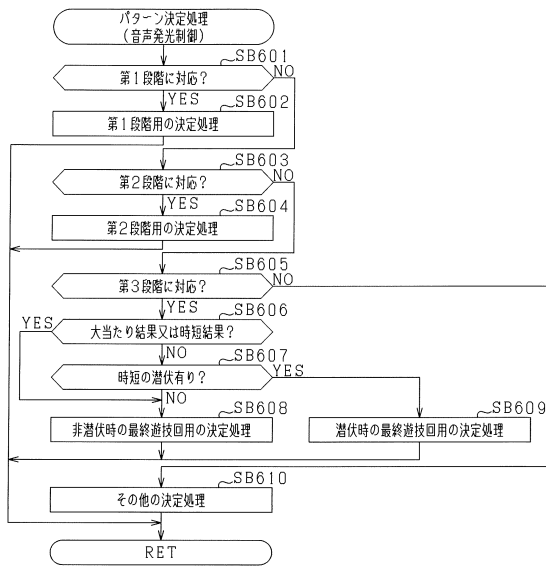
20

30

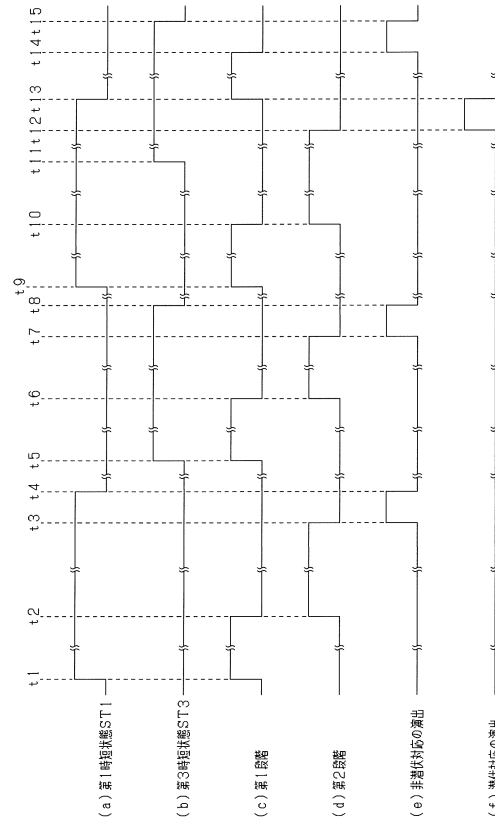
40

50

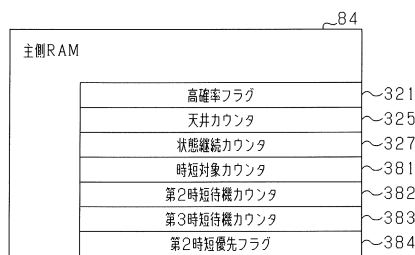
【図 173】



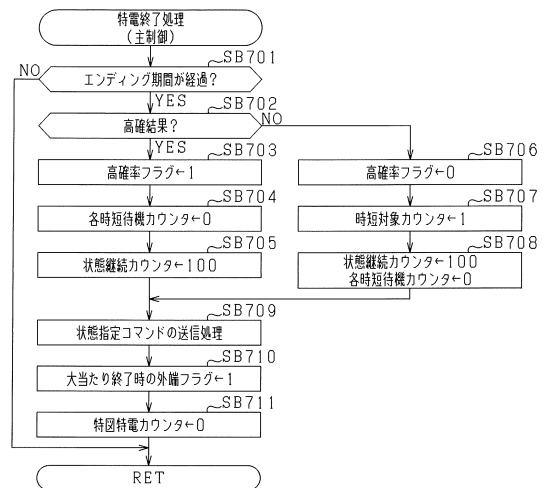
【図 174】



【図 175】



【図 176】



10

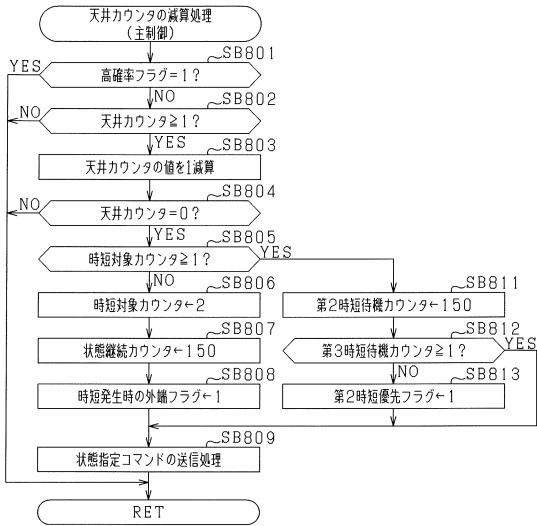
20

30

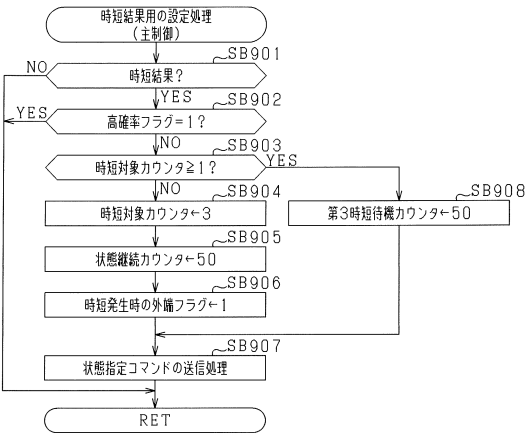
40

50

【図 1 7 7】



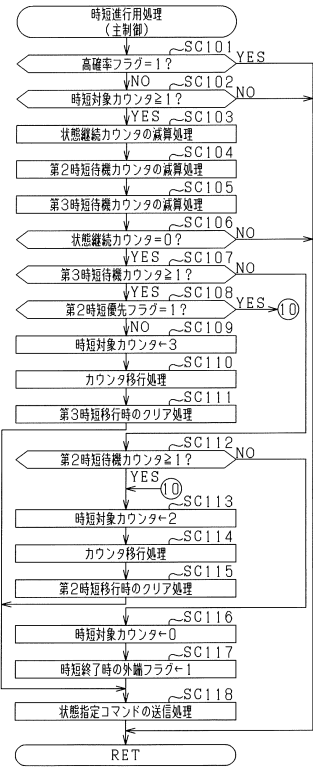
【図 1 7 8】



10

20

【図 1 7 9】



【図 1 8 0】

(a)

時短の種類	発生契機	サポートモード	継続回数
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回
第3A時短状態ST3A	第1時短結果	第2高頻度サポートモード	50回
第3B時短状態ST3B	第2時短結果	第2高頻度サポートモード	100回
第3C時短状態ST3C	第3時短結果	第2高頻度サポートモード	130回

(b) 第1特管用の時短振分テーブル

種別乱数カウンタC2	時短結果の種類
0~9	第1時短結果
10~19	第2時短結果
20~29	第3時短結果

(c) 第2特管用の時短振分テーブル

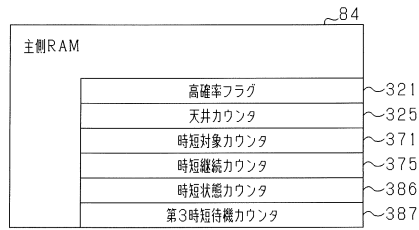
種別乱数カウンタC2	時短結果の種類
0~7	第1時短結果
8~15	第2時短結果
16~29	第3時短結果

30

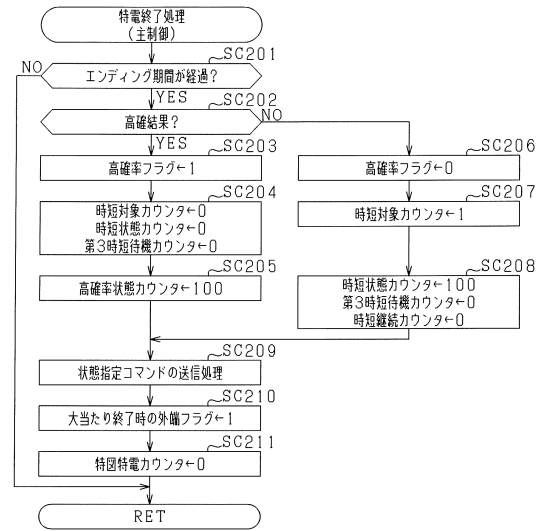
40

50

【図 181】



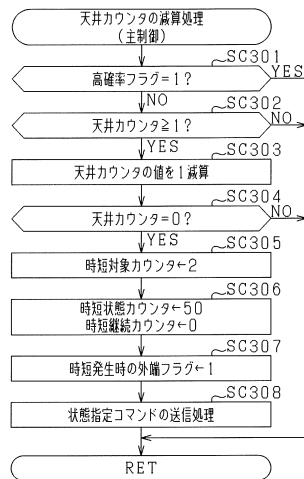
【図 182】



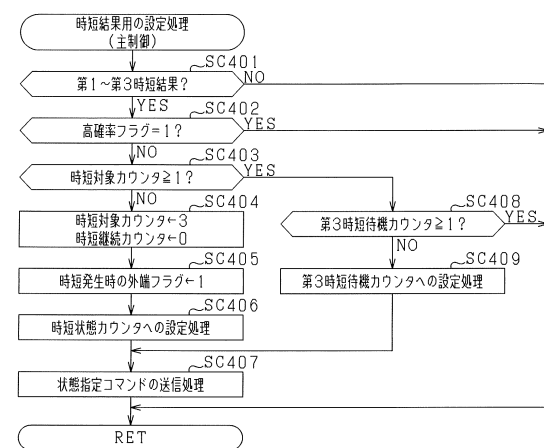
10

20

【図 183】



【図 184】

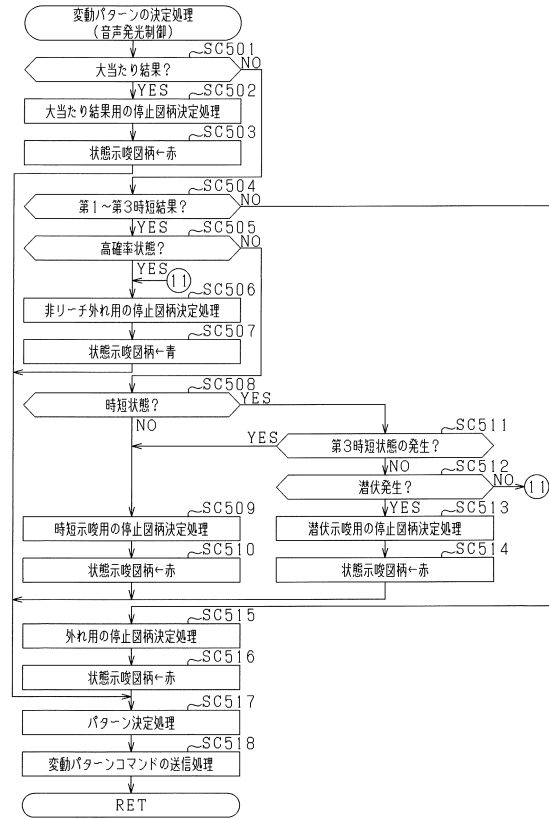


30

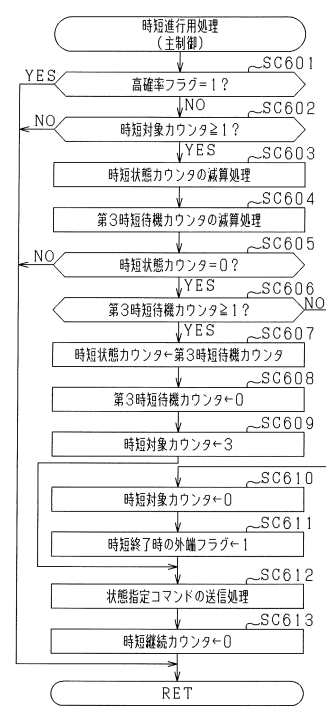
40

50

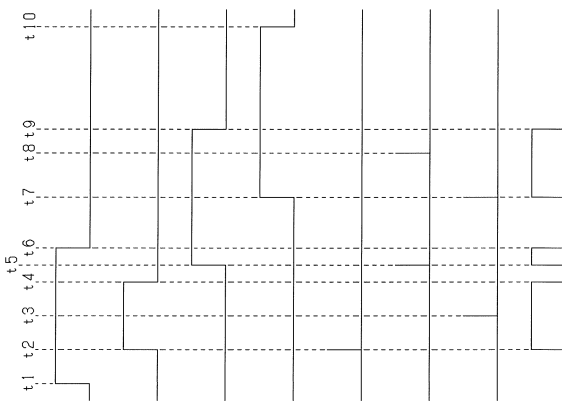
【図 1 8 5】



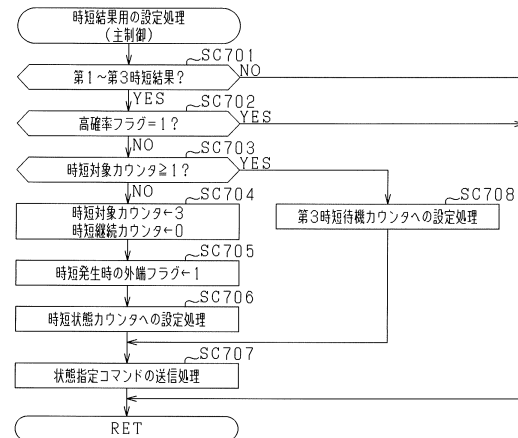
【図 1 8 6】



【図 1 8 7】



【図 1 8 8】



(a) 第1時短状態ST1

(b) 第3A時短状態ST3A

(c) 第3B時短状態ST3B

(d) 第3C時短状態ST3C

(e) 第1時短結果

(f) 第2時短結果

(g) 第3時短結果

(h) 第3時短待機カウンタ3872

10

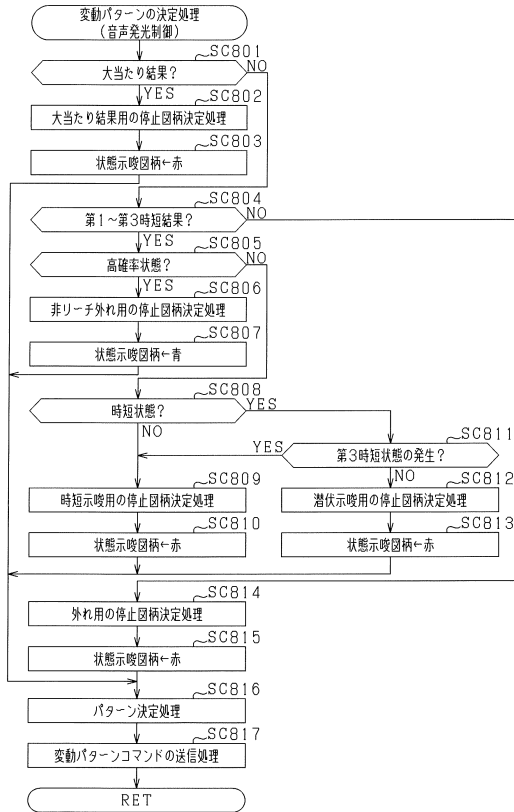
20

30

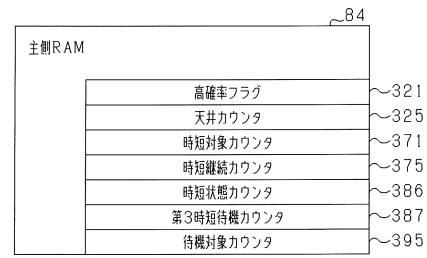
40

50

【図 189】



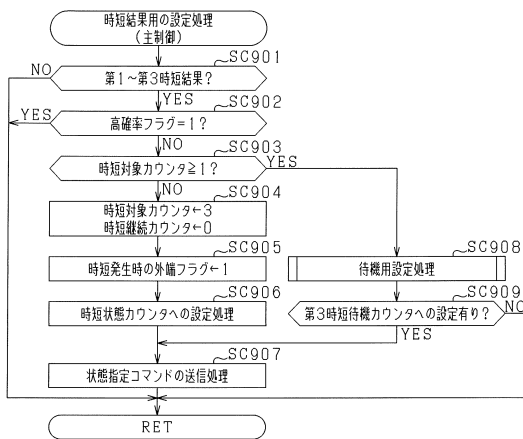
【図 190】



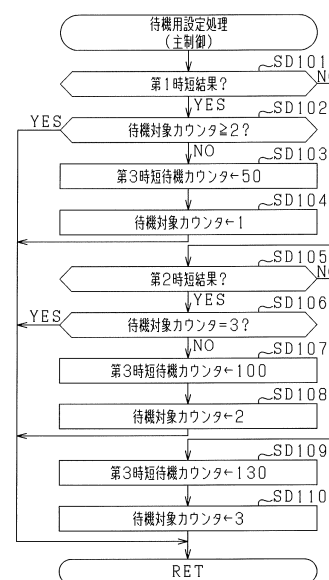
10

20

【図 191】



【図 192】

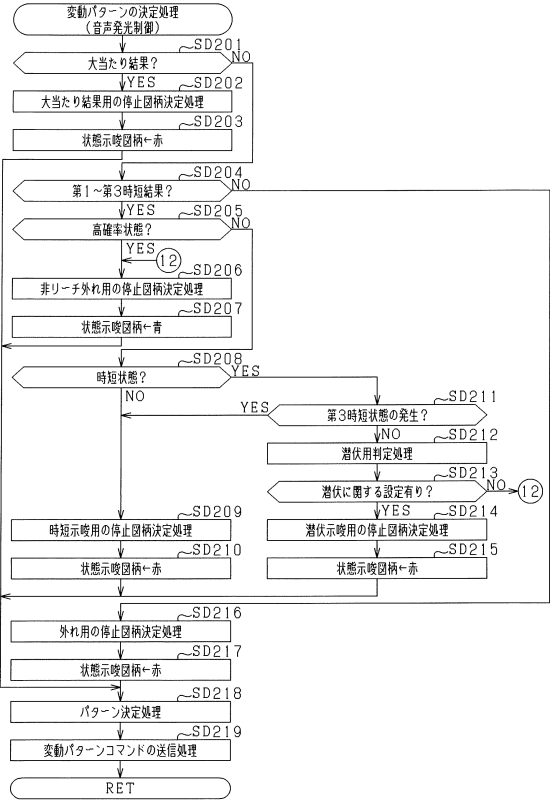


30

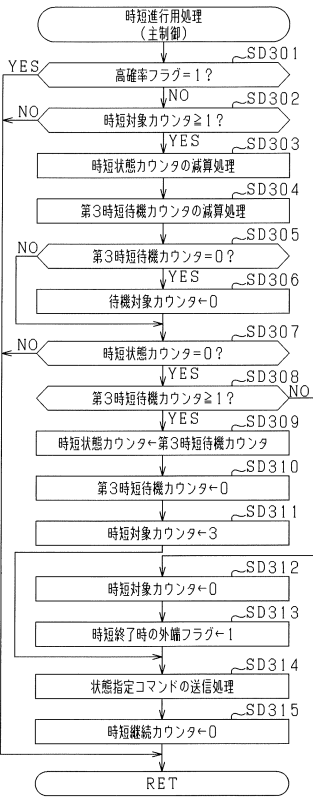
40

50

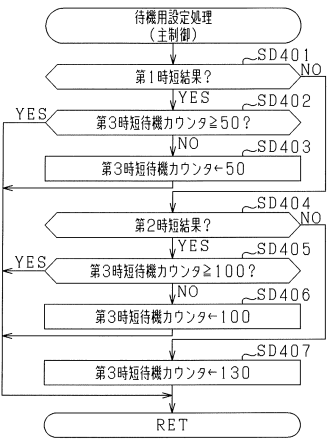
【図 1 9 3】



【図 1 9 4】



【図 1 9 5】



【図 1 9 6】

(a)

サポートモード	普図当否判定	普図の変動期間	普電開放状態
低頻度サポートモード	普図側の低確率モード	長期間	低期待度モード
第1高頻度サポートモード	普図側の高確率モード	短期間	高期待度モード
第2高頻度サポートモード	普図側の低確率モード	短期間	高期待度モード
第3高頻度サポートモード	普図側の高確率モード	中期間	中期期待度モード
第4高頻度サポートモード	普図側の低確率モード	短期間	中期期待度モード
第5高頻度サポートモード	普図側の高確率モード	中期間	高期待度モード

(b)

時短の種類	発生契機	サポートモード	継続回数
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回
第3A時短状態ST41	第1時短結果	第3高頻度サポートモード	50回
第3B時短状態ST42	第2時短結果	第4高頻度サポートモード	100回
第3C時短状態ST43	第3時短結果	第5高頻度サポートモード	130回

10

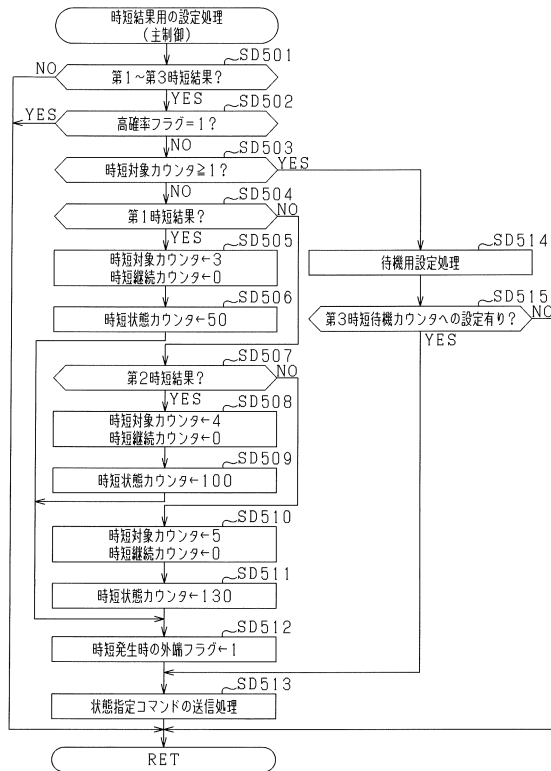
20

30

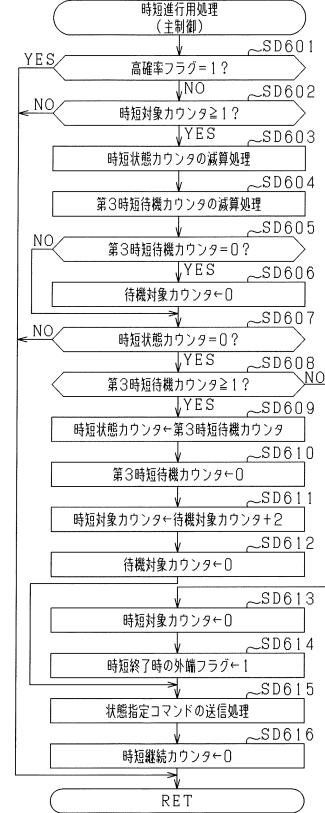
40

50

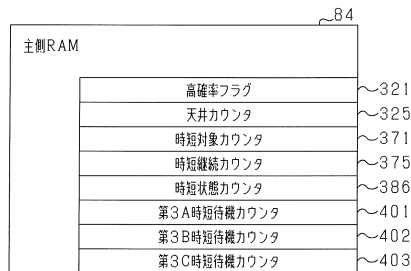
【図 197】



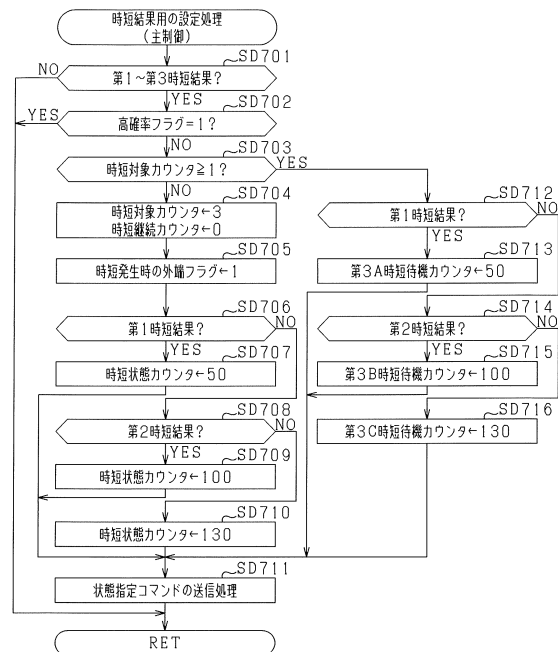
【図 198】



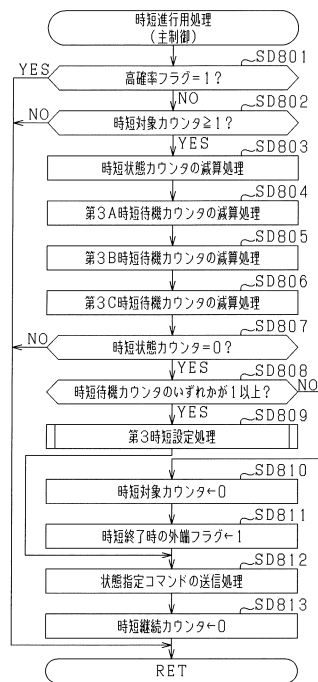
【図 199】



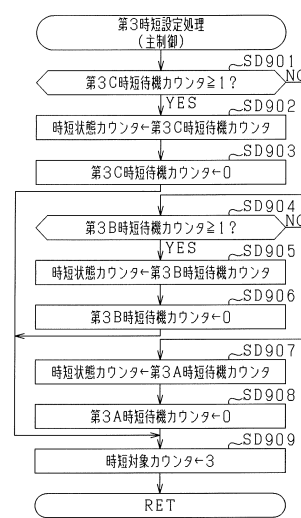
【図 200】



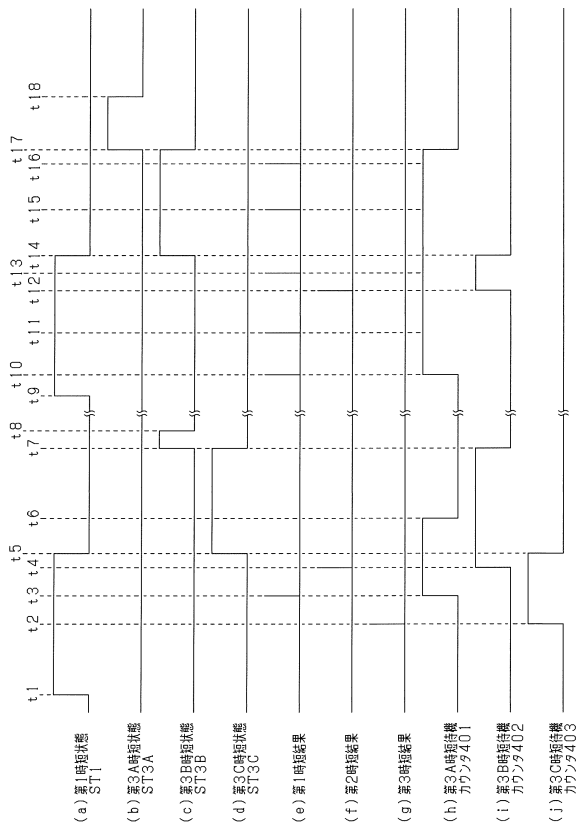
【図 201】



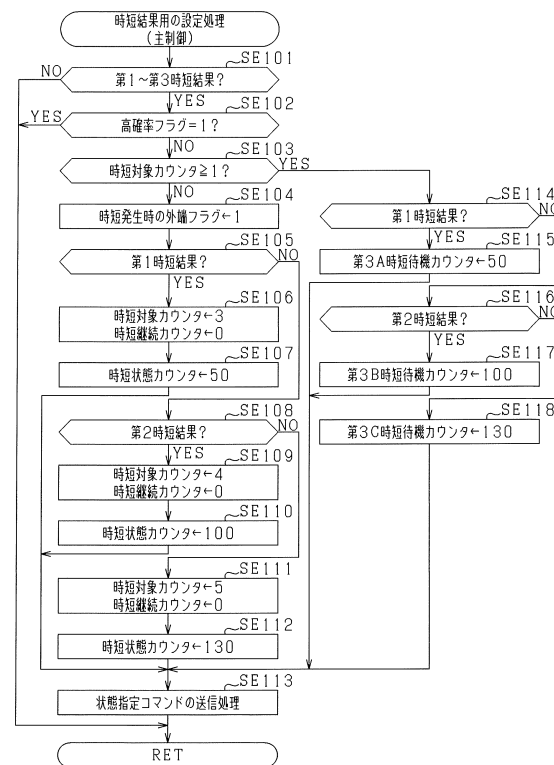
【図 202】



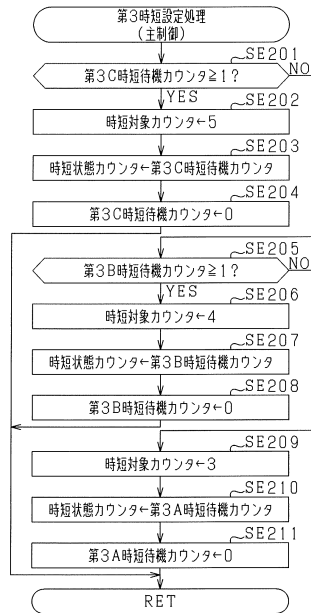
【図 203】



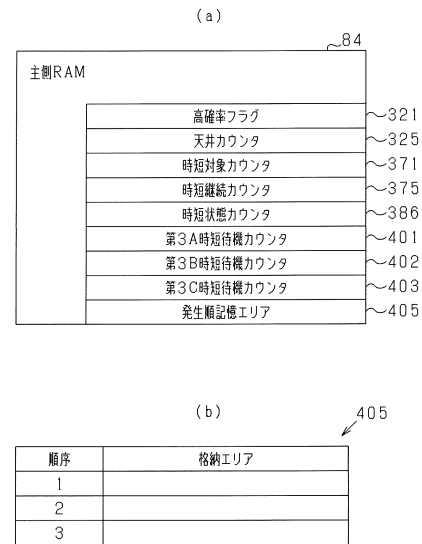
【図 204】



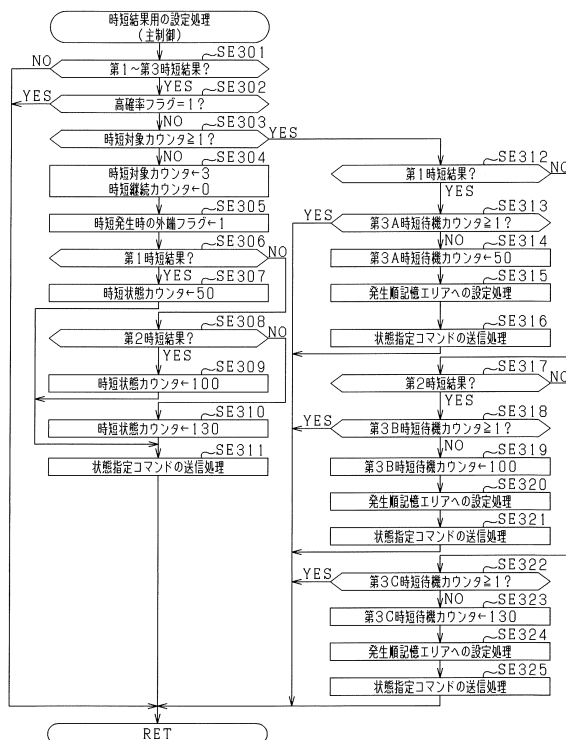
【図 205】



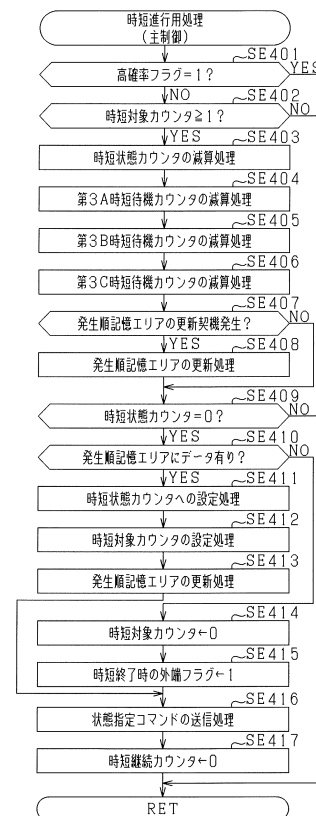
【図 206】



【図 207】



【図 208】



10

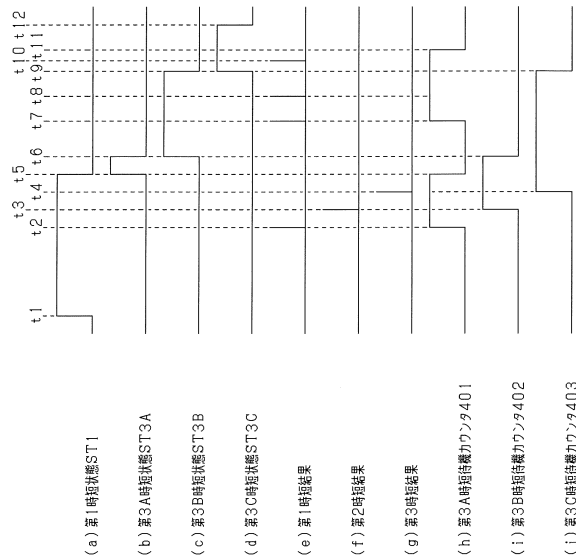
20

30

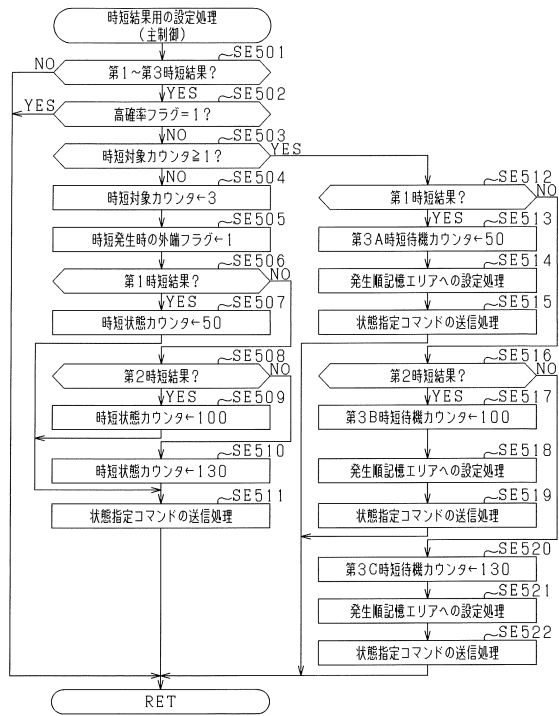
40

50

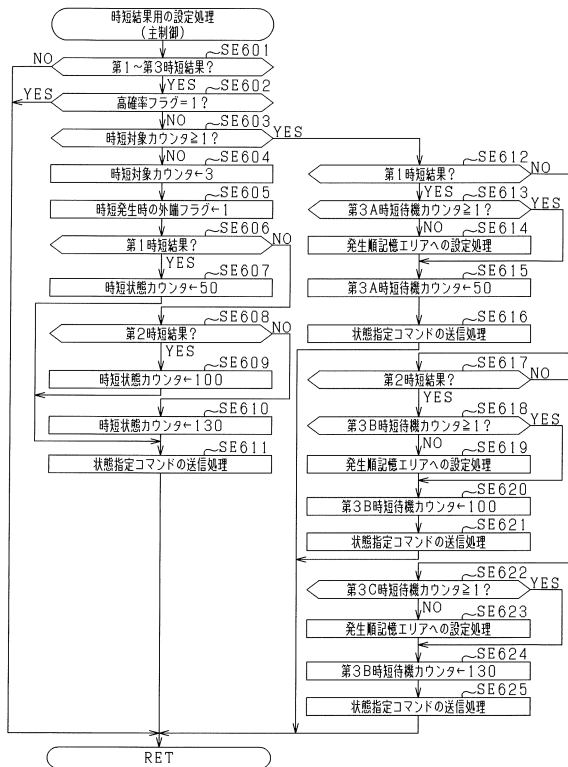
【図 209】



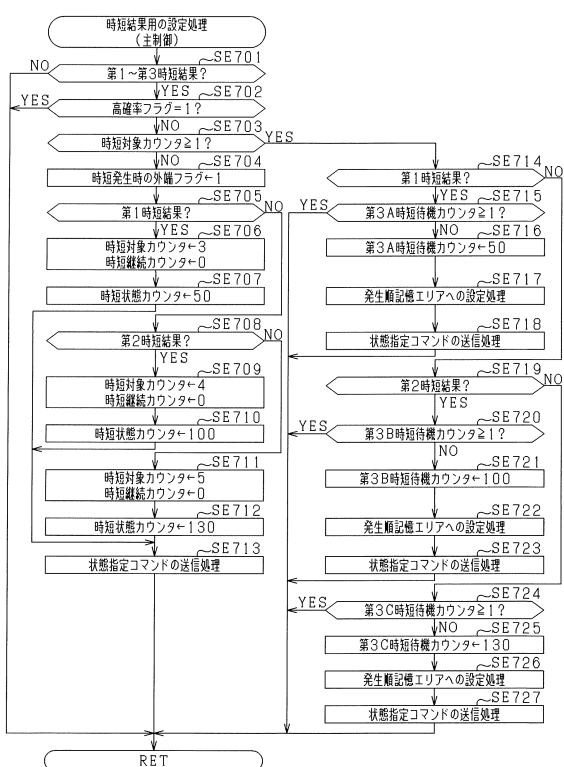
【図 210】



【図 211】



【図 212】



10

20

30

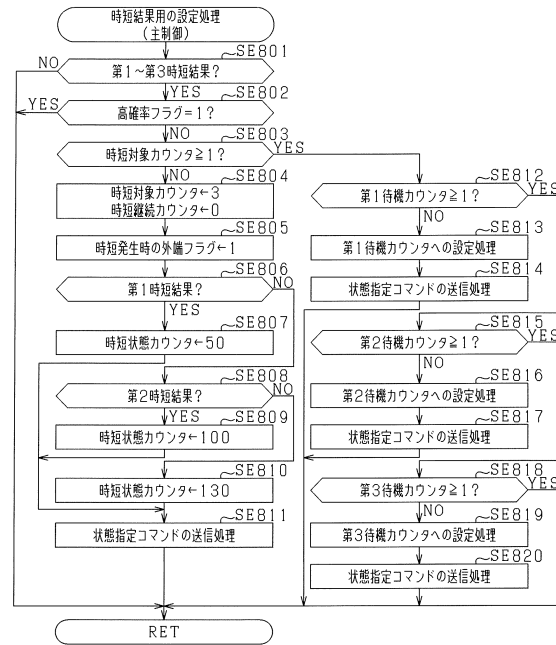
40

50

【図 2 1 3】



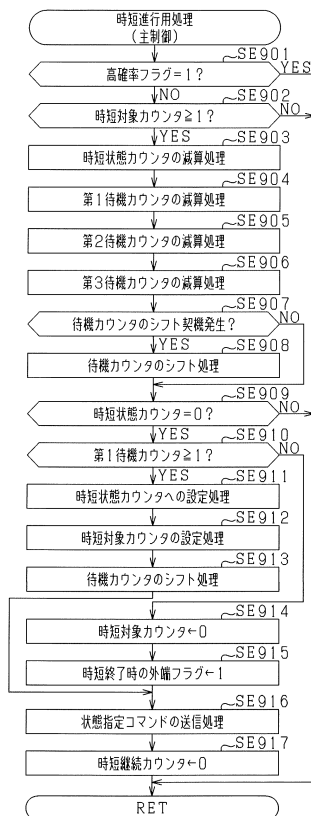
【図 2 1 4】



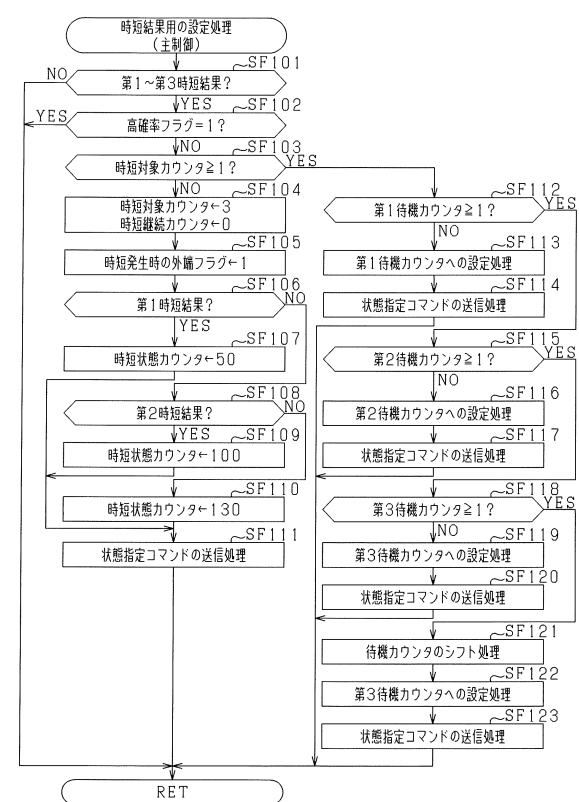
10

20

【図 2 1 5】



【図 2 1 6】

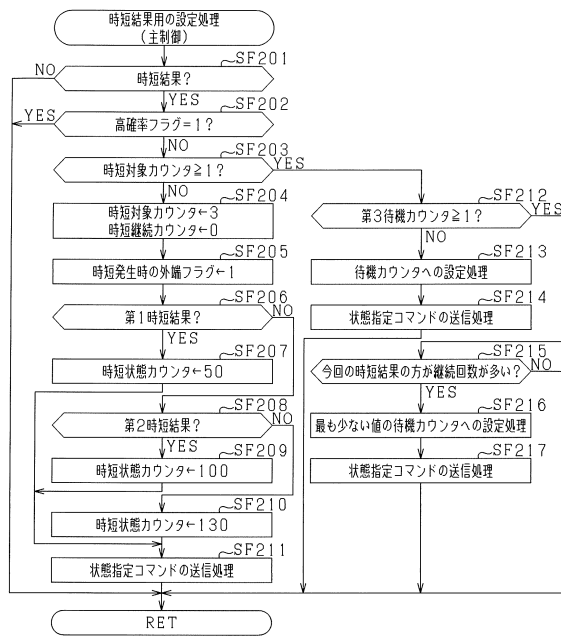


30

40

50

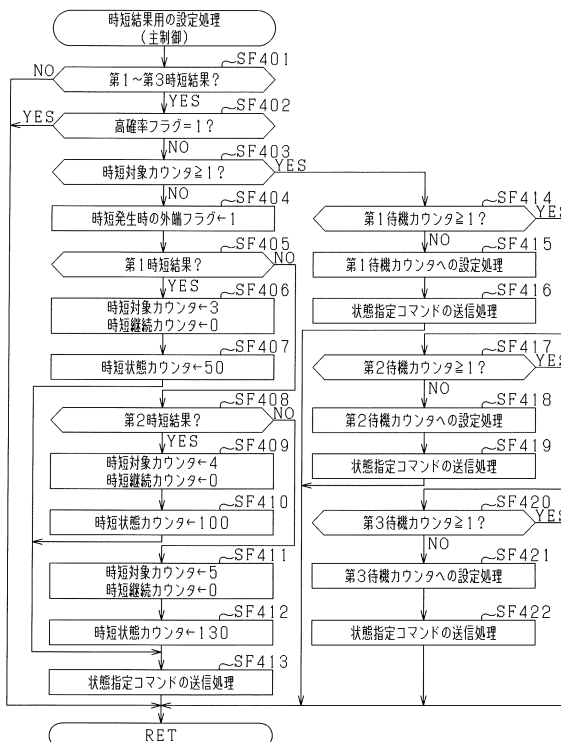
【図 2 1 7】



【図 2 1 8】



【図 2 1 9】



【図 2 2 0】

(a)

サポートモード	音図当否判定	音図の変動期間	音電開放状態
低頻度サポートモード	音図側の低確率モード	長期間	低期待度モード
第1高頻度サポートモード	音図側の高確率モード	短期間	高期待度モード
第2高頻度サポートモード	音図側の低確率モード	短期間	高期待度モード
中頻度サポートモード	音図側の低確率モード	中期間	中期待度モード

(b)

時短の種類	発生契機	サポートモード	終了条件
第1時短状態ST1	大当たり結果	第1高頻度サポートモード	100回の遊技回消化
第2時短状態ST2	天井回数の消化	第2高頻度サポートモード	150回の遊技回消化
第3時短状態ST5	時短結果	中頻度サポートモード	5回の小当たり結果発生 又は 30回の遊技回消化

10

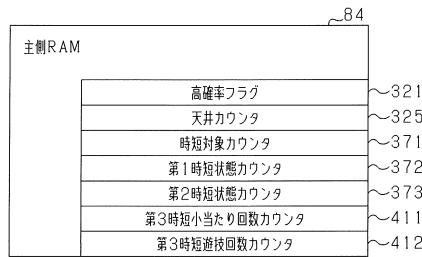
20

30

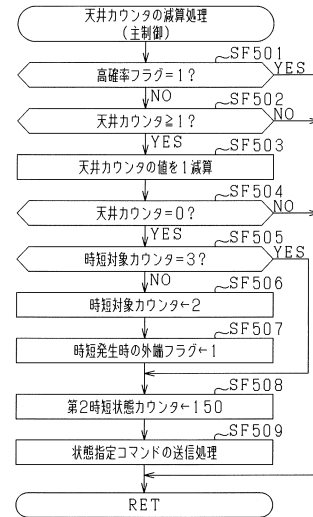
40

50

【図 2 2 1】



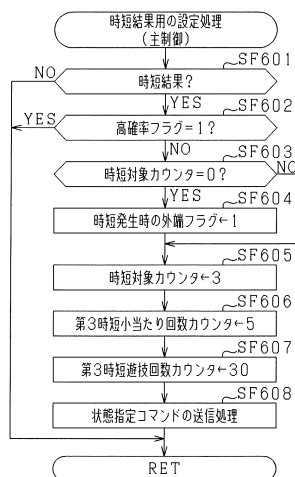
【図 2 2 2】



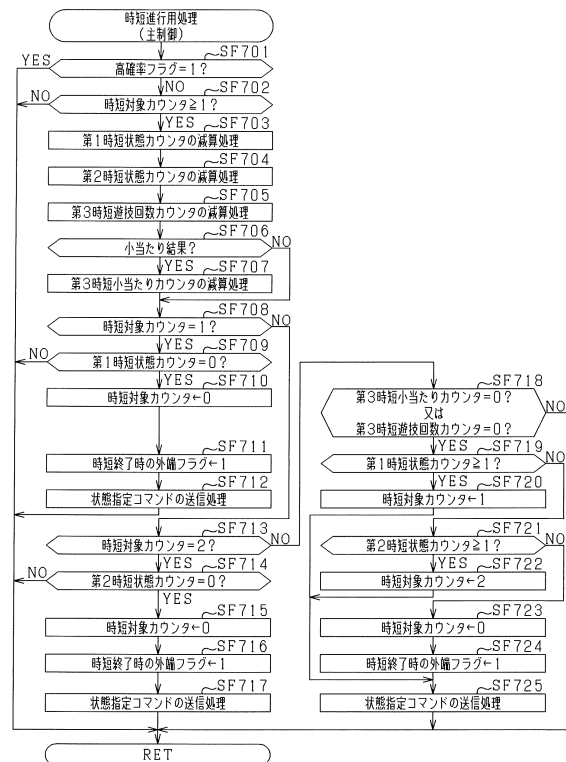
10

20

【図 2 2 3】



【図 2 2 4】



30

40

50

【図 2 2 5】

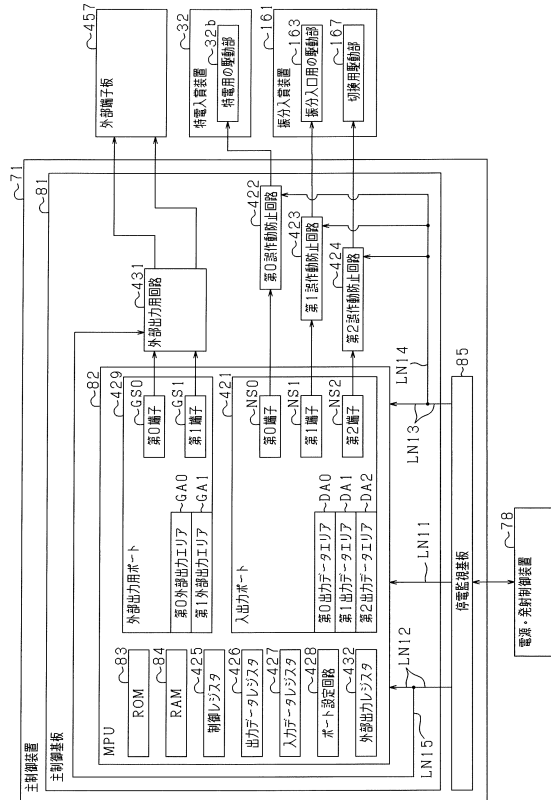
(a)

時短の種類	発生契機	サポートモード	終了条件	優先度
第3A時短状態ST61	第1時短結果	第2高頻度サポートモード	100回の遊技回消化	中
第3B時短状態ST62	第2時短結果	第2高頻度サポートモード	20回の 小当たり結果発生	低
第3C時短状態ST63	第3時短結果	中頻度サポートモード	5回の小当たり結果発生 又は 30回の遊技回消化	高

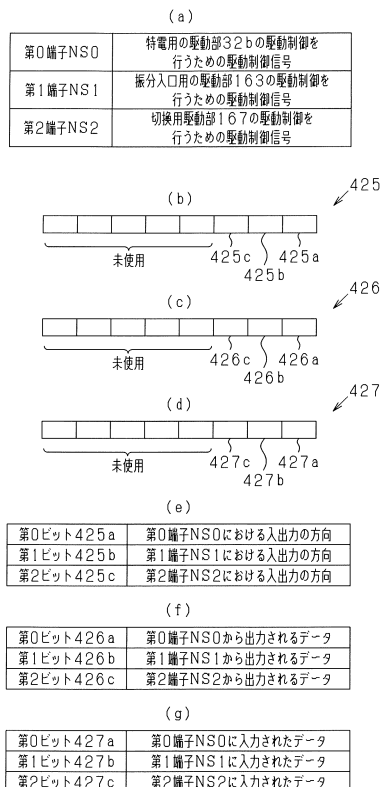
(b)

時短の種類	発生契機	サポートモード	終了条件	優先度
第3A時短状態ST71	第1時短結果	第2高頻度サポートモード	100回の遊技回消化	低
第3B時短状態ST72	第2時短結果	中頻度サポートモード	20回の 普通開放状態発生	中
第3C時短状態ST73	第3時短結果	中頻度サポートモード	5回の小当たり結果発生	高

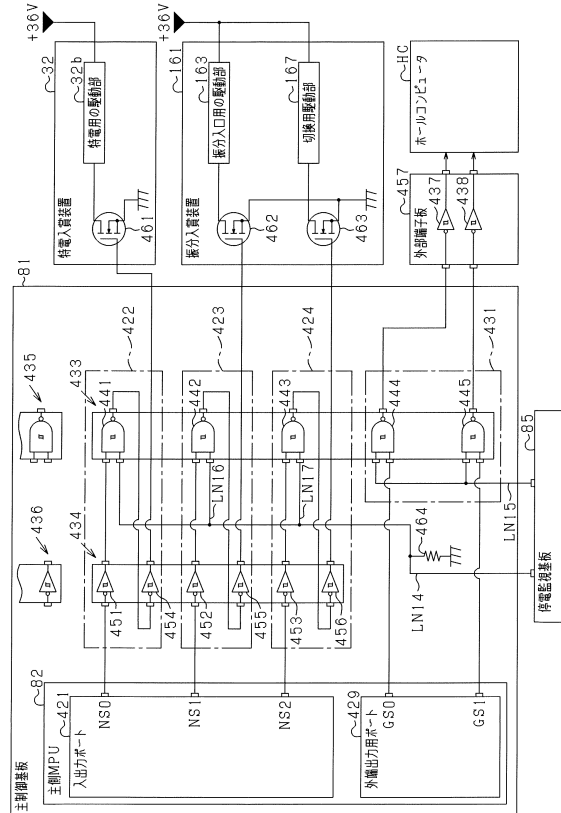
【図 2 2 6】



【図 2 2 7】



【図 2 2 8】



10

20

30

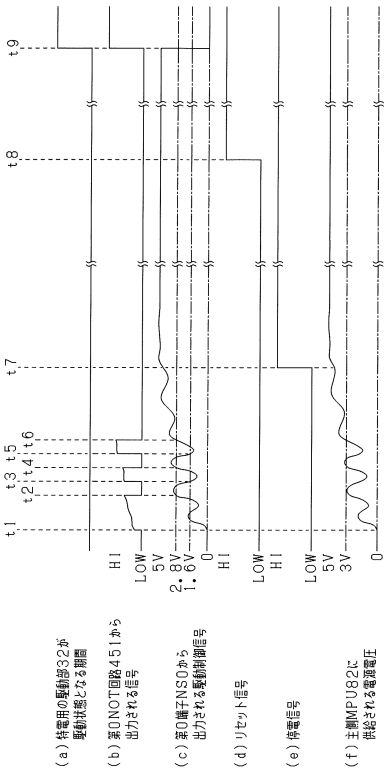
40

50

【図 2 2 9】

駆動制御信号	第0～第2NOT回路 451～453の出力		リセット信号	第0～第2NAND回路 441～443の出力		第3～第5NOT回路 454～456の出力		対象駆動部
	LOW	HI		LOW	HI	LOW	HI	
	HI	LOW	HI	LOW	LOW	HI	駆動状態	
	LOW	HI	LOW	HI	HI	LOW		非駆動状態

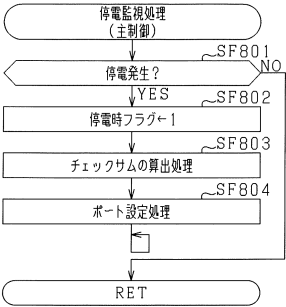
【図 2 3 0】



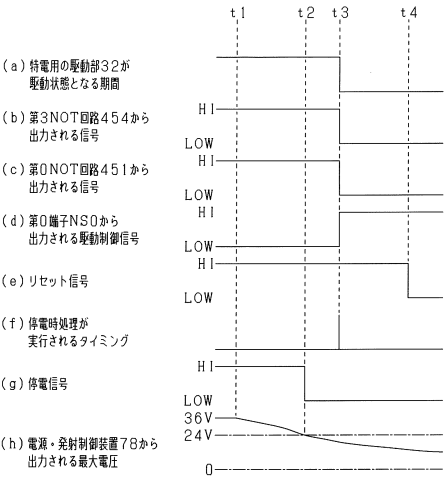
10

20

【図 2 3 1】



【図 2 3 2】

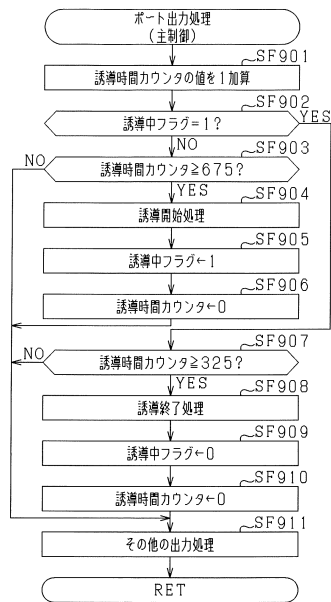


30

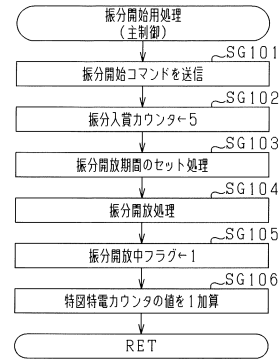
40

50

【図 2 3 3】



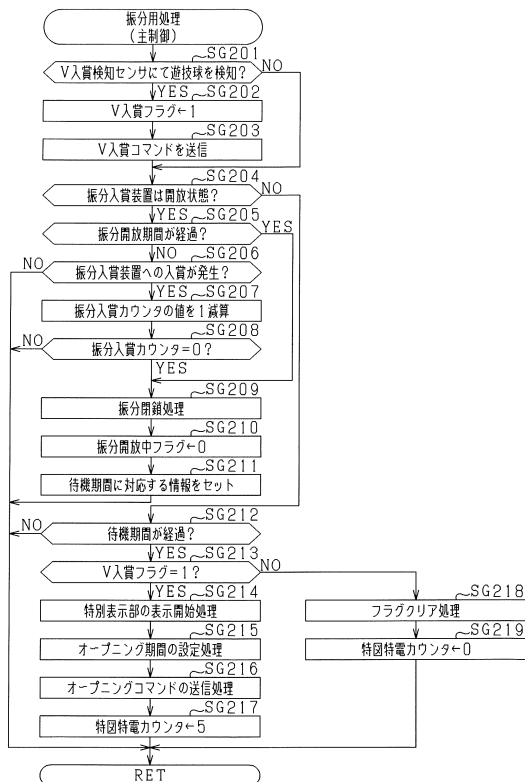
【図 2 3 4】



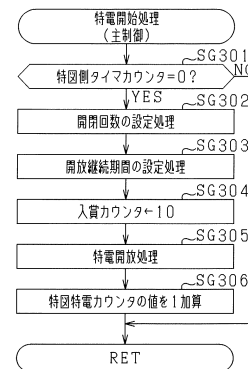
10

20

【図 2 3 5】



【図 2 3 6】

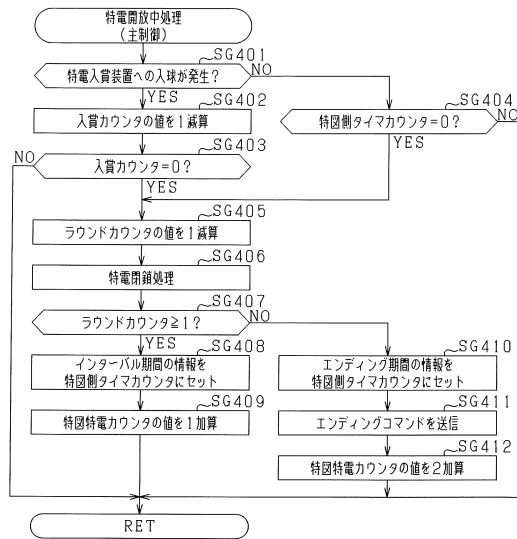


30

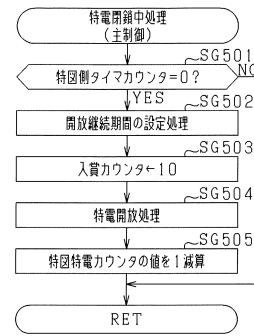
40

50

【図 2 3 7】



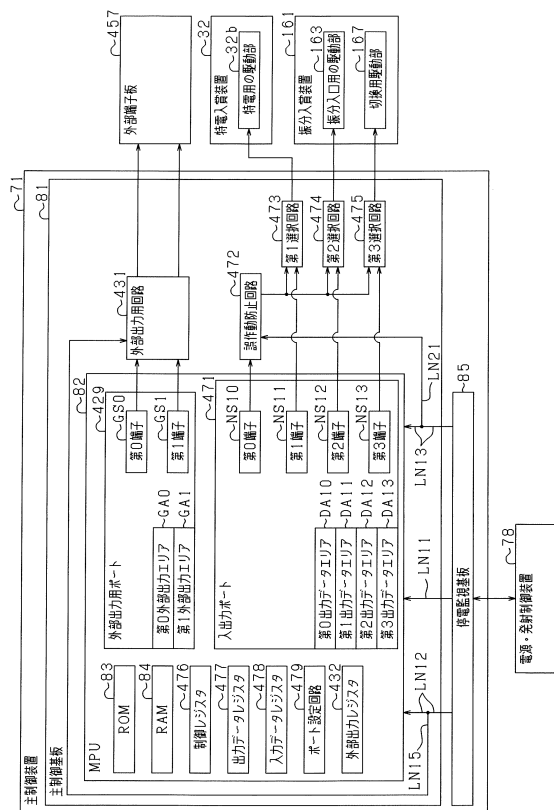
【図 2 3 8】



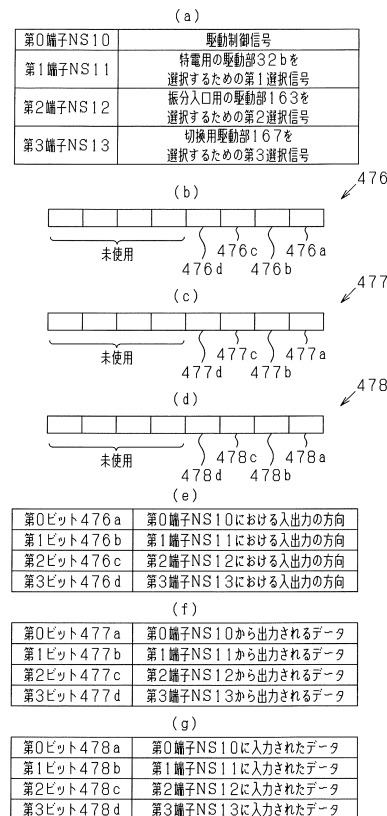
10

20

【図 2 3 9】



【図 2 4 0】

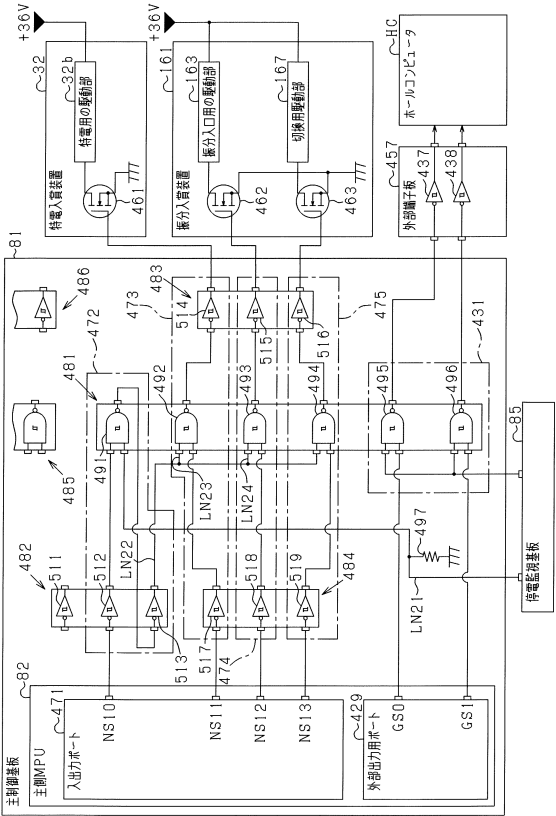


30

40

50

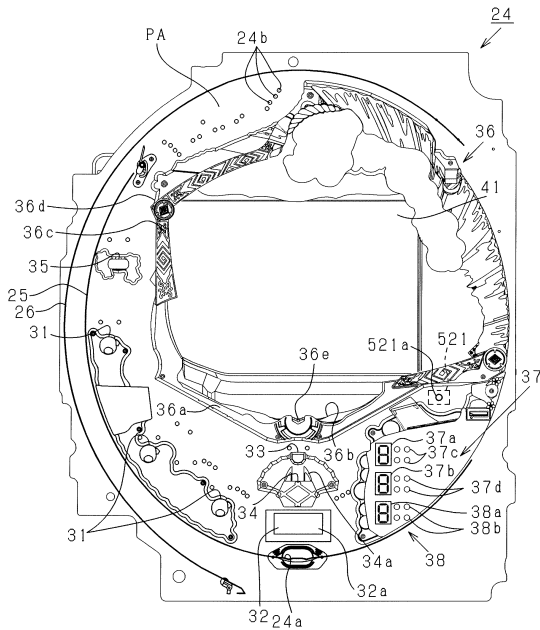
【図 2 4 1】



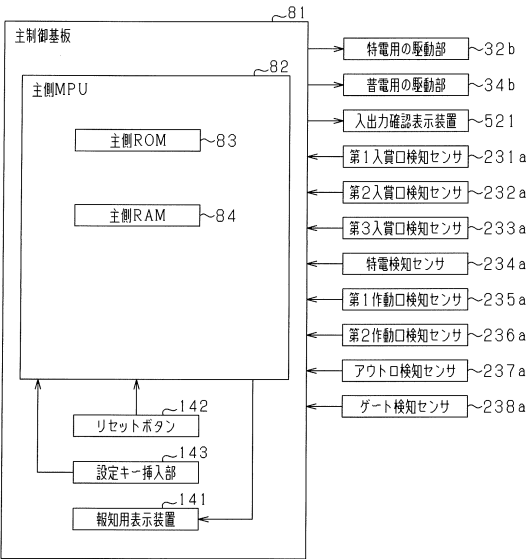
【図 2 4 2】

駆動制御信号	第1NOT回路 512の出力	リセット信号	第0NAND回路 491の出力	第2NOT回路 513の出力	選択信号	対象駆動部	
LOW	H I	H I	LOW	H I	LOW	駆動状態	
H I	LOW		H I	LOW	H I		
LOW	H I	LOW	H I	LOW	LOW	非駆動状態	
H I	LOW				H I		
LOW	H I				LOW		
H I	LOW	H I					

【図 2 4 3】



【図 2 4 4】



10

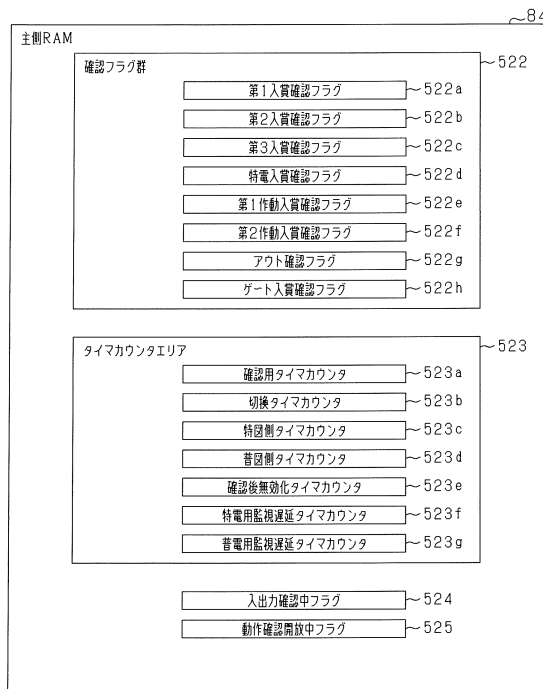
20

30

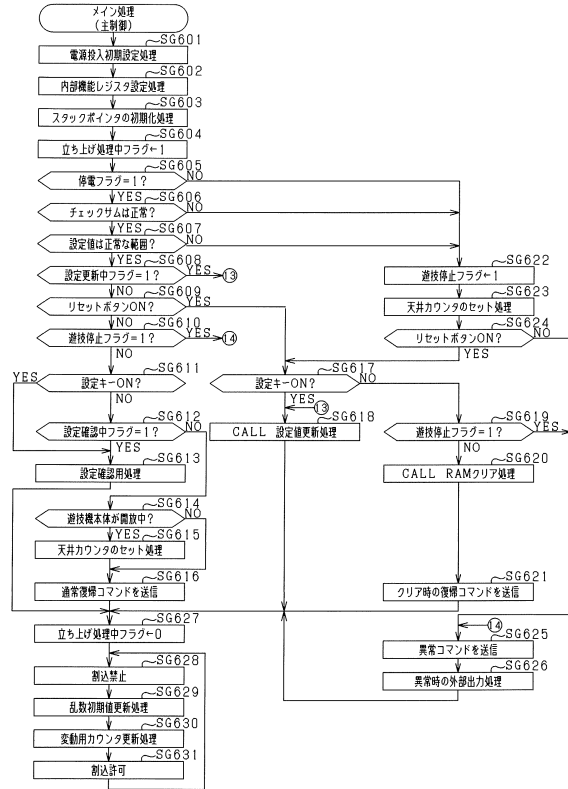
40

50

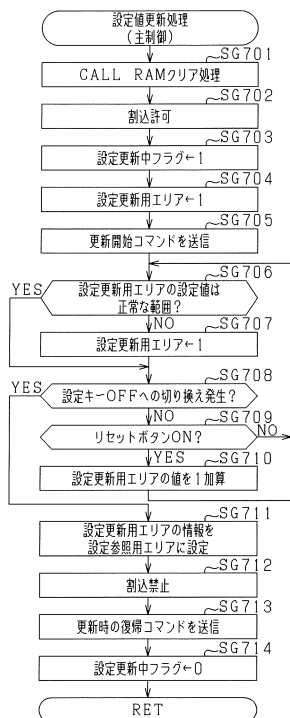
【図 2 4 5】



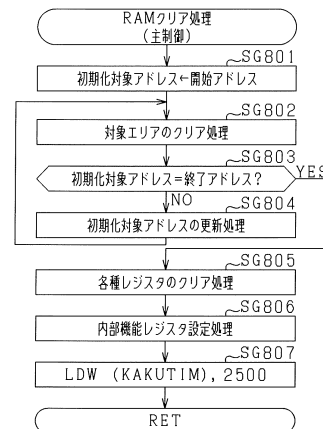
【図 2 4 6】



【図 2 4 7】



【図 2 4 8】



10

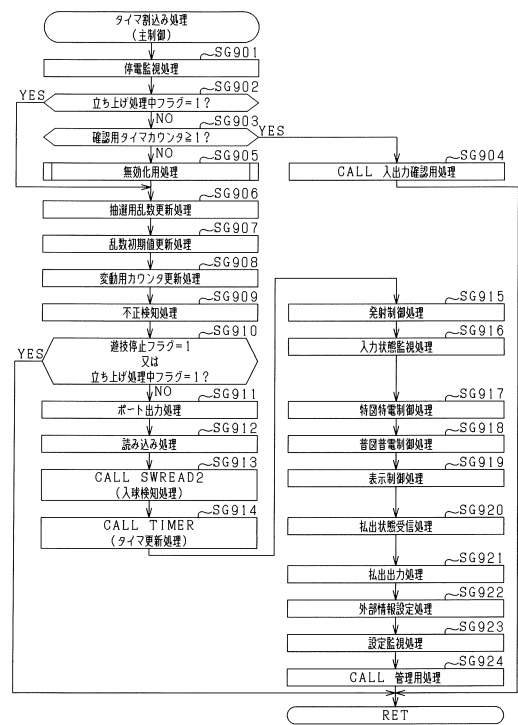
20

30

40

50

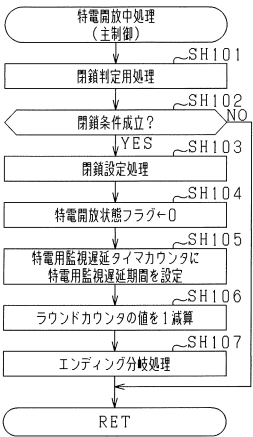
【図 2 4 9】



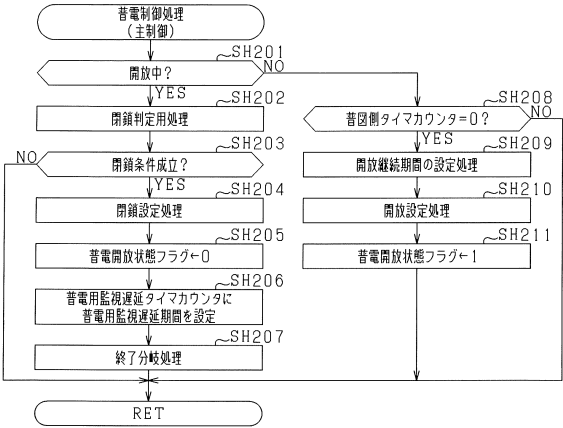
【図 2 5 0】

処理名	ステップ	立ち上げ処理中	選抜停止中	入力確認期間	選抜可能状態
停電監視処理	SG901	実行	実行	実行	実行
入力確認処理	SG904	×	×	実行	×
無効化期間の設定	SG905	×	×	×	実行
各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理	SG906~SG909	実行	実行	×	実行
選抜を進行させるための処理	SG911~SG924	×	×	×	実行

【図 2 5 1】



【図 2 5 2】



10

20

30

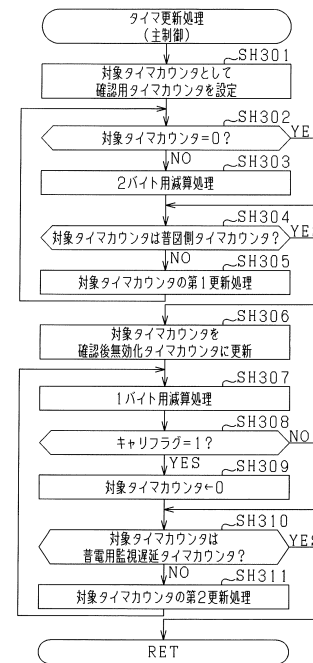
40

50

【図 2 5 3】

入出力確認用処理	
行番号	
1001	KAKUSYORI10
1002	CALL TIMER (タイマ更新処理)
1003	CALL SWREAD2 (入球検知処理)
1004	CALL COMSEND (入球検知コマンド送信処理)
1005	CALL DSKKNY (動作確認用処理)
1006	RET

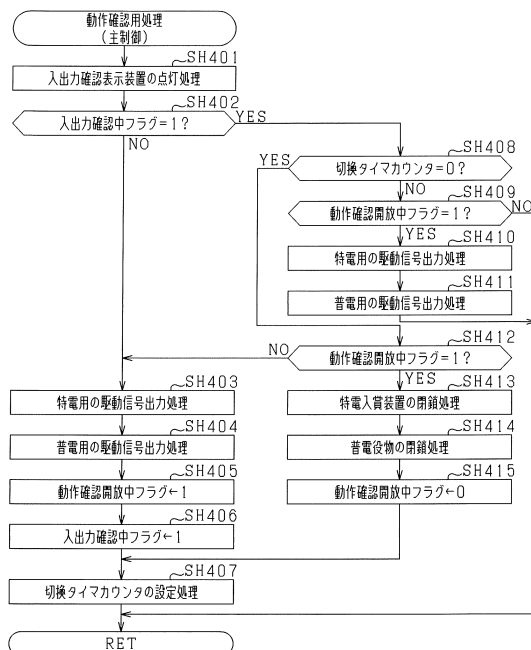
【図 2 5 4】



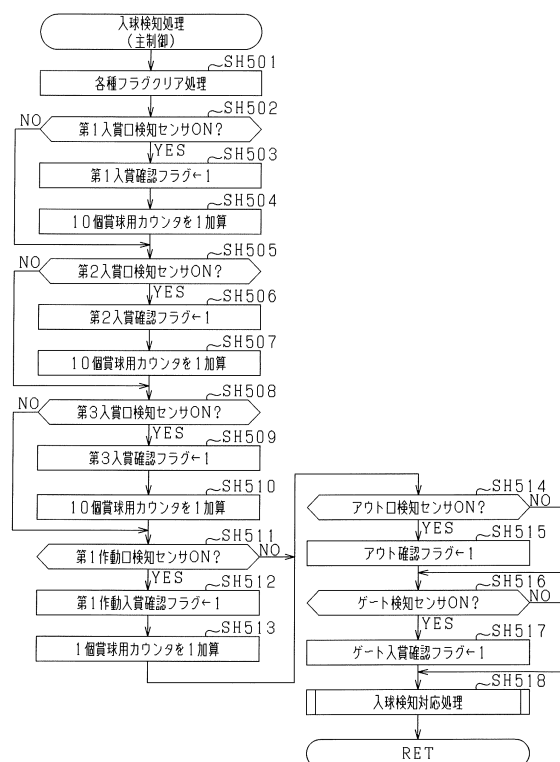
10

20

【図 2 5 5】



【図 2 5 6】

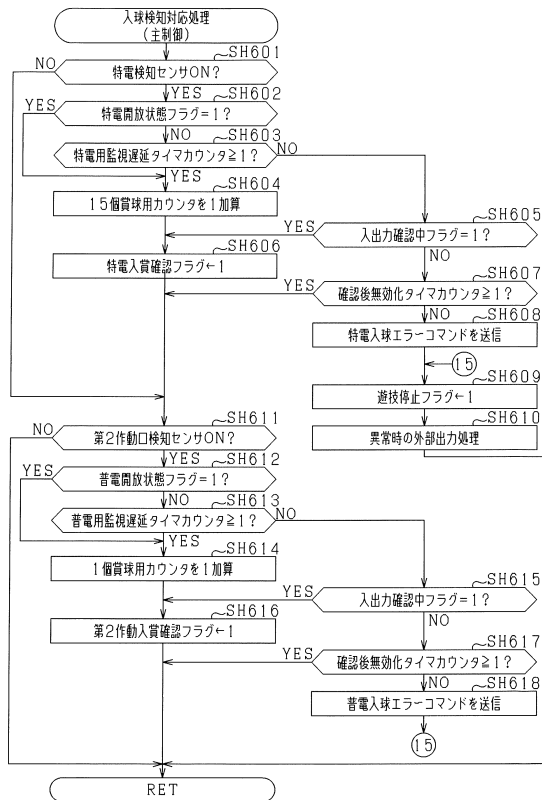


30

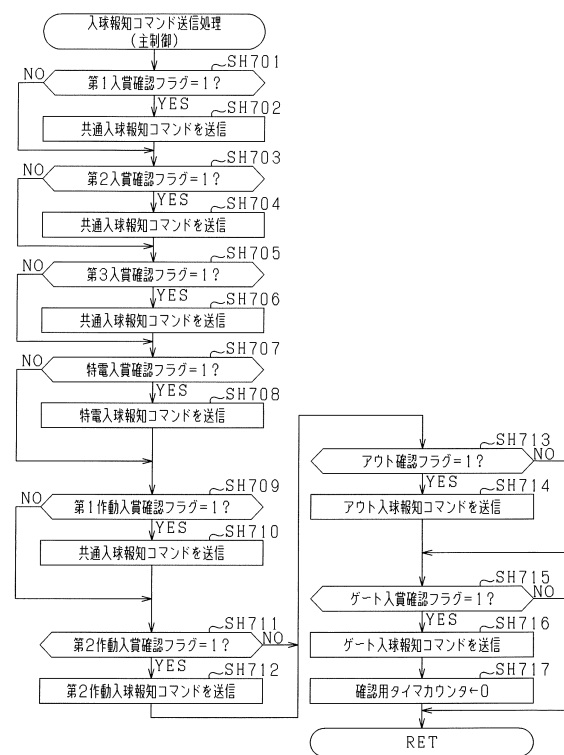
40

50

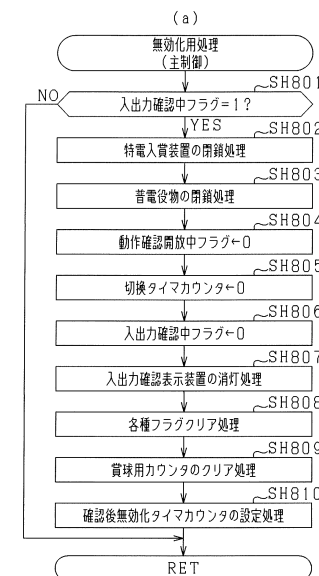
【図 2 5 7】



【図 2 5 8】



【図 2 5 9】

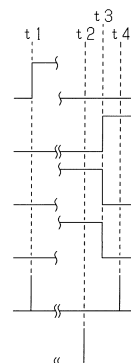


(b)

通常遊技状態における特図表示部37a, 37bのリーチ表示態様の最短変動表示期間	15秒
通常遊技状態における普図の変動期間	10秒
確認後無効化期間	1秒

【図 2 6 0】

- (a) 特電入球エラー報知
- (b) 確認後無効化期間
- (c) 入出力確認期間
- (d) 特電入賞装置32が開放状態となる期間
- (e) 特電検知センサ234aにて遊技球が検知されるタイミング
- (f) 特電入賞装置32に遊技球が入球するタイミング



10

20

30

40

50

【図 2 6 1】

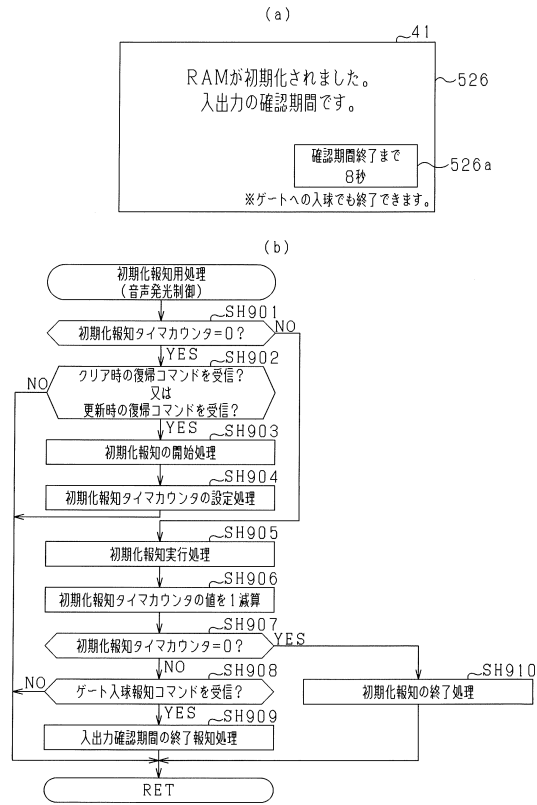
(a)

	遊技球の払い出し	特電入球報知音	特電入球エラー
開閉実行モードにおける 特電入装置32の開放期間 又は 特電用監視遅延期間	有り	無し	対象外
入出力確認期間	無し	有り	対象外
確認後無効化期間	無し	無し	対象外
上記以外の状況	無し	無し	対象

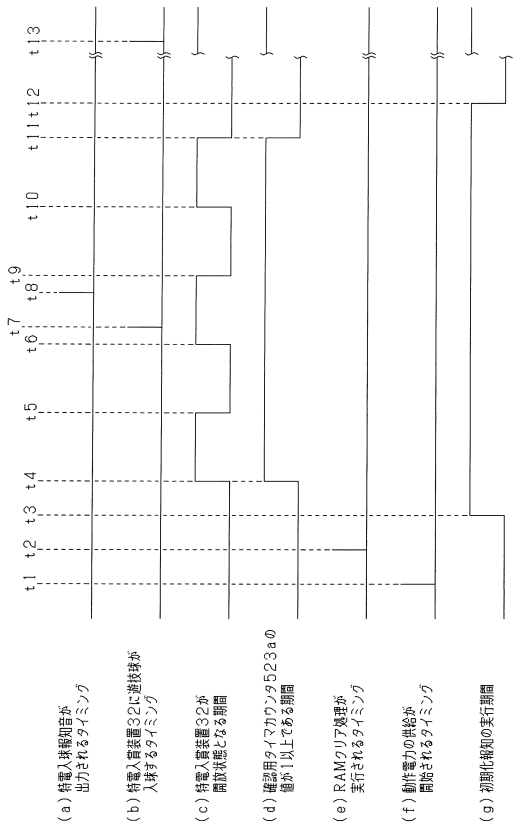
(b)

	当否判定処理 遊技球の払い出し	第2作動入球 報知音	普電入球エラー
電役開放当選に基づく 第2作動口34の開放期間 又は 普電用監視遅延期間	有り	無し	対象外
入出力確認期間	無し	有り	対象外
確認後無効化期間	無し	無し	対象外
上記以外の状況	無し	無し	対象

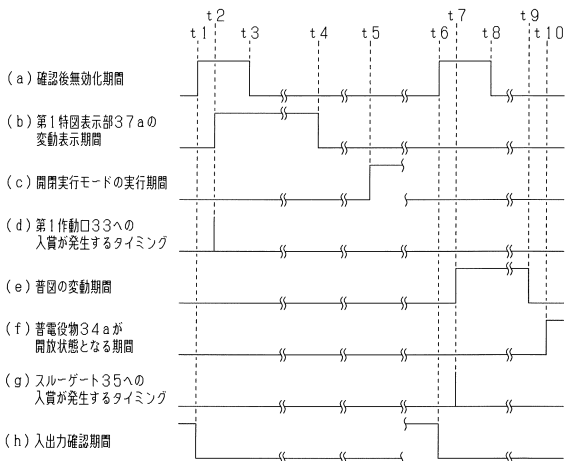
【図 2 6 2】



【図 2 6 3】



【図 2 6 4】



10

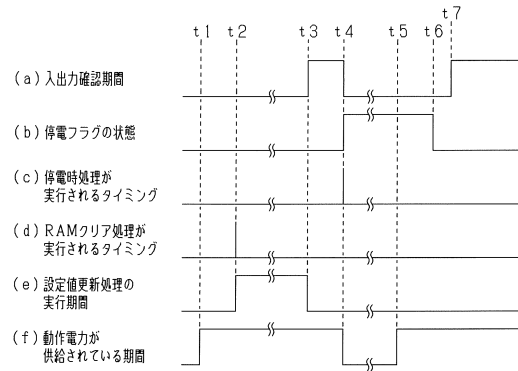
20

30

40

50

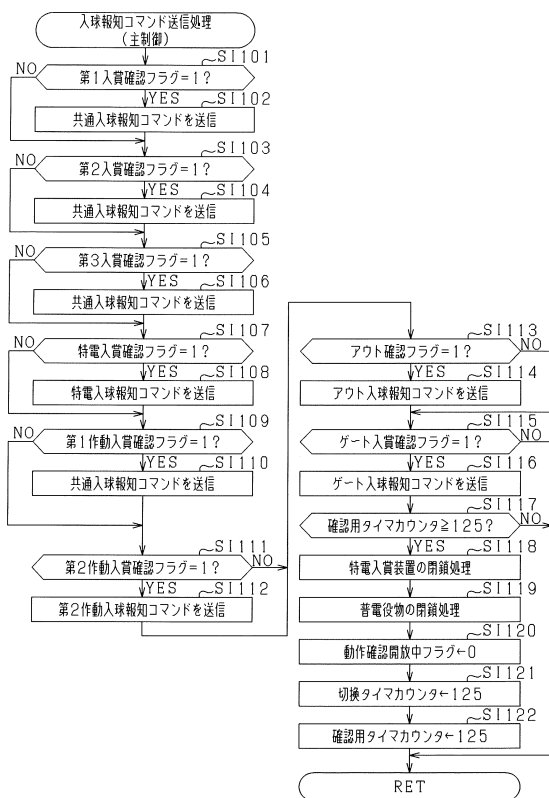
【図 2 6 5】



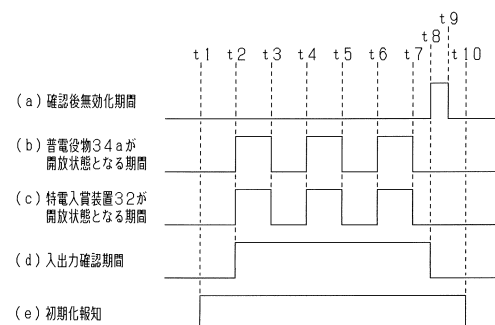
【図 2 6 6】

入出力確認期間における1回の開放継続期間	1.9秒
入出力確認期間において、開放状態が終了してから次の開放状態が開始されるまでの間隔	1.9秒
最後の開放状態が終了してから入出力確認期間が終了するまでの期間	0.5秒
確認後無効化期間	0.5秒
最後の開放状態が終了してから確認後無効化期間が終了するまでの期間	1秒
通常遊技状態における特図表示部37a, 37bのリーチ表示態様の最短変動表示期間	15秒
通常遊技状態における普図の変動期間	1秒

【図 2 6 7】



【図 2 6 8】



10

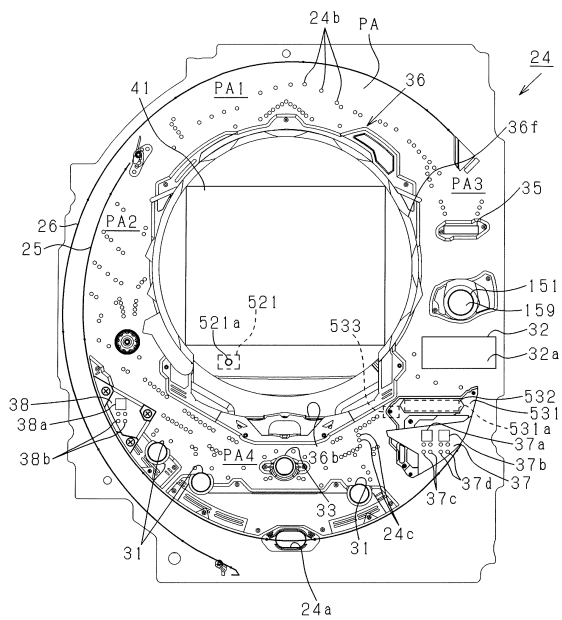
20

30

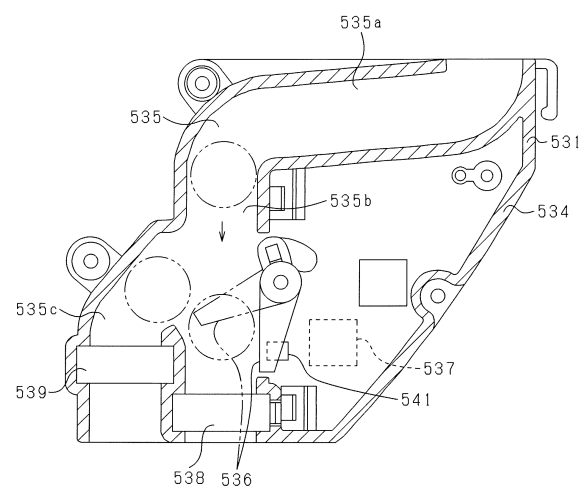
40

50

【圖 2 6 9】



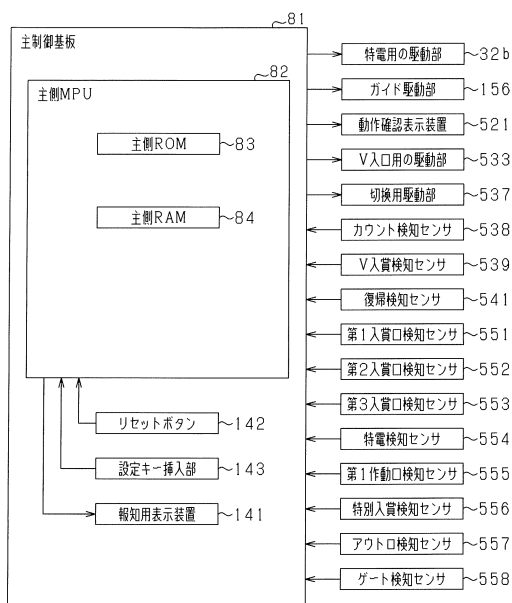
【図 270】



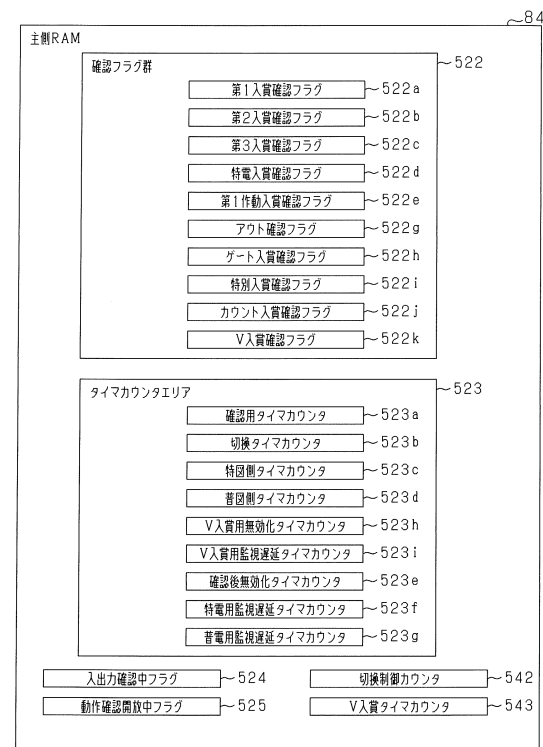
10

20

【図 2 7 1】



【図 272】



30

40

【図 273】

(a)

サポートモード	普図当否判定	普図の変動期間	普電開放状態
低頻度サポートモード	普図側の低確率モード	長期間	低期待度モード
高頻度サポートモード	普図側の高確率モード	短期間	高期待度モード

(b)

低確率時の当否テーブル

設定値	当たり結果	外れ結果
設定1	50個	9950個
設定2	52個	9948個
設定3	54個	9946個
設定4	56個	9944個
設定5	58個	9942個
設定6	60個	9940個

(c)

高確率時の当否テーブル

設定値	当たり結果	外れ結果
設定1～設定6	500個	9500個

【図 274】

(a)

第1特図用の当たり振分テーブル

種別乱数カウンタC2	当たり結果の種類
0～14	5R通常結果
15～22	5R確変結果
23～29	16R確変結果

(b)

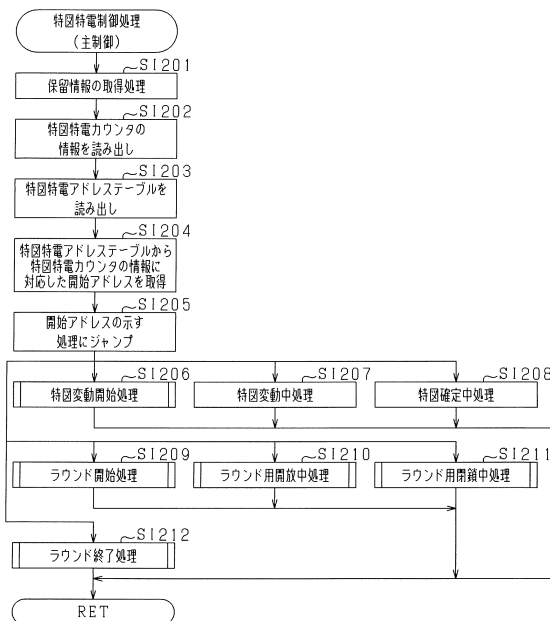
第2特図用の当たり振分テーブル

種別乱数カウンタC2	当たり結果の種類
0～14	5R確変結果
15～29	16R確変結果

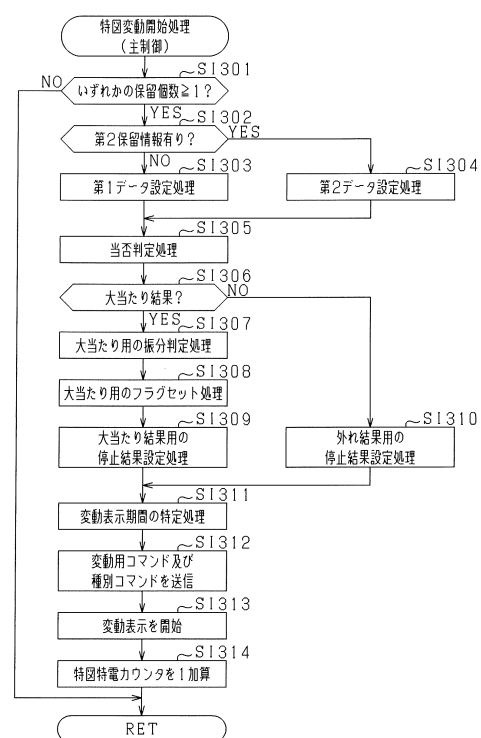
(c)

当たり結果の種類	通常	V入賞	遊技状態	
	ラウンド遊技	ラウンド遊技	V入賞無し	V入賞有り
5R通常結果	第1～第5ラウンド	なし	時短状態 100回限定	—
5R確変結果	第1～第4ラウンド	第5ラウンド	時短状態 100回限定	高確率状態
16R確変結果	第1～第15ラウンド	第16ラウンド	時短状態 100回限定	高確率状態

【図 275】



【図 276】



10

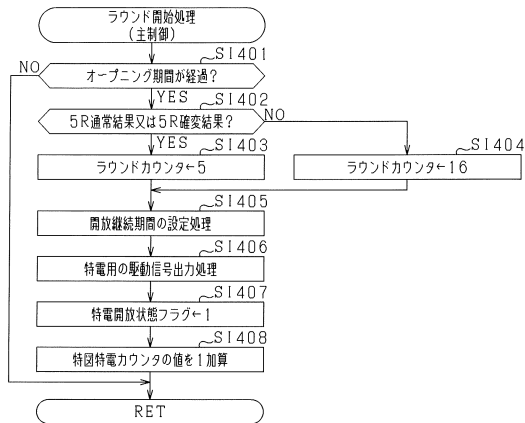
20

30

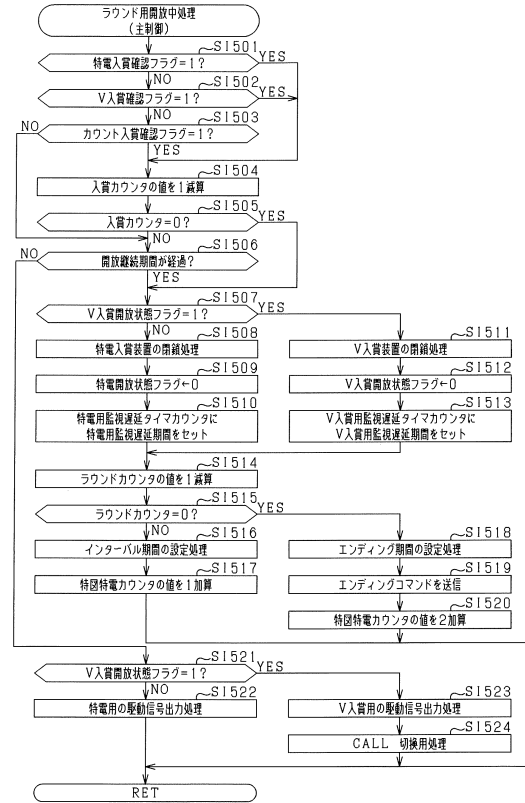
40

50

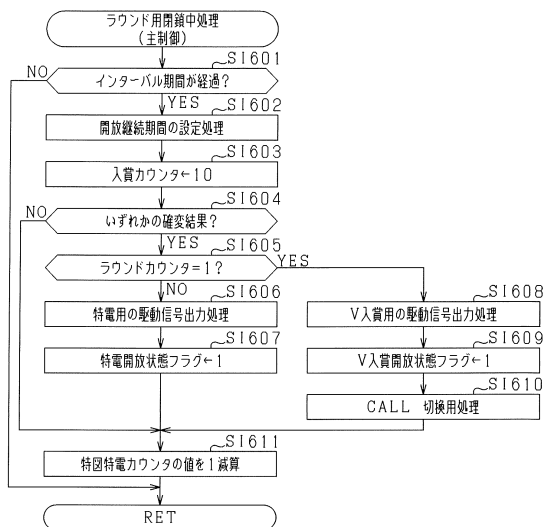
【図 277】



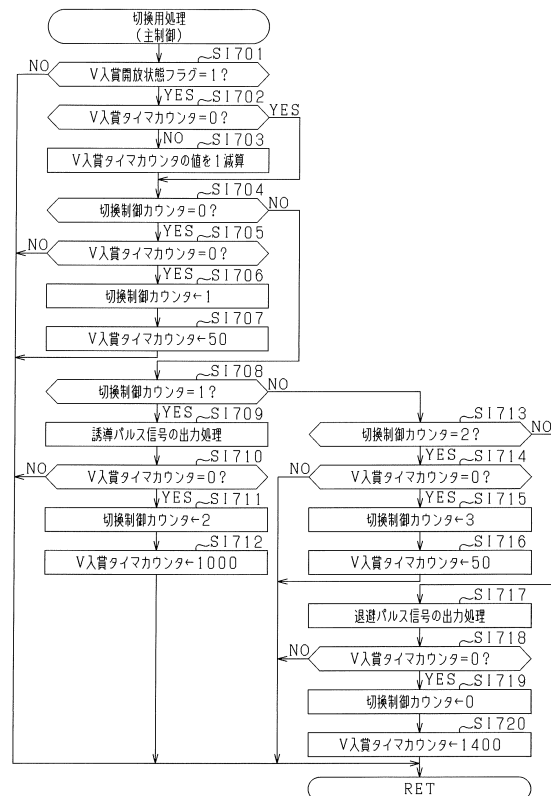
【図 278】



【図 279】



【図 280】



10

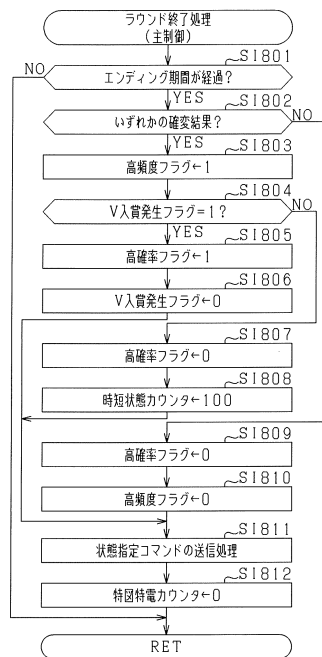
20

30

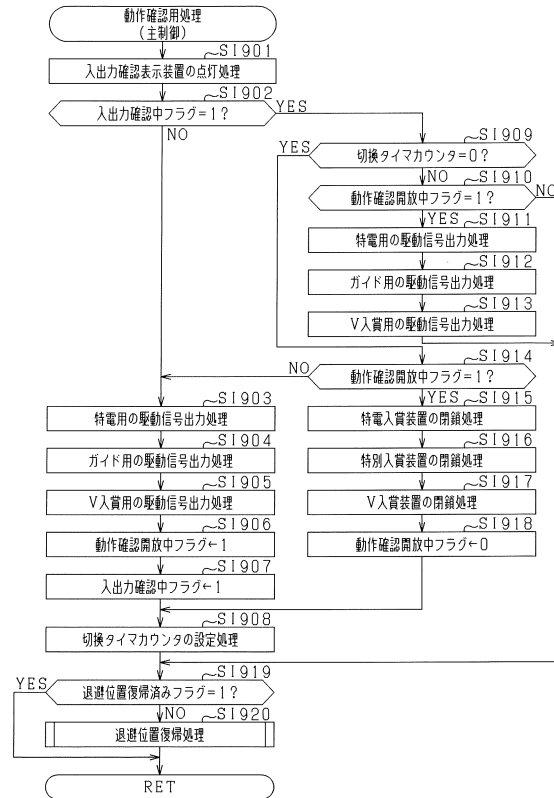
40

50

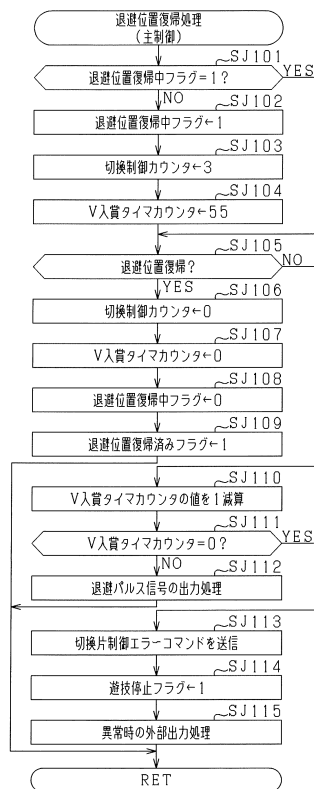
【図 281】



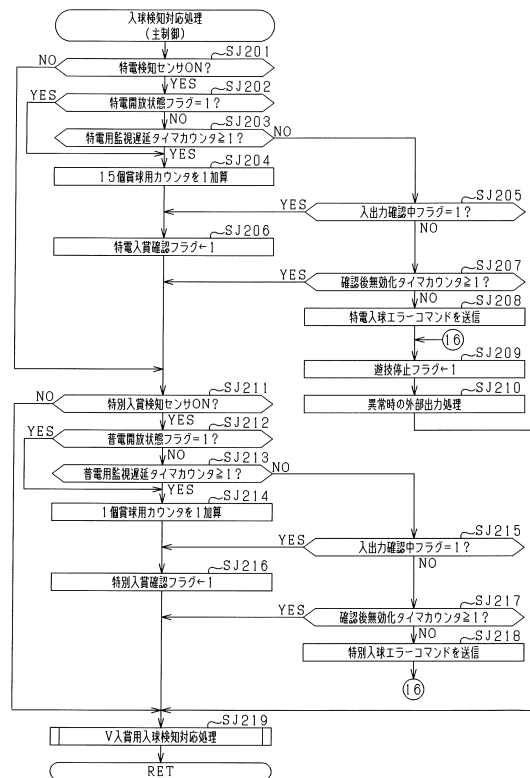
【図 282】



【図 283】



【図 284】



10

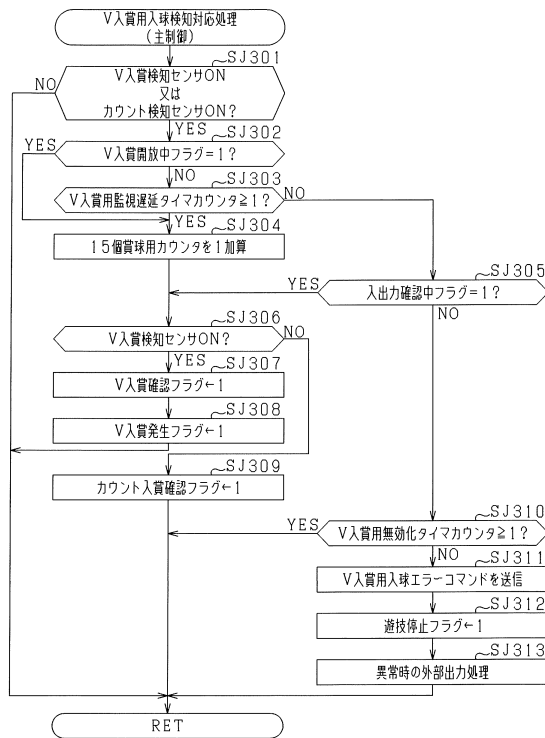
20

30

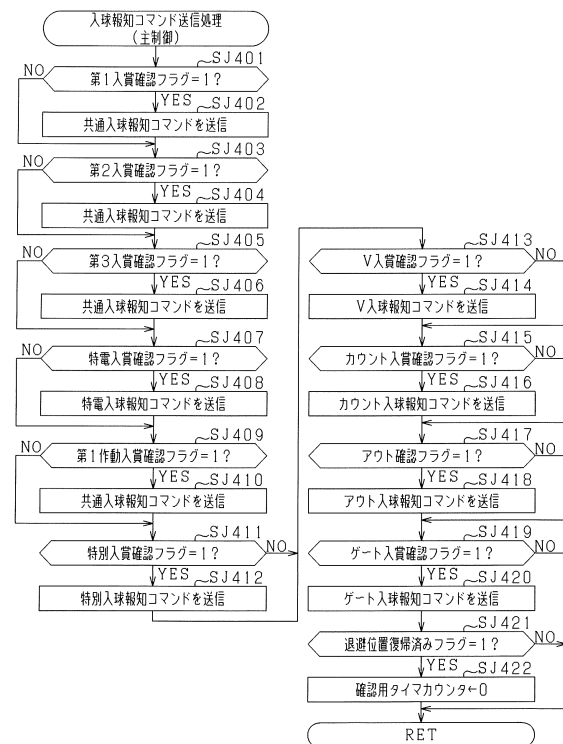
40

50

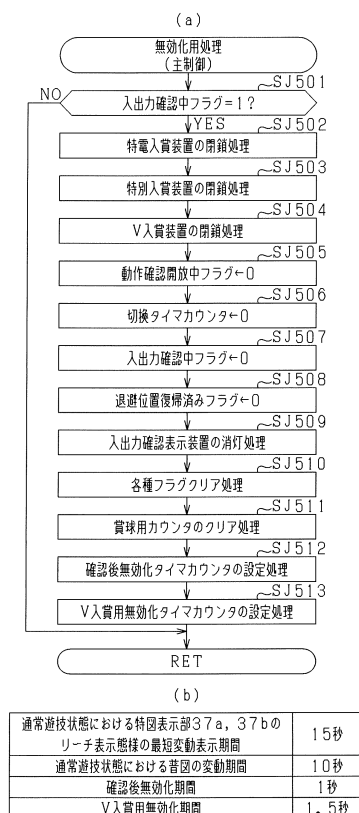
【図 285】



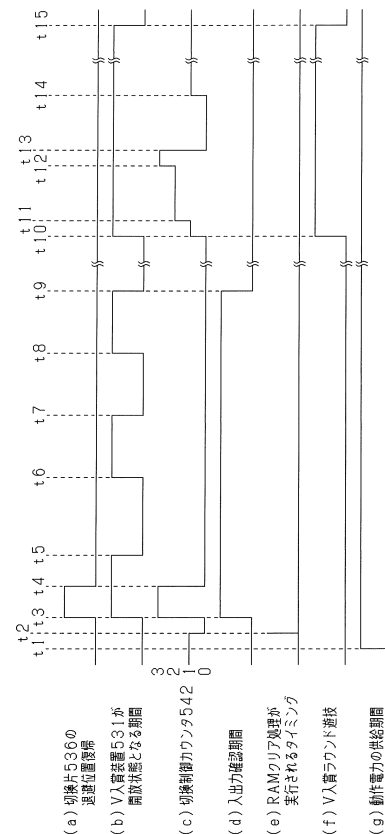
【図 286】



【図 287】



【図 288】



10

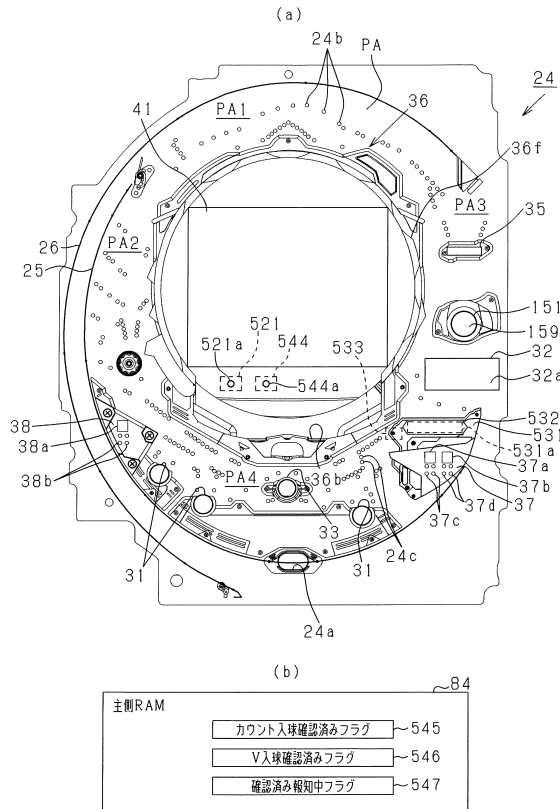
20

30

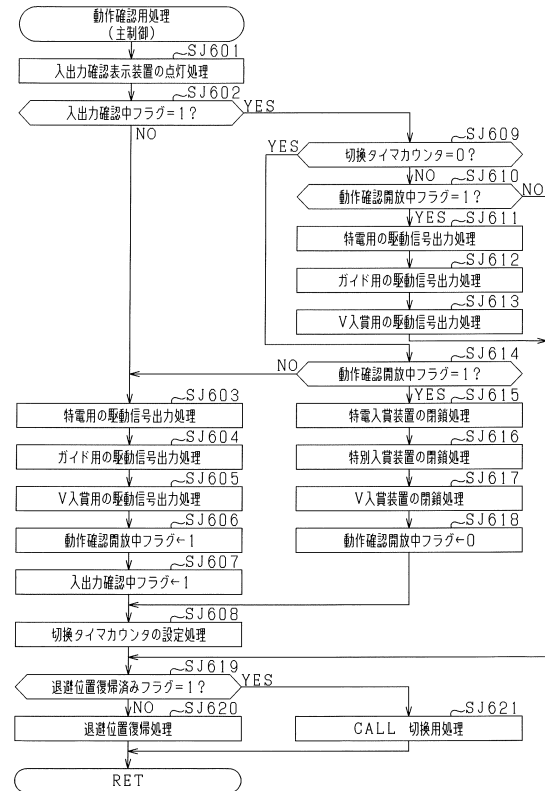
40

50

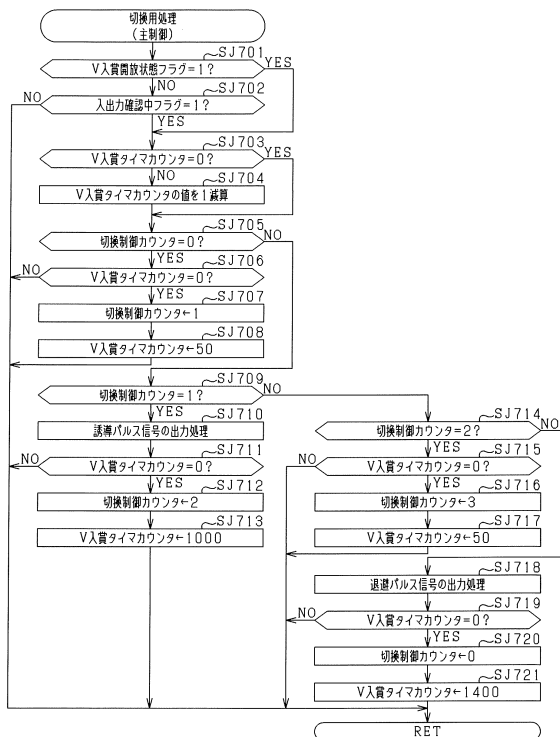
【図 289】



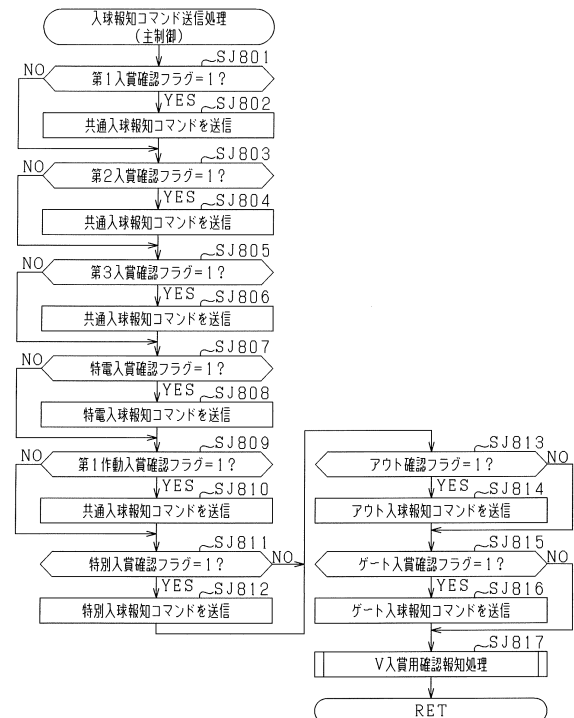
【図 290】



【図 291】



【図 292】



10

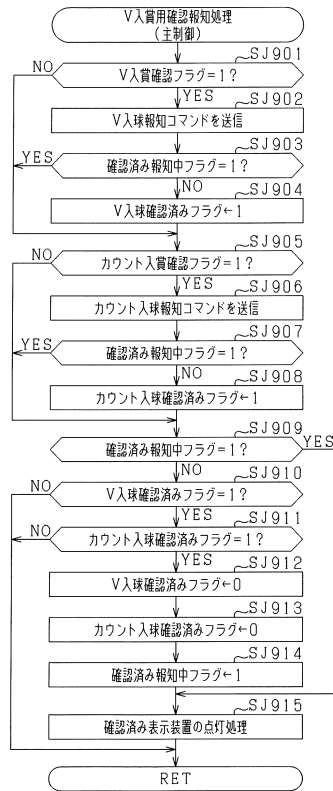
20

30

40

50

【図 2 9 3】



【図 2 9 4】

(a) 確認済み報知

(b) カウント入球報知音の出力期間

(c) V入球報知音の出力期間

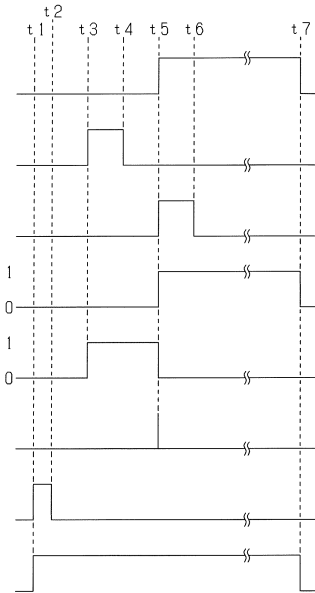
(d) 確認済み報知中フラグ547

(e) カウント入球確認済みフラグ545

(f) V入賞検知センサ539にて
遊技球が検知されるタイミング

(g) 切換片536の退避位置復帰

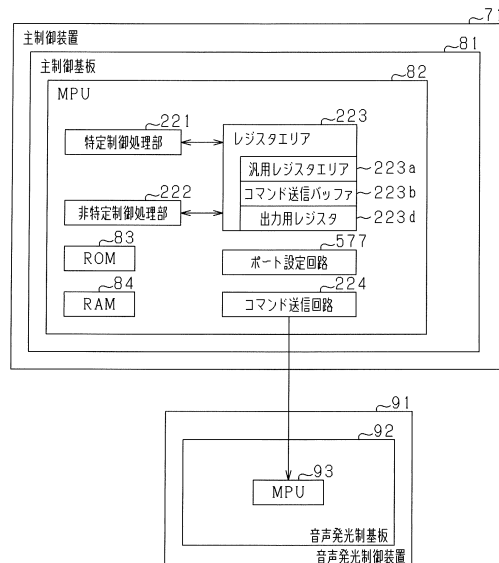
(h) 入出力確認期間



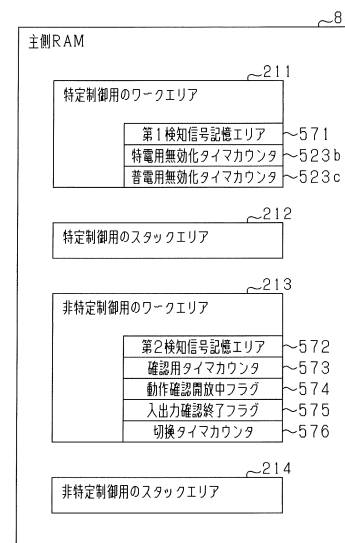
10

20

【図 2 9 5】



【図 2 9 6】

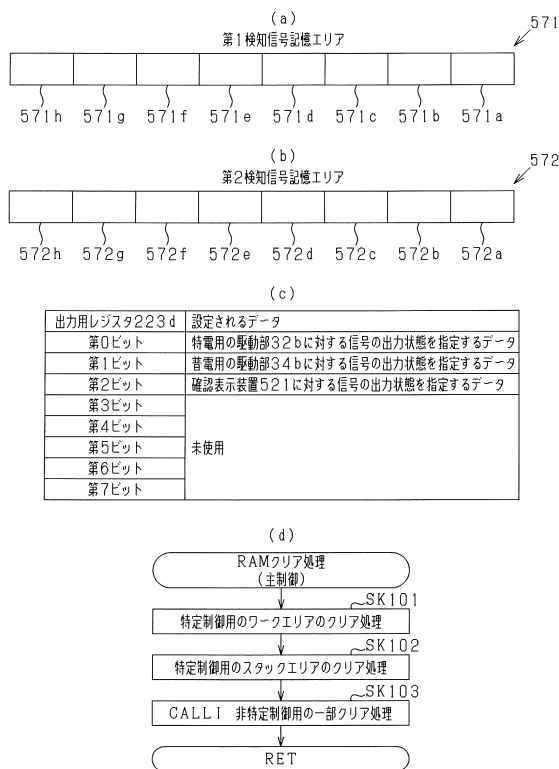


30

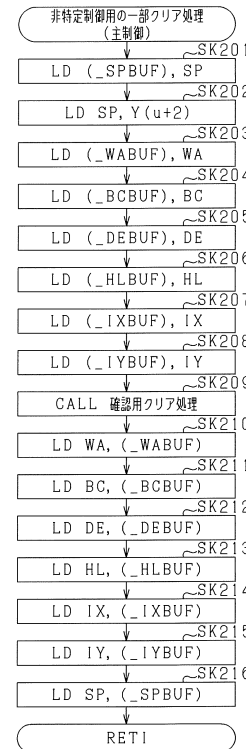
40

50

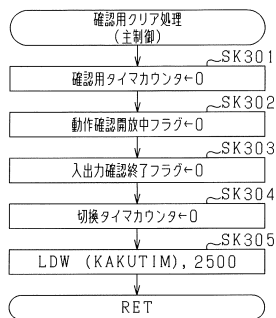
【図 2 9 7】



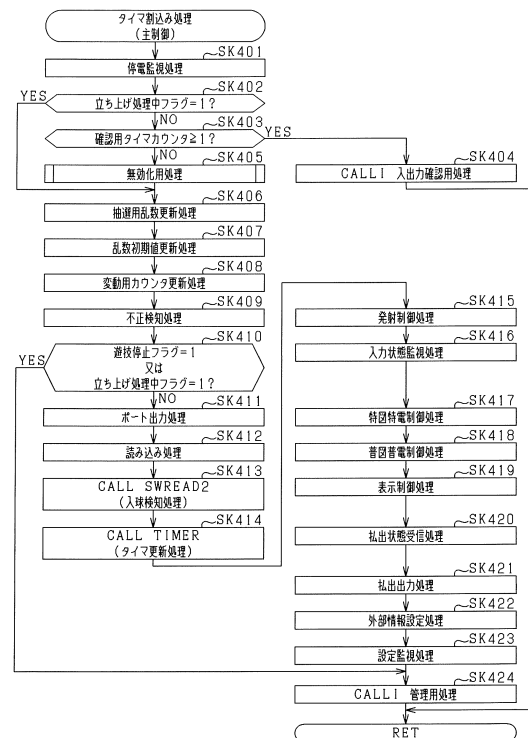
【図 2 9 8】



【図 2 9 9】



【図 3 0 0】



10

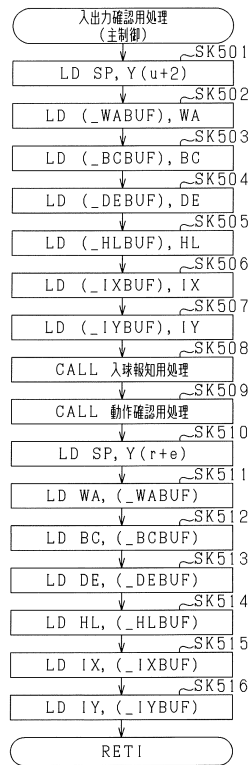
20

30

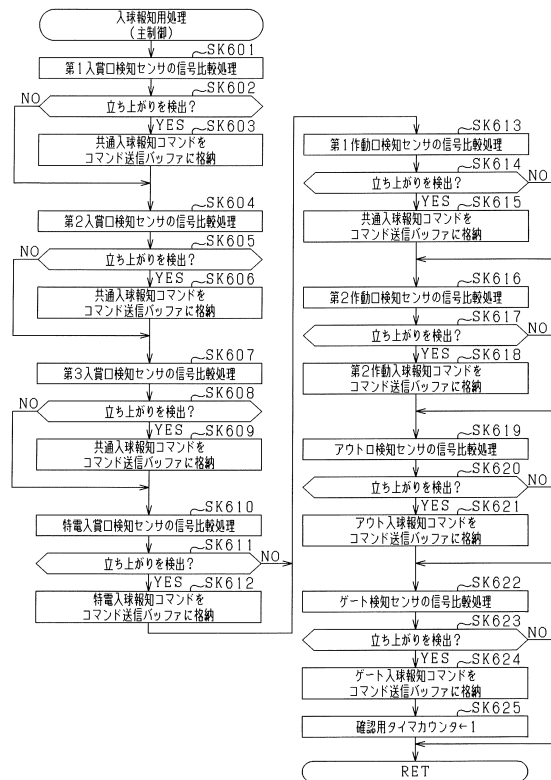
40

50

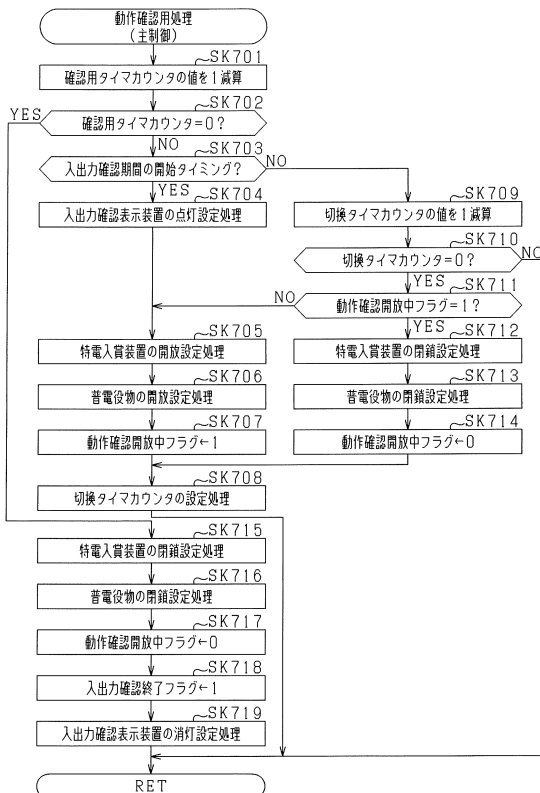
【図 3 0 1】



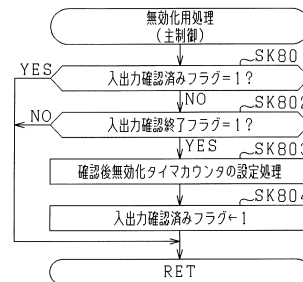
【図 3 0 2】



【図 3 0 3】



【図 3 0 4】



10

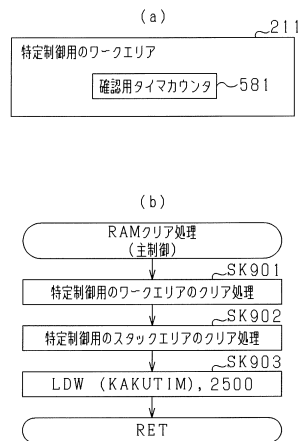
20

30

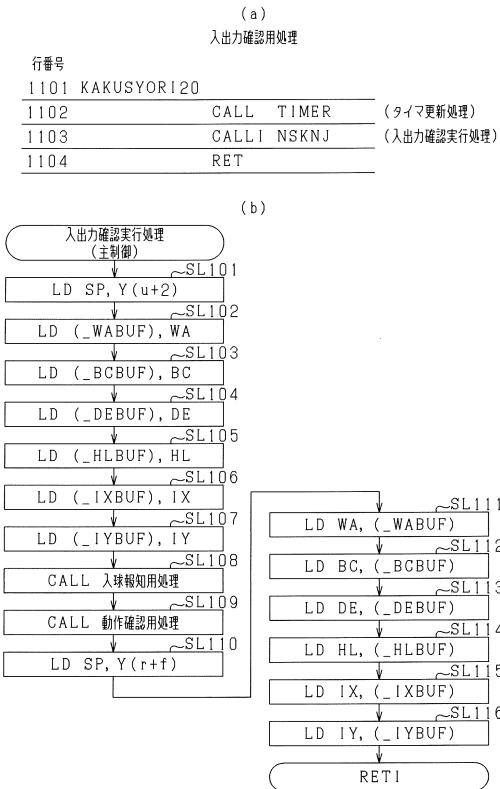
40

50

【図 3 0 5】



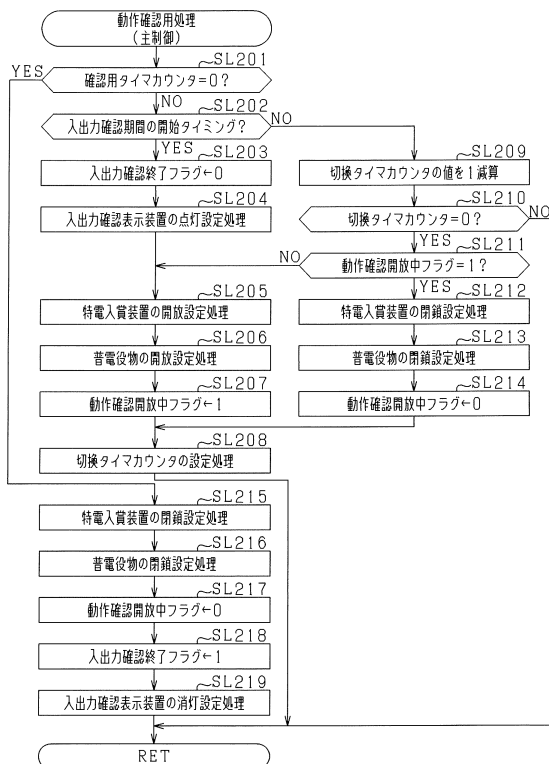
【図 3 0 6】



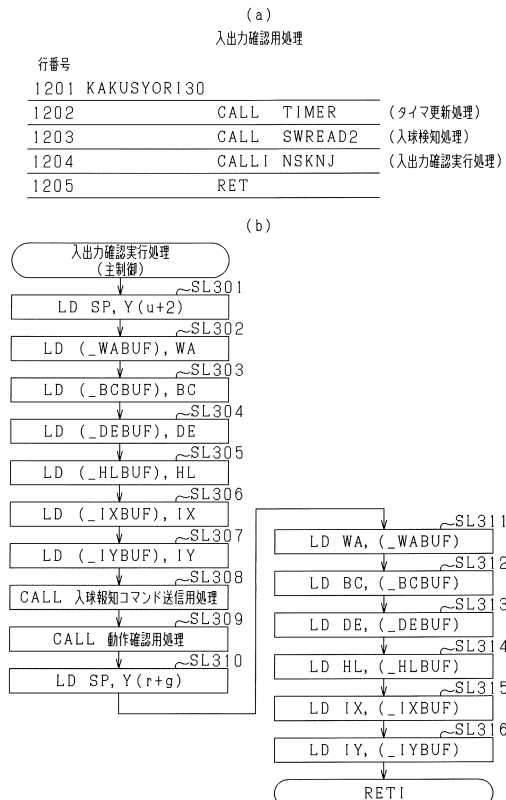
10

20

【図 3 0 7】



【図 3 0 8】

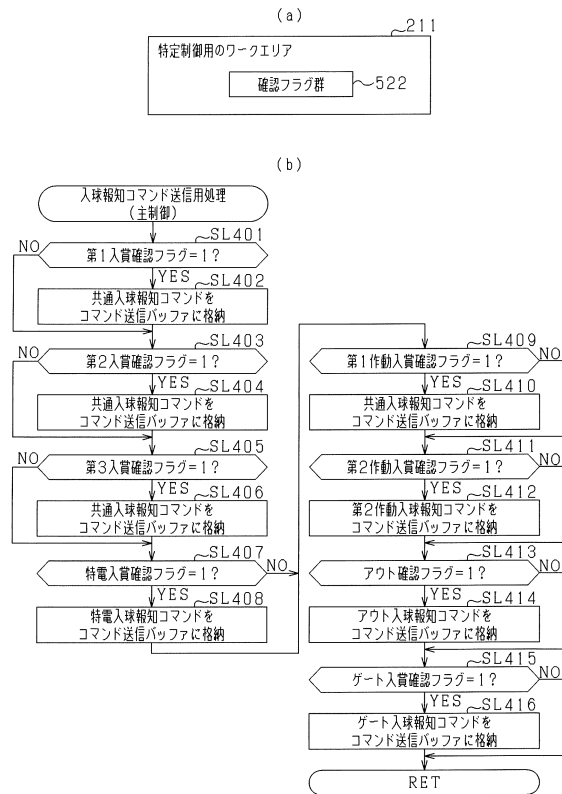


30

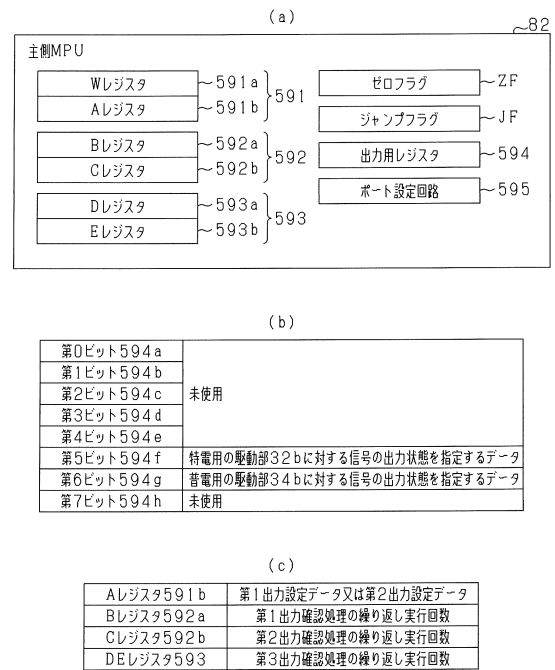
40

50

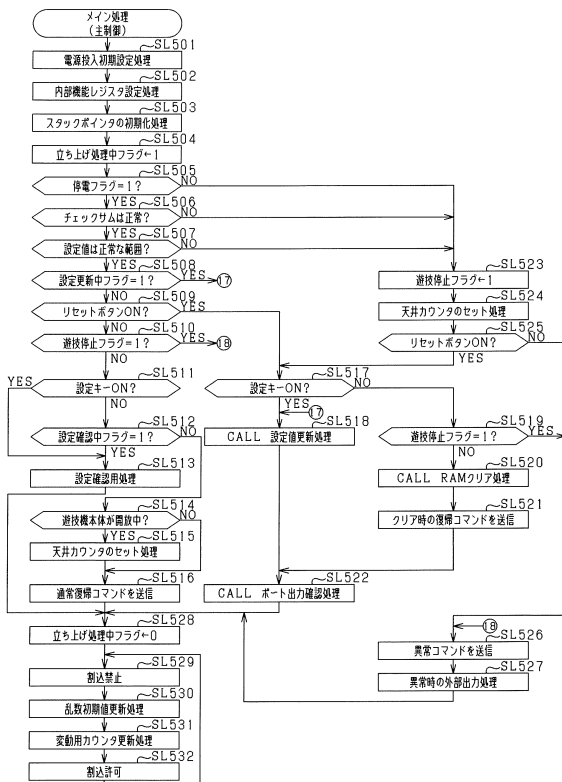
【図 3 0 9】



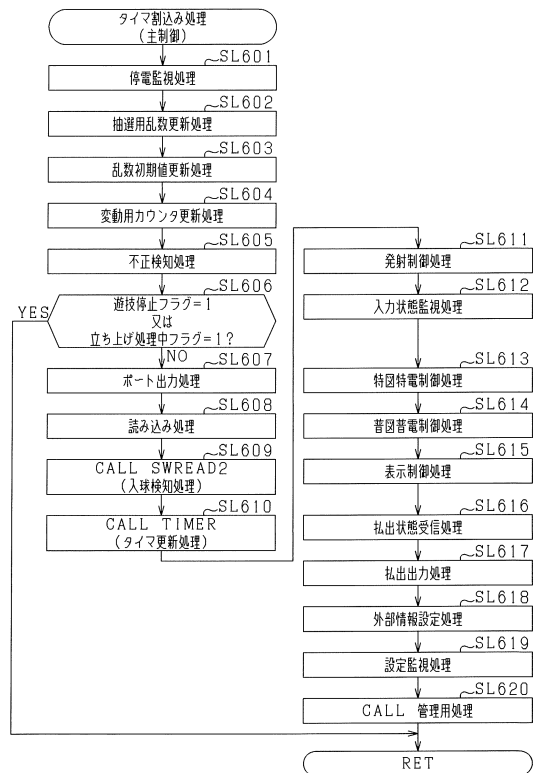
【図 3 1 0】



【図 3 1 1】



【図 3 1 2】



10

20

30

40

50

【図 3 1 3】

【図 3 1 4】

(a)				
ポート出力確認処理				
第1	第2	第3	第4	行番号
×	×	×	×	1301 LD A, 60H
×	×	×	×	1302 LD B, 32H
×	×	×	×	1303 LD C, 05H
×	×	×	×	1304 RS20
×	×	×	×	1305 LD DE, FFFFH
×	×	×	×	1306 RS30
×	×	×	×	1307 OUT (CPU_PINIO0), A
×	×	×	×	1308 DEC DE
×	×	×	×	1309 JRS 0, RS30
×	×	×	×	1310 DEC C
×	×	×	×	1311 JR NZ, RS20
×	×	×	×	1312 LD C, 05H
×	×	×	×	1313 XOR A, 0FFH
×	×	×	×	1314 AND A, 60H
×	×	×	×	1315 RS40
×	×	×	×	1316 DJNZ RS20
×	×	×	×	1317 RET

(b)	
1 回のポート出力確認処理において、 第 1 出力確認処理が繰り返し実行される回数	50 回
出力設定データが「00H」である状態で 第 1 出力確認処理が実行される回数	25 回
出力設定データが「00H」である状態で 第 1 出力確認処理が実行される回数	25 回
第 1 回の第 1 出力確認処理において、 第 2 出力確認処理が繰り返し実行される回数	5 回
第 1 回の第 2 出力確認処理において、 第 3 出力確認処理が繰り返し実行される回数	65535 回

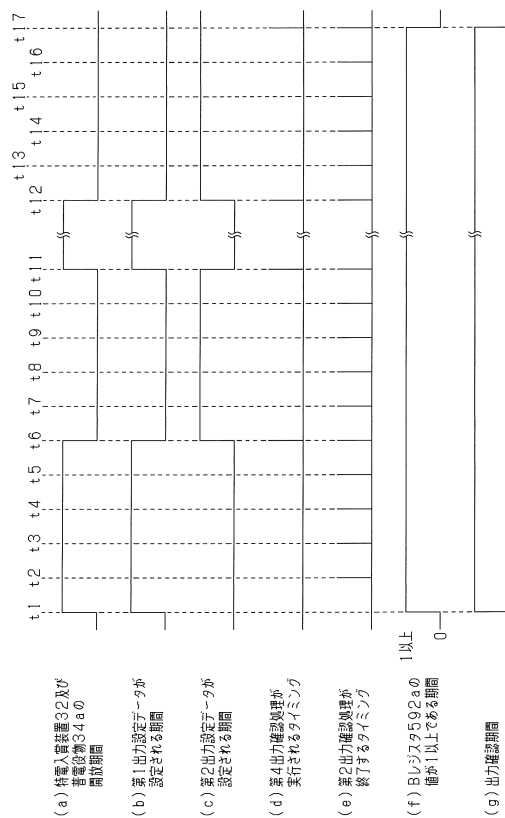
(a)		第4出力確認処理の実行前の 出力設定データが第1出力設定データ(「60H」)の場合	
	命令	ALレジスタ101b	
行番号「1313」	「XOR A, 0FFH」	実行前	01100000B (60H)
		実行後	10011111B (9FH)
行番号「1314」	「AND A, 60H」	実行前	10011111B (9FH)
		実行後	00000000B (00H)
実行後の出力設定データ		「00H」 (第2出力設定データ)	

(b)

第4出力確認処理の実行前の
出力設定データが第2出力設定データ（「00H」）の場合

命令		Aレジスタ101b
行番号「1313」	「XOR A, 0FFH」	実行前 00000000B（00H）
		実行後 11111111B（FFH）
行番号「1314」	「AND A, 60H」	実行前 11111111B（FFH）
		実行後 01100000B（60H）
実行後の出力設定データ		「60H」 （第1出力設定データ）

【図 3 1 5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2015-000073 (JP, A)
特開 2018-020250 (JP, A)
特開 2021-074517 (JP, A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A63F 5/04, 7/02